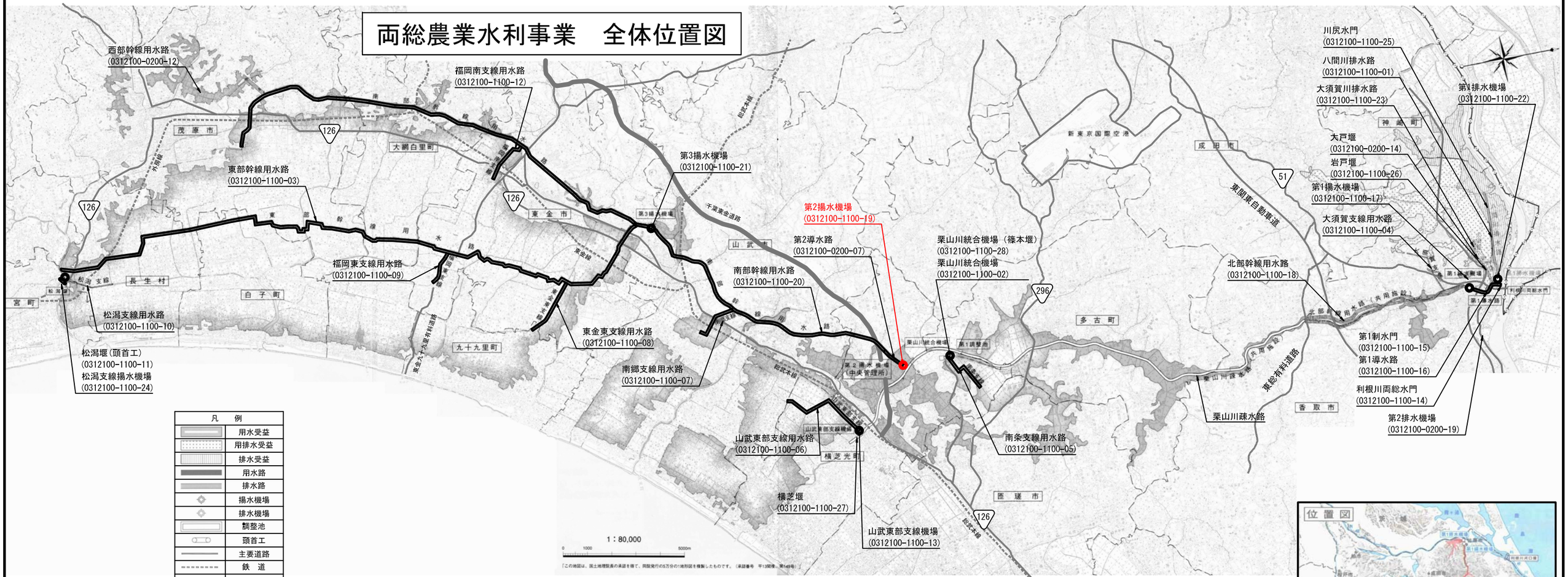
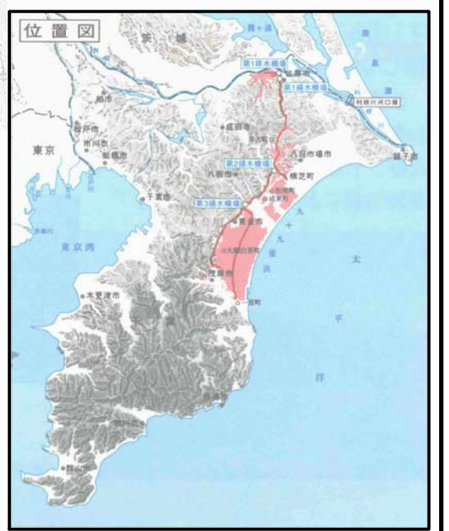
両総農業水利事業　全体位置図

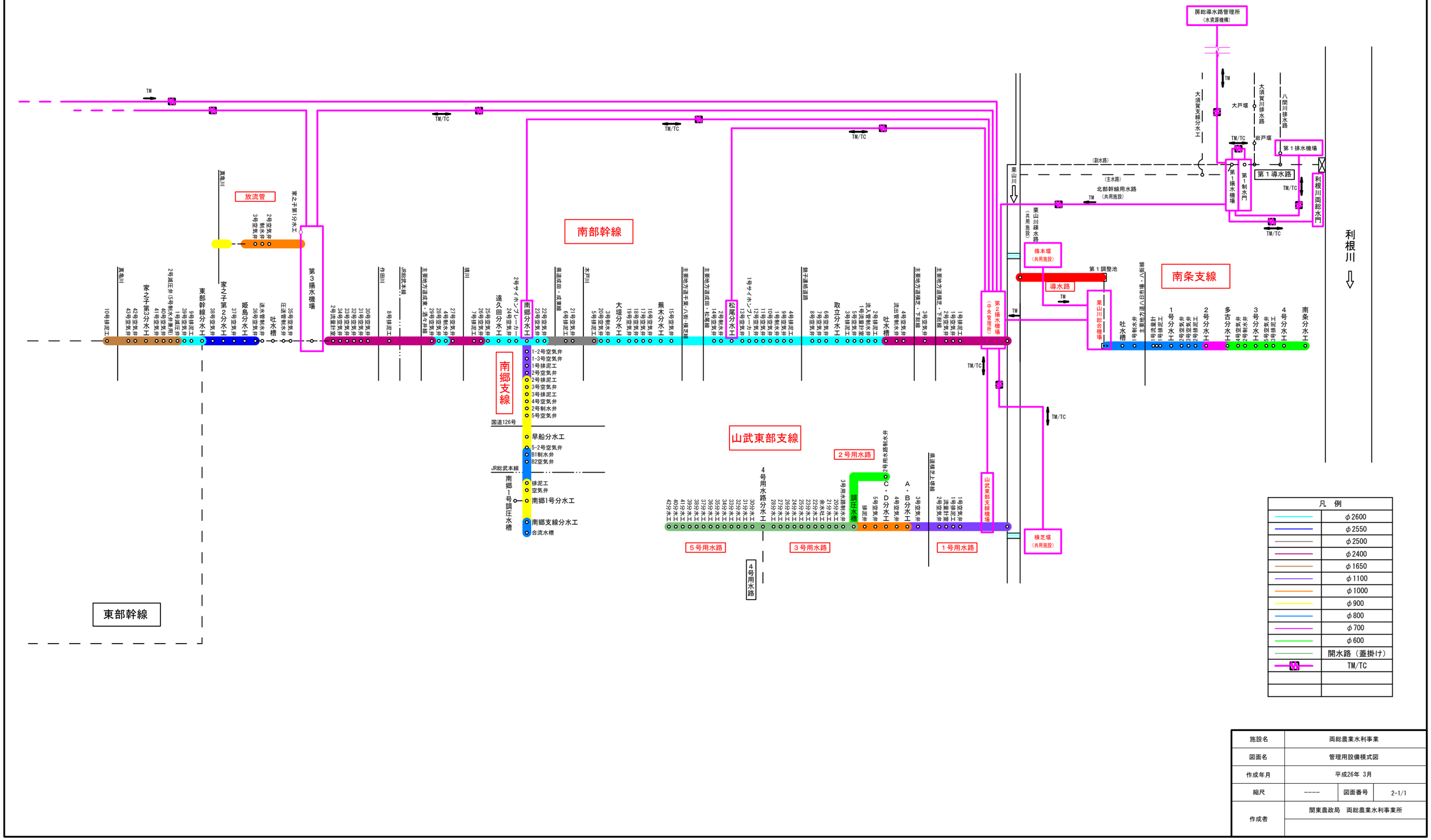


凡　例	
	用水受益
	用排水受益
	排水受益
	用水路
	排水路
	揚水機場
	排水機場
	調整池
	頭首工
	主要道路
	鉄　道



施設名	第2揚水機場 (0312100-1100-19)		
図面名	全体位置図		
作成年月日	平成26年3月		
縮尺	A1 1：80,000 A2 1:113,137	図面番号	1-1/1
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所		

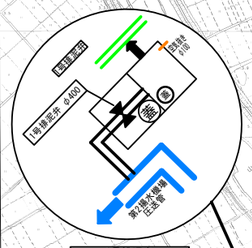
両総農業水利事業　管理用設備模式図

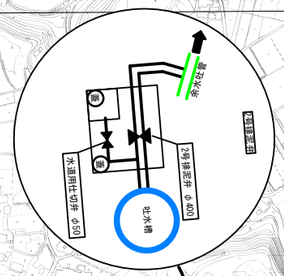


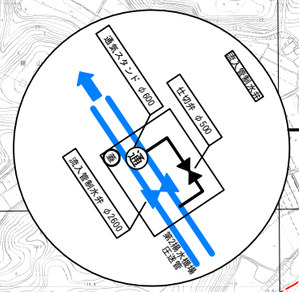
施設名	両総農業水利事業		
図面名	管理用設備模式図		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	-----	図面番号	2-1/1
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所		

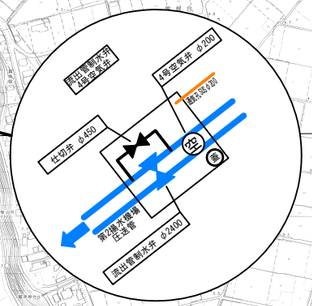
水路路線図

140° 27′ 00″ / 140° 27′ 30″ / 140° 28′ 00″ / 140° 28′ 30″ / 140° 29′ 00″
35° 41′ 30″ / 35° 41′ 00″ / 35° 40′ 30″









小堤寺方揚水機場
緯度　35° 40′ 39.35″
経度　140° 27′ 54.16″

吐水槽
緯度　35° 40′ 33.57″
経度　140° 27′ 49.46″

第2揚水機場（中央管理所）
緯度　35° 40′ 56.41″
経度　140° 28′ 20.58″

1/5
2/5
3/5
4/5
5/5

南部幹線用水路

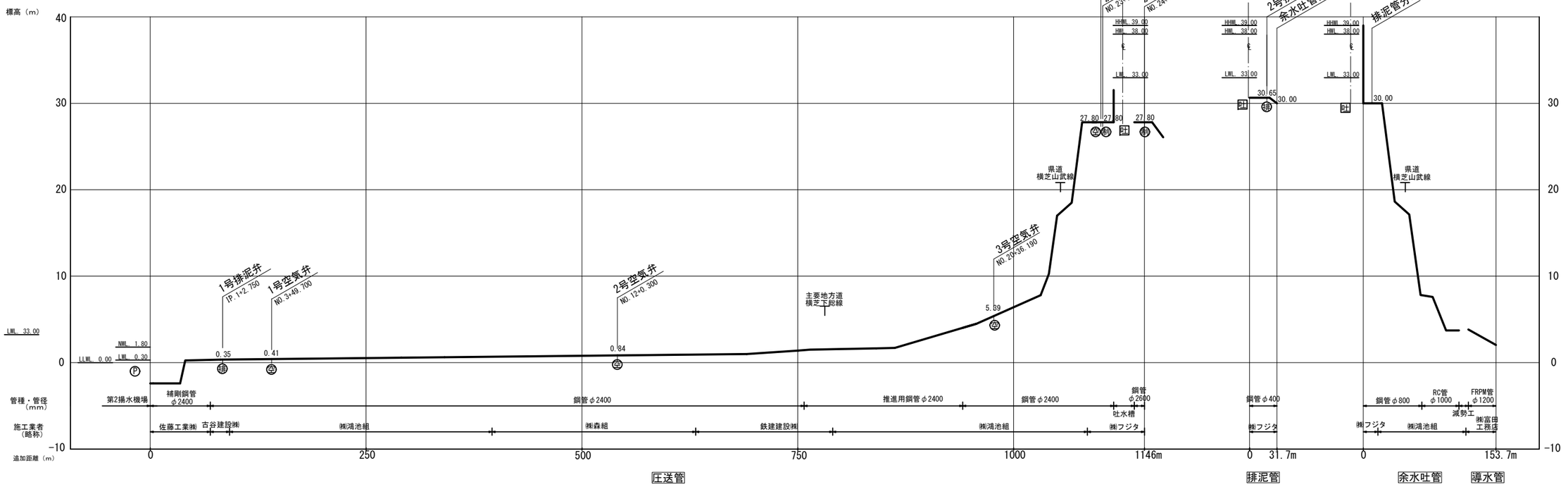
1:5000
0 100 200 300 400 500m

凡　例

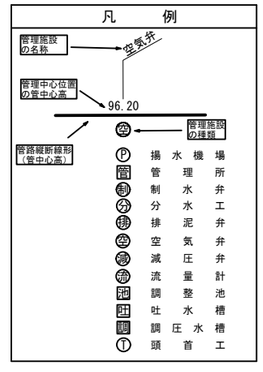
5/8
施設管理図の図郭割と図面番号
3号制水弁
緯度　36° 13′ 00″
経度　139° 06′ 30″
施設の位置（世界測地系　WGS84）

- Ⓟ 揚水機場
- 管理所
- 制 制水弁
- 分 分水工
- 排泥弁
- 空 空気弁
- 減圧弁
- 調整池
- 吐 吐水槽
- 調圧水槽
- Ⓣ 頭首工

施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	水路路線図		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 1:5000 A2 1:7079	図面番号	3-1/1
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所		



凡　例



施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	水理縦断図		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 H=1:2500 V=1:250 A2 H=1:3539 V=1:353	図面番号	4-1/1
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所		

施設図郭割図

水路路線図

第2揚水機場（中央管理所）
緯度　35° 40′ 56.41″
経度　140° 28′ 20.58″

吐水槽
緯度　35° 40′ 33.57″
経度　140° 27′ 49.46″

1/5
2/5
3/5
4/5
5/5

横芝光町

凡例

水路路線図の図郭前
水路路線図の図郭後
水路路線図の図面番号
水路路線図1/2
30/45
施設管理図の図郭前
施設管理図の図面番号

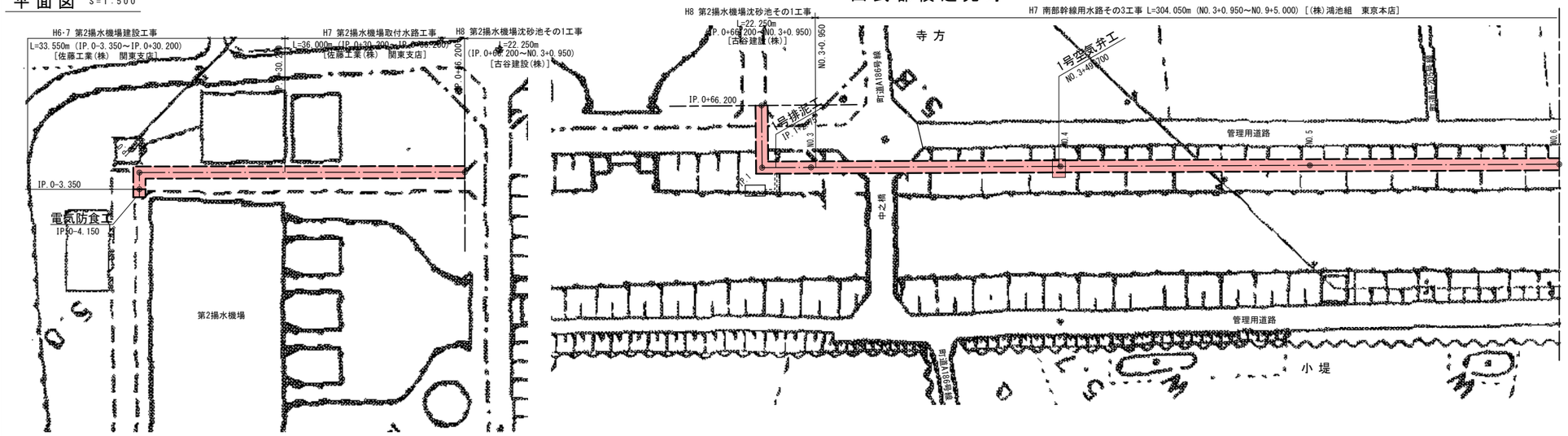
- 用水路（隧道・パイプライン）
- 用水路（開水路）
- Ⓟ 揚水機場
- 管 管理所
- 池 調整池
- 吐 吐水槽
- 調 調圧水槽
- 頭首工

1:10000
0　100　500　1000m

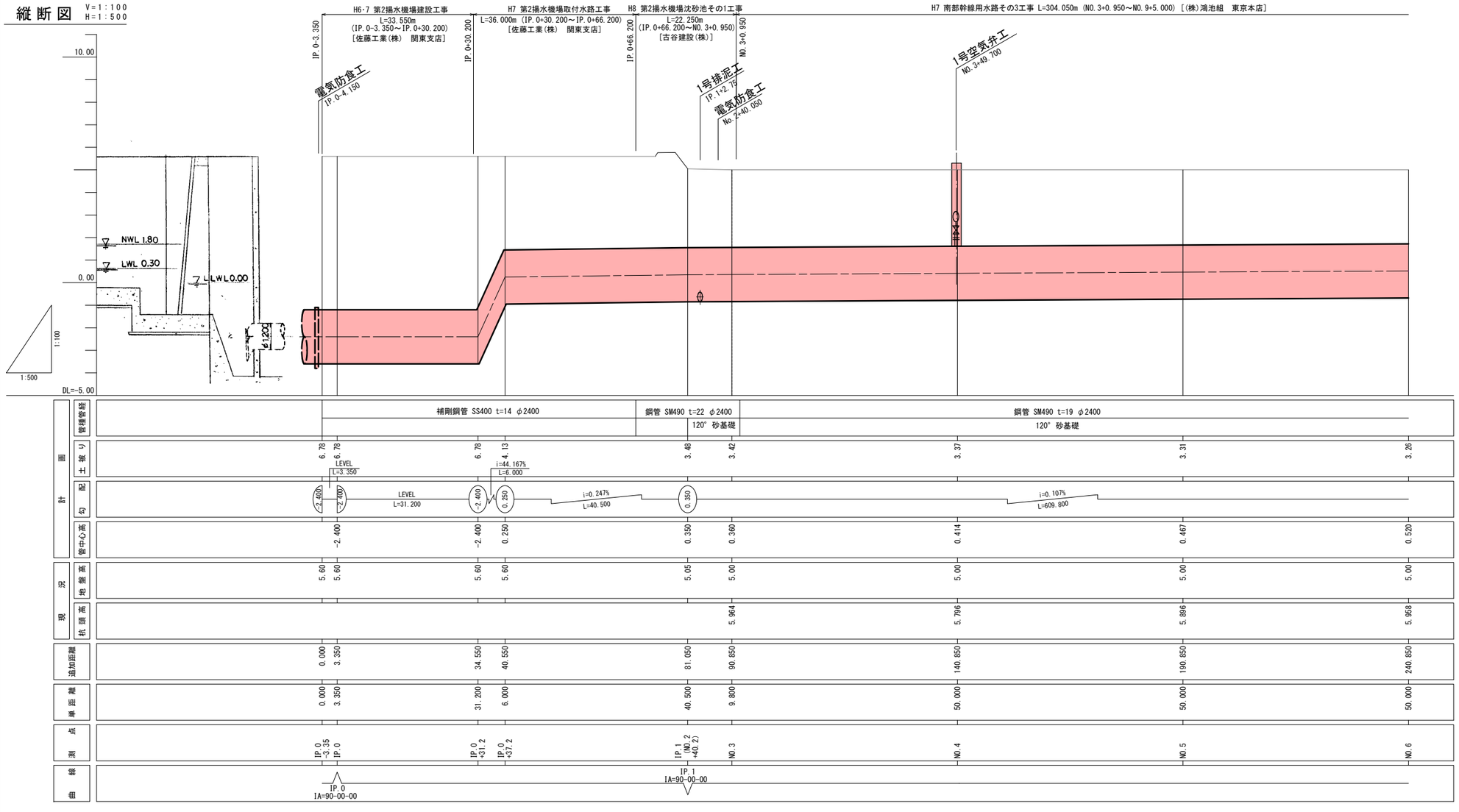
施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	施設図郭割図		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 1:10000 A2 1:14158	図面番号	5-1/1
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所		

山武郡横芝光町

平面図 S=1:500

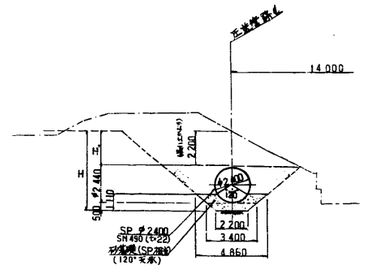


縦断図 V=1:100 H=1:500

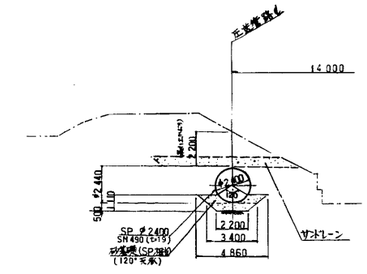


標準断面図 S=1:200

IP.1～NO.3+0.950



NO.3+0.950～NO.6+0.000

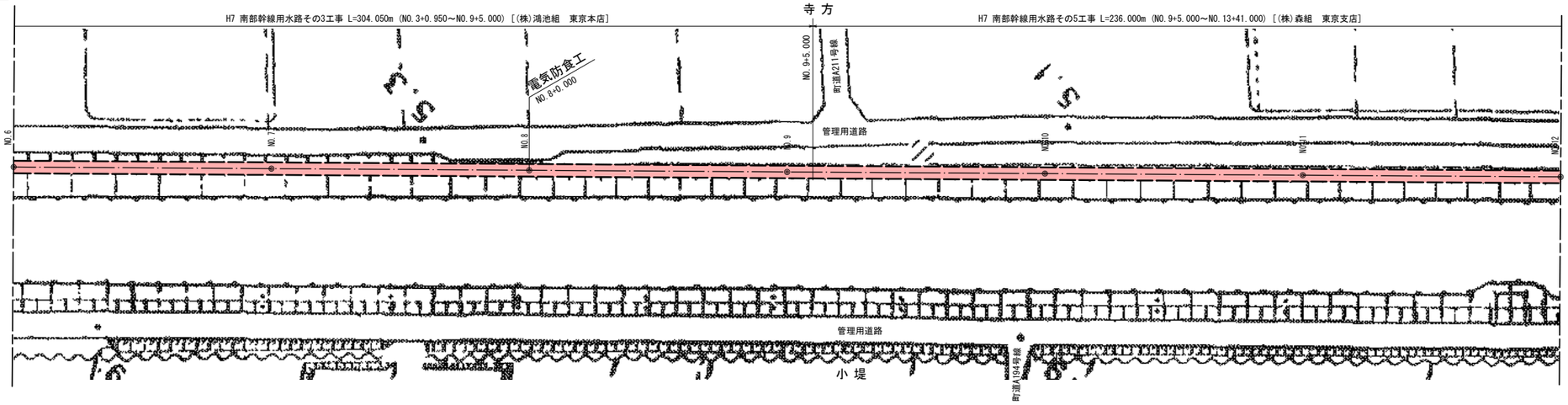


施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	施設管理図		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 図示	図面番号	6-1/5
作成者	関東農政局 両総農業水利事業所		

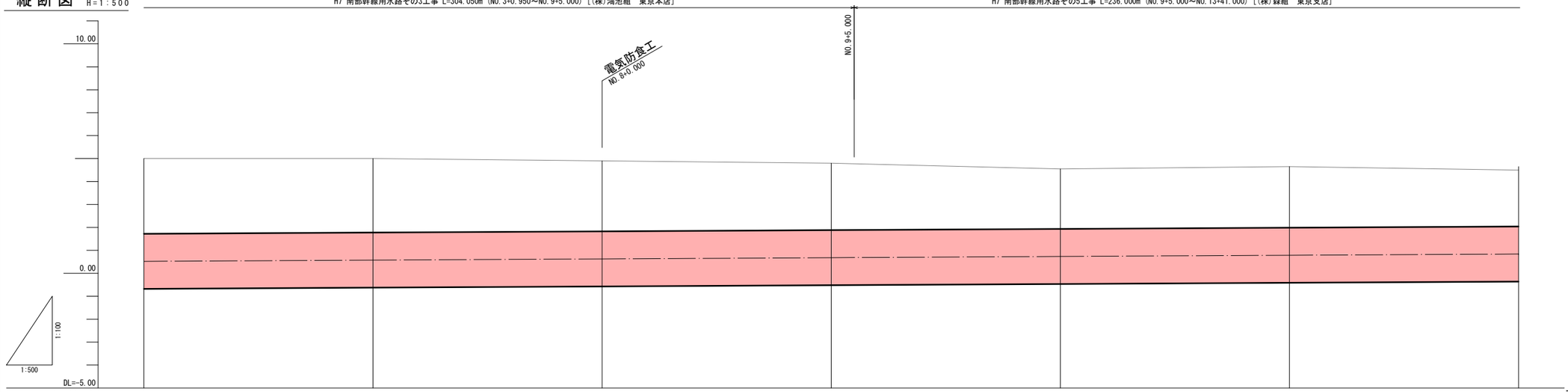
平面図 S=1:500

山武郡横芝光町

寺方



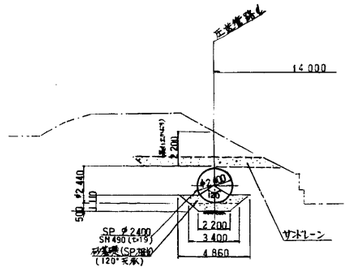
縦断図 V=1:100 H=1:500



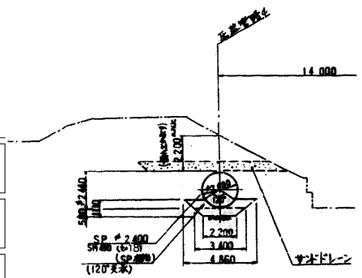
計画	管種管径	鋼管 SM490 t=19 φ2400 120° 砂基礎			鋼管 SM490 t=18 φ2400 120° 砂基礎		
	土被り	3.26	3.21	3.05	2.90	2.60	2.64	2.44
	勾配				i=0.107% L=609.800			
	管中心高	0.520	0.574	0.627	0.680	0.734	0.787	0.840
現況	地盤高	5.00	5.00	4.90	4.80	4.55	4.65	4.50
	杭頭高	5.968		6.391	6.524	6.520	6.522	6.480
追加距離		240.850	290.850	340.850	390.850	440.850	490.850	540.850
単距離		50.000	50.000	50.000	50.000	50.000	50.000	50.000
測点		NO.6	NO.7	NO.8	NO.9	NO.10	NO.11	NO.12
曲線								

標準断面図 S=1:200

NO.6+0.000～NO.9+5.000



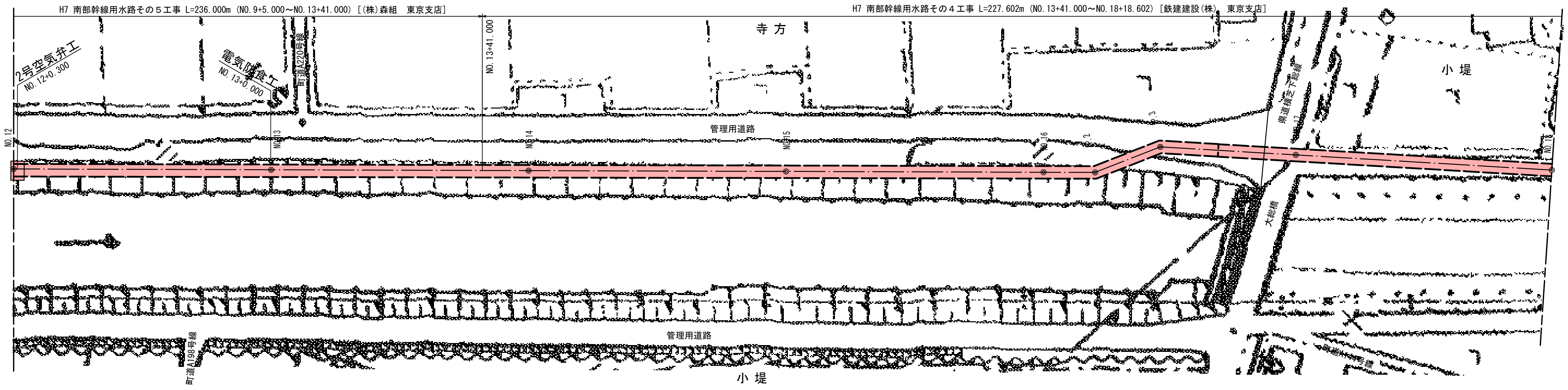
NO.9+5.000～NO.12+0.000



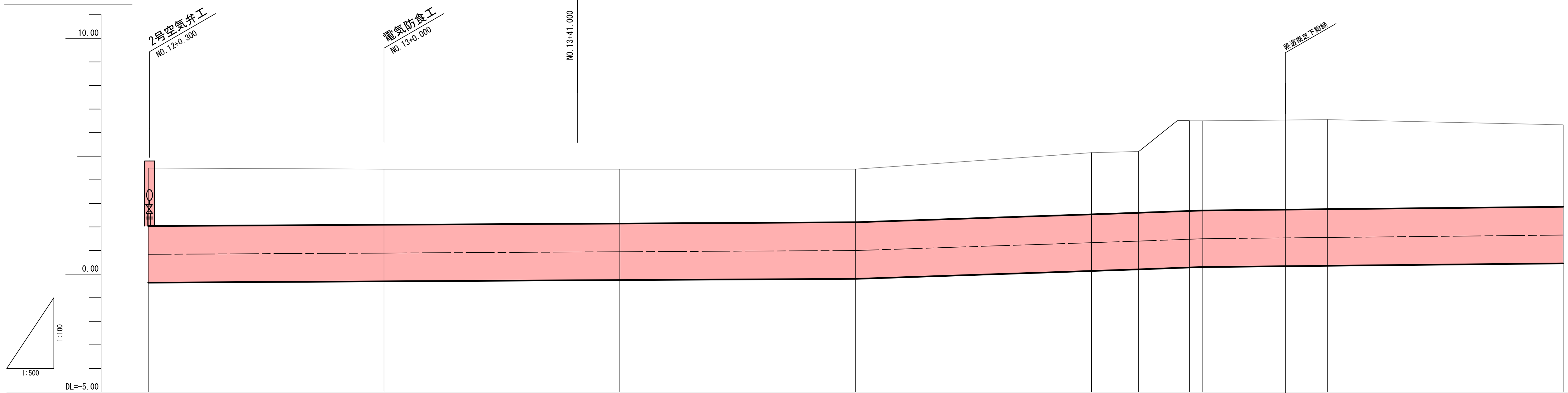
施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	施設管理図		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 図示	図面番号	6-2/5
作成者	関東農政局 両総農業水利事業所		

平面図 S=1:500

山武郡横芝光町



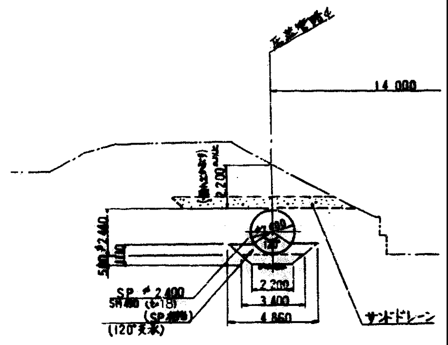
縦断図 V=1:100 H=1:500



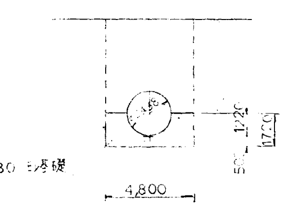
区分	項目	NO.12	NO.13	NO.14	NO.15	NO.16	IP.2	NO.16+20.75	IP.3	NO.17	NO.18
計画	管種管径	鋼管 SM490 t=18 φ2400 120° 砂基礎						鋼管 SM490 t=25 φ2400 180° 砂基礎	推進鋼管Ⅰ型 STW400 t=18 φ2400		
計画	土被り	2.44	2.34	2.28	2.23	2.60	2.58	3.80	3.78	3.75	3.42
計画	勾配	i=0.107% L=609.800			1.000 i=0.667% L=60.000		1.400 i=0.735% L=13.602		1.500 i=0.204% L=97.972		
計画	管中心高	0.840	0.883	0.947	1.000	1.333	1.400	1.479	1.500	1.554	1.656
現況	地盤高	4.50	4.45	4.45	4.45	5.15	5.20	6.50	6.50	6.55	6.33
現況	杭頭高	6.480	6.475	6.526	6.462	6.496		5.999		6.587	6.340
	追加距離	540.850	590.850	640.850	690.850	740.850	750.850	761.600	764.452	790.850	840.850
	単距離	50.000	50.000	50.000	50.000	50.000	10.000	10.750	2.852	26.398	50.000
	測点	NO.12	NO.13	NO.14	NO.15	NO.16	IP.2	NO.16+20.75	IP.3	NO.17	NO.18
	曲線						IP.2 IA=21-34-00		IP.3 IA=25-53-44		

標準断面図 S=1:200

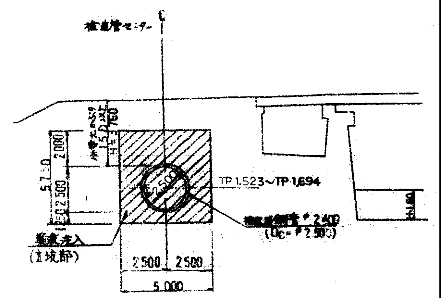
NO.12+0.000～NO.16+26.302



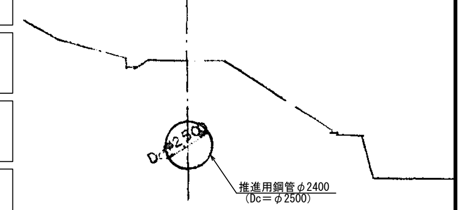
NO.16+26.302～NO.16+35.102



NO.16+35.102～NO.18+0.000
(主要地方道横芝・山武線横断部)

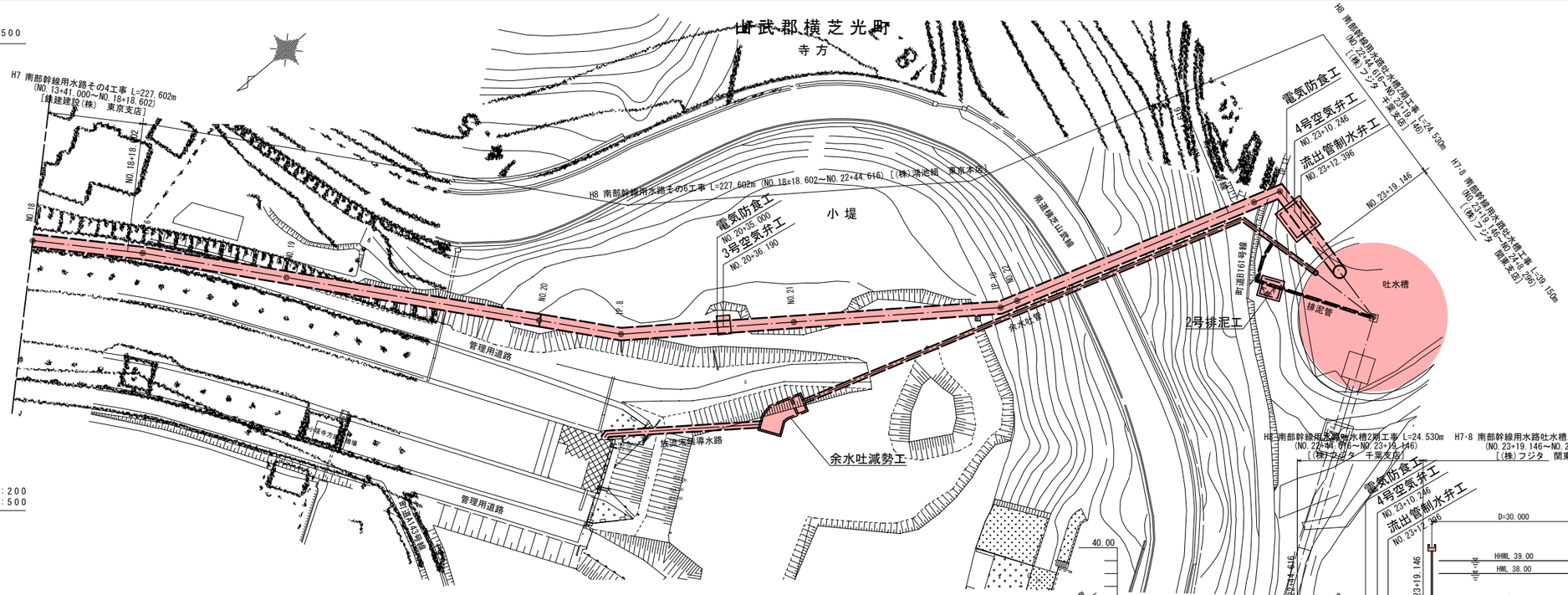


NO.16+35.102～NO.18+0.000

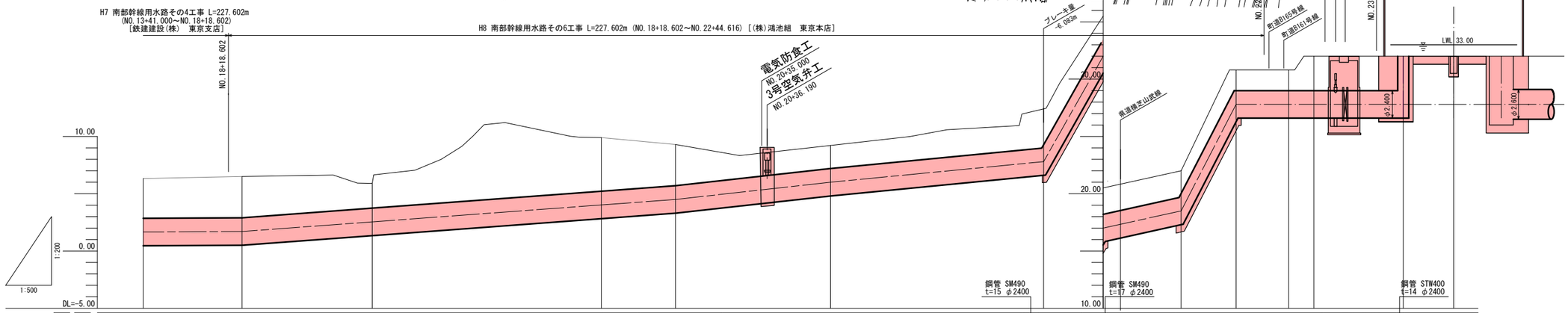


施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)
図面名	施設管理図
作成年月	平成26年 3月
縮尺	A1 図示 / 図面番号 6-3/5
作成者	関東農政局 両総農業水利事業所

平面図 S=1:500

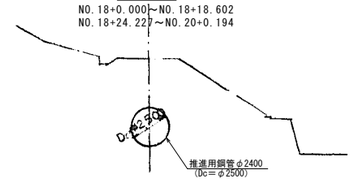


縦断図 V=1:200 H=1:500

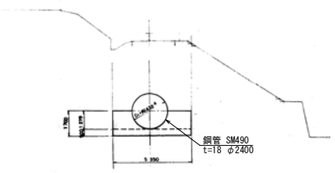


標準断面図 S=1:200

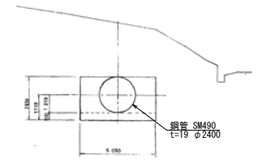
推進部
NO.18+0.000～NO.18+18.602
NO.18+24.227～NO.20+0.194



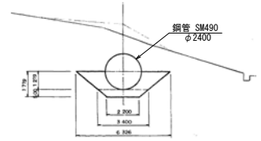
180° 砂基礎部
NO.18+18.602～NO.18+24.227



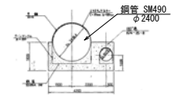
360° 砂基礎



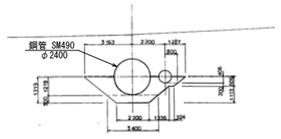
180° 砂基礎
NO.20+8.194～NO.21+39.333



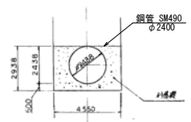
360° コンクリート基礎
NO.21+21.393～NO.22+10.516
NO.22+25.416～NO.22+39.616



180° 砂基礎
NO.22+10.516～NO.22+25.416

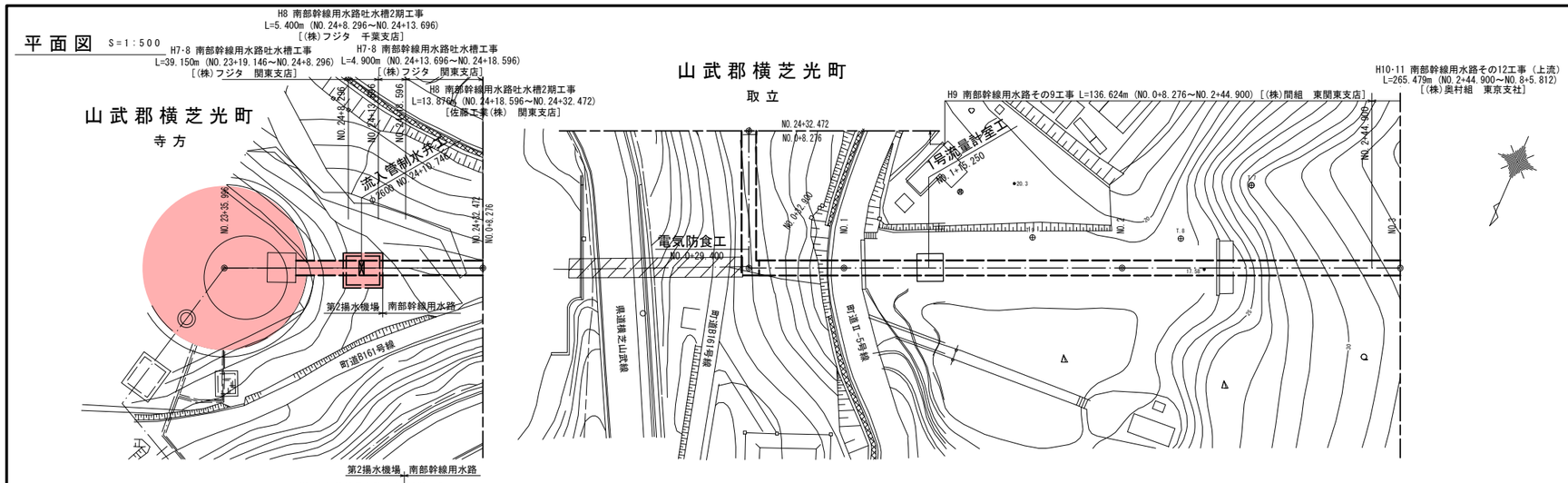


360° 砂基礎
NO.22+39.616～NO.23+8.596
NO.23+15.696～NO.23+19.646

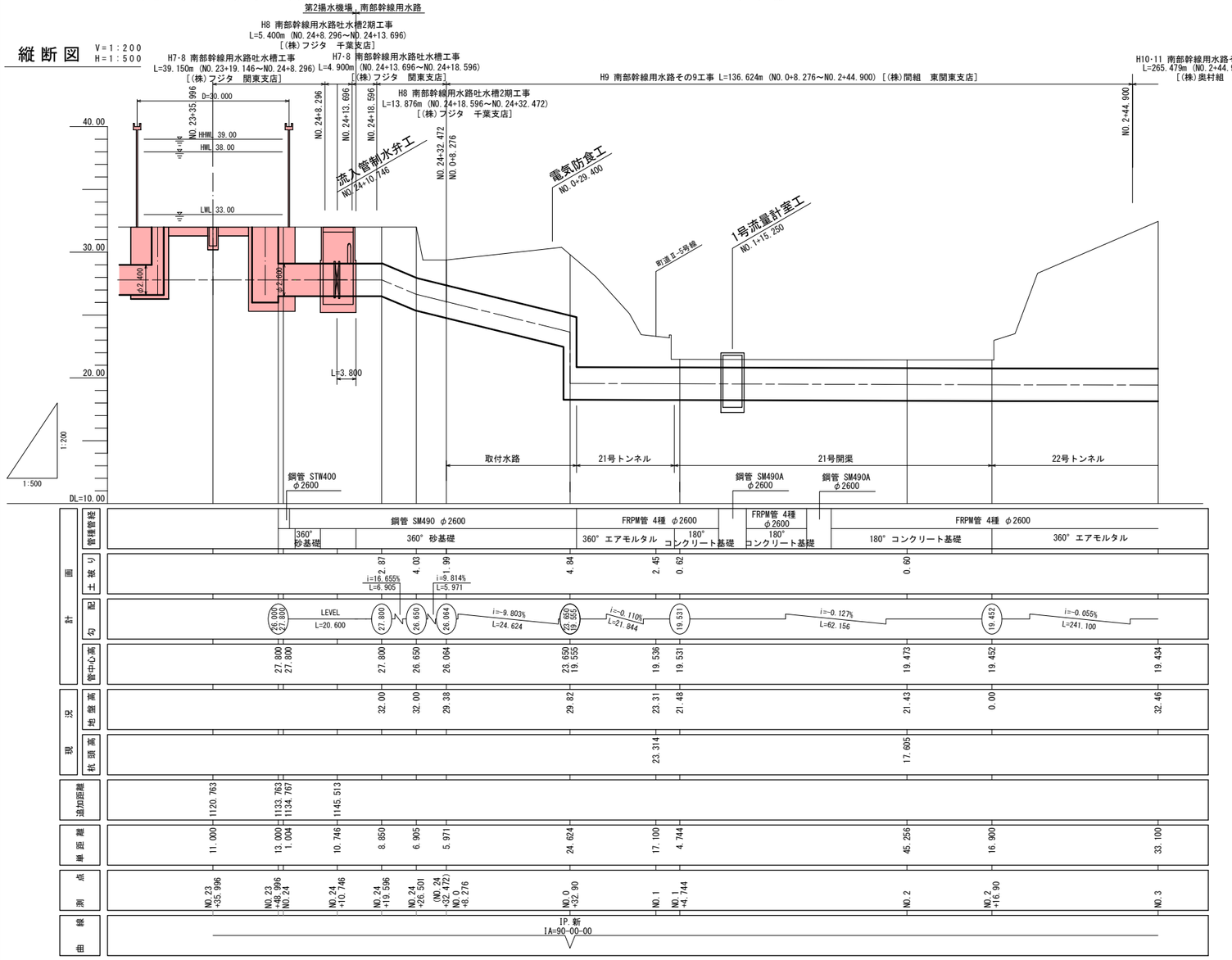


施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)
図面名	施設管理図
作成年月	平成26年 3月
縮尺	A1 図示
図面番号	6-4/5
作成者	関東農政局 両総農業水利事業所

平面図 S=1:500



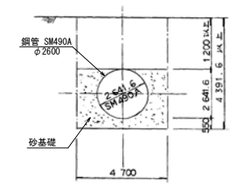
縦断図 V=1:200 H=1:500



標準断面図 S=1:100

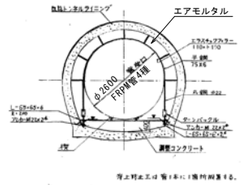
360° 砂基礎

NO.24+2.346～NO.24+7.446
NO.24+14.546～NO.24+32.472
NO.0+8.276～NO.0+34.744



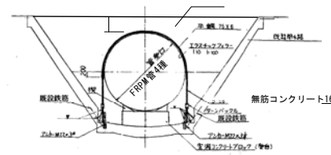
トンネル部

NO.0+34.744～NO.1+3.700
NO.2+17.000～NO.2+44.900



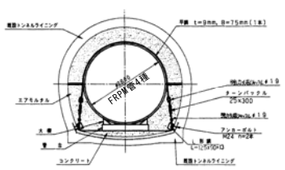
水路部

NO.1+3.700～NO.1+12.950
NO.1+17.550～NO.1+30.500
NO.1+34.40～NO.2+17.000



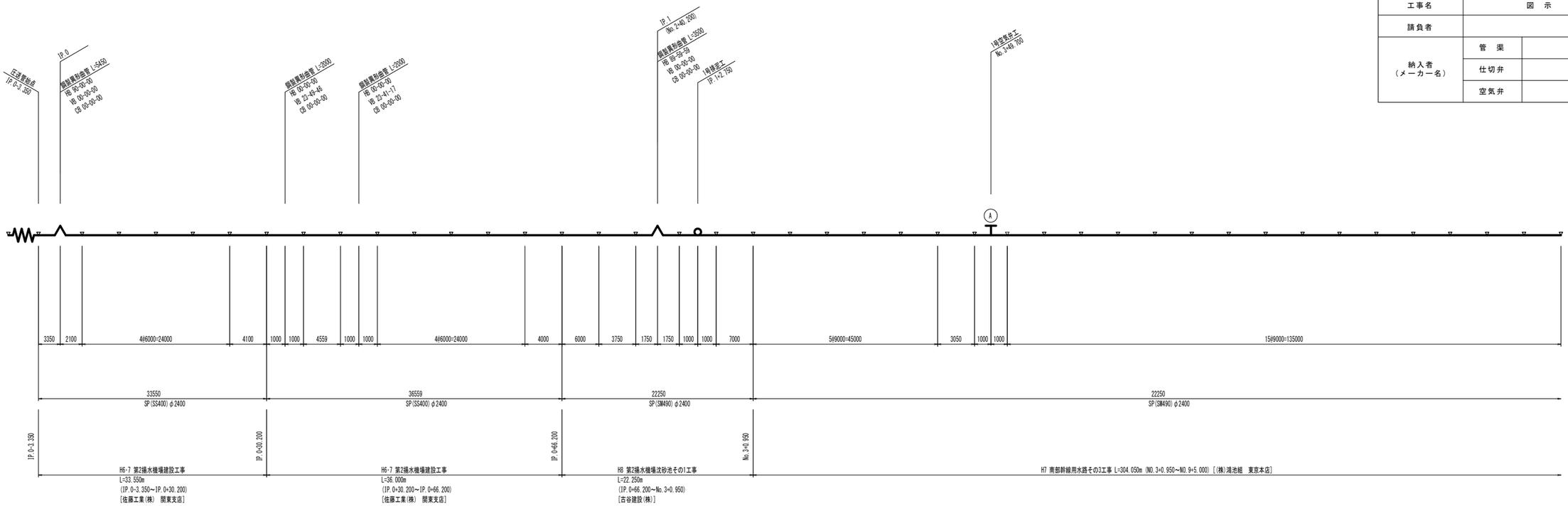
トンネル部

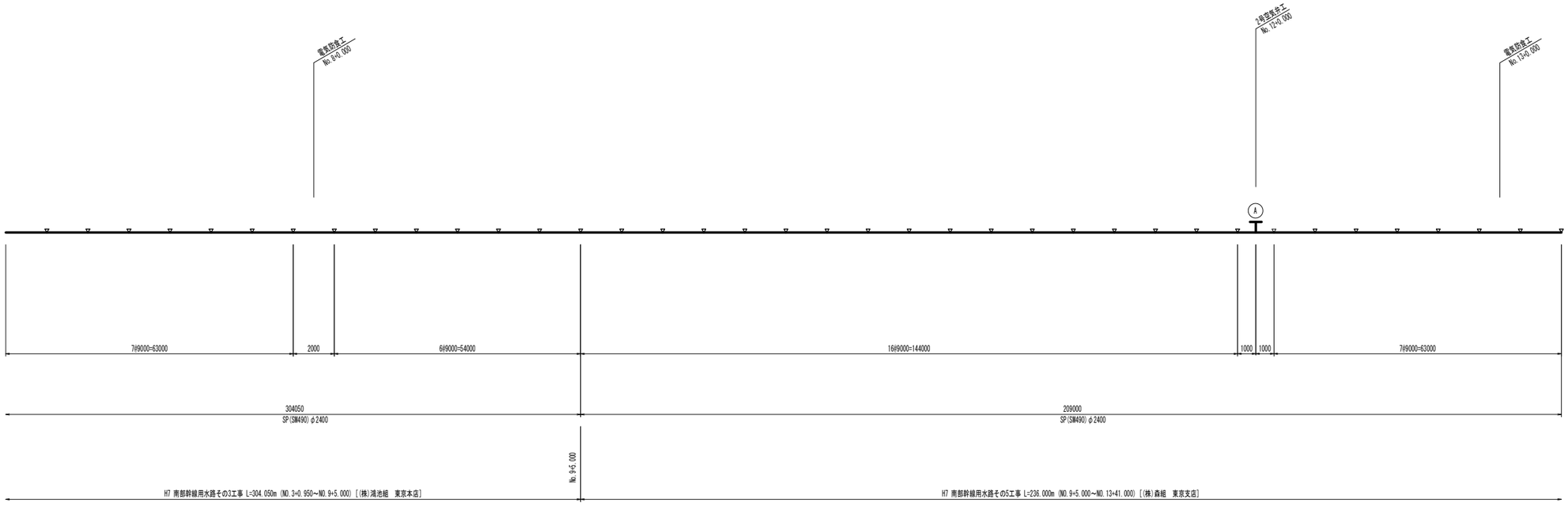
NO.2+44.900～NO.3+0.000



施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	施設管理図		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 図示	図面番号	6-5/5
作成者	関東農政局 両総農業水利事業所		

当該施設管理図	6-1/5, 6-2/5, 6-3/5	
工事名	図　示	
請負者		
納入者（メーカー名）	管　渠	
	仕切弁	
	空気弁	

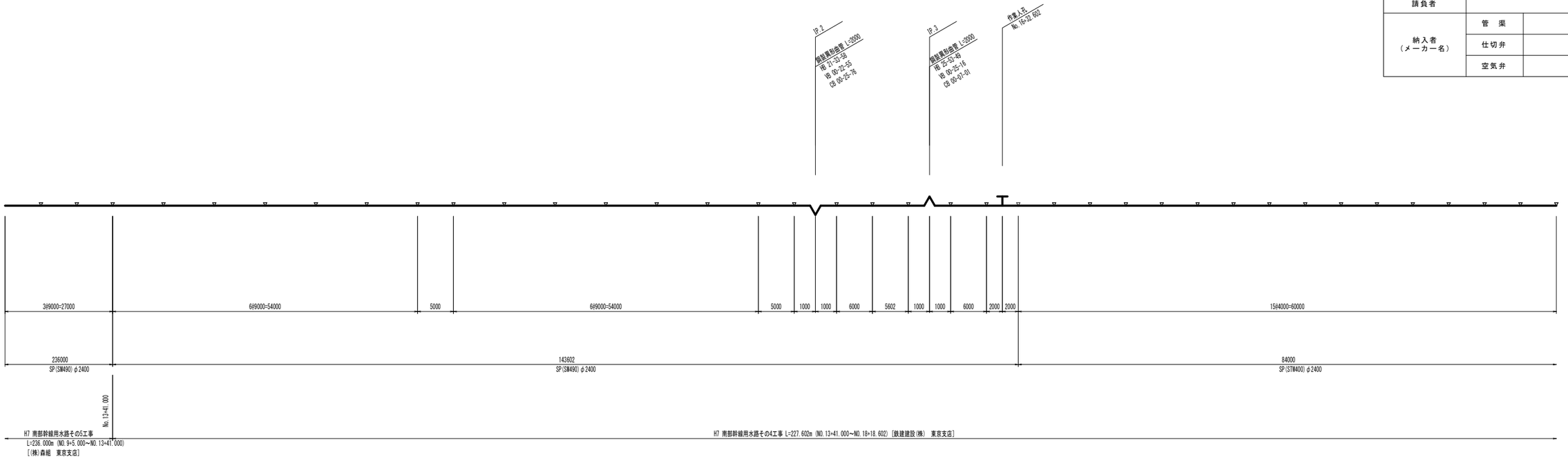


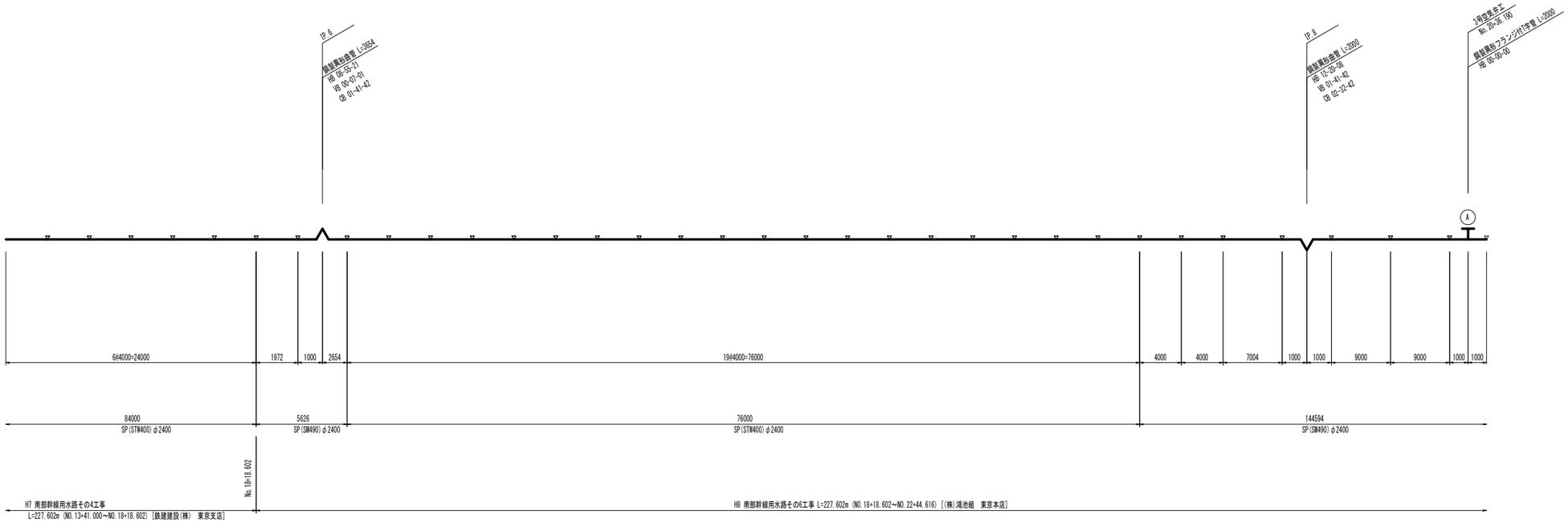


凡　例	
	FRPM直管(B形受口)
	FRPM直管(C形受口)
	DCIP直管(K形受口)
	SP鋼製異形曲管
	SP鋼製空気弁工用異形管
	SP継輪(鋼製)
	SP鋼製分水・排水異形管
	SP鋼製片落ち管
	SP鋼製可撓管
	現場溶接

施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	管割図		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	-	図面番号	7-1/4
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所		

当該施設管理図	6-3/5, 6-4/5		
工事名	図　示		
請負者			
納入者（メーカー名）	管　渠		
	仕切弁		
	空気弁		

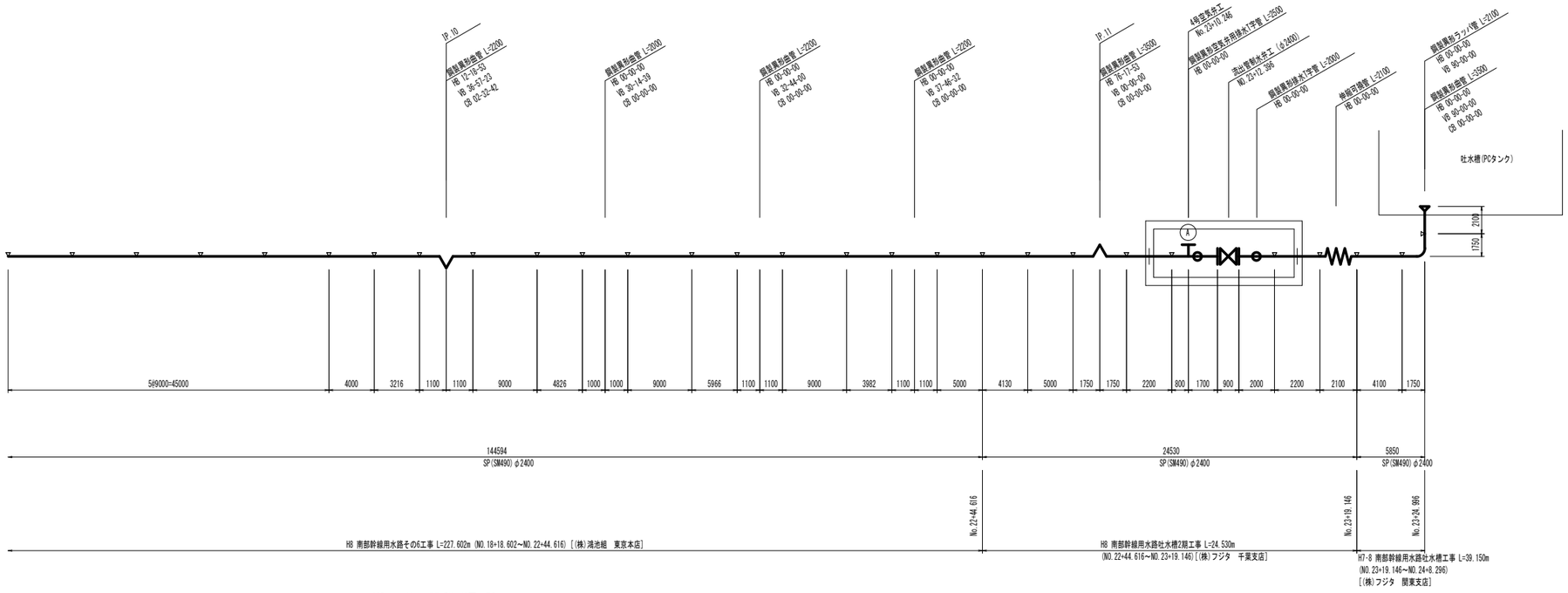


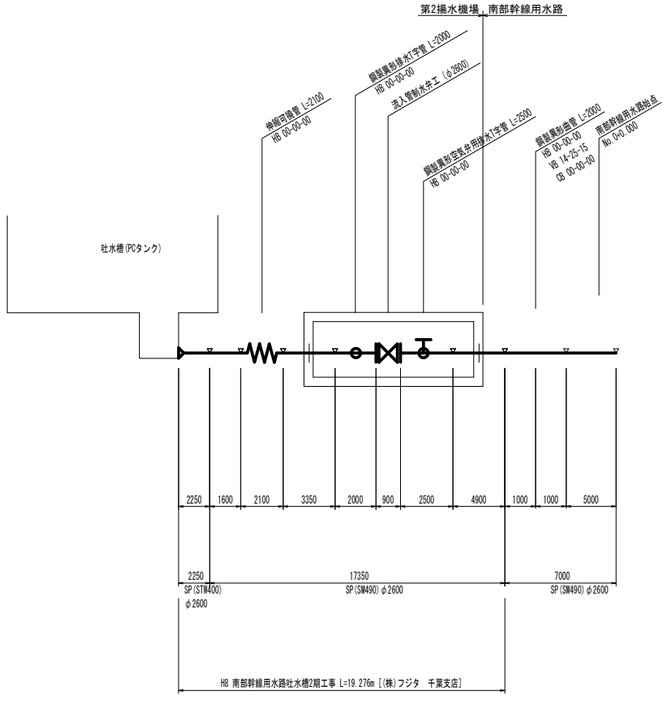


凡　例	
	FRPM直管(B形受口)
	FRPM直管(C形受口)
	DCIP直管(K形受口)
	SP鋼製異形曲管
	SP鋼製空気弁工用異形管
	SP継輪(鋼製)
	SP鋼製分水・排水異形管
	SP鋼製片落ち管
	SP鋼製可撓管
	現場溶接

施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	管割図		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	-	図面番号	7-2/4
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所		

当該施設管理図	6-4/5, 6-5/5	
工事名	図　示	
請負者		
納入者（メーカー名）	管　渠	
	仕切弁	
	空気弁	

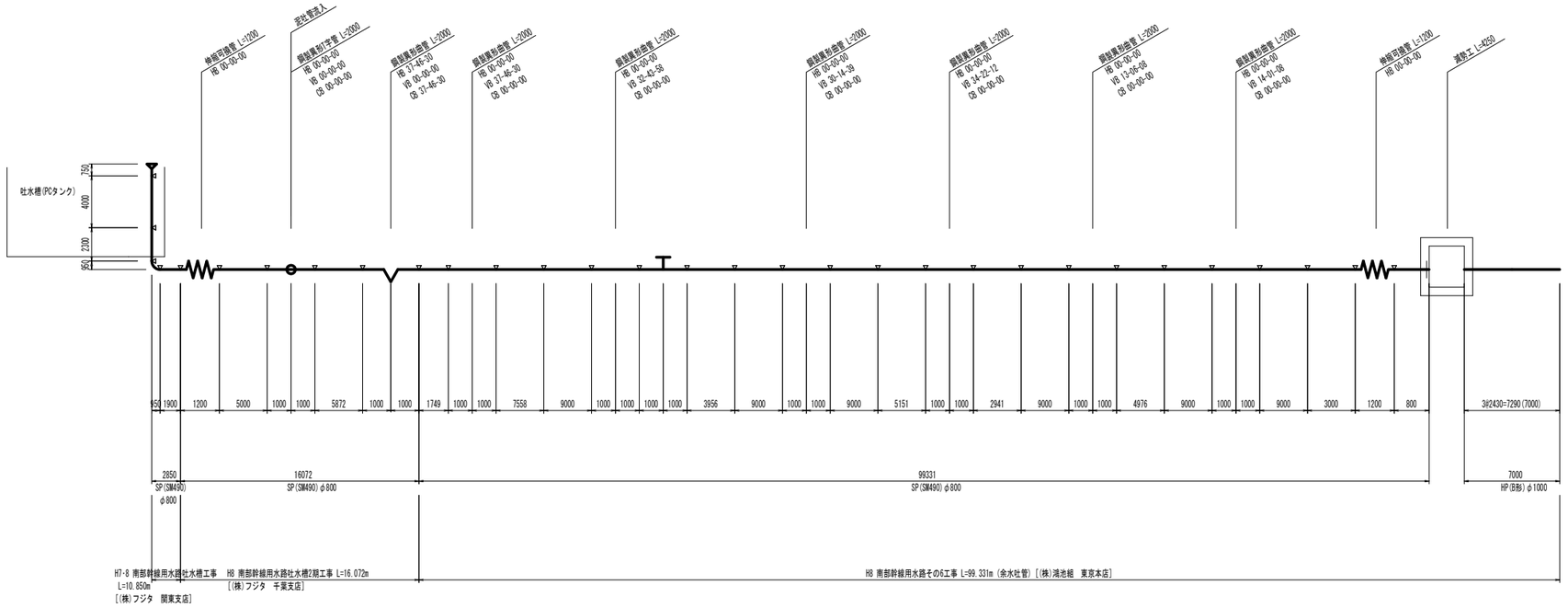




凡　例	
	FRPM直管(B形受口)
	FRPM直管(C形受口)
	DCIP直管(K形受口)
	SP鋼製異形曲管
	SP鋼製空気弁工用異形管
	SP継輪(鋼製)
	SP鋼製分水・排水異形管
	SP鋼製片落ち管
	SP鋼製可撓管
	現場溶接

施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	管割図		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	-	図面番号	7-3/4
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所		

当該施設管理図		6-4/5
工事名		図　示
請負者		
納入者 （メーカー名）	管　渠	
	仕切弁	
	空気弁	



凡　例	
	FRPM直管(B形受口)
	FRPM直管(C形受口)
	DCIP直管(K形受口)
	SP鋼製異形曲管
	SP鋼製空気弁工用異形管
	SP継輪(鋼製)
	SP鋼製分水・排水異形管
	SP鋼製片落ち管
	SP鋼製可撓管
	現場溶接

施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	管割図		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	-	図面番号	7-4/4
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所		

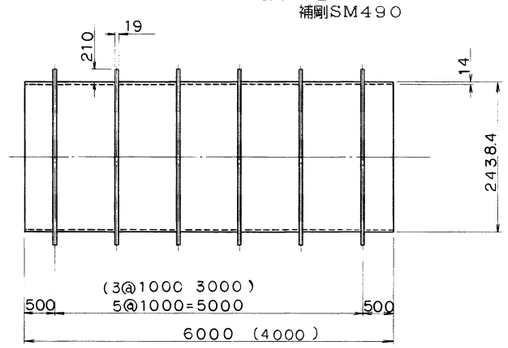
異形管詳細図(1/7)

S=1:50

(流出管IP.0-3.35～IP.0+66.200)

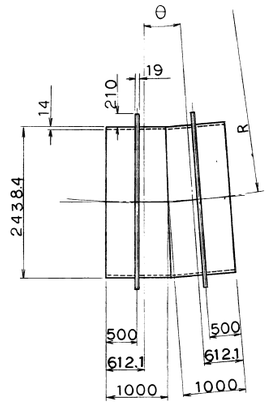
補剛付直管 ⑲ ㉔

数量：4(L=6000),1(L=4000)
材質：本管ＳＳ４００
補剛ＳＭ４９０



補剛付曲管

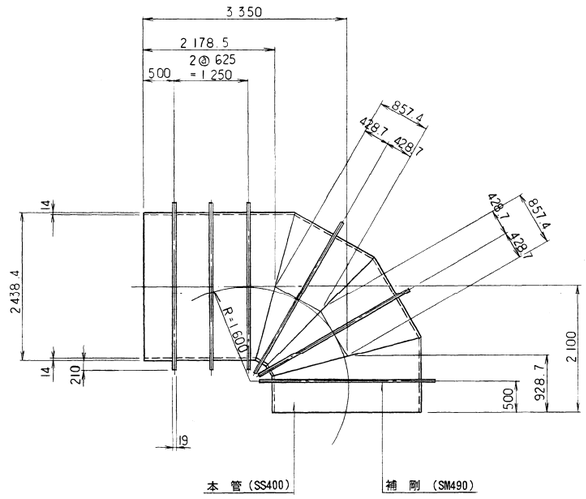
数量： 2
材質：本管ＳＳ４００
補剛ＳＭ４９０



番号	測点	θ	R
㉑	IP.0 + 31.20	23°49′46″	1838 mm
㉓	〃 + 37.20	23°41′17″	1850 mm

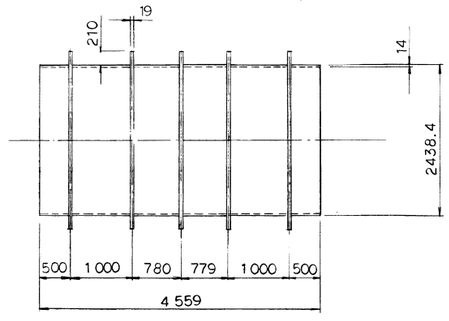
補剛付90°曲管

S=1:50



補剛付直管

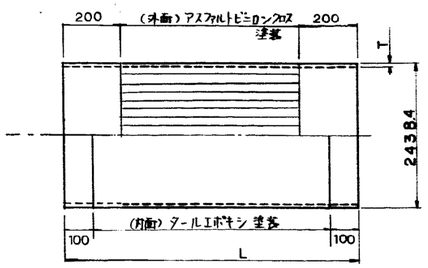
㉒ 数量：1
材質：本管ＳＳ４００
補剛ＳＭ４９０



施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)
図面名	異形管詳細図(1/7)
作成年月	平成26年 3月
縮尺	A1 図示
図面番号	8-1/319
作成者	関東農政局 両総農業水利事業所

異形管詳細図(2/7)

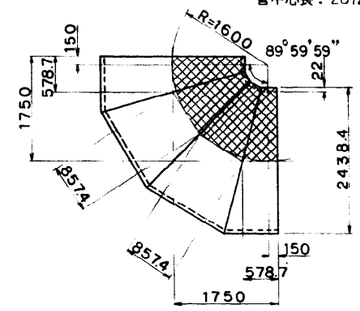
直 管・短 管



番号	T	L	数量
㉕	22	6000	1
㉖	22	3750	1
㉘	22	7000	1
㉙	19	3050	1
㉛	18	9000	11
㉝	18	9000	26

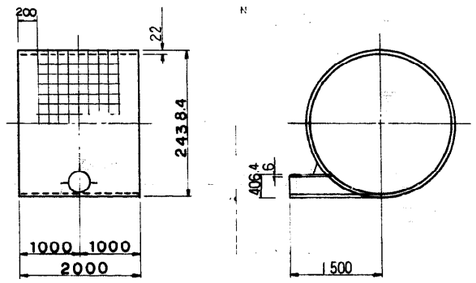
曲 管(4ピース) S=1/50

IP.1 ㉗ 数量:1
管中心長:2872.2



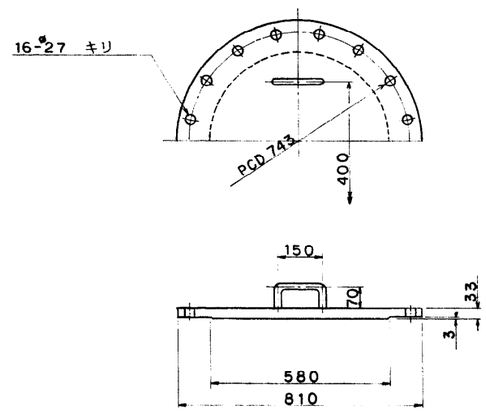
排 水 T 字 管 S=1/50

IP.1+2.75 ㉗ 数量:1



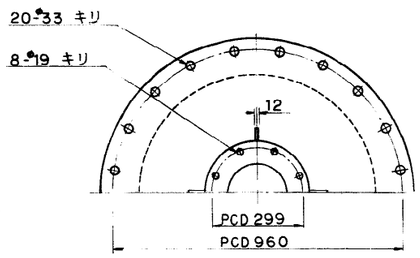
フランジ蓋(作業用) S=1/10

数量:1



フランジ蓋(空気弁用) S=1/10

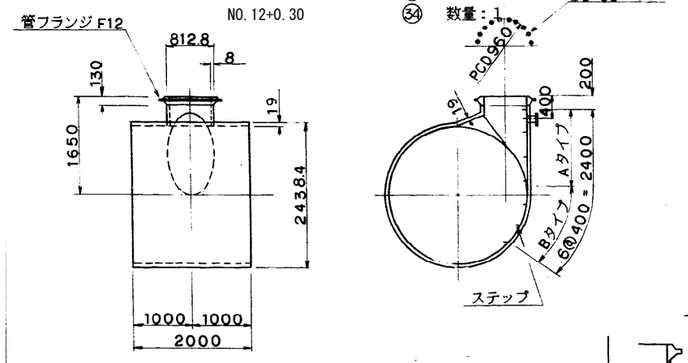
数量:1



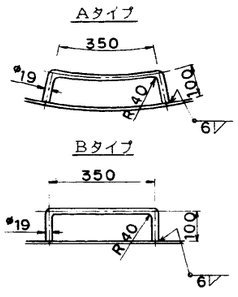
塗装仕様
内面塗装:タールエポキシ(JWWA-K115)0.5mm以上
外面塗装:アスファルトビニロンクロス(1回巻、1/2重巻(直管)
〃 2 〃 〃 〃 (異形管)
巻厚は直管3.5mm、異形管5.0mm以上
タールエポキシ(JWWA-K115)0.5mm以上(弁室)
外面塗装を示す
内面塗装を示す

フランジ付T字管(空気弁用) S=1/50

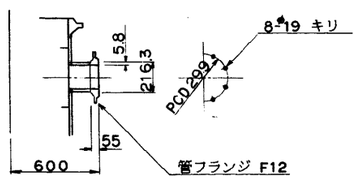
NO.3+49.70 ㉚ 数量:1
NO.12+0.30 ㉞ 数量:1



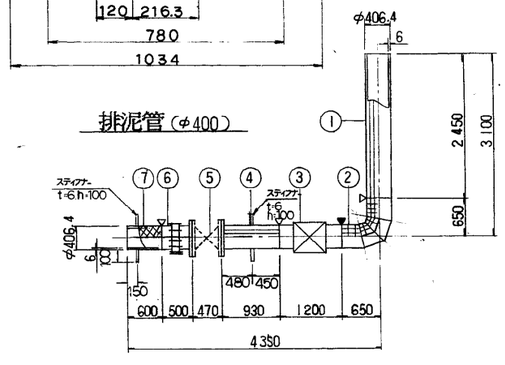
ステップ詳細 S=1/10



分岐詳細 S=1/20



排泥管(φ400)



排泥管材料表

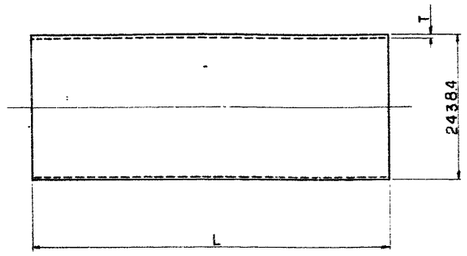
番号	名称	数量	単位
①	鋼製 短管 φ400 × 2.450L	1	本
②	〃 90° 曲管 (JIS G 3451) φ400	1	個
③	〃 可とう管 (100mm沈下型、Σ、タイプ(ゴム) φ400 (鍔成形加工))	1	本
④	〃 1F付短管 φ400 × 930L (スティフナー付き)	1	〃
⑤	水道用仕切弁 (JIS B 2062) φ400	1	基
⑥	フランジアダプター (7.5K) φ400	1	個
⑦	鋼製 短管 φ400 × 600L (スティフナー付き)	1	本

注記:材質は、特記なき場合下記による。
本 管:SM490
その他:SS400・STW400

施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	異形管詳細図(2/7)		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 図示	図面番号	8-2/319
作成者	関東農政局 両総農業水利事業所		

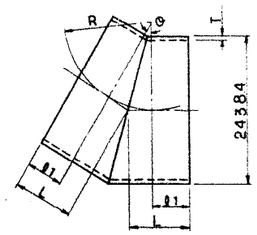
異形管詳細図(3/7)

直　　管 S=1/50



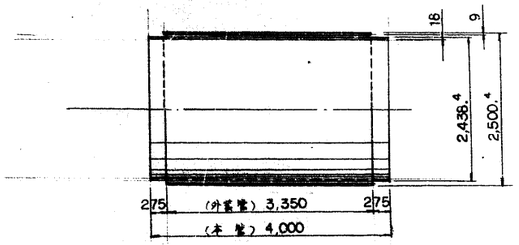
⑭	18	6000	1
⑲	25	6000	1
⑰	18	5602	1
①~⑤ ⑧~⑫	18	9000	12
⑦, ⑯	18	5000	2

曲　管（2ピース） S=1/50



番号	測点	T	θ	L	R	ℓ1	管中心長	数量
⑱	IP.3	25	25°53'49"	1000	1620	613.2	2000	1
⑮	IP.2	25	21°33'58"	1000	2040	611.5	2000	1

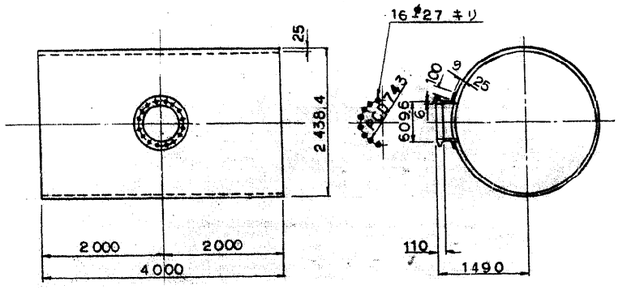
水道用推進鋼管Ⅰ型 S=1/50



番号	T	L	数量
㉑~㊶	18	4000	21

フランジ付T字管（作業人孔用） S=1/50

NO.16＋32.602　　㉒ 数量：1

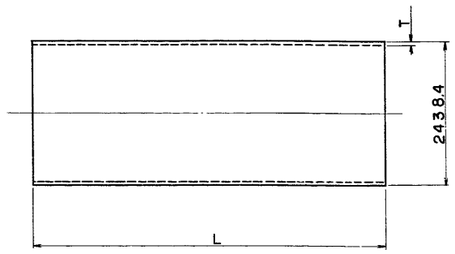


注記：材質は、特記なき場合下記による。
本 管：SM490
その他：SS400・STW400

施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	異形管詳細図(3/7)		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 図示	図面番号	8-3/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所		

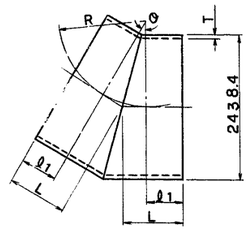
異形管詳細図(4/7)

直 管・短 管 S=1/50



管番号	T	L	数量	管番号	T	L	数量
▲42	18	1972	1本	▲68	17	9000	1
▲69,▲71~▲75	14	9000	6	▲80	23	9000	1
▲70	17	7004	1	▲86	19	9000	1
▲83	14	9000	1	▲77	15	3216	1
▲76	14	4000	1				
▲81	17	4820	1	▲66	▲78	は空番	
▲84	14	5966	1				
▲87	16	3982	1				
▲90	16	5000	1				
▲63,▲64	19	4000	2				

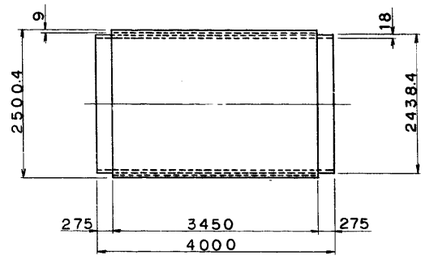
曲 管 (2ピース) S=1/50



番号	測点	T	θ	L	R	ℓ1	管中心長	数量
▲43	IP.6	18	8°55'21"	1000 2654	4972	612.1	3654	1
▲62	NO22+9.516	17	30°14'39"	1000	1440	610.9	2000	1
▲61	IP.8	17	12°20'08"	1000	4000	612.1	2000	1

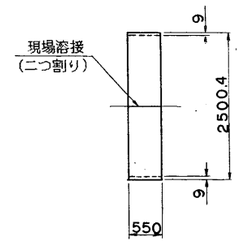
推進用鋼管Ⅰ型 S=1/50

▲44 ~ ▲62 数量:19
材質:STW400



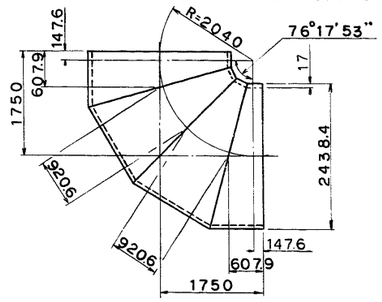
推進用鋼管Ⅰ型用継ぎ輪 S=1/50

数量:19組

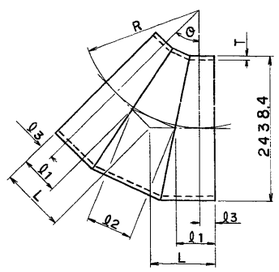


曲 管 (4ピース) S=1/50

IP.11 ▲65 数量:1
管中心長:3057.0



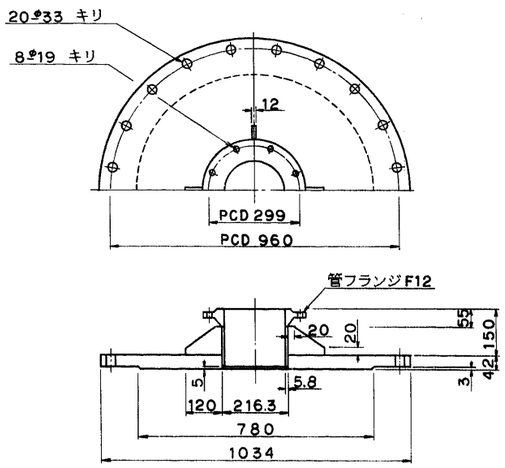
曲 管 (3ピース) S=1/50



番号	測点	T	θ	L	R	ℓ1	ℓ2	ℓ3	管中心長	数量
▲79	IP.10	23	36°57'23"	1100	2460	670.8	811.6	266.0	2153.2	1
▲88	NO.22 +36.516	16	37°46'32"	1100	2470	665.7	821.6	254.9	2153.0	1
▲85	NO.22 +26.516	19	32°44'00"	1100	2880	668.4	828.4	254.2	2165.2	1

フランジ蓋 (空気弁用) S=1/10

NO.22+5.616 数量:1



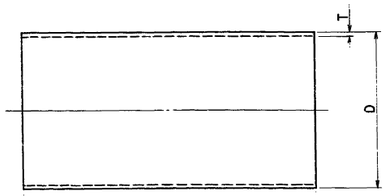
注記:材質は、特記なき場合下記による。
本 管:SM490
その他:SS400・STW400

施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	異形管詳細図(4/7)		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 1:50 A2 1:70	図面番号	8-4/319
作成者	関東農政局 両総農業水利事業所		

異形管詳細図(5/7)

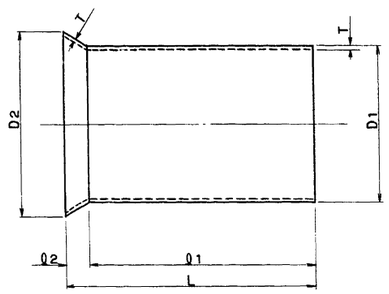
吐水槽　S=1/50

直　　管



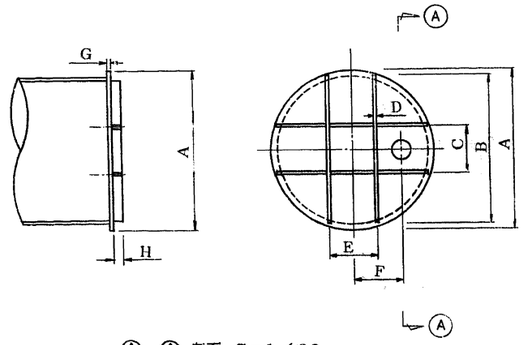
番号	D (mm)	T(mm)	L (mm)	数量 (本)
3	2641.6	17	1 600	1
㊻	2438.4	17	4 100	1
	812.8	6	4 000	1
	〃	6	2300	1
	〃	11	1 900	1
	406.4	6	6 000	2
	〃	6	3350	1

らっぱ口



番号	D_1	D_2	T	L	ℓ_1	ℓ_2	数量
2	2641.6	3100	14	2 250	1850	400	1
㊼	2438.4	2850	14	2450	2100	350	1
	812.8	1100	6	750	500	250	1
	406.4	580	6	750	500	150	1

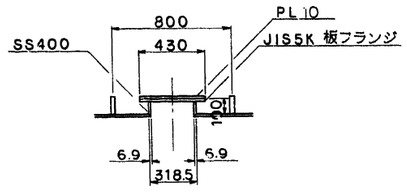
仮　蓋



記号	φ2600用	φ2400用
A	2700	2500
B	2520	2310
C	800	800
D	14	16
E	800	800
F	800	800
G	10	10
H	180	200

Ⓐ-Ⓐ 断面　S=1/20

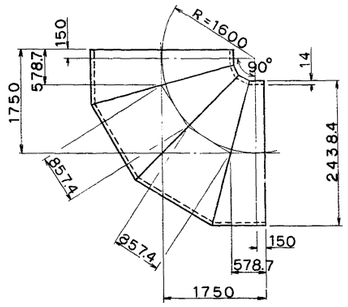
φ2600用、φ2400用共通



曲　管（4ピース）

㊻　数量：1

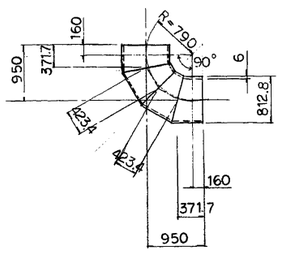
管中心長：2872.2



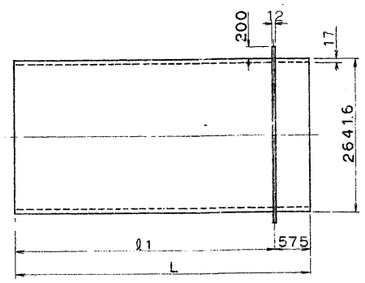
曲　管（4ピース）

数量：1

管中心長：1590.2



スチフナー付直管　S=1/50



番号	L	ℓ_1	数量
9	4900	4325	1
5	3350	2775	1

注記：材質は、特記なき場合下記による。

本管：SM490

その他：SS400・STW400

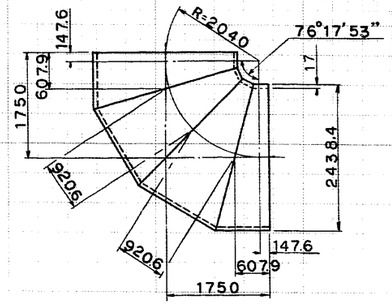
施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	異形管詳細図(5/7)		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 1:50 A2 1:70	図面番号	8-5/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所		

異形管詳細図(6/7)

流 出 管

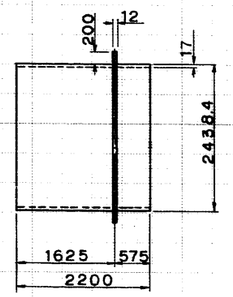
曲 管（4ピース） S=1/50

IP 11 ⑥⑨ 数量：1
管中心長：3057.0



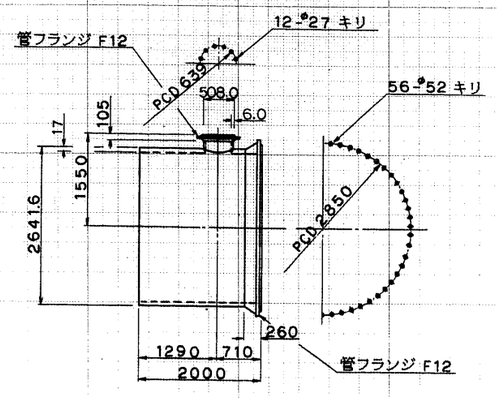
スチフナー付短管 S=1/50

No.2+40.73 ⑦⓪ 数量：2
No.2+48.33



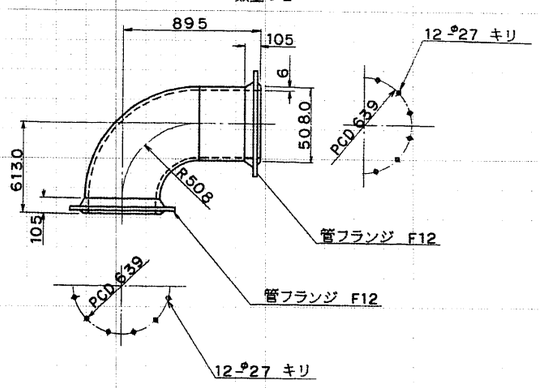
仕切弁副管 A S=1/50

数量：1



仕切弁副管 B S=1/20

数量：1



流 入 管

仕切弁副管 A S=1/50

数量：1

仕切弁副管 B S=1/20

数量：1

フランジ蓋（空気弁用）S=1/10

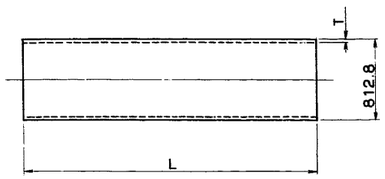
数量：2

施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	異形管詳細図(6/7)		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 図示	図面番号	8-6/319
作成者	関東農政局 両総農業水利事業所		

異形管詳細図(7/7)

余水吐管　S=1/30

直 管・短 管

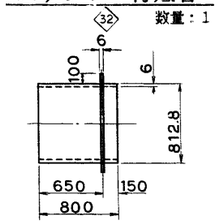


管番号	T	L	数 量
⑭	6	9000	1
⑪	6	3076	1
⑨	6	5872	1
⑦	6	5000	1
⑬	6	7774	1
㉓	6	1501	1
㉚	6	3000	1

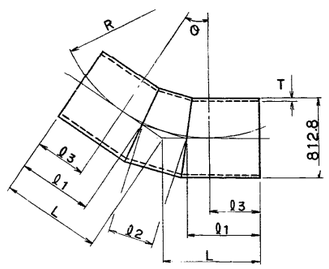
T	L	数 量	管番号
7	4926	1	㉑
6	4066	1	⑰
6	9000	2	⑳ ㉔
6	9000	2	⑱ ㉗
6	9000	1	㉙
6	4956	1	㉖

スチフナー付短管

㉜　数量：1



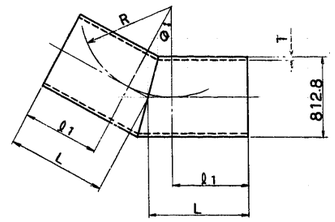
曲 管（3ピース）



管番号	T	θ	L	R	ℓ1	ℓ2	ℓ3	管中心長	数 量
⑩	-	59°17'53"	1000	850	741.2	450.0	516.2	1932.4	1
㉒	7	34°22'12"	1000	1570	751.7	474.4	514.5	1977.8	1
⑫	6	37°46'30"	1000	1630	753.3	473.0	516.8	1979.6	1

（契約対象外）

曲 管（2ピース）



管番号	T	θ	L	R	ℓ1	管中心長	数 量
⑮	6	32°43'58"	1000	920	770.8	2000	1
⑲	6	30°14'39"	1000	850	770.3	2000	1
㉕	6	13°06'08"	1000	1990	771.5	2000	1
㉘	6	14°01'08"	1000	1860	771.3	2000	1

フランジ付 T 字 管（φ800×φ600）

⑯　数量：1

注記：材質は、特記なき場合下記による。

本 管：SM490

その他：SS400・STW400

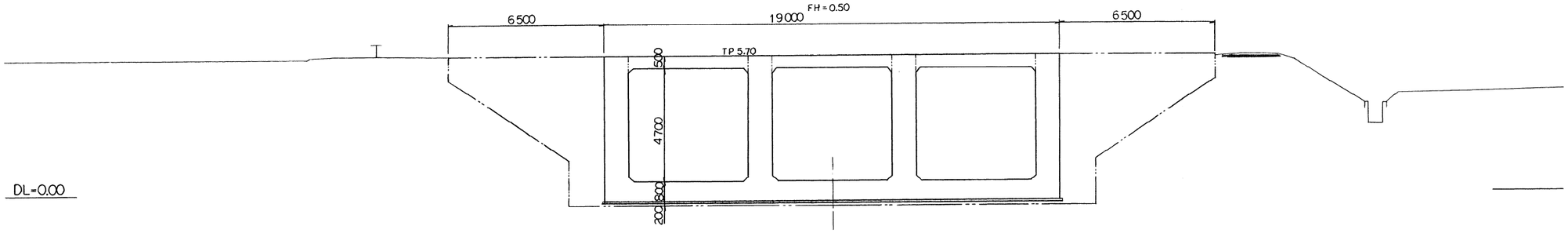
施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	異形管詳細図(7/7)		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 1:30 A2 1:42	図面番号	8-7/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所		

第2揚水機場一般平面図 S=1:300

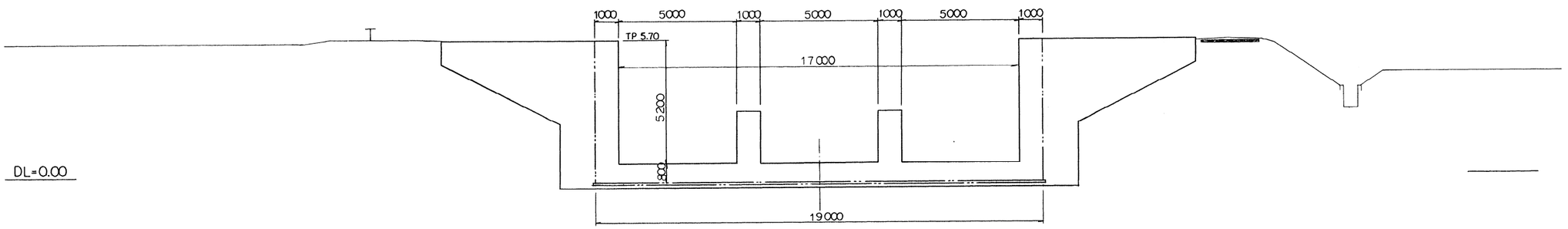
河川境界
NO.1 +48.0
町道
資料倉庫
車庫
職員駐車場
搬入口
ポンプ室上部吹抜け
事務室
宿直室
電気室
受電設備用建屋
格納庫
駐車場
吸水槽
沈殿池
管理用道路
NO.0 ITV
遮水矢板
中之橋
NO.3
NO.2
NO.1
A
B
C
D
E
F
G
H
J
K
L
TP-1.40
TP-0.20
TP 2.40
TP 5.70
17 820
36 300
41500 (沈砂槽)
43000 (沈殿池)
13 400
20 000
18000 (流入部)
11000 (ゲート部)
6000 (オーブントランジション)
3000 (角落し)
4@9 000 = 36 000

施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	第2揚水機場一般平面図		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 1:300 A2 1:424	図面番号	8-8/319
作成者	関東農政局 両総農業水利事業所		

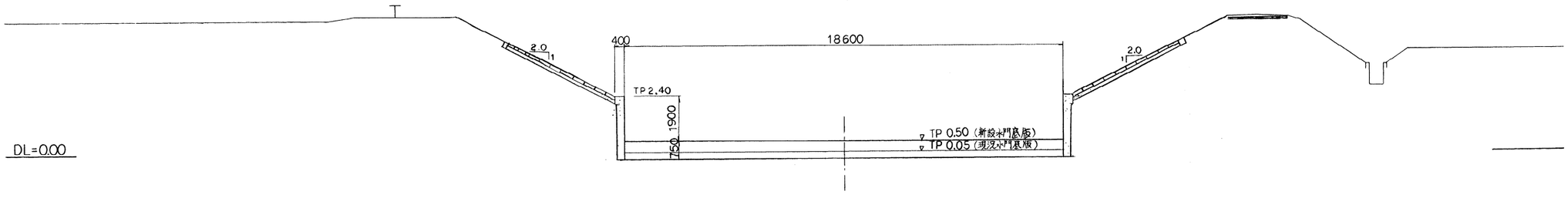
NO.1 + 5.00 (−)
GH = 0.05
FH = 0.50



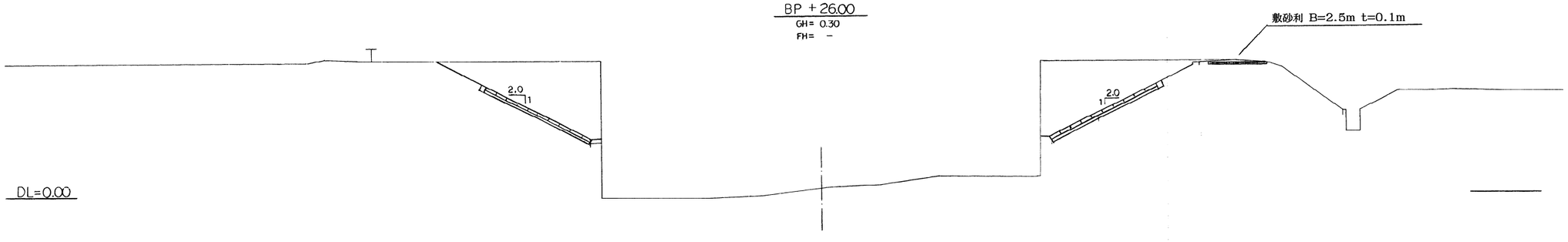
BP + 44.00(+)
GH = 0.05
FH = 0.50



BP + 44.00(−)
GH = 0.05
FH = 0.50

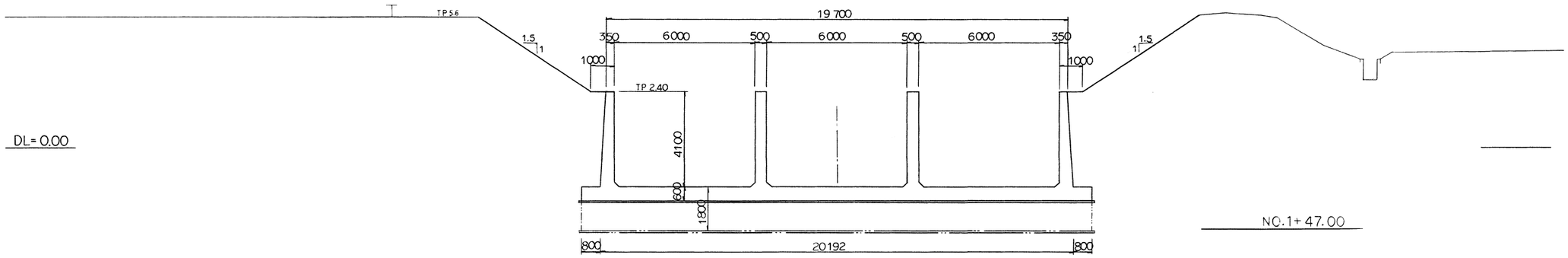


BP + 26.00
GH = 0.30
FH = −

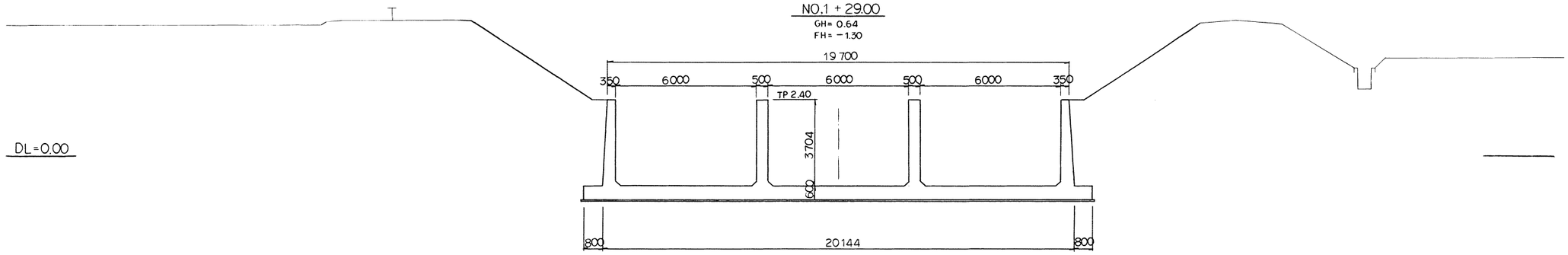


施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	第2揚水機場横断図(1/5)		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 1:100 A2 1:141	図面番号	8-9/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所		

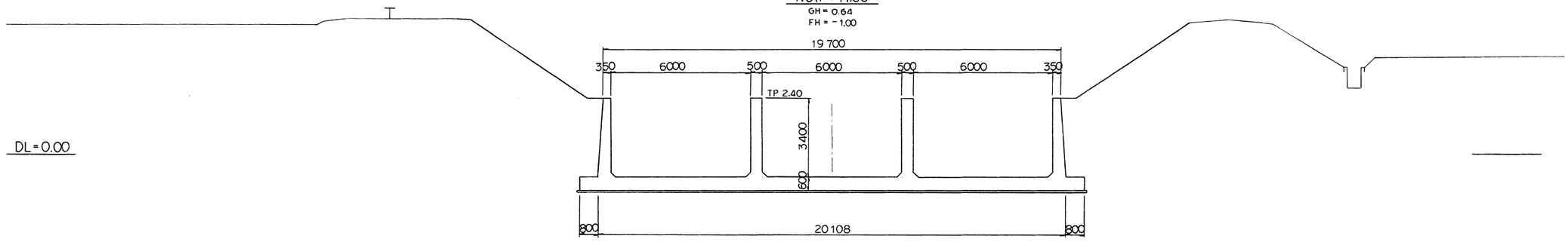
NO.2 +1.80
GH = 0.26
FH = −1.70



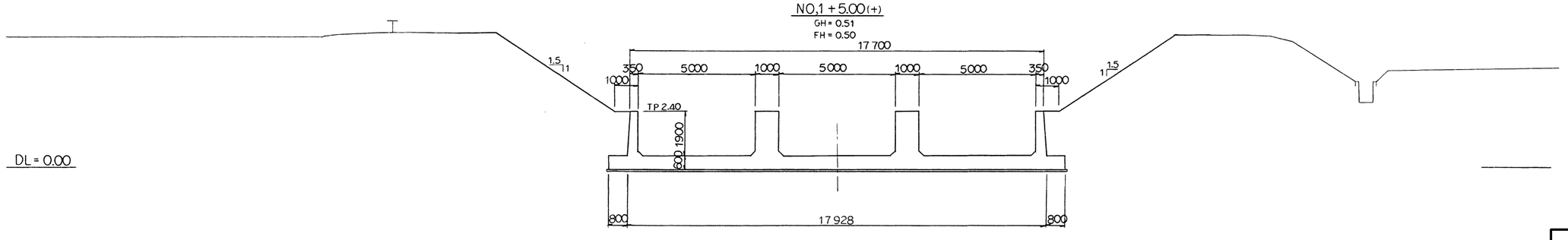
NO.1 + 29.00
GH = 0.64
FH = −1.30



NO.1 +11.00
GH = 0.64
FH = −1.00

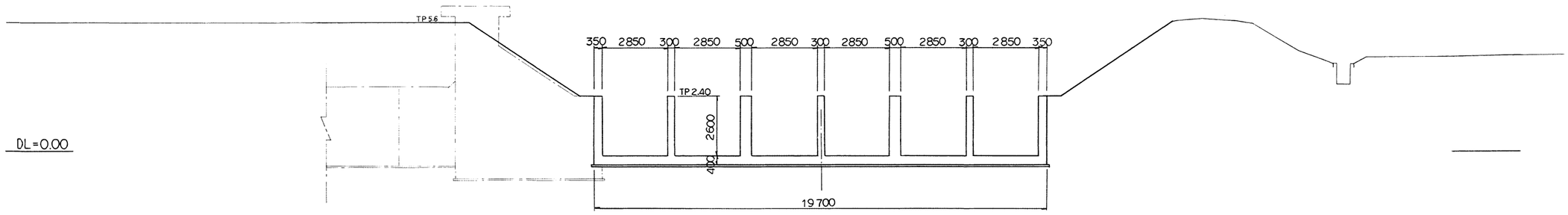


NO.1 +5.00(+)
GH = 0.51
FH = 0.50

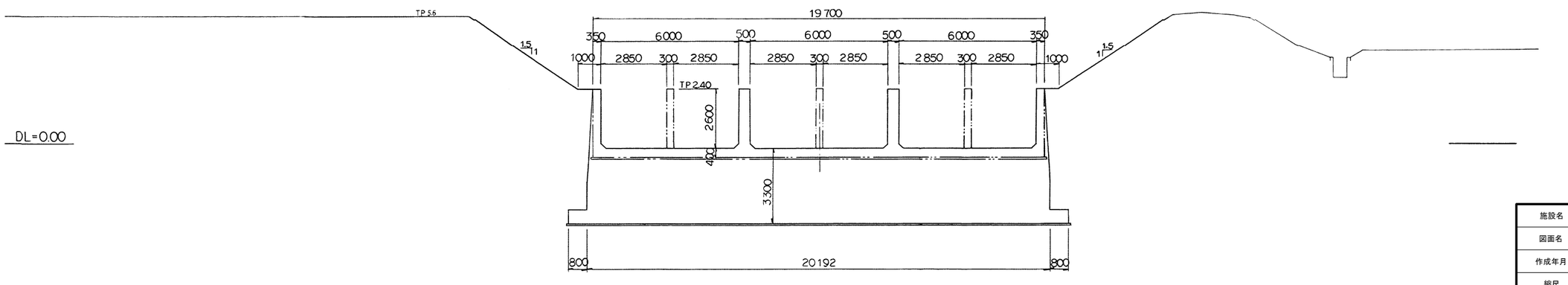


施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	第2揚水機場横断図(2/5)		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 1:100 A2 1:141	図面番号	8-10/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所		

NO.2 +6.00
GH = 0.26
FH = −0.20

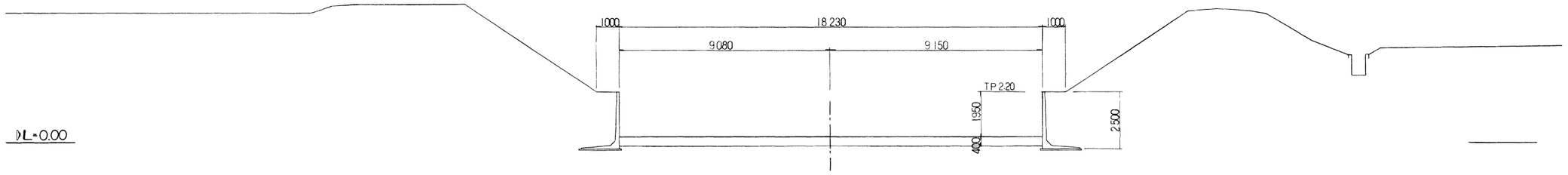


NO.2 + 4.00
GH = 0.26
FH = −0.20

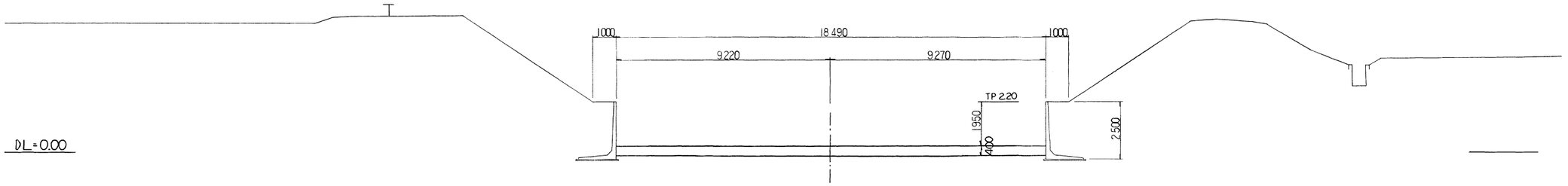


施設名	第2揚水機場 (0312100-1100-19)		
図面名	第2揚水機場横断図 (3/5)		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 1:100 A2 1:141	図面番号	8-11/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所		

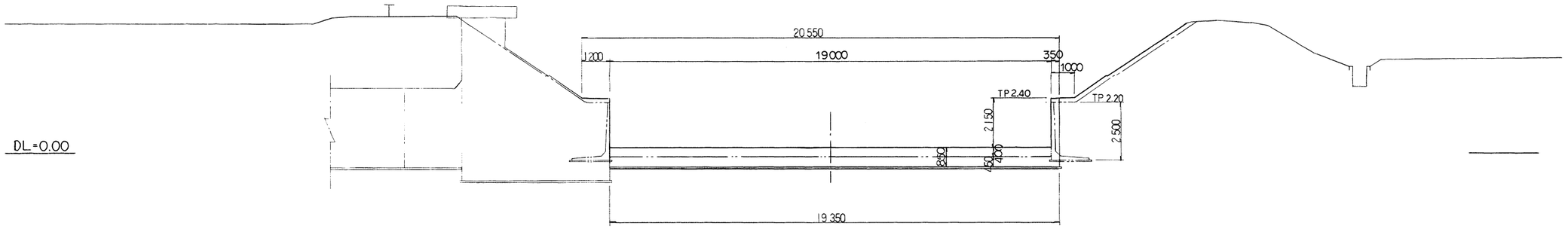
NO.2 +26.40
GH = 0.26
FH = 0.25



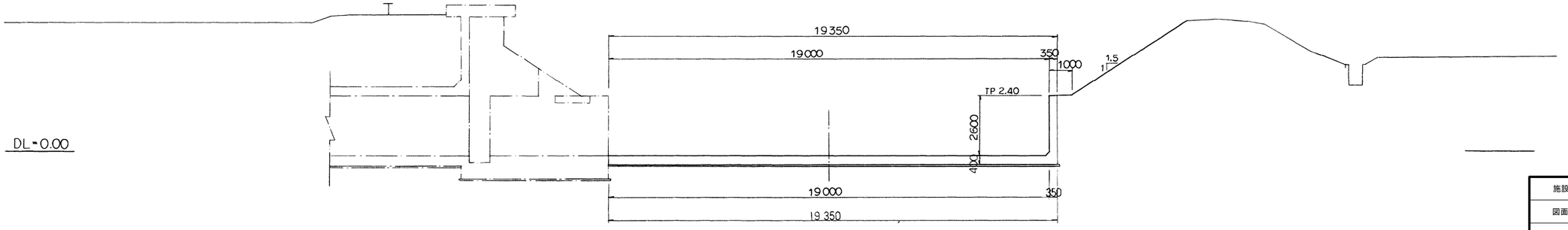
NO.2 +24.40
GH = 0.26
FH = 0.25



NO.2 +20.40
GH = 0.26
FH = 0.25

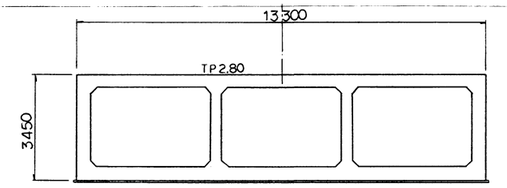


NO.2 + 7.00
GH = 0.26
FH = −0.20



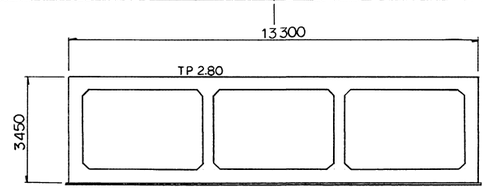
施設名	第2揚水機場 (0312100-1100-19)		
図面名	第2揚水機場横断図 (4/5)		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 1:100 A2 1:141	図面番号	8-12/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所		

NO.0 +16.00
GH = 5.02
FH = -0.20



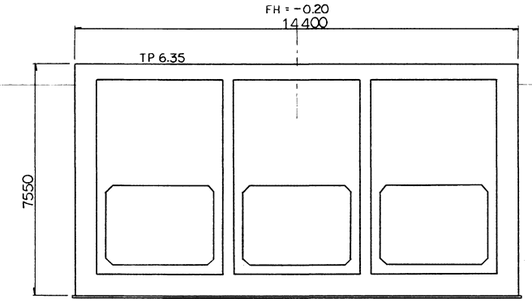
DL=0.00

NO.0 +12.00
GH = 5.32
FH = -0.20



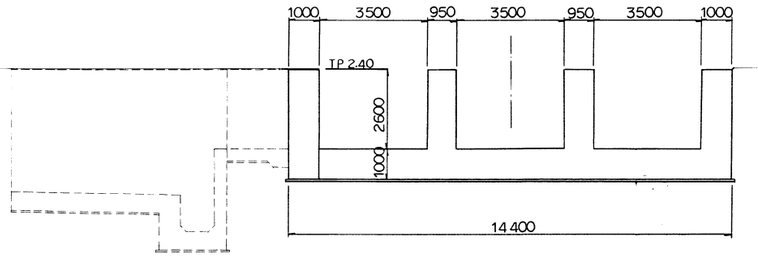
DL=0.00

NO.0 + 6.00
GH = 5.69
FH = -0.20



DL=0.00

NO.0 + 0.00
GH = 2.43
FH = -0.20

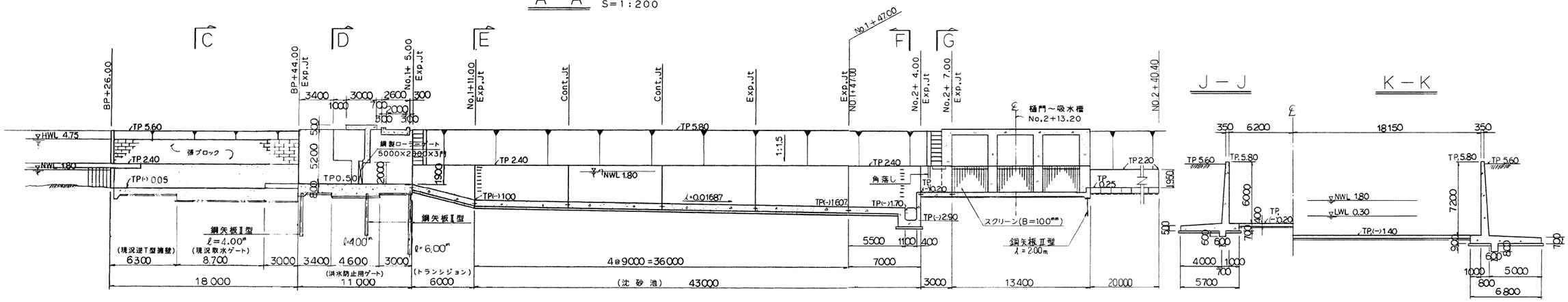


DL=0.00

施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	第2揚水機場横断図(5/5)		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 1:100 A2 1:141	図面番号	8-13/319
作成者	関東農政局 両総農業水利事業所		

第2揚水機場一般図 S=1:200

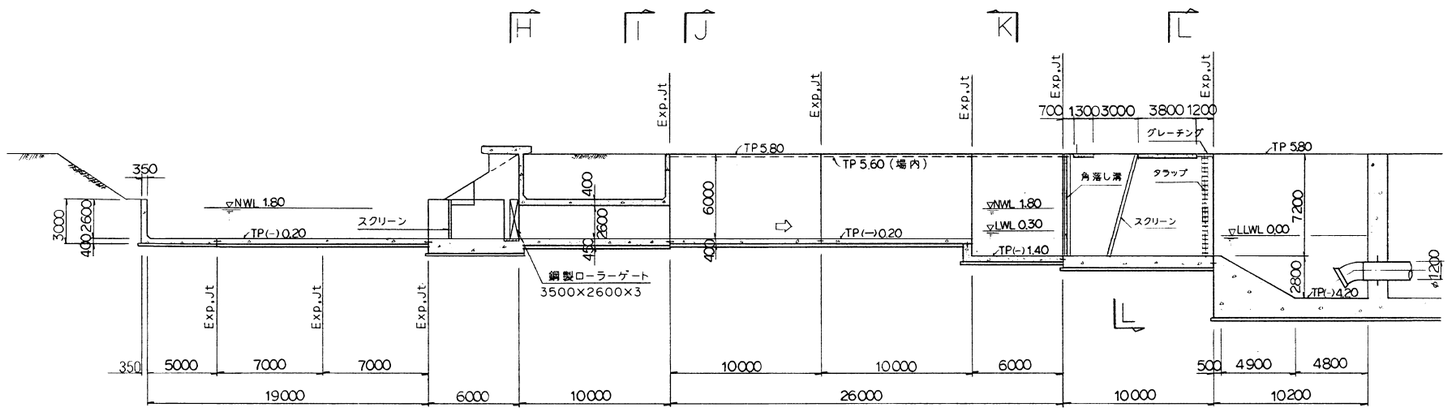
A－A S=1:200



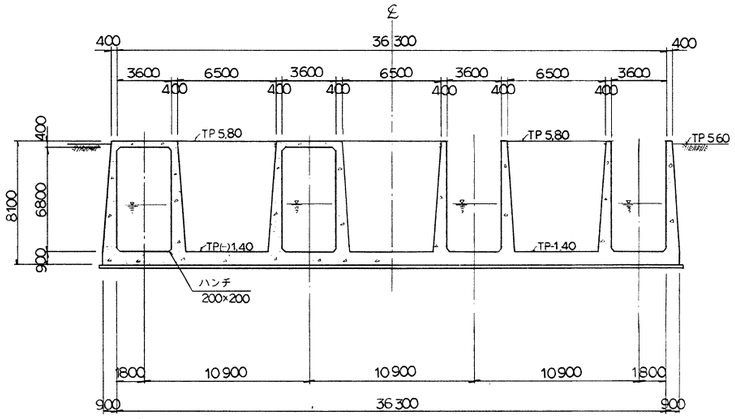
J－J

K－K

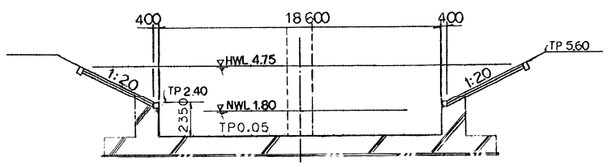
B－B



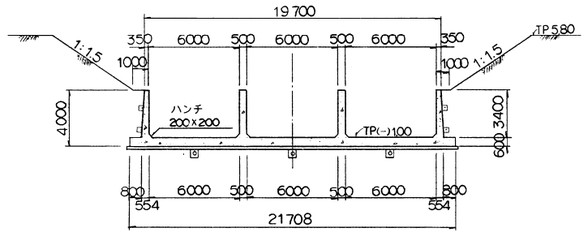
L－L



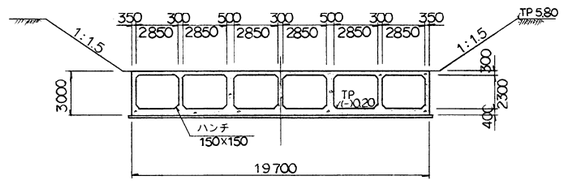
C－C



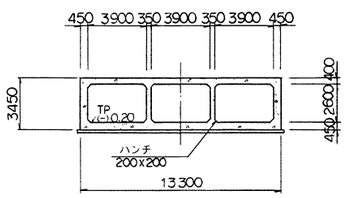
E－E



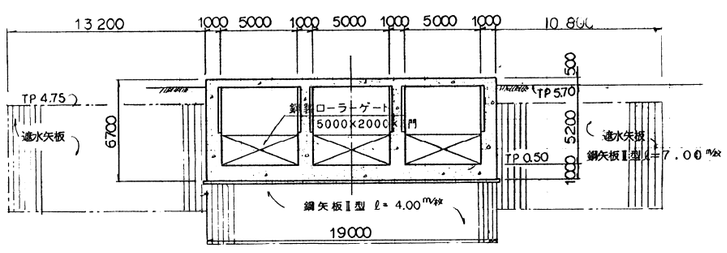
G－G



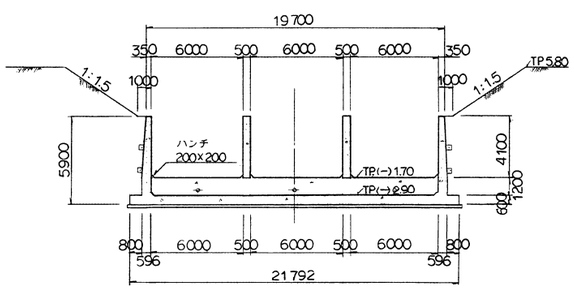
I－I



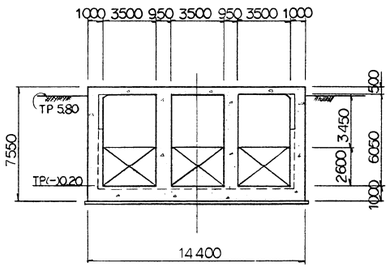
D－D



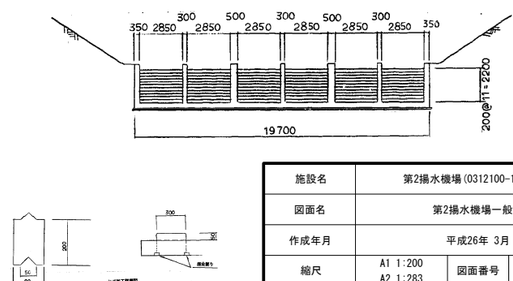
F－F



H－H



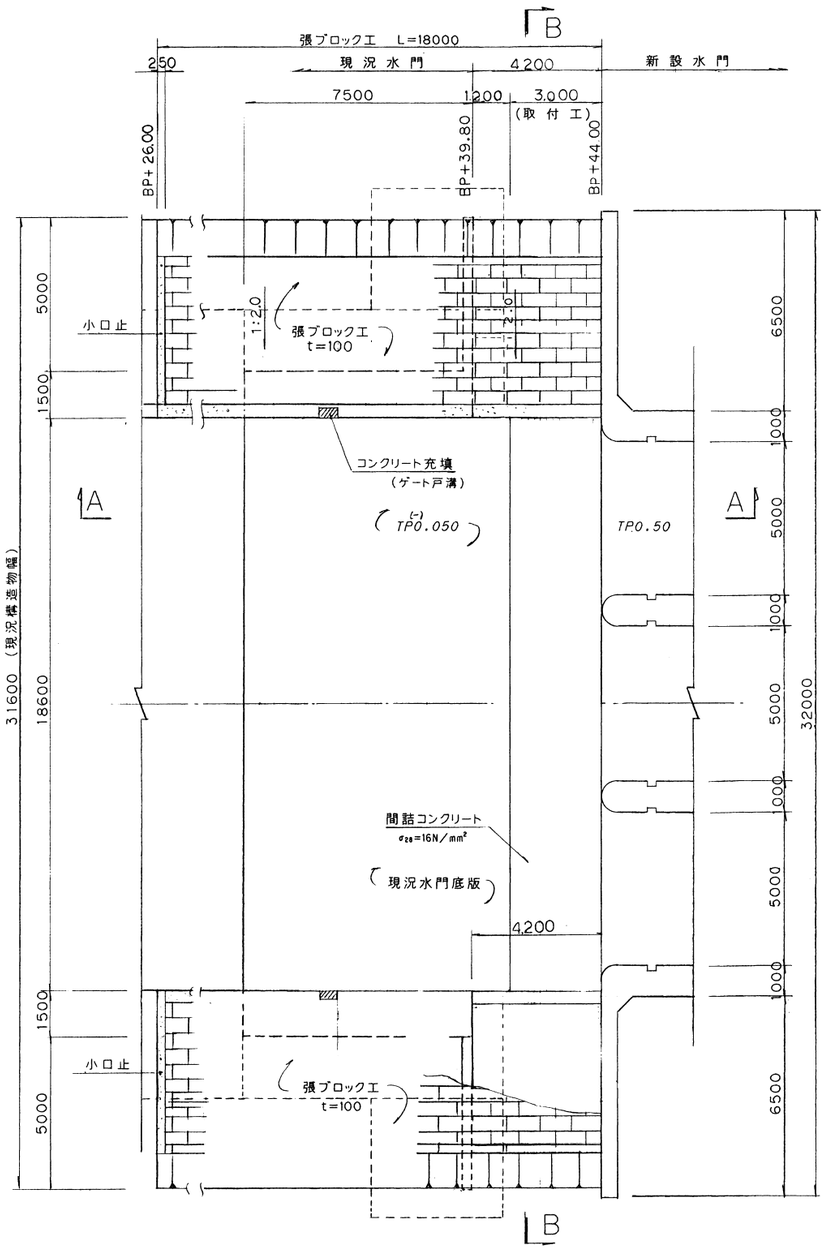
角落とし設置工 S=1:200



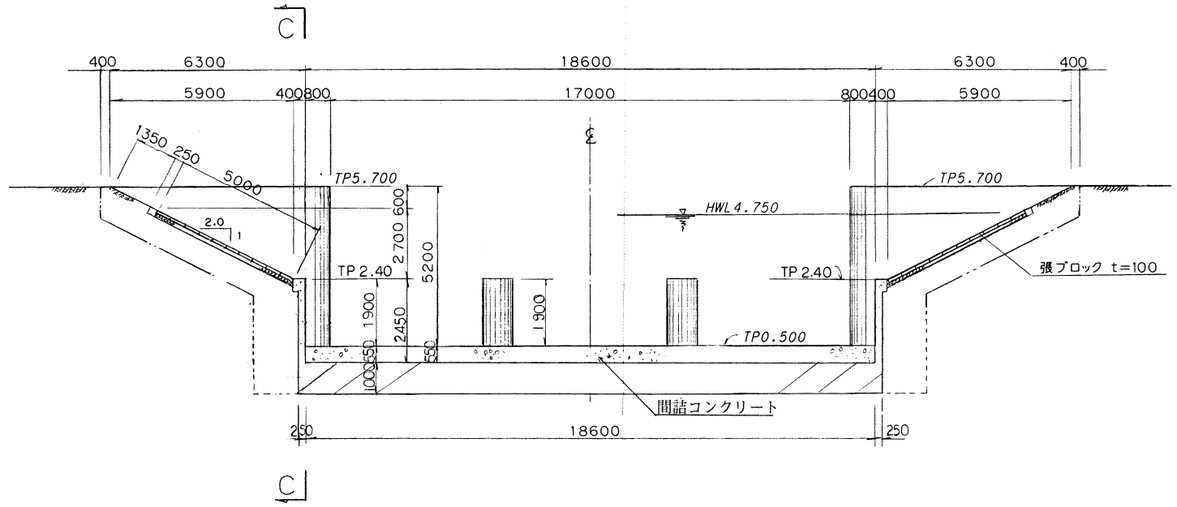
施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	第2揚水機場一般図		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 1:200 A2 1:283	図面番号	8-14/319
作成者	関東農政局 両総農業水利事業所		

流入部工

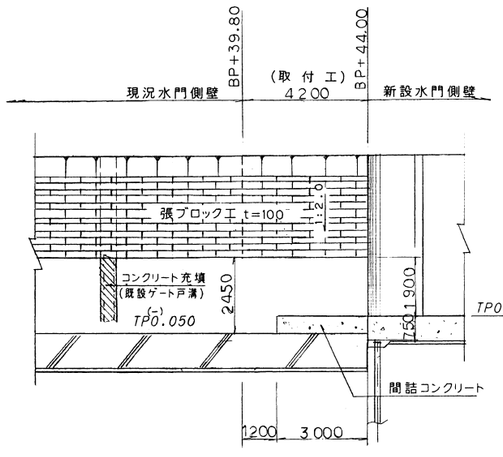
平面図 S=1:100



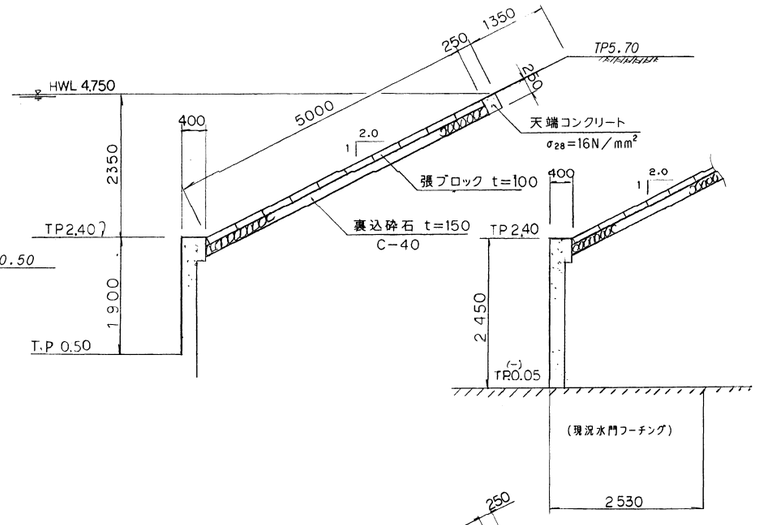
B－B S=1:100



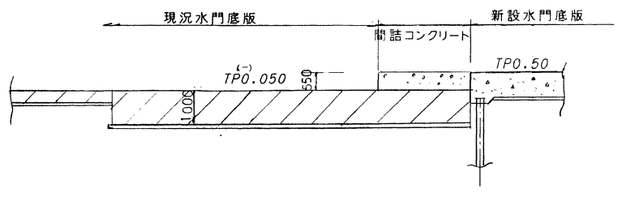
C－C S=1:100



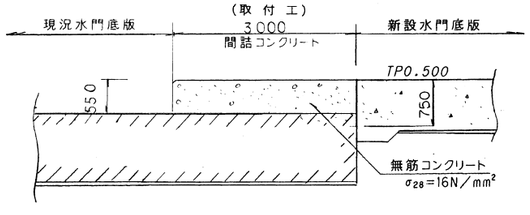
護岸詳細図 S=1:50



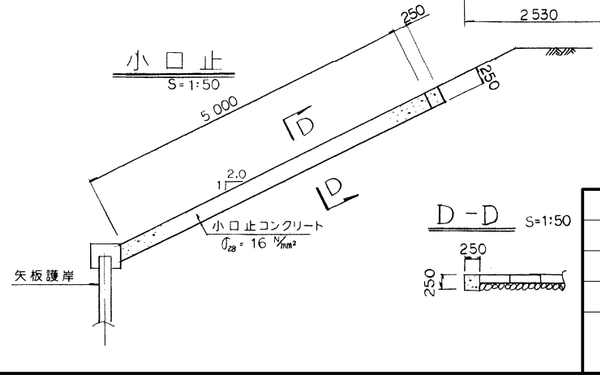
A－A S=1:100



間詰コンクリート S=1:50



小口止 S=1:50

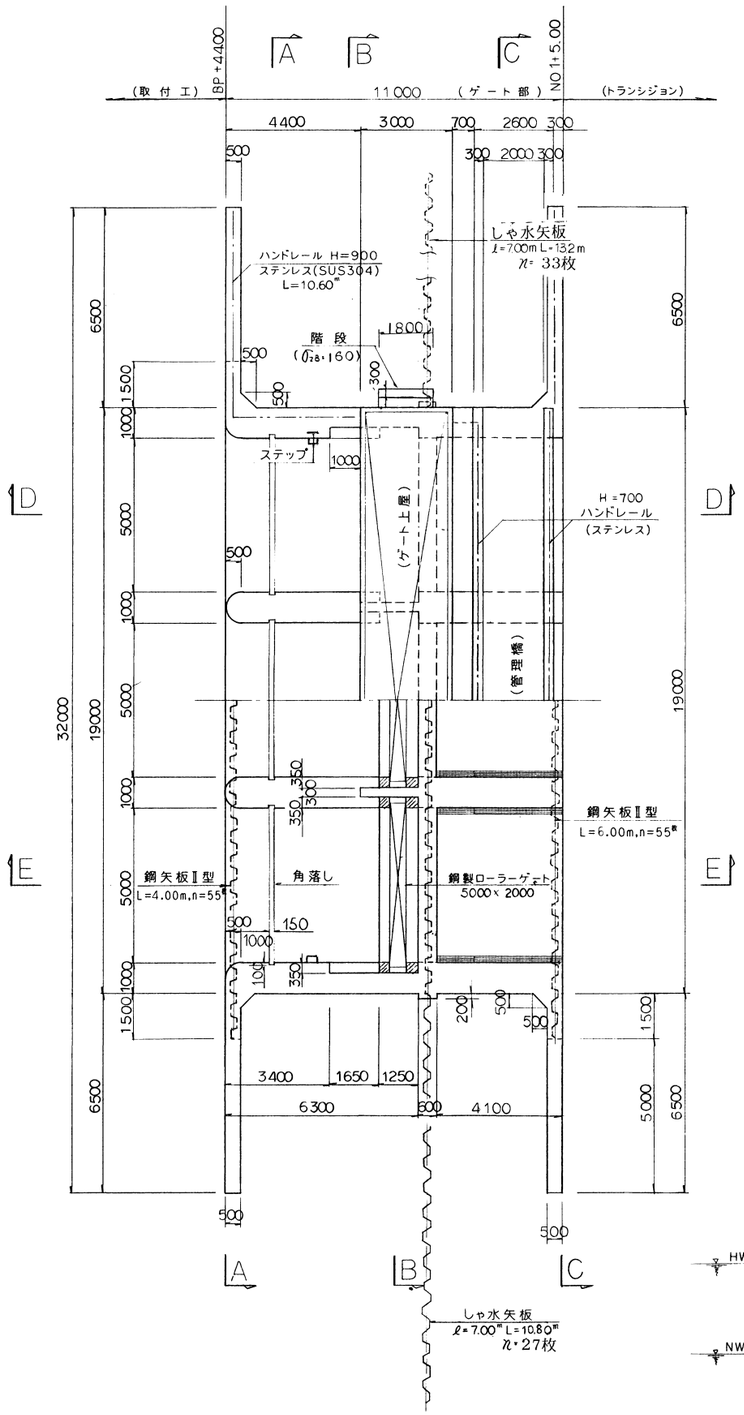


D－D S=1:50

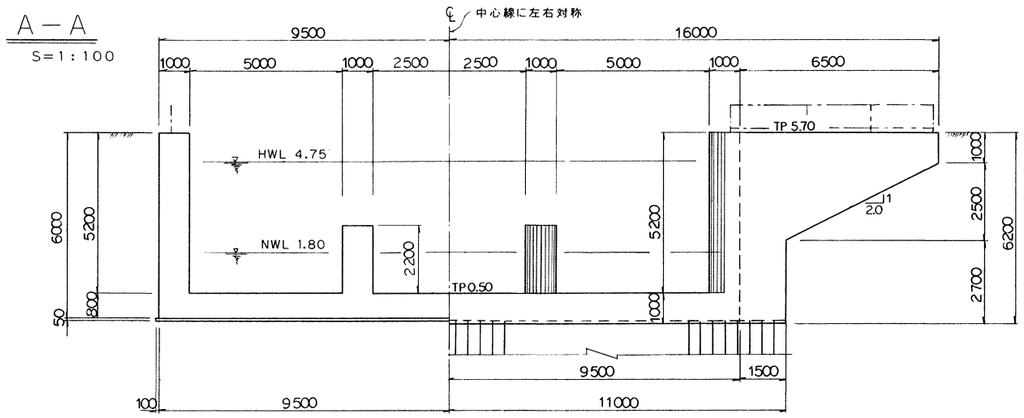
施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	流入部工		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 図示	図面番号	8-15/319
作成者	関東農政局 両総農業水利事業所		

洪水防止用ゲート部工

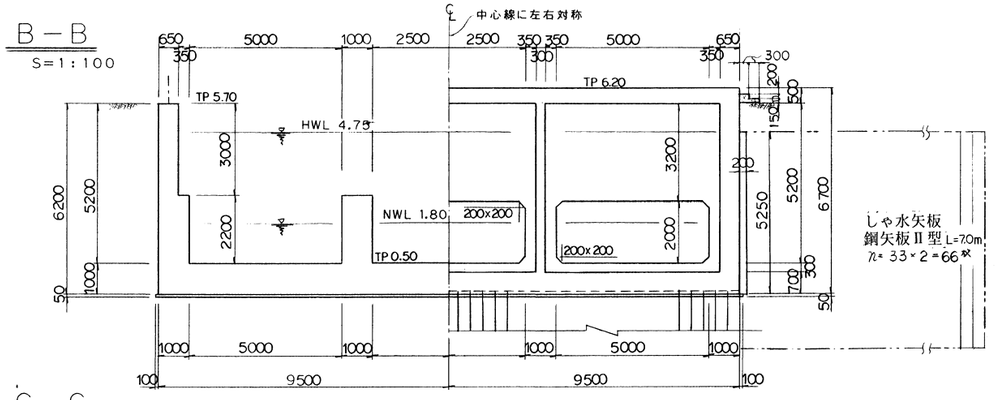
平面図 S=1:100



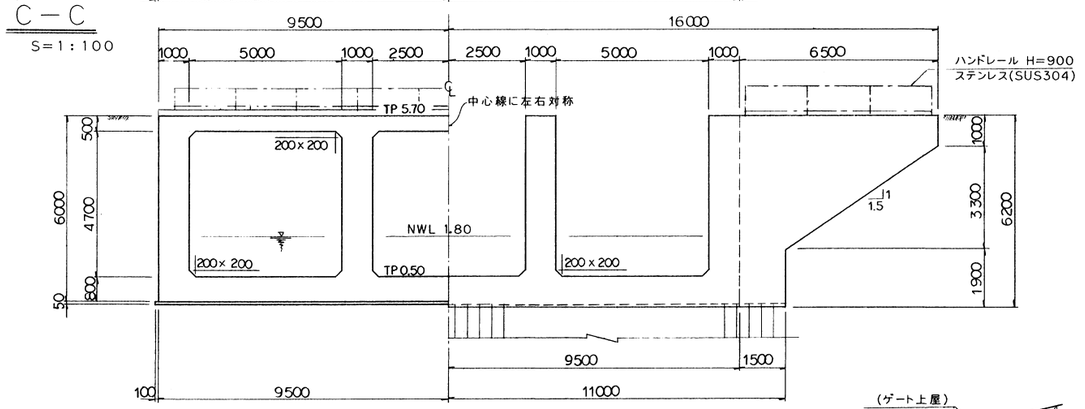
A－A S=1:100



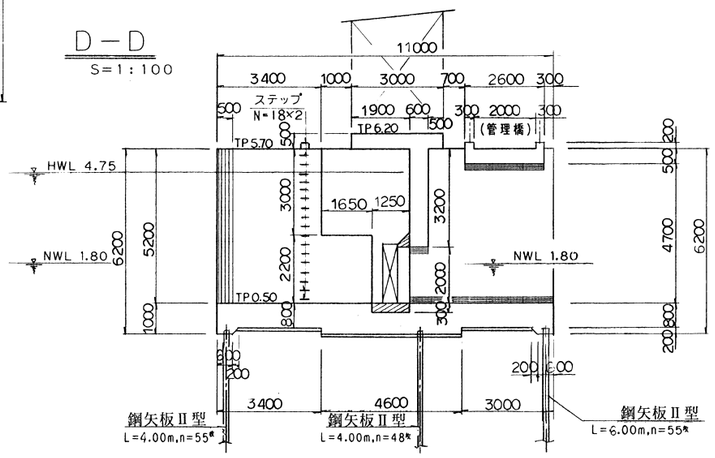
B－B S=1:100



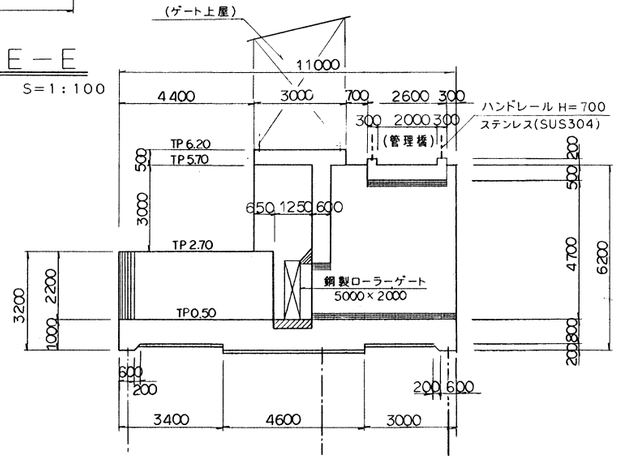
C－C S=1:100



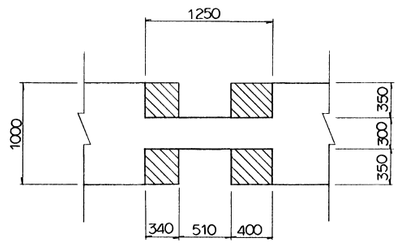
D－D S=1:100

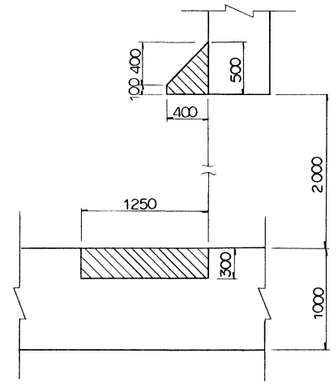


E－E S=1:100



ゲート箱抜き図 S=1:30





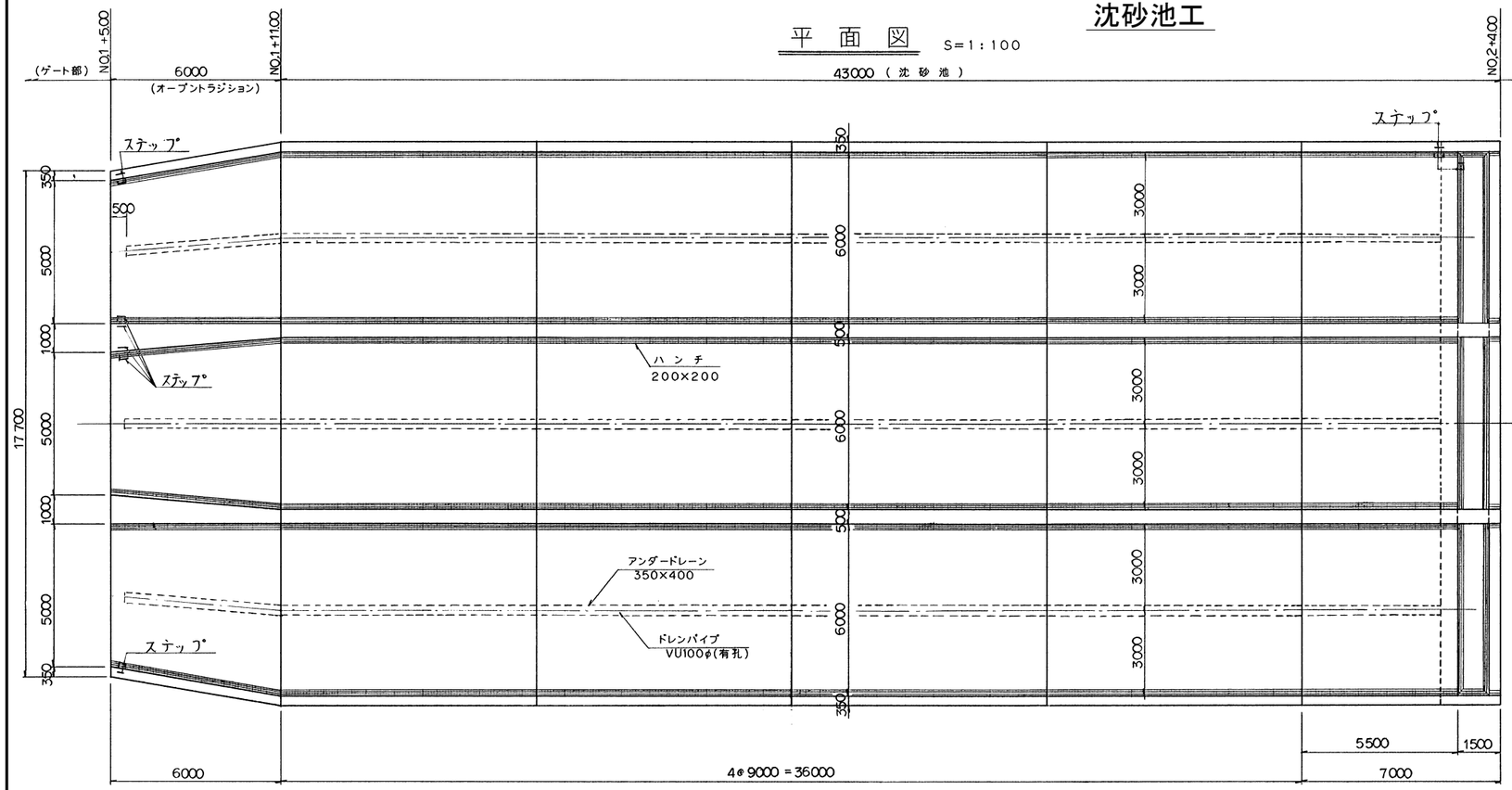
※ゲート箱抜き図の二次コンクリートの寸法は参考寸法である。

注 意 事 項
(1) 鉄筋コンクリートの設計基準強度は σ_{28} = 21 N/mm²
(2) 鉄筋の規格はSD 295A
(3) 鉄筋の重ね継手長は30・D以上

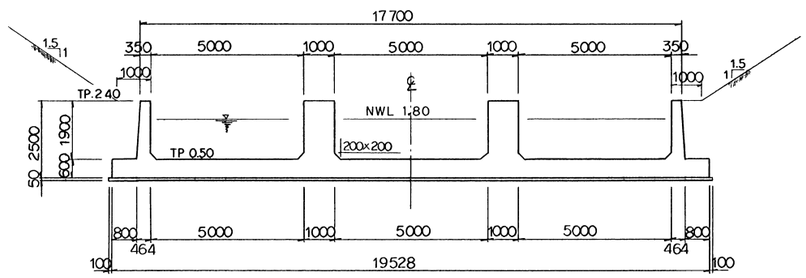
施設名	第2揚水機場 (0312100-1100-19)		
図面名	洪水防止用ゲート部工		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 図示	図面番号	8-16/319
作成者	関東農政局 両総農業水利事業所		

沈砂池工

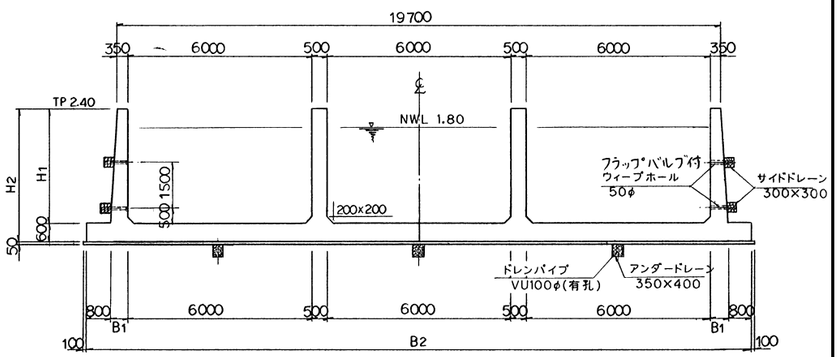
平面図 S=1:100



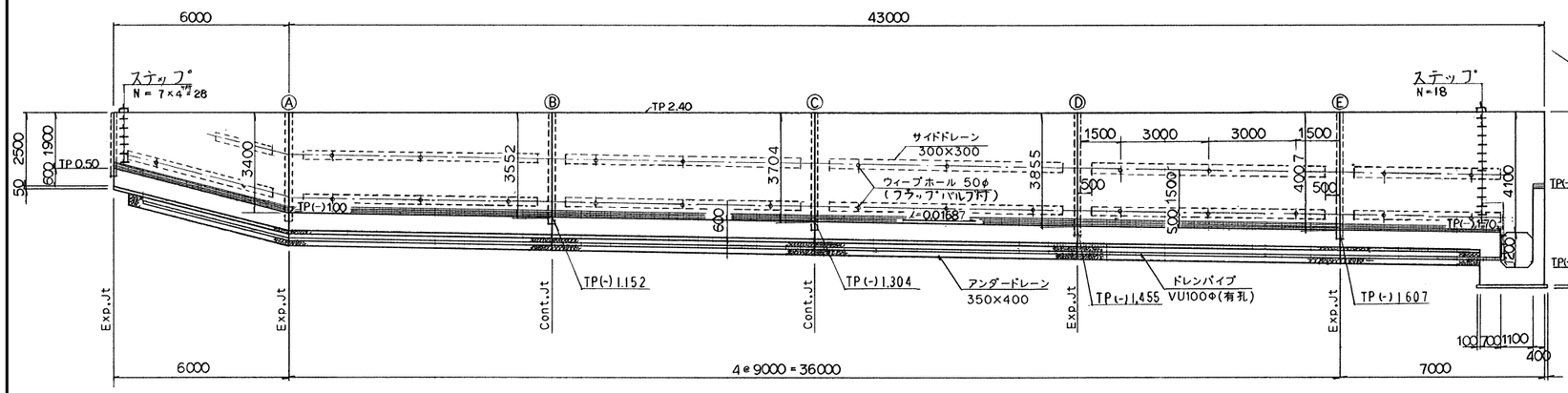
A－A S=1:100



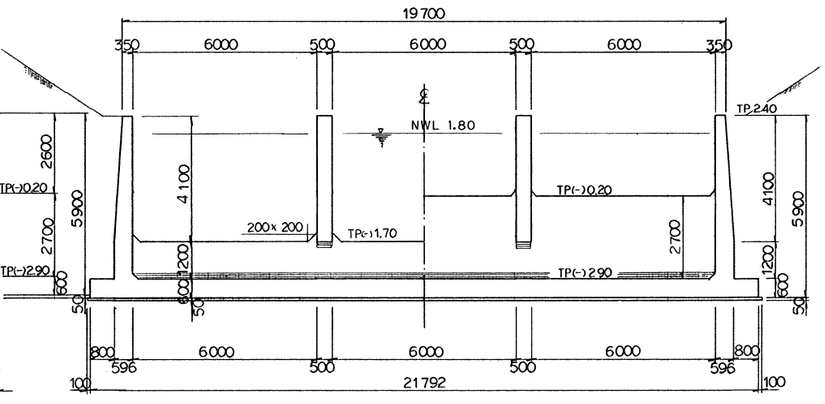
B－B S=1:100



縦断図 S=1:100

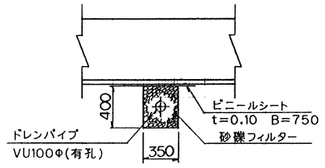


C－C S=1:100



注 意 事 項
(1) 鉄筋コンクリートの設計基準強度は $\sigma_{28}=210^{kg/cm^2}$
(2) 鉄筋の規格はSD 295A
(3) 鉄筋の重ね継手長は30-D以上

アンダードレーン詳細図 S=1:30



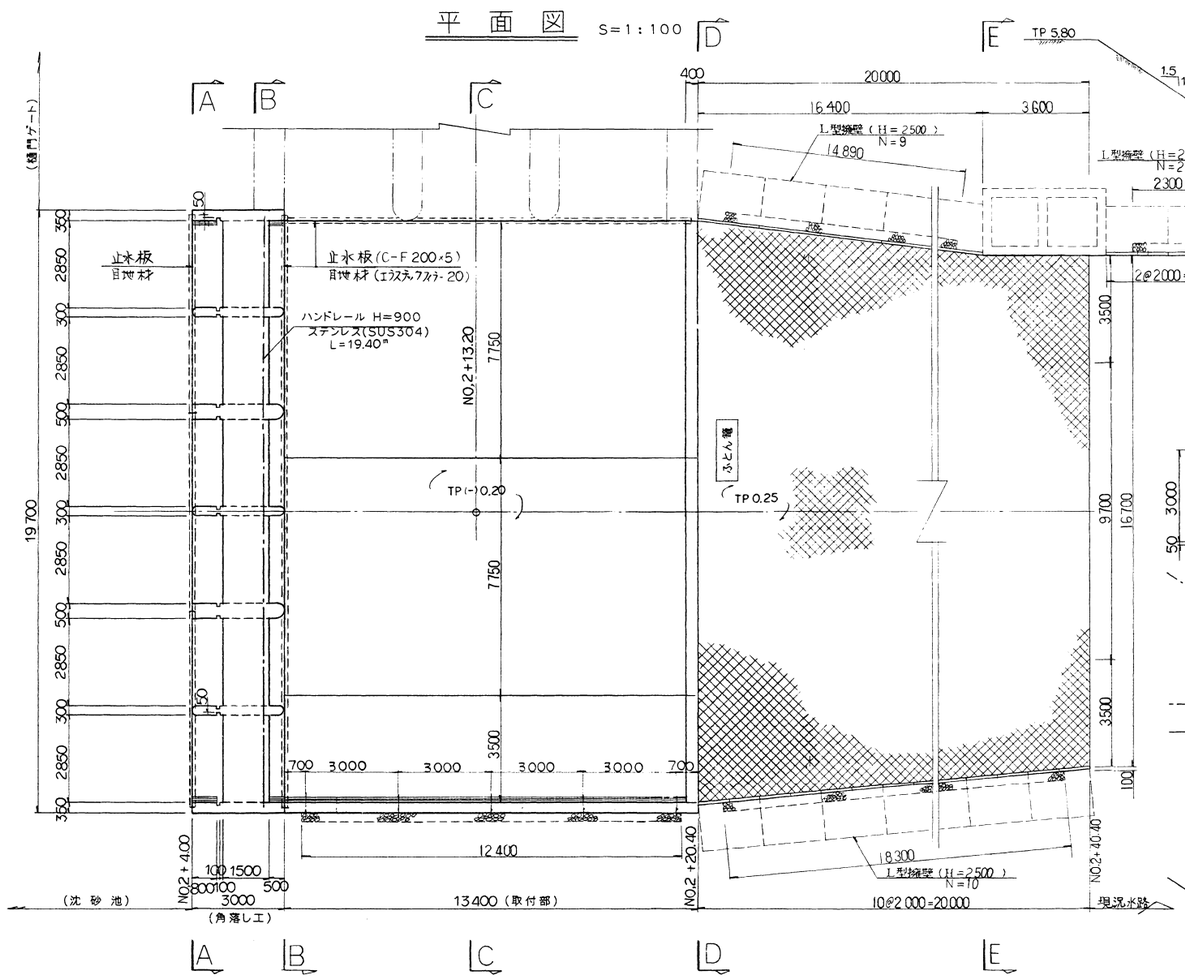
寸法表

記号	B1	B2	H1	H2	摘要
Ⓐ	554	21.708	3.400	4.000	
Ⓑ	563	21.726	3.552	4.152	
Ⓒ	572	21.744	3.704	4.304	
Ⓓ	581	21.762	3.855	4.455	
Ⓔ	590	21.780	4.007	4.607	

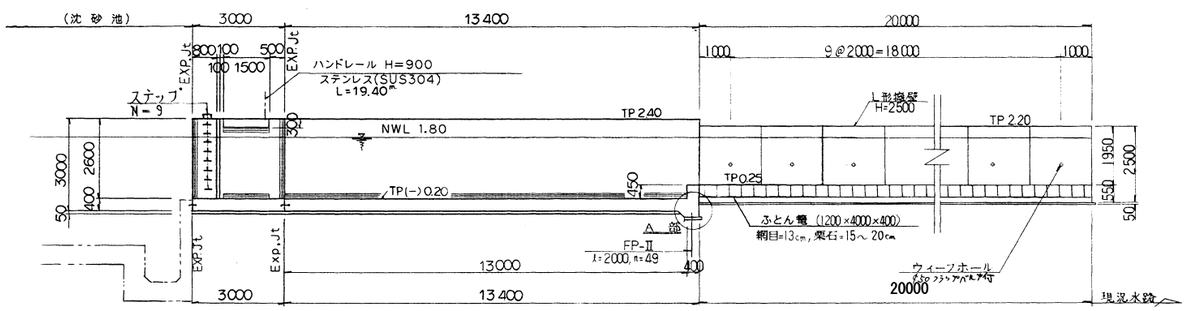
施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	沈砂池工		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 図示	図面番号	8-17/319
作成者	関東農政局 両総農業水利事業所		

角落し工・取付部工 S=1:100

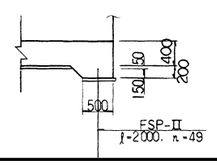
平面図 S=1:100



縦断図 S=1:100

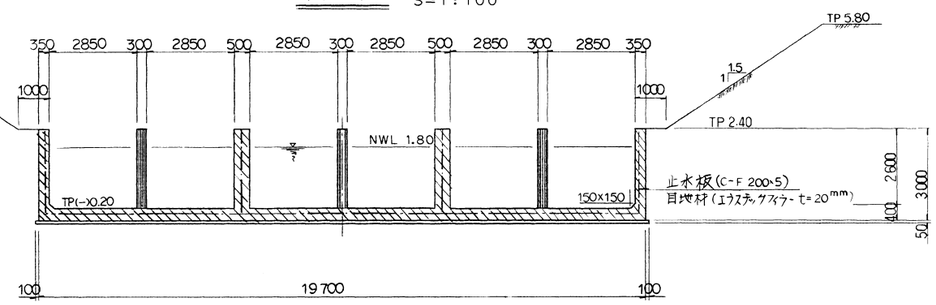


A部

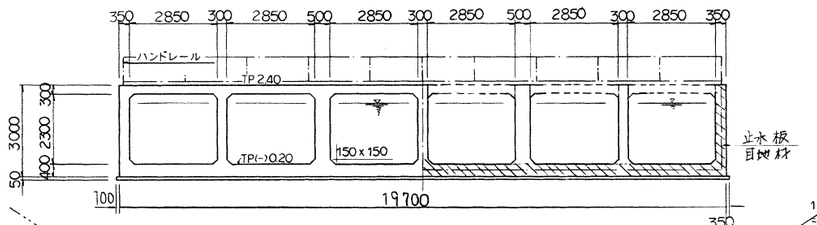


注 意 事 項
(1) 鉄筋コンクリートの設計基準強度は $\sigma_{28}=210^{kg/cm2}$
(2) 鉄筋の規格はSD 295A
(3) 鉄筋の重ね継手長は30・D以上

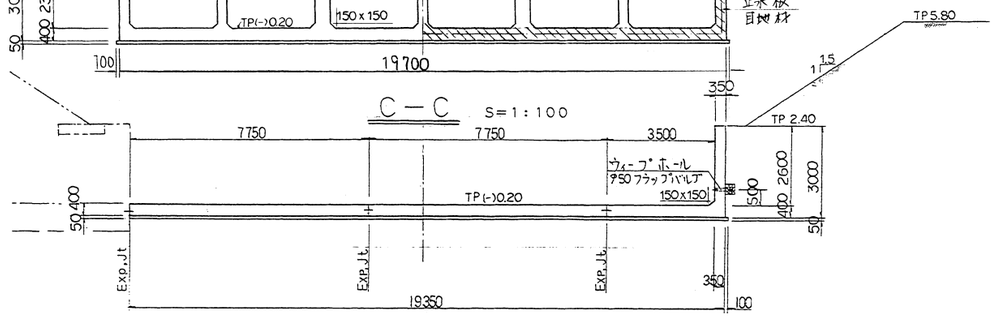
A－A S=1:100



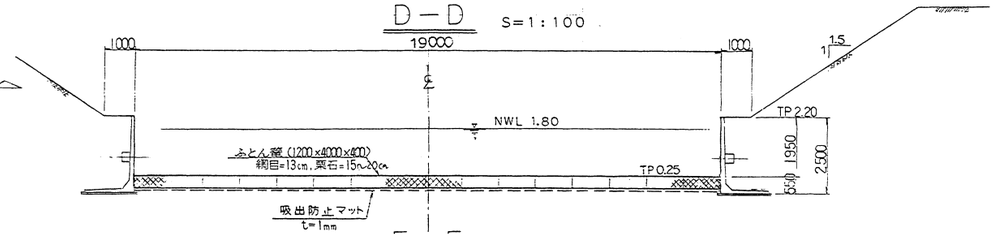
B－B S=1:100



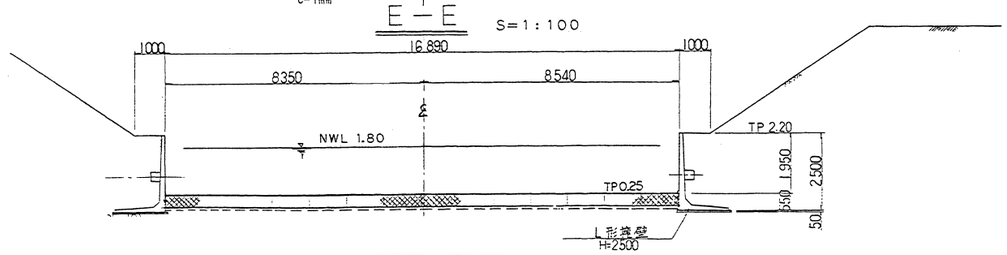
C－C S=1:100



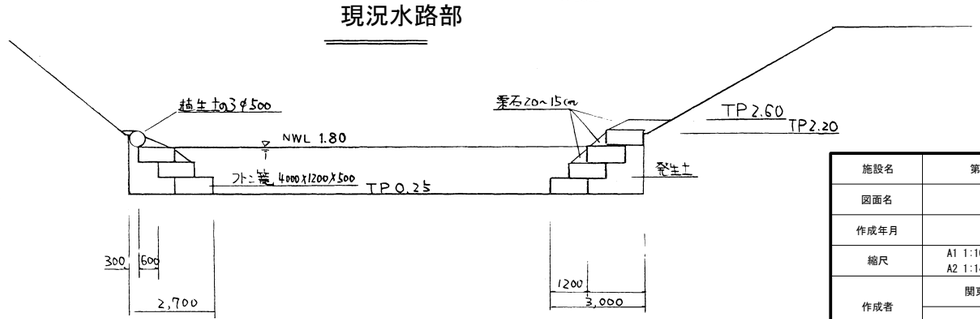
D－D S=1:100



E－E S=1:100



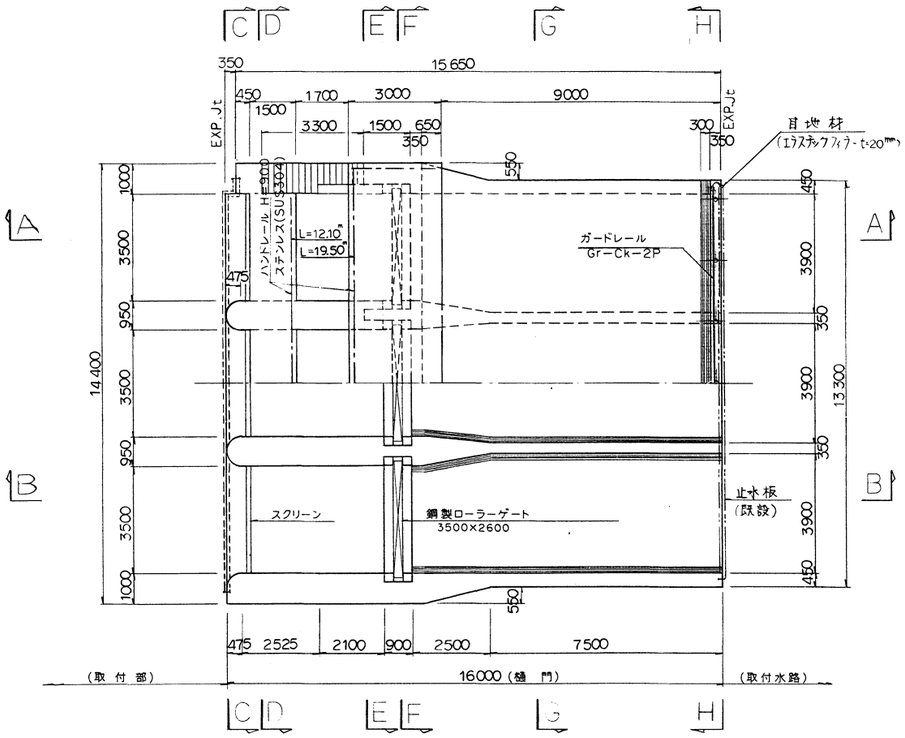
現況水路部



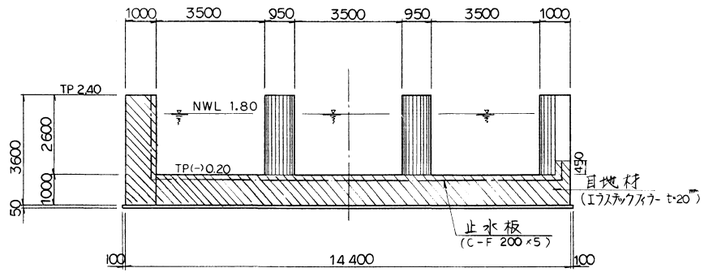
施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	角落し工・取付部工		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 1:100 A2 1:141	図面番号	8-18/319
作成者	関東農政局 両総農業水利事業所		

樋門ゲート部工 S=1:100

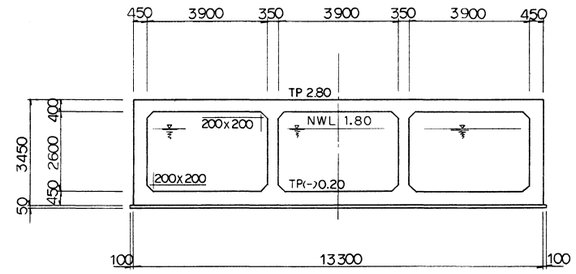
平面図 S=1:100



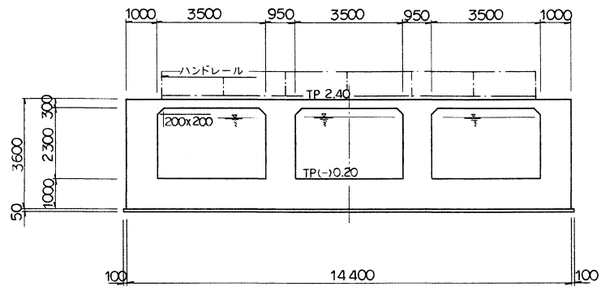
C－C S=1:100



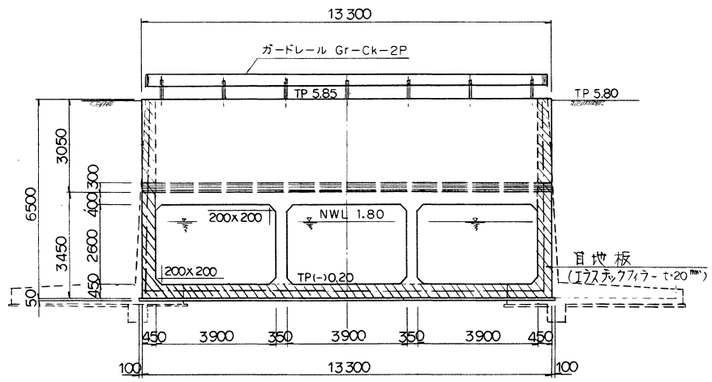
G－G S=1:100



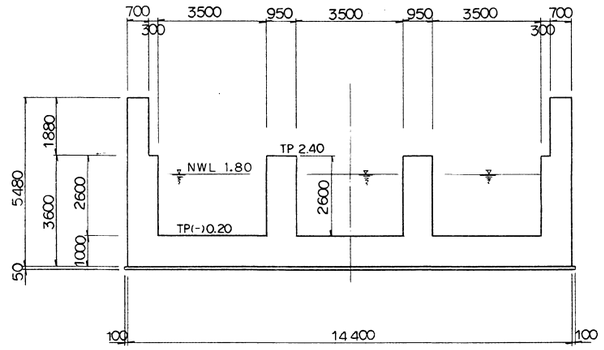
D－D S=1:100



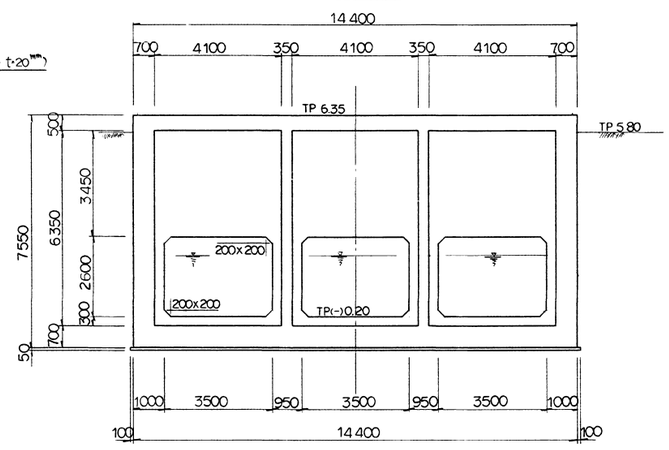
H－H S=1:100



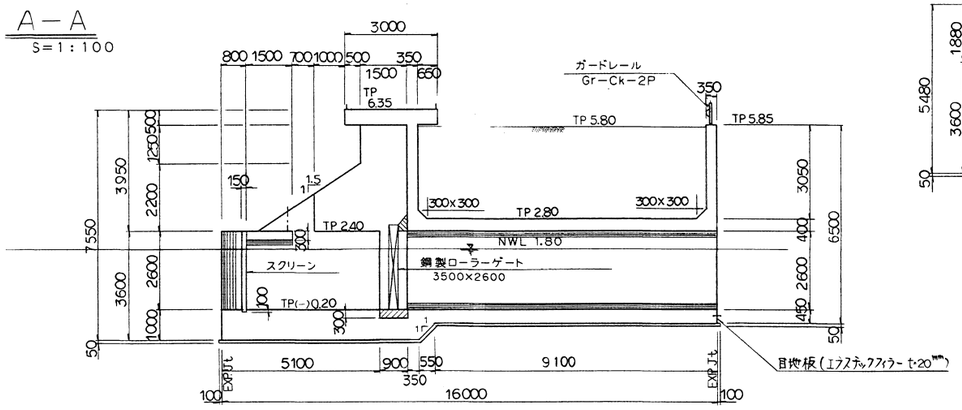
E－E S=1:100



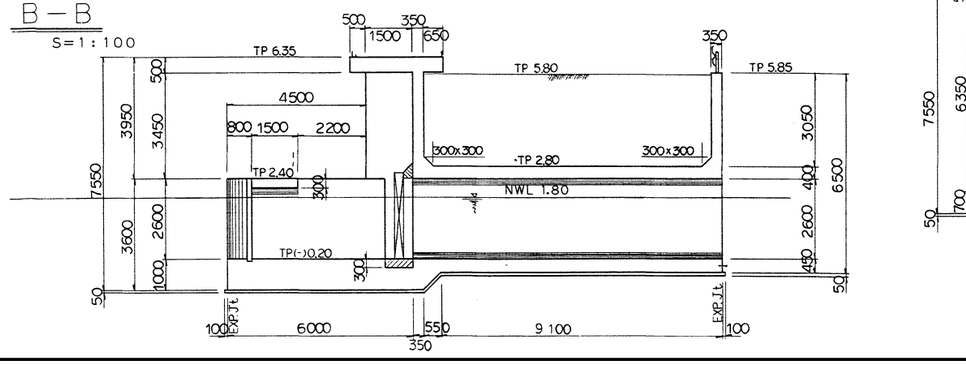
F－F S=1:100



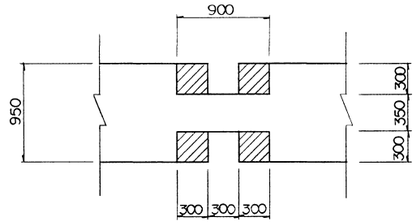
A－A S=1:100

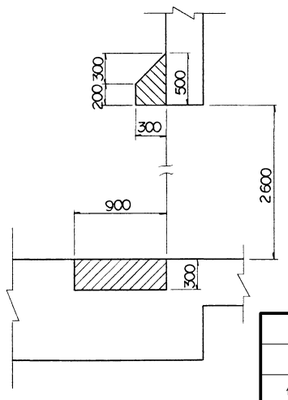


B－B S=1:100



ゲート箱抜き図 S=1:30





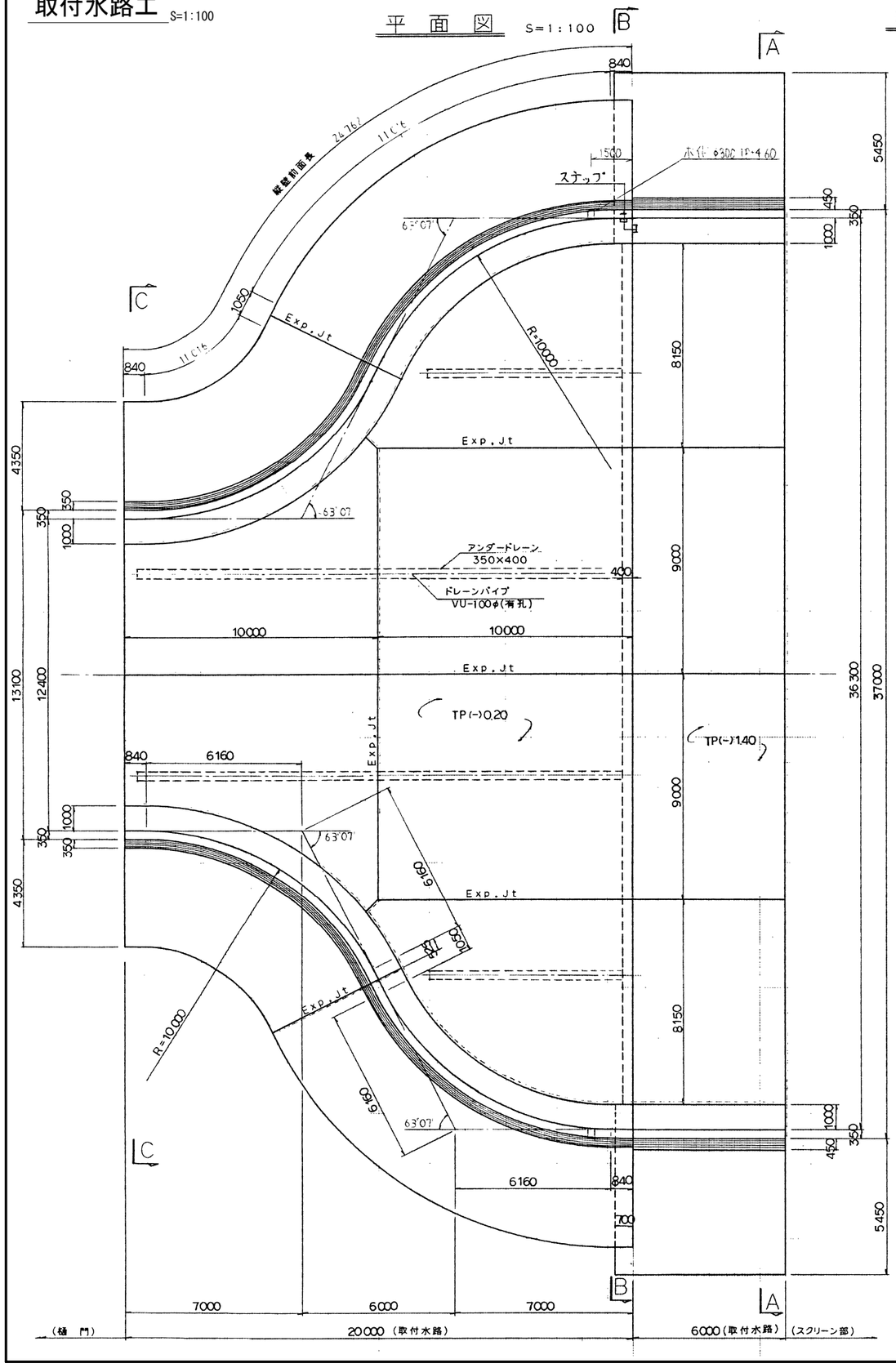
※ゲート箱抜き図の二次コンクリートの寸法は参考寸法である。

注 意 事 項
(1) 鉄筋コンクリートの設計基準強度は
$\sigma_{28}=210^{kg/cm2}$ (21-25-12)
(2) 鉄筋の規格はSD 295A
(3) 鉄筋の重ね継手長は30-D以上

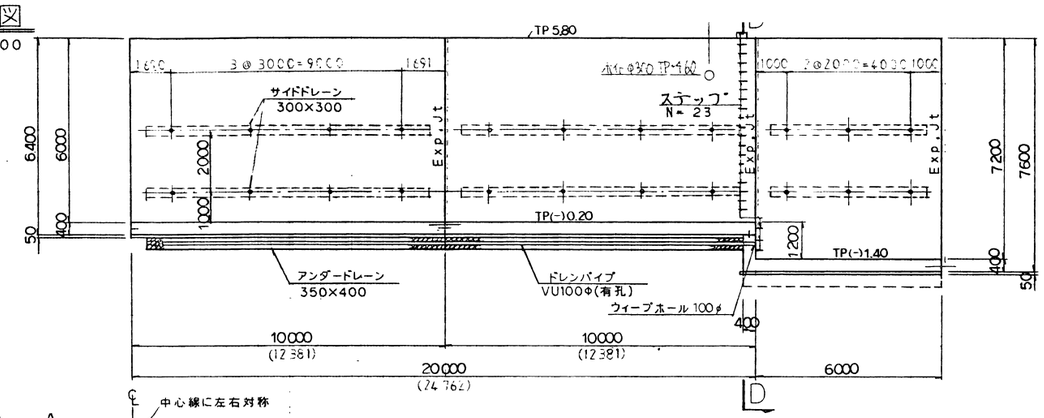
施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	樋門ゲート部工		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 1:100 A2 1:141	図面番号	8-19/319
作成者	関東農政局 両総農業水利事業所		

取付水路工 S=1:100

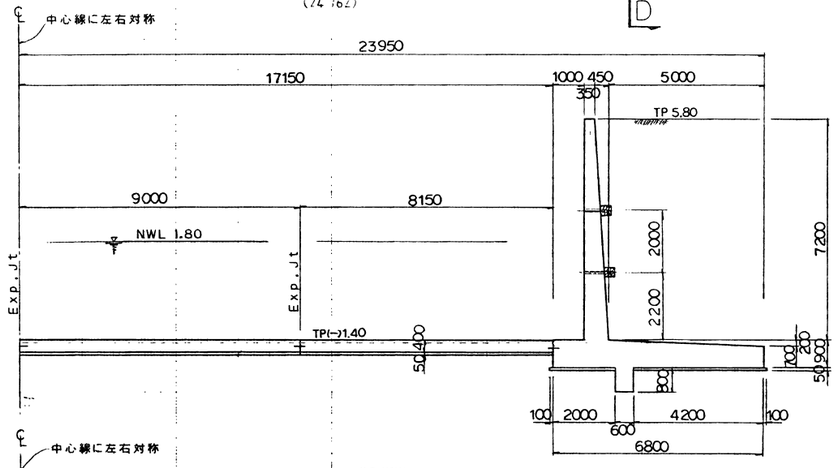
平面図 S=1:100



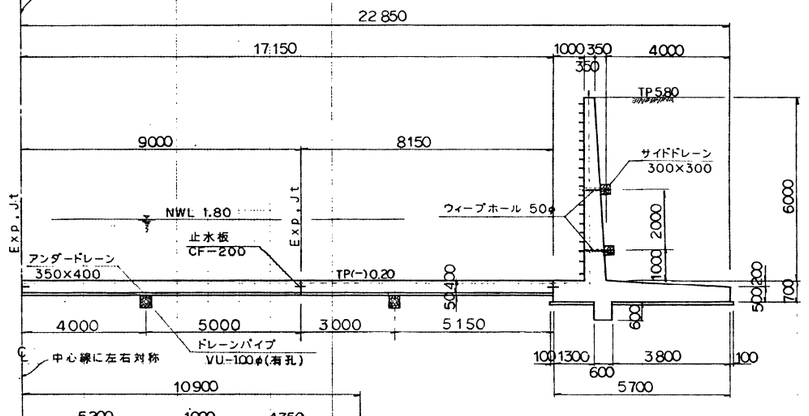
縦断図 S=1:100



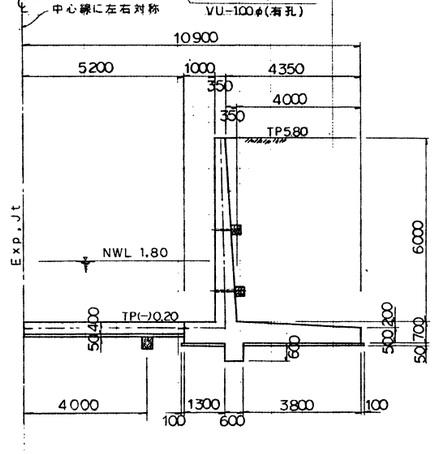
A−A S=1:100



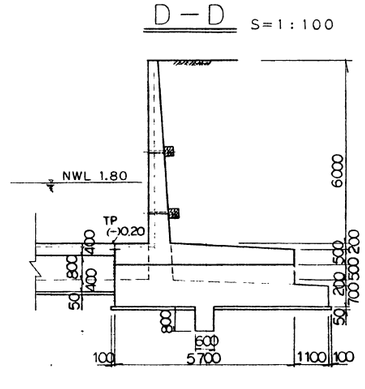
B−B S=1:100



C−C S=1:100

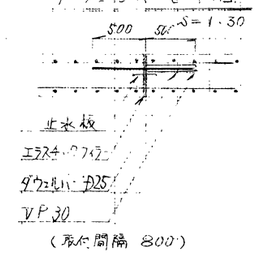


D−D S=1:100



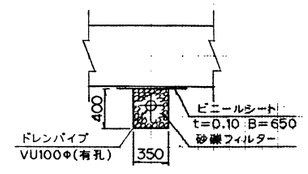
凡例
----- ダウエル

ダウエルバー詳細図



(取付間隔 800)

アンダードレーン詳細図 S=1:3.0

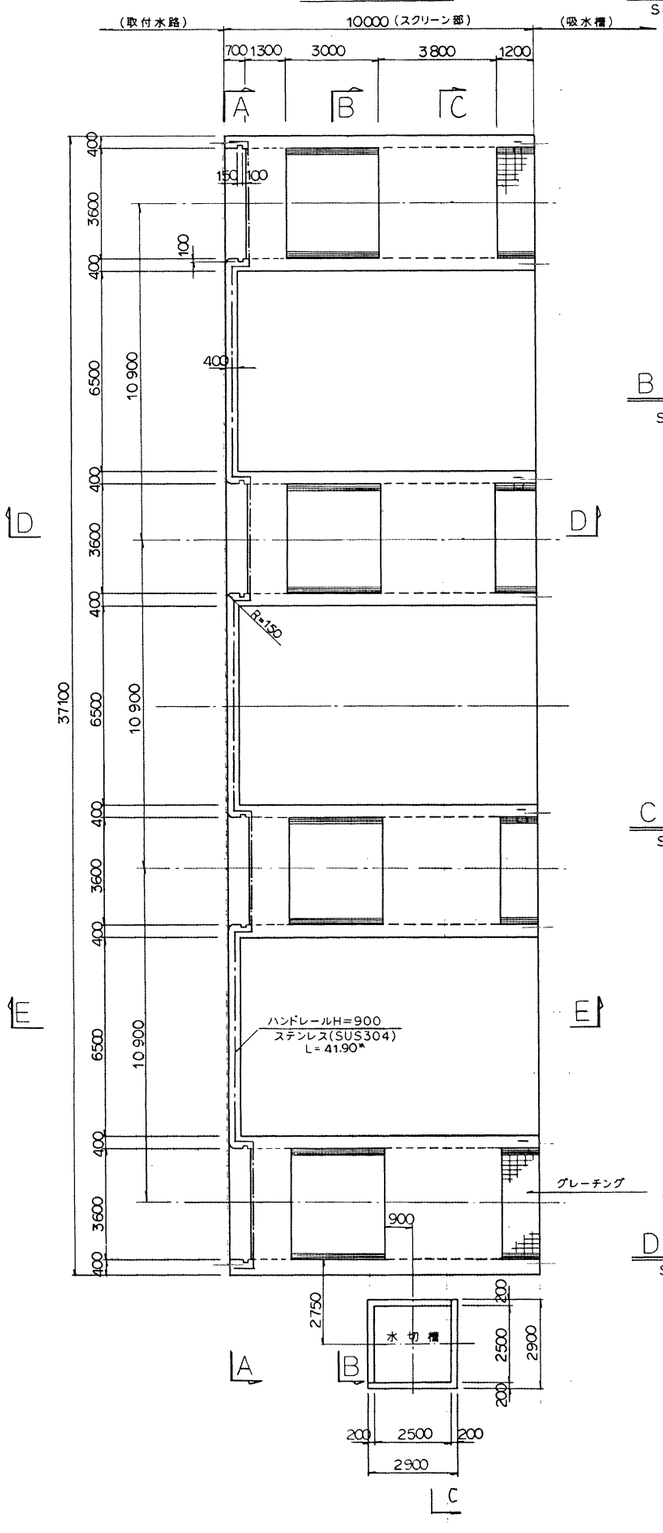


注 意 事 項
(1) 鉄筋コンクリートの設計基準強度は $\sigma_{28}=210^{Kg/cm^2}$
(2) 鉄筋の規格はSD 295A
(3) 鉄筋の重ね継手長は30-D以上

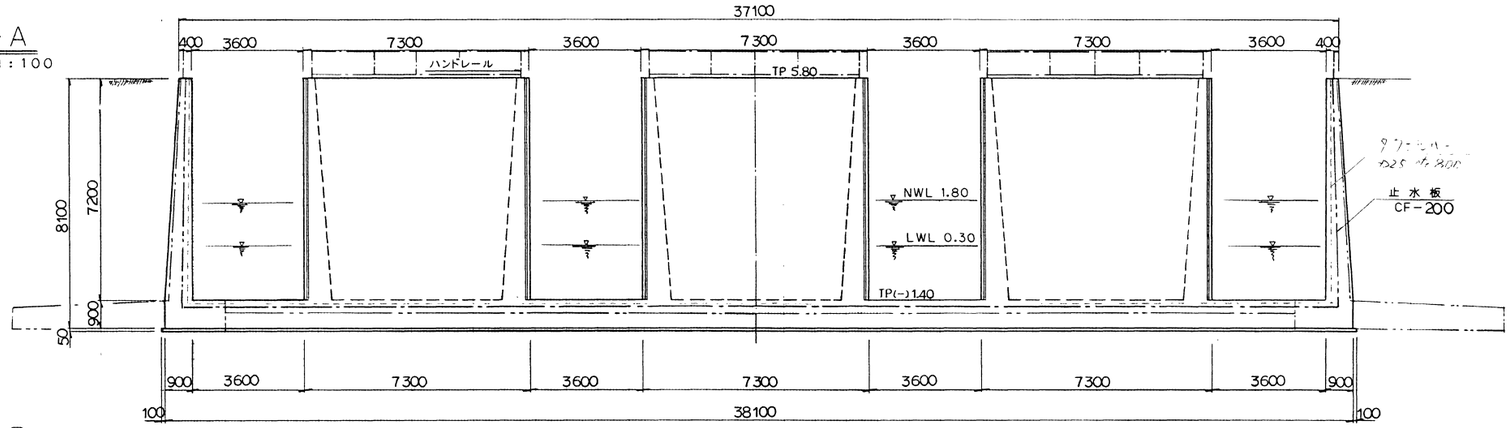
施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	取付水路工		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 1:100 A2 1:141	図面番号	8-20/319
作成者	関東農政局 両総農業水利事業所		

スクリーン部工

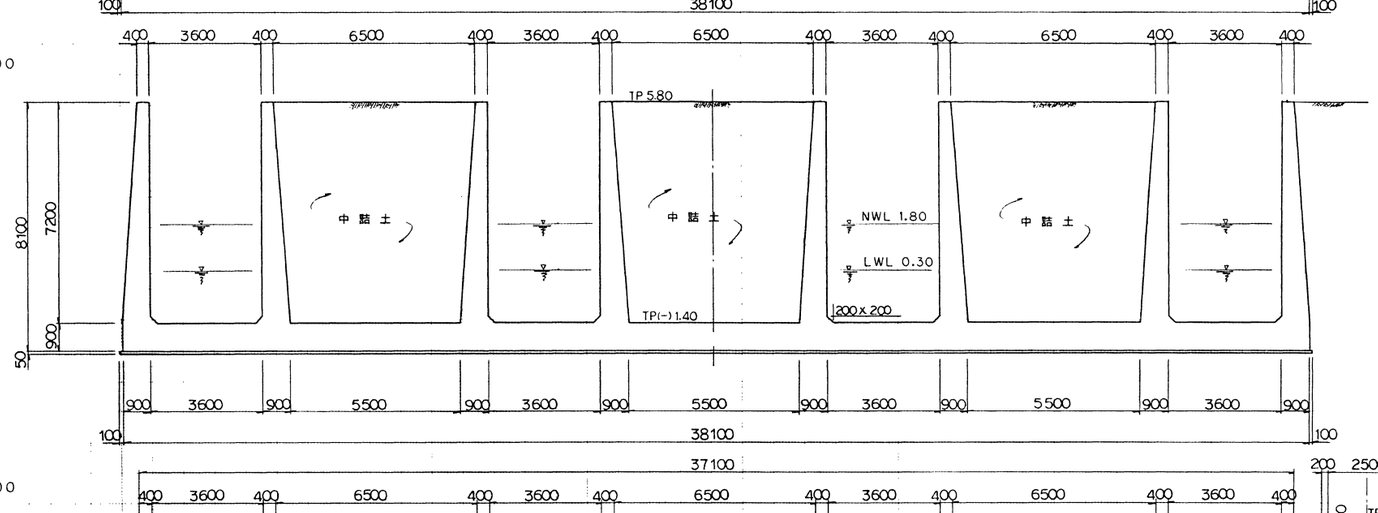
平面図 S=1:100



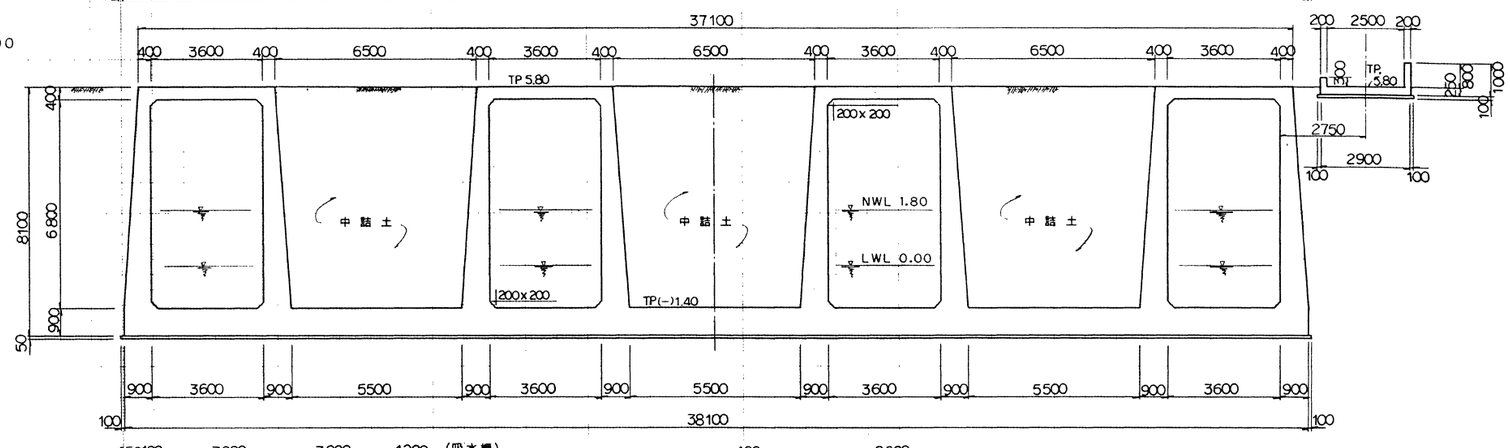
A－A S=1:100



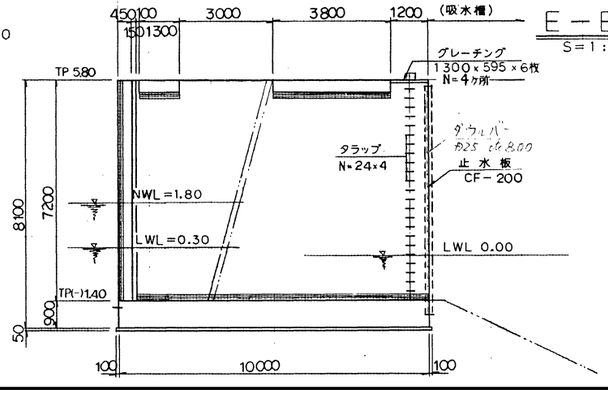
B－B S=1:100



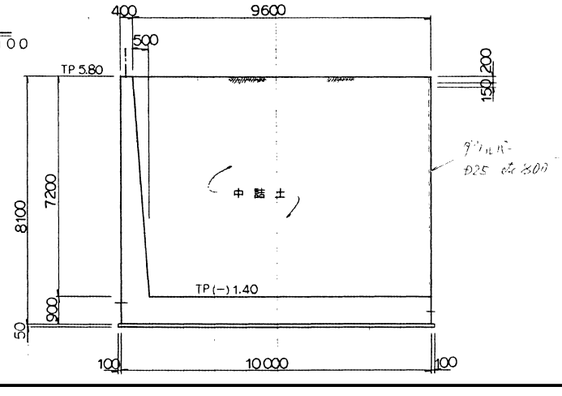
C－C S=1:100



D－D S=1:100



E－E S=1:100

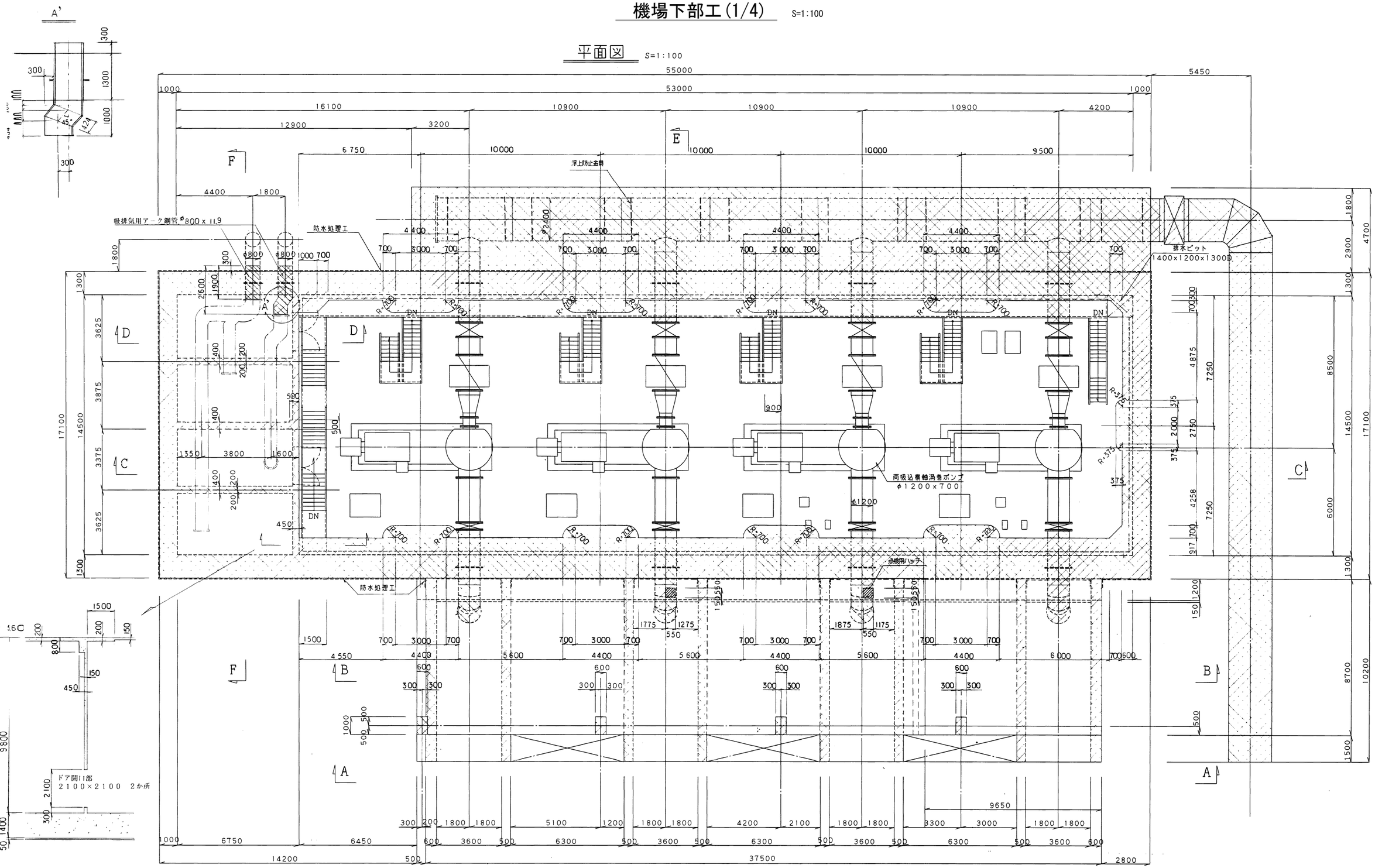


注 意 事 項
(1) 鉄筋コンクリートの設計基準強度は
$\sigma_{ce}=210^{Kg/cm^2}$
(2) 鉄筋の規格はSD 295A
(3) 鉄筋の重ね継手長は30-D以上

施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	スクリーン部工		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 1:100 A2 1:141	図面番号	8-21/319
作成者	関東農政局 両総農業水利事業所		

機場下部工(1/4)　S=1:100

平面図　S=1:100



注）▨：対象範囲

注意事項

コンクリートの規格は次のとおりとする

均しコンクリート　σ28＝160kg／cm²
（160－8－25）

鉄筋コンクリート　σ28＝210kg／cm²
（210－12－25）

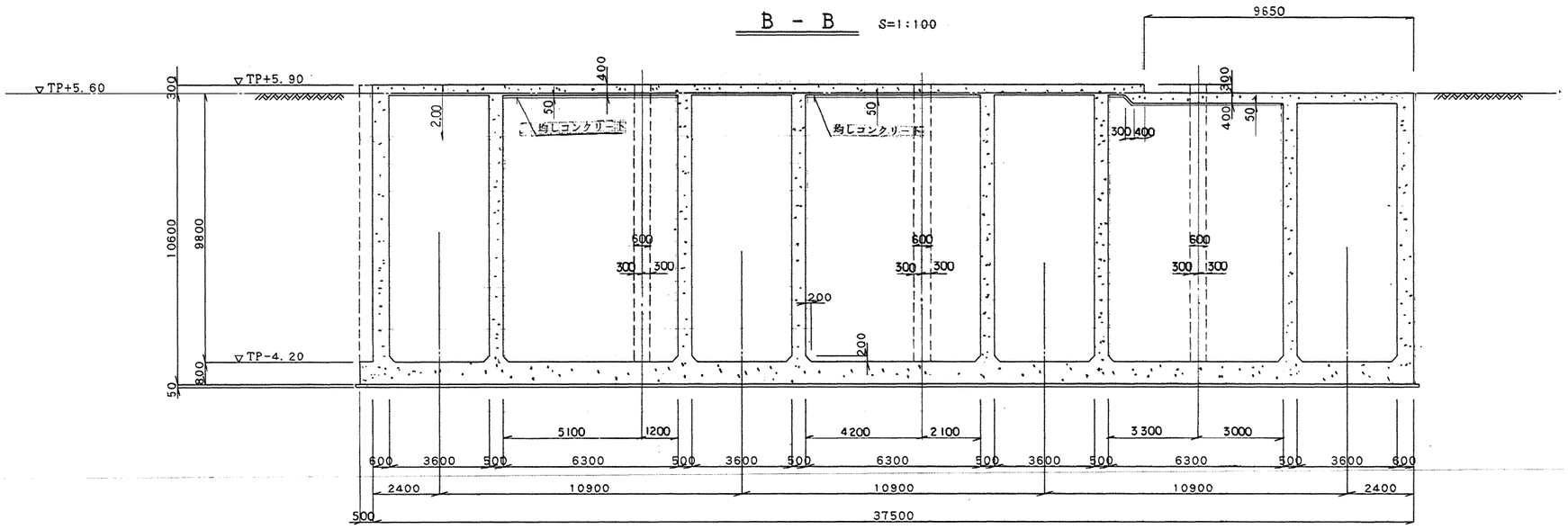
施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	機場下部工(1/4)		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 1:100 A2 1:141	図面番号	8-22/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所		

機場下部工(2/4)　S=1:100

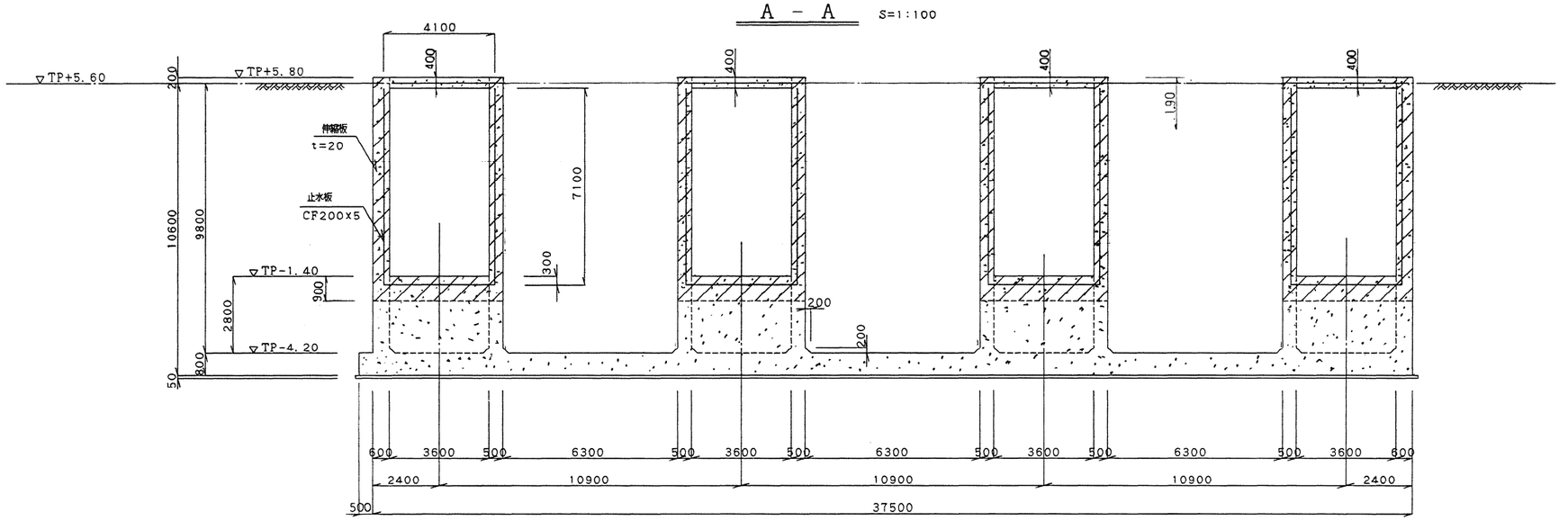
断面図

GL±0=TP+5.60

B - B　S=1:100



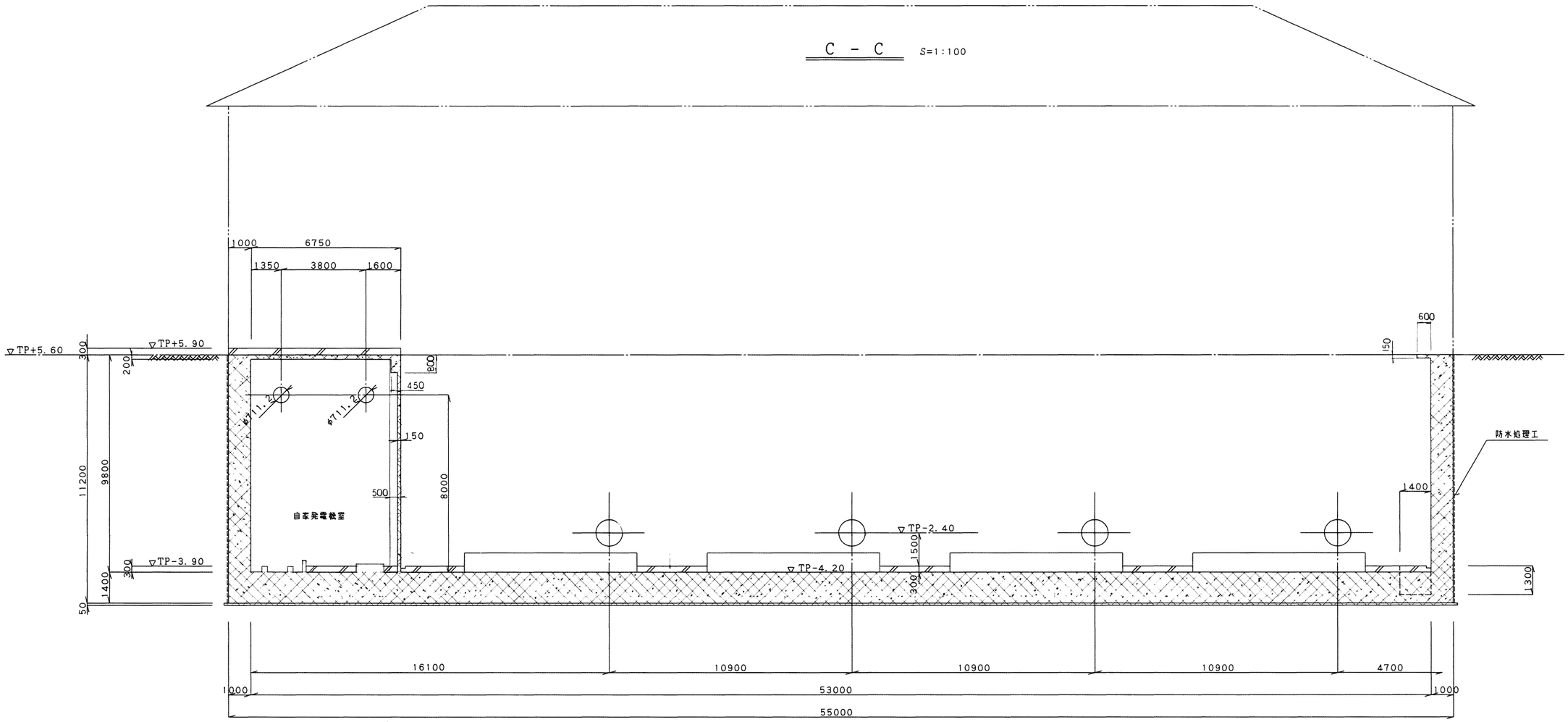
A - A　S=1:100



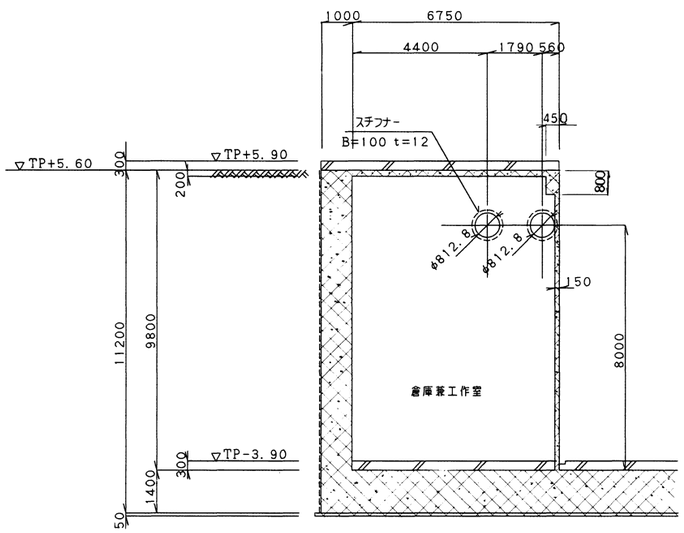
施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	機場下部工(2/4)		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 1:100 A2 1:141	図面番号	8-23/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所		

機場下部工(3/4)　S=1:100

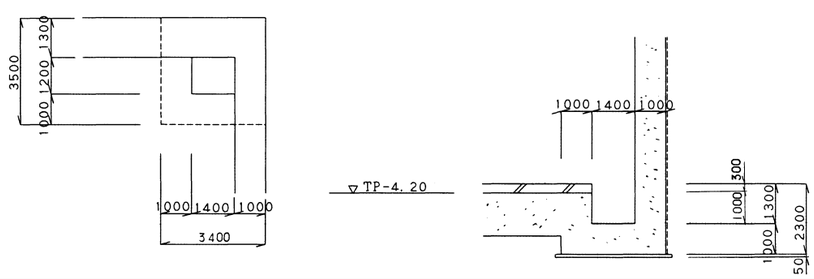
C - C　S=1:100



D - D　S=1:100



排水ピット　S=1:100

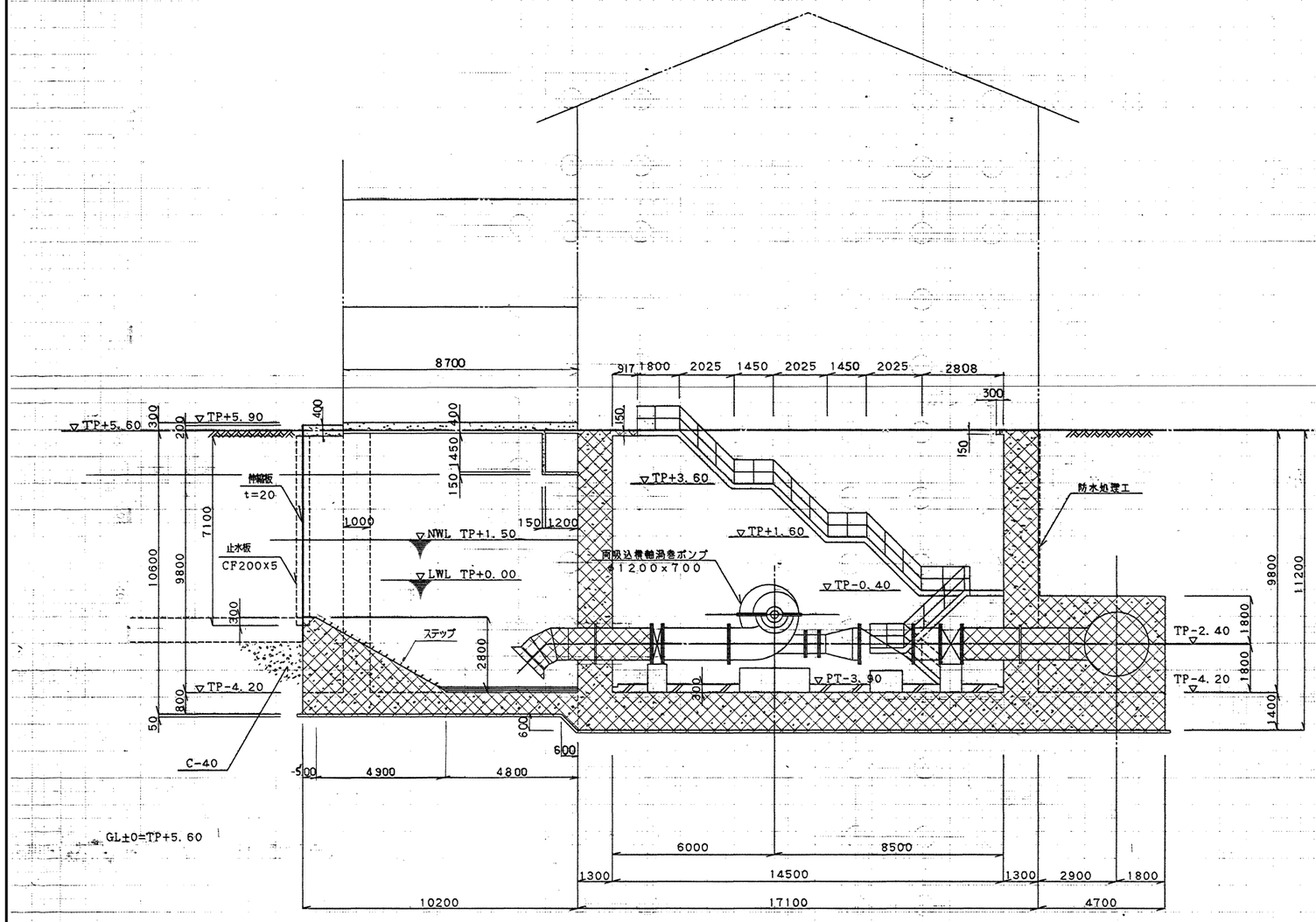


注）▨：対象範囲

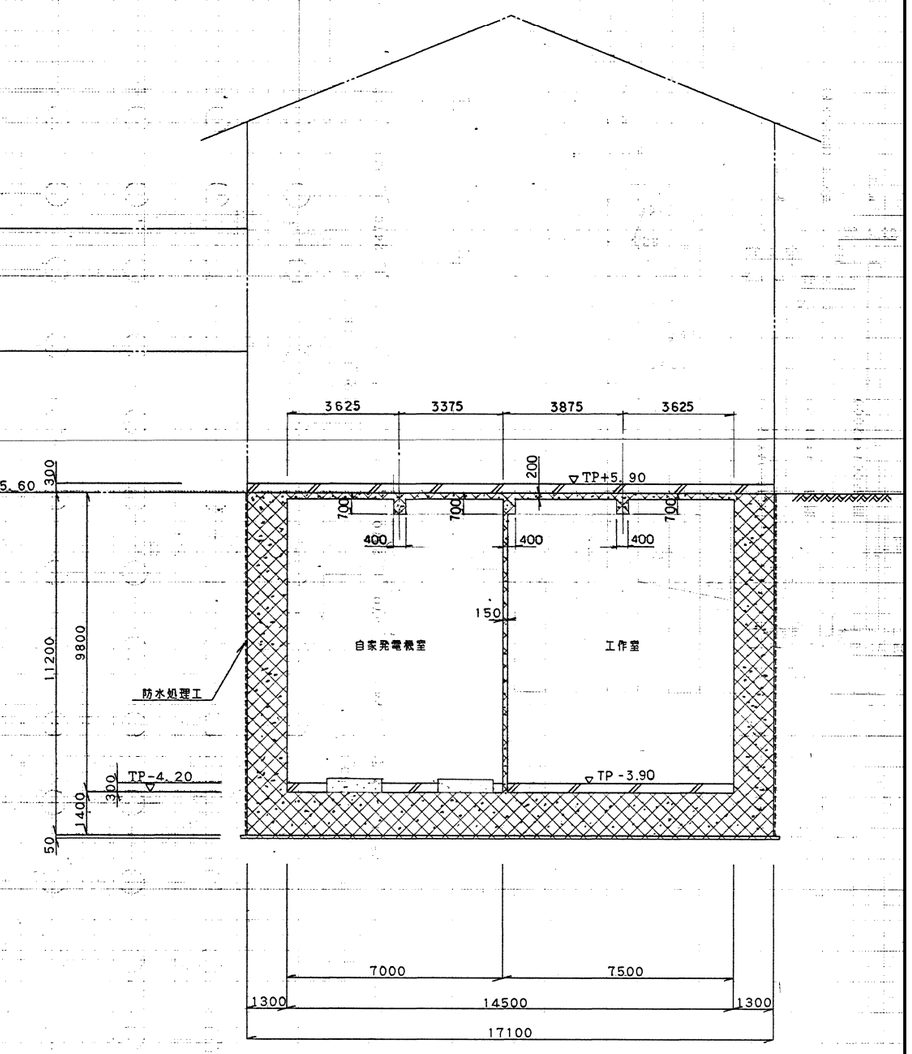
施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	機場下部工(3/4)		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 1:100 A2 1:141	図面番号	8-24/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所		

機場下部工(4/4)　S=1:100

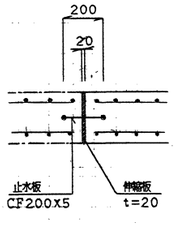
E - E　S=1:100



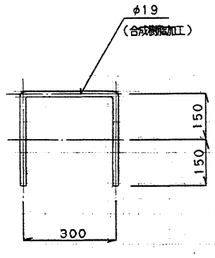
F - F　S=1:100



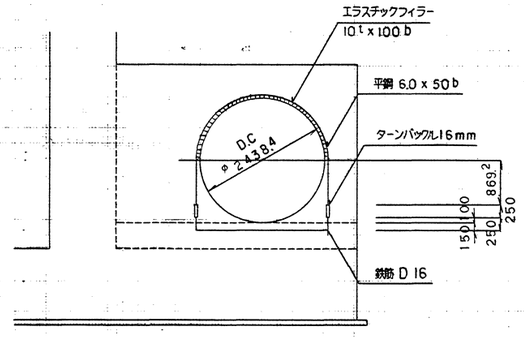
伸縮継目



ステップ



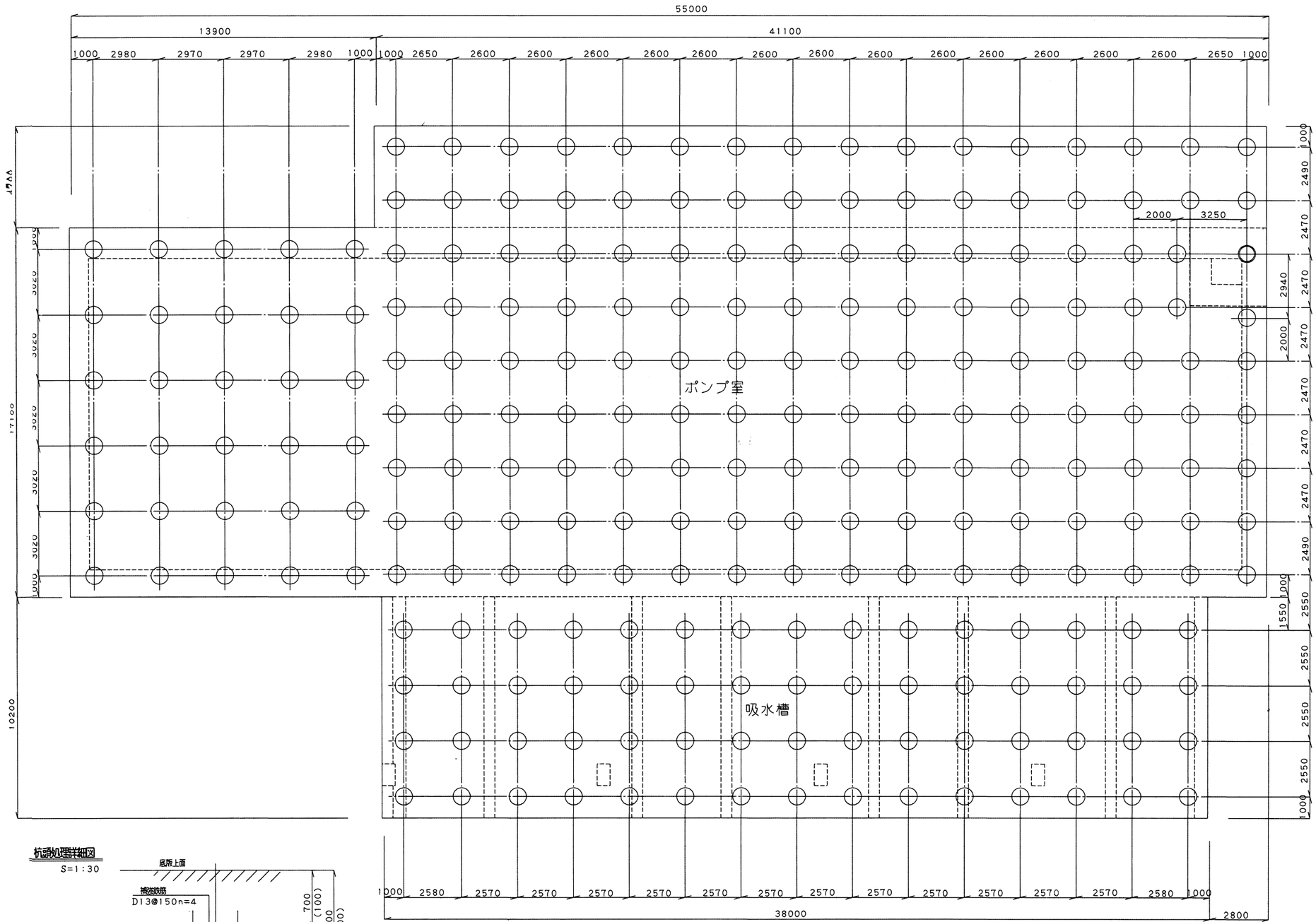
浮上金具防止

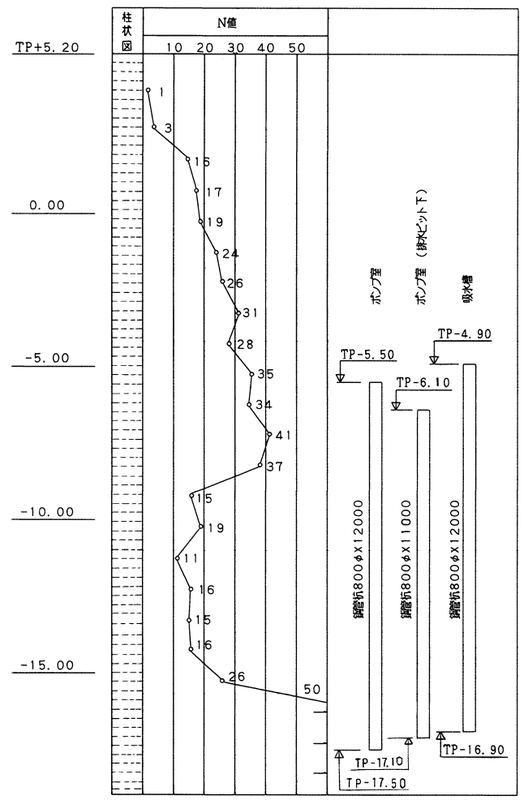


注) ▨: 対象範囲

施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	機場下部工(4/4)		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 1:100 A2 1:141	図面番号	8-25/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所		

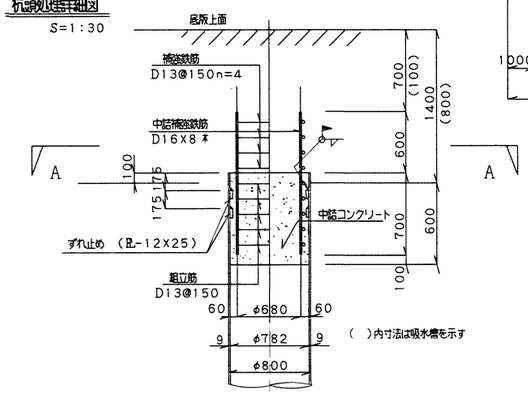
機場下部基礎杭配置図　S=1:100



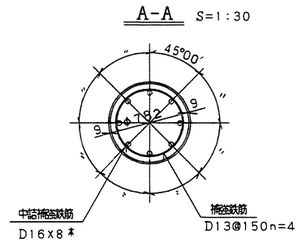


杭頭処理詳細図

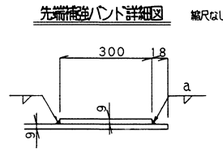
S=1:30



A-A　S=1:30



先端補強バンド詳細図　縮尺なし



溶接は、すみ肉溶接によるものとし
脚長 a は6mm以上とする

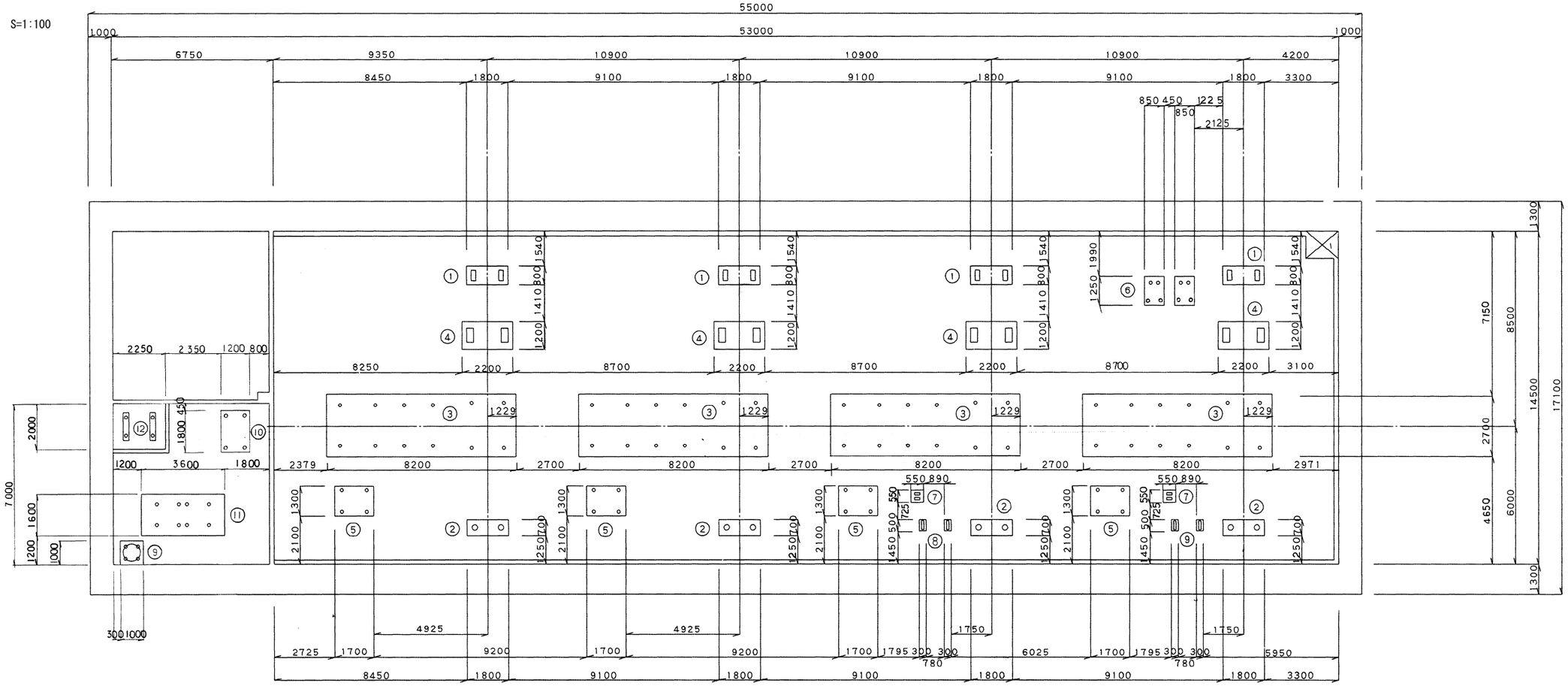
杭諸元

施工場所	記号	杭種	杭径	杭長(m)	本数(本)	適用
ポンプ室	○	鋼管杭	800 t=9	12.00	173	
	◎	鋼管杭	800 t=9	11.00	1	
吸水槽	○	鋼管杭	800 t=9	12.00	60	

施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	機場下部基礎杭配置図		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 1:100 A2 1:141	図面番号	8-26/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所		

機械基礎工

S=1:100



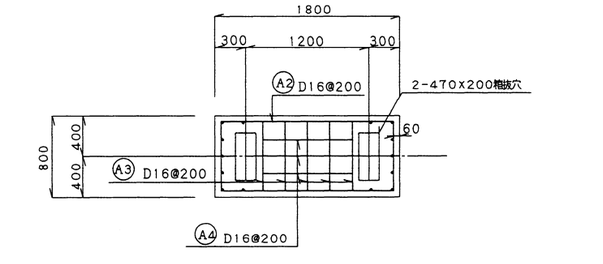
基礎図

S=1:100

① 電動蝶形弁基礎
② 手動蝶形弁基礎
③ φ１２００Ｘ７００両吸込横軸渦巻ポンプ基礎
④ 逆止弁基礎
⑤ 液体抵抗器基礎
⑥ 原水取水ポンプ基礎
⑦ 循液ポンプ基礎
⑧ 冷却器基礎
⑨ 消音器基礎
⑩ 制御盤基礎
⑪ 発電機基礎
⑫ 燃料槽基礎

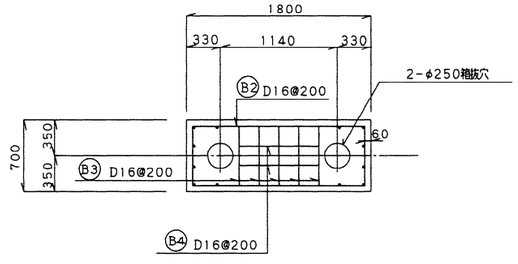
電動蝶形弁基礎詳細図

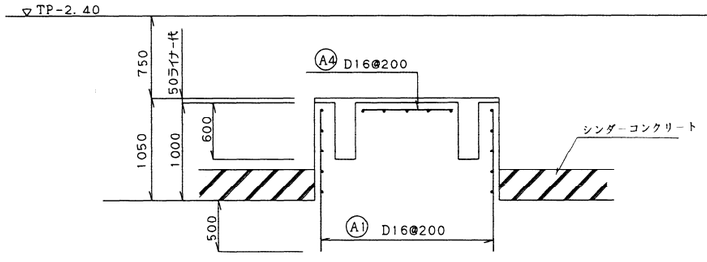
S=1:30

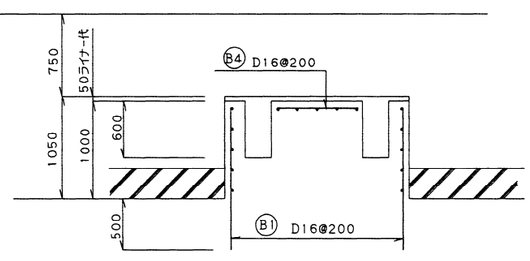


手動蝶形弁基礎詳細図

S=1:30







注意事項

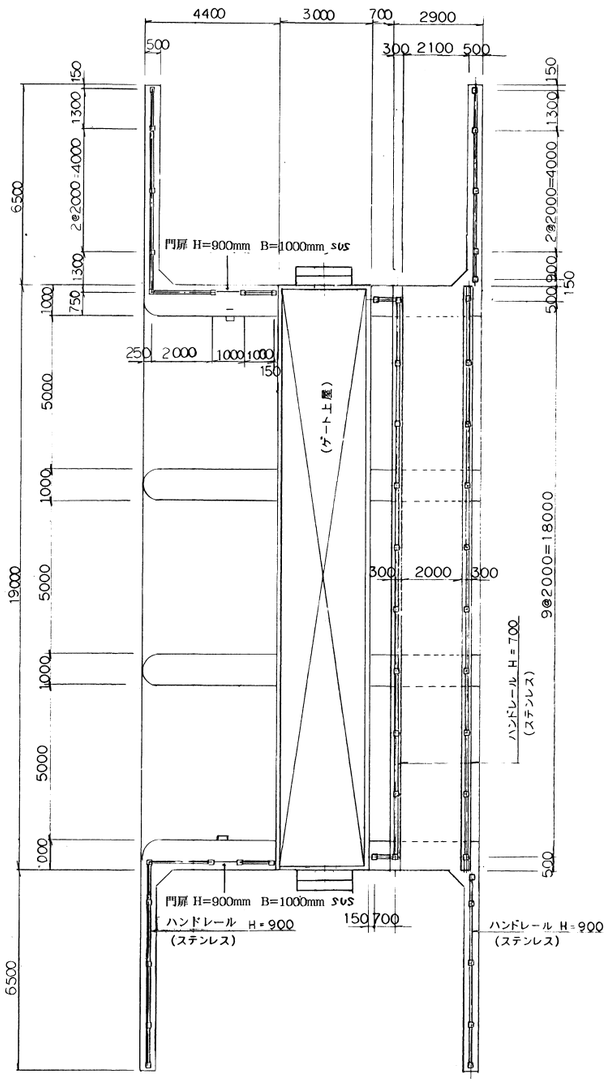
（１）鉄筋コンクリートの設計基準強度は
$\sigma 28 = 210 kg/cm^2$
（２）鉄筋の規格は$SD295A$
（３）鉄筋の重ね継手長さは３０．D以上

施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	機械基礎工		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 1:100 A2 1:141	図面番号	8-27/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所		

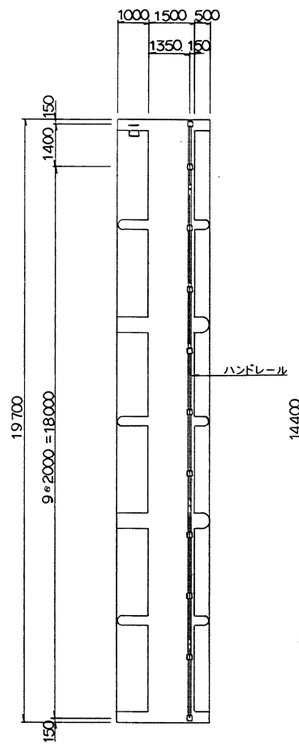
ハンドレール・ガードレール配置図　S=1:100

ハンドレール
（ステンレス SUS304）
ガードレール
（Gr−Ck−2P）

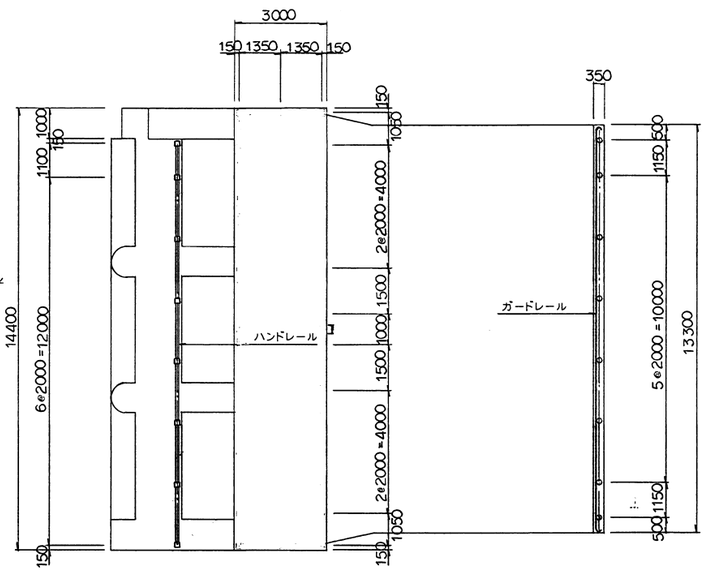
洪水防止用ゲート部



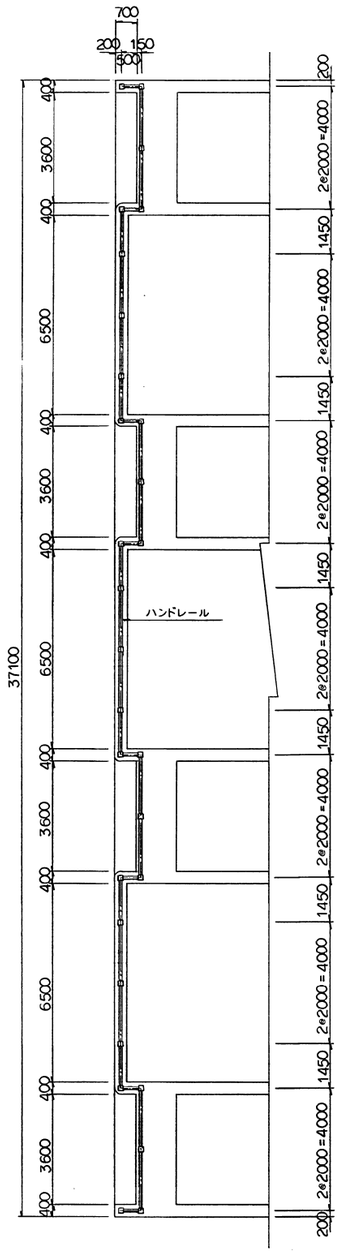
角落部



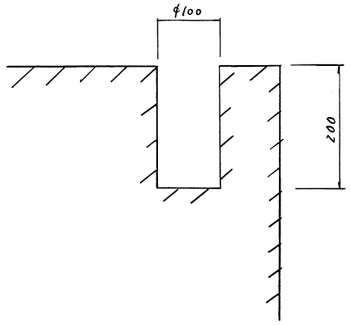
樋門ゲート部



スクリーン部



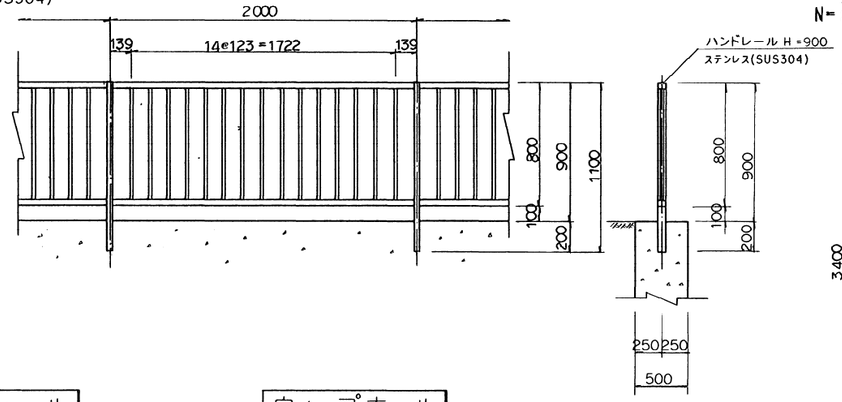
箱抜標準断面図　S=1/50



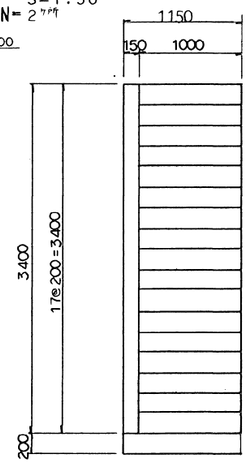
施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	ハンドレール・ガードレール配置図		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 1:100 A2 1:141	図面番号	8-28/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所		

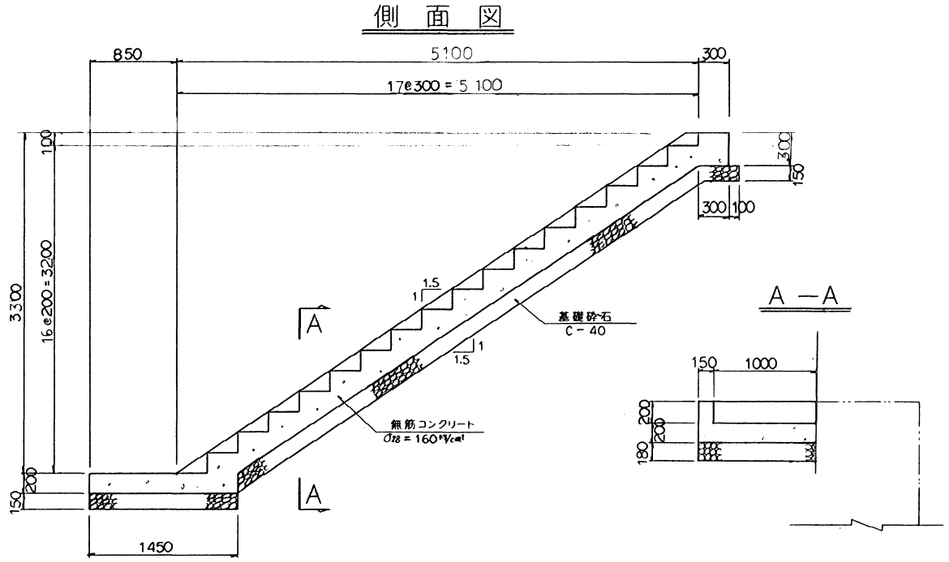
各種詳細図

ハンドレール S=1:20
ステンレス(SUS304)
（翼壁部）

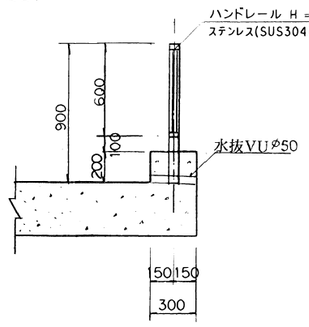


階段工 S=1:30
N= 2 ヶ所

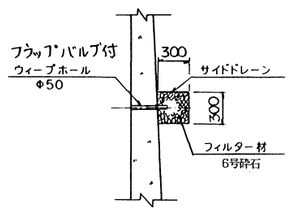




ハンドレール S=1:20
ステンレス(SUS304)
（管理橋部）

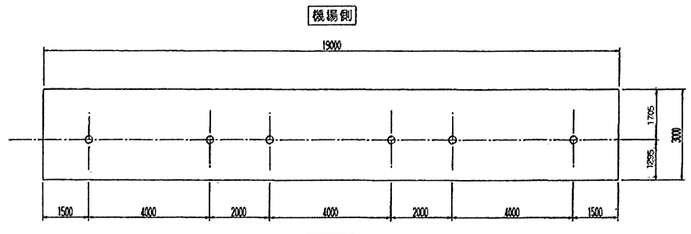


ウィープホール S=1:30



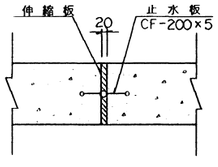
グレーチング受枠詳細図 S=1:5

ゲート吊孔位置

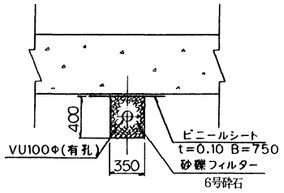


◯ 吊孔D=250㎜VU管L=500㎜

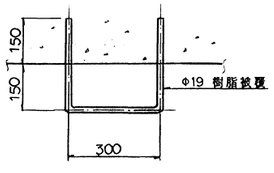
伸縮継目 Exp.Jt
縮尺なし



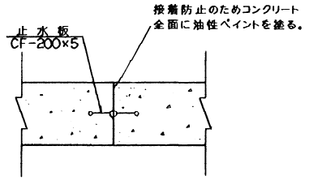
アンダードレーン S=1:30



ステップ S=1:10



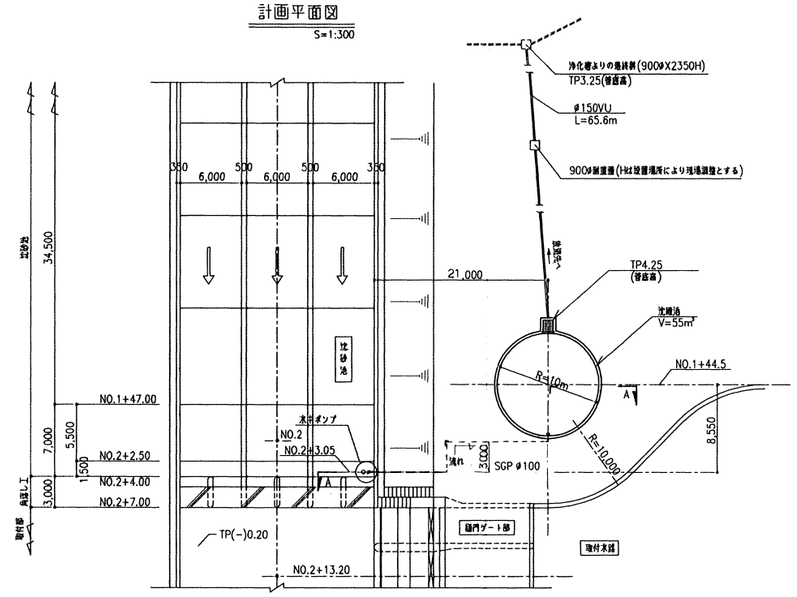
収縮継目 Cont.Jt
縮尺なし



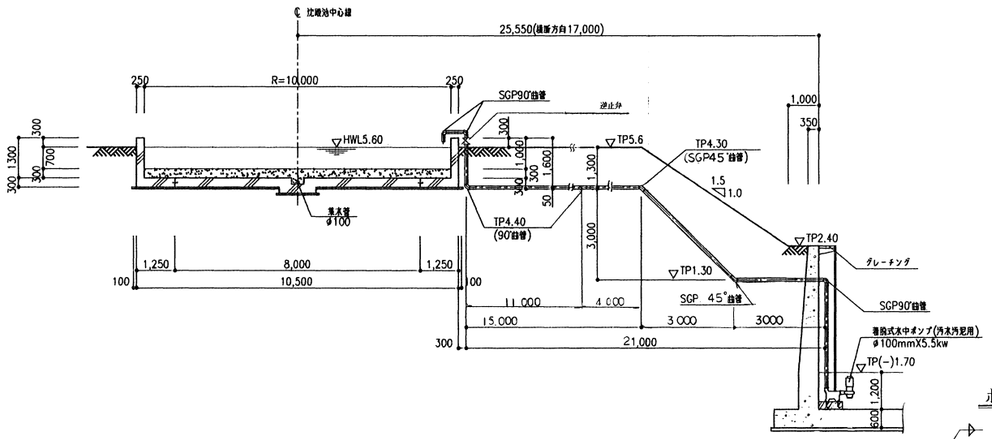
施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	各種詳細図		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 図示	図面番号	8-29/319
作成者	関東農政局 両総農業水利事業所		

沈殿池工

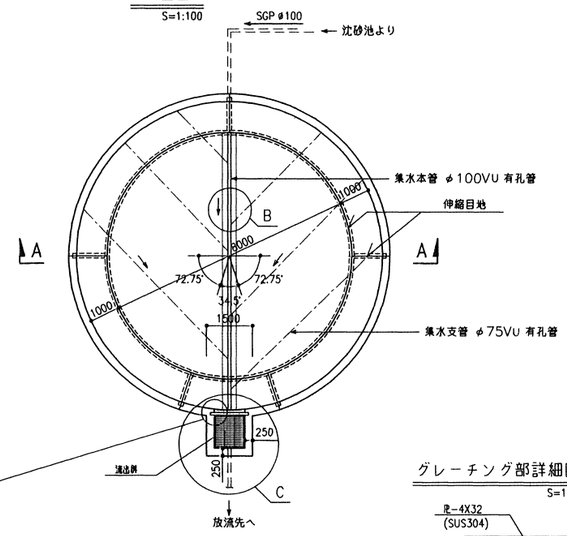
計画平面図
S=1:300



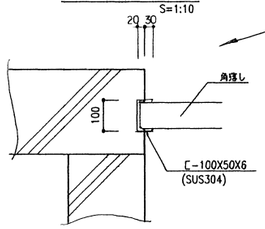
A−A計画断面図
S=1:100



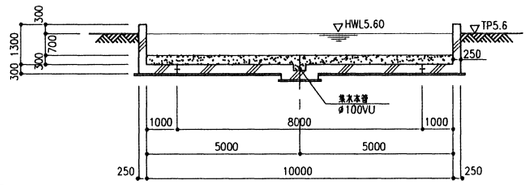
平面図
S=1:100



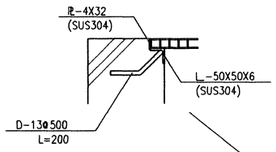
角落し部詳細図
S=1:10



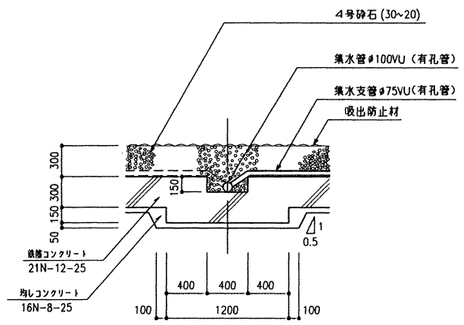
A−A 断面図
S=1:100



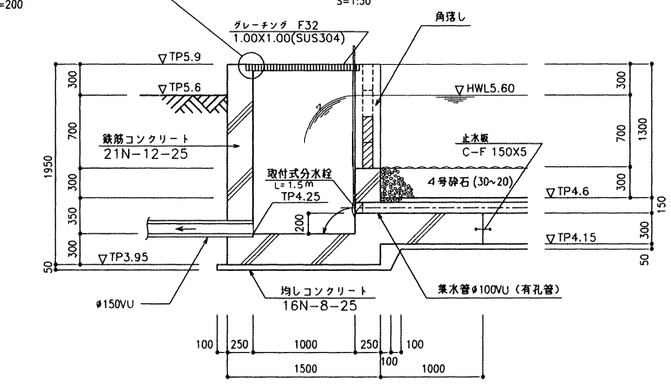
グレーチング部詳細図
S=1:10



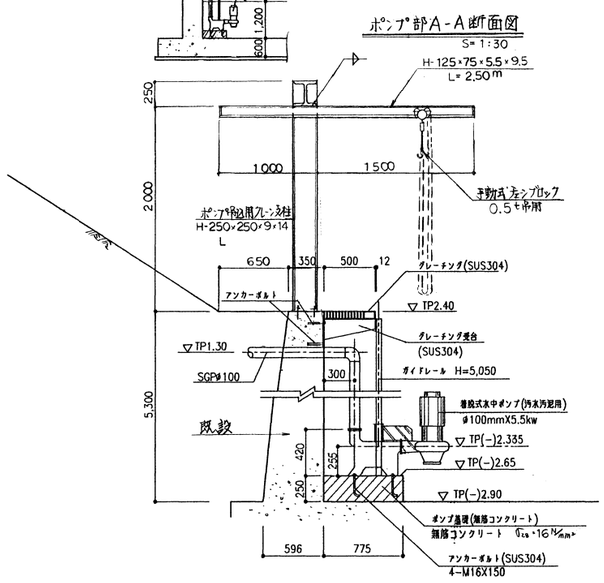
B 部詳細図
S=1:30



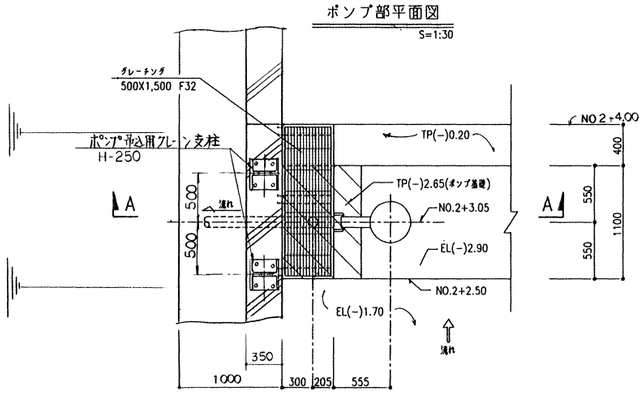
C 部詳細図
S=1:30



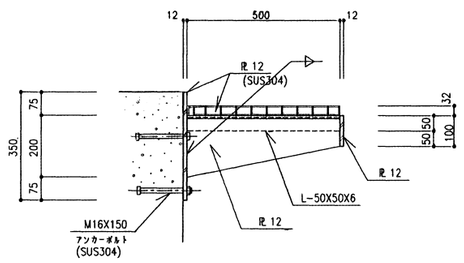
ポンプ部A-A断面図
S=1:30

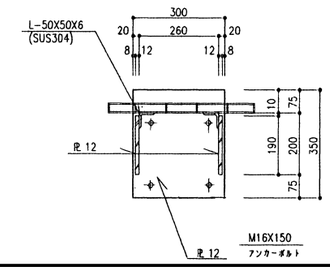


ポンプ部平面図
S=1:30

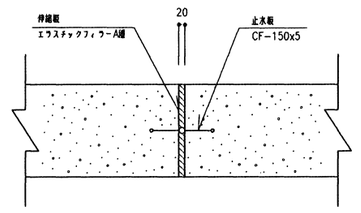


グレーチング受台詳細図(3ヶ所)
S=1:10





伸縮目地詳細図
S=1:10

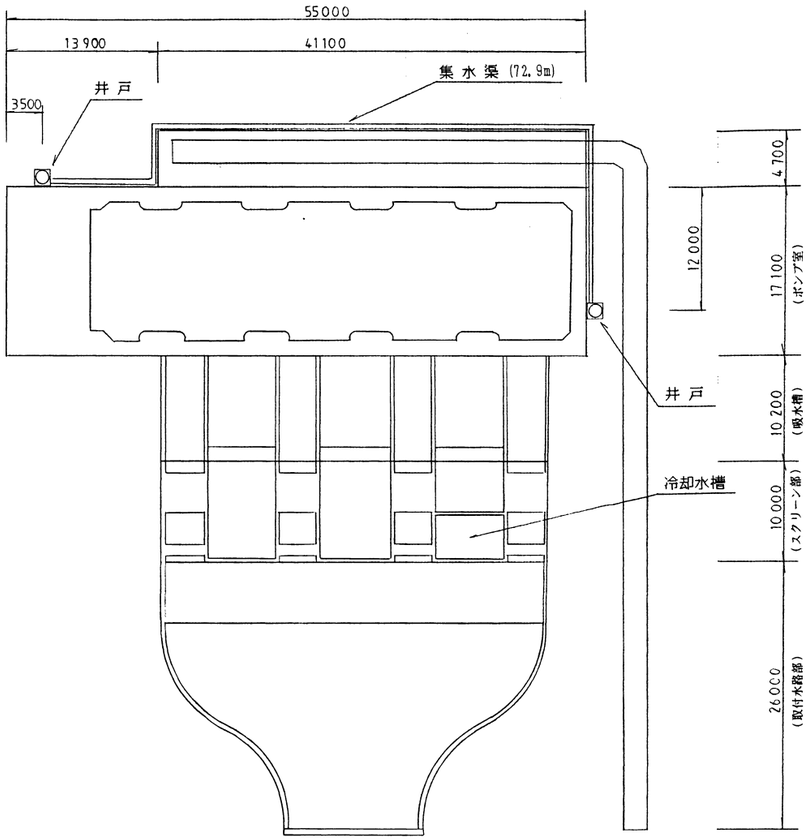


注) コンクリート
均しコンクリート　16N−8−25
無筋コンクリート　18N−12−40
鉄筋コンクリート　21N−12−25

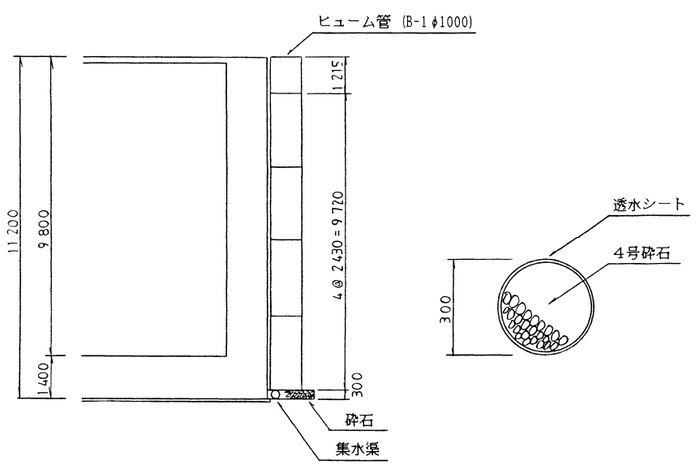
施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	沈殿池工		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 図示	図面番号	8-30/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所		

付帯工

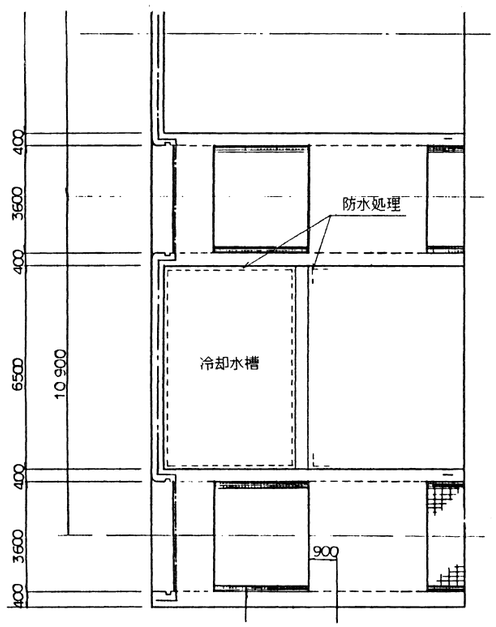
一般平面図　S = 1／300



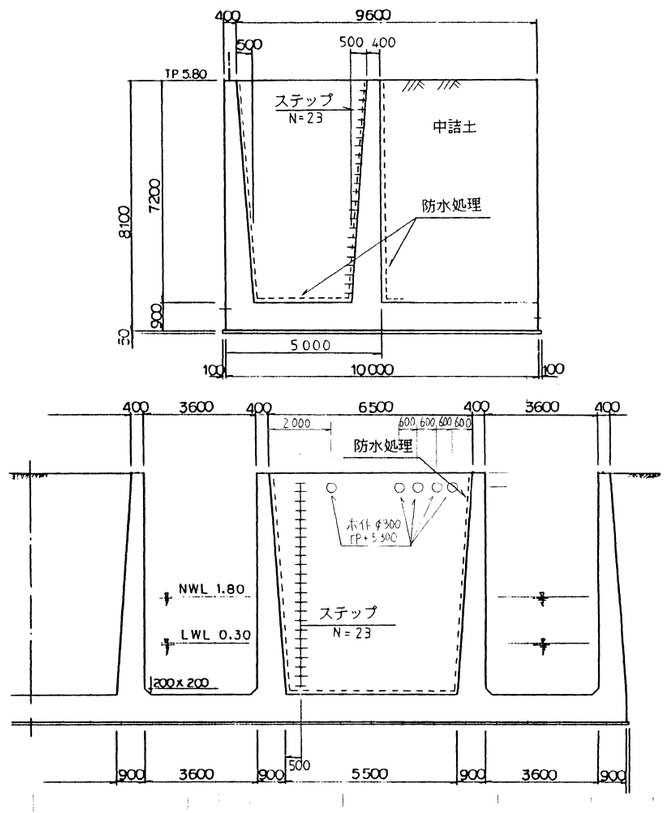
井戸・集水渠　S = 1／100



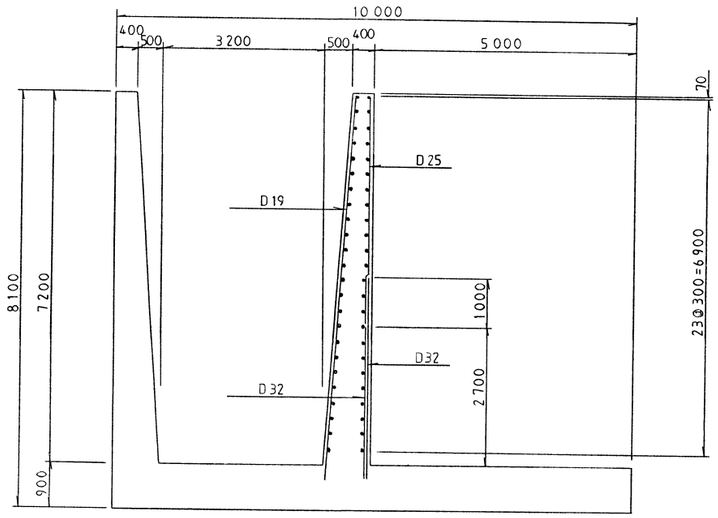
平面図　S = 1/100

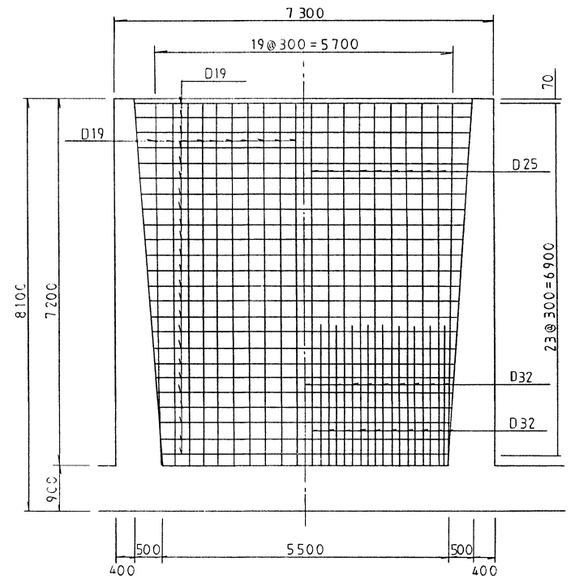


断面図　S = 1/100



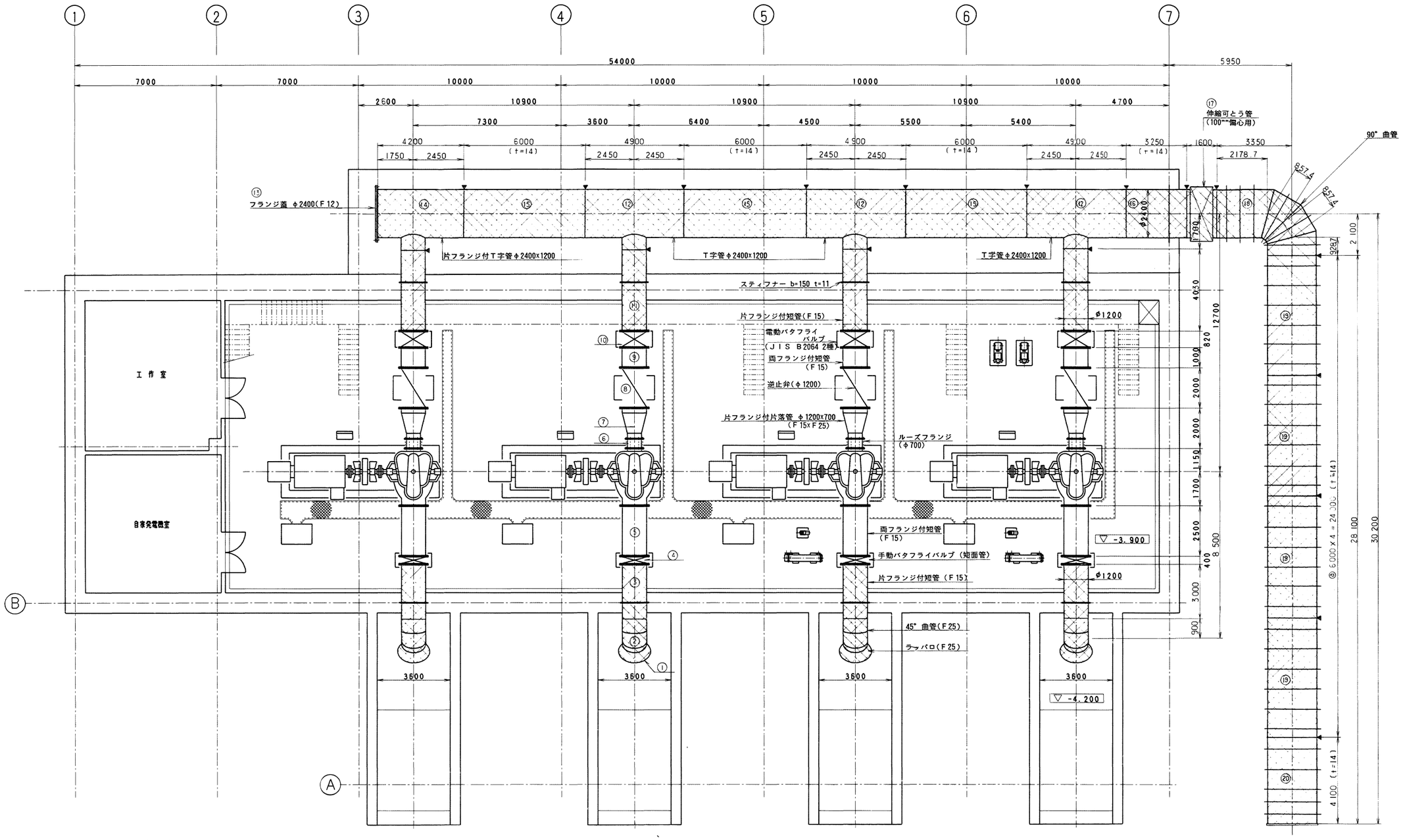
配筋図　S = 1/60





施設名	第2揚水機場 (0312100-1100-19)		
図面名	付帯工		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 図示	図面番号	8-31/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所		

機場部配管図(1/2)　S=1:100



材料表

番号	名称	数量	材料	備考
①	φ1200　ラッパ口	4	F25	
②	φ1200　45° 曲管	4	F25	
③	φ1200×9.0×3000ℓ　1F短管	4	STW400, F15	スティフナー付
④	φ1200　バタフライバルブ（短面間）	4		手動
⑤	φ1200×9.0×2500ℓ　2F短管	4	STW400, F15	
⑥	φ 700　ルーズフランジ	4		
⑦	φ1200×700　1F短管	4	F15, F25	

番号	名称	数量	材料	備考
⑧	φ1200　逆止弁	4		
⑨	φ1200×9×1000ℓ　2F短管	4	F15	
⑩	φ1200　バタフライバルブ	4	JIS B 2064	2種、電動
⑪	φ1200×9×4030ℓ　1F短管	4	STW400, F15	スティフナー付
⑫	φ2400×14×φ1200×9　T字管	3	STW400	4,900・1,700
⑬	φ2400　フランジ蓋	1	F12	
⑭	φ2400×14×φ1200×9　1F　T字管	1	STW400, F12	4,200・1,700

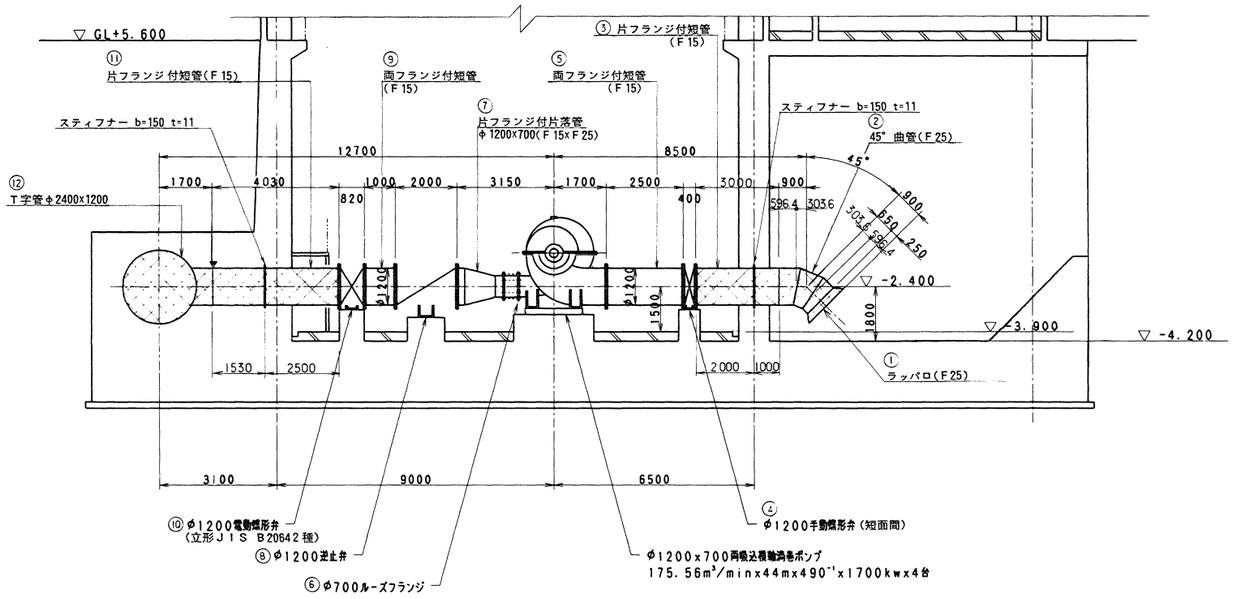
番号	名称	数量	材料	備考
⑮	φ2400×14×6000ℓ　直管	3	STW400	
⑯	φ2400×14×3250ℓ　直管	1	SS400	補剛材（SM490）
⑰	φ2400×1600ℓ　伸縮可とう管(100mm偏心)	1		
⑱	φ2400×14　90° 曲管	1	SS400	補剛材（SM490）
⑲	φ2400×14×6000ℓ　直管	4	SS400	補剛材（SM490）
⑳	φ2400×14×4100ℓ　直管	1	SS400	補剛材（SM490）

注－1　特記なき材質は、STW400
注－2　▲印は、現地溶接箇所
注－3　塗装仕様は、図12に示す。

対象範囲

施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	機場部配管図(1/2)		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 1:100 A2 1:141	図面番号	8-32/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所		

機場部配管図(2/2) S=1:100

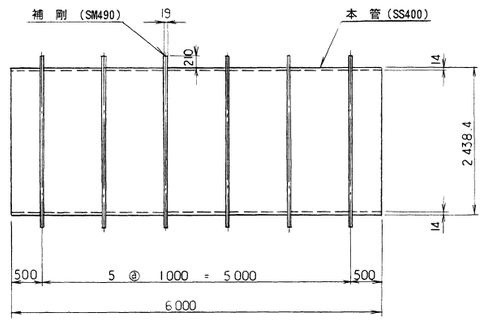


側 面 図 S=1 : 100

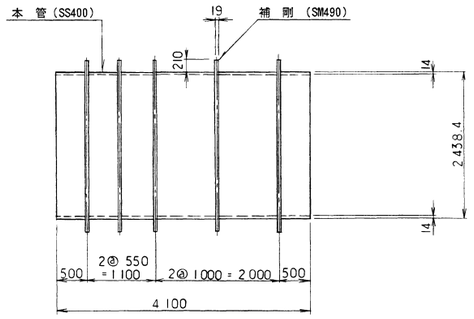
補剛付直管 S=1:50

(参考)

詳 細 A

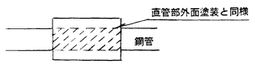


詳 細 B



塗装仕様

1. 直管部：内面 タールエポキシ樹脂塗装 膜厚 0.5mm
   塗装方法JWWAK115−1989
   外面 アスファルトビニロンクロス1回塗1回巻二重巻
   最小厚 3.5mm
   塗装方法JISG3491−1977
2. 曲管部：内面 タールエポキシ樹脂塗装 膜厚 0.5mm
   塗装方法JWWAK115−1989
   外面 アスファルトビニロンクロス2回塗1回巻二重巻
   最小厚 5.0mm
   塗装方法JISG3491−1977
3. コンクリートに包まれる鋼管の塗装
   コンクリートに包まれる鋼管の外面塗装部は腐食防止を考慮し全面とする。



注) ▨ : 対象範囲

注−1 特記なき材質は、STM400
注−2 ▲印は、現地溶接箇所

施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	機場部配管図(2/2)		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 図示	図面番号	8-33/319
作成者	関東農政局 両総農業水利事業所		

施設配置図 S=1:300

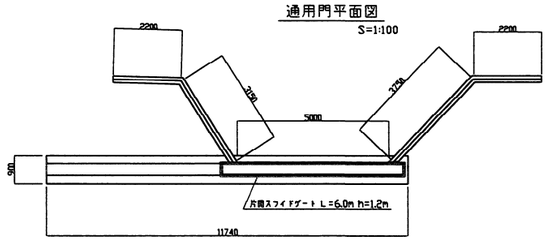
IP.1
IA=69-49-5
R=17.000
CL=26.650
TL=16.940
SL= 7.000

U型側溝 L=71.0m
コンクリート蓋 L=52.0m
グレーチング蓋 L=6.0m
L型擁壁 L=116.0m
グレーチング蓋 L=11.0m
U型側溝 L=12.0m
アスファルトカーブA型 L=93.0m
グレーチング蓋 L=11m
アスファルトカーブA型 L=46.0m
NO.1 +48.0
町道
フェンス コンクリート張 L=19.0m
資料倉庫
車庫
職員駐車場
スライドゲート W=6.0m
NO.1マンホール
排水管管底高=+4.40
+4.93
5000
4000
U形側溝 コンクリートふた付
雨総用水第2揚水機場
受電設備用建屋
グレーチング蓋
両開き門扉
H900, W2000
(H25年度)
マンホール嵩上げ
(調整ブロック)
(H25年度)
NO.2マンホール
32000
13000
大型用
駐車場
3250
3500
5000
7500
5000
9500
5000
R=2500
R=3400
8585
R6540
R6000
R6000
KBM
TP+5.888
+5.00
駐車場内
区画線
L=255.00m
(H25年度)
舗装オーバーレイ
(t=4cm)
A=1131.675㎡
(H25年度)
車止めブロック
N=16本
(H25年度)
VP φ125
I=1.0%
インターロッキング舗装
縦格子フェンス
(H900, L3000)
Σ L=13.78m
(H25年度)
転落危険個所
張りコンクリート
t=5cm, A=36.70㎡
(H25年度)
コンクリート張
コンクリート張
現場打集水桝
格納庫
フェンス (H900)
L=41.9m
吸水槽
自由勾配側溝
フェンス コンクリート張 L=50.9m
フェンス (H900)
L=76.0m
既製品集水桝
グレーチング蓋
1500
L=45.5m
歩道
L=48.7m
集水桝
グレーチング蓋
沈殿池
メッシュフェンス扉 W=4.0m
監視カメラ
照明付き
4000
インターロッキング舗装
(隅切部)
4050
コンクリート蓋
L=7.8m
両開スライド式ゲート W=10.0m
3500
3500
マンホール嵩上げ
(調整ブロック)
(H25年度)
NO.3マンホール
フェンス
アスファルト舗装
コンクリート張 L=66.5m
メッシュフェンス扉 W=4.0m
VP φ150
NO.0
5913
10000
グレーチング蓋
L=6.0m
4500
1.5%
2.39%
4180
4250
2480
NO.0+9.00
管理用道路
重止め
アスファルト舗装
ガードパイプH=1.2m
L=17、0m
ガードパイプ H=1.2m L=48.0m
ガードパイプ門扉
W=1.2m
ガードパイプ門扉
W=1、0m
ガードパイプ H=1.2m L=37.5m
17.000
中2橋
ガードパイプH=1、2m
L=30、0m
ガードパイプ H=1.2m L=107.8m
NO.1

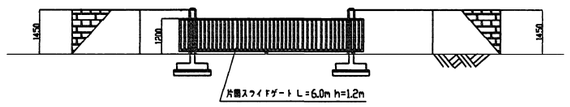
施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	施設配置図		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 1:300 A2 1:424	図面番号	8-34/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所		

門扉・フェンスエ(1/2)

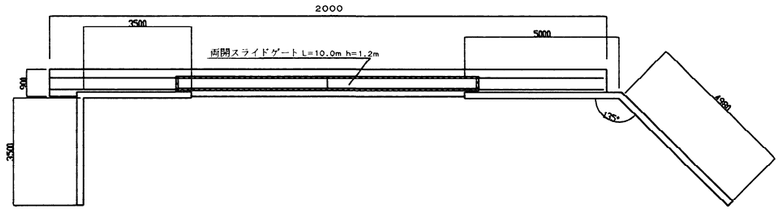
通用門平面図
S=1:100



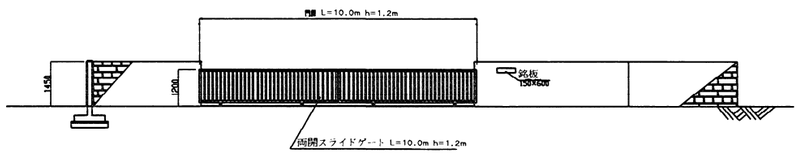
通用門正面図



正門工平面図
S=1:100

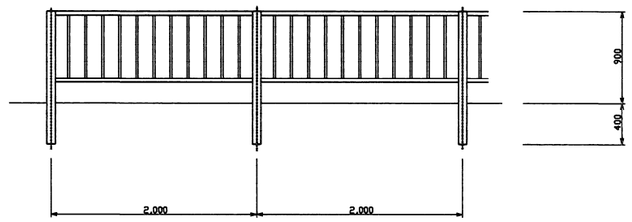


正門工正面図

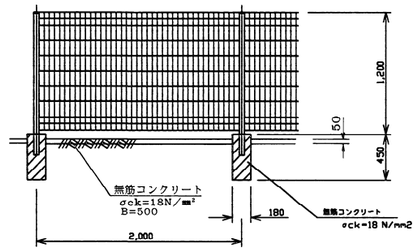


*銘板は「両総第2揚水機場」とする。

吸水槽周辺フェンス標準図
S=1:30

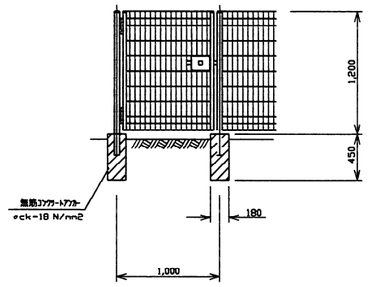


メッシュフェンス標準図
S=1:30

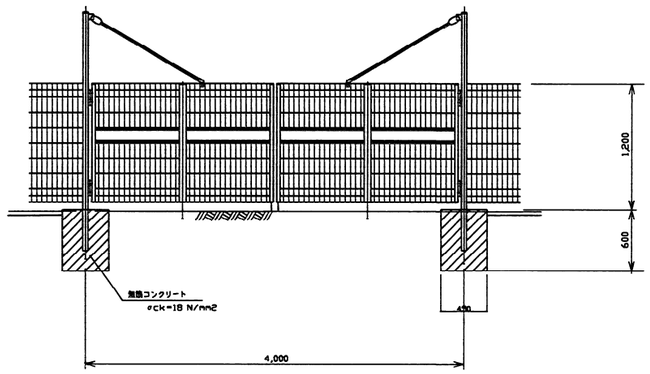


*フェンス下コンクリート幅はフェンスを中心に500㎜とする。

メッシュフェンス扉標準図
S=1:30

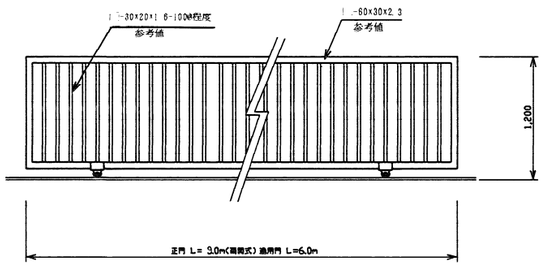


メッシュフェンス扉標準図
S=1:30

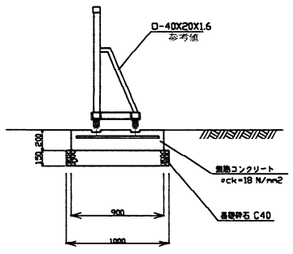


門扉工標準図
S=1:30

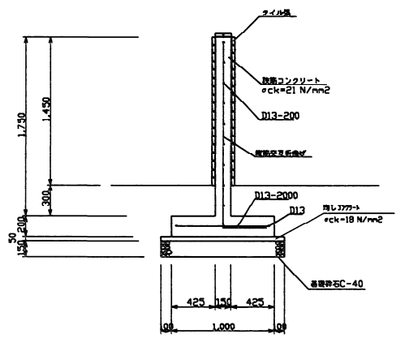
正面図



断面図



門壁工標準断面図
S=1:30

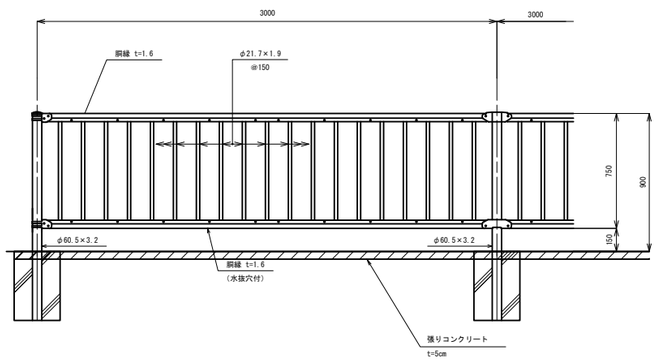


施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	門扉・フェンスエ(1/2)		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 図示	図面番号	8-35/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所		

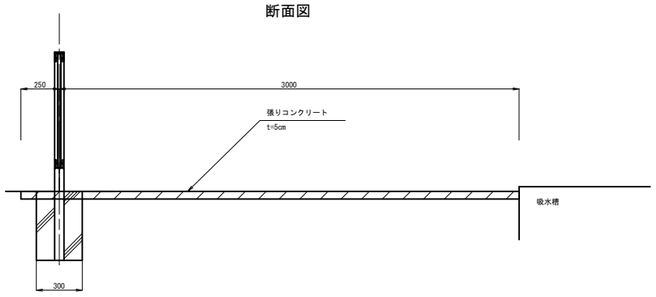
門扉・フェンスエ(2/2)

縦格子フェンス H900×L3000 S=1:20

一般図

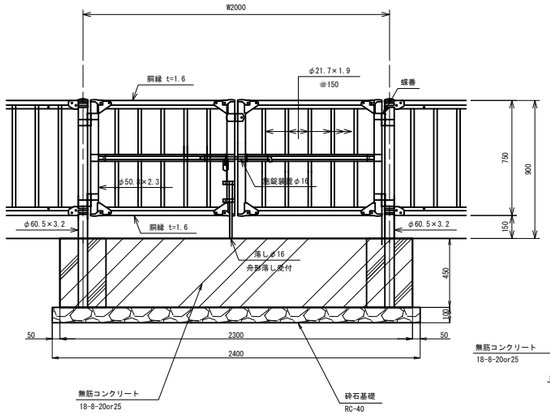


断面図

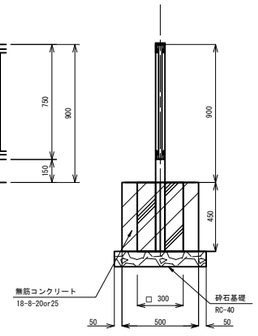


両開き門扉 H900×W2000 S=1:20

一般図



断面図

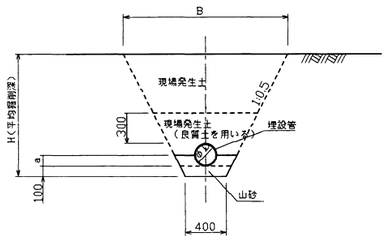


施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	門扉・フェンスエ(2/2)		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 1:20 A2 1:28	図面番号	8-36/319
作成者	関東農政局 両総農業水利事業所		

場内排水工

埋設管標準断面図

S=1:30

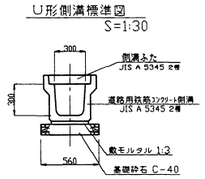


(mm)

管路名称	管種管径	H	B	a	備　考
集水桝接続管	VP φ200	390	890	110	
吸水槽接続管	VP φ150	1,014	1,440	90	
浄化槽排水管	VP φ125	1,720	2,160	70	
浄化槽排水管	VP φ150	2,280	2,860	90	
水道管	VP φ25	600	600		

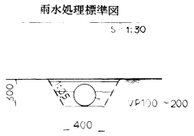
U形側溝標準図

S=1:30

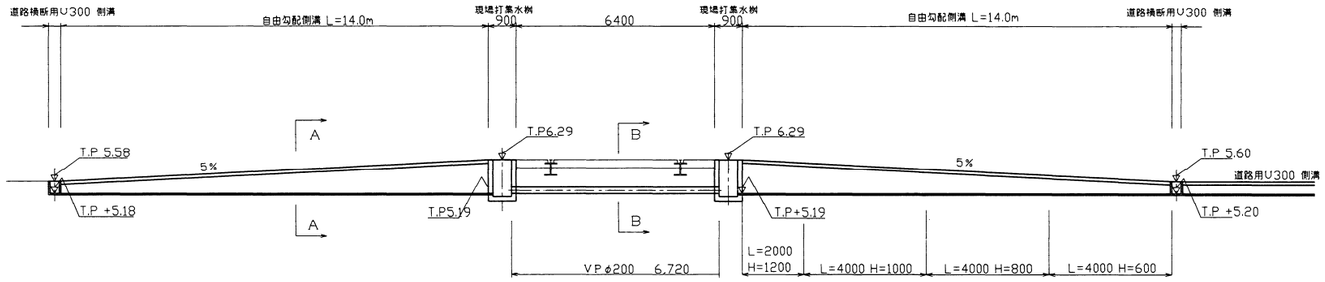


雨水処理標準図

S=1:30

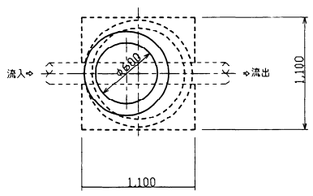


除塵機格納用レール構内道路横断部詳細図

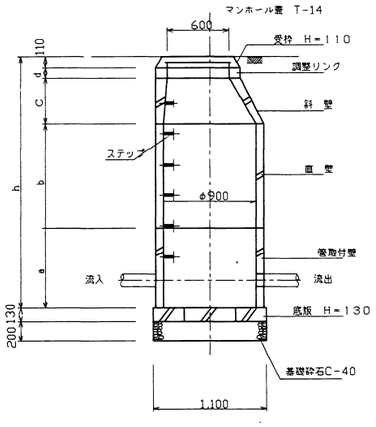


マンホール標準図

平　面　図



断　面　図



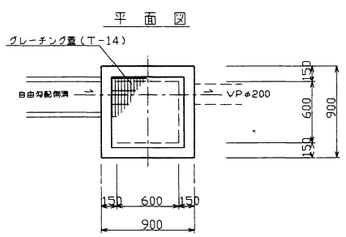
(mm)

	a	b	C	d	h
NO.1ﾏﾝﾎｰﾙ	900		450		1460
NO.2ﾏﾝﾎｰﾙ	900	300	450	100	1850
NO.3ﾏﾝﾎｰﾙ	900	600	600		2210

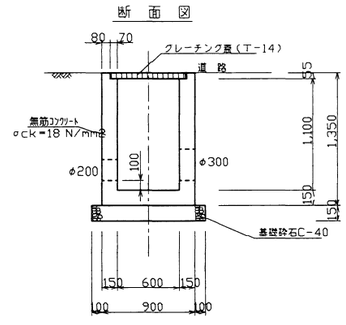
現場打ち集水桝

1:30

平　面　図



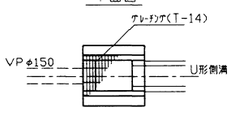
断　面　図



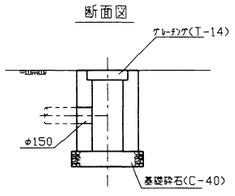
集水桝構造図

（既製品） 1:30

平面図

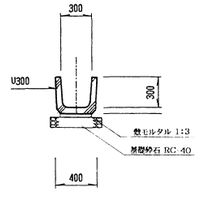


断面図

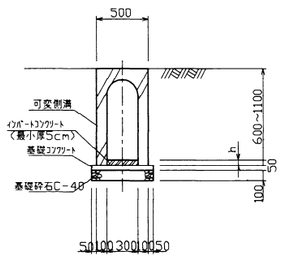


U 形 側 溝

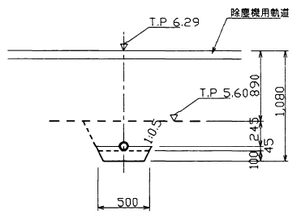
S=1:30



A－A

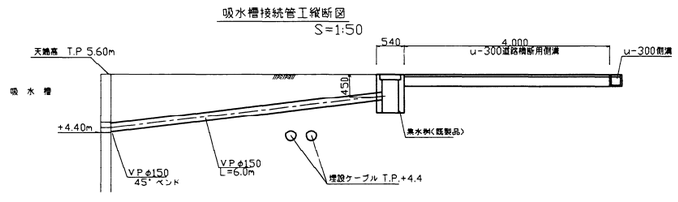


B－B



吸水槽接続管工縦断図

S=1:50

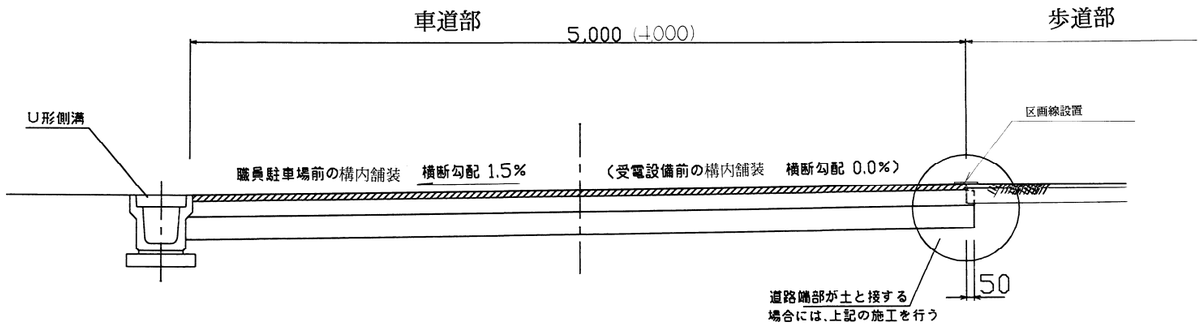


施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	場内排水工		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 図示	図面番号	8-37/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所		

場内舗装工

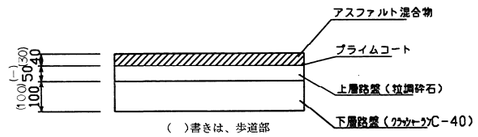
構内舗装工標準断面図

S=1:20



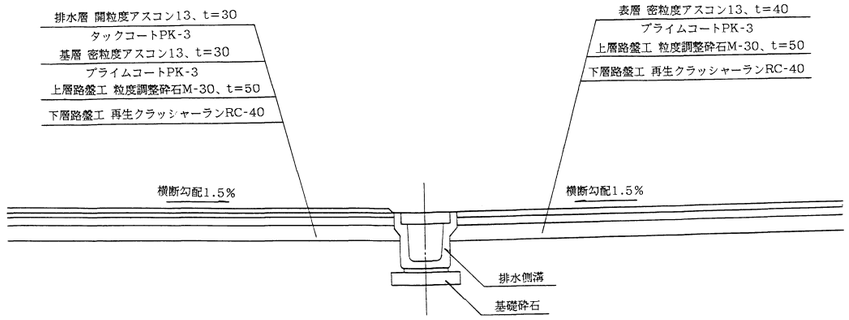
場内アスファルト舗装標準図

S=1:10



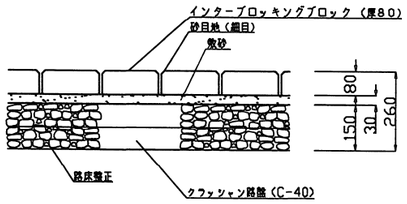
構内舗装工標準断面図

S=1:20



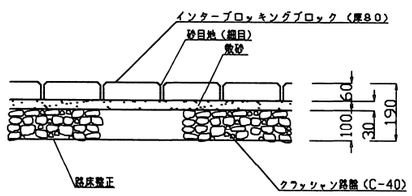
インターロッキングブロック舗装（車両通行部）

S=1:10



インターロッキングブロック舗装（歩道部）

S=1:10



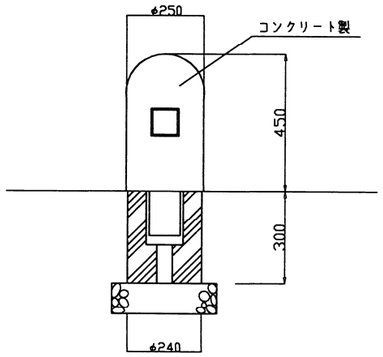
施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	場内舗装工		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 図示	図面番号	8-38/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所		

場内施設工(1/2)

車止め標準図（場内）

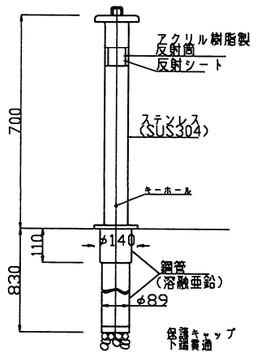
S=1:10

取外し式



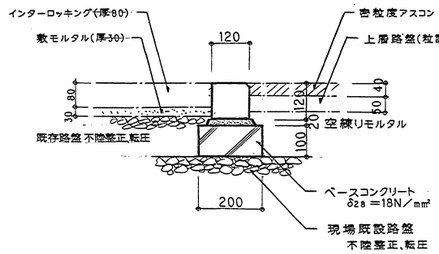
車止め標準図

S=1:10



地先境界ブロック(車道部)

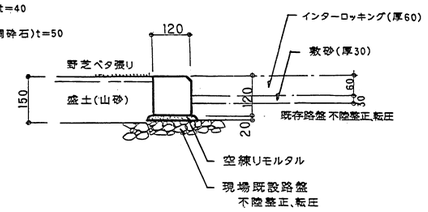
S＝1:10



駐車場周りは、上層路盤面が、
開粒度アスコン上面である。

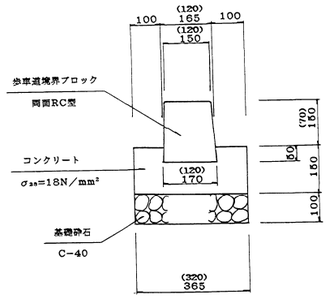
地先境界ブロック(歩道部)

S＝1:10



歩車道境界ブロック

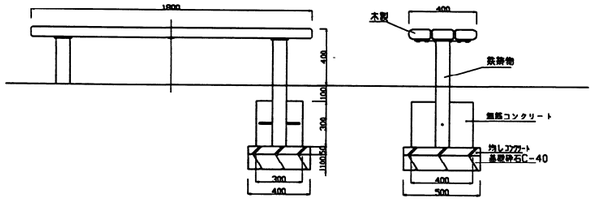
S=1:10



( )内は地先境界ブロック

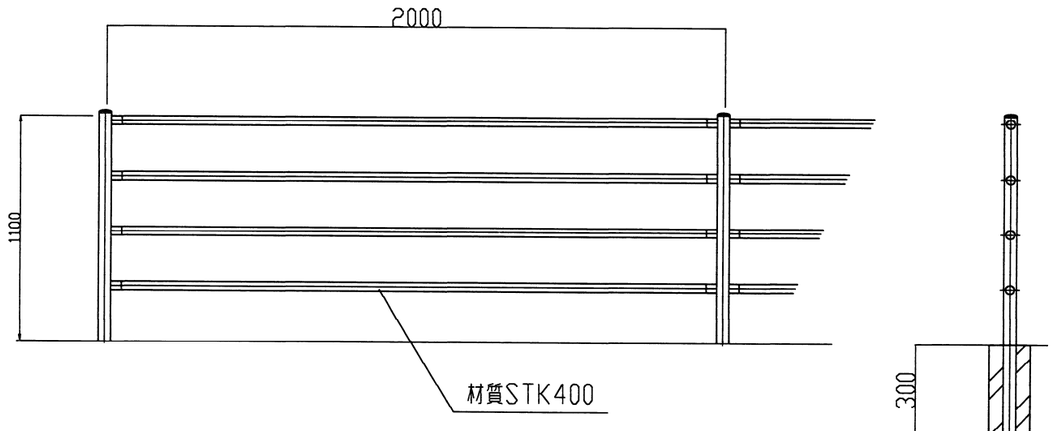
ベンチ標準図

S=1:20



転落防止柵標準図

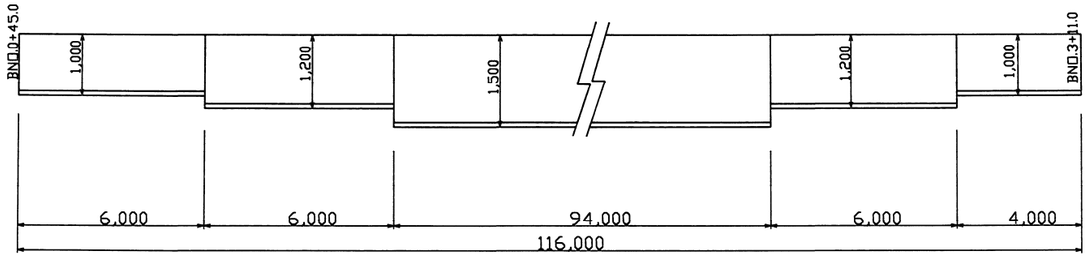
S=1:30



施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	場内施設工(1/2)		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 図示	図面番号	8-39/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所		

場内施設工(2/2)

L 型 擁 壁 展 開 図



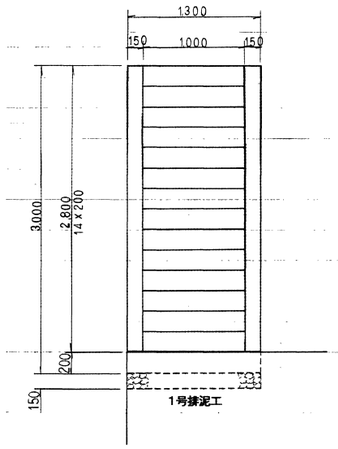
L型擁壁標準断面図

H	B(参考値)
1.0m	0.80m
1.2m	0.90m
1.5m	1.00m

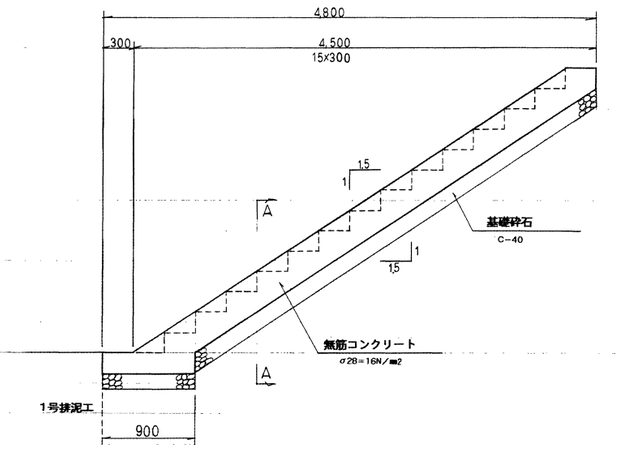
階　段　工

S=1:30

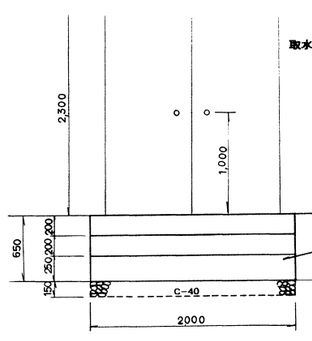
正　面　図



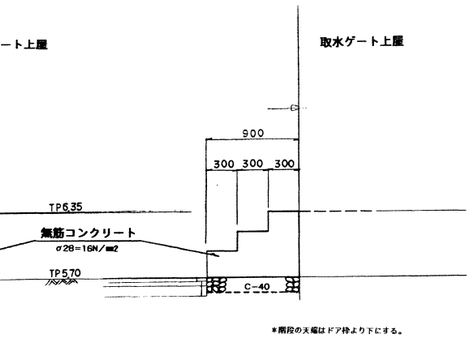
側　面　図



正　面　図



側　面　図

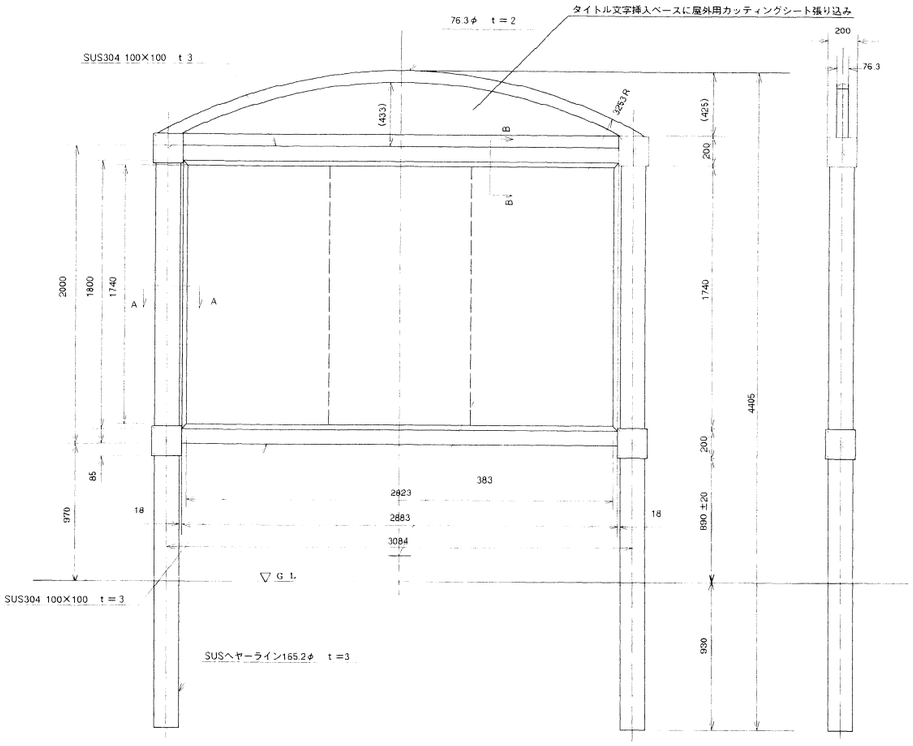


＊階段の天端はドア枠より下にする。

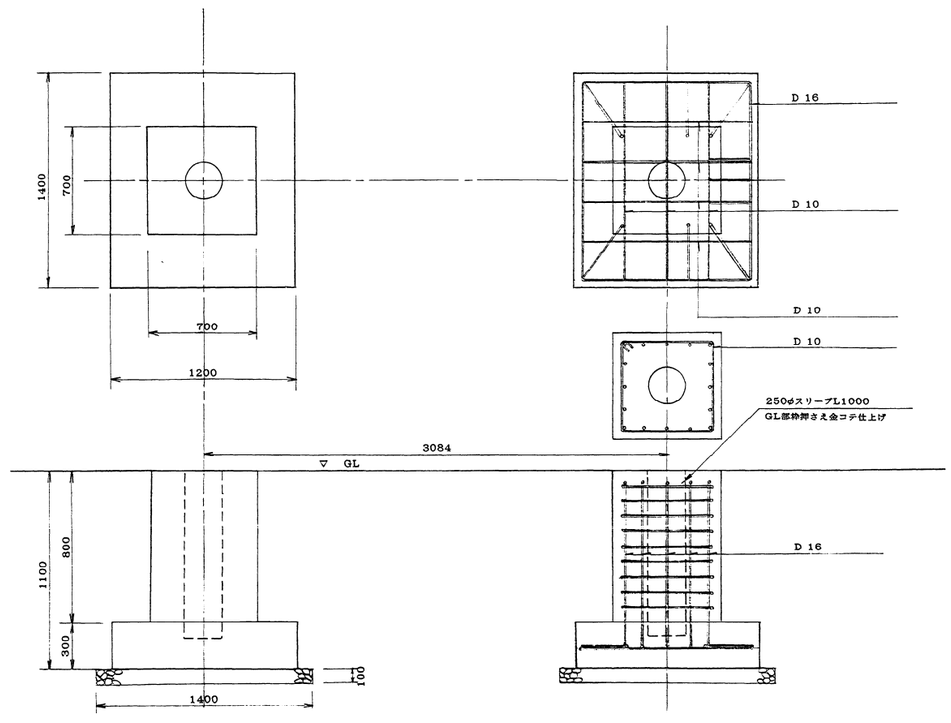
施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	場内施設工(2/2)		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 図示	図面番号	8-40/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所		

付帯工

姿　図　S=1:20



基礎図　S=1:20



施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	付帯工		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 1:20 A2 1:28	図面番号	8-41/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所		

植生配置図 S=1:300

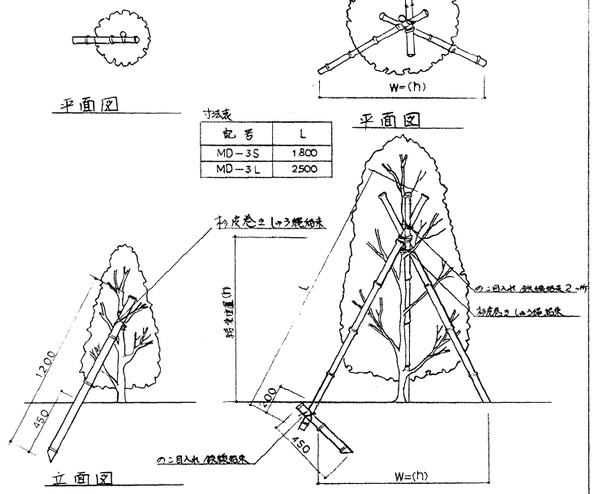
記号	樹種名	規格 H(樹高)	C(幹周)	W(枝張)
	高木類			
アラ	アラカシ	3.0	0.12	0.8
イ	イロハモミジ	3.0	0.15	1.2
イヌ	イヌシデ	3.0	0.12	0.8
エ	エゴノキ	3.5	0.15	1.2
カ	カツラ	3.5	0.15	1.2
キ	キンモクセイ	2.5		0.8
ク	クヌギ	3.0	0.12	0.8
クロ	クロガネモチ	2.5		0.7
ケ	ケヤキ	4.5	0.21	2.0
サザ	サザンカ	0.8		0.2
シダ	シダレザクラ	3.5	0.21	
シラ	シラカシ	3.0	0.12	0.7
ハ	ハナミズキ(赤)	2.5	0.10	0.8
ヒ	ヒマラヤスギ	3.5	0.20	1.8
	中木類			
アジ	アジサイ	0.5		3本立
	ヒラドツツジ	0.5		0.5
カンツバキ	カンツバキ	0.5		0.4

施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	植生配置図		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 1:300 A2 1:424	図面番号	8-42/319
作成者	関東農政局 両総農業水利事業所		

真竹一・三本支柱　MD

真竹一本支柱	MD-1	樹高0.8m以上1.5m未満

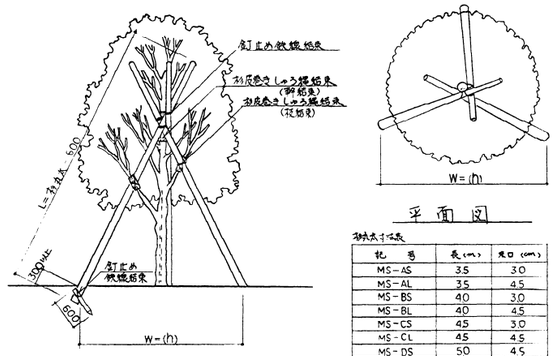
真竹三本支柱	MD-3S	樹高1.5m以上2.0m未満
	MD-3L	樹高2.5m以上3.0m以下 幹周0.09m以上0.15m未満



特記
- 真竹は末口2.5cm内外　先端防止め使いとする。
- 鉄線は亜鉛メッキ鉄線#18とし、結束はあや割掛け3回巻き以上とする。
- しゅろ縄は黒色径3mmとし結束は2本合わせのうえ、あや割掛け3回巻きとする。
- 結束位置(h)は樹高の6割を標準とする。

立面図　縮尺 1/20

杉丸太三本支柱　MS



平面図

杉丸太寸法表

記号	長(m)	末口(cm)
MS-AS	3.5	3.0
MS-AL	3.5	4.5
MS-BS	4.0	3.0
MS-BL	4.0	4.5
MS-CS	4.5	3.0
MS-CL	4.5	4.5
MS-DS	5.0	4.5
MS-DL	5.0	6.0
MS-ES	6.0	6.0
MS-EL	6.0	7.5

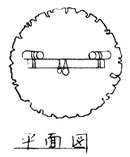
杉丸太三本支柱　(単位:m)

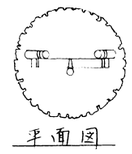
MS-AS	樹高	2.50M上 3.50M未満	幹周 0.15M上 0.35M未満
MS-AL	〃	2.50M上 3.50M未満	〃 0.35M上 0.55M未満
MS-BS	〃	3.50M上 4.00M未満	〃 0.09M上 0.35M未満
MS-BL	〃	3.50M上 4.00M未満	〃 0.35M上 0.55M未満
MS-CS	〃	4.00M上 5.00M未満	〃 0.15M上 0.35M未満
MS-CL	〃	4.00M上 5.00M未満	〃 0.35M上 0.55M未満
MS-DS	〃	5.00M上 6.00M未満	〃 0.20M上 0.55M未満
MS-DL	〃	5.00M上 6.00M未満	〃 0.55M上 0.90M未満
MS-ES	〃	6.00M上 7.00M未満	〃 0.25M上 0.55M未満
MS-EL	〃	6.00M上 7.00M未満	〃 0.55M上 0.90M未満

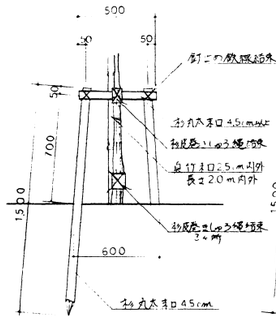
特記
- 杉丸太は末口60cm以上　焼きみがき仕上げとする。
- 鉄線は亜鉛メッキ鉄線#18とし、結束はあや割掛けとする。
- しゅろ縄は黒色径3mmとし結束は2本合わせのうえ、あや割掛け3回巻きとする。
- 結束位置(h)は樹高の6割とする。

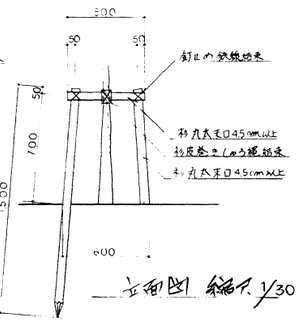
立面図　縮尺 1/60

鳥居支柱　TS







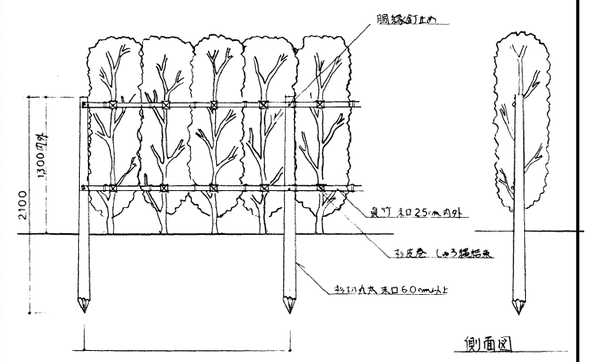


立面図　縮尺 1/30

鳥居支柱	TS SM	幹周0.09m以上0.20未満
鳥居支柱	TS-S	幹周0.09m以上0.20未満

特記
- 杉丸太は焼きみがき仕上げとする。
- 鉄線は亜鉛メッキ鉄線#18とし、結束はあや割掛け3回巻きとする。
- しゅろ縄は黒色径3mmとし、結束は2本合わせのうえ、あや割掛け3回巻きとする。

生垣支柱　IS

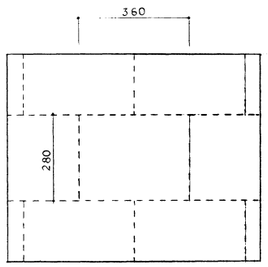


立面図　縮尺 1/30

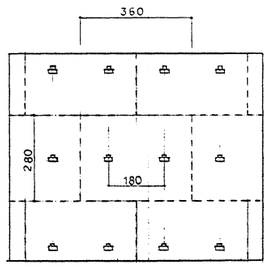
生垣支柱	IS-NA	樹高 1.5m以上 3.0m未満 植付2本/m
	IS-NB	〃 植付3本/m
	IS-NC	〃 植付2.5本/m

特記
- 杉丸太は末口6.0cm以上焼きみがき仕上げとする。
- 貫竹は、末口2.5cm内外　先端防止め使いとする。
- しゅろ縄は黒色径3mmとし、結束はあや割掛け3回巻きとする。

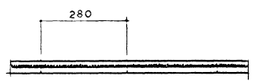
野芝　HS-N



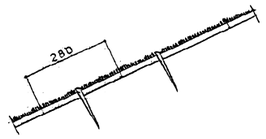
HS-NC 平面図 縮尺 1/10



HS-NE 平面図 縮尺 1/10



HS-NC 断面図

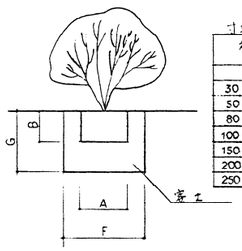


HS-NE 断面図

特記
- 表示寸法は標準寸法とする。

植穴床堀図

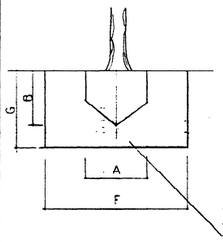
樹高　0～3m未満



寸法表(単位:cm)

樹高	A 鉢径	B 鉢高	F 植穴径	G 植穴深	1株(本)あたりの客土量(m³)
30未満	15	8	29	23	0.014
30以上 50未満	17	10	33	26	0.020
50 〃 80 〃	20	12	37	28	0.026
80 〃 100 〃	22	13	41	31	0.035
100 〃 150 〃	26	16	46	35	0.049
150 〃 200 〃	30	19	54	40	0.077
200 〃 250 〃	35	23	61	46	0.111
250 〃 300 〃	40	26	69	51	0.156

苗同　0～90cm未満

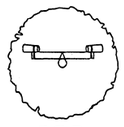


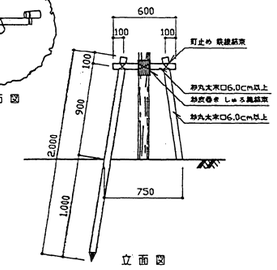
寸法表(単位:cm)

苗同	A 鉢径	B 鉢高	F 植穴径	G 植穴深	1本あたりの客土量(m³)
10未満	3.7	7	6.2	2.5	0.067
10以上 12 〃	4.1	11	6.8	2.9	0.090
12 〃 15 〃	4.5	14	7.3	3.3	0.114
15 〃 18 〃	4.9	19	7.9	3.8	0.149
18 〃 20 〃	5.5	24	8.6	4.3	0.190
20 〃 25 〃	5.8	28	9.1	4.6	0.222
25 〃 30 〃	6.7	35	10.2	5.5	0.318
30 〃 35 〃	7.5	45	11.3	6.4	0.437
35 〃 45 〃	8.4	54	12.5	7.2	0.577
45 〃 60 〃	10.1	71	14.7	8.9	0.929
60 〃 75 〃	12.6	96	18.0	11.5	1.707
75 〃 90 〃	15.2	121	21.4	14.0	2.802

特記
- 表示寸法は標準寸法とする。
- 客土は黒土1m³に、配合肥料(N:P:K=6:4:3)5kg及び苦土石灰成形処理土壌改良剤20kgを混合したものとする。
- 斜巻きは地形に応じて行なう。

鳥居支柱　TS-L





材料表　(10組当り)

名称	規格	単位	数量
杉丸太	末口6.0cm L=2.0m	本	20.0
杉丸太	末口6.0cm L=0.6m	本	10.0

鳥居支柱	TS-L	幹周 0.20m以上 0.40m未満

SC-1/30

- 杉丸太は焼きみがき仕上げとする。
- 鉄線は亜鉛メッキ鉄線#18とし、結束はあや割掛け3回巻き以上とする。
- しゅろ縄は黒色径3mmとし、結束は2本合わせのうえ、あや割掛け3回巻きとする。

施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	植生工支柱参考図		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	-	図面番号	8-43/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所		

照明設備配置図

S=1:300

電灯盤
メーターボックス　ＳＵＳ製（市販標準品）

※１ 建物外壁に低圧引留金物取付
　引込線が道路境界上にて５ｍ以上の高さを確保のこと
※２ EM-CE 8□-3C　引込支持点迄立上げ
※３ EM-CE 8□-3C　壁貫通し分電盤へ壁貫通部はPF 28
　壁貫通部は耐火パテ等に貫通処理のこと

※　注　記
・低圧架空引込　ＳＢ４０Ａ契約とする。
（上記はH25年度）

ハンドホール
（H25年度移設）

FEP 30
配管

※１

※２

※３

A4-1

資料倉庫

車庫

職員駐車場

FEP 30×2
配管

A2-1　HH1

CV 5.5□-3C（FEP 30）
ケーブル、配管

外灯
HST5A-80CM / T3.5
ランプ、安定器更新
（H25年度移設）

CV5.5'-3C(FEP30)
(FEP30)

外灯
HST5A-250NH / T4.5
ランプ、安定器更新
（H25年度）

ハンドホール
H1-9 / 中耐蓋付

A1-1　HH1

CV5.5'-3C(FEP30)
CV5.5'-3C(FEP30)
(FEP30)

EM-CE 5.5□-3C（FEP 30）
（H25年度）

両総用水第２揚水機場

ハンドホール

以降内部工事

受電設備用建屋

CV5.5'-3C+
VVF1.6-3C(FEP30)
CV5.5'-3C+
VVF1.6-2C(FEP30)
CV5.5'-3C
(FEP30)

A5-1　HH2

HH2

格納庫

CV5.5'-3C+
VVF1.6-2C(FEP30)
CV5.5'-3C+
VVF1.6-2C(FEP30)

■ 地中埋設標（コンクリート製）
▨ 地中埋設標（鉄製）
（H25年度）

外灯
HST5A-250NH / T4.5
ランプ、安定器更新
（H25年度）

A2-2

ハンドホール
H1-9 / 中耐蓋付
（H25年度）

CV5.5'-3C(FEP30)

A3-1　HH1

A3-1　HH1

CV5.5'-3C+
VVF1.6-2C(FEP30)

CV5.5'-3C+
VVF1.6-2C(FEP30)
CV5.5'-3C(FEP30)

CV5.5'-3C(FEP30)
CV5.5'-3C+
VVF1.6-2C(FEP30)
CV5.5'-3C(FEP30)

沈殿池

A3-1

IP1
IA:89-49-3
R: 17.000
CL: 26.650
TL: 16.946
SL: 7.004

HH1 HH 450'×600 MHA450φ
HH2 HH 600'×600 MHA600φ
・スイッチの系統は、イ、ロ、ハ、ニの４回路
（但し、ニの回路は自動点滅）

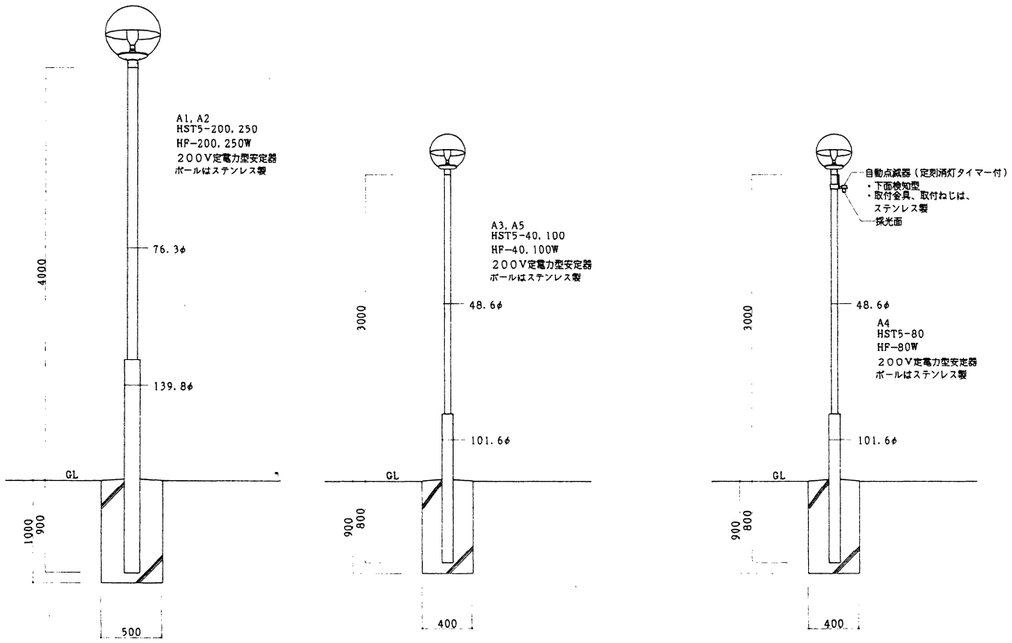
KBM1 TP+5.610

中之島

東 三 栄

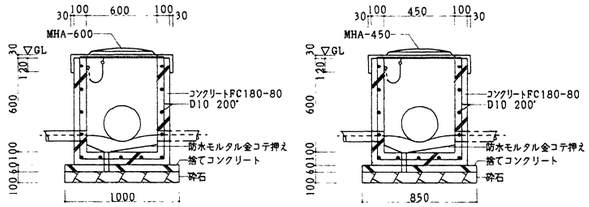
施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	照明設備配置図		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 1:300 A2 1:424	図面番号	8-44/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所		

照明設備姿図



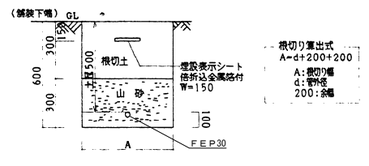
照明器具姿図

1:30



ハンドホール参考図

NOSCALE



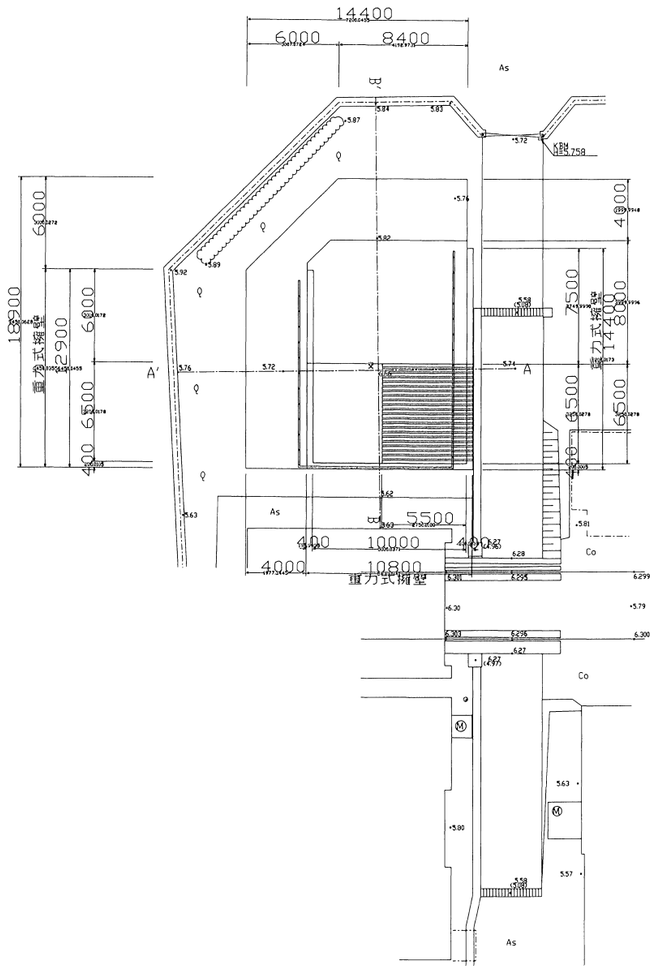
管路埋設参考図

NOSCALE

施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	照明設備姿図・参考図		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 図示	図面番号	8-45/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所		

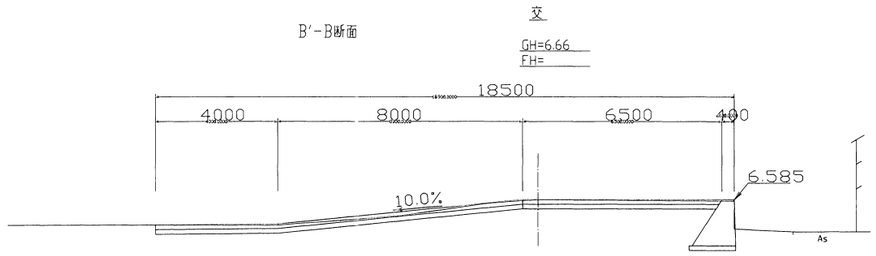
発生材処理施設図(1/2)

平　面　図
S=1:200

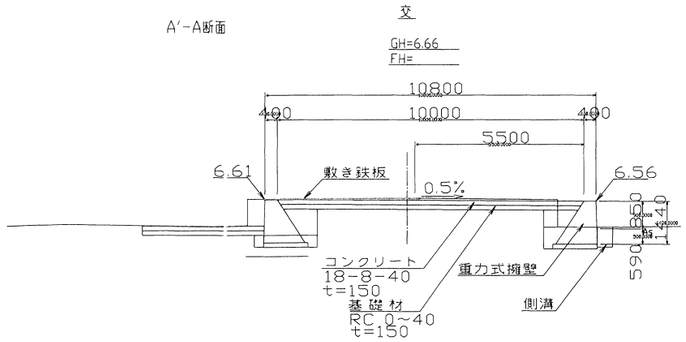


横断面図
S=1:100

B'-B断面



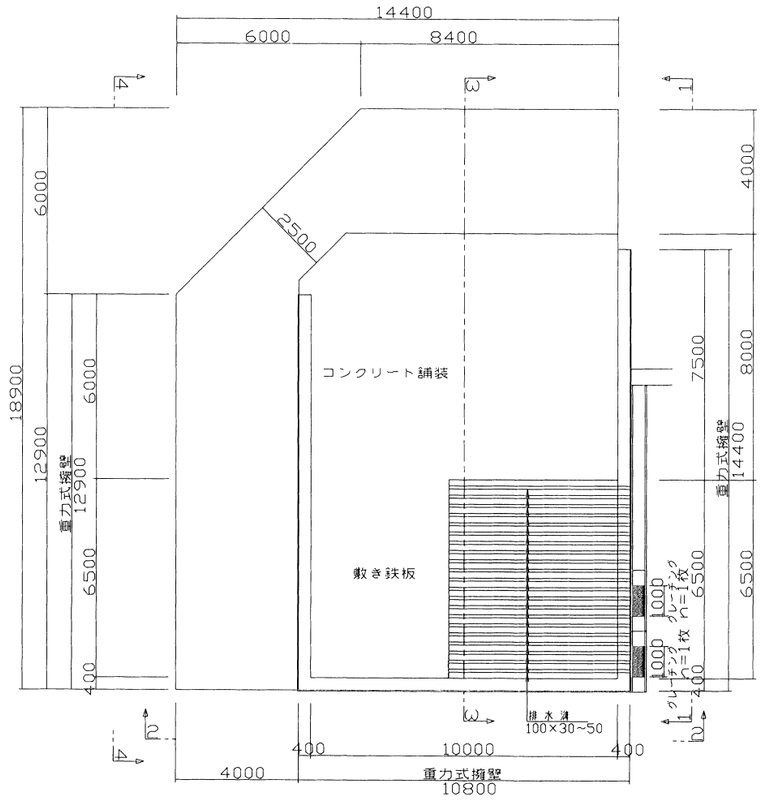
A'-A断面



施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	発生材処理施設図(1/2)		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 図示	図面番号	8-46/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所		

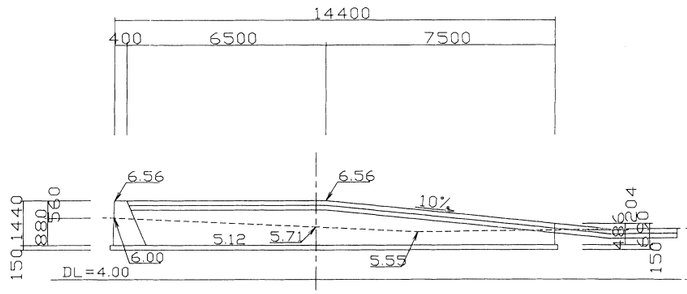
発生材処理施設図(2/2)

平面図
1:100

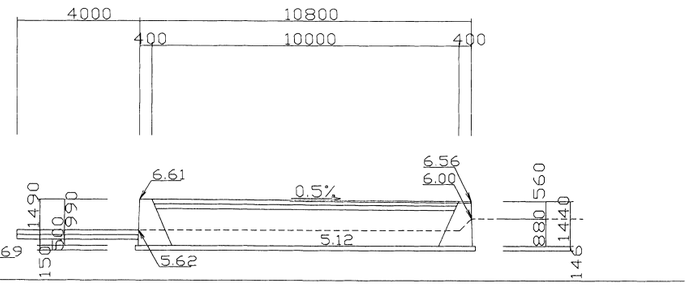


側面図
1:100

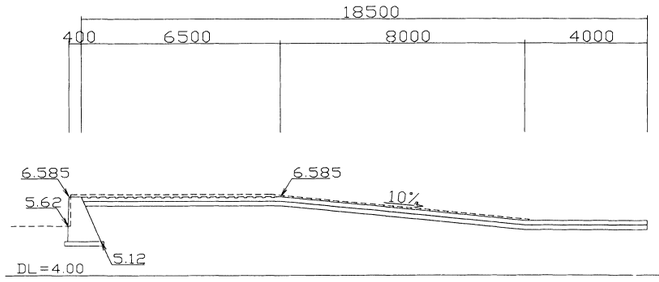
1-1



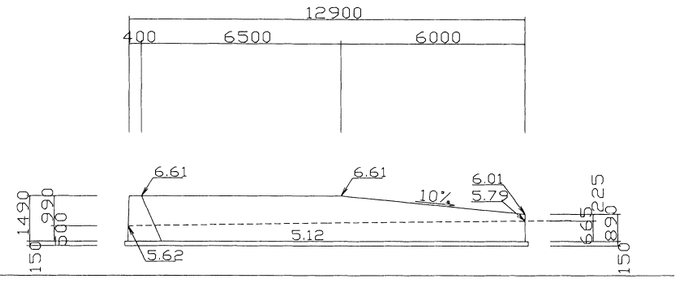
2-2



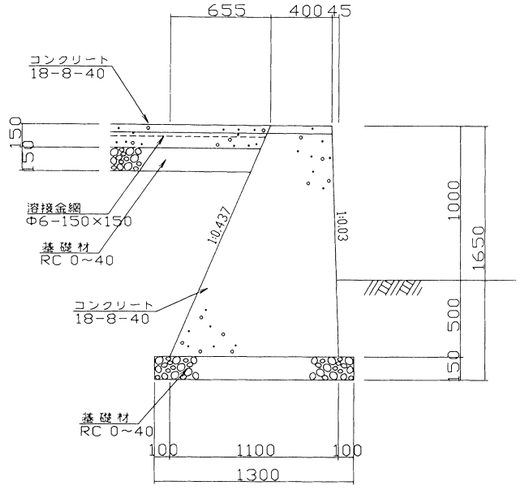
3-3



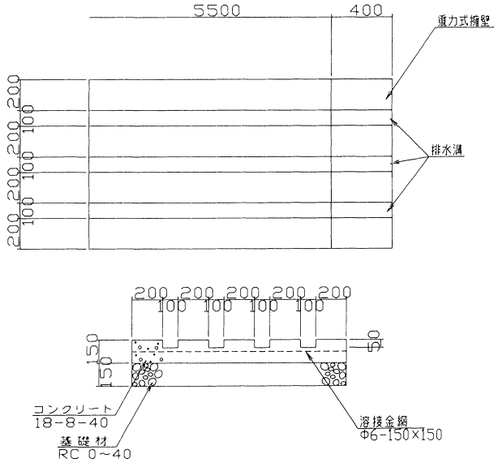
4-4



重力式擁壁
1:20



排水溝
1:20

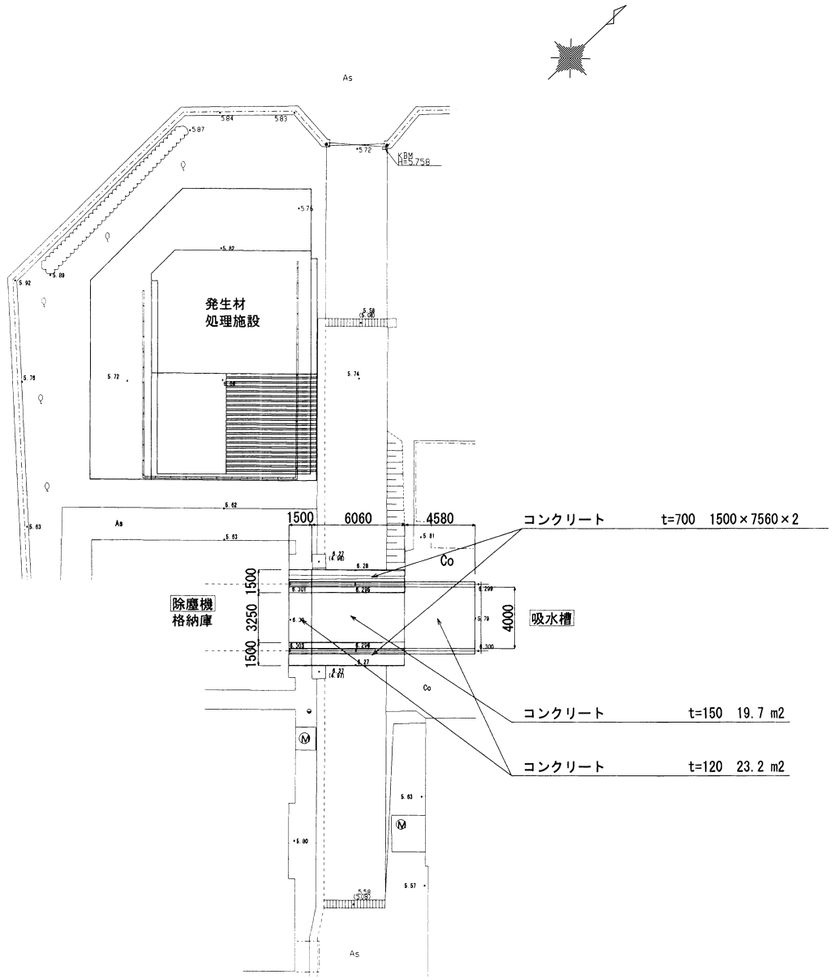


施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	発生材処理施設図(2/2)		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 図示	図面番号	8-47/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所		

軌道整備工(1/2)

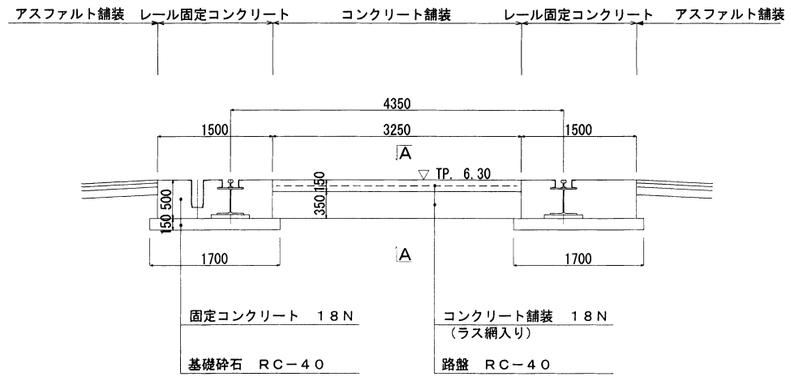
平　面　図

S=1:200



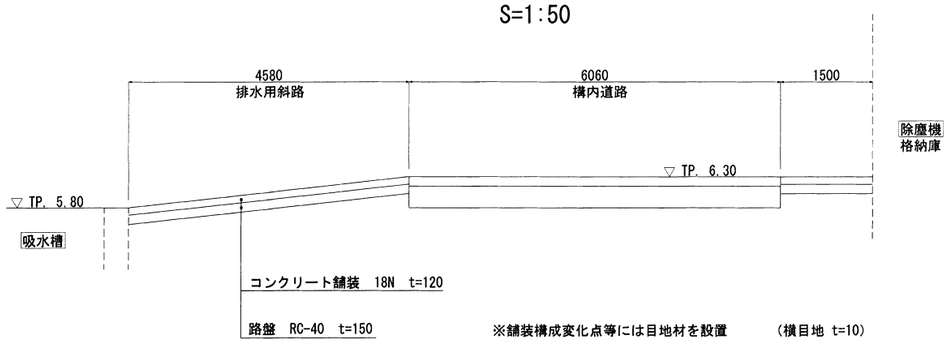
除塵機格納レール　　横断図

S=1:40



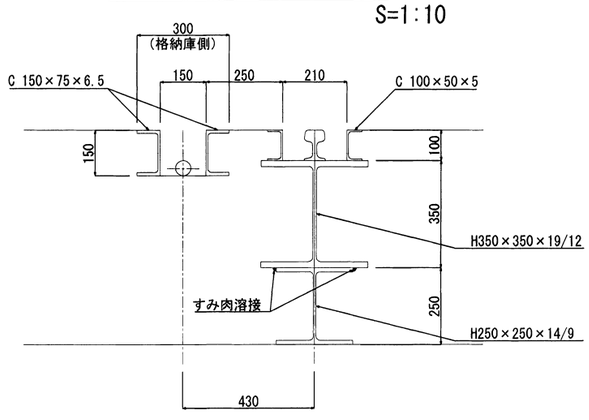
Ａ－Ａ断面図

S=1:50



レール固定部詳細図

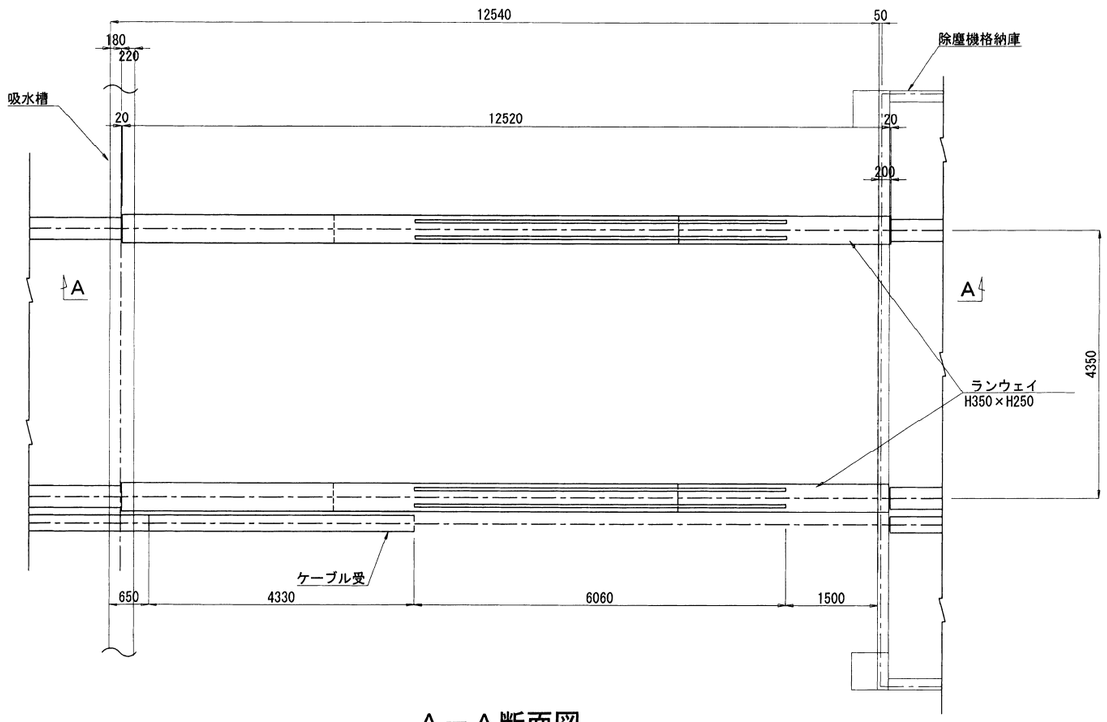
S=1:10



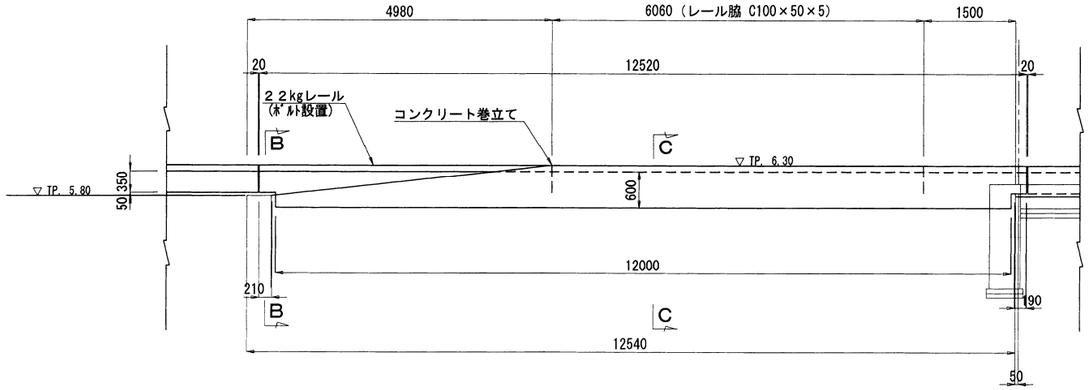
施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	軌道整備工(1/2)		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 図示	図面番号	8-48/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所		

軌道整備工(2/2)

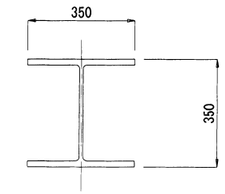
平面図
S＝1：50



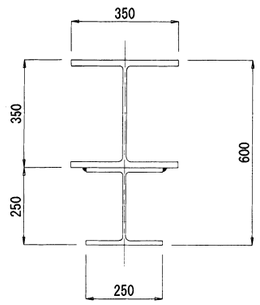
Ａ－Ａ断面図
S＝1：50



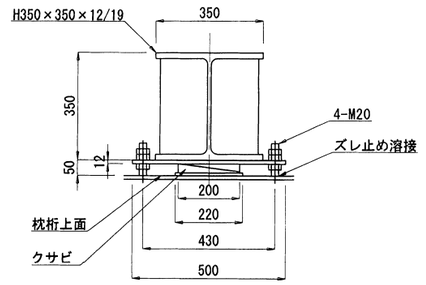
Ｂ－Ｂ断面図
S＝1：10



Ｃ－Ｃ断面図
S＝1：10

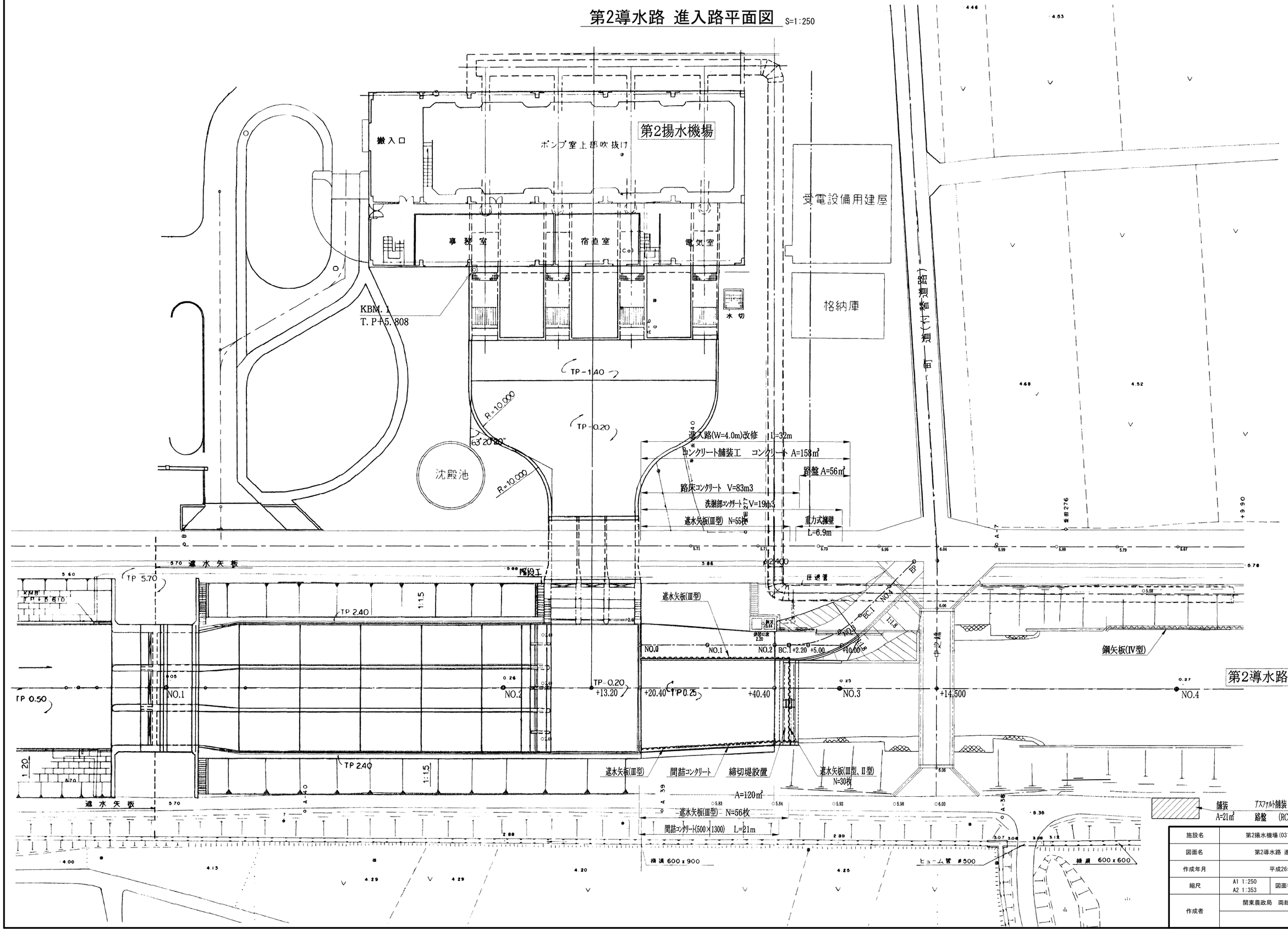


ボルト固定詳細図
S＝1：10



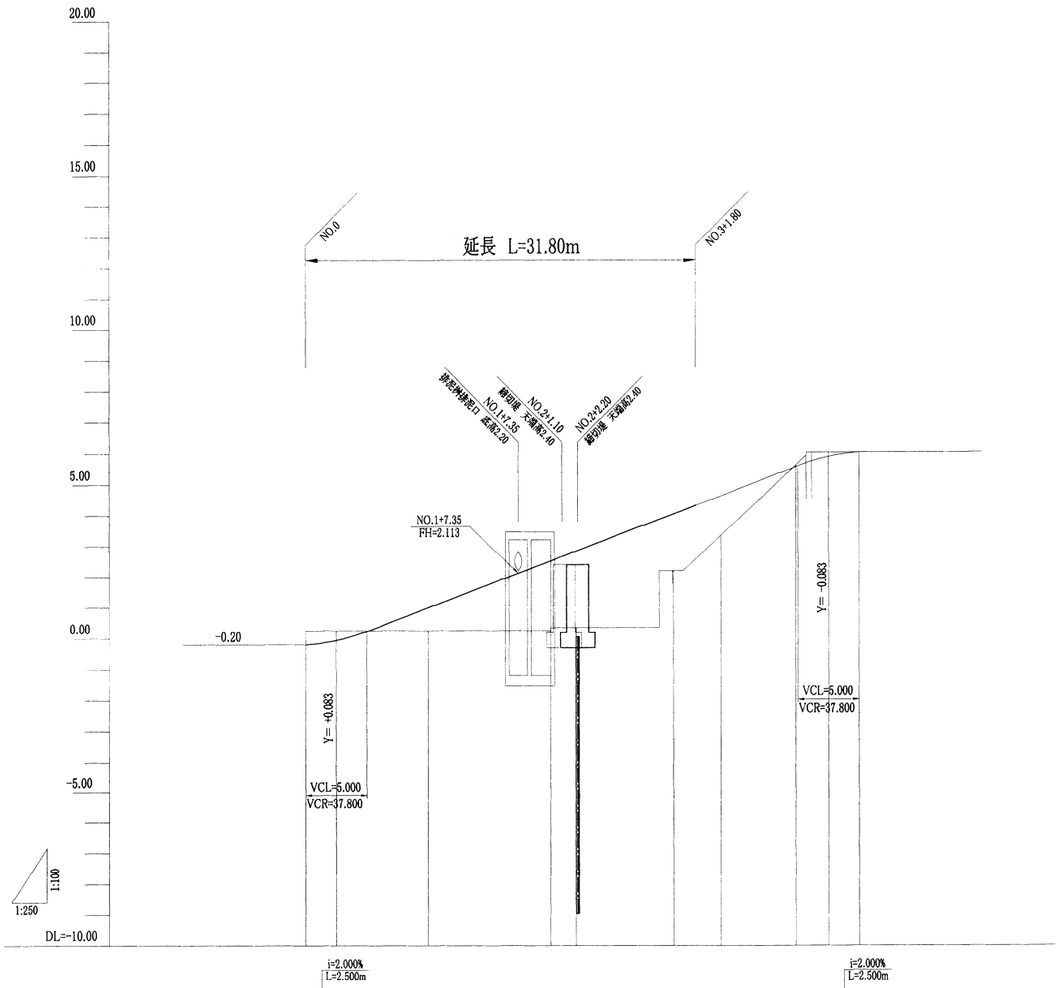
施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	軌道整備工(2/2)		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 図示	図面番号	8-49/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所		

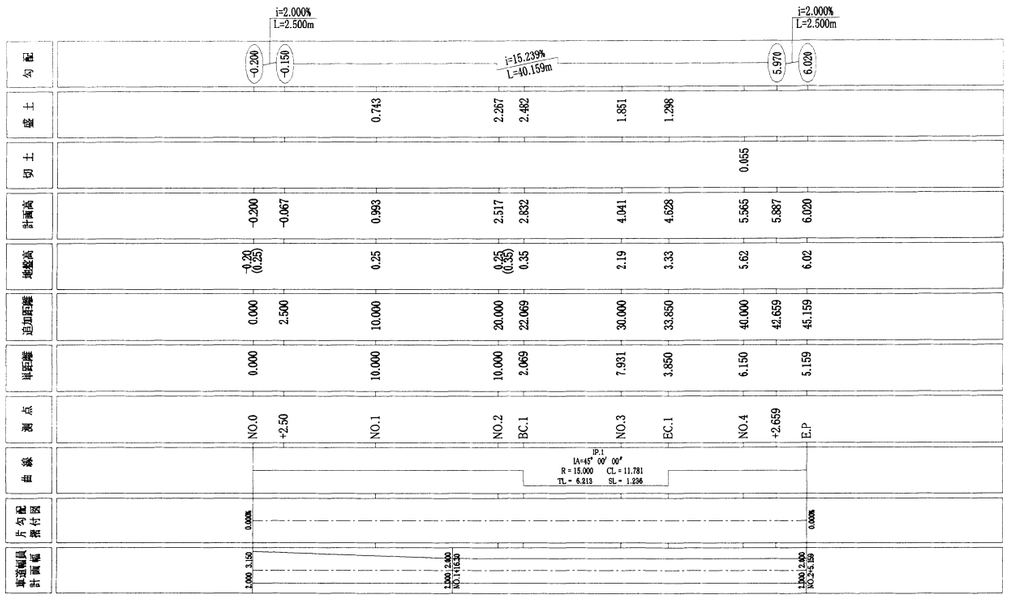
第2導水路 進入路平面図 S=1:250



施設名	第2揚水機場 (0312100-1100-19)		
図面名	第2導水路 進入路平面図		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 1:250 A2 1:353	図面番号	8-50/319
作成者	関東農政局 両総農業水利事業所		

第2導水路 進入路縦断図



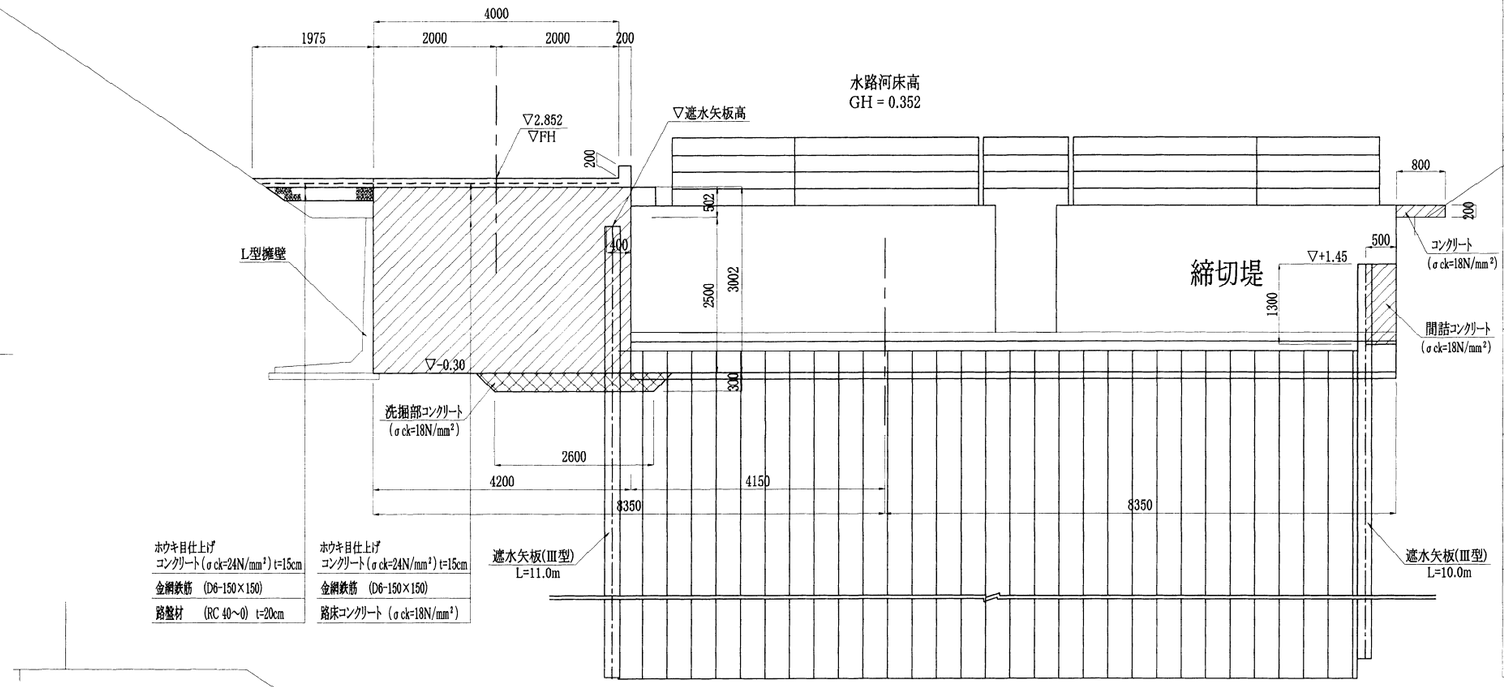


施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	第2導水路 進入路縦断図		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 図示	図面番号	8-51/319
作成者	関東農政局 両総農業水利事業所		

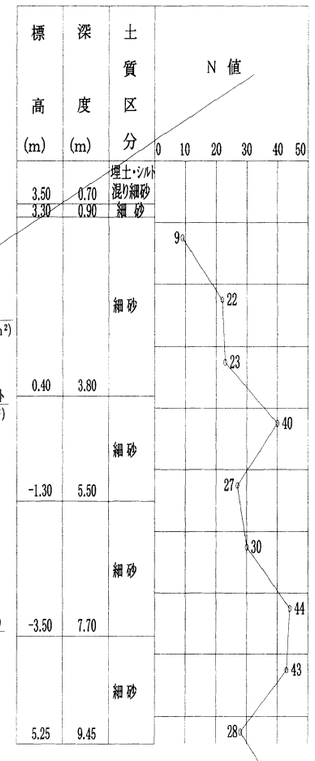
第2導水路　進入路標準横断図

NO.2+2.20

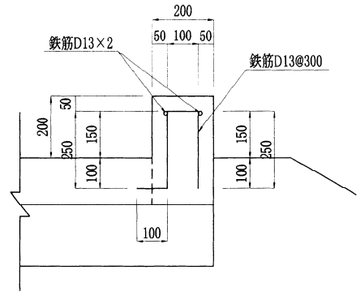
GH=0.35
FH=2.852



ボウリング柱状図

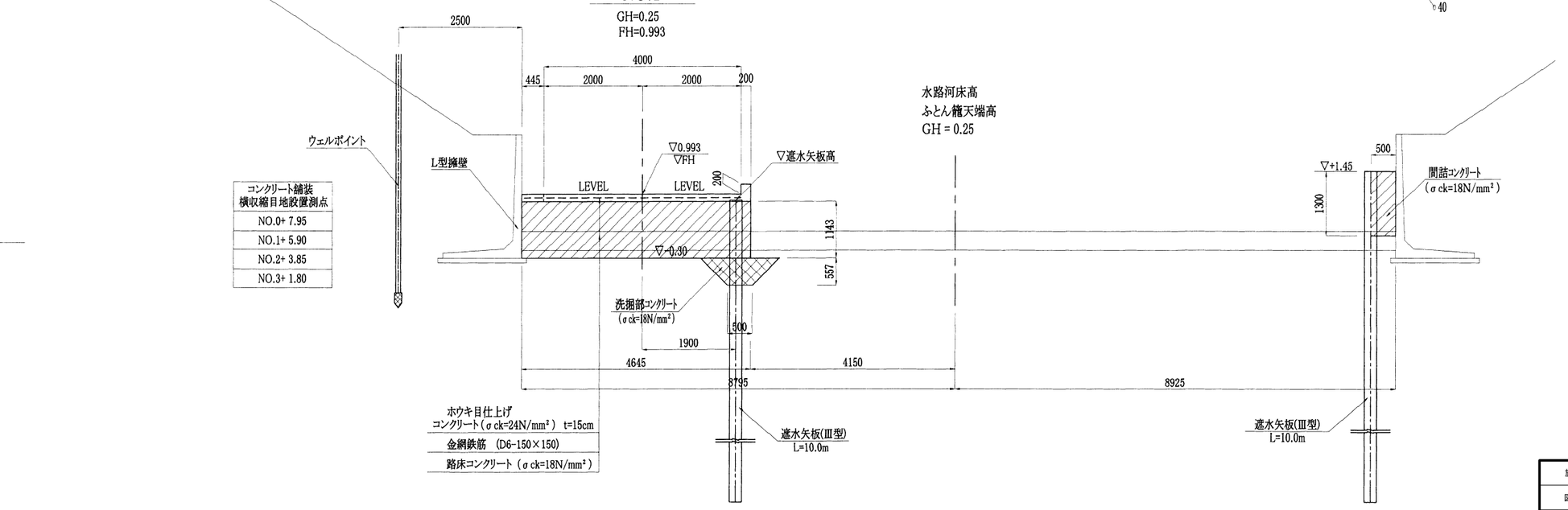


車道地覆詳細図 S=1:10



NO.1

GH=0.25
FH=0.993

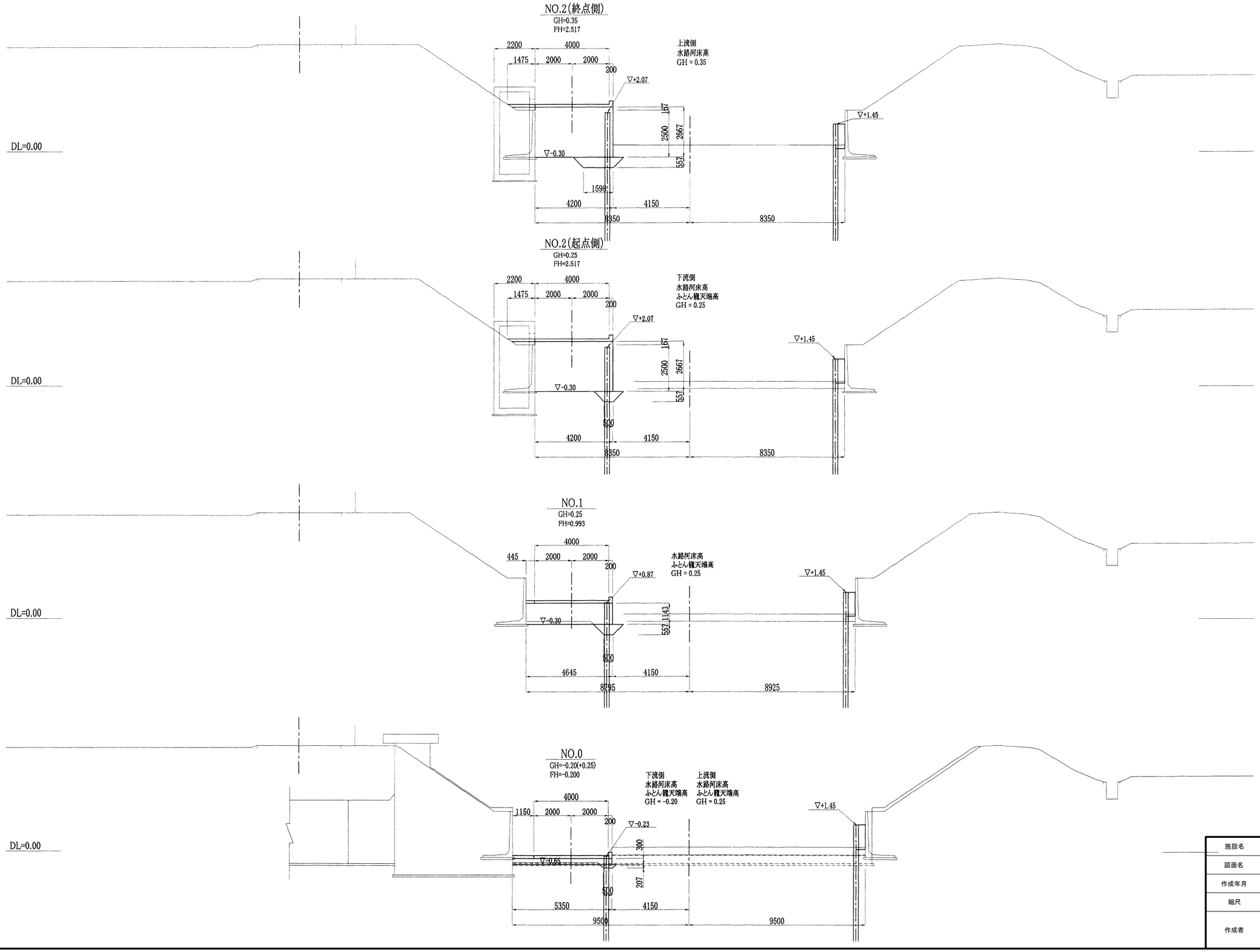


コンクリート舗装 横収縮目地設置測点
NO.0+ 7.95
NO.1+ 5.90
NO.2+ 3.85
NO.3+ 1.80

施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	第2導水路 進入路標準横断図		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 1:50 A2 1:70	図面番号	8-52/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所		

第2導水路 進入路横断図(1/2)

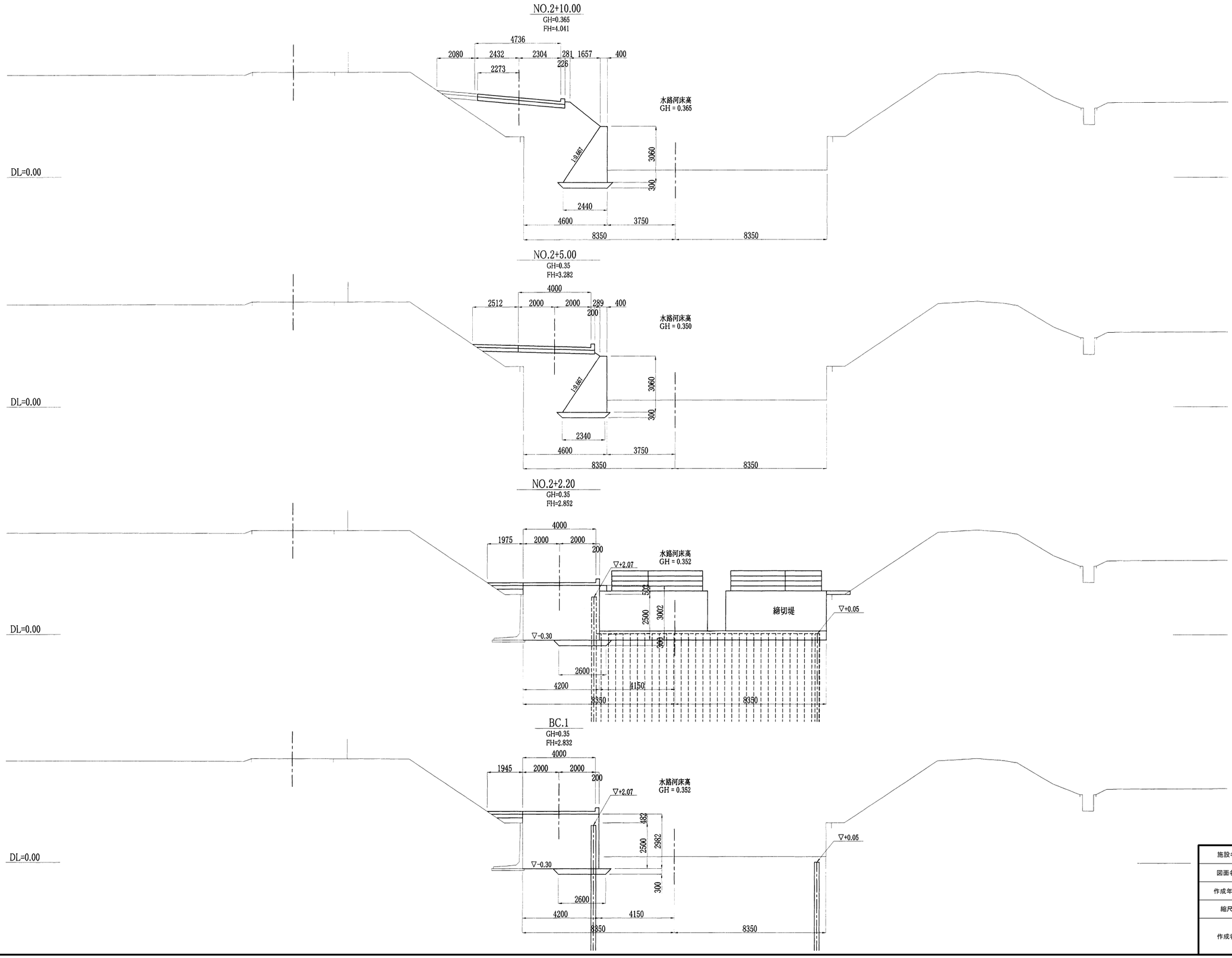
S=1:100



施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	第2導水路 進入路横断図(1/2)		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 1:100 A2 1:141	図面番号	8-53/319
作成者	関東農政局 両総農業水利事業所		

第2導水路 進入路横断図(2/2)

S=1:100

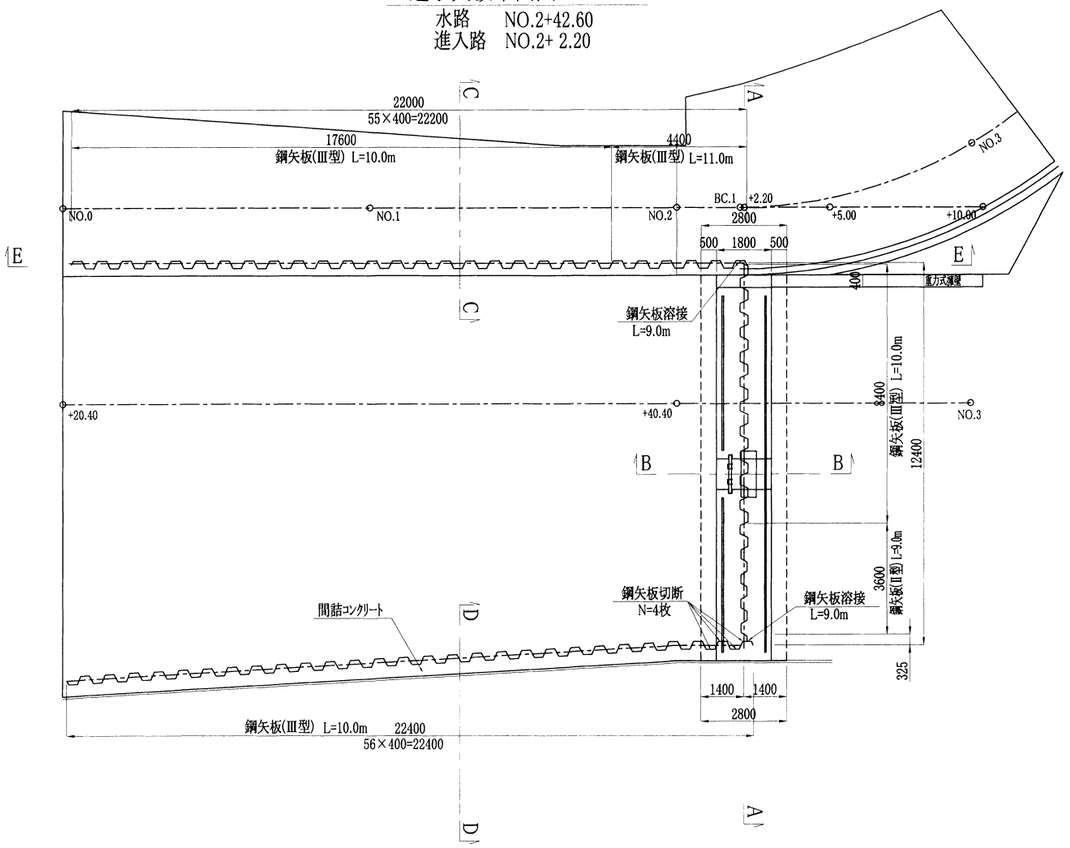


施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	第2導水路 進入路横断図(2/2)		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 1:100 A2 1:141	図面番号	8-54/319
作成者	関東農政局 両総農業水利事業所		

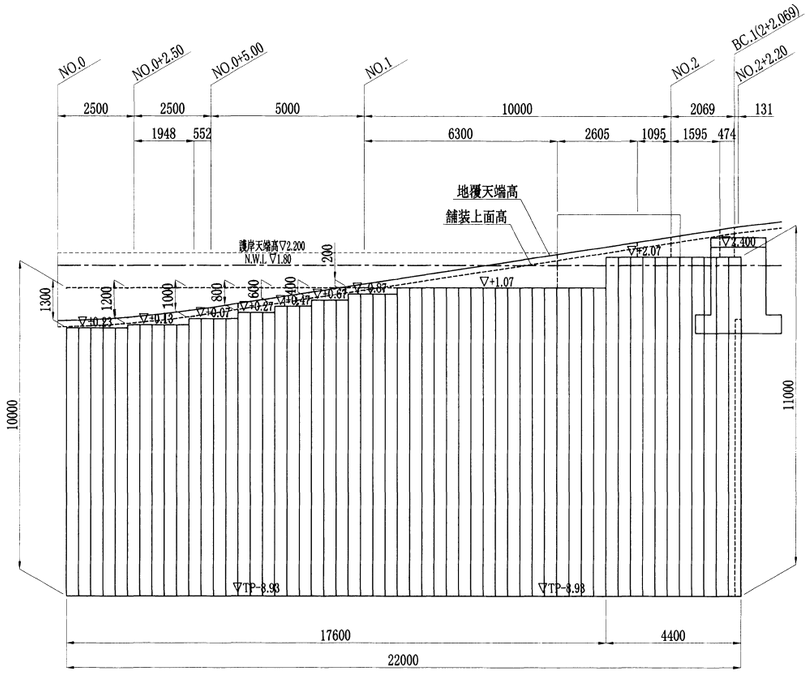
第2導水路　遮水矢板図

遮水矢板平面図　S=1:100

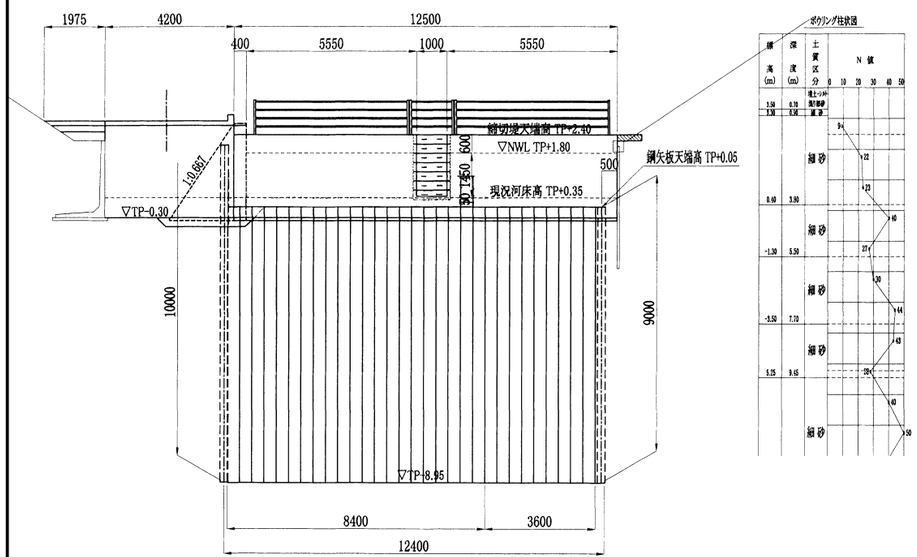
水路　NO.2+42.60
進入路　NO.2+ 2.20



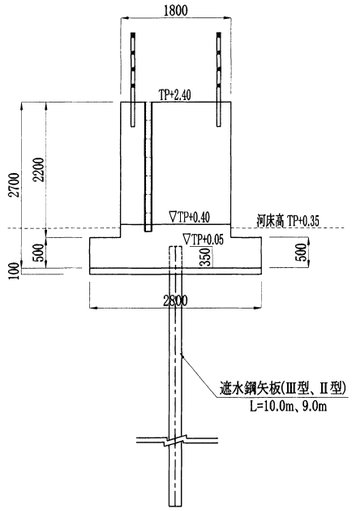
E-E 断面図　S=1:100



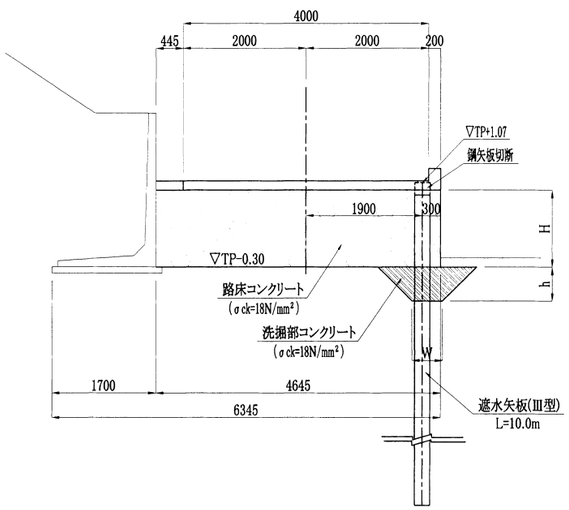
A-A 断面図　S=1:100



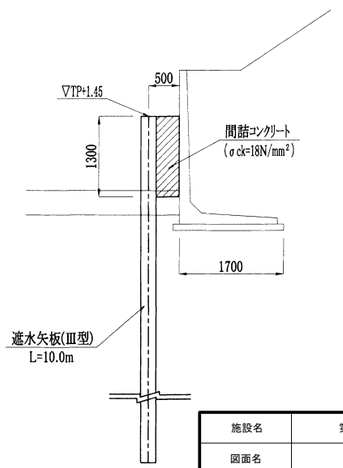
B-B 断面図 S=1:50



C-C 断面図 S=1:50



D-D 断面図 S=1:50

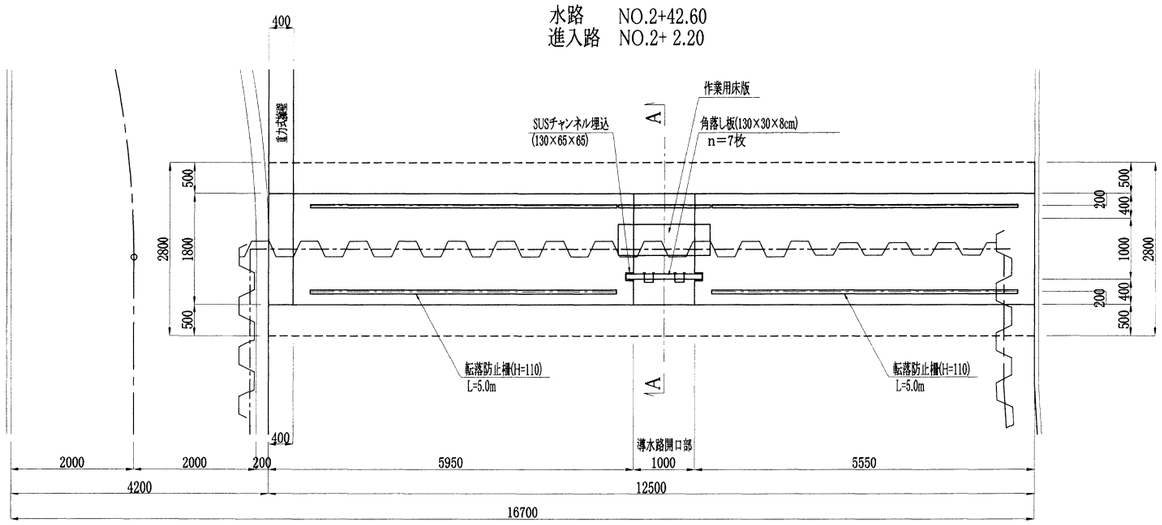


施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	第2導水路 遮水矢板図		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 図示	図面番号	8-55/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所		

第2導水路　締切堤図

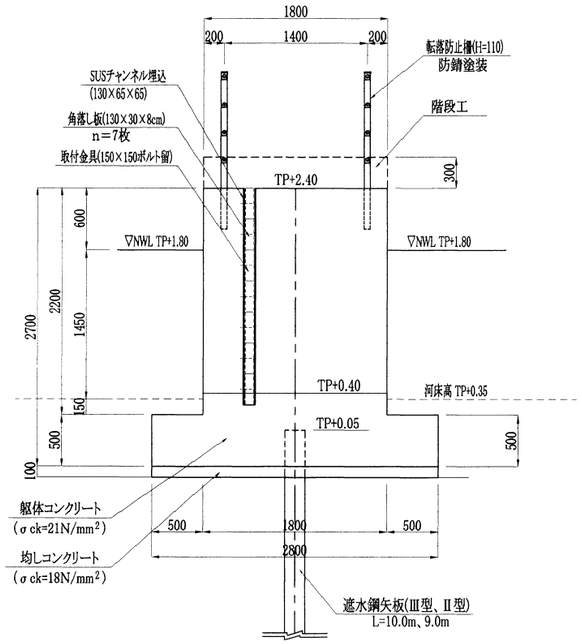
平　面　図　S=1:50

水路　NO.2+42.60
進入路　NO.2+ 2.20

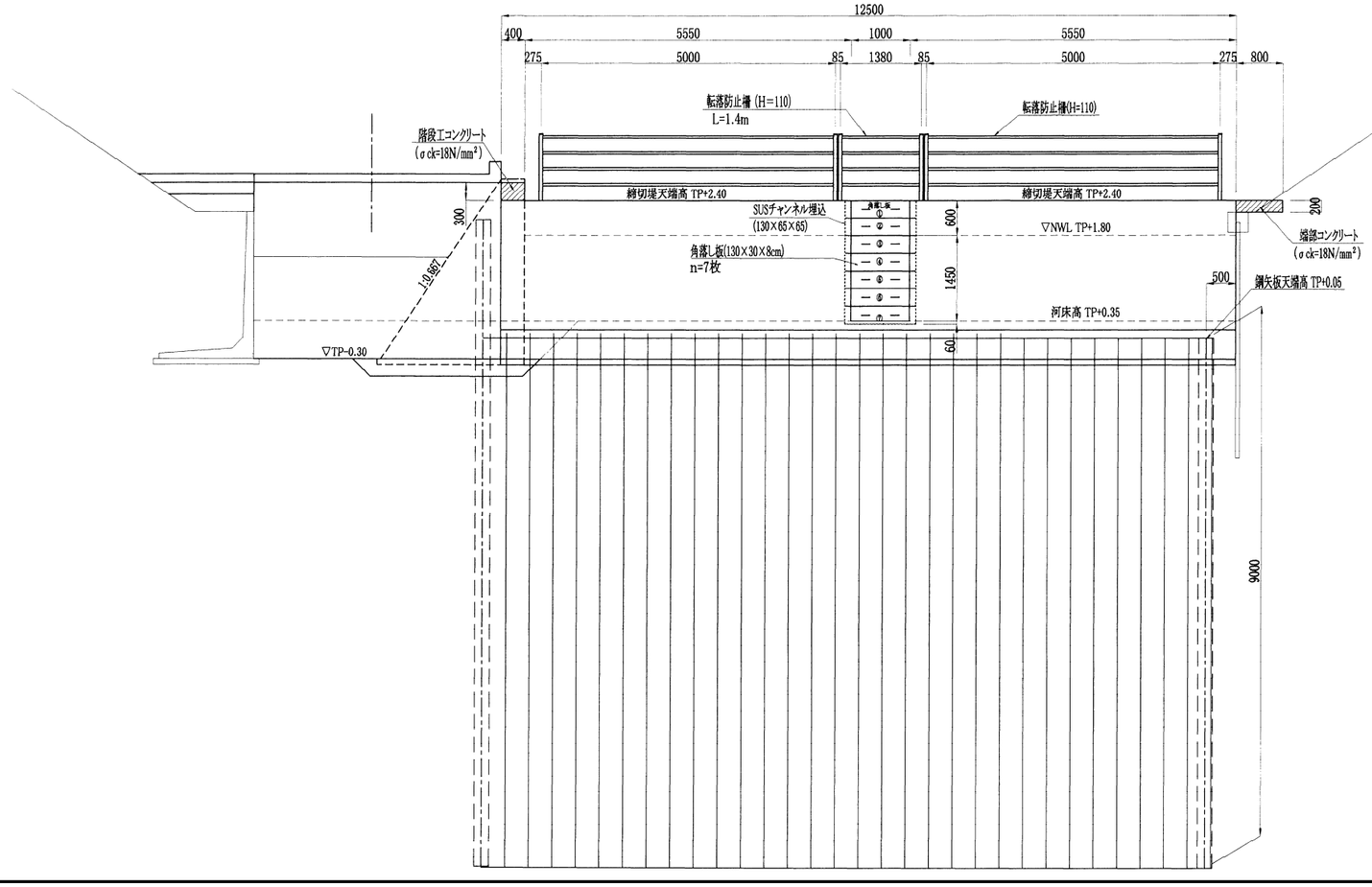


断　面　図　S=1:30

A－A

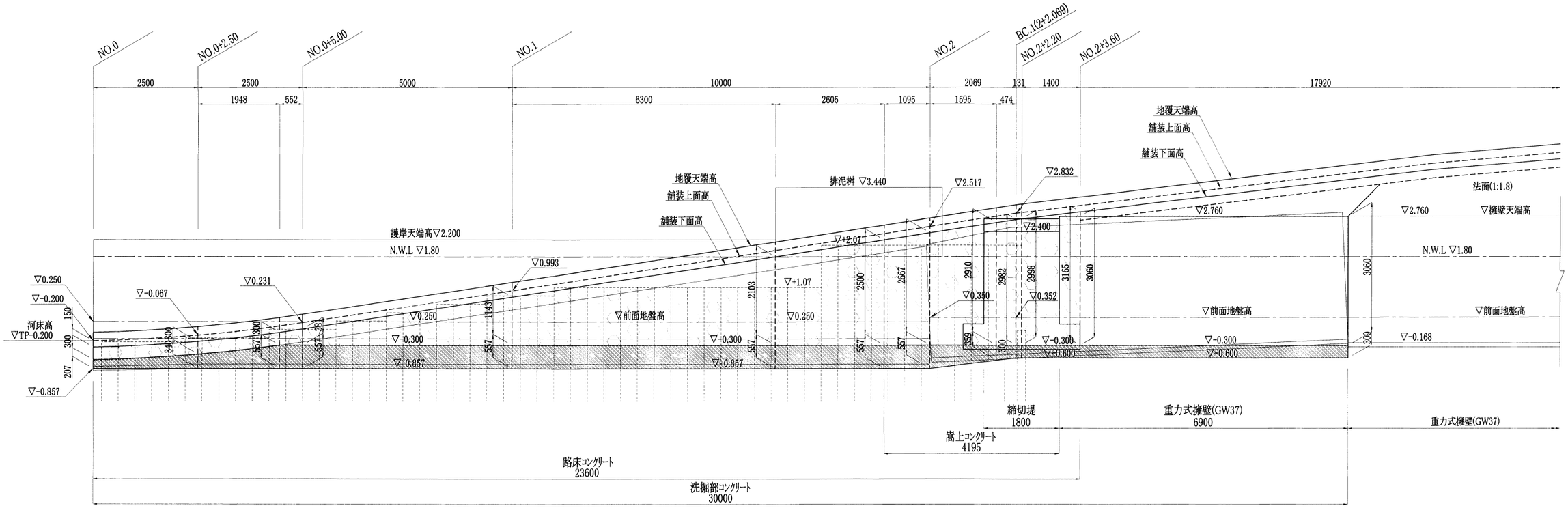


正　面　図　S=1:50



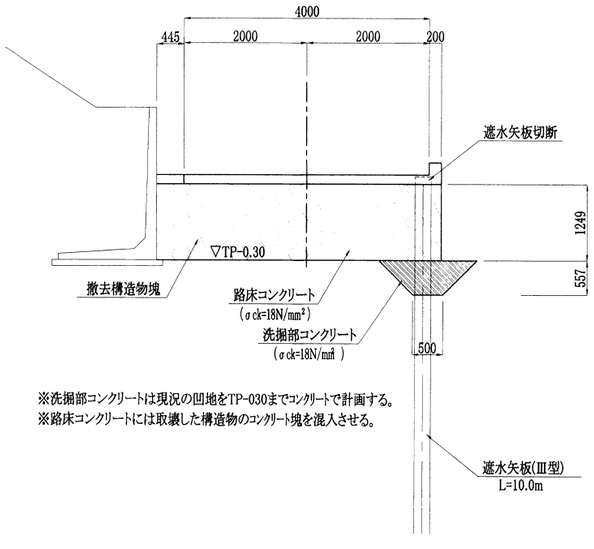
施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	第2導水路 締切堤図		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 図示	図面番号	8-56/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所		

第2導水路　進入路側面図・断面図



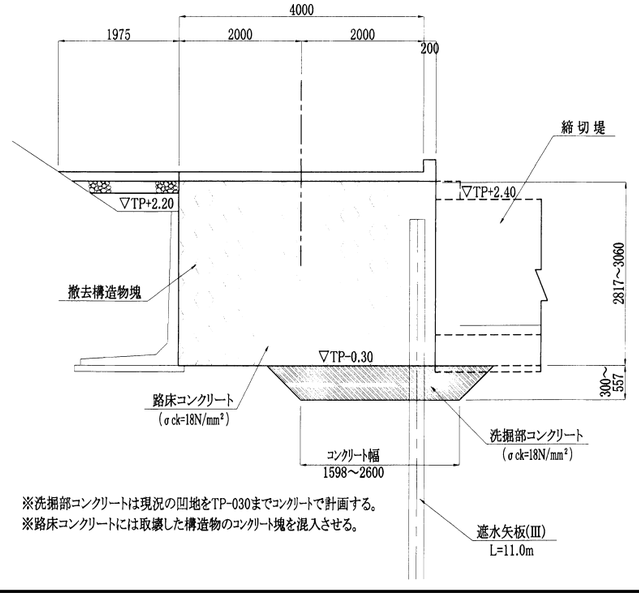
計 画 断 面 図 S=1:50

NO.0～NO.2+0.00



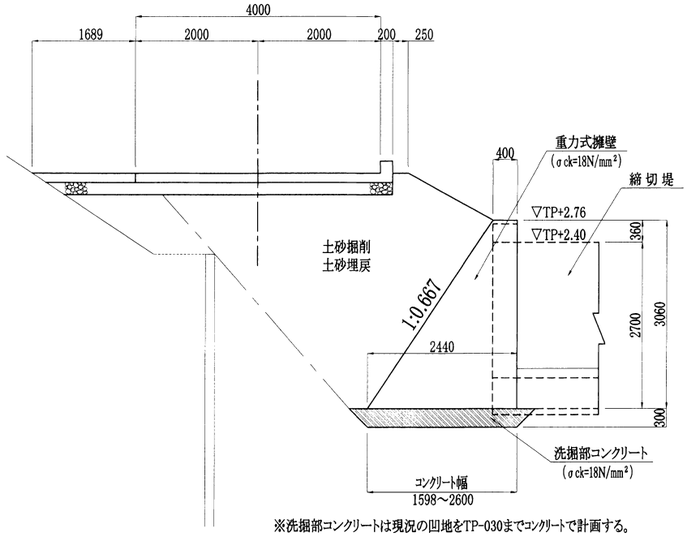
※洗掘部コンクリートは現況の凹地をTP-030までｺﾝｸﾘｰﾄで計画する。
※路床コンクリートには取壊した構造物のｺﾝｸﾘｰﾄ塊を混入させる。

NO.2+0.00～NO.2+3.60



※洗掘部コンクリートは現況の凹地をTP-030までｺﾝｸﾘｰﾄで計画する。
※路床コンクリートには取壊した構造物のｺﾝｸﾘｰﾄ塊を混入させる。

NO.2+3.60～　擁壁摺付部



※洗掘部コンクリートは現況の凹地をTP-030までｺﾝｸﾘｰﾄで計画する。

施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	第2導水路 進入路側面図・断面図		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 図示	図面番号	8-57/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所		

高圧引込柱予定位置
6．6kV 50Hz

東京電力㈱
引留鉄塔
予定位置

東京電力㈱ 大総線
66kV 50Hz 2回線

駐車場

車庫

薬品倉庫

明一道（付替道路）

河川境界線

φ1000井戸

搬入口

搬入スペース

階段

事務室

機械室

電気室

特高圧受電設備

除塵機格納庫

φ100冷却水ポンプ

沈砂池

石碑案内板

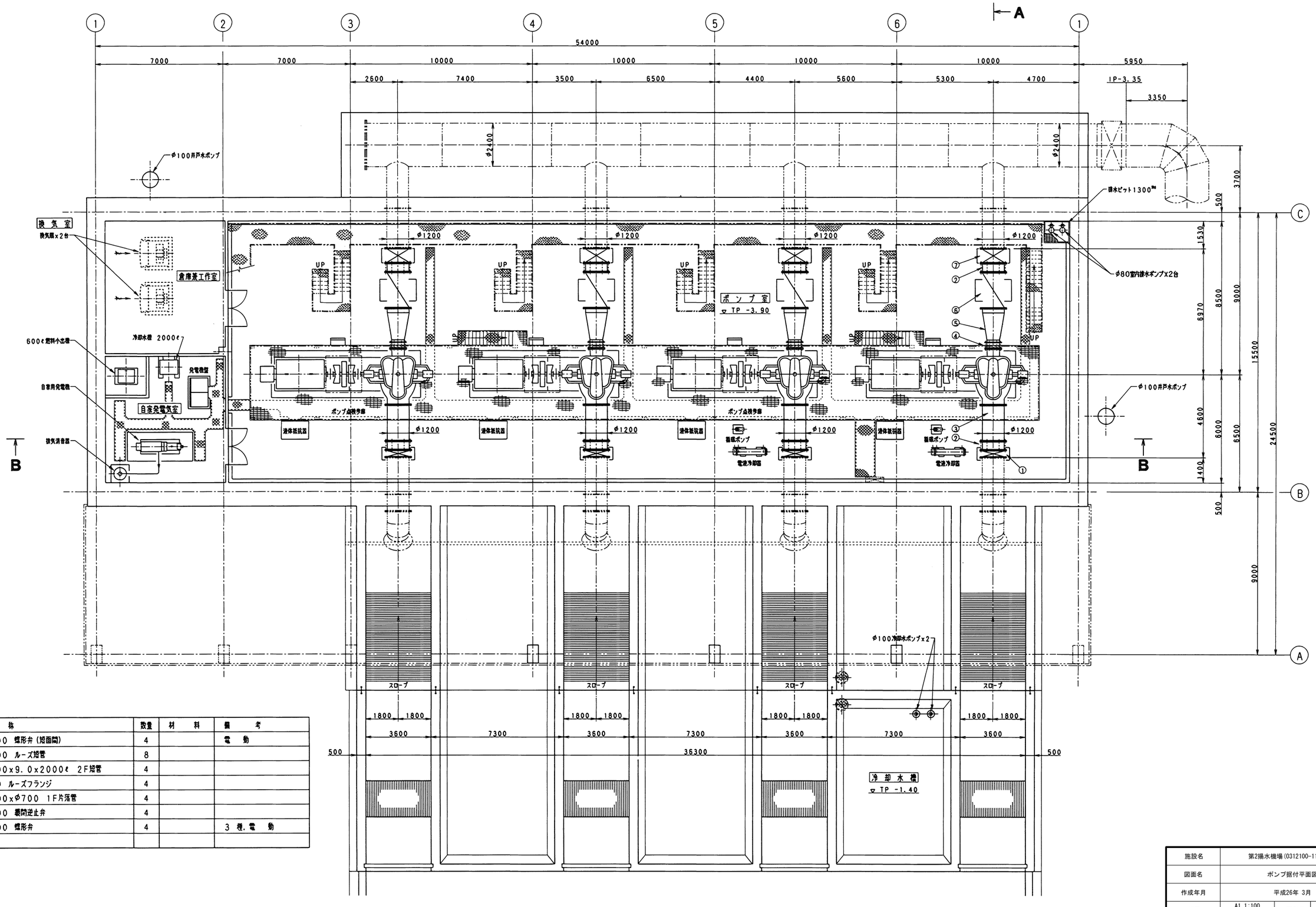
排泥弁

両総用水第2導水路

中之橋

三王堀

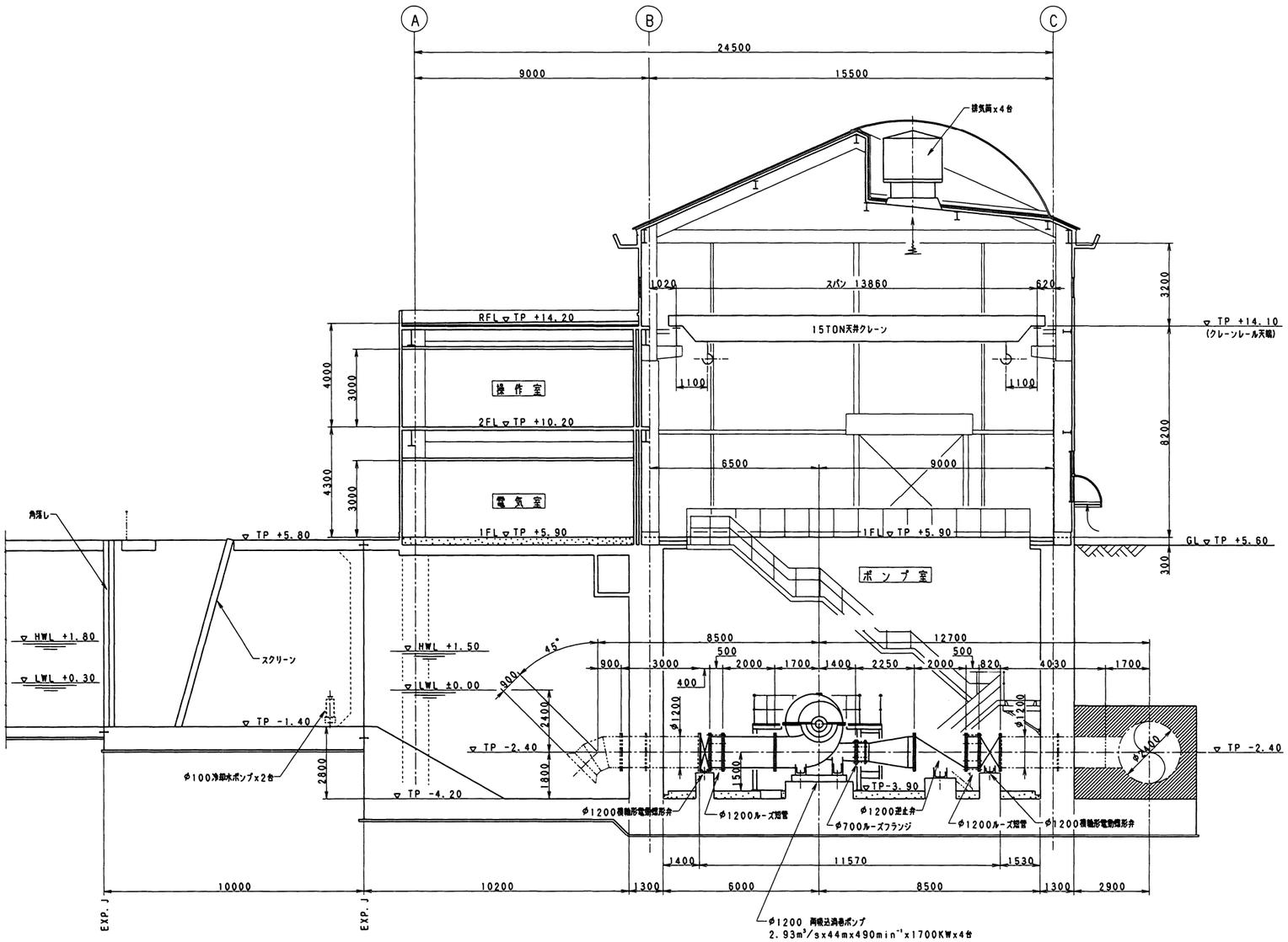
施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)
図面名	設備平面図
作成年月	平成26年 3月
縮尺	A1 1:300 A2 1:424
図面番号	8-58/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所



番号	名　　称	数量	材　料	備　　考
①	φ1200 蝶形弁（短面間）	4		電　動
②	φ1200 ルーズ短管	8		
③	φ1200x9.0x2000ℓ 2F短管	4		
④	φ700 ルーズフランジ	4		
⑤	φ1200xφ700 1F片落管	4		
⑥	φ1200 緩閉逆止弁	4		
⑦	φ1200 蝶形弁	4		3 種，電　動

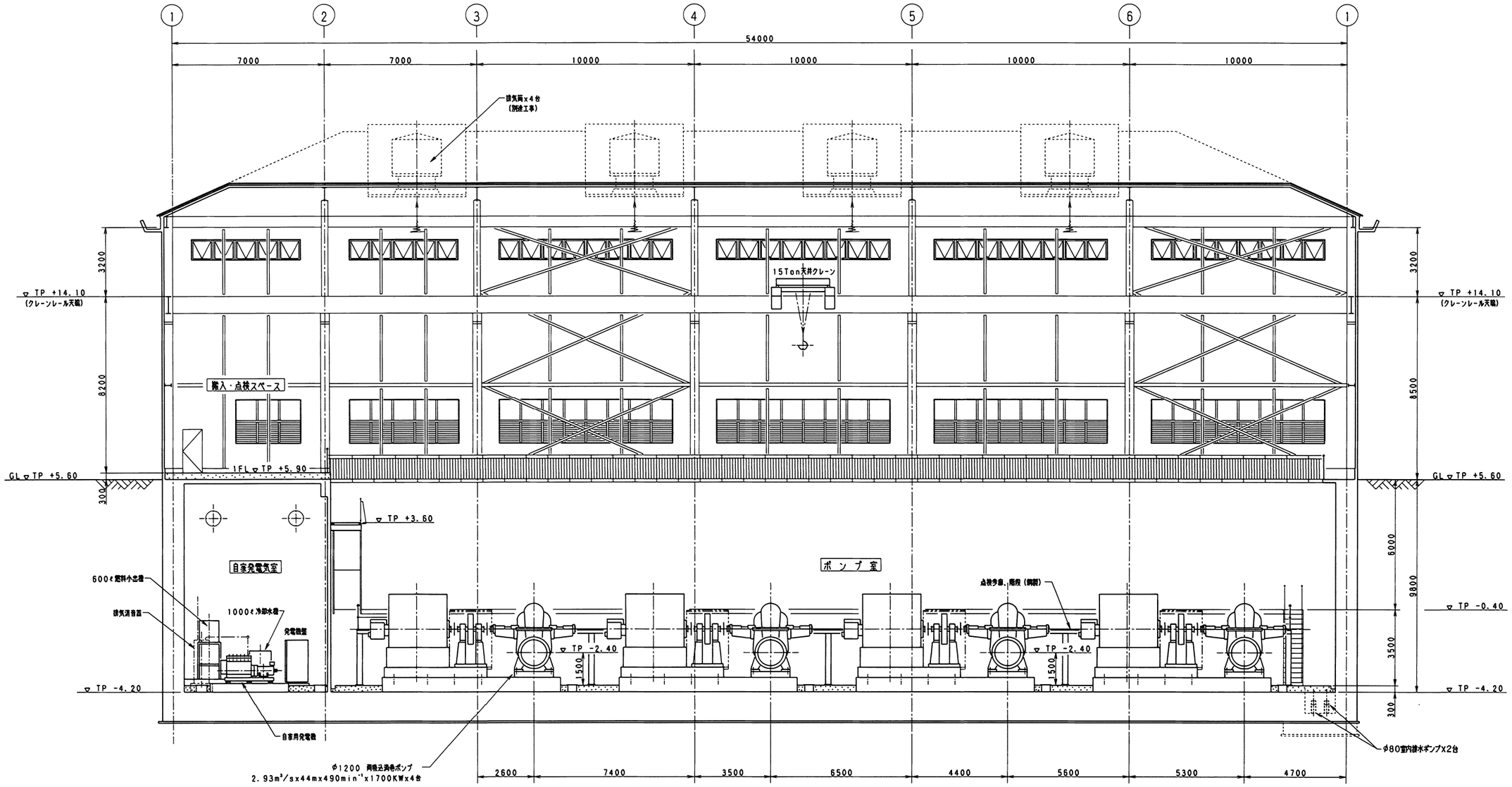
据 付 平 面 図

施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	ポンプ据付平面図		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 1:100 A2 1:141	図面番号	8-59/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所		



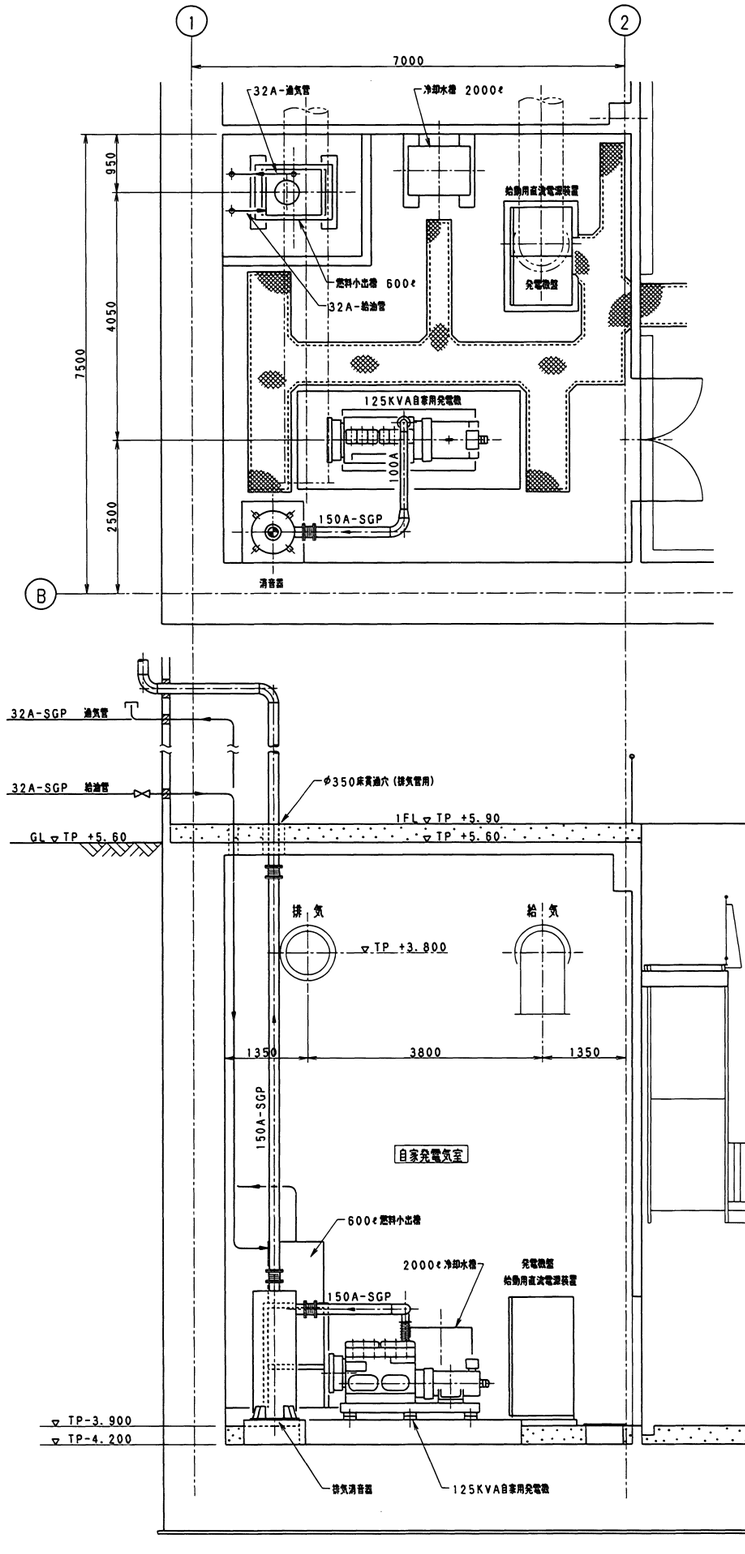
断面 A A

施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	ポンプ据付断面図(1/2)		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 1:100 A2 1:141	図面番号	8-60/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所		

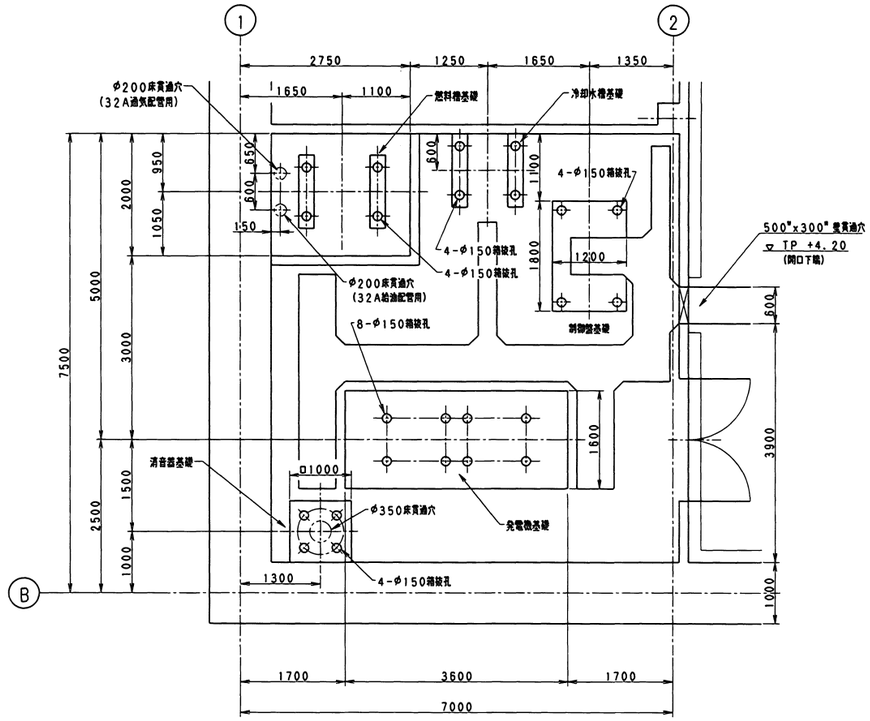


断 面 B B

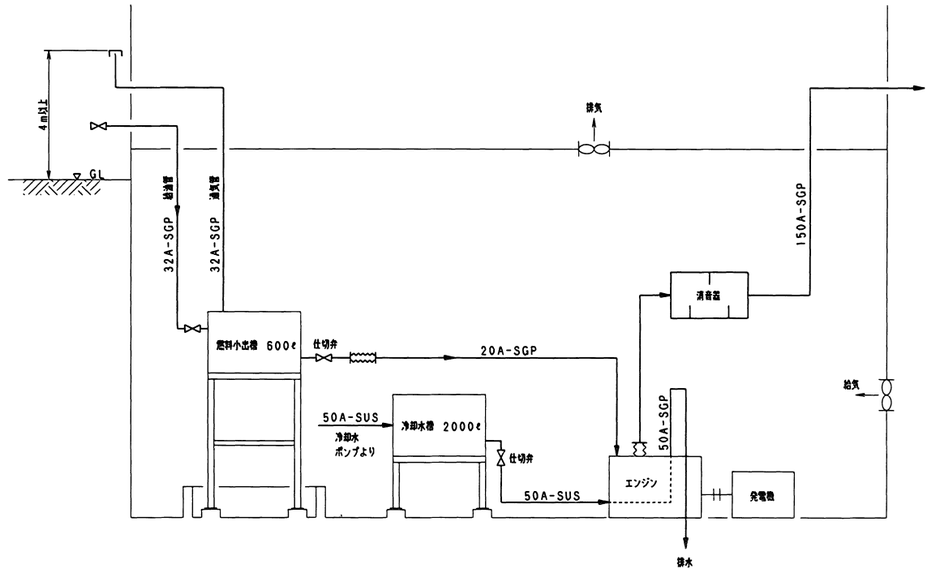
施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	ポンプ据付断面図(2/2)		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 1:100 A2 1:141	図面番号	8-61/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所		



自家発電気室配置図

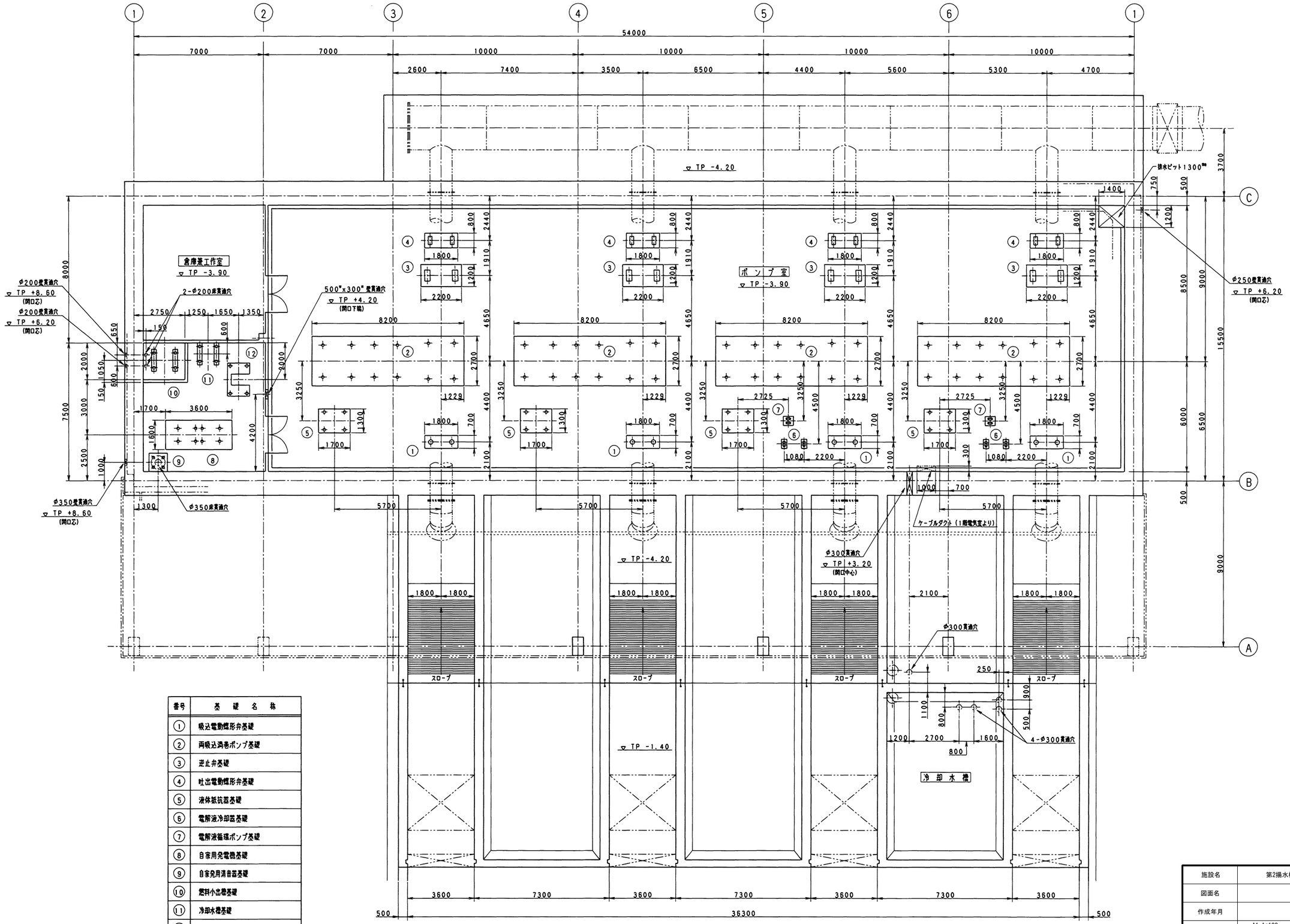


自家発電気室基礎図



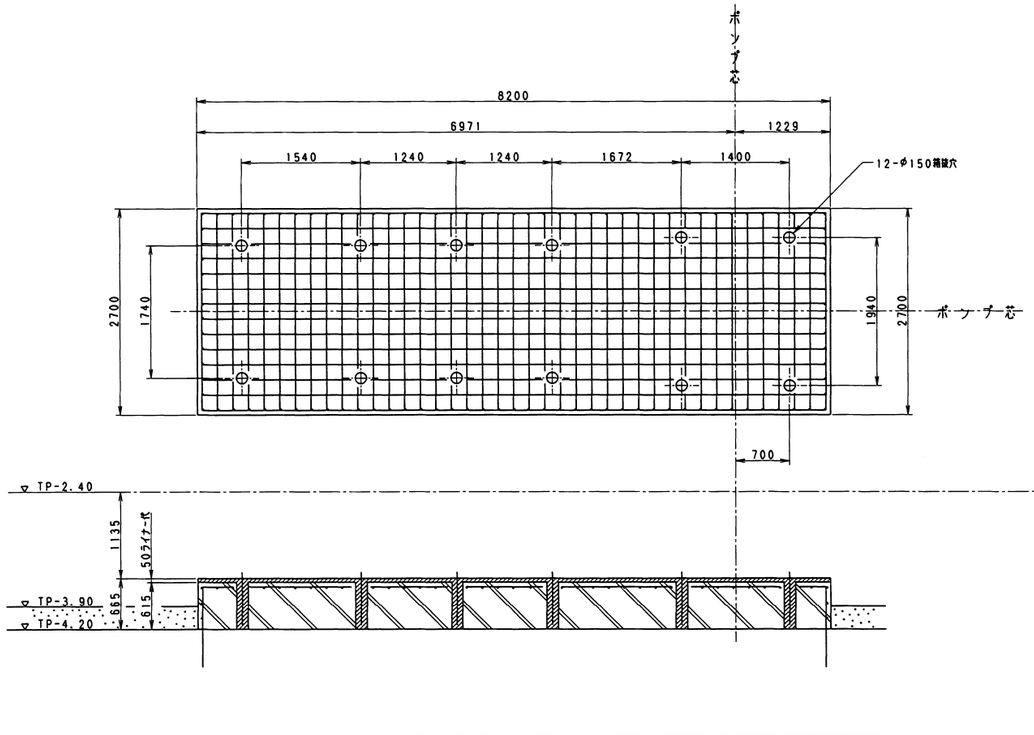
フローシート

施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	自家発電室詳細図		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 1:50 A2 1:70	図面番号	8-62/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所		



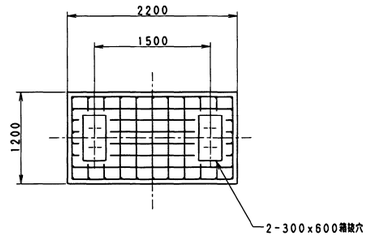
番号	基礎名称
①	吸込電動蝶形弁基礎
②	両吸込渦巻ポンプ基礎
③	逆止弁基礎
④	吐出電動蝶形弁基礎
⑤	液体抵抗器基礎
⑥	電解液冷却器基礎
⑦	電解液循環ポンプ基礎
⑧	自家用発電機基礎
⑨	自家発用消音器基礎
⑩	燃料小出槽基礎
⑪	冷却水槽基礎
⑫	発電機盤基礎

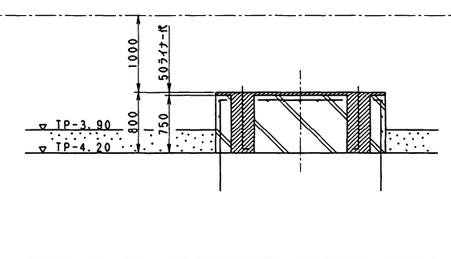
施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	基礎穴明図		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 1:100 A2 1:141	図面番号	8-63/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所		



② φ1200両吸込渦巻ポンプ基礎詳細図

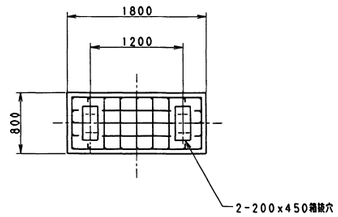
S=1:40

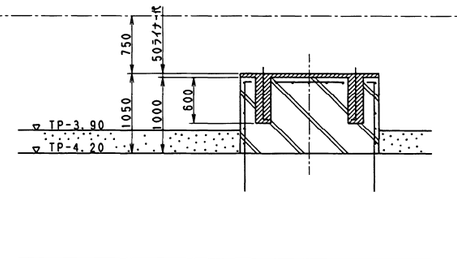




③ 逆止弁基礎詳細図

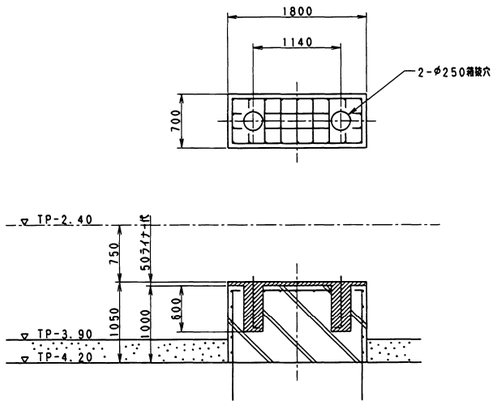
S=1:40





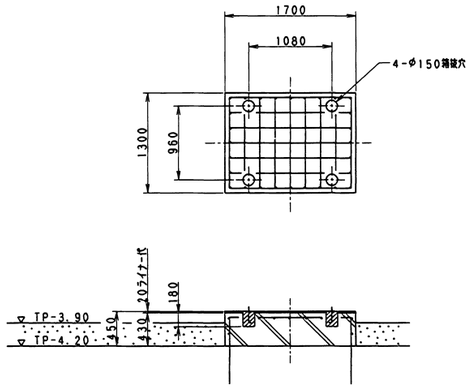
④ 電動蝶形弁基礎詳細図

S=1:40



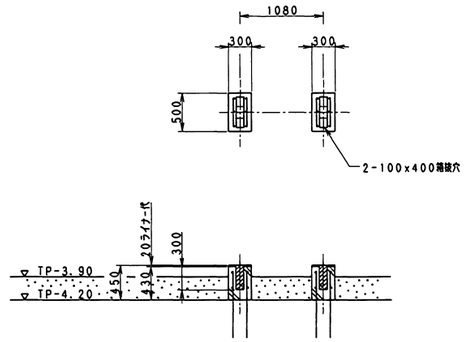
① 電動蝶形弁基礎詳細図

S=1:40



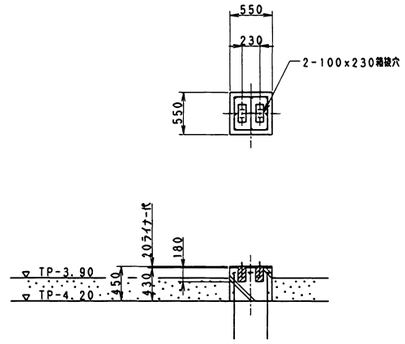
⑤ 液体抵抗器基礎詳細図

S=1:40



⑥ 電液冷却器基礎詳細図

S=1:40



⑦ 循環ポンプ基礎詳細図

S=1:40

基礎施工区分

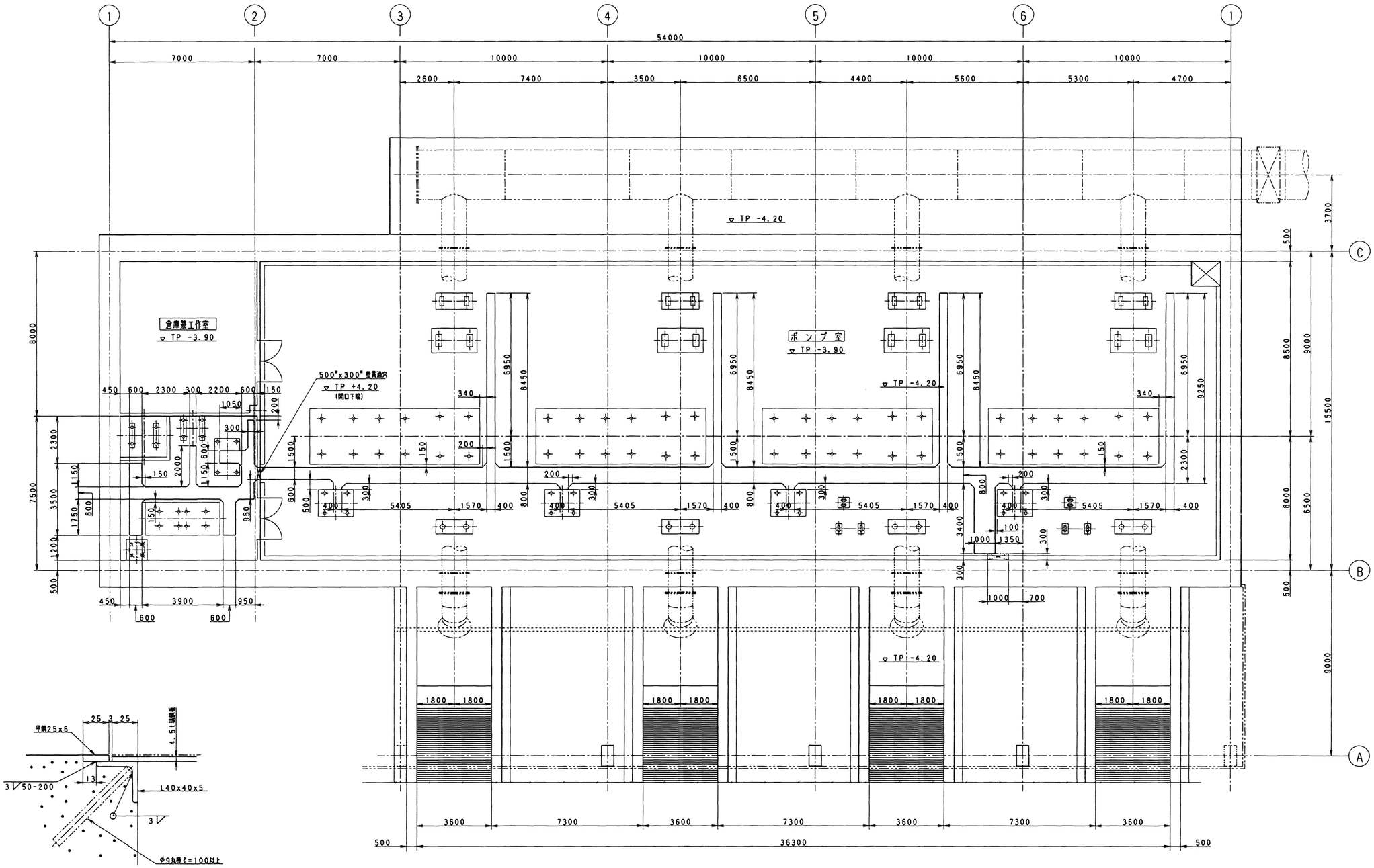
1) 部は一次コンクリート打設部を示す。 (土木工事)

2) 部は二次コンクリート打設部を示す。 (機械工事)

3) 部は機械据付後コンクリート打設部を示す。 (機械工事)

4) 部はシンダーコンクリート打設部を示す。 (機械工事)

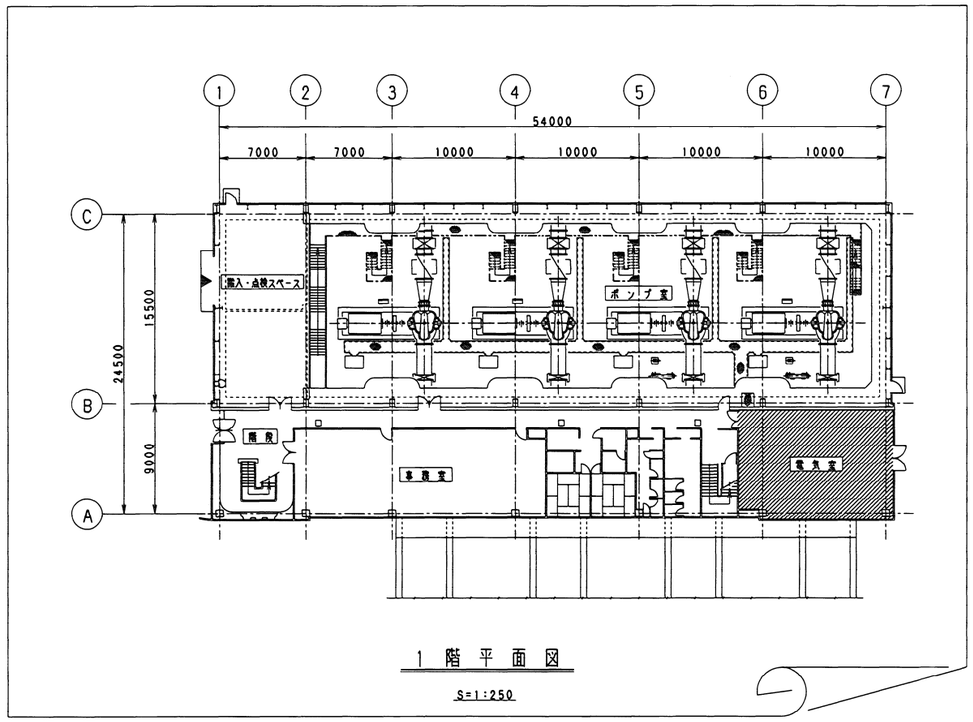
施設名	第2揚水機場 (0312100-1100-19)		
図面名	基礎詳細図		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 1:40 A2 1:56	図面番号	8-64/319
作成者	関東農政局 両総農業水利事業所		



ピットフチ金具 詳細図

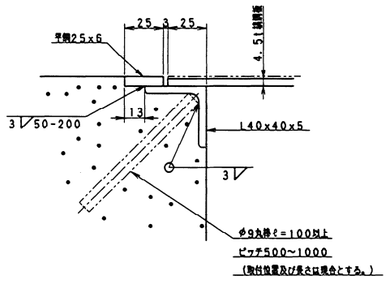
S=1/2

施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	ピット図		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 1:100 A2 1:141	図面番号	8-65/319
作成者	関東農政局 両総農業水利事業所		



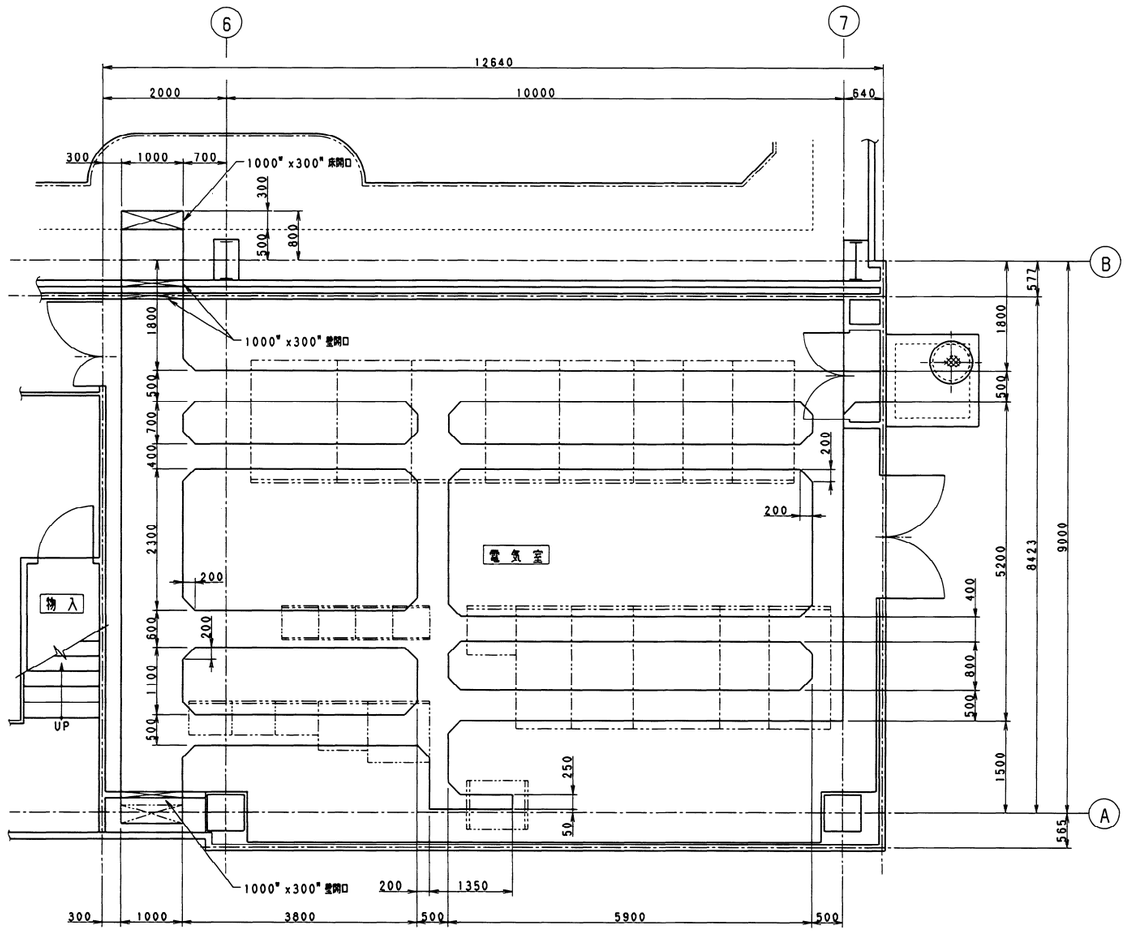
1 階 平 面 図

S=1:250



ピットフチ金具 詳細図

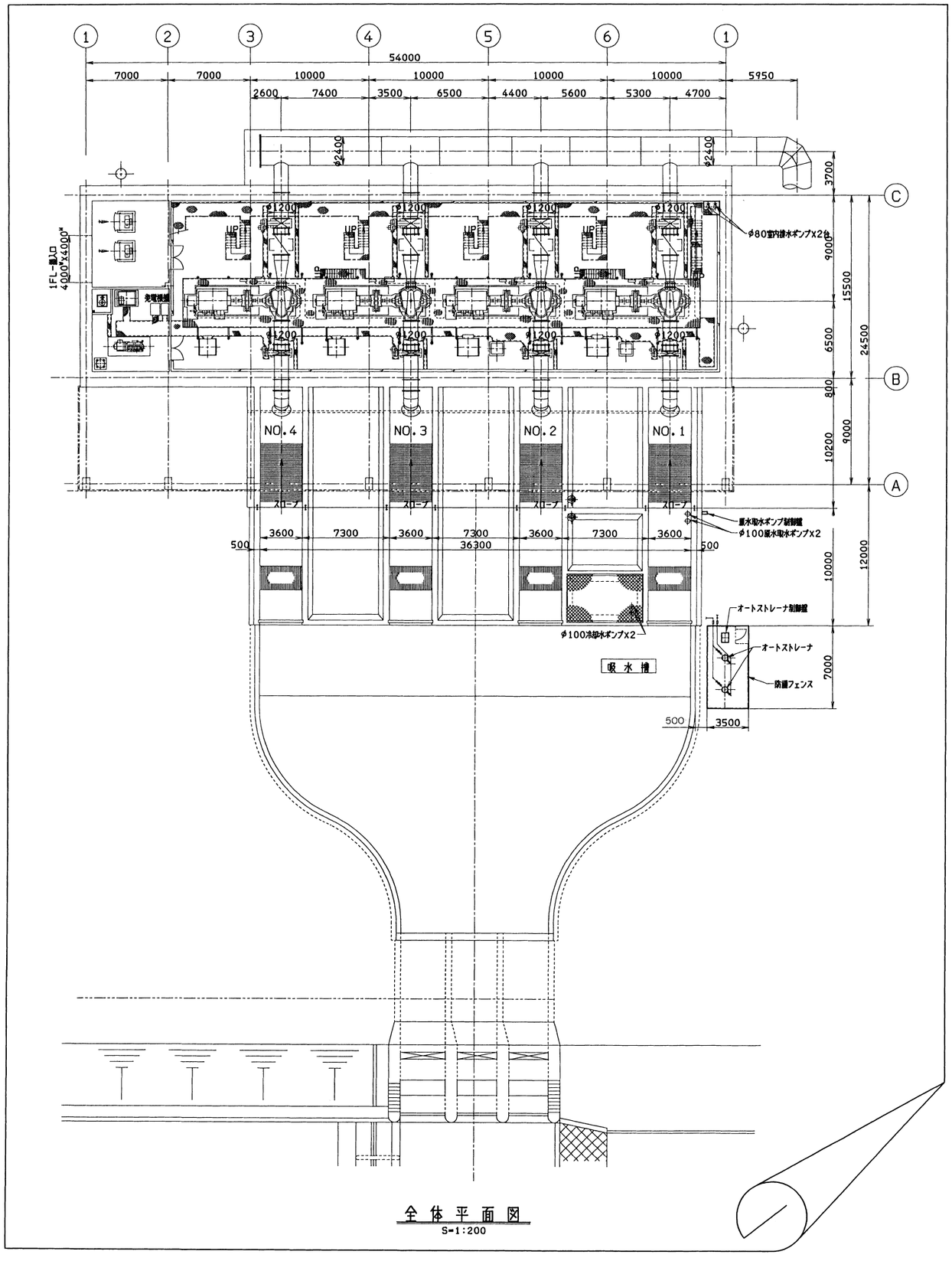
S=1/2



電 気 室 平 面 図

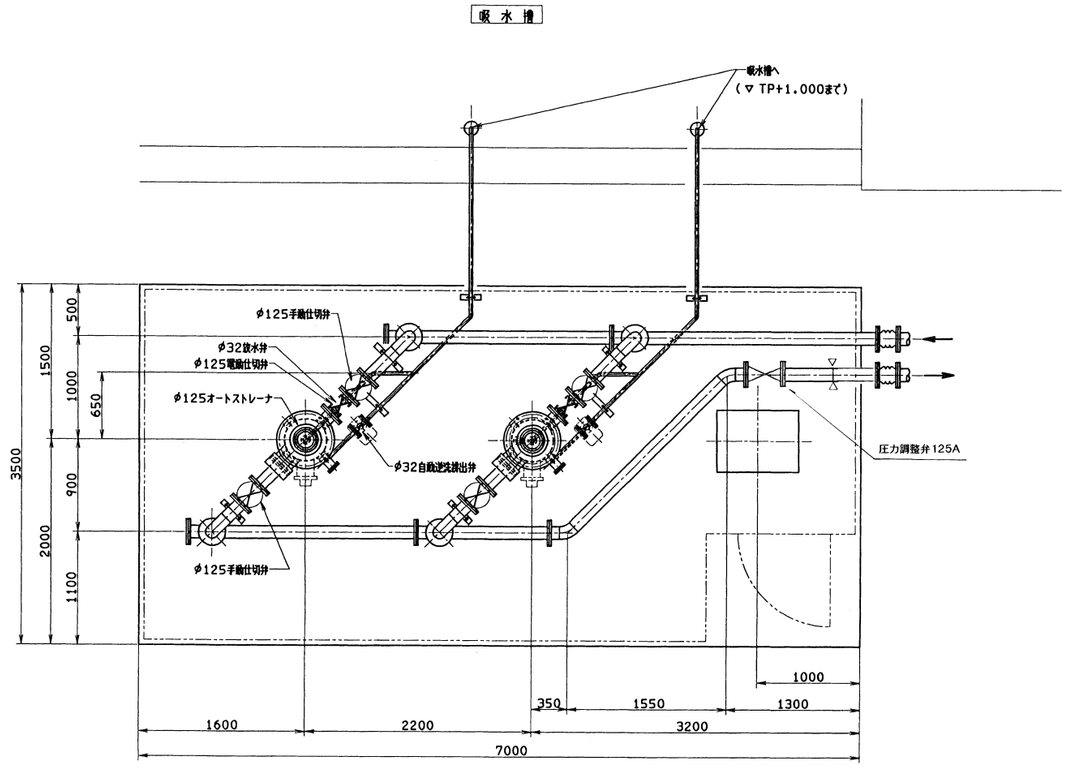
S=1:50

施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	電気室ピット図		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 図示	図面番号	8-66/319
作成者	関東農政局 両総農業水利事業所		



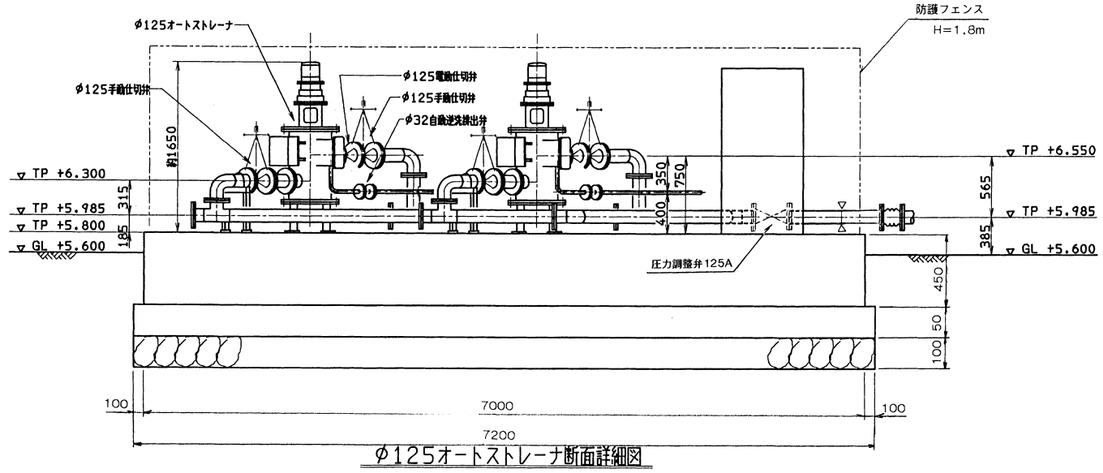
全体平面図

S=1:200



φ125オートストレーナ平面詳細図

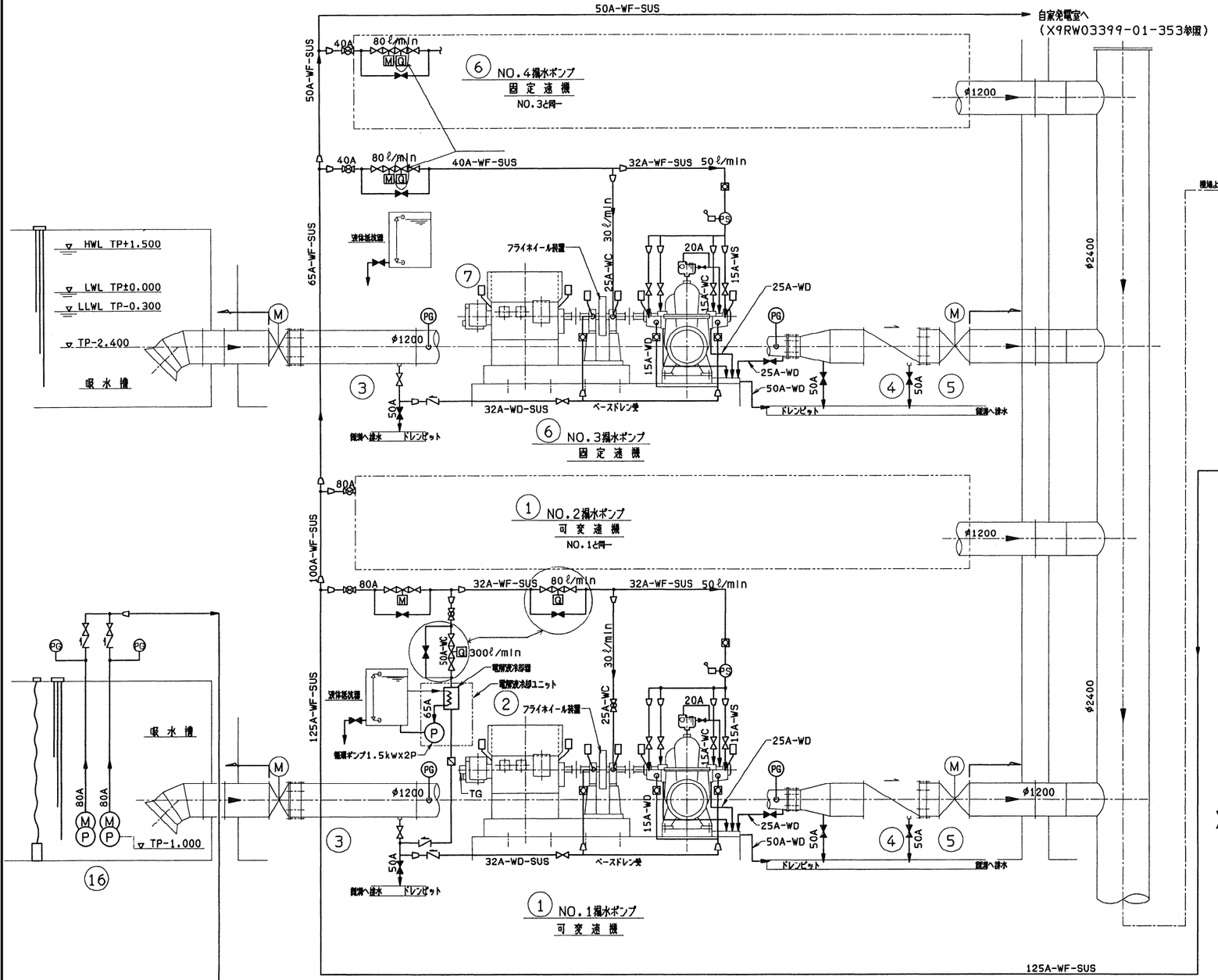
S=1/30



φ125オートストレーナ断面詳細図

S=1/30

施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	オートストレーナー配置図		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 図示	図面番号	8-67/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所		



配号説明

配管材料	説　明
SGP	配管用炭素鋼鋼管
SGPW	水道用亜鉛メッキ鋼管
STPG	圧力配管用炭素鋼鋼管
CuT	銅　管
SUS	配管用ステンレス鋼管

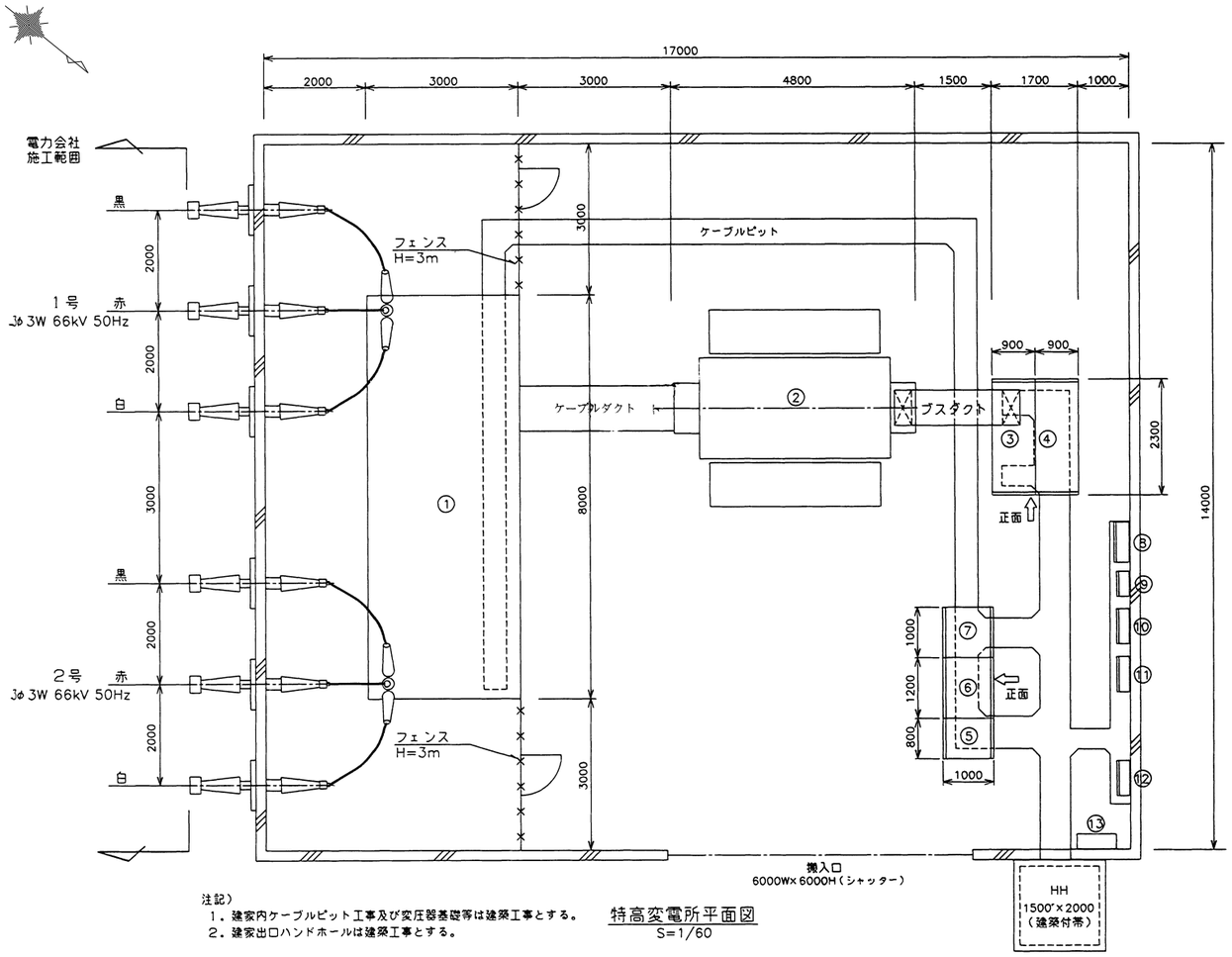
記　号	名　称
	仕切弁（常時開）
	仕切弁（常時閉）
	玉形弁（グローブ弁）
	逆止弁
M	電動弁
Q	定流量弁
	レジューサ
	伸縮継手
	熱交換器・クーラ
	ストレーナー
M	モータ駆動
	フローリレー
PS	圧力スイッチ
FS	フローサイト
PG	圧力計
	漏水検知器
	温度スイッチ
	自動排気弁
	フリクトレベルスイッチ
TG	回転計
	投込式水位計

記　号	流体名
A	空　気
WC	冷却水
WD	排　水
WF	給　水
WS	封　水

番　号	①		②		③		④		⑤		⑥		⑦		⑧	
名　称	NO.1, NO.2揚水ポンプ		NO.1, NO.2電動機		吸込弁		逆止弁		吐出弁		NO.3, NO.4揚水ポンプ		NO.3, NO.4電動機		冷却水ポンプ	
型　式	φ1200xφ700両吸込渦巻ポンプ		竪軸形三相誘導		短面間電動蝶形弁		バイパス組閉式		電動蝶形弁		φ1200xφ700両吸込渦巻ポンプ		竪軸形三相誘導電動機		φ80水中ポンプ	
仕　様	2.93m³/secx44mx493min⁻¹		12Px3000V		φ1200		φ1200		φ1200		2.93m³/secx44mx493min⁻¹		12Px3000V		1.0m³/mx25m	
動　力	-		1700kw(流体抵抗器短絡時)		1.5kwx4P		-		2.2kwx4P		-		1700kw		7.5kwx2P	
台数 全体	2	-	2	-	4	-	4	-	4	-	2	-	2	-	2	1
備　考	1200x700CDM(可変速機)		流体抵抗器100X3相:1549kwx475min⁻¹				CVDB-1200				1200x700CDM(固定速機)				80BMS57.5	

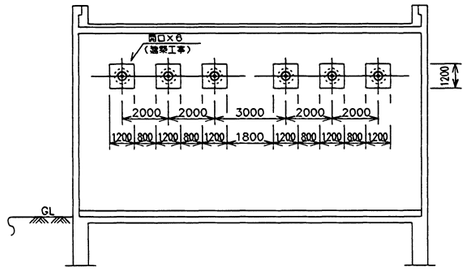
番　号	⑨		⑩		⑪		⑫		⑬		⑭		⑮		⑯	
名　称	井戸水ポンプ		室内排水ポンプ		天井クレーン		吐水槽流入弁		吐水槽流出弁		吐水流量計		オートストレーナ		原水取水ポンプ	
型　式	φ100水中ポンプ		φ80水中ポンプ		電動式ダブルレールホイスト形		電動蝶形弁		電動蝶形弁		超音波流量計		自圧逆洗式		φ100水中ポンプ	
仕　様	1.2m³/mx20m		0.3m³/mx15m		15ton揚程17.725m 走行距離54m		φ2400		φ2600		φ2600				1.2m³/mx20m	
動　力	7.5kwx2P		3.7kwx4P		8.5kw, 0.75kw, 1.5kwx2		1.5kwx4P		2.2kwx4P		-		0.4kwx4P		7.5kwx4P	
台数 全体	2	1	2	1	1	-	1	-	1	-	1	-	2	1	2	1
備　考	100BHS357.5		80DL53.7													

施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)
図面名	配管図
作成年月	平成26年 3月
縮尺	-
図面番号	8-68/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所



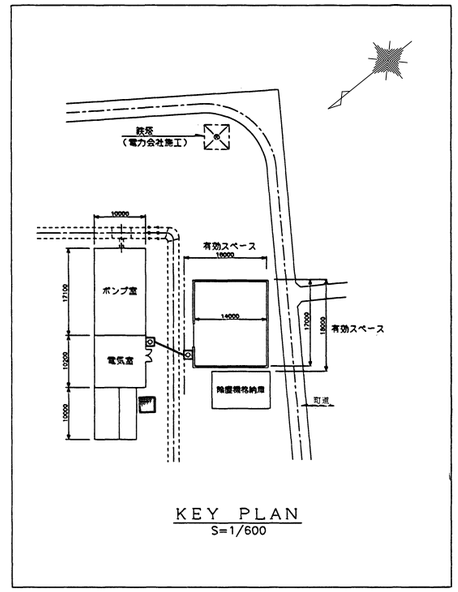
注記）
1．建家内ケーブルピット工事及び変圧器基礎等は建築工事とする。
2．建家出口ハンドホールは建築工事とする。

特高変電所平面図
S=1/60

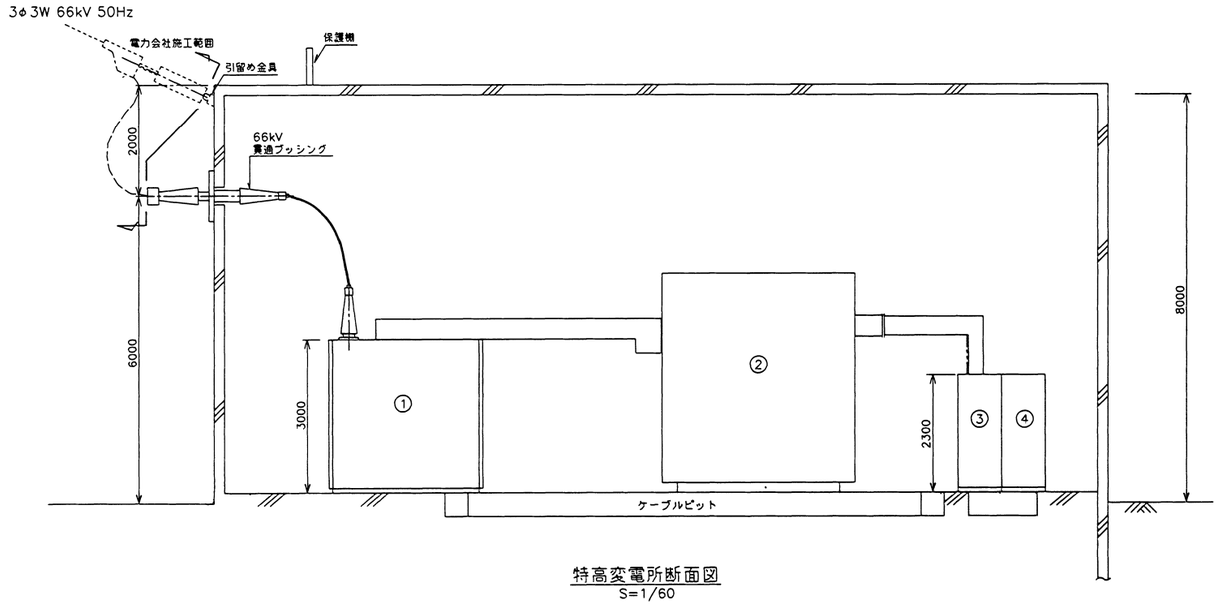


壁抜ブッシング用穴開け図

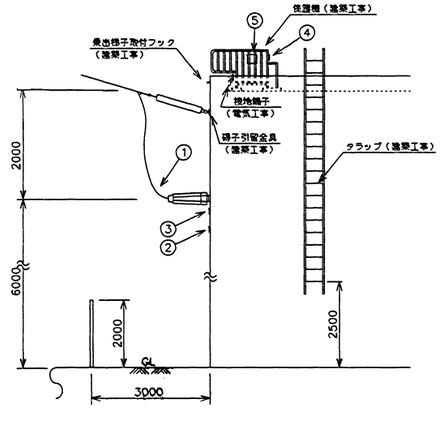
記号	名称	備考
①	72 kV C-GIS	2回線受電 VCT取付スペース含む
②	変圧器 (66kV/3.3kV 8000kVA)	
③	主変圧器二次盤	
④	コンデンサ盤	
⑤	特高保護継電器盤	
⑥	補助継電器盤	
⑦	特高監視操作盤	
⑧	計量器盤	電力会社支給品
⑨	通信設備盤	〃
⑩	受電状態自動伝達用信号伝送装置	〃
⑪	受電状態自動伝達用検出装置 （PCT情報検出用）	〃
⑫	動力・照明分電盤	
⑬	接地端子箱	



KEY PLAN
S=1/600



特高変電所断面図
S=1/60

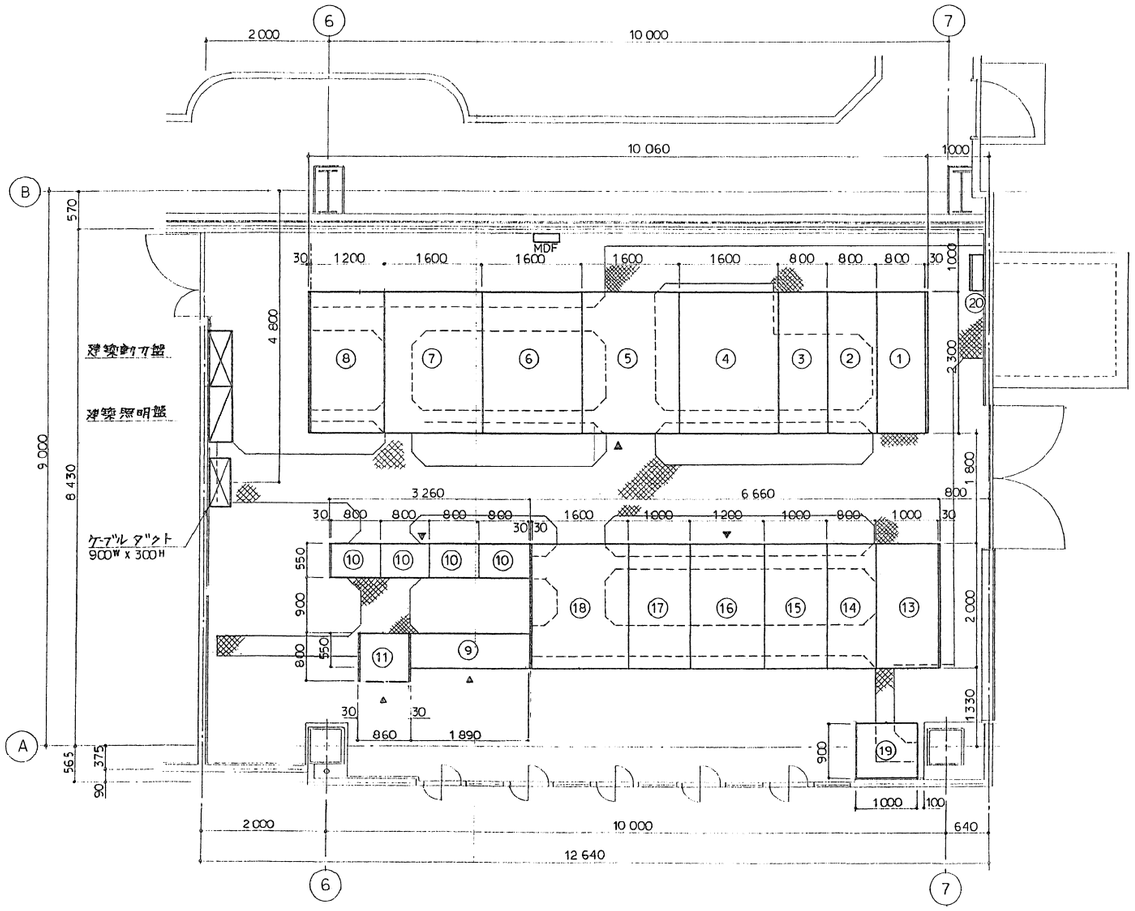


NO.	品　名
1	WB野外梯子用アダプター
2	銘名札
3	センス札
4	タブレット
5	通り抜け禁止札

引込部壁詳細図

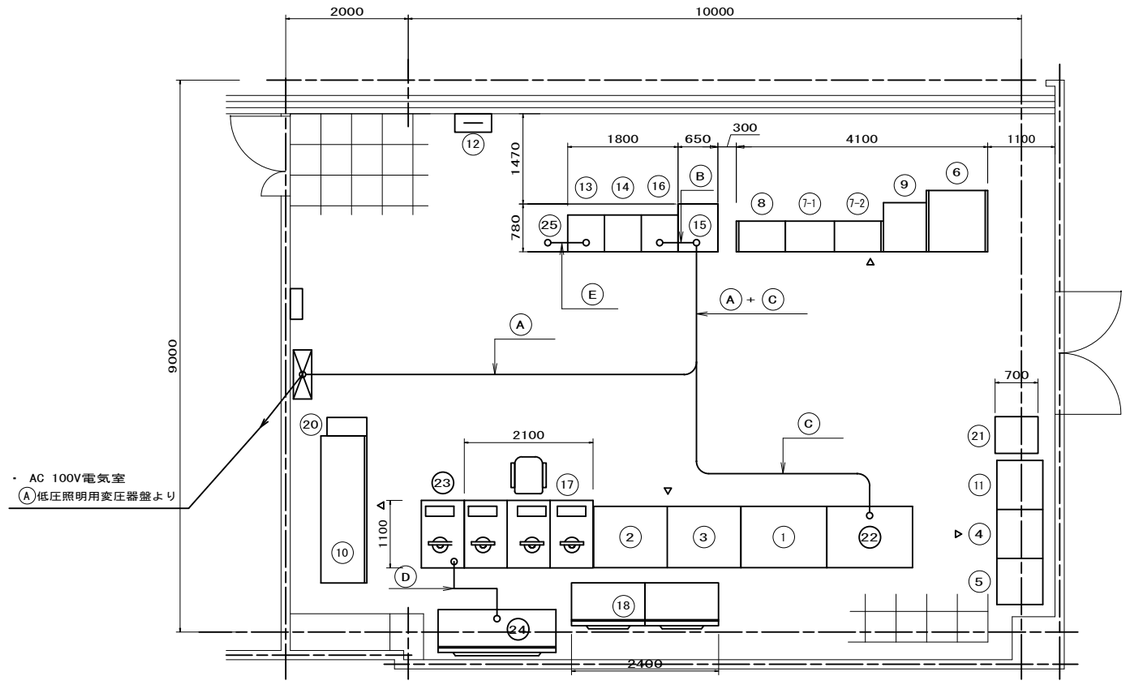
施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	特高設備配置図		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 図示	図面番号	8-69/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所		

電気室 盤配置図(1F)



記号	名称	備考
①	3KV 引込盤	
②	NO.1/2 高圧電動機盤	
③	NO.3/4	
④	NO.1 コンデンサ盤	
⑤	NO.2	
⑥	NO.3	
⑦	NO.4	
⑧	低圧動力用変圧器盤	
⑨	コントロールセンター	
⑩	補助継電器盤	
⑪	中継端子盤	
⑫	自動制御盤	2F操作室に据付
⑬	引込盤	
⑭	受電盤	
⑮	変圧器盤	
⑯	主幹分岐盤	
⑰	低圧照明用変圧器盤	
⑱	動力盤	
⑲	直流電源盤	
⑳	接地端子箱	

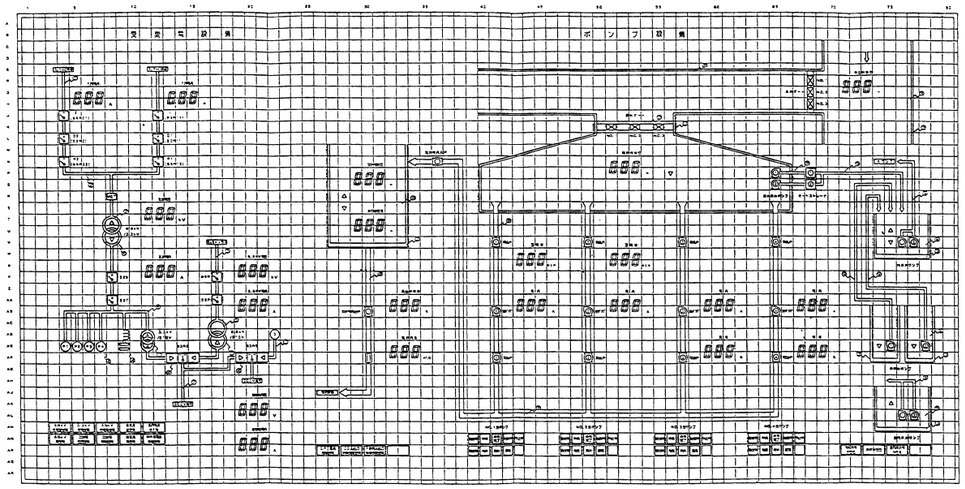
操作室配置図 S=1:50



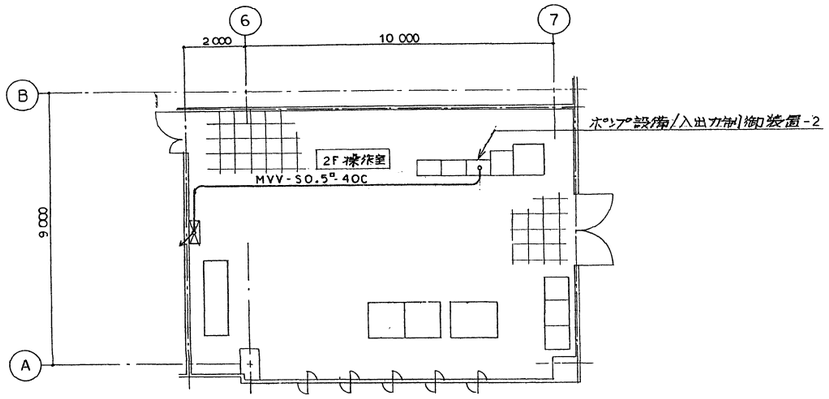
機器名称

記号	名称	備考
①	ITV監視操作卓	既設
②	監視操作卓	H25年度更新
③	CRT監視卓	H25年度更新
④	ロギングプリンタ	H25年度更新
⑤	アナウンスメントプリンタ	H25年度更新
⑥	自動制御盤	既設
⑦-1	ポンプ設備/入出力制御装置1	H25年度更新
⑦-2	ポンプ設備/入出力制御装置2	H25年度更新
⑧	監視操作卓/入出力制御装置	既設
⑨	画像警報制御盤	既設
⑩	無停電電源装置	既設
⑪	カラーハードコピー	H25年度更新
⑫	電話端子箱	既設
Ⓐ	低圧照明用 変圧器盤	既設
⑬	入出力処理盤	既設
⑭	TM・TC親局装置盤	既設
⑮	TM親局装置盤	H25年度
⑯	データ処理盤	既設
⑰	表示記録端末卓 ・第3機場画像監視端末	既設
⑱	大型ディスプレイ (2台)	既設
⑲	警報盤	既設
⑳	無停電電源装置(水管理用)	既設
㉑	プリンタ装置	既設
㉒	監視端末	H25年度
㉓	映像監視端末	H25年度
㉔	大型表示装置 (50型ディスプレイ)	H25年度
㉕	Webサーバ装置	H25年度

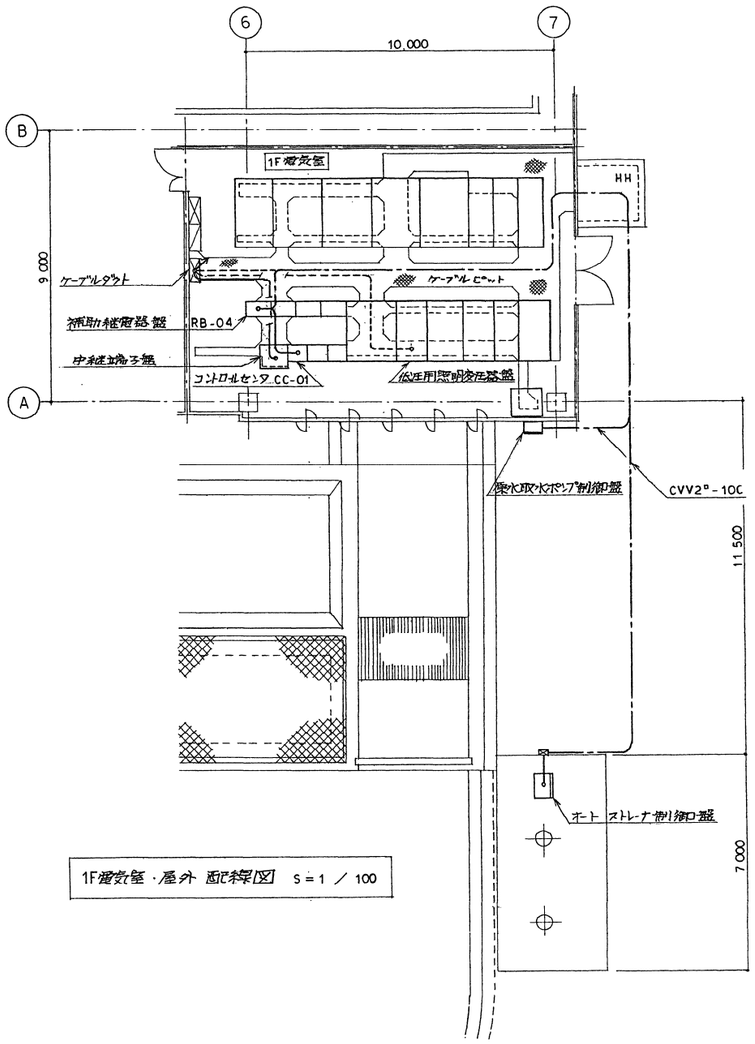
施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	電気室機器配置図		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 1:50 A2 1:70	図面番号	8-70/319
作成者	関東農政局 両総農業水利事業所		



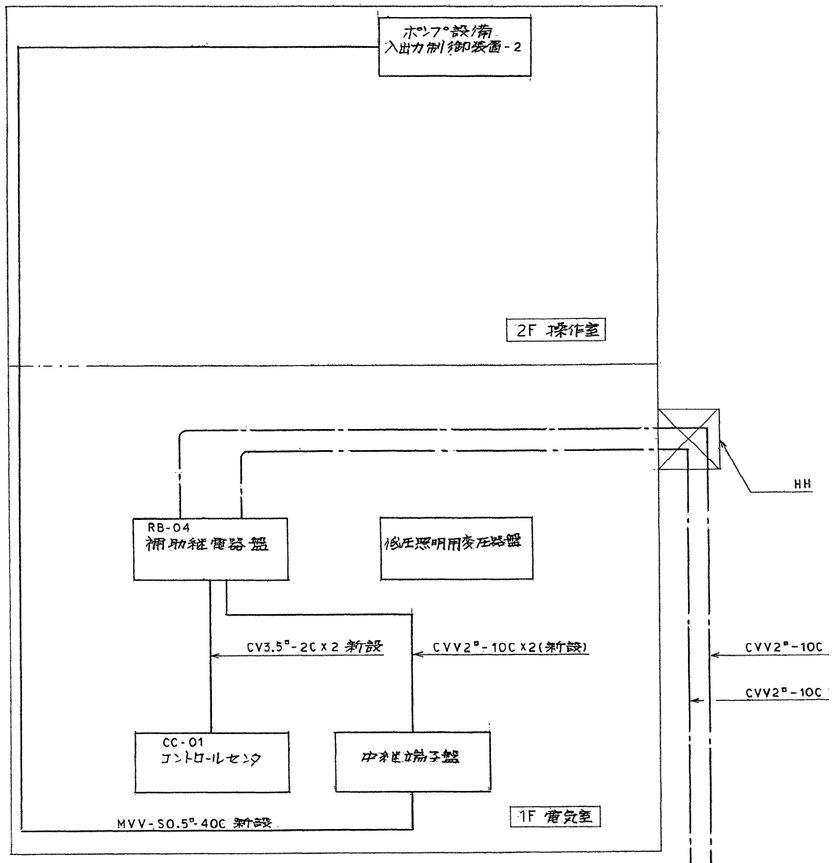
施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	グラパネ正面図		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 1:200 A2 1:283	図面番号	8-71/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所		



2F操作室　面で線図　S=1 ／ 100



1F電気室・屋外 配線図　S=1 ／ 100



面で線系統図　S=NONE

施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	配線図		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 図示	図面番号	8-72/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所		

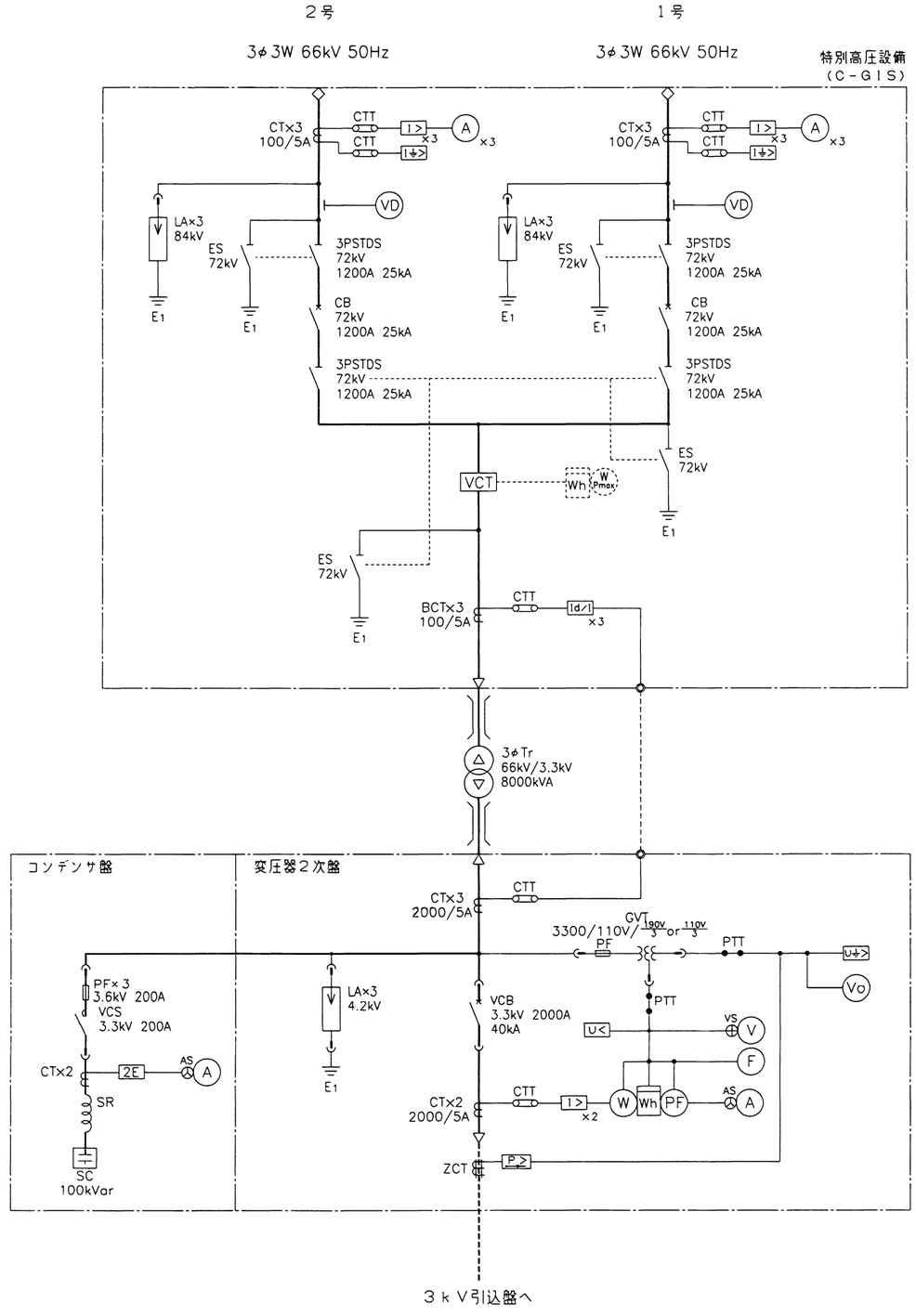
NO.	項目名称		信号種別	制御						監視表示						信号経路										備考
	負荷名称	信号名称								MCC遠隔操作(ｸﾞﾙｰﾌﾟ)	CRT	アナウンスメント				RB04 → TB01	TB01 → SQC-2 (K330)	SQC-2 → CRT-1 (K360)	SQC-2 → WGPC-1 (K330)	WGPC-1 → WGP (ｸﾞﾙｰﾌﾟ)						
01	No. 1オートストレーナ	運転	J							○	○					○	○	○	○	○						
02	No. 1オートストレーナ	故障	G									○				○	○	○								
03	No. 1オートストレーナ	差圧過大	G									○				○	○	○								
04	オートストレーナ主幹	ELCBトリップ	G									○				○	○	○								No. 2と共通
05	オートストレーナC／C	故障	G									○				○	○	○								No. 2と共通
06																										
07																										
08	No. 2オートストレーナ	運転	J							○	○					○	○	○	○	○						
09	No. 2オートストレーナ	故障	G									○				○	○	○								
10	No. 2オートストレーナ	差圧過大	G									○				○	○	○								
11	オートストレーナ主幹	ELCBトリップ	G									○				○	○	○								No. 1と共通
12	オートストレーナC／C	故障	G									○				○	○	○								No. 1と共通
13																										
14																										
15																										
16																										

S	制御
J	状態
G	重故障
K	軽故障
L	ロジック

NO.	項目名称		信号種別	制御						監視表示						信号経路										備考
	負荷名称	信号名称								MCC遠隔操作(ｸﾞﾙｰﾌﾟ)	CRT	アナウンスメント				RB04 → TB01	TB01 → SQC-2 (K330)	SQC-2 → CRT-1 (K360)	SQC-2 → WGPC-1 (K330)	WGPC-1 → WGP (ｸﾞﾙｰﾌﾟ)						
01	No. 1原水取水ポンプ	運転	J							○	○					○	○	○	○	○						
02	No. 1原水取水ポンプ	故障	G									○				○	○	○								
03	原水取水ポンプC／C	故障	G									○				○	○	○								No. 2と共通
04																										
05																										
06	No. 2原水取水ポンプ	運転	J							○	○					○	○	○	○	○						
07	No. 2原水取水ポンプ	故障	G									○				○	○	○								
08	原水取水ポンプC／C	故障	G									○				○	○	○								No. 1と共通
09																										
10																										
11																										
12																										
13																										
14																										
15																										
16																										

S	制御
J	状態
G	重故障
K	軽故障
L	ロジック

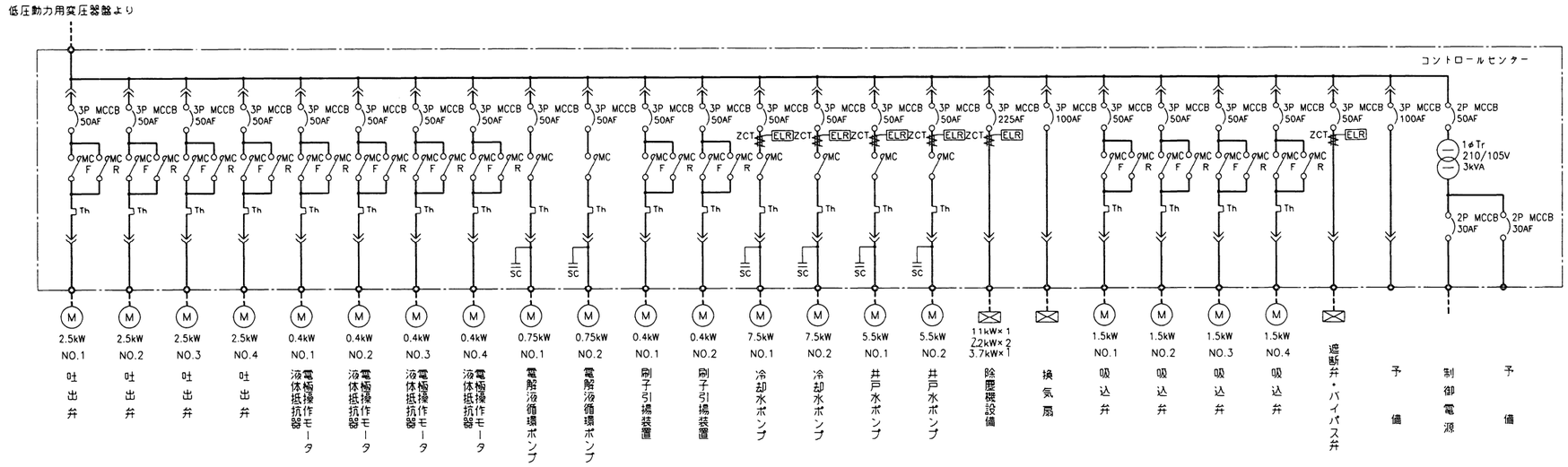
施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	信号項目表		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	－	図面番号	8-73/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所		

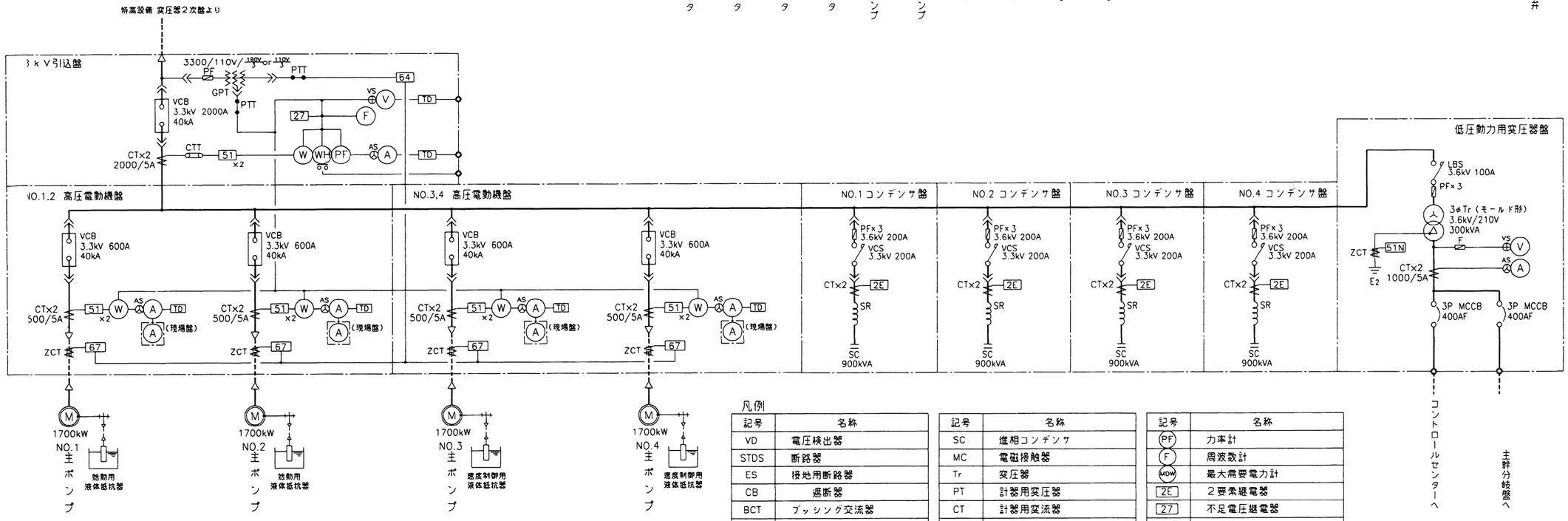


凡例

記号	名称
(A)	電流計
(V)	電圧計
(W)	電力計
(WH)	積算電力計
(F)	周波数計
(PF)	力率計
(MDW)	最大需要電力計
(Vo)	零相電圧計
(VD)	検電器
CB	交流遮断器
BCT	ブッシング変流器
CT	変流器
GVT	接地形計器用変圧器
VCT	計器用変圧変流器
ZCT	零相変流器
Tr	変圧器
DS	断路器
ES	接地用断路器
AS	電流計用切換開閉器
VS	電圧計用切換開閉器
LA	避雷器
PF	電力ヒューズ
U<	不足電圧継電器
I>	過電流継電器
I0>	地絡過電流継電器
U0>	地絡過電圧継電器
P>	地絡方向継電器
2E	2要素継電器
Id/I	比率差動継電器

施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	単線結線図(1/3)		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	-	図面番号	8-74/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所		





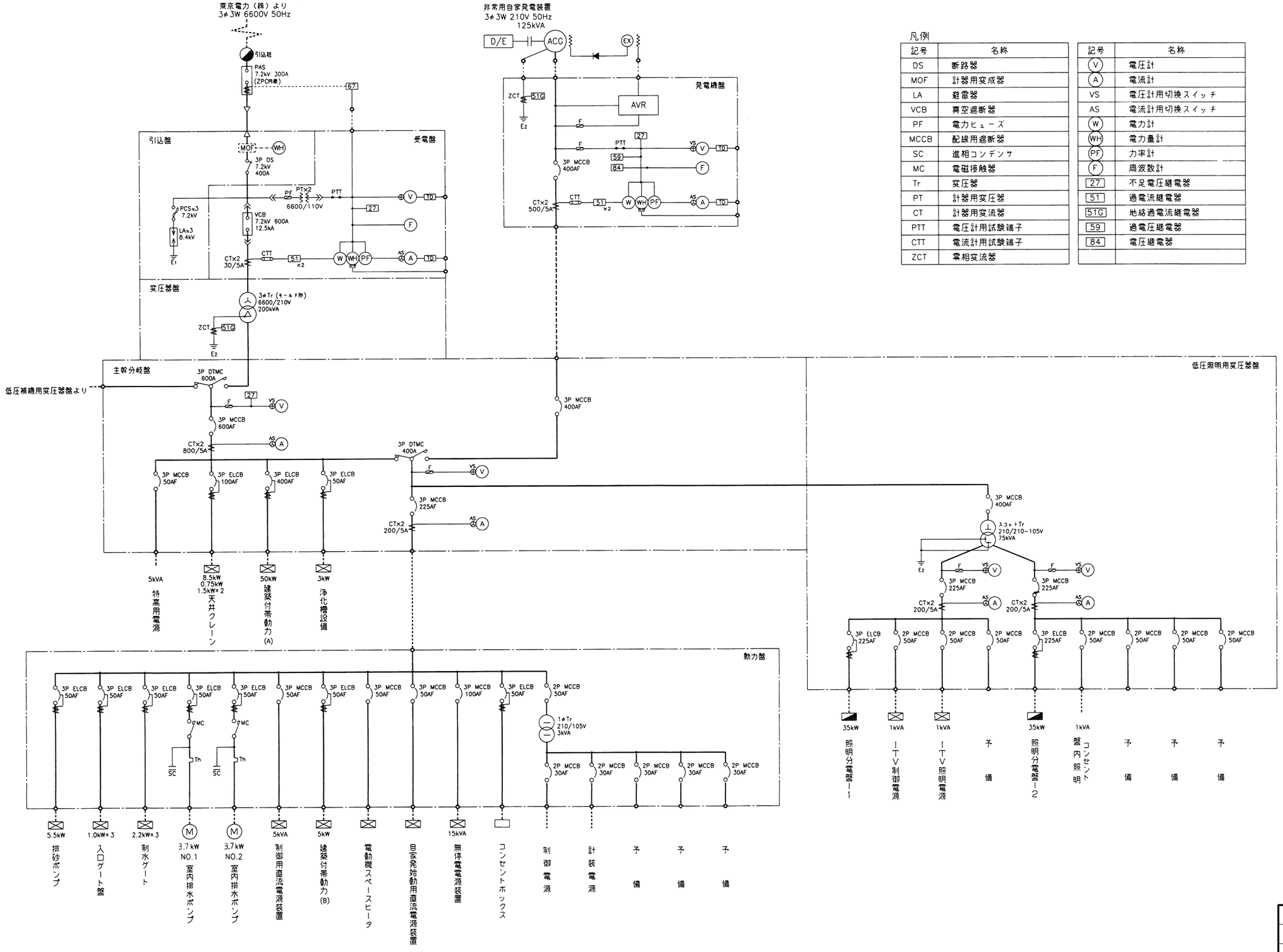
凡例

記号	名称
VD	電圧検出器
STDS	断路器
ES	接地用断路器
CB	遮断器
BCT	ブッシング変流器
MOF	計器用変成器
GPT	接地形計器用変成器
LA	避雷器
VCB	真空遮断器
VCS	真空開閉器
PF	電力ヒューズ
LBS	負荷開閉器
MCCB	配線用遮断器
SX	直列リアクトル

記号	名称
SC	進相コンデンサ
MC	電磁接触器
Tr	変圧器
PT	計器用変圧器
CT	計器用変流器
PTT	電圧計用試験端子
CTT	電流計用試験端子
ZCT	零相変流器
(V)	電圧計
(A)	電流計
VS	電圧計用切換スイッチ
AS	電流計用切換スイッチ
(W)	電力計
(WH)	電力量計

記号	名称
(PF)	力率計
(F)	周波数計
(MDW)	最大需要電力計
2E	2要素継電器
27	不足電圧継電器
51	過電流継電器
51G,N	地絡過電流継電器
64	地絡過電圧継電器
67	地絡方向継電器
87	差動継電器

施設名	第2揚水機場 (0312100-1100-19)		
図面名	単線結線図 (2/3)		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	-	図面番号	8-75/319
作成者	関東農政局 両総農業水利事業所		



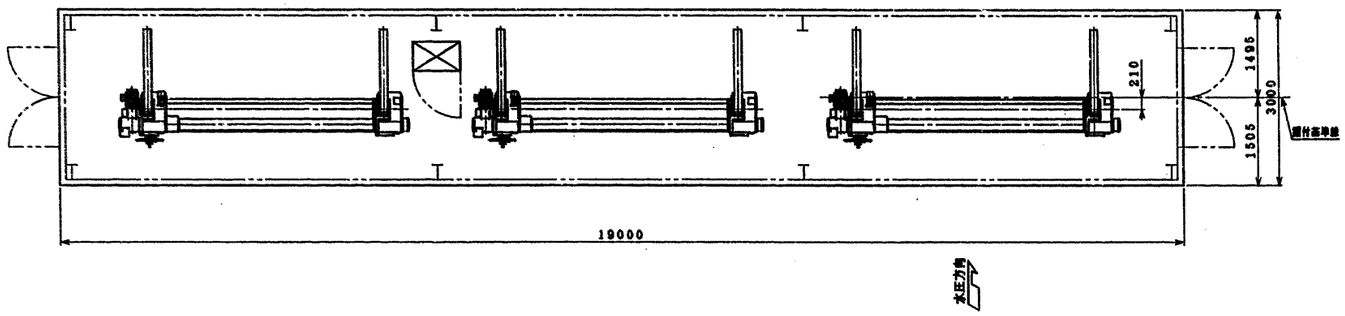
凡例

記号	名称
DS	断路器
MOF	計器用変成器
LA	避雷器
VCB	真空遮断器
PF	電力ヒューズ
MCCB	配線用遮断器
SC	進相コンデンサ
MC	電磁接触器
Tr	変圧器
PT	計器用変圧器
CT	計器用変流器
PTT	電圧計用試験端子
CTT	電流計用試験端子
ZCT	零相変流器

記号	名称
(V)	電圧計
(A)	電流計
VS	電圧計用切換スイッチ
AS	電流計用切換スイッチ
(W)	電力計
(WH)	電力量計
(PF)	力率計
(F)	周波数計
27	不足電圧継電器
51	過電流継電器
51G	地絡過電流継電器
59	過電圧継電器
84	電圧継電器

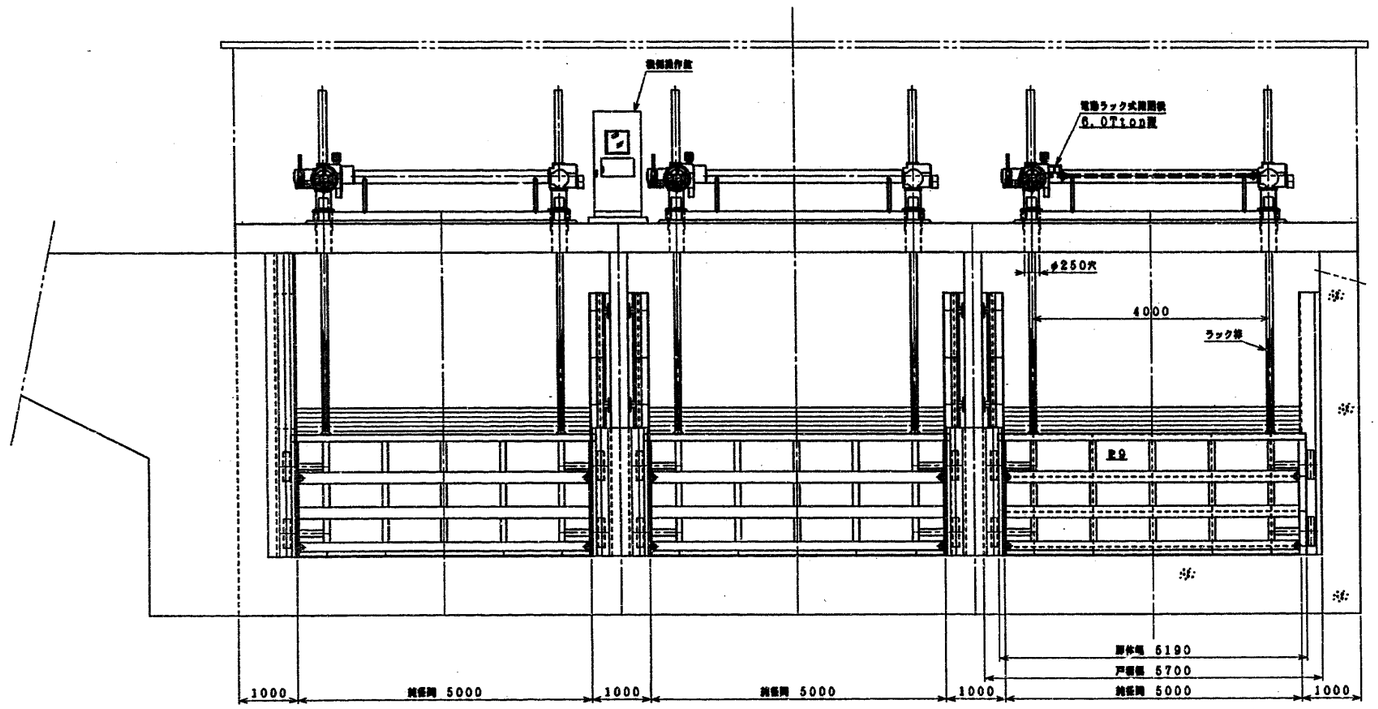
施設名	第2揚水機場 (0312100-1100-19)		
図面名	単線結線図 (3/3)		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	-	図面番号	8-76/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所		

平 面 図

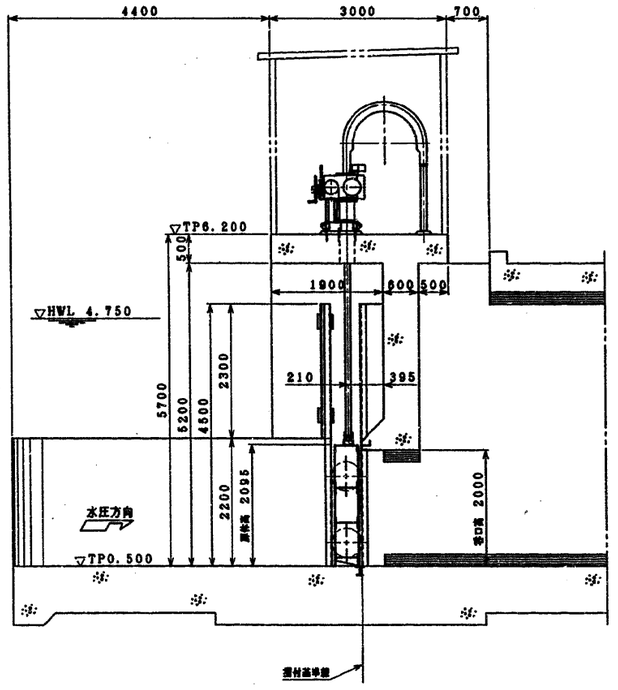


設 計 要 項		
型 式	鋼製ローラゲート	
設置数	3 門	
純径間	5.000 m	
管口高	2.000 m	
設計水深	(外水深)	4.250 m (TP 4.750)
	(内水深)	0.000 m (TP 0.500)
操作水深 (開時)	(外水深)	1.300 m (TP 1.800)
	(内水深)	0.000 m (TP 0.500)
操作水深 (閉時)	(外水深)	4.250 m (TP 4.750)
	(内水深)	0.000 m (TP 0.500)
揚 程	2.100 m	
門扉敷高	TP 0.500	
水密方式	後面四方ゴム水密	
開閉方式	電動ラック式	
操作方式	後側操作及び遠方操作	
主要部材	(扉 体)	SS400
	(戸当り)	SUS304
備 考		

正 面 図 S=1/50

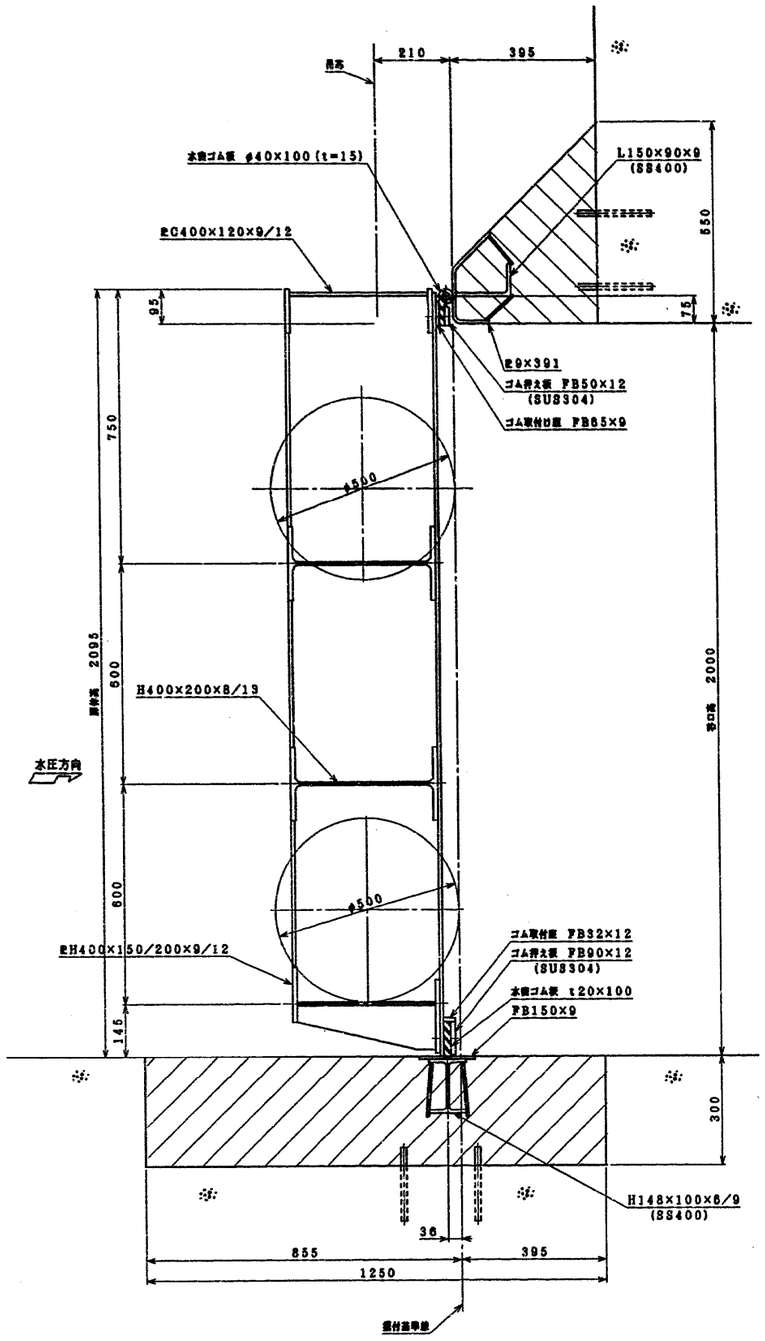


側 面 図

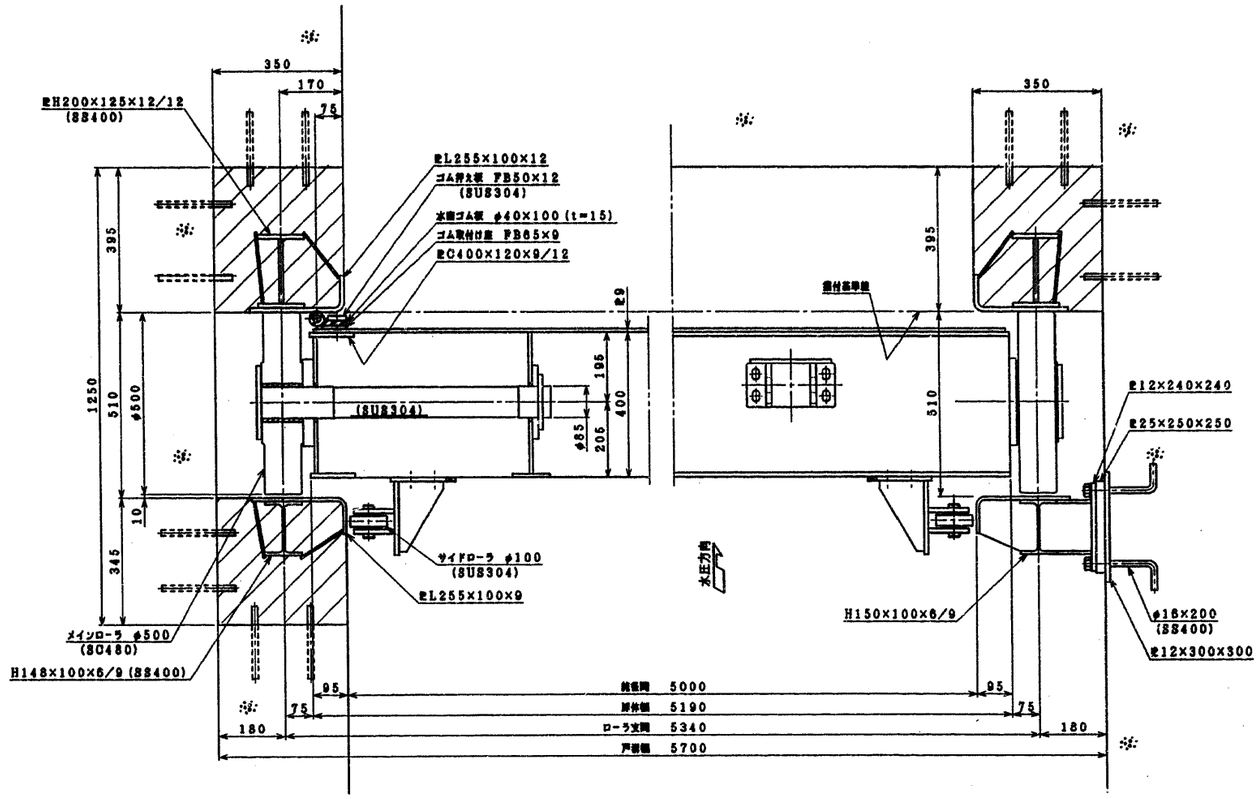


施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	洪水防止用ゲート一般図		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 1:50 A2 1:70	図面番号	8-77/319
作成者	関東農政局 両総農業水利事業所		

上下部水密詳細図



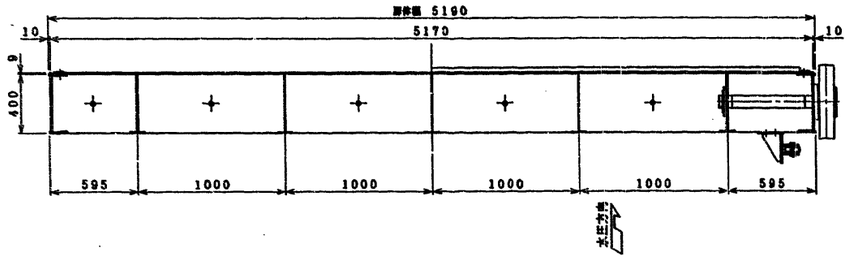
側部水密詳細図



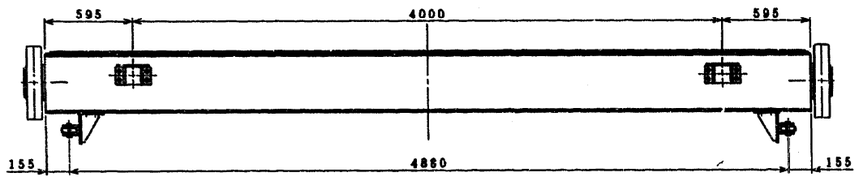
材質　扉体　SS400（特記外）
戸当り　SUS304（特記外）

施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	洪水防止用ゲート水密詳細図		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	-	図面番号	8-78/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所		

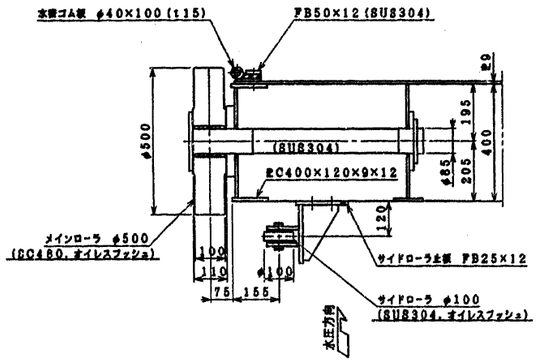
A － A



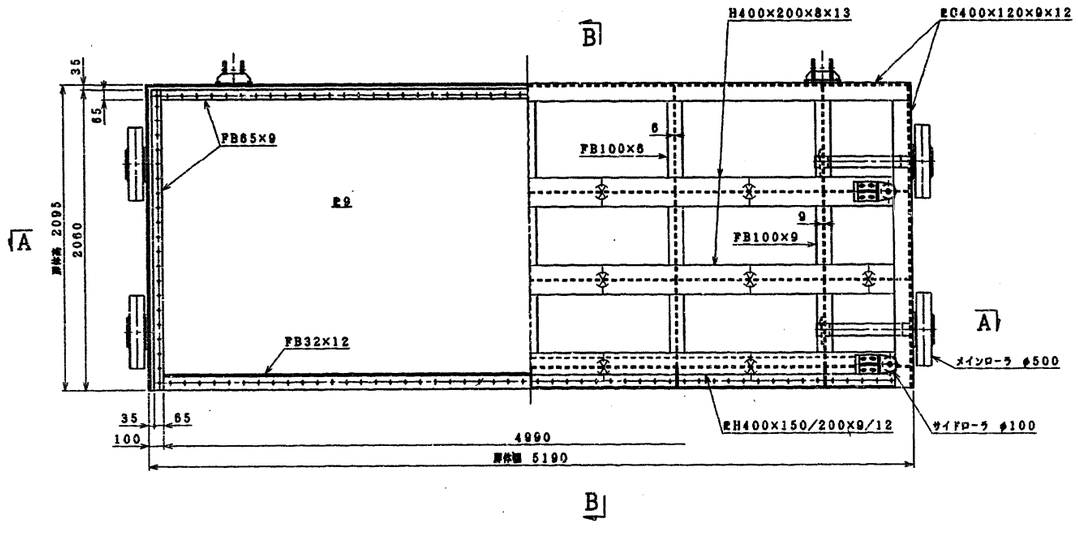
平 面 図



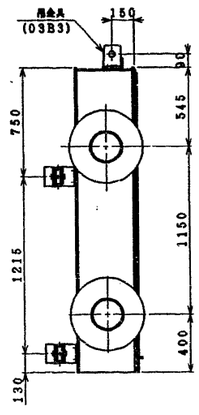
側部 詳細図 S=1/10



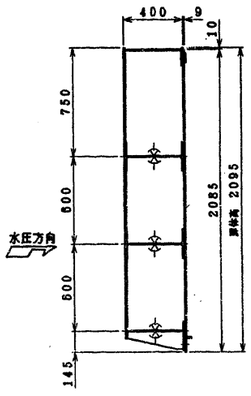
正 背 面 図 S=1/20



側 面 図



B － B

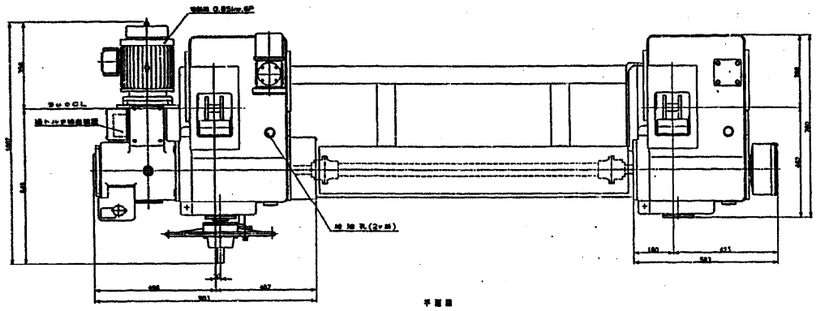


材質　SS400（特記外）

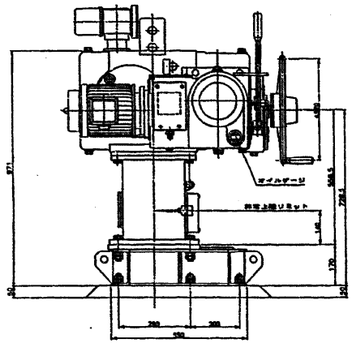
施設名	第2揚水機場 (0312100-1100-19)		
図面名	洪水防止用ゲート扉体組立図		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 図示	図面番号	8-79/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所		

ラック式開閉機仕様	
形　式	DR600M
開閉容量	600kg
電　動　機	0.55kw,4P,3Φ,200V/50Hz,ブレーキ付
開閉速度（m/min）	0.57m/min(50Hz)、0.53m/min(60Hz)
開閉速度（mm/s）	31.0mm/33mm/33mm/T
全揚時下降量	0m/total T
許容振動数	0.68m/400s・ 452m/50Hz
潤　滑　油	ｸﾞﾘｽ(ｸﾞﾘｰｽ2) 4.0L 335ﾊﾟｲﾌﾟ(M12) 減速機 ： 歯車 18.0L 335ﾊﾟｲﾌﾟ(M12) 〃　〃　 ： 〃 21.0L 335ﾊﾟｲﾌﾟ(M12)

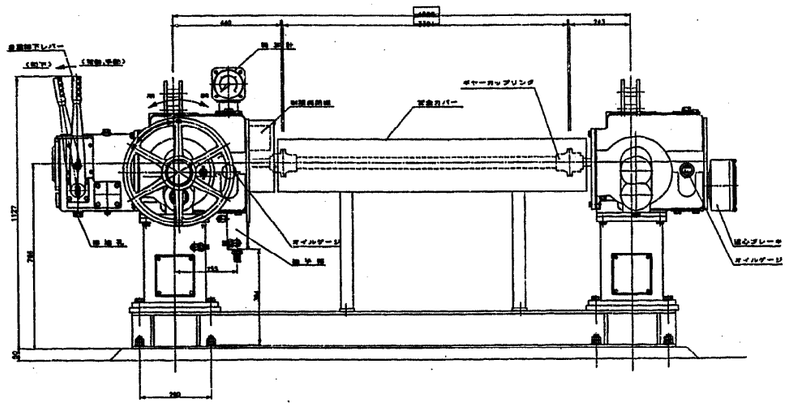
1. リミット位置、開閉動作につき上図参照、
　下図後、参考上図は後とする。
2. 開閉動作数は、3回とする。



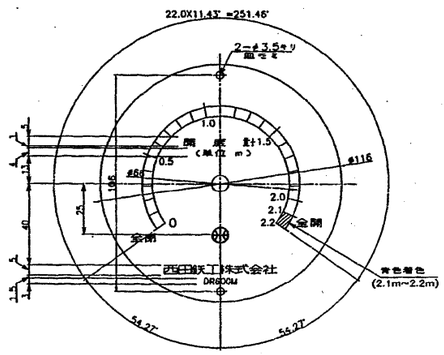
平 面 図



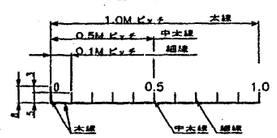
左側面図



正 面 図



記入要領



注記

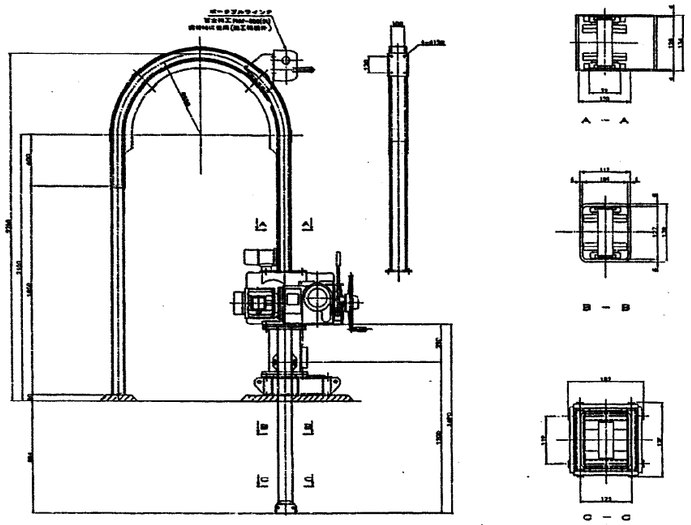
1. 記入文字、目盛、社章等はエッチングにより
　ﾋﾟﾀﾘで記入のこと。
2. 製定及び社名以外の文字はゴシック体とする。
　尚、社名は本図の字体とする。
3. エッチングによる部分は塗付塗装とする。
4. 特記なき文字、目盛線は黒やとする。
5. 材質はアルミとする。
6. 製作数は　3　枚とする。
7. 全開、全閉は朱色とする。
8. 縮率の割合は、1:1.75に増率する。

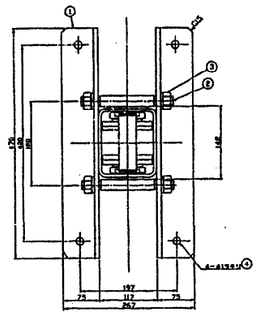
通常操作　2.10 m　（直接上限　2.20 m）
0.1m(1目盛)当りの回転角θ

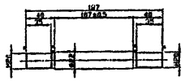
$$\theta = \frac{100}{88.9 \times \pi} \times \frac{1}{10} \times 360° = 6.53°$$

歯車の減比は、1:1.75より
6.53° x 1.75 = 11.43°
通常操作当りの回転角は
21.0 x 11.43= 240.03°
保守操作当りの回転角は
22.0 x 11.43= 251.46°

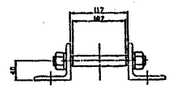
施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	洪水防止用ゲート開閉機外形寸法図		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 図示	図面番号	8-80/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所		

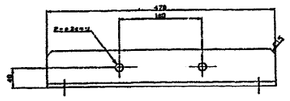






③ボルト詳細 1/2



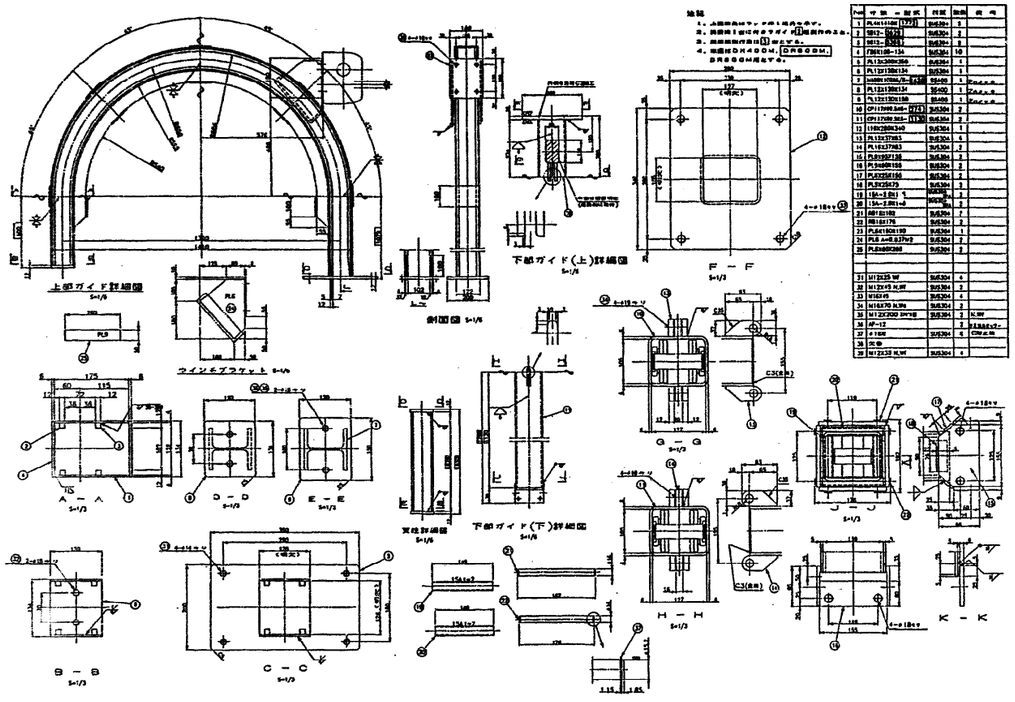


1/3

No	寸法 ー 型式	材質	個数	備考
1	L-75×75×9 L=478	SUS304	2	
2	4×82 x 187	SUS304	2	
3	M20	SUS304	4	H.V.G
4	SC-1610	SUS304	4	ゲートアンカ

注記

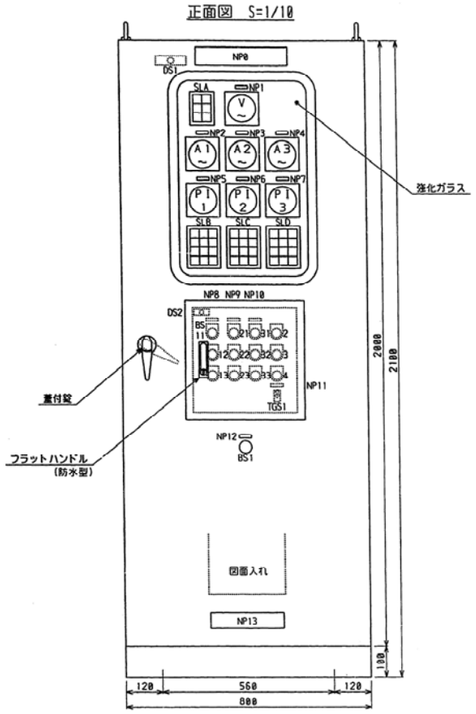
1. 上記数量は1組分を表す。
2. 製作後1台に付き[2]箇所作のこと。
3. 溶接後[1]箇所作製のこと。



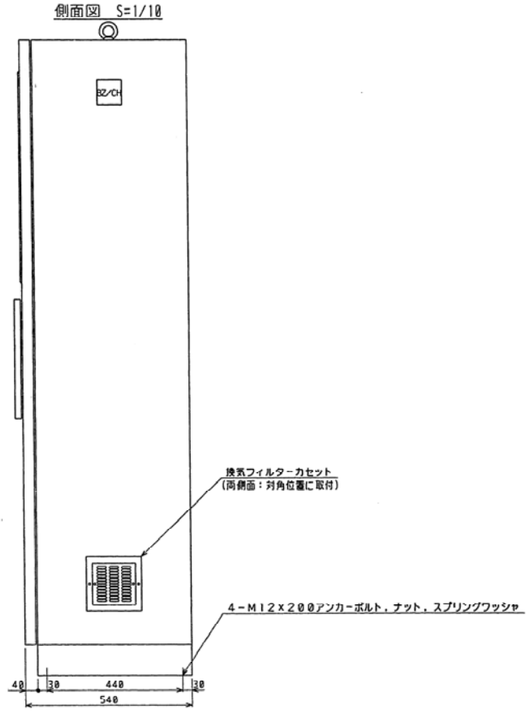
No	寸法 ー 型式	材質	個数	備考
1	PL-14×140 [1/2]	SUS304	2	
2	180- [1/2]	SUS304	2	
3	240- [1/2]	SUS304	8	
4	FB80×80-134	SUS304	10	
5	PL-3×300×300	SUS304	1	
6	PL-12×130×134	SUS304	1	
7	H-300×150×6.5×9	SS400	1	ﾌﾗｯｸｽ
8	PL-12×130×134	SS400	1	ﾌﾗｯｸｽ
9	PL-12×130×150	SS400	1	ﾌﾗｯｸｽ
10	CP-170×90×5×8 [1/2]	SUS304	2	
11	CP-170×90×5×8 [1/2]	SUS304	2	
12	198×200×340	SUS304	1	
13	PL-12×370×65	SUS304	4	
14	PL-12×370×65	SUS304	2	
15	PL-8×552×158	SUS304	2	
16	PL-5×400×150	SUS304	2	
17	PL-12×254×156	SUS304	2	
18	PL-9×254×70	SUS304	2	
19	L-65×65×6 L=1,400	SUS304	2	
20	L-65×65×6 L=1,400	SUS304	2	
21	-80×8×180	SUS304	2	
22	-80×8×170	SUS304	2	
23	PL-8×150×180	SUS304	1	
24	PL-8 A=0.037m²	SUS304	2	
25	PL-8×80×280	SUS304	2	
31	M12×25 W	SUS304	4	
32	M12×45 H.W	SUS304	2	
33	M16×45	SUS304	4	
34	M16×70 H.W	SUS304	2	
35	M12×200 W+W	SUS304	1	H.W
36	AP-12		2	ｶﾞｲﾄﾞﾚｰﾙﾌｯｸ
37	φ16D	SUS304	4	CW.H.W
38	20 D			
39	M12×30 H.W	SUS304	4	

施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	洪水防止用ゲート可動ラックガイド詳細図		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 図示	図面番号	8-81/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所		

正面図　S=1/10



側面図　S=1/10



盤外形図銘板一覧表

記号		記入文字	備考
NP	0	洪水防止ゲート機側操作盤	
	1	電源電圧	
	2	No.1ゲート電流	
	3	No.2ゲート電流	
	4	No.3ゲート電流	
	5	No.1ゲート開度	
	6	No.2ゲート開度	
	7	No.3ゲート開度	
	8	No.1ゲート	
	9	No.2ゲート	
	10	No.3ゲート	
	11	スペースヒータ	
	12	非常停止	
	13	豊国工業株式会社	
BS	1		押釦 赤 ｱｯｼｭﾛｯｸ･ﾀｰﾝﾘｾｯﾄ
	2	故障リセット	押釦 緑
	3	警報停止	押釦 赤
	4	ランプテスト	押釦 黄
	11，21，31	開	押釦 黒
	12，22，32	停止	押釦 赤
	13，23，33	閉	押釦 黒
TGS	1	入 － 切	トグルスイッチ

盤内配置図銘板一覧表

記号		記入文字	備考
NP	20	主電源	
	21	No.1ゲート電源	
	22	No.2ゲート電源	
	23	No.3ゲート電源	
	24	操作電源1次(AC200V)	
	25	操作電源	
	26	電圧計電源	
	27	スペースヒータ電源	
	28	盤内灯電源	
	29	ブザー	
	30	チャイム	
TGS	2	入 － 切	トグルスイッチ
	3	入 － 切	トグルスイッチ

表示灯詳細図　S=1/2

SLA



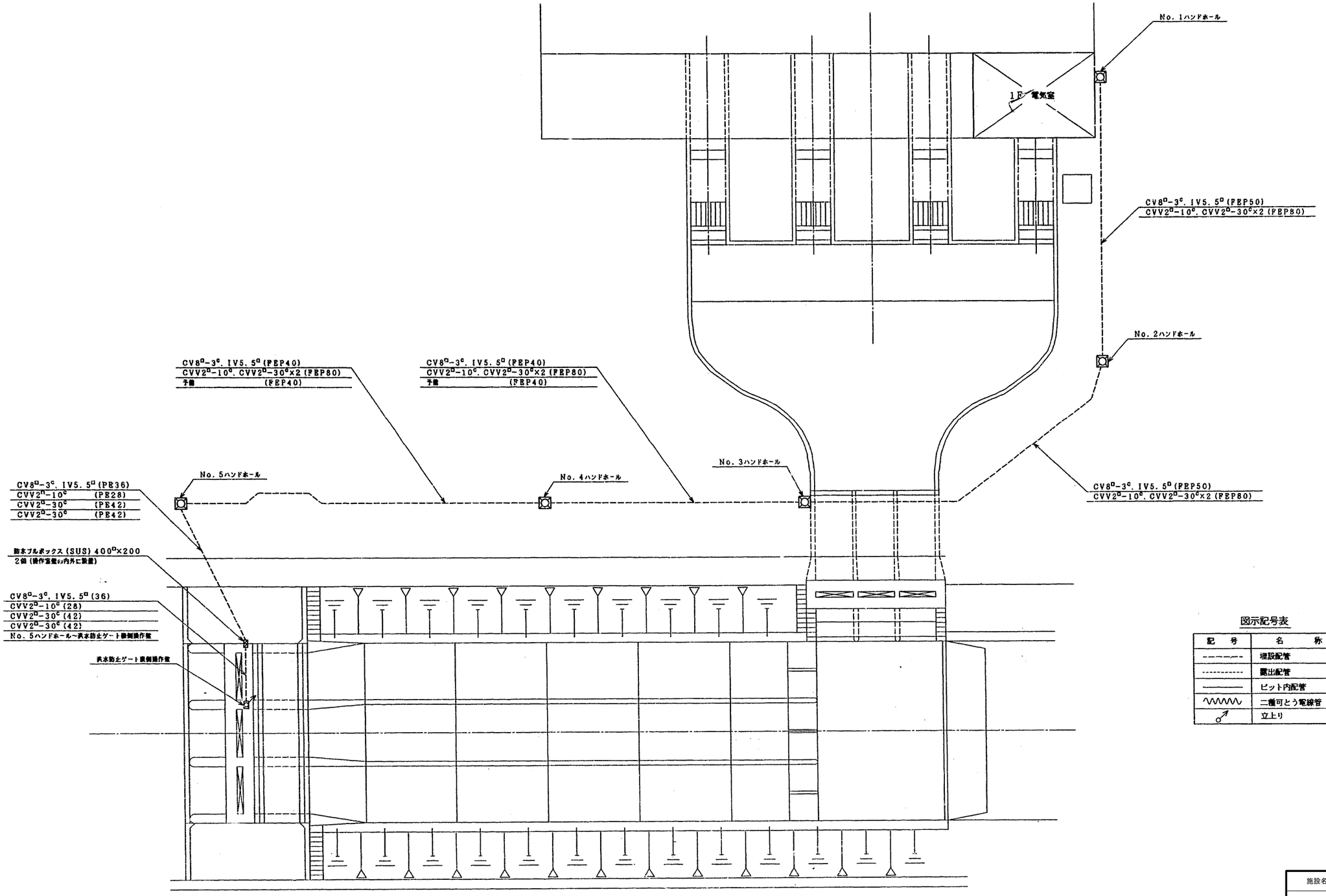
SLB，SLC，SLD



注記　(　)は表示灯の色を示す．

施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	洪水防止用ゲート機側操作盤外形図		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 図示	図面番号	8-82/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所		

全体平面図

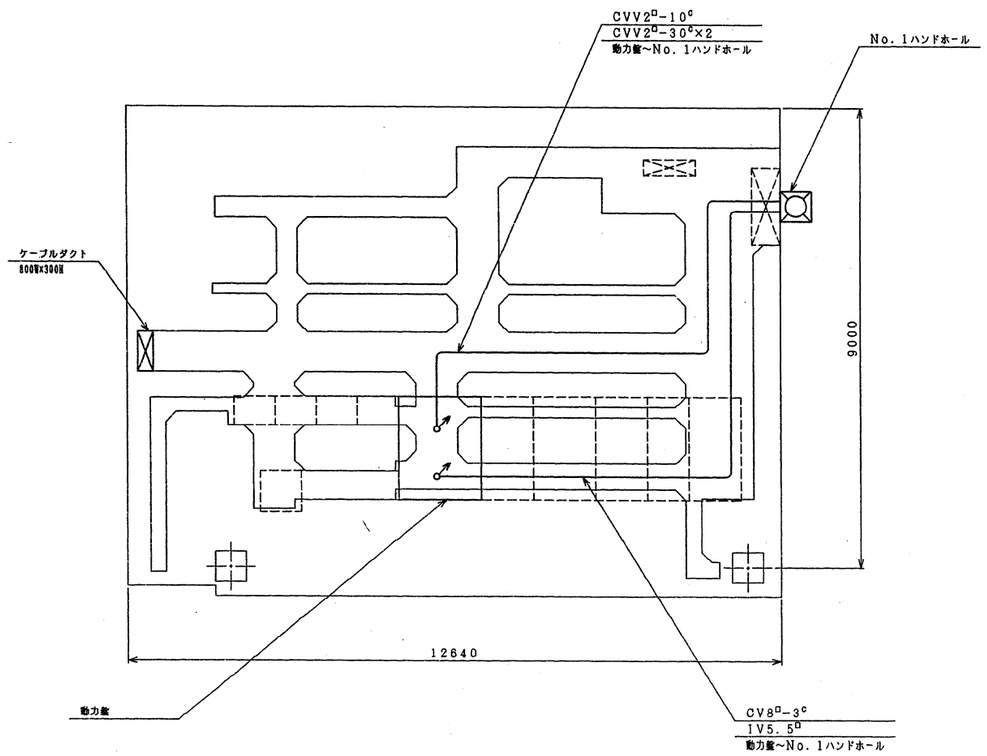


図示記号表

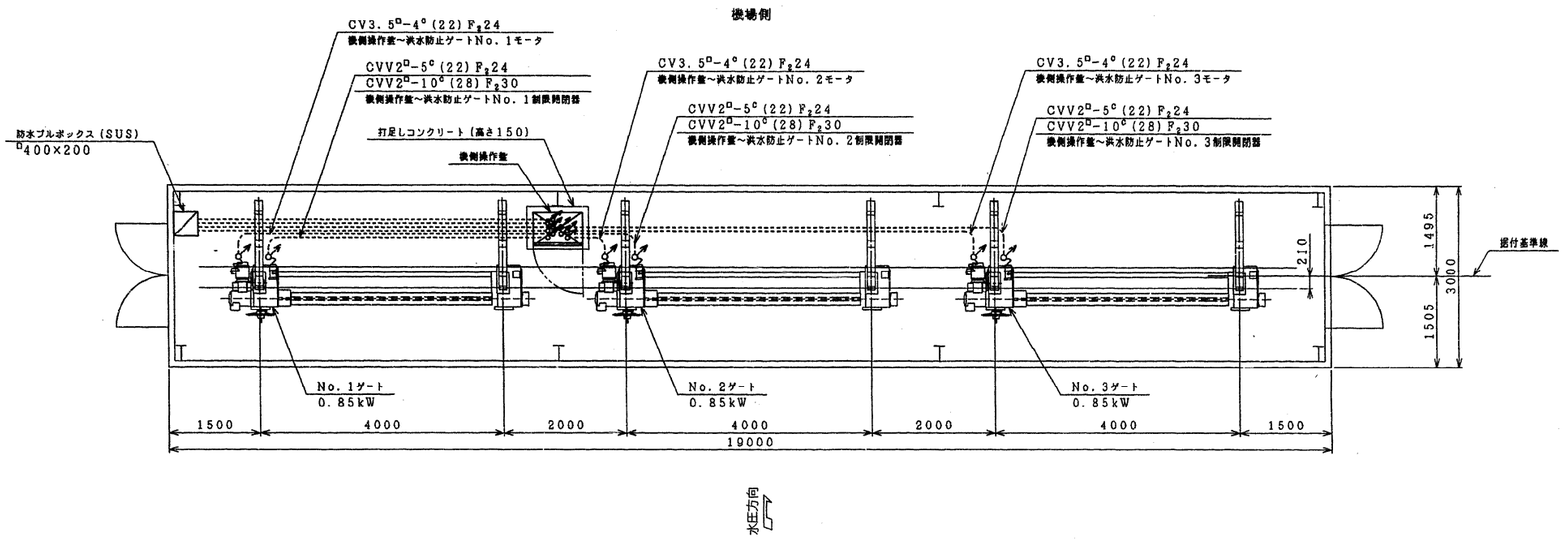
記　号	名　称
----------	埋設配管
----------	露出配管
----------	ピット内配管
∿∿∿∿∿	二種可とう電線管
♂	立上り

施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	洪水防止用ゲート配線図(1/2)		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	－	図面番号	8-83/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所		

１Ｆ　電気室平面図　S=1/60



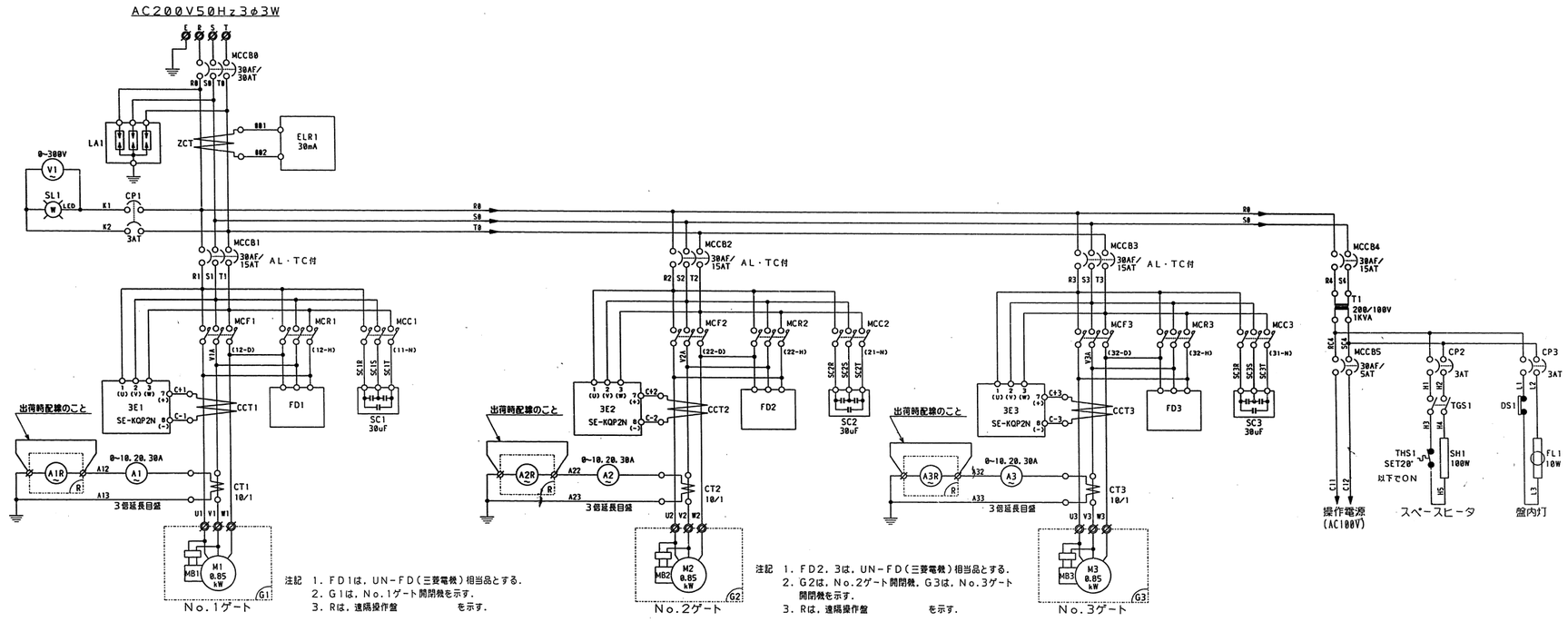
洪水防止ゲート床板上　S=1/50



図示記号表

記　号	名　　称
――――	埋設配管
----------	露出配管
――――	ピット内配管
∿∿∿∿	二種可とう電線管
♂	立上り

施設名	第2揚水機場 (0312100-1100-19)		
図面名	洪水防止用ゲート配線図 (2/2)		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 図示	図面番号	8-84/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所		



注記 1. FD1は，UN-FD(三菱電機)相当品とする．
2. G1は，No.1ゲート開閉機を示す．
3. Rは，遠隔操作盤　を示す．

注記 1. FD2，3は，UN-FD(三菱電機)相当品とする．
2. G2は，No.2ゲート開閉機，G3は，No.3ゲート開閉機を示す．
3. Rは，遠隔操作盤　を示す．

機器一覧表

記　号	名　称
ZCT	零相変流器
ELR	漏電リレー
MCCB	配線用しゃ断器
CP	サーキットプロテクタ
V	電圧計(110角広角)
A	電流計(110角広角3倍延長目盛付)
SL	表示灯
3E	3Eリレー
CCT	カレントコンバータ
M	モータ
MB	マグネットブレーキ
PT	開度発信器
PI	開度受信器
FD	接点溶着リレー
CT	変流器
SC	進相コンデンサ
TGS	トグルスイッチ
THS	サーモスタット
SH	スペースヒータ
DS	ドアスイッチ
T	変圧器
FL	蛍光灯(盤内灯)
MC	電磁接触器
R	補助リレー
BS	押釦スイッチ
BZ	ブザー
FR	フリッカリレー
TR	タイマ
LA	避雷器
CH	チャイム

機器設定一覧表

電　源	AC200V50Hz
設　備	ゲート
モータ容量	0.85kW
3Eリレーの設定	
3　E	3E1
型　式	SE-KQP2N
電流値	4.8A
電流設定	9.6
倍　率	0.5
時間設定	3
反相要素	ON
欠相要素	ON
	H
過負荷	ON
	X1
カレントコンバータの設定	
CCT	CCT1
型　式	SET-3A
貫通回数	4
設定タップ	20

機器設定一覧表

電　源	AC200V50Hz
設　備	ゲート
モータ容量	0.85kW
3Eリレーの設定	
3　E	3E1
型　式	SE-KQP2N
電流値	4.8A
電流設定	9.6
倍　率	0.5
時間設定	3
反相要素	ON
欠相要素	ON
	H
過負荷	ON
	X1
カレントコンバータの設定	
CCT	CCT1
型　式	SET-3A
貫通回数	4
設定タップ	20

機器設定一覧表

電　源	AC200V50Hz
設　備	ゲート
モータ容量	0.85kW
3Eリレーの設定	
3　E	3E1
型　式	SE-KQP2N
電流値	4.8A
電流設定	9.6
倍　率	0.5
時間設定	3
反相要素	ON
欠相要素	ON
	H
過負荷	ON
	X1
カレントコンバータの設定	
CCT	CCT1
型　式	SET-3A
貫通回数	4
設定タップ	20

施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	洪水防止用ゲート単線結線図		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	-	図面番号	8-85/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所		

仕様書

Ⅰ 工事概要

1 工事場所　千葉県山武郡横芝町寺方地内　他

2 敷地面積　12 422.38 M²

3 工事種目　直接仮設工事 / 土工事 / 基礎工事 / コンクリート工事 / 型枠工事 / 鉄筋工事 / 鉄骨工事 / 組積工事 / 防水工事 / タイル工事 / 木工事 / 屋根及び樋工事 / 金属工事 / 左官工事 / 建具工事 / ガラス工事 / 塗装工事 / 内装工事 / 雑工事

4 工事範囲（今回工事種目は「3 工事種目」による。）

※工事種目全て今回工事範囲とする。
・「3 工事種目」のうち　　の今回工事範囲は下記の通りとする。
ただし、他の工事種目は全て今回工事範囲とする。

2 仮設工事	※工事範囲全て
3 土工事	・
4 地業工事	
5 鉄筋工事	
6 コンクリート工事	
7 鉄骨工事	
8 ブロック・ＡＬＣパネル・ＰＣカーテンウォール工事	
9 防水工事	
10 石工事	
11 タイル工事	
12 木工事	
13 屋根およびとい工事	
14 金属工事	
15 左官工事	
16 建具工事	
17 塗装工事	
18 内装工事	
22 雑工事	

Ⅱ 建築工事仕様

1 図面及び特記仕様に記載されていない事項は、すべて建設大臣官房官庁営繕部監修 建築工事共通仕様書（平成5年版）による。
2 特記仕様
(1) 項目は、番号に○印のついたものを適用する。
(2) 特記事項は、⊙印を適用する。○印のない場合は※印を適用する。⊙印と◎印の場合は、ともに適用する。
(3) 特記事項の（ . . ）内の番号は、建築工事共通仕様書の当該項目、当該表及び当該図を示す。

1 一般共通事項

	項目	特記事項
1	適用基準等	⊙建築工事標準詳細図（建設大臣官房官庁営繕部監修 平成5年版） ・敷地調査共通仕様書（建設大臣官房官庁営繕部監修 平成5年版） ○鉄骨設計標準図（建設大臣官房官庁営繕部監修 平成2年版） ⊙工事写真の撮り方 建築編（建設大臣官房官庁営繕部監修） ・
2	電気保安技術者	※ 適用する ・適用しない (1.2.3)
3	技能士	※ 適用する ・適用しない (1.5.2) 適用工事種別 鉄筋工事 ・鉄筋施工 コンクリート工事 ・左官 ・型枠施工 鉄骨工事 ・とび ブロック・ALCパネル・PCカーテンウォール工事 ・ブロック建築 ・ALCパネル施工 ・カーテンウォール施工 防水工事 ・防水施工（・アスファルト防水工事作業 ・合成ゴム系シート防水工事作業 ・シーリング防水工事作業） 石工事 ・石材施工 タイル工事 ・タイル張り 木工事 ・建築大工 屋根及びとい工事 ・建築板金 ・スレート施工 金属工事 ・内装仕上げ施工（鋼製下地工事作業） 左官工事 ・左官 建具工事 ・サッシ施工 ・ガラス施工 塗装工事 ・塗装 内装工事 ・内装仕上げ施工（・プラスチック系床仕上げ工事作業 ・ボード仕上げ工事作業） ・表装 植栽工事 ・造園
4	建築材料等	建築材料の製造所、製品及び施工業者等は、特記されたもの又はこれらと同等以上とする。 ただし、同等以上とする場合は、総括監督員の承諾を受ける。
5	特別な材料の工法	建築工事共通仕様書に記載されていない特別な材料の工法は、当該製品の指定工法による。
6	発生材の処理	※現場説明書による。 (1.1.10)
7	完成写真	下記のものを監督員に提出する。ただし、原版は撮影業者の保管とする。 分類規格 / 撮影箇所数 / 部数 / 原版の大きさ（mm） モノクロームキャビネ版 / 外部（ ）内部（ ） / ※3 ・ / 100×125以上 カラーキャビネ版 / 外部（ ）内部（ ） / ※3 ・6 / 100×125以上 カラースライド / 同上 / ※1 / 24×36以上 カラーパネル / 外部（ ） / ※0 ・2 / 寸法400×325(縁なし) 撮影業者 ※監督員の承諾する撮影業者（ただし建築完成写真撮影の実績の有る業者とする。）
8	設備工事との取合い	設備機器の位置、取合い等の検討できる施工図を提出して監督員の承諾を受ける。
9	完成図など	※作成する ・作成しない (1.6.2)
10	条件明示項目	

2 仮設工事

1	監督員事務所	※設ける ・設けない (表2.3.1) ⊙1号 ・2号 ・3号 ・4号 ・5号 ・
2	工事用水	構内既存の施設 ※利用できない ⊙利用できる（※有償 ・無償）
3	工事用電力	構内既存の施設 ※利用できない ⊙利用できる（※有償 ・無償）

3 土工事

1	埋戻し及び盛土	・A種 ※B種 ・C種 ・D種 (3.2.3)(表3.2.1)
2	建設発生土の処理	※現場説明書による (3.2.5) ・構外搬出適切処理 ・構内指示の場所にたい積 ・構内指示の場所に敷きならし

4 地業工事

1	既製コンクリート杭地業	種類 (4.2.1)(4.5.2) ※高強度プレストレストコンクリート杭（※評価品 ・ＪＩＳ規格品） ・ 杭径(mm) / 杭長（m）及び種別 / 継手数 / セット数 / 備考 試験杭 / / / / / 本杭 / / / / / 杭頭の切断方法 ※ダイヤモンドカッター ・ (4.2.4) 先端部形状 ※開放形 ・閉そく平たん形 (4.2.1) 施工法 (4.2.2) ・建築基準法第38条の規定に基づき認定された工法 ・打込み工法 オーガーの併用 ※あり ・なし オーガー径 杭径－50mm程度 プレボーリング長 ※本杭長－2ｍ ・ ベントナイト安定液 ※使用しない ・使用する ハンマー種別 ※油圧ハンマー ・ドロップハンマー ・ディーゼルハンマー 油圧ハンマーは建設技術評価規定(昭和53年建設省告示976号)に基づく技術評価を受けた低騒音型油圧ハンマーとする。 パイルドライバー ※ハンマー直結三点支持式 ・ブーム式 ・ポータブル式 プレボーリングの場合にはオーガー併用形とする コンクリートの種別 ・A種 ・B種 (表4.4.1) 鉄筋の種別 5章鉄筋工事の鉄筋の種別による (4.4.3) 掘削工法 ・アースドリル工法（※安定液使用 ・無水掘削） (4.4.4) ・リバース工法 ・オールケーシング工法（孔内の水張 ※行う ・行わない） ・(財)日本建築センター等により評価された工法 (4.4.4) （ ）
2	場所打ちコンクリート杭地業	
3	砂利地業	※再生クラッシャラン ・切込み砂利及び切込み砕石 (4.8.1)
4	床下防湿層	施工箇所 ※建物内の土間床版及び土間コンクリート下（ピット下を除く） (4.10.1)
5	鋼杭地業	⊙ SKK400 ○ 耐食杭（600°、800°）

5 鉄筋工事

1	鉄筋の種別	(5.1.1)(表5.1.2) 鉄筋 / 種別 / 種別 / 呼び名（mm） 異形鉄筋 / ※A類 / ・SD345 / D19～D25 ・SD295A / D10～D16 ・ / ・ ・B類 / ・ /
2	鉄筋の継手	呼び名19mm以上の柱、梁の主筋 ※ガス圧接 ・重ね継手 (5.2.1)
3	鉄筋のかぶり厚さ	※かぶり厚さは目地底から算定する。 (5.2.2) ・耐久上不利な箇所の鉄筋のかぶり厚さは下表による 施工箇所 / 5.2.5表の値に加える寸法（mm） 柱、梁、壁及び庇などの外気に接する打放し面 / ※10 ・
4	既製コンクリート杭の杭頭補強	・A形 ・B形 ・図示 (5.3.1)(図5.3.2)
5	帯筋	※H形（ロは除く） ・ (5.4.1)(図5.4.2)
6	最上階柱頭補強	※行なう ・行なわない
7	壁開口部の補強	一般壁 ※A形 ・B形 (表5.6.4)(表5.6.5) 耐震壁 ※B形 ・図示
8	梁貫通孔の補強形式	※H形 ・MH形 ・M形 (5.9.1)(表5.9.1～表5.9.3) ・建設技術評価規定（昭和53年度告示第976号）に基づく評価又は（財）日本建築センターの評価を受けたもの
9	圧接完了後の検査	※引張試験による検査 ・超音波探傷試験による検査 (5.10.4)

6 コンクリート工事

1	レデーミクストコンクリートの種別	※Ⅰ類 ・Ⅱ類 (表6.1.1)
2	セメントの種類	※普通ポルトランドセメント又は混合セメントA種 ・ (6.2.1)(6.10.2) 普通ポルトランドセメントの品質は、ＪＩＳＲ５２１０に示された規定の他、次の規定に適合しなければならない。ただし、無筋コンクリートに用いる場合を除く。 水和熱 7d 84cal/g以下 / 28d 96cal/g以下 全アルカリ 0.75%以下 算出はJISR5210ポルトランドセメント(低アルカリ形)による。 塩素 0.02%以下
3	砕石及び砂利の種類	※A (6.2.2)(6.4.4) ・B（※コンクリート中のアルカリ総量Rt=3.0kg/m³以下 ・高炉セメントB種）
4	混和材料の種別	※混和剤 ・混和材 (6.2.4)
5	普通コンクリートの設計基準強度	(6.1.2)(6.3.1) 設計基準強度Ｆo(kgf/cm²)(N/mm²) / 施工箇所 ※210（21） / ・180（18） / 上記以外
6	型枠(せき板)の種別	塗装の有無 ※無 ・ (6.14.1)

7 鉄骨工事

1	施工管理技術者	※適用する ・適用しない (7.1.4)
2	鋼材	(7.2.1)(7.9.2) 材質 / 使用箇所 / 規格等 SS400 / / ※JIS規格品 ・7.2.7(b)に合格するもの SSC400 / / ※JIS規格品 ・7.2.7(b)に合格するもの SN400A / / ※JIS規格品 ・7.2.7(b)に合格するもの ※JIS規格品 ・7.2.7(b)に合格するもの
3	高力ボルト	※トルシア形高力ボルト ⊙ＪＩＳの高力ボルト ・溶融亜鉛めっき高力ボルト (7.2.2)(7.10.2)
4	溶接部の検査	(7.5.8) 試験の種別 / 試験箇所 / 抜取率 / 抜取方法 ⊙超音波探傷試験 / / ※7.5.8(a)(5)による ・ / ※7.5.8(a)(5)による ・ ・放射線試験 / / / / ・マクロ試験 / / / / ・ / / / /
5	耐火被覆	種別 ※ロックウール吹付け ・ (7.7.1) 所要性能(区分) ・30分耐火（ ） ⊙1時間耐火（ ）（耐火構造の外壁）
6	アンカーボルトの保持及び埋込み工法	・A種 ※B種 ・C種 (表7.8.1)
7	柱底均しモルタル工法	・A種 ※B種 (表7.8.2) 無収縮モルタルの製造所
8	鉄骨の製作工場	・監督員の承認する製作工場 (7.1.2) ※「溶接作業判定基準」に適合する製作を行う製作工場又は建設省告示第1103号に基づき建設大臣が認定した製作工場のうち、下記の条件を満足するもの (1) 契約電力 （ ）kW以上 (2) 超音波探傷機（1）台以上又は放射線透過試験装置（1）台以上 (3) 建築士 1級（1）名以上かつまたは2級（2）名以上 (4) WES8103 1級（1）名以上かつまたは2級（2）名以上 (5) NDIUT Ⅲ種（2）名以上かつまたはⅡ種（ ）名以上
9	溶融亜鉛めっき	(7.10.3) 材料 / めっきの付着量（JISH8641） / 備考 SS400 / ※HDZ55 ・ / SSC400 / ※HDZ35 ・ / 普通ボルト / ※HDZ35 ・ / 素地ごしらえは、JISH9124溶融亜鉛めっき作業標準による。

8 PCカーテンウォールPC工事

1	空洞コンクリートブロック	補強コンクリートブロック造 ※C種普通ブロック ・C種防水ブロック (8.1.2) 帳壁及び塀 ※表8．2．1及び下表による (8.2.2) 種別 / 施工箇所 A種普通 / 設備配管用ブロック積み
2	キャスタブル耐火物	工法 ※こて押え ・ (8.3.2) 最高使用温度 ※400℃ ・ 材質 ※粘土 ・アルミナセメント
3	れんが	見え隠れ部分は市販品のれんが又は市販品のれんが形コンクリートブロックとする。 (表8.5.2)(8.5.2)
4	ＡＬＣパネル	種別 / 単位荷重（kgf/m²） / 厚さ（mm） / 取付工法 ・外壁用 ・120 ⊙200 / ⊙100 / ※B種 ○断面D=35 ・間仕切用 ・65 / / ※A種 ⊥法 ・屋根用 ・100 / / ・床用 ・240 ・360 / ・100 ・150 /

9 防水工事

1	アスファルト防水	(表9.1.1～表9.1.6)(9.1.2) 種別 / 施工箇所 ※A－2 ⊙A1－1 / 一般陸屋根 ・A1－2 ○B1－1 / 塔屋屋根 ・C－2 / ・E－1 ・E－2 / アスファルト伸縮調整目地 ※3種 ・4種 ・注入目地 (9.1.5(d)) ※成形伸縮目地 製造所
2	合成高分子系ルーフィングシート防水	(表9.2.1) 種別 / 厚さ(mm) / 施工箇所 / 仕上げ塗料塗り / 使用分類 ※S－1 / ※1.2 ・ / / ・シルバー / ※非歩行 ・S－2 / ※2.0 ・ / / ・カラー / ・軽歩行 ・S－3 / ※2.0 ・ / / / ・S－4 / ※1.5 ・ / / /
3	塗膜防水	(表9.3.1)(表9.3.2) 種別 / 施工箇所 / 仕上げ塗料塗り ・X－2 / / ・シルバー ・カラー ・Y－2 / /
4	シーリング材料	(9.4.2)(表9.4.1)(10.2.2)(10.3.2)(11.1.1)(11.2.3)(16.2.4)(16.11.1) 種別 / 施工箇所 ・A種 / ガラス突き付け部 ・B種 / 金属製笠木 ⊙C種 / 外部建具周囲 外壁目地 耐震スリット目地 ガラス留め（ガラス留めはポリサルファイドシーリングとする） ・D種 / ・E種 / ・F種 / 遮音壁取り合い部

10 石工事

1	テラゾブロック張り	種石の種別 ※大理石 ・花こう石 (10.4.2)

11 タイル工事

1	陶磁器質タイル	タイルの種別 (11.1.1)(11.2.3) 施工箇所 / 形状寸法 / きじ：磁器 / きじ：せっ器 / うわ薬：陶器 / うわ薬：無釉 / 仮物：有 / 仮物：無 / 色：標準 / 色：注文 / 備考 壁用 / 200×200 / ⊙ / ・ / ・ / ・ / ⊙ / ・ / ⊙ / ・ / 〃 / / ⊙ / ・ / ・ / ・ / ⊙ / ・ / ⊙ / ・ / 湯津生 / 100×100 / ⊙ / ・ / ・ / ・ / ・ / ・ / ⊙ / ・ / / / ・ / ・ / ・ / ・ / ・ / ・ / ・ / ・ / / / ・ / ・ / ・ / ・ / ・ / ・ / ・ / ・ / / / ・ / ・ / ・ / ・ / ・ / ・ / ・ / ・ / 製造所 磁器質タイル せっ器質タイル（クリンカータイルを除く）
2	壁タイル張りの工法	内装タイル ※壁タイル接着剤張り ・積上げ張り 外装タイル ・型枠先付け工法（施工箇所は立面図による） ・密着張り
3	陶磁器質タイル型枠先付け工法	(表11.2.1)(11.2.3)(11.2.5) 適用タイル / 種別 / タイル型枠先付け面のせき板の程度 小口タイル 二丁掛タイル / タイルシート法 / 表6．14．1のB種 大形タイル / 桟木法 / 表6．14．1のB種

12 木工事

1	木材の材質	※12．1．2による ・市販品
2	樹種	代用樹種を適用しない箇所（ ） (表12.1.3)
3	造作用集成材	樹種 ※たも ・なら ・しおじ (12.1.7) 単材の厚さ(mm) ※15 ・
4	防ぎ処理	行う箇所（ ） (12.1.13)

13 屋根およびとい工事

1	折板葺	専門業者は製造所又は指定業者とする。 (13.2.1～13.2.3) 材料 ※塗装溶融亜鉛めっき鋼板 ⊙ [illegible] 寸法 板厚（0.45）mm 山高（ ）mm 山のピッチ（ ）mm 緊結方式 ※ボルト式 ⊙はぜ式 断熱材 ※有（種別 厚さ mm） ・無 耐火性能 ※30分耐火 ・無
2	とい	材様 ※配管用鋼管 ・硬質塩化ビニール管 (表13.4.1) 鋼管製といの防錆 ※表13．4．4による 掃除口 ※有 ・無 (13.4.7) 製造所 (表13.4.1)
3	ルーフドレン	

14 金属工事

1	アルミニウム及びアルミニウム合金の表面処理	(表14.2.1) 種別 / 施工箇所 ・B－1（無着色） / ⊙B－2（・濃着色 ・淡着色 ・ ） /
2	鉄の亜鉛めっき	(表14.2.2～表14.2.4) 類別 / 付着量の種別 / 施工箇所 / 試験 ⊙A類 / ・A種 ・B種 ※C種 / 門扉．地下階段 手摺． / 行う ・B類 / ・A種 ・B種 ※C種 / / 行う
3	外部手すり	※ ステンレスSUS304 ・鋼（亜鉛めっき14．2．3のA類C種）
4	タラップ	※ ステンレスSUS304 ・鋼（亜鉛めっき14．2．3のA類C種）
5	金属成形板張り	材質 ※アルミニウム製 ・ (表14.2.1)(14.7.1) 製法 ⊙押出し ・ロール 形状 （ ） 寸法(mm) 板幅（100） 板厚（0.8） 表面処理 ・B－1 ⊙B－2 施工箇所 （ 車寄せ天井 ）
6	アルミニウム製笠木	種類 ・250形 ・350形 (表14.8.1) 表面処理 ※A－1種又はB－1種 ・ (14.8.2)(表14.2.1)
7	フッ素樹脂塗装鋼板	
8	その他	⊙耐候製鋼板張り ○ステンレス製階段 ○ステンレスフェンス ○ステンレス[illegible] ・ステンレス三方枠 ・ステンレス製ガラリ付ハンド ・アルミ三方枠 ・その他雑金物

施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	第2揚水機場上屋(特記仕様書1/2)		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	-	図面番号	8-86/319
作成者	関東農政局 両総農業水利事業所		

15 左官工事

1 防火材料
② 防水モルタルの防水剤
※屋内の壁及び天井の仕上げ材は、防火材料又は建築基準法に基づく基材同等の認定表示のあるものとする。
製造所 (15.3.5)

③ 仕上塗材仕上げ (15.6.1)(表15.6.1)(15.6.4)

名称	種類	仕上げ（工法）
・薄付け仕上塗材	・外装薄塗材Ｅ	・砂壁状（※吹付け　・ローラー） ・着色骨材砂壁状
	・内装薄塗材Ｅ	砂壁状ジュラク（※吹付け　・ローラー）
※複層仕上塗材	・複層塗材ＣＥ	・ゆず肌　・凸部処理　※凹凸模様
	・複層塗材Ｓｉ	※吹付け　・ローラー
	・複層塗材Ｅ	上塗り材
	※複層塗材ＲＥ	種　別　※アクリル樹脂エナメル
	・複層塗材ＲＳ	・ウレタン樹脂エナメル
		・フッソ樹脂
		色　彩　光沢（※１色　・２色）
		塗布量　※２回塗り０．３kg／㎡以上
		・３回塗り０．４kg／㎡以上
骨　材	※パーライト	・バーミキュライト (15.7.1)
仕上厚さ（㎜）	※５	・

4 軽量骨材仕上塗材吹付け

16 建具工事

① アルミニウム製建具
類　別　※Ｂ類　・Ａ類 (16.2.1～16.2.3)
耐風圧　※２８０以下
気密性　※８　⊙２
水密性　※３５　⊙５０
表面処理　※Ｂ－１　・Ｂ－２（※濃淡色　・淡淡色　・　） (表14.2.1)
製造所

② 網戸
形　式　※外面可動式　・固定式 (16.2.5)
網の種別　※ステンレス製　・ガラス繊維入り合成樹脂製　・合成樹脂製
メッシュ　※＃１６　・＃１８

③ 鋼製建具
製造所 (16.3.2)

④ 鋼製軽量建具
製造所 (16.4.2)

⑤ ステンレス製建具
曲げ加工　※普通曲げ　・角出し曲げ (16.5.1)(16.5.2)
製造所

⑥ 自動扉
駆動力　※電気式　・電動油圧式 (16.6.2)
検出装置　※熱線　・マットスイッチ
製造所

⑦ 重量シャッター
防火、防煙以外のシャッターケース　※設ける　・設けない (16.7.1)
製造所

⑧ 軽量シャッター
製造所 (表16.8.1)

⑨ 建具用金物
マスターキー　⊙製作する　・製作しない (16.10.2)

種別	製造所
モノロック	
本締り付きモノロック	
シリンダー箱錠	
シリンダー本締り錠	
ドアクローザー	
ピボットヒンジ	
ヒンジクローザー	※丁番型　・
フロアヒンジ	防火戸はストップなしとする。

⑩ ガラス
⊙合わせガラス　※フロート板合わせガラス　・ (16.11.1)
⊙強化ガラス　※フロート板強化ガラス　・
・熱線吸収板ガラス　※熱線吸収フロート板ガラス　・熱線吸収練入り磨板ガラス
色調（・グレー　・ブルー　・ブロンズ）
⊙複層ガラス　断熱性区分　・
板ガラスの材種　・
・ガラスブロック　※ＪＩＳＡ５２１２の規格品

⑪ ガラス留め材 (16.11.1)(表16.11.1)

建具の種類	材種
アルミニウム製	※シーリング材 ・ガスケット（ＦＩＸ部はシーリング材とする）
鋼　製	※シーリング材
ステンレス製	※シーリング材

ただし、防火戸は建築基準法に基づく防火性能認定品とする。

12 オーバーヘッドドア (表16.12.1)(表16.12.2)
開閉機構　※バランス式　・チェーン式　・電動式
セクション材　・スチールタイプ　・アルミニウムタイプ　・ファイバーグラスタイプ
ガイドレール　※鋼板　・ステンレスＳＵＳ３０４　厚さ２㎜
アルミ型材の表面処理　※陽極酸化塗装複合皮膜(・横準色　・指定色)　・陽極酸化皮膜
ガイドレール用鋼板の亜鉛付着量試験　※行わない　・行う
製造所

17 塗装工事

1 防火材料
② 塗装業者
※屋内の壁及び天井の塗装仕上げは防火材料とする。
※日本塗装工業会の会員　・監督員の承諾する業者
（工法・仕上げ）
製造所 (17.12.2)(17.12.3)

3 塩化ゴム系エナメル塗り

4 床用塗料塗り
材　質　ウレタン樹脂系塗料（※標準色　・　）
仕上種別　※平滑仕上げ　・防滑仕上げ
塗布量　プライマー塗りのうえ主剤２回塗りとし、総塗布量は０．５kg／㎡以上とする

5 フッソ樹脂塗装
製造所名（製品名）
⊙ 新日化ビニタイル　⊙ SOP　⊙ V.P
⊙ 日東石開工付

⑥ その他

18 内装工事

① ビニル床シート張り (18.1.1)

種類	記号	色柄	厚さ(㎜)	品質
※発泡層のないもの	※ＮＣ	※無地・マーブル	※２．５	JISA5705の規格品
・発泡層のあるもの		※柄物・無地		
・				

工法　一般用　※熱溶接　・突付け（施工箇所　）
住宅用　※突付け　・熱溶接（施工箇所　）

② ビニル床タイル張り (18.2.1)

種類	記号	厚さ(㎜)
※コンポジションビニル床タイル　半硬質	ＣＴ	※２
・コンポジションビニル床タイル　硬　質	ＣＴＳ	・
・ホモジニアスビニル床タイル（※マーブル　・無地）	ＨＴ	

高さ（㎜）　※６０　⊙７５ (18.2.1)
厚さ（㎜）　※２

③ ビニル幅木 (18.3.2)(表18.3.3～表18.3.7)

④ 合成樹脂塗り床

種別	仕上げの種類
・弾性ウレタン塗り床材	※平滑仕上げ　・防滑仕上げ　・つや消し仕上げ
・エポキシ樹脂塗り床材	※薄膜流し展べ仕上げ　・厚膜流し展べ仕上げ ・樹脂モルタル仕上げ　・防滑仕上げ
構造形式	※パネル式　・スタッド式
表面材（厚さ（㎜））	※鋼板（※0.6　・0.8）　・
仕上げ	※メラミン樹脂又はアクリル樹脂焼付塗装　・
品　質	ＪＩＳＡ６５１２による

⑤ 既製間仕切 (18.4.1)(表18.4.1)

⊙石こうボード	JISA6901の規格品 厚さ9.5㎜(準不熱) 12.5㎜(不熱)
⊙化粧石こうボード	JISA6901による　厚さ9.5㎜(不熱)
⊙木目化粧石こうボード	市販品 厚さ9.5㎜(準不燃)幅440㎜程度(※征目・歪目)専用下地材付き
・シージング石こうボード	JISA6901の規格品
・木毛セメント板	JISA5404の規格品
⊙無石綿セメントけい酸カルシウム板	JISA5418に準拠したノンアスベストのもの
・メラミン樹脂化粧板	JISK6903の規格品　厚さ1.2㎜
⊙ロックウール化粧吸音板	JISA6307の規格品

⑥ 石こうボードその他ボード張り

7 フローリング張り (18.5.1～18.5.5)(表18.5.1～表18.5.4)

類別	樹種	工法	仕上塗装
※天然木化粧複合フローリング	※ひのき	※くぎ留工法（※Ｃ種）	※無
・	・	・	・

⑧ 壁紙張り (18.6.1)

施工箇所	防火性能の級別	品質など
	※１級　・２級	
	※１級　・２級	
	※１級　・２級	
	※１級　・２級	
	※１級　・２級	
	※１級　・２級	
	※１級　・２級	

製造所

9 カーペット敷き (18.8.2～18.8.4)(表18.8.1～表18.8.3)

種類	種別
・ウィルトンカーペット（グリッパー工法）	・Ａ種　・Ｂ種　※Ｃ種
・タフテッドカーペット（全面接着工法）	・Ａ種　・Ｂ種　・Ｃ種

品質検査　※行わない　・行う
帯電電圧性　※3,000Ｖ以下　・

施工箇所	防炎性能	品質など
	※有　・無	
	※有　・無	
	※有　・無	
	※有　・無	

製造所

⑩ タイルカーペット敷き
※Ｃ種　・ (18.8.3(d))

⑪ 断熱材 (18.9.2)

材種	種類	厚さ(㎜)	施工箇所	品質規格
※ポリスチレンフォーム保温材	※Ｂ類２種ｂ	※25　・		JISA9511に準拠したノンフロンのもの
	・Ｂ類３種（皮付き）	※25　・		
⊙硬質ウレタンフォーム保温材	・１種２号	⊙15		JISA9514の規格品又は適合品
	・吹付け硬質ウレタンフォーム断熱材			JISA9526によるただし特定フロンは使用しない

⑫ 吸音材

材種	種類	厚さ（㎜）	品質規格
※グラスウール	グラスウール吸音ボード２号32Ｋ	※25　⊙50	JISA6306の規格品
・ロックウール	ロックウール吸音ベルト１号	※25　・	JISA6303の規格品

13 ポリスチレンフォーム床下地
たたみ下地　厚さ（㎜）　※４０　・
フローリング張下地　厚さ（㎜）　※８０　・
14 浴室天井材　既製品　幅２００㎜　準不燃材　（

19 舗装工事

1 しゃ断層及び凍上抑制層用材料
しゃ断層　※川砂、海砂又は山砂　・ (19.2.1)
凍上抑制層　※切り込み砂利　・
路床の盛土材料　・ (19.2.2)

2 盛土材料
3 路床土の支持力比試験
※ 行わない　・行う（※乱した土　・乱さない土） (19.2.3)

4 路床締固度の試験
※ 行わない　・行う (19.2.3)

5 路盤材料
※ 再生クラッシャラン（４０～０　最大粒径４０） (19.3.1)(表19.3.1)
・ クラッシャラン（Ｃ－４０）又はクラッシャランスラグ（ＣＳ－４０）
・ 再生粒度調整砕石（４０～０　最大粒径４０）
・ 再生コンクリート砂
加熱混合物　再生材の使用　※使用する　・使用しない (19.4.2)(表19.4.2)

6 アスファルト舗装

表層	※密粒度アスファルト混合物(１３)　・密粒度アスファルト混合物(１３Ｆ) ・細粒度アスファルト混合物(１３)	
基層	※粗粒度アスファルト混合物	
シールコート		※行わない　・行う(施工範囲　) (19.4.3)
アスファルト混合物の抽出試験		※行わない　・行う (19.4.4)
早強セメント		※使用しない　・使用する (19.5.1)
溶接金網		※有　・無

7 コンクリート舗装 (19.6.2)(19.6.4)

・カラー舗装		※顔料を使用した加熱アスファルト混合物 ・
・コンクリート平板舗装	寸　法	※Ｎ３００　・
	クッション材	※砂　・空練りモルタル
・インターロッキングブロック舗装	色　彩	・ナチュラル　※カラー
	厚　さ（㎜）	※６０　・
	クッション材	※砂　・空練りモルタル
・透水性舗装		

8 特殊舗装

20 排水工事

① 鋳鉄製マンホールふた
耐荷重　⊙Ｔ－２用（※防臭型　・　）
・Ｔ－６用（※防臭型　・　）
製造所

② 鋼製グレーチングふた
耐荷重　・５００kg／㎡用　・Ｔ－１４用
・Ｔ－６用
形　式　※受枠付き
製造所

3 遠心力鉄筋コンクリート管
径１５０㎜未満はＪＩＳ表示許可工場の製品とする。 (20.1.1)
継手　※ソケット管のゴム接合　・カラー又はソケット管のモルタル接合

4 浸透管及び浸透ます
製造所

21 植栽工事

1 植込用土
2 支柱
3 芝張り
※ 現場発生土の良質土　・客土（※畑土　・黒土） (21.1.1)
※ 防腐剤塗り (21.1.2)
種別　※こうらい芝　・野芝 (21.2.1)
客土　・行う　※行わない (21.2.2)

22 雑工事

① 階段滑り止め
材　種　ステンレスＳＵＳ３０４ (22.1.2)
形　状　ビニルタイヤ入り
両端フラットエンド　※無　⊙有（※ステンレスSUS304　・ビニル製）
幅（㎜）　約３５
取付工法　※接着工法　・埋込み工法

② 階段手摺笠木
※ ビニル製ハンドレール（幅　約５０㎜）
⊙ 集成材クリアラッカー仕上げ（市販品　径　約４５㎜）

3 黒板 (22.1.4)

種類	規格	寸法	色彩	備考
・鋼　製	JISS6007		※緑　・	※曲面　・スクリーン付引分け
・木　製	の規格品		※緑　・	※曲面　・スクリーン付引分け
・ほうろう	JISS6045		※緑　・	※曲面　・スクリーン付引分け
・焼き付け	の規格品		※緑　・	※曲面　・スクリーン付引分け

枠の材質　※アルミ製　・木製

4 カーテン (22.3.1)(22.3.2)(表22.3.1)

施工箇所	形式	装置	名称品質	ひだの種別
	・片引・引分	・電動・ひも引・手引		・Ａ種・Ｂ種・Ｃ種
	・片引・引分	・電動・ひも引・手引		・Ａ種・Ｂ種・Ｃ種
	・片引・引分	・電動・ひも引・手引		・Ａ種・Ｂ種・Ｃ種
	・片引・引分	・電動・ひも引・手引		・Ａ種・Ｂ種・Ｃ種
	・片引・引分	・電動・ひも引・手引		・Ａ種・Ｂ種・Ｃ種

製造所

5 カーテンレール
材種　※アルミニウム製　・ステンレス型 (22.3.2)
種類　・軽量用（１０－６０）　・中量用（１０－９０）
形式　・片引　・引分

⑥ ブラインド
※ 横　型　スラット幅　※２５ (22.4.1)
⊙ たて型　スラット幅　１００

7 カーテンボックス
・ 既製品（アルミニウム製　釣出し型材）
溝幅×深さ（㎜）　※９０×１５０　・１５０×１５０
色　彩　※シルバー　・着色
⊙ 図示

⑧ 天井点検口
材　質　アルミニウム製（※額縁タイプ　・目地タイプ）
製造所

⑨ 床点検口
材　質　アルミニウム製（受け枠　※アルミ製　・ステンレス製）
製造所

10 鋼製書架及び物品棚
・ 鋼製書架（ＪＩＳＳ１０３９の規格品）
・ 鋼製物品棚（ＪＩＳＳ１０４０の規格品）

11 かぎ箱
市販品
形　式　⊙３０組用　・６０組用　・１２０組用

⑫ くつふきマット
※ 塩化ビニル製（コイル状　ステンレス製受枠）　・硬質アルミニウム製（受枠とも）
・ ビニル製（ステンレス製受枠）　⊙ステンレス製（受枠とも）

⑬ 流し台
※ 優良住宅部品（Ａ－Ｉ型トラップ付 L=※1,200 ・1,500 ・1,800）　・

⑭ コンロ台
※ 優良住宅部品（Ａ－Ｉ型 L=※600 ・700)(バックガード ※有 ・無)　・

⑮ つり戸だな
※ 優良住宅部品（Ａ－Ｉ型 L=※1,200 ・900 ・600）　・

⑯ 水切りだな
※ 市販品（ステンレス製２段式　L=※1,200 ・900）

17 旗竿
材　質　※アルミニウム合金製
形　式　※テーパー型　・同一断面型
地上高さ（ｍ）　・６　・８　・１０　・１２
操作方法　※ハンドル式　・ロープ式
製造所

18 旗竿受金物
材　種　ステンレス製ＳＵＳ３０４

19 表示標識
誘導標識は既製品とし、その他は共通詳細図による。
製造所　監督員の承諾する製造所

20 煙突用成型ライニング材
製造所

21 砂利敷き
※ Ｂ種 (表22.5.1)

22 視覚障害者用誘導床材
屋外　※レジンコンクリート製　・磁器質タイル（※100角　・150角）
屋内　※塩化ビニル製　・磁器質タイル（※100角　・150角）

23 敷地境界石標
※ Ａ種　・Ｂ種 (表22.7.1)

24 フェンス
※ ビニール被覆エキスパンドフェンス　・樹脂塗装メッシュフェンス　・鋼管フェンス
製造所

25 屋内掲示板
枠の材質　アルミニウム製

26 屋外掲示板
照明器具　※無　・有
製造所

㉗ 既製トイレブース
表面仕上材　メラミン樹脂化粧板（標準色　アルミ製コーナーエッジつき）
足形状　⊙足金物型　・巾木型
製造所

28 スライディングドア
厚さ　㎜　遮音性　・有　・無
表面材　※鋼板　・　仕上げ　・壁紙張り　・焼付塗装
製造所

㉙ 洗面カウンター
※ メラミン樹脂製　Ｄ＝　㎜（洗面器用切り込み及び取合い部のシーリングを含む）
⊙ メーカーカウンター

㉚ フリーアクセスフロア
建設技術評価制度「耐震型フリーアクセスフロアの開発」の技術評価を取得したもの
寸法（㎜）　450角～600角
床板からフリーアクセスフロア天端までの高さ（200、450　㎜）
床仕上げ材　※帯電防止ビニル床タイル　2.0㎜　⊙基本色
設計用水平震度　（　Ｇ）
ボーダー部およびスロープ　※一般部の仕様に準ずる　・図示による

31 耐震スリット

	内壁	外壁
目地幅（約）	※２０㎜　・　㎜	※２０㎜　・２５㎜
目地材	シーリング材（見えかかりのみ）	シーリング材（内外とも）

製造所

32 車止め支柱
ステンレス製（上下式鋳内蔵型）　t＝2.5㎜　径１１４.３㎜　H＝GL＋７００㎜
※スプリング付　・スプリングなし

33 止水板
製造所

34 ステンレス製郵便受箱
既製品　取り出し扉は鍵及びのぞき窓付きとする。
寸法（㎜）　幅　３９０　奥行き　壁圧＋３００　高さ　６５０
外壁取合い　郵便受け口（表示マーク付き）の周囲はシーリング材Ｃ種(10×10)とする。

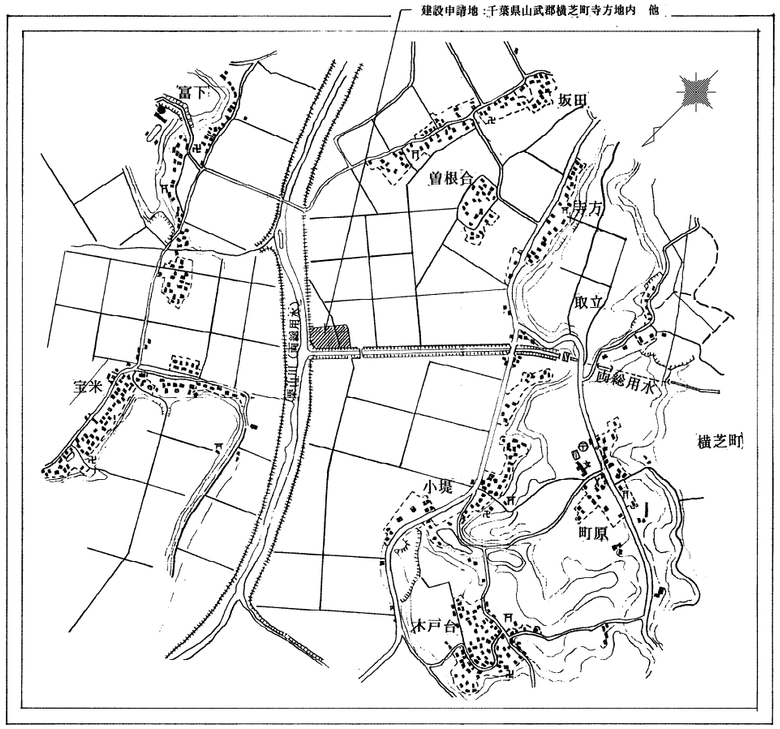
35 案内板
⊙ ステンレス　基本色　ポリウレタンエナメル

36 ガードパイプ
⊙ SUS 304、120φ、H=1200

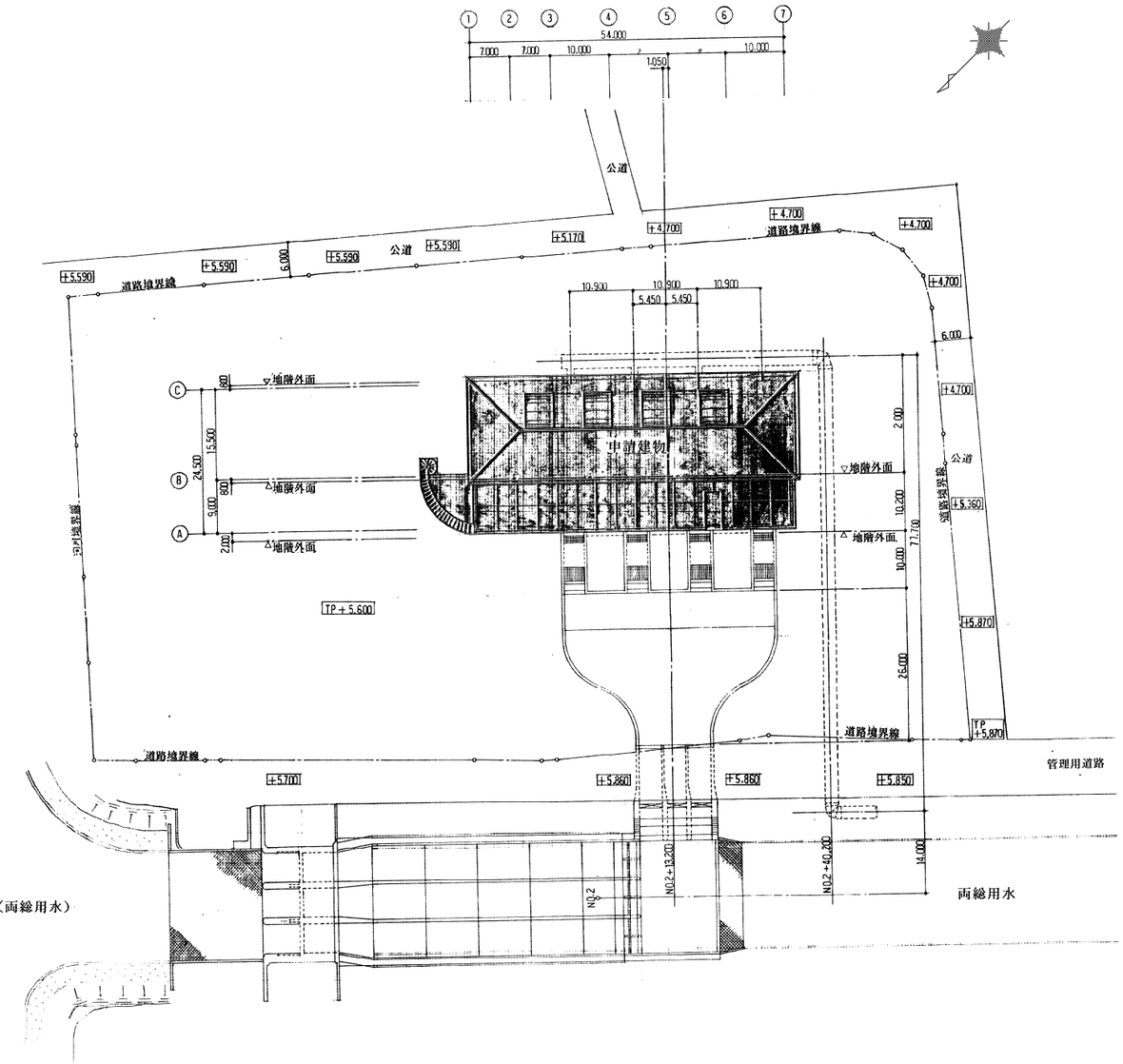
39 下足入
⊙ 集住下駄箱

㊵ 宅配ボックス

施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)
図面名	第2揚水機場上屋(特記仕様書2/2)
作成年月	平成26年 3月
縮尺	－ 図面番号 8-87/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所

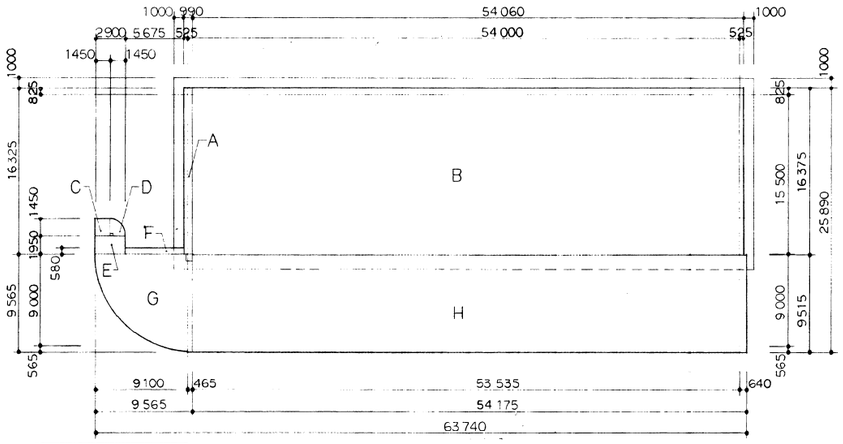


案内図　S＝1：12575

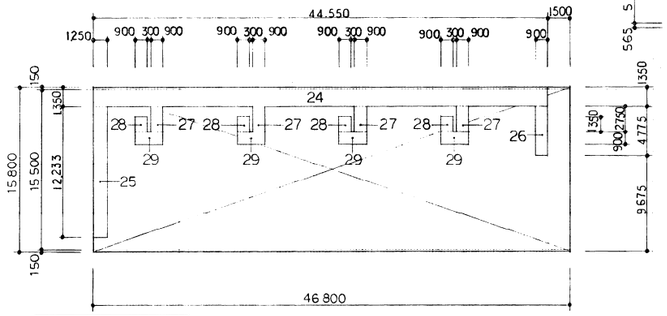


配置図　S＝1：500

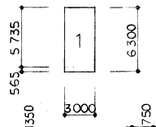
施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	配置・案内図		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 図示	図面番号	8-88/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所		



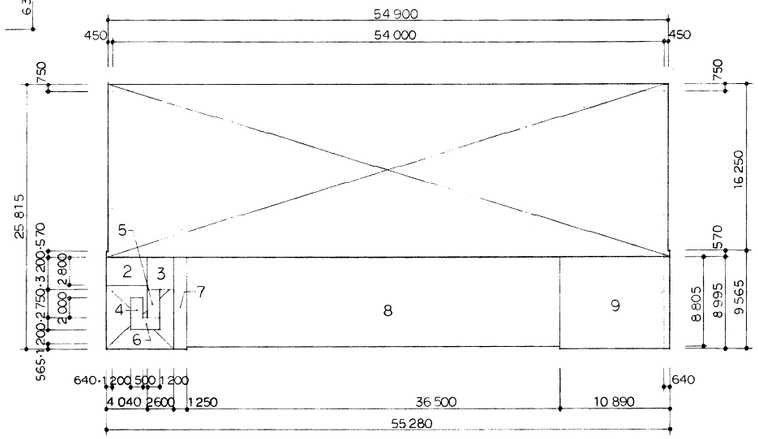
建築面積算定図 1/300



床面積算定図 階段部 1/300



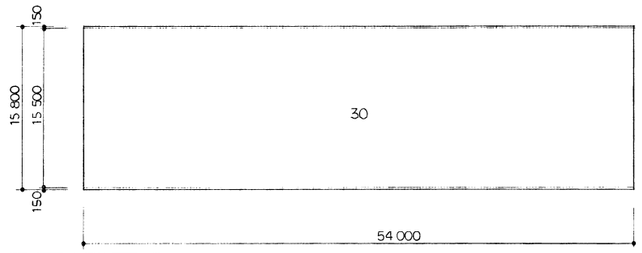
床面積算定図 PH 1/300



床面積算定図 2階 1/300

面積表

番号	式	面積(M²)	番号	式	面積(M²)
A	0.99 X 16.325	16.161	14	7.65 X 16.82	128.673
B	54.06 X 16.375	885.232	15	0.19 X 0.52	0.098
C	1.45 X 1.45	2.102	16	$\frac{9.565^2 \times 3.14 \times 6.50}{360} + \frac{1.105 \times 9.55}{2} - 1.105 \times 0.57$	9.833
D	1.45^2 X 3.14 X 1/4	1.650			
E	2.90 X 1.95	5.655	17	6.785 X 8.995	61.031
F	5.675 X 0.58	3.291	18	47.25 X 1.55	73.237
G	9.565^2 X 3.14 X 1/4	71.819	19	1.05 X 13.283	13.947
H	54.175 X 9.515	515.475	20	47.25 X 1.987	93.885
			21	3.00 X 0.70 + $0.70^2 \times 3.14 \times 1/2$	2.869
1	3.00 X 6.30	18.900	22	1.00 X 0.70 + $0.70^2 \times 3.14 \times 1/4$	1.084
2	4.04 X 2.80	11.312			
3	2.60 X 3.20	8.320	23	0.70 X 0.70 X 1/2	0.245
4	1.20 X 2.00	2.400	24	44.55 X 1.35	60.142
5	1.20 X 2.75	3.300	25	1.25 X 12.233	15.291
6	2.90 X 1.20	3.480	26	0.90 X 4.775	4.297
7	1.25 X 8.995	11.243	27	0.90 X 2.75	2.475
8	36.50 X 8.805	321.382	28	0.90 X 1.35	1.215
9	10.89 X 8.995	97.955	29	2.10 X 0.90	1.890
10	1.45 X 1.45	2.102	30	54.00 X 15.80	853.200
11	1.45^2 X 3.14 X 1/4	1.650			
12	2.90 X 1.95	5.655			
13	$\frac{9.565^2 \times 3.14 \times 46}{360} - \frac{6.665 \times 6.86}{2}$	13.846			



床面積算定図 B1階 1/300

建築面積

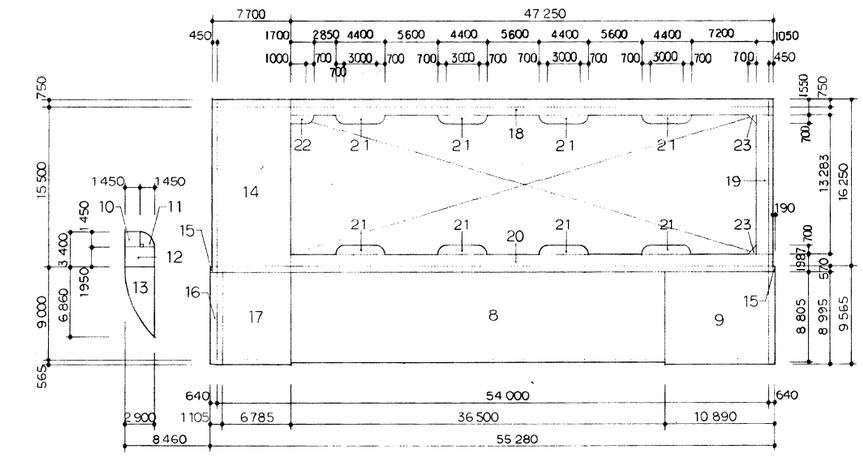
A+B+C+D+E+F+G+H = 1501.385

1501.38 M²

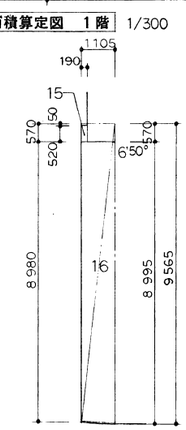
延べ床面積

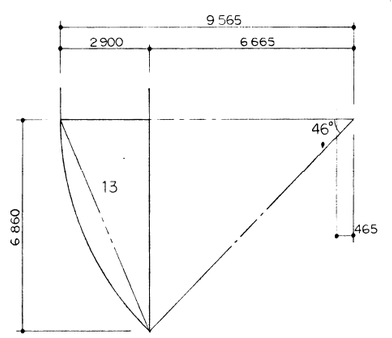
階数	番号	床面積(M²)
PH	1	18.90
2階	2・3・4・5・6・7・8・9	459.39
1階	8・9・10・11・12・13・14・15x2・16・17・18・19・20・21x8・22・23x2	847.91
階段部	24・25・26・27x4・28x4・29x4	102.05
B1階	30	853.20
合計		2281.45

2281.45M²



床面積算定図 1階 1/300





15・16 面積詳細図 1/100

13面積詳細図 1/100

施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	面積表		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 1:300 A2 1:424	図面番号	8-89/319
作成者	関東農政局 両総農業水利事業所		

仕上表

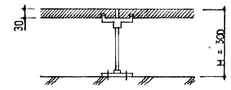
外部仕上表

部位	仕上	部位	仕上	部位	仕上
屋根	フッ素樹脂鋼板㊀0.45(横葺屋:タッキオール-7260)+アスファルトルーフィング +金属タルキ+野地板ALC板-㊀50(雪止メ付)	外壁	東、南、北側　:ALC版　ア100（横張）+弾性吹付タイル 西側、南北の一部：ALC版　ア100（縦張）+自然石調吹付タイル	樋	ステンレスSOE㊀0.4（箱型成形）受金物一式 （溶接工法）
	・避雷導体受金物（SUS）		一部腰石風化様平丸柱	タテ樋	塩ビ製（φ75）（一部隠蔽式)　　集合 白ガス管 100㍉ o.p.
2F屋根	シンダーコンクリート㊀6.5（溶接金網）+アスファルトフェルト+ 断熱材 エラスライト t=25 +断熱材（硬質ウレタンボード）㊀50　+アスファルト防水層（AE-1）		雪堆積部の外壁内側ﾘﾌﾞは、発泡ウレタン㊀15	破風	フッ素樹脂鋼板基板㊀0.45受金物一式
	+コンクリートスラブ（デッキ天端より80～130）躯体勾配。	笠木，手摺	笠木：2F屋根、　ステンレス笠木（手摺一体型） 手摺：上段、下段、　ステンレスパイプφ50.	らせん階段	支柱：ステンレスパイプ 400㍉ 踏面：PL-45 ﾓﾙﾀﾙ ｸﾘｱ㊀30　蹴上げ PL-45　硬質防水㊀30仕上ｹﾞ
			支柱：　ステンレスFB-6×65　@1,500， 手摺子：　ステンレスFB-3.2×50@100		手摺：ステンレスパイプφ50
階段室屋根	シート防水（アスファルト系）+ALC版㊀100（ALC版勾配） （D-1）			犬走り	コンクリート金ゴテ（エントランス部：　200角磁器質タイル）
		外巾木	コンクリート打放し補修		
車寄屋根	フッ素樹脂鋼板㊀0.8　（折版山高200：振合式折版ビーディールーフL200相当）			屋外設備廻りフェンス	SUS　メッシュタイプ㊀　コンクリート基礎
開口	カラーアルミサッシ：東、南、北側（ペアガラス 遮音型） カラーアルミサッシ：西側（シングルサッシ）				
	ステンレスかまちドア（エントランス），スチールドアOP（防音型）， 電動防音シャッター（鋼製）OP				

凡例

記号	名称	記号	名称
Cn	躯体コンクリート		
M	モルタル下地		
LGS	軽量鉄骨下地		
AL	ALC版下地		
S㌔	鋼板＝型枠下地		

・鋼製二重床（アクセスフロア）



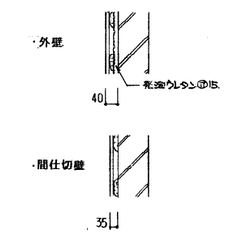
内部仕上表

階	室名	床 下地	床 仕上	巾木	壁 下地	壁 仕上	天井 下地	天井 仕上	C H	備考
B1F	ポンプ室	Cn	別途	———	———	一部、漏室：PB㊀12.5+下地ｹﾞﾈ コンクリート下地+吸音材　ア50	———	化粧PB㊀9.5	———	
	倉庫兼工作室	———	コンクリート金ゴテ（土木工事）	———	———	〃　コンクリート下地	———	コンクリート下地表し	———	
	自家発電気室	Cn	別途	———	———	コンクリート下地+　吸音材㊀50	———	コンクリート下地表し	———	
	メンテナンス用階段	鉄・骨	チェッカープレート		———	———	———	———	———	
1F	エントランスホール	M	200角磁器質タイル貼　ホモジニアスタイル㊀5°　目地入り	ソフト巾木　H=75	LGS，AL	PB㊀12.5+ビニルクロス	LGS	PB㊀9.5+ビニルクロス	H=2,875 H=6900	鋼製階段（耐候埋鋼板） 手摺：耐候複鋼板，SUP 下見ﾊﾟﾈﾙ：亜鉛鈑
	事務室	Cn （一般土木工事に含まるコンクリートタゴテ）	カーペットタイル	ソフト巾木　H=75	LGS，AL	PB㊀12.5+ビニルクロス	LGS	岩綿吸音板㊀12	H=2800	ブラインド及 BOX
	宿直室	S	タタミ敷㊀55　（H=155）	タタミ寄せ	LGS，AL	PB㊀12.5+ビニルクロス	LGS	杉板張PB㊀9.5	H=2400	ブラインド及 BOX
	電気室	Cn	別途	ソフト巾木　H=75	LGS，AL	PB㊀12.5+ビニルクロス(FL+500マデ耐水ボード㊀12)	LGS	ケイカル板㊀6目透しVP	H=3100	ブラインド及 BOX
	給湯室	Cn （一般土木工事に含まるコンクリートタゴテ）	ビニル床シート	ソフト巾木　H=75	LGS	PB㊀12.5+ビニルクロス PB㊀　9.5+タイル貼（火鉢廻り）	LGS	ケイカル板㊀6目透しVP	H=2400	流し台，コンロ台
	フトン部屋	S	耐水合板㊀5.5　（H=155）	棚巾木	W	耐水合板㊀3.0	LGS	耐水合板㊀3.0	H=2100	中段付
	玄関（宿直室）	Cn （一般土木工事に含まるコンクリートタゴテ）	ビニル床シート	ソフト巾木　H=75	LGS	PB㊀12.5+ビニルクロス	LGS	岩綿吸音板㊀12	H=2400	
	脱衣室	S	クッションフロア　（H=200）	ソフト巾木　H=75	LGS	耐水PB㊀12.5+ビニルクロス，	LGS	ケイカル板㊀6目透しVP	H=2200	脱衣棚：ポリ合板，洗濯パン：L=800 洗面化粧台
	浴室	ユニットバス（フルユニット）二点式　1418型		———	———	———	———	———	———	
	便所及び洗面所	S	ビニル床シート　（H=400）	ソフト巾木　H=75	LGS，AL	耐水PB㊀12.5+ビニルクロス	LGS	ケイカル板㊀6目透しVP	H=2400	洗面カウンター：L=550　マーブルカウンター，鏡，照明BOX
	廊下	Cn （一般土木工事に含まるコンクリートタゴテ）	ビニル床シート	ソフト巾木　H=75	LGS，AL	PB㊀12.5+ビニルクロス	LGS	化粧PB㊀9.5	H=2400	点検用窓（防火シャッター付）
	搬入・点検スペース	Cn	シンダーコンクリート金ゴテ　塗仕上	———	———	壁：ALC躯下地　即　仮張	———	化粧PB㊀9.5	———	
	メンテナンス用歩廊	———	コンクリート金ゴテ（土木工事）　塗仕上	———	———	———	———	———	———	ステンレス製手摺：別図参照
	階段室	Cn （一般土木工事に含まるコンクリートタゴテ）	ビニルシート	ソフト巾木　H=75	AL	PB㊀12.5+ビニルクロス	LGS	PB㊀9.5+ビニルクロス	———	階段及び手摺：別図参照
2F	資料室兼倉庫	Cn	カーペットタイル	ソフト巾木　H=75	LGS	PB㊀12.5+ビニルクロス	LGS	岩綿吸音盤㊀12	H=2,645	ブラインド及 BOX
	便所及び洗面所	Cn	ビニル床シート	ソフト巾木　H=75	LGS，AL	耐水PB㊀12.5+ビニルクロス	LGS	ケイカル板㊀6目透しVP	H=2400	洗面カウンター：L=550　マーブルカウンター，鏡，照明BOX
	操作室	Cn	フリーアクセス（塩ビタイル仕上）　H=300	ソフト巾木　H=75	LGS，AL	PB㊀12.5+ビニルクロス	LGS	岩綿吸音盤㊀12	H=3000	ブラインド及 BOX
	会議室	Cn	カーペットタイル	ソフト巾木　H=75	LGS，AL	PB㊀12.5+ビニルクロス	LGS	岩綿吸音盤㊀12	H=2600	ブラインド及 BOX
	廊下	Cn	ビニル床シート	ソフト巾木　H=75	LGS，AL	PB㊀12.5+ビニルクロス	LGS	化粧PB㊀9.5	H=2400	点検用窓（防火シャッター付）
	給湯室	Cn	ビニル床シート	ソフト巾木　H=75	LGS	PB㊀12.5+ビニルクロス PB㊀　9.5+タイル貼（火鉢廻り）	LGS	ケイカル板㊀6目透しVP	H=2400	流し台，コンロ台
	足洗場（柄ヘ共）	———	コンクリート金ゴテ	コンクリート巾木　H=300	AL	PB㊀12.5+EP	LGS	ケイカル板㊀6目透しVP	H=2400	コンクリート製洗場，水栓 （グレーチング t=25）
	車寄	———	インターロッキングブロック㊀80 一部 200角 磁器タイル貼	コンクリート打放し補修 （GL+500マデ）	AL	自然石調 乾式 吸付	LGS	カラーアルミ スパンドレル	H=3500	

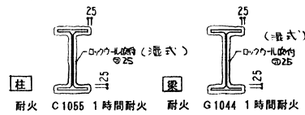
※ ビニールクロス：準不燃第0003号

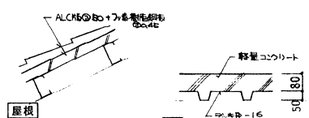
※ ビニールクロス：準不燃第0003号

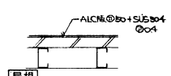
・ALC版に付くPBは、GL工法とする。



・耐火リスト



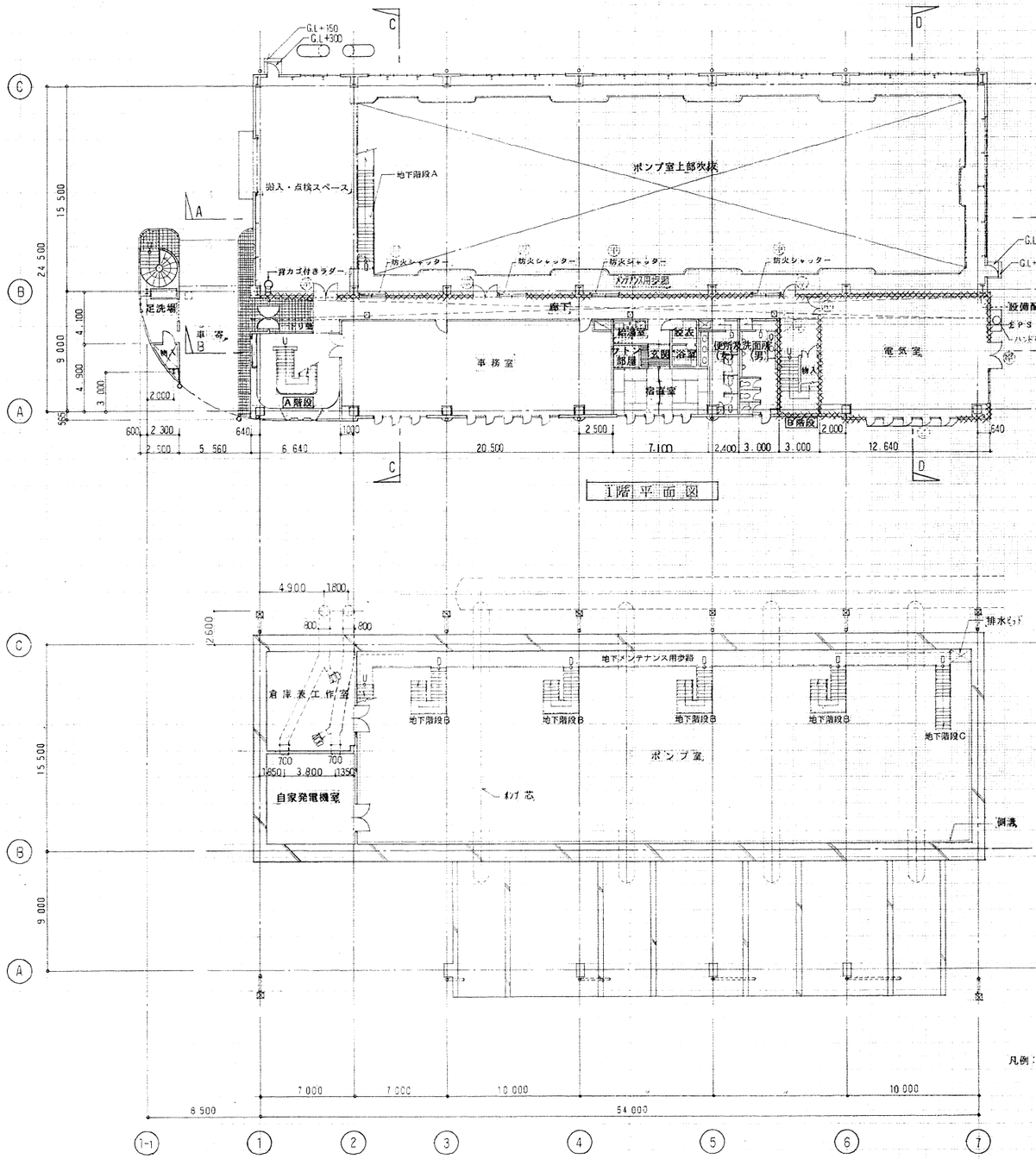




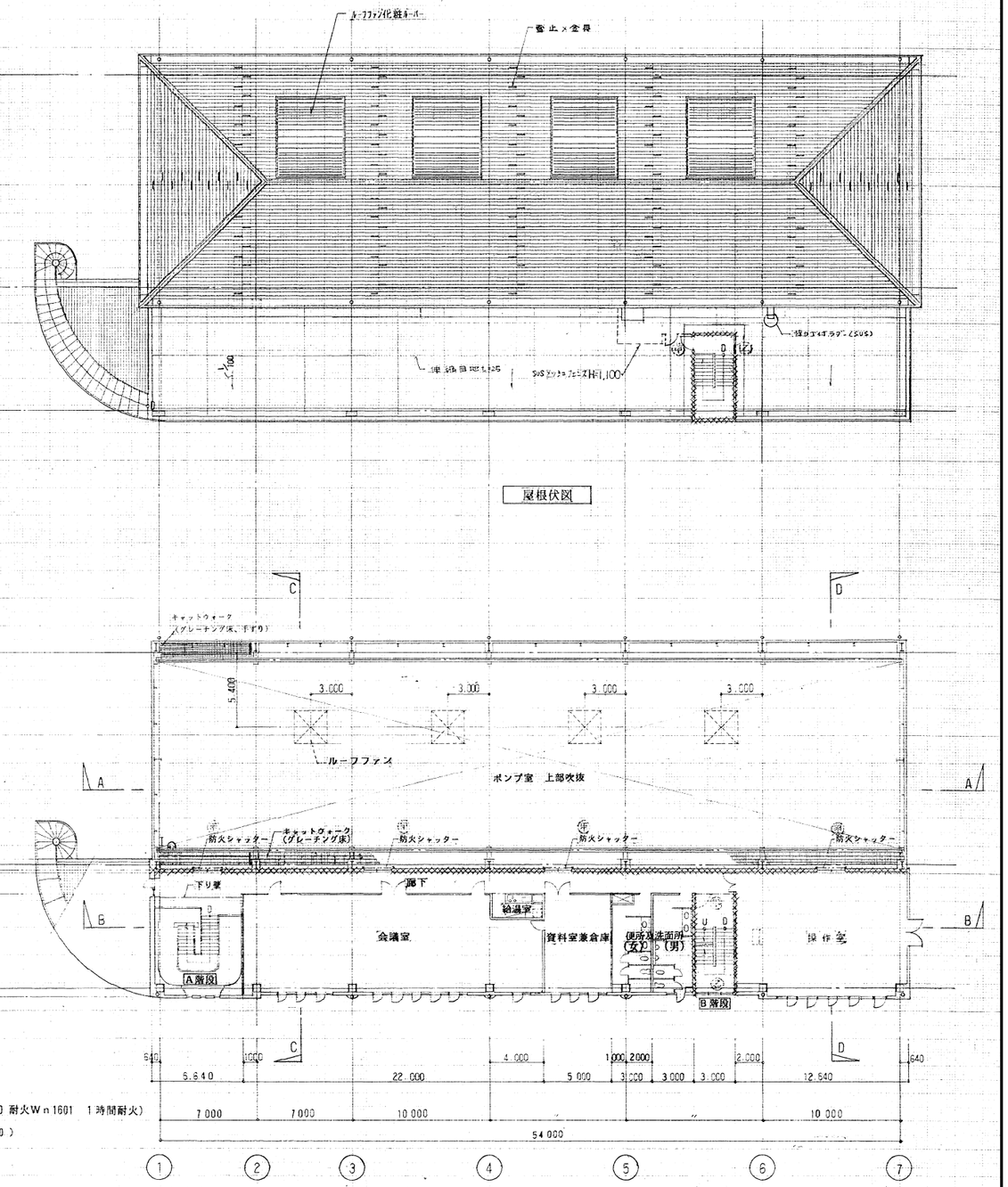
※・2F屋根，階段室屋根は建告1675号による。

・間仕切壁はALC 版㊀100　1時間耐火 建告1675号による。

施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	内部・外部仕上表		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	-	図面番号	8-90/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所		



1階平面図



屋根伏図

凡例：
- 防火区画
- 外壁材 (ALC板㋑100 耐火Wn1601 1時間耐火)
- 間仕切材 (ALC板㋑100)
- ㊍ 甲種防火戸
- ㋑ 乙種防火戸

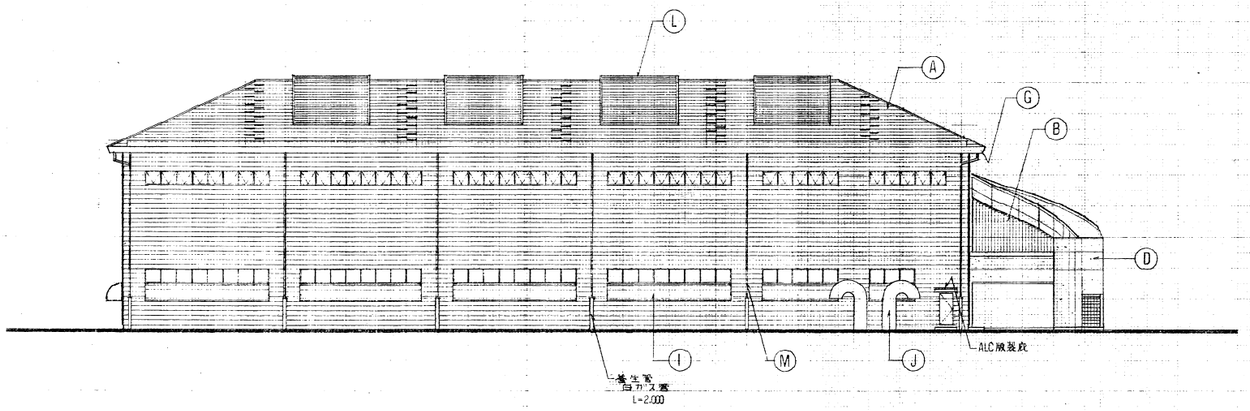
地下1階平面図

2階平面図

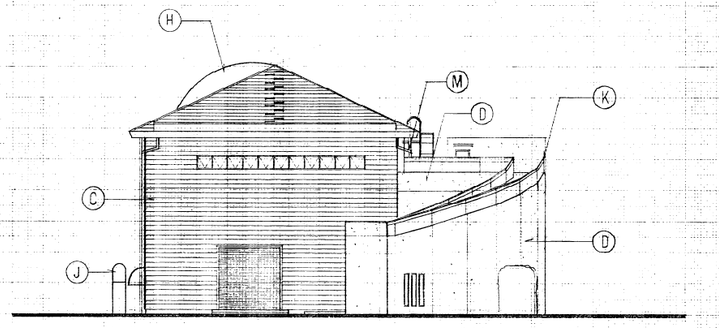
法チェック計算式

室名	床面積 (M2)	採光 必要面積	採光 計画面積	換気 必要面積	換気 計画面積	排煙 必要面積	排煙 計画面積
自家発電機室	46.23	-		-		-	設備排気計算に依る
倉庫兼工作室	50.25	-		-		-	設備排気計算に依る
ポンプ室	837.00	1/20=41.8	0.76*7.95*8=48.3 OK	1/20=41.8	48.33 OK	1/50=16.7	同左／2=24.16
1.2F 廻下	66.17	-	内装制限	-	内装制限	1/50=1.32	
事務室	151.70	1/10=15.1	1.8*(4.1+6.9)=19.8 OK	1/20=7.58	0.6*(4.1+6.9)+1.2*(1.8+3)=12.36 OK	1/50=3.03	0.6*(4.1+6.9)=6.6 OK
宿直室	25.27	1/7=3.61	1.2*5.5=6.6 OK	1/20=1.26	1.2*2.4=2.88 OK	1/50=0.50	0.6*5.5=3.3 OK
電気室	113.76	-		1/20=5.68	1.2*3+0.6*6.9=7.74 OK	1/50=2.27	0.6*6.9=4.14 OK
会議室	162.80	1/10=16.2	1.8*(6.9+14.1+1.3)=22.1 OK	1/20=8.14	0.6*(4.1+6.9+1.3)+1.2*(1.8+3)=13.1 OK	1/50=3.25	0.6*(4.1+6.9+1.3)=7.3 OK
資料兼倉庫	37.00	1/7=5.28	1.8+4.1=7.38 OK	1/20=1.87	0.6+4.1+1.2+1.8+4.62 OK	1/50=0.74	0.6+4.1=2.46 OK
操作室	113.76	1/10=11.3	1.8+6.9=12.42 OK	1/20=5.68	0.6+6.9+1.2+3=7.74 OK	1/50=2.27	0.6+6.9=4.14 OK
1.2F 便所	22.20	-		-	設備換気計算に依る	-	

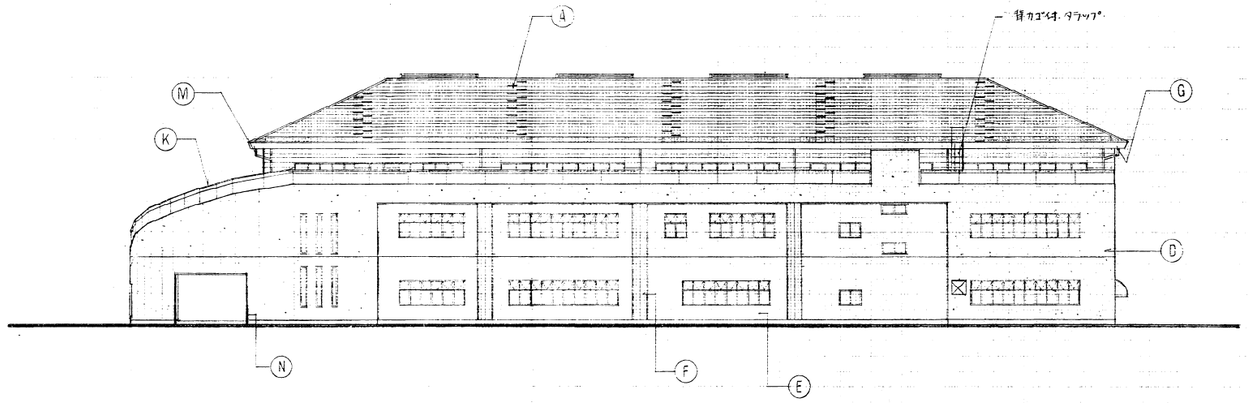
施設名	第2揚水機場 (0312100-1100-19)		
図面名	各階平面図		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 1:200 A2 1:283	図面番号	8-91/319
作成者	関東農政局 両総農業水利事業所		



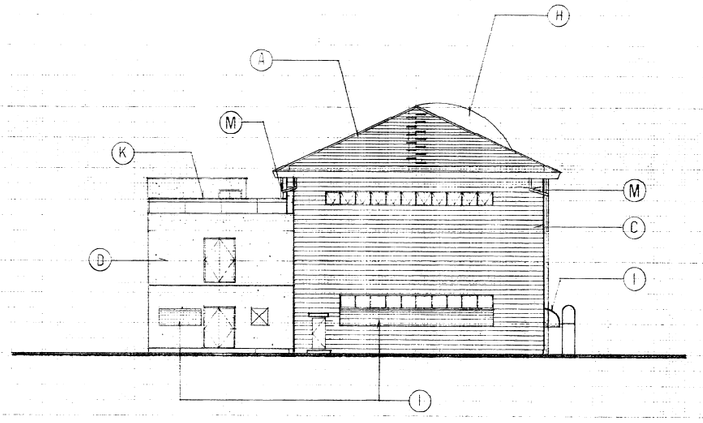
東 立 面 図



北 立 面 図



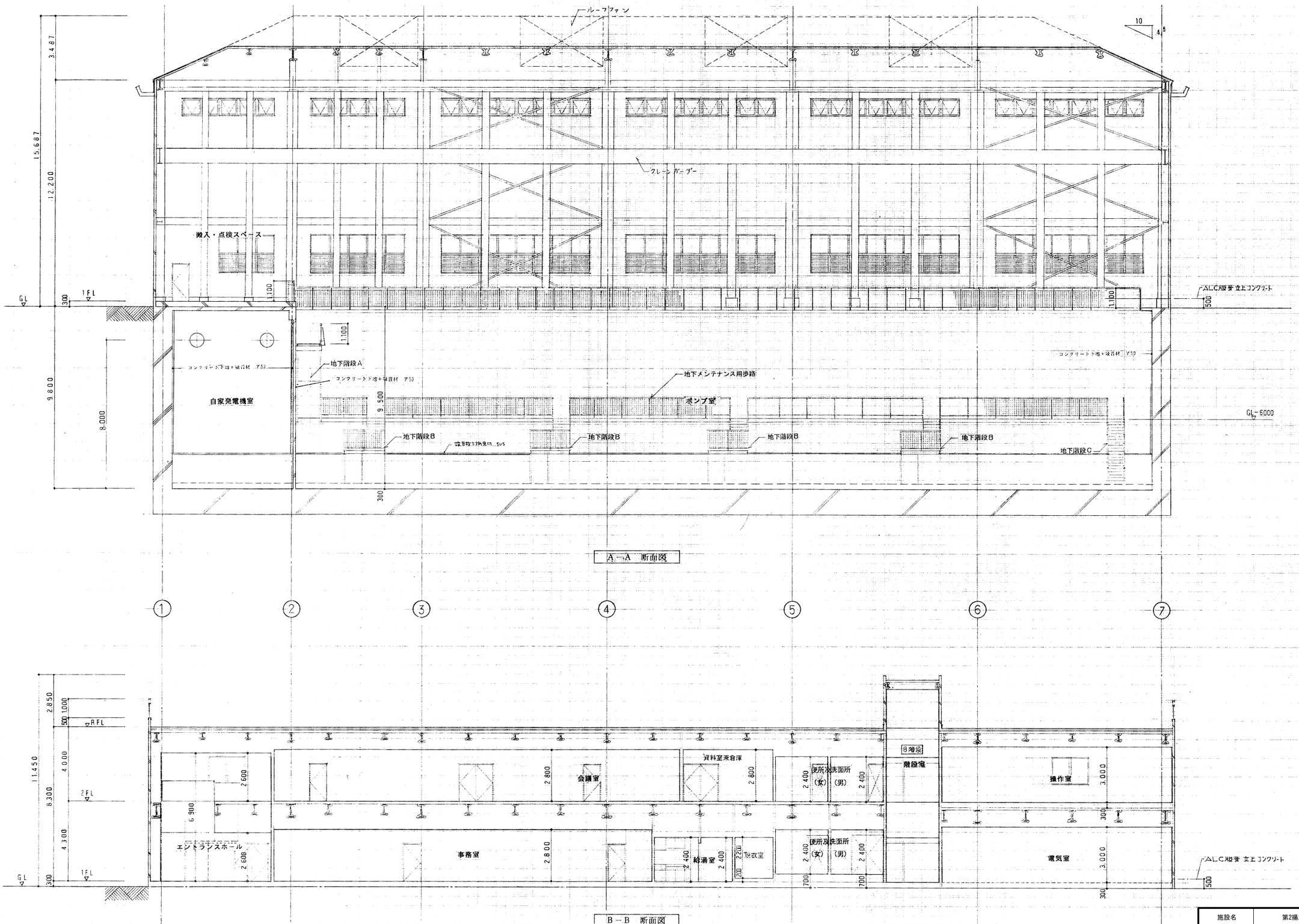
西 立 面 図



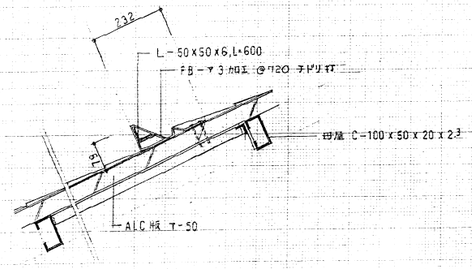
南 立 面 図

A	フッ素樹脂鋼板@0.45 (屋根葺：タンクモルタル 240 相当)(雪止×1付)	I	ステンレス鋼板@0.5 (ウェザーカバー)
B	フッ素樹脂鋼板@0.8 (折版山高H=210 改善式折版)(ピューティールーフL200相当)	J	一般構造用鋼管 STK400 (45 ㎜径管)
C	ALC 版 t=100 (補強) + 着色吹付タイル	K	ステンレス手摺 (手摺)
D	ALC 版 t=100 (補強) + 自然石調吹付	L	ステンレスパイプ(ビル・ファンにて施工)
E	ALC 版 t=100 (補強) + 自然石調吹付	M	タテ樋 (塩ビ φ75)
F	シート状天然砂石調総材張り	N	ガードパイプ (ステンレス製) φ120 H=1,200
G	フッ素樹脂鋼板@0.45 (庇屋根)		
H	フッ素樹脂鋼板@0.45		

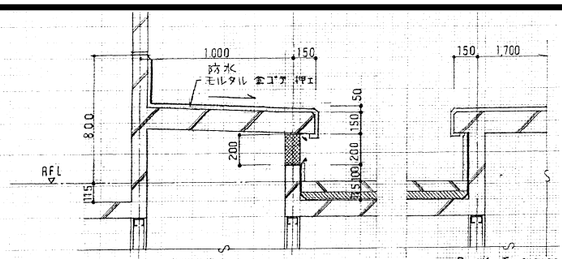
施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	立面図		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 1:200 A2 1:283	図面番号	8-92/319
作成者	関東農政局 両総農業水利事業所		



施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	断面図(1/2)		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 1:100 A2 1:141	図面番号	8-93/319
作成者	関東農政局 両総農業水利事業所		

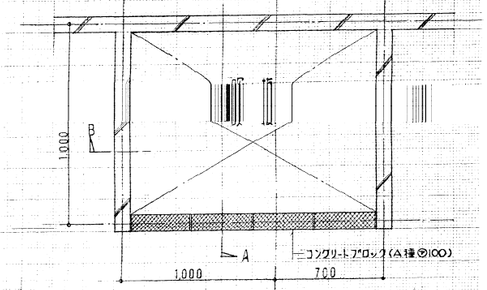


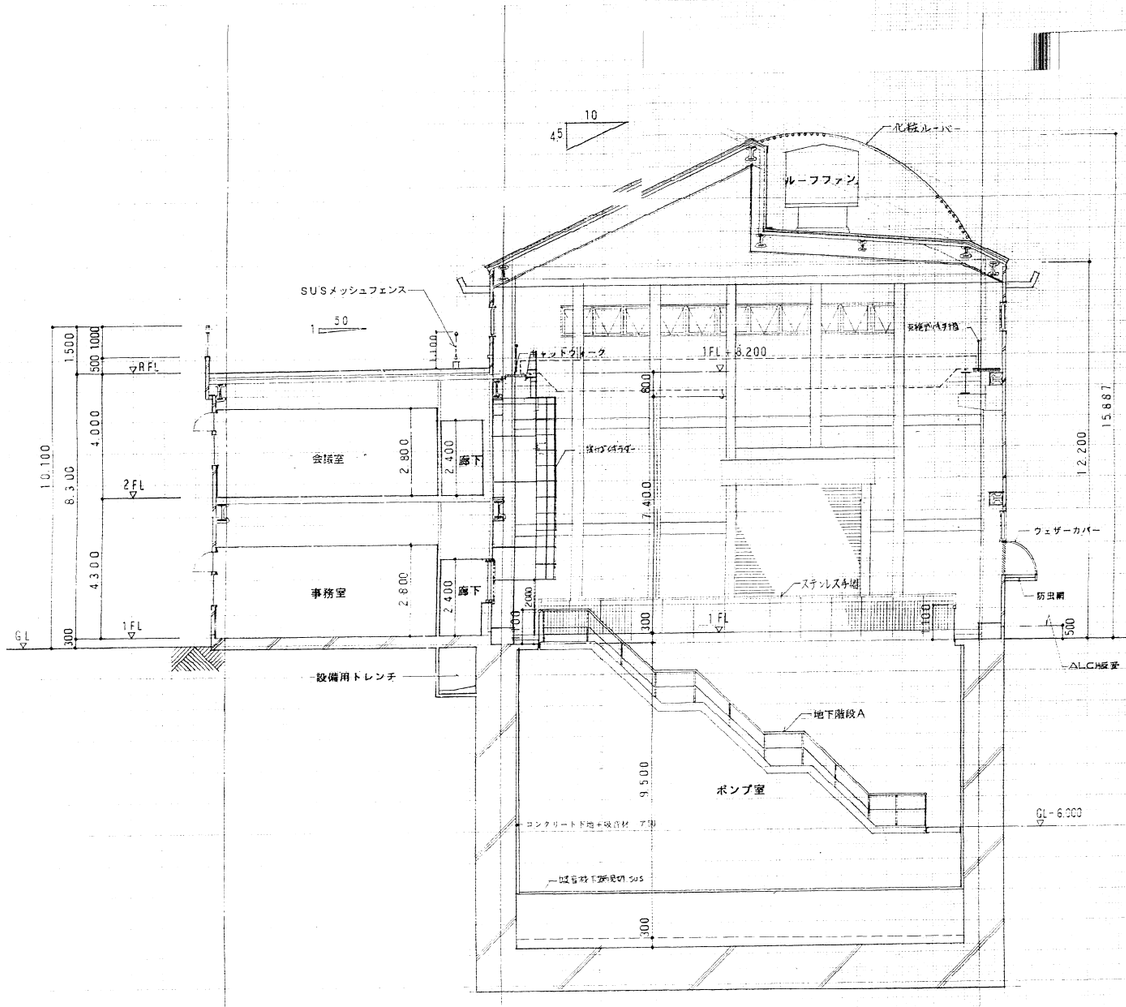
雪止×金具 詳細 S=1/10



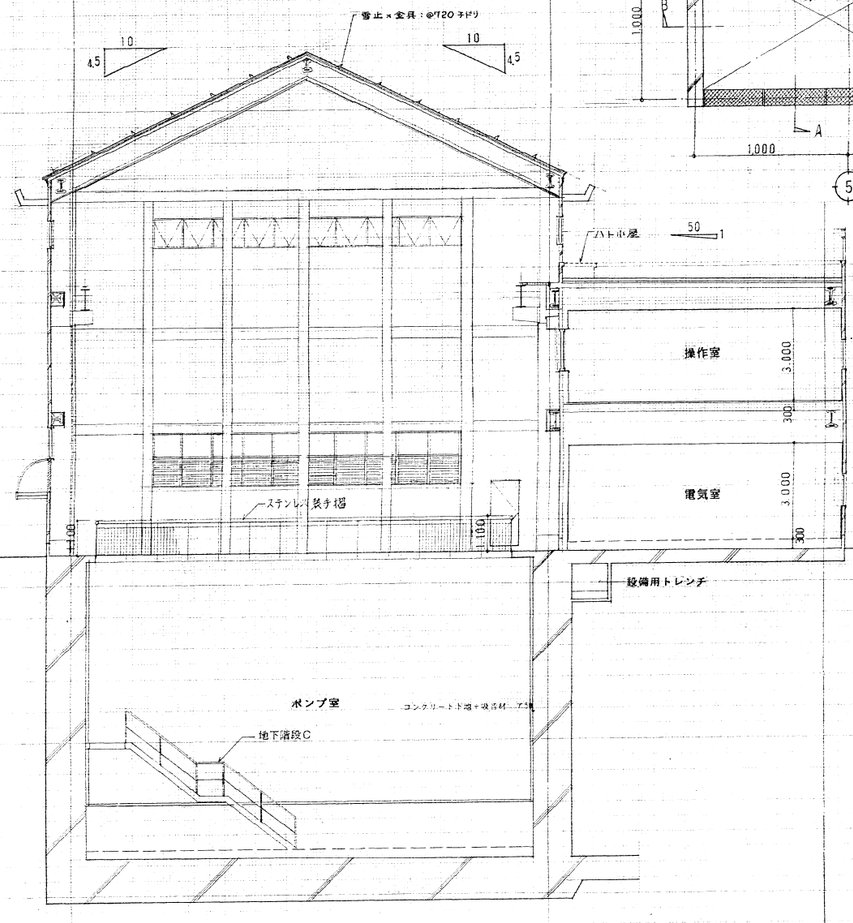
A 断面 S:1/20

B 断面 S:1/20





C－C 断面図



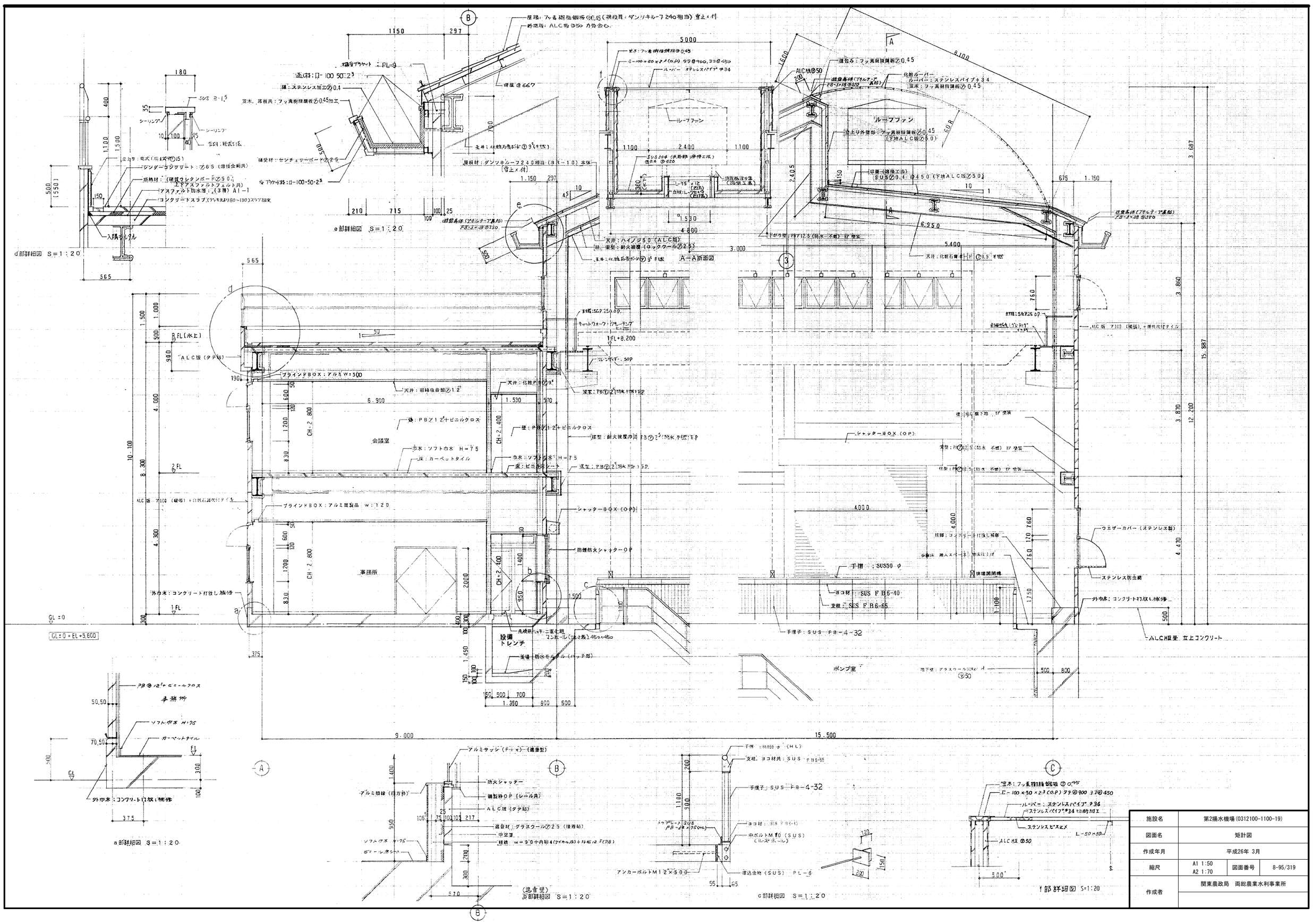
D－D 断面図

5

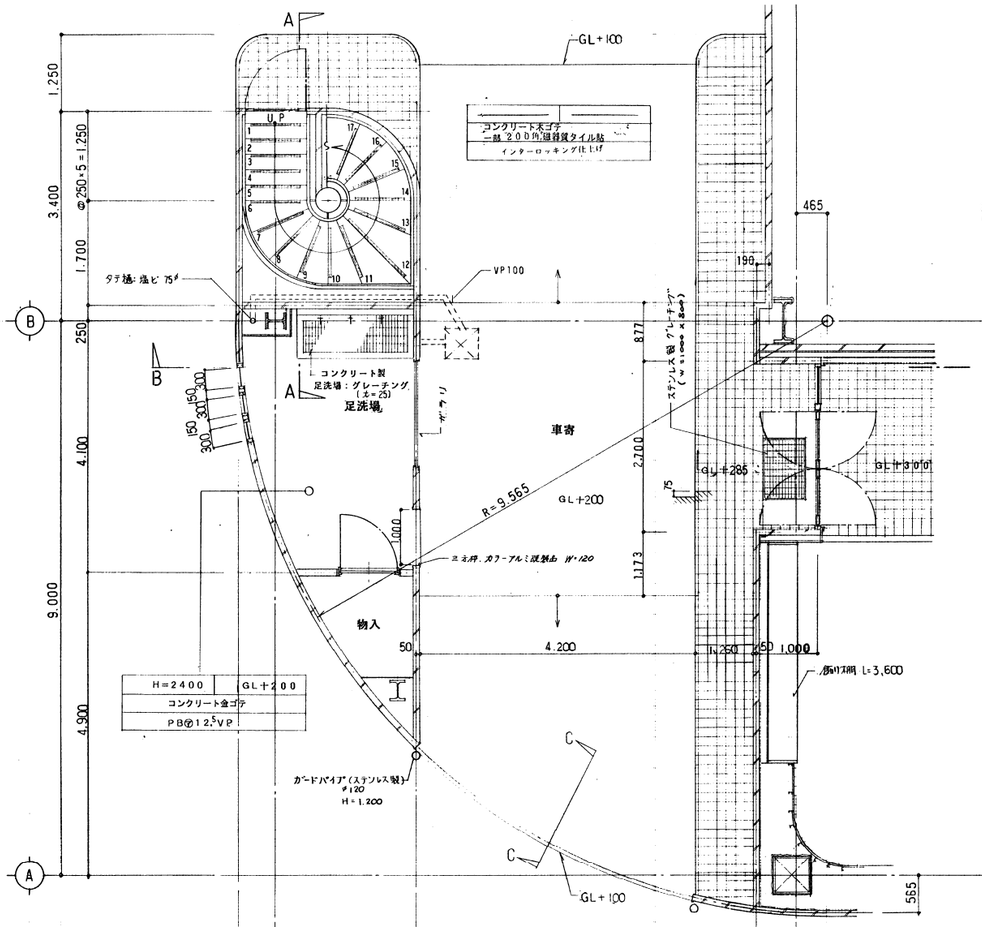
ハト小屋 平面図 S=1/20

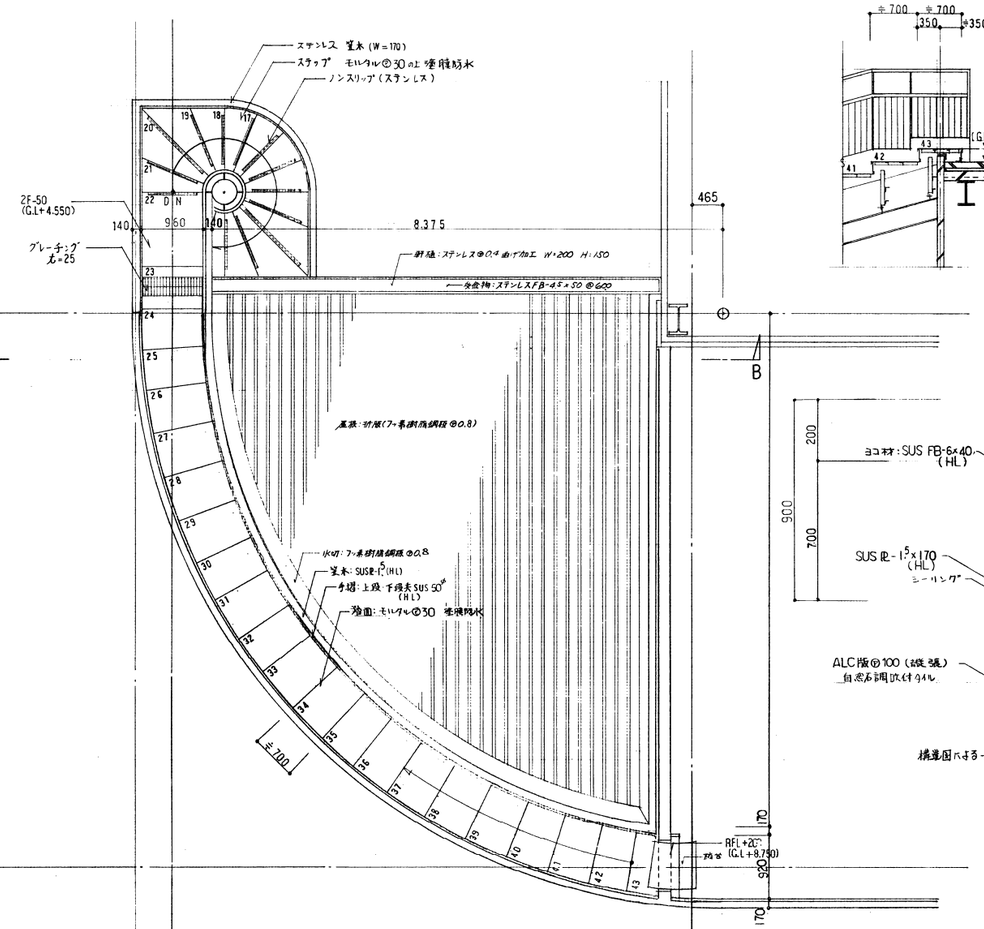
A B C C B A

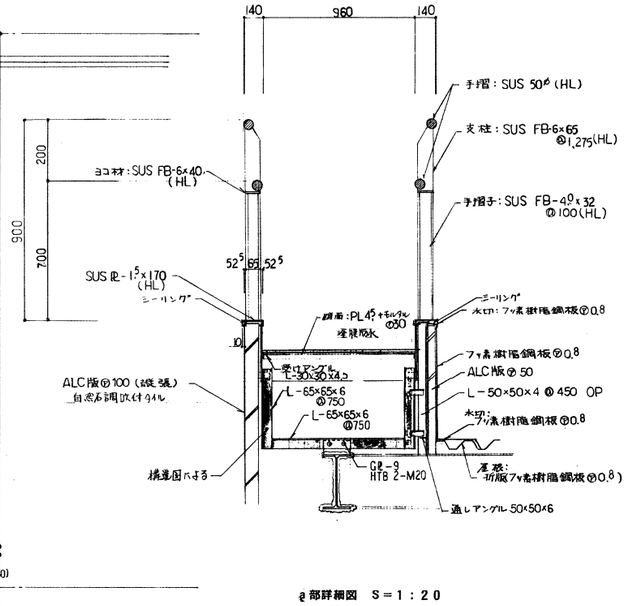
施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	断面図(2/2)		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 1:100 A2 1:141	図面番号	8-94/319
作成者	関東農政局 両総農業水利事業所		



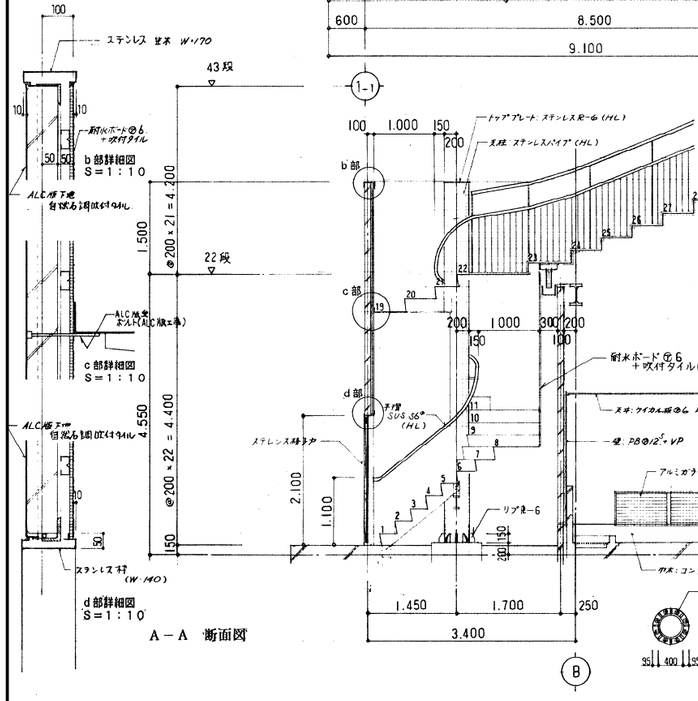
施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	矩計図		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 1:50 A2 1:70	図面番号	8-95/319
作成者	関東農政局 両総農業水利事業所		

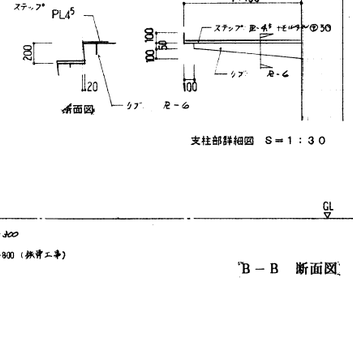


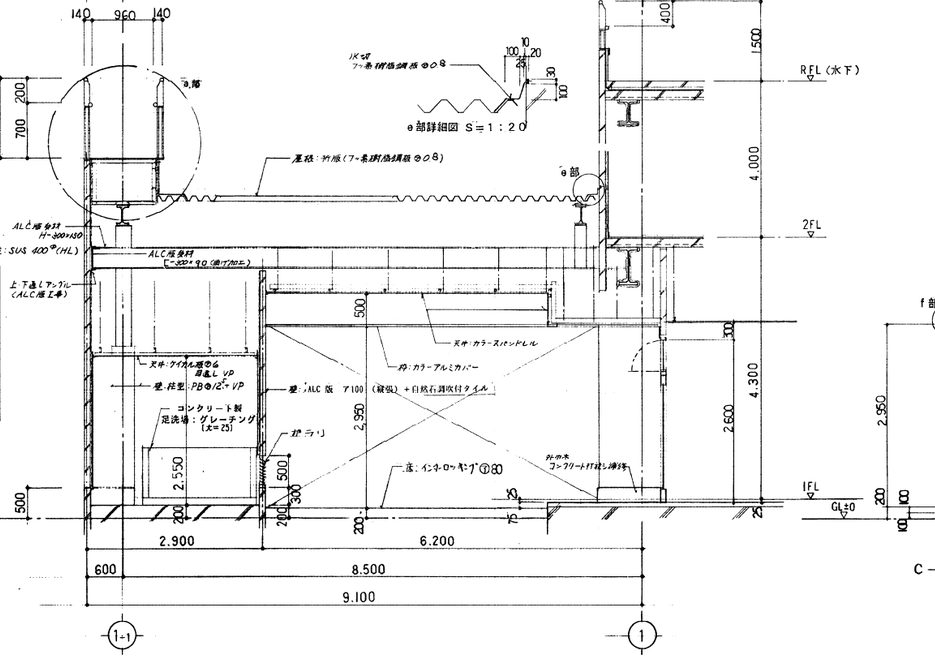


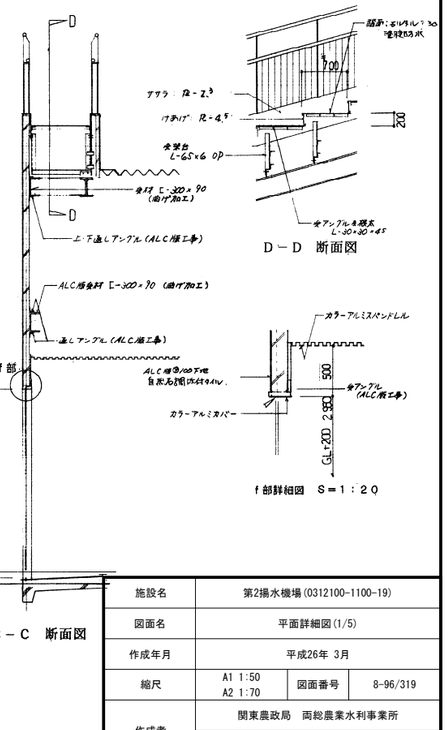


e部詳細図 S=1:20



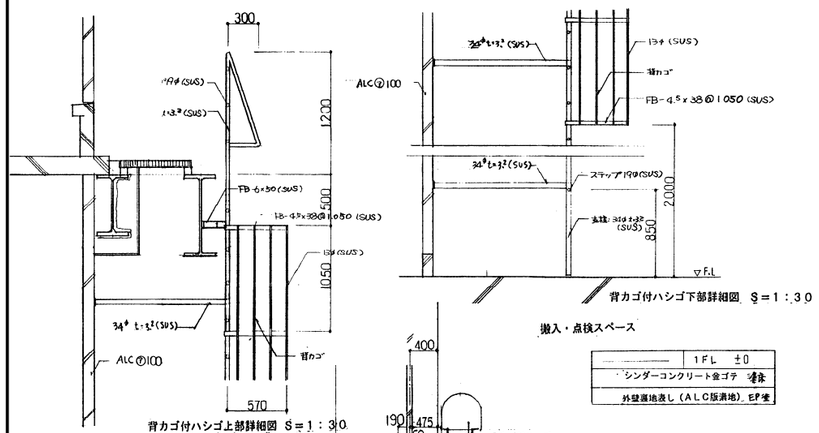






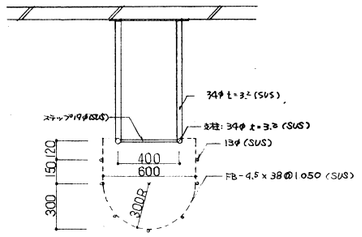
B－B 断面図

施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	平面詳細図(1/5)		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 1:50 A2 1:70	図面番号	8-96/319
作成者	関東農政局 両総農業水利事業所		

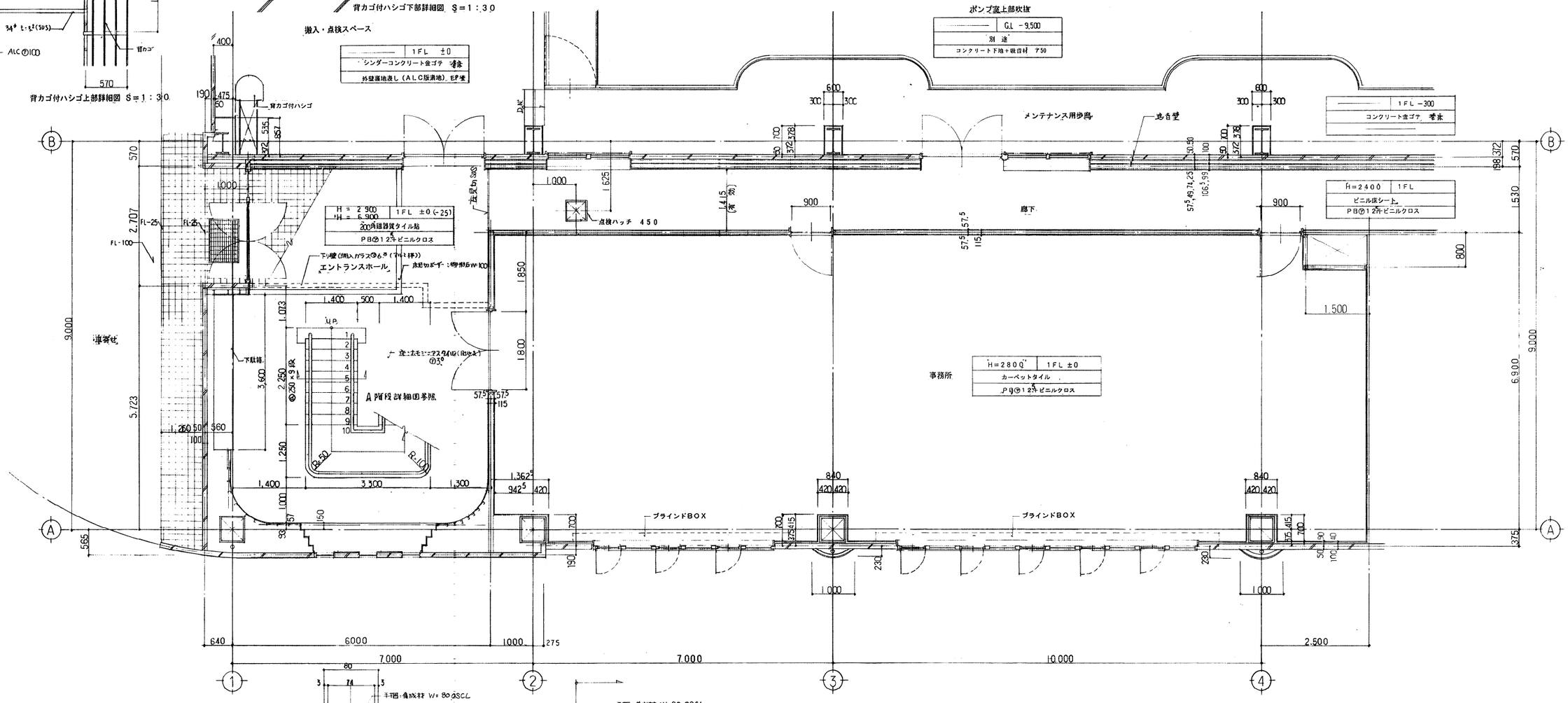


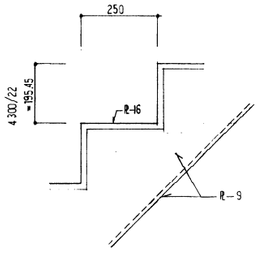
背カゴ付ハシゴ上部詳細図 S＝1：30

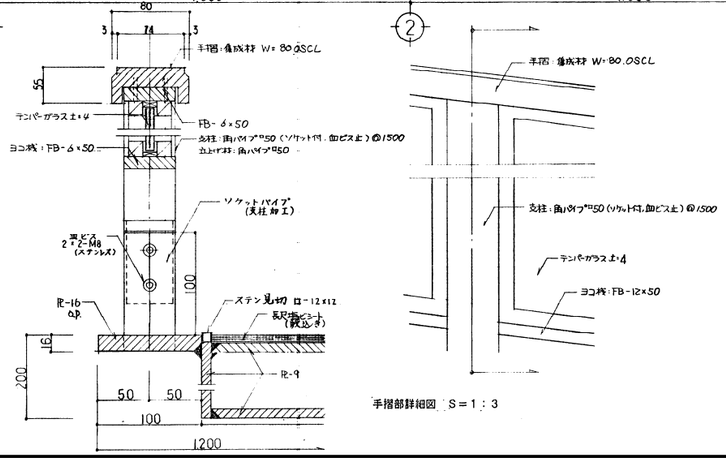
背カゴ付ハシゴ下部詳細図 S＝1：30



背カゴ付ハシゴ部詳細図 S＝1：20







手摺部詳細図 S＝1：3

凡 例

天井高さ	FLレベル
床 仕 上	
壁 仕 上	

特記事項（A・B階段）

手摺及階段の使用鋼材は全て耐候性鋼板とする

施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	平面詳細図(2/5)		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 1:50 A2 1:70	図面番号	8-97/319
作成者	関東農政局 両総農業水利事業所		

ポンプ室上部吹抜

メンテナンス用歩廊

H=2200	1FL +200
クッションフローアー	
耐水PB@12.5+ビニルクロス	

H=2400	1FL ±0
ビニル床シート	
PB@12.5+ビニルクロス	

H=2400	1FL ±0
ビニル床シート	
PB@12.5+ビニルクロス	
PB@ 9.5+タイル貼 (火器廻り)	

H=2675	1FL ±0
ビニル床シート	
PB@12.5+ビニルクロス	

H=2100	1FL+155
耐水合板@6.5	
耐水合板@ 3.0	

H=2675	1FL+155
タタミ敷@55	
PB@12.5+ビニルクロス	

H=2400	1FL ±400
ビニル床シート	
耐水PB@12.5+ビニルクロス	

ビニルシート
PB@12.5+ビニルクロス

H=3,100
別 途
PB@12.5+ビニルクロス
FL+500 マデ 耐水ボード@12.5 +ビニールクロス

事務室 / フトン部屋 / 給湯室 / 浴室 / 洗濯パン L=800 / 脱衣室 / 宿直室 / 玄関 / 便所及び洗面所 (女) / 便所及び洗面所 (男) / 階段室 (段詳細図参照) / 電気室 / 通信室

点検ハッチ 450 / 防火戸(常閉) / 柱 SUS / 防火シャッター / 逃吉望 / ブラインドBOX

a部

3.750 1.000 1.500 2.700 1.625 廊下 1.750 2.000 1.415 1.000 2.050 4.750 3.000 3.000 1.625 1.550

2.100 1.800 6.900 1.800 9.000 3.300 1.300 800 570 1.600 2.400 9.700 8.430 9.000

2.500 7.100 400 2.000 3.000 3.000 2.000 12.640 640

10.000 10.000 10.000

4 5 6 7

A A B B

凡例

天井高さ	FLレベル
床 仕 上	
壁 仕 上	

a部詳細図 S=1:20

A断面図 S=1:20

ALC版 (ケラバ部)

タテ樋 100φ (面仁)

施設名: 第2揚水機場 (0312100-1100-19)

図面名: 平面詳細図 (3/5)

作成年月: 平成26年 3月

縮尺: A1 1:50 / A2 1:70

図面番号: 8-98/319

作成者: 関東農政局 両総農業水利事業所

ポンプ室上部吹抜

遮音壁

廊下

H=2600 2FL ±0
ビニル床シート
PB@12.5+ビニルクロス

H=2400 2FL ±0
ビニル床シート
PB@12.5+ビニルクロス

下り壁 (網入ガラス@6.8(アルミ枠)) (H=500)

a部

a部詳細図 S=1:10

軽鉄間仕切(W=90)
P.B @12.5
間仕切壁 共通

可動間仕切り

会議室
H=2800 2FL ±0
カーペットタイル
PB@12.5+ビニルクロス

ブラインドBOX W300

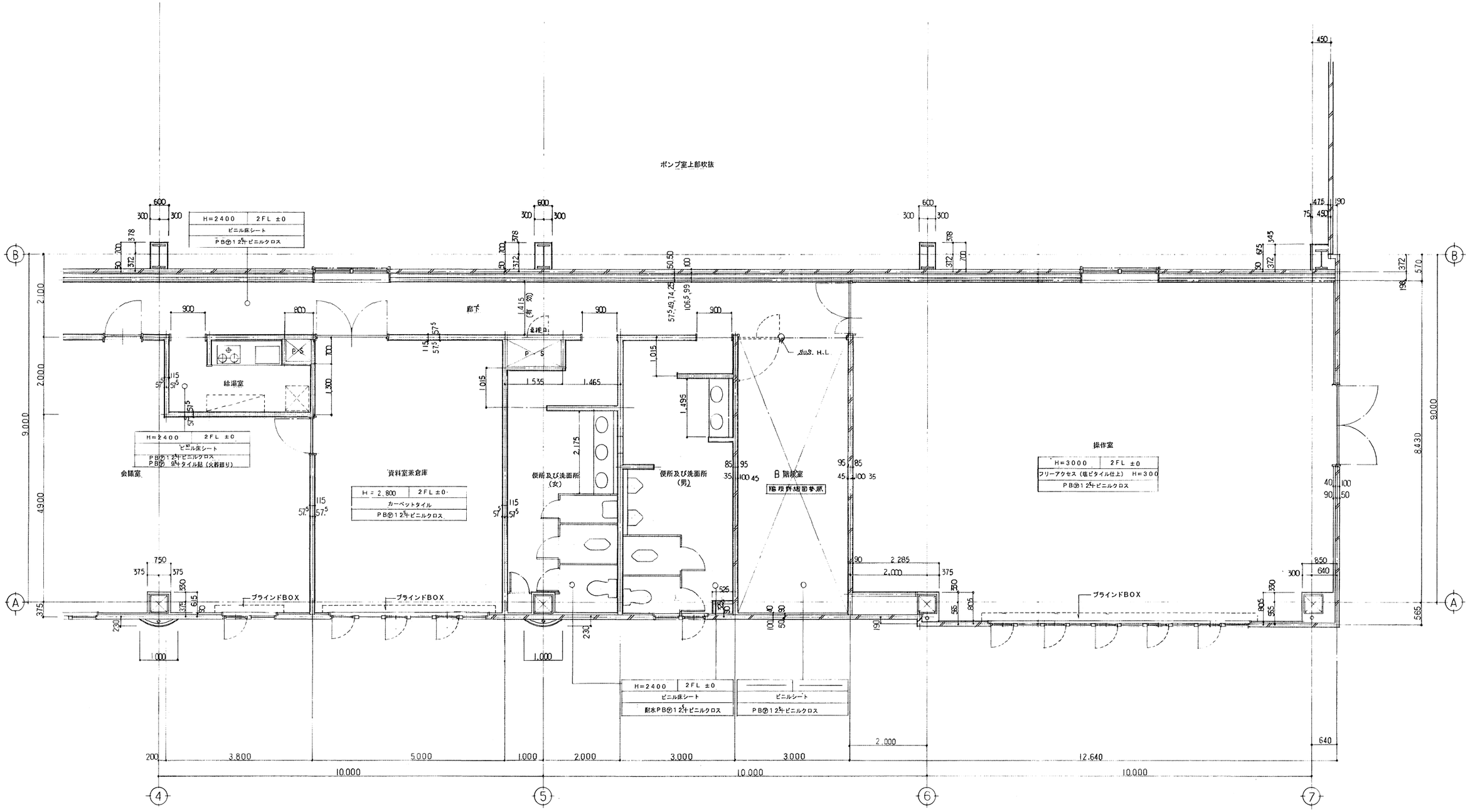
b部

b部詳細図 S=1:20
PB @12.5 } 共通
補充ウレタン@15
PB@12.5(GL工法)

凡例

天井高さ	FLレベル
床仕上	
壁仕上	

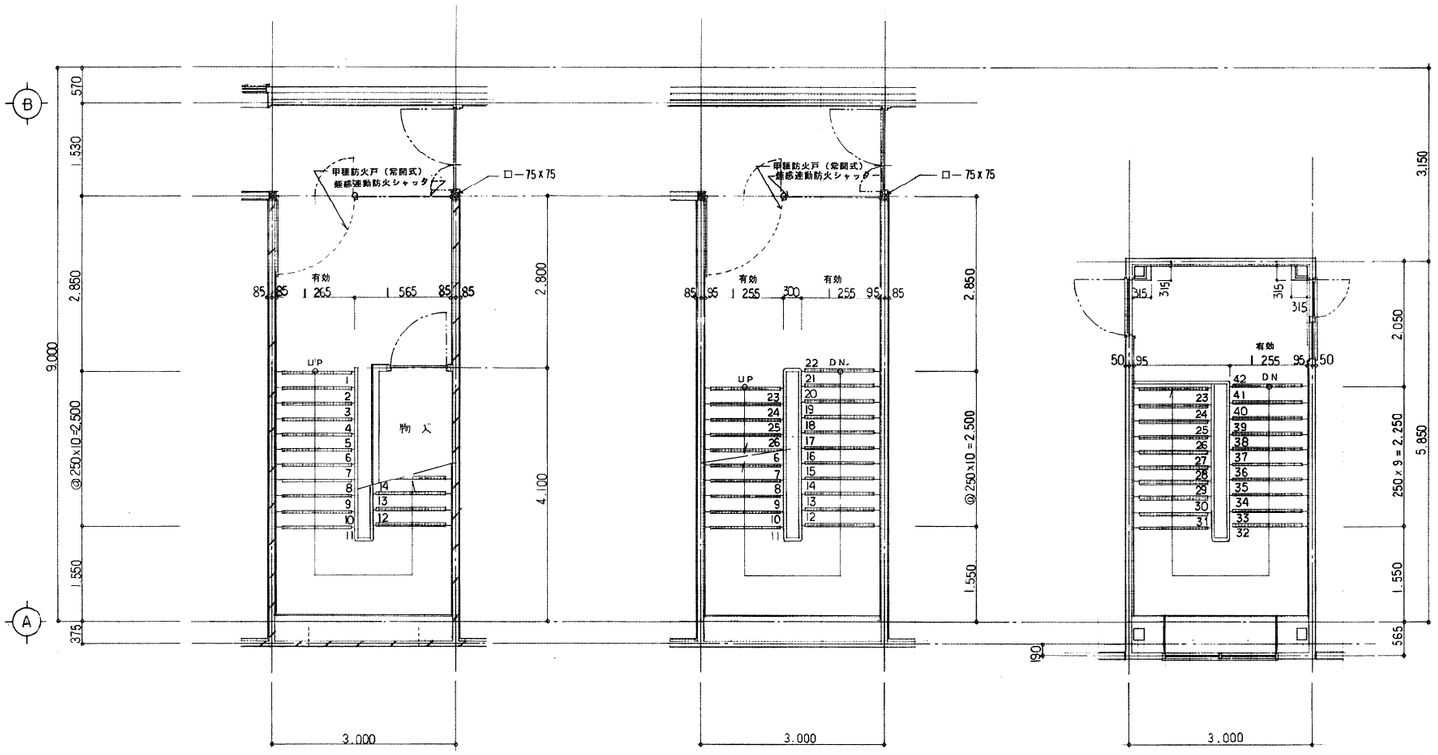
施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)
図面名	平面詳細図(4/5)
作成年月	平成26年 3月
縮尺	A1 1:50 / A2 1:70
図面番号	8-99/319
作成者	関東農政局 両総農業水利事業所

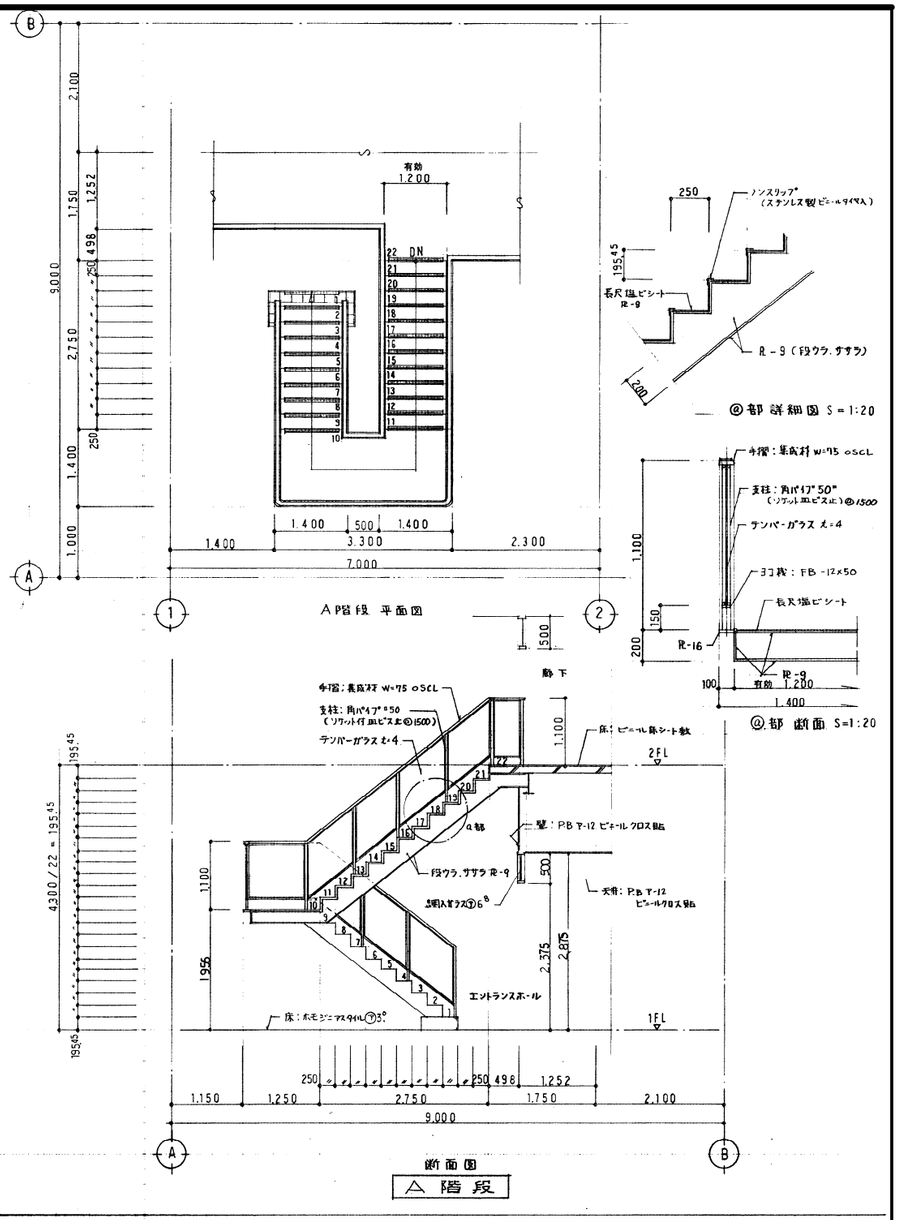


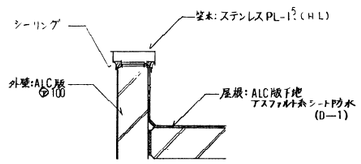
凡 例

天井高さ	FLレベル
床 仕 上	
壁 仕 上	

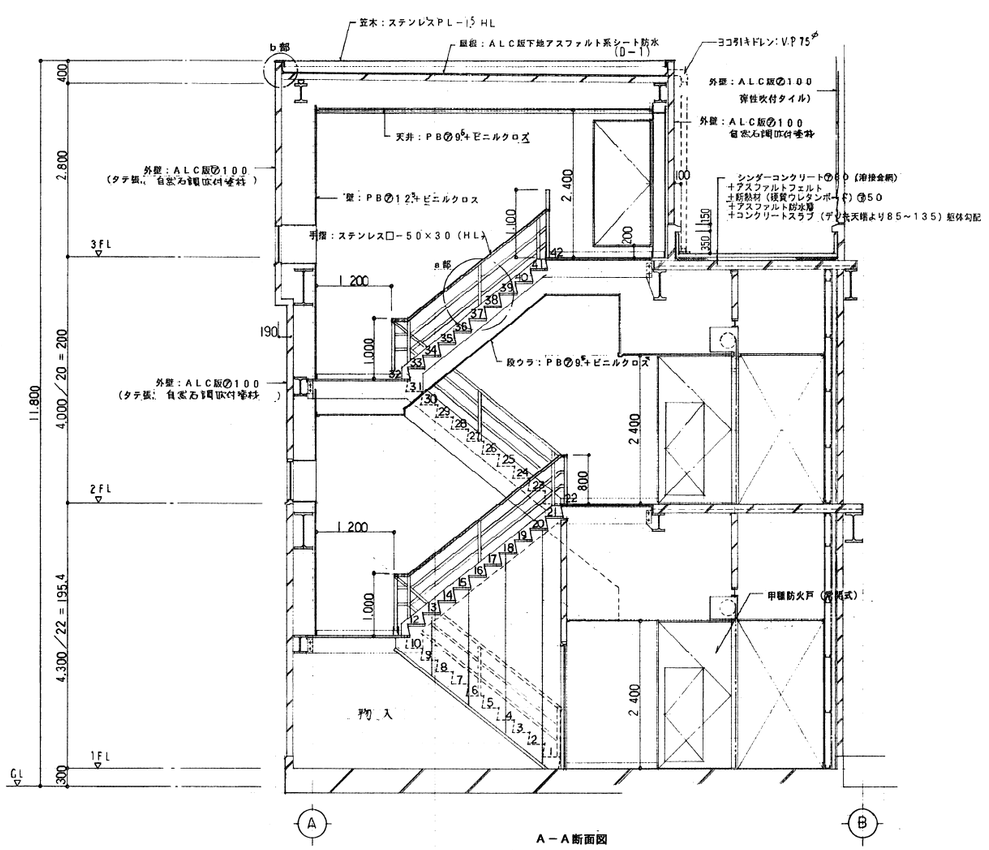
施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	平面詳細図(5/5)		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 1:50 A2 1:70	図面番号	8-100/319
作成者	関東農政局 両総農業水利事業所		

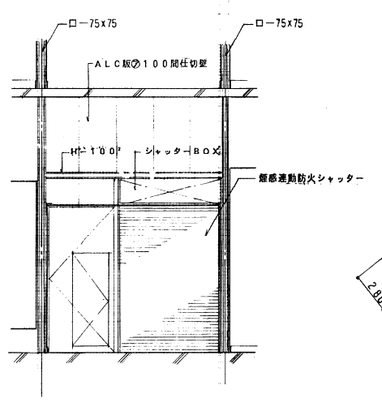




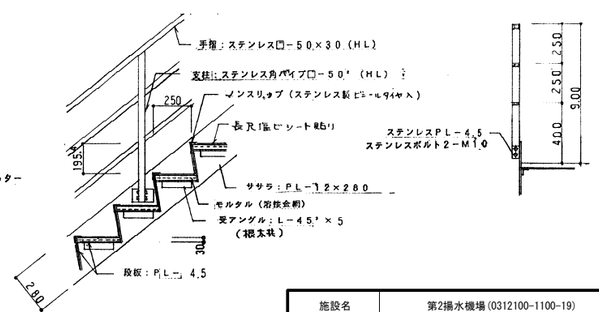


b部詳細図 S＝1：10



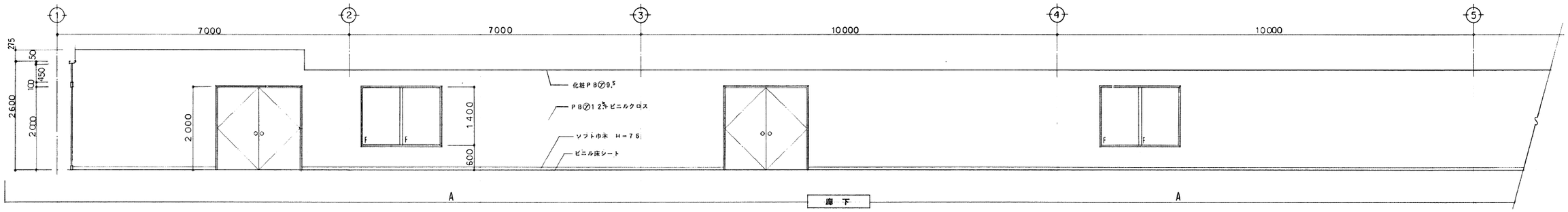


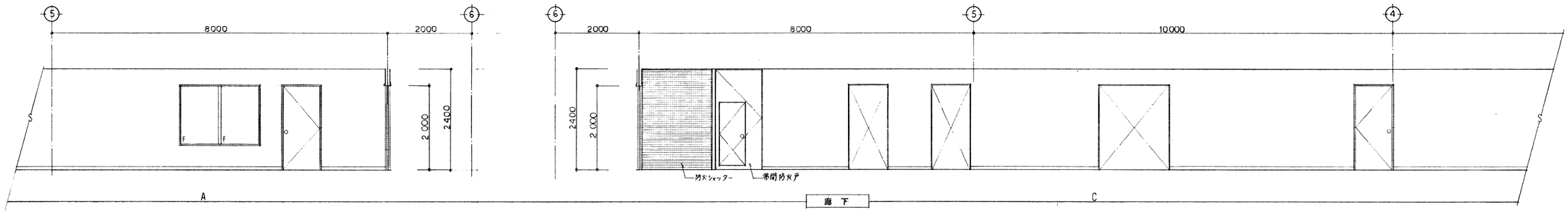
B－B断面図

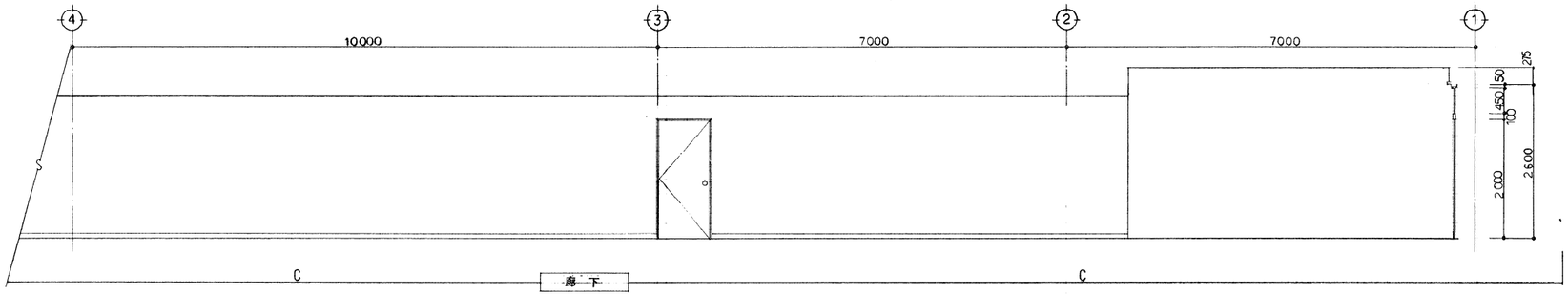


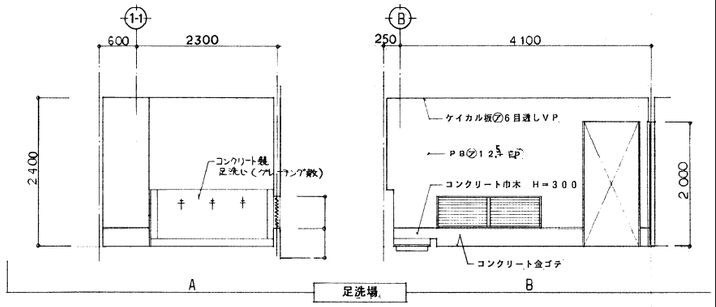
a部詳細図 S＝1：20

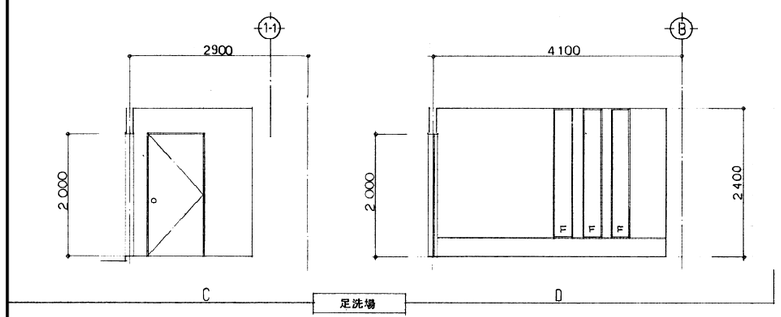
施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	階段詳細図		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 1:50 A2 1:70	図面番号	8-101/319
作成者	関東農政局 両総農業水利事業所		

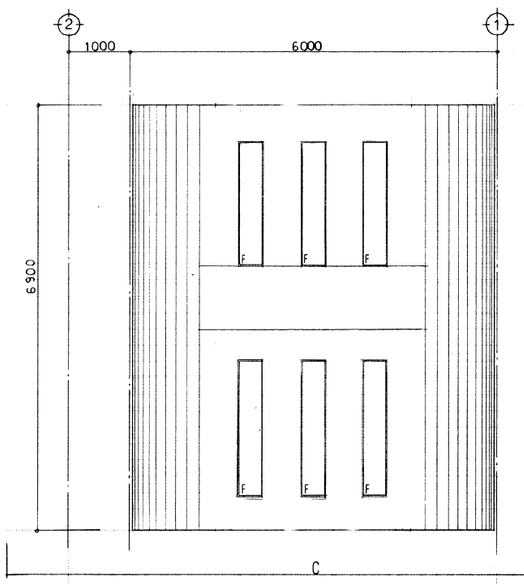


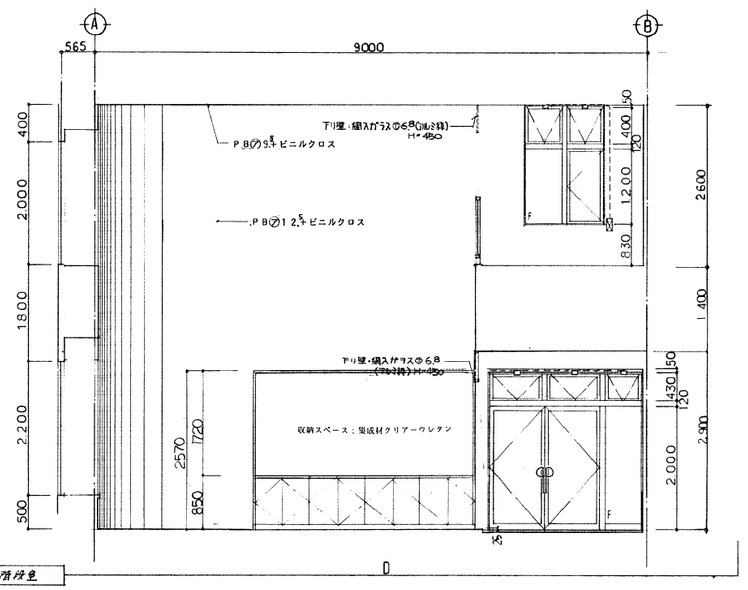




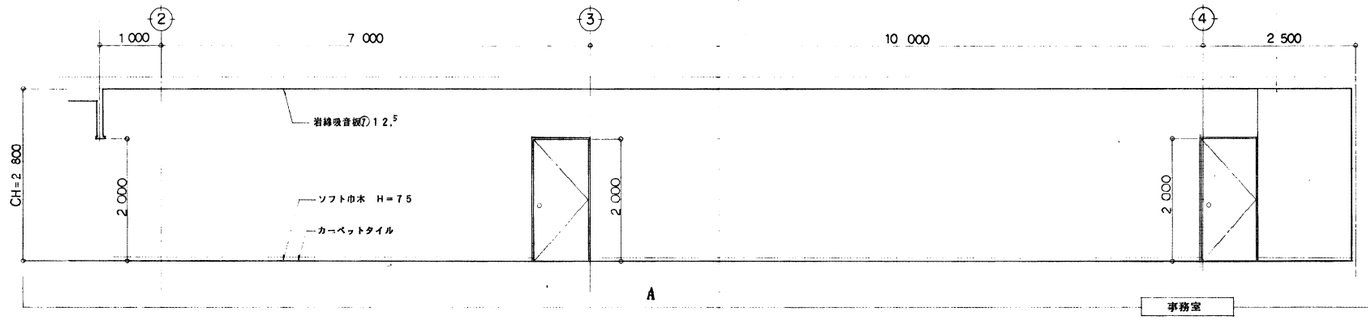


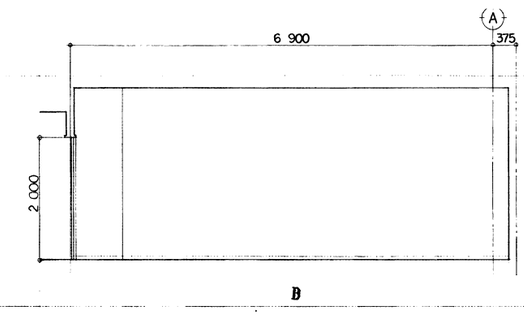


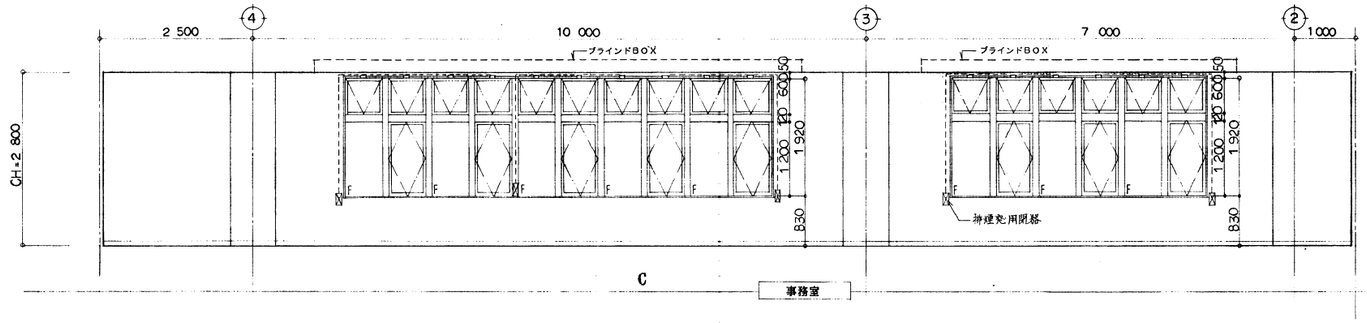


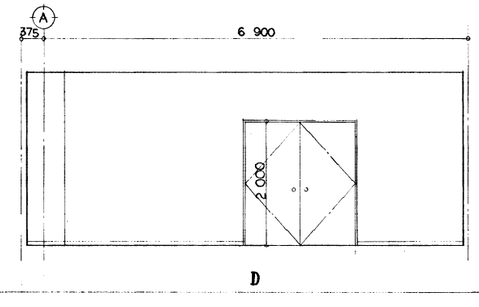


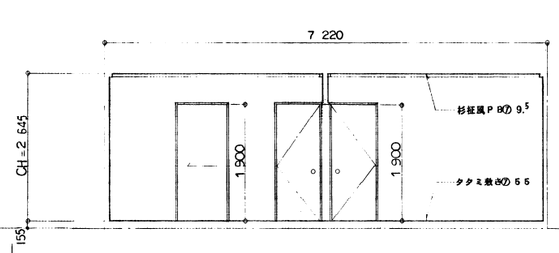
施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	展開図(1/4)		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 1:50 A2 1:70	図面番号	8-102/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所		

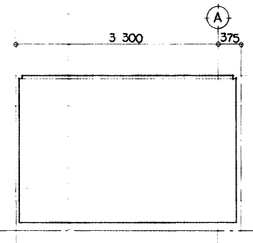


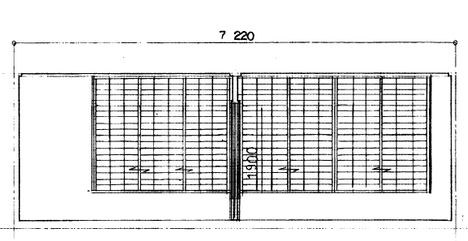


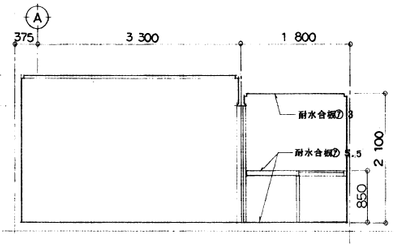


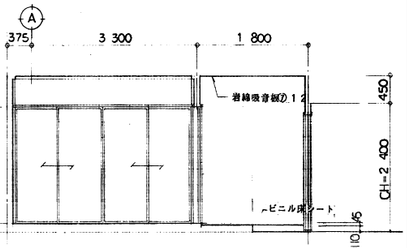


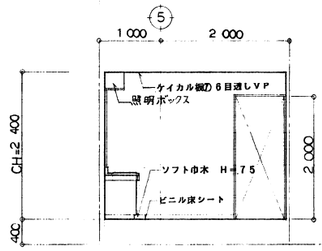


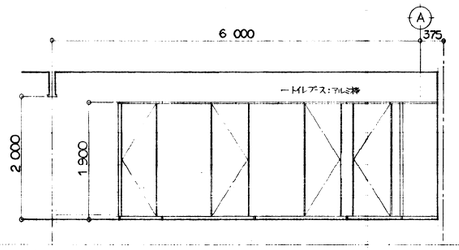


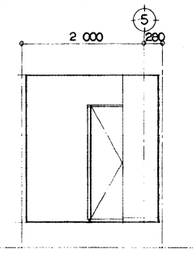


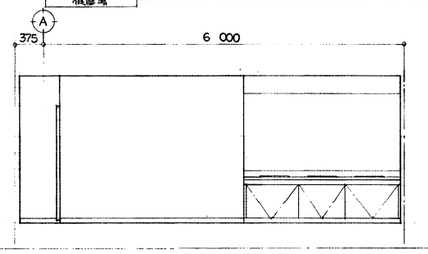


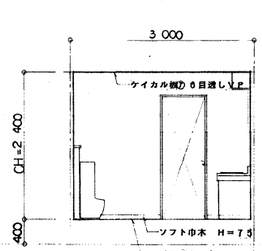


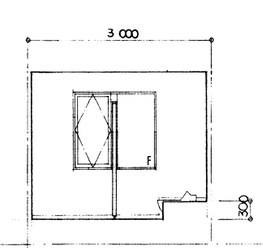


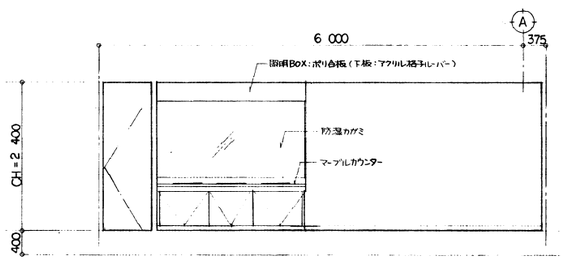


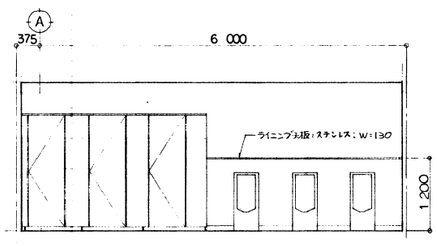


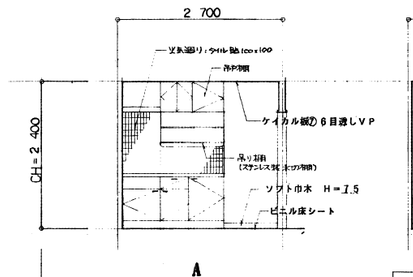


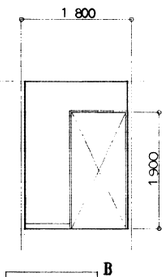


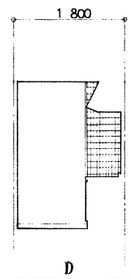




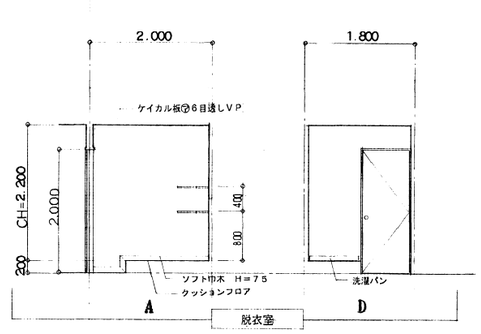


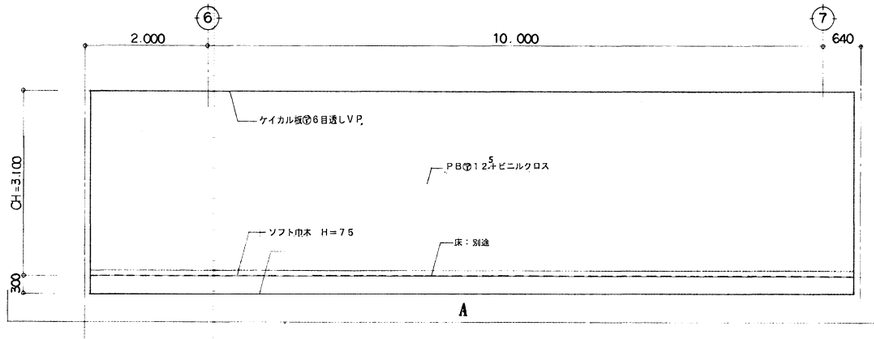


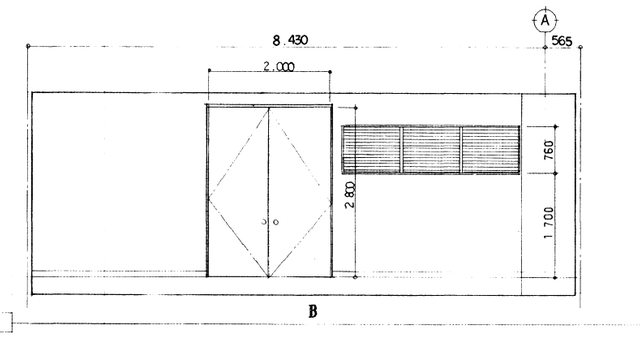


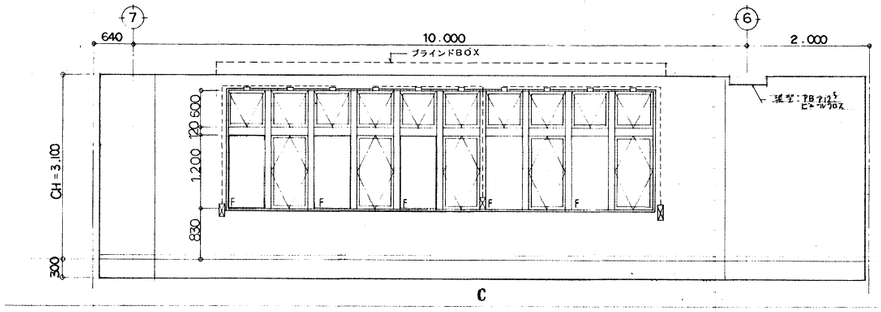


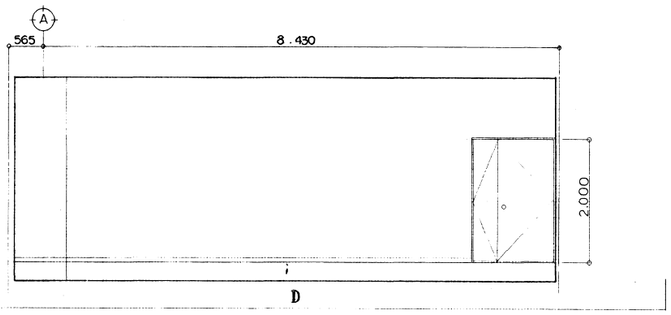
施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	展開図(2/4)		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 1:50 A2 1:70	図面番号	8-103/319
作成者	関東農政局 両総農業水利事業所		

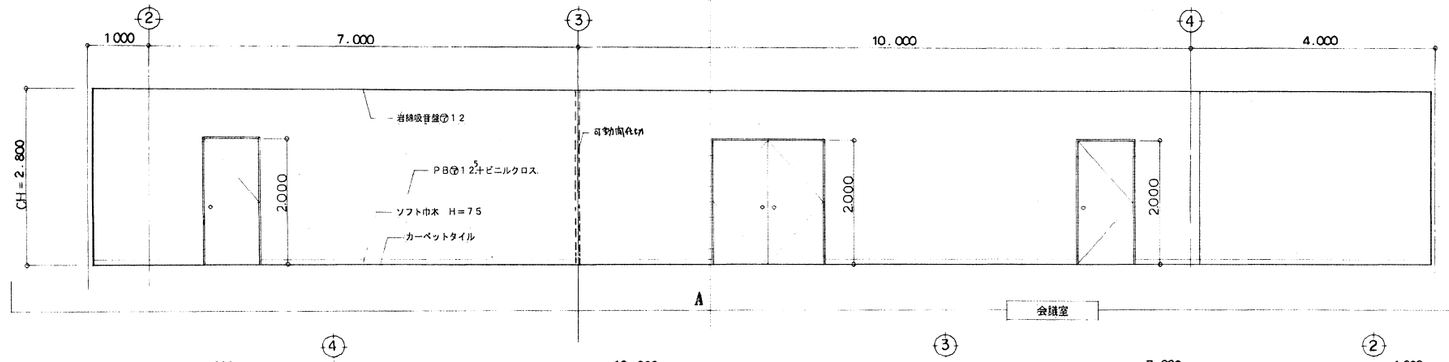


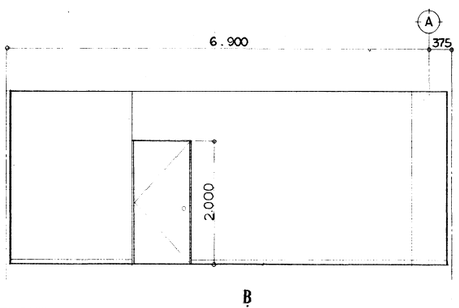


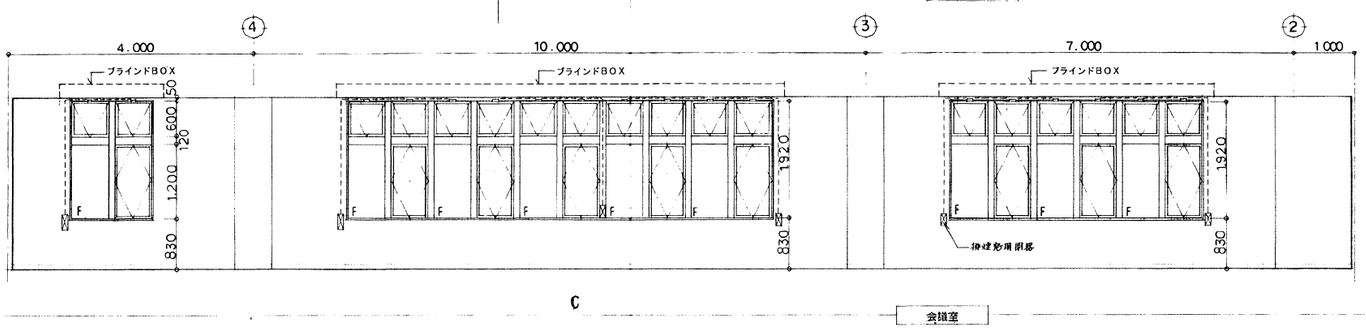


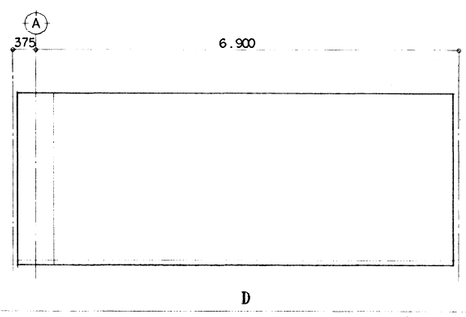


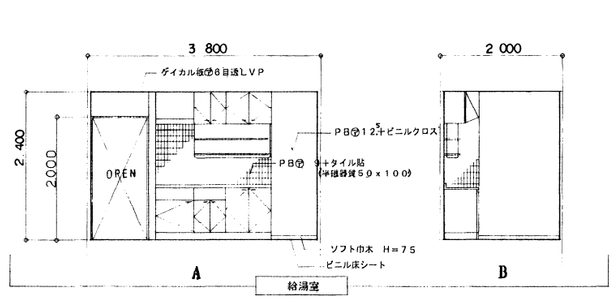


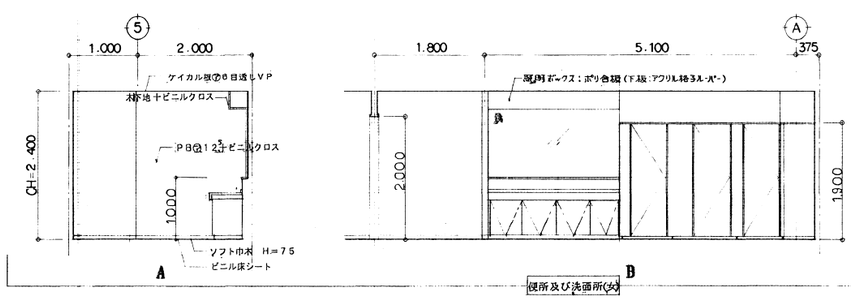




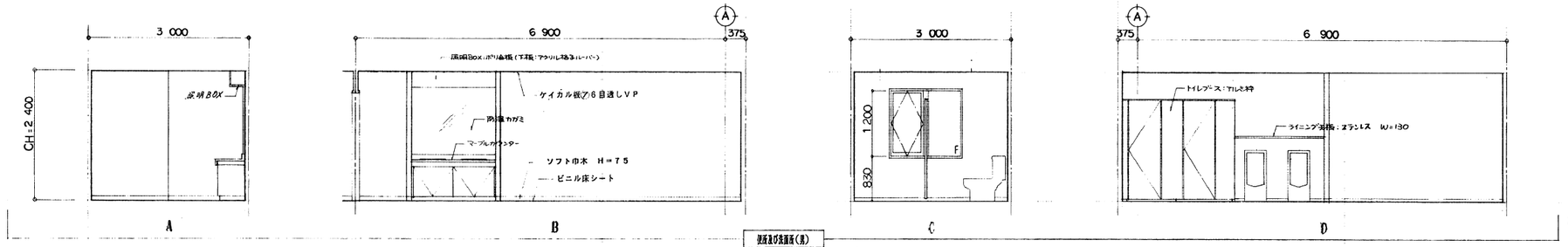


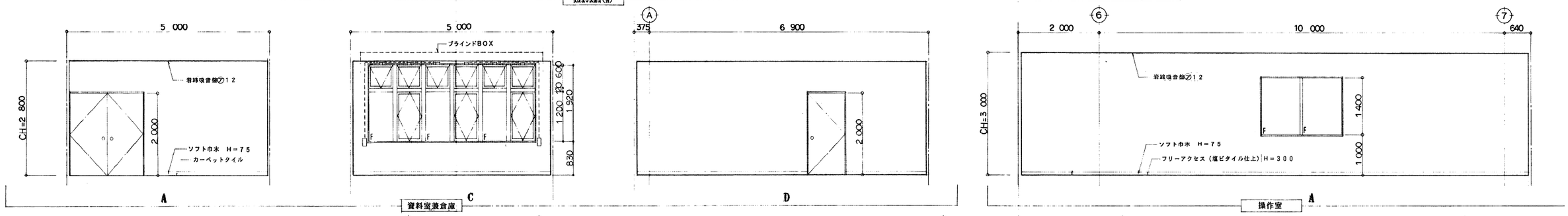


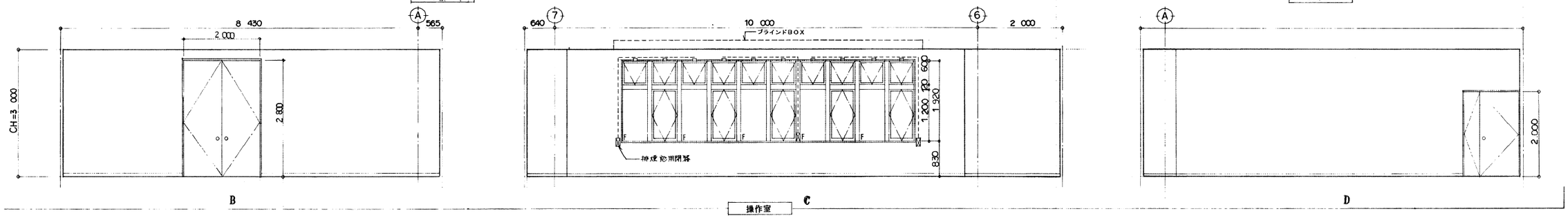




施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	展開図(3/4)		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 1:50 A2 1:70	図面番号	8-104/319
作成者	関東農政局 両総農業水利事業所		

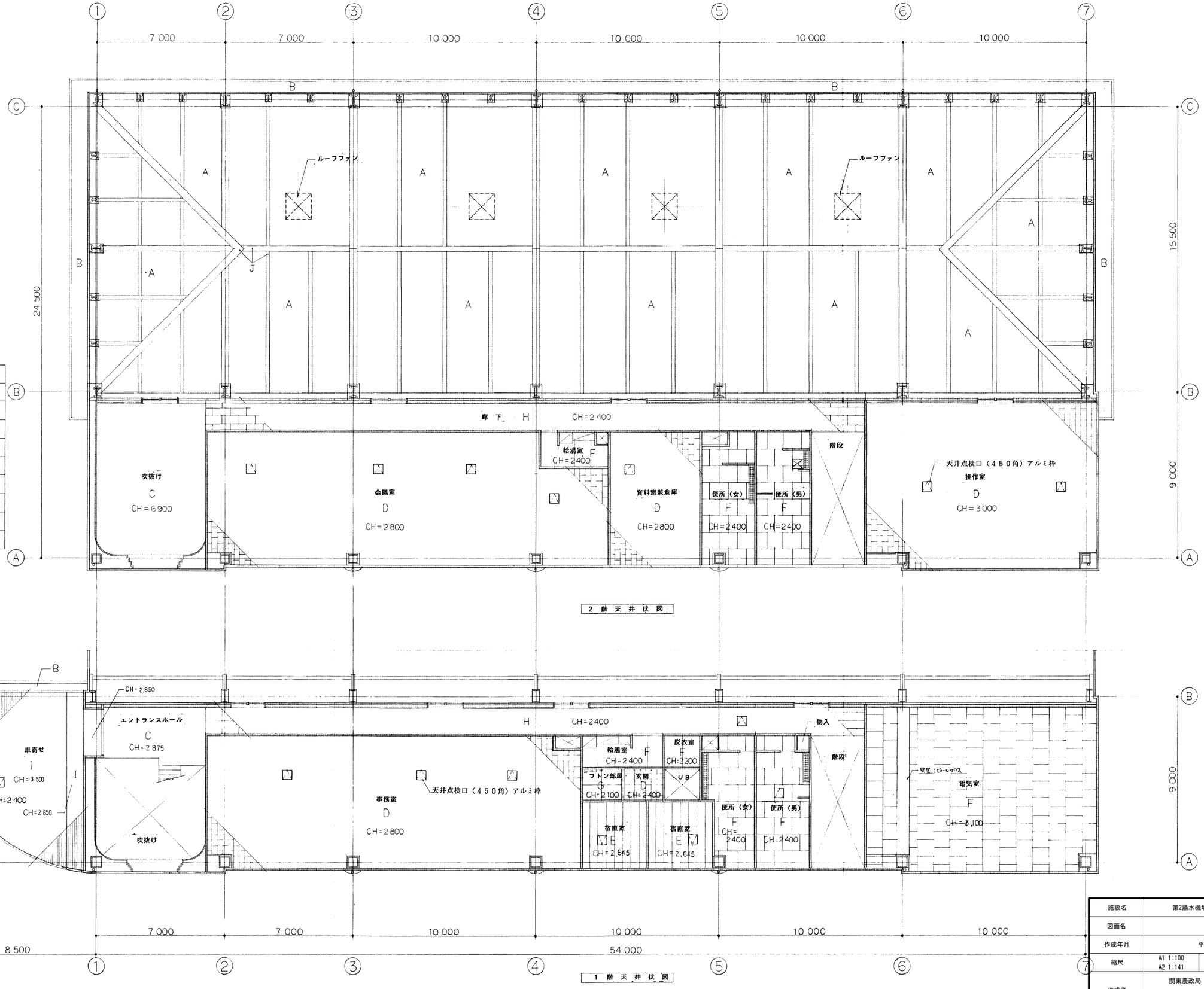




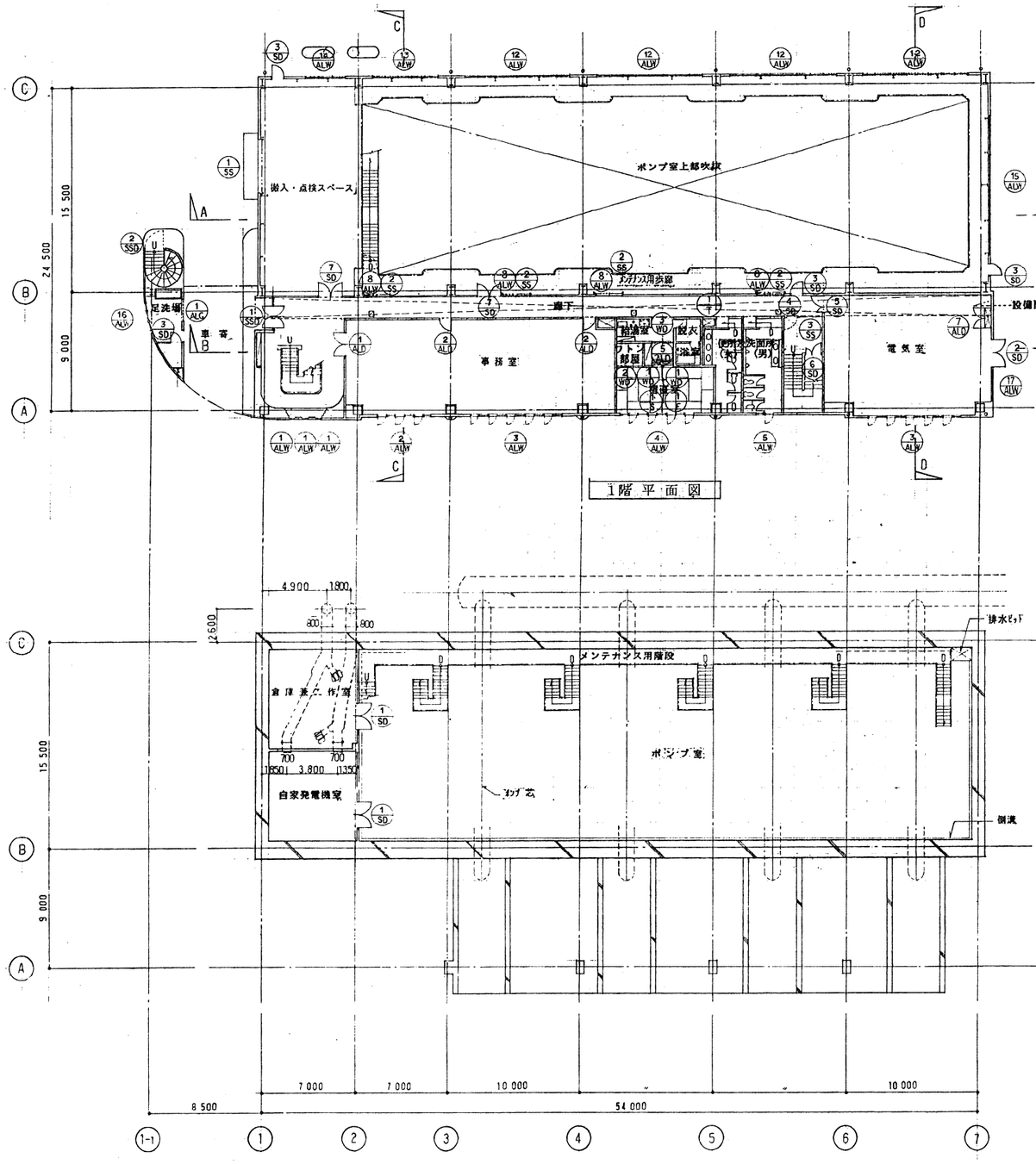


施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	展開図(4/4)		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 1:50 A2 1:70	図面番号	8-105/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所		

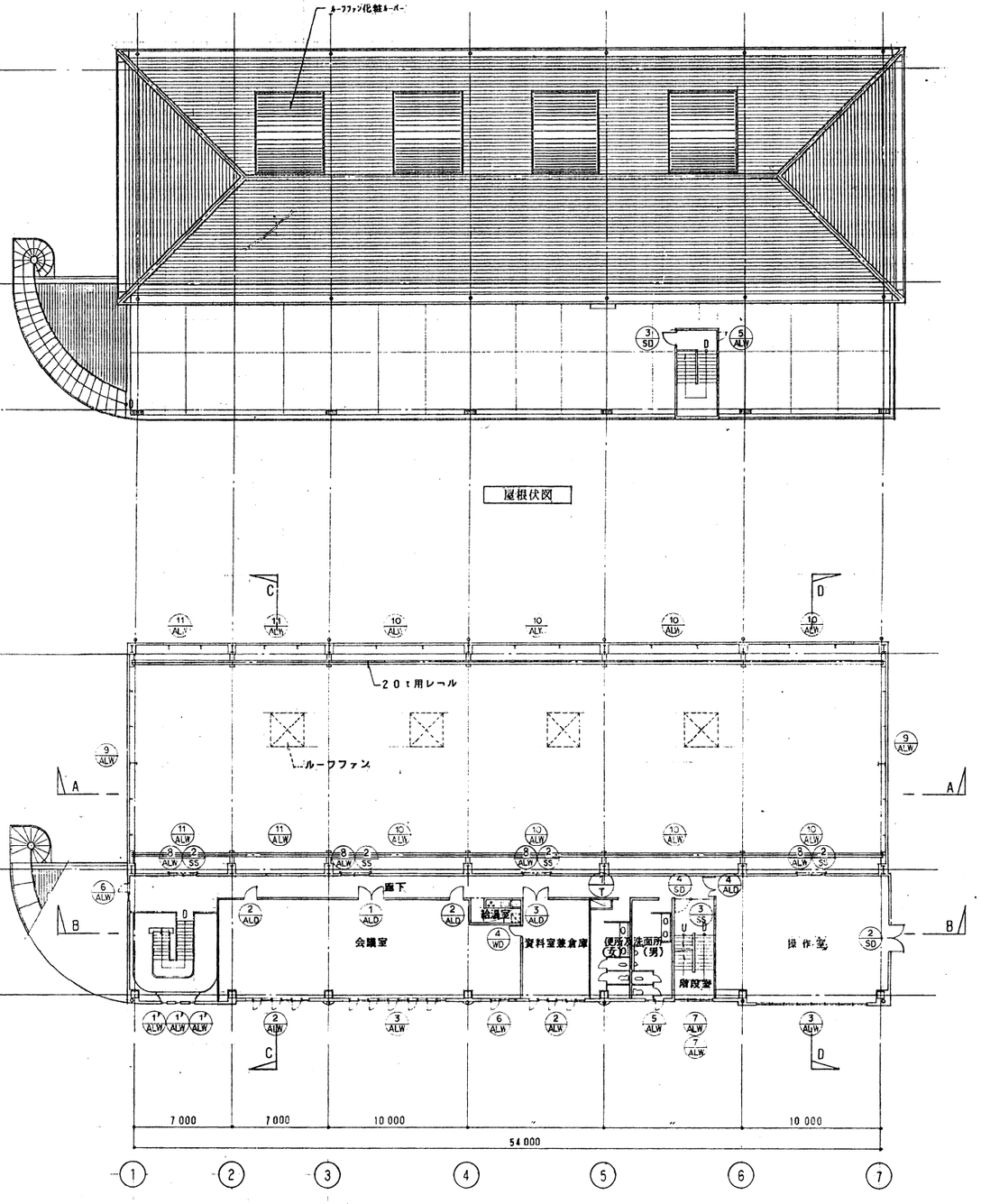
A	天井；化粧石膏ボード　ア9.5
B	フッ素樹脂鋼板葺き
C	ＰＢの-9.5＋ビニールクロス
D	岩綿吸音板ア-12.5
E	杉柾風ＰＢの-9.5
F	ケイカル板ア-6　目透しV.P
G	耐水合板ア-3
H	化粧ＰＢの-9.5
I	カラーアルミスパンドレル
J	耐火被覆吹き



施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	天井伏図		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 1:100 A2 1:141	図面番号	8-106/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所		



1階平面図



屋根伏図

地下1階平面図

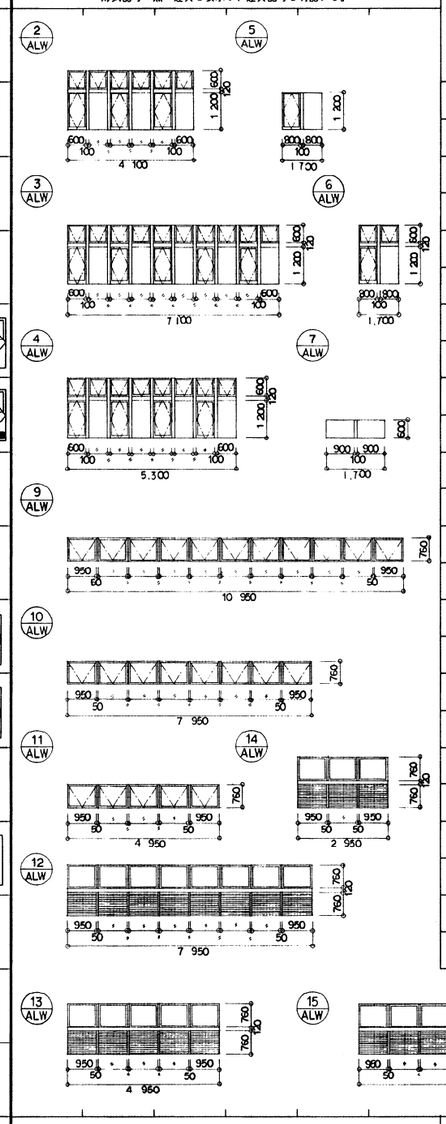
2階平面図

施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	建具キープラン		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 1:200 A2 1:283	図面番号	8-107/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所		

形式記号

A1 片開き戸
A2 ガラス入り
A3 ガラリ付
A4 ガラス入り ガラリ付
A5 框戸
A6
A7
B1 両開き戸
B2 ガラス入り
B3 ガラリ付
B4 ガラス入り ガラリ付
B5 框戸
B6
B7
C1 親子両開き戸
C2 ガラリ付
G3 ガラス入り
G4 ガラス入り ガラリ付
C5 框戸
C6
D1 片引き戸
E1 引き違い戸
F1
M1 引き込み戸
M2 はめ殺し窓
M3 はめ殺し窓
M4 片開き窓
M5 網入り格子窓
M6 網入り格子窓
M7 多開き窓
M8 内開き窓
N1 ガラリ
N2 ガラリ
S1 シャッター
S2 シャッター くぐり戸付

形式記号の無い建具を表示し、建具記号を明記する。



符号	形式記号	取付場所 階	取付場所 室名	法規制	程度	寸法 W	寸法 H	寸法 D1	寸法 W'	寸法 H'	寸法 D2	個数	建具 仕上	枠(ガイドなど) 形状	枠(ガイドなど) 仕上	ガラス 略号	ガラス 厚さ	ガラリ 寸法(WXH)	ガラリ 形状材質	着摺 形状	着摺 材質	支持金物	開閉調整金物 ドアチェック	ストッパー	ドアホルダー	戸当り	召合せ調整金物	フラッシュ落し	固定金物欄 モノフック	シリンダー錠	シリンダー錠	シリンダー錠	室錠	操作金物 錠玉	レバーハンドル	プレゼント錠	押棒	引手	その他 吊元丸座	吊元丸座	インターロック	備考
1 ALW	M2	1	吹抜 階段		AT	400	2 200				100	3	着色			RG	6																							○			FRS-100 相当
1' ALW	M2	2	吹抜 階段		AT	400	2 000				100	3	↑			RG	6																							○			FRS-100 相当
2 ALW		1・2	事務室 会議室 資料室兼倉庫		AT	4 100	1 200		4 100	1 920	100	3	↑			RG	6																							○	○		FRS-100 相当 〈2連に1機、オペレーター(ワイヤー式)〉
3 ALW		1・2	事務室 電気室 会議室 操作室		AT	7 100	1 200		7 100	1 920	100	4	↑			RG	6																							○	○		FRS-100 相当 〈2連に1機、オペレーター(ワイヤー式)〉
4 ALW		1	宿直室		AT	5 300	1 200		5 300	1 920	100	1	↑			RG	6																							○	○		FRS-100 相当 〈2連に1機、オペレーター(ワイヤー式)〉
5 ALW		1・2・R	便所 階段室	乙	AT	1 700	1 200				100	3	↑			RG	6																							○			FRS-100 相当 ※ 階段室は乙種防火戸、FIXガラス 6.8㎜以上
6 ALW		2	会議室 廊下		AT	1 700	1 200				100	2	↑			RG	6																							○	○		FRS-100 相当
7 ALW		2	階段	乙	R	1 700	600				100	2	↑			FWG	6.8																							○			FRS-100 相当
8 ALW	M3	1・2	廊下		AT	1 900	1 400				100	8	↑			PAG	6																							○			FRS-100P 相当
9 ALW		2	ポンプ室		AT	10 950	760				100	2	↑			PAG RG	6																							○	○		FRS-100P 相当 〈3連に1機、オペレーター(ワイヤー式)〉 ※ 外部側を熱反ガラスとする
10 ALW		2	ポンプ室		AT	7 950	760				100	4	↑			PAG RG	6																							○	○		FRS-100P 相当 〈3連に1機、オペレーター(ワイヤー式)〉 ※ 外部側を熱反ガラスとする
11 ALW		2	ポンプ室		AT	4 950	760				100	2	↑			PAG RG	6																							○	○		FRS-100P 相当 〈3連に1機、オペレーター(ワイヤー式)〉 ※ 外部側を熱反ガラスとする
12 ALW		1	ポンプ室		R	7 950	760		7 950	1 640	100	4	↑			PAG RG	6	7 950 x 760 アルミ 着色,D																									FRS-100P 相当 ※ 外部側を熱反ガラスとする
13 ALW		1	ポンプ室		R	4 950	760		4 950	1 640	100	1	↑			PAG RG	6	4 950 x 760 アルミ 着色,D																									FRS-100P 相当 ※ 外部側を熱反ガラスとする
14 ALW		1	ポンプ室		R	2 950	760		2 950	1 640	100	1	↑			PAG RG	6	2 950 x 760 アルミ 着色,D																									FRS-100P 相当 ※ 外部側を熱反ガラスとする
15 ALW		1	ポンプ室		R	10 950	760		10 950	1 640	100	1	↑			PAG RG	6	10 950 x 760 アルミ 着色,D																									FRS-100P 相当 ※ 外部側を熱反ガラスとする
16 ALW		1	足洗場		R	1 100	2 100				100	1	↑			RG	6																											FRS-100 相当
17 ALW	N2	1	電気室		R	2 850	760	100				1	↑					アルミ 着色,D																											FRS-100 相当

一般事項(特記なき限り下記による)

1. 建具表に記載なき項目は、特記仕様書、または標準仕様書による。
2. 網は指定のない限り、両面フラッシュとする。
3. 外部ドア及びガラリの材質及び仕上げは指定の無い場合、銀色同一とする。
4. 外部ガラリは特記なき限り、ステンレス製網戸ネット付とする
5. シャッターは、溶接とする。
6. シャッターのガードレール・まぐさ・座板はステンレス(SUS 304)製とする。
7. ドアガラリは特記なき限り、開口率は(50)%とする。
8. 建具金物は特記のない限り、ステンレス製とし、見本品により決定する。
9. 操作金物は特記のない限り、バックセット(120)mm、高さ床上(1000)mmとする。
10. 個々地区に応じた仕上げの材質が異なるとき、着摺がない場合に限り自地塗を入れる。
11. 錠は、特記のない限り、グランドマスターキー付きとする。
12. 錠には下記の付属金物一式そろり加える。
13. オペレーターは手動ポチェーンハンドルとする。

錠	付属金物一式
引違い・片引き	戸当・レール・召合
片開き	丁番・錠ケ・把手・ストッパー
両開開放	ピボットヒンジ・錠ケ・把手・ストッパー
両開開放	ピボットヒンジ・錠ケ・把手・ストッパー
すべり出し	ピボットヒンジ・錠ケ・把手・すべり出しアーム
突出し、内開し、外開し	丁番型・錠ケ・把手・ストッパー

「符号」欄の略号

SD	鋼製建具
LSD	鋼製軽量建具
SSD	ステンレス製建具
ALD	アルミ製建具
TD	強化ガラス建具
WD	木製建具
ALW	アルミ製窓
SSW	ステンレス製窓
SW	鋼製窓
WW	木製窓
SG	鋼製ガラリ
SSG	ステンレスガラリ
ALG	アルミ製ガラリ
WG	木製ガラリ
SS	鋼製シャッター
SH	シャッター
F	ふすま
S	障子
P	パーティション
FSW	鋼製番壁 (固定・可動)
GB	ガラスブロック (145×145×95)

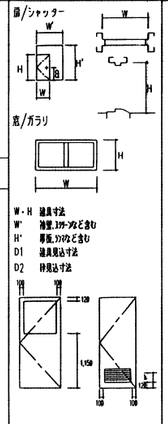
「法規制」欄の略号

甲	甲種防火戸
乙	乙種防火戸
不燃	不燃扉(鉄網入板ガラス)
常閉	常時閉鎖式
ヒューズ	温度ヒューズ連動
熱	熱感知器連動
煙	煙感知器連動
防	防煙性能
遮煙	遮煙性能
避	非常用進入口

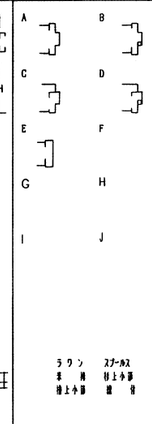
「程度」欄の略号

AT	ロ-50 (両方向打込み錠) 気密性能(2)等級 水密性能(3)等級
SAT	ロ-50の強盗対応(ロ-50AT) (三方向打込み錠) 気密性能( )等級
R	レギュラー

「寸法」の規定



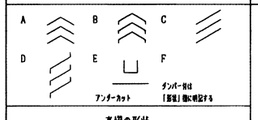
枠の形状材質



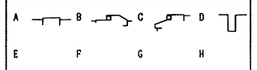
ガラスの略号

SG	透明ガラス	PWG	型ガラス入りガラス
FG	型板ガラス	FWG	網入り型板ガラス
FLG	フロート板ガラス	RG	熱線吸収ガラス
TG	強化ガラス	HWG	網入り熱線吸収板ガラス
PG	複層ガラス	RG	熱線反射ガラス
PSG	曇ガラス	CTG	着色強化ガラス
PWL	線入り磨きガラス	PAG	ペアガラス
FWL	線入り型板ガラス	FRG	防錆処理鉄板ガラス
PWM	線入り曇ガラス		

ガラリの形状



着摺の形状



支持金物の形状

H	T 番
P.H	ピボット・ヒンジ
A.H	オート・ヒンジ
F.H	フロア・ヒンジ
L.H	リバト・ヒンジ
S.H	ばね付ヒンジ
T	戸当・レール
H.R	ハンガーレール

上記以外の固定金物

EK	非常錠
SL	施錠ドア・ロック
HL	引き戸用引錠
管	管理付非常錠

記以外の操作金物

ケ	ケースのハンドル
被	被りハンドル
棒	押棒
把	把手
パ	パニックハンドル

共通略号

SOP	合成樹脂調合ペイント(外部用)	XE	ばね付ゴム錠
FE	アルミ陽極酸化皮膜	OS	オロシ小口の塗
EP	着色ポリエステルエポキシペイント	HL	ヘアライン
AEP	アクリルエポキシペイント	BF-A	A地面(#800)
GP	強化ガラス熱線吸収	BF-B	B地面(#600~#700)
AE	アクリル樹脂エマルション	メラ	メラミン化粧板
LE	ラッカーエナメル塗	ポリ	ポリエステル化粧板
UE	ポリウレタン樹脂系塗料	アルマ	アルマイト処理
UC	ウレタン樹脂ワニス	着色	電解二次着色
VP	塩化ビニル樹脂エマルション	発色	自然発色
		焼付	焼付塗装( )

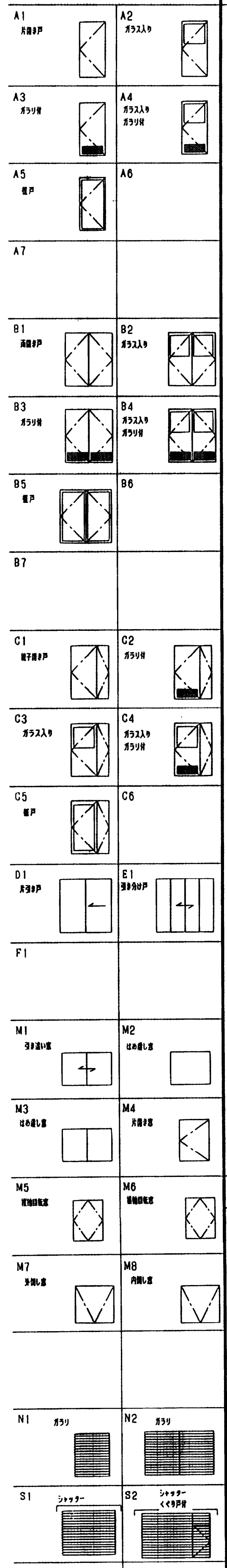
備考欄

下記該当項目がある場合記入する。

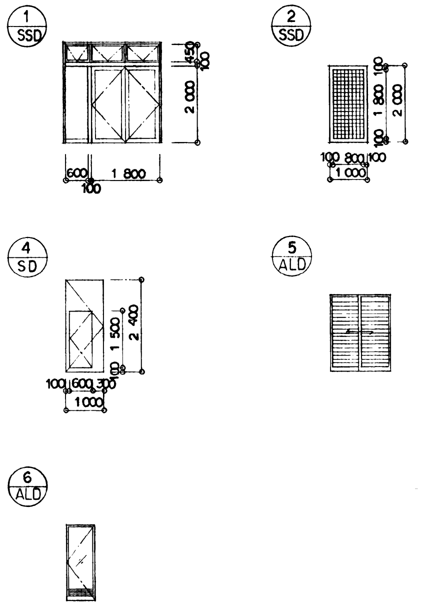
- 扉のX線検査仕様
- オートドアー/感知方式
- 電気錠
- 管理信号線貫通処理
- ガラリダンパー付(可動ガラリ)
- ダクト取付アングル
- 防煙壁の固定・可動
- シャッターの巻上げ方式
- ガラリ開口率
- 面戸
- 網戸
- クリーニング用フック
- チェーンロック
- ドアガード
- マグネットキャッチ
- ローラーキャッチ
- ドアスコープ
- レリーズ
- 郵便受け

施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	建具表(1/3)		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	-	図面番号	8-108/319
作成者	関東農政局 両総農業水利事業所		

形式記号



形式記号の無い建具を表示し、建具記号を明記する。



符号	形式記号	取付場所 階	室名	法規制	程度	寸法 W / W'	H / H'	D1 / D2	個数	建具 仕上	枠(ガイドなど) 形状 / 仕上	ガラス 略号 / 厚さ	ガラリ 寸法(W×H) / 形状材質	沓摺 形状 / 材質	支持金物	開閉調整金物 ドアチェッカー	アームストッパー	戸当り	順位調整器	フランス落し		固定金物欄 モノロックシリンダー錠	シリンダー箱錠	シリンダー本締錠	空錠		操作金物 握玉	レバーハンドル	グレモン錠	押板	引手		その他 付属金物一式	自動オペレーター	インターロック		備考
1 SSD		1	エントランス		R	1 800 / 2 500	2 000 / 2 550	40 / 100	1	BF-A	E / BF-A	SG / 10		A / HL	FH						開扉用錠											棒	○	○			オペレーター ワイヤー式
2 SSD		1	らせん階段		R	1 000	2 000	40 / 100	1	HL 格子	D / HL			B / HL	H	○		○										○				EK	○				
1 SD	B3	B1	倉庫兼工作室 自家発電気室	甲	R	2 000	2 000	40 / 80	2	SOP	A / SOP		700 x 260	B / HL	H	○		○		○		○					○						○				
2 SD	B1	1・2	電気室 操作室	甲	R	2 000	2 800	40 / 80	2	SOP	A / SOP			B / HL	H	○				○		○					○						○				
3 SD	A1	1	ポンプ室 階段 搬入 搬入・点検スペース	甲	AT / R	900	2 000	40 / 80	3 / 2	SOP	A / SOP			B / HL	H	○						○					○						○				搬入・点検スペース, ポンプ室, 廊下 は AT とする 階段, 搬入 は R とする
4 SD		1・2	階段室	煙 甲	R	1 000 / 600	2 400 / 1 500	40 / 100	2	SOP	C / SOP			B / HL	H	○																ケ	○				煙感連動ドア
5 SD	C1	1	電気室	甲	R	1 366	2 000	40 / 80	1	SOP	B / SOP			B / HL	H	○		○		○		○					○						○				
6 SD	C1	1	階段	甲	R	1 313	2 000	40 / 80	1	SOP	C / SOP			B / HL	H	○		○		○			○				○						○				
1 ALD	B1	1・2	事務室 会議室		R	1 800	2 000	45 / 80	2	発色	E / 発色			C / 発色	H	○		○		○			○				○						○				
2 ALD	A1	1・2	事務室 会議室		R	900	2 000	45 / 80	4	発色	E / 発色			C / 発色	H	○		○					○				○						○				
3 ALD	B1	2	資料室兼倉庫		R	1 800	2 000	45 / 80	1	発色	E / 発色			C / 発色	H	○		○		○			○				○						○				
4 ALD	C1	2	操作室		R	1 313	2 000	45 / 80	1	発色	E / 発色			C / 発色	H	○		○		○			○				○						○				
5 ALD		1	宿直室 玄関		R	1 620	2 000	30 / 100	1	ホワイト	E / ホワイト	FG / 5		E / 発色	T						引違用錠										○		○				
⊖																																					
1 SS	S1	1	搬入・点検スペース		R	4 000	4 000		1	焼付	F / 焼付																						○				電動防音シャッター
2 SS	S1	1・2	廊下	煙	R	2 000	1 500		8	焼付	F / 焼付																						○				煙感連動・電動シャッター
3 SS	S1	1・2	階段	煙	R	1 670	2 400		2	焼付	F / 焼付																						○				煙感連動 電動シャッター
1 ALG	N2	1	車寄せ		R	1 780	580	100	1	発色	E / 発色		1 780 x 580 / B 発色																				○				
7 SD	B1	1	搬入・点検スペース 廊下		AT	1 800	2 000	40 / 80	2	SOP	A / SOP			B / HL	H	○		○		○		○					○						○				
1 T		1 2	PS		R	450	450	25 / 50	1	SOP	SOP				H																						
⊖																																					
⊖																																					
⊖																																					
⊖																																					
⊖																																					
⊖																																					
⊖																																					
⊖																																					

一般事項（特記なき限り下記による）

1. 建具表に記載なき項目は、特記仕様書、または標準仕様書による。
2. 扉は指定のない限り、両面フラッシュとする。
3. 枠及びドアガラリの材質及び仕上げは指定の無い場合、扉と同一とする。
4. 外部ガラリは特記なき限り、ステンレス製防虫ネット付とする
5. シャッターは、鍵付きとする。
6. シャッターのガードレール・まぐさ・座板はステンレス(SUS 384)製とする。
7. ドアガラリは特記なき限り、開口率は（ 50 ）%とする。
8. 建具金物は特記のない限り、ステンレス製とし、見本品により決定する。
9. 操作金物は特記のない限り、バックセット（ 120 ）mm、高さ床上（ 1000 ）mm とする。
10. 扉を境に床仕上げの材質が異なるとき、沓摺がない場合に限り目地棒を入れる。
11. 鍵は、特記のない限り、グランドマスターキー付きとする。
12. 窓には下記の付属金物一式をつけ加える。

形式	付属金物一式
引違い・片引き	戸車・レール・締り
片開き	丁番・締り・把手・あおり止め
縦軸回転	ピボットヒンジ・締り・把手・あおり止め
横軸回転	ピボットヒンジ・締り・把手・ストッパー
すべり出し	ピボットヒンジ・締り・把手・すべり出しアーム
突出し、内倒し、外倒し	丁番類・締り・把手・ストッパー

「符号」欄の略号

SD	鋼製扉
LSD	鋼製軽量扉
SSD	ステンレス製扉
ALD	アルミ製扉
TD	強化ガラス扉
WD	木製扉
ALW	アルミ製窓
SSW	ステンレス製窓
SW	鋼製窓
WW	木製窓
SG	鋼製ガラリ
SSG	ステンレスガラリ
ALG	アルミ製ガラリ
WG	木製ガラリ
SS	鋼製シャッター
SH	シャッター
F	ふすま
S	障子
P	パーティション
FSW	防煙垂壁（固定・可動）
GB	ガラスブロック (145x145x95)

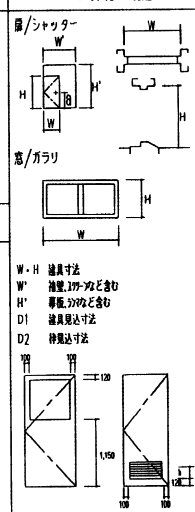
「法規制」欄の略号

甲	甲種防火戸
乙	乙種防火戸
不燃	不燃扉(防煙区画)
常閉	常時閉鎖式
ヒューズ	温度ヒューズ連動
熱	熱感知器連動
煙	煙感知器連動
防	防煙性能
遮煙	遮煙性能
進	非常用進入口

「程度」欄の略号

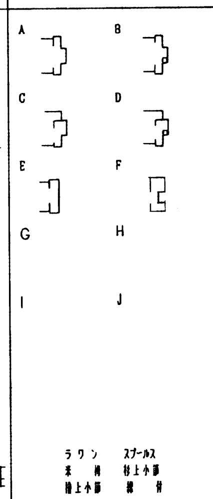
AT	エアータイト（四方ネオプレンゴム付） 気密性能( )等級
SAT	オートマチック装置付セミ・エアータイトドア（三方ネオプレンゴム付） 気密性能( )等級
R	レギュラー

「寸法」の規定



W・H 建具寸法
W' 袖壁、スクリーンなど含む
H' 欄板、ランマなど含む
D1 建具見込寸法
D2 枠見込寸法

枠の形状材質

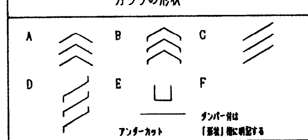


ラワン 米桧 檜上小節 スプールス 杉上小節 焼付

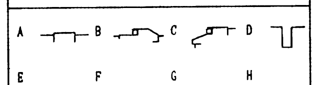
ガラスの略号

SG	透明ガラス	PWG	磨き網入りガラス
FG	型板ガラス	FWG	網入り型板ガラス
FLG	フロート板ガラス	HG	熱線吸収ガラス
TG	強化ガラス	HWG	網入り熱線吸収ガラス
PG	複層ガラス	RG	熱線反射ガラス
PSG	磨きガラス	CTG	着色強化ガラス
PWL	線入り磨きガラス	PAG	ペアーガラス
FWL	線入り型板ガラス	FRG	超耐熱結晶化ガラス
PWM	線入り磨きガラス		

ガラリの形状



沓摺の形状



支持金物の形状

H	T 番
P.H	ピボット・ヒンジ
A.H	オート・ヒンジ
F.H	フロア・ヒンジ
L.H	ラバトリー・ヒンジ
S.H	スプリング・ヒンジ
T	戸車・レール
H.R	ハンガーレール

上記以外の固定金物

EK	非常錠
SL	防音ドア・ロック
HL	引き戸用鎌錠
警	警報付非常錠

記以外の操作金物

ケ	ケースハンドル
絞	絞りハンドル
棒	押棒
把	把手
パ	パニックハンドル

共通略号

SOP	合成樹脂調合ペイント（外部用）	XE	エポキシエナメル塗
FE	フタル酸樹脂エナメル	OS	オイルステイン塗
EP	酢酸ビニル系エマルションペイント	HL	ヘアライン
AEP	アクリルエマルション・ペイント	BF-A	A鏡面(#800)
GP	塩化アル系塗料	BF-B	B鏡面(#600-#700)
AE	アクリル樹脂エナメル	メラ	メラミン化粧板
LE	ラッカーエナメル塗	ポリ	ポリエステル化粧板
UE	ポリウレタン樹脂系塗料	アルマ	アルマイト処理
UC	ウレタン樹脂ワニス	着色	電解二次着色
VP	塩化ビニル樹脂エナメル	発色	自然発色
		焼付	焼付塗装（ ）

備考欄

下記該当項目がある場合記入する。
- 扉のX線防護性能
- オートドアー/感知方式
- 電気錠
- 警備保障用欠込み
- ガラリダンパー付（可動ガラリ）
- ダクト取付アングル
- 防煙垂壁の固定・可動
- シャッターの巻上げ方式
- ガラリ開口率
- 雨戸
- 網戸
- クリーニング用フック
- チェーンロック
- ドアガード
- マグネットキャッチ
- ローラーキャッチ
- ドアスコープ
- レリーズ
- 郵便受け

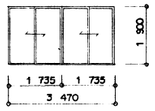
施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	建具表(2/3)		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	-	図面番号	8-109/319
作成者	関東農政局 両総農業水利事業所		

形式記号

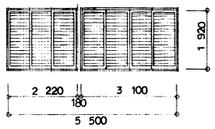
A1 両開き戸
A2 ガラス入り
A3 ガラリ付
A4 ガラス入り ガラリ付
A5 framed
A6
A7
B1 両開き戸
B2 ガラス入り
B3 ガラリ付
B4 ガラス入り ガラリ付
B5 framed
B6
B7
C1 親子両開き戸
C2 ガラリ付
C3 ガラス入り
C4 ガラス入り ガラリ付
C5 framed
C6
D1 片開き戸
E1 袖付き片開き戸
F1
M1 引き違い窓
M2 はめ殺し窓
M3 はめ殺し窓
M4 天井付窓
M5 面格子付窓
M6 面格子付窓
M7 引違い窓
M8 片開き窓
N1 ガラリ
N2 ガラリ
S1 シャッター
S2 シャッター くぐり戸付

形式記号の無い建具を表示し、建具記号を明記する。

1/F



1/S



符号	形式記号	取付場所 階	取付場所 室名	法規制	程度	寸法 W / W'	寸法 H / H'	寸法 D1 / D2	個数	建具 仕上	枠(ガイドなど) 形状 仕上	ガラス 種類 厚さ	ガラリ 寸法(WxH) 形状材質	吊元 形状 材質	支持金物	開閉調整金物 ドアチェック	ストライカー	フィルム	戸当り	召合せ	フランス落し	固定金物欄 シリンダー面付	シリンダー箱錠	シリンダー本錠	掌握	操作金物 錠玉	レバーハンドル	グレモン錠	押棒	引手	その他 安全強化ガラス一式	網入ガラス	インターロック	備考
1/WD	A1	1	宿直室			750	1 900	40	2	ポリ	A			B	H	○		○				○				○					○			
								80			米松・VP			米松																				
2/WD	D1	1	フトン部屋			900	1 900	40	1	島の子張り	E			A	T															○				
								80			スプルス 養他			スプルス																				
3/WD	A3	1	脱衣室			750	2 000	40	1	ポリ	A		650 X 200	B	H	○		○				○				○					○			
								80			米松・VP		AL・D	米松																				
4/WD	A1	1	資料室兼倉庫			900	2 000	40	1	ポリ	A			B	H	○		○				○				○					○			
								80			米松・VP			米松																				
1/F		1	宿直室			3 470	1 900	30	1	島の子張り	E			A	敷居すべり															○				
								120			杉上小節			杉上小節																				
1/S		1	宿直室			5 500	1 920	30	1	杉	E				敷居すべり															○				
								120			杉上小節																							

一般事項(特記なき限り下記による)

1. 建具表に記載なき項目は、特記仕様書、または標準仕様書による。
2. 錠は指定のない限り、真鍮ブラッシュとする。
3. 枠及びドアガラリの材質及び仕上げは指定の無い場合、扉と同一とする。
4. 外部ガラリは特記なき限り、ステンレス製網戸ネット付とする
5. シャッターは、遮煙とする。
6. シャッターのガードレール・まぐさ・座板はステンレス(SUS 304)製とする。
7. ドアガラリは特記なき限り、開口率は(50)%とする。
8. 建具金物は特記のない限り、ステンレス製とし、見本品により決定する。
9. 建作金物は特記のない限り、バックセット(120)mm、高さ床上(1000)mm とする。
10. 扉を地に張仕上げの材質が異なるとき、書標が無い場合に限り目地棒を入れる。
11. 錠は、特記のない限り、グランドマスターキー付きとする。
12. 窓には下記の付属金物一式をつけ加える。

窓	付属金物一式
引違い・片引き	戸当り・レール・召合せ
片開き	丁番・錠ケ・把手・点錠ケ召合せ
面格子付	ピボットヒンジ・錠ケ・把手・点錠ケ召合せ
面格子付	ピボットヒンジ・錠ケ・把手・ストッパー
すべり出し	ピボットヒンジ・錠ケ・把手・すべり出しフレーム
突出し、内開し、外開し	丁番型・錠ケ・把手・ストッパー

「符号」欄の略号

SD	鋼 製 扉
LSD	鋼製軽量扉
SSD	ステンレス製扉
ALD	アルミ製扉
TD	強化ガラス扉
WD	木 製 扉
ALW	アルミ製窓
SSW	ステンレス製窓
SW	鋼 製 窓
WW	木 製 窓
SG	鋼製ガラリ
SSG	ステンレス製ガラリ
ALG	アルミ製ガラリ
WG	木 製 ガラリ
SS	鋼製シャッター
SH	シャッター
F	ふすま
S	障 子
P	パーティション
FSW	鋼 製 垂 壁 (固定・可動)
GB	ガラスブロック (145x145x95)

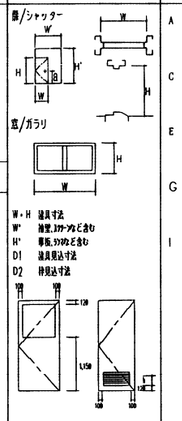
「法規制」欄の略号

甲	甲種防火戸
乙	乙種防火戸
不燃	不燃扉(鉄製仮扉)
常閉	常時閉鎖式
ヒューズ	温度ヒューズ連動
煙	熱感知器連動
煙	煙感知器連動
防	防煙性能
遮煙	遮煙性能
遠	非常用進入口

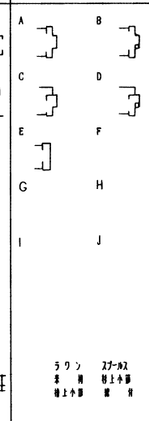
「程度」欄の略号

AT	17-T6 (両方ATTATT1研) 気密性能( )等級
SAT	17-T4の気密性に17-T3OF7 (三方ATTATT1研) 気密性能( )等級
R	レギュラー

「寸法」の規定



枠の形状材質

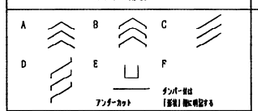


ラワン スプルス
木 綿 杉上小節
杉上小節 窓 台

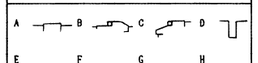
ガラスの略号

SG	透明ガラス	PMG	型ネ網入ガラス
FG	型板ガラス	FMG	網入型板ガラス
FLG	スカイ線ガラス	MG	熱線吸収ガラス
TG	強化ガラス	HMG	熱線吸収網入ガラス
PG	着色ガラス	RG	熱線反射ガラス
PSG	型ネガラス	CTG	着色強化ガラス
PWL	線入り磨きガラス	PAG	ペアーガラス
FWL	線入り型板ガラス	FRG	網線板ガラス
PWM	線入り磨きガラス		

ガラリの形状



吊元の形状



支持金物の形状

H	T 番
P.H	ピボット・ヒンジ
A.H	オート・ヒンジ
F.H	フロア・ヒンジ
L.H	レバト・ヒンジ
S.H	ばかけヒンジ
T	戸当・レール
H.R	ハンガーレール

上記以外の固定金物

EK	非常錠
SL	防音ドア・ロック
HL	引き戸用握錠
掌	掌板付非常錠

記以外の操作金物

ケ	ケースハンドル
波	波ウハンドル
棒	押 棒
把	把 手
パ	パニックハンドル

共通略号

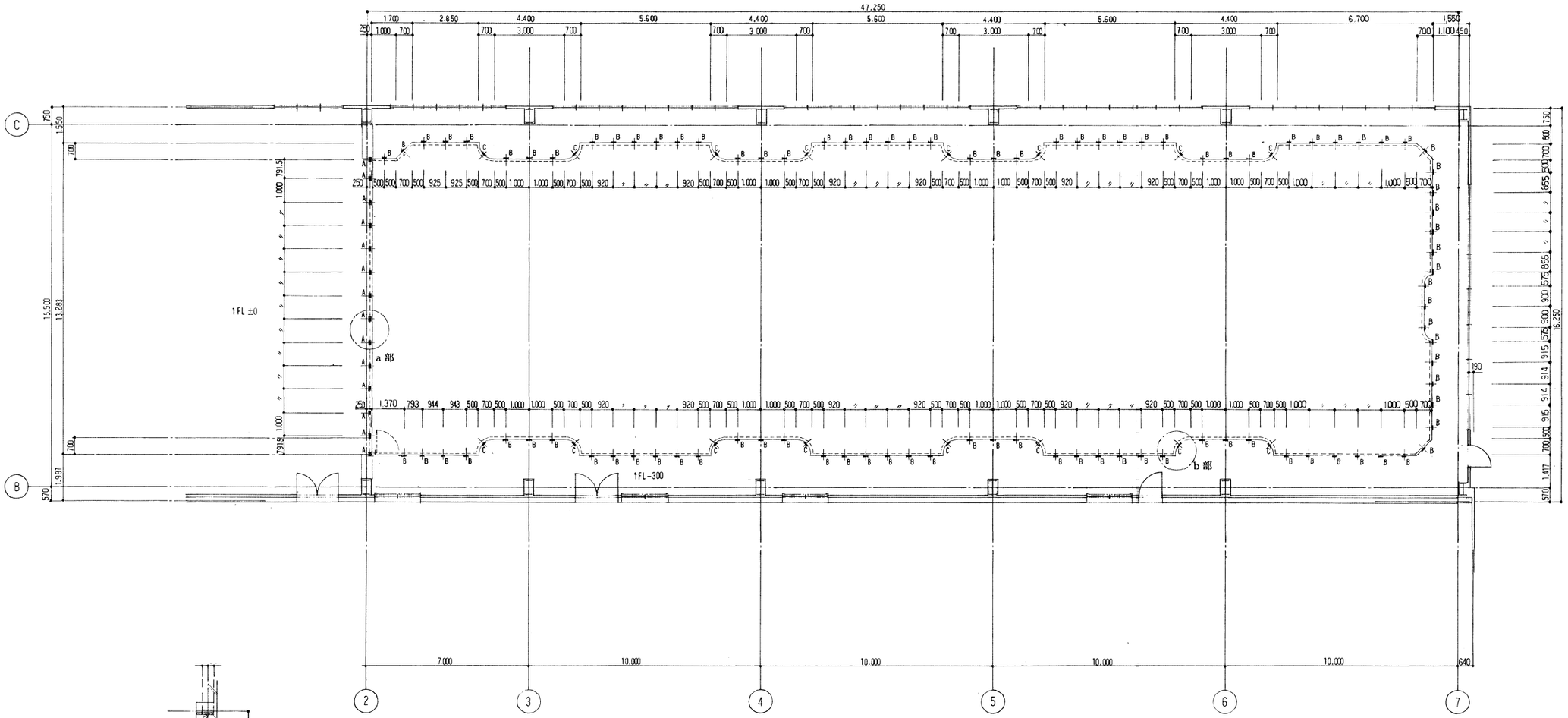
SOP	合成樹脂調合ペイント(外部用)	XE	ぼかしエナメル塗
FE	アルミ線形板エナメル	OS	オイルステイン塗
EP	普通ビニル系エマルションペイント	HL	ヘアライン
AEP	アクリルエマルションペイント	BF-A	A袖面(#800)
GP	亜鉛メッキ鉄板塗装	BF-B	B袖面(#600-#700)
AE	アクリル樹脂エナメル	メラ	メラミン化粧板
LE	フタル酸エナメル塗装	ポリ	ポリエステル化粧板
UE	ポリウレタン樹脂系塗装	アルマ	アルマイト加工
UC	ウレタン樹脂ワニス	着色	電解二次着色
VP	塩化ビニル樹脂エナメル	発色	自然発色
		焼付	焼付塗装( )

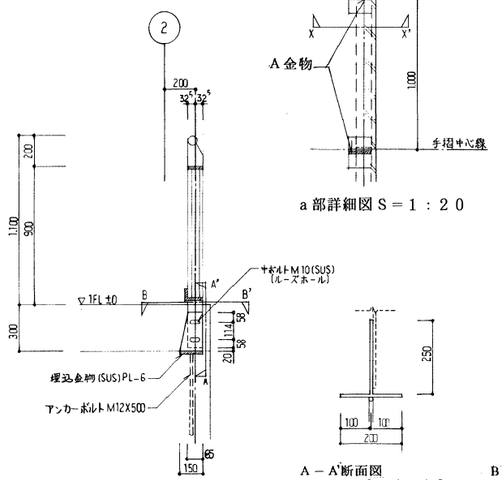
備考欄

下記該当項目がある場合記入する。

- 扉の又開放調整性能
- オートドアー/感知方式
- 電気錠
- 警備保障用欠込み
- ガラリダンパー付(可動ガラリ)
- ダクト取付アングル
- 開閉重量の固定・可動
- シャッターの巻上げ方式
- ガラリ開口率
- 面戸
- 網戸
- クリーニング用フック
- チェーンロック
- ドアガード
- マグネットキャッチ
- ローラーキャッチ
- ドアスコープ
- レリーズ
- 郵便受け

施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	建具表(3/3)		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	-	図面番号	8-110/319
作成者	関東農政局 両総農業水利事業所		





X－X'断面図　S＝1：20

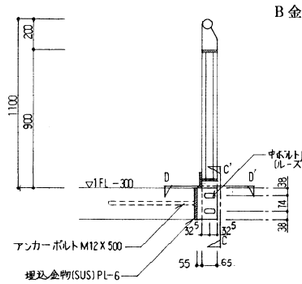
A金物図

A＝14個

A－A'断面図　S＝1：10

B－B'断面図　S＝1：10

A金物断面



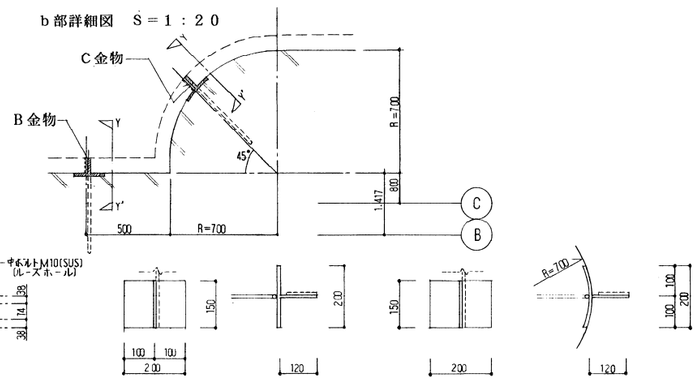
Y－Y'断面図　S＝1：20

B金物図

B＝97個

C金物図　曲げ加工有り

C＝16個

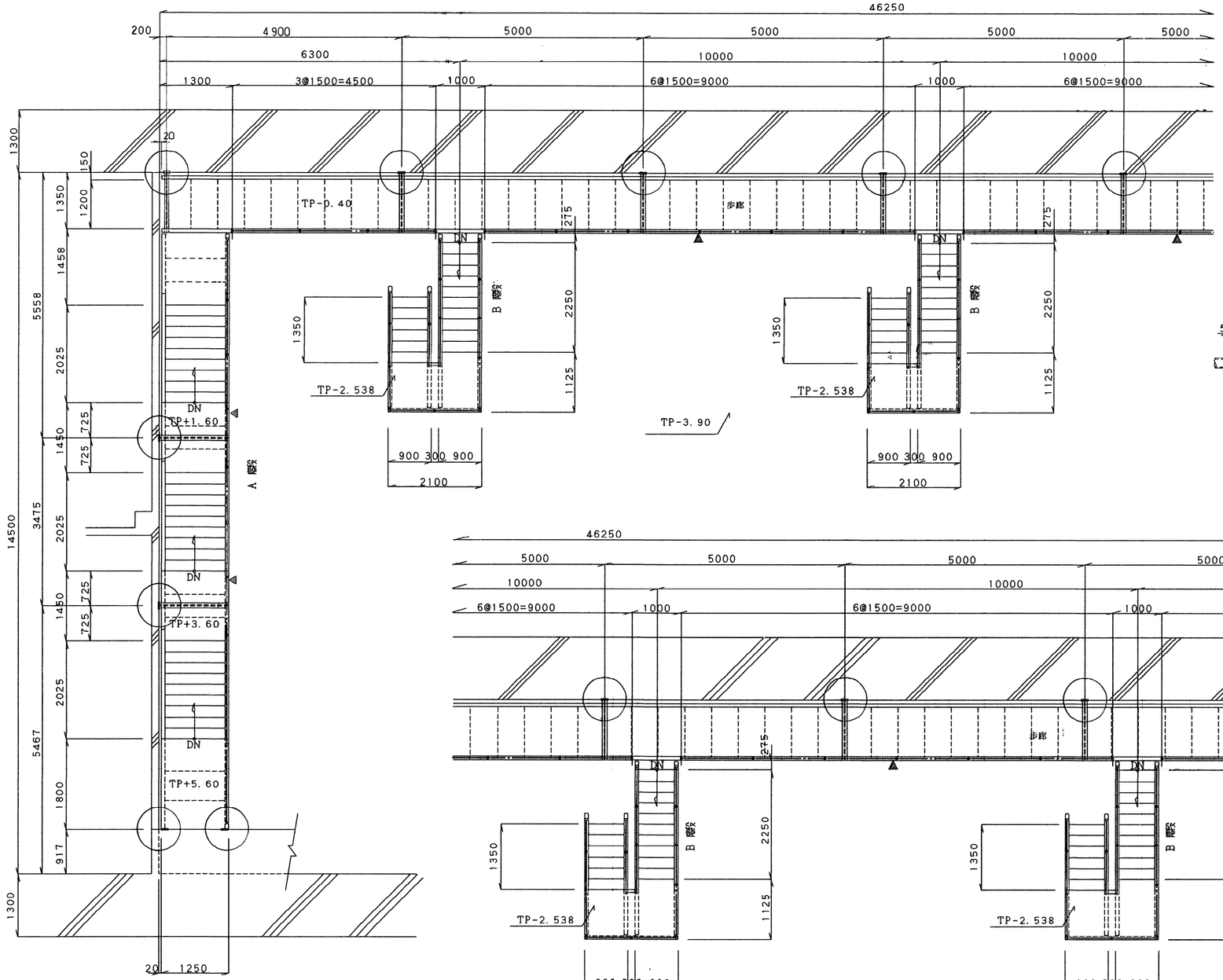


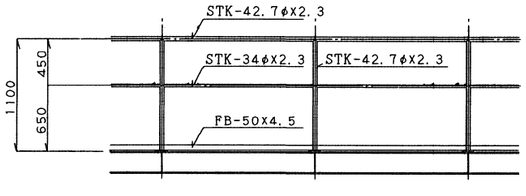
C－C'断面図　D－D'断面図　C－C'断面図　D－D'断面図

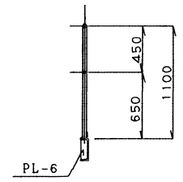
S＝1：10　S＝1：10

B金物断面　C金物断面

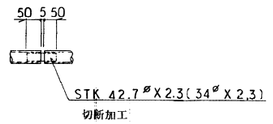
施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	埋込金物図		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 1:100 A2 1:141	図面番号	8-111/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所		

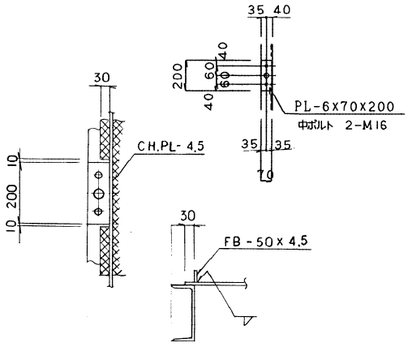


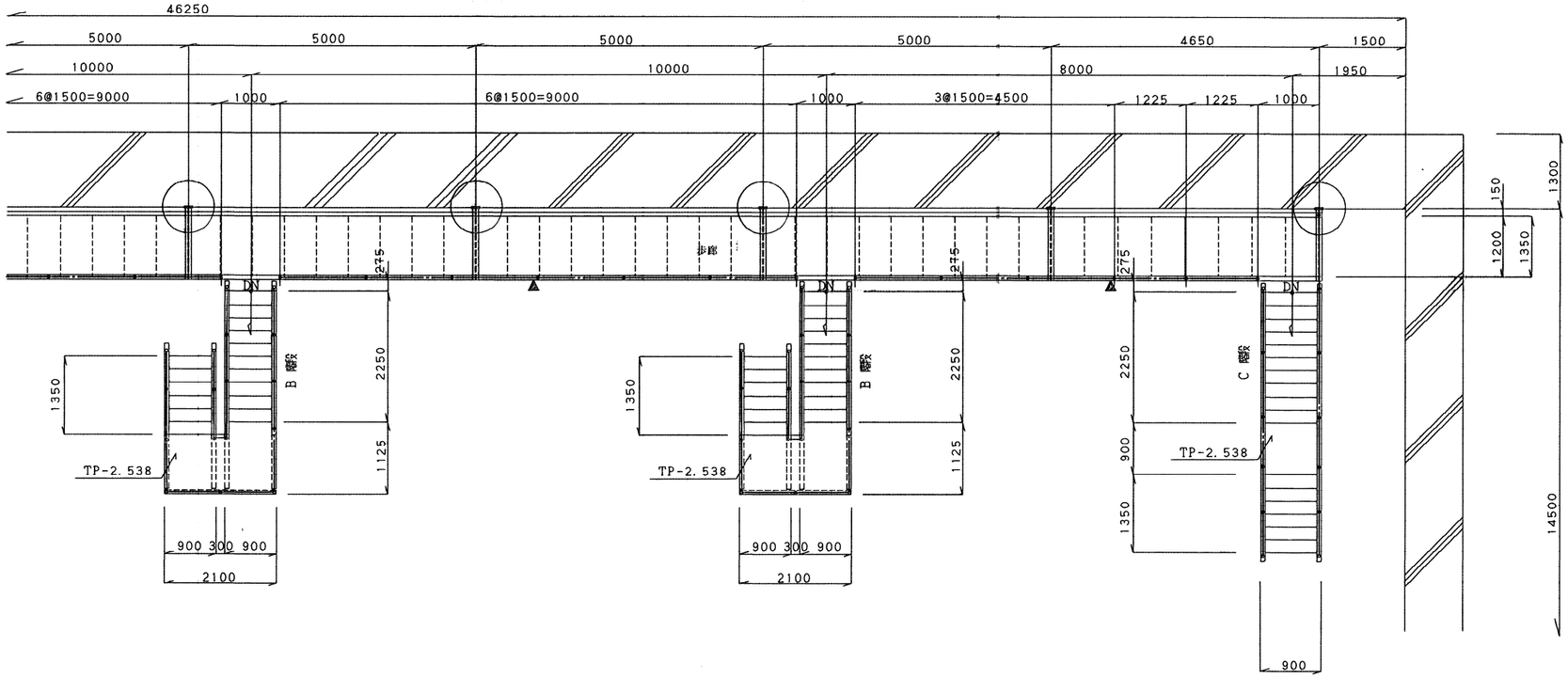




▲ ； ハンドレール　現場継手箇所

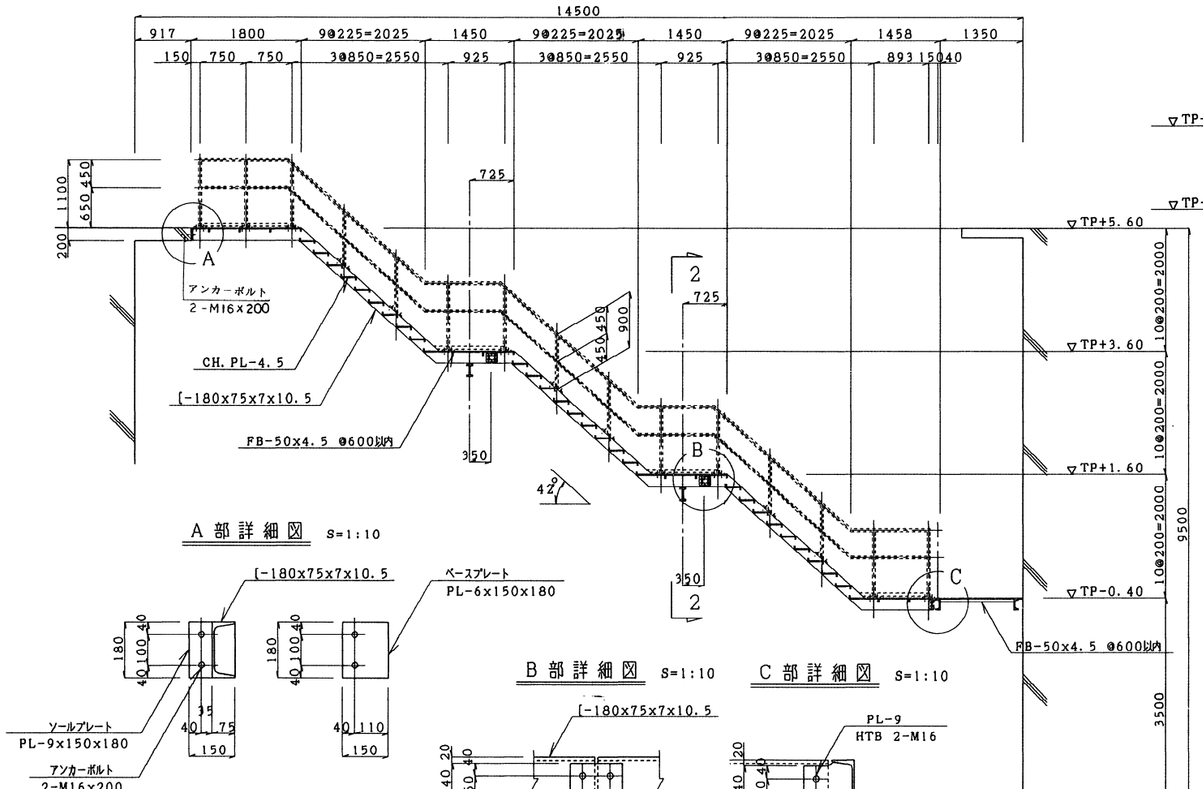




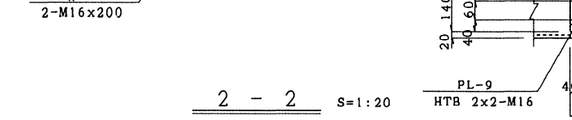


施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	鋼製階段構造図(1/2)		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 1:50 A2 1:70	図面番号	8-112/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所		

A 階 段 S=1:50

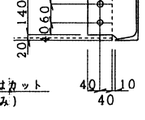


A 部 詳 細 図 S=1:10

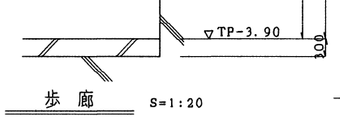


B 部 詳 細 図 S=1:10

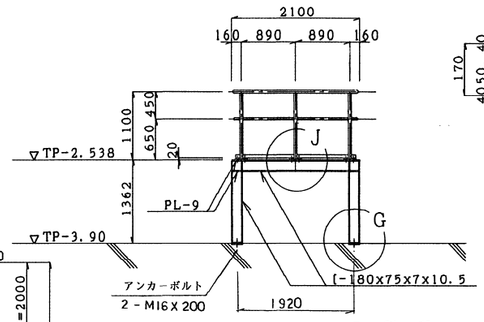
C 部 詳 細 図 S=1:10



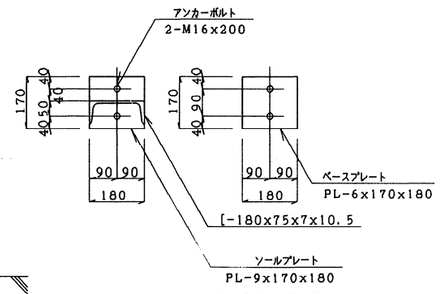
歩 廊 S=1:20



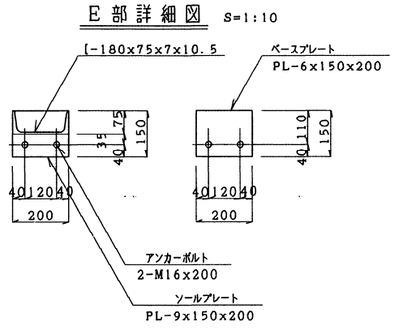
1 － 1 S=1:50



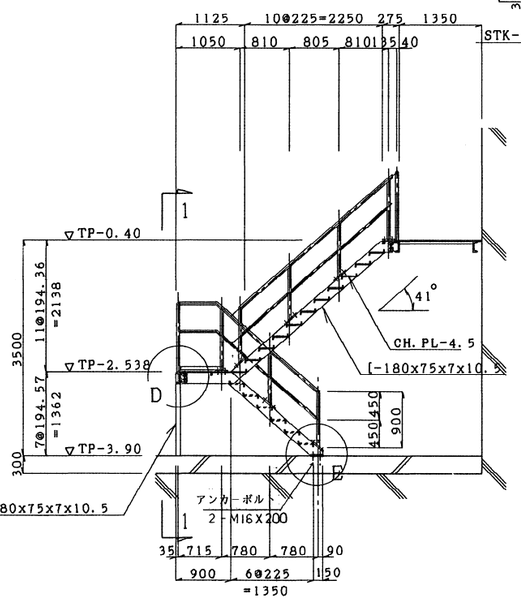
G 部 詳 細 図 S=1:10



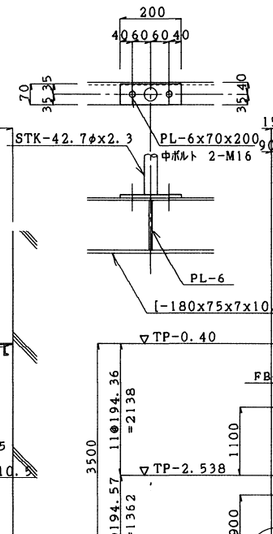
E 部 詳 細 図 S=1:10



B 階 段 S=1:50

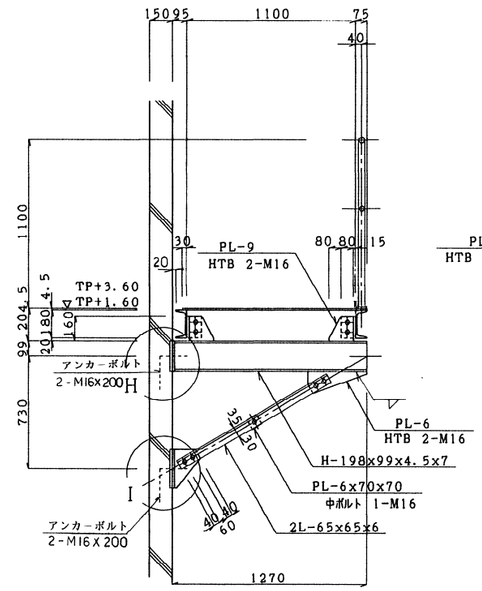


J 部 詳 細 図 S=1:10

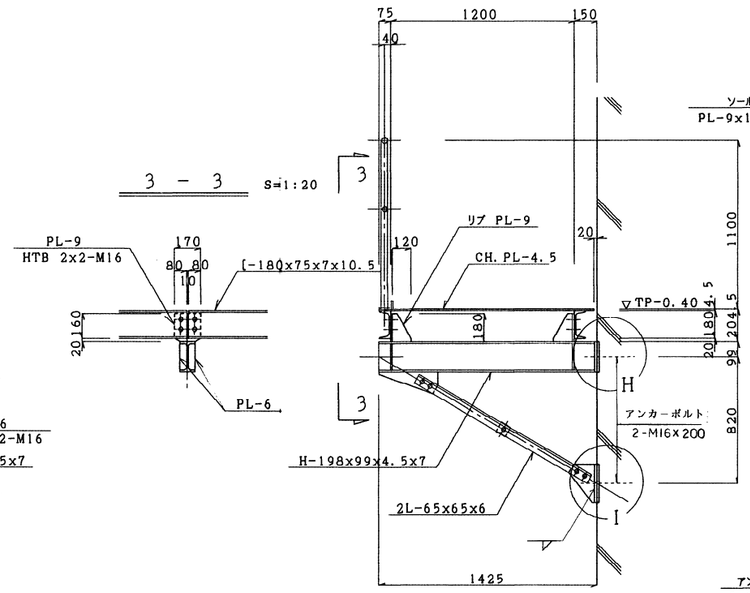


C 階 段 S=1:50

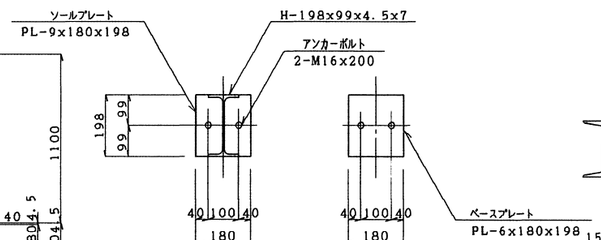
2 － 2 S=1:20



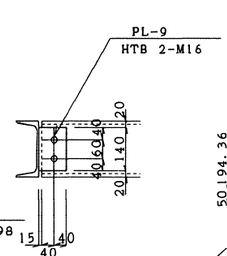
3 － 3 S=1:20



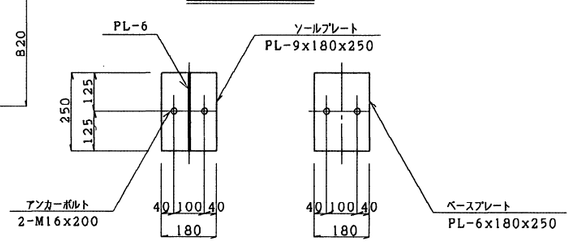
H 部 詳 細 図 S=1:10



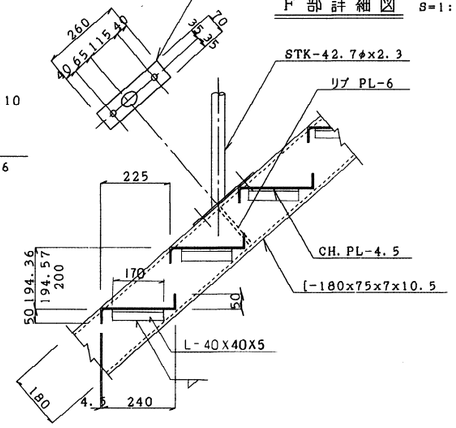
D 部 詳 細 図 S=1:10



I 部 詳 細 図 S=1:10

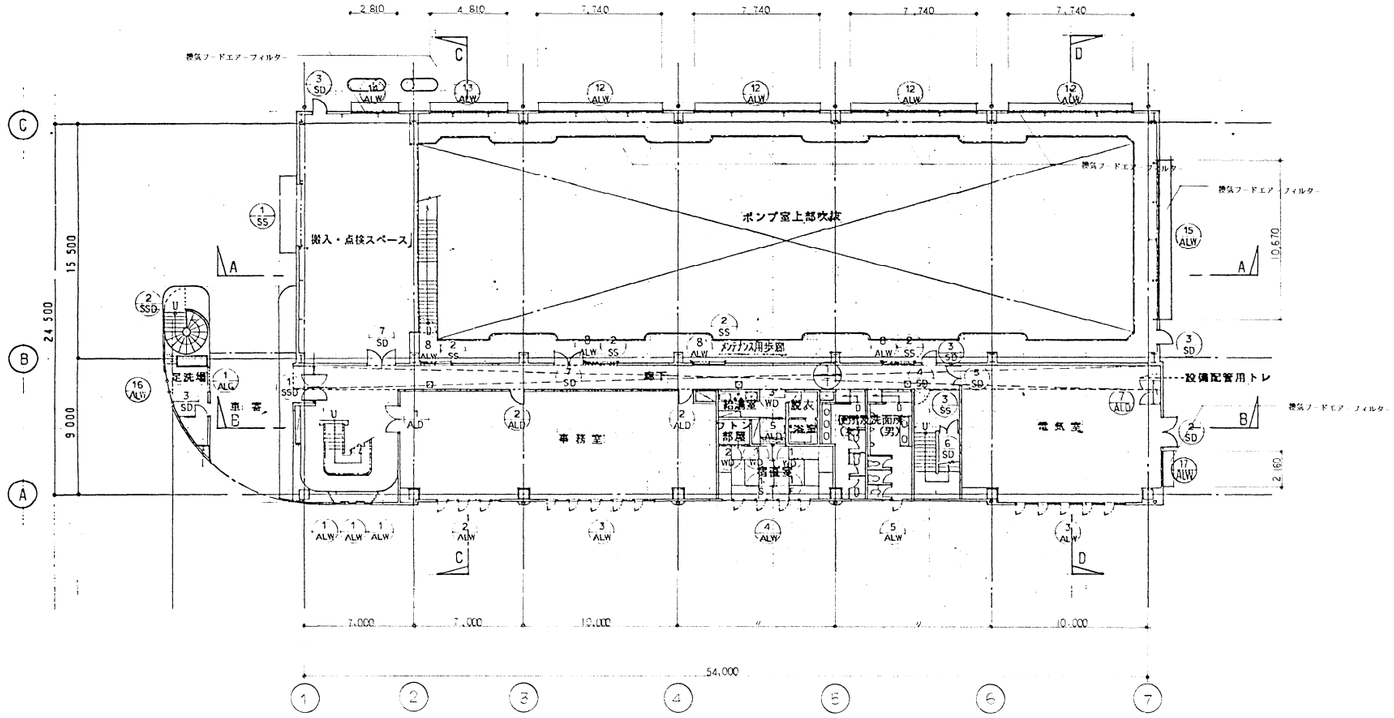


F 部 詳 細 図 S=1:10

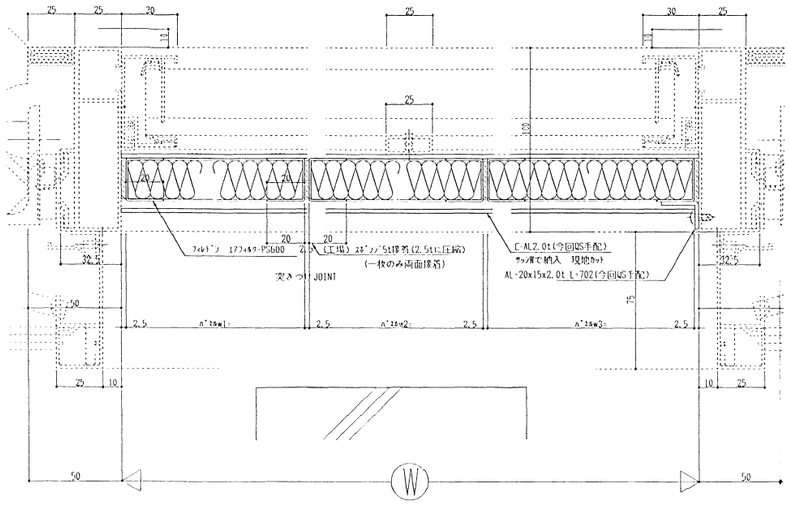


注）特記なき限り，鋼材はＳＳ４００とし亜鉛メッキ塗装とする

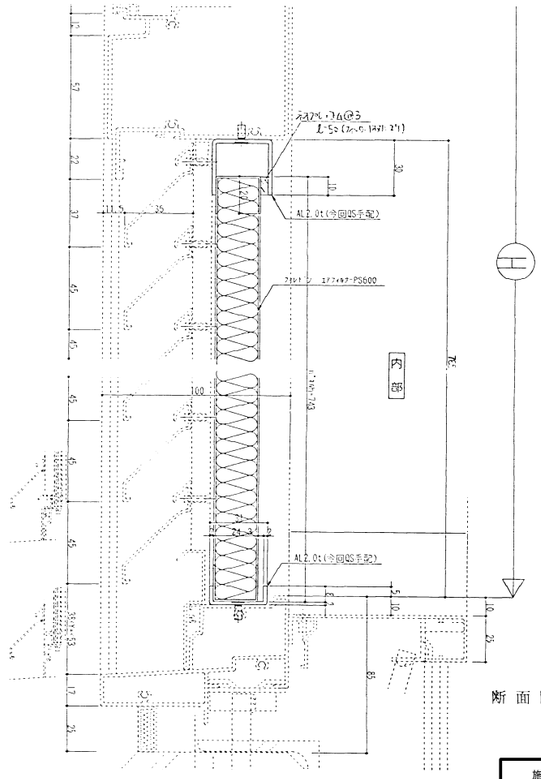
施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	鋼製階段構造図(2/2)		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 1:50 A2 1:70	図面番号	8-113/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所		



1 F 平 面 図　S=1／200

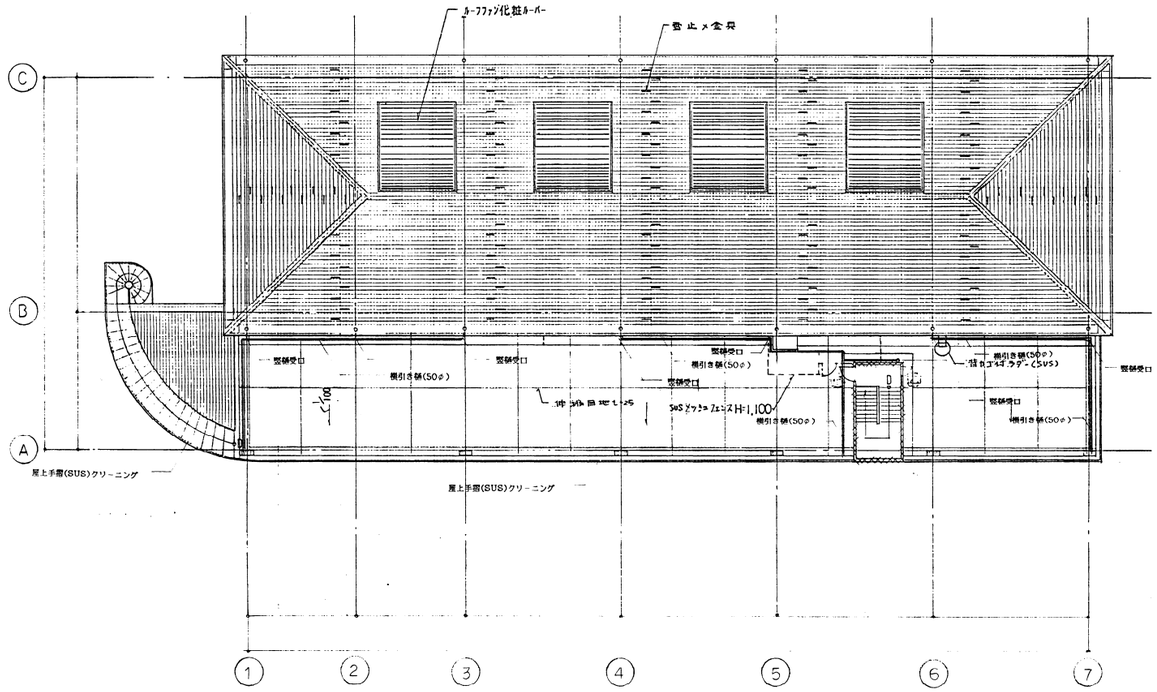


断 面 図　S=1／2

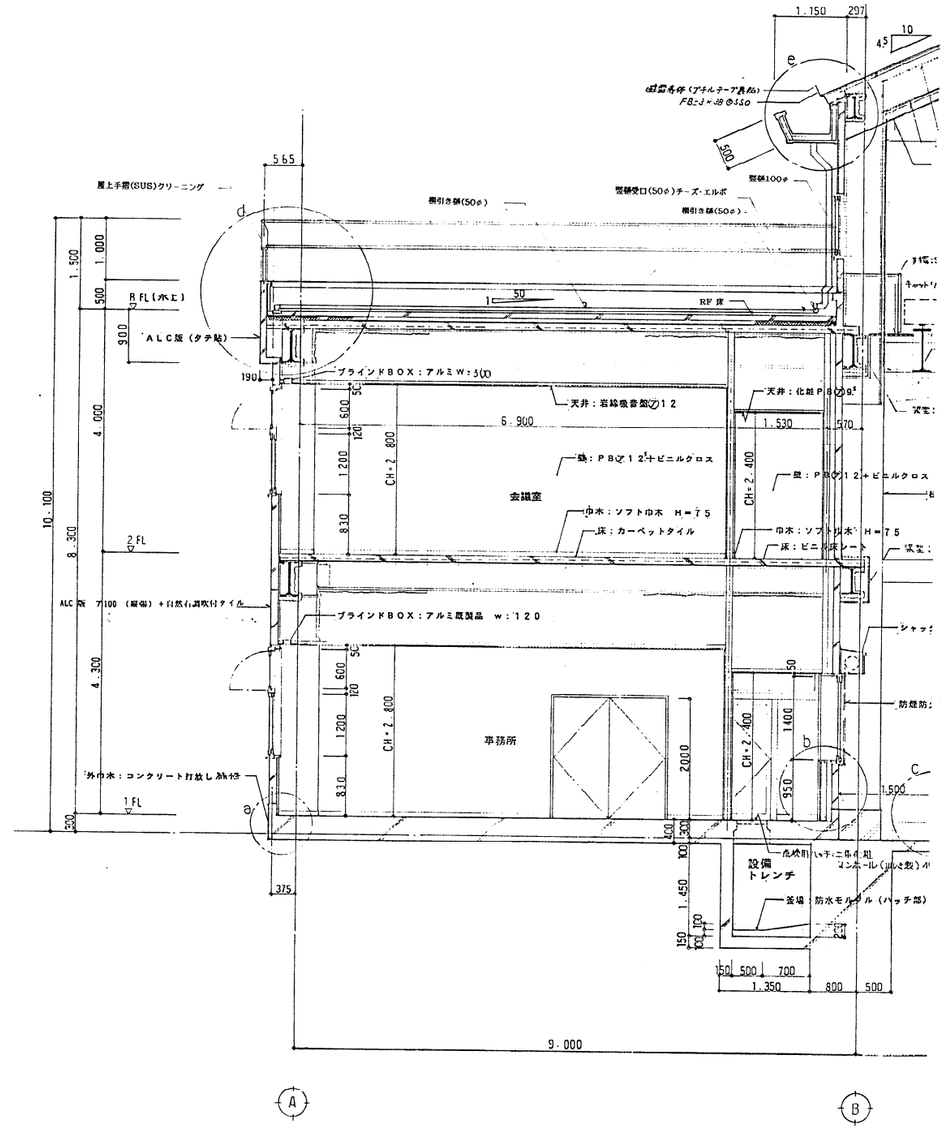


断 面 図　S=1／2

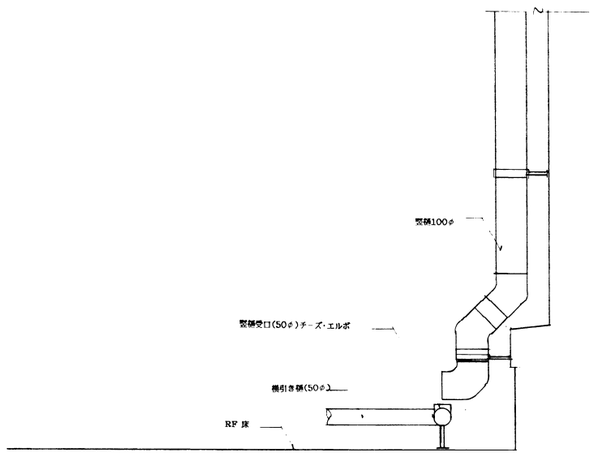
施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	換気フードフィルター取付図		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 図示	図面番号	8-114/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所		



屋 根 伏 図　S=1／200

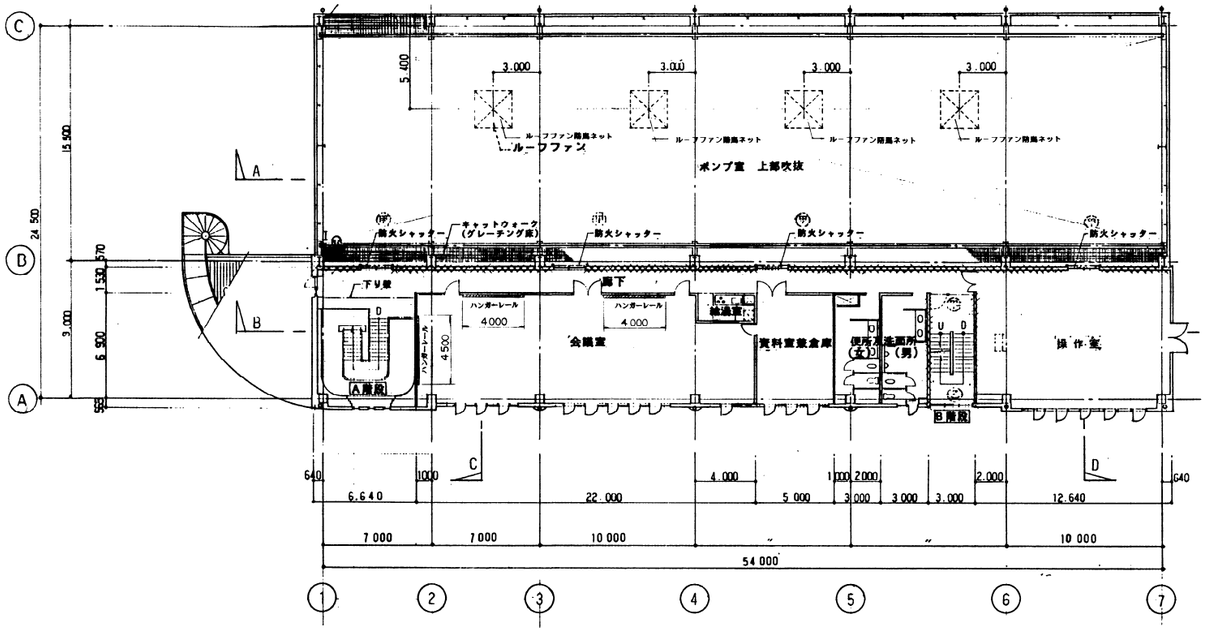


断 面 図　S=1／50

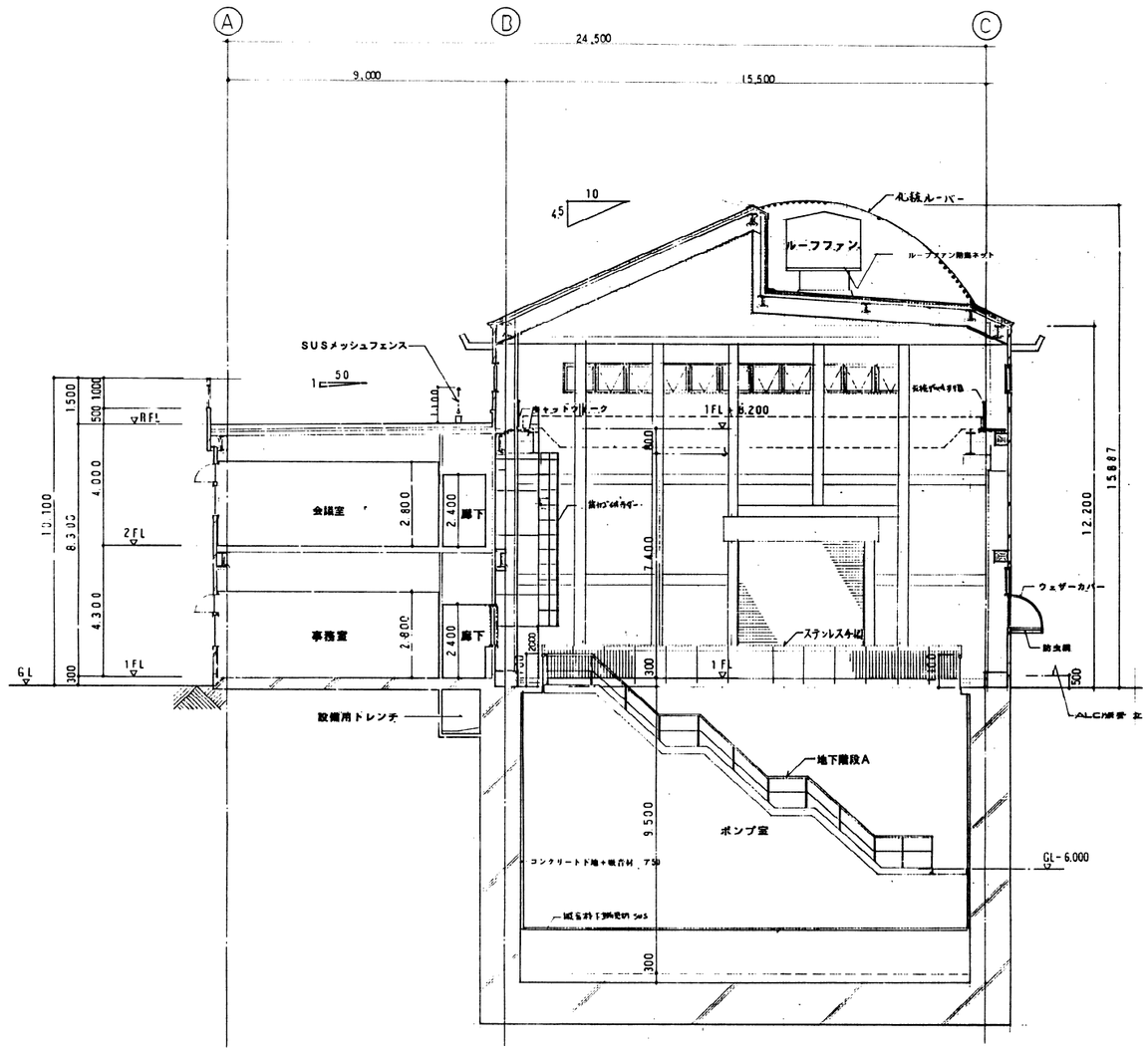


断面詳細図　S=1／10

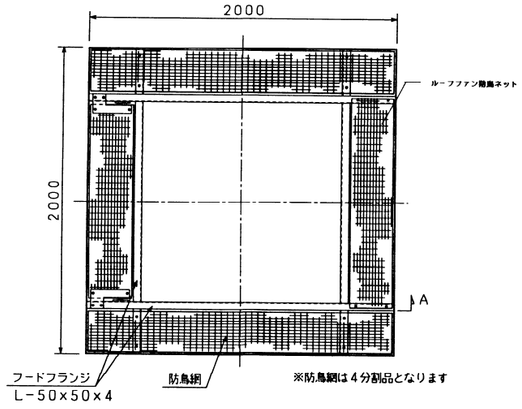
施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	事務所棟屋上樋横引図		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 図示	図面番号	8-115/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所		

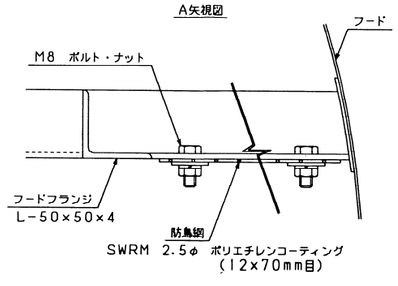


2 F 平 面 図　S=1／200

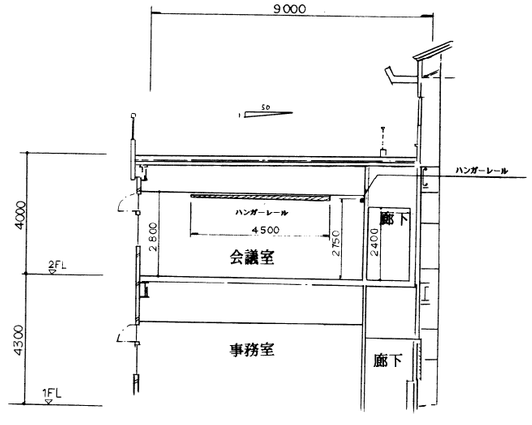


断 面 図 S=1／100



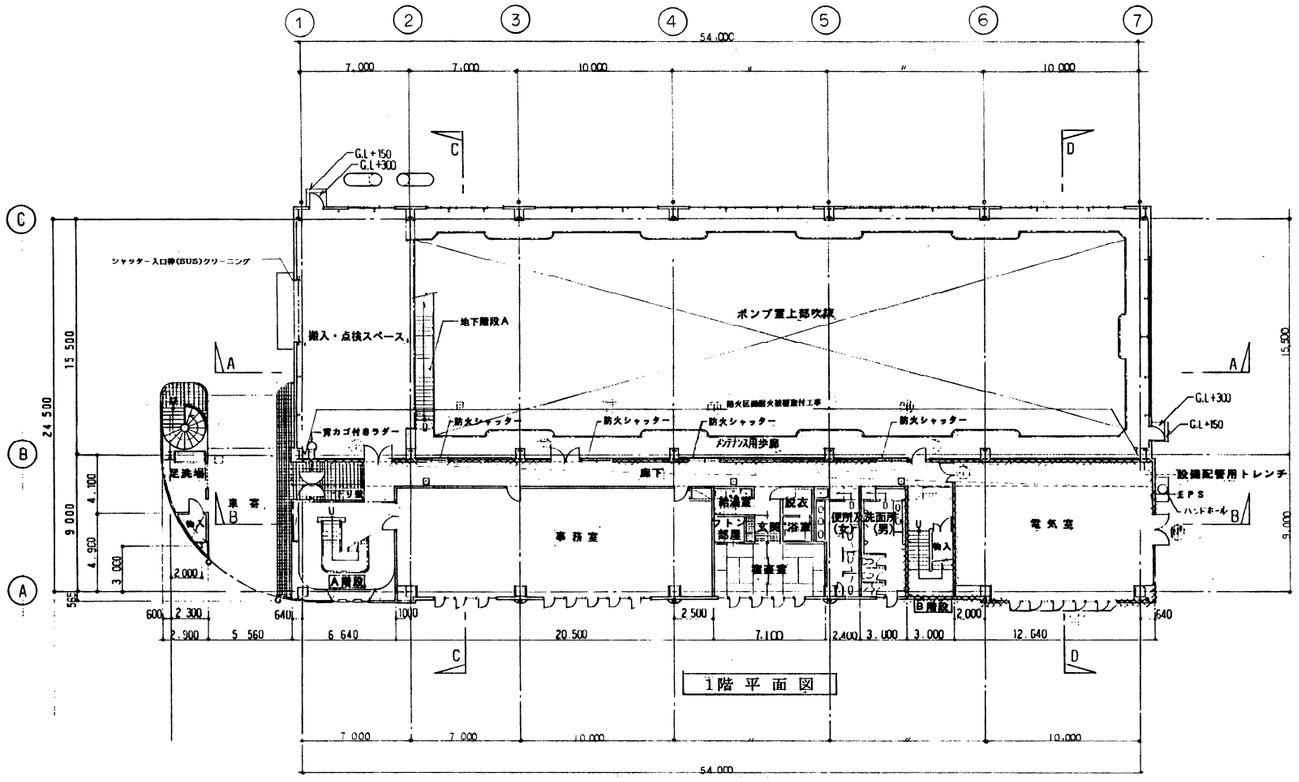


防鳥網詳細図　S=1／20



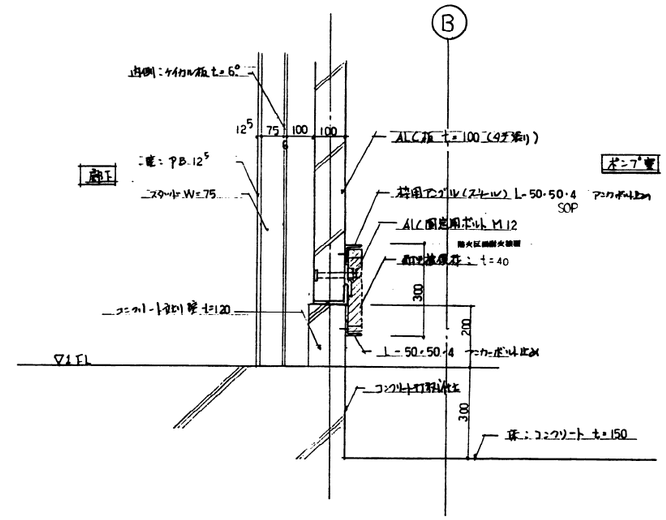
ハンガーレール詳細図 S=1／100

施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	ルーフファン防鳥網・ハンガーレール取付図		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 図示	図面番号	8-116/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所		

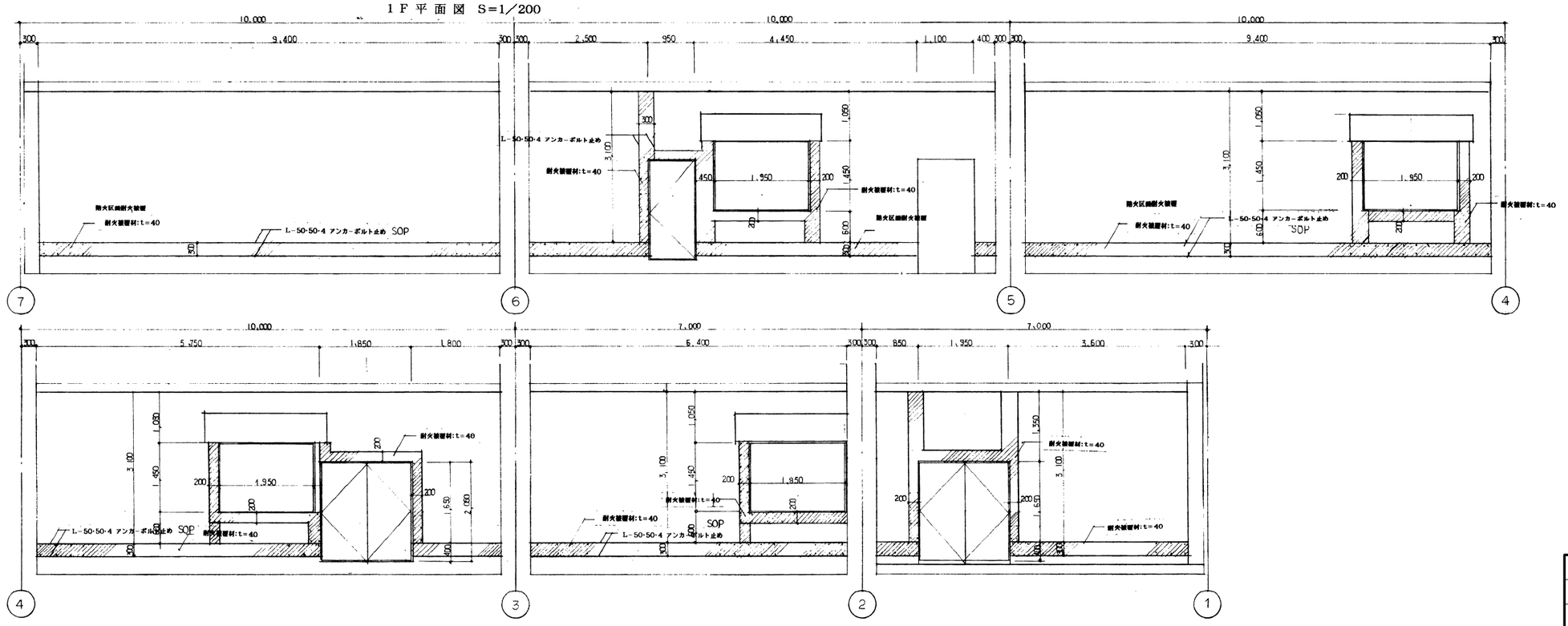


1階平面図

1Ｆ平面図　S=1／200

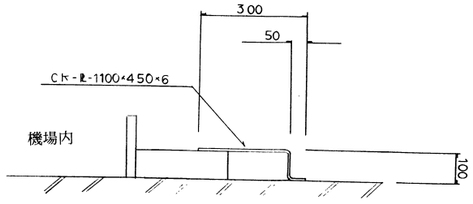


断面詳細図　S=1／10

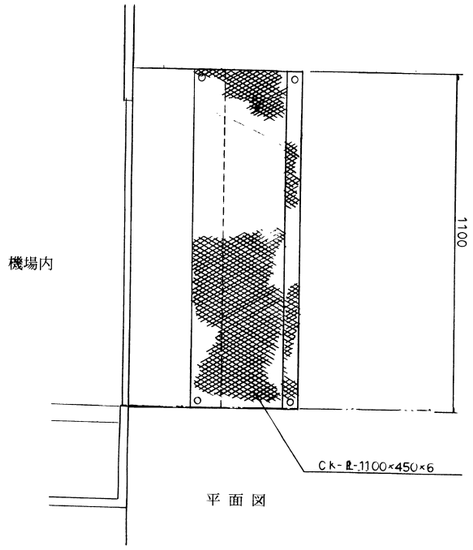


立面図　S=1／100

施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	耐火被覆取付図		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 図示	図面番号	8-117/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所		



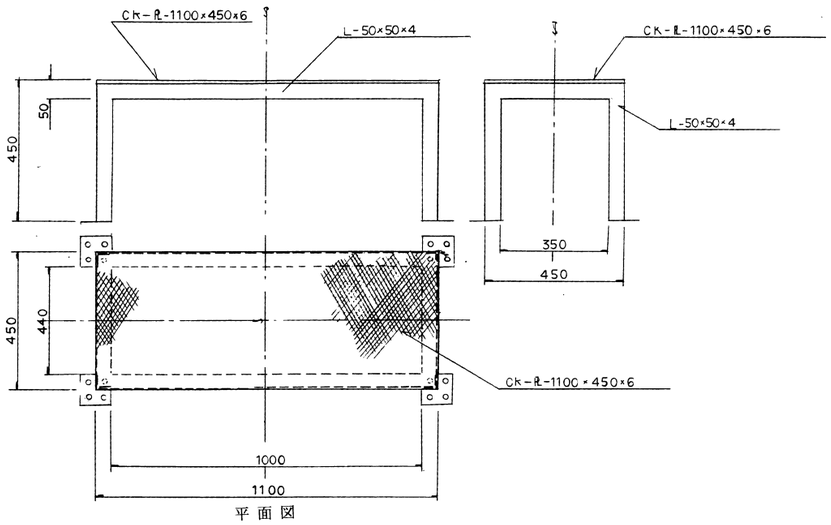
断 面 図



平 面 図

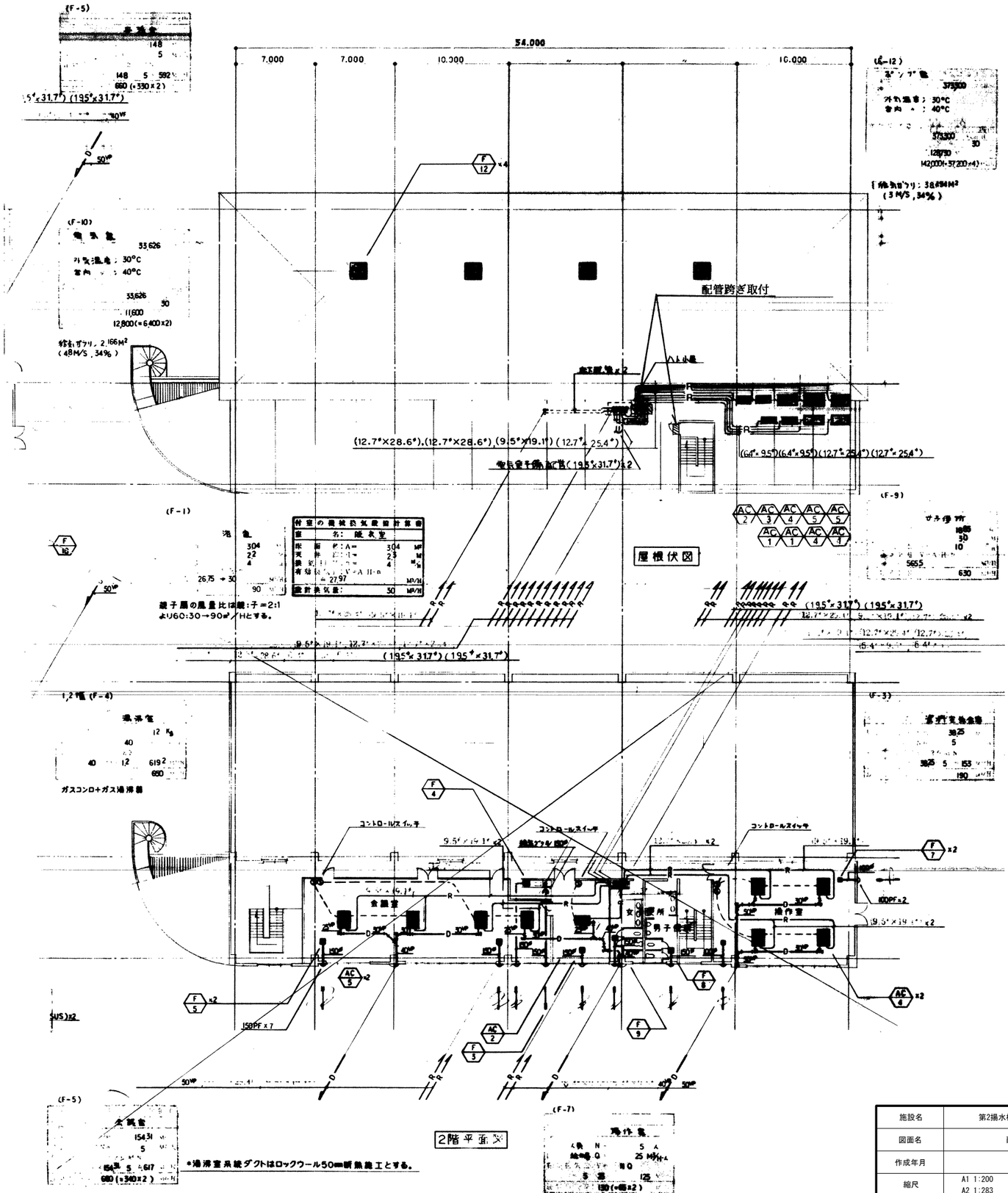
出入口部配管跨ぎ詳細図S＝1／10

断 面 図

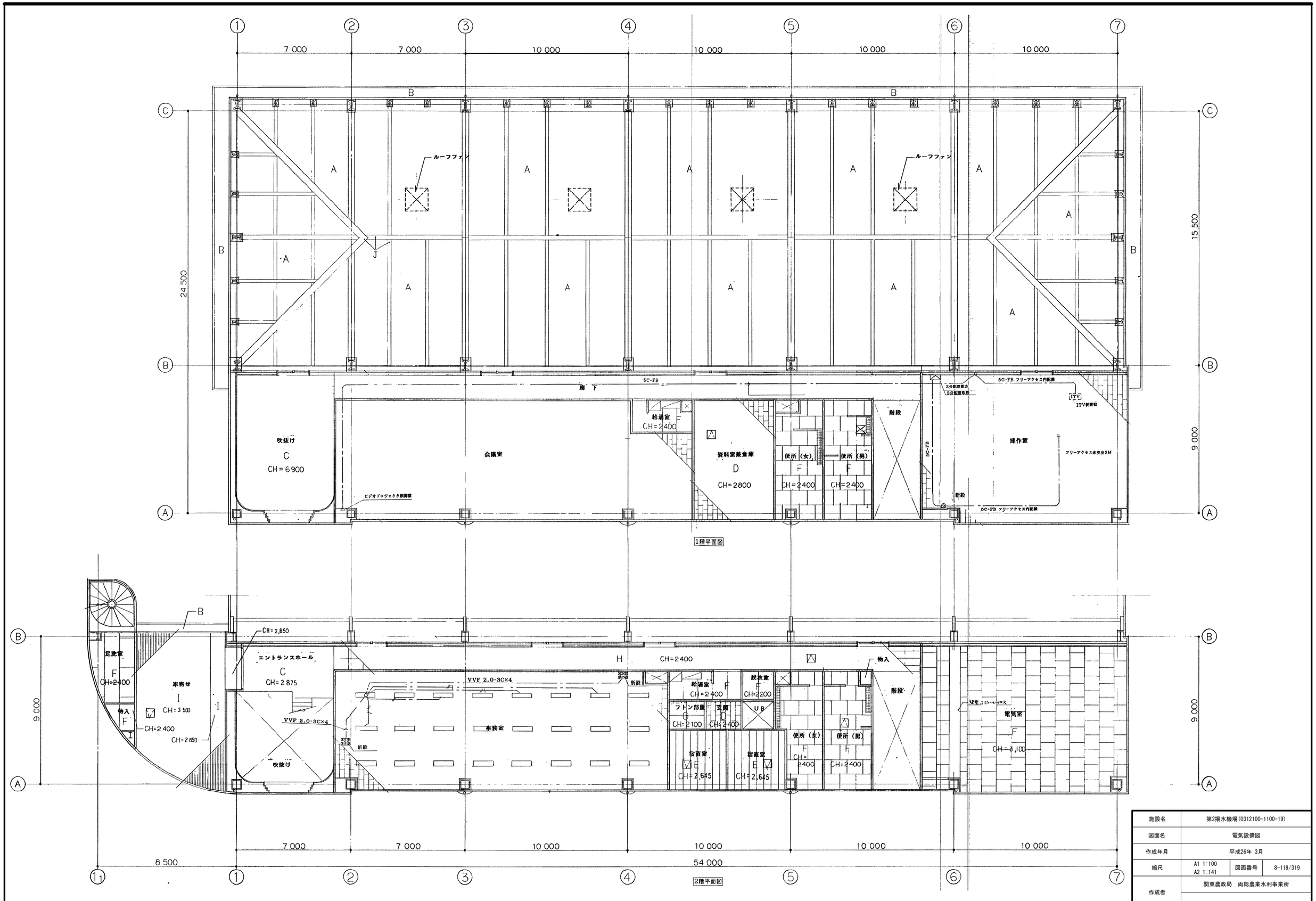


平 面 図

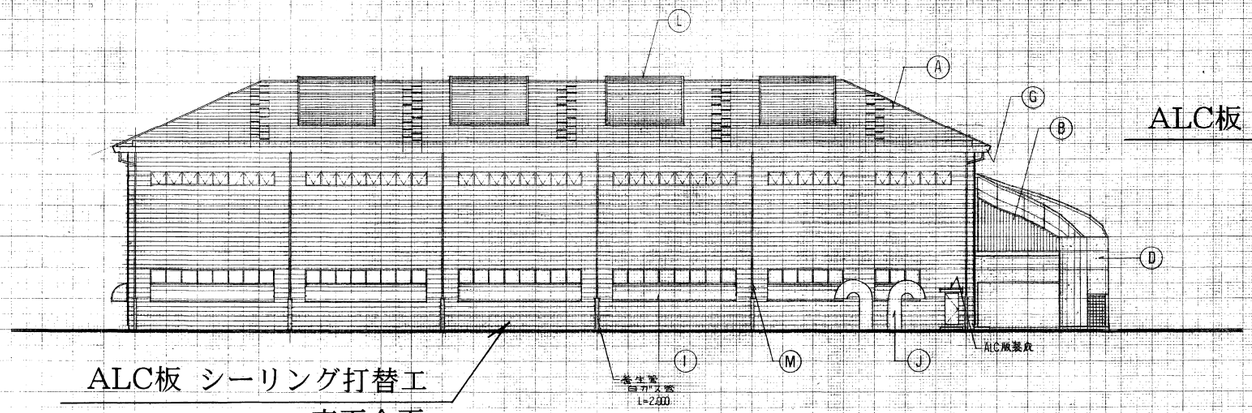
空調配管部 配管跨ぎ詳細図 S＝1／10



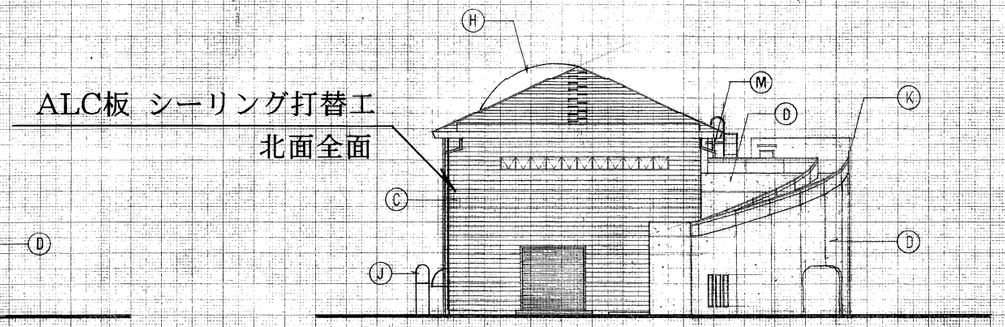
施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	配管跨ぎ取付図		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 1:200 A2 1:283	図面番号	8-118/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所		



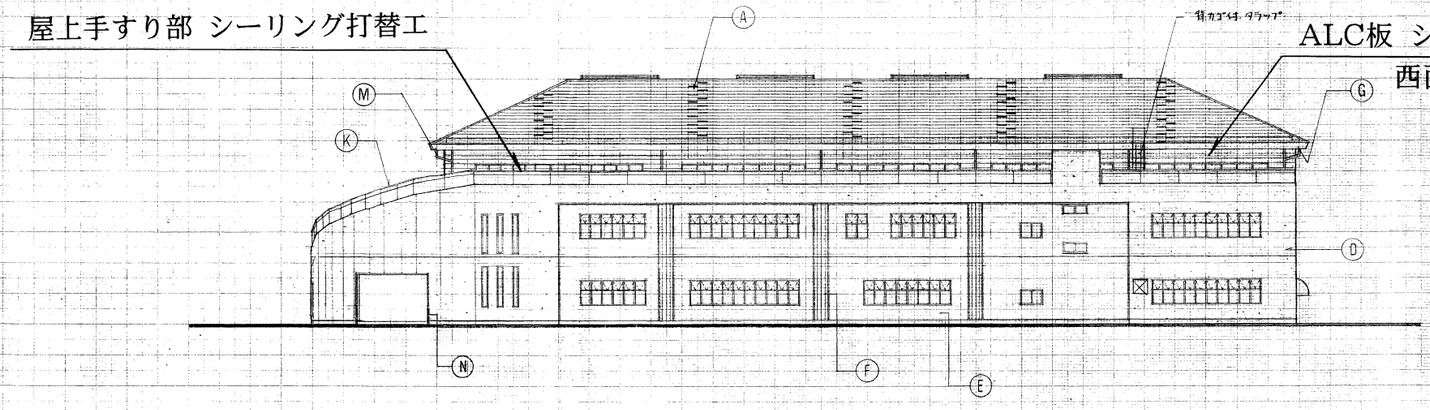
施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	電気設備図		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 1:100 A2 1:141	図面番号	8-119/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所		



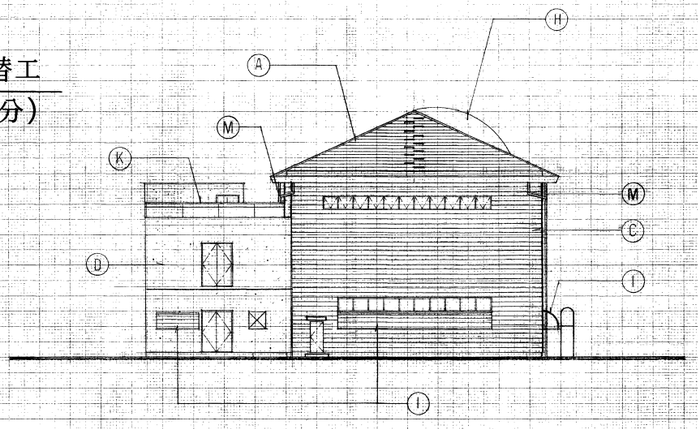
東 立 面 図



北 立 面 図



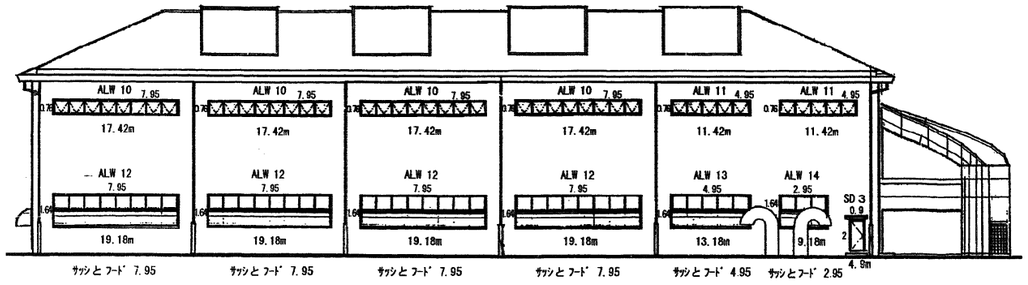
西 立 面 図



南 立 面 図

A	フッ素樹脂鋼板@0.45 (横葺き・ダンリギルーフ 240 相当) (雪止メ付)
B	フッ素樹脂鋼板@0.8 (折版山高H=20 永久型枠兼) ビューラールーフ120相当)
C	ALC板 T100 (縦張) + 薄形吹付タイル
D	ALC板 T100 (縦張) + 自然石調吹付
E	ALC板 T100 (縦張) + 自然石貼仕上
F	シート状天然砕石装飾材張り
G	フッ素樹脂鋼板@0.45 (庇)
H	フッ素樹脂鋼板@0.45
I	ステンレス鋼板@0.5 (ウェザーカバー) (ステンレス製 SUS304)
J	一般構造用圧延鋼管 ○PL-□ (鉄・溶融亜鉛めっき)
K	ステンレス手摺 (手摺)
L	ステンレスバリア (ルーフファン保護ルーバー)
M	タテ樋 (塩ビ φ75)
N	ガードパイプ (ステンレス製) φ120 H=1,200

施設名	第2揚水機場 (0312100-1100-19)		
図面名	上屋外壁立面図		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 1:200 A2 1:283	図面番号	8-120/319
作成者	関東農政局 霞総農業水利事業所		

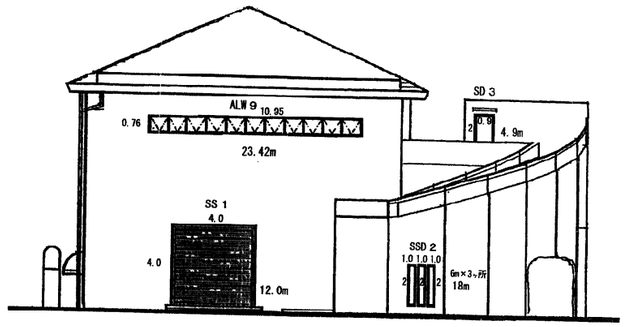


東 立 面 図

サッシ廻りシーリング 196.5m

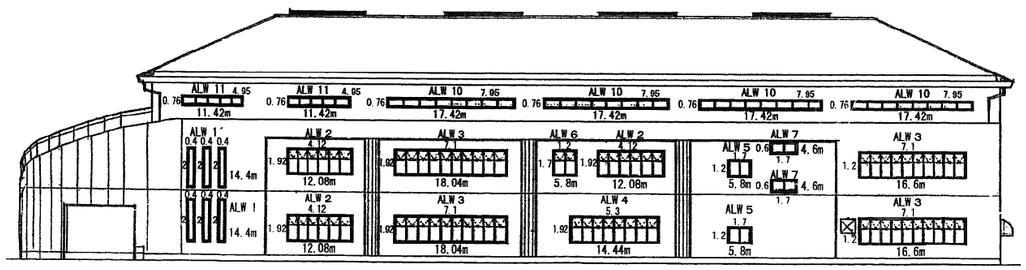
サッシとフード 39.7m

	サッシ廻りシーリング	サッシとフード
東面	196.5m	39.7m
西面	267.88m	
南面	80.92m	13.8m
北面	58.32m	
合計	603.62m	53.5m



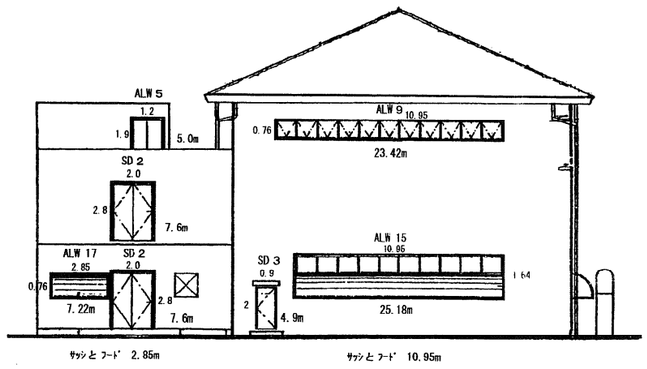
北 立 面 図

サッシ廻りシーリング 58.32m



西 立 面 図

サッシ廻りシーリング 267.88m



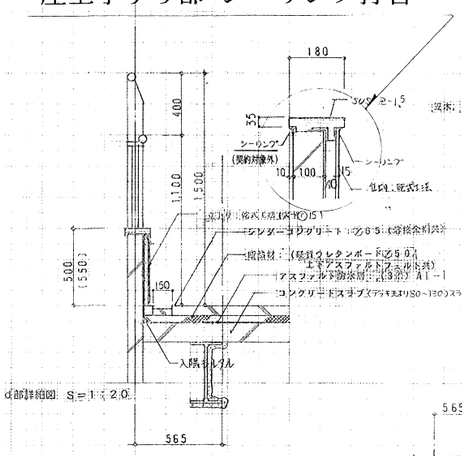
南 立 面 図

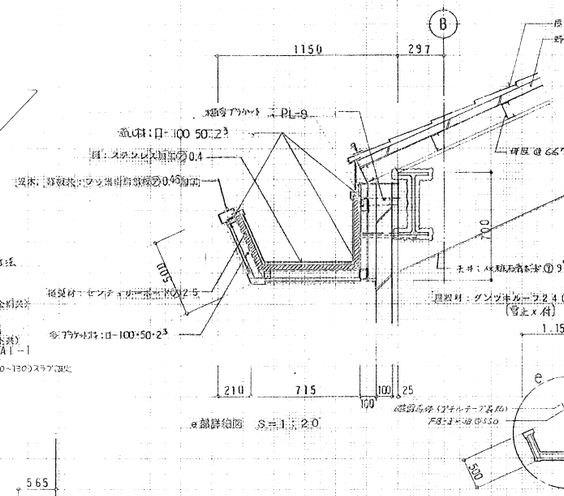
サッシ廻りシーリング 80.92m

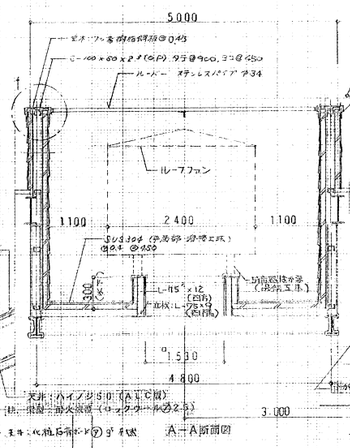
サッシとフード 13.8m

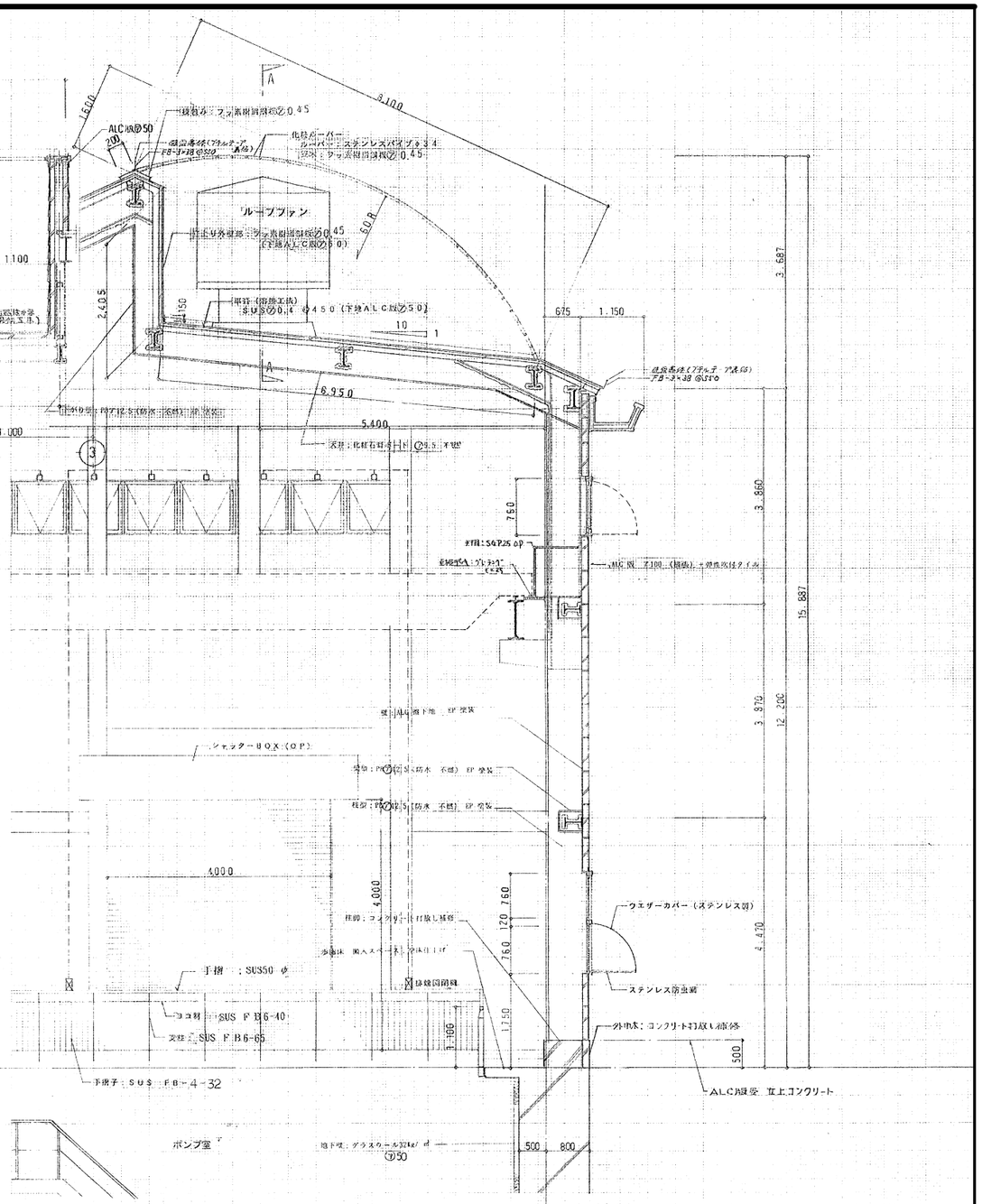
施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	上屋外壁補修図		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 1:200 A2 1:283	図面番号	8-121/319
作成者	関東農政局 両総農業水利事業所		

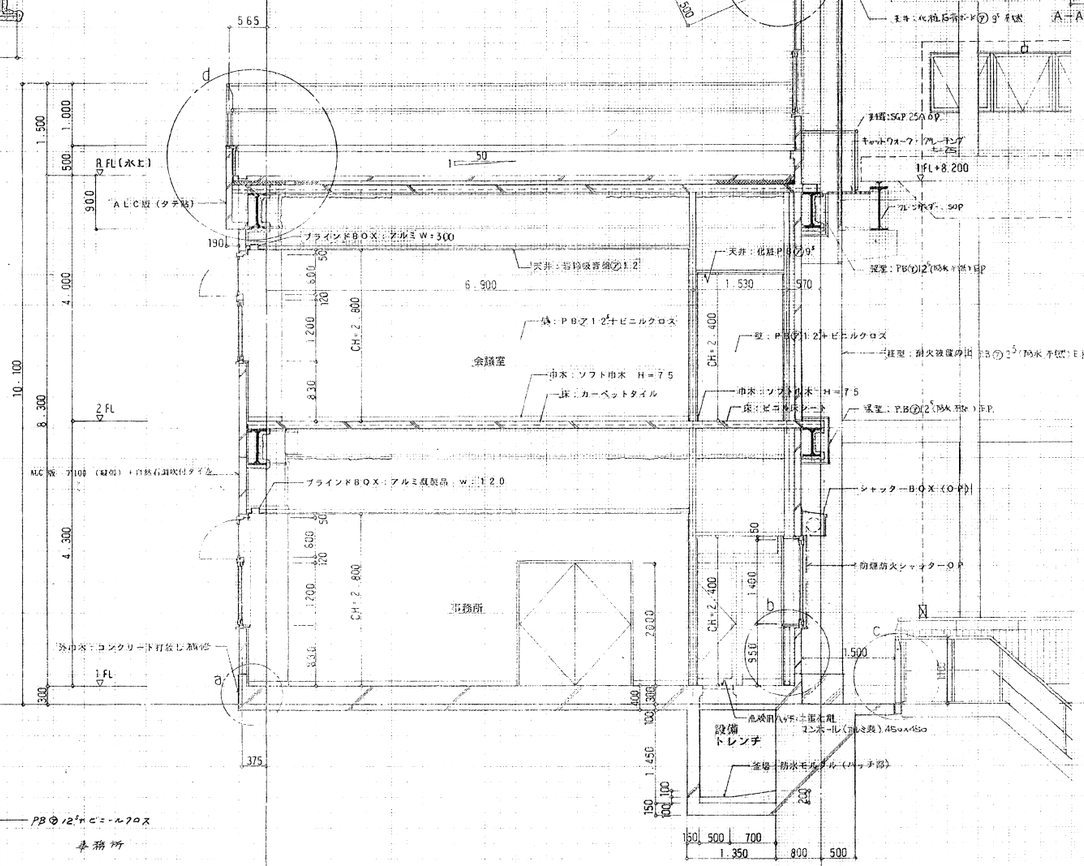
屋上手すり部 シーリング打替

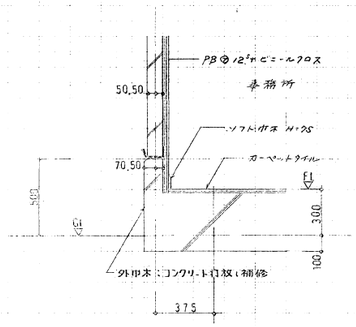


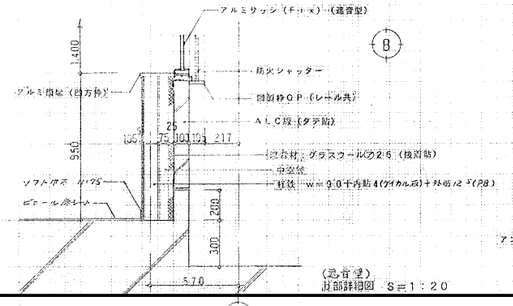


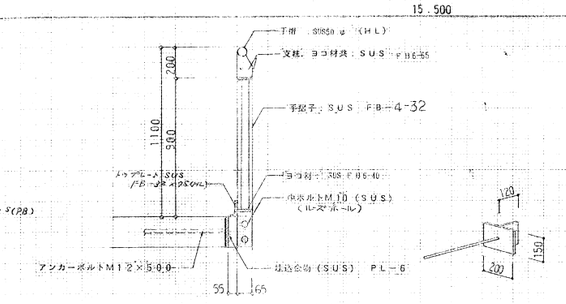


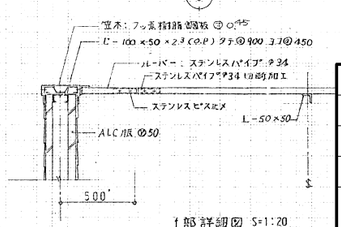












施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	上屋外壁断面図		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 1:50 A2 1:70	図面番号	8-122/319
作成者	関東農政局 両総農業水利事業所		

構造設計標準仕様

適用は ◉ 印を記入する。

1. 建築物の構造内容

(1) 工事名称　第２揚水機場建設工事
建築場所　千葉県山武郡横芝町寺方地内　他

(2) 工事種別　◉新築　□増築　□増改築　□改築

(3) 構造種別
□木造(W)　□補強コンクリートブロック造(CB)　◉鉄骨造(S)
□鉄筋コンクリート造(RC)　□壁式鉄筋コンクリート造(WRC)
□鉄骨鉄筋コンクリート造(SRC)　□壁式プレキャスト鉄筋コンクリート造(WPRC)
□プレキャスト鉄筋コンクリート造(PRC)　□

(4) 階　数
地下 — 階　地上 2 階　塔屋 — 階

(5) 主要用途　ポンプ室

(6) 屋上付属物
□広告塔　□高架水槽　ton □　□
□煙　突　□キュービクル　ton □　□

(7) 増築計画　□有（　　）　◉無

(8) 付帯工事
□門塀　□擁壁　□　□　□

(9) 特別な荷重
□エレベータ　人乗(ロープ式 油圧式)　□リフト　ton　□ホイスト　ton
□倉庫積載床用　kg/m²　□受水槽　ton　◉クレーン 20 t

(10) その他

2. 使用構造材料

(1) コンクリート　※設計基準強度 Fc：kg/cm² は 0.1×kg/cm²(N/mm²)と読み変える
例:160kg/cm² = 0.1×160 = 16N/mm²

適用箇所	種　類	設計基準強度 Fc＝kg/cm²	スランプcm	備　考
捨コンクリート	普通	135、150 (160)	12 ≦	
土間コンクリート	普通	180、210	18 ≦	
基礎、基礎梁	普通	180、(210)、240	18 ≦	
柱、梁、床、壁	(普通)、軽量	180、(210)、240	18 ≦	比重 2.3
デッキ版	(普通)、軽量	(180)、210、240		比重
押えコンクリート	(普通)、軽量	135、150、(180)		比重

(2) コンクリートブロック(CB)
◉A種　□B種　□C種　厚◉100、□120、□150、□190、

(3) 鉄　筋

	種　類	径	使用箇所	継手工法
異形鉄筋	◉SD295A	D10 ～ D16	基礎梁	◉重ね継手 D16 以下
	□SD295B			
	◉SD345	D19 ～ D25	基礎梁	◉ガス圧接継手 D19 以上
	□			
丸　鋼	◉SR235			□特殊継手
溶接金網	◉	φ6 @150	デッキ床	(　　)

(4) 鉄　骨

	種　類	使用箇所	現場溶接	備　考
鋼　材	◉SS400　□SM400A,B	梁、柱	□有 ◉無	
	◉STKR400　□ST490	柱	□有 ◉無	
	□SM490A,B		□有 □無	
	◉SSC400		□有 □無	

(5) ボルト
□高力ボルト ◉普通、F10T　□特殊、S10T　認定品(□M12、◉M16、◉M20、◉M22)
□中ボルト　φ＝16　高力ボルトすべり係数試験　□要　◉否
◉アンカーボルト　SS400　φ＝　L＝　mm　ナット(~~シングル~~、ダブル)
(構造図参照)　φ＝　L＝　mm
◉スタッドボルト　φ＝16　L＝ 100　mm

(6) 屋根、床、壁　　使用箇所
◉ALC版　厚 100～125
◉折　版　型式 鉄合式　H＝ 200　厚 0.8　外壁 エントランス 屋根 庇
◉デッキプレート　型式 Cデッキ　厚 1.6
□キーストンプレート　型式　厚
□特殊デッキプレート
□

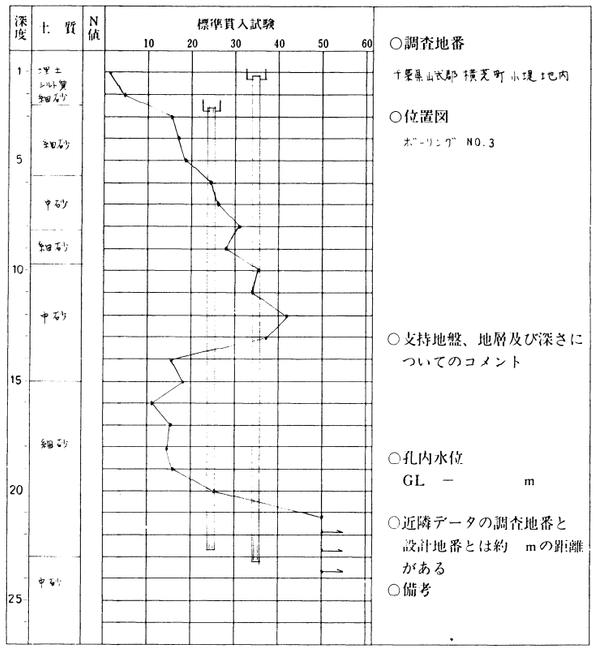
3. 地　盤

(1) 地盤調査資料
□有（□敷地内 □近隣）　□ボーリング調査　□平板載荷試験　□水平地盤反力係数の測定
◉無　（調査予定　□有　□無）　□

(2) 地盤調査計画
□ボーリング調査　□静的貫入試験　□標準貫入試験　□水平地盤反力係数の測定
□土質試験　□物理探査　□平板載荷試験　□

(3) 地盤調査及び試験杭の結果により、杭長、杭種、直接基礎の深さ、形状を変更する場合もある

(4) ボーリング標準貫入値、土質構成（基礎・杭の位置を明記すること）



4. 地業工事

(1) 直接基礎　□ベタ基礎　□布基礎　□独立基礎　試験堀 □有 □無
深さGL － m、支持層 － 長期許容支持力度 t/m² 載荷試験 □有 □無

(2) 杭基礎　支持層 － 細砂

杭　種	材　料	施工法	備　考
□RC □PC □PHC □H鋼 ◉鋼管 □摩擦杭 □	PC (□A種 □B種 □C種) PHC(□A種 □B種 □C種) 鋼材 □SS400 ◉STK400 □	◉打ち込み □埋込み(セメントミルク工法) □ □	大臣認定第 号 年 月 日
□場所打ち コンクリート杭	コンクリートFc＝ セメント量 kg/m³ 鉄　筋　主筋 SD HOOP SD	□オールケーシング □拡底杭 □リバースサーキュレーション □アースドリル □ミニアース □BH □深礎 [□手堀 □機械堀]	拡底杭 日本建築センター認定 第 号 年 月 日

杭仕様　◉施工計画書承認　◉杭施工結果報告書
試験杭　(□有・□無)　(□打ち込み・□載荷)　本

杭径(mm)	設計支持力(t)	杭の先端の深さ(m)	本数	特記事項
600	93.0	GL-22.8, 23.2	3.0	
800	123.0	GL-22.8, 23.2	2.0	

5. 鉄筋コンクリート工事

(1) コンクリート
◉ コンクリートはJIS認定工場の製品とし施工に関してはJASS5による。
◉ セメントは、JIS R5210の普通ポルトランドセメントを標準とする。
◉ 調合計画は、工事開始前に工事監理者の承認を得ること。
◉ 寒中、暑中、その他特殊コンクリートの適用を受ける期間に当る場合は、調合、打ち込み、養生、管理方法など必要事項について、工事監理者の承認を得ること。
◉ フレッシュコンクリートの塩化物測定は、原則として工事現場で(財)国土開発技術研究センターの技術評価をうけた測定器を用いて行い、試験結果の記録及び測定器の表示部を一回の測定ごとに撮影した写真（カラー）を保管し承認を得る。測定検査の回数は、通常の場合、１日１回以上とし、１回の検査における測定試験は、同一試料から取り分けて３回行い、その平均値を試験値とする。
◉ 構造体コンクリート現場の圧縮強度試験供試体(JASS5T-603)は、現場水中養生、または現場封かん養生とし、採取は打ち込み工区ごと、打ち込み日ごととする。また、打込み量が150m³をこえる場合は150m³ごとまたは、その端数ごとに一回を標準とする。一回に採取する供試体は、適当な間隔をおいた３台の運搬車からその必要本数を採取する。なお、供試体の数量は、特別指示なき場合は、１回当り６本以上とし、そのうち４週用に３本を用いる。
◉ ポンプ打ちコンクリートは、打ち込む位置にできるだけ近づけて垂直に打ちコンクリートの自由落下高さは、コンクリートが分離しない範囲とする。ポンプ圧送に際しては、コンクリート圧送技士または同等以上の技能を有する者が従事すること。なお、打ち込み継続中における打継ぎ時間間隔の限度は、外気温が25℃未満の場合は150分、25℃以上の場合は120分以内とする。

(2) 鉄　筋
◉ 鉄筋はJIS G3112の規格品を標準とする。
◉ 鉄筋の加工寸法、形状、かぶり厚さ、鉄筋の継手位置、継手の重ね長さ、定着長さは「鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)(2)」による。
(壁式鉄筋コンクリート造は除く)
◉ D19未満は、すべて重ね継手とする。継手（D19以上）をガス圧接とする場合は、日本圧接協会「鉄筋のガス圧接工事標準仕様書」による。
◉ ガス圧接部の抜き取り検査は、同一作業班が同一日に施工した圧接箇所ごと(200箇所を超えるときは、200箇所ごと)に１回行い、１回の試験は３本以上とする。
外観検査 ◉有 □無、引張試験 ◉有 □無、超音波探傷試験 □有 ◉無
◉ 柱の帯筋(HOOP)の加工方法は、◉H型(タガ型) □W型(溶接型) □S型(スパイラル型) とする。
◉ コンクリート及び鉄筋の試験は「建築物の工事における試験及び検査に関する東京都取扱要綱」第４条の試験機関で行うこと。
試験機関名 } 未定（第三者検査機関
代行業者名 }
代行業者名とは、試験、検査に伴なう業務を代行する者をいう。

(3) 型　枠
◉ 材料　合板厚 12mm を標準とする。 □
◉ 型枠存置期間

種類	せき板				支柱		
部位	基礎、はり側、柱、壁		スラブ下、はり下		スラブ下		はり下
セメントの種類 / 存置期間の平均気温	早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント 高炉セメントA種 シリカセメントA種	早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント 高炉セメントA種 シリカセメントA種	早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント 高炉セメントA種 シリカセメントA種	早強ポルトランドセメント 普通ポルトランドセメント 高炉セメントA種 シリカセメントA種
コンクリートの材令(日) 15℃以上	2	3	4	6	8	17	28
5℃～15℃	3	5	6	10	12	25	28
5℃未満	5	8	10	16	15	28	28
コンクリートの圧縮強度	50kg/cm²		設計基準強度の50%		設計基準強度の		
					85%		100%

注) 1　片持ばり、庇、スパン9.0m以上のはり下は、工事監理者の指示による。

注) 2　大ばりの支柱の盛りかえは行わない。また、その他のはりの場合も原則として行わない。

注) 3　支柱の盛りかえは、必ず直上階のコンクリート打ち後とする。

注) 4　盛りかえ後の支柱頂部には、厚い受板、角材または、これに代わるものを置く。

注) 5　支柱の盛りかえは、小ばりが終ってから、スラブを行う。
一時に全部の支柱を取り払って、盛りかえをしてはならない。

注) 6　上表以外のセメントを使用する場合は工事監理者の指示による。

6. 鉄骨工事

(1) 鉄骨工事は指示のない限り下記による
◉ 日本建築学会「JASS6」「鉄骨工事技術指針」
□ 鋼材倶楽部「建築鉄骨工事施工指針」
□

(2) 工事監理者の承認を必要とするもの
□製作工場　□製作要領書　◉工作図　◉施工計画書
◉建設省告示第1103号による認定工場(大臣認定 H　グレード都登録　ランク)
◉材料規格証明書または試験成績書
◉鋼材　◉高力ボルト　□特殊ボルト　◉スタッドボルト
□社内検査表　□　□

(3) 工事監理者に検査報告連絡し指示を受けるもの
◪ 現寸検査　□ 組立・開先検査　◪ 製品検査
◪ 建方検査　□　□

(4) 接合部の溶接は下記によること
◉ 東京都アーク溶接工事管理規準　(建築構造設計指針第12章)
◉ 鉄骨造建築物の溶接工事に関する指導指針(建築構造設計指針第12章)
□ 日本建築学会「溶接工作規準、同解説Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ、Ⅵ、Ⅶ、Ⅷ、Ⅸ」

(5) 溶接及び接合部を検査し工事監理者に報告すること
◉ 溶接部及び接合部の検査報告

検査箇所	検査方法	検査率又は検査数 社内	第三者	工事監理者	備　考
◉突合せ溶接部	超音波探傷試験	100 % 箇	30 % 箇	% 箇	
□	外観(目視)検査	100 %	%	100 %	
□	マクロ試験・その他	— 個	— 個	— 個	
第三者検査機関名					

第三者検査機関とは、建築主、工事監理者又は工事施工者が、受入れ検査を代行させるために自ら契約した検査会社をいう。

注) 現場溶接部については原則として第三者による全数検査を行うこと。

◉ 高力ボルトは「JIS B1186の高力ボルト」を標準とする。摩擦面の処理は黒皮などを座金外径２倍以上の範囲でショットブラスト、グラインダー掛け等を用いて除去した後、屋外に自然放置して発生した、赤さび状態ですべり係数が0.45以上確保できるものを標準とし目視により検査を行う。
◉ 高力ボルトの締付けに使用する機器はよく調整されたものを使用し、締付けの順序は部材が十分密着するよう注意して行う。また、締付けは原則として２度締めとする。
締付け後の検査は、各締付け工法別に適切な締付けが行なわれているか検査する。

(6) 防錆塗装
◉ 防錆塗装の範囲は、高力ボルト接合の摩擦面及びコンクリートで被覆される以外の部分とする。錆止めペイントは、JIS K5621、２回塗りを標準とする。
◉ 現場における高力ボルト接合部及び接合部の素地調整は入念に行い、塗装は工場塗装と同じ錆止めペイントを使用し２回塗りとする。

(7) 耐火被覆の材料
◉ ロックウール 吹付（湿式）耐火時間：60分（耐火）
柱 ◎ 鉄，梁 ◎ 25，ブレース ◎ 25　※ 参照図面 A－4

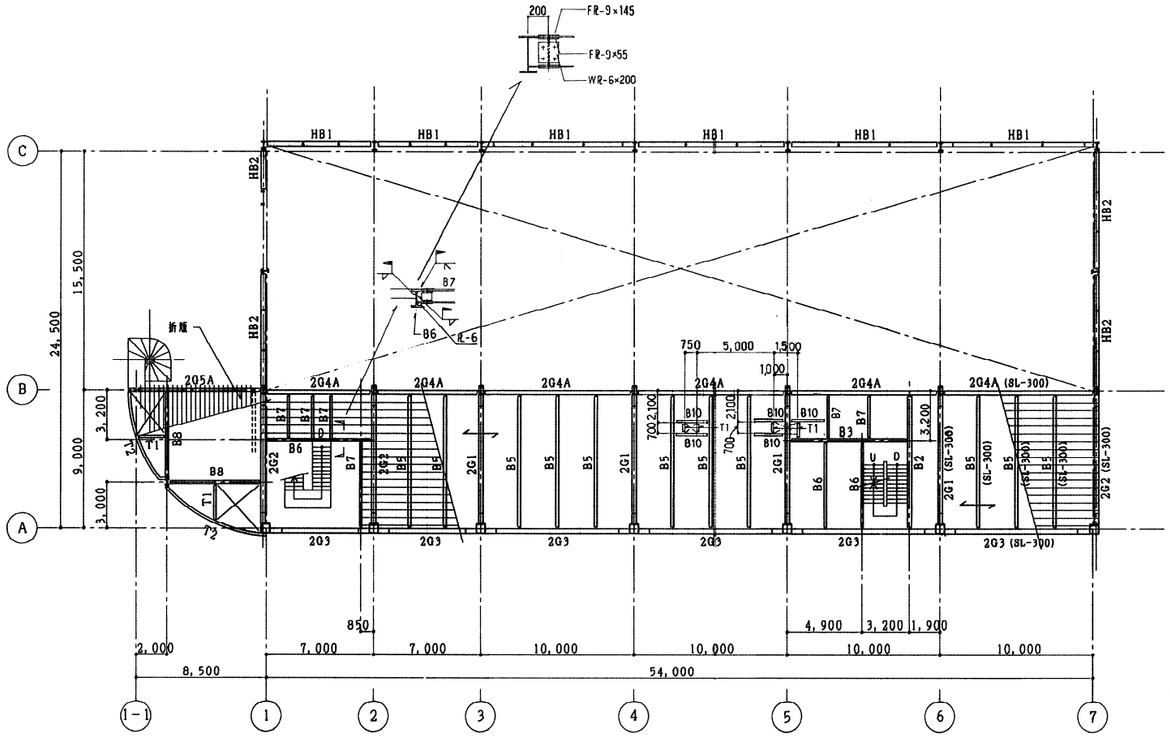
7. 設備関係

◉ 特記以外の梁貫通孔は原則として設けない、設ける場合は設計者の承認を得ること。
◉ 設備機器の架台及び基礎については工事監理者の承認を得ること。
◉ 床スラブ内に設備配管等を埋込む場合はスラブ厚さの1/3以下とし管の間隔を５cm以上とする。

8. その他

◉ 諸官庁への届出書類は遅滞なく提出すること。
◉ 各試験の供試体は公的試験機関にて試験を行い工事監理者に報告すること。
□
□

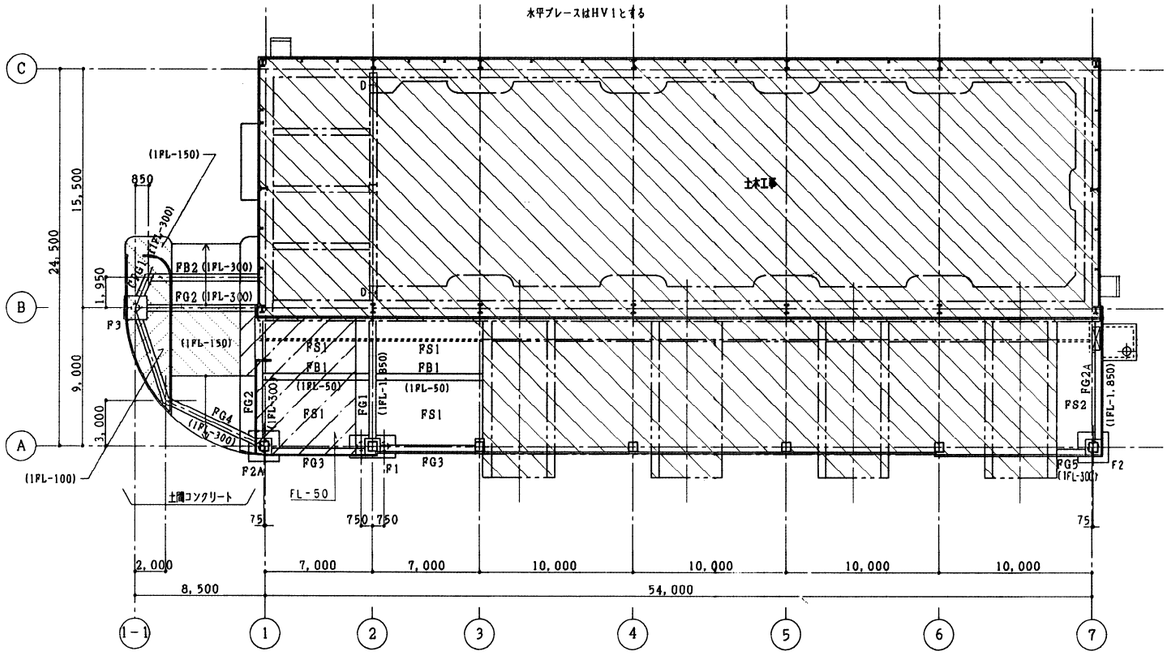
施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	構造設計標準仕様		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	－	図面番号	8-123/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所		



2階伏図　1:200

⟷ ：デッキ方向

水平ブレースはHV1とする

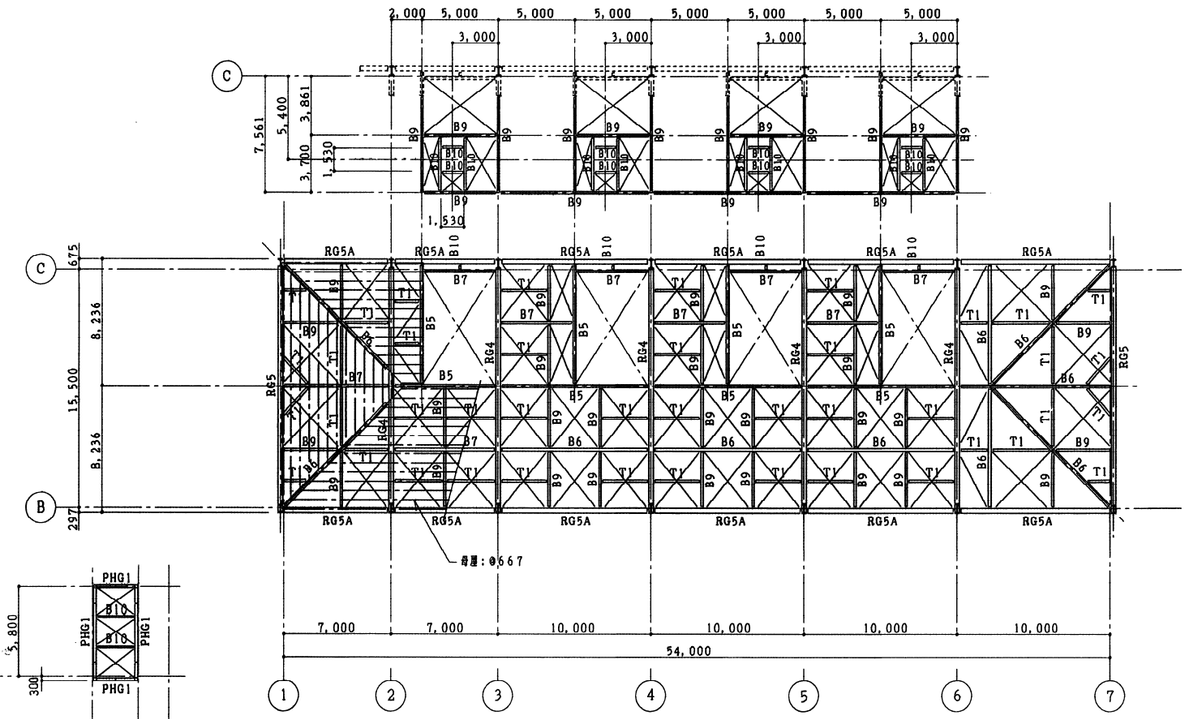


TP＋5.60＝GL±0

FL ±0　＝GL+300

杭，基礎伏図　1:200

▨ 部 は土木工事を示す

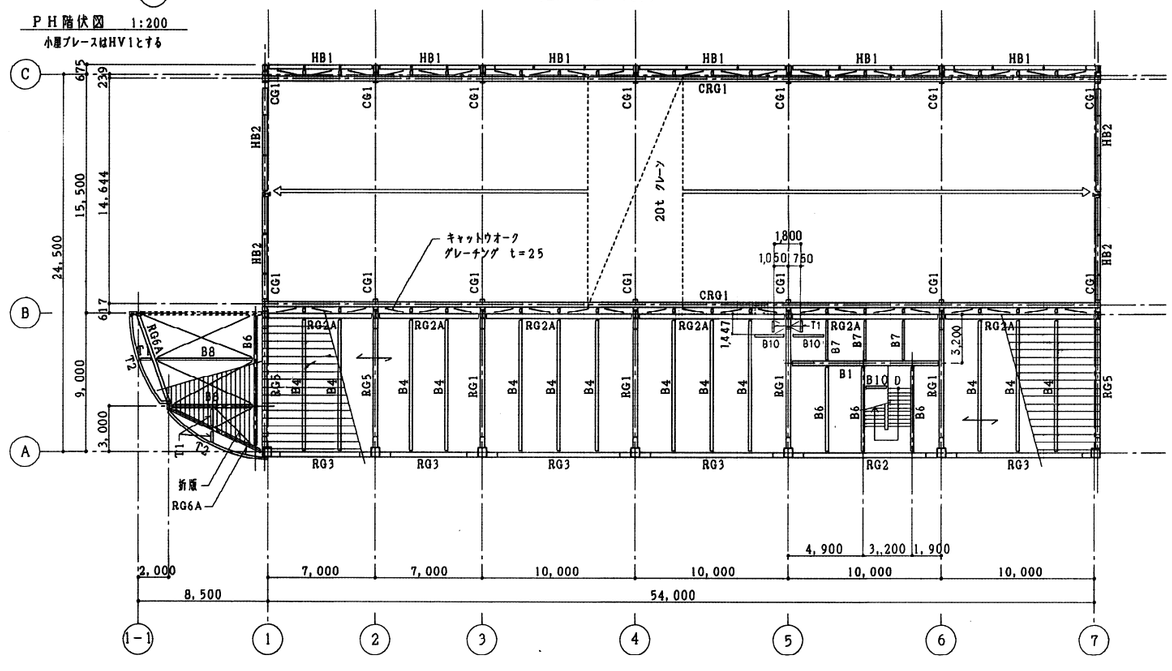


小屋伏図　1:200

小屋ブレースはHV1とする

PH階伏図　1:200

小屋ブレースはHV1とする

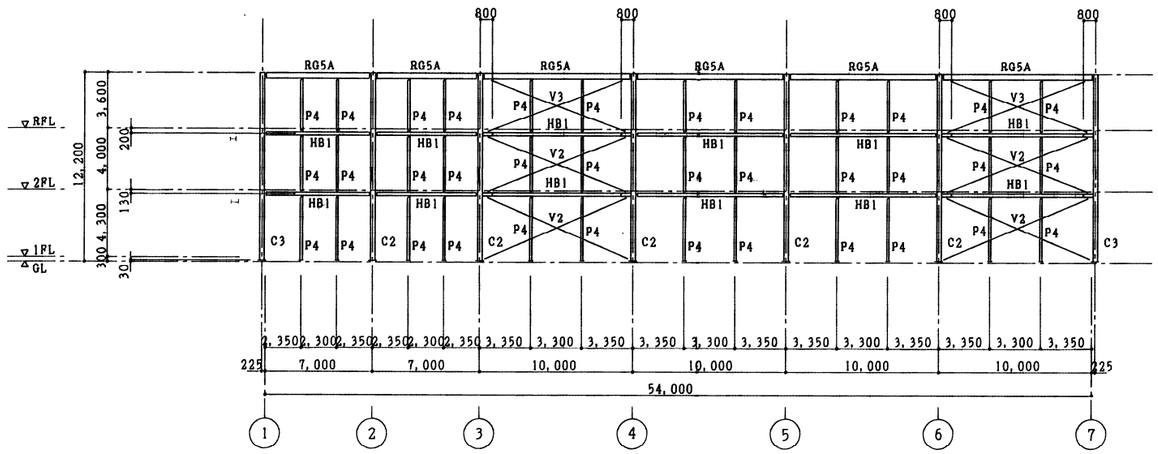


R階，クレーン伏図　1:200

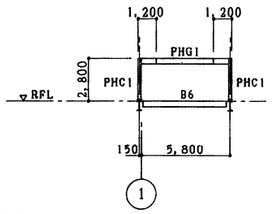
⟷ ：デッキ方向

水平ブレースはHV1とする

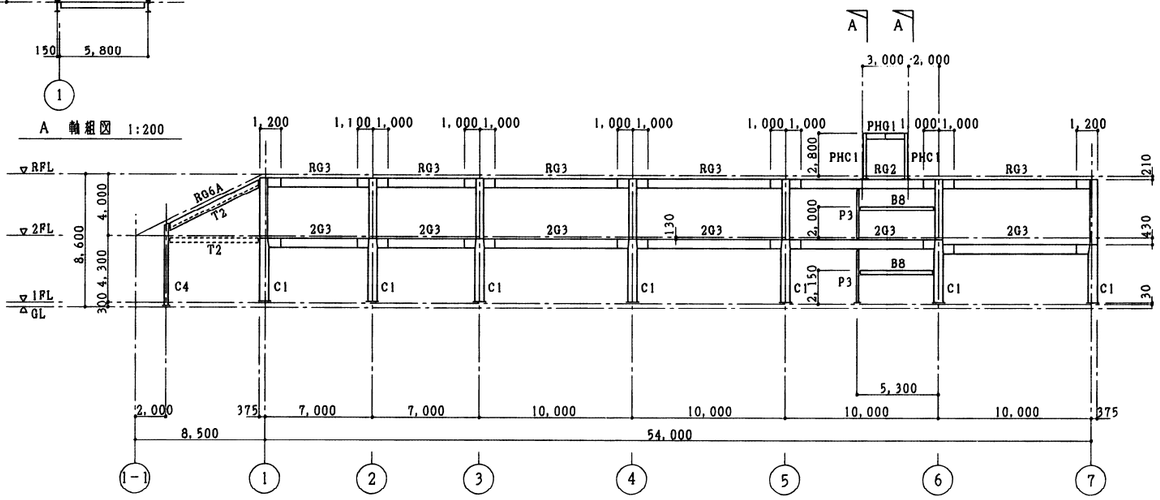
施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	杭、基礎、2階伏図・R階、クレーン小屋伏図		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 1:200 A2 1:283	図面番号	8-124/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所		



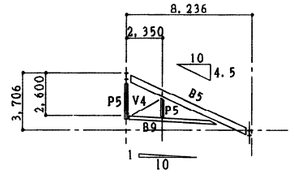
Ⓒ 通り軸組図 1:200



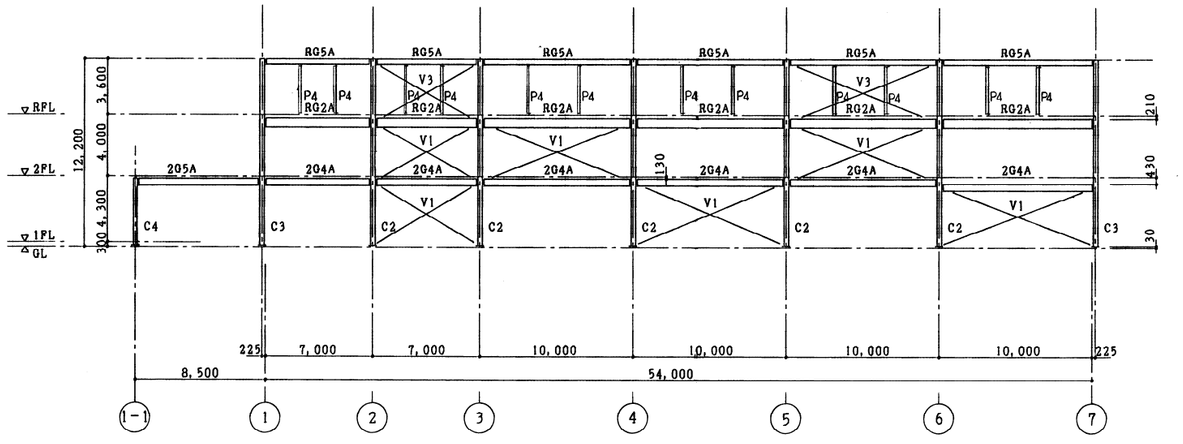
A 軸組図 1:200



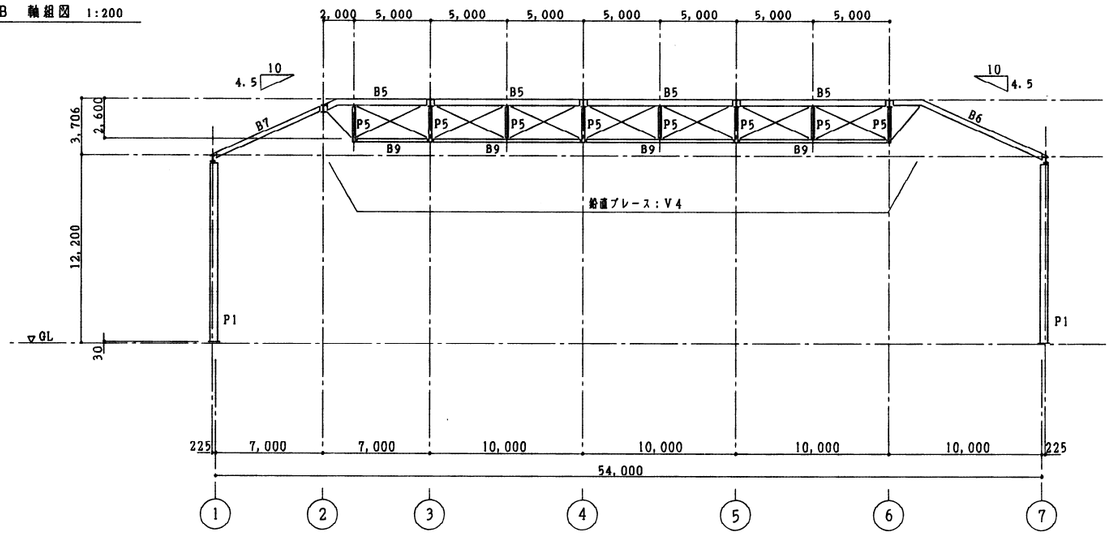
Ⓐ 通り軸組図 1:200



B 軸組図 1:200

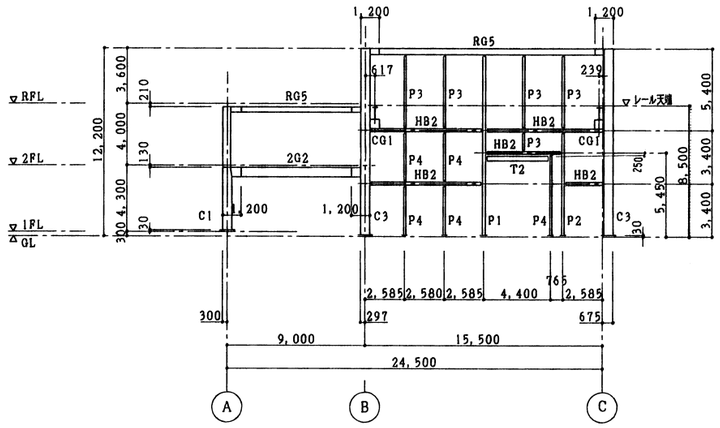


Ⓑ 通り軸組図 1:200

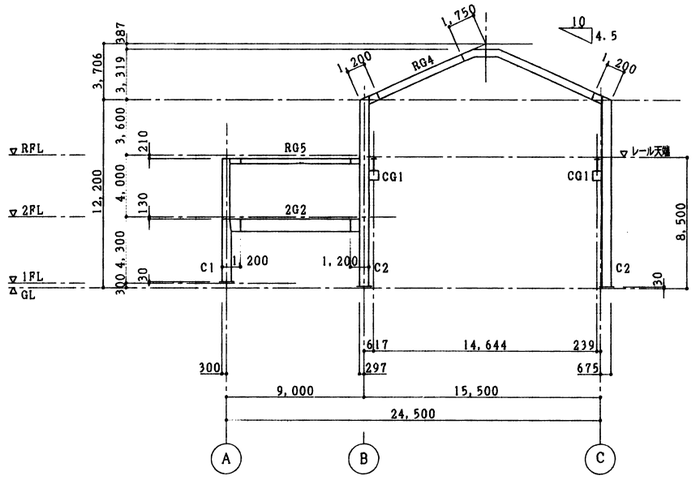


B，C通り中間軸組図 1:200

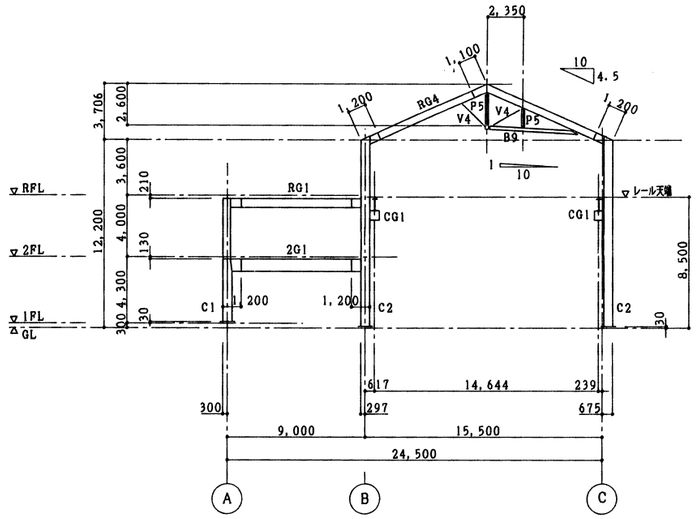
施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	軸組図(1/2)		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 1:200 A2 1:283	図面番号	8-125/319
作成者	関東農政局 両総農業水利事業所		



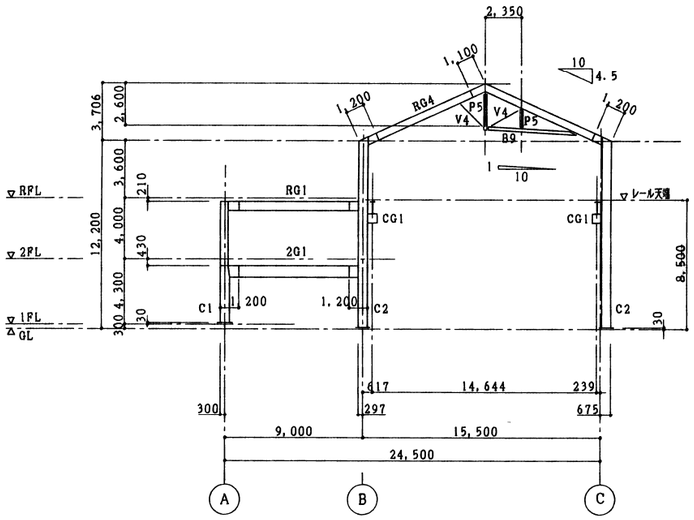
① 通り軸組図 1:200



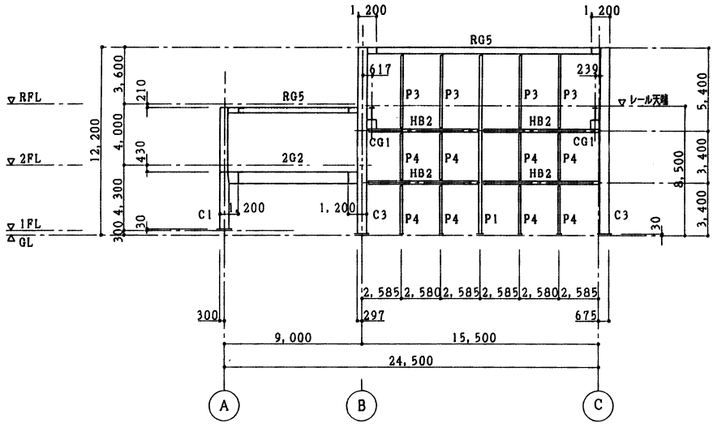
② 通り軸組図 1:200



③ ～ ⑤ 通り軸組図 1:200



⑥ 通り軸組図 1:200



⑦ 通り軸組図 1:200

部材リスト

符号	部材	備考
2C1	□-500x500x16	
1C1	□-600x600x28	
C2	H-594x302x14x23	
C3	H-488x300x11x18	
C4	H-294x200x 8x12	
PHC1	□-200x200x 8	
RG1	H-588x300x12x20	
RG2	H-582x300x12x17	
RG2A	H-588x300x12x20	
RG3	H-482x300x11x15	
RG4	H-440x300x11x18	
RG5	H-340x250x 9x14	
RG5A	H-340x250x 9x14	
RG6A	H-294x200x 8x12	
PHG1	H-346x174x 6x 9	
2G1	H-700x300x13x24	
2G2	H-588x300x12x20	
2G3	H-582x300x12x17	
2G4A	H-488x300x11x18	
2G5A	H-300x150x6.5x9	
P1	H-500x200x10x16	
P2	H-298x149x5.5x8	
P3	H-248x124x 5x 8	
P4	H-198x 99x4.5x7	
P5	[-150x 75x6.5x10	

符号	部材	備考
B1	H-588x300x12x20	
B2	H-488x300x11x18	
B3	H-500x200x10x16	
B4	H-450x200x 9x14	
B5	H-400x200x 8x13	
B6	H-346x174x 6x 9	
B7	H-298x149x5.5x8	
B8	H-248x124x 5x 8	
B9	H-198x 99x4.5x7	
B10	[-150x 75x6.5x10	
HB1	H-294x200x 8x12	
HB2	H-244x175x 7x11	
T1	[-100x 50x 5x7.5	
T2	[-300x 90x 9x13	
V1	2L-100x100x13	
V2	L- 75x 75x 9	
V3	L- 75x 75x 6	
V4	L- 65x 65x 6	
HV1	L- 50x 50x 6	
CRG1	H-792x300x14x22	30kg レール
CG1	H-582x300x12x17	
母屋	C-100x50x20x2.3 @667	
デッキプレート	ALB16(V-50型) t=1.6	

施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	軸組図(2/2)		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 1:200 A2 1:283	図面番号	8-126/319
作成者	関東農政局 両総農業水利事業所		

建築工事　土木工事

55,000

ポンプ室ピット外面

ポンプ室ピット外面

ＡＬＣ受け差し筋要領図 1:30

A-A　B-B　C-C　D-D　E-E　F-F　G-G (H-H)　I-I

無筋コンクリート充填

15,500　24,500　9,000　3,000

2,000　2,370　1,650　7,000　7,000　10,000　10,000　10,000　10,000　1,950　5,300

8,500　54,000

1-1　1　2　3　4　5　6　7

A　B　C

建築工事　土木工事　土木工事　建築工事

柱脚詳細図 1:30

TYPE-C1
□-600x600x28

TYPE-C3(C3A)
H-488x300x11x18

TYPE-C4A
H-294x200x8x12

柱芯線図

TYPE-P2
H-298x149x5.5x8

TYPE-P4
H-198x99x4.5x7

外部回り階段
SUS 400φ

TP＋5.60＝GL±0

TYPE-C2(C2A)
H-594x302x14x23

TYPE-C4
H-294x200x8x12

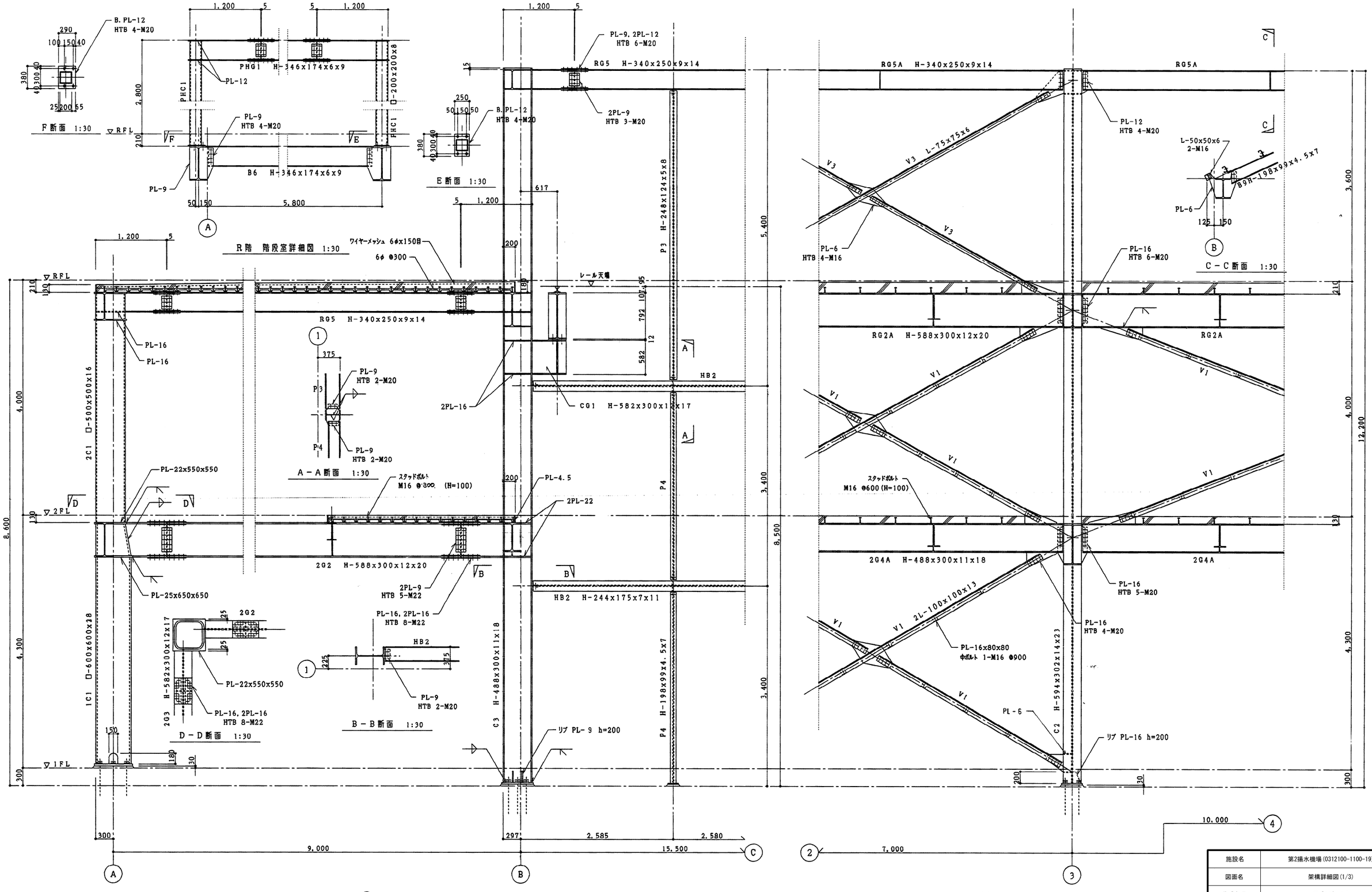
TYPE-P1
H-500x200x10x16

TYPE-P3
H-248x124x5x8

TYPE-P4A
H-198x99x4.5x7

TYPE	P
C1	120
C2, C3	100
C4, C4A	
P1, P2	
外部回り階段	
C2A, C3A	130
P3, P4, P4A	80

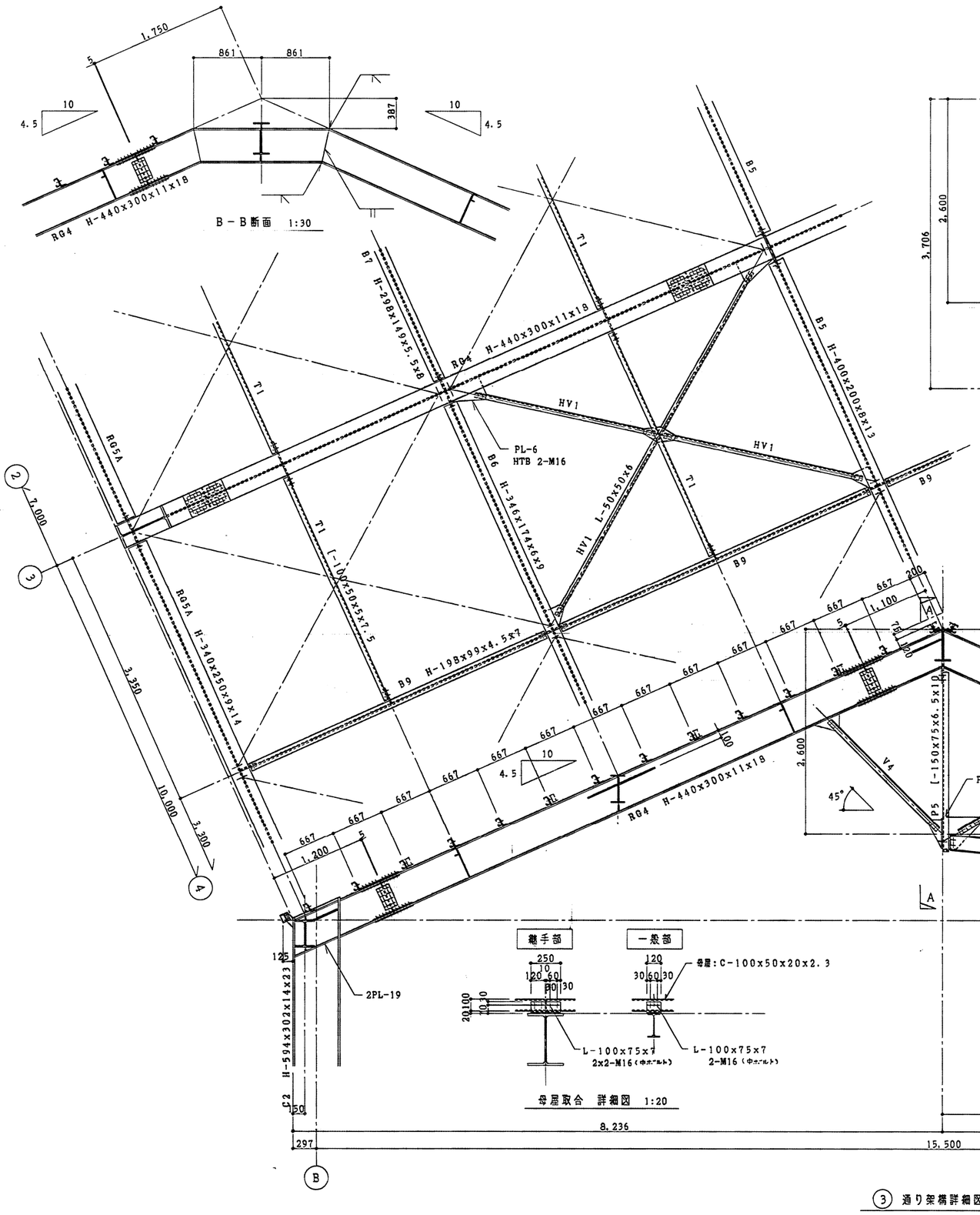
施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	柱芯線図・ＡＬＣ受け差し筋要領図		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 図示	図面番号	8-127/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所		

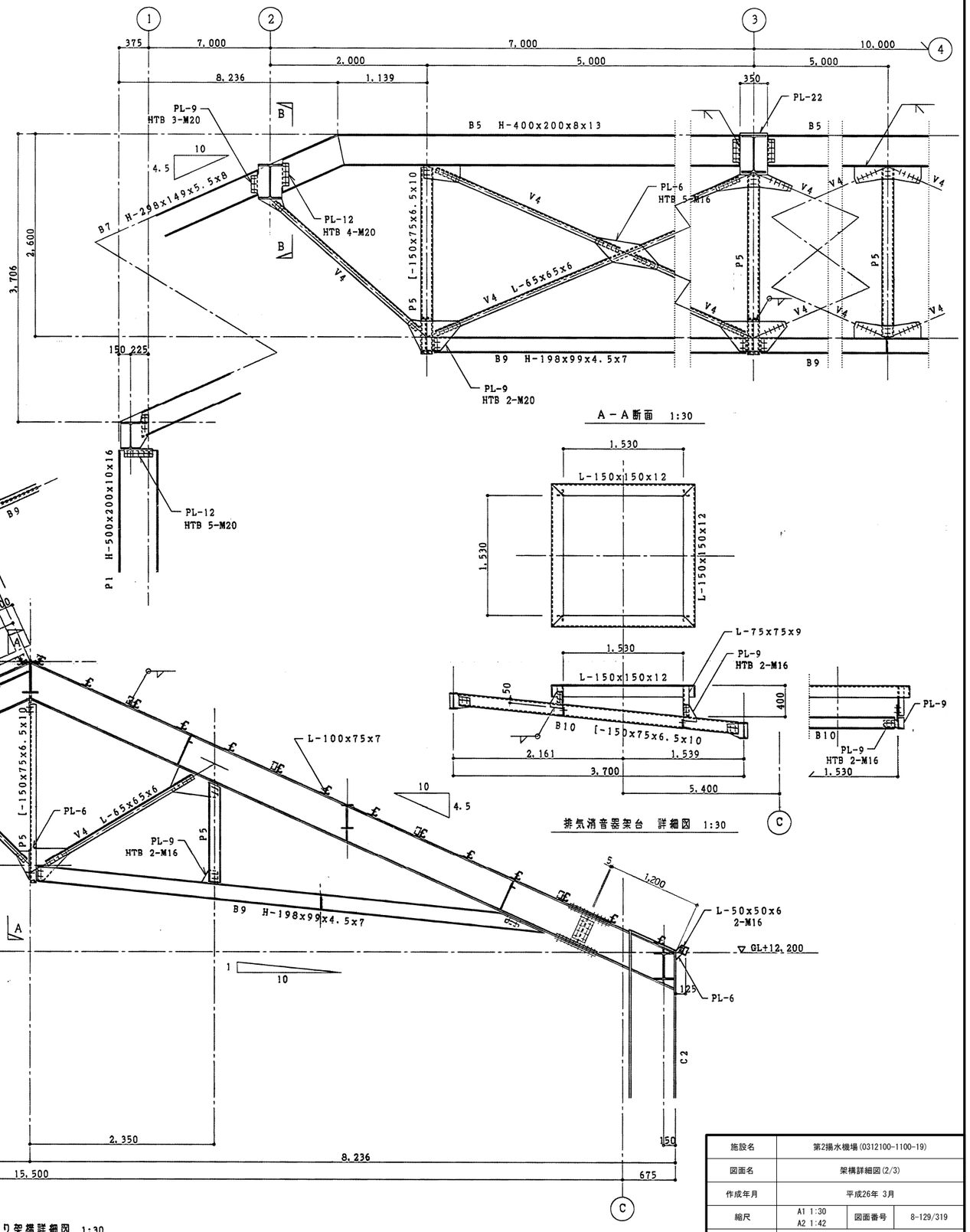


① 通り架構詳細図 1:30

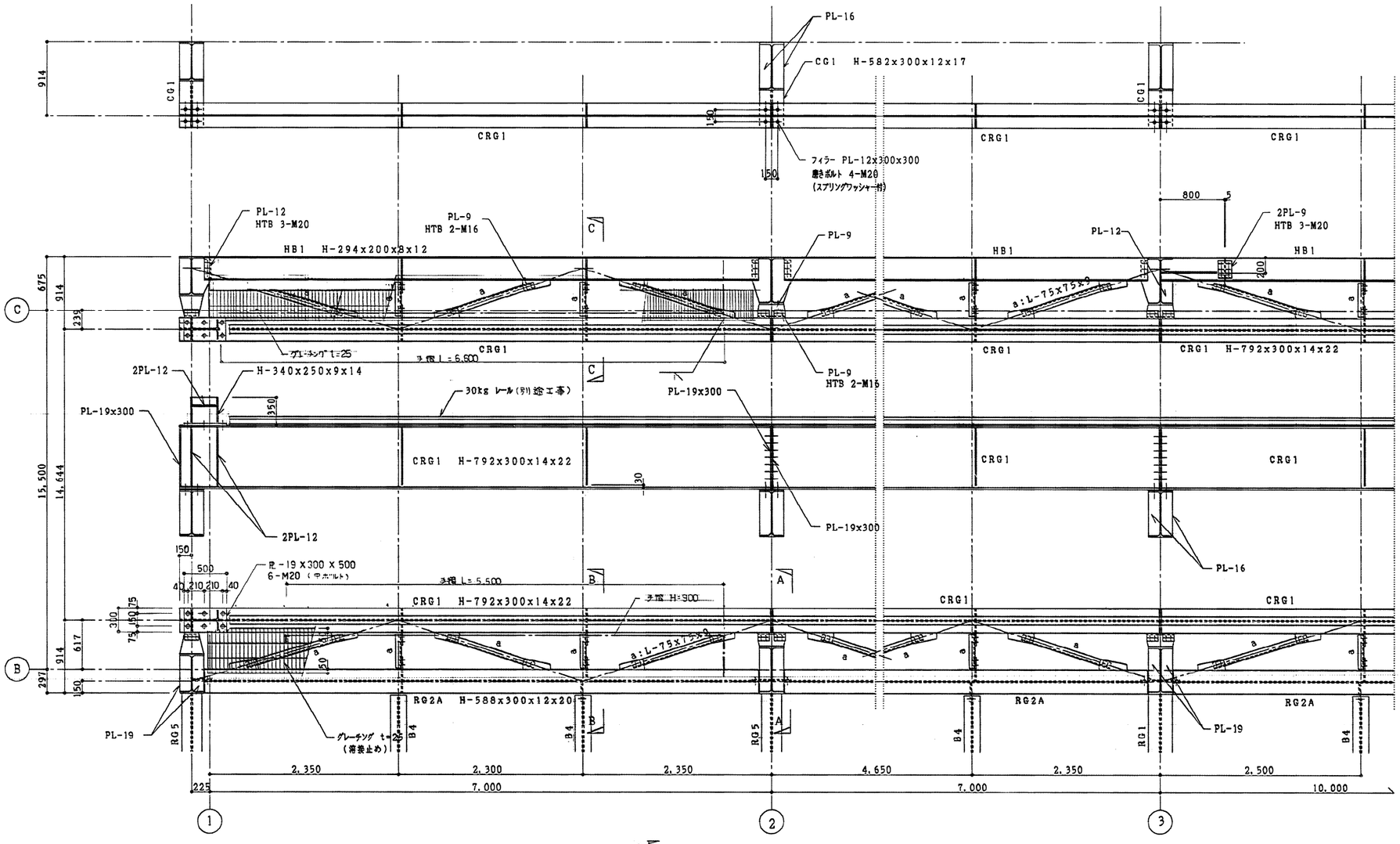
Ⓑ 通り架構詳細図 1:30

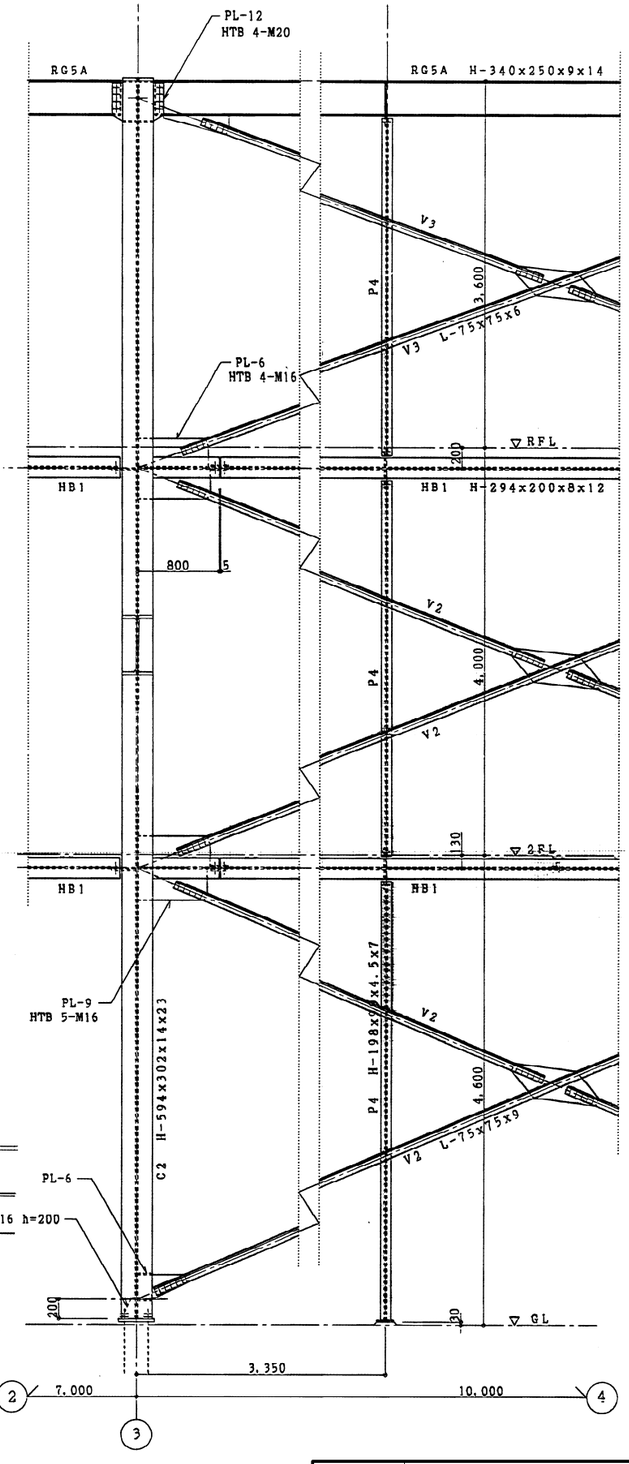
施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	架構詳細図(1/3)		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 1:30 A2 1:42	図面番号	8-128/319
作成者	関東農政局 両総農業水利事業所		

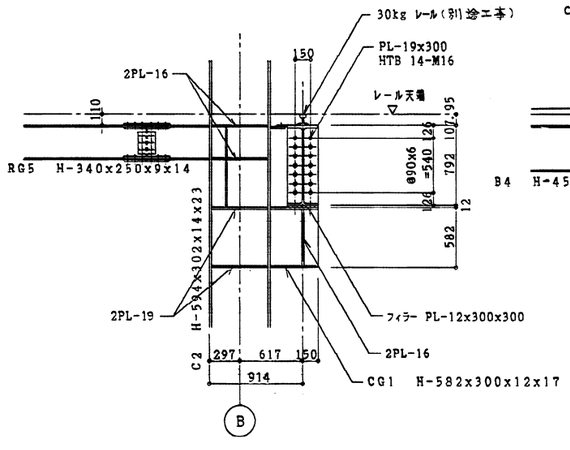




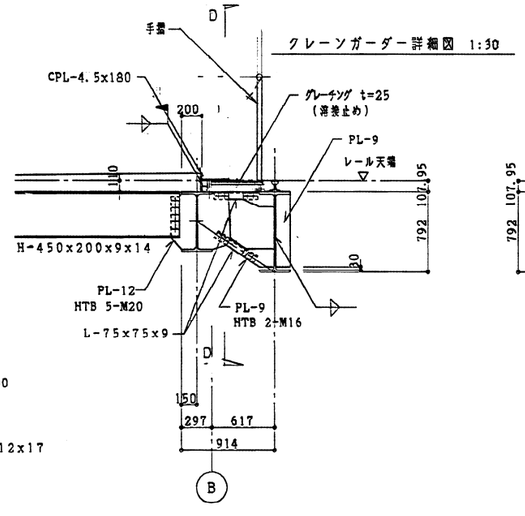
施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	架構詳細図(2/3)		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 1:30 A2 1:42	図面番号	8-129/319
作成者	関東農政局 両総農業水利事業所		



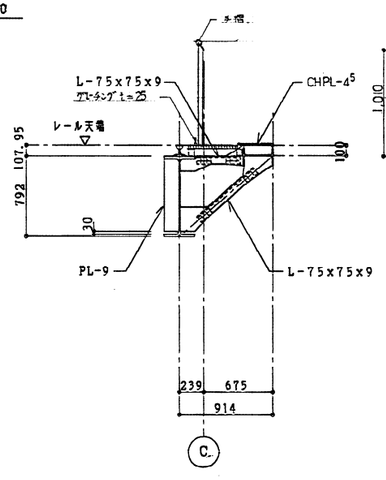




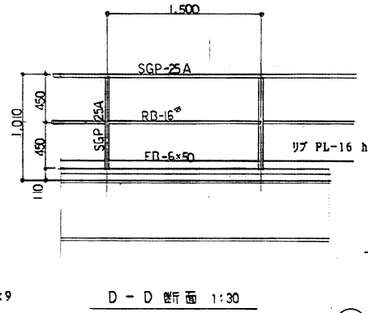
A－A断面 1:30



B－B断面 1:30



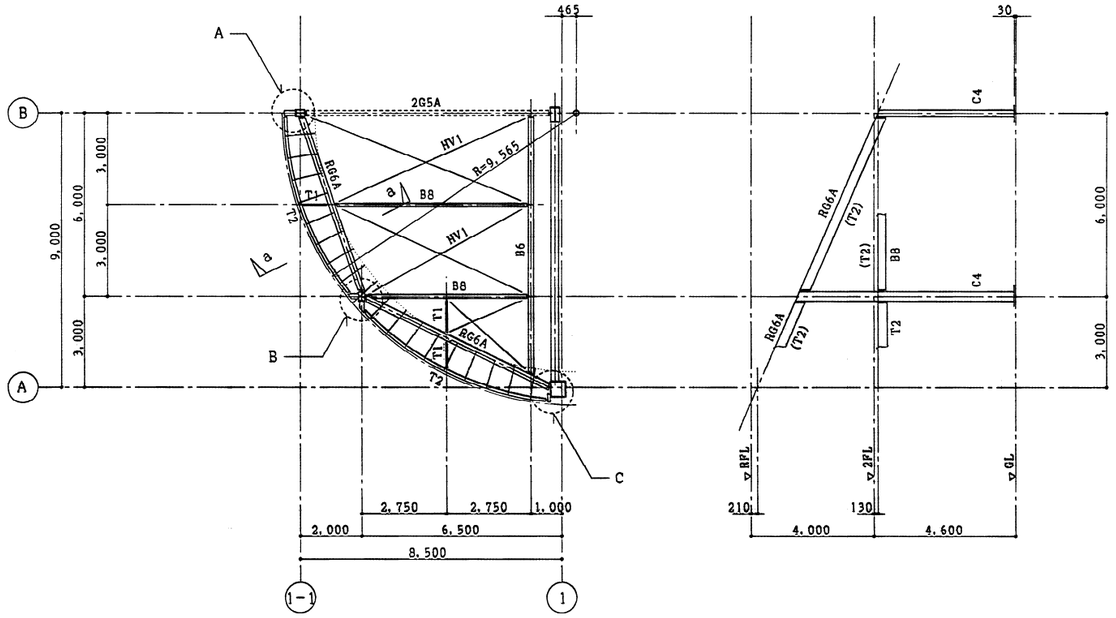
C－C断面 1:30



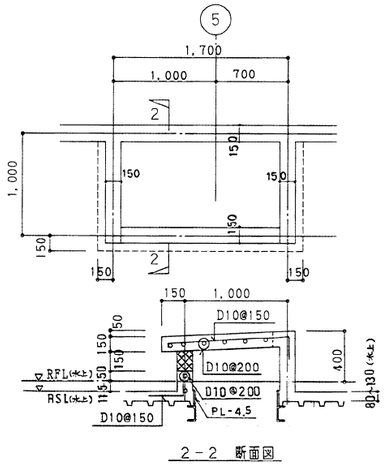
D－D断面 1:30

Ⓒ 通り架構詳細図 1:30

施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	架構詳細図(3/3)		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 1:30 A2 1:42	図面番号	8-130/319
作成者	関東農政局 両総農業水利事業所		

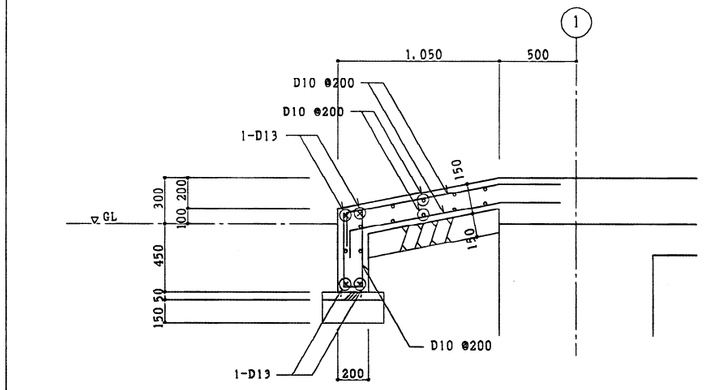


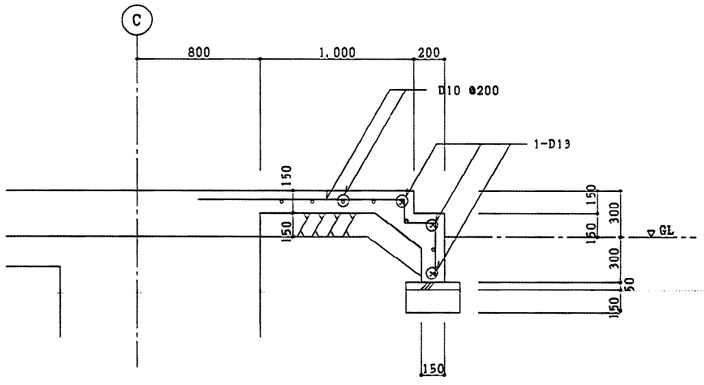
車寄部小屋伏図　1:100

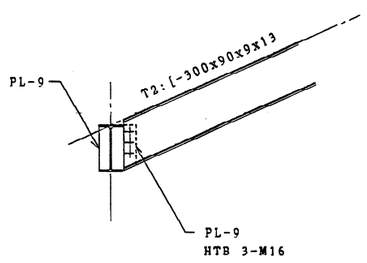


2－2　断面図

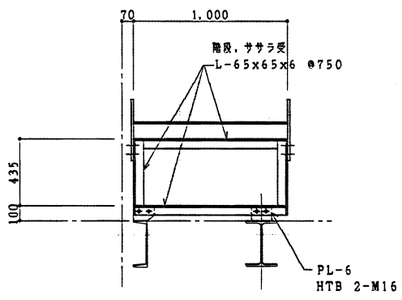
八ト小屋詳細図　1:30



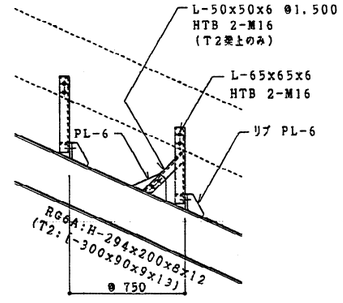


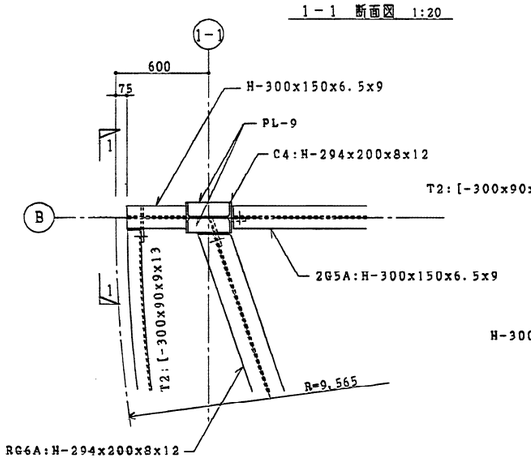


1－1　断面図　1:20

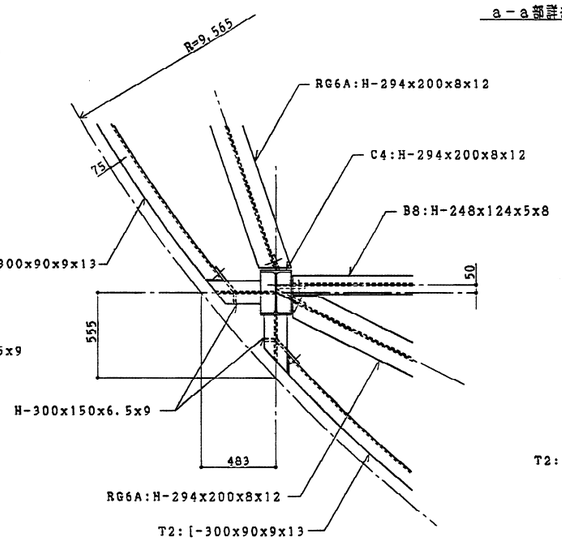


a－a部詳細図　1:20

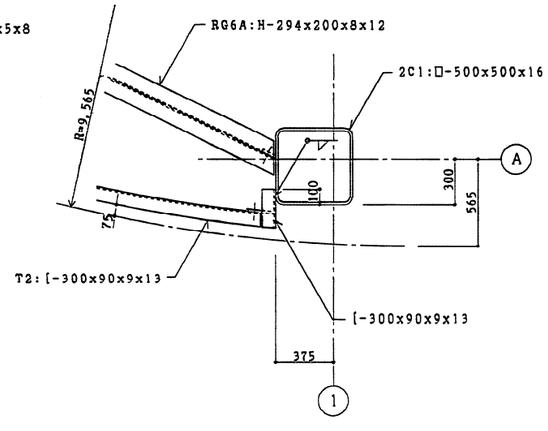




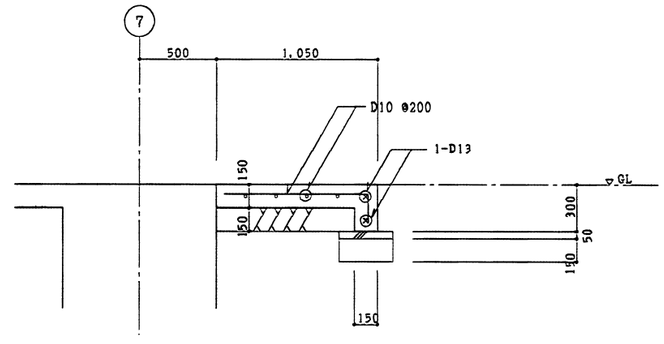
A　部詳細図　1:20



B　部詳細図　1:20



C　部詳細図　1:20



犬走り（7通り，B～C間）配筋図　1:20

施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	雑詳細図		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 図示	図面番号	8-131/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所		

両総第２揚水機場上屋建設　　工事

仕様書
Ⅰ．工事概要

1．工事場所　千葉県山武郡横芝町寺方地内　他

2．敷地面積　　㎡

3．主要用途　揚水機場

4．建物概要

建物名称	構造	階数	建築面積（㎡）	延面積（㎡）	消防法令別表第一
揚水機場	鉄骨造	2			

5．工事種目　（⊙印を付けたものを適用する　）

建物別及び屋外工事種目	工事種別 屋内					屋外
⊙ 空気調和設備	⊙ 一式	・ 一式	・ 一式	・ 一式	・ 一式	・ 一式
・ 暖房設備	・ 一式	・ 一式	・ 一式	・ 一式	・ 一式	・ 一式
⊙ 換気設備	⊙ 一式	・ 一式	・ 一式	・ 一式	・ 一式	・ 一式
・ 排気設備	・ 一式	・ 一式	・ 一式	・ 一式	・ 一式	・ 一式
⊙ 衛生器具設備	⊙ 一式	・ 一式	・ 一式	・ 一式	・ 一式	・ 一式
⊙ 給水設備	⊙ 一式	・ 一式	・ 一式	・ 一式	⊙ 一式	・ 一式
⊙ 給湯設備	⊙ 一式	・ 一式	・ 一式	・ 一式	・ 一式	・ 一式
・ 消火設備	・ 一式	・ 一式	・ 一式	・ 一式	・ 一式	・ 一式
・ 厨房設備	・ 一式	・ 一式	・ 一式	・ 一式	・ 一式	・ 一式
⊙ ガス設備	⊙ 一式	・ 一式	・ 一式	・ 一式	⊙ 一式	・ 一式
⊙ し尿浄化槽	・ 一式	・ 一式	・ 一式	・ 一式	⊙ 一式	・ 一式
・	・ 一式	・ 一式	・ 一式	・ 一式	・ 一式	・ 一式

6．指定部分　・ 無　・ 有　（工期平成　年　月　日）
　対象部分　：

7．工事範囲

Ⅱ．工事仕様

1．共通仕様
　図面及び特記仕様に記載されていない事項は、すべて建設大臣官房官庁営繕部監修の機械設備工事共通仕様書（平成 6 年版）及び機械設備工事標準図（平成 6 年版）による。

2．特記仕様
　(1)章は●印の付いたもの、項目は番号に○印の付いたものを適用する。
　(2)特記事項のうち選択する項目は○印の付いたものを適用し、・印の付いたものは適用しない。

章	項目	特記事項
一般共通事項	1 電気主任技術者	・ 置く　・ 置かない
	2 主任技術者等の適用及び技能士の適用	工事現場に置く主任技術者は、　県自家用電気工作物保安規定第3条に定める工事管理者（営繕課長）の任命する監督員が行う保安業務を補佐する。 ・ 資格の区分Ⅰ　・ 資格の区分Ⅱ ・ 配管（配管工事）　・ 建築板金（風道製作及び取付）　・ 熱絶縁施工（保温工事）
	3 機材	本工事で使用する機材等は、設計図書に示されたものとするほか、同等品以上とする。ただし、同等品以上とする場合は監督員の承諾を受ける。
	4 工事用電力・水その他	本工事に必要な、電力、水などの費用は、請負者の負担とする。
	5 監督員事務所	・ 設ける　・ 設けない
	6 工事用仮設物	構内につくることが　・ できる　・ できない
	⑦ 官公署への手続	工事に必要な官公署への手続きは請負者が代行し、速やかに行う。
	8 足場、さん橋類	別契約の関係業者が定置したものは、無償で使用できる。
	⑨ 工事写真	工事写真の作成要領は、監督員の指示による。
	⑩ 完成図等および提出部数	完成図（構画撮写図を A 4 版に折りたたみ製本…　部、見開き製本…　部 マイクロフィルム…1 部、ただしマイクロフィルムのアパチャカードは支給する。 保全に関する説明書…　部及びその他監督員の指示するものを ・ 提出する。　・ 提出しなくてよい。
	11 発生材処理	引渡しをようするもの ・ なし　・ あり（　）
	12 残土処理	・ 構内敷ならし　・ 構外搬出適用処理
	13 天井仕上区分	（室名）は直天井を示し、その他は二重天井を示す。
	14 電線管の塗装	・ 屋外管路は、すずげて塗装（調合ペイント２回塗り）を行う。 ・ 配線室以外の管路は、総て塗装（調合ペイント２回塗り）を行う。
	⑮ 埋戻し土・盛土	⊙ 根切り土の中の良質土（ただし管の周囲は山砂）　・ 山砂
	16 案内板	機器等の取扱い方及び重要な定期点検項目を書いたアクリル樹脂製の案内板を機械室に設ける。案内板の大きさは約　㎡とする。
	17 総合試運転調整	・ 本工事　・ 別途
	18 測定表	下記の測定表を提出する。（箇所等は監督員の指示による。） ・ 温度　・ 湿度　・ 風景　・ 排煙風景　・ 水量　・ 騒音　・ 払勘
	19 電動機	換気扇、圧力扇、厨房機器その他これらに類するものの電動機の保護規格は、製造者規格による標準品としてよい。
	㉑ 容量等の表示	(1) 機器類の能力、容量等は表示された数値以上とする。 (2) 電動機出力、燃料消費量、圧力損失は、原則として表示された数値以下とする。
	21 配管	ステンレス鋼管の接合方法は、呼び径60SU以下の場合（・溶接　・拡管　・その他）とする。ただし、溶接の困難な箇所は、拡管溶接としてもよい。

章	項目	特記事項
	22 電線	表記なき電線は、600Vビニール絶縁電線とする。ただし、自動制御設備に係る配線は共通仕様書による。
	23 はつり	既存コンクリート床、壁等の配管貫通部の穴明けは、原則としてダイアモンドカッターによる。
	24 耐震施工	機器、配管、風道等は耐震を考慮し堅固に据付け、取付または支持を行う。耐震措置の計算及び施工方法は、次に掲げる事項以外、すべて建築設備耐震設計施工指針（建設省住宅局建築指導課監修19　年版）による。 (1) 機器 1)設計用水平地震力は、機器の重量（自由表面を有する水槽その他の貯槽にあっては有効重量）に、次に示す地域係数及び設計用標準震度を乗じたものとする。 地域係数は、1.0 とする。 設置位置 ／ 設計用標準震度 最上階・屋上及び塔屋 ／ ・ 1.0　・ 1.5（防震機器は2.0） 中間階 ／ ・ 0.6　・ 1.0（防震機器は1.3） 地階及び１階床 ／ ・ 0.4　・ 0.6 2)設計用鉛直地震力は、設計用水平地震力の1/2 とした値とする。 3)100Kg 以下の軽量な機器（共通仕様書の適用を受けるものは除く）においても耐震を考慮し据付または取付を行うものとするが、前記指針の方法によらなくてもよい。
	25 他工事との取り合い	別表１による。
空気調和設備	1 設計温湿度	外気：温度(DB) ℃ / 湿度(RH) % 屋内・一般系統：温度(DB) ℃ / 湿度(RH) % 屋内・○○系統：温度(DB) ℃ / 湿度(RH) % 屋内・○○系統：温度(DB) ℃ / 湿度(RH) % 夏季 冬季
	2 煤煙濃度計測定口	・ 設ける　・ 設けない
	3 はいじん量測定口	・ 設ける（測定口は径80φとし、煙道の直線部に取付ける。）　・ 設けない
	4 煙突	・ 別途　・ 本工事
	5 煙道	・ 鋼板製（厚 3.2mm　・ 4.5mm）　・ ステンレス鋼板（厚　mm）
	6 ダクト	低速ダクト（・ アングル工法　・ コーナボルト工法）とする。
	7 風量測定口	取付箇所　［　・ 図示した位置　・ 送風機吐出ダクト又は吸込ダクト　・ 外気取入れダクト　・ 空調機出口チャンバの分岐ダクト　］
	8 チャンバー	(1) うち貼りを施すチャンバーの表示寸法は外法を示す。 (2) 空気調和機、温風暖房機に取付けるサプライチャンバー、レタンチャンバー及び風道系で消音内貼りしたチャンバーには、点検口を設け、点検口の大きさは図面による。 (3) 外壁に面するガラリに直接取付けるチャンバー及びホッパーは雨水の滞留のないように施工する。
	9 防煙ダンパー	復帰方式（・ 遠隔　・　）
	10 ピストンダンパー	定格入力はDC24V,0.7A以下とする。 復帰方式（・ 遠隔　・　）
暖房設備	11 配管材料	(1) 蒸気管　・ 給気管　・ 配管用炭素鋼鋼管（黒）　・ ｽｹｼﾞｭｰﾙ鋼管(STPG38) 還管［　・　・　・ ｽｹｼﾞｭｰﾙ鋼管(STPG38)］ ・　・　・ ｽﾃﾝﾚｽ 鋼管(SUS) (2) 油管　・ 配管用炭素鋼鋼管（黒） (3) 冷温水管　・ 水道用亜鉛メッキ鋼管　・ ｽﾃﾝﾚｽ 鋼管(SUS) (4) 冷却水管［　・ 塩ﾋﾞﾆﾙﾗｲﾆﾝｸﾞ鋼管(SGP-VA)　・ 粉体塗装鋼管(SGP-PA)］ ・　・　・ 粉体塗装鋼管(SGP-FPA)　・ (5) 膨張管、空気抜き管及び膨張タンクよりボイラへの給水管は水道用亜鉛メッキ鋼管とする。
	12 弁類	・ JIS 5Kgf/㎠　・ JIS 10Kgf/㎠（図示部分）
	13 温度計	取付部は下記による。なお温度計は円形指示計(ﾊﾞｲﾒﾀﾙ式 100φ）とする。 ・ 冷凍機の冷水管（送り、返り）及び冷却水管（送り、返り）。 ・ 直だき吸収冷温水機の冷温水管（送り、返り）及び冷却水管（送り、返り）。 ・ ボイラの温水管（送り）。 ・ 空気調和機の冷温水管（送り、返り）及び三方弁装置後の冷温水管（返り）。 ・ 熱交換機の温水管（送り、返り）。 ・ 冷温水ヘッダー（往）及び冷温水ヘッダーの各送り管。 ・ 空気調和（ﾊﾟｯｹｰ形を含む）のﾌﾟﾗﾅﾁｭｰﾎﾞ、ﾚﾀﾝﾀﾞｸﾄ、外気取入れﾀﾞｸﾄ 及びﾘﾀｰﾝﾁｬﾝﾊﾞｰ。 ・ 温風暖房機の吐出ﾀﾞｸﾄ、ﾚﾀﾝﾀﾞｸﾄ、外気取入れﾀﾞｸﾄ 及びﾘﾀｰﾝﾁｬﾝﾊﾞｰ。
共通事項	14 圧力計	取付部は下記による。 ・ 冷凍機の冷却水管（送り、返り）及び冷水管（送り、返り）。 ・ 空気調和機の冷温水管（送り、返り）。 ・ 直だき吸収冷温水機の冷却水管（送り、返り）及び冷温水管（送り、返り）。 ・ 熱交換機の温水管（送り、返り）。
	15 瞬間流量計	瞬間流量計はﾄｰﾀﾙ管方式によるもので止水ｺｯｸ 付とし、形式及び取付部は下記による。 なお、着脱形の指示部は（・　40A用　個　・　100A用　個　・　250A用　個）付属する。 ・ 冷凍機の冷水管及び冷却水管（送り又は返り）に（・固定形　・着脱形）を設ける ・ 直だき吸収冷温水機の冷温水管及び冷却水管（送り又は返り）に（・固定形・着脱形）を設ける ・ 空気調和機の冷温水管（送り又は返り）に（・固定形　・着脱形）を設ける ・ 冷温水ヘッダー（・各送り管　・各返り管）に（・固定形　・着脱形）を設ける
	16 油面制御装置	制御盤には、（・給油ﾎﾟﾝﾌﾟ 制御　・満油警報　・遠隔警報　・電磁弁制御　・返油ﾎﾟﾝﾌﾟ制御　・減油警報　・　　）の端子を設ける。なお、油面制御装置と制御盤間の配管配線は製造者の標準仕様とする。 図示の箇所に取付ける。
	17 絶縁フランジ	ﾌｧﾝｺｲﾙﾕﾆｯﾄ
	18 ﾌｧﾝｺｲﾙﾕﾆｯﾄ	ﾌｧﾝｺｲﾙﾕﾆｯﾄには（・定流量弁　・流量調整弁）を取付ける。
	19 保温及び消音内貼り	・ 共通仕様書第１編2.8.5 による。ただし、下記の部分は本仕様による。 ・還り風道の保温要（保温の厚さ25m） ・外気風道の保温要（保温の厚さ25m） ・風道の保温の外装は下記による。

屋内	倉庫・書庫	・着色亜鉛鉄板　・
	各階機械室	・着色亜鉛鉄板　・
露出	中央機械室	・着色亜鉛鉄板　・
	居室・廊下など	・亜鉛鉄板　・
屋内隠蔽、DS内		・アルミガラスクロス
屋外露出、浴室・厨房・脱衣室などの多湿箇所（天井内を含む）		・亜鉛鉄板 ・ステンレス鋼板

・配管の保温の外装は下記による。

屋内	倉庫・書庫	・綿布　・アルミガラスクロス
	各階機械室	・綿布　・アルミガラスクロス
露出	中央機械室	・綿布
	居室・廊下など	・綿布
屋内隠蔽、DS内		・アルミガラスクロス
屋外露出、浴室・厨房・脱衣室などの多湿箇所		・亜鉛鉄板 ・ステンレス鋼板
屋内のポンプ付属井		・着色亜鉛鉄板

章	項目	特記事項
換気設備	① ダクト	低速ダクト（・ ｱﾝｸﾞﾙ工法　・ ｺｰﾅﾎﾞﾙﾄ工法）とする。 厨房系統の換気用ダクトは共通仕様書より一番手厚いものを使用する。
	2 風量測定口	取付位置は（・ 図示した位置　・ 送風機吐出ﾀﾞｸﾄ 又は吸込ﾀﾞｸﾄ　・ 外気取入れダクト）とする。
	3 防煙ダンパー	空気調和又は暖房設備の当該項目による。
	4 ピストンダンパー	空気調和又は暖房設備の当該項目による。
	⑤ 排気ﾀﾞｸﾄのｼｰﾙ	⊙ 厨房系統　⊙ 浴室（ｼｬﾜｰ室、脱衣室を含む）系統
	6 チャンバー	空気調和又は暖房設備の当該項目による。
	7 保温	・ 全熱交換機用のダクトの保温範囲は図示による。 ・ 保温仕様は別紙参照
排煙設備	1 ダクト	・ 亜鉛鉄板　・ 普通鉄板（厚1.6mm）
	2 排煙口の形式	・ 保温の外装は空気調和又は暖房設備の当該項目を適用する。 ・ 天井取付（・ スリット形　・ スイング形　） ・ 壁取付（・ スリット形　・　）
	3 排煙口開放装置	・ 手動　・ 手動及び遠隔操作可能なもの
	4 排煙風量測定	建築設備定期検査業務指導書（日本建築設備安全ｾﾝﾀｰの排煙風量の検査方法に準ずる。
衛生器具	1 小便器用節水装置	・ 個別感知ﾌﾗｯｼｭ 方式（・ 埋込　・ 露出） ・ 集合感知ﾌﾗｯｼｭ 方式（・ 隠ぺい　・ 露出） ・ 集合感知ﾊｲﾀﾝｸ 方式（ 自動ｻｲﾎﾝ＋補給水電磁（動）弁） ・ タイムスイッチ方式（・　）
	2 小便器洗浄用ハイタンク	集合感知の場合はカウント不足を補償するタイマー機構を設ける。 ・ 露出　・ 隠ぺい
	3 小便器洗浄管	⊙ 埋込（・ VA　・ PA　⊙VB ）　・ 露出
	4 化粧棚	・ 陶器製（・ 露出形　・　）
	5 水石鹸入れ	・ 横形　・ 立形
	⑥ 大便器耐火ｶﾊﾞｰ	⊙ 設ける（ﾋﾟｯﾄ内は除く）　・ 設けない
	⑦ 手洗器	⊙ 止水栓付とする。
	8 標記板	・ 取付箇所（・ 大便器　・ 小便器　・　）材質（・ 陶器製　・　）
給水設備	1 水栓	・ 台所流しの水栓は泡沫式とする。こまは呼び13mmに限り原則として節水こまを使用する。ただし、給湯用水栓は普通こまとする。
	② 量水器	⊙ 親ﾒｰﾀｰ（⊙ 貸与品　・　）　・ 子ﾒｰﾀｰ（・ 買い取り　・　）
	③ 量水器枡	⊙ 水道事業者指定品（・ 貸与品　・ 買い取り）・ 標準図MC形
	④ 弁類	・ 水道直結部分　JIS（⊙ 10Kgf/㎠　・　Kgf/㎠） ・ その他の部分　JIS（・ 5Kgf/㎠　・　Kgf/㎠） ・ 逆止弁は衝撃吸収式とする。
	⑤ 配管材料	(1) 一般配管　⊙ 塩ﾋﾞﾆﾗｲﾆﾝｸﾞ鋼管（・ SGP-VA ⊙SGP-VB ） ・ 粉体塗装鋼管(SGP-PA) ・ 厨房、浴室等のｼﾝｸﾞﾙ内配管は塩ﾋﾞﾆﾗｲﾆﾝｸﾞ鋼管(SGP-VD)とする。 (2) 地中埋設配管　⊙ 塩ﾋﾞﾆﾗｲﾆﾝｸﾞ鋼管(SGP-VD) ・ 粉粉体塗装鋼管(SGP-PD) (3) 水道直結配管 地中埋設管は、（⊙ 塩ﾋﾞﾆﾗｲﾆﾝｸﾞ鋼管(SGP-VD)　・ ﾎﾟﾘｴﾁﾚﾝ管　・ 水道用耐衝撃性硬質塩化ﾋﾞﾆｰﾙ管(HIVP)　・　）とし他の部分は(1) による。
	⑥ 管接続	⊙ ﾈｼﾞ接続（　）　・ ﾌﾗﾝｼﾞ接続（　）
	7 保温	・ 別紙参照
	8 引込納付金等	・ 要（・ 別途工事　・ 本工事）　・ 不要
	9 水栓柱	・ 合成樹脂製　・ 人造石とぎ出し製　・
	10 地中埋設標等	・ 要（図示の箇所）　・ 不要
	⑪ スリーブ等	(2) 埋設表示テープ　・ 要　・ 不要 外壁など水密を要する部分は、つば付鋼管としその他は紙製仮枠とする。
	12 建物導入部管	・ 標準図の（・(a)・(b)・(c)）による。　・ 図示による。
	13 水槽類	FRP製の場合締付ﾎﾞﾙﾄ、ﾅｯﾄ は SUS製とし、架台ｱﾝｶｰﾎﾞﾙﾄ は総て溶融亜鉛めっき(2種35)とする。
	14 ポンプ	特記がない限りﾒｰｶｰ仕様とするが、電動機は全閉外扇形（・ 屋内　形　・ 屋外　形）とする。
給湯設備	1 配管材料	(1) 屋内汚水排水管　・ ﾒｶﾆｶﾙ 形排水鋳鉄管　⊙ 鉛管(LP) ・ ﾌｰﾃｨﾝｸﾞ鋼管　・ ⊙ 排水用塩ビライニング鋼管(DVLP) ⊙ 硬質塩化ビニール管(VP) (2) 屋内一般雑排水管　⊙ 排水配管用炭素鋼鋼管(SGP-白)　・ 鉛管 ・　⊙ 硬質塩化ビニル管(VP) (3) 一般用排水通気管　⊙ 通気配管用炭素鋼鋼管(SGP-白)　・ (4) 屋外排水管　・ 遠心力鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ管　⊙ 硬質塩化ビニール管(VP) ・
	2 洗面器具等の排水管	洗面器及び手洗器に直結する排水管は、器具ﾄﾗｯﾌﾟより1ｻｲｽﾞｱｯﾌﾟ とする。 公団形流し等の床上露出部分の配管は、硬質塩化ビニール管でよい。
	3 満水試験継手	図示の箇所に取付ける。
	4 保温	・ 別表２参照 ・
	⑤ 試験	衛生器具などの取付完了後に行う試験は通水試験とする。
	6 放流納付金等	・ 不要　・ 要（・ 別途工事　・ 本工事）
給湯設備	① 配管材料	⊙ 銅管　・ ｽﾃﾝﾚｽ 管 ・
	2 絶縁フランジ	図示の箇所に取付ける。
	③ 弁類	・ JIS 5kgf/㎠ ⊙ JIS 10kgf/㎠（図示部分）
	4 保温	・ 別表２参照 ・
	⑤ ガス湯沸器の給水管接続	湯沸器と給水管の接続には、ｽﾃﾝﾚｽ 製ﾌﾚｷｼﾌﾞﾙﾎｰｽﾞ(ステンレス用ガスケット)を使用してもよい。
	⑤ ガス給湯器排気筒	⊙ ステンレス製

メーカーリスト	（下記又は同等品とする。）
ガス給湯機	TOTO,ガスター,ノーリツ,パーパス,リンナイ
換気扇	三菱電機,松下電器産業,日立製作所,
空冷ヒートポンプエアコン	三菱電機,松下電器産業,三洋電機,ダイキン工業,三菱重工業
浄化槽	フジクリーン工業,ベスト工業,ヨボク
衛生器具	TOTO,INAX,ジャニス
ルーフファン	鎌倉製作所,松下電器産業,アサヒエムアンド
電気温水器	日本イトミック,三菱電機,細山熱器

章	項目	特記事項
消化	1 配管材料	(1) 屋内　・ 水道用亜鉛めっき鋼管　・ (2) 地中埋設　外面被覆鋼管（・ VS　・ PS）
	2 屋内消火栓箱	・ HB-1A　・ HB-1B　・
	3 屋内消火栓開閉弁	・ 10kgf/㎠　・
	4 屋内２号消火栓箱	・ HB-4A　・ HB-4B　・
	5 地中埋設管の接合	・ 外面被覆鋼管の呼び径 100以下はねじ接合とする。
	6 保温	・ 別表参照 ・
	7 建物導入部配管	・ 標準図の（・(a)・(b)・(c)）による。　・ 図示による。
	8 地中埋設標等	(1) 地中埋設標　・ 要（図示の位置）　・ 不要 (2) 埋設表示用テープ　・ 要　・ 不要
	9 試験	ﾊﾛﾝ化物消化装置の放出試験には、二酸化炭素を代用してもよい。
厨房機器	1 機器の寸法	概略寸法とする。
	2 燃焼機器	使用ガス　・ 都市ガス　⊙ 液化石油ガス
ガス設備	① 配管材料	・ 都市ガス　ガス事業所の供給規定による（・　）
		⊙ 液化石油ガス (1) 屋内（隠ぺい）　⊙ 配管用炭素鋼管（白）
		(2) 地中埋設　・ ポリエチレン被覆鋼管 （埋設部 ・土間中下 ・地下ﾋﾟｯﾄ 部）
		(3) 屋内露出　・ カラー鋼管　⊙ 配管用炭素鋼管（白）
		(4) 屋外露出　・ カラー鋼管　⊙ 配管用炭素鋼管（白）
	② 充てん容器	⊙ 別途　（ ⊙50kg　・　・　）
	③ 転倒防止等	~~標準図の（・(a)・(b)）による。~~
	4 メーター	・ 親ﾒｰﾀｰ（・ 貸与品　・　）　・ 子ﾒｰﾀｰ（・ 買い取り　・　）
	⑤ ガス漏れ警報機	⊙ 設置する。室名（　）
		外部警報端子（・ 無　・ 有）
	6 地中埋設標等	(1) 地中埋設標　・ 要（図示の位置）　・ 不要
		(2) 埋設表示用テープ　・ 要　・ 不要
	7 建物導入部配管	・ 標準図の（・(a)・(b)・(c)）による。　・ 図示による。
	8 引込負担等	・ 要（・別途工事　・本工事）　・不要
	⑨ 使用ガス	・ 都市ガス（発熱量　Kcal/㎥）⊙ 液化石油ガス（発熱量　Kcal/kg）
し尿浄化槽	① 処理種別	・ 単独処理　・ 小規模合併処理　⊙ 合併
	② 処理方式及び形式	⊙ 分離接触ばっ気方式　・
	③ 処理対象人員	50 人
	④ 放流水質	BOD 10 ppm以下
	⑤ 材質	⊙ FRP　・
	⑥ 手続等	官公庁への手続又は手続変更は、~~契約後30日以内とし、~~ 請負者が代行処理する。
	⑦ 山止め	・ 要　・ 不要
	⑧ 測定表	放流水質の測定表を提出する。

別表－Ⅰ

工事区分表

工事内容			施工区分 建築	電気	機械
基礎	はり、床、壁貫通部		⊙	・	・
	スリーブ、型枠		・	・	⊙
躯体	埋込型（分電盤、端子盤、ﾌﾙﾎﾞｯｸｽ）基礎、埋込形消火栓ﾎﾞｯｸｽ、吹出口、吸込口、換気扇、大便器等	鉄筋補強	⊙	・	・
		型枠	・	・	⊙
	貯量槽等下地天井、壁ボード張の切込み	補強共	⊙	・	・
		補強のない場合	・	・	・
	スリーブ穴埋め、型枠穴埋め		・	・	⊙
基礎	屋内 配電盤、制御盤、発電機、キュービクル	躯体と一体のもの	・	・	・
	受水槽、サービスタンク	上記以外	⊙	・	・
	屋外 配電盤、制御盤、発電機、キュービクル	鉄筋基礎	・	・	・
	受水槽、消化槽	無筋基礎	・	・	・
躯体	屋上 テレビアンテナ、避雷針	躯体と一体のもの	・	・	・
	高架水槽、クーリングタワー	上記以外	・	・	・
	架台、アンカーボルト		・	・	・
床	床、天井		⊙	・	・
掘ピット	配線ピット、トレンチピット		・	・	・
口			・	・	・
配管	燃器付属の制御盤（接地共）	一次側	・	⊙	・
		二次側	・	・	⊙
	制御盤と動力盤の間（接地共）	電源供給	・	⊙	・
		操作 配線	・	・	・
		回路 配線（　）	・	・	・
配線	「天井吊り形FCU 及び全熱交換形換気扇（接地共）	電源供給	・	⊙	・
		操作 配線	・	・	⊙
		回路 配線（　）	・	・	・
	煙感知器から連動制御盤を経て防火ダンパーに至る配管配線		・	・	・
	節水小便器の制御盤以降		・	・	・
防加	塗		・	・	・
インサート・吊りボルト			・	・	⊙
換気扇 枠			・	・	⊙
外部取付ギャラリー（ﾀﾗｯﾌﾟ・ｷｬﾝﾊﾞｰ 接続用ﾌﾗﾝｼﾞを含む）			⊙	・	・
			・	・	・
			・	・	・
			・	・	・
			・	・	・

施設名	第2揚水機場 (0312100-1100-19)		
図面名	給排水衛生設備（特記仕様書）		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	－	図面番号	8-132/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所		

機器表

記号	機器名	仕様		設置場所	台数	参考品番
GH 1	ガス湯沸器	先止式 5号 不完全燃焼防止装置付		1,2階湯沸室	2	パロマ:PH-5TF
		ガス消費量(LPG):0.8kg/h				
GH 2	ガス給湯器	屋内壁掛型 FF 16 号	ガス消費量(LPG):2.5kg/h	1階女子便所	1	パロマ:PH-16CW
		20GVGC式	メインリモコン付 リモコンコード7.6m共			
F 1	親子型天井扇	静音型	100Φ×90m³/H×4mmAq×1Φ×100V×14W	1階浴室脱衣室	1	三菱電機:VD-13ZFT
		(SUSパイプフード共)				
F 2	天井扇	低騒音型	150Φ×150m³/H×4mmAq×1Φ×100V×16.5W インテリアパネル共	1階宿直室	2	三菱電機:
		(SUSパイプフード共)				VD-18ZX$_2$-W
F 3	天井扇	消音型	150Φ×190m³/H×4mmAq×1Φ×100V×26W インテリアパネル共	2階資料室兼倉庫	1	三菱電機:
		(SUSパイプフード共)				VD-18ZNP-Z
F 4	天井扇	低騒音型	150Φ×650m³/H×6mmAq×1Φ×100V×98W (金属製)	1,2階湯沸室	2	三菱電機:
		グリースフィルター付				VD-23ZPH$_4$
		(SUSパイプフード共)				
F 5	天井扇	消音型	150Φ×340m³/H×6mmAq×1Φ×100V×50W インテリアパネル共	2階会議室 2	4	三菱電機:
		(SUSパイプフード共)		1階事務室 2		VD-20ZNP-Z
F 6	天井扇	低騒音型	150Φ×480m³/H×6mmAq×1Φ×100V×90.5W	1階女子便所	1	三菱電機:
		(SUSパイプフード共)				VD-23ZS$_2$
F 7	天井扇	静音型	100Φ×65m³/H×3mmAq×1Φ×100V×18W	2階操作室	2	三菱電機:
		(SUSパイプフード共)				VD-10Z$_3$
F 8	天井扇	低騒音型	150Φ×590m³/H×8mmAq×1Φ×100V×90.5W	2階男子便所	2	三菱電機:
		(SUSパイプフード共)				VD-23Z$_2$
F 9	天井扇	静音型	150Φ×630m³/H×8mmAq×1Φ×100V×95W	2階女子便所	1	三菱電機:
		(SUSパイプフード共)				VD-23ZP$_2$
F 10	有圧扇		600Φ×6400m³/H ×3Φ×200V×415W	1階電気室	2	三菱電機:
		シャッター, SUSウェザーカバー(防虫網付) 共				KG-60FTD
		サーモスイッチ(FS-10A) 電気へ支給 1個で2台発停				
F 11	中間ダクトファン	(排気用)	NO.6×12000m³/H×15mmAq×3Φ×200V×2.4KW	B1階倉庫兼工作室	1	荏原:
		消音ボックス付,				6ULFM252.4
F 12	ルーフファン		1,200Φ×37,200m³/H×3Φ×200V×3.7KW	屋根	4	鎌倉:UF-120P
		消音ボックス付 サーモスイッチ(FS-10A) 電気へ支給				
		1個で4台発停				
AC 1	空冷ヒートポンプエアコン	天井カセット型	冷房能力:2.3KW 屋外機 1Φ×200V COM:700W	1階宿直室	2	サンヨー:
			暖房能力:2.7KW FAN:18W			SAH-282TV2
			屋外機電源 屋内機 FAN:20W			
		コントロールスイッチ共 (ワイヤレス)				
AC 2	空冷ヒートポンプエアコン	天井カセット型	冷房能力: 112 KW 屋外機 3Φ×200V COM:3.75KW	2階資料室兼倉庫	1	サンヨー:
			暖房能力: 132 KW FAN:0.09KW			SPW-SCHJ112S
		屋外機電源 屋内機 1Φ×200V FAN:0.12KW				
		コントロールスイッチ共				
AC 3	空冷ヒートポンプエアコン	天井カセット型	冷房能力: 140 KW 屋外機 3Φ×200V COM:4.5KW	1階事務室	1	サンヨー:
			暖房能力: 160 KW FAN:0.11KW			SPW-SCHJ140S
		屋外機電源 1Φ×200V FAN:0.12 KW				
		コントロールスイッチ共				
AC 4	空冷ヒートポンプエアコン	天井カセット型	冷房能力: 200 KW 屋外機 3Φ×200V COM:5.5KW	1階事務室	1	サンヨー:
		ツイン同時運転型	暖房能力: 224 KW FAN:0.18 KW	2階操作室	2	SPW-SCHPJ224S
		屋外機電源 屋内機 1Φ×200V FAN:0.1 KW				
		コントロールスイッチ共				
AC 5	空冷ヒートポンプエアコン	天井カセット型	冷房能力: 250 KW 屋外機 3Φ×200V COM:7.5KW		2	サンヨー:
		ツイン同時運転型	暖房能力: 280 KW FAN:0.32KW	2階会議室		SPW-SCHPJ280S
		屋外機電源 屋内機 1Φ×200V FAN:0.1 KW				
		コントロールスイッチ共				
F 13	中間ダクトファン	(給気用)	NO.6×13200m³/H×15mmAq×3Φ×200V×2.4KW	B1階倉庫兼工作室	1	荏原:
		消音ボックス付				6ULFM252.4
F 14	中間ダクトファン	(排気用)	NO.3×2020m³/H×8mmAq×1Φ×100V×270W	B1階倉庫兼工作室	1	荏原:
		消音ボックス付				3LFU5.27S
EH 1	電気温水器	貯湯式10L ウィークリータイマー付	1Φ×200V×1.5KW	1,2階女子便所	2	日本イトミック:ES-10N
EH 2	電気温水器	貯湯式5L ウィークリータイマー付	1Φ×200V×1.0KW	1,2階男子便所	2	日本イトミック:ES-VN

凡例

記号	名称	仕様	備考
—·—	給水管	(屋外埋設)内外面塩ビライニング鋼管(VD) (屋内)内面塩ビライニング鋼管(VB)	
—'—	給湯管	脱酸鋼管(M)	
———	雑排水管	配管用炭素鋼鋼管(白)土中埋設は硬質塩ビ管(VP)	(MD継手)
—d—	汚水管	排水用塩ビライニング鋼管(DVLP), 〃	(MD継手)
- - - - -	通気管	配管用炭素鋼鋼管(白)土中埋設は硬質塩ビ管(VP)	
—PG—	プロパンガス管	〃	
- - - - -	臭突管	硬質塩ビ管(VP)	
—R—	冷媒管	メーカー標準品	
—D—	ドレン管	硬質塩ビ管(VP)	
—LP—	排水管	排水用鉛管	
—M—	仕切弁	JIS10Kg	
	水栓		
	混合水栓		
	ガス栓	(ヒューズコック)	
	散水栓	(SUSボックス共)	
	排水桝	(インバート桝) 防臭蓋	
	雨水桝	(溜桝) 〃	

器具表

設置階	設置場所	器具名称	参考器具品番	数量	備考
地下1階	ポンプ室	手洗器	L-5D,T-205	3	
		ホーム水栓	T-200S-13	3	
	倉庫兼工作室	手洗器	L-5D,T-205	1	
1階	便所	洋風大便器	C-720,S-710B,TS-116SP	4	
		和風大便器	C-750V,S-570B,TS-116SP	1	
		〃	C-750AV,S-670B,TS-116SP	1	
		小便器	U-307,TG-60PN	2	
		掃除流し	SK-22A	1	
		洗面器	L-525C,TL-181A カウンター(防湿カガミ付)共	5	カウンター2660W×600D×1箇所 カウンター1500W×600D×1箇所
2階	便所	洋風大便器	C-720,S-710B,TS-116SP	2	
		和風大便器	C-750V,S-570B,TS-116SP,HGS-750R	2	
		小便器	U-307,TG-60PN	2	
		掃除流し	SK-22A	1	
		洗面器	L-525C,TL-181A カウンター(防湿カガミ付)共	5	カウンター2150W×600D×1箇所 カウンター1500W×600D×1箇所
1,2階	湯沸室	流し	1200L	2	
		コンロ台	600L	2	
		吊戸棚	600L	2	
		混合水栓	TK-231	2	
屋外	洗車場	ホーム水栓	T-200S-13	3	
		散水栓	T-27-13(SUS-BOX共)	1	
1階	洗面脱衣室	洗濯機パン	PW-20C	1	
		カップリング付横水栓	T-26-13	1	
	浴室	ユニットバス	JBX-1418G	1	
1,2階	湯沸室	換気扇用フード	(SUS)600L	2	

コンクリート基礎:1000×450×150H

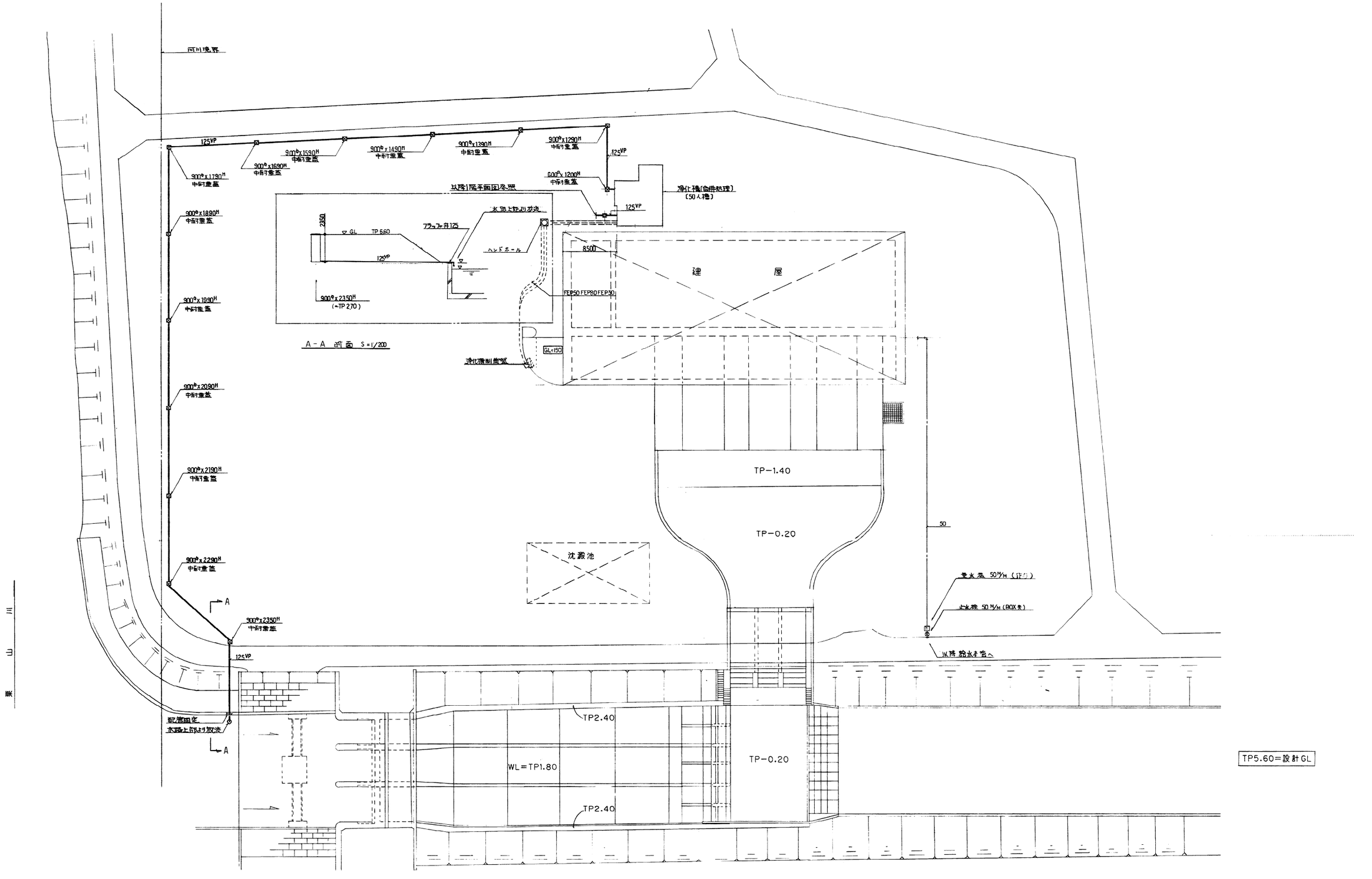
コンクリート基礎:1150×550×150H

コンクリート基礎:1150×550×150H

コンクリート基礎:1600×900×150H

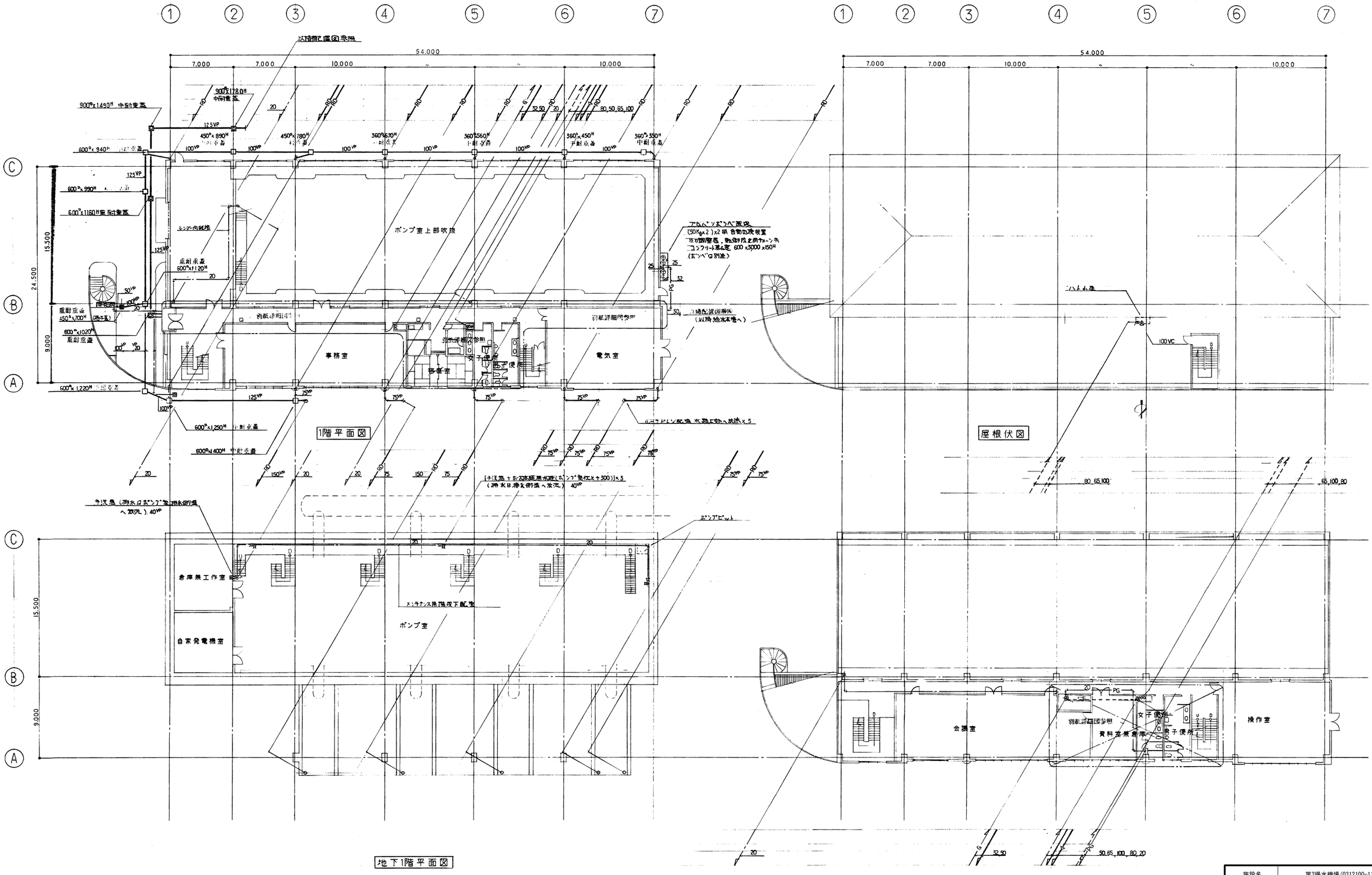
コンクリート基礎:1600×900×150H

施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	機器表、器具表、凡例		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	-	図面番号	8-133/319
作成者	関東農政局 両総農業水利事業所		



配 置 図

施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	給排水衛生設備配置図		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 1:300 A2 1:424	図面番号	8-134/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所		



施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	給排水平面図		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 1:200 A2 1:283	図面番号	8-135/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所		

1階平面図

2階平面図

地下階平面図

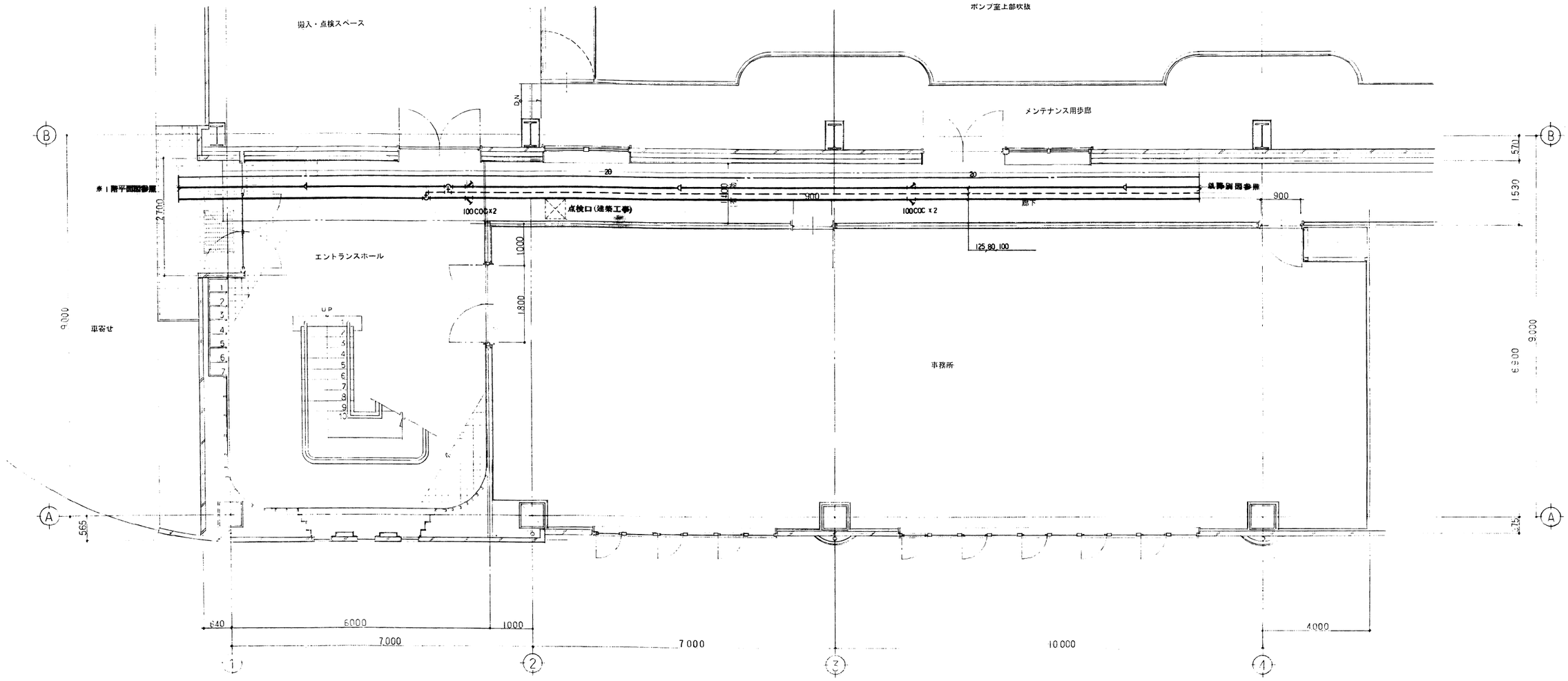
屋根伏図

電線サイズ
電源線(室内機～室外機)CV2□ -3C
制御線(室内機～室外機)CVVS2□ -2C
制御線(室内機～リモコンスイッチ)CVVS2□ -3C

親子扇の風量比は親:子=2:1
よりG60:30→90㎥/Hとする。

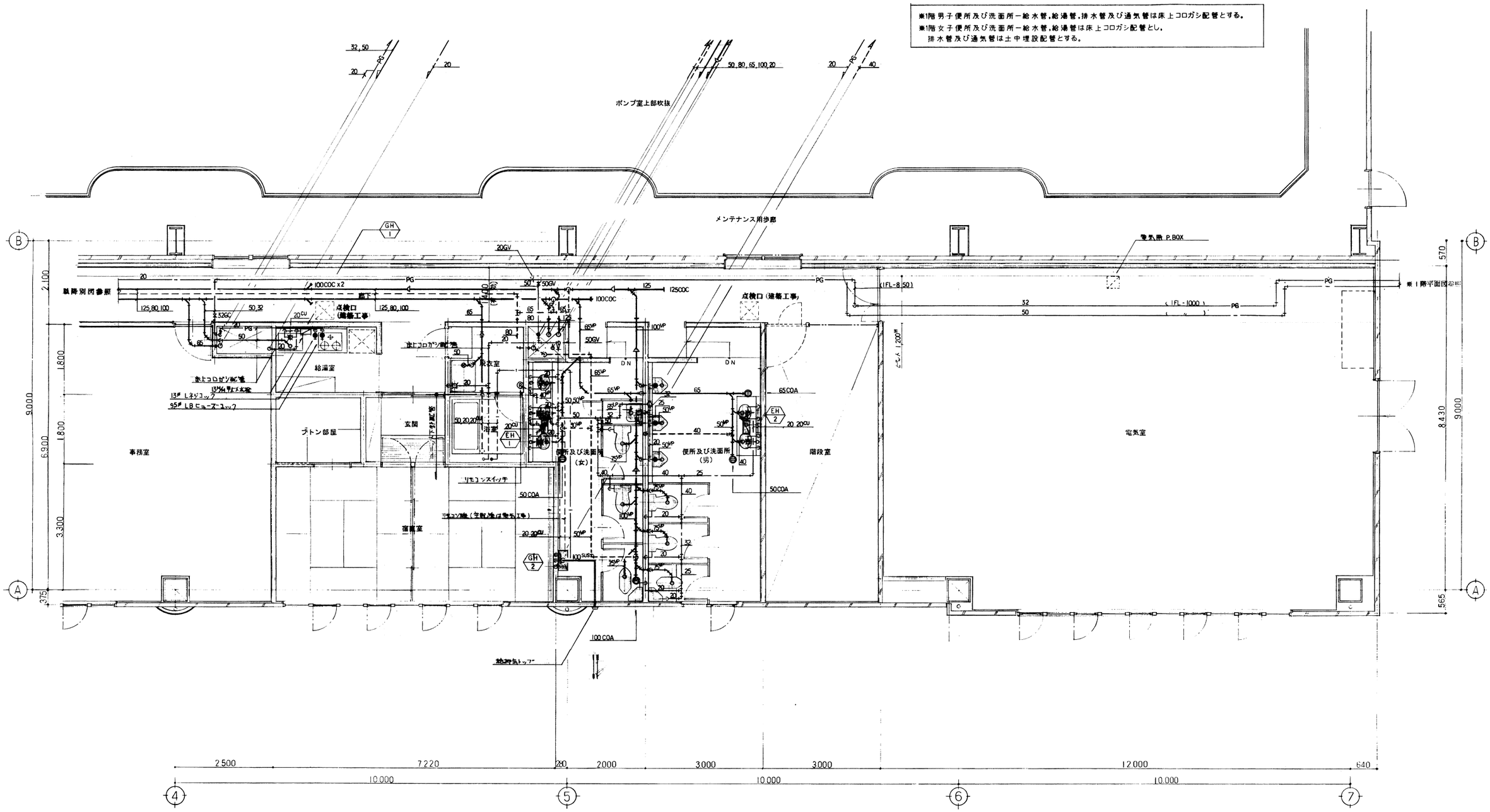
*湯沸室系統ダクトはロックウール50mm断熱施工とする。

施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)
図面名	空調換気平面図
作成年月	平成26年 3月
縮尺	A1 1:200 / A2 1:283
図面番号	8-136/319
作成者	関東農政局 両総農業水利事業所

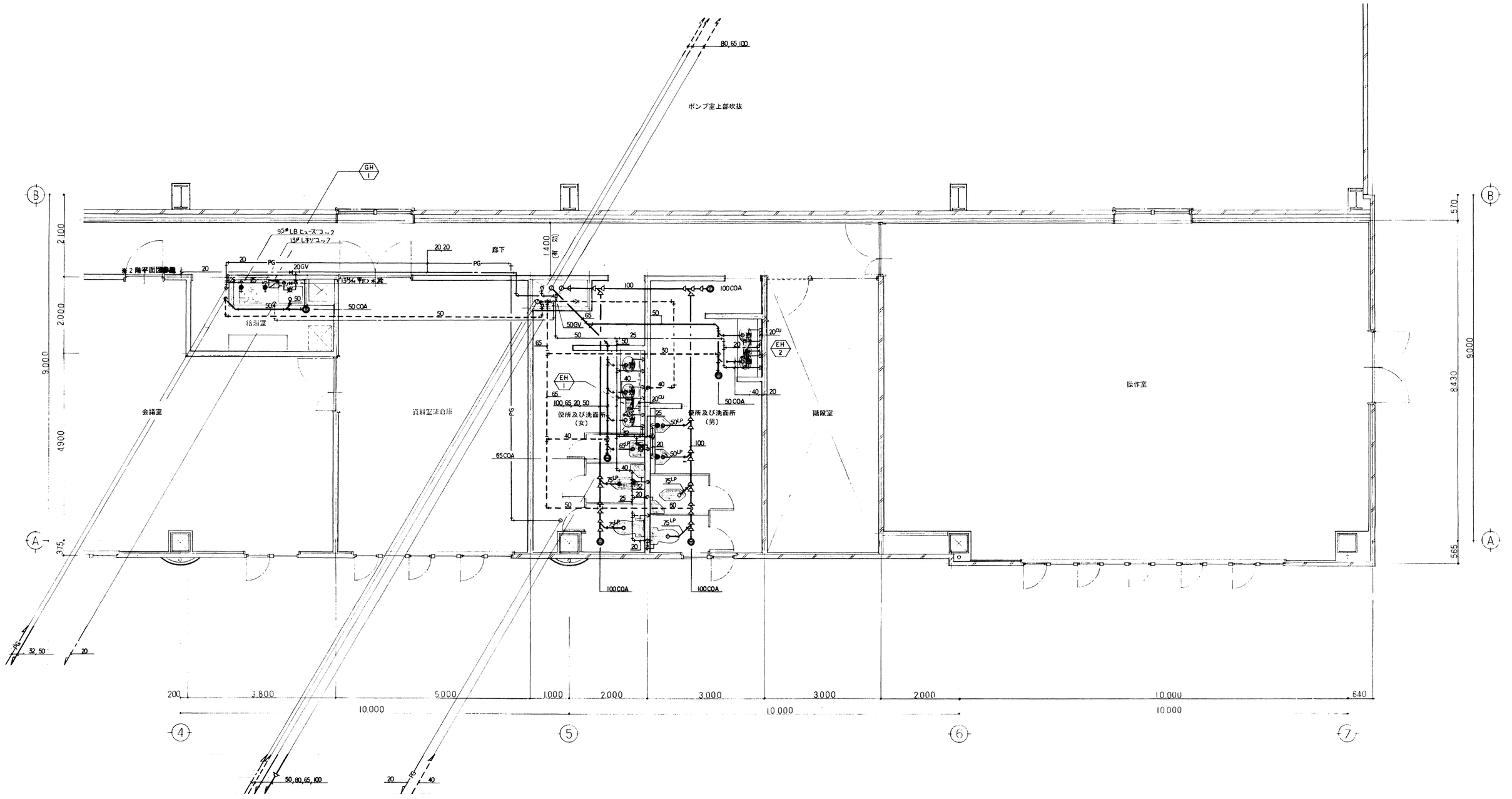


施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	給排水設備　1階平面詳細図(1/2)		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 1:50 A2 1:70	図面番号	8-137/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所		

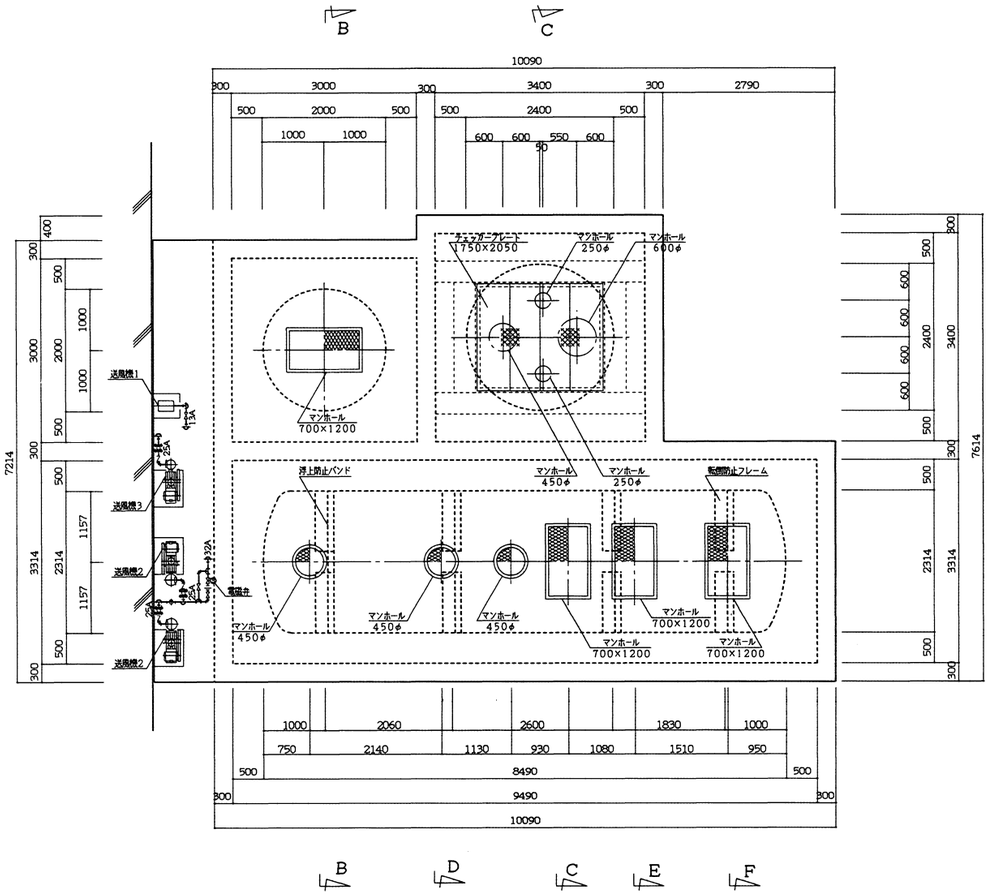
※1階男子便所及び洗面所一給水管,給湯管,排水管及び通気管は床上コロガシ配管とする。
※1階女子便所及び洗面所一給水管,給湯管は床上コロガシ配管とし,
排水管及び通気管は土中埋設配管とする。



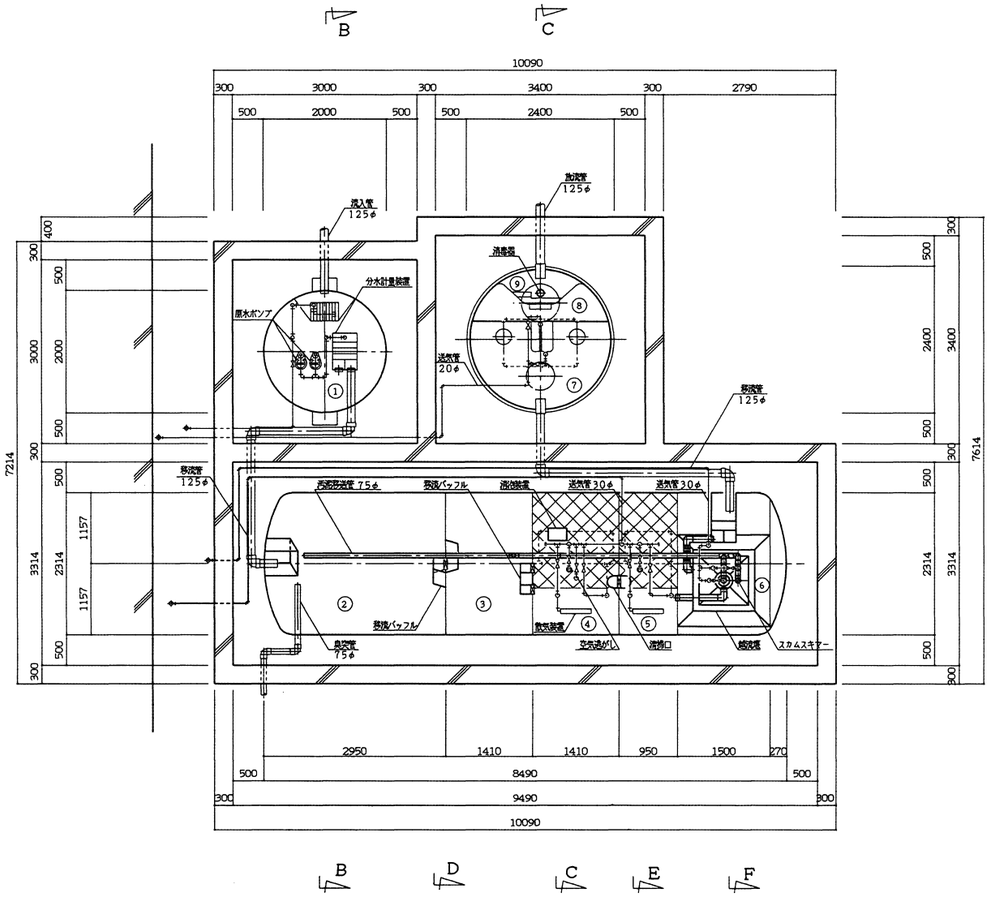
施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	給排水設備　1階平面詳細図(2/2)		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 1:50 A2 1:70	図面番号	8-138/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所		



施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	給排水設備　2階平面詳細図		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 1:50 A2 1:70	図面番号	8-139/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所		



平面図　S=1:50



内部平面図　S=1:50

原水ポンプ槽

①	原水ポンプ槽		容　積	1.930			m³
原水ポンプ	型　式	吐出量	口径	動力	運転方式	台数	
	水中ポンプ	0.14 m³/分	50A	0.25KW	自動交互	2	
送風機1	型　式	吐出量	口径	動力	運転方式	台数	
	電磁式	0.03 m³/分	13A	29W	連続運転	1	
材　質	本　体　：　FRP製						
	マンホール：　縞鋼板						
	パイプ類　：　硬質塩化ビニール						

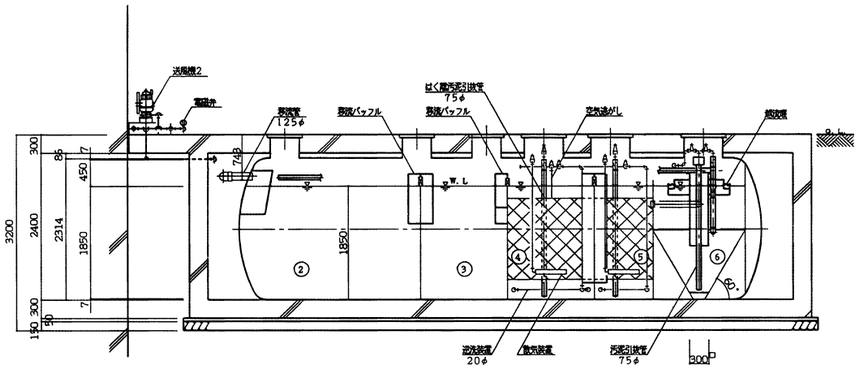
KX-50　認定番号「96」-1D-025-1

②	沈殿分離槽	第1室	容　積	10.000 m³	15.049 m³	
③		第2室	容　積	5.049 m³		
④	接触ばっ気槽	第1室	容　積	5.049 m³	8.450 m³	
⑤		第2室	容　積	3.401 m³		
⑥	沈　殿　槽		容　積	2.333	m³	
接触材	材　質　：　硬質塩化ビニール（板状）					
	充填率　：　55.7%					
送風機2	型　式	吐出量	口径	動力	運転方式	台数
	ロータリー	0.41 m³/分	25A	0.75KW	交互運転	2
材　質	本　体　：　FRP製					
	マンホール：　縞鋼板					
	パイプ類　：　硬質塩化ビニール					

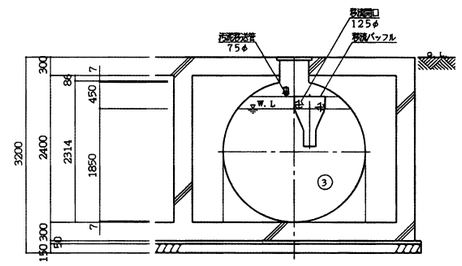
SAⅡ-8

⑦	接触ばっ気槽		容　積	4.952		m³
⑧	沈　殿　槽		容　積	1.671		m³
⑨	消　毒　槽		容　積	0.125		m³
接触材	材　質　：　硬質塩化ビニール					
	充填率　：　50.0%					
送風機3	型　式	吐出量	口径	動力	運転方式	台数
	ロータリー	0.30 m³/分	25A	0.40KW	連続運転	1
材　質	本　体　：　FRP製					
	マンホール：　上部　縞鋼板					
	下部　レジンコンクリートFRP又は鋳鉄					
	パイプ類　：　硬質塩化ビニール					

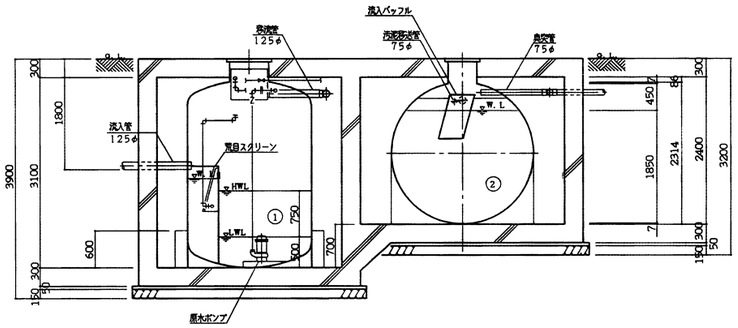
施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	浄化槽設備図(1/7)		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 1:50 A2 1:70	図面番号	8-140/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所		



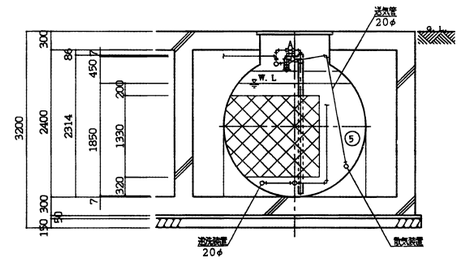
A－A断面図 S=1:50



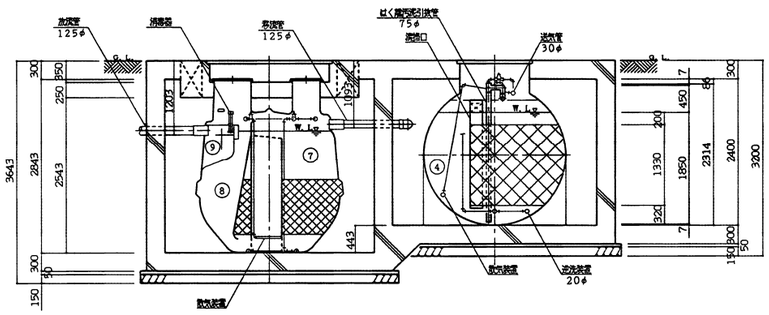
D－D断面図 S=1:50



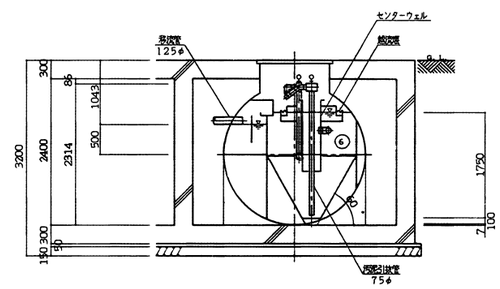
B－B断面図 S=1:50



E－E断面図 S=1:50

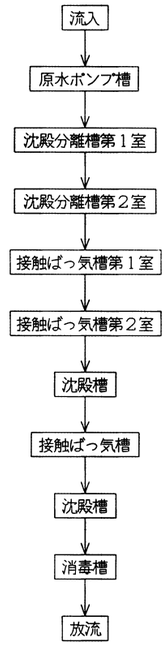


C－C断面図 S=1:50

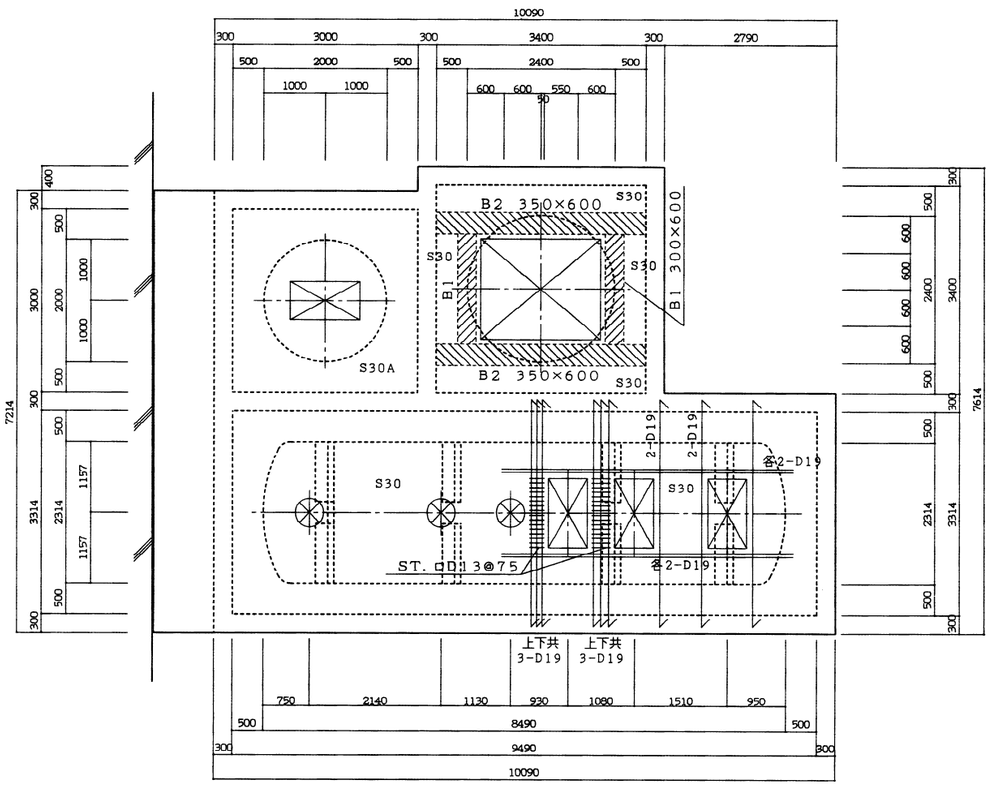


F－F断面図 S=1:50

フローシート

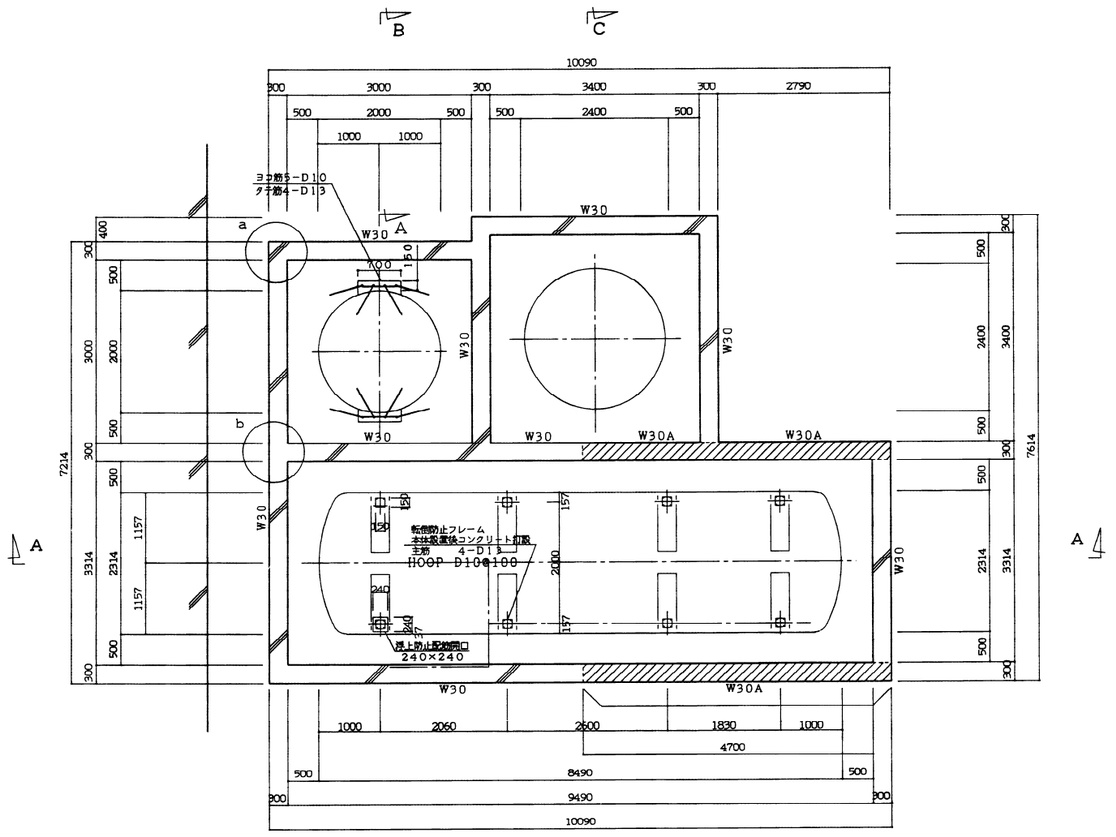


施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	浄化槽設備図(2/7)		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 1:50 A2 1:70	図面番号	8-141/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所		



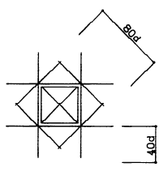
スラブ伏図 S=1:50

上部スラブはS30とする



壁床伏図 S=1:50

底盤はFS30とする

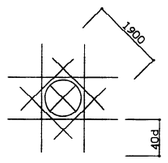


d=鉄筋径

開口補強詳細図 S=1:50

ダイヤモンド補強

2-D19



d=鉄筋径

開口補強詳細図 S=1:50

ダイヤモンド補強

2-D19

共通事項	
鉄筋	SD295A
コンクリート	Fc=21N/mm²
継手長サ	40d
鉄筋表示	D10 …… ～ D13 …… ～ D16 …… ～ D19 …… ～

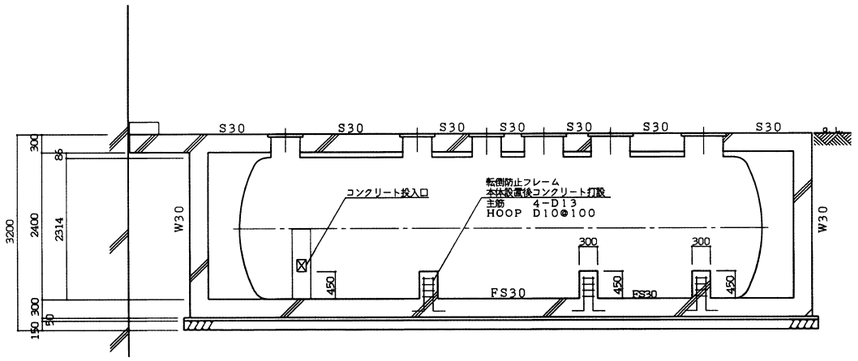
梁 リスト S=1/30

記号	B1	B2	
断面	全断面	端部	中央部
	上 3-D19 2-D10 下 3-D19 300 600	上 3-D19 2-D10 下 3-D19 350 600	上 3-D19 2-D10 下 5-D19 350 600
	ST D13@200	ST D13@100	ST D13@100
巾止	D10@1000	D10@1000	

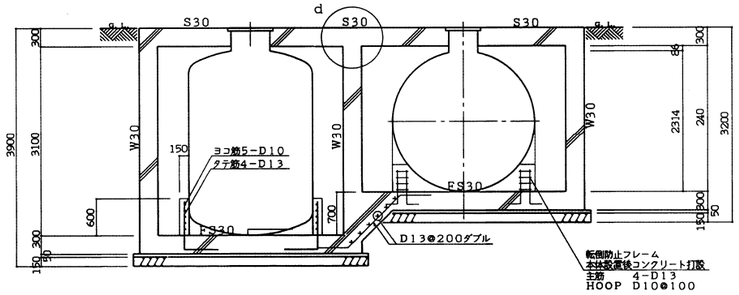
壁 リスト S=1/30

記号	W30A	W30	
断面	300 タテ ヨコ	300 タテ ヨコ	
タテ筋	D16@100	D16@150	
ヨコ筋	D13@200	D13@200	
巾止	D10@1000	D10@1000	
開口補強	2-D16	2-D16	

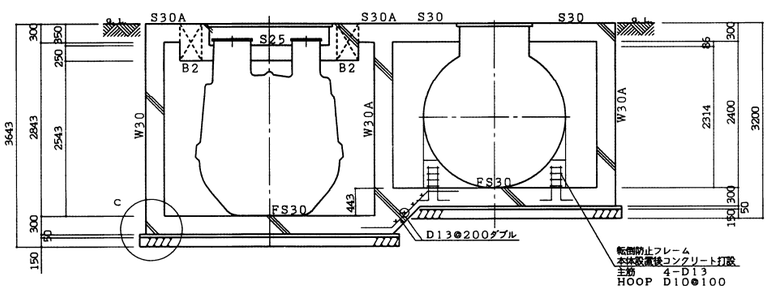
施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	浄化槽設備図(3/7)		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 1:50 A2 1:70	図面番号	8-142/319
作成者	関東農政局 両総農業水利事業所		



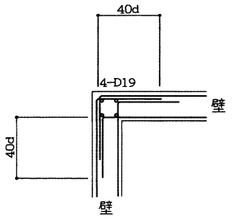
A－A断面図 S=1:50



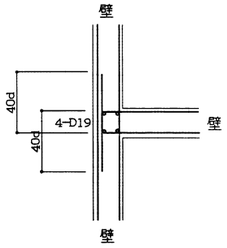
B－B断面図 S=1:50



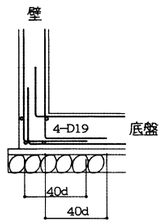
C－C断面図 S=1:50



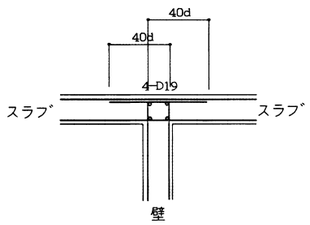
壁コーナーａ平面詳細図 S=1/30



壁コーナーｂ平面詳細図 S=1/30

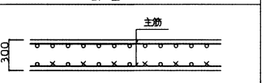
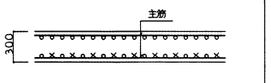
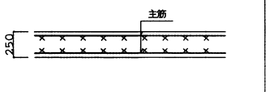
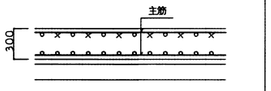


底盤コーナーｃ断面詳細図 S=1/30

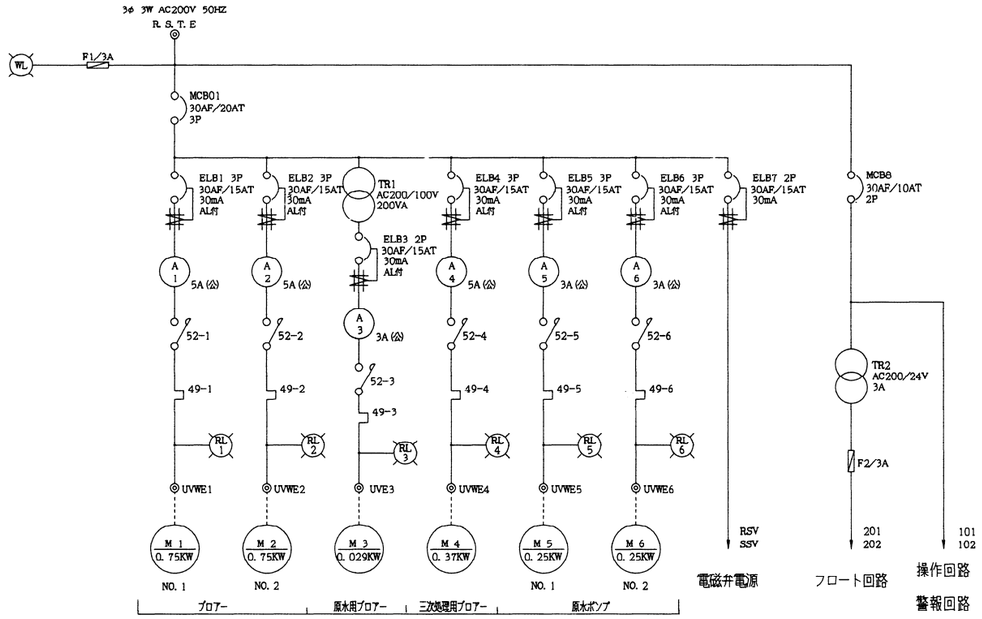


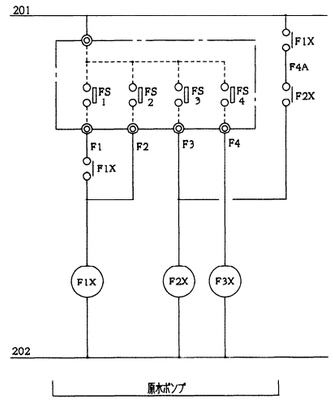
壁コーナーｄ断面詳細図 S=1/30

スラブ リスト S=1/30

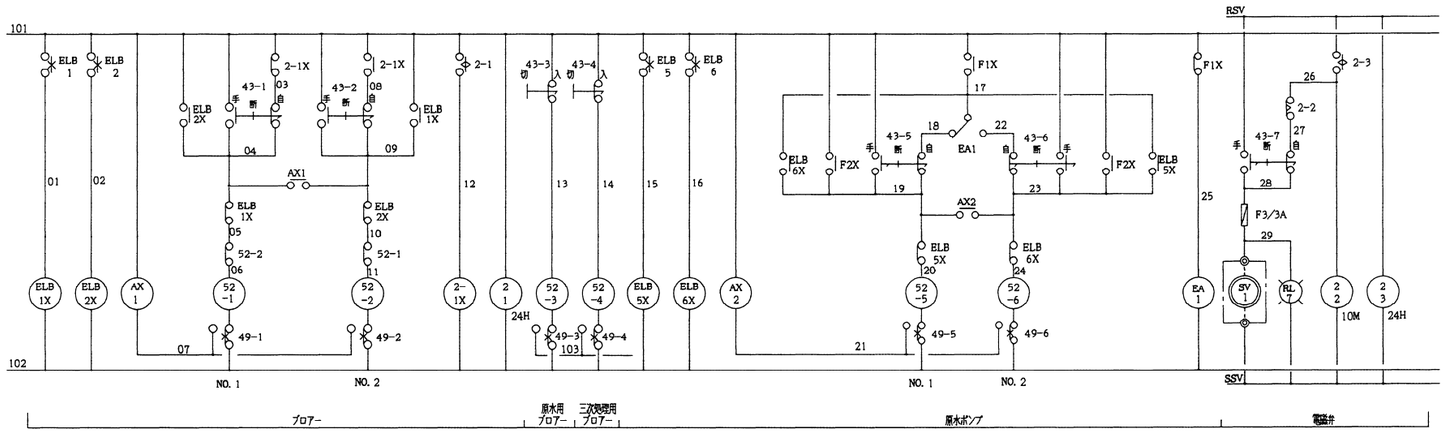
記号		断面
S30		
短辺方向	上端筋	D16●100
	下端筋	D13D16●100
長辺方向	上端筋	D16●150
	下端筋	D13D16●150
S30A		
短辺方向	上端筋	D16●100
	下端筋	D13D16●100
長辺方向	上端筋	D16●100
	下端筋	D13D16●100
S25		
短辺方向	上端筋	D13●200
	下端筋	D13●200
長辺方向	上端筋	D13●200
	下端筋	D13●200
FS30		
短辺方向	上端筋	D13D16●150
	下端筋	D16●150
長辺方向	上端筋	D13D16●150
	下端筋	D16●150

施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	浄化槽設備図(4/7)		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 1:50 A2 1:70	図面番号	8-143/319
作成者	関東農政局 両総農業水利事業所		

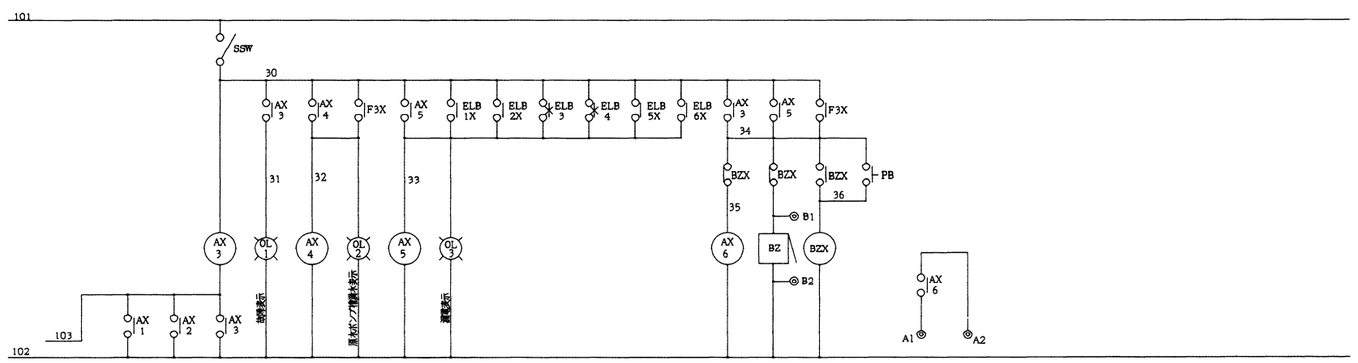




フロート回路



操作回路



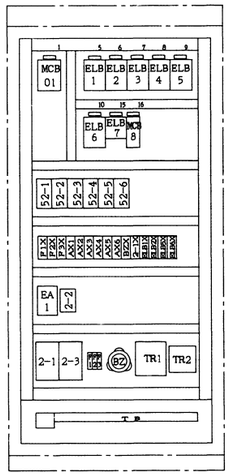
警報回路

A1 A2 外部警報接点 無電圧

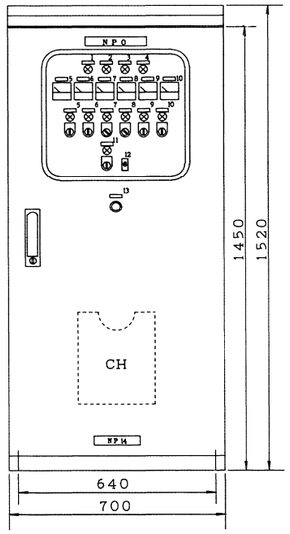
B1 B2 外部警報接点 有電圧

警報は建物管理室へ

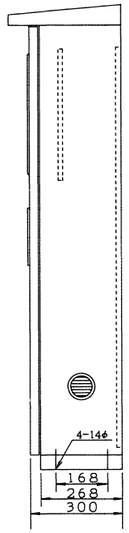
施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	浄化槽設備図(5/7)		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	-	図面番号	8-144/319
作成者	関東農政局 両総農業水利事業所		



部品配置図



正面図



側面図

部品表

記号	名称	型式・定格		数量	メーカー	備考
MCB01	配線用ブレーカー	NF30-CS/3P	20AT	1	三菱	
MCB8	〃	NF30-CS/2P	10AT	1	〃	
ELB1, 2, 4~6	漏電ブレーカー	NV30-CS/3P	15AT 30mA	5	〃	AL付
ELB3	〃	NV30-CS/3P	15AT 30mA	1	〃	AL付 (中央盤を使用せず)
ELB7	〃	NV-2F	15AT 30mA	1	〃	
52-1, 2	電磁開閉器	SRCa3931-02X	[illegible]	2	富士	補助接点が1b
52-3	〃	SRCa3931-02X	[illegible]	1	〃	
52-4	〃	SRCa3931-02X	[illegible]	1	〃	
52-5, 6	〃	SRCa3931-02X	[illegible]	2	〃	
A1, 2, 4	電流計	PSK-60	5A (公) 赤針付	3	第一計器	
A3, 5, 6	〃	PSK-60	3A (公) 赤針付	3	〃	
TR1	トランス	H20-102	AC200V/100V 200VA	1	福田	
TR2	〃		AC200V/24V 3A	1	天野	
EA1	ラチェットリレー	G4Q212S	AC200V	1	オムロン	
F1X~3X	補助リレー	MY4N	AC24V	3	〃	
AX1~6, BZX	〃	MY4	AC200V	7	〃	
2-1X	〃	〃	〃	1	〃	
ELB1X, 2X	〃	〃	〃	2	〃	
ELB5X, 6X	〃	〃	〃	2	〃	
2-2	タイマー	H3CR-A	〃	1	〃	
2-1, 3	〃	TB172	〃	2	松下	24H
BZ	ブザー	EA2022B	〃	1	〃	
F1~3	ヒューズ	F-10N	3A	3	キムデン	
WL	表示灯	AH25-ZMWM	AC200V	1	富士	
RL1~7	〃	AH25-ZMRM	〃	7	〃	
OL1~3	〃	AH25-ZMOM	〃	3	〃	
PB	押釦スイッチ	AH25-FR10		1	〃	防水ゴムキャップ付
43-1, 2, 5~7	〃	AH25-P3B11		5	〃	
43-3, 4	切替スイッチ	AH25-P2B11		2	〃	
SSW	スナップスイッチ	S-1B		1	日開	
	ルーバー	LP-1		1	日東	

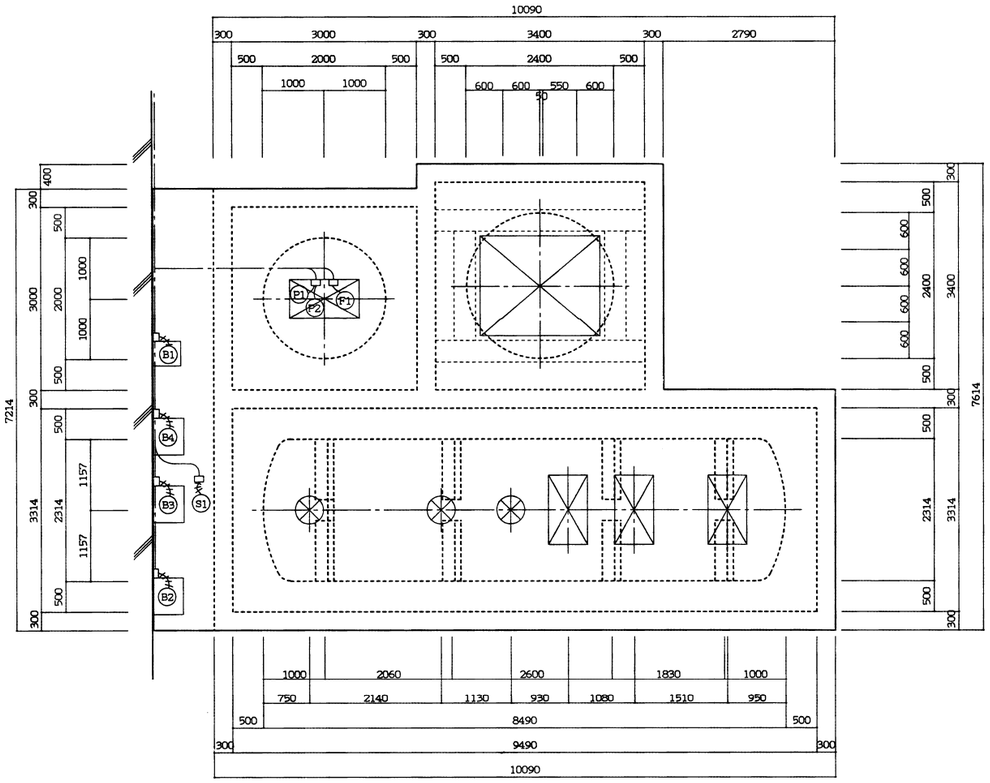
名板表

記号	記入文字	備考	サイズ	数量
NP0	浄化槽制御盤		250×40	1
1	電源	MCB01, WL	40×12	2
2	故障	OL1	〃	1
3	原水ポンプ槽満水	OL2	〃	1
4	漏電	OL3	〃	1
5	NO. 1ブロアー	ELB1, A1, RL1	〃	3
6	NO. 2ブロアー	ELB2, A2, RL2	〃	3
7	原水用ブロアー	ELB3, A3, RL3	〃	3
8	三次処理用ブロアー	ELB4, A4, RL4	〃	3
9	NO. 1原水ポンプ	ELB5, A5, RL5	〃	3
10	NO. 2原水ポンプ	ELB6, A6, RL6	〃	3
11	電磁弁	RL7	〃	1
12	警報セット・リセット	SSW	20×40	1
13	ブザー停止	PB	40×12	1
14	フジクリーン工業株式会社		150×30	1
15	電磁弁電源	ELB7	40×12	1
16	操作電源	MCB8	〃	1
43-1, 2	手動・断・自動		25φ	2
43-5-7	手動・断・自動		〃	3
43-3, 4	切・入		〃	2

函体仕様		
屋外防水自立型鋼板製		
板厚	本体	SP 1.6t
	扉	〃 2.3t
	中板	〃 〃
塗装色	外面	5Y7/1
	内面	

(OFM147-6)

施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	浄化槽設備図(6/7)		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	-	図面番号	8-145/319
作成者	関東農政局 両総農業水利事業所		



平面図　　S＝1：50

機器リスト

記号	名称	動力	台数	ケーブル，電線管	プリカチューブ
B1	原水用ブロワー	29　W	1	CV (2^P–5^F) PEP30	24
B2–B3	ブロワー	0.75　kw	2	各CV (2^P–4^F) PEP30	24
B4	三次処理用ブロワー	0.40 kw	1	CV (2^P–4^F) PEP30	24
P1–P2	原水ポンプ	0.25　kw	2	CV (2^P–4^F) × 2PEP30	
F1	フロートスイッチ	———	4ケ	CVV (2^P–5^C) PEP30	（原水ポンプ）
S1	電磁弁	———	1	CVV (2^P–2^C) PEP30	17

記号	名称
———	土中埋設電線管
- - - - -	壁　スラブ埋設電線管
～～～	プリカチューブ　WP （防水）
□	P. BOX. WP　W 150 × L 150 × H 100

施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	浄化槽設備図(7/7)		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 1:50 A2 1:70	図面番号	8-146/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所		

工事特記仕様書

1．工事概要

1．工事場所　　千葉県山武郡横芝町寺方地内　他

2．建物概要

3．工事種目（○印の付いたものを適用する）

	建物別及び屋外	工事種別				
	工事種目	ポンプ棟				屋外
○	高圧引込設備	○ 一式	○ 一式	○ 一式	○ 一式	○
○	受変電設備	○ 一式	○ 一式	○ 一式	○ 一式	○
○	低圧幹線設備	◎ 一式	○ 一式	○ 一式	○ 一式	○
○	弱電幹線設備	○ 一式	○ 一式	○ 一式	○ 一式	○
○	電灯コンセント設備	◎ 一式	○ 一式	○ 一式	○ 一式	○
○	動力設備	◎ 一式	○ 一式	○ 一式	○ 一式	○
○	拡声設備	◎ 一式	○ 一式	○ 一式	○ 一式	○
○	テレビ共同受信設備	◎ 一式	○ 一式	○ 一式	○ 一式	○
○	電気時計設備	◎ 一式	○ 一式	○ 一式	○ 一式	○
○	電話設備	◎ 一式	○ 一式	○ 一式	○ 一式	○
○	火災報知設備	◎ 一式	○ 一式	○ 一式	○ 一式	○
○	自動開閉設備	◎ 一式	○ 一式	○ 一式	○ 一式	○
○	機械警備配管設備	○ 一式	○ 一式	○ 一式	○ 一式	○
○	自家発電設備	○ 一式	○ 一式	○ 一式	○ 一式	○
○	非常電源設備	○ 一式	○ 一式	○ 一式	○ 一式	○
○	避雷針設備	◎ 一式	○ 一式	○ 一式	○ 一式	○
○		○ 一式	○ 一式	○ 一式	○ 一式	○
○		○ 一式	○ 一式	○ 一式	○ 一式	○
○		○ 一式	○ 一式	○ 一式	○ 一式	○
○		○ 一式	○ 一式	○ 一式	○ 一式	○
○		○ 一式	○ 一式	○ 一式	○ 一式	○
○		○ 一式	○ 一式	○ 一式	○ 一式	○

2．工事仕様

1．共通仕様
本工事の仕様は特記なき事項については建設省営繕部電気設備共通仕様書による．また建築基準法、消防法電気事業法、電気用品取締法、各種電気通信関係法、各電力会社内線規定等関係法規を適守し、施工する事．

2．特記仕様
（１）章は◎印の付いたもの、項目は番号に○印の付いたものを適用する．
（２）特記事項のうち選択する項目は●印の付いたものを適用する．

章	項目	特記事項
◎	① 図書	請負者は工事期間中現場事務所に、工事契約の写し、工程表、工事内訳明細書、設計図一式、現場説明事項書、工事写真、質疑応答書等、本工事に関する書類一式を常時備え付ける事．
一	② 官公署への手続	工事は必要な官公署への手続きは請負者が代行し、速やかに行う．
般	3 電気主任技術者	電気主任技術者を工事現場に置くものとする．
共	④ 工事写真	工事写真の作成要領は監督員の指示による．
通	⑤ 疑義	工事の施工又は製作上不審な点、或いは設計図及び仕様書に疑義のある場合は、必ず工事施工前に監督員と協議しその指示による事．
事	⑥ 工程表及び施工計画書	請負者は着工に先立ち先立ち、建設工事請負者及び他の工事業者と十分打ち合わせの上、工程表及び施工計画書を作成し監督員の承認を受ける事．
項	⑦ 施工図その他	請負者は、工事施工上必要な機器製作図その他施工図など、工事施工1ケ月前に提出し監督員の承認を受ける事．
	⑧ 使用機材	工事に使用する機器材料は、工事着手前速やかに選定し、使用機材発注先承認願いを提出し監督員の承認を得る事．
	⑨ 軽微な変更	施工上おさまりや取合の関係で機器及び材料の取付位置又は取付工法を多少変えるなど軽微な変更は係員の指示によって行う．なおこの場合請負金の増減は行わない．
	⑩ 設計変更	工事着手後に設計変更が生じた場合は原則としてあらかじめ見積書を提出して承認された上で変更工事に着手する．この場合は特記なき限り各工事種目は契約時の単価により請負金額の増減を行う．
	⑪ 発生材処理	本工事中に発生した処理材は、請負人の責任においてこれを処分する．

章	項目	特記事項
	⑫ 露出配管等	露出配管はすべて指定色塗装（２回塗り）仕上げとする．その他ボックス等も同等仕上げとする．
	⑬ フラッシュプレート	特記なきプレートは樹脂製、その他は新金属製とする．
	⑭ 呼び線	長さ１m以上の入線しない管路には1.6 以上のビニール被服鉄線を挿入する．
	15 保温・結露防止	建築工事にてFP板（スタイロホーム等）打ち込みその他断熱処理を行う壁、天井等に取り付ける位置ボックス等は保温、結露防止処理を行う．
	⑯ 耐震施工	設備機器の固定は、建設省住宅局監修の「建築設備耐震設計・施工指針」により施工する．
	17 他工事との取合い	別表による．
	18 完成図及び保守指導案内書	完成図（原図１部、陽画複写図３部）及び保守指導案内書（３部）を提出する．
		完成図（マイクロフィルム１部）を提出する．
	⑲ 工事用電力・水	本工事に必要な電力、水などの費用は、請負者の負担とする．

章	項目	特記事項
◎ 電灯コンセント設備	1 電気方式	幹線 ⊙ 単相3線式 200V／100V ・ 直流2線式 200V／100V 分岐 ⊙ 単相2線式 100V ・ 直流2線式 200V／100V ⊙ 単相2線式 200V ⊙ 電池内蔵型 ・ 電源別置型
	2 非常照明器具	
	3 配線器具	タンブラスイッチ　大角連用形 壁付けコンセント　大角連用形
	4 蛍光灯器具	蛍光灯の種類

			回路方式	電圧
ホームライト、コンパクト形（D27以下）			GL	100V
環形のランプ、コンパクト形（P36以上）			GL	100V
直管形ランプ	15W以下		GL	100V
	20W	防雨形、防湿形、電池内蔵形	GL	100V
		上記以外	GH	100V
	40W以上	避難口誘導灯	GL	100V
		上記以外	RHEH	100V 200V

◎ 動力設備	1 電気方式	幹線 ⊙ 三相3線式 200V 分岐 ⊙ 三相3線式 200V
	2 機器への接続	本工事制御盤より別途電動機等への配線接続は、本工事とする．

◎ 電話設備	1 自営、リース別	・ 自営 親子式
	2 保安器用接地	・ 別途工事

◎ 情報設備	1 アンテナ	⊙ VHF 12素子
		⊙ UHF 20素子
		⊙ BS 900φ

	メーカーリスト
分電盤・端子盤類	川崎電気、愛知電機、中立電機、白川電機、大崎電気
自動火報知設備	松下電工、ニッタン、能美防災、ホーチキ、沖電機防災
避雷針設備	村田電機 コースライオン、ワールド避雷針、東京避雷針
照明器具	岩崎電気、松下電工、三菱照明、日立照明、東芝ライテック

項目	特記事項
1 機器取付高さ	機器取付高は、下表を標準とする．ただしこれによりがたい場合には監督員との協議による．

名称	測点	取付高（mm）
タンブラスイッチ	床上－中心	1,300
コンセント（一般）	〃	250
〃 （和室）	〃	150
〃 （台上）	台上－中心	250
ブラケット（一般）	床上－中心	2,100
〃 （踊場）	〃	2,200
〃 （鏡上）	鏡端－中心	150
壁掛け形制御盤	床上－中心	1,500
TEL（一般）	〃	250
〃 （和室）	〃	150
TV （一般）	〃	250
〃 （和室）	〃	150

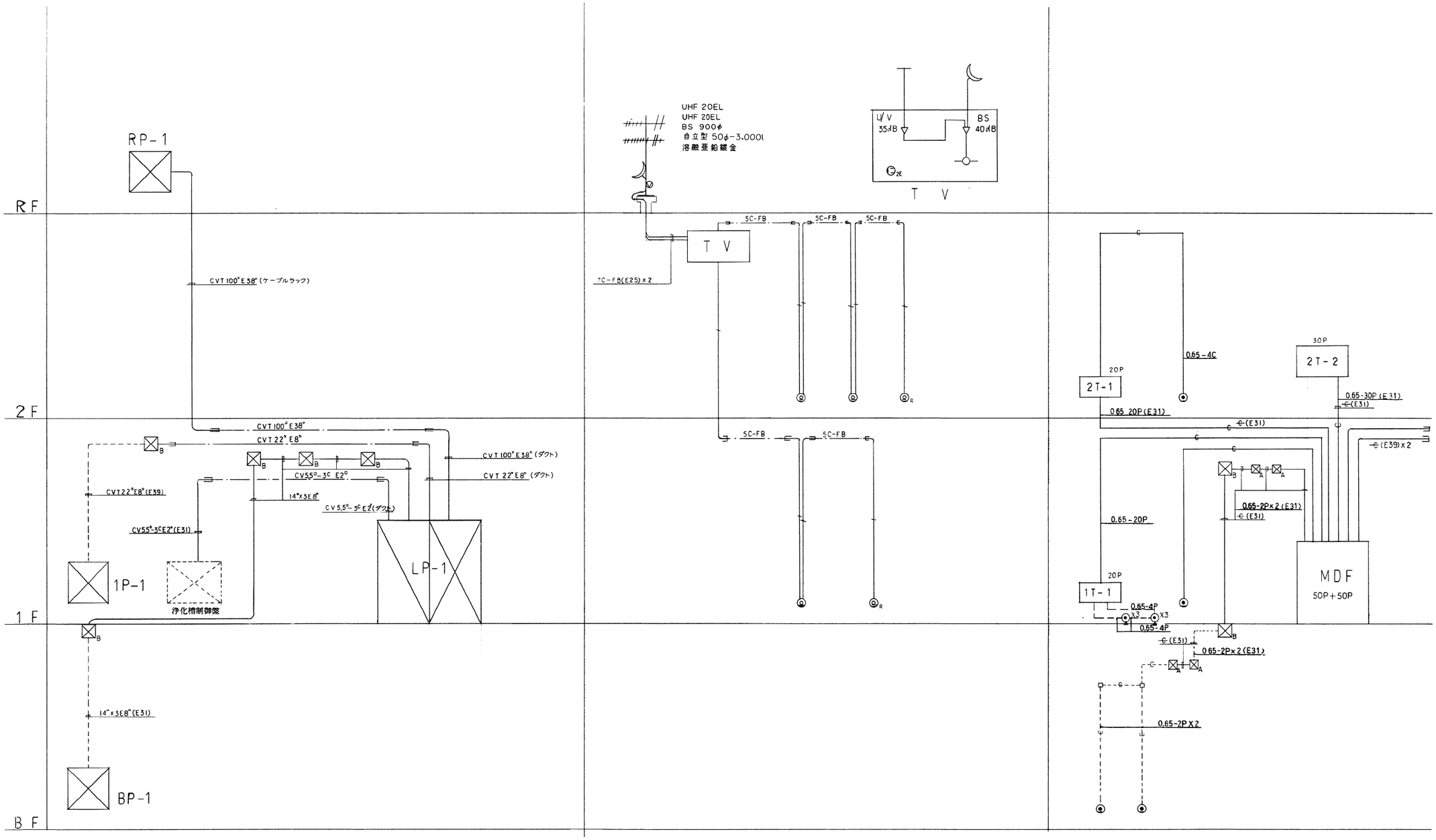
他工事との取合

項目	建築	電気	衛生	空調	外構	
スリーブ		○				
床上開口補強	○					
各種の床口	○					
天井開口		○				
天井開口補強	○					
設備機器等への電源供給		○				
床上二次側			○	○		
インサート吊ボルト		○				
電界強度測定					○	

シンボル表

記号	名称	記号	名称
		特記なき配管配線は下記による	
◎	照明器具　ダウンライト	電灯コンセント設備	
	照明器具　蛍光灯	———	1V1.6×2(E19)
		——//——	1V1.6×3(E19)
		——//2——	1V1.6×4(E19)
		——//3——	1V1.6×5(E19)
		——//4——	1V1.6×6(E19)
		——/——	1V2.0×2(E19)
⊗D	誘導灯	——/1——	1V2.0×2E1.6(E19)
●	スイッチ　1P15A　埋込型鉄金属		
$●_3$	スイッチ　3W15A　〃	—3— ———	VVF1.6-2C(保護管E19)
$●_4$	スイッチ　4W15A　〃	—3— //——	VVF1.6-3C(保護管E19)
$●_H$	スイッチ　1P15A　ホタル　〃	—3— //1——	VVF1.6-2C×2(保護管E25)
$●_T$	スイッチ　120分タイマー　〃	—3— //2——	VVF1.6-2C+3C(保護管E25)
$●_L$	スイッチ　1P15A　動作確認灯付　〃	—3— //3——	VVF1.6-3C×2(保護管E25)
$●_{DF}$	スイッチ　1P15A　5分遅れスイッチ　〃	—3— /—2C	VVF2.0-2C(保護管E25)
$◫_2$	コンセント　2P15A×2　〃	—3— //—2C	VVF2.0-2CE1.6(保護管E25)
$◫_E$	コンセント　2P15A+E　〃	—3— //—2C	VVF2.0-3C(保護管E25)
$◫_{2E}$	コンセント　2P15A×2+E　〃	———//———	1V2.0×2(E19)
◎	天井コンセント（抜け止め型）	———//1———	1V2.0×2E1.6(E19)
	動力盤	テレビ配管設備	
	電灯盤	——/—5C	5C-FB(E19)
		——//—5C	5C-FBX2(E25)
	端子盤	——/—7C	7C-FB(E25)
	TV機器収容箱	——//—7C	7C-FBX2(E31)
◎	$◎_n$　直列ユニット　中間・端末端子型	電話配管設備	
		----○----	(E25)
⊙	電話用ジャック		
D	ドアホン	——/W—2C	1V2.0×3E1.6(E25)
C	インターホン親機	——/WW—2C	1V2.0×6E1.6(E25)
		——/WWW—2C	1V2.0×9E1.6(E31)
		——/WWWW—2C	1V2.0×12E1.6(E39)
————	配管配線	——/W—3,2	1V5.5×3E2.0(E25)
——·——·——	天井ころがし配線		
- - - - - -	露出配管配線		
— — — — —	土間配管		
—··—··—	埋込配管		

施設名	第2揚水機場（0312100-1100-19）		
図面名	動力・照明（特記仕様書）		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	－	図面番号	8-147/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所		



幹 線 系 統 図

テレビ共聴系統図

電 話 系 統 図

$\boxtimes_B$：PB 300°×200

——/——：5C-FB(E19)

—C—：-C-(E25)

$\boxtimes_A$：PB 200°×100

$\boxtimes_B$：PB 300°×200

□：ジョイントボックス

施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	幹線・テレビ共聴・電話系統図		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	-	図面番号	8-148/319
作成者	関東農政局 両総農業水利事業所		

P－1 立型

結線：主開閉器 → AC1φ3W 200／100V MCB 3P 225AF／200AT

回路番号	分岐開閉器（AF／AT）	R.y リレー	負荷名称	容量（VA）	備考
Ⓐ	MCB2P50／20		BF非常照明	120	
Ⓑ	MCB2P50／20		1F非常照明	250	
Ⓒ	MCB2P50／20		2F非常照明	240	
Ⓓ	MCB2P50／20		2F非常照明(ポンプ場)	300	
Ⓔ	MCB2P50／20		BF誘導灯	150	
Ⓕ	MCB2P50／20		1F誘導灯	120	
Ⓖ	MCB2P50／20		階段通路誘導灯	260	
Ⓗ	MCB2P50／20		2F誘導灯	60	
Ⓘ	MCB2P50／20		火報受信機	400	
①	MCB2P50／20		1F電灯	3600	1F事務室
②	MCB2P50／20		1F電灯	900	1F電気室
③	MCB2P50／20		BF電灯	2000	BF自家発電機室・倉庫兼工作室
④	MCB2P50／20		2F電灯	3450	2F会議室
⑤	MCB2P50／20		2F電灯	1980	2F資料兼倉庫
⑥	MCB2P50／20		2F電灯	2400	2F操作室
⑦	MCB2P50／20		2F階段室電灯	410	
⑧	MCB2P50／20	1	2Fポンプ場電灯(1)	3150	
⑨	MCB2P50／20	1	2Fポンプ場電灯(2)	3150	
⑩	MCB2P50／20	1	2Fポンプ場電灯(3)	3150	
⑪	MCB2P50／20	1	2Fポンプ場電灯(4)	3150	
⑫	MCB2P50／20	1	2Fポンプ場電灯(5)	3780	1F搬入・点検スペース
⑬	MCB2P50／20		オートリフター用電源	1860	
⑭	ELB2P50／20		1F男子便所湯沸器		
⑮	ELB2P50／20		1F女子便所湯沸器		
⑯	ELB2P50／20		2F男子便所湯沸器		
⑰	ELB2P50／20		2F女子便所湯沸器		
⑱	MCB2P50／20		リモコントランス		
①	MCB1P50／20		1F電灯	2000	1F宿直室・男女WC・湯沸室
②	MCB1P50／20		1F電灯	2760	1F廊下
③	MCB1P50／20		1F電灯	390	1F車寄・足洗場
④	MCB1P50／20		1F電灯	1260	1Fポンプ場通路
⑤	MCB1P50／20		2F電灯	1140	2Fホール・湯沸室・男女WC
⑥	MCB1P50／20		2F電灯	2760	2F廊下
⑦	MCB1P50／20		RF電灯	830	
⑧	MCB1P50／20		換気扇用電源	1700	
⑨	ELB2P50／20		BFコンセント	600	BFポンプ場下部
⑩	ELB2P50／20		BFコンセント	400	BFポンプ場下部
⑪	MCB1P50／20		1Fコンセント	600	1F廊下・電気室
⑫	MCB1P50／20		1Fコンセント	700	1F事務室・宿直室
⑬	MCB1P50／20		1Fコンセント	400	1Fポンプ室・搬入・点検スペース
⑭	MCB1P50／20		1Fコンセント	500	1Fポンプ室
⑮	MCB1P50／20		1F冷蔵庫用コンセント	800	1F湯沸室
⑯	ELB2P50／20		1F洗濯機用コンセント	1200	1F脱衣室
⑰	MCB1P50／20		1Fコピー用コンセント	1200	1F事務室
⑱	MCB1P50／20		1FPC用コンセント	800	1F事務室
⑲	MCB1P50／20		1FPC用コンセント	800	1F事務室
⑳	MCB1P50／20		1FPC用コンセント	800	1F事務室
㉑	MCB1P50／20		1FPC用コンセント	800	1F事務室
㉒	ELB2P50／20		1F便座用コンセント	1000	1F女子便所
㉓	ELB2P50／20		1F便座用コンセント	1000	1F女子便所
㉔	ELB2P50／20		1F便座用コンセント	1000	1F男子便所
㉕	ELB2P50／20		1F便座用コンセント	1000	1F男子便所
㉖	ELB2P50／20		1F便座用コンセント	1000	1F女子便所
㉗	ELB2P50／20		1F便座用コンセント	1000	1F男子便所
㉘	MCB1P50／20		2Fコンセント	400	2F廊下
㉙	MCB1P50／20		2Fコンセント	400	2F操作室
㉚	MCB1P50／20		2Fコンセント	500	2F会議室
㉛	MCB1P50／20		2Fコンセント	400	2F湯沸室・資料兼倉庫
㉜	MCB1P50／20		2F冷蔵庫用コンセント	800	2F湯沸室
㉝	MCB1P50／20		2Fコピー用コンセント	1200	2F会議室
㉞	MCB1P50／20		2FPC用コンセント	800	2F操作室
㉟	MCB1P50／20		2FPC用コンセント	800	2F操作室
㊱	MCB1P50／20		2FPC用コンセント	800	2F操作室
㊲	ELB2P50／20		2F便座用コンセント	1000	2F女子便所
㊳	ELB2P50／20		2F便座用コンセント	1000	2F女子便所
㊴	ELB2P50／20		2F便座用コンセント	1000	2F男子便所
㊵	ELB2P50／20		2F便座用コンセント	1000	2F女子便所
㊶	ELB2P50／20		2F便座用コンセント	1000	2F男子便所
㊷	MCB1P50／20		会議室電動カーテン		
㊸	MCB1P50／20		予備		
㊹	MCB1P50／20		予備		
㊺	MCB1P50／20		予備		
㊻	MCB1P50／20		予備		

結線：主開閉器 → AC1φ3W 200／100V MCB 3P 225AF／200AT

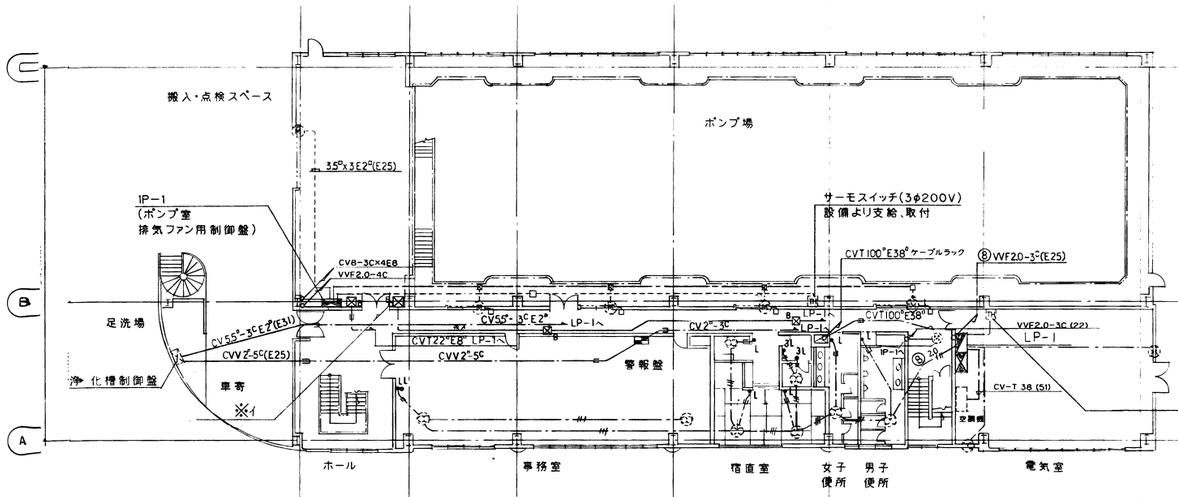
端子スペース
CVT200^{sq}×2用

発電機との停電時の電源供給方法等は別工事とする。

盤名称	主回路 電気方式・容量	主回路 結線図	機器番号 起動方式等	負荷名称	容量（KW）	NCB定格	備考
LP－1 自立型	AC 3φ200V 計 67.8KW	MCB 3P 50AF／50AT	電源送り	動力盤(BP－1)	4.8		
		MCB 3P 400AF／400AT	電源送り	動力盤(RP－1)	45.04	MCB 3P 400／250	
			電源送り	動力盤(1P－1)	14.8	MCB 3P 225／125	
			電源送り	1階事務室警報盤	0.1	MCB 2P 50／15	
			電源送り	予備		MCB 3P 225／200	
			電源送り	1階電気室空調機	28.0	MCB 3P 225／150	
			F－10(直入)	1F電気室有圧扇	1.0	MCB 3P 50／20	サーモ連動 自動－手動操作 表示(運転・停止・故障)
		MCB 3P 50AF／40AT	電源送り	浄化槽制御盤	3.2	MCB 3P 50／40	
RP－1 自立型 防水型	AC 3φ200V 計 45.04KW	MCB 3P 225AF／225AT	AC－5(直入)	2階会議室	7.78	ELB 3P 100／100	
			AC－5(直入)	2階会議室	7.78	ELB 3P 100／100	
			AC－2(直入)	2階資料兼倉庫	3.9	ELB 3P 50／50	
			AC－3(直入)	1階事務室	4.66	ELB 3P 100／75	
			AC－4(直入)	1階事務室	6.48	ELB 3P 100／100	
			AC－1(直入)	1階宿直室	0.74	ELB 2P 50／20	1φ200V
			AC－1(直入)	1階宿直室	0.74	ELB 2P 50／20	1φ200V
			AC－4(直入)	1階操作室	6.48	ELB 3P 100／100	
			AC－4(直入)	1階操作室	6.48	ELB 3P 100／100	
1P－1 壁掛型	AC 3φ200V 計 16.05KW	MCB 3P 100AF／100AT	F－12(直入)	2階上部ポンプ室排気ファン	3.7	MCB 3P 50／50	サーモ連動 自動－手動操作 表示(運転・停止・故障)
			F－12(直入)	2階上部ポンプ室排気ファン	3.7	MCB 3P 50／50	サーモ連動 自動－手動操作 表示(運転・停止・故障)
			F－12(直入)	2階上部ポンプ室排気ファン	3.7	MCB 3P 50／50	サーモ連動 自動－手動操作 表示(運転・停止・故障)
			F－12(直入)	2階上部ポンプ室排気ファン	3.7	MCB 3P 50／50	サーモ連動 自動－手動操作 表示(運転・停止・故障) サーモ連転信号(移報a接点)
			防火シャッター	1階搬入・点検スペースシャッター	0.25	MCB 3P 50／20	火報連動
			防火シャッター	1階・2階窓用シャッター	1.0	MCB 3P 50／20	火報連動
BP－1 壁掛型	AC 3φ200V 計 4.8KW	MCB 3P 50AF／50AT	F－11(直入)	BF倉庫兼工作室	2.4	MCB 3P 50／30	給気ファン連動 自動－手動操作 表示(運転・停止・故障)
			F－13(直入)	BF倉庫兼工作室 自家発用給気ファン	2.4	MCB 3P 50／30	発電機運転連動 自動－手動操作 表示(運転・停止・故障)
警報盤 壁掛型	1φ200V	MCB 2P 50AF／20AT		浄化槽警報一括	0.1		1F事務室

LP－1盤の1次側配管配線は
別途電源側工事とする。
（自家発電工事も含む）

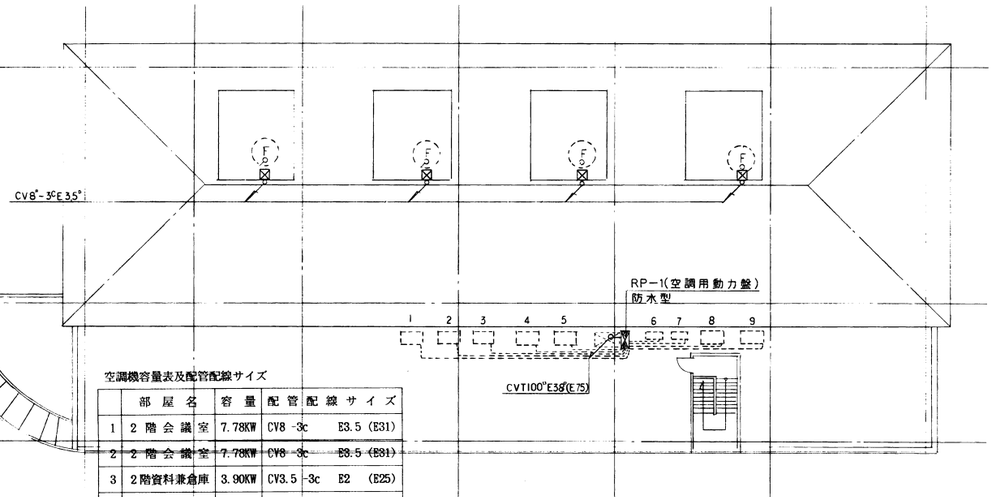
施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	電灯・動力盤リスト		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	－	図面番号	8-149/319
作成者	関東農政局 両総農業水利事業所		



1階平面図

※1

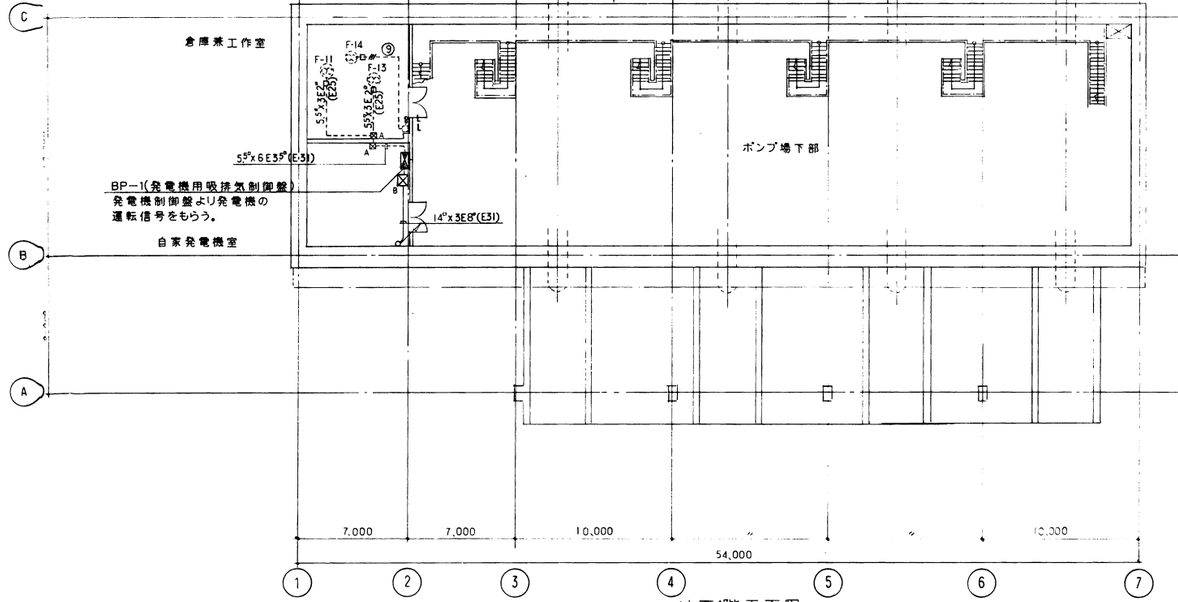
1P-1 電源	CV14-3C E3.5 (31)
③Ⓐ⑤⑨⑩	VVF2.0-2Cx5E2.0 (39)



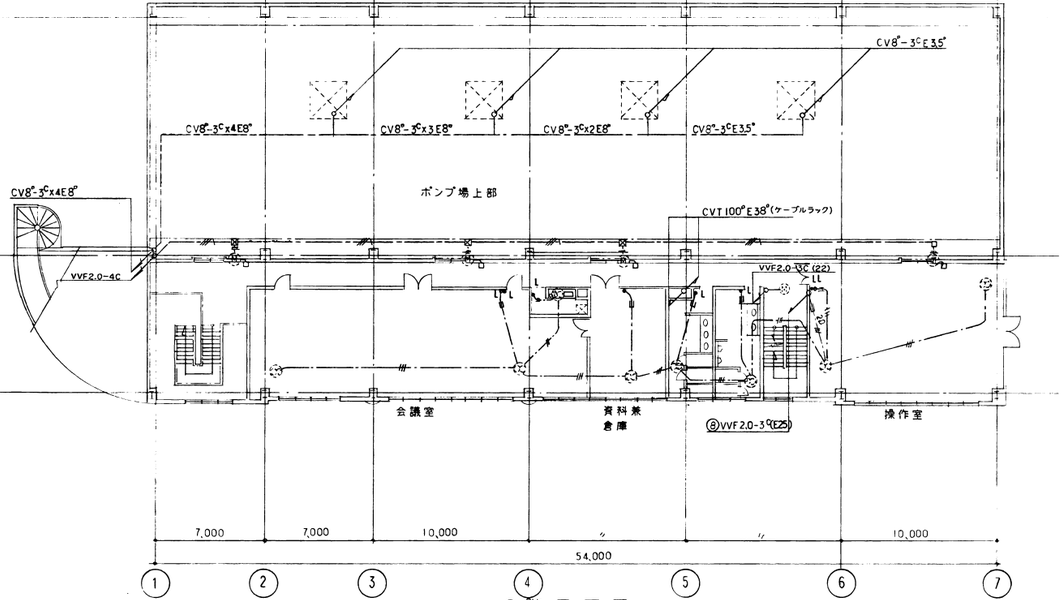
屋根伏図

空調機容量表及配管配線サイズ

	部屋名	容量	配管配線サイズ
1	2階会議室	7.78KW	CV8 -3c E3.5 (E31)
2	2階会議室	7.78KW	CV8 -3c E3.5 (E31)
3	2階資料兼倉庫	3.90KW	CV3.5 -3c E2 (E25)
4	1階事務室	4.66KW	CV5.5 -3c E2 (E25)
5	1階事務室	6.48KW	CV8 -3c E3.5 (E31)
6	1階宿直室	0.74KW	CV2 -3c(1φ200V)(E25)
7	1階宿直室	0.74KW	CV2 -3c(1φ200V)(E25)
8	1階操作室	6.48KW	CV8 -3c E3.5 (E31)
9	1階操作室	6.48KW	CV8 -3c E3.5 (E31)

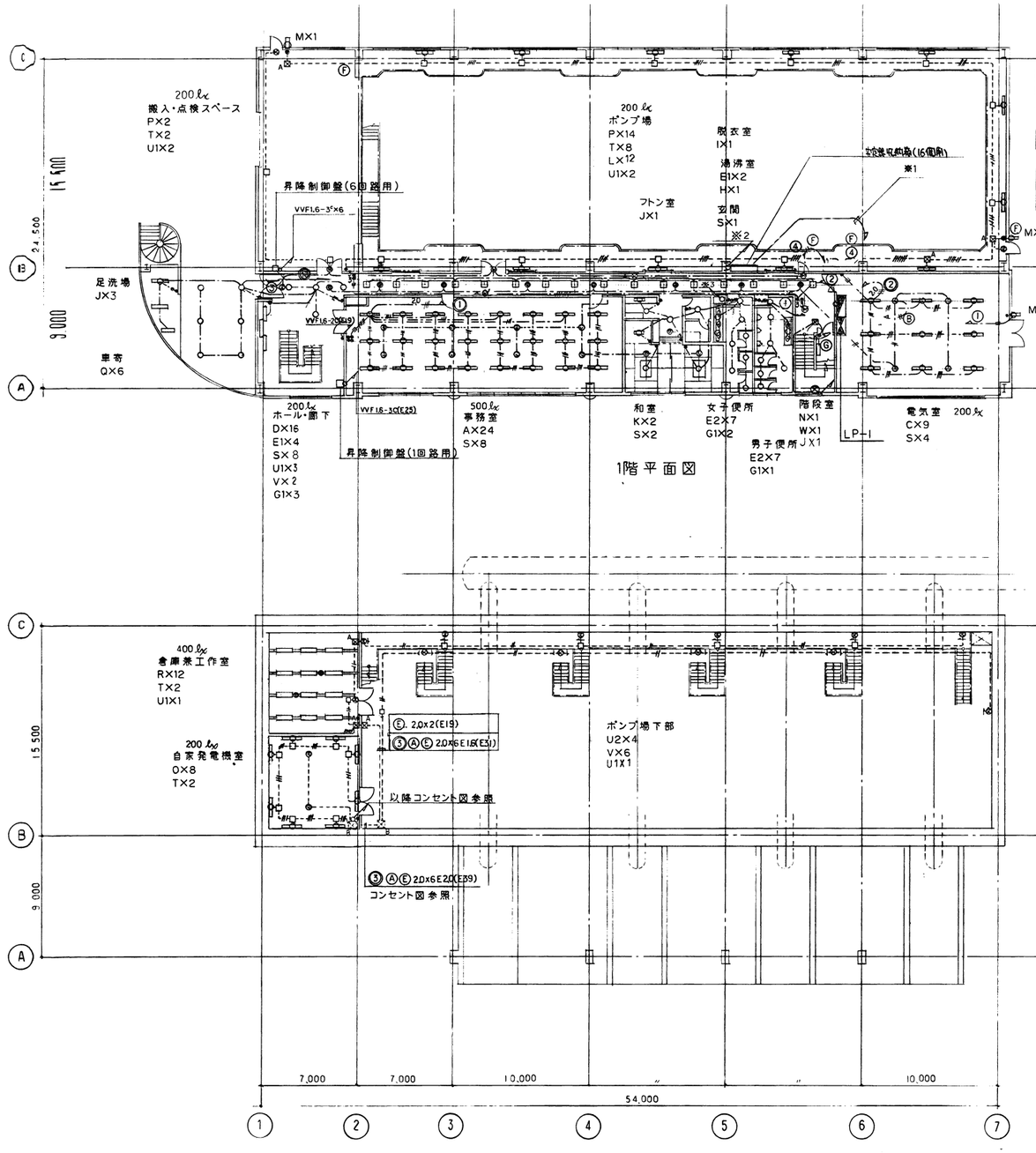


地下1階平面図

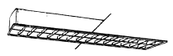
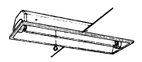


2階平面図

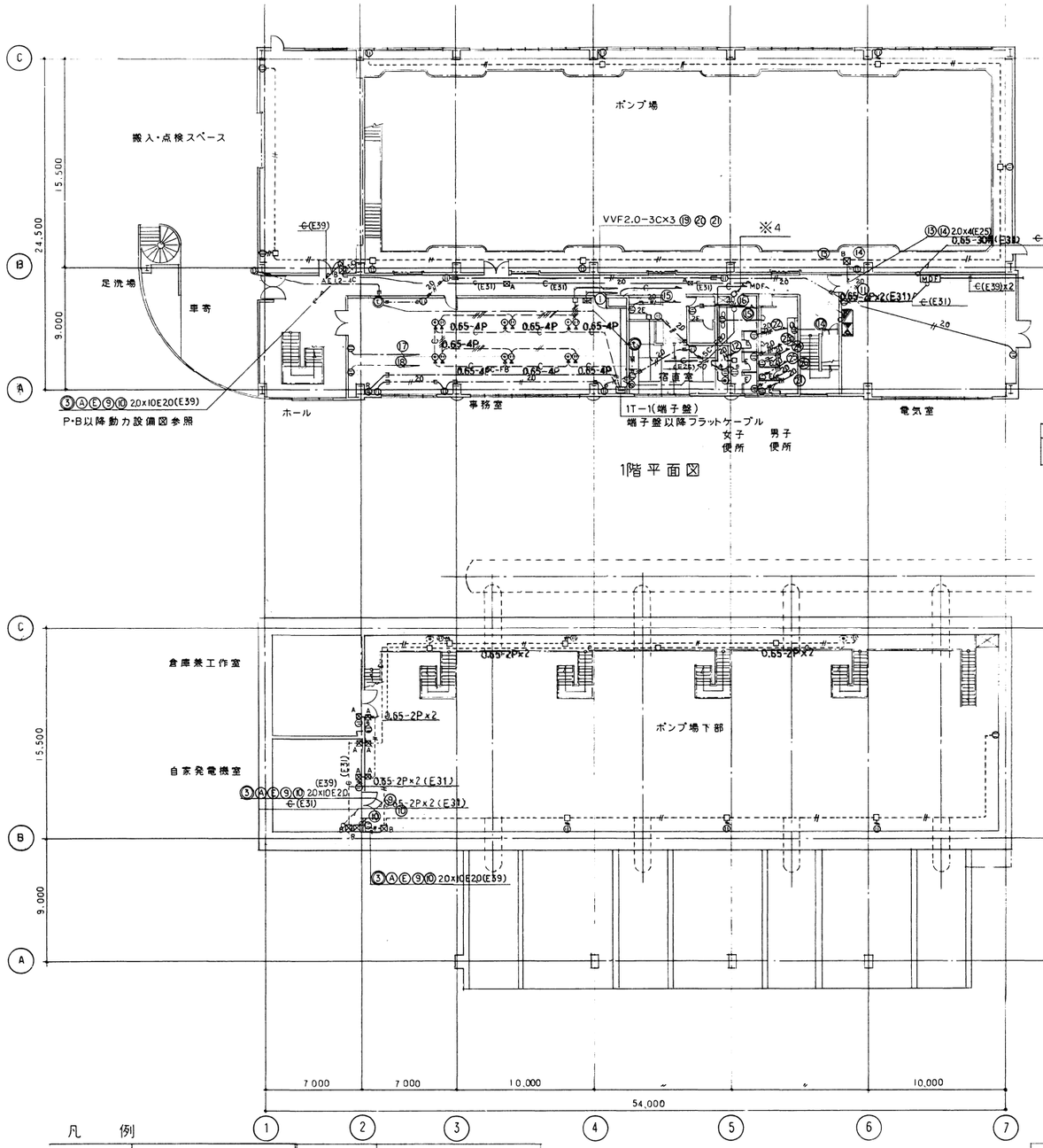
施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	動力設備		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 1:200 A2 1:283	図面番号	8-150/319
作成者	関東農政局 両総農業水利事業所		



施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	照明設備(1/2)		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 1:50 A2 1:70	図面番号	8-151/319
作成者	関東農政局 両総農業水利事業所		

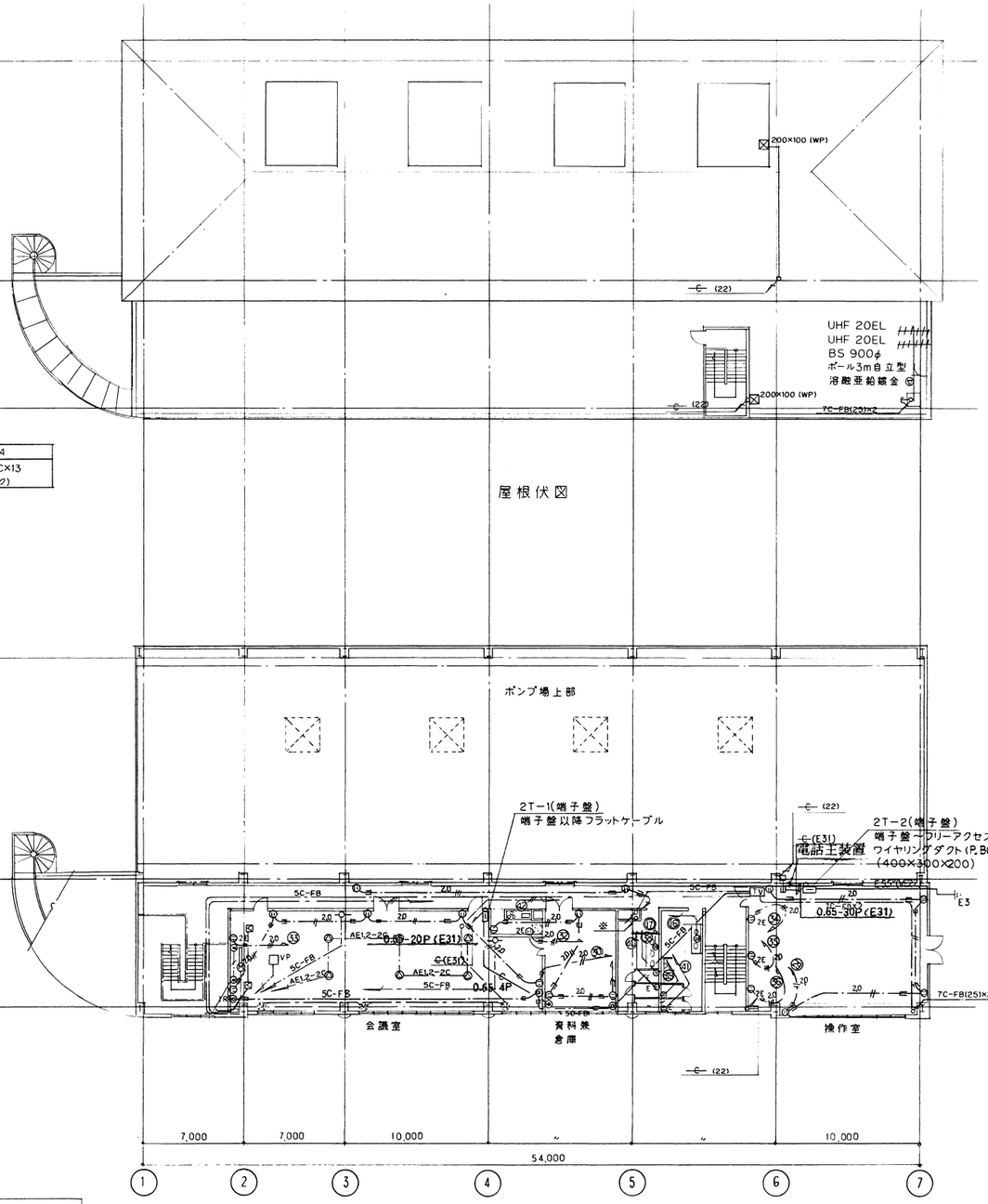
A FL40W−3	B FDL55W−3	C FL40W−2	D FDL27W−2	E_1 FDL27W E_2 FDL18W	F HID200W	G_1 FL40W−1 G_2 FL20W−1	H FL20W−1
 ルーバー(プラスチック製)	 アルミルーバー	 下面開放	 ダウンライト	 ダウンライト	 オートリフター付	 トラフ	 棚下灯・コンセント付
I FDL27W	J FL20W−1	K FCL(40WX2+30WX2)	L FL40W−2	M FL20W−1	N FDL18W−2	O FL40W−2	P HID700W
 防湿型　ダウンライト	 逆富士型		 逆富士型ガード付(本体と一体型)	 防水型　カバー付ブラケット	 バッテリー内臓・階段通路誘導灯	 コーナーライト	 オートリフター付
Q FDL18W	R FL40W−2	S IL10W	T IL30W(ハロゲン電球)	U_1 FL10W−1（片面型） U_2 FL10W−1（両面型）	V FL10W−1	W FCL30W−1	X FL40W−1
 ダウンライト	 反射傘付	非常照明  バッテリー内臓・ダウンライト	非常照明 中天井用 超高天井用  高天井用 バッテリー内臓・露出型(パイプ吊)	 バッテリー内臓・避難口誘導灯(露出型)	 バッテリー内臓・避難通路誘導灯(露出型)	ダウンライト  バッテリー内臓・階段通路誘導灯	下面開放  バッテリー内臓・階段通路誘導灯
Y HID100W							
投光器 							

施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	照明設備(2/2)		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	−	図面番号	8-152/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所		



1階平面図

※4	
㉒㉓㉛㉜	VVF2.0−2C×4
㉜㉝㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼	VVF2.0−3C×13 (ケーブルラック)



屋根伏図

地下1階平面図

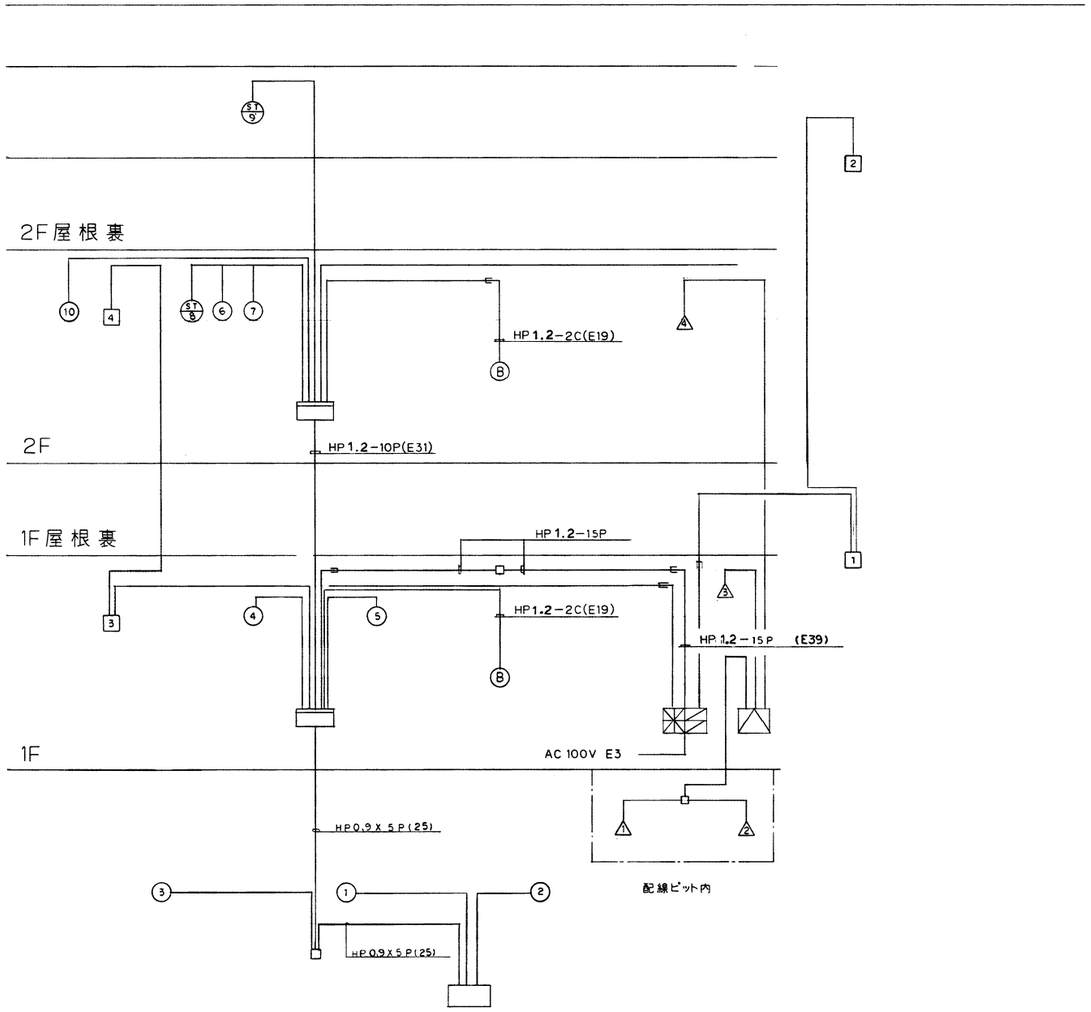
2階平面図

凡　例

記　号	名　称	記　号	名　称
⑪	2ヶ口コンセント	□	ジャンクションボックス
⑪E ⑪2E	アース付コンセント(1ヶ口.2ヶ口・専用)	☒A	プールボックス・200°×100
Ⓓ	ドアホン	☒B	プールボックス・300°×200
Ⓘ	インターホン親機		
◉	電話用ジャック		
ⓣ	テレビユニット		

記　号	名　称
□VP	ビデオプロジェクター
ⓜ	マイクコンセント
Ⓜ	スクリーンボックス
◹	メインスピーカー
△	シーリングスピーカー
—○—	ワイヤレスアンテナ

施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	コンセント・TV・TEL・インターホン		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 1:200 A2 1:283	図面番号	8-153/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所		



設　備　系　統　図

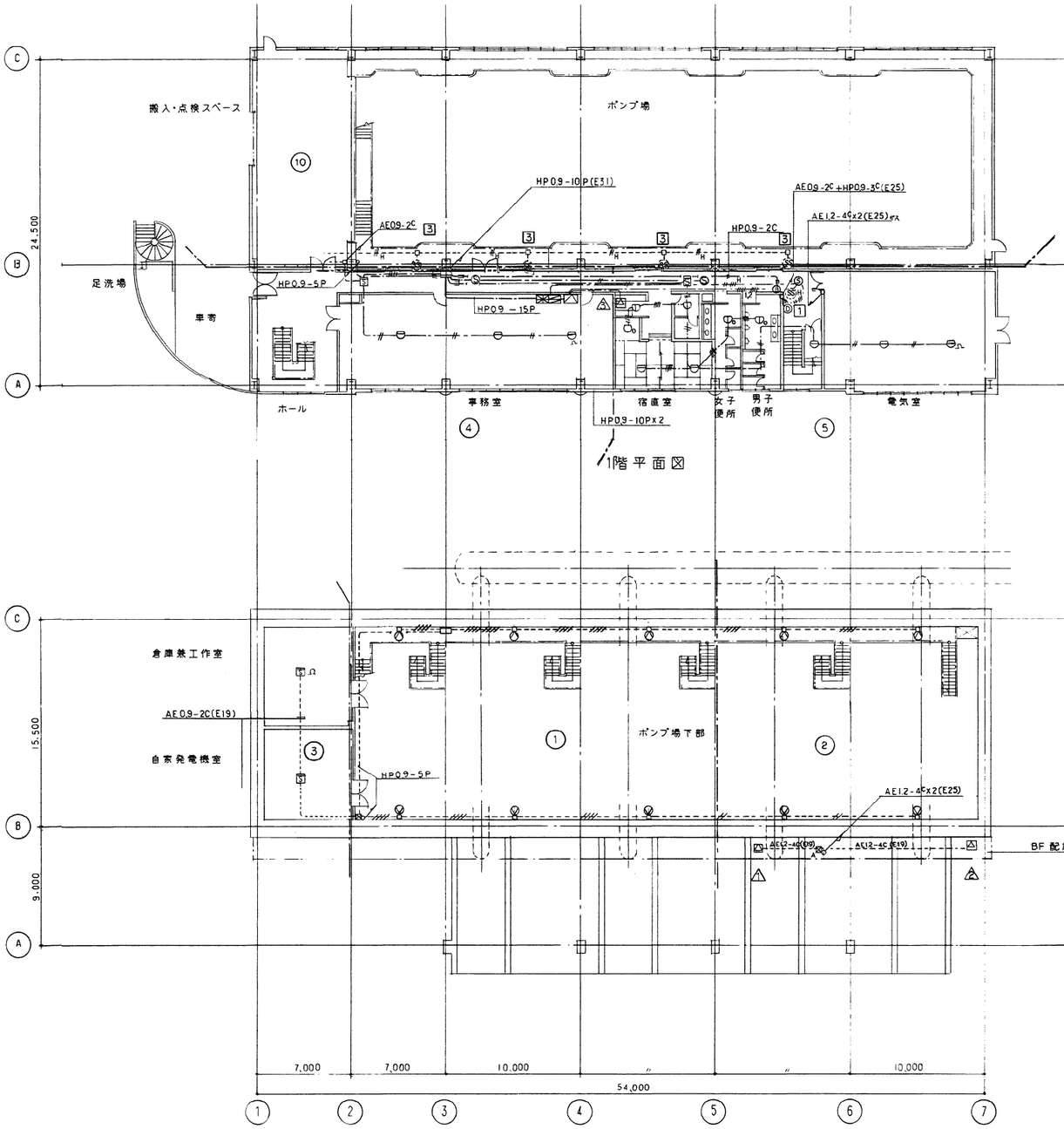
凡例		
記号	名称	備考
	複合型受信機	注記参照
	機器収納箱	埋込型　Ⓑ◐Ⓟ収容
Ⓑ	電鈴	DC24V 15mA　露出型
◐	表示灯	AC24V 0.5W LED
Ⓟ	発信機	P型1級
	2級受信機(LPガス用)	5回線(実窓 4L 予備 1L)
K	切換器	
S₁	光電式スポット型感知器	1種　露出型
S	光電式スポット型感知器	2種　露出型
	差動式スポット型感知器	2種
	差動式スポット型感知器	2種　試験口付
	炎感知器	赤外線式スポット型
	定温式スポット型感知器	特種　60℃
	定温式スポット型感知器	1種　防水型　70℃
Ω	終端器	
	ガス漏れ検知器	露出型
——·——·——	ケーブル配線	天井いんぺい
----------	配管配線	露出
	配管配線	立上り・引下げ
□	ジョイントボックス	
——·——·——	警戒区域境界線	
——·——·——	警戒区域境界線	小屋裏・天井裏
○	警戒区域番号	
◌	警戒区域番号	小屋裏・天井裏
△	ガス検知区域番号	
□	防火シャッター番号	

注　記

1. 複合型受信機は壁掛窓式とし、表示内訳は下記とする。
   P型1級 火報15回路(14L+1L)防排煙5回路(2L+3L)
2. 電鈴は、一斉鳴動方式とする。
3. 破線の感知器は、小屋裏・天井裏用を示す。
4. 特記なき配管配線は下記とする。

—·—//—·—	AE0.9−2C(保護管E19)	—·—///—·—	AE0.9−4C(保護管E19)
—·—//3—·—	AE0.9−3P(保護管E19)		
------//------	AE0.9−2C(E19)	------//4------	AE0.9−4C(E19)
------//3------	AE0.9−3P(E19)	------//H------	HP1.2−3C(E19)
------//-//H-----	AE0.9−2C+HP1.2−3C(E25)		
—·—//1.2—·—	AE1.2−4C(保護管E19)		

施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	火災報知設備(1/2)		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	−	図面番号	8-154/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所		



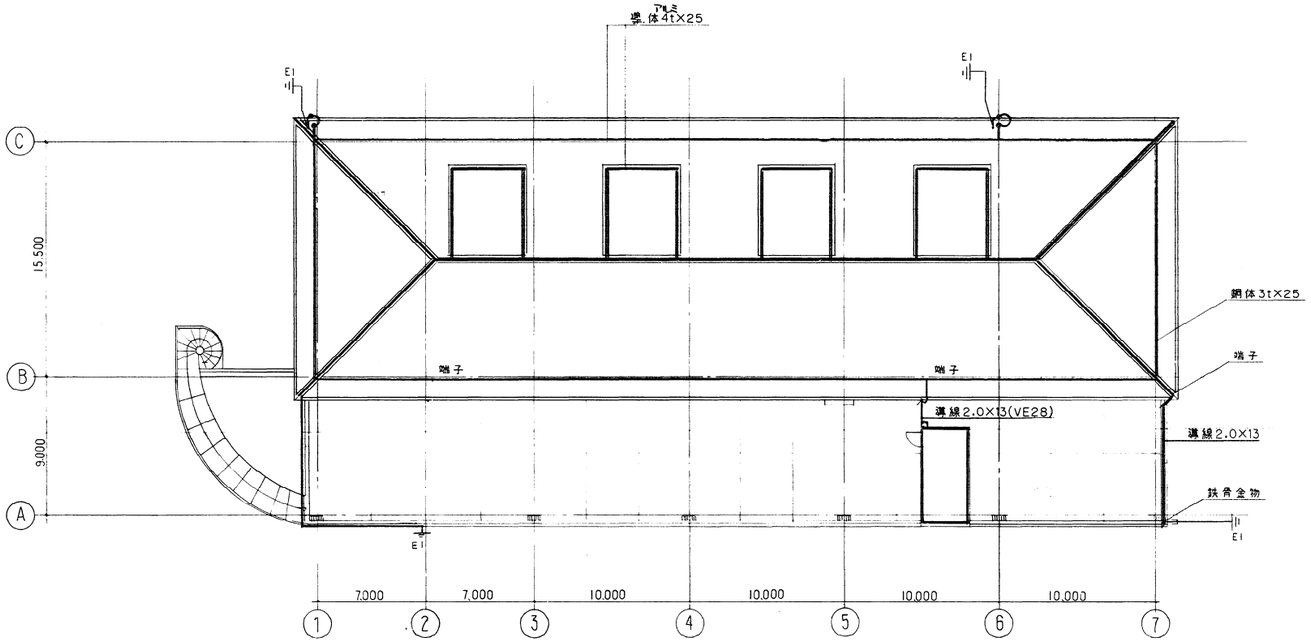
1階平面図

屋根伏図

地下1階平面図

2階平面図

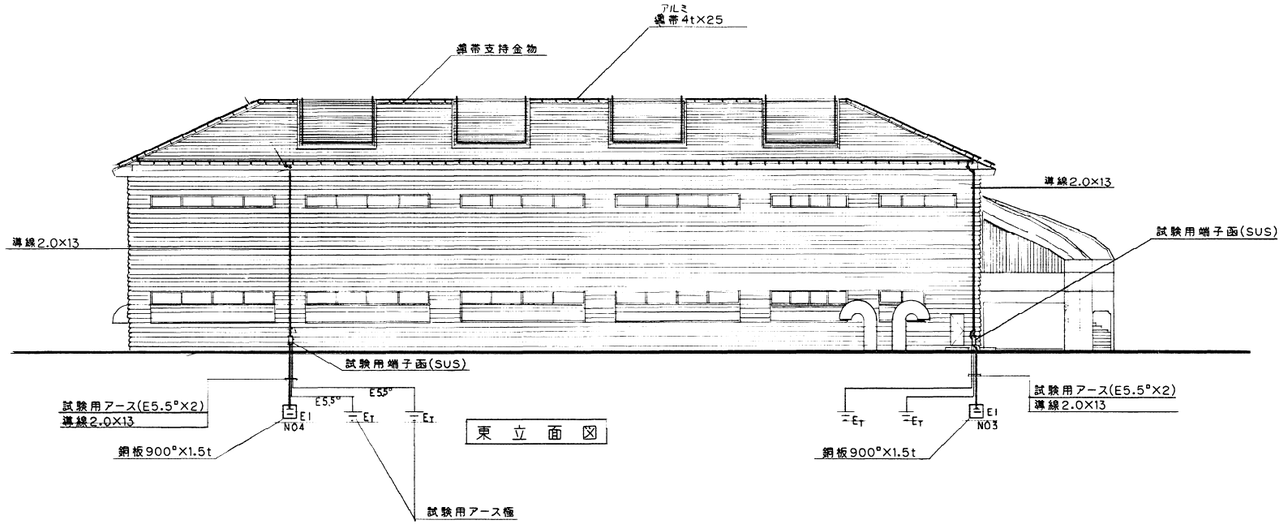
施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	火災報知設備(2/2)		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 1:200 A2 1:283	図面番号	8-155/319
作成者	関東農政局 両総農業水利事業所		



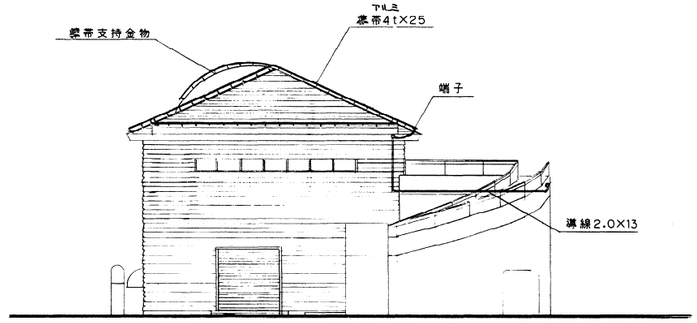
屋 根 伏 図

注:雷雲の時は、手摺には近ずかないで下さい。

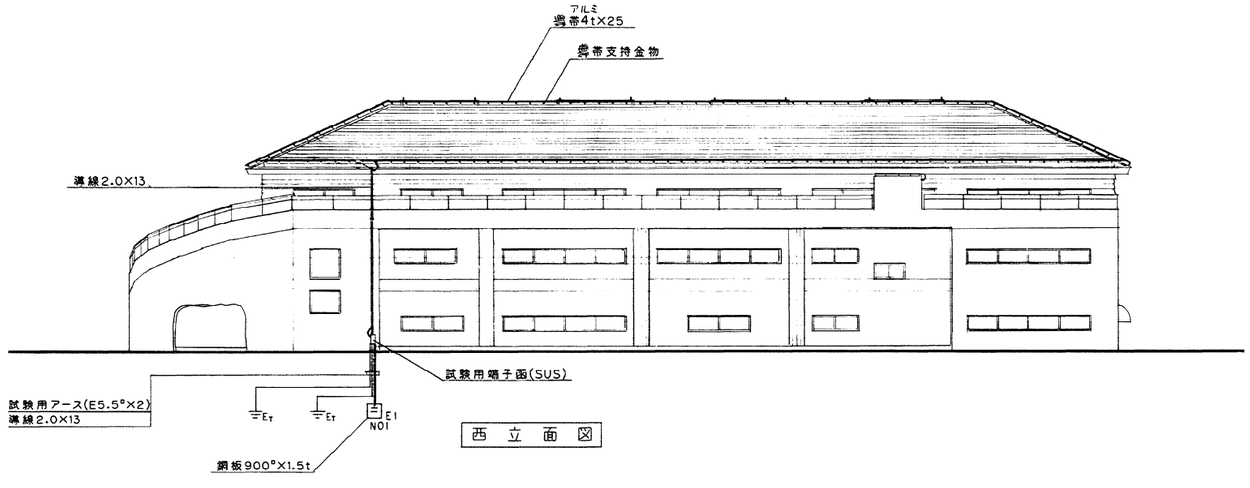
施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	避雷針設備(1/2)		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	-	図面番号	8-156/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所		



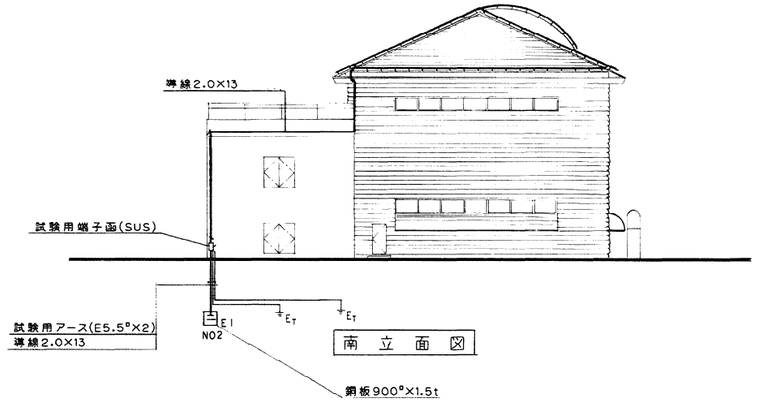
東 立 面 図



北 立 面 図



西 立 面 図



南 立 面 図

施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	避雷針設備(2/2)		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 1:200 A2 1:283	図面番号	8-157/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所		

特記仕様書（１）

工事概要

1.工事名称	
2.敷地	所在地　：千葉県山武郡横芝町寺方５１５番地ーほか 用途地域　：都市計画区域外 防火地域　：指定なし その他の指定： 指定建蔽率　：　％（制限　㎡） 指定容積率　：　％（制限　㎡）
3.工事種別	増築
4.主要用途	受電設備，除塵機格納庫　消防令別表第1ー（　）項
5.構造規模	構　造：地下　造 地上　鉄骨　造 階　数：地下　階 地上　1 階 塔屋　階 基　礎：杭 基礎　PHC 杭 建物高さ：最高高さ 9.03 m 最高軒高 8.40 m 10.23 9.70 増築予定：
6.面積	敷地面積：12.422.38㎡ 建築面積：364.72㎡ 建蔽率　％ 延床面積：364.72㎡ 容積対象床面積 364.72㎡ 容積率　％ 各階床面積 B1F ㎡ / 1F ㎡ / 2F ㎡ / 3F ㎡ / 4F ㎡ / 5F ㎡ / 6F ㎡ / 7F ㎡ / 8F ㎡ / 9F ㎡ / 10F ㎡ / 11F ㎡ / 12F ㎡ 13F ㎡ / 14F ㎡ / 15F ㎡ / 16F ㎡ / 17F ㎡ / 18F ㎡ / 19F ㎡ / 20F ㎡ / PH−1F ㎡ / PH−2F ㎡ 駐車場床面積 ㎡ 駐車台数 台
7.外構	
8.その他の工事	
9.工事範囲	設計図書に示された範囲とし、見積要項書、現場説明記録書、質疑応答書もこれに含み、工事範囲は次の区分による。 ⊙特殊基礎工事 ⊙建築主体工事 ⊙電気設備工事 ⊙給排水換気設備工事 ・搬送設備工事 ⊙外構工事 ・造園工事 ・各種測定試験
10.別途工事	設計図に特記のあるもの、及び下記のものは本工事より除外する。
11.工事期間	着工　年　月　日 竣工　年　月　日

第1章 一般共通事項

1節 一般事項

1.1.1 適用範囲

a この特記仕様書は、本工事に適用する仕様を特記するものである。
図面及び特記仕様書に記載のない事項はすべて共通仕様書による。
一般仕様として下記の共通仕様書を適用する。
1 建設大臣官房官庁営繕部監修 建築工事共通仕様書 平成5年版
2 建設大臣官房官庁営繕部監修 機械設備工事共通仕様書 平成5年版
3 建設大臣官房官庁営繕部監修 電機設備工事共通仕様書 平成5年版

c 本工事は下記の工事請負契約約款に基づき施工されるものとする。
四会連合協定工事請負契約約款（　年度版）

1.1.4 設計図書の優先順位

a 本工事は下記により施工し、相互間の内容に相違がある場合の優先順位は記載の順序とする。
又、下記に記載のない工法、材料等については施工者、メーカの責任施工、指定工法によりその特質、性能等を充分に検討し施工する。
1 見積り要項（現場説明書及び質疑応答書を含む）
2 本特記仕様書
3 設計図面
4 共通仕様書
5 ＪＩＳその他公共規格

b 責任施工のものはメーカ、施工下請業者、請負契約者連名の合格書又は保証書を提出する。

1.1.5 疑義に対する協議

b 本工事施工中に生じた疑義は、請負者において質問を行い、工事前の質疑応答書に準ずる記録書として作成しておくものとする。

c 設計図書に標準的な部分を表示した場合、これに準ずる他の部分も標準的な部分に見做って施工するものとする。

1.1.8 官公署その他への手続

b 本工事に関係ある法令、条例及び規則等は良くこれを遵守し、必要ある届出、手続等は全て請負者が行い、これに要する費用は請負者の負担とする。

1.1.10 発生材の処理

a 引渡しを要するものは下記による。

b 再生資源利用を図るものは下記による。

c 特別管理産業廃棄物の有無は下記による。

1.1.11 施工条件

1.1.12 工事費外の費用

下記に示す費用は注文者の負担とする。
1 敷地の確保に要する費用
2 予測しえなかった大規模地下埋設物の撤去に要する費用
3 敷地外の電力、ガス、上下水道の引き込み費及び分担金
但し、工事用のものは請負者の負担とする。
4 工事目的物に含まれる諸設備の基本料金
但し、工事用のものは請負者の負担とする。
5 近隣との紛争解決に要する費用
但し、工法及び工事施工に起因するものは請負者の負担とする。
6 登記に要する費用
7 式典費。但し、式場の準備、設定は注文者と協議の上、請負者にて行い、実費精算とする。

1.1.13 保証

a 本工事の施工にあたって、下記に定める工事については、保証期間を明記した保証書を提出するものとする。

b 工事竣工引渡し後、契約書に定められた保証期間内に監督員立会いの上、工事全般に渡り再検査を行う。
この検査の結果発見された施工上の欠陥、あるいは仕様材料の不良により生じた破損及び故障については、監督員と協議の上その処置を行う。その費用は施工者の負担とする。

1.1.14 契約図書

a 工事請負契約書は下記の順序にて製本する。
1 四会連合協定による請負契約書及び契約約款
2 現場説明書及び質疑応答書
3 工事費内訳明細書（A4 版に焼付けのこと）
4 設計図面一式　（A3 版に焼付けのこと）

上記 4 はマイクロ撮影後、マイラー縮小原図（A3 版）を作成して焼付ける。
製本は A4 版厚表紙（黒）金色押し文字入りとする。
文字は工事名、書類名、年月（以上、背表紙共）注文者、設計者、施工者を記載する。

b 契約時に設計図面一式を A3 縮小版背張り製本にして監督員に提出する。部数は 3部とする。

1.1.15 指示

本工事の施工にあたって、下記に定める項目のものについては監督員の指示を受けるものとし、記録書を提出するものとする。
1 別契約の工事関係者との協力
2 発生材の処理方法
3 補足工程表（期間又は工事種別）の作成
4 提出見本品の種類
5 設計変更の手続き及び見積り方法
6 補足設計

1.1.16 立合い

本工事の施工にあたって、下記に定める項目のものについては監督員の立ち合いを受けるものとする。
1 指示された施工、試験、測定
2 各法令に基づく諸官庁の検査
3 工事写真、竣工写真撮影
4 縄張り
5 特殊基礎支持位置
6 材料の選定　石、植栽等

1.1.17 検査

本工事の施工にあたって、下記に定める項目のものについては監督員の検査を受け、承認を受けるものとする。
1 指示された材料、製品及び機器の検査
2 指示された工程完了時点での中間検査
3 竣工検査

1.1.18 承認

本工事の施工にあたって、下記に定める項目のものについては監督員の承認を受けるものとする。
1 補足工程表及び変更工程表
2 施工図、原寸図、製作図、機器図
3 見本
4 各種試験、測定報告書
5 施工計画書
6 竣工図書

2節 工事現場管理

1.2.6 災害及び公害の防止

b 本工事にあたり、騒音、振動、塵埃、飛散物、地盤沈下、道路損害、通行障害、その他近隣に対する公害が発生しないよう各種法令を遵守し、関連官公庁の指導を受けて施工にあたるものとする。
損傷その他の危害が発生した場合は、速やかに適切な補修及び補償をしなければならない。

1.2.10 損傷復旧

a 工事施工のため損傷を生じた物件はすみやかに復旧する。
その費用は請負者の負担とする。

b 既設建物と今回工事の取合い部分、その他本工事の範囲外の部分に、汚染、損傷を生じた場合は、原型と同仕上げ材で完全に補修するものとする。

1.2.11 近隣対策

本工事の施工にあたっては、近隣住民及び諸官庁との下記の事前協議事項を遵守するものとする。

3節 実施工程表、施工計画書等料

1.3.2 施工計画書

c

4節 材料

1.4.4 材料の検査に伴う試験

e 本工事に使用する材料のうち、設計図書に定められたもの、又は監督員の指示のあるものは、その試験成績表を提出し、又は監督員の認める試験所で試験を行い、確認を受けなければならない。
なお試験に要する費用はすべて請負者の負担とする。

1.4.5 製造者の決定

a 本特記仕様書、共通仕様書に規定されていない特別な材料の仕様は、当該製品の製造所の指定仕様によるものとする。

b 本工事に使用する建築材料等は、本特記仕様書において特記されたもの、又はこれと同等以上のものを使用する。
同等以上のものを使用する場合は監督員の承認を受けるものとする。

1.4.6 支給材料等

a 支給材料、支給機器、貸与品は下記による。

5節 施工

1.5.1 施工

c 本工事の仮設、施工方法等施工に関する計画は、設計図書に特別に定めない限り、請負者の責任において定めるものとする。

1.5.2 技能士

b 本工事の施工にあたっては、別に示す一覧表により技能士を現場に常駐させるものとする。

1.5.7 施工の検査に伴う試験

a 設計図書に定められたもの、又は係員の指示のあるものは、その試験成績表を提出し、又は係員の認める試験所で試験を行い確認を受けなければならない。
なお試験に要する費用はすべて請負者の負担とする。

6節 記録

1.6.1 記録

a 本工事の施工にあたり、下記に定める図書等（番号に○印を付したもの）を監督員に提出して承認を受けるものとする。
監督員は下記に定めるもののほか、必要な図書等の提出を求めることがある。

番号	提出書類	期限	部数	備考
1	敷地実測図	工事着工　日前	部	内容 敷地外周状況 通芯各レベル
2	工事請負契約書写	契約時	部	
3	工事工程表	契約後	部	
4	補足工程表	当該工事　日前	部	工事名 期間
5	請負代金内訳書	契約後　日以内	部	
6	工事着工届	契約後　日以内	部	
7	損害保険契約書及び保証書写	契約後　日以内	部	
8	現場代理人、監理技術者、主任技術者、専門技術者届	契約後　日以内	部	経歴、資格を記す
9	現場常駐職員届	契約後　日以内	部	経歴、資格を記す
10	下請業者等承認願	契約後　日以内 その都度	部	
11	使用材料機器等承認願	契約後　日以内 その都度	部	
12	試験検査成績報告書	試験後　日以内	部	
13	仮設計画図	契約後　日以内	部	
14	施工計画書 施工要領書	当該工事着工　日前	部	内容 山留、杭、鉄骨RC打設、PCサッシ、防水屋根、内外装植栽
15	施工図・機器製作図	当該工事着工　日前	組	
16	見本 種類と形状	その都度	数量	

施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	受電設備・除塵機格納庫(特記仕様書1/4)		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	－	図面番号	8-158/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所		

番号	提出書類	期限	部数等	備考
17	工事記録報告書	月報として 日毎	部	A4版 施工記録 工事進捗度 工事写真を含む
18	打合せ記録書	その都度	部	A4版
19	変更工事見積書	その都度	部	
20	出来高承認願	その都度	部	
21	官公署出願書類控	その都度	部	
22	工事竣工検査願	工事完了 日前	部	
23	工事竣工引渡書類 完了届、引渡書 検査済証、使用許可書、届出書 工事保証書 鍵引渡書 各種使用説明書 工具引渡書 保安工事連絡先一覧表	竣工時	部	
24	工事竣工引渡備品 鍵および鍵箱 工具および工具箱 予備材料 その他の資料、材料、器具類	竣工時	組	
25	竣工図	竣工後 日以内	部	
26	竣工写真	竣工後 日以内	部	
27	その他 各種測定報告書	その都度	部	

d　工事写真、竣工写真は下記による。

提出時期	内容	サイズ	部数
着工時	現況、既設建物全景 （　　箇所程度） 解体完了時の敷地全景 （　　箇所程度） 隣接建物の現況 （　　箇所程度）	キャビネ	各部
工事中	各工程の重要箇所 （毎月　　箇所程度）	キャビネ	各部
竣工時	外観　　面	キャビネ	各部
	内観　　面 （アルバム貼付け、表紙押し文字）		
	外観パネル貼　　面	全紙	各部
	内観パネル貼　　面		
	航空写真　　面	全紙	各部
	ビデオテープ		各部

指定する撮影業者は下記による。

1.6.2 完成図等

a　竣工図は原設計のCADデータを修正し、作成する。
b　竣工図のCADデータの著作権は設計者に帰属するものとする。
c　竣工図は下記による。提出部数は各　　部とし、1については修正データの入ったフロッピーディスクと共に提出する。
　1　設計図　（配置図、平面・立面・断面図、仕上表面積表、主要詳細図及び設備一般図、系統図、機器リスト
　　変更箇所を全て修正したもの）
　2　各工事施工図（　　）
　3　設備施工図（　　）
なお、製本は1の場合は1.1.14による製本とし、マイクロ撮影フィルム、マイラー縮小原図共、提出のこと。2、3は原サイズ二つ折り背張り製本とする。

8節　工事区分

1.8.1 工事区分

本工事の施工にあたり各工事の区分は、下記に○印を付したものを適用する。
各設備工事特記仕様書、当該項目も参照のこと。

	項目	建築	電気	衛生	空調	別途	備考
一般事項	仮設用の電力、上下水ガスの使用料金、及び負担金	○					
	電気、上水道、下水道ガス引込み負担金					○	
	仮設用の電力、上下水ガスの使用料金、及び負担金	○					
	電気、上水道、下水道ガス引込み負担金					○	
	本設後引き渡しまでの使用料金	○					
	本設後引き渡しまでの基本料金	○					
躯体貫通	はり貫通スリーブ（RC造）	○	○	○	○		
	はり貫通スリーブ（S・SRC造）	○					
	壁、床、貫通部スリーブ、箱入れ	○	○	○	○		
	同上貫通部スリーブ補強	○					
	同上貫通部孔埋め躯体補修	○					
	二重スラブ内、連通管及び通気管、水抜き管	○					
	水切付スリーブ	○					
機械基礎	機械基礎（躯体と一体の基礎）	○					
	独立機械基礎	○	○	○	○		
	アンカーボルト、箱入れ、チャンネル土台		○	○	○		
	機械基礎用床補強	○					
	屋上等防水層に関する基礎及び防水仕舞	○					
	油槽、外部及び基礎	○					
開口・補強	工場制作間仕切、床の孔明け取付け枠及び補強	○					
	天井取付器具の取付け		○	○	○		
	同上開口補強	○					
	設備機器取付け用ALC版、石の孔明け及び補強	○					
	設備機器取付け用ブロック煙瓦の開口部取り付け枠	○					
	天井吊り機器の吊りボルト		○	○	○		
	同上用C型鋼補強		○	○	○		
	設備器具取付のための開口	○					
その他	機械搬出入、据付用フック	○					
	電気配線用ピット蓋共	○					
	増打軽量コンクリート及び床仕上げ	○					
	マシンハッチ及び床仕上げ	○					
	煙突	○					
	外部取付ガラリ	○					
	リターングリル	○				○	
	ドアーグリル	○					
	点検口及び仕上げ	○					
	マンホール	○					
	タラップ	○					

第2章　仮設工事

2節　縄張り、やりかた、足場その他

2.2.2 ベンチマーク
c　設計GL、BMの決定は監督員立会いの上、承認を受ける。
　設計GL＝TP＋5，600

2.2.4 足場その他
c　市街地における仮囲いは原則として下記による。
　成形鋼板塀 SOP塗り　　H＝3m以上
簡易な仮囲いでよいと思われる場合は監督員と協議の上、板塀鉄線柵、金網柵などにすることができる。
d　仮囲いに掲示する工事名表示板の表示位置、数、大きさ、仕様等は監督員の指示による。
完成予想図は監督員の指示する透視図等により上記に準じて作成する。
完成予想図の要否は下記による。
　要　　否

3節　材料置場、下小屋その他仮設物

2.3.3 監督員事務所の規模及び仕上げ
a　監督員事務所の種別は　　号とする。

2.3.3 監督員事務所の備品など
a　特に指定する設備、備品は下記による。

5節　敷地測量その他

a　隣地並びに道路との境界は、監督員及び関係者立会いのもとに確認し、必要に応じて関係官庁の立会いを求め、記録書を作り明示を受ける。
b　工事によって影響があると思われる隣地・隣接構築物及び地下埋設施設の現状を調査確認して記録書を作り、監督員に提出する。
c　敷地の高低を測量して、設計図と照合し、道路との高低・排水その他について検討する。
d　a.b.cにより敷地測量図を作成し、監督員の指示を受ける。
e　測量の範囲、記入物件の範囲、縦横断面位置の指定、BM位置の指定等は監督員の指示による。
f　測量図の要否は下記による。
　要　　否

6節　その他

2.6.1 工事用水及び工事用電力
a　工事用水
　本工事引込み
　構内既存設備利用　　（有料　・　無料）
b　工事用電力
　本工事引込み
　構内既存設備利用　　（有料　・　無料）

2.6.2 工事用進入路道路占有等
a　関係者立合いの上、状況確認をする。
b　関係官公庁への諸手続きは、請負者がおこなう。
c　進入路復旧はすべて本工事に含む。

第3章　土工事

2節　根切り及び埋め戻し

3.2.3 埋め戻し及び盛土
b　埋戻し及び盛土の種別は　B　種とする。

3.2.4 地均し
地均しをする範囲は下記による。
　建物周囲　2m

3.2.5 建設発生土の処理
a　建設発生土処理は下記による。
　場外搬出処理　　場内処理
c　建設発生土の搬出、運搬には土砂のこぼれ、飛散のないようにする。

第4章　地業工事

1節　一般事項

4.1.1 一般事項
e　杭または地盤改良などの地業は、専門業者の責任施工による。
　専門業者：

2節　既製コンクリート杭地業

4.2.1 材料
a　種　別：PHC杭（A種）
b　径　長さ：　350φ　　L＝　14.5m
　設計支持力（長期）：　52t／本
　品　名：
　メーカ　：
f　継手の箇所数：1
g　杭先端部形状：

4.2.2 工法
a　杭の設置工法は下記による。
　1　打込杭工法

5節　試験杭の施工

4.5.2 総則
b　試験杭の位置、種類、寸法、設計支持力等は設計図による。

8節　砂利地業

厚さ　60mm

9節　捨てコンクリート地業

厚さ　60mm

第5章　鉄筋工事

1節　材料

5.1.1 鉄筋及び溶接金網

種類	種別	径	JIS規格
普通丸鋼	SR235	φ	JIS G 3112 JIS G 3117
異形棒鋼	SD295	D 10 以上	JIS G 3112
異形棒鋼	SD345	D 19 以上	JIS G 3112
異形棒鋼	SD390	D　以上	JIS G 3112
溶接金網			JIS G 3551
スパイラル筋			JIS G 3112
PC鋼材			JIS G 3109 JIS G 3536

2節　加工及び組立

関西構造事務所協会編「鉄筋コンクリート構造配筋標準図」及び共通仕様書による。

5.2.1 総則
c　鉄筋の継手は下記による。
　重ね継ぎ手　：　D16　　以下とする。
　ガス圧接継ぎ手：　D19　　以上とする。
　その他の継ぎ手：名　称
　　メーカ：
k　先組み工法等での継手：
1　スペーサーの材質は下記による。
　スチール製

5.2.2 鉄筋のかぶり厚さ及び間隔
a　「鉄筋コンクリート構造配筋標準図」による。

3節　基礎及び基礎梁の配筋

5.3.1 基礎
a　杭頭の補強方法は下記による。
　A形

5.3.2 基礎梁
b　あばら筋、腹筋、及び巾止め筋は設計図による。

4節　柱の配筋

5.4.1 柱
a
b　帯筋の種別は下記による。
　H形
c　打増し補強は設計図による。

施設名	第2揚水機場（0312100-1100-19）
図面名	受電設備・除塵機格納庫（特記仕様書2/4）
作成年月	平成26年 3月
縮尺	－
図面番号	8-159/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所

7節　床版その他の配筋

5.7.1 床版
a 床版の配筋種別は設計図による。
c 床版開口部の補強は設計図による。
d その他の補強は設計図による。

9節　梁貫通孔その他

5.9.1 梁貫通孔の補強
貫通孔の補強形式及び配筋種別は下記による。
H

10節　ガス圧接

5.10.4 圧接完了後の検査
圧接部の検査は下記を適用する。
引張試験による検査

第6章　コンクリート工事

1節　一般事項

6.1.2 設計基準強度
コンクリートの設計基準強度Fc＝210kg／cm²

6.1.3 レディミクストコンクリートの類別
レディミクストコンクリートはI類とする。

6.2.2 骨材
a 粗骨材は原則として川砂利又は砕石を使用する。細骨材は川砂山砂又は海砂を使用する。海砂を使用する時は貝殻及び泥分を除去したものを使用する。
砕砂、又は高炉スラグ細骨材及び高炉スラグ砕石の使用については監督員の承認を受ける。
b 細骨材の含有塩分の許容値はNaCl換算で0.04%とする。
0.04%を超え、0.1％以下の場合は、水セメント比 55 以下とし、AE減水剤を使用する。

5節　普通コンクリートの製造、運搬及び打込

6.5.3 圧送機械等に排出するまでの取扱い
日本建築学会「コンクリートポンプ工法施工指針」による。
練りまぜ開始より打ち込み完了までの時間の限度は下記による。
（外気温25℃未満　90分）
（外気温25℃以上　60分）
打ち込み継続中における打ち継ぎ時間間隔の限度は下記による。
（外気温25℃未満　150分）
（外気温25℃以上　90分）

6.5.4 圧送及び工事現場内運搬
a ポンプ圧送距離は水平 200m以下、垂直40m以下を原則とし試し送りを行う。

9節　無筋コンクリート

6.9.4 適用箇所
適用箇所は下記による。
屋根防水押工
床配線ピット及び排水側溝

12節　試験

6.12.2 材料試験
コンクリートの塩化物含有試験、アルカリ骨材反応試験は、建設省住指発第142号を適用する。

13節　床コンクリートこて仕上げ

6.13.1 一般事項
適用範囲は下記による。

6.13.2 種別
仕上げの種別はA種とする。

14節　型枠

6.14.1 材料及び構造
c 型枠は下記の中から選定する。
1 コンクリート型枠用合板12㎜、日本農林規格 2種

6.14.2 組立て
J 長大スパンの梁、スラブの型枠は実情に応じてむくりをつけ、型枠取り外し後、下端が水平になるようにする。

6.14.3 コンクリートの打放し仕上
a 仕上げの種別は B 種とする。
b 工事に先立ち施工図を作成し、係員の承認をうける。施工図には、型枠の種類と割付、締め付け金物、コーンの割付、型枠接続部のの詳細、開口部の納まり、埋め込み金物の取り付け詳細などを記載する。
c 打放しコンクリートのかぶり厚さは床スラブを除き２０㎜増し打ちとする。
d 打ち放しコンクリートのせき板の締め付け金物はコーン付きのものとし、取外し後、コンクリートと同じ色合いの防水剤入りモルタルを充填する。
モルタル面は一般には面内とし、塗装などの厚さの薄い仕上げの下地ではコンクリート面と同一とする。

6.14.7 コンクリートの仕上がり
コンクリートの仕上がり精度の標準値は下記による。

精度項目	仕上・部位	許容差の標準値
コンクリート表面の平坦さ	化粧打ち放しの場合	3 ㎜につき 7 ㎜以下
	仕上げのある場合	2 ㎜につき 7 ㎜以下
目違い寸法	化粧打ち放しの場合	3 ㎜以下
	仕上げのある場合	5 ㎜以下
断面寸法	柱・梁	－5㎜～＋15㎜
	床スラブ・屋根スラブ	－0㎜～＋10㎜
	壁（耐震壁・外壁）	－0㎜～＋15㎜
	壁（間仕切り壁）	－5㎜～＋15㎜
	基礎	－10㎜～＋（規定せず）

第7章　鉄筋工事

1節　一般事項

7.1.2 鉄筋製作工場
a 鉄筋の製作工場は下記による。
製作工場：大臣認定Mグレード以上

7.1.4 施工管理技術者

2節　材料

7.2.1 鋼材
鋼材の材質は構造図特記事項による。

3節　工作一般

7.3.1 工作図
c 関西構造事務所協会編「鉄筋構造工作標準図」及び設計図による。

5節　溶接接合

7.5.8 溶接完了後の検査
a 突き合わせ溶接部　超音波探傷検査　（判定・学会基準）
第3者30％ 工場 70％

6節　塗装

7.6.1 塗装
c 防錆塗料は下記のいずれかとし、監督員と協議の上決定する。
1 鉛丹防錆ペイント　JIS K 5622　1種

8節　工事現場施工

7.8.1 定着
b アンカーボルトの埋め込み工法の種別は A 種とする。
d 柱脚ならしモルタルは原則として後詰めとし、無収縮モルタルを使用する。無収縮モルタルは下記による。
品名：
メーカ：

柱脚ならしモルタル工法の種別は A 種とする。
e 柱脚固定用金物は下記による。
品名：　メーカ：

7.8.2 搬入及び建方
b 建方精度は日本建築学会「鉄骨精度検査基準」による。

第8章　ブロック・ALCパネル・PCカーテンウォール工事

5節　ALCパネル

8.5.2 ALCパネル
a パネルは JIS A 5416 第1種とし、製品は下記による。
品名：
メーカ：
品種：
工法：

パネルの施工は原則としてメーカの指定する専門業者の責任施工とする。

8.5.3 金物
a 取り付け金物は JIS規格品又はパネルメーカの指定品とし、使用箇所に応じ適当な形状、寸法のもので充分な強度を有するものを使用する。

8.5.4 その他の材料
a 目地モルタルは配合1：3とし、メチルセルローズ 0.1%（重量比）を混和する。
d シーリング材の材質、形状、寸法はパネルメーカの仕様による。
目地シーリング前に専用プライマー処理をする

8.5.7 外壁パネル工法
a 工法の種別は D 種とする。
h

第9章　防水工事

1節　アスファルト防水

9.1.2 種別及び工程

種別 用途	工法	共通仕様書番号		メーカ仕様書番号	施工箇所
	密着工法	A－1	A－2		屋根
歩行用					

9.1.4 工法
b デッキプレート下地面は片面乾燥になるのを避けるため、デッキプレートにφ10㎜程度、間隔300 ㎜程度の穴をあける。

9.1.5 保護層など
d 既製伸縮目地材は下記による。
品名：
メーカ：

9.1.6 検査
a アスファルト防水工事は専門業者の施工とし、業者は施工要領書、メーカの防水材料品質証明書を作成して監督員に提出する。
b 下記の部位は施工完了後、監督員立会いのもとに水張り試験を行い、漏水のないことを確認する。
水張り試験を行う部位：屋根

9.1.7 保証書
請負者は防水施工者と連名で年限保証する。
保証年限は１０年とする。

第14章　金属工事

14.2.3 鉄の亜鉛めっき
a 鉄の亜鉛めっきの類別は A 類とする。
溶融亜鉛めっきの付着量　雨がかり部 550g／m²以上（A種）
その他　350g／m²以上（C種）
電気亜鉛めっきの皮膜厚の種別は A 種とする。
b 亜鉛めっき面の試験：

9節　既製金物

名称	仕様、品番、形状、寸法
マンホール グレーチング 配管、排水ピット パラペット金属笠木	設計図による。

10節　製作金物

名称	材質　形状　寸法　その他
ラダー 防護柵	設計図による。

第15章　左官工事

3節　モルタル塗り

15.3.3 工法
a 壁の既成目地材は下記による。
メーカ：
品名：

15.7.2 ロックウール吹付け
JIS A 9504による1号又は2号とする。　密度　kg/m³
品名　工法：　厚さ：20㎜
メーカ：

第16章　建具工事

1節　一般事項

16.1.5 品質管理
a 鋼材等の品質検査は製作工場の検査報告書の提出をもってこれにかえ、製作組立の完了した製品は製作工場が検査を行う。
製作工場の検査完了後、原則として監督員立会いの上請負者が工場にて製品検査を行い、検査報告書を提出して監督員の確認を受ける。
b 本付け後、全ての関連工事の終了、調整ののち、全数に渡り検査を行い、記録書又は報告書を提出して監督員の確認、検査を受ける。

2節　アルミニウム製建具

16.2.1 総則
a 共通仕様書及びメーカ標準仕様による。

16.2.2 建具の性能など
16.1.1による。

16.2.3 材料
共通仕様書及びメーカ標準仕様による。
a 部材の表面処理は 14.2.2 により行う。
表面処理：

養生用クリヤーは 14.2.2 により行う。
規格サッシの表面処理はメーカ仕様により選定する。

16.2.4 工法
a 水切板、胴板の有無は設計図による。
c 取付工法：工場先付工法

16.3.2 材料
a 鋼板は原則として仕上げ板、下地材共、鋼酸塩その他の化成処理済み鋼板（ボンデ鋼板など）を使用する。
外部木掛かりの鋼板は表面処理亜鉛メッキ鋼板（ボンデ亜鉛鋼板など）を使用する。
b 特記する鋼板の厚さ：
c パッキング材、モヘヤーなどの気密材は耐候性、耐久性に優れた合成樹脂製品とする。

7節　鋼製シャッター

16.7.1 形式及び機構

種別	開閉方式	操作方式	材質	付属装置
重量 防火	電動（手動併用）	個別	スラット ガイドレール スイッチボックス ハンドルボックス シャッターケース	水圧開放

10節　建具用金物

16.10.2 一般事項
e マスターキーの有無は下記による。
グループ数、グランドマスターキーなどは監督員の指示による。
有　無
f キーボックスは下記による。
有　無　本用
メーカ：
g 鍵は各錠毎に3個ずつとし、1個ずつ室名札をつけ、目録書を添えキーボックスに収納して、監督員立会いのもと注文者に提出する。

16.10.4 取付け工法
a 取付け位置

施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)
図面名	受電設備・除塵機格納庫(特記仕様書3/4)
作成年月	平成26年 3月
縮尺	－ / 図面番号 8-160/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所

11節　ガラス

16.11.1 材料　ガラスの厚みは、建基法施工令第87条及び建告第 109号による。

第17章　塗装工事

1節　一般事項

17.1.1 総則
a　ＪＩＳ表示許可工場製品とし、内壁、天井仕上は基材同等認定品とする。
　ＥＰは低臭耐汚染アクリルエマルジョンタイプとする。
e　各塗装種別ごとの仕上がり見本および、塗装工程、使用材料表を作成し、監督員の承認を受ける。見本板は、実物下地に応じたものとする。
p　塗装施工業者は日本塗装工業会会員とする。
　塗装業者：

2節　素地ごしらえ

17.2.2 鉄面の素地ごしらえ　鉄面の素地ごしらえは Ｃ 種とする。

17.2.3 亜鉛めっき面の素地ごしらえ　亜鉛めっき面の素地ごしらえは Ｃ 種とする。

17.2.4 モルタル及びプラスター面の素地ごしらえ　モルタル及びプラスター面の素地ごしらえは Ｂ 種とする。

17.2.5 コンクリート及びＡＬＣパネル面の素地ごしらえ　コンクリート及びＡＬＣパネル面の素地ごしらえは Ｂ 種とする。

17.2.6 石こうボード及びその他ボード面の素地ごしらえ　石こうボード及びその他ボード面の素地ごしらえは Ｂ 種とする。

3節　さび止め塗料塗り

17.3.1 塗料種別
a　防錆塗料は下記のいずれかとし、監督員と協議の上決定する。
　1　鉛丹防錆ペイント　JIS K 5622　1種

17.3.2 さび止め塗料塗り
a　鉄面の防錆塗料塗りは Ｂ 種とする。
b　亜鉛めっき面の防錆塗料塗りは Ｂ 種とする。

4節　合成樹脂調合ペイント塗り

17.4.1 塗料種類　屋外 2 種　　屋内 1 種

17.4.3 鉄面調合ペイント塗り　Ｂ 種

5節　合成樹脂エマルジョンペイント塗り

17.5.2 合成樹脂エマルジョンペイント塗り　Ｂ 種

Ⅲ 電気設備工事

第1章　一般事項

1.技能士　本工事の施工にあたっては、別に示す一覧表により技能士を現場に常駐させるものとする。

2.保証書　本工事の施工にあたっては、下記に定める項目については、保証書を提出し保証期間を明記するものとする。

3.近隣対策　本工事にあたっては、下記の近隣住民および、官庁との事前協議事項を遵守するものとする。

4.負担金　本工事にあたっては、下記に定める項目に要する費用を負担するものとする。

5.提出書類等　本工事の施工にあたり、下記に定める図書等（番号に○印を付したもの）を工事管理者に提出して承認を受けるものとする。工事監理者は下記に定めるもののほか、必要な図書等の提出と承認を求めることがある。

番号	提出書類	期　限	部　数	備　考
①	補足工程表	工事着工 日前	部	工事名
②	現地説明調査書	工事着工 日前	部	電力、TV
③	官公庁打合せ記録書	工事着工 日前	部	内容
④	施工計画書	当該工事着工 日前	部	内容
⑤	機器試運転調整記録	その都度	部	
⑥	法定試験検査記録	その都度	部	製造工程上の検査
⑦	保守用具及び器材	竣工時		内容、品名記入
⑧	その他			

6.施工図等　本工事の施工にあたり、下記に定める施工図等（番号に○印をしたもの）を工事監理者に提出して承認を受けるものとする。工事監理者は下記に定めるもののほか、必要な施工図等の提出と承認を求めることがある。

番号	提出施工図等	提出期限	部数
①	配管・配線の平面、立面施工図	施工前	部
②	主要機器の据付基礎工図	施工前	部
③	分電盤、動力盤等の取付詳細図	施工前	部
④	動力源への接続詳細図	施工前	部
⑤	照明器具の取付図	施工前	部
⑥	フロアーダクト平面、立面施工図	施工前	部
⑦	主要機器の平面基礎取付図	施工前	部
⑧	アンテナ設置詳細図	施工前	部
⑨	ハンドホール埋設工事施工図	施工前	部
⑩	建物との接続及び建柱施工図	施工前	部
⑪	電気通フレームパイプ組立て施工図及び各種詳細図	施工前	部
⑫	消費電気設備計算書	施工前	部
⑬	外灯建柱施工図	施工前	部
⑭	各壁貫通スリーブ図	施工前	部
⑮	金物加工組立図	施工前	部
⑯	各機器の架台図	施工前	部
⑰	機器搬入計画図	施工前	部
⑱	避雷針施工図	施工前	部

第2章　各種工事

1.共通事項
・本工事の施工に当たっては下記による。
1 原則として電線管（鋼管）及びケーブル配線工事とする。
2 ねじなし電線管（E管）を使用しても良い。
3 最上階のスラブでモルタル防水及び断熱防水の場合において、埋込配管は避けるのを原則とする。
4 電線で特記なきものは、１Ｖとする。
5 非常照明器具の位置ボックスについて電源引渡方式のものは、一般用及び非常用の位置ボックスを設ける。
6 耐火電線の接続部は、耐火処理を行うこと。
7 通信配管については、ローテンションアウトレット、壁付ボックスより、卓上機器等に至る所要線は、ビニールプロテクターに収容する。
8 盆配管には呼び線（ビニール被覆 1.2㎜鉄線）を管内全線挿入する。
9 露出する配管、ボックス類は、すべて指定色塗装を施す。

・管理一般、本工事のプルボックスは下記の要領で製作する。
1 点検用開放部分の一辺が80㎝をこえるものは、２枚以上に分割すること。
2 天井内及び床上 3m以上の部分その他作業上支障のない部分に設けるプルボックスは、その開放部分は十番ネジとし、止めネジは化粧ネジを用いること。
3 高温度にさらされる場所、雨水のあたる場所では防水用パッキンを介して締めつけ雨水が侵入しないようにすること。
4 開放部分に用いるビスは、化粧ネジの袖部径 6㎜以上のメッキされたネジを用いること。
5 プルボックスの内面は、３回塗り絶縁塗装を行うこと。

・本工事の器具類の取付位置は、特記なきかぎり下記寸法を標準とする。

1 スイッチ、コントローラー	中心床面	＋	1,300 ㎜
2 コンセント、テレビ受口、電話受口	中心一般床面	＋	300 ㎜
3 コンセント、テレビ受口、電話受口	中心和室床面	＋	200 ㎜
4 ミラーライト	中心鏡上端	＋	200 ㎜
5 壁付スピーカー	上端天井面	－	150 ㎜
6 時計	上端天井面	－	150 ㎜
7 埋込盤分電盤	上端床上	＋	1,800 ㎜

・プレート、本工事のプレート類は、下記の表に○印を付したものを採用する。

種別	材質	丸形		角形		
		壁	ノズル	器具付	壁	ノズル
スイッチ				○		
コンセント				○		
電話						
放送						
時計						
テレビ						
呼び出し表示						

備考　1.材質記号　A 黄銅製　Ⓑ ステンレス（厚0.8 ㎜）
C プラスチック（樹脂）　D カラープラスチック
E アルミ合金（耐食）　F カラーステンレス
G ガラス繊維強化メラミン樹脂
2.壁、ノズル及び指示されたプレートには、種別、記号名称を刻入する。

6.動力設備
工事概要
動力盤　形式　壁掛型
設置位置　屋内
操作位置　屋内
制御方法　手動、自動
電線管　ネジナシ電線管
電線　600Vビニル電線

9.照明コンセント設備
工事概要　分電盤以降全工事
分電盤　盤内露出型
照明器具　水銀灯、蛍光灯
スイッチ　図示による
コンセント　図示による
器具スイッチ構造　タンブラスイッチ

放電灯の点灯方式及び力率

器具種別	ラピッドスタート	グロースタート	高力率	低力率	定電力
蛍光灯 40W以下	○		○		
蛍光灯 30W以下					
ホームライト					
水銀灯			○		
ナトリウム灯					

Ⅴ 機械設備工事

第1章　一般事項

1.技能士　本工事の施工にあたっては、別に示す一覧表により技能士を現場に常駐させるものとする。

2.保証書　本工事の施工にあたっては、下記に定める項目については、保証書を提出し保証期間を明記するものとする。

3.近隣対策　本工事にあたっては、下記の近隣住民および、官庁との事前協議事項を遵守するものとする。

4.負担金　本工事にあたっては、下記に定める項目に要する費用を負担するものとする。

5.提出書類等　本工事の施工にあたり、下記に定める図書等（番号に○印を付したもの）を工事管理者に提出して承認を受けるものとする。工事監理者は下記に定めるもののほか、必要な図書等の提出と承認を求めることがある。

番号	提出書類	期　限	部　数	備　考
①	補足工程表	工事着工 日前	部	工事名
②	現地説明調査書	工事着工 日前	部	給水、ガス
③	官公庁打合せ記録書	工事着工 日前	部	内容
④	施工計画書	当該工事着工 日前	部	内容
⑤	機器試運転調整記録	その都度	部	
⑥	法定試験検査記録	その都度	部	製造工程上の検査
⑦	保守用具及び器材	竣工時		内容、品名記入
⑧	その他			

6.施工図等　本工事の施工にあたり、下記に定める施工図等（番号に○印をしたもの）を工事監理者に提出して承認を受けるものとする。工事監理者は下記に定めるもののほか、必要な施工図等の提出と承認を求めることがある。

工事名	番号	提出施工図等	提出期限	部数
給排水衛生設備	①	躯体図(壁貫通スリーブ図)	着工 日前	部
	②	全工程表	着工 日前	部
	③	配管施工図	着工 日前	部
	④	機器基礎図	着工 日前	部
	⑤	機器据付施工図	着工 日前	部
	⑥	機器配管施工図	着工 日前	部
	⑦	機器配線施工図	着工 日前	部
	⑧	機器据付基礎工事施工図	着工 日前	部
	⑨	計装配管図	着工 日前	部
	⑩	機器銘板表示図	着工 日前	部
	⑪	水位検出計施工計画図	着工 日前	部
	⑫	水位検出計施工図	着工 日前	部
	⑬	水位検出計取付図	着工 日前	部
	⑭	水位検出計架台図	着工 日前	部
	⑮	水位検出気施工図	着工 日前	部
	⑯	さく井施工図	着工 日前	部
	⑰	さく井装置図	着工 日前	部
空気調和設備	①	躯体図(壁貫通スリーブ図)	着工 日前	部
	②	全工程表	着工 日前	部
	③	配管施工図	着工 日前	部
	④	ダクト施工図	着工 日前	部
	⑤	機器基礎施工図	着工 日前	部
	⑥	機器据付施工図	着工 日前	部
	⑦	機器配線施工図	着工 日前	部
	⑧	機器据付基礎工事施工図	着工 日前	部
	⑨	計装配管図	着工 日前	部
	⑩	機器銘板表示図	着工 日前	部

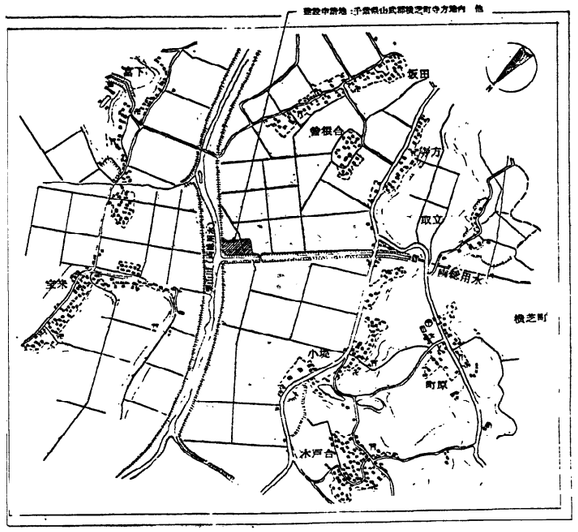
第2章　給排水衛生設備工事

1.共通事項
防火対象物の区分（消防法施工令第６条）
耐震設計
防蝕方法

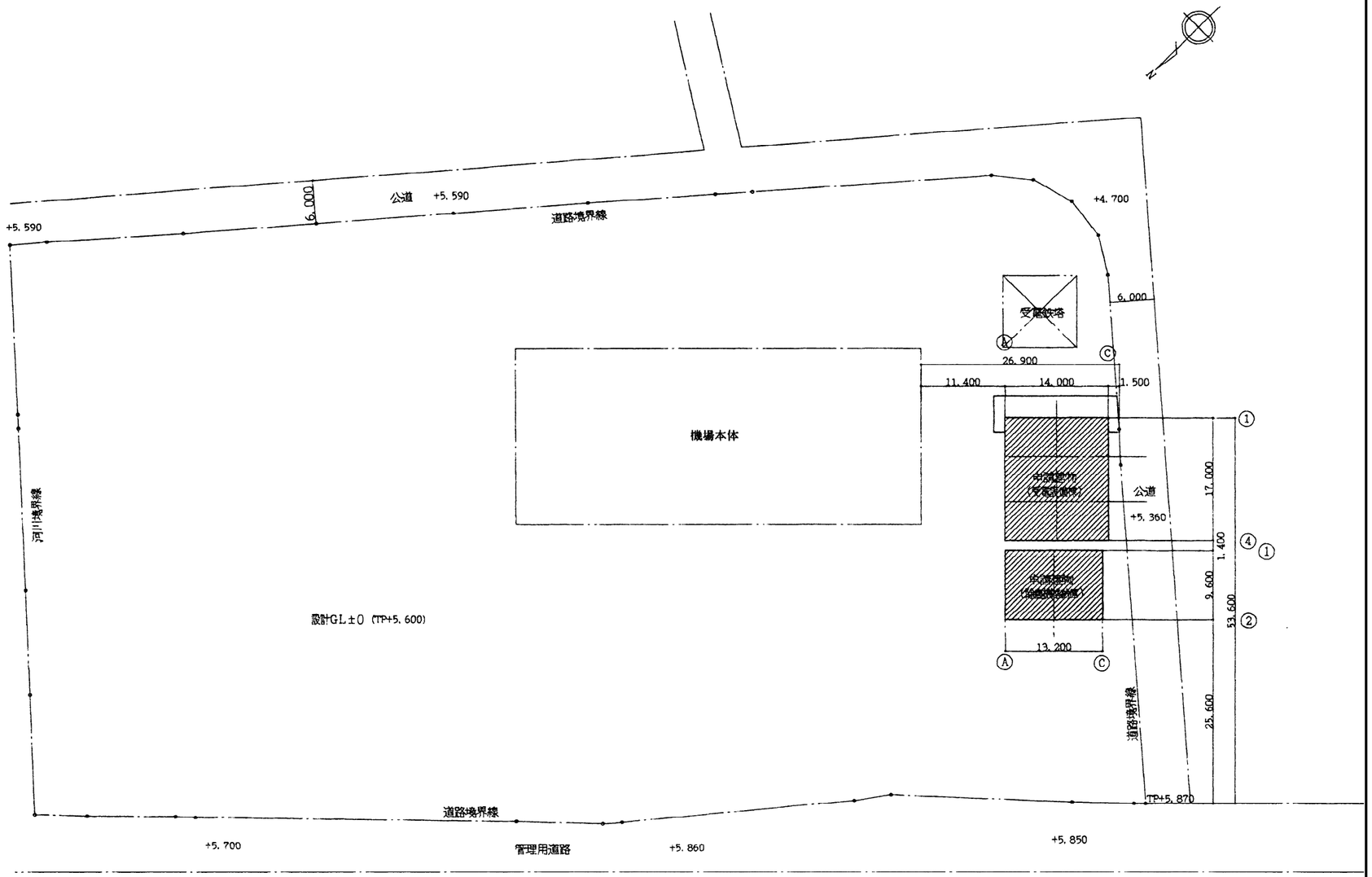
2.給水設備
工事概要
水源種別　プラント用冷却水
給水方式　井戸用ポンプで直圧給水
施工注意　地中埋設管深度は共通仕様書によること。既存地にあっては、凍結深度以下とする。

第４章　メーカーリスト

施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)
図面名	受電絵設備・除塵機格納庫(特記仕様書4/4)
作成年月	平成26年 3月
縮尺	－
図面番号	8-161/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所



案内図　1/25000



配置図　1/500

施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	案内図配置図		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 1:500 A2 1:707	図面番号	8-162/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所		

外部仕上表

	受電設備	除塵機格納庫
屋根	アスファルト防水コンクリート金コテ押エ目地切　防護柵（溶融亜鉛メッキ）　H＝1，200	アスファルト防水コンクリート金コテ押エ
パラペット	笠木：カラーステンレス　SUS304　梯子フック@2，200（溶融亜鉛メッキ）	笠木：　ステンレス　SUS304
外壁	ALC横貼ア100　弾性アクリル吹付タイル　ステンレスラダー（背籠付）SUS304　碍子引留金具@2，200（溶融亜鉛メッキ）	ALC横貼ア100　弾性アクリル吹付タイル
腰壁	鉄筋コンクリート打放シ弾性アクリル吹付タイル	鉄筋コンクリート打放シ弾性アクリル吹付タイル
樋	竪樋：硬質塩ビ100φ　VP	竪樋：硬質塩ビ100φ　VP
建具	電動重量シャッター（水圧開放装置付）　スチールフラッシュドア	電動重量シャッター　スチールフラッシュドア　アルミサッシ

内部仕上表

場名	床	仕上厚	巾木	高さ	腰壁	壁	天井	天井高	備考
受電設備	コンクリート金鏝押エ　防塵塗装	－	コンクリート打放シ（目地分れ）	100	コンクリート打放シ	ALCアラワシ	デッキプレート下吹付ロックウールァ20	－	配線ピット　蓋：CHPLア4．5　OP　スチールネットフェンス　H=2，000
除塵機格納庫	コンクリート金鏝	－	コンクリート打放シ		コンクリート打放シ	ALCアラワシ	デッキプレート下　OP	－	側溝W=200　蓋：グレーチング　集水マス450X450　グレーチング付

面積表

受電設備

床面積	238．00㎡
17．00X14．00=238．00	
建築面積	238．00㎡

除塵機格納庫

床面積	126．72㎡
9．60X13．20=126．72	
建築面積	126．72㎡

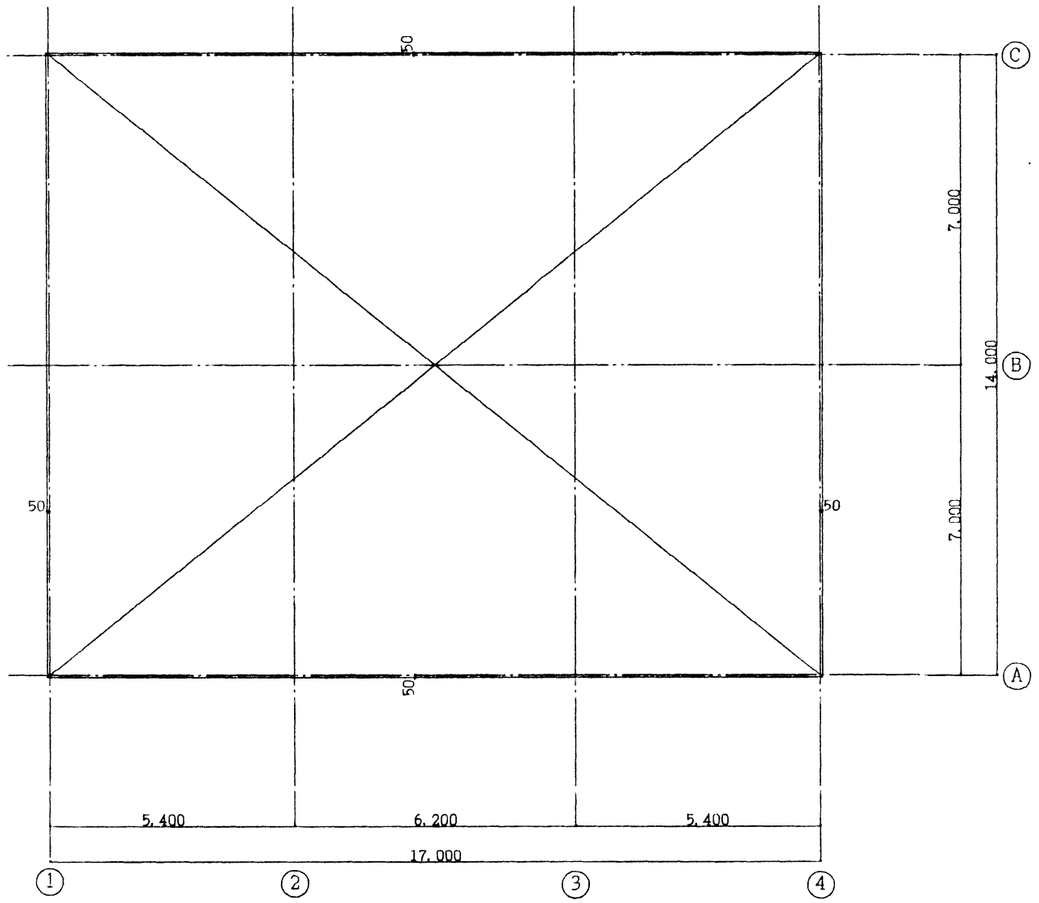
無窓階のチェック

受電設備

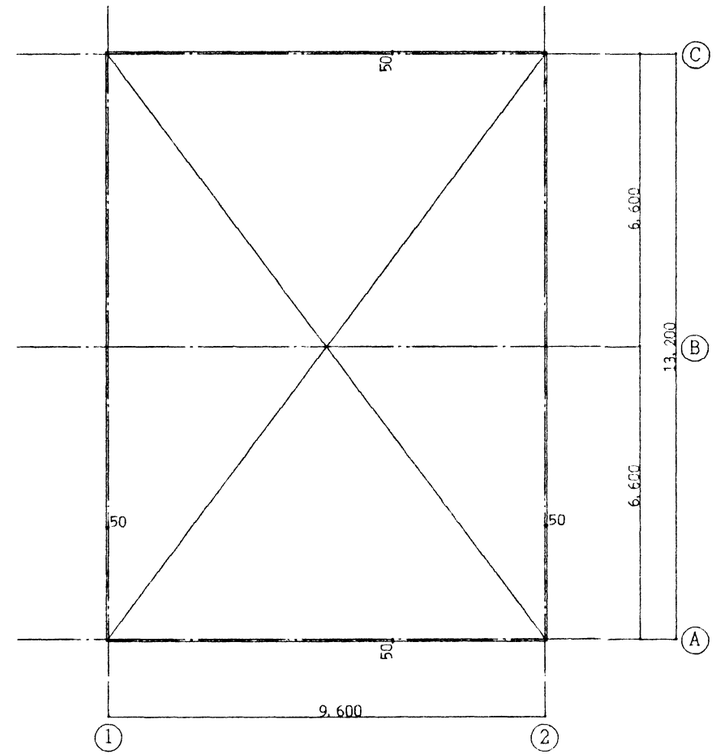
床面積	238．00㎡	
開口面積	5．00X5．15=25．75	
無窓階チェック	238．00/30=7．933	
有効開口	25．75)7．933	∴OK

除塵機格納庫

床面積	126．72㎡	
開口面積	1．0X1．1X4=4．40	
無窓階チェック	126．72/30=4．224	
有効開口	4．40)4．224	∴OK

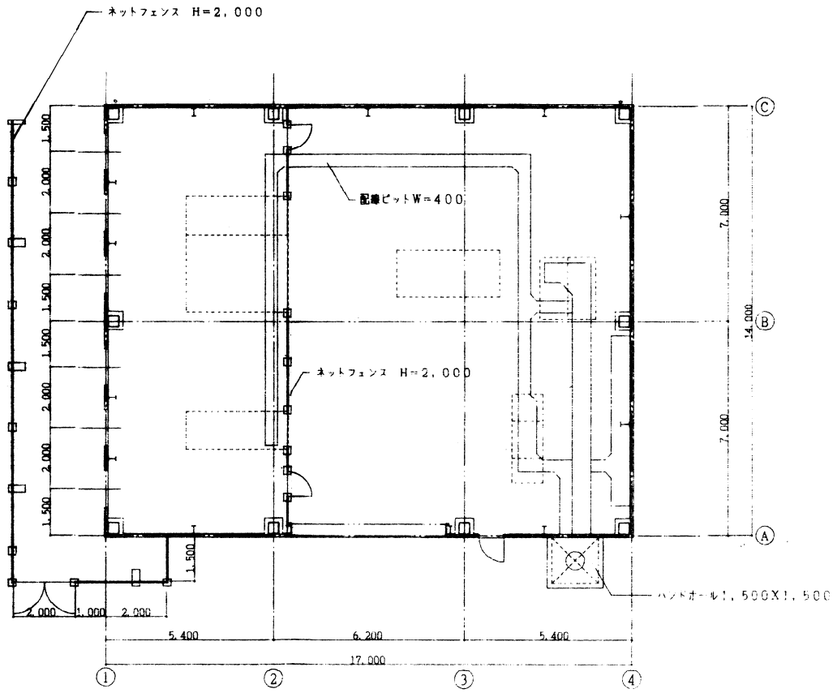


受電設備求積図　1/100

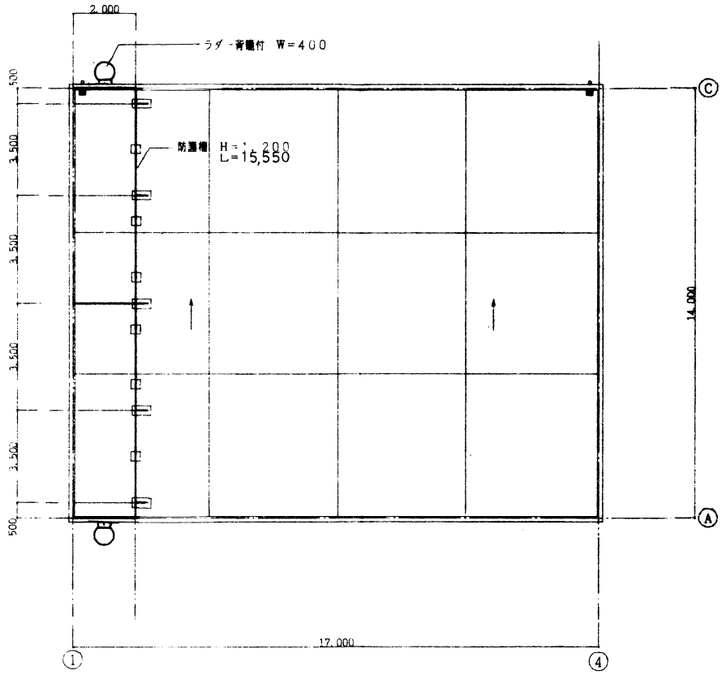


除塵機格納庫求積図　1/100

施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	受電設備・除塵機格納庫(仕上表・面積表)		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 1:100 A2 1:141	図面番号	8-163/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所		

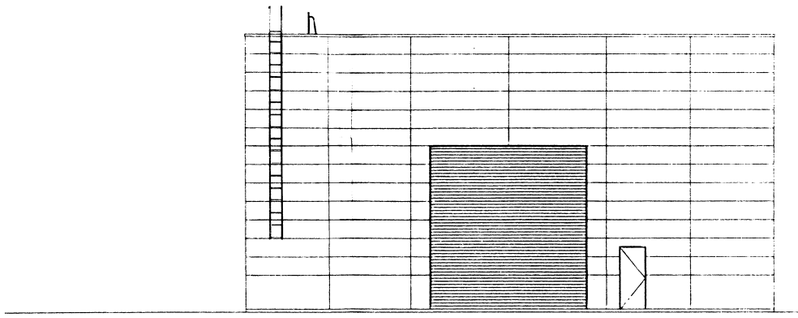


平面図 1/100

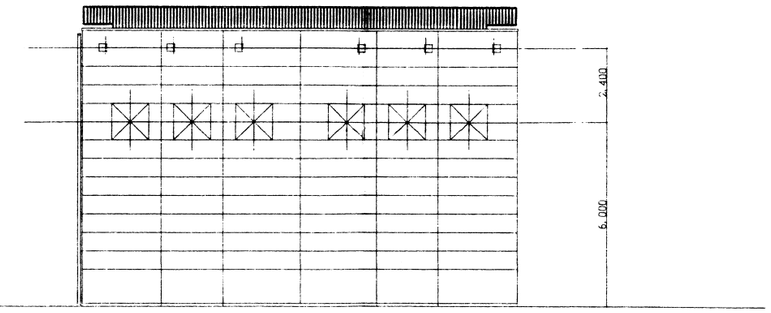


屋根伏図 1/100

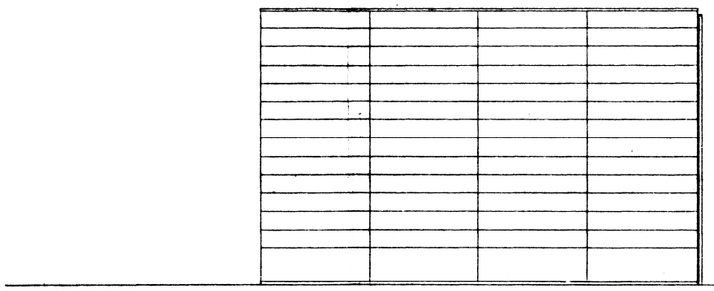
施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	受電設備平面図・屋根伏図		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 1:100 A2 1:141	図面番号	8-164/319
作成者	関東農政局 両総農業水利事業所		



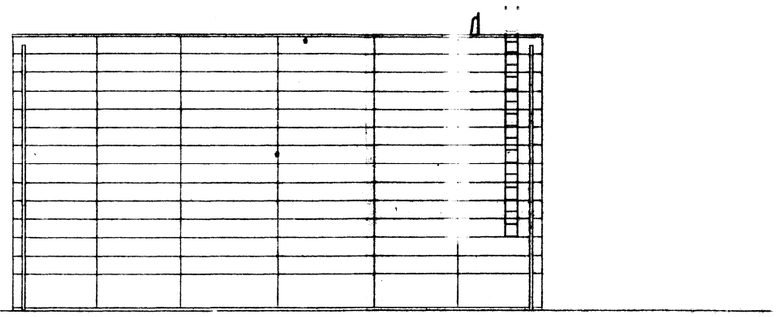
東立面図　1/100



南立面図　1/100

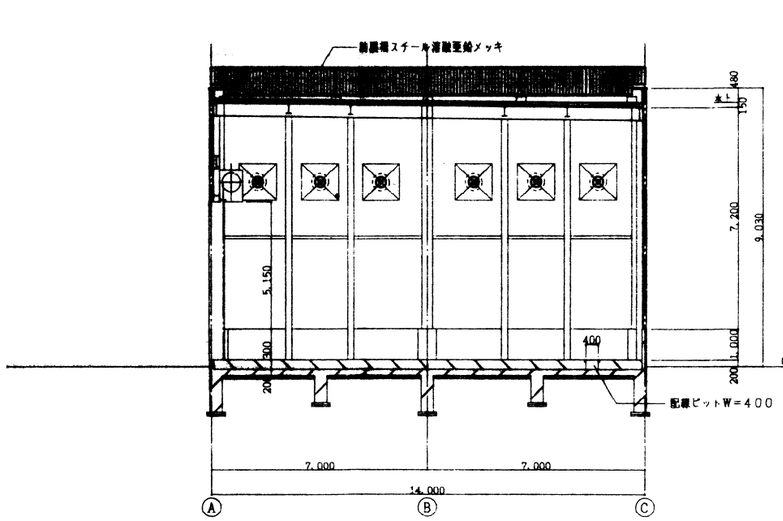


北立面図　1/100

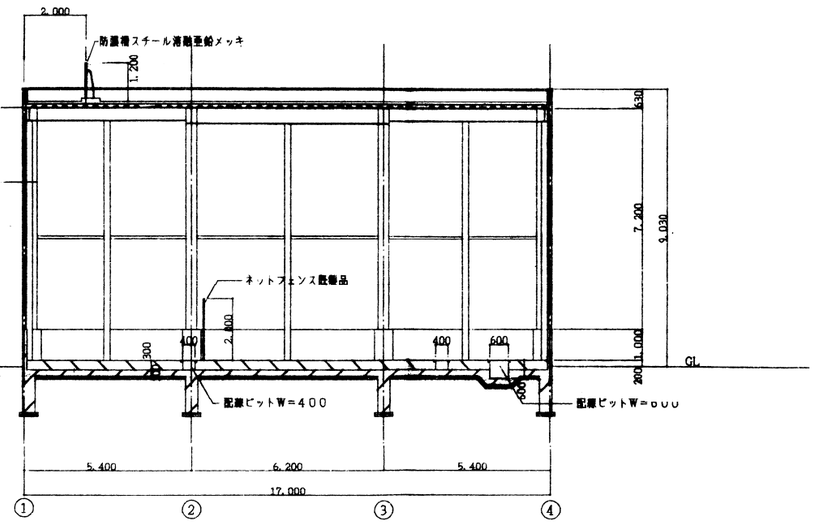


西立面図　1/100

施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	受電設備立面図		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 1:100 A2 1:141	図面番号	8-165/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所		

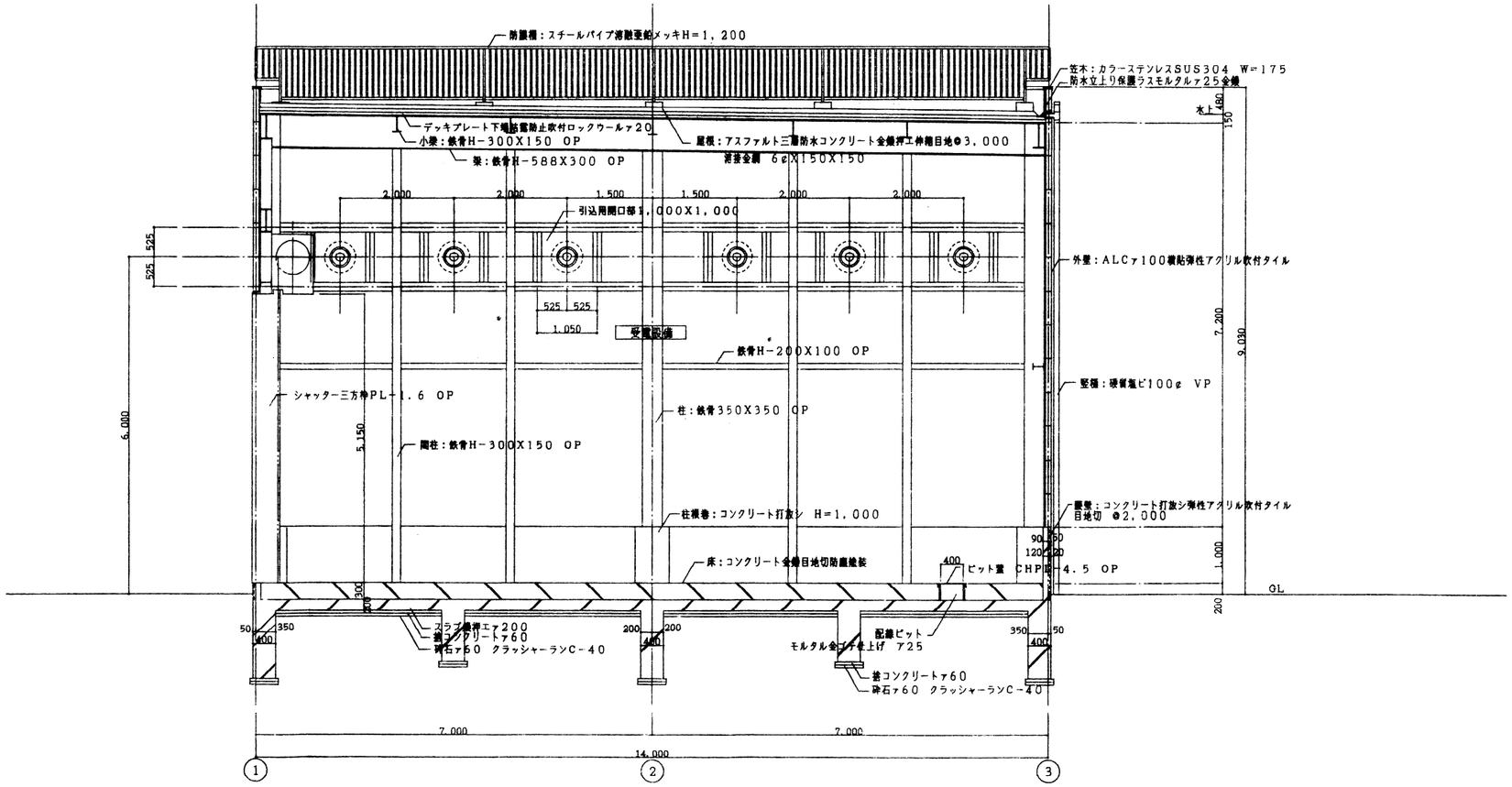


Y－Y断面図 1/100



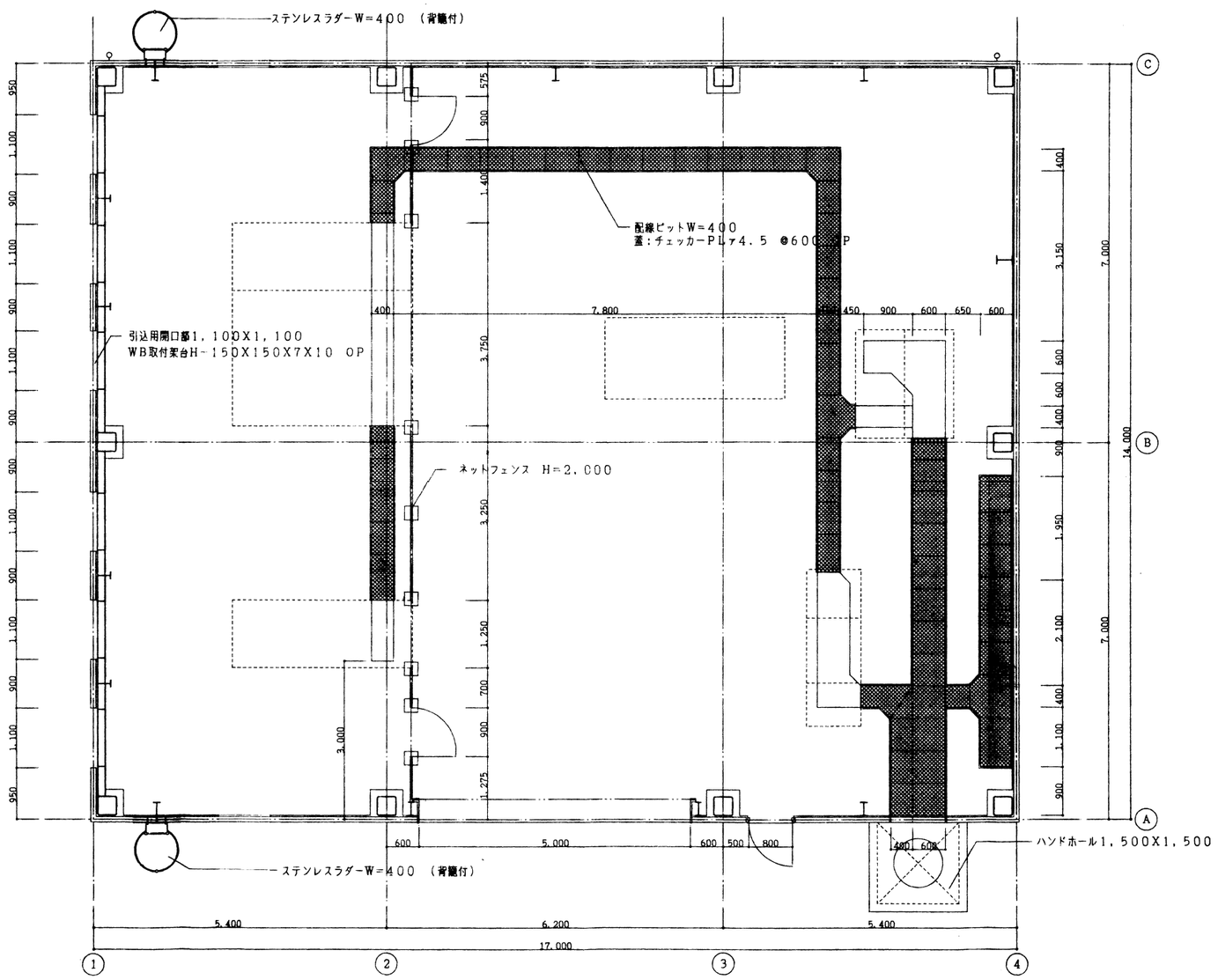
X－X断面図 1/100

施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	受電設備断面図		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 1:100 A2 1:141	図面番号	8-166/319
作成者	関東農政局 両総農業水利事業所		



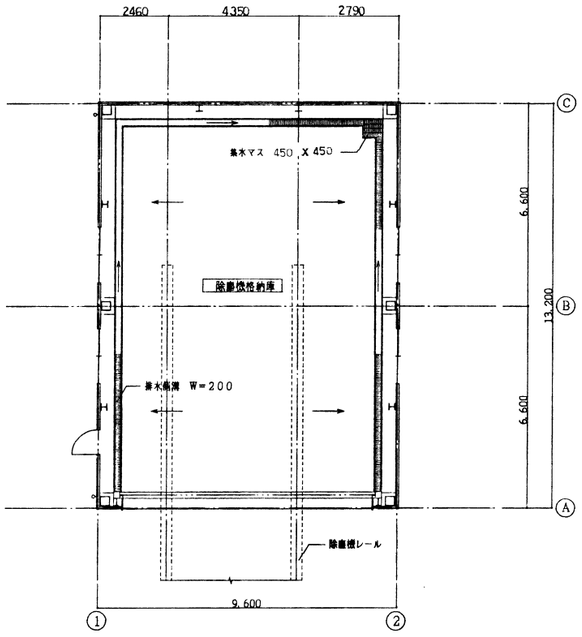
断面詳細図 1/50

施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	受電設備断面詳細図		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 1:50 A2 1:70	図面番号	8-167/319
作成者	関東農政局 両総農業水利事業所		

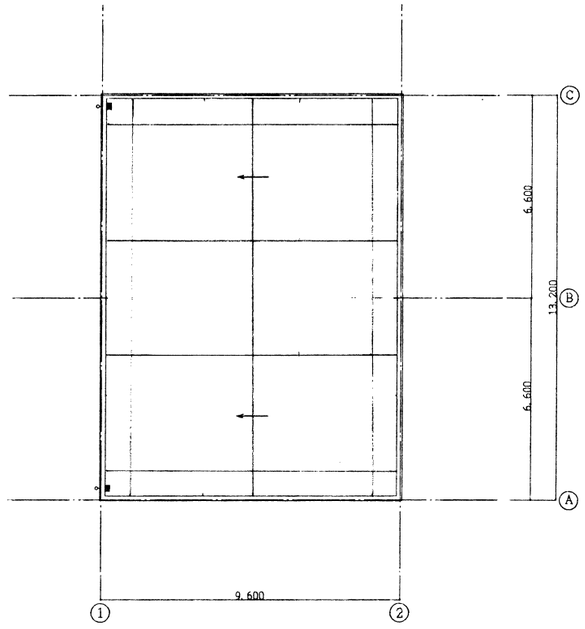


平面詳細図 1/50

施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	受電設備平面詳細図		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 1:50 A2 1:70	図面番号	8-168/319
作成者	関東農政局 両総農業水利事業所		

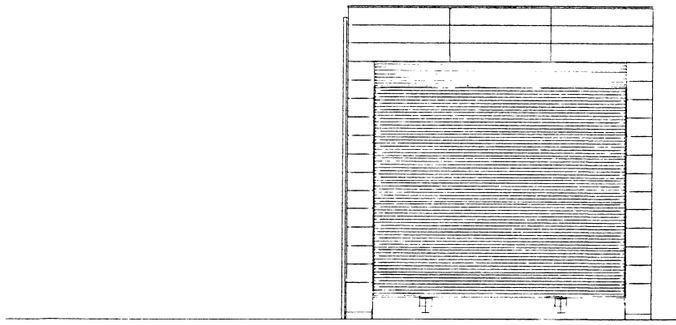


平面図　1/100

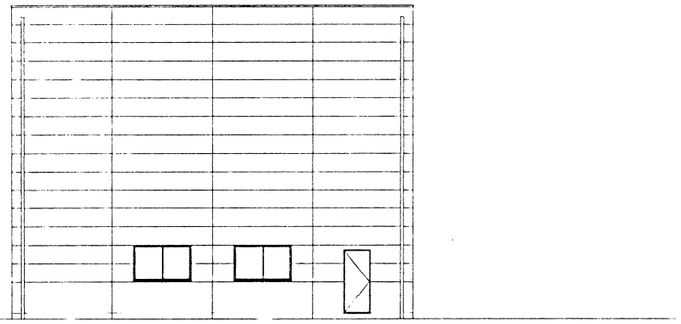


屋根伏図　1/100

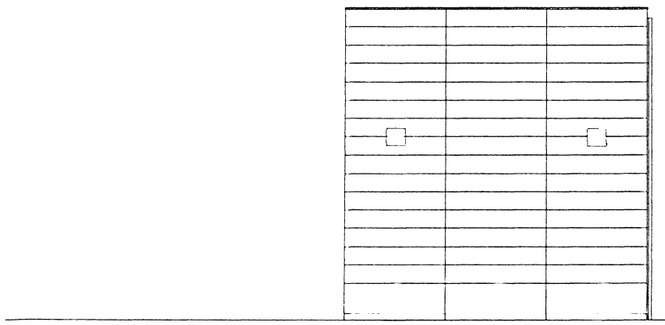
施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	除塵機格納庫平面図・屋根伏図		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 1:100 A2 1:141	図面番号	8-169/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所		



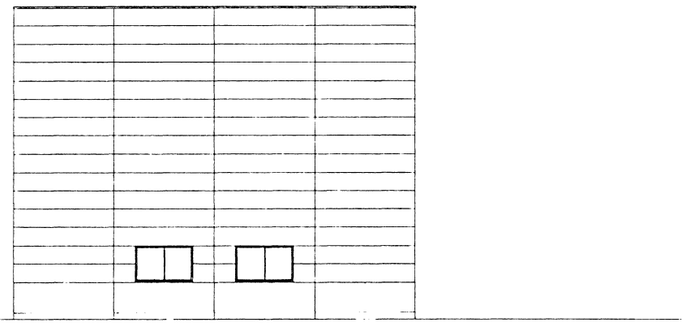
東立面図　1/100



南立面図　1/100

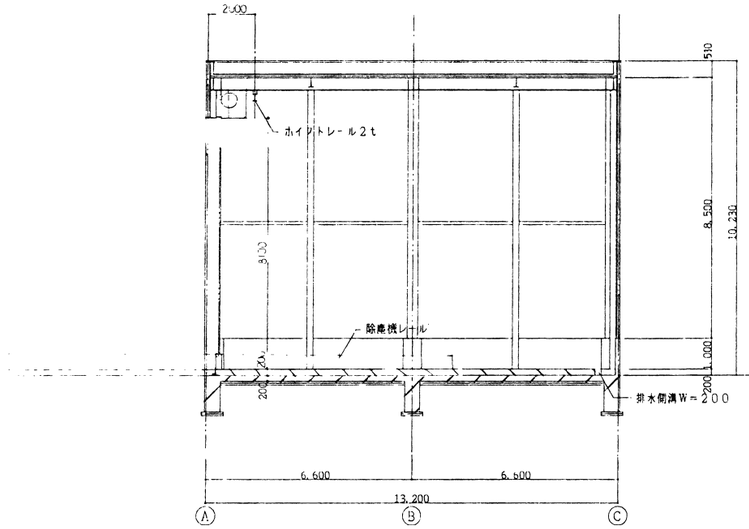


西立面図　1/100

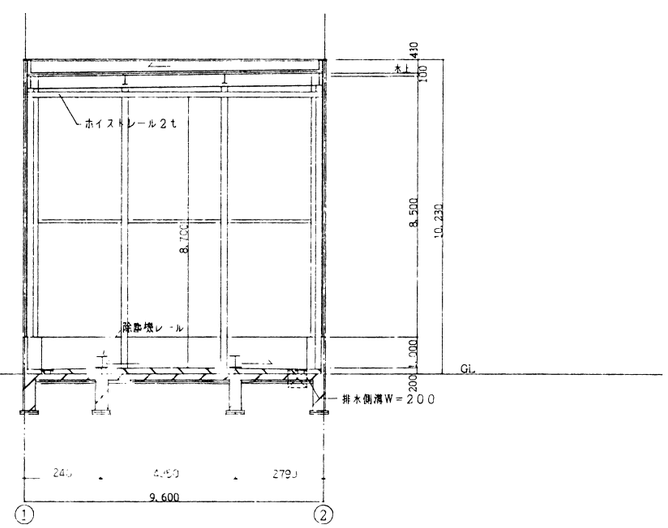


北立面図　1/100

施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	除塵機格納庫立面図		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 1:100 A2 1:141	図面番号	8-170/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所		

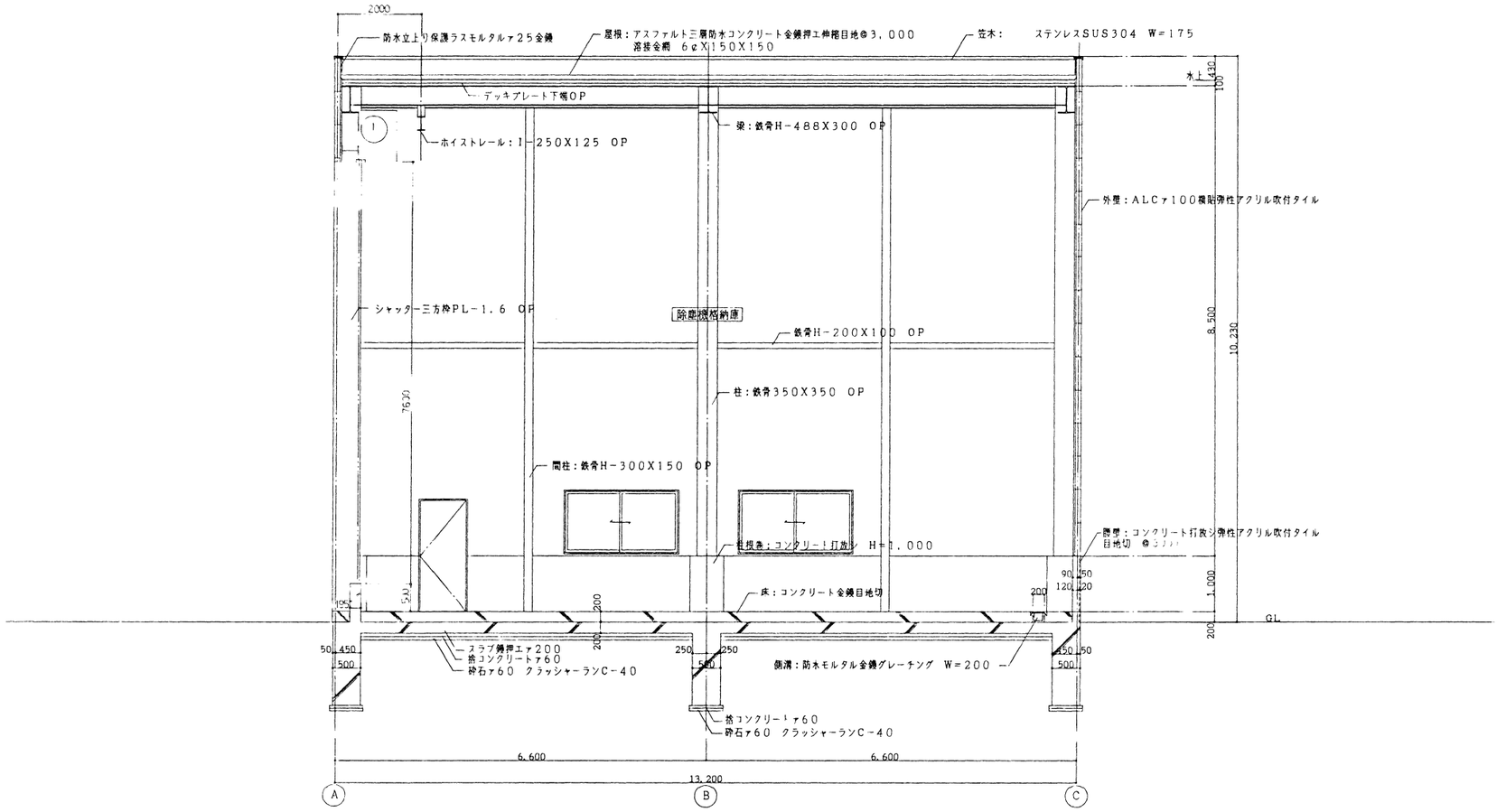


Y－Y断面図　1／100



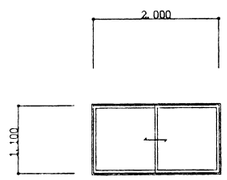
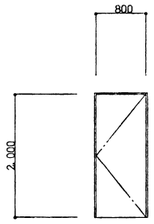
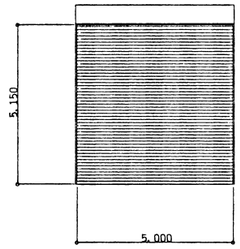
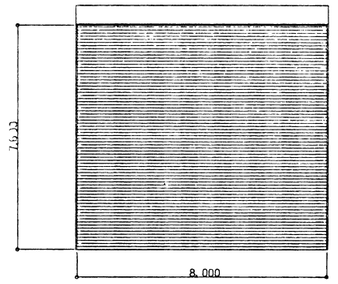
X－X断面図　1／100

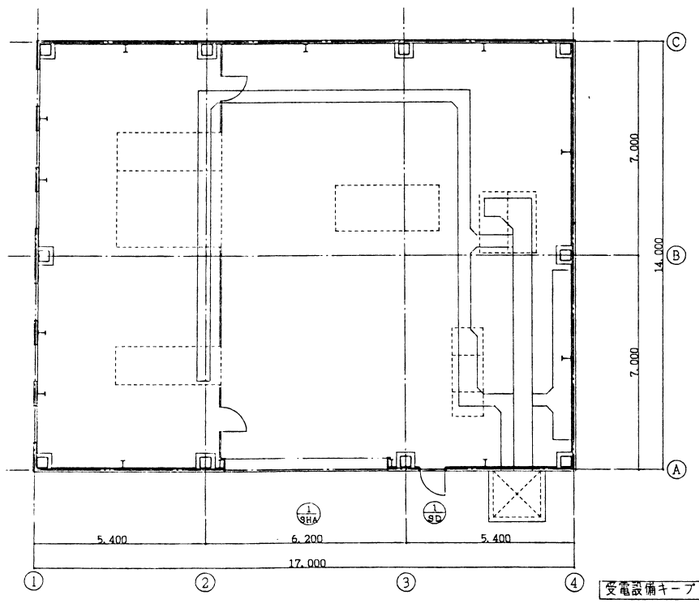
施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	除塵機格納庫断面図		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 1:100 A2 1:141	図面番号	8-171/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所		



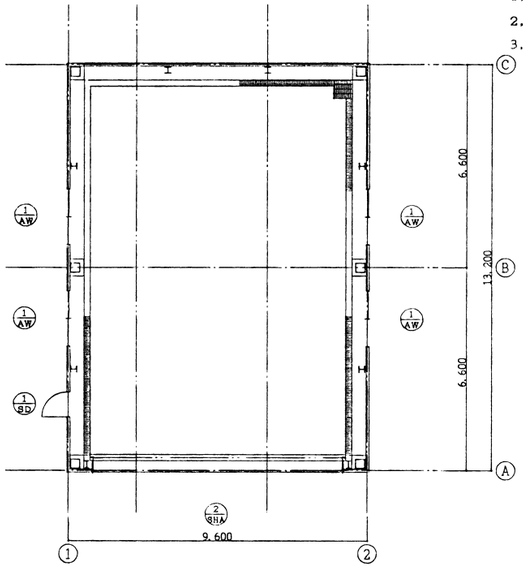
断面詳細図 1/50

施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	除塵機格納庫断面詳細図		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 1:50 A2 1:70	図面番号	8-172/319
作成者	関東農政局 両総農業水利事業所		

記号・名称・個数	(1/AW) アルミ製引違い窓	4	(1/SD) アルミ製片開きフラッシュ扉	2	(1/SHA) スチール電動重量シャッター	1	(2/SHA) スチール電動重量シャッター	1
姿　図					 1/100		 1/100	
取付場所	除塵機格納庫		受電設備・除塵機格納庫		受電設備		除塵機格納庫	
建具仕上・建具厚	アルミ電解着色		スチール　OP		スラット　スチールｔ1．6　OP		スラット　スチールｔ1．6　OP	
枠仕上・枠見込	アルミ電解着色	70	スチール　OP	100	ガイドレール　SUS304　ｔ1．5HL		ガイドレール　SUS304　ｔ1．5HL	
硝　子	網入型ガラスｔ6．8							
付属金物	付属金物一式		丁番・DC・シリンダー本錠り錠		マグサ　座板　SUS304　ｔ1．5HL		マグサ　座板　SUS304　ｔ1．5HL	
各　部			SUS304ｔ2．0					
備　考	アルミ水切板・アルミ額縁		スチール三方枠　OP　水切　SUS304ｔ2．0		シャッターボックス　スチールｔ1．6　OP　水圧開放装置付		シャッターボックス　スチールｔ1．6　OP	



受電設備キープラン　1/100



除塵機格納庫キープラン　1/100

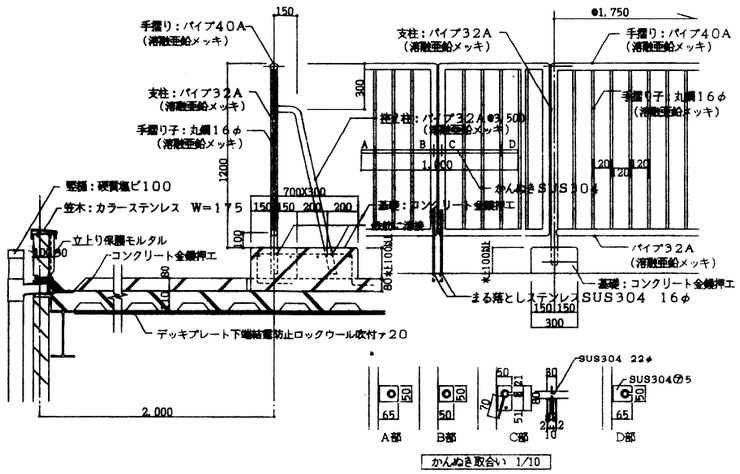
1．建具金物は全てステンレス製とし見本品を提出する。

2．建具廻り及びガラス留めは全てポリサルファイドコーキングとする。

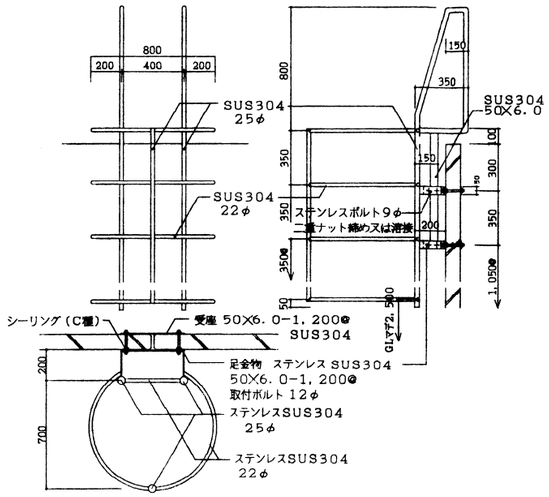
3．アルミサッシはＡＬＣ用を使用する。

施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	建具表		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 1:50 A2 1:70	図面番号	8-173/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所		

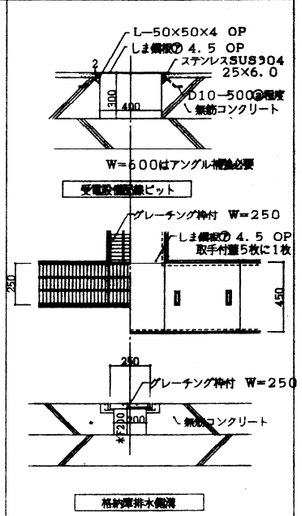
防護柵詳細図（溶融亜鉛メッキ） 1/20



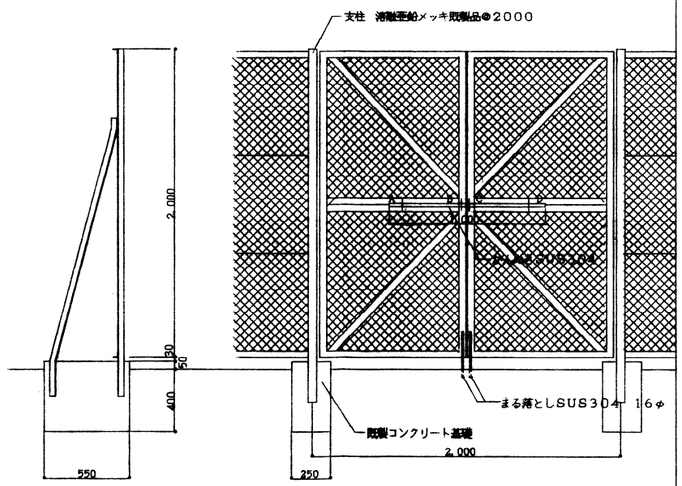
ラダー詳細図（ステンレス製） 1/20



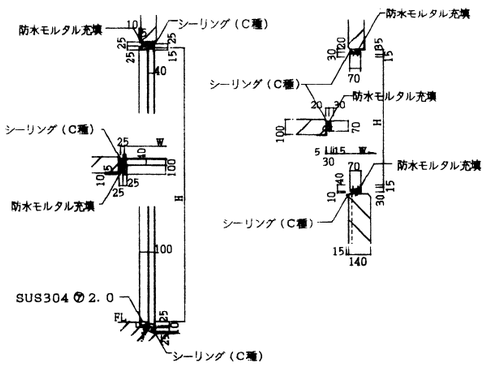
配線ピット，排水側溝詳細図 1/20



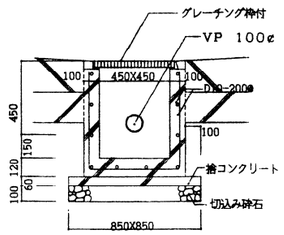
ネットフェンス詳細図（既製品） 1/20



開口部詳細図 1/20

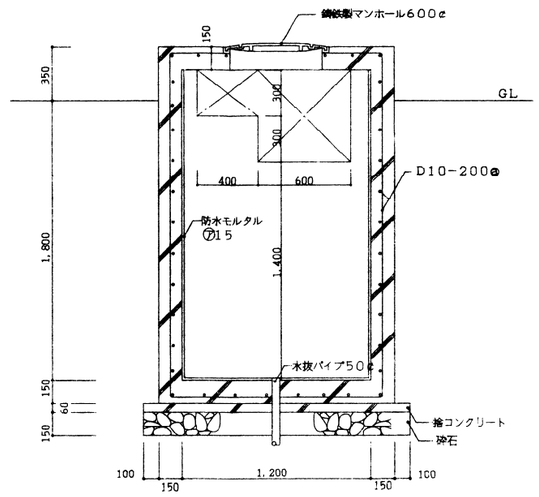


集水マス詳細図 1/20

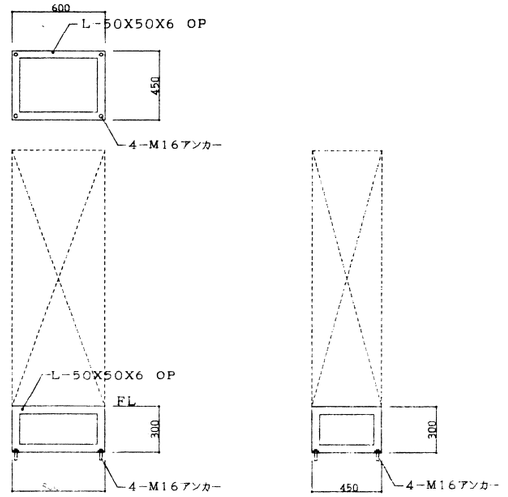


施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	雑詳細図(1/2)		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 1:20 A2 1:28	図面番号	8-174/319
作成者	関東農政局 両総農業水利事業所		

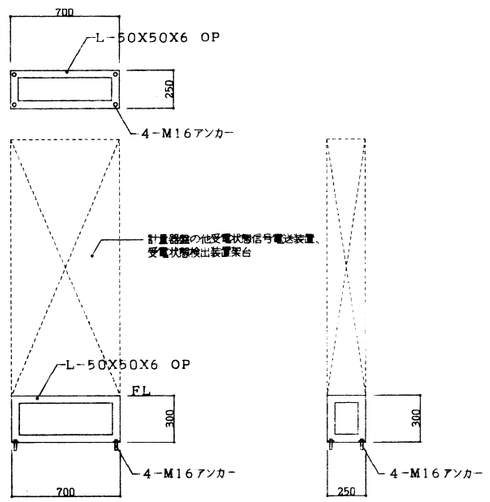
ハンドホール詳細図　1/20



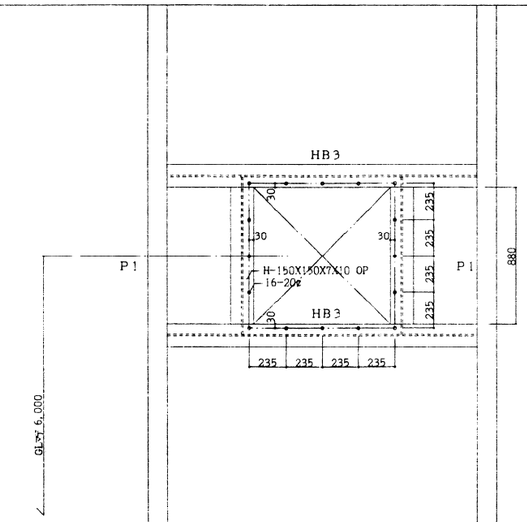
通信設備盤架台詳細図　1/20



計量器盤架台詳細図　1/20



WB取付架台詳細図　1/20



引込部金物詳細図

①碍子引留金具詳細図
②乗出梯子取付用フック詳細図
③接地端子取付金具詳細図

別添図参照

施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	雑詳細図(2/2)		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 1:20 A2 1:28	図面番号	8-175/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所		

小規模鉄骨構造標準図 (1)

1. 一般事項

(1) 本標準図の対象は右表の建物規模②③欄に示す範囲とする。
(2) 対象とする鉄骨加工工場（グレード、ランク）は右表の ②③ 欄の示す工場以上とする。
(3) 構造設計図に記載された事項は本標準図に優先して適用する。
(4) 都道府県のランク付けについては、各都道府県の制度に注意。

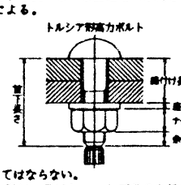
	建設大臣認定（グレード）		都道府県（ランク）	建物の規模	使用鋼材
	鉄塔造	全溶接			
①	S A B	H M	A	全て	全て
②	C	R	B	軒高≦9m 階数≦3階 張間≦13m 延面積≦3,000㎡	SS400 SM400 SMA400 STK400 STKR400
③			C		

2. 制作要領

(1) 工作一般
(a) 鉄骨制作及び施工に先立って「鉄骨工事制作要領書」を提出し工事監理者の承認を得る。
(b) 鋼管部材の分岐継手部の切断は、鋼管自動切断機による。

(2) 高力ボルト接合
ボルトの所要長さ　（ ）内 S10T

ねじの呼び	締付け長さに加える長さ
M16	30mm (25)
M20	35mm (30)
M22	40mm (35)
M24	45mm (40)



(a) 高力ボルトは全て F10T（S10T）とする。
(b) 本締めに使用するボルトと、仮締めボルトの併用はしてはならない。
(c) ボルトの接合面の締め付け摩擦面は平グラインダー掛け、又はショットブラスト掛けを行ない、黒皮を除去して一様に赤さびを生じさせる。締付けは1次締付け後マーキングを入れて本締めをする。

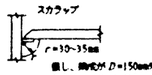
(3) 溶接接合
(a) 溶接工
溶接工は施工する溶接に適応する JIS Z 3801（手溶接）又は、JIS Z 3841（半自動溶接）の溶接技術検定試験に合格し、引続き半年以上溶接に従事している者とする。
(b) 溶接機器
(イ) アーク溶接機　(ロ) 炭酸ガスアーク半自動溶接機
(ハ) アークエアーガウジング機　(ニ) 溶接電流と測定する電流計
(ホ) アークスタッド溶接機1式　(ヘ) 溶接棒乾燥器
(c) 溶接方法等
アーク手溶接（MC）　ガスシールドアーク半自動溶接（GC）
セルフ（ノンガス）シールドアーク半自動溶接（NGC）　アークエアーガウジング
(d) 溶接姿勢



(e) 仮付（組立）溶接は、原則として本工事に従事する者が行う
(イ) 仮付溶接位置は、溶接の始、終端、隅角部など強度上、工作上、問題となり易い箇所は避ける。
(ロ) 突合せ溶接部の仮付溶接は、原則として裏はつりの側に施工する。
(ハ) やむを得ず開先内に仮付溶接を行った場合はガウジングにて仮付溶接部を完全に除去した後本溶接を行う。
(f) 溶接施工
(イ) エンドタブ
I) 突合せ溶接の両端部に母材と同厚で同開先形状のエンドタブを取り付ける。
II) エンドタブの材質は、母材と同質とする。
III) エンドタブの長さは、MCで35mm以上（右図）NGC、GCで40mm以上とし特記のない場合は溶接終了後、母材より 10mm程度残して切断して、グラインダー仕上げとする。
IV) プレス開先タブ、開形タブ等の使用については、資料を提出して工事監理者の承認を得る。



(ロ) 裏あて金は、母材と同質材料とし寸法は幅 22mm 以上として、厚さは手溶接で 6mm以上、半自動溶接で 9mm以上とする。
(ハ) スカラップは、半径で30~35mmとする。（右図）
(ニ) 裏はつりは、溶接標準図において裏はつりと記載のある部分は全て、溶接管理技術者の確認を励行し部材に確認マークをつける。
(ホ) 現場溶接の開先面には、開先部をいためない様に、養生を行なう。



但し、板厚が D＜150mm未満の場合は r=20mmとする。

(4) 塗　装
コンクリートに埋め込まれる部分、コンクリートとの接触面で、コンクリートと一体とする設計仕様になっている部分及び継手部分は、塗装をしない。

3. 標準仕様

（注）適用は ■ 印を記入する

(1) 使用構造材料
(a) 鉄　骨

種　類	使用箇所	現場溶接	備　考
■SS400 □SM490 □SMA400	大梁，小梁，間柱，その他	□有 ■無	
□SS400 □SM490 □SMA400		□有 □無	
■STKR490 □STK400	柱	□有 ■無	
□SSC 400 □		□有 □無	
□		□有 □無	

(b) ボルト
■高力ボルト　■F10T　■S10T 認定品　■M16 ■M20 □M22 □M24
□中ボルト　M　　高力ボルトすべり係数試験　□要 □否
■アンカーボルト　SS400　M 19　L= 600 mm　ナット（□シングル ■ダブル）
■アンカーボルト　SS400　M 22　L= 700 mm　ナット（□シングル ■ダブル）
■頭付スタッド　φ= 16　L= 80 mm　使用箇所（■梁 □梁）

(c) コンクリート

適用箇所	種　類	設計基準強度 Fc=Kg/cm²	スランプ cm	備　考
捨コンクリート	普通	□135 ■180	15	
土間コンクリート	普通	□150 □180 ■210	18	
基礎，基礎梁	普通	□180 ■210 □240	18	
デッキ床	■普通 □軽量	□180 ■210 □240	18	比重
	□普通 □軽量	□150 □180 □210		比重

(d) 鉄　筋

種　類	径	使用箇所	備　考
■SD 295A	D10~D16	床，壁，STP，HP	■重ね継手 □圧接継手
■SD 345	D19~D25	基礎，基礎梁主筋	□重ね継手 ■圧接継手
□JIS G 3551			溶接金網（ x ）.（ x ）

(e) コンクリートブロック（CB）
□A種 □B種 □C種　　厚 □100 □120 □150 □190
(f) 屋根，床，壁　　使用箇所
■ALC版　厚 100
□折版　型式　H=　厚
■デッキプレート　型式 合成スラブ用H=50　厚 1.2
□キーストンプレート　型式　厚
□

(2) 地業工事
(a) 直接基礎　□ベタ基礎　□布基礎　□独立基礎　　地耐試験　□有 □無
深さ GL-　m　支持層ー　　長期許容支持力度 Ra=　t/㎡ 試験杭 □有 □無
(a) 杭基礎　支持層ー
地盤調査資料　■有（■敷地内 □近隣）■ボーリング調査 □
□無（調査予定 □有 □無）□ボーリング調査 □地耐試験

杭　種	材　料	施工法	特記事項
□RC □PC	PC（□A種 □B種 □C種）	■打ち込み	
■PHC □摩擦杭	PHC（■A種 □B種 □C種）	□埋込み	
□場所打ちコンクリート杭	コンクリート Fc= 鉄筋 SD	□BHT工	

試験杭　（■有 □無）（■打ち込み □鉄有）　3 本

杭径（mm）	設計支持力（t）	杭の先端の深さ（m）	本数	特記事項
350	52.0	14.6	22	受電設備
350	52.0	14.5	14	除塵機格納庫

(3) 鉄骨工事
(a) 工事監理者の承認を必要とするもの
■制作工場　■制作要領書　■工作図　■施工計画書　■社内検査表
■建設省告示第 1103号による認定工場（大臣認定　グレード、都道府県　ランク）
■材料規格証明書または試験成績書（■鋼材　■高力ボルト　■頭付スタッド）
(b) 工事監理者に検査事項を通知し確認を受けるもの
■現寸検査　■建方、開先検査　■最終検査　■建方検査　□
(c) 溶接及び接合部を検査し工事監理者に報告すること
■溶接部及び接合部の検査報告

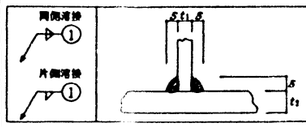
検査箇所	検査方法	検査率又は検査数 自主	第三者	工事監理者	特記事項
■突合せ溶接部	超音波探傷試験	70 % 個	30 % 個	——	
■ビード，わん，アンダーカット オーバラップ，余盛，サイズ，他	外観（目視）検査	100%	30 %	10%	

注）第三者検査とは、建築主、工事監理者又は工事施工者が受入検査を代行させるために自ら契約した検査会社をいう。

(4) 防錆塗装
■ 防錆塗装の範囲は、高力ボルト接合の摩擦面及びコンクリートで被覆される以外の部分とする。錆止めペイントは JIS K5621 又は JIS K5622 を２回塗りを標準とする。
■ 現場における高力ボルト接合部及び接合部の現地調整は入念に行い、塗装は工場塗装と同じ錆止めペイントを使用し２回塗りとする。

4. 溶接規準図（注）f:余盛 G:ルート間隔 R:ルート面 S:サイズ（単位mm）

(1) すみ肉溶接

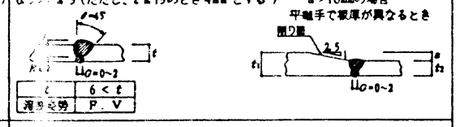


t ≦16				
t	8以下	9 ~ 10	11 ~ 13	14 ~ 16
S	6	7	10	12

● 但し片面溶接の場合は S= t とする
● t は t1、t2 の小なる方とする
余盛は（1+0.16）mm 以下とする

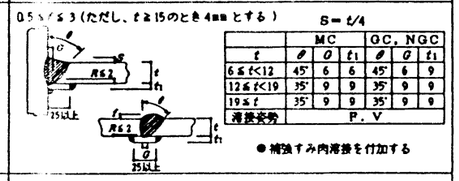
(2) 突合せ溶接（■裏当金 ■裏はつり T形継手）

（裏はつり後溶接）②
0.5 t1 ≦ S ≦ 3（ただし、t ≧ 15のとき 4mm とする）　α>10mmの場合 平鋼手で裏厚が異なるとき



	t ≦ t
溶接姿勢	P. V

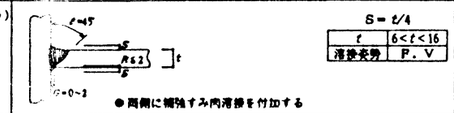
（裏はつり後溶接）③
0.5 t1 ≦ S ≦ 3（ただし、t ≧ 15のとき 4mm とする）　S= t/4



	MC			GC，NGC		
t	θ	Q	t1	θ	Q	t1
6 ≦ t<12	45°	6	6	45°	6	9
12 ≦ t<19	35°	9	9	35°	9	9
19 ≦ t	35°	9	9	35°	9	9
溶接姿勢	P. V					

● 補強すみ肉溶接を付加する

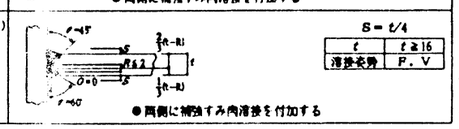
（裏はつり後溶接）④
S= t/4



t	6<t<16
溶接姿勢	P. V

● 両側に補強すみ肉溶接を付加する

（裏はつり後溶接）⑤
S= t/4

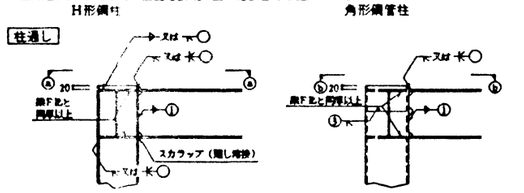


t	t ≧ 16
溶接姿勢	P. V

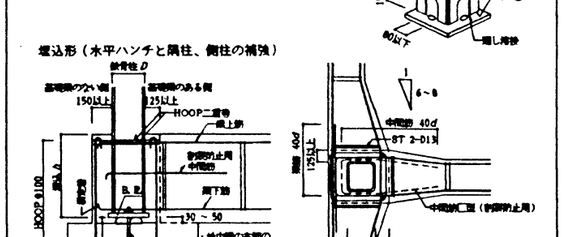
● 両側に補強すみ肉溶接を付加する

(3) 柱梁接合部　○内に上記溶接規準図の溶接番号を記入のこと。

H形鋼柱　　角形鋼管柱



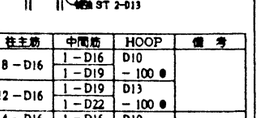
梁F至所要寸確定
（設計上やむをえない場合は添板プレート至2.5を入れる）



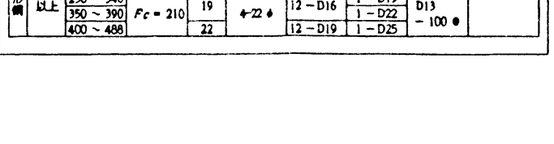
5. 柱脚

(1) 一般事項
○コンクリート表面のレイタンス等を取り除いた後、調合（容積比）セメント：砂1の硬練りモルタルを平に塗り仕上げる。
○モルタルを後詰めにする場合は空隙の出来ないように充填する。
○アンカーフレームを使用する場合は設計図による。

アンカーボルトの施工に誤差のある場合



(2) 柱脚ピン
Aタイプ（全面擦り仕上げ工法）　Bタイプ（後詰め工法）　角形鋼管A，Bタイプ



注．RC造柱が立上る場合のHOOP筋、柱主筋は設計図による

(3) 柱脚固定の配筋
根巻形　　角形鋼管の場合

埋込形（水平ハンチと隅柱、側柱の補強）

埋込形の隅柱、側柱のおさまり例

	埋込み h	鉄骨柱 D	コンクリート	ベースP.	A・BOLT	柱主筋	中間筋	HOOP	備　考
角形鋼管	3D 以上	200	Fc = 180	16	4-16 φ	8 - D16	1 - D16	D10	
		250					1 - D19	- 100 ●	
		300	Fc = 210	19	4-19 φ	12 - D16	1 - D19	D13	
		350					1 - D22	- 100 ●	
H形鋼	2.5D 以上	150 ~ 194	Fc = 180	16	2-16 φ	4 - D16	1 - D16	D10	
		200 ~ 244			4-19 φ	8 - D16	1 - D19	- 100 ●	
		250 ~ 340	Fc = 210	19	4-22 φ	12 - D16	1 - D19	D13	
		350 ~ 390					1 - D22	- 100 ●	
		400 ~ 488		22		12 - D19	1 - D25		

施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)
図面名	構造標準図(1/2)
作成年月	平成26年 3月
縮尺	-
図面番号	8-176/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所

小規模鉄骨構造標準図 (2)

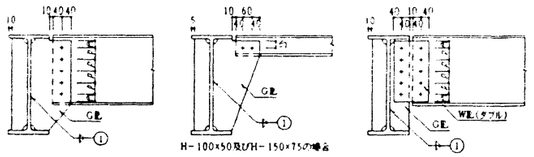
6. 継手規準図、その他

(1) ボルトピッチ(P)、ボルト穴径・最小縁端距離 (mm)

呼び径			M16	M20	M22
孔　径			17.0	21.5	23.5
採用ピッチ	フランジ	p	60	60	60
	ウェブ	g_2	60(90, 120)	60(90, 120)	60(90, 120)
はしあき		e_1	40	40	40
へりあき　(最小値)		e_2	22	27.5	35

(2) ピン接合梁継手リスト (剛接合の場合は設計図書による)

BJ-1　　BJ-2

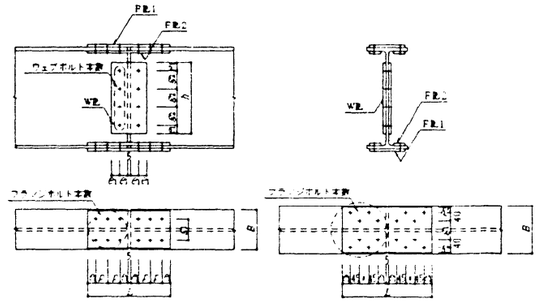


H-100×50及びH-150×75の場合

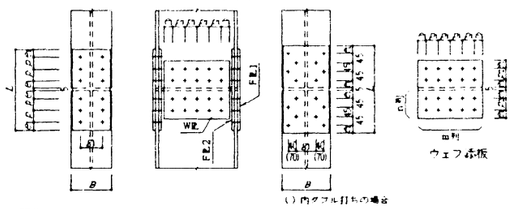
BJ-1 符号	部　材	ボルト径	本　数	GE厚	ウェブ添板 WE厚	備　考
	H-100·50·5·7	M16	2	6		ボルトは種打ち
	H-150·75·5·7	M16	2	6		〃
HB2	H-175·90·5·8	M16	2	6		受電設備　防腐鋼納管
	H-200·100·5.5·8	M16	2	6		
	H-248·124·5·8	M20	2	6		
B1	H-250·125·6·9	M20	2	6		受電設備
	H-298·149·5.5·8	M20	3	6		
B2	H-300·150·6.5·9	M20	3	9		受電設備
	H-346·174·6·9	M20	4	9		
B1	H-350·175·7·11	M20	4	9		防腐鋼納管
	H-396·199·7·11	M20	4	9		
	H-400·200·8·13	M20	5	9		
	H-446·199·8·12	M20	5	9		
	H-450·200·9·14	M20	6	12		
	H-500·200·10·16	M20	6	12		
HB1	H-244·175·7·11	M20	2	9		受電設備
HB1	H-294·200·8·12	M20	3	9		防腐鋼納管
BJ-2 符号	部　材	ボルト径	本　数	GE厚	ウェブ添板 WE厚	備　考
	H-350·175·7·11	M20	4	9	6	
	H-400·200·8·13	M20	4	9	9	
	H-450·200·9·14	M20	4	9	9	
	H-496·199·9·14	M20	5	9	9	
	H-500·200·10·16	M20	5	12	9	
	H-596·199·10·15	M20	6	12	9	
	H-600·200·11·17	M20	6	12	9	
	H-294·200·8·12	M20	3	9	9	
	H-340·250·9·14	M20	3	9	9	
	H-390·300·10·16	M20	4	12	9	
	H-440·300·11·18	M20	4	12	9	
	H-482·300·11·15	M20	5	12	9	
	H-488·300·11·18	M20	5	12	9	

(3) 剛接合梁、柱継手リスト (特記なき限り、フランジ、ウェブとも添板はダブルとする)

GJ-1



CJ-1　　特記なき限り、フランジ、ウェブとも添板はダブルとする



( ) 内ダブル打ちの場合

共通事項

フランジ添板幅 (B)			
フランジ幅	ボルト列	FB1	FB2
100	シングル	100	−
125	〃	120	45
150	〃	145	55
175	〃	170	65
200	〃	195	70
250	〃	245	95
300	チトリ	295	105
350	ダブル	345	135
400	〃	395	165

フランジ添板長 (L) mm					
ボルト径	ボルト列	フランジボルト本数 4本	6本	8本	10本	12本
M16	シングル	285	405	525		
M20	シングル	285	405	525		
	ダブル (スプライス)			435	525	615 (525)
M22	シングル	285	405	525		
	ダブル (スプライス)			435	525	615 (525)

ウェブ添板幅 mm (標準)				
ボルト径	ウェブボルト本数 1本	2本	3本	4本	5本
M16	80	−	−	−	−
M20 M22	−	140	200	260	320

GJ-1 符号	部　材	ボルト径	ボルト本数 フランジ	ウェブ	ゲージ g_1	g_2	フランジ添板 FB厚	FB幅	ウェブ添板 WE厚	WE幅	備　考
	H-248·124·5·8	M16	4	2	75	90	9	9	6	170	
	H-250·125·6·9	M16	4	2	75	90	9	9	6	170	
	H-300·150·6.5·9	M20	4	2	90	120	9	9	6	200	
G1, G1A-G2	H-350·175·7·11	M20	6	2	105	120	9	9	6	260	受電設備　防腐鋼納管
	H-400·200·8·13	M20	6	3	120	90	9	12	6	260	
	H-445·199·8·12	M20	6	3	120	120	9	12	6	320	
	H-450·200·9·14	M20	6	4	120	90	12	12	6	350	
	H-496·199·9·14	M20	6	4	120	90	12	12	9	350	
	H-500·200·10·16	M20	6	4	120	90	12	16	9	350	
	H-596·199·10·15	M20	6	5	120	90	12	16	9	440	
	H-600·200·11·17	M20	6	5	120	90	16	16	9	440	
	H-244·175·7·11	M20	4	2	105	60	9	9	9	140	
	H-294·200·8·12	M20	6	2	120	120	9	9	6	200	
	H-340·250·9·14	M20	6	3	150	60	9	12	9	200	
	H-390·300·10·16	M20	8	3	150	90	12	12	9	260	チトリ (フランジ)
	H-440·300·11·18	M20	10	4	150	60	12	16	12	260	チトリ (フランジ)
G1	H-488·300·11·18	M20	10	4	150	90	12	16	9	350	防腐鋼納管
G3	H-588·300·12·20	M22	8	5	150	90	16	16	9	440	受電設備
	H-700·300·13·24	M22	10	6	150	90	19	19	9	530	チトリ (フランジ)
	H-800·300·14·26	M22	12	7	150	90	22	22	9	620	チトリ (フランジ)

CJ-1 符号	部　材	ボルト径	ボルト本数 フランジ	ウェブ	フランジ添板 FB厚	FB幅	添板 WE厚	WE幅	ウェブボルト配列 e_1	p_1	p_2	備　考
	H-150·150·7·10	M16	6	2	9	9	9	2×1	70	60	60	
	H-175·175·7.5·11	M16	6	3	9	9	9	3×1	40	60	60	
	H-200·200·8·12	M20	4	2	9	9	6	1×2	70	60	60	
	H-250·250·9·14	M20	6	4	9	9	9	2×2	40	60	60	
	H-350·350·12·19	M20	12	6	12	16	12	2×3	40	60	60	
	H-400·400·13·21	M20	12	7	12	16	12	2×3+1×1 チトリ	40	60	60	
	H-148·100·6·9	M16	4	2	12	−	6	2×1	40	60	60	
	H-194·150·6·9	M16	4	4	9	9	6	2×2	70	60	60	
	H-244·175·7·11	M16	6	4	9	9	9	2×2	40	60	60	
	H-340·250·9·14	M20	6	4	9	12	12	2×2	40	90	60	
	H-390·300·10·16	M20	8	5	12	12	9	2×2+1×1 チトリ	40	90	45	
	H-440·300·11·18	M20	10	6	12	16	12	2×3	40	90	60	
	H-488·300·11·18	M20	10	7	12	16	9	2×3+1×1 チトリ	40	90	45	

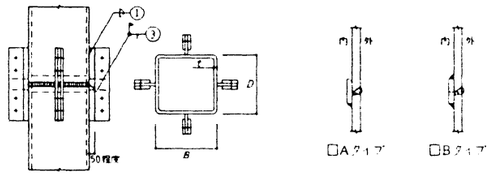
注) CJ-1のゲージg_1はGJ-1のゲージと同じである。

(4) 角形鋼管

角形鋼管柱継手　(現場溶接)

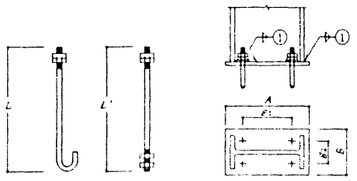
注) 現場溶接は原則として溶接所長に確認を 100%行う

CJ-2



(5) H形鋼柱脚 (ピン)

PB-1 (間柱)



PB-1 符号	部　材	アンカーボルト 径	長さ L	本数	ベースプレート 厚	縁長	A	B	ケージ g_1	g_2	備　考
	H-125·60·6·8	16	620	2	12	1	185	180		100	
	H-150·75·5·7	16	620	2	12	1	210	190		100	
	H-175·90·5·8	16	620	2	12	1	235	160		100	
	H-200·100·5.5·8	16	620	2	12	1	260	180		100	
	H-250·125·6·9	20	730	2	16	1	310	180		100	
	H-300·150·6.5·9	20	730	4	16	1	360	200	180	120	
	H-350·175·7·11	20	730	4	16	1	410	230	230	120	
	H-148·100·6·9	16	620	2	12	1	210	180		100	
	H-194·150·6·9	20	730	2	16	1	255	200		120	
	H-244·175·7·11	20	730	4	16	1	305	230	120	150	
	H-294·200·8·12	20	730	4	19	1	355	250	170	150	
	H-100·100·6·8	16	620	2	12	1	160	160		100	
	H-125·125·6.5·9	20	730	2	16	1	185	180		100	
	H-150·150·7·10	20	730	2	16	1	210	200		120	
	H-175·175·7.5·11	24	860	2	16	1	235	240		150	通常 L'=900
	H-200·200·8·12	24	860	2	19	1	260	250		150	〃

(6) 丸鋼ブレース (JIS規格品とする・・・JIS A5540~5542)

羽子板ボルト

M12～M22のとき　　M24のとき

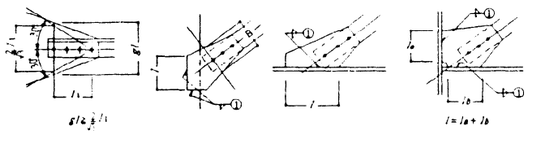
ねじの呼び (d)			M12	M14	M16	M18	M20	M22	M24
軸径 d_1	普通	+	10.81	12.65	14.65	16.33	18.33	20.33	21.99
	普通	−	10.64	12.46	14.46	16.11	18.11	20.11	21.77
調製ねじの長さ		S_S	100	115	125	140	150	165	175
取付ボルト穴径許容差 +0 −0.5mm		d'	13	17	17	21.5	21.5	23.5	21.5
はしあき (最小) 注(2)		e_1	35	40	45	50	50	55	50
切板取	はしあき (最小) 注(1)	e_2	22	25	25	34	34	44	34
	板厚	t	4.5	6	6	9	9	9	9
甲鋼取	はしあき (最小) 注(1)	e_2	19	25	25	32.5	32.5	37.5	37.5
	板厚	t	4.5	6	6	9	9	9	9
ボルト端から取付ボルト穴しのあき (最小)		e_3	47	52	59	66	66	73	70
余掛長さ (最小)		l_b	40	50	55	60	75	85	85
取付ボルト本数			1-M12	1-M16	1-M16	1-M20	1-M20	1-M22	2-M20

注 (1) e_1, e_2 が確保されていれば形状は自由でよい
(2) 羽子板とガセットプレートの接合は常に示す取付ボルトを使用し一面せん断 (支圧) 接合とする
(3) 取付ボルトの種類は JISB1186 2種高力ボルト (F10T) 又は JISB1180 中ぼ10.9

(7) 甲鋼・山形鋼ブレース

TJ-1

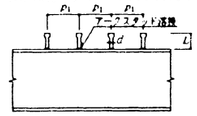
ガセットプレートの大きさ　　ガセットプレートの溶接

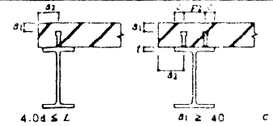


TJ-1 符号	部　材	最大ボルト本数 一列	一線	ガセットプレート 寸法	溶接長さ TYPE 1	TYPE 2	TYPE 3	サイズ S	備　考
平鋼	FB-65·9	2	M16	6×65	112	69	81	6	
	FB-75·6	2	M16	6×75	130	77	89	6	
	FB-65·9	3	M16	9×65	127	80	96	8	
	FB-75·9	3	M16	9×75	147	89	105	8	
	FB-90·9	3	M20	9×90	176	104	120	8	
	FB-100·9	3	M20	9×100	196	114	130	8	
	FB-90·12	3	M20	12×90	188	114	134	10	
	FB-100·12	4	M20	12×100	209	124	144	10	
山形鋼 L形	L-65·65·6	5	M16	9×90	164	98	114	8	
	L-75·75·6	5	M16	9×90	190	111	127	8	
	L-75·75·9	5	M16	9×125	276	154	170	8	
	L-75·75·12	5	M20	9×155	360	196	212	8	
	L-90·90·7	4	M20	9×120	266	149	165	8	
	L-90·90·10	5	M20	9×155	370	201	217	8	
	L-90·90·13	5	M20	9×195	472	252	268	8	
山形鋼 無L形	2Le-65·65·6	5	M16	6×235	436	230	246	5	
	2Le-75·75·6	5	M16	9×190	380	206	222	6	
	2Le-75·75·9	5	M20	12×205	442	241	261	10	
	2Le-75·75·12	5	M20	12×255	576	308	328	10	
	2Le-90·90·7	4	M20	12×205	425	231	251	10	
	2Le-90·90·10	5	M20	12×270	591	316	336	10	
	2Le-90·90·13	7	M20	12×340	755	398	418	10	

(8) その他

(a) 頭付スタッド (JIS1198)



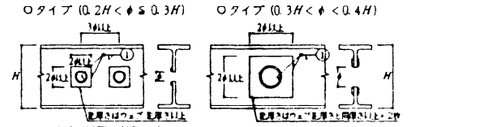


形状	スタッド材 呼び名	頭高さT mm	溶接後の長さ L mm	コンクリート		普通	軽量
T D L	φ13mm	10.0 7.9	50, 80, 100, 130		Fc Kg/cm²	180	210	180	210
	φ16mm	10.0 7.9	80, 100, 130		r t/m³	2.3	2.3	1.85	1.9
	φ19mm	10.0 9.5	80, 100, 130, 150		$Ec\times10^3$ Kg/cm²	1.99	2.15	1.44	1.62
				スタッド	13φ	3.98	4.46	3.38	3.87
				せん断力 (t)	16φ	6.01	6.75	5.11	5.86
					19φ	8.47	9.54	7.22	8.28

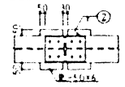
頭付スタッドせん断耐力

(b) 普通補強

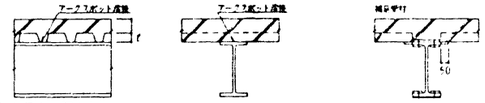
○タイプ ($0.2H < \phi \leq 0.3H$)　　○タイプ ($0.3H < \phi < 0.4H$)



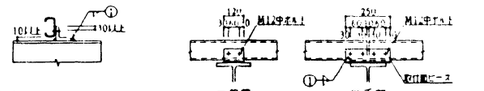
○0.2H以下は補強なし
○ウェブプレート10mm以上は両面補強とする。
○特記なき限り補強方法は上図によるが、孔背 (ϕ) は $0.4H$以下とし、そのピッチは 3.0d以上とする。
○スリーブは梁成の中央 1/2の範囲とする。



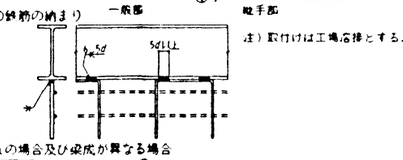
(c) デッキプレートの納まり (合成床の場合は設計図書による)



(d) 母や、調ふち

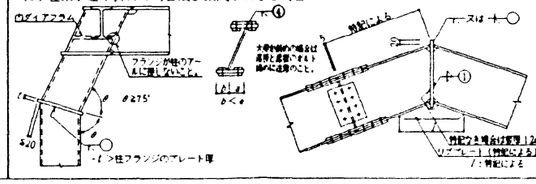


(e) フロック造型の鉄筋の納まり

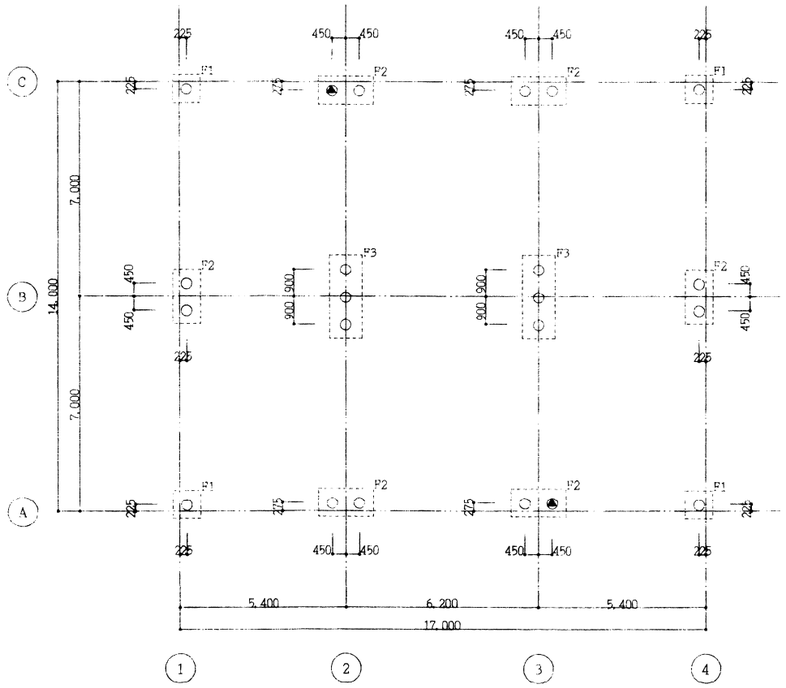


注) 取付けは工場溶接とする。

(f) 柱梁が途中折れの場合及び梁成が異なる場合



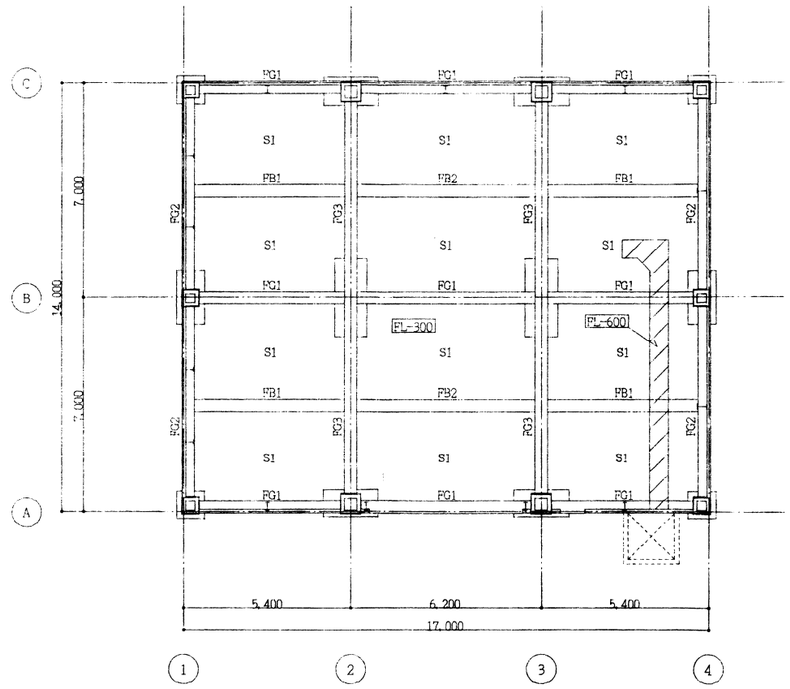
施設名	第2揚水機場 (0312100-1100-19)		
図面名	構造標準図 (2/2)		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	−	図面番号	8-177/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所		



杭伏図　S=1/100

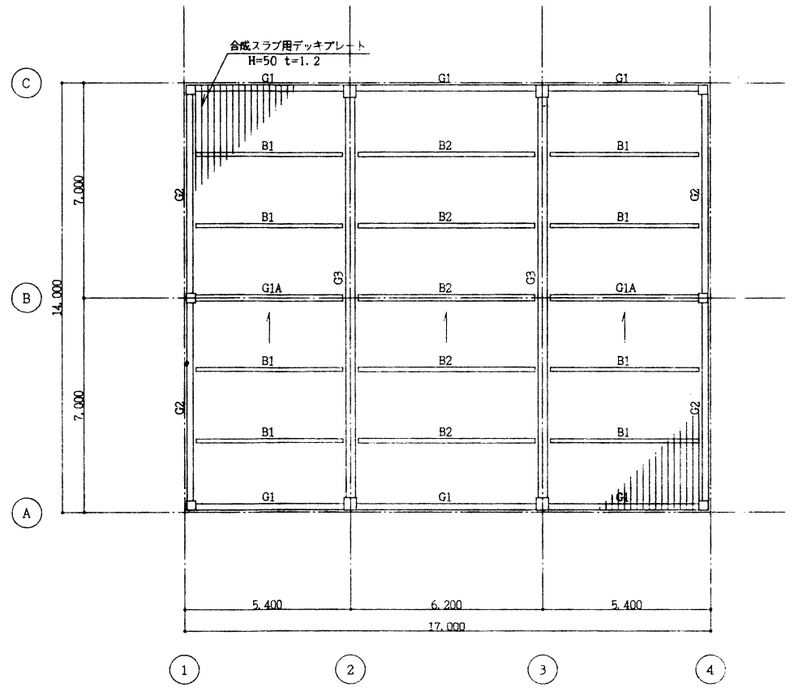
杭仕様
1. 杭　種　PHC杭 A種
2. 杭　径　350φ
3. 工　法　打撃工法
4. 杭耐力　Ra=52t/本 (350φ)
5. ▲　：　試験杭を示す。
（試験杭は支持層の深度の確認を目的とするためものであり
必要杭長に2mを加えた長さとする。）

記号	杭径	基礎下端位置	杭上端位置	杭下端位置	杭長	杭本数
○	350φ	GL -1.70 m	GL -1.60 m	GL -14.60 m	13.0 m	22 本
						計 22 本



1階伏図　S=1/100

施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	受電設備杭伏図・基礎伏図		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 1:100 A2 1:141	図面番号	8-178/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所		

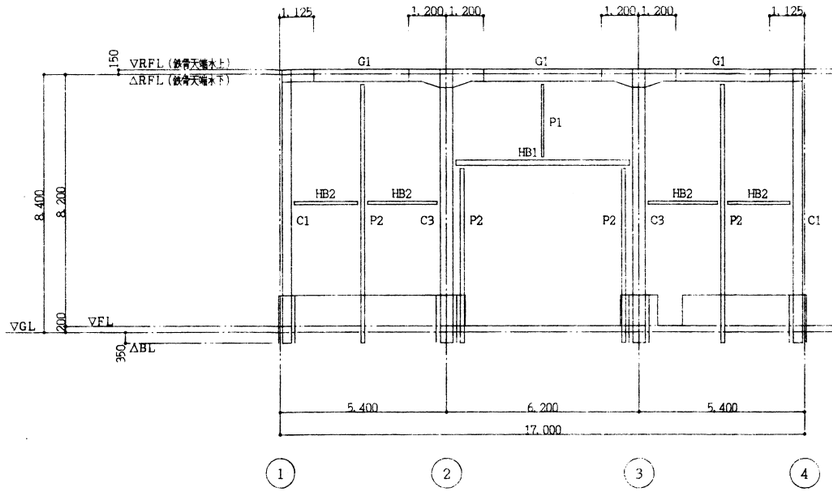


R 階梁伏図　S=1/100

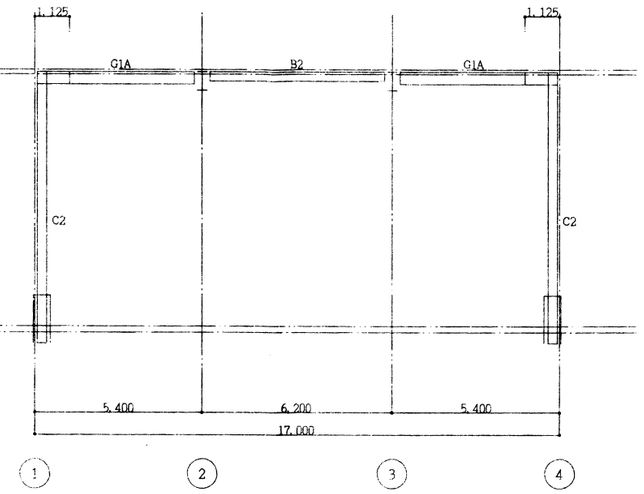
部 材 リ ス ト

符　号	断　面	備　考
C1	□-300x300x12	
C2	□-300x300x16	
C3	□-400x400x22	
P1	H-175x90x5x8	
P2	H-250x125x6x9	
P3	H-300x150x6.5x9	
G1	H-400x200x8x13	
	BH-588x200x9x14	A・C通り2・3端
G1A	H-400x200x8x13	B通り2・3端ピン接合
G2	H-400x200x8x13	
G3	H-588x300x12x20	
B1	H-250x125x6x9	
B2	H-300x150x6.5x9	
HB1	H-244x175x7x11	横使い
HB2	H-175x90x5x8	横使い
HB3	H-150x150x7x10	横使い　GPL-9 2-M16
屋 根	合成スラブ用デッキプレートH=50 t=1.2	普通コンクリート山上60

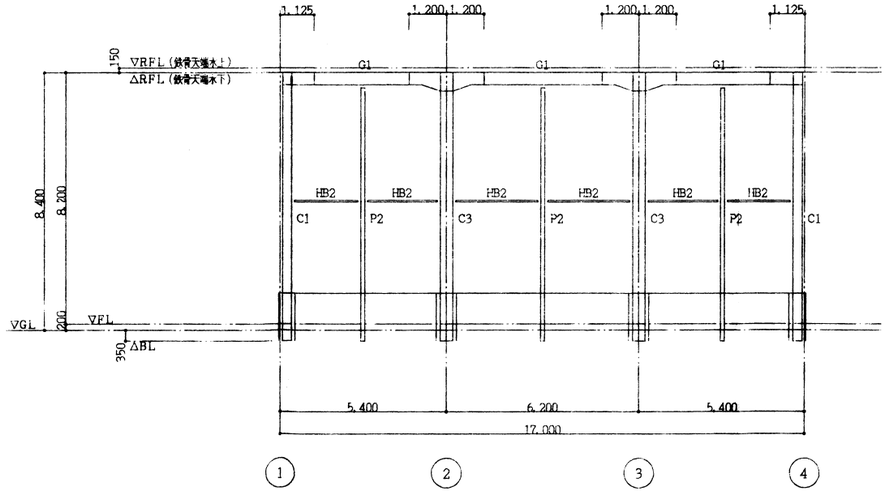
施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	受電設備R階伏図・部材リスト		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 1:100 A2 1:141	図面番号	8-179/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所		



A通り 軸 組 図　S=1/100

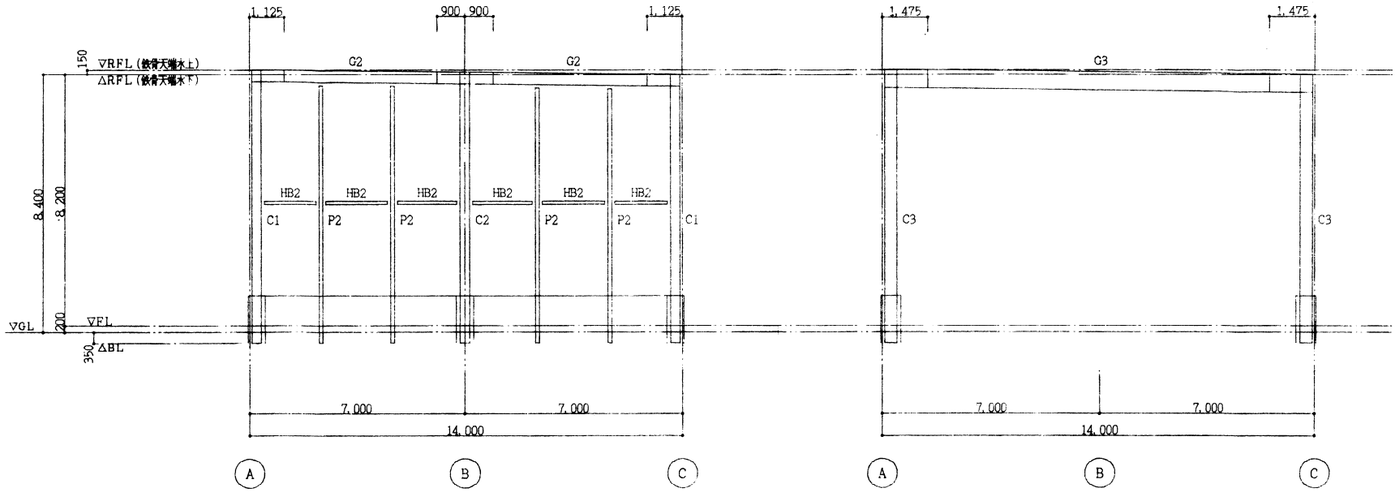


B通り 軸 組 図　S=1/100



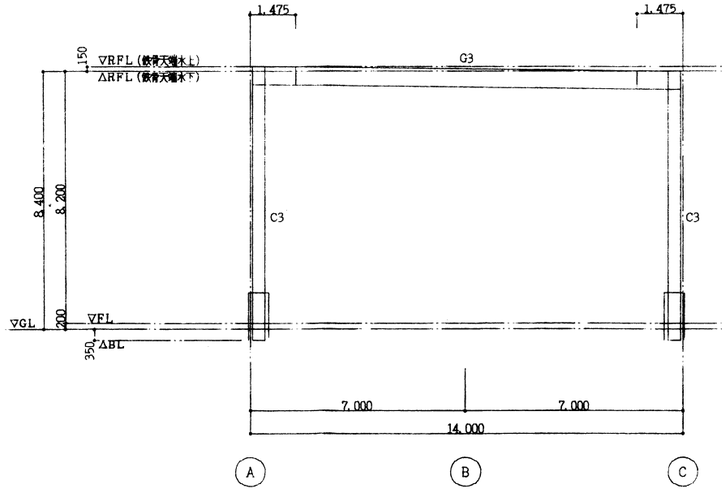
C通り 軸 組 図　S=1/100

施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	受電設備軸組図(1/2)		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 1:100 A2 1:141	図面番号	8-180/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所		

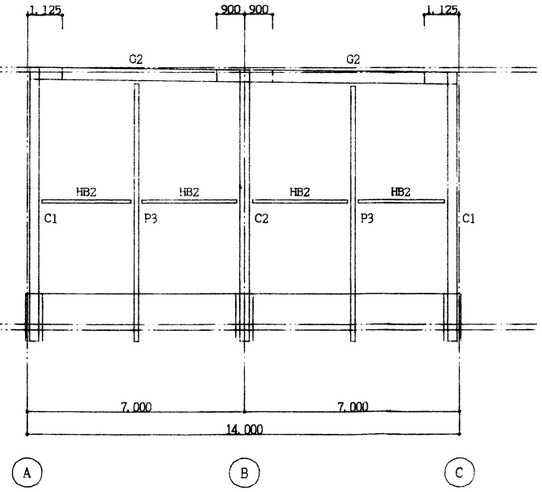


1通り 軸 組 図 S=1/100

2通り 軸 組 図 S=1/100



3通り 軸 組 図 S=1/100

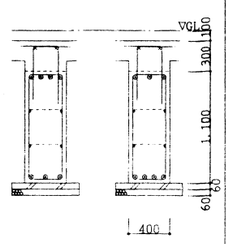
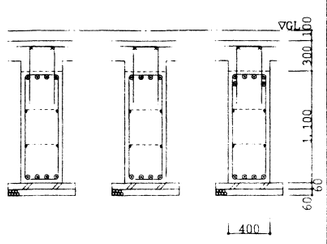
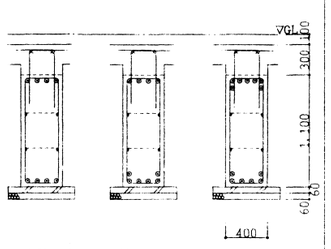
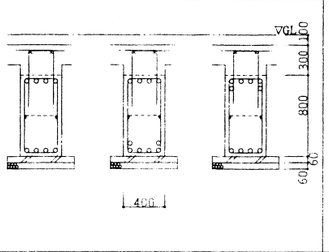
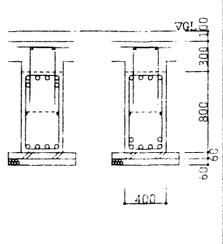


4通り 軸 組 図 S=1/100

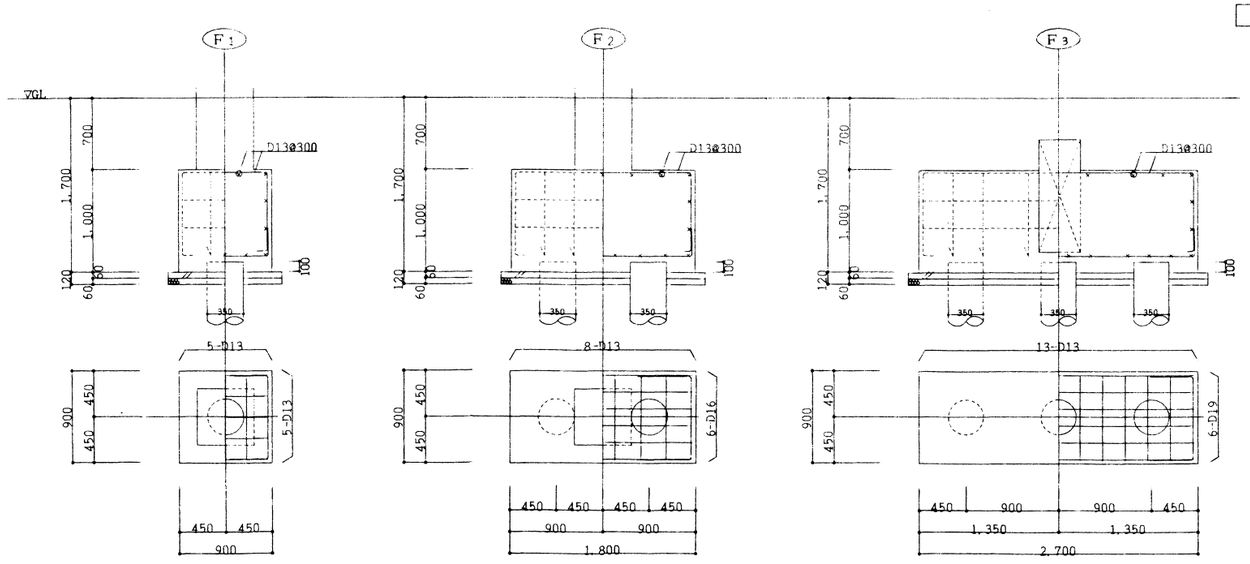
施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	受電設備軸組図(2/2)		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 1:100 A2 1:141	図面番号	8-181/319
作成者	関東農政局 両総農業水利事業所		

梁 リ ス ト　S=1/30

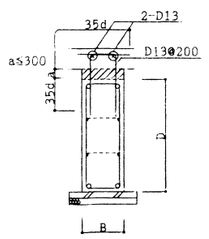
特記なき限り
1. STP　ロ-D13@200
2. 腹筋　4-D10
3. 幅止め筋　ヘ-D10@1000

符号	FG1		FG2			FG3			FB1			FB2	
位置	端部	中央	外端	中央	内端	外端	中央	内端	外端	中央	内端	端部	中央
断面													
上端筋	4-D25	3-D25	4-D25	4-D25	6-D25	4-D25	4-D25	7-D25	4-D22	4-D22	6-D22	6-D22	4-D22
下端筋	3-D25	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25	6-D25	6-D25	4-D22	6-D22	4-D22	4-D22	6-D22
STP													
腹筋									2-D19			2-D10	

基 礎 リ ス ト　S=1/30

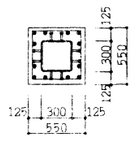
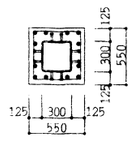
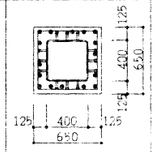
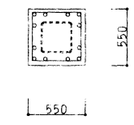
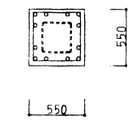
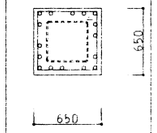


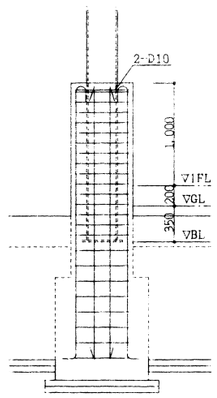
基礎梁増打ち要領　S=1/30



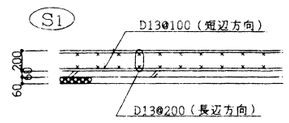
施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	受電設備基礎・梁リスト		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 1:30 A2 1:42	図面番号	8-182/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所		

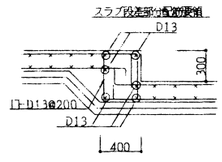
柱脚リスト　S=1/30

符号	C1	C2	C3	
主材	□-300x300x12	□-300x300x16	□-400x400x22	
根巻部				
主筋	12-D19	12-D19	16-D25	
HOOP	□-D10@100	□-D10@100	□-D10@100	
柱脚スタッド	4×10-16φ h=80	4×14-16φ h=80	4×18-16φ h=80	
柱脚部				
主筋	12-D19	12-D19	16-D25	
HOOP	□-D10@100	□-D10@100	□-D10@100	

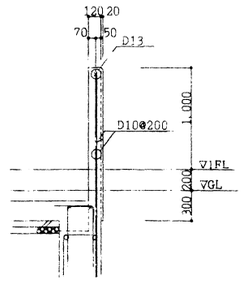


床版配筋図　S=1/30

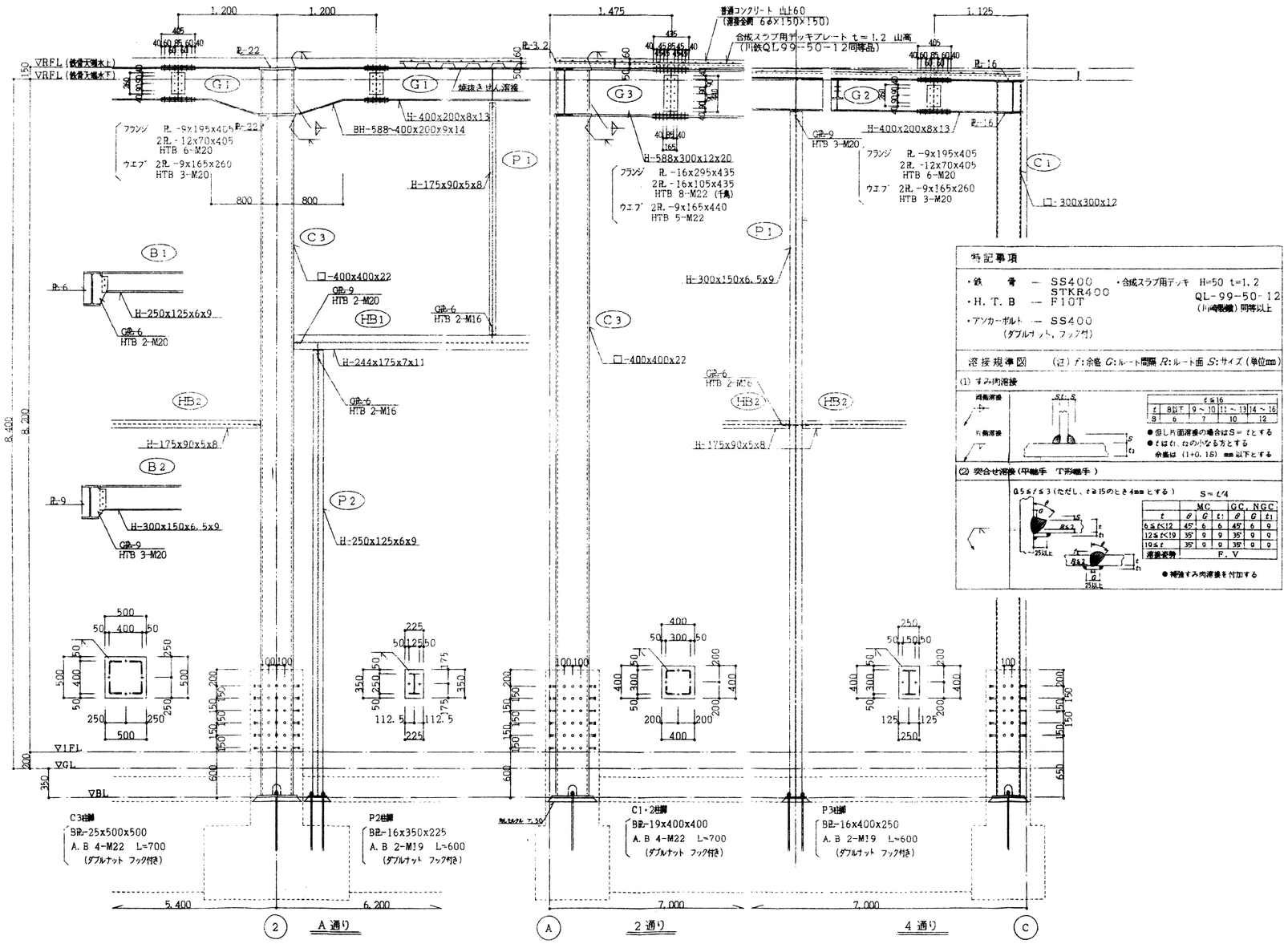




腰壁配筋図　S=1/30



施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	受電設備柱脚リスト・配筋詳細図		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 1:30 A2 1:42	図面番号	8-183/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所		



特記事項

- 鉄　　骨 — SS400　STKR400　・合成スラブ用デッキ H=50 t=1.2 QL-99-50-12 (川崎製鉄) 同等以上
- H. T. B — F10T
- アンカーボルト — SS400 (ダブルナット, フック付)

溶接規準図　(注) a:余盛 G:ルート間隔 R:ルート面 S:サイズ (単位mm)

(1) すみ肉溶接

t	t≦16			
	8以下	9～10	11～13	14～16
S	6	7	10	12

● 但し片面溶接の場合はS=tとする
● t1はt, t2の小なる方とする
余盛は (1+0.1S) mm 以下とする

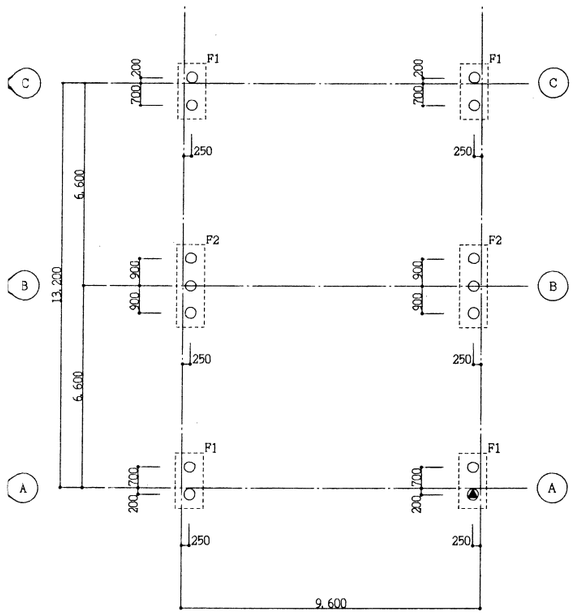
(2) 突合せ溶接 (平鋼手 T形鋼手)

0.5≦t≦3 (ただし、t≧15のとき4mmとする)　S=t/4

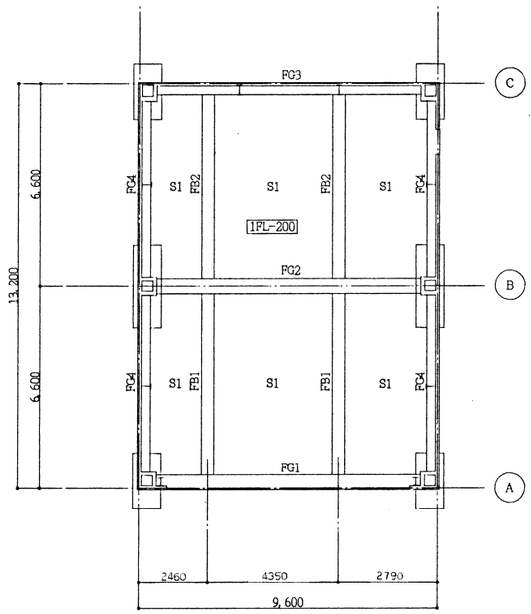
t	MC θ	MC G	MC t1	GC, NGC θ	GC, NGC G	GC, NGC t1
6≦t<12	45°	6	6	45°	6	9
12≦t<19	35°	9	9	35°	9	9
19≦t	35°	9	9	35°	9	9
溶接姿勢				F. V		

● 補強すみ肉溶接を付加する

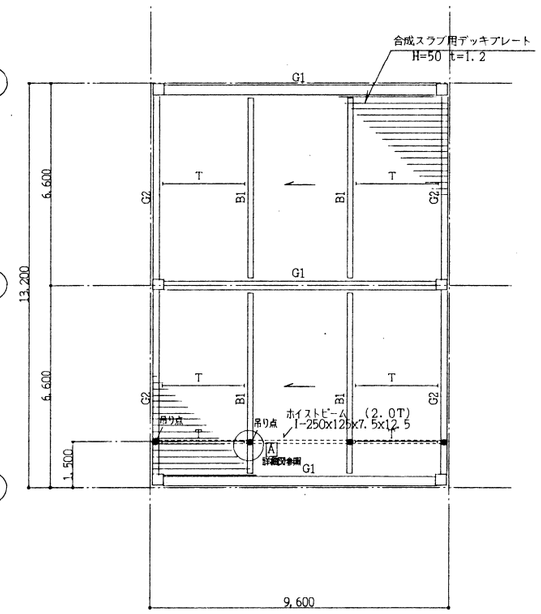
施設名	第2揚水機場 (0312100-1100-19)		
図面名	受電設備鉄骨詳細図		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 1:30 A2 1:42	図面番号	8-184/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所		



杭伏図　S=1/100



1階伏図　S=1/100

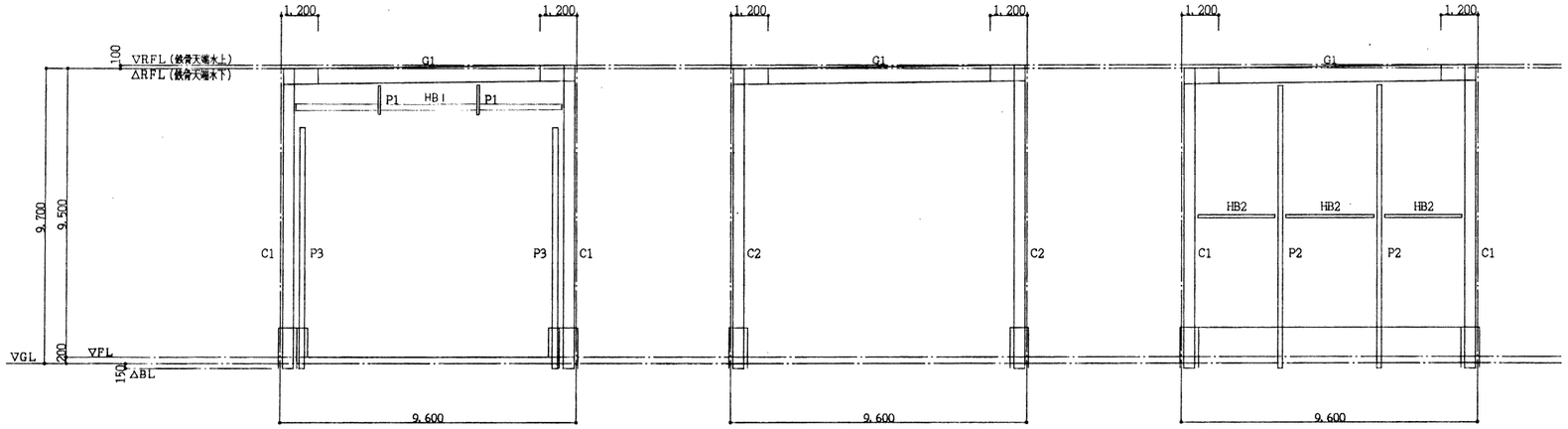


R階梁伏図　S=1/100

杭仕様
1. 杭　　種　　PHC杭 A種
2. 杭　　径　　350φ
3. 工　　法　　打撃工法
4. 杭 耐 力　　Ra＝52t／本
5. ▲　：　試験杭を示す。
（試験杭は支持層の深度の確認を目的とするためものであり
必要杭長に2mを加えた長さとする。）

記号	杭径	基礎下端位置	杭上端位置	杭下端位置	杭長	杭本数
○	350φ	GL -1.70 m	GL -1.60 m	GL -14.60 m	13.0 m	14 本
						計 14 本

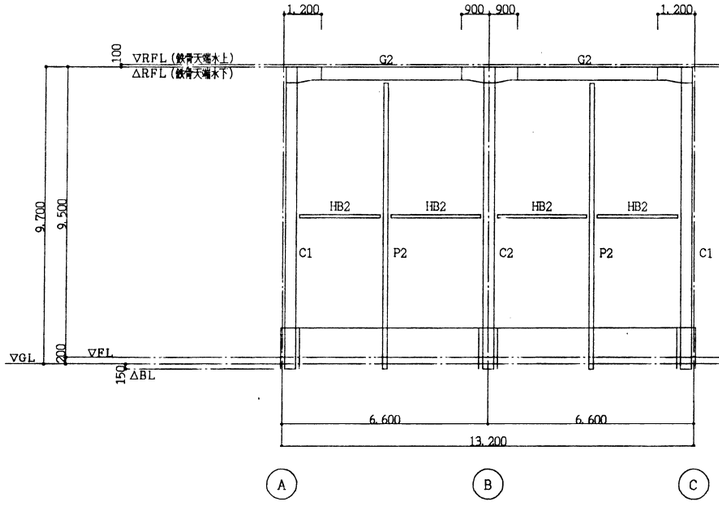
施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	除塵機格納庫伏図		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 1:100 A2 1:141	図面番号	8-185/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所		



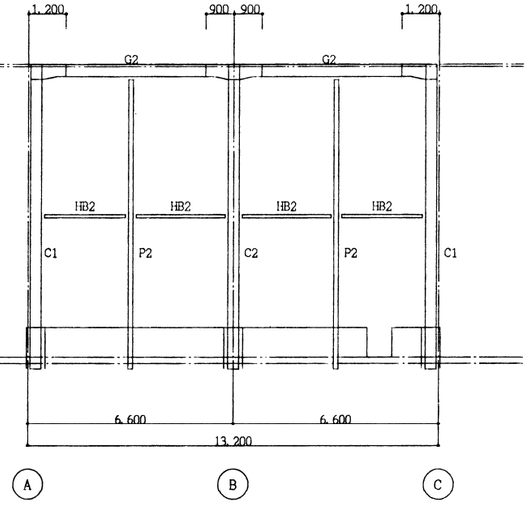
A通り 軸 組 図 S=1/100

B通り 軸 組 図 S=1/100

C通り 軸 組 図 S=1/100

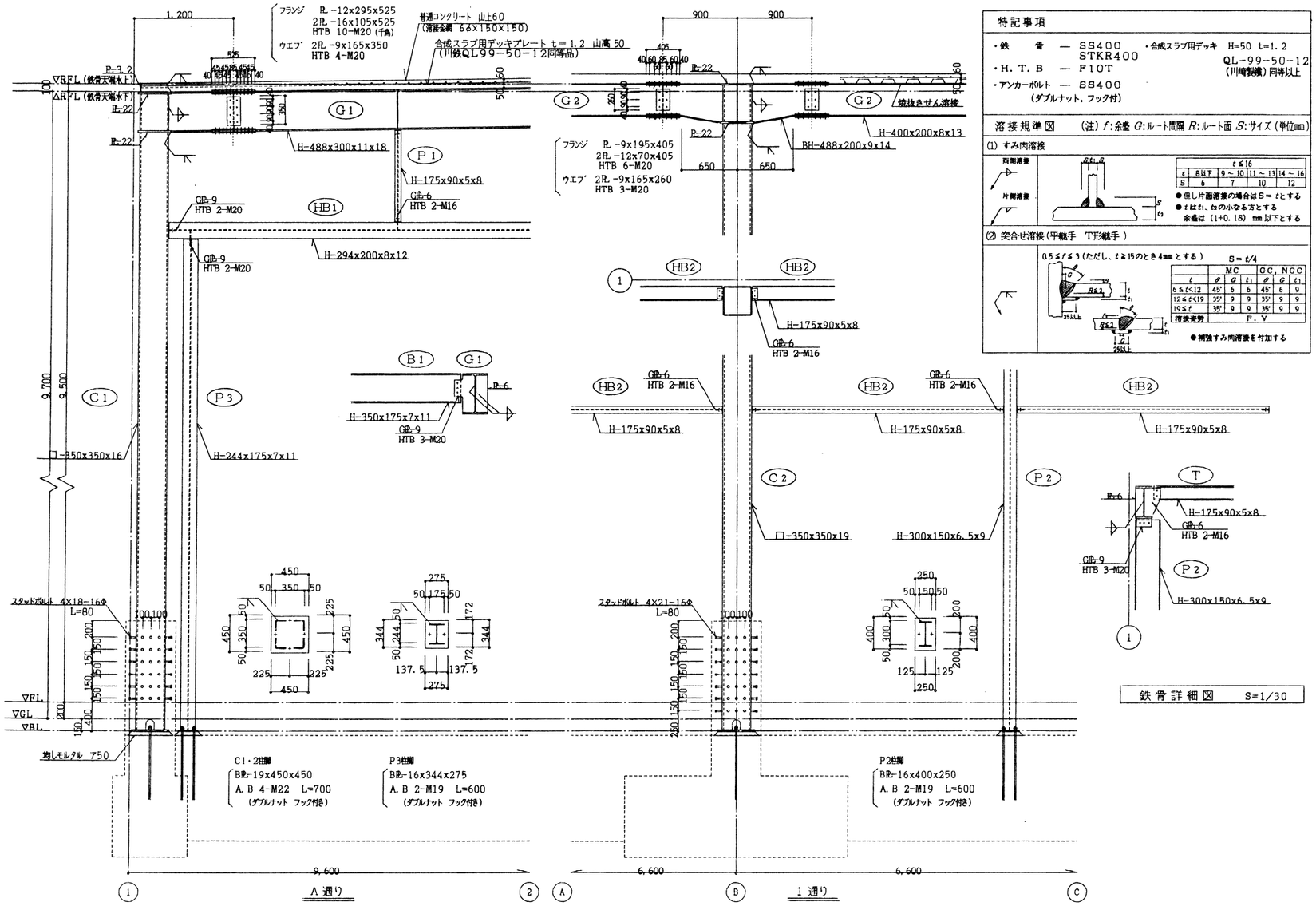


1通り 軸 組 図 S=1/100



2通り 軸 組 図 S=1/100

施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	除塵機格納庫軸組図		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 1:100 A2 1:141	図面番号	8-186/319
作成者	関東農政局 両総農業水利事業所		



特記事項

- 鉄　　骨 — SS400 STKR400
- H.T.B — F10T
- アンカーボルト — SS400 (ダブルナット, フック付)
- 合成スラブ用デッキ H=50 t=1.2 QL-99-50-12 (川崎製鉄) 同等以上

溶接規準図

(注) f:余盛 G:ルート間隔 R:ルート面 S:サイズ (単位mm)

(1) すみ肉溶接

両側溶接
片側溶接

t	8以下	9～10	11～13	14～16
S	6	7	10	12

- 但し片面溶接の場合はS=tとする
- tはt1、t2の小なる方とする
  余盛は (1+0.18) mm 以下とする

(2) 突合せ溶接 (平継手 T形継手)

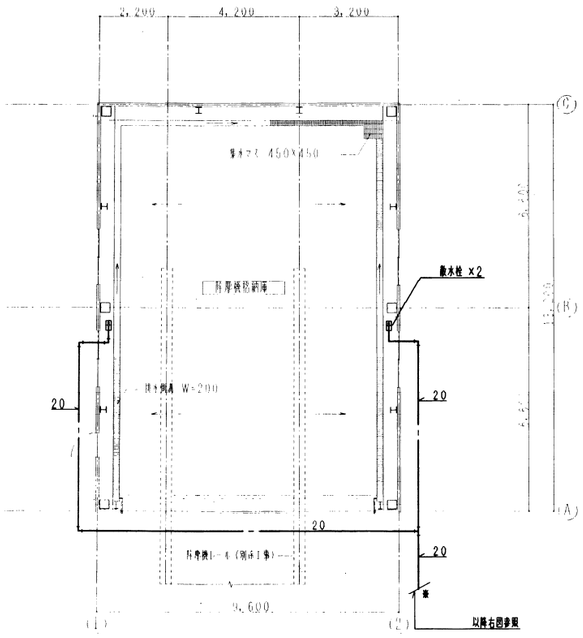
0.5≦f≦3 (ただし、t≧15のとき4mmとする)　S=t/4

t	MC θ	MC G	MC t1	GC, NGC θ	GC, NGC G	GC, NGC t1
6≦t<12	45°	6	6	45°	6	9
12≦t<19	35°	9	9	35°	9	9
19≦t	35°	9	9	35°	9	9
溶接姿勢	F. V					

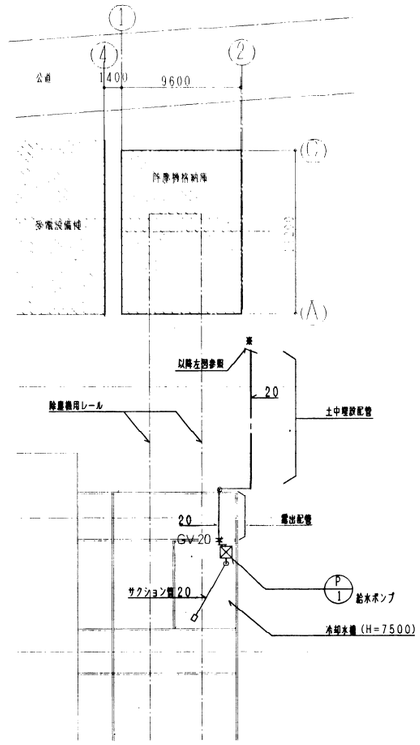
- 補強すみ肉溶接を付加する

鉄骨詳細図　S=1/30

施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	除塵機格納庫鉄骨詳細図		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 1:30 A2 1:42	図面番号	8-187/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所		



除塵機格納庫平面図 S=1/100



配 置 図 S=1/250

凡 例

記 号	名 称	備 考
—— - ——	給 水 管	内外面ビニルライニング鋼管 (SGP-VD)
—⋈—	ゲ ー ト 弁	JIS5K
—⊡	散 水 栓	床埋込鋳鉄製ボックス共

器 具 表

器 具 名	型 式	数	備 考
散 水 栓	T27-13	1	床埋込鋳鉄製ボックス共

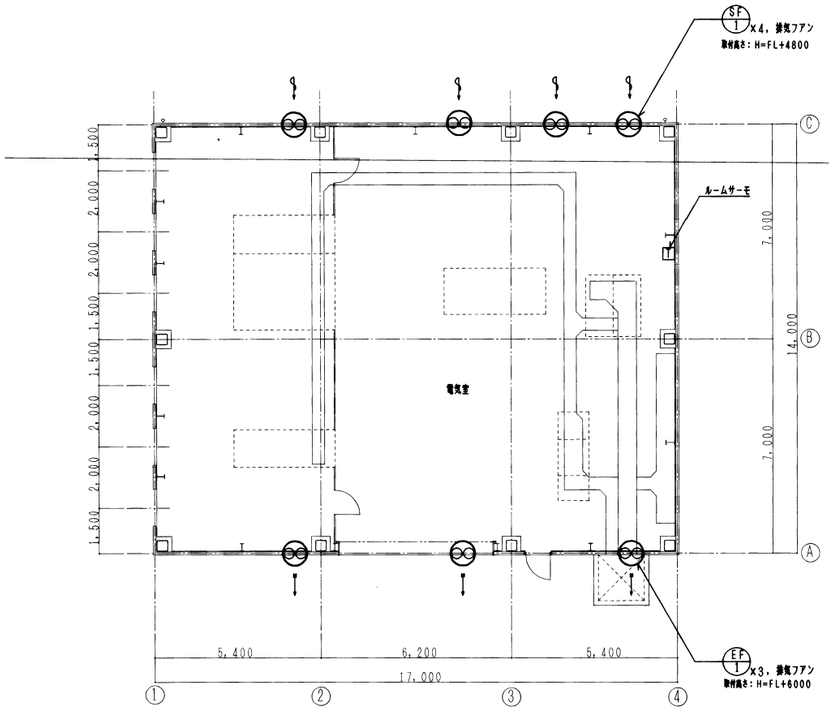
機 器 表

記 号	機器名称	数	仕 様	参考製品
P-1	井戸用ポンプ	1	20Φ×13φ/m×80W, 1Φ100V	荏下電気 PG-83A
			吸上高さ：8m, 押上高さ：4m,	
			圧力スイッチ：0.5 ～1.0 kg/cm²	
			設置用基礎共	

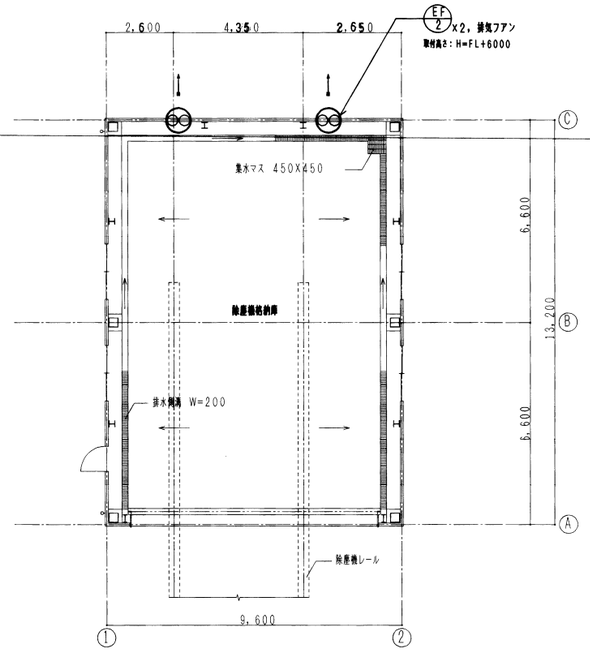
施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	除塵機格納庫給水設備		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 図示	図面番号	8-188/319
作成者	関東農政局 両総農業水利事業所		

送風機

記号	系統	型式	設置階	数	給、排区分 給気	給、排区分 排気	サイズ	風量 m³/h	静圧 mm	モーター KW	モーター Φ	モーター V	取付位置	備考	参考型番
EF－1	受電設備	有圧扇	1F	3	—	○	600Φ	8000	5	0.75	3	200	壁付	低騒音形，風圧式シャッター・SUS製ウエザカバー共，	三菱電機 EG-60FTB
EF－2	除塵格納庫	有圧扇	1F	2	—	○	400Φ	3100	5	0.20	1	100	壁付	低騒音形，風圧式シャッター・SUS製ウエザカバー共，	三菱電機 EF-40DSB
SF－1	受電設備	有圧扇	1F	4	○	—	600Φ	6000	5	0.75	3	200	壁付	低騒音形，SUS製ウエザカバー共，	三菱電機 EG-60FTB



受電設備平面図 S=1/100

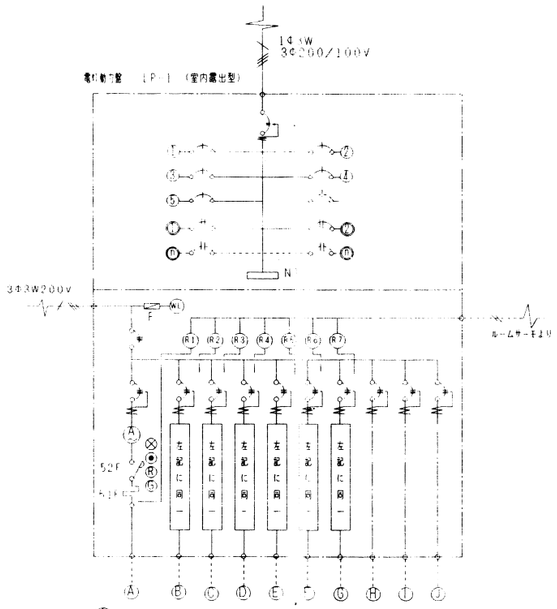


除塵機格納庫平面図 S=1/100

施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	換気設備		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 1:100 A2 1:141	図面番号	8-189/319
作成者	関東農政局 両総農業水利事業所		

電気設備、凡例

記号	名称	適要
	電灯分電盤	
⊠	プールボックス	
⊠WP	プールボックス	防水型
	照明器具	FL40W×2 プラケット
◯	照明器具	天井吊り，HID
●	埋め込みスイッチ	1P15A
●○	埋め込み2スイッチ	1P15A，パイロットランプ付き
⊖	埋め込みコンセント	2P15A 1個用
⊖2E	埋め込みコンセント	2P15A 2個用 アース付き
⊖WPE	埋め込みコンセント	2P15A 1個用 防水型，アース付き
	給排気ファン	壁付き 空調工事
———	配管，配線	天井隠ぺい配管
— — —	配管，配線	床埋込配管
·-·-·-·	配管，配線	露出配管
		電線管：ねじなし薄鋼電線管
		電線：600VビニルIV絶縁電線



電灯動力盤 LP-1 (分電盤)

	主開閉器	回路NO	分岐開閉器	電圧(V)	負荷内容	容量(VA)
電灯	FLB3P 50/40A	①	MCB1P50/20A	100	電気室 電灯(FL)(ブラケット)	840
		②			電気室 コンセント	450
		③			電気室 個別自動再開盤電源	100
		④			予備	———
		⑤			予備	———
		⑥	MCB2P50/20A	200	電気室 電灯(HID)(天井吊)	3150
		⑦			電気室 電灯(HID)(天井吊)	2100
		⑧			予備	———
	負荷計					6640

	主開閉器	回路NO	分岐開閉器	電圧(V)	負荷内容	容量(KW)
動力	MCB3P 100/60A	(A)	ELB3P30/20A	3Φ200	電気室 排気ファン	0.75
		(B)			電気室 排気ファン	0.75
		(C)			電気室 排気ファン	0.75
		(D)			電気室 排気ファン	0.75
		(E)			電気室 給気ファン	0.75
		(F)			電気室 給気ファン	0.75
		(G)			電気室 給気ファン	0.75
		(H)	ELB2P30/20A		電気室 シャッター	1.50
		(I)	ELB2P30/15A	1Φ200	電気室 ルームサーモ	
		(J)	ELB3P30/20A	3Φ200	予備	———
	負荷計					6.75

電灯動力盤 LP-2 (除塵機格納扉)

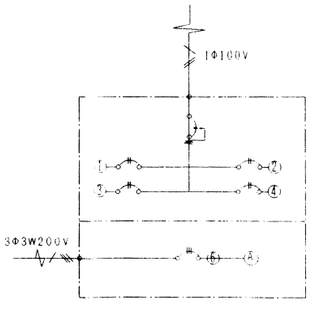
	主開閉器	回路NO	分岐開閉器	電圧(V)	負荷内容	容量(VA)
電灯	ELB2P 50/30A	①	MCB2P30/20A	100	除塵機格納扉 電灯，排気ファン	1600
		②			除塵機格納扉 コンセント	300
		③			除塵機格納扉 給水ポンプ	180
		(Z)			予備	———
	負荷計					2080

	主開閉器	回路NO	分岐開閉器	電圧(V)	負荷内容	容量(KW)
動力	ELB3P 30/20A	(A)		200		1.50
	負荷計					1.50

照明器具姿図

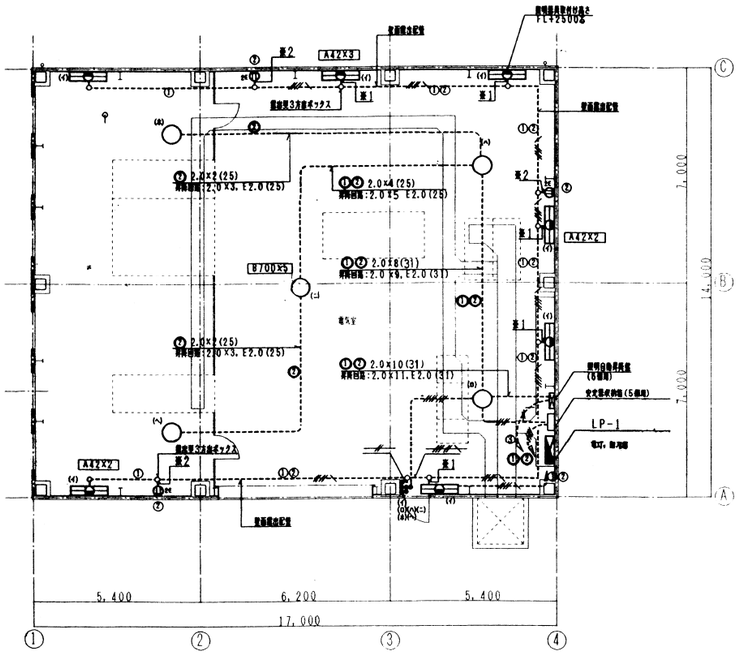
注記：(1)備考欄の番号は、当施設用照明器具番号又は、メーカー型番とする。

記号	容量	備考	姿図	記号	容量	備考	姿図
A42	FL40W×2	FBS4-402		B700	HID700W	電物法定耐用年数：CSE420S サルダー：HH1393 e-F：RH1050	



電灯動力盤 LP-2 (室内露出型)

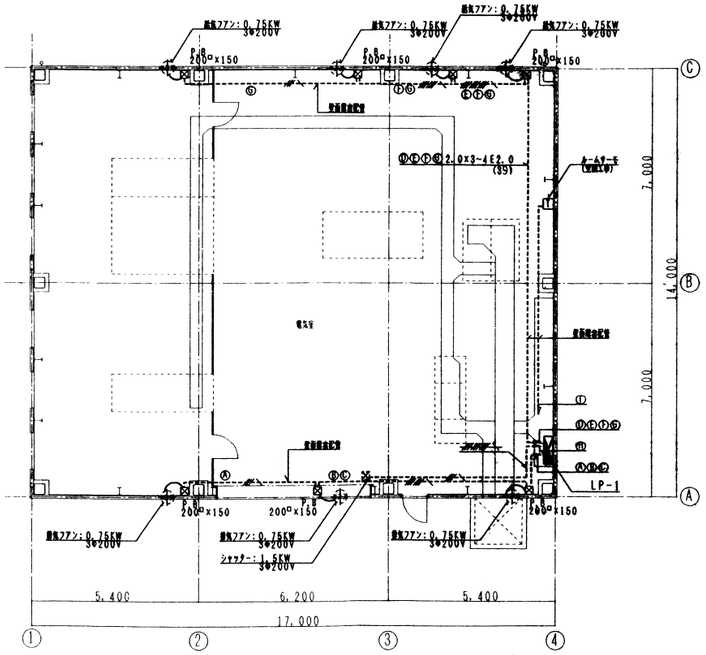
施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	電気設備(1/3)		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 1:100 A2 1:141	図面番号	8-190/319
作成者	関東農政局 両総農業水利事業所		



受電設備平面図 S=1/100

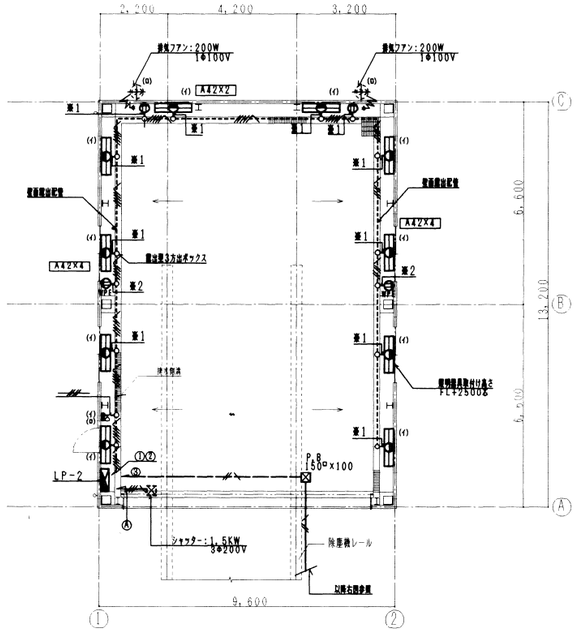
特記なき配管配線は、下記による。

第1	2.0×2 (19)
	2.0×3 (19)
	2.0×4 (25)
	2.0×5 (25)
	2.0×7 (25)
	2.0×6 (25)
第2	2.0×2 E2.0 (19)
	2.0×3 E2.0 (19)
	2.0×4 E2.0 (25)
	2.0×5 E2.0 (25)



受電設備平面図 S=1/100

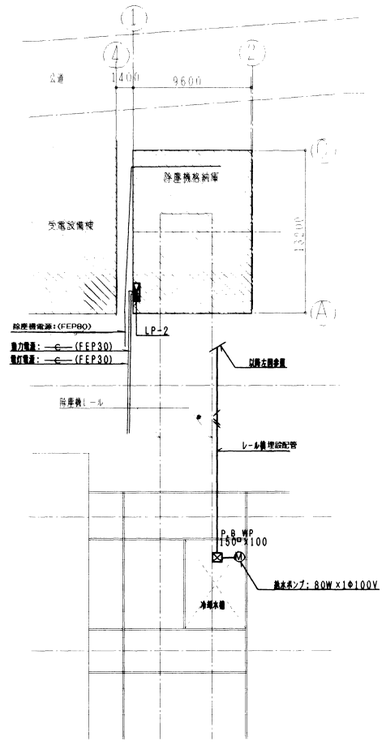
施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	電気設備(2/3)		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 1:100 A2 1:141	図面番号	8-191/319
作成者	関東農政局 両総農業水利事業所		



除塵機格納庫平面図 S=1/100

特記なき配管記号は、下記による。

———	第1	2.0×2 (19)
———		2.0×3 (19)
———		2.0×4 (25)
———		2.0×5 (25)
———		2.0×6 (25)
———	第2	2.0×2 E2.0 (19)
———		2.0×3 E2.0 (19)
———		2.0×4 E2.0 (25)
———		2.0×5 E2.0 (25)



除塵機格納庫平面図 S=1/250

施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)
図面名	電気設備(3/3)
作成年月	平成26年 3月
縮尺	A1 1:100 A2 1:141
図面番号	8-192/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所

工事設計図

仕様書

Ⅰ．工事概要

1．工事場所　千葉県山武郡横芝町寺方地内　他

2．建物概要

建物名称	構造	階数	延面積（㎡）	消防法施行令別表第一	備考
		1階建（地下一階塔屋一階）			
		階建（地下　階塔屋　階）			
		階建（地下　階塔屋　階）			

3．工事種目（⊙印のついたものを適用する）

工事種目 ＼ 建物別及び屋外						屋外
⊙電灯設備	一式					
・動力設備	一式					
・避雷設備	一式					
・受変電設備	一式					
・非常用自家発電設備	一式					
・自家発電設備	一式					
・電話設備	一式					
・構内交換設備	一式					
・電気時計拡声設備	一式					
・表示設備	一式					
・インターホン設備	一式					
・テレビ共同受信設備	一式					
・監視カメラ設備	一式					
・駐車場管制設備	一式					
・火災報知設備	一式					
・防犯設備	一式					
・中央監視制御設備	一式					
・						
・						
・						
・構内配電線路						一式
・構内通信線路						一式
・テレビ電波障害防除設備						一式

4．指定部分　・無　・有（　　）

5．工事範囲

6．設備概要（本工事における、工事種目ごとの概要を示すもので、仕様を規定するものではない。）
（1）項目は、番号に○印のついたものを適用する。
（2）設備概要は、⊙印のついたものを適用する。

種目	項目	設備概要
電灯設備	① 電気方式	幹線　・単相3線式200／100V　・直流2線式100V　・ 分岐　⊙単相2線式100V　・直流2線式100V　・ ・単相2線式200V　・　・
	2 非常照明器具	・電池内蔵形　・電源別置形
動力設備	1 電気方式	幹線　・三相3線式200V　・ 分岐　・三相3線式200V　・
	2 空調概要	・空調（ダクト、ファンコイル併用方式）　・空調（ダクト方式） ・パッケージ方式　・温風暖房
避雷設備	1 受雷部	・突針　・棟上導体　・金属製手摺、笠木（別途）等
	2 避雷導線	・引下げ導線　・建築構造体利用
	3 接地極	・接地極埋設　・建築構造体利用
受変電設備	1 電気方式	周波数　・50Hz　・60Hz 高圧　・三相3線式　6kV 低圧　・三相3線式　200V ・単相3線式　200／100V
	2 主遮断装置	定格遮断電流（　kA以上）　・PF-S形　・CB形
	3 設備容量	・変圧器総容量（　kVA） ・高圧電動機容量（　kW）
	4 進相コンデンサ	・高圧　・低圧 自動力率制御　・有　・無
	5 配電盤	・屋内形　・屋外形
非常用自家発電設備	1 形式	・キュービクル形　・簡易形　・オープン形
	2 発電機	電気方式　三相3線式 電圧（　V） 周波数（　Hz） 定格出力（　kVA以上）
	3 原動機	種類　・ディーゼル機関　・ガスタービン 定格出力（　PS以上） 始動方式　・電気式　・空気式 冷却方式　・水冷循環式　・ラジエータ式 （ディーゼル機関の場合） 種類　・軽油　・A重油　・灯油
	4 燃料	・燃料小出槽（　l） ・主燃料槽（　l）　・専用　・共用
通信・情報設備	1 構内交換装置	種類　・ボタン電話装置 ・電子交換機（・分散中継台方式　・中継台方式　・　） 回線数　・局線（　／　回線以上）　・専用線（　／　回線以上） ・内線（　／　回線以上）　・データ端末内線（　／　回線以上）
	2 電話機	・ボタン電話機 ・内線電話機 ・多機能電話機
	3 親時計	回線数（　回線）　・壁掛形　・フック形　・自立形
	4 増幅器	出力（　W）　・一般放送用　・非常放送用　・併用
	5 表示器	・多線直接式　・パルス伝送方式 ・LED表示　・マグネット表示
	6 インターホン	・所内連絡用　・身体障害者用　・夜間受付用　・保守用 ・　・
	7 アンテナ	・VHF　・UHF　・BS　・AM　・FM ・　・
	8 監視カメラ装置	・カラー用　・白黒用
	9 駐車場管制装置	車両検出方式　・光電式　・ループコイル式
	10 テレビ電波障害防除施設	防除工事の種別　・アンテナ改善対策　・共同受信施設対策 ・
火災報知設備	1 火災報知装置	・受信機（形　級　回線）　・単独　・複合 ・副受信機（　回線）
	2 自動閉鎖装置	連動制御器（　回線）　・単独　・火報盤と一体形
	3 ガス漏れ警報装置	ガスの種類　・都市ガス　・LPG 監視方式　・個別式　・集中監視式 ・受信機（形　回線）　・火報盤と一体形・単独
	4 非常警報装置	非常ベル
防犯設備	1 感知センサー	・マグネット式　・赤外線式　・　・
	2 受信機	回線数（　回線）
中央監視設備	1 監視方式	・警報盤（壁掛形　窓） ・表示操作盤 ・監視制御装置
	2 監視制御対象設備	・電灯設備　・動力設備　・受変電設備　・自家発電設備 ・火災報知設備
構内配電線路	1 電気方式	・三相3線式　6kV ・三相3線式　200V　・単相2線式　200V ・単相3線式　200／100V　・単相2線式　100V ・
	2 配線方式	・地中線式　・架空線式
	3 地中管の材料	・ポリエチレン被覆鋼管　（PLP） ・鋼製合成樹脂被覆ケーブル保護管　（GLT） ・波付硬質ポリエチレン管　（FEP） ・
	4 鉄柱器材	・一般形　・航空障害灯（ケーブル端末処理材共）
構内通信線路	1 配線方式	・地中線式　・架空線式
	2 地中管の材料	・ポリエチレン被覆鋼管　（PLP） ・鋼製合成樹脂被覆ケーブル保護管　（GLT） ・波付硬質ポリエチレン管　（FEP）

Ⅱ．工事仕様

1．共通仕様
図面、特記仕様書及び現場説明書（現場説明書に対する質問回答書を含む）に記載されていない事項は、すべて、建設大臣官房官庁営繕部監修の電気設備工事共通仕様書（平成5年版）及び電気設備工事標準図（平成5年版）による。

2．特記仕様
（1）項目は番号に○印の付いたものを適用する。
（2）特記事項において選択する事項は、⊙印の付いたものを適用する。

章	項目	特記事項
○一般共通事項	① 機材	本工事に使用する機材等は、設備機材指定表（電気の部）によるほか同等品以上とする。但し、同等品以上とする場合は、総括監督員の承認をうける。
	2 主任技術者等の資格	共通仕様書で規定する資格の区分　・資格の区分Ⅰ　・資格の区分Ⅱ
	③ 電気保安技術者	・おく　⊙おかない
	④ 電気工事士	契約電力500kW以上の電気工作物おいても、1種電気工事士により施工を行う。
	⑤ 工事用電力・水その他	本工事に必要な工事用電力、水等の費用及び官公署への諸手続き等の費用は請負者の負担とする。
	6 工事用仮設物	構内につくることが　・できる　・できない
	⑦ 完成図等	完成図及び保全に関する説明書　・提出要　・提出不要 完成図のマイクロフィルム（1部）　・提出不要　・提出要
	8 足場・さん橋類	別契約の関係請負者が定置したものは、無償で使用できる。
	9 発生材の処理	引渡しを要するもの　・無 ・有（　）
	10 残土処理	・引渡しを要するもの以外は構外搬出適切処理とし、搬出処理費は別途とする。 ・ ・構内指示の場所に敷きならしとする。　・ ・構外搬出とし、搬出処理費は別途とする。
	⑪ 工事写真	建設大臣官房官庁営繕部監修の「工事写真の撮り方」の建築設備編による。
	12 耐震施工	設備機器の固定は「建築設備耐震設計施工指針（建設省住宅局建築指導課監修）」による。なお設計用水平地震力は、次に示す設計用水平震度に機器の重量を乗じたものとする。また設計用鉛直地震力は設計用水平地震力の1／2とする。 設計用水平震度 機器の設置階 ／ 重要度の区分：地下　1階 ／ 2階以上 ／ 最上階 屋上　塔屋 重要度の高い設備機器：0.6 ／ 1.0 ／ 1.5 その他の設備機器：0.4 ／ 0.6 ／ 1.0 重要度の高い設備機器　・配電盤　・自家発電装置　・交換機 ・直流電源装置　・UPS装置（簡易形を除く）
	13 はつり	既存のコンクリート床、壁などの配管貫通部の穴明けは、図面に特記なき場合は原則としてタイヤモンドカッターによる。
	⑭ 電線本数容路など	分電盤、動力制御盤、端子盤などの二次側以降の配線経路、電線太さ、電線本数、管径などは、監督員の承認を受けて変更してもさしつかえない。
	15 呼び線	長さ1m以上の入線しない電線管には、1．2mm以上のビニル被覆鉄線を挿入する。
	⑯ フラッシュプレート	図面に特記のあるもの及び、特殊なものを除き　⊙金属製　・樹脂製
	17 フロアベースフロアプレート	・図面に特記なきものは水平高低調節付（空転防止リンク付）とする。 ・砲金製　・アルミ製
	18 再使用機器	取外し再使用機器は、清掃及び絶縁測定のうえ取付ける。
	19 天井仕上げ区分	（室名）は直天井を示し、（　）無しの室名は二重天井を示す。
	20 金属製電線管の塗装	・屋外の露出配管は塗装を行う。 ・下記の室内の露出配管は塗装を行う。 （　電気室　発電機室　）
	㉑ 蛍光灯	蛍光灯器具の回路方式、電圧は原則として下記による。 蛍光灯の種類：回路方式：電圧 ホームライト、コンパクト形（D27以下）：GL：100V 環形のランプ：15形以下：GL：100V 環形のランプ：20形　防雨形器具、防湿形器具、誘導灯および電池内蔵形非常用照明器具：GL：100V 直管形のランプ：20形　上記以外のもの：GH：100V 直管形のランプ：40形の避難口誘導灯：GL：100V 直管形のランプ：40形（避難口誘導灯を除く）及び110形：RH：⊙100V・200V Hf形ランプ　32／45ワット　コンパクト形（P36以上）：PH：・100V・200V
	22 非常用照明装置の照度測定	照度測定（　箇所以上）
	23 機器への接続	本工事の動力制御盤より別途電動機等への配線の接続は本工事とする。
	24 電動機等の接地	7．5kW以下で金属管配線の場合は金属管接地とする。
	25 電磁開閉器用押釦スイッチ	遠方操作用押釦スイッチは適用形とする。
	26 ローゼットアウトレット／パイラットアウトレット	ローゼットアウトレット　一般用（　個） パイラットアウトレット　・外部固定形　・内部固定形　・回転形または上下形
	27 保安器用接地	・本工事　・別途
	28 電話機への配線	電話機1台につき下記のものを見込む。 ・ボタン電話機　EBT　0．4-4C　15m ・内線電話機　T！VF0．65-2C　20m ・多機能電話機　T！VF0．65-2C　20m ・多機能電話機　EBT　0．4-4C　20m ・ワイヤープロテクター　1．5m
	29 防犯設備	工事範囲　・配管のみ　・機器実装
	30 ケーブル埋設標	地中線路には、ケーブル埋設標を設ける。 ・鉄製（　箇所）　・コンクリート製（　箇所）
	31 図示記号	電気設備工事標準図に下記のものを追加する。 照明器具（蛍光灯）　注）＊印は位置ボックスなしを示す。 天井付＊　角形天井付＊ たて付　〃（発電機回路）＊ 天井付（発電機回路）　〃（　〃　）＊ 天井付（発電機回路）＊　〃（電池内蔵形非常用照明器具） 天井付（電池内蔵形非常用照明器具）＊　〃（　〃　）＊ 天井付（白熱灯組込電源別置形非常用照明器具）＊　コードペンダント（　〃　）

32 接地極　接地極の材料は下記による。なお接地線EBの長さは1，500mm以上とし、10φ、14φはW＝40としてもよい。

接地の種類	記号	接地抵抗値	接地極
・共同接地	E_1 E_2 E_3	Ω以下	EB（14φ）×3連－組
・共同接地	E_1 E_3	Ω以下	EB（14φ）×3連－組
・第1種	E_1	10Ω以下	EB（14φ）×3連－2組
・第2種	E_2	30Ω以下	EB（14φ）×3連－2組
・第3種	E_3	100Ω以下	EB（10φ）×1
・特別第3種	E_{s3}	Ω以下	EB（14φ）×3連－組
・高圧避雷器	E_{LH}	10Ω以下	EB（14φ）×3連－2組
・低圧避雷器	E_{LL}	10Ω以下	EB（14φ）×3連－2組
・避雷設備	E_L	10Ω以下	EB（14φ）×3連－組
・交換機用	E_1	Ω以下	EB（14φ）×3連－組
・通信用	E_{13}	10Ω以下	EB（14φ）×3連－2組
・通信用	E_{3s}	100Ω以下	EB（10φ）×1
・通信用	E_A	100Ω以下	EB（10φ）×1
・測定用	E_0	———	EB（10φ）×1
・			

33 機器取付高　図面に特記なきものは下表を標準とする。但し下表によりがたい場合は監督員との協議による。

	名称	測点	取付高(mm)
共通	取引用計器	床上～上端	2,000
	引込開閉器	床上～上端	1,800
	警報器	床上～中心	1,500
	分電盤	床上～中心	1,500 (上端1,900以下)
電灯	タンブラスイッチ	〃	1,300
	〃（身障者用）	〃	1,100
	コンセント（一般）	〃	300
	〃（和室）	〃	150
	〃（台上）	台上～中心	300
	〃（里屋）	床上～中心	1,300
	ブラケット（一般）	〃	2,100
	〃（踊場）	〃	2,500
	〃（縁上）	縁端～中心	150
	避難口誘導灯	床上～下端	1,500以上
	廊下通路誘導灯	床上～上端	1,000以下
動力	壁掛形制御盤	床上～中心	1,500 (上端1,900以下)
	手元開閉器	〃	1,500
	操作スイッチ・押ボタン	〃	1,300
	室内端子盤（廊下・室内）	床上～下端	300
	中間端子盤（EPS．電気室）	床上～中心	1,500
	集合保安器箱	〃	(天井高)×0.9
話	壁掛アウトレットボックス		
	〃（一般）	〃	300
	〃（和室）	〃	150

	名称	測点	取付高(mm)
時計	壁掛形親時計	床上～中心	1,500 (上端1,900以下)
	子時計	〃	(天井高)×0.9
拡声	壁掛形スピーカー	〃	(天井高)×0.9
	アッテネータ	〃	1,300
表示	表示器	床上～中心	(天井高)×0.9
	壁付発信器	〃	1,300
	ヘルプ	〃	(天井高)×0.9
	ブザー	〃	(天井高)×0.9
	押ボタン	〃	1,300
	＊（身障者用押ボタン）	〃	900
	身障者用表示灯	〃	1,800
インターホン	壁付インターホン	床上～中心	1,500
	〃（身障者用）	〃	1,100
	壁付位置ボックス（壁付インターホンを除く）		
ホン	〃（一般）	〃	300
	〃（和室）	〃	150
テレビ共同受信	機器収容箱	床上～中心	(天井高)×0.9
	アウトレット		
	〃（一般）	〃	300
	〃（和室）	〃	150
火災報知	受信機	床上～操作部	800～1,500
	副受信機	〃	800～1,500
	機器収容箱	床上～中心	800～1,500
	発信器	〃	800～1,500
	ベル	〃	(天井高)×0.9
	消火栓表示灯	〃	(天井高)×0.8

備考　（天井高）×0.8　は天井高か2，500～3，000mmの場合適用する。
（天井高）×0.9

接地は機器盤よりとるものとする。

施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	洪水防止用ゲート上屋(特記仕様書1/3)		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	－	図面番号	8-193/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所		

土 策 書

I 工事概要

1 工事場所　千葉県山武郡横芝町寺方地内 他

2 改地面積

3 工事種目　直接仮設工事
コンクリート工事
型枠工事
鉄筋工事
組積工事
防水工事
左官工事
建具工事
塗装工事

4 工事範囲（今回工事種目は「3 工事種目」による。）

工事種目全て今回工事範囲とする。
「3 工事種目」のうち　　の今回工事範囲は下記の通りとする。
ただし、他の工事種目は全て今回工事範囲とする。

1 仮設工事	※工事範囲全て
3 土工事	
4 地業工事	
5 鉄筋工事	
6 コンクリート工事	
7 鉄骨工事	
8 ブロック・ALCパネル・PCカーテンウォール工事	
9 防水工事	
10 石工事	
11 タイル工事	
12 木工事	
13 屋根およびとい工事	
14 金属工事	
15 左官工事	
16 建具工事	
17 塗装工事	
18 内装工事	
12 雑工事	

II 建築工事仕様

1 図面及び特記仕様に記載されていない事項は、すべて建設大臣官房官庁営繕部監修 建築工事共通仕様書（平成5年版）による。
2 特記仕様
(1) 項目は、番号に○印のついたものを適用する。
(2) 特記事項は、○印を適用する。○印のない場合は※印を適用する。○印と※印の場合は、ともに適用する。
(3) 特記事項の（ ， ）内の番号は、建築工事共通仕様書の当該項目、当該表及び当該図を示す。

章	項目	特記事項
1 一般共通事項	① 適用基準等	○建築工事標準詳細図（建設大臣官房官庁営繕部監修 平成5年版） ・敷地調査共通仕様書（建設大臣官房官庁営繕部監修 平成5年版） ○鉄骨設計標準図（建設大臣官房官庁営繕部監修 平成2年版） ○工事写真の撮り方 建築編（建設大臣官房官庁営繕部監修） ・
	② 電気保安技術者	※ 適用する ・適用しない (1.2.3)
	③ 技能士	※ 適用する ・適用しない (1.5.2) 適用工事種別 鉄筋工事 ・鉄筋施工 コンクリート工事 ・左官 ・型枠施工 鉄骨工事 ・とび ブロック・ALCパネル・PCカーテンウォール工事 ・ブロック建築 ・ALCパネル施工 ・カーテンウォール施工 防水工事 ・防水施工（・アスファルト防水工事作業 ・合成ゴム系シート防水工事作業 ・シーリング防水工事作業） 石工事 ・石材施工 タイル工事 ・タイル張り 木工事 ・建築大工 屋根及びとい工事 ・建築板金 ・スレート施工 金属工事 ・内装仕上げ施工（鋼製下地工事作業） 左官工事 ・左官 建具工事 ・サッシ施工 ・ガラス施工 塗装工事 ・塗装 内装工事 ・内装仕上げ施工（・プラスチック系床仕上げ工事作業 ・ボード仕上げ工事作業） ・表装 植栽工事 ・造園
	④ 建築材料等	建築材料の製造所、製品及び施工業者等は、特記されたもの又はこれらと同等以上とする。 ただし、同等以上とする場合は、総括監督員の承諾を受ける。
	⑤ 特別な材料の工法	建築工事共通仕様書に記載されていない特別な材料の工法は、当該製品の指定工法による。
	⑥ 発生材の処理	※現場説明書による。 (1.1.10)
	⑦ 完成写真	下記のものを監督員に提出する。ただし、原版は撮影業者の保管とする。 分類規格 / 撮影箇所数 / 部数 / 原版の大きさ（mm） モノクロームキャビネ版 / 外部（ ）内部（ ） / ※3 ・ / 100×125以上 カラーキャビネ版 / 外部（ ）内部（ ） / ※3 ・6 / 100×125以上 カラースライド / 同上 / ※1 / 24×36以上 カラーパネル / 外部（ ） / ※0 ・2 / 寸法400×325（縁なし） 撮影業者 ※監督員の承諾する撮影業者（ただし建築完成写真撮影の実績の有る業者とする。）
	⑧ 設備工事との取合い	設備機器の位置、取合い等の検討できる施工図を提出して監督員の承諾を受ける。
	⑨ 完成図など	※作成する ・作成しない (1.6.2)
	10 条件明示項目	
2 仮設工事	① 監督員事務所	※設ける ・設けない (表2.3.1) ・1号 ・2号 ・3号 ・4号 ・5号 ・
	② 工事用水	構内既存の施設 ※利用できない ・利用できる（※有償 ・無償）
	③ 工事用電力	構内既存の施設 ※利用できない ・利用できる（※有償 ・無償）
3 土工事	1 埋戻し及び盛土	・A種 ※B種 ・C種 ・D種 (3.2.3)(表3.2.1)
	2 建設発生土の処理	※現場説明書による (3.2.5) ・構外搬出適切処理 ・構内指示の場所にたい積 ・構内指示の場所に敷きならし
4 地業工事	1 既製コンクリート杭地業	種類 (4.2.1)(4.5.2) ※遠心力プレストレストコンクリート杭（※呼価品 ・JIS規格品） ・ 杭径(mm) / 杭長（m）及び種別 / 継手数 / セット数 / 備考 試験杭 / / / / / 本杭 / / / / / 杭頭の切断方法 ※ダイヤモンドカッター ・ (4.2.4) 先端部形状 ※開放形 ・閉そく平たん形 (4.2.1) 施工法 (4.2.2) ・建築基準法第38条の規定に基づき認定された工法 ・打込み工法 オーガーの併用 ※あり ・なし オーガー径 杭径－50mm程度 プレボーリング長 ※本杭長－2m ・ ベントナイト安定液 ※使用しない ・使用する ハンマー種別 ※油圧ハンマー ・ドロップハンマー ・ディーゼルハンマー 油圧ハンマーは建設技術評価規定(昭和53年建設省告示976号)に基づく技術評価を受けた低騒音型油圧ハンマーとする。 パイルドライバー ※ハンマー直結三点支持式 ・ブーム式 ・ポータブル式 プレボーリングの場合にはオーガー併用形とする
	2 場所打ちコンクリート杭地業	コンクリートの種別 ・A種 ・B種 (表4.4.1) 鉄筋の種別 5章鉄筋工事の鉄筋の種別による (4.4.3) 掘削工法 ・アースドリル工法（※安定液使用 ・無水掘削） (4.4.4) ・リバース工法 ・オールケーシング工法（孔内の水張 ※行う ・行わない） ・(財)日本建築センター等により評価された工法 (4.4.4) （ ）
	3 砂利地業	※再生クラッシャラン ・切込み砂利及び切込み砕石 (4.8.1)
	4 床下防湿層	施工箇所 ※建物内の土間床版及び土間コンクリート下（ピット下を除く） (4.10.1)
5 鉄筋工事	1 鉄筋の種別	(5.1.1)(表5.1.2) 鉄筋 / 種別 / 種別 / 呼び名（mm） 異形鉄筋 / ※A種 / ・SD345 / ・SD295A / ・ / ・B種 / ・ /
	2 鉄筋の継手	呼び名19mm以上の柱、梁の主筋 ※ガス圧接 ・重ね継手 (5.2.1)
	3 鉄筋のかぶり厚さ	※かぶり厚さは目地底から算定する。 (5.2.2) ・耐久上不利な箇所の鉄筋のかぶり厚さは下表による 施工箇所 / 5.2.5表の値に加える寸法（mm） 柱、梁、壁及び底などの外気に接する打放し面 / ※10 ・
	4 既製コンクリート杭の杭頭補強	・A形 ・B形 ・図示 (5.3.1)(図5.3.2)
	5 帯筋	※H形（ロは除く） ・ (5.4.1)(図5.4.2)
	6 最上階柱頭補強	※行なう ・行なわない
	7 壁開口部の補強	一般壁 ※A形 ・B形 (表5.6.4)(表5.6.5) 耐震壁 ※B形 ・図示
	8 梁貫通孔の補強形式	※H形 ・MH形 ・M形 (5.9.1)(表5.9.1～表5.9.3) ・建設技術評価規定（昭和53年度告示第976号）に基づく評価又は（財）日本建築センターの評価を受けたもの
	9 圧接完了後の検査	※引張試験による検査 ・超音波探傷試験による検査 (5.10.4)
6 コンクリート工事	① レデーミクストコンクリートの種別	※Ⅰ類 ・Ⅱ類 (表6.1.1)
	② セメントの種類	※普通ポルトランドセメント又は混合セメントA種 ・ (6.2.1)(6.10.2) 普通ポルトランドセメントの品質は、JISR5210に示された規定の他、次の規定に適合しなければならない。ただし、無筋コンクリートに用いる場合を除く。 水和熱 7d 84cal/g以下 / 28d 96cal/g以下 全アルカリ 0.75%以下 算出はJISR5210ポルトランドセメント（低アルカリ形）による。 塩素 0.02%以下
	③ 砕石及び砂利の種類	※A (6.2.2)(6.4.4) ・B（※コンクリート中のアルカリ総量Rt=3.0kg/m³以下 ・高炉セメントB種）
	4 混和材料の種別	※混和剤 ・混和材 (6.2.4)
	⑤ 普通コンクリートの設計基準強度	(6.1.2)(6.3.1) 設計基準強度Fc(kgf/cm²)(N/mm²) / 施工箇所 ※210（21） / ○180（18） / 土間以外
	⑥ 型枠（せき板）の種別	塗装の有無 ※無 ・ (6.14.1)
7 鉄骨工事	① 施工管理技術者	※適用する ・適用しない (7.1.4)
	② 鋼材	(7.2.1)(7.9.2) 材質 / 使用箇所 / 規格等 SS400 / 柱・梁 / ※JIS規格品 ・7.2.7(b)に合格するもの SSC400 / / ※JIS規格品 ・7.2.7(b)に合格するもの / / ※JIS規格品 ・7.2.7(b)に合格するもの / / ※JIS規格品 ・7.2.7(b)に合格するもの
	③ 高力ボルト	※トルシア形高力ボルト ・JISの高力ボルト ○溶融亜鉛めっき高力ボルト (7.2.2)(7.10.2)
	④ 溶接部の検査	(7.5.8) 試験の種別 / 試験箇所 / 抜取率 / 抜取方法 ・超音波探傷試験 / / ※7.5.8(a)(5)による ・ / ※7.5.8(a)(5)による ・ ・放射線試験 / / / / ・マクロ試験 / / / / ・ / / / /
	5 耐火被覆	種別 ※ロックウール吹付け ・ (7.7.1) 所要性能（区分） ・30分耐火（ ） ・1時間耐火（ ）
	⑥ アンカーボルトの保持及び埋込み工法	・A種 ※B種 ・C種 (表7.8.1)
	⑦ 柱底均しモルタル工法	・A種 ※B種 (表7.8.2) 無収縮モルタルの製造所
	⑧ 鉄骨の製作工場	・監督員の承諾する製作工場 (7.1.2) ※「溶接作業判定基準」に適合する製作を行う製作工場又は建設省告示第1103号に基づき建設大臣が認定した製作工場のうち、下記の条件を満足するもの (1) 契約電力 （ ）kW以上 (2) 超音波探傷機器（ 1 ）台以上又は放射線透過試験装置（ 1 ）台以上 (3) 建築士 1級（ 1 ）名以上かつまたは2級（ 2 ）名以上 (4) WES8103 1級（ 1 ）名以上かつまたは2級（ 2 ）名以上 (5) NDIUT III種（ 2 ）名以上かつまたはII種（ 2 ）名以上
	⑨ 溶融亜鉛めっき	(7.10.3) 材料 / めっきの付着量（JISH8641） / 備考 SS400 / ※HDZ55 ・ / SSC400 / ※HDZ35 ・ / 普通ボルト / ※HDZ35 ・ / 素地ごしらえは、JISH9124溶融亜鉛めっき作業標準による。
8 PCカーテンウォールPCパネル工事	1 空洞コンクリートブロック	補強コンクリートブロック造 ※C種普通ブロック ・C種防水ブロック (8.1.2) 帳壁及び塀 ※表8.2.1及び下表による (8.2.2) 種別 / 施工箇所 A種普通 / 設備配管用ブロック積み
	2 キャスタブル耐火物	工法 ※こて押え ・ (8.3.2) 最高使用温度 ※400℃ ・ 材質 ※粘土 ・アルミナセメント
	3 れんが	見え隠れ部分は市販品のれんが又は市販品のれんが形コンクリートブロックとする。
	④ ALCパネル	(表8.5.2)(8.5.2) 種別 / 単位荷重（kgf/m²） / 厚さ（mm） / 取付工法 ○外壁用 ・120 ○200 / ○100 / ※B種 ・間仕切用 ・65 / / ※A種 ○屋根用 ○100 / / ・床用 ・240 ・360 / ・100 ・150 /
9 防水工事	1 アスファルト防水	(表9.1.1～表9.1.6)(9.1.2) 種別 / 施工箇所 ※A－2 / ・A1－2 / ・C－2 / ・E－1 ・E－2 / アスファルト ※3種 ・4種 伸縮調整目地 ・注入目地 (9.1.5(d)) ※成形伸縮目地 製造所
	② 合成高分子系ルーフィングシート防水	(表9.2.1) 種別 / 厚さ（mm） / 施工箇所 / 仕上げ塗料塗り / 使用分類 ※S－1 / ※1.2 ・ / / ・シルバー / ※非歩行 ・S－2 / ※2.0 ・ / / ・カラー / ・軽歩行 ・S－3 / ※2.0 ・ / / / ・S－4 / ※1.5 ・ / / /
	3 塗膜防水	(表9.3.1)(表9.3.2) 種別 / 施工箇所 / 仕上げ塗料塗り ・X－2 / / ・Y－2 / / ・シルバー ・カラー
	4 シーリング材料	(9.4.2)(表9.4.1)(10.2.3)(10.3.3)(11.1.1)(11.2.3)(16.2.4)(16.11.1) 種別 / 施工箇所 ○A種 ガラス突き付け部 ・B種 金属製笠木 ○C種 外部建具周囲 外壁目地 耐震スリット目地 ガラス留め（ガラス留めはポリサルファイドシーリングとする） ・D種 ・E種 ・F種 遮音壁取り合い部
10 石工事	1 テラゾブロック張り	種石の種別 ※大理石 ・花こう石 (10.4.2)
11 タイル工事	1 陶磁器質タイル	タイルの種別 (11.1.1)(11.2.3) 施工箇所 / 形状寸法 / きじ（磁器 / せっ器 / 陶器） / うわ薬（無釉 / 施釉） / 役物（有 / 無） / 色（標準 / 注文） / 備考 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ 製造所 磁器質タイル せっ器質タイル（クリンカータイルを除く）
	2 壁タイル張りの工法	内装タイル ※壁タイル接着剤張り ・積上げ張り 外装タイル ・型枠先付け工法（施工箇所は立面図による） ・密着張り
	3 陶磁器質タイル型枠先付け工法	(表11.2.1)(11.2.3)(11.2.5) 適用タイル / 種別 / タイル型枠先付け面のせき板の程度 小口タイル 二丁掛タイル / タイルシート法 / 表6．14．1のB種 大形タイル / 桟木法 / 表6．14．1のB種
12 木工事	1 木材の材質	※12．1．2による ・市販品
	2 樹種	代用樹種を適用しない箇所（ ） (表12.1.3)
	3 造作用集成材	樹種 ※たも ・なら ・しおじ (12.1.7) 単材の厚さ（mm） ※15 ・
	4 防ぎ処理	行う箇所（ ） (12.1.13)
13 屋根およびとい工事	1 折板葺	専門業者は製造所又は指定業者とする。 (13.2.1～13.2.3) 材料 ※塗装溶融亜鉛めっき鋼板 ・ 寸法 板厚（ ）mm 山高（ ）mm 山のピッチ（ ）mm 緊結方式 ※ボルト式 ・はぜ式 断熱材 ※有（種別 厚さ mm） ・無 耐火性能 ※30分耐火 ・無
	2 とい	材種 ※配管用鋼管 ・硬質塩化ビニール管 (表13.4.1) 鋼管製といの防食 ※表13．4．4による
	3 ルーフドレン	掃除口 ※有 ・無 (13.4.7) 製造所 (表13.4.1)
14 金属工事	1 アルミニウム及びアルミニウム合金の表面処理	(表14.2.1) 種別 / 施工箇所 ・B－1（無着色） / ・B－2（・濃着色 ・淡着色 ・ ） /
	2 鉄の亜鉛めっき	(表14.2.2～表14.2.4) 類別 / 付着量の種別 / 施工箇所 / 試験 ・A類 ・A種 ・B種 ※C種 / 門扉 / 行う ・B類 ・A種 ・B種 ※C種 / / 行う
	3 外部手すり	※ ステンレスSUS304 ・鋼（亜鉛めっき14．2．3のA類C種）
	4 タラップ	※ ステンレスSUS304 ・鋼（亜鉛めっき14．2．3のA類C種）
	5 金属成形板張り	材質 ※アルミニウム製 ・ (表14.2.1)(14.7.1) 製法 ・押出し ・ロール 形状 （ ） 寸法（mm） 板幅（ ） 板厚（ ） 表面処理 ・B－1 ・B－2 施工箇所 （ ）
	6 アルミニウム製笠木	種類 ・250形 ・350形 (表14.8.1) 表面処理 ※A－1種又はB－1種 ・ (14.8.2)(表14.2.1)
	7 フッソ樹脂塗装鋼板	

施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)
図面名	洪水防止用ゲート上屋(特記仕様書2/3)
作成年月	平成26年 3月
縮尺	－ 図面番号 8-194/319
作成者	関東農政局 両総農業水利事業所

5 建具工事

1 材料
※ 屋内の壁及び天井の仕上げ材は、防火材料又は建築基準法に基づく基材同等の認定表示のあるものとする。

2 鋼製建具の工事
製造所 (15.3.5)

3 建具仕上げ (15.6.1)(表15.6.1)(15.6.4)

名称	種類	仕上げ（工法）
・薄付け仕上塗材	・外装薄塗材Ｅ	・砂壁状（※吹付け　・ローラー） ・着色骨材砂壁状
	・内装薄塗材Ｅ	砂壁状ジュラク（※吹付け　・ローラー）
※複層仕上塗材	・複層塗材ＣＥ	・ゆず肌　・凸部処理　※凹凸模様
	・複層塗材Ｓｉ	※吹付け　・ローラー
	・複層塗材Ｅ	上塗り材
	※複層塗材ＲＥ	種　別　※アクリル樹脂エナメル ・ウレタン樹脂エナメル ・フッ素樹脂
	・複層塗材ＲＳ	色　彩　光沢（※１色　・２色） 塗布量　※２回塗り０．３kg／㎡以上 ・３回塗り０．４kg／㎡以上

4 建具仕上塗材の下地
骨　材　※パーライト　・バーミキュライト (15.7.1)
仕上厚さ（㎜）　※５

6 金属製建具工事

1 アルミニウム製建具
類　別　※Ｂ類　・Ａ類 (16.2.1～16.2.3)
耐風圧　※２８０以下
気密性　※８　⊙２
水密性　※３５　⊙５０
表面処理　※Ｂ－１　・Ｂ－２（※濃着色　・淡着色　・　）(表14.2.1)
製造所

2 ガラス
形　式　※外面可動式　・固定式 (16.2.5)
網の種別　※ステンレス製　・ガラス繊維入り合成樹脂製　・合成樹脂製
メッシュ　※＃１６　・＃１８

3 建具金物
製造所 (16.3.2)

4 鋼製建具
製造所 (16.4.2)

5 ステンレス製建具
曲げ加工　※普通曲げ　・角出し曲げ (16.5.1)(16.5.2)
製造所

6 自動扉
駆動力　※電気式　・電動油圧式 (16.6.2)
検出装置　※熱線　・マットスイッチ
製造所

7 軽量シャッター
防火、防煙以外のシャッターケース　※設ける　・設けない (16.7.1)
製造所

8 鋼製シャッター
製造所 (表16.8.1)

9 建具用金物
マスターキー　・製作する　⊙製作しない (16.10.2)

種別	製造所
モノロック	
本締り付きモノロック	
シリンダー箱錠	
シリンダー本締り錠	
ドアクローザー	
ピボットヒンジ	
ヒンジクローザー	※丁番型　・
フロアヒンジ	防火戸はストップなしとする。

10 ガラス
・合わせガラス　※フロート板合わせガラス　・ (16.11.1)
・強化ガラス　※フロート板強化ガラス　・
・熱線吸収板ガラス　※熱線吸収フロート板ガラス　・熱線吸収繊入り磨板ガラス
色調（・グレー　・ブルー　・ブロンズ）
・複層ガラス　断熱性区分　・
板ガラスの材種　・
・ガラスブロック　※ＪＩＳＡ５２１２の規格品

11 ガラス留め材 (16.11.1)(表16.11.1)

建具の種類	材種
アルミニウム製	※シーリング材 ・ガスケット（ＦＩＸ部はシーリング材とする）
鋼　製	※シーリング材
ステンレス製	※シーリング材

12 オーバーヘッドドア
ただし、防火戸は建築基準法に基づく防火性能認定品とする。 (表16.12.1)(表16.12.2)
開閉機構　※バランス式　・チェーン式　・電動式
セクション材　・スチールタイプ　・アルミニウムタイプ　・ファイバーグラスタイプ
ガイドレール　※鋼板　・ステンレスＳＵＳ３０４　厚さ２㎜
アルミ製材の表面処理　※陽極酸化塗装複合皮膜（・標準色　・指定色）　・陽極酸化皮膜
ガイドレール用鋼板の亜鉛付着量試験　※行わない　・行う
製造所

17 塗装工事

1 防火材料
② 塗装業者
※日本塗装工業会の会員　・監督員の承認する業者
（工法・仕上げ）

3 塩化ゴム系エナメル塗り
製造所 (17.12.2)(17.12.3)

4 床用塗料塗り
材　質　ウレタン樹脂系塗料（※標準色　・　）
仕上種別　※平滑仕上げ　・防滑仕上げ
塗布量　プライマー塗りのうえ主剤２回塗りとし、総塗布量は０．５kg／㎡以上とする

5 フッ素樹脂塗装
製造所名（製品名）

18 内装工事

1 ビニル床シート張り (18.1.1)

種類	記号	色柄	厚さ(㎜)	品質
※発泡層のないもの	※ＮＣ	※無地・マーブル	※２．５	JISA5705の規格品
・発泡層のあるもの		※柄物・無地		
・				

工法　一般用　※熱溶接　・突付け（施工箇所　）
住宅用　※突付け　・熱溶接（施工箇所　）

2 ビニル床タイル張り (18.2.1)

種類	記号	厚さ（㎜）
※コンポジションビニル床タイル　半硬質	ＣＴ	※２
・コンポジションビニル床タイル　硬　質	ＣＴＳ	・
・ホモジニアスビニル床タイル（※マーブル　・無地）	ＨＴ	

3 ビニル幅木
高さ（㎜）　※６０　・７５ (18.2.1)
厚さ（㎜）　※２

4 合成樹脂塗り床 (18.3.2)(表18.3.3～表18.3.7)

種別	仕上げの種類
・弾性ウレタン塗り床材	※平滑仕上げ　・防滑仕上げ　・つや消し仕上げ
・エポキシ樹脂塗り床材	※薄膜流し展べ仕上げ　・厚膜流し展べ仕上げ ・樹脂モルタル仕上げ　・防滑仕上げ

5 既製間仕切
構造形式　※パネル式　・スタッド式
表面材（厚さ（㎜））　※鋼板（※0.6　・0.8）　・
仕上げ　※メラミン樹脂又はアクリル樹脂焼付塗装　・
品　質　ＪＩＳＡ６５１２による

6 石こうボードその他ボード張り (18.4.1)(表18.4.1)

・石こうボード	JISA6901の規格品 厚さ9.5㎜(準不燃) 12.5㎜(不燃)
・化粧石こうボード	JISA6901による　厚さ9.5㎜(不燃)
・木目化粧石こうボード	市販品 厚さ9.5㎜(準不燃)幅440㎜程度(※柾目・杢目) 専用下地材付き
・シージング石こうボード	JISA6901の規格品
・木毛セメント板	JISA5404の規格品
・無石綿セメントけい酸カルシウム板	JISA5418に準拠したノンアスベストのもの
・メラミン樹脂化粧板	JISK6903の規格品　厚さ1.2㎜
・ロックウール化粧吸音板	JISA6301の規格品

7 フローリング張り (18.5.1～18.5.5)(表18.5.1～表18.5.4)

類別	樹種	工法	仕上塗装
※天然木化粧複合フローリング	※ひのき	※くぎ留工法（※Ｃ種）	※無
・	・	・	・

8 壁紙張り (18.6.1)

施工箇所	防火性能の級別	品質など
	※１級　・２級	
	※１級　・２級	
	※１級　・２級	
	※１級　・２級	
	※１級　・２級	
	※１級　・２級	
	※１級　・２級	

製造所

9 カーペット敷き (18.8.2～18.8.4)(表18.8.1～表18.8.3)

種類	種別
・ウィルトンカーペット（グリッパー工法）	・Ａ種　・Ｂ種　※Ｃ種
・タフテッドカーペット（全面接着工法）	・Ａ種　・Ｂ種　・Ｃ種

品質検査　※行わない　・行う
帯電電圧性　※3,000Ｖ以下　・

施工箇所	防炎性能	品質など
	※有　・無	
	※有　・無	
	※有　・無	
	※有　・無	

製造所

10 タイルカーペット敷き
※Ｃ種　・ (18.8.3(d))

11 断熱材 (18.9.2)

材種	種類	厚さ(㎜)	施工箇所	品質規格
※ポリスチレンフォーム保温材	※Ｂ類２種ｂ	※25　・		JISA9511に準拠したノンフロンのもの
	・Ｂ類３種（皮付き）	※25　・		
・硬質ウレタンフォーム保温材	・１種２号			JISA9514の規格品又は適合品
	・吹付け硬質ウレタンフォーム断熱材			JISA9526によるただし特定フロンは使用しない

12 吸音材

材種	種類	厚さ（㎜）	品質規格
※グラスウール	グラスウール吸音ボード２号32Ｋ	※25　・	JISA6306の規格品
・ロックウール	ロックウール吸音ベルト１号	※25　・	JISA6303の規格品

13 ポリスチレンフォーム床下地
たたみ下地　厚さ（㎜）　※４０　・
フローリング類下地　厚さ（㎜）　※８０　・
既製品　幅２００㎜　準不燃材　（

14 浴室天井材

19 舗装工事

1 しゃ断層及び凍上抑制層用材料
しゃ断層　※川砂、海砂又は山砂　・ (19.2.1)
凍上抑制層　※切り込み砂利　・
路床の盛土材料　・ (19.2.2)

2 盛土材料
3 路床土の支持力比試験
※ 行わない　・行う（※乱した土　・乱さない土） (19.2.3)

4 路床締固度の試験
※ 行わない　・行う (19.2.3)

5 路盤材料
※ 再生クラッシャラン（４０～０　最大粒径４０） (19.3.1)(表19.3.1)
・ クラッシャラン（Ｃ－４０）又はクラッシャランスラグ（ＣＳ－４０）
・ 再生粒度調整砕石（４０～０　最大粒径４０）
・ 再生コンクリート砂
加熱混合物　再生材の使用　※使用する　・使用しない (19.4.2)(表19.4.2)

6 アスファルト舗装

表層	※密粒度アスファルト混合物（１３）　・密粒度アスファルト混合物（１３Ｆ） ・細粒度アスファルト混合物（１３）
基層	※粗粒度アスファルト混合物

シールコート　※行わない　・行う（施工範囲　）(19.4.3)
アスファルト混合物の抽出試験　※行わない　・行う (19.4.4)
早強セメント　※使用しない　・使用する (19.5.1)
溶接金網　※有　・無
(19.6.2)(19.6.4)

・カラー舗装		※顔料を使用した加熱アスファルト混合物
・コンクリート平板舗装	寸　法	※Ｎ３００　・
	クッション材	※砂　・空練りモルタル
・インターロッキングブロック舗装	色　彩	・ナチュラル　※カラー
	厚　さ（㎜）	※６０　・
	クッション材	※砂　・空練りモルタル
・透水性舗装		

7 コンクリート舗装
8 特殊舗装

20 排水工事

1 鋳鉄製マンホールふた
耐荷重　・Ｔ－２用（※防臭型　・　）
・Ｔ－６用（※防臭型　・　）
製造所

2 鋼製グレーチングふた
耐荷重　・５００kg／㎡用　・Ｔ－１４用
・Ｔ－６用
形　式　※受枠付き
製造所

3 遠心力鉄筋コンクリート管
径１５０㎜未満はＪＩＳ表示許可工場の製品とする。 (20.1.1)
継手　※ソケット管のゴム接合　・カラー又はソケット管のモルタル接合

4 浸透管及び浸透ます
製造所

21 植栽工事

1 植込用土
※ 現場発生土の良質土　・客土（※畑土　・黒土） (21.1.1)
※ 防腐剤塗り (21.1.2)

2 支柱
3 芝張り
種別　※こうらい芝　・野芝 (21.2.1)
客土　・行う　※行わない (21.2.2)

22 雑工事

1 階段滑り止め
材　種　ステンレスＳＵＳ３０４ (22.1.2)
形　状　ビニルタイヤ入り
両端フラットエンド　※無　・有（※ステンレスSUS304　・ビニル製）
幅（㎜）　約３５
取付工法　※接着工法　・埋込み工法

2 階段手摺笠木
※ ビニル製ハンドレール（幅　約５０㎜）
・ 集成材クリアラッカー仕上げ（市販品　径　約４５㎜）

3 黒板 (22.1.4)

種類	規格	寸法	色彩	備考
・鋼　製	JISS6007		※緑　・	※曲面・スクリーン付引分け
・木　製	の規格品		※緑　・	※曲面・スクリーン付引分け
・ほうろう	JISS6045		※緑　・	※曲面・スクリーン付引分け
・焼き付け	の規格品		※緑　・	※曲面・スクリーン付引分け

枠の材質　※アルミ製　・木製

4 カーテン (22.3.1)(22.3.2)(表22.3.1)

施工箇所	形式	装置	名称品質	ひだの種別
	・片引・引分	・電動・ひも引・手引		・Ａ種・Ｂ種・Ｃ種
	・片引・引分	・電動・ひも引・手引		・Ａ種・Ｂ種・Ｃ種
	・片引・引分	・電動・ひも引・手引		・Ａ種・Ｂ種・Ｃ種
	・片引・引分	・電動・ひも引・手引		・Ａ種・Ｂ種・Ｃ種
	・片引・引分	・電動・ひも引・手引		・Ａ種・Ｂ種・Ｃ種

製造所

5 カーテンレール
材種　※アルミニウム製　・ステンレス型 (22.3.2)
種類　・軽量用（１０－６０）　・中量用（１０－９０）
形式　・片引　・引分

6 ブラインド
※ 横　型　スラット幅　※２５ (22.4.1)
・ たて型　スラット幅

7 カーテンボックス
・ 既製品（アルミニウム製　押出し型材）
溝幅×深さ（㎜）　※９０×１５０　・１５０×１５０
色　彩　※シルバー　・着色
・ 図　示

8 天井点検口
材　質　アルミニウム製（※額縁タイプ　・目地タイプ）
製造所

9 床点検口
材　質　アルミニウム製（受け枠　※アルミ製　・ステンレス製）
製造所

10 鋼製書架及び物品棚
・ 鋼製書架（ＪＩＳＳ１０３９の規格品）
・ 鋼製物品棚（ＪＩＳＳ１０４０の規格品）

11 かぎ箱
市販品
形　式　・３０組用　・６０組用　・１２０組用

12 くつふきマット
※ 塩化ビニル製（コイル状　ステンレス製受枠）　・硬質アルミニウム製（受枠とも）
・ ビニル製（ステンレス製受枠）　・ステンレス製（受枠とも）

13 流し台
※ 優良住宅部品（Ａ－１型トラップ付 Ｌ=※1,200 ・1,500 ・1,800）　・
14 コンロ台
※ 優良住宅部品（Ａ－１型 Ｌ=※600 ・700）（バックガード ※有 ・無）　・
15 つり戸だな
※ 優良住宅部品（Ａ－１型 Ｌ=※1,200 ・900 ・600）　・
16 水切りだな
※ 市販品（ステンレス製２段式 Ｌ=※1,200 ・900）
17 旗竿
材　質　※アルミニウム合金製
形　式　※テーパー型　・同一断面型
地上高さ（m）　・６　・８　・１０　・１２
操作方法　※ハンドル式　・ロープ式
製造所

18 旗竿受金物
材　種　ステンレス製ＳＵＳ３０４

19 表示標識
誘導標識は既製品とし、その他は共通詳細図による。
製造所　監督員の承認する製造所

20 煙突用成型ライニング材
製造所

21 砂利敷き
※ Ｂ種 (表22.5.1)

22 視覚障害者用誘導床材
屋外　※レジンコンクリート製　・磁器質タイル（※100角　・150角）
屋内　※塩化ビニル製　・磁器質タイル（※100角　・150角）

23 敷地境界石標
※ Ａ種　・Ｂ種 (表22.7.1)

24 フェンス
※ ビニール被覆エキスパンドフェンス　・樹脂塗装メッシュフェンス　・鋼管フェンス
製造所

25 屋内掲示板
枠の材質　アルミニウム製

26 屋外掲示板
照明器具　※無　・有
製造所

27 既製トイレブース
表面仕上材　メラミン樹脂化粧板（標準色　アルミ製コーナーエッジつき）
足　形　状　・足金物型　・巾木型
製造所

28 スライディングドア
厚さ　㎜　遮音性　・有　・無
表面材　※鋼板　・　仕上げ　・壁紙張り　・焼付塗装
製造所

29 洗面カウンター
※ メラミン樹脂製　Ｄ＝　㎜（洗面器用切り込み及び取合い部のシーリングを含む）
・

30 フリーアクセスフロア
建設技術評価制度「耐震型フリーアクセスフロアの開発」の技術評価を取得したもの
寸法（㎜）　450角～600角
・ 床板からフリーアクセスフロア天端までの高さ（　㎜）
床仕上げ材　※帯電防止ビニル床タイル　２．０㎜
設計用水平震度　（　Ｇ）
ボーダー部およびスロープ　※一般部の仕様に準ずる　・図示による

31 耐震スリット

	内壁	外壁
目地幅（約）	※２０㎜　・　㎜	※２０㎜　・２５㎜
目地材	シーリング材（見えかかりのみ）	シーリング材（内外とも）

製造所

32 車止め支柱
ステンレス製（上下式鍵内蔵型）　ｔ＝２．５㎜　径１１４．３㎜　Ｈ＝ＧＬ＋７００㎜
※スプリング付　・スプリングなし

33 止水板
製造所

34 ステンレス製郵便受箱
既製品　取り出し扉は鍵及びのぞき窓付きとする。
寸法（㎜）　幅　３９０　奥行き　壁厚＋３００　高さ　６５０
外壁取合い　郵便受け口（表示マーク付き）の周囲はシーリング材Ｃ種(10×10)とする。

施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)
図面名	洪水防止用ゲート上屋(特記仕様書3/3)
作成年月	平成26年 3月
縮尺	－
図面番号	8-195/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所

構造設計標準仕様

適用は ◉ 印を記入する。

1. 建築物の構造内容

(1) 工事名称
建築場所 千葉県山武郡横芝町小堤地内

(2) 工事種別 ◉新築 □増築 □増改築 □改築

(3) 構造種別
□木造(W) □補強コンクリートブロック造(CB) ◉鉄骨造(S)
□鉄筋コンクリート造(RC) □壁式鉄筋コンクリート造(WRC)
□鉄骨鉄筋コンクリート造(SRC) □壁式プレキャスト鉄筋コンクリート造(WPRC)
□プレキャスト鉄筋コンクリート造(PRC) □

(4) 階 数
地下 — 階 地上 1 階 塔屋 — 階

(5) 主要用途 ゲート小屋

(6) 屋上付属物
□広告塔 □高架水槽 ton □ □
□煙 突 □キュービクル ton □ □

(7) 増築計画 □有 ( ) □無

(8) 付帯工事
□門塀 □擁壁 □ □ □

(9) 特別な荷重
□エレベータ 人乗(ロープ式 油圧式) □リフト ton □ホイスト ton
□倉庫積載床用 kg/m² □受水槽 ton

(10) その他

2. 使用構造材料

(1) コンクリート

適用箇所	種 類	設計基準強度 Fc=kg/cm²	スランプcm	備 考
捨コンクリート	普通	135、150		
土間コンクリート	普通	180、210	18≦	
基礎、基礎梁	普通	180、210、240	15≦	
柱、梁、床、壁	(普通) 軽量	180、(210)、240	18≦	比重
	普通、軽量	180、210、240		比重
押えコンクリート	普通、軽量	135、150、180		比重

(2) コンクリートブロック(CB)
□A種 □B種 □C種 厚□100、 □120、 □150、 □190、

(3) 鉄 筋

	種 類	径	使用箇所	継手工法
異形鉄筋	◉SD295A	D10	壁	◉重ね継手
	□SD295B			
	□SD345			◉ガス圧接継手
	□			
丸 鋼	□SR235			□特殊継手
溶接金網	□			( )

(4) 鉄 骨

	種 類	使用箇所	現場溶接	備 考
鋼 材	◉SS400 □SM400A,B	柱、梁	□有 □無	
	□STKR400 □STKR490		□有 □無	
	□SM490A,B		□有 □無	
	□SSC400		□有 □無	

(5) ボルト ◉ 溶融亜鉛めっき高力ボルト F8T
□高力ボルト □普通、F10T □特殊、S10T 認定品(□M12、◉M16、◉M20、◉M22)
□中ボルト φ= 高力ボルトすべり係数試験 □要 □否
◉アンカーボルト SS400 φ= 16 L= 560 mm ナット(~~シングル~~、ダブル)
φ= L= mm
□スタッドボルト φ= L= mm

(6) 屋根、床、壁 使用箇所
◉ALC版 厚 100 屋根,壁
□折 版 型式 H= 厚
□デッキプレート 型式 厚
□キーストンプレート 型式 厚
□特殊デッキプレート
□

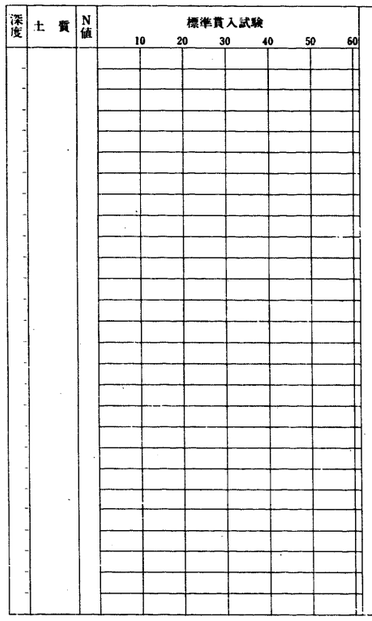
3. 地 盤

(1) 地盤調査資料
□有 (□敷地内 □近隣) □ボーリング調査 □平板載荷試験 □水平地盤反力係数の測定
□無 (調査予定 □有 □無) □

(2) 地盤調査計画
□ボーリング調査 □静的貫入試験 □標準貫入試験 □水平地盤反力係数の測定
□土質試験 □物理探査 □平板載荷試験 □

(3) 地盤調査及び試験杭の結果により、杭長、杭種、直接基礎の深さ、形状を変更する場合もある

(4) ボーリング標準貫入値、土質構成 (基礎・杭の位置を明記すること)



4. 地業工事

(1) 直接基礎 □ベタ基礎 □布基礎 □独立基礎 試験堀 □有 □無
深さGL — m、支持層 — 長期許容支持力度 t/m² 載荷試験 □有 □無

(2) 杭基礎 支持層 —

杭 種	材 料	施 工 法	備 考
□RC □PC □PHC □H鋼 □鋼管 □摩擦杭 □	PC (□A種 □B種 □C種) PHC(□A種 □B種 □C種) 鋼材 □SS41 □STK41 □	□打ち込み □埋込み(セメントミルク工法) □ □	大臣認定第 号 年 月 日
□場所打ち コンクリート杭	コンクリートFc= セメント量 kg/m³ 鉄 筋 主 筋 SD HOOP SD	□オールケーシング □拡底杭 □リバースサーキュレーション □アースドリル □ミニアース □BH □深礎 [□手堀 □機械堀]	拡底杭 日本建築センター認定 第 号 年 月 日

杭仕様 □施工計画書承認 □杭施工結果報告書
試験杭 (□有・□無) (□打ち込み・□載荷) 本

杭径(mm)	設計支持力(t)	杭の先端の深さ(m)	本数	特記事項

5. 鉄筋コンクリート工事

(1) コンクリート
◉ コンクリートはJIS認定工場の製品とし施工に関してはJASS5による。
◉ セメントは、JIS R5210の普通ポルトランドセメントを標準とする。
◉ 調合計画は、工事開始前に工事監理者の承認を得ること。
◉ 寒中、暑中、その他特殊コンクリートの適用を受ける期間に当る場合は、調合、打ち込み、養生、管理方法など必要事項について、工事監理者の承認を得ること。
◉ フレッシュコンクリートの塩化物測定は、原則として工事現場で(財)国土開発技術研究センターの技術評価をうけた測定器を用いて行い、試験結果の記録及び測定器の表示部を一回の測定ごとに撮影した写真(カラー)を保管し承認を得る。測定検査の回数は、通常の場合、1日1回以上とし、1回の検査における測定試験は、同一試料から取り分けて3回行い、その平均値を試験値とする。
◉ 構造体コンクリート現場の圧縮強度試験供試体(JASS5T-603)は、現場水中養生、または現場封かん養生とし、採取は打ち込み工区ごと、打ち込み日ごとをとする。また、打込み量が150m³をこえる場合は150m³ごとまたは、その端数ごとに一回を標準とする。一回に採取する供試体は、適当な間隔をおいた3台の運搬車からその必要本数を採取する。なお、供試体の数量は、特別指示なき場合は、1回当り6本以上とし、そのうち4週用に3本を用いる。
◉ ポンプ打ちコンクリートは、打ち込む位置にできるだけ近づけて垂直に打ちコンクリートの自由落下高さは、コンクリートが分離しない範囲とする。ポンプ圧送に際しては、コンクリート圧送技士または同等以上の技能を有する者が従事すること。なお、打ち込み継続中における打継ぎ時間間隔の限度は、外気温が25℃未満の場合は150分、25℃以上の場合は120分以内とする。

(2) 鉄 筋
◉ 鉄筋はJIS G3112の規格品を標準とする。
◉ 鉄筋の加工寸法、形状、かぶり厚さ、鉄筋の継手位置、継手の重ね長さ、定着長さは「鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)(2)」による。
(壁式鉄筋コンクリート造は除く)
◉ D19未満は、すべて重ね継手とする。継手(D19以上)をガス圧接とする場合は、日本圧接協会「鉄筋のガス圧接工事標準仕様書」による。
◉ ガス圧接部の抜き取り検査は、同一作業班が同一日に施工した圧接箇所ごと(200箇所を超えるときは、200箇所ごと)に1回行い、1回の試験は3本以上とする。
外観検査 ◉有 □無、引張試験 ◉有 □無、超音波探傷試験 □有 ◉無
◉ 柱の帯筋(HOOP)の加工方法は、◉H型(タガ型) □W型(溶接型) □S型(スパイラル型)とする。
◉ コンクリート及び鉄筋の試験は「建築物の工事における試験及び検査に関する東京都取扱要綱」第4条の試験機関で行うこと。
試験機関名
代行業者名
代行業者名とは、試験、検査に伴なう業務を代行する者をいう。

(3) 型 枠
◉ 材料 合板厚 12㎜を標準とする。 □
◉ 型枠存置期間

種類 / 部位 / セメントの種類 / 存置期間の平均気温	せき板				支柱		
	基礎、はり側、柱、壁		スラブ下、はり下		スラブ下	はり下	
	早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント 高炉セメントA種 シリカセメントA種	早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント 高炉セメントA種 シリカセメントA種	早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント 高炉セメントA種 シリカセメントA種	早強ポルトランドセメント 普通ポルトランドセメント 高炉セメントA種 シリカセメントA種
コンクリートの材令(日) 15℃以上	2	3	4	6	8	17	28
5℃~15℃	3	5	6	10	12	25	28
5℃未満	5	8	10	16	15	28	28
コンクリートの圧縮強度	50kg/cm²		設計基準強度の50%		設計基準強度の 85%		100%

注) 1 片持ばり、庇、スパン9.0m以上のはり下は、工事監理者の指示による。
注) 2 大ばりの支柱の盛りかえは行わない。また、その他のはりの場合も原則として行わない。
注) 3 支柱の盛りかえは、必ず直上階のコンクリート打ち後とする。
注) 4 盛りかえ後の支柱頂部には、厚い受板、角材または、これに代わるものを置く。
注) 5 支柱の盛りかえは、小ばりが終ってから、スラブを行う。
一時に全部の支柱を取り払って、盛りかえをしてはならない。
注) 6 上表以外のセメントを使用する場合は工事監理者の指示による。

6. 鉄骨工事

(1) 鉄骨工事は指示のない限り下記による
□ 日本建築学会「JASS6」「鉄骨工事技術指針」
□ 鋼材倶楽部「建築鉄骨工事施工指針」
□

(2) 工事監理者の承認を必要とするもの
□製作工場 □製作要領書 □工作図 □施工計画書
□建設省告示第1103号による認定工場(大臣認定 グレード都登録 ランク)
□材料規格証明書または試験成積書
□鋼材 □高力ボルト □特殊ボルト □スタッドボルト
□社内検査表 □ □

(3) 工事監理者に検査報告連絡し指示を受けるもの
□ 現寸検査 □ 組立・開先検査 □ 製品検査
□ 建方検査 □ □

(4) 接合部の溶接は下記によること
◉ 東京都アーク溶接工事管理規準 (建築構造設計指針第12章)
◉ 鉄骨造建築物の溶接工事に関する指導指針(建築構造設計指針第12章)
□ 日本建築学会「溶接工作規準、同解説 I、II、III、IV、V、VI、VII、VIII、IX」

(5) 溶接及び接合部を検査し工事監理者に報告すること
□ 溶接部及び接合部の検査報告

検査箇所	検査方法	検査率又は検査数 社内	第三者	工事監理者	備考
□突合せ溶接部	超音波探傷試験	100 %	30 %	%	
□	外観(目視)検査	100 %	%	100 %	
□	マクロ試験・その他	— 個	— 個	— 個	
第三者検査機関名					
第三者検査機関とは、建築主、工事監理者又は工事施工者が、受入れ検査を代行させるために自ら契約した検査会社をいう。					

注) 現場溶接部については原則として第三者による全数検査を行うこと。

◉ 高力ボルトは「JIS B1186の高力ボルト」を使用する。
すべり係数が0.1 以上確保できるものを標準とし目視により検査を行う。

◉ 高力ボルトの締付けに使用する機器はよく調整されたものを使用し、締付けの順序は部材が十分密着するよう注意して行う。また、締付けは原則として2度締めとする。
締付け後の検査は、各締付け工法別に適切な締付けが行なわれているか検査する。

(6) 防錆塗装
□ 防錆塗装の範囲は、高力ボルト接合の摩擦面及びコンクリートで被覆される以外の部分とする。錆止めペイントは、JIS K5621、2回塗りを標準とする。
□ 現場における高力ボルト接合部及び接合部の素地調整は入念に行い、塗装は工場塗装と同じ錆止めペイントを使用し2回塗りとする。

(7) めっき
◉ 溶融亜鉛めっき2種 HDZ55を使用する。

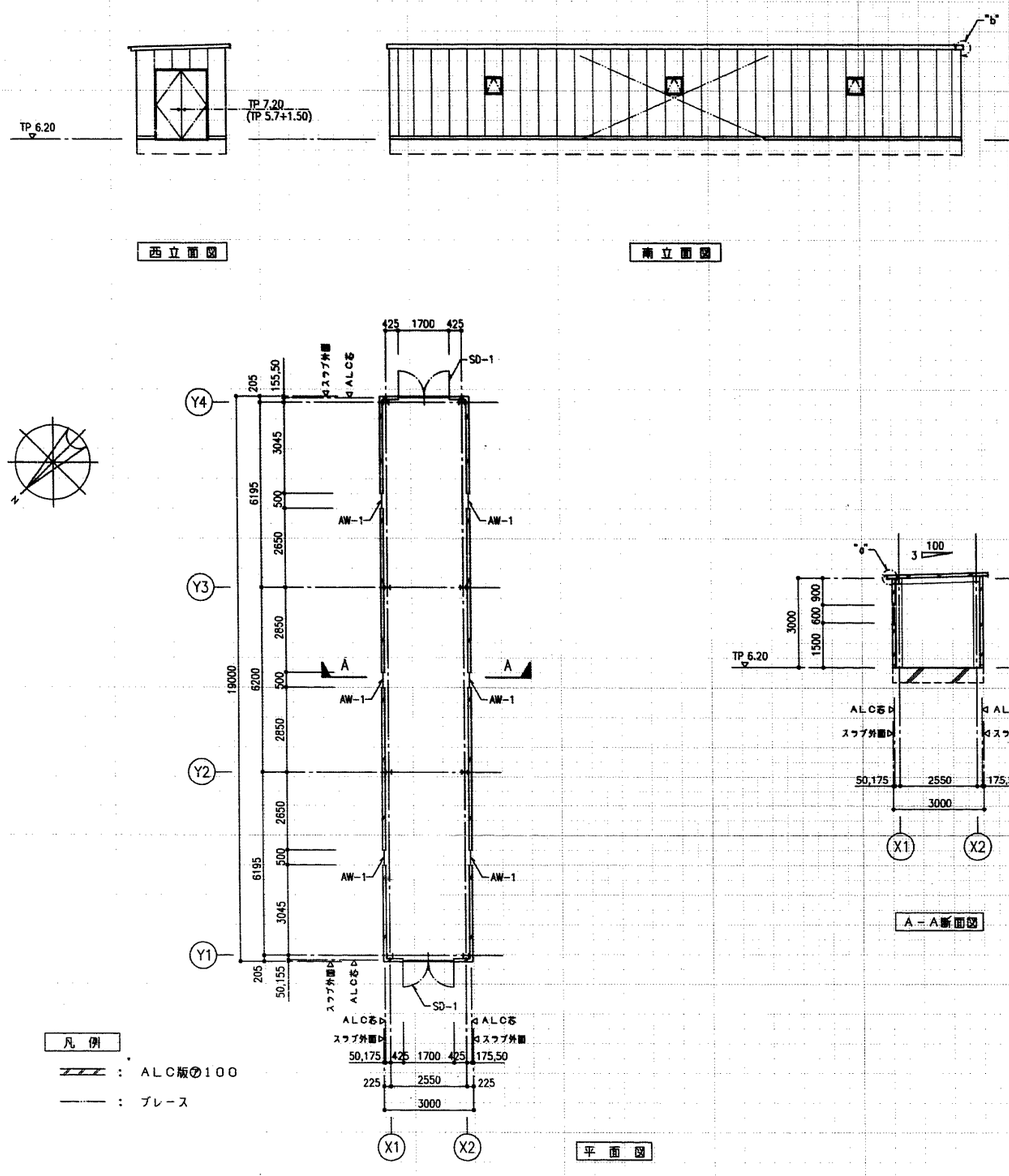
7. 設備関係

◉ 特記以外の梁貫通孔は原則として設けない、設ける場合は設計者の承認を得ること。
◉ 設備機器の架台及び基礎については工事監理者の承認を得ること。
◉ 床スラブ内に設備配管等を埋込む場合はスラブ厚さの1/3以下とし管の間隔を5cm以上とする。

8. その他

◉ 諸官庁への届出書類は遅滞なく提出すること。
◉ 各試験の供試体は公的試験機関にて試験を行い工事監理者に報告すること。
□
□

施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)
図面名	構造設計標準仕様
作成年月	平成26年 3月
縮尺	- 図面番号 8-196/319
作成者	関東農政局 両総農業水利事業所



平 面 図

A－A断面図

西立面図　南立面図　東立面図　北立面図

凡 例

：ALC版ｱ100

：ブレース

建築概要

建築面積　54.81 M²

外部仕上
- 屋　根：ALC板下地（勾配と平行に敷設）
  シート防水（S－1）
  軒先水切及び鼻隠し，PL－3.2加工
  ケラバ水切：アルミ製既製品
- 外　壁：ALC板ｱ100+弾性吹付タイル
- 外巾木：コンクリート H＝100 t=25

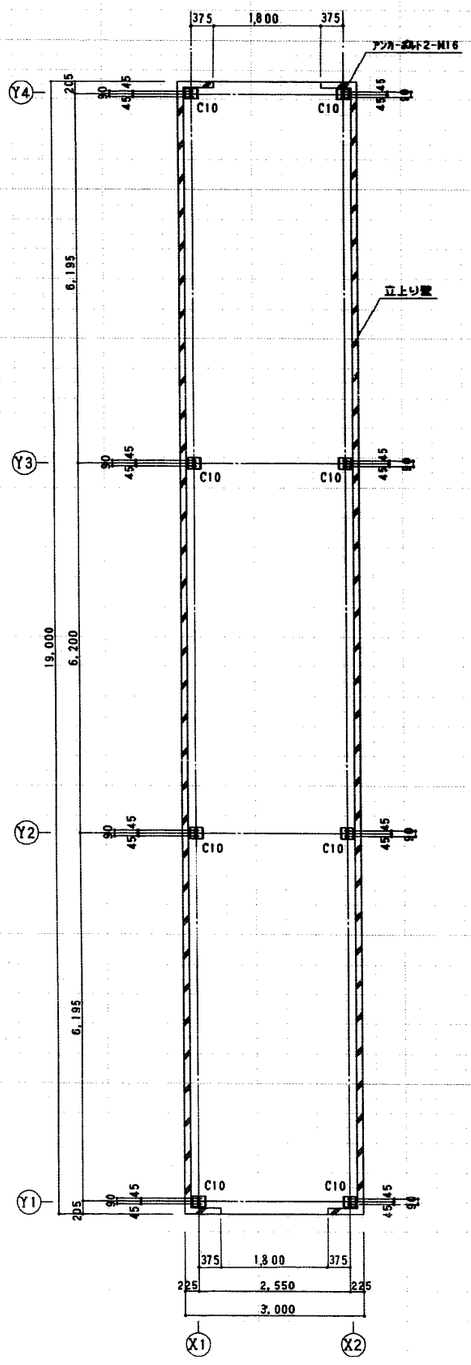
内部仕上
- 天　井：ALC板表し
- 壁　：ALC板表し
- 巾　木：コンクリート H＝100 t=25
- 床　：コンクリート（木ごて1回，金ごて1回仕上）

開口部
- 窓　：カラーアルミサッシ (AW－1)
- 搬入口：スチールドア　(SD－1)

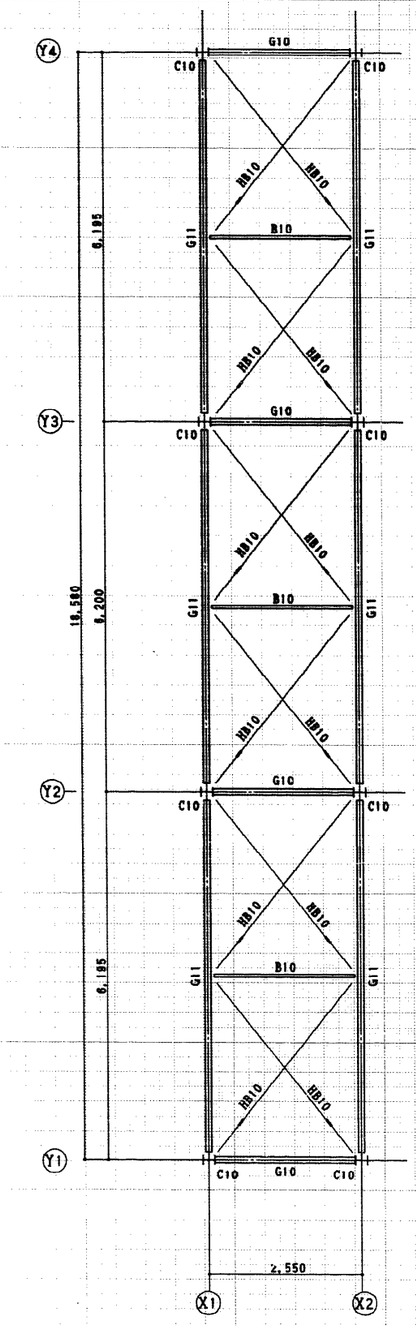
記号	寸法	形状	個数	硬度	仕上	ガラス	ガラリ	吉排	支持金物	固定金物	操作金物	備考
AW－1	W 500 X H500	突き出し窓 見込70	6	レギュラー	カラー着色	網入型板 6.8MM	――	――	T 番	リンケージロック	両 左	水切共
SD－1	W 1700 X H2300	断面ぎ戸 見込100	2	レギュラー	ＯＰ	――	――	SUS304 2.0MM	T 番	シリンダー錠（外部側のみ）	ケースハンドル	水切共 取手位置：TP 7.35 トップストッパー付

＊ a，b詳細は図面番号A－4参照。

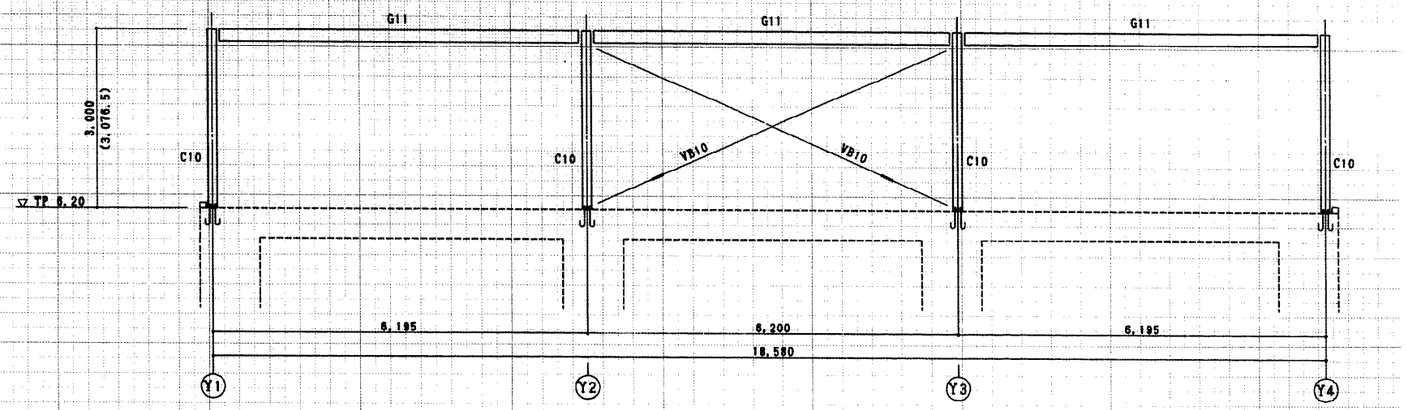
施設名	第2揚水機場 (0312100-1100-19)		
図面名	平面図・立面図・断面図・詳細図		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 1:100 A2 1:141	図面番号	8-197/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所		



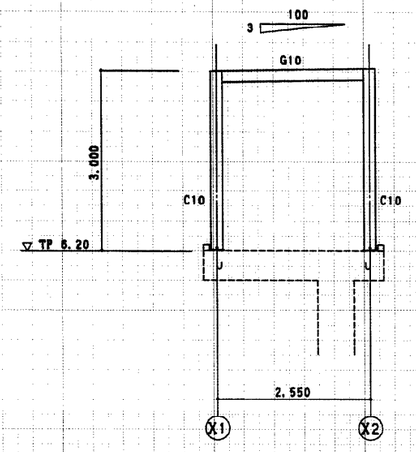
アンカープラン　1:50



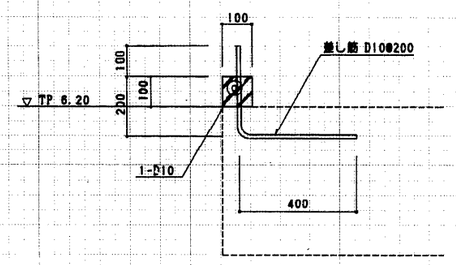
小屋伏図　1:50



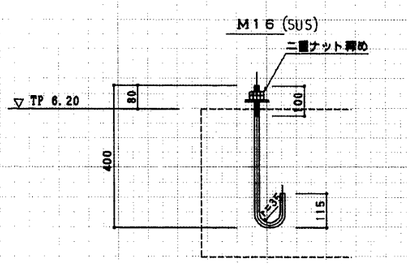
X1，(X2)通り軸組図　1:50



Y1～Y4通り軸組図　1:50



立上り筋詳細図　1:10

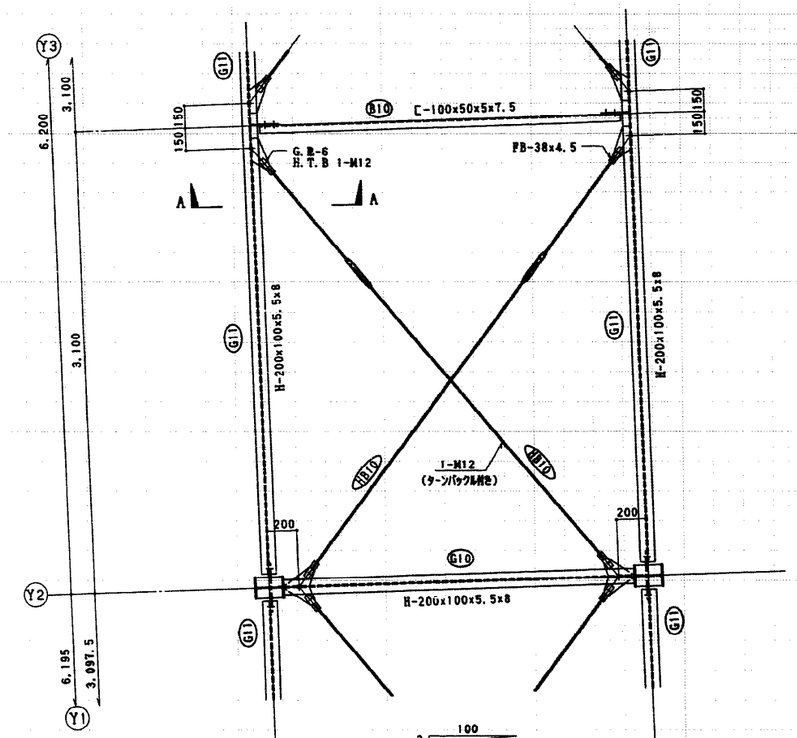


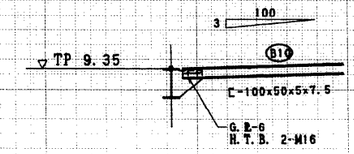
アンカーボルト詳細図　1:10

部材リスト

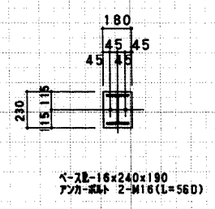
記号	部材
C10	H-194x150x 6x9
G10	H-200x100x5.5x8
G11	H-200x100x5.5x8
B10	C-100x50x 5x7.5
HB10	1-M12（ターンバックル付き）
VB10	1-M16（ターンバックル付き）

施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	アンカープラン・小屋伏図・軸組図		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 1:100 A2 1:141	図面番号	8-198/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所		



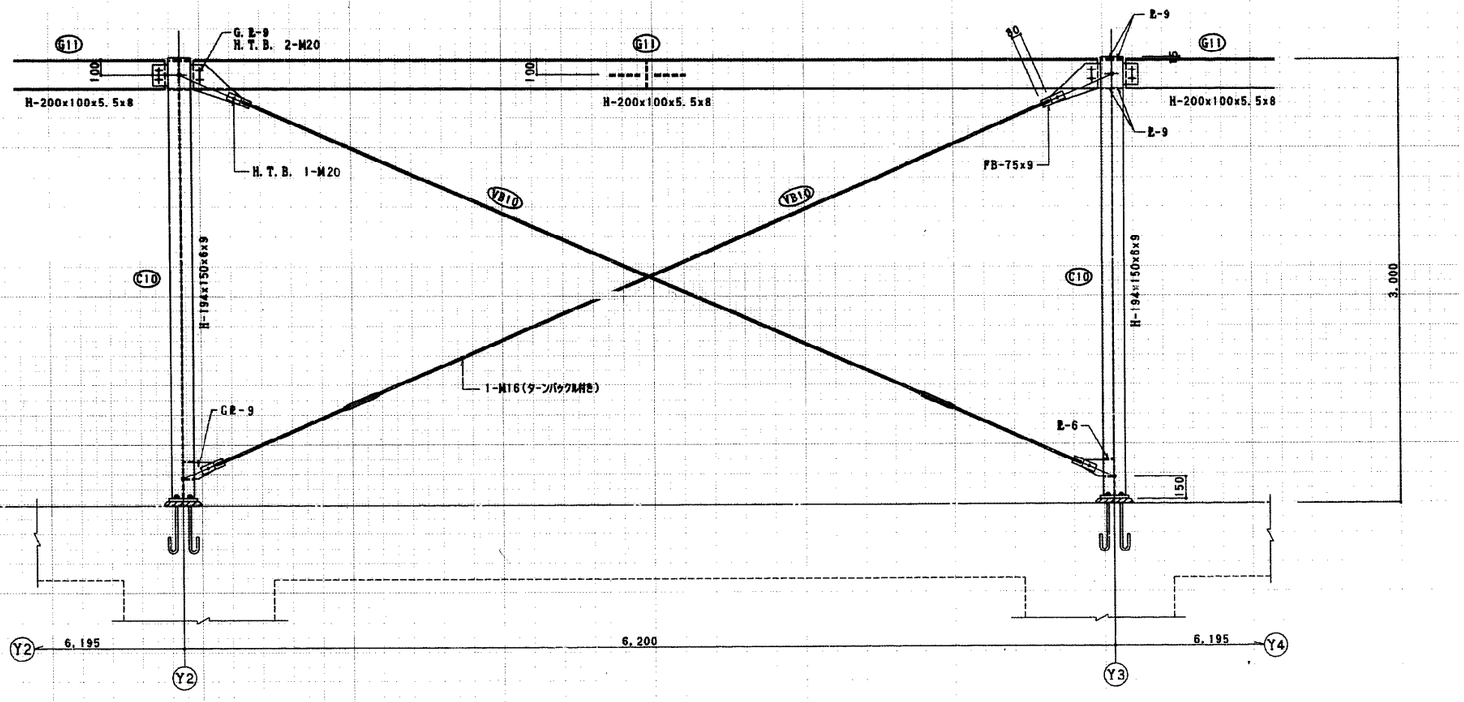


A－A断面 1:20



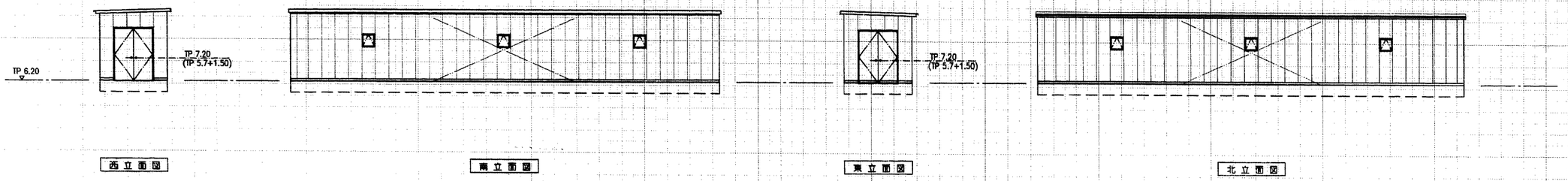
柱脚詳細図 1:20

Y2通り鉄骨詳細図 1:20

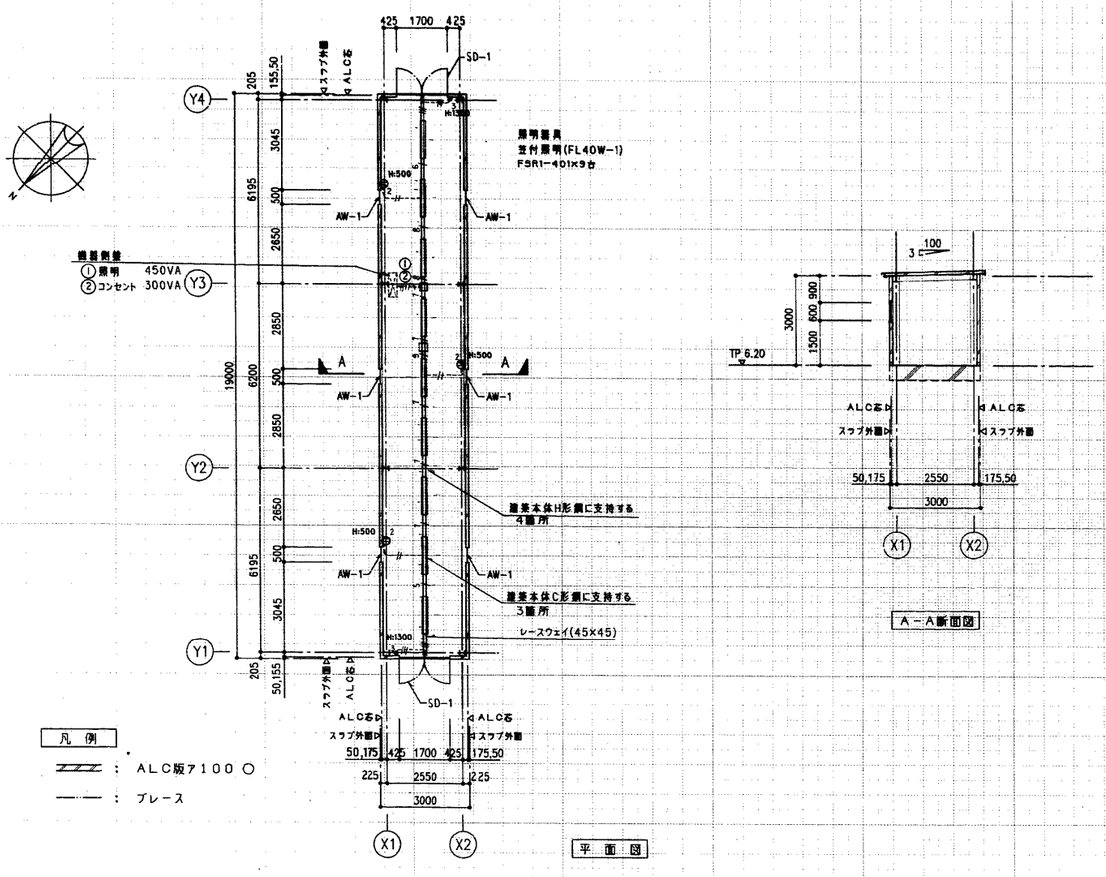


X1通り鉄骨詳細図 1:20

施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	鉄骨詳細図		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 1:100 A2 1:141	図面番号	8-199/319
作成者	関東農政局 両総農業水利事業所		



西立面図　　両立面図　　東立面図　　北立面図



A－A断面図

建築概要

外部仕上

屋　根：シート防水（S－1）
　　軒先水切及び鼻隠し、R－3.2加工
　　ケラバ水切：アルミ製既製品
外　壁：ALC版ア100＋弾性吹付タイル
外巾木：コンクリート補修 H＝100

内部仕上

天　井：ALC版表し
壁　：ALC版表し
巾　木：コンクリート補修 H＝100
床　：コンクリート補修

開口部

窓　：カラーアルミサッシ（AW－1）
搬入口：スチールドア　（SD－1）

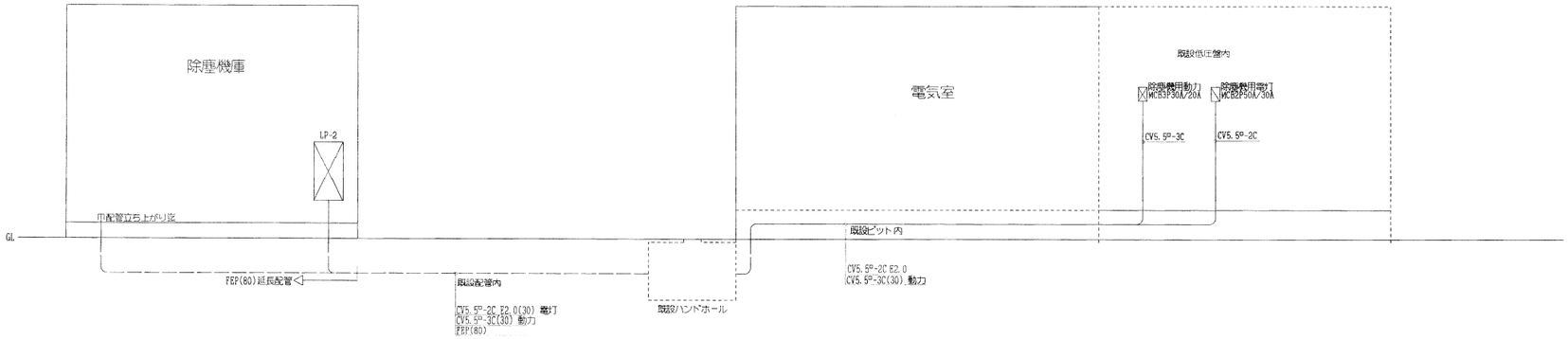
記号	寸法	形状	個数	重度	仕上	ガラス	ガラリ	音響	支持金物	固定金物	操作金物	備考
AW－1	W 500 X H500	突き出し窓	6	レギュラー	カラー着色	網入型板 6.8MM	———	———	T 巻	ツリケージロック	両 左	水切共
SD－1	W 1700 X H2300	両開き戸	2	レギュラー	O P	———	———	SUS304 2.0MM	T 巻	シリンダー錠（外部側のみ）	ケースハンドル	水切共 取手位置：TP 7.20

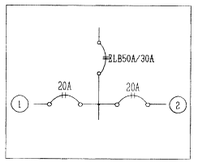
凡例

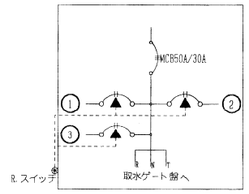
特記なき配管配線は下記とする

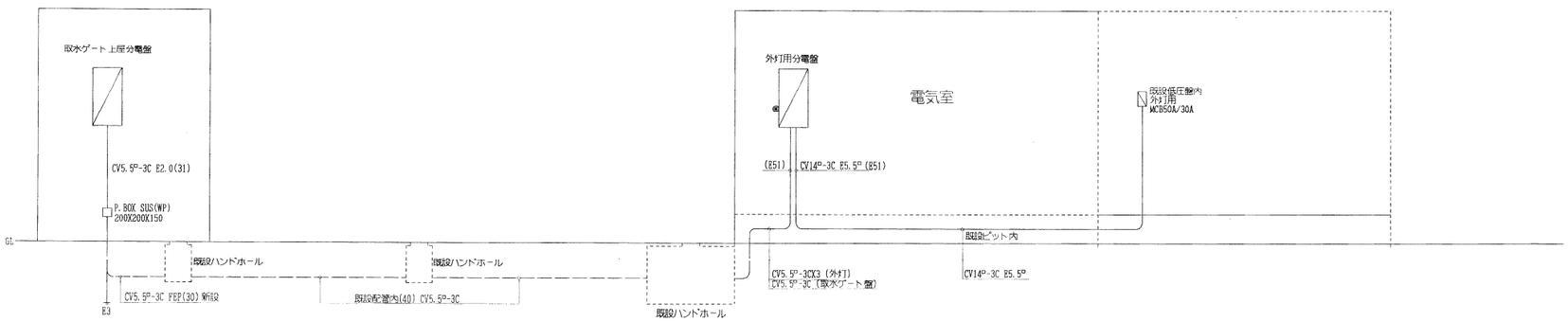
---//---	2.0×2　(E19)露出配管
---///---	2.0×3　(E19)露出配管
---////---	2.0×4E1.6(E25)露出配管
////	2.0×3　(レースウェイ)
/5	2.0×4E1.6(レースウェイ)
/6	2.0×5E1.6(レースウェイ)
/7	2.0×6E1.6(レースウェイ)
/8	2.0×7E1.6(レースウェイ)
/9	2.0×8E1.6(レースウェイ)

施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	電灯・コンセント設備		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 1:100 A2 1:141	図面番号	8-200/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所		









施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	除塵機庫・取水ゲート・外灯設備系統図		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	-	図面番号	8-201/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所		

関東農政局 両総農業水利事業所

第2揚水機場内機器その2工事　工事設計図　平成　年　月(全　枚)

仕様書

Ⅰ 工事概要

1 工事場所 [三重県 五泉郡 境北町 大字 5[5-1]番地

2 現地図面

3 工事種目 [車庫建築工事(電気・機械含む)]
[屋外電気設備工事(架空線路)] [その他一式]

4．工事範囲

※「3．工事種目」全てを工事範囲とする。
・「3．工事種目」のうち、＿＿＿＿＿＿の工事範囲は下記のとおりとする。
ただし、他の工事種目は全て今回工事範囲とする。

2 仮設工事	※工事範囲全て
3 土工事	
4 地業工事	
5 鉄筋工事	
6 コンクリート工事	
7 鉄骨工事	
8 ｺﾝｸﾘｰﾄﾌﾞﾛｯｸ・ALCﾊﾟﾈﾙ・押出成形ｾﾒﾝﾄ板工事	
9 防水工事	
10 石工事	
11 タイル工事	
12 木工事	
13 雪処及びふき工事	
14 金属工事	
15 左官工事	
16 建具工事	
17 硝子工事	
18 内装工事	
22 カーテンウォール工事	
23 ユニット及びその他の工事	

Ⅱ 建築工事仕様

1 共通仕様
図面及び特記仕様に記載されていない事項は、すべて国交大臣官房官庁営繕部監修「建築工事共通仕様書（平成29年版）」による。

2 特記仕様
(1)項目は、番号に○印のついたものを適用する。
(2)特記事項は、◎印のついたものを適用する。◎印のついない場合は、※印のついたものを適用する。
◎印と※印のついた場合は、共に適用する。
(3)特記事項に記載の（　　）内の表示番号は、建築工事共通仕様書の対応項目、当該図又は当該表を示す。
(4)製品名又は、五十音順とし「株式会社」等の記載は省略する。また（　）内に製品名を示す。

1 一般共通事項

1 適用基準等
- 土質工事標準仕様書（建設大臣官房官庁営繕部監修　平成5年版）
- 鉄骨設計基準図（建設大臣官房官庁営繕部監修　平成2年版）
- 二重荷重の取り方（改訂第2版）建築編（建設大臣官房官庁営繕部監修）

2 電気保安技術者
※ 適用する　※ 適用しない　(1. 3. 3)
3 技能士
※ 適用する　(1. 5. 2)
適用工事種別
鉄筋工事（・鉄筋加工）　コンクリート工事（・型枠施工）
設備工事（・とび）　ブロック、ALCパネル、押出成形セメント板工事
（・ブロック積積・ALCパネル施工）　防水工事（防水施工（・アスファルト
防水工事作業　・合成ゴム系シート防水工事作業　・シーリング防水工事作業））
石工事（・石材施工）　タイル工事（・タイル張り）　木工事（・建築大工）
屋根及びとい工事（・屋根ふき　・とい取付）
金属工事（・内装仕上げ施工（個別下地工事作業））　左官工事（・左官）
建具工事（・サッシ施工　・ガラス施工）　塗装工事（・塗装）
内装工事（内装仕上げ施工（・プラスチック系床仕上げ工事作業　・ボード仕上げ
工事作業　・表装））　建築工事（・造園）

4 工事実施情報の登録
※行う　(1. 1. 4)

5 原材料等
本工事に使用する原材料等は、設計図書に規定するものまたはこれらと同等のものとする。
ただし、同等のものとする場合は、監督職員の承認を受ける。
なお、「同等承認とよばれるものについては、国交大臣官房官庁営繕部監修
「建築材料・設備機器等品質性能評価事業　建築材料等評価名簿（平成10年版）」による。

6 特別な材料の工法
建築工事共通仕様書に記載されていない特別な材料の工法は、当該製品の指定工法による。

7 発生材の処理等
※現場処理優先　・積算書に費用処理　(1. 1. 13)

8 施工足場の取扱い
施工足場の使用中に支障ある当該建築物に限る使用時は、発生者に照応するものとする。

9 設備工事との取合い
設備機器の位置、取合い等の検討できる施工図を提出して、監督職員の承認を受ける。

10 現地調査
(1. 7. 1) (1. 7. 2) (1. 7. 3) (表1. 7. 1)

現況図の測図サイズ
仮設に関する資料の提出

下記のものを監督職員に提出する。ただし、直接は建築基準の保管とする。

仕様・規格	提出書類名	部数	表現の大きさ（mm）
・モノクローム			
写真キャビネ判	外観（　）内観（　）	※2・	※100×125以上
○カラー			
写真キャビネ判	※4Φ セミによる 外観（　）内観（　）	※2・6	※100×125以上
（他に特に指定無し1カット（カラーキャビ・ネット版）のみ5枚）			
・カラー合成パネル	外観（　）内観（　）	※1・	
・カラースライド	外観（　）内観（　）	※1・	※24×36以上
・	外観（　）内観（　）		

提出場合を監督職員の承認する撮影基準（ただし、原則完成写真提出の実施の場合とする。）

12 設計GL
※国交　○設計GL－現地GL

13 条件明示項目

2 仮設工事

1 監督職員事務所
※設ける　・設けない
監督職員事務所の規模　(表2. 3. 1)
・1号　○2号　3号　4号　5号　・

2 工事用水
権内既存の施設　※利用できない　・利用できる（※有償　・無償）

3 工事用電力
権内既存の施設　※利用できない　・利用できる（※有償　・無償）

3 土工事

1 埋戻し及び盛土
・A種　※B種　・C種　・D種　(3. 2. 3)（表3. 2. 1）

2 廃棄発生土の処理
※現場処理優先による。　(3. 2. 5)
・積み替え場の処理　・権外指示の場所に運搬　・権内指示の場所に整地ならし

4 地業工事

1 既製コンクリート杭地業
種類　(4. 2. 1)（4. 2. 2）
※高強度プレストレストコンクリート杭（表4. 2. 1 の種類に適合するもの）
・

	杭径（mm）	杭長（m）及び種別	種本数	ヒット数	備考
試験杭					
本杭					

杭頭の処理方法　※切断しない　・　(4. 2. 7)
先端処理杭　※閉塞型　・開く(中だみ形)　(4. 2. 2)

施工法　(4. 2. 3～4. 2. 5)
・既成埋込み杭工法（杭材料は認定条件に適合するもの）
・
・打込み工法
・

2 場所打ちコンクリート杭地業
コンクリートの種別　・A種　・B種　(表4. 4. 1)
設計基準強度　・Fc＝225kg/cm²以上　・Fc＝255kg/cm²以上
鉄筋の種類　SD345及びSD295Aを使用
掘削工法　・アースドリル工法（・安定液使用　・無水掘削）　(4. 4. 3)
・リバース工法
・オールケーシング工法（孔内の水張　・行う　・行わない）
・（財）日本建築センターにより評価された工法　(4. 4. 4)
排泥処理　・行う　・行わない

3 砂利地業
※再生クラッシャラン　・切込み砕石及び切込み砂石　(4. 5. 2)

4 床下防湿層
施工箇所　※建物内の土間スラブ及び土間コンクリート下（ピット下を除く）　(4. 5. 6)

5 鉄筋工事

1 鉄筋の種類

種別の記号	対応径（mm）
○SD345	D19
○SD295A	D10，D13
・	
・	
・	

(5. 2. 1)（表5. 2. 1）

2 鉄筋の継手
※D16及び19mm以上の柱、梁の主筋　※ガス圧接　・重ね継手　(5. 3. 1)（表5. 3. 1）

3 鉄筋の最小のかぶり厚さ
※最小のかぶり厚さは日地配から算定する。　(5. 3. 2)
・耐久上不利な箇所の鉄筋の最小のかぶり厚さは下表による。

施工箇所	表5. 3. 6の値に加える増(mm)
柱、梁、壁及び部材などの外気に接する打放し面	※10・

4 設置コンクリート杭の処理補強
・A形　※B形　・C形　(5. 4. 1)（表5. 4. 1）

5 帯筋
※円形（Cは除く）　・　(5. 5. 2)（表5. 5. 2）

6 最上階柱梁接合
※行う　・行わない

7 型枠に接する鉄筋
一般壁　※A形　・B形　・C形　(表5. 7. 3)（表5. 7. 4）
耐震壁　※B形　・C形

8 鉄筋継手の機械的方式
※A形　・M形　・M形　(5. 10. 1)（表5. 10. 1～表5. 10. 3）

9 圧接完了後の試験
※超音波探傷試験　○外観試験　(5. 11. 9)

6 コンクリート工事

1 レディーミクストコンクリートの選択
※ I 類　・ II 類　(表6. 1. 1)

2 セメントの選択
※普通ポルトランドセメント又は混合セメントA種　(6. 3. 2)（6. 16. 2）
・高炉セメントB種
普通ポルトランドセメントの品質は、JISR5210に合された規定の他、次の規定
に適合しなければならない。ただし、設計コンクリートに用いる場合を除く。

K2O	0.6当量%以下
SO3	2.5%以下
全アルカリ	0.75　%以下　※JISR5210ポルトランドセメント（低アルカリ形）による。
塩　素	0.02　%以下

3 骨材の種類
※A　(6. 3. 3)（6. 5. 4）
・B（※コンクリート中のアルカリ総量R＝3.0kg/m³以下）

4 混和剤の種類
※使用例　・混和剤　(6. 3. 5)

5 普通コンクリートの設計基準強度
(6. 1. 4)

設計基準強度Fc（kg/cm²）	施工箇所
※210	耐久確保　（屋外気に面コンクリート、ポーチ、犬走、他）
・180	

6 軽量コンクリート
気乾単重　※1.5N/m³　(6. 14. 3)

7 間仕（せき板）の種別
仕上の有無　※無　・有（施工箇所：　）(6. 9. 3)

8 せき板面の剥離剤等塗り（MCR工法）
剥離剤等の種類　※MCR工法用剥離剤エチレンシート
コンクリートの打継ぎ　※10cm　・
施工箇所　※国示　・

7 プレキャスト工事

1 施工管理技術者
※適用する　・適用しない　(7. 1. 4)

2 接合の対策（別図参照）

種別の記号	使用箇所	規格等
		※JIS規格
		※JIS規格
		※JIS規格
		※JIS規格
		※JIS規格

(7. 2. 1)

3 高力ボルト
※トルシア形高力ボルト　・JIS形高力ボルト　・摩擦接合のすべり係数
(7. 2. 2)（7. 12. 5）

4 溶接部の試験（別図参照）
AQQL　※4.0%　・2.5%　(7. 6. 1)
検査水準　※表6.水準　・　(7. 6. 11)（表7. 6. 2）

試験の種別	試験箇所	試験方法
・超音波探傷試験		※下6. 11(5)による
・放射線試験		・同示
・マクロ試験		

5 耐火被覆
種　別　・ラス張りモルタル塗り　・耐火材張り付け　(7. 9. 2)
・耐火板張り
・吹付
所要性能（区分）　・30分耐火（　）・1時間耐火（　）
・2時間耐火（　）

6 アンカーボルトの埋込み工法
・A種　※B種　・C種　(表7. 10. 1)

7 埋込みモルタル工法
・A種　※B種　(表7. 10. 2)
※の場合モルタル強度用　計画名準による

8 鉄骨の溶接工法
ご監督職員の承認する溶接工法
※「溶接作業検査要領書」に適合する溶接を行う溶接工法又は監督官庁告示第1103号に基づき
指定人区が認定した溶接工場のうち、下記の条件を満足するもの。
（1）溶接電力　（　　）kW以上（デマンド契約した場合はこの70%で可）
（2）溶接資格者　1号による又は左記有資格者溶接技能者（　）名以上
（3）溶接士　1級（　）名以上　2級（　）名以上
（4）WES8103　1級（　）名以上　2級（　）名以上
（5）NDIUT　3種（　）名以上　2種（　）名以上
(7. 1. 3)

9 溶接部の検査
(7. 12. 3)

溶接のつきの種別	対　象	備　考
A種		
B種	普通ボルト	
C種		

完成ごしらえは、JISH9124溶接部のつき作業標準による。

8 コンクリートブロック・ALCパネル・押出成形セメント板工事

1 透明コンクリートブロック
透明コンクリートブロック造　※空洞ブロック16・立筋　(8. 2. 2)
補強筋の種　※異形鉄筋D10　(8. 2. 3)

施工箇所	種別	寸法（mm）	形状
空洞ブロック08		100	目地充填ブロック積み

2 ALCパネル
(表8. 4. 2)（表8. 4. 3）(表8. 4. 2)

種　別	単位荷重（N/㎡）	厚さ（mm）	取付け工法（種別）
・外壁パネル	・1177　・1961		※D・
・間仕切パネル	・637	※100・	※C・D・E
・屋根パネル	・981		※D、4.5による
・床パネル	・2354　・3530　・130　・150		

3 押出成形セメント板
※厚物（厚さ35mm以上）
種類　※表面調タイプ（タイプ2）　(8. 5. 2)（表8. 5. 1）(表8. 5. 2)

施工箇所	表面形状	厚さ（mm）	下地	耐火性能
・外壁	※フラットパネル	・35・50・60	・大壁	※有り
	・デザインパネル（凹形）	・50・60	・目地	（　）
	・タイルベースパネル	・60		・無し
・間仕切り	※フラットパネル	・35・50・60	・目地	※無し
	・デザインパネル（凹形）	・50・60	・C種	・有り
	・タイルベースパネル	・60		（　）

製造所　詳細表示による

・薄物（厚さ35mm未満）
種類　※表面調タイプ

施工箇所	表面形状	厚さ（mm）	耐火性能
	※フラットパネル	・	※無し
	・デザインパネル（凹形）		・有り（　）

製造所

9 防水工事

1 アスファルト防水
(9. 2. 2)（9. 2. 3）(表9. 2. 1)～(表9. 2. 11)

種　別	施工箇所
※A1－2	
・A－2	
・C－2	
・E－1　・E－2	

アスファルト　※3種　・4種　(9. 2. 2)
断熱工法の断熱材　※3（mm）　※25　・　(9. 2. 2)
ただし、押さえコンクリートを含まないもの。
れんが　※各人張り部分は市販品のれんが又は、市販品のれんが形コンクリート
ブロックとする。
立ち上がり部の最終処理材　(9. 2. 5)
※適用しない
・適用する（※押出成形セメント板　・　）
製造所

2 合成高分子系ルーフィングシート防水
(表9. 3. 1)

種　別	厚さ（mm）	施工箇所	仕上げ（特記値り）	使用分類
・S－1	※1.2・		・シルバー	※非歩行
・S－2	※2.0・		・カラー	・軽歩行
・S－3	※2.0・			
・S－4	※1.5・			

3 地間防水
(表 9. 4. 1)（表9. 4. 2）

種　別	施工箇所	仕上げ（特記値り）
・X－1		・シルバー・カラー
・X－2		
・X－3		
・Y－1　地下外壁防水		
・Y－2		

脱気装置
・設ける　材種（　）　設置数量（　）　箇所／㎡）

4 シーリング
下地図は、表9. 5. 1による　(9. 5. 2)（表9. 5. 1）

施工箇所	シーリング材の種類（記号）
外壁目地	PS－2

10 石工事

1 天然石張り
石の品質　(10. 2. 1)
使用石材　※2地点・
使用ガイカ他の石材　※1地点・
石の種類・形状仕上げ　(表10. 2. 1)（表10. 2. 2）

施工箇所	種類	産地・名称	仕上げの種類

2 テラゾ張り
下地の種類　※木造　・
表面仕上げ　※※磨き　・　(表10. 2. 2)

3 造り石張り工法
外壁石張り　(10. 3. 3)（10 5 3）
工法
・外壁石工法（※乾式工法　・　）
・乾式工法
裏込及び裏込材料　※行わない　・行う（・現場処理の場合（石共）
アンカーピン　※ステンレスSUS304
内壁張り　(10 4 3)（10 5 3）
工法
・内壁石工法（※あと施工アンカー緊張有し工法　・あと施工アンカー工法）
・乾式工法
裏打ち処理　※行わない　・行う

4 床及び階段の石張り
石の厚さ　(10. 6. 2)
床石張りの裏面処理　※行わない　・行う
室内のワックス仕上　※行う　・行わない　(10. 1 5)

施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)
図面名	車庫棟・塵介置場(特記仕様書1/3)
作成年月	平成26年 3月
縮尺	－
図面番号	8-202/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所

11 タイル工事

1 外装陶磁器質タイル　　(11. 2. 1)

タイルの焼成

施工箇所	形状(寸法)	色	釉薬	模様	表面	備考
		地肌	そま目	光沢	消光	有	無	透明	半透明			

吸水率　　(11. 2. 1)

種別	吸水率
磁器質	1%以下
炻器質	3%以下
陶器質	10%以下

屋外・浴室・台所などの床面は、滑りにくいタイルとする。

タイルの見本焼き　　有(新規タイル・　　)　無(既存タイル・　　)

2 壁タイル張りの工法　　(表11. 3. 2)

内装タイル　密着張り(新築現場)・積上げ張り

外装タイル　・密着張り

・マスク張り

タイルの試験張り　　有(　　)　無(　　)

3 陶磁器質タイル型枠先付け工法の寸法　　(11. 2. 3)(表11. 4. 1)

適用タイル	種別	タイル型枠先付け工法の寸法
小口タイル　二丁掛タイル	タイル二丁造	6, 9, 3,「付目」(b)「3」
大型タイル	挽木造	

12 木工事

1 木材の品質　　表12. 2. 1による　・特記なし

2 接着　　表12. 2. 3による

・代用樹脂を使用しない場合(　　)

3 集成材　　(12. 2. 2)

品名	規格・品質	どぼ使用箇所	化粧集成材使用箇所
単集成材	単一造材	単ない、なら・しかに	
・積層集成材	普通構造・2等	・	
・造作用集成材	第1等・2等	・	
・化粧板張り造作用集成材	第1等・2等	・	・

4 防水防虫　　対象箇所(　　)　　(12. 2. 9)

5 内装張り　　フローリング及び敷甲板張り床　　(表12. 7. 1)

下張り用床板　　有(新築・全面張り・部張り)

床板　　単フローリング(18. 5. 2による)・複合板(木口のみ・　)

13 屋根及びとい工事

1 風見・金属板葺き　　(13. 2. 2)(表13. 2. 1)(13. 2. 3)

屋根葺形式	材種	板厚(mm)
・	・	単0. 4
	注単ゆっこ横段	・

風見工業会と協議の指定業者とする。

製造所　　(13. 3. 2)(13. 3. 3)

② 折板葺き

材　料　　単鋼板製横型断5%アルミニウム合金のっき横型のっき横型

・(板厚(mm)　単0. 6　○0. 5)

・(板厚(mm)　・　　)

寸　法　　山高(170)mm　山ピッチ(　)mm

形　式　　単重ね形　・はぜ掛の形　・かん合形

断先端形状　　単有り　・無し

熱　貫　材　　有り(種類　ウレタン、厚さ　30 mm)　単無し

耐火性能　　単30分耐火　・無し

材　種　　単型窓用網戸　・硬質塩化ビニル戸(カラー　　)　(表13. 5. 1)

網戸張りといの取替　　単表13. 5. 2による

掃　除　口　　単有り　・無し

14 金属工事

1 ステンレスの表面仕上げ　　(14. 2. 1)

種別	施工箇所
単HL程度	下記以外の見え掛かり全て(ステンレステープは除く)
・2B程度	
・鏡面仕上げ	
・	

② アルミニウム及びアルミニウム合金の表面処理　　(14. 2. 2)(表14. 2. 1)

種別	施工箇所
◎B－1種(着色有)	打ち引
・B－2種(・クロム系・ガラ・ガラス)	
・	

3 鉄の表面のっき　　(14. 2. 3)(表14. 2. 2)

表面処理方法	種別	施工箇所
溶融亜鉛のっき	・A種	
	・B種	
	・C種	
電気亜鉛のっき	・D種	
	・E種	
	・F種	

4 手すり及びタラップ　　(14. 6. 2)(14. 6. 3)

種別	材料の種別		表面処理
・手すり	単 ステンレスSUS304	単HL程度	・指定無し
	・鉄	亜鉛のっき	外部 単 C種
			内部 単 E種
・タラップ	単 ステンレスSUS304	単研磨仕上	・
	・鉄	亜鉛のっき	外部 単 C種
			内部 ・

5 金属製成形張り　　(14. 7. 2)(表14. 2. 1)

形状	製造	材種	寸法(mm)	厚(mm)	表面処理
・スパンドレル形	・同じ	単ちがう			・B－1種
	・ロール	・	84	05	・B－2種(　)
◎パネル形	単プレス	PC鋼板			

補強間隔寸法　　単取りない　・取ける(施工箇所は図示)　(14. 7. 3)

6 アルミニウム製建具　　(14. 8. 2)(表14. 2. 1)(表14. 8. 1)

種別	板厚(mm)	表面処理	備考
・100形	1. 5	単A－1又は	単1. 3ミル程度
・250形	2. 2	B－1種	汚れ防止が容易なり型断の形
・350形	3. 0	・B－2種	又は水溶型用の仕様とする。
・		(　　)	

7 フッ素樹脂塗装鋼板　　製造所

15 塗装工事

1 防火材料　　※屋内の壁及び天井の仕上げ材は、防火材料又は建築基準法に基づく国土交通省の認定品のあるもの。

2 モルタル塗り材　　吸水調整材　　(15. 2. 2)

製造所　原則として

防水剤(防水モルタル塗りの混入剤)

製造所　単 型枠施工の承認する製造所

③ 鉄コンクリートの塗り仕上げ　　(表6. 4. 2)(15. 5. 1)

施工箇所	中だんさ	備考
フリーアクセスフロア(パネル構造)範囲	1mにつき1. 0mm以下	建築物の場合も含む。
フリーアクセスフロア(置敷型)範囲	3mにつき7mm以下	

4 仕上塗材仕上げ　　(15. 7. 2)(表15. 7. 1)

種類	対応名	仕上げの形状等
・薄付仕上塗材	・外部薄塗材E	・砂壁状・複色塗材砂壁状
	・内部薄塗材E	砂壁状にゆらく
	・可とう形外部薄塗材E	・砂壁状 ・ゆず肌状 ・さざ波状
	・防水形外部薄塗材E	・ゆず肌状 ・さざ波形 ・凹凸状
	・外部薄塗材S	砂壁状
	・内部薄塗材W	砂壁状にゆらく
・複層仕上塗材	・複層塗材CE	・ゆず肌状 ・凸部処理 単凹凸模様
	・可とう形複層塗材	斜模様 単3種 ・
	・複層塗材S1	上塗材
	・複層塗材E	基板 単水系 ・溶剤系
	単複層塗材RE	樹脂 単アクリル系
	・複層塗材RS	・
	・防水形複層塗材CE	外観 単つやあり ・つやなし
	・防水形複層塗材E	・メタリック
	・防水形複層塗材RS	防水形の種類(　単行う
・軽量骨材仕上塗材	・吹付用軽量骨材	砂壁状
	・こて塗用軽量骨材	平たん状

16 建具工事

1 アルミニウム製建具　　外部に面する箇所　　(表16. 2. 1)

種別	耐風圧時	気密性	水密性	枠見込み(mm)	施工箇所
・A種	S－4	単A－3	単W－4	単 70	
・B種	S－5	・	・	・	
・C種	S－6	A－4	W－5	100	

断面処理　　単B－1　・B－2(単ガラス・アルミ・ガラス)

室内建具　　(表14. 2. 1)

断面処理　　単C－1又はB－1

・C－2又はB－2(単ガラス・アルミ・ガラス)

防虫網　　(16. 2. 3)

網の種別　・ガラス繊維入りポリ塩化ビニル　・合成繊維製　・ステンレス製

形　式　　単外部可動式　・固定式

3 個別建具　　吸音吸込形の構造内部のアセット性能　　(16. 3. 2)(表16. 3. 1)

単適用する(適用箇所は表示による)　・適用しない

製品の性能規定(ただし書きの適用)　　(16. 3. 4)(表16. 3. 3)

単製造所標準仕様による(製造所　昇降式)

4 個別軽量建具　　品質規格　　(表16. 3. 3による)

単建築工事共通仕様書による

・製造所標準仕様による(製造所　昇降式)

防火性能の表示による(製造所　昇降式)

単適用する(適用箇所は表示による)　・適用しない　　(16. 4. 2)

5 個別重量建具　　製造所

6 ステンレス製建具　　製品の許容寸法差(ただし書きの適用)　　(16. 5. 4)(表16. 3. 3)

単製造所標準仕様による(製造所　昇降式)　・表16. 3. 3による

表面仕上げ　単HL仕上げ　・鏡面仕上げ　・

曲げ加工　単型通板　・角ビル曲げ(単特有り)　(16. 5. 5)

7 自動ドア開閉装置　　(16. 6. 3)(表16. 3. 3)

開閉方法	センサの種類	
単スライディングドア	・マットスイッチ	・電子マットスイッチ
・スイングドア	・光線スイッチ	・重錘スイッチ
	単熱線スイッチ	・光電スイッチ

8 木製建具　　かまち戸の形態　かまち(　　)　框成(　　)　(16. 7. 2)

上すまの上張り　単　軟質の子框及びはビニル巻　・角の子　(表16. 7. 3)

9 建具用金物　　マスターキー　単作成する　・作成しない　(16. 8. 5)

建具金物の種類　　(表16. 8. 2)

種別	品質・規格
モノロック	許容差等による
本締より付きモノロック	
シリンダ錠	
シリンダ本締より錠	
ドアクローザ	
吊元	
ピボットヒンジ	
ヒンジクローザ	許容差等による
フロアヒンジ	
・	

10 ガラス　　・合わせガラス　　(16. 9. 2)

品種	特定種類
単フロート合わせガラス	・フロート複合わせガラス
	・熱線吸収、フロート複合わせガラス
・網入複合わせガラス	・網入複合、フロート複合わせガラス
	・網入複合、熱線吸収複合わせガラス
・強化ガラス	

対熱板ガラスによる種類

種別	種類
単フロート強化ガラス	単フロート熱線吸収ガラス
	・熱線吸収型強化ガラス
・型板強化ガラス	単型板強化ガラス
・熱線吸収板ガラス	

品種	合掲
単熱線吸収フロート板ガラス	・ブルー ・グレー ・ブロンズ
・熱線吸収網入型ガラス	・ブレー ・ブロンズ
・複層ガラス	

品種	板ガラスの組み合わせ
・前列複層ガラス	
・目射熱低い複層ガラス	

・単熱反射板ガラス

品種	反射色調型	色調	80-2透明
単熱線反射ガラス	単内面・外面	・ブルー ・グレー	射行ない
・高性能熱線反射ガラス	内面	・ブロンズ・シルバー	・行う

・強度増ガラス

材料種ガラスによる強度	色調
単強度フロート板ガラス	・ブレー ・ブルー ・ブロンズ

・倍強度平面型板ガラス　　・

・ガラスブロック　品質JIS A5212による

寸法(mm)	色調	パターン	型ふ記号
	単クリア ・熱線反射		単無し
	・乳白 ・カラー(　　)		・ご種記号

11 ガラスとめ材　　(16. 9. 2)(表9. 5. 1)

適用の場所	材種
アルミニウム製	単シーリング材 ・ガスケット(FIX窓はシーリング材)
鋼製及び鉄筋製	単シーリング材
ステンレス製	単シーリング材

ただし、防火戸は建築基準法に基づく防火性能認定品とする。

12 ガラス飛フィルム

名称	種類	張り面	性能等
単 ガラス飛散防止フィルム	第2種	室内張り・外張り	飛散防止率 D1
・			

品質 JIS A5759による

13 風雪シャッター　　閉閉方式　単上架電動式(手動併用)　・手動式　(16. 10. 2)

・一般風雪シャッターのシャッターケース　単設ける　・設けない　(16. 10. 2)

閉閉装置　単手動式 単上架電動式(手動併用)　(16. 11. 2)

スラットの形状　単インターロッキング形　・オーバーラッピング形　(16. 11. 4)

ガイドレール等　適種類別　・ステンレス鋼SUS304(厚さ1. 5mm)　(表16. 11. 2)

セクション付　単スチールタイプ　・アルミニウムタイプ　(16. 12. 2)

・ファイバーグラスタイプ

閉閉方式　単バランス式・チェーン式　・電動式　(16. 12. 2)

収納形式　・スタンダード形　・ロペット形　(16. 12. 2)

・ハリソフト形　・パーカル形

ガイドレール　・種類別　単ステンレス鋼SUS304　(16. 12. 3)(表16. 12. 1)

16 障害物感知装置　障害物感知装置を設ける電動式のシャッター(ドア)のうち、防火シャッター(ドア)及び防煙シャッター(ドア)においては、手動閉鎖装置又は連動閉鎖装置による自重降下中に、障害物感知装置が障害物を感知しても、シャッター(ドア)が自重降下の状態を維持するものとする。その方の電動式のシャッター(ドア)は、電動降下中に障害物を感知し、自動的に停止させる機能を有するものとする。

17 塗装工事

1 防火材料　　※屋内の壁及び天井の仕上げ材は、防火材料又は建築基準法に基づく国土交通省の認定品のあるもの。

② 施設基準　　単日本塗装工業会の会員　・監督職員の施設する資格

③ 塗地こしらえ　　原動のっき面の塗地こしらえの種別　　(17. 2. 4)(表17. 2. 3)(表17. 3. 4)

種別	施工箇所(下地種別)
A種	鋼板の素見及び、2液形ポリウレタンエナメル塗り、完成肌塗料はっ光有型
	エナメル塗りの場合
B種	A種、C種以外
C種	下塗りに鉛丹さび止め錆止顔料を使用する場合

せっこうボード及びその他のボード面の素地こしらえの種別　　(17. 2. 7)(表17. 2. 7)

種別　単 B種　・A種(施工箇所:　　)

材　質　ウレタン樹脂系塗料(単標準色・　　)

仕上種別　単平滑仕上げ　・防滑仕上げ

塗 布 量　アクリマー塗りの1工当り2回塗りとし、補塗共量は0. 5kg/㎡以上とする

材　質　ポリアクリル系合成塗料(単標準色・　　)

仕上種別　コーティング(ロール・刷毛塗り)

塗 布 量　上記2回塗りとし、補塗共量は0. 25kg/㎡以上とする。

4 床用塗料塗り

5 防腐用塗料塗り

18 内装工事

1 ビニル床シート張り　　(18. 2. 2)

種別	記号	合掲	厚さ(mm)
単発泡層のないもの	単NC ・	単無地 ・マーブル柄	単2. 5
・発泡層のあるもの		単模様 ・無地	・
・			

工法　単熱溶着工法　・接着付け(施工箇所　　)　(18. 2. 3)

2 ビニル床タイル張り　　(18. 2. 2)

種別	記号	厚さ(mm)	備考
単コンポジションビニル床タイル(床模様)	CT	単2	
・コンポジションビニル床タイル(総一層)	CTS	・	
・ホモジニアスビニル床タイル	HT	・	
・		・	

(18. 2. 2)

種別	厚さ(mm)	伸度
・コンポジションビニル床タイル	単2	破壊試験値(JIS K6911による)
・ホモジニアスビニル床タイル	単4. 0又は4. 5	1×10^3 以上
・	・	

3 導電床用床タイル張り

4 ビニル幅木　　高さ(mm)　単60　・75　(18. 2. 2)

5 合成樹脂塗り床　　(18. 3. 2)(表18. 3. 1)(表18. 3. 7)

種別	仕上げ種類
・現場ウレタン塗り床材	単研磨仕上げ　・防滑仕上げ　・つや消し仕上げ
・エポキシ樹脂塗り床材	単無機流し張べ仕上げ
	・無機流し張べ仕上げ(単研磨　・防滑)
	単樹脂モルタル仕上げ(単研磨　・防滑)
	・防滑仕上げ

6 せっこうボードその他のボード張り　　(18. 4. 2)(表18. 4. 1)

種別	記号	厚さ(mm)、規格等
・強化ボルメン板	・	・15　・20　・25　・
・断熱ボルメン板	・	・15　・20　・25　・
・吹付硬質ウレタン板	・0. 8PK	タイプ2(単記載)
・ロックウール化粧吸音板	・OR	単フラットタイプ(単9　・12　・　)
		・段付タイプ(単12　・15・19　・　)
・ロックウール化粧吸音板(軒天用)	・	フラットタイプ(9)(単)不燃
		・段付タイプ(単12　・15)(準)不燃
・せっこうボード	GB－R	12. 5(不燃)
・不燃加工せっこうボード	GB－NC	9. 5(不燃)化粧加工(下地張り用)
		化粧加工(トラバーチン模様)
・シージングせっこうボード	GB－S	12. 5(準)(個)不燃
・強化せっこうボード		12. 5(不燃)15. 0(不燃)
・せっこうラスボード	GB－L	9. 5
・化粧せっこうボード(木目)	GB－D	12. 5(不燃)幅440程度
		模様(単柾目・板目)　表面下地材料名
・メラミン樹脂化粧板	・	JIS K6902による　表11. 2
・		

軽量鉄骨下地ボード直接張の遮音レール材　　(18. 4. 2)(表9. 5. 1)

単アクリル系シーリング材

・ジョイントセメント

7 設置材　　(表18. 4. 1)

種別	記号	寸法(mm)
今ロックウール吸音ボード1号	RW－1	単25　・
・グラスウール吸音ボード2号3.2K	GW－B	単25　・
・	・	・

8 スローリング張り　　(18. 5. 2~18. 5. 7)(表18. 5. 1~表18. 5. 4)

種別	模様	工法	防火性能
単天然木化粧合フローリング	単ならい・ひのき	単釘のみ工法(一般)	単有・無
・	・	・	・
・	・	・	・

9 壁紙張り　　(18. 6. 2)

施工箇所	壁紙の種類					防火性能の級別	品質等
	紙	繊維	ビニル化学発泡	無機質			
	・	・	・	・	・	単1級 ・級	
	・	・	・	・	・	単1級 ・級	
	・	・	・	・	・	単1級 ・級	
	・	・	・	・	・	単1級 ・級	
	・	・	・	・	・	単1級 ・級	
	・	・	・	・	・	単1級 ・級	

10 巾木　　(表18. 7. 1)

適用箇所	種別
	・A種 単B種 ・C種 ・D種
表12. 5. 1による床板	
ポリエチレンフォーム床下地	単C種 ・D種

11 カーペット敷き　　(18. 8. 3)(表18. 8. 4)

・幅にゃりたん　　(表18. 8. 1)

種別　・A種　・B種　・C種

パイル形状　・カットパイル　・ループパイル　・カット、ループ併用

色柄　単同一色(無地)　・柄物(意匠品)

帯電性　人体帯電圧　単3 kV以下　・

・タフテッドカーペット　　(18. 8. 3)(表18. 8. 4)

パイル形状	パイル当(mm)	工法	帯電性
・カットパイル	単5ウ・	単空間張工法	人体帯電圧
・マルチレベルループ	単6ゲ・5	・グリッパー工法	単3 kV以上
・レベルループパイル	単ゲ　4　・		・
・カット、ループ併用	・		
・タイルカーペット		(18. 8. 3)(表18. 8. 2~表18. 8. 4)	

パイル形状	種別	電気抵抗値(Ω)
単ループパイル	単A種 ・B種	単使用しない ・10^5 Ω以下
・カットパイル		

12 断熱材　　(18. 9. 2)

種別	施工箇所	厚さ(mm)	品質等
・押出法	単2種b	・一般部	単25	特定フロンを使用しないもの
ポリスチレンフォーム保温板	単1種b(スキン張付)	・土間接地スラブ下面	単25	
・吹付硬質ウレタンフォーム	単断熱材連続部分			
吹付け	・一般部	単1. 5	特定フロンを使用しないもの
(現場発泡断熱材)	・	単開口部	・
	製造所　昇降式による		

13 可動間仕切　　(18. 10. 2)

間仕切形式	パネル部分の板厚さ(mm)	表面材種	仕上げ	
単パネル式	・	単布張	単アクリル樹脂又はアクリル	
・スタッド式	・	単ビニル	(単0. 6~0. 8)	表面硬化付
・スタッドパネル式	・	・		

品質　JIS A6512による(又は同等品)

14 高窓天井材　　(18. 10. 3)

種別	表面仕上げ	行数	幅(mm)	備考
単アルミニウム製	単 塗付け塗装品	単不燃	単200	窓の機能障害とし、製造所の指示とする。
	・アルマイト処理品	・準不燃	・100	
・硬質塩化ビニル	単 塗装品		単300	
	・木目調		・100	

15 ポリエチレンフォーム巾木　　屋下地　厚さ(mm)　単40　・65　・80

ムロ下地材　フローリング張　厚さ(mm)　単80　・95

19 特殊工事

1 香り土に用いる材料　　・A種　単B種　・C種　D種　(19. 2. 3)(表3. 2. 1)

2 遮断層及び床上防湿層の材料　・遮断層　単ポリ防湿フィルム等ではない　(19. 2. 3)

・床上防湿層　単切り込み防湿

3 臨床安定処理用材料　単改良材料による安定処理　(表19. 2. 2)

種類　・生石灰(　)　・消石灰(　)

・生石灰(　)　・消石灰(　)

添加量　　kg/㎡

4 臨床土の含水比試験　　単行う(単乾したもの)　・乾さないもの)　(19. 2. 5)

5 臨床地盤の沈下試験　　単行う　(19. 2. 5)

6 防腐材料　　単有色クラッシャン(RC－40)　(19. 3. 3)(表12. 3. 1)

・クラッシャラン(C－40)又はクラッシャランス(CS－40)

7 アスファルト舗装　　(19. 4. 2)(表19. 4. 1)

舗装の種類	表層の基層	カラー舗装の種類
単 アスファルト舗装	単無し ・有り	単顕色剤入りアスファルト混合物
・カラーアスファルト舗装	単無し ・有り	・

カラー舗装の着色材料　・有色骨材(成式)　・着色骨材(骨製骨理)

施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)
図面名	車庫棟・塵介置場(特記仕様書2/3)
作成年月	平成26年 3月
縮尺	- / 図面番号 8-203/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所

19 舗装工事

アスファルト　※再生アスファルト　・ストレートアスファルト　(19.4.3)

再生加熱アスファルト混合物の種類　(19.4.4)(表19.4.6)

区分	※一般地域	・寒冷地域
表層	※密粒度アスファルト混合物（13） ・細粒度アスファルト混合物（13）	※密粒度アスファルト混合物（13F） ・細粒度アスファルト混合物（13F）
基層	・粗粒度アスファルト混合物（20）	

シールコート　※行わない　・行う（施工範囲　　）　(19.4.5)
アスファルト混合物の抽出試験　※行わない　・行う　(19.4.6)

8　コンクリート舗装
早強セメント　※使用しない　・使用する　(19.5.3)
注入材料　※低弾性タイプ　・高弾性タイプ
溶接金網　※有り　・無し　(19.5.3)(19.5.4)
厚さ試験　※行わない　・行う　(19.5.6)

9　透水性舗装
アスファルト混合物の抽出試験　※行わない　・行う　(19.6.6)

10　排水性舗装
アスファルト混合物　(表19.7.2)
※改質アスファルトⅠ型　・改質アスファルトⅡ型
タックコート用ゴム入りアスファルト乳剤の種類　(表19.7.3)

適用時期	種類
下記以外	PKR－T1
冬期	PKR－T2

アスファルト混合物の抽出試験　※行わない　・行う　(19.7.6)

11　ブロック系舗装
・コンクリート平板舗装　(19.8.3)

種類	寸法（mm）	厚さ（mm）	目地材
※普通平板（N）　・カラー平板（C） ・洗出平板（W）　・擬石平板（S）	※300角	※60角	※砂 ・モルタル

・インターロッキングブロック舗装　(19.8.3)

種類	厚さ（mm）	色彩及び表面加工等
※標準ブロック ・透水性ブロック ・	車道部　※80　・ 歩道部　※60　・	※　標準品 ・
・植生ブロック	※80　・100	

製造所　※監督職員の承諾する製造所
・

・舗石舗装　(19.8.3)

種類	厚さ（mm）	施工方法	規格品
※小舗石（花こう岩）	※80～100　・	※　うろこ張り	※2等品
・	・	・	

20 排水工事

①　排水管　(20.2.1)(表20.2.1)(20.3.3)

材種	管の種類	管形状（接合方法）
※　遠心力鉄筋コンクリート管	※　外圧管（※1種　・2種）	B形（ゴム接合）
・硬質塩化ビニル管	※　VP　・VU	

②　排水桝及びふた
鋳鉄製マンホールふた　(20.2.2)

種類		適用荷重
⊙水封形 ・簡易気密形（パッキン式）	・密閉形（テーパー・パッキン式） ・中蓋付密閉形	・T－　2用 ・T－　6用 ⊙T－20用

製造所　評価名簿による
グレーチングふた

材質	形式	種類	適用荷重	メンバーピッチ	上面形状
⊙鋼製 ・ステンレス製	※受枠付き ・ ボルト固定 ※無し ・図示	⊙溝ふた用 ・桝ふた用 ・かさ上げ用 ・U字溝用	・歩行用 ・T－　2用 ・T－　6用 ・T－14用 ⊙T－20用	※細目 ※普通目 ・細目	※凹凸形 ※平形 ・凹凸形

製造所　評価名簿による

③　埋戻し土　※B種　・　(20.2.3)(表3.2.1)

4　浸透管及び浸透桝　製造所

21 植栽工事

1　樹木の植栽基盤整備　※行う　(21.2.2)(21.2.3)(図21.2.1)(表21.2.2)

樹木の樹高	有効土層の厚さ（cm）	工法	整備範囲
・12m以上	※100　・120　・150	※A種	・葉張りの範囲
・7～12m	※80　・100	・B種	（樹高7m以上）
・7m未満	※60　・80	・C種	※植込み部分
		・D種	・図示
・芝、地被類	※20	※B種・	※植栽範囲

工法D種以外の工法で、現状地盤高と計画地盤高が同一でない場合は、計画地盤高からを有効土層とする。ただし、計画地盤高が現状地盤高より高い場合は、計画地盤高まで植込み用土で盛土を行う。

2　植込み用土　※現場発生土の良質土　・客土（※畑土　・黒土）　(21.3.2)
3　土壌改良材　※行う（※　バーク堆肥（50リットル／m³）　・　）　(21.2.3)(21.2.4)
施工箇所　※植込み部分　・図示
4　支柱材　※杉の焼丸太　・竹　(21.3.2)
5　幹巻き用材料　※幹巻き用テープ　・わら及びこも　(21.3.2)
6　芝張り　種類　※こうらい芝　・野芝　(21.4.2)
客土　※行わない　・行う（※畑土　・黒土）　(21.3.2)

22 カーテンウォール工事

1　メタルカーテンウォール
設計図書による規定の他、特記無き事項は（社）日本建築学会JASS14による。
カーテンウォール材料の種類

種類	規格等
※アルミニウム製	※16.2.3のアルミニウム製建具の材料による
・	・

カーテンウォールの方式
・方立方式
・バックマリオン方式（・単純2辺支持構法　・SSG構法）
・パネル方式
・スパンドレル方式
・小型パネル組み合わせ方式（・ノックダウン方式　・ユニット方式）

シーリング材及びガラス取付材料　(22.2.2)(9.5.2)

被着体の組合せ		記号	主成分による区分	耐久性による区分
金属	ガラス			
	石、タイル			
ガラス	ガラス			

上記以外のシーリング材の種類は表9.5.1による

構造用ガスケット　※適用しない　・適用する（施工箇所：　　）　(22.2.2)
断熱材　※適用しない　・適用する（種類：　厚さ（mm）：　施工箇所　※図示）　(22.2.2)
製品の寸法許容差　※　表22.2.1による　・製造所標準製作規定寸法許容差による　(22.2.3)(表22.2.1)

アルミニウムの表面処理　(22.2.3)(表14.2.1)

種別		色彩等
・A－1種	・B－1種	無着色
・A－2種	・B－2種	※ブラウン系　・ブラック　・ステンカラー　・
・着色塗膜	塗装材料（　　）	焼付け方法（　　）コート（　　）ベーク

耐風圧性能　(22.1.3)
性能値　※　建築基準法施行令第87条及び建設省告示第109号に定められた風圧力に対して安全であること。
・　正圧　　kg／m²以上及び負圧　　kg／m²以上に対して安全であること。

主要部材のたわみ

支点間距離（h）	たわみ量	状態
※4m以下	※±（1／150）×h かつ絶対量20mm以下	※各部の破損、残留変形　有害な変形が起こらないこと
・4mを超える		

耐震性能　(22.1.3)
設計用震度　水平方向（KH）　※1.0　・
垂直方向（Kv）　※0.5　・

構造種別	層間変位量（h＝支点間距離）	状態
鉄骨造	※±（1／100）×h以上	※部材の脱落、ガラスの破損及び主要部材に有害な歪みが起こらない。シーリングは補修程度
鉄筋コンクリート造 鉄骨鉄筋コンクリート造	※±（1／200）×h以上	

水密性　・W－4　・W－5　(22.1.3)
気密性　・A－3　・A－4　・　(22.1.3)
耐火性能　※適用しない　・適用する（　時間、施工箇所：図示）
映像調整　適用は16章建具工事の11項ガラスによる。
製造所

2　PCカーテンウォール
設計図書による規定の他、特記無き事項は（社）日本建築学会JASS14による。
コンクリートの種類及び品質
※22.3.2による
・下表による（ただし、下表以外は22.3.2による）

コンクリートの種類	設計基準強度（Fo）	所要スランプ（cm）

鉄筋　※SD295A　・

取付け用金物の表面処理（鉄の亜鉛めっき）及び材質　(14.2.3)(表14.2.2)

金物種類及び部位	内部	外部
PC版打込み金物	※　E種　・	※　A種　・
PC版打込み取付ボルト	※　E種　・	※　ステンレス製ボルト
2次ファスナー	※　E種　・	※　A種　・
取付けボルト	※　E種　・	※　A種　・
レベル調整ボルト	※　E種　・	※　A種　・

※　上記以外はカーテンウォール製作所の仕様による

シーリング材料　(22.3.2)(9.5.2)

施工箇所	記号	主成分による区分	耐久性による区分
カーテンウォール板間目地			

※上記以外のシーリング材の種類は表9.5.1による

断熱材　※適用しない　・適用する（種類：　厚さ（mm）　施工箇所　※図示）
製品の寸法許容差　※表22.3.1による　・製造所標準製作規定寸法許容差による
表面仕上げ　※（　　）

耐火材料

施工部位	種別	規格等
・ファスナー部		
・取付けブラケット		
・パネル目地部		
・層間ふさぎ		

耐風圧性能　(22.1.3)
性能値　※建築基準法施行令第87条及び建設省告示第109号に定められた風圧力に対して安全であること。
・　正圧　　kg／m²以上及び負圧　　kg／m²以上に対して安全であること。

耐震性能　(22.1.3)
設計用震度　水平方向（KH）　※1.0　・
垂直方向（Kv）　※0.5　・

構造種別	層間変位量（h＝支点間距離）	状態
鉄骨造	※±（1／100）×h以上	※部材が損傷せず、脱落もしない。ガラス等の破損もしない。シーリングは補修程度
鉄筋コンクリート造 鉄骨鉄筋コンクリート造	※±（1／200）×h以上	

23 ユニット及びその他工事

1　耐震スリット

方向	タイプ	耐火性能	防水性能
・垂直方向	※完全（全貫通型）スリット	・耐火型	・有り
・水平方向		・非耐火型	・無し

目地	内壁（幅×深さ）	外壁（幅×深さ）
目地材	シーリング材（見え掛かりのみ）	シーリング材（内外とも）
目地寸法（mm）	※20×10　・	※20×10　・

製造所

2　止水板　形状　・差込式　・据置式　・壁張り式
製造所

3　階段滑止め　(23.2.2)
材種　ステンレスSUS304
形状　ビニルタイヤ入り
両端フラットエンド　・無　※有（・ステンレスSUS304　※ビニル製）
幅（mm）　約35
取付け工法　※接着工法　・埋込み工法

4　階段手すり
※集成材クリアラッカー仕上げ（市販品　径　約45　mm）
・ビニル製ハンドレール（幅　約50mm）

5　フリーアクセスフロア　(23.2.4)

施工箇所	構法	設定高さ（mm）	適用地震時水平力	表面仕上げ材
	・　パネル構法	・	・1.0G	・帯電防止床タイル
	・　溝構法	※　50未満	・0.6G	・タイルカーペット
	・　パネル構法	・	・1.0G	・帯電防止床タイル
	・　溝構法	※　50未満	・0.6G	・タイルカーペット
	・　パネル構法	・	・1.0G	・帯電防止床タイル
	・　溝構法	※　50未満	・0.6G	・タイルカーペット

表面仕上げ材の品質・規格等は、18章内装工事による
スロープ及びボーダー　※　製造所の標準仕様　・図示
コンセント等の取付け対応　※　製造所の標準仕様（コンセント本体は別途設備工事）
コンセントの箇所数は図示
配線用取り出し用開口　※　対応品又は工場加工品（施工箇所は図示）
空調用吹き出しパネル　※　無し
・　有り（※固定式　・可変式　：施工箇所は図示）
製造所　評価名簿による

6　トイレブース
表面仕上げ材　メラミン樹脂化粧板（標準色　アルミ製コーナーエッジ付き）　(23.2.5)
足形状　※幅木型　・足金物型
製造所　評価名簿による

7　ブラインド　(23.2.6)

形式	スラットの材種	スラットの幅（mm）
※　横形	※　アルミニウム合金	※　25　・
・　縦形	・　アルミスラット　・　クロススラット	・　80　・100

8　カーテン　(23.2.7)

施工箇所	片引	引分	電動	ひも	手引	名称品質	ひだの種類
	・	・	・	・	・		
	・	・	・	・	・		
	・	・	・	・	・		
	・	・	・	・	・		

製造所

9　カーテンレール
材種　※アルミニウム製　・ステンレス製　(23.2.7)
形式　・片引き　・引分け（※暗幕用は300mm以上の召合せの重掛けとする）

10　ブラインドボックス及びカーテンボックス
・市販品（アルミニウム製　押出し型材）
溝幅×深さ（　）mm　※90×150　・150×80　・120×80　・
色彩　※B－1　・B－2（※ブラウン系　・ブラック　・ステンカラー）
・図示

11　黒板及びホワイトボード　(23.2.8)

	種類	寸法（mm）	色彩	備考
・黒板	※焼付け		※緑　・黒	※平面・曲面・スクリーン付き引分け
			※緑　・黒	
・ホワイトボード	※ほうろう		※白	※平面・曲面・スクリーン付き引分け

12　表示標識
衝突防止表示　※図示（市販品　※ステンレス製　径約30mm　・　）　(23.2.10)
・無し
誘導標識、非常用進入口表示等は市販品とし、その他は共通詳細図による。
製造所　監督職員の承諾する製造所

13　煙突用成形ライニング材　製造所　評価名簿による　(23.2.11)

14　キャスタブル耐火物　(23.2.11)
工法　※こて押さえ
最高温度　※400℃
材質　※粘土　・アルミナセメント
製造所　監督職員の承諾する製造所

15　天井点検口
材質　アルミニウム製（※額縁タイプ　・目地タイプ）
製造所　評価名簿による

16　天点検口
材質　アルミニウム製（受け枠　※アルミ製　・ステンレス製）
製造所　評価名簿による

17　鋼製書架及び物品棚

種類	規格等	耐荷重による種類
・鋼製書架	JISS1039の規格による	水平荷重Ⅰ又は水平荷重Ⅱ
・鋼製物品棚	JISS1040の規格による	※1種　・2種　・3種

18　かぎ箱
市販品
形式　・30組用　・60組用　・120組用　・

19　くつふきマット
市販品
材質　・塩化ビニル製（コイル状　ステンレス製受枠）　・硬質アルミニウム製（受枠とも）
・ビニル製（ステンレス製受枠）　・ステンレス製（受枠とも）

20　流し台ユニット

種類	寸法（L＝mm）	適用内容	規格・品質等
・流し台	※1200　・1500　・1800	トラップ付き	※優良住宅部品
・コンロ台	※600　・700　・	バックガード　※有り	（セクショナルキッチンⅠ型）
・つり戸棚	※1200　・900　・600		・
・水切り棚	※1200　・900	ステンレス製　※1段式	※市販品

21　屋内掲示板
枠の材質　※アルミニウム製
表面の材質　※塩ビ発泡シート張り　・

22　移動間仕切

遮音性能による区分	厚さ（mm）	表面材	表面仕上げ	施工箇所
・一般タイプ		※鋼板 ・	・焼付け塗装 ・壁紙張り	
・遮音タイプ		※鋼板 ・	・焼付け塗装 ・壁紙張り	

表面仕上げの壁紙張りの品質は18章内装工事による
製造所　評価名簿による

23　洗面カウンター
材質　・メラミン樹脂化粧板張り（芯材　集成材）　・人工大理石（品質　※図示）
奥行き（mm）　・約450　・約600

24　誘導用及び注意喚起用床材
屋内　※塩化ビニル製　・磁器又はせっ器質タイル（※300　・　）
・レジンコンクリート製
屋外　※レジンコンクリート製　・磁器又はせっ器質タイル（※300　・　）

25　敷地境界石標　・A種　※B種　(23.5.1)(表23.5.1)

26　旗竿
材質　※アルミニウム合金製
形式　※テーパー型　・同一断面型
地上高さ（m）　・6　・8　・10　・12
操作方法　・※ハンドル式　・ロープ式
固定方法　・埋込式　・ベース式　・バンド式
製造所

27　旗竿受金物　材種　ステンレス製SUS304

28　フェンス
・ビニル被覆エキスパンドフェンス　・樹脂塗装メッシュフェンス　・鋼管フェンス
製造所

29　屋外掲示板
照明器具　※有り　・無し
施錠　※有り　・無し
製造所

30　車止め支柱
ステンレス製（上下式鎖内蔵型）　径114.3mm　t＝2.5mm　H＝GL＋700mm
※スプリング付　・スプリング無し

メーカーリスト

部位	メーカー
屋根	元旦ビューティ工業（株）　嵌合式折板G－170
外壁	元旦ビューティ工業（株）　横壁元張Bタイプ
アルミサッシ	新日軽（株）
シャッター	文化シャッター（株）
	材料は以上のメーカーの材料又は同等品とする。

施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	車庫棟・塵介置場(特記仕様書3/3)		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	-	図面番号	8-204/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所		

設計概要

工事名称	
建築主	関東農政局千葉北部農業水利事務所長　三好英幸
建設地	千葉県山武郡横芝町寺方515-1番地
主要用途	飛来場
用途	格納
構造及び規模	鉄骨造平屋建
最高の高さ	4,450m
軒高	4,100m
用途地域	指定なし
防火地域	指定なし
その他 地域地区	指定なし

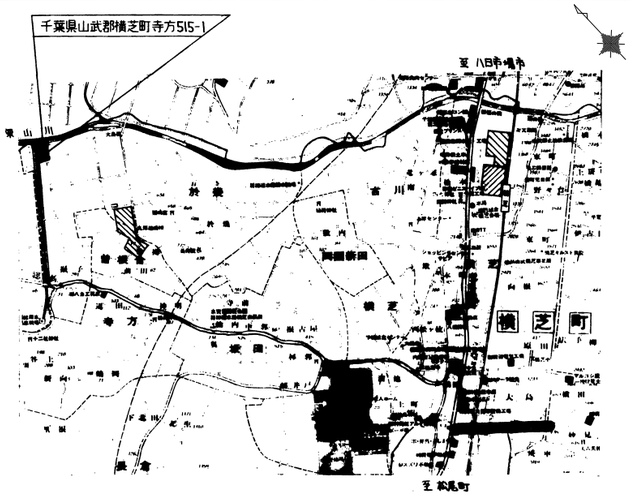
車庫 外部仕上表

屋根	ｶﾞﾙﾊﾞﾘｳﾑ鋼板厚0.8 折板葺 山高ｾﾒ captain ｶﾞﾙﾊﾞﾘｳﾑ鋼板厚0.5 H300 (屋根,鳥獣 フネンエース④-4)
軒裏	折板現し 鉄部Q.P
樋	軒樋 ｶﾗｰｴﾝﾋﾞ 角樋 W=150 ﾀﾃ樋 丸ﾀﾃ-VP φ100 ｽﾃﾝﾚｽつかみ金物共
外壁	ｶﾞﾙﾊﾞﾘｳﾑ鋼板厚0.5（角波 ｻｲﾃﾞｨﾝｸﾞ横張り）下張り 透湿性防水紙・水切り ｶﾞﾙﾊﾞﾘｳﾑ鋼板厚0.6・笠木ｺｰﾅｰ ｱﾙﾐﾊﾟﾘｳﾑ鋼板厚0.6・ｼﾞｮｲﾝﾄ部 特殊ｶﾞｽｹｯﾄ方式
巾木	ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾃ仕上
犬走り	ｺﾝｸﾘｰﾄ金ｺﾃ仕上（目地切共）
備考	ｶﾞｿﾘﾝﾄﾗｯﾌﾟ（設備工事）

車庫内部仕上表

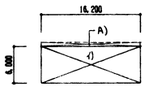
天井	折板現し 鉄部Q.P
壁	角波ｻｲﾃﾞｨﾝｸﾞ現し
巾木	ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾃ仕上
床	ｺﾝｸﾘｰﾄ金ｺﾃ仕上（目地切共）
備考	車止めﾌﾞﾛｯｸ

案内図



面積計算表

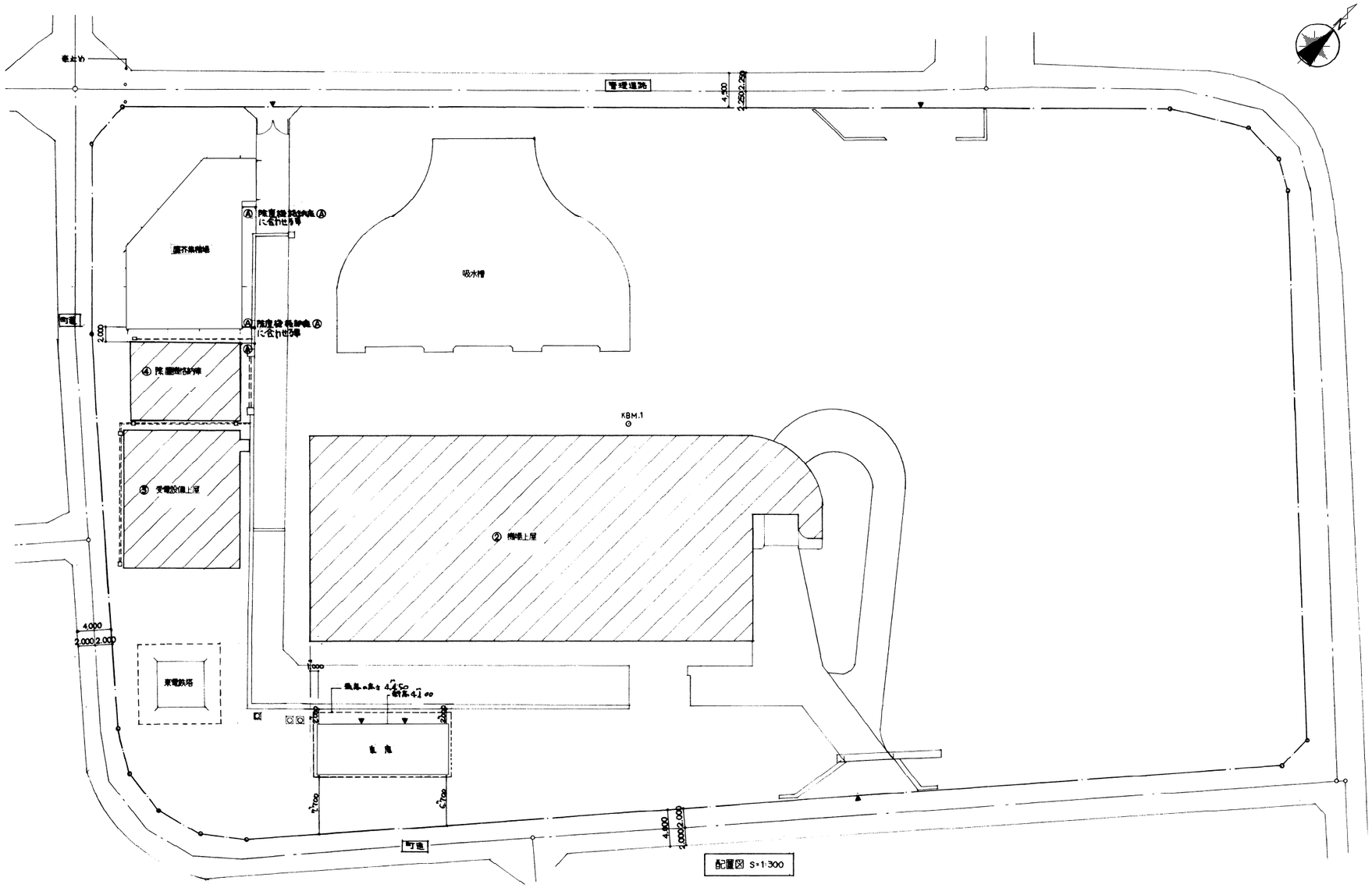
車庫面積



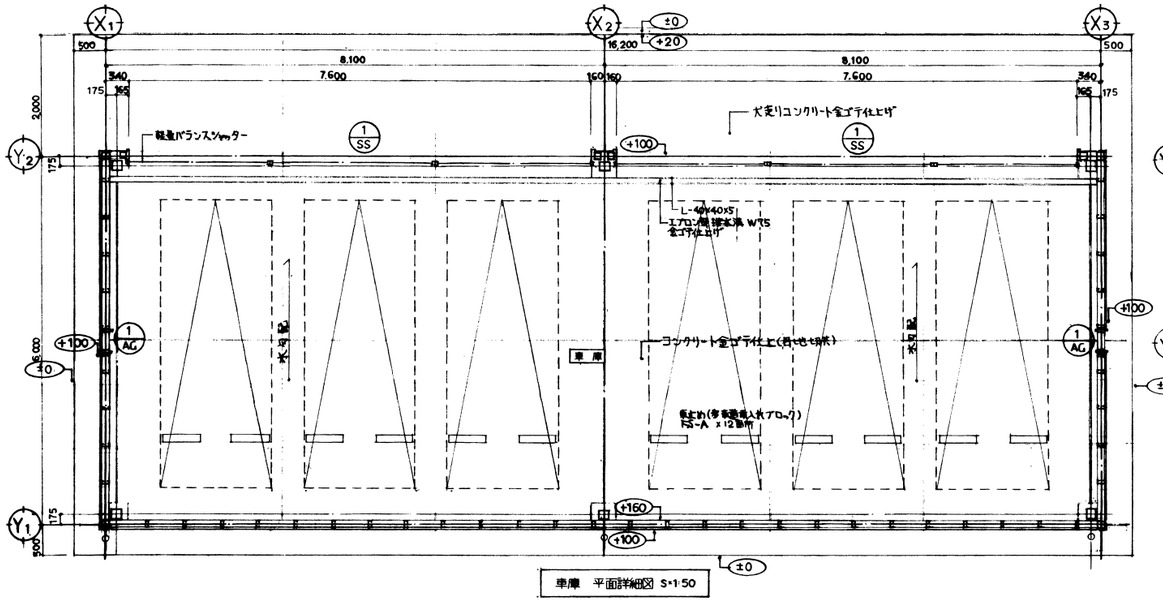
計算式

床面積 イ) 16.200 × 6.000 = 97.20 ㎡
建築面積 A) 16.200 × 0.500 = 8.10 ㎡
イ) + A) = 105.30 ㎡

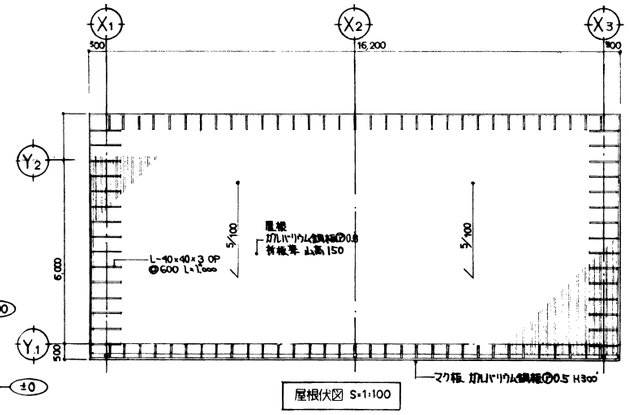
施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	設計概要・外部仕上表・車庫内部仕上表・案内図・面積計算表		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 1:500 A2 1:707	図面番号	8-205/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所		



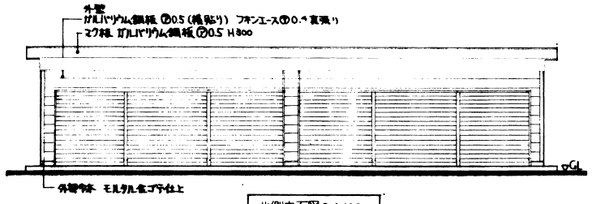
施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	配置図		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 1:300 A2 1:424	図面番号	8-206/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所		



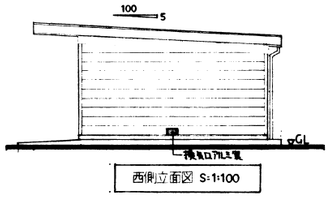
車庫 平面詳細図 S=1:50



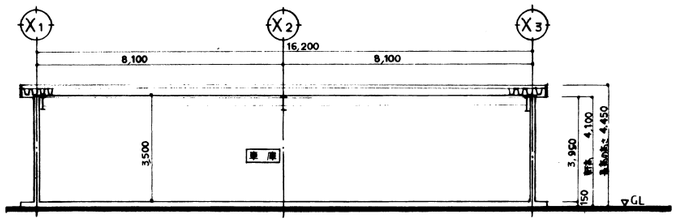
屋根伏図 S=1:100



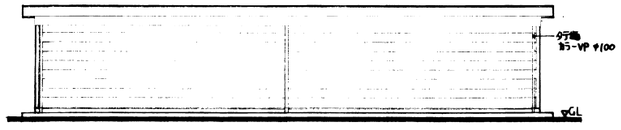
北側立面図 S=1:100



西側立面図 S=1:100

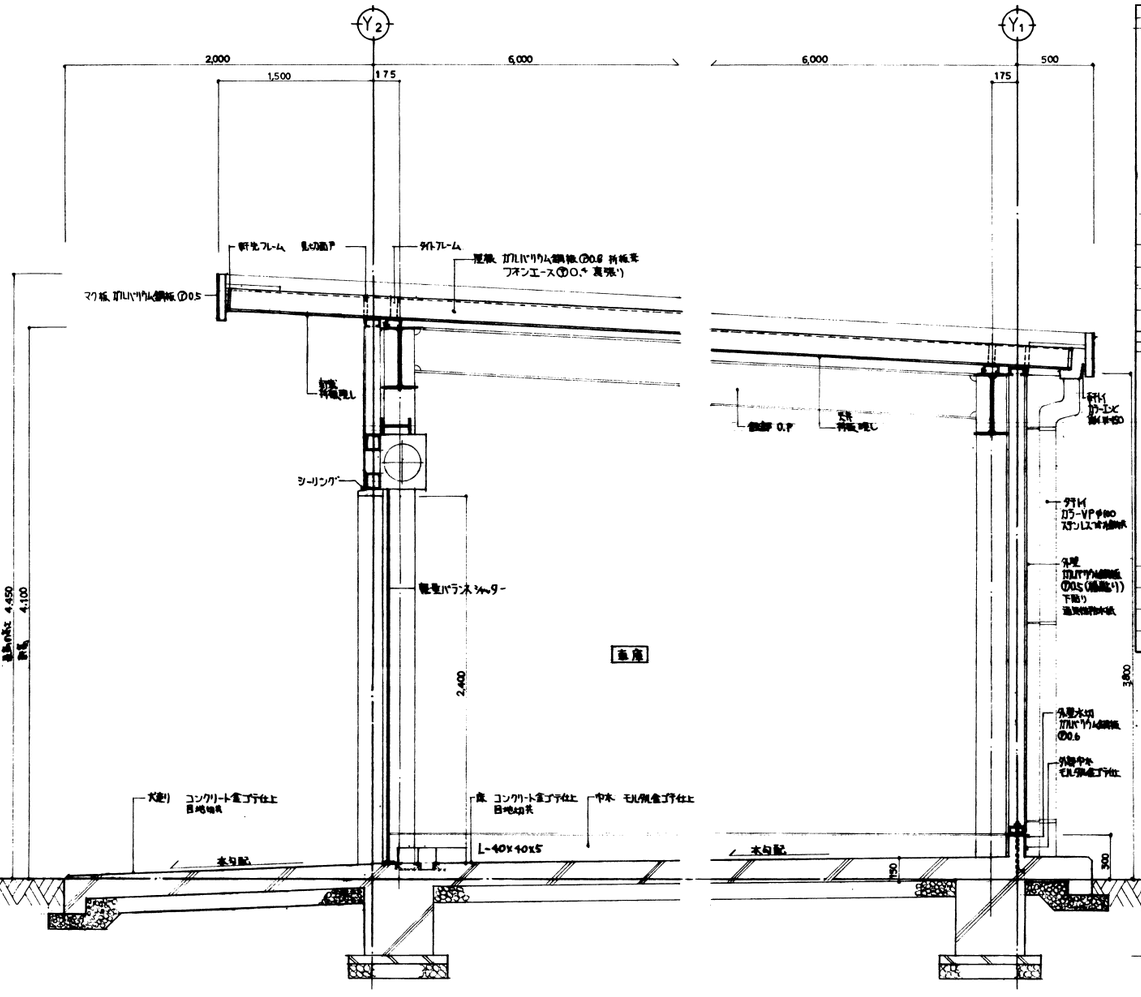


断面図 S=1:100



南側立面図 S=1:100

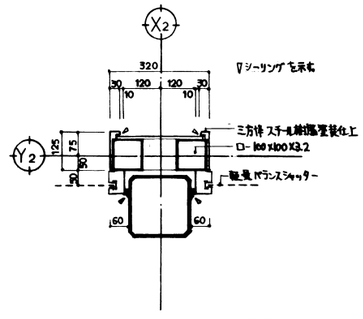
施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	車庫 平面詳細図・屋根伏図・立面図・断面図		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 図示	図面番号	8-207/319
作成者	関東農政局 両総農業水利事業所		



矩計図 S=1:20

1 SS	軽量バランスシャッター		
使用箇所	車庫	2箇所	
材料仕上	スチール製陽極酸化仕上、シャッターBox・方立共		
錠前			
附属金物	附属金物一式、三方枠・スチール製陽極酸化仕上、内ダルム		
1 AC	機械ガラリ		
使用箇所	車庫	2箇所	
材料仕上	アルミ製		
錠前			
附属金物	防虫網付 附属金物一式		

鋼製建具表 S=1:50



シャッター周り部分詳細図 S 1:10

施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	矩形図・建具表		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 図示	図面番号	8-208/319
作成者	関東農政局 両総農業水利事業所		

構造設計標準仕様

適用は ◉ 印を記入する。

1. 建築物の構造内容

(1) 工事名称 } 建築工事参照
建築場所 }

(2) 工事種別 ◉新築 □増築 □増改築 □改築

(3) 構造種別
□木造(W) □補強コンクリートブロック造(CB) ◉鉄骨造(S)
□鉄筋コンクリート造(RC) □壁式鉄筋コンクリート造(WRC)
□鉄骨鉄筋コンクリート造(SRC) □壁式プレキャスト鉄筋コンクリート造(WPRC)
□プレキャスト鉄筋コンクリート造(PRC) □

(4) 階 数
地下 階 地上 1 階 塔屋 階

(5) 主要用途 車庫

(6) 屋上付属物
□広告塔 □高架水槽 ton □ □
□煙突 □キュービクル ton □ □

(7) 増築計画 □有 ( ) ◉無

(8) 付帯工事
□門塀 □擁壁 ◉屋外置場 □ □

(9) 特別な荷重
□エレベータ 人乗(ロープ式 油圧式) □リフト ton □ホイスト ton
□倉庫積載床用 kg/m² □受水槽 ton

(10) 構造計算ルート X方向ルート 2 −( ) Y方向ルート 1 −( )

2. 使用構造材料

(1) コンクリート

適用箇所	種類	設計基準強度 Fc=N/mm²	スランプcm	備考
捨コンクリート	◉普通	□13.5、◉16	18	
土間コンクリート	◉普通	□18、◉21	18	
基礎、基礎梁	◉普通	□18、◉21、□24	18	
柱、梁、床、壁	◉普通、□軽量	□18、◉21、□24	18	比重
	□普通、□軽量	□18、□21、□24		比重
押えコンクリート	□普通、□軽量	□13.5、□16、□18		比重

(2) コンクリートブロック(CB)
□A種 □B種 □C種 厚□100、 □120、 □150、 □190、

(3) 鉄筋

	種類	径	使用箇所	継手工法
異形鉄筋	◉SD295A	D10 D13	図示	◉重ね継手 D16以下
	□SD295B			
	◉SD345	D19	図示	◉ガス圧接継手 D19以上
	□			
丸鋼	□SR235			□特殊継手 ( )
溶接金網	□			

(4) 鉄骨

	種類	使用箇所	現場溶接	設計溶接強度	備考
鋼材	◉SS400 □SM400A □SM400B	梁	□有 □無	□0.9F □1.0F	
	◉STKR400 □STKR490	柱	□有 □無	□0.9F □1.0F	
	□SM490A □SM490B		□有 □無	□0.9F □1.0F	
	◉SSC400	胴縁 母屋	□有 □無	□0.9F □1.0F	

(5) ボルト
□高力ボルト ◉F10T □S8T □S10T 認定品(□M12、◉M16、◉M20、□M22)
□中ボルト φ=12 φ= 高力ボルトすべり係数試験 □要 □否
◉アンカーボルト SS400 φ=22 L=550 mm ナット(シングル、ダブル)
φ= L= mm
◉頭付スタッド φ=19 L=80 mm

(6) 屋根、床、壁

		使用箇所
□ALC版	厚	
◉折版 型式	・ H=150 厚0.6	屋根
□デッキプレート	型式 厚	
□キーストンプレート	型式 厚	
□特殊デッキプレート		
□		

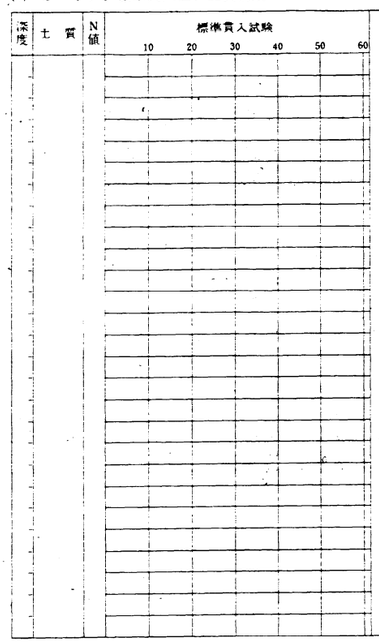
3. 地盤

(1) 地盤調査資料
□有(□敷地内 □近隣) □ボーリング調査 □平板載荷試験 □水平地盤反力係数の測定
◉無 (調査予定 □有 □無) □

(2) 地盤調査計画
□ボーリング調査 □静的貫入試験 □標準貫入試験 □水平地盤反力係数の測定
□土質試験 □物理探査 ◉平板載荷試験 □

(3) 地盤調査及び試験杭の結果により、杭長、杭種、直接基礎の深さ、形状を変更する場合もある

(4) ボーリング標準貫入値、土質構成 (基礎・杭の位置を明記すること)



4. 地業工事

(1) 直接基礎 □ベタ基礎 □布基礎 ◉独立基礎 試験堀 ◉有 □無
深さGL −0.8 m、支持層−山砂 長期許容支持度 5 t/m² 載荷試験 ◉有 □無

(2) 杭基礎 支持層−

杭種	材料	施工法	備考
□RC □PC	PC (□A種 □B種 □C種)	□打ち込み	
□PHC □H鋼	PHC(□A種 □B種 □C種)	□埋込み(セメントミルク工法)	
□鋼管 □摩擦杭	鋼材 □SS400 □STK400	□	大臣認定第 号
□	□	□	年 月 日
□場所打ち コンクリート杭	コンクリートFc=	□オールケーシング □拡底杭	拡底杭 日本建築センター認定
	セメント量 kg/m³	□リバースサーキュレーション	第 号
	鉄筋 主筋 SD	□アースドリル □ミニアース	年 月 日
	HOOP SD	□BH □深礎 (□手堀 □機械堀)	

杭仕様 □施工計画書承認 □杭施工結果報告書
試験杭 (□有・□無) (□打ち込み・□載荷) 本

杭径(mm)	設計支持力(t)	杭の先端の深さ(m)	本数	特記事項

5. 鉄筋コンクリート工事

(1) コンクリート
◉ コンクリートはJIS認定工場の製品とし施工に関してはJASS5による。
◉ セメントは、JIS R5210の普通ポルトランドセメントを標準とする。
◉ 調合計画は、工事開始前に工事監理者の承認を得ること。
◉ 寒中、暑中、その他特殊コンクリートの適用を受ける期間に当る場合は、調合、打ち込み、養生、管理方法など必要事項について、工事監理者の承認を得ること。
◉ フレッシュコンクリートの塩化物測定は、原則として工事現場で(財)国土開発技術研究センターの技術評価をうけた測定器を用いて行い、試験結果の記録及び測定器の表示部を一回の測定ごとに撮影した写真(カラー)を保管し承認を得る。測定検査の回数は、通常の場合、1日1回以上とし、1回の検査における測定試験は、同一試料から取り分けて3回行い、その平均値を試験値とする。
◉ 構造体コンクリート現場の圧縮強度試験供試体(JASS5T-603)は、現場水中養生、または現場封かん養生とし、採取は打ち込み工区ごと、打ち込み日ごととする。また、打込み量が150m³をこえる場合は150m³ごとまたは、その端数ごとに一回を標準とする。一回に採取する供試体は、適当な間隔をおいた3台の運搬車からその必要本数を採取する。なお、供試体の数量は、特別指示なき場合は、1回当り6本以上とし、そのうち4週用に3本を用いる。
◉ ポンプ打ちコンクリートは、打ち込む位置にできるだけ近づけて垂直に打ちコンクリートの自由落下高さは、コンクリートが分離しない範囲とする。ポンプ圧送に際しては、コンクリート圧送技士または同等以上の技能を有する者が従事すること。なお、打ち込み継続中における打継ぎ時間間隔の限度は、外気温が25℃未満の場合は150分、25℃以上の場合は120分以内とする。

(2) 鉄筋
◉ 鉄筋はJIS G3112の規格品を標準とする。
◉ 鉄筋の加工寸法、形状、かぶり厚さ、鉄筋の継手位置、継手の重ね長さ、定着長さは「鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)(2)」または「壁式鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)(2)」による。
□ D19未満は、すべて重ね継手とする。継手(D19以上)をガス圧接とする場合は、日本圧接協会「鉄筋のガス圧接工事標準仕様書」による。
◉ ガス圧接部の抜き取り検査は、同一作業班が同一日に施工した圧接箇所ごと(200箇所を超えるときは、200箇所ごと)に1回行い、1回の試験は3本以上とする。
外観検査 ◉有 □無、引張試験 ◉有 □無、超音波探傷試験 □有 □無
◉ 柱の帯筋(HOOP)の加工方法は、◉H型(タガ型) □W型(溶接型) □S型(スパイラル型)とする。
□ コンクリート及び鉄筋の試験は「建築物の工事における試験及び検査に関する東京都取扱要綱」第4条の試験機関で行うこと。
試験機関名
代行業者名
代行業者名とは、試験、検査に伴なう業務を代行する者をいう。

(3) 型枠
◉ 材料 合板厚 12mmを標準とする。 □
◉ 型枠存置期間

部位	せき板				支柱		
	基礎、はり側、柱、壁		スラブ下、はり下		スラブ下		はり下
セメントの種類	早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント 高炉セメントA種 シリカセメントA種	早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント 高炉セメントA種 シリカセメントA種	早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント 高炉セメントA種 シリカセメントA種	早強ポルトランドセメント 普通ポルトランドセメント 高炉セメントA種 シリカセメントA種
存置期間中の平均気温 15℃以上	2	3	4	6	8	17	28
5℃-15℃	3	5	6	10	12	25	28
5℃未満	5	8	10	16	15	28	28
コンクリートの圧縮強度	50N/mm		設計基準強度の50%		設計基準強度の 85%		100%

注) 1 片持ばり、庇、スパン9.0m以上のはり下は、工事監理者の指示による。
注) 2 大ばりの支柱の盛りかえは行わない。また、その他のはりの場合も原則として行わない。
注) 3 支柱の盛りかえは、必ず直上階のコンクリート打ち後とする。
注) 4 盛りかえ後の支柱頂部には、厚い受板、角材または、これに代わるものを置く。
注) 5 支柱の盛りかえは、小ばりが終ってから、スラブを行う。
一時に全部の支柱を取り払って、盛りかえをしてはならない。
注) 6 上表以外のセメントを使用する場合は工事監理者の指示による。

6. 鉄骨工事

(1) 鉄骨工事は指示のない限り下記による
◉ 日本建築学会「JASS6」「鉄骨精度検査基準」「鉄骨工事技術指針」
◉ 鋼材倶楽部「建築鉄骨工事施工指針」
□

(2) 工事監理者の承認を必要とするもの
◉製作工場 ◉製作要領書 ◉工作図 ◉施工計画書
◉建設省告示第1103号による認定工場(大臣認定 グレードまたは都登録 ランク)
◉材料規格証明書または試験成績書
◉鋼材 ◉高力ボルト ◉特殊ボルト ◉スタッドボルト
□社内検査表 □ □

(3) 工事監理者が行う検査項目
(◉印以外の項目の検査結果については、工事監理者に報告すること)
◉ 現寸検査 □ 組立・開先検査 ◉ 製品検査
◉ 建方検査 □ □

(4) 接合部の溶接は下記によること
◉ 東京都アーク溶接工事管理規準(建築構造設計指針第12章)
◉ 鉄骨造等の建築物の工事に関する東京都取扱要綱(建築構造設計指針第12章)
◉ 日本建築学会「溶接工作規準、同解説 I、II、III、IV、V、VI、VII、VIII、IX」

(5) 接合部の検査
◉ 溶接部の検査(検査結果は後日工事監理者に報告すること)

検査箇所	検査方法	検査率又は検査数 社内	第三者	工事監理者	備考
◉突合せ溶接部	超音波探傷試験	100 ◉	30 ◉	1箇所	
□	外観(目視)検査	100 %	100 %	100 %	
□	マクロ試験・その他	個	個	個	
第三者検査機関名					
第三者検査機関とは、建築主、工事監理者又は工事施工者が、受入れ検査を代行させるために自ら契約した検査会社をいう。					

注) 現場溶接部については原則として第三者による全数検査を行うこと。

◉ 高力ボルトは「JIS B1186の高力ボルト」を標準とする。摩擦面の処理は黒皮などを座金外径2倍以上の範囲でショットブラスト、グラインダー掛け等を用いて除去した後、屋外に自然放置して発生した、赤さび状態であること。ただし、ショットブラスト、グリットブラストによる処理で表面あらさが50S以上である場合は、赤さびは発生しないままでよい。
◉ 高力ボルトの締付けに使用する機器はよく調整されたものを使用し、締付けの順序は部材が十分密着するよう注意して行う。また、締付けは原則として2度締めとする。
締付け後の検査は、各締付け工法別に適切な締付けが行なわれているか検査する。

(6) 防錆塗装
◉ 防錆塗装の範囲は、高力ボルト接合の摩擦面及びコンクリートで被覆される以外の部分とする。錆止めペイントは、JIS K5622、2回塗りを標準とする。
◉ 現場における高力ボルト接合部及び接合部の素地調整は入念に行い、塗装は工場塗装と同じ錆止めペイントを使用し2回塗りとする。

(7) 耐火被覆の材料
□

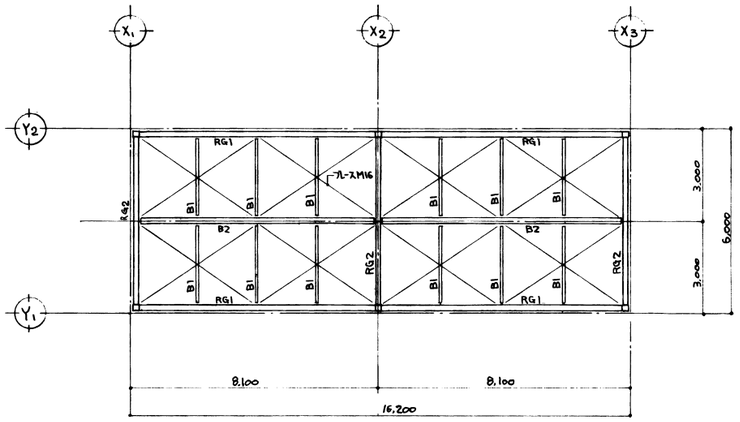
7. 設備関係

◉ 特記以外の梁貫通孔は原則として設けない、設ける場合は設計者の承認を得ること。
◉ 設備機器の架台及び基礎については工事監理者の承認を得ること。
◉ 床スラブ内に設備配管等を埋込む場合はスラブ厚さの1/3以下とし管の間隔を5cm以上とする。

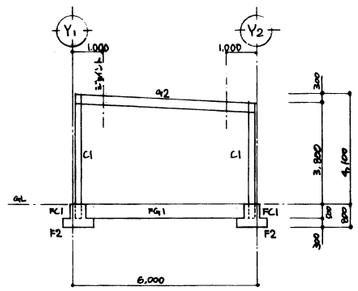
8. その他

◉ 諸官庁への届出書類は遅滞なく提出すること。
◉ 各試験の供試体は公的試験機関にて試験を行い工事監理者に報告すること。
◉ 必要に応じて記録写真を撮り保管すること。

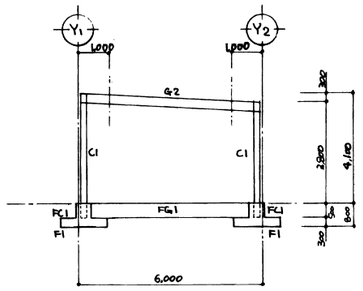
施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	構造設計標準仕様		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	−	図面番号	8-209/319
作成者	関東農政局 両総農業水利事業所		



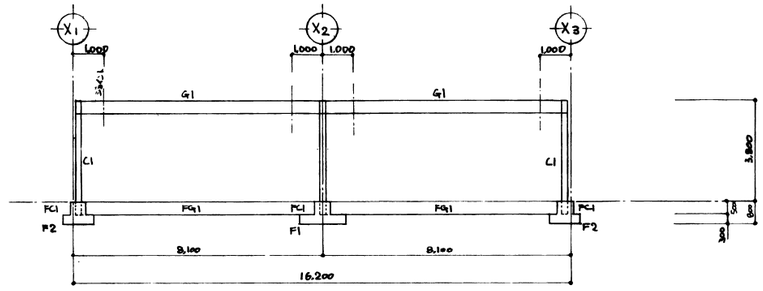
屋根伏図 S=1:100



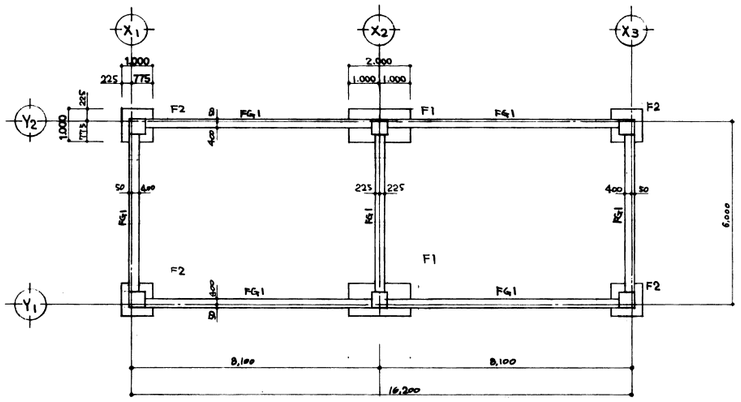
X1,X3通り軸組図 S=1:100



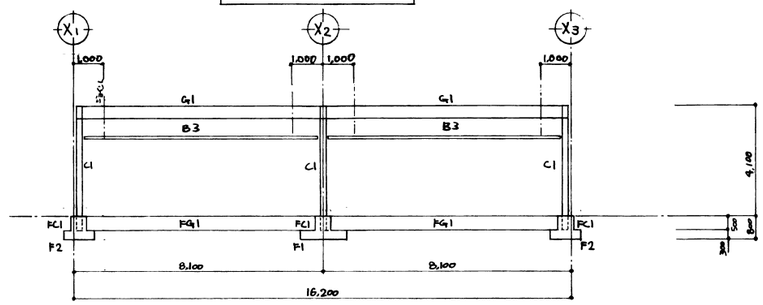
X2通り軸組図 S=1:100



Y2通り軸組図 S=1:100



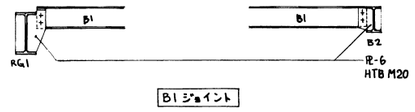
基礎伏図 S=1:100



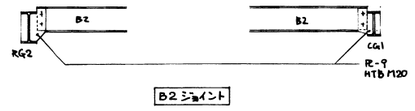
Y1通り軸組図 S=1:100

施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	屋根伏図・基礎伏図・軸組図		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 1:100 A2 1:141	図面番号	8-210/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所		

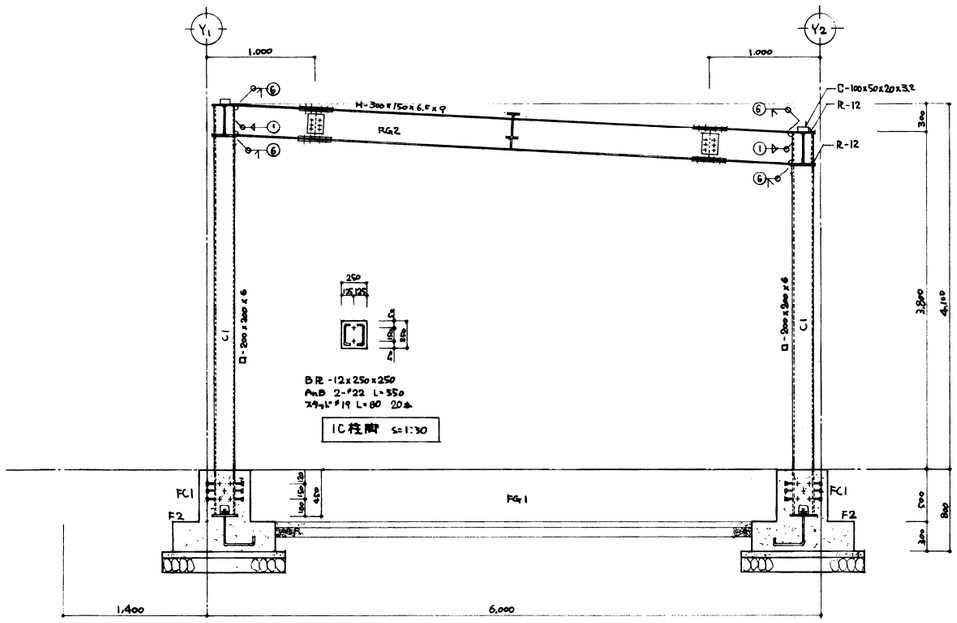
部分詳細図 S=1:30



B1ジョイント



B2ジョイント



X1通り鉄骨詳細図 S=1:30

鉄骨断面リスト S=1:30

記号	RG1	RG2		
断面	I	I		
主材	H-294×200×8×12	H-300×150×6.5×9		
副材				
副材				
副材				
記号	B1		B2	B3
断面	I		I	H
主材	H-200×100×5.5×8		H-250×125×6×9	H-200×100×4.5×7
副材	R-6		R-6	R-6
副材	HTB M20		HTB M20	HTB M16
副材				
記号	C1			
断面	□			
主材	□-200×200×6			
副材	R-12			
副材				
副材				
記号	開口	座板プレス	折板受材	
断面		JIS A 5540 仕様		
主材	□-100×50×20×3.2	ネジ部 M16	□-100×50×20×3.2	
副材	R-6	R-6		
副材	ヤボルト M12	HTB M16		
副材				

施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	部分詳細図・鉄骨詳細図・鉄骨断面リスト		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 1:30 A2 1:42	図面番号	8-211/319
作成者	関東農政局 両総農業水利事業所		

工事設計図

平成　年　月（　版）

仕様書

Ⅰ,工事概要

1．工事場所　建築参照

2．建物概要

建物名称	構造	階数	延べ面積（㎡）	消防法施行令別表第一	備考
		階建（地下　階塔屋　階）			
		階建（地下　階塔屋　階）			
		階建（地下　階塔屋　階）			

（（注）延面積は建築基準法による表記）

3．工事種目（⊙印のついたものを適用する）

建物別及び屋外 ＼ 工事種目	工事種別					屋外
⊙電灯設備	一式					
・動力設備	一式					
・庭園設備	一式					
・受変電設備	一式					
・静止形電源設備	一式					
・自家発電設備	一式					
・構内交換設備	一式					
・電気時計・拡声設備	一式					
・インターホン設備	一式					
・テレビ共同受信設備	一式					
・火災報知設備	一式					
・防犯・入退室管理設備	一式					
・中央監視制御設備	一式					
・表示設備	一式					
・構内情報通信網設備	一式					
・監視カメラ設備	一式					
・映像・音響設備	一式					
・駐車場管制設備	一式					
・						
・						
・構内配電線路						一式
・構内通信線路						一式
・テレビ電波障害防除設備						一式

4．指定部分　・無　・有（　）

Ⅱ,特記仕様

1．共通事項

（1）特記仕様及び図面に記載されていない事項は、すべて建設大臣官房官庁営繕部監修の電気設備工事共通仕様書（平成９年版）及び電気設備工事標準図（平成９年版）による。

（2）機械設備工事及び建築工事を本工事に含む場合は、機械設備工事及び建築工事はそれぞれの工事仕様書を適用する。　なお、機械設備工事の工事仕様書は（　／　）図、建築工事の工事仕様書は（　／　）図による。

2．特記事項

（1）項目は番号に○印の付いたものを適用する。

（2）特記事項において選択する事項は、⊙印の付いたものを適用する。

項目	特記事項
① 資材等	本工事に使用する設備資材等は、設計図書に規定するもの（製造業者等が定められている資材等については、設備資材等指定表によるもの）又は、これらと同等のものとする。ただし、同等のものとする場合は、監督職員の承諾を受ける。
② 電源周波数	⊙50Hz　・60Hz
③ 電気工作物の種別	・事業用電気工作物　・一般用電気工作物
④ 電気保安技術者	・選用する　・選用しない
⑤ 電気工事士	契約電力500kW以上の電気工作物においても、第一種電気工事士により施工を行う。
⑥ 工事用電力・水・その他	本工事に必要な工事用電力、水等の費用及び官公署その他の関係諸員への諸手続等に要する費用は請負者の負担とする。
⑦ 監督事務所	・設けない　・設ける
⑧ 工事用仮設物	すべて請負者の負担とする。 ただし、設置条件は、構内につくることが　⊙できる　・できない
⑨ 完成図等	・現場監督職員へ打合せによる。

項目	特記事項
⑩ 足場、さん橋類	別契約の関係請負者が定置したものは、無償で使用できる。
⑪ 発生材の処理	1)引渡しを要するもの ・有（　） 2)引渡しを要するもの以外 ・請外搬出とし、費出及びその処理費は別途とする。 3)特別管理産業廃棄物 ・有（PCB使用機器:　） PCB使用機器は関係法令により適切に処理し、建物管理者に引渡す。 4)再利用又は再資源化を図るもの ・有（　）
⑫ 残土処理	・現場説明書による。 ⊙埋戻し後の建設残土は、監督職員が指示する構内の場所に敷きならしとする。
⑬ 工事写真	建設大臣官房官庁営繕部監修の「工事写真の撮り方（改訂版）建築設備編」による。
⑭ 試験施工	設備機器の固定は、次に示す事項を除き、すべて「建築設備耐震設計・施工指針（建設省住宅局建築指導課）1997年版」による。 1)設計用水平地震力 機器の重量［kgf］に、設計用水平震度を乗じたものとする。 なお、設計用水平震度は次による。

設計用水平震度

設置場所	耐震安全性の分類			
	・特定の施設（甲類・乙類） 重要機器・水槽	一般機器・水槽	・一般の施設（乙類） 重要機器・水槽	一般機器・水槽
上層階の天井以上	2.0 (2.0) <2.0>	1.5 (2.0) <1.5>	1.5 (2.0) <1.5>	1.0 (1.5) <1.0>
1階天井～上層階の床	1.5 (1.5) <1.5>	1.0 (1.5) <1.0>	1.0 (1.5) <1.0>	0.6 (1.0) <0.6>
1階の床以上	1.0 (1.0) <1.5>	0.6 (1.0) <1.0>	0.6 (1.0) <1.0>	0.4 (0.6) <0.6>

（注）（　）内の数値は防振支持の機器の場合に適用する。
＜　＞内の数値は水槽類に適用する。

重要機器
・配電盤　・自家発電装置　・交流無停電電源装置　・直流電源装置
・交換機　・火災報知器受信機　・中央監視装置　・
・　・　・　・

上層階の定義は次による。
6階建以下の場合は最上階、7～9階建の場合は上層2階
10～12階建の場合は上層3階、13階建以上の場合は上層4階

2)設計用垂直地震力
設計用水平地震力の1／2とし、水平地震力と同時に働くものとする。

⑮ 電線本数管路など	分電盤、制御盤及び端子盤等の二次側以降の配線経路は、電線太さ、電線本数および管径等は監督職員の承諾を受けて変更しても差し支えない。 また、機械室等の床配線は図面上所管で記載している場合であっても、立上げ部分等の露出配管部分は金属管とし、その場合は全長に亘って接地線を設ける。
⑯ 呼び線	長さ1m以上の入線しない電線管には、電線太さ 1.2mm 以上のビニル被覆鉄線を挿入する。
⑰ 金属製電線管の塗装	下記の露出配管は塗装を行う。 ⊙屋外　⊙屋内（　）
⑱ 蛍光灯器具	蛍光灯器具（ただし、誘導灯は除く。）の安定器の回路方式、電圧は図面に記載なき場合は次による。

蛍光灯の種類		回路方式	電圧
環形	30形（下記以外）	GH	100V
	30形（電池内蔵形非常用照明器具）	GL	100V
直管形	15形以下	GL	100V
	20形　防雨形器具、防湿形器具及び電池内蔵形非常用照明器具	GL	100V
	20形　上記以外のもの	GH	100V
	30形	GH	100V
	40形及び110形	RH	V
コンパクト形	13，18，27ワット	EL	100V
	36，55ワット	PH	100V
Hf形	図面に記載のない場合	PHH	V

⑲ 非常用の照明装置の限度測定箇所数	測定数　箇所以上
⑳ 接地線の省略	制御盤以降、定格出力7.5kW以下の電動機へ至る配線が全長に亘って金属管配線の場合、電動機の接地は配管のボンディングを利用し、接地線は省略してよい。
㉑ 電磁開閉器用押しボタン	遠方操作用押ボタンは、適用形とする。
㉒ コンセント	コンセント 2P15A（接地極付）は、プラグ不要とする。
㉓ ローラーフックアウトレット	一般用　個
㉔ ハイブラケットアウトレット	・外部固定　・内部固定　・上下動形
㉕ フロアベース	フロアベースは、水平高低調整機能付（空転防止リング付）とする。

項目	特記事項
㉕ プレートの材質	フラッシュプレート　⊙金属製　・樹脂製 フロアプレート　・鋳金製　・アルミ合金製
㉗ 保安器用接地	・本工事　・別途
㉘ 電話端への配線	最寄り端子箇から電話端までの配線として電話端1台につき下記のケーブル等を見込む。 ・ボタン電話端　EBT　0.4－4C　15m ・内線電話端　TIVF0.65－2C　20m ・多機能電話端　TIVF0.65－2C　20m ・多機能電話端　EBT　0.4－4C　20m ・ファイアープロテクター（2号）　1.5m
㉙ 地中線の埋設箇	構内線路における埋設箇の材質及びその個数は、図面に記載のない場合は次による。 ・鉄製（　箇所）　・コンクリート製（　箇所）
㉚ はつり	既存のコンクリート床、壁などの配管貫通部の穴開けは、原則としてダイヤモンドカッターによる。
㉛ 再使用機器	取外し再使用機器は、原則として清掃及び絶縁抵抗測定を行った後、取付ける。 ただし、絶縁劣化等使用に耐えない場合は、監督職員に報告する。
㉜ 天井仕上げ表示	図面において、室名に（　）を付したものは直天井の、それ以外は二重天井の室を示す。
㉝ 接地線	接地線の材料は下記による。なお、接地線EBの長さは1,500mm以上とし、10φ、14φは、W＝40としてもよい。

接地の種類	記号	接地抵抗値	接地線
・共同接地	$E_{1,2}$	Ω以下	EB（14φ）×3連－組
・共同接地	$E_{1,2,3}$	Ω以下	EB（14φ）×3連－組
・第1種（A種）	E_1	10Ω以下	EB（14φ）×3連－2組
・第2種（B種）	E_2	30Ω以下	EB（14φ）×3連－2組
・第3種（D種）	E_3	100Ω以下	EB（14φ）×1
・特別第3種（C種）	E_{s3}	Ω以下	EB（14φ）×3連－組
・高圧避雷器	E_{LH}	10Ω以下	EB（14φ）×3連－2組
・低圧避雷器	E_{LL}	10Ω以下	EB（14φ）×3連－2組
・避雷設備	E_L	10Ω以下	EB（14φ）×3連－組
・交換用	E_t	Ω以下	EB（14φ）×3連－組
・通信用	E_{tt}	10Ω以下	EB（14φ）×3連－2組
・通信用	E_{st}，E_A	100Ω以下	EB（14φ）×1
・測定用	E_0		EB（10φ）×1
・			
・			
・			

㉞ 取付高さ	壁付、壁埋形の機器等の取付高さは、図面に記載のない場合は原則として下表による。

名称	測点	取付高［mm］
ブラケット（一般）	床上～中心	2,100
〃（講場）	〃	2,500
〃（現上）	原上端～中心	150
避難口誘導灯	床上～下端	1,500以上
廊下通路誘導灯	床上～上端	1,000以下
スイッチ（一般）	床上～中心	1,300
〃（身体障害者用）	〃	1,100
コンセント、電話用アウトレット、直列ユニット（一般）	〃	300
〃（和室）	〃	150
〃（台上）	台上～中心	150
コンセント（床置）	床上～中心	800
引込開閉器箱（低圧）	床上～上端	1,500
分電盤、制御盤、表示盤	床上～中心	1,500（上端1,900以下）
開閉器箱	〃	1,500
電磁開閉器用押しボタン	〃	1,300
接地用端子箱	地上、床上～中心	500
避雷接地用端子箱	床上～下端	800
接地抵抗装置	地上～中心	600
給湯ボックス	地上～給湯口	1,000
室内端子盤（廊下・室内）	床上～下端	300
中間端子盤（EPS・電気室）	床上～中心	1,500
親時計	〃	1,500（上端1,900以下）
子時計、スピーカ	〃	（天井高）×0.9
アッテネータ	〃	1,300
出退表示器	〃	（天井高）×0.9
発信器（出退表示用）	〃	1,300
インターホン	〃	1,500
身体障害者用インターホン子機	〃	1,100
呼出ボタン（身体障害者用）	〃	900
復帰ボタン（　〃　）	〃	1,800
廊下表示灯（　〃　）	〃	2,000
テレビ端器収容箱	〃	1,500
火報受信機（複合盤）	床上～操作部	800～1,500
副受信機	床上～中心	1,500
自動閉鎖器収容箱	〃	800～1,500
発信機	〃	800～1,500
警報ベル	〃	（天井高）×0.9
表示灯	〃	（天井高）×0.8
遠方制御装置（自動閉鎖）	〃	1,500
ガス漏れ検知器（LPガス）	〃	300
〃（都市ガス）	天井面～中心	（天井面）－200

（備考）（天井高）×0.9及び（天井高）×0.8は天井高が2,500～3,000mmの場合に適用する。

項目	特記事項
㉟ 施工図等の取扱い	施工図等の著作権に係わる当該建物に関る使用権は、発注者に帰属するものとする。
㊱ 他工事又は他工種との取合い	工事区分表（平成10年版）による。　ただし、これにより難い場合は監督職員と協議する。

設備機材等指定表（電気の部）

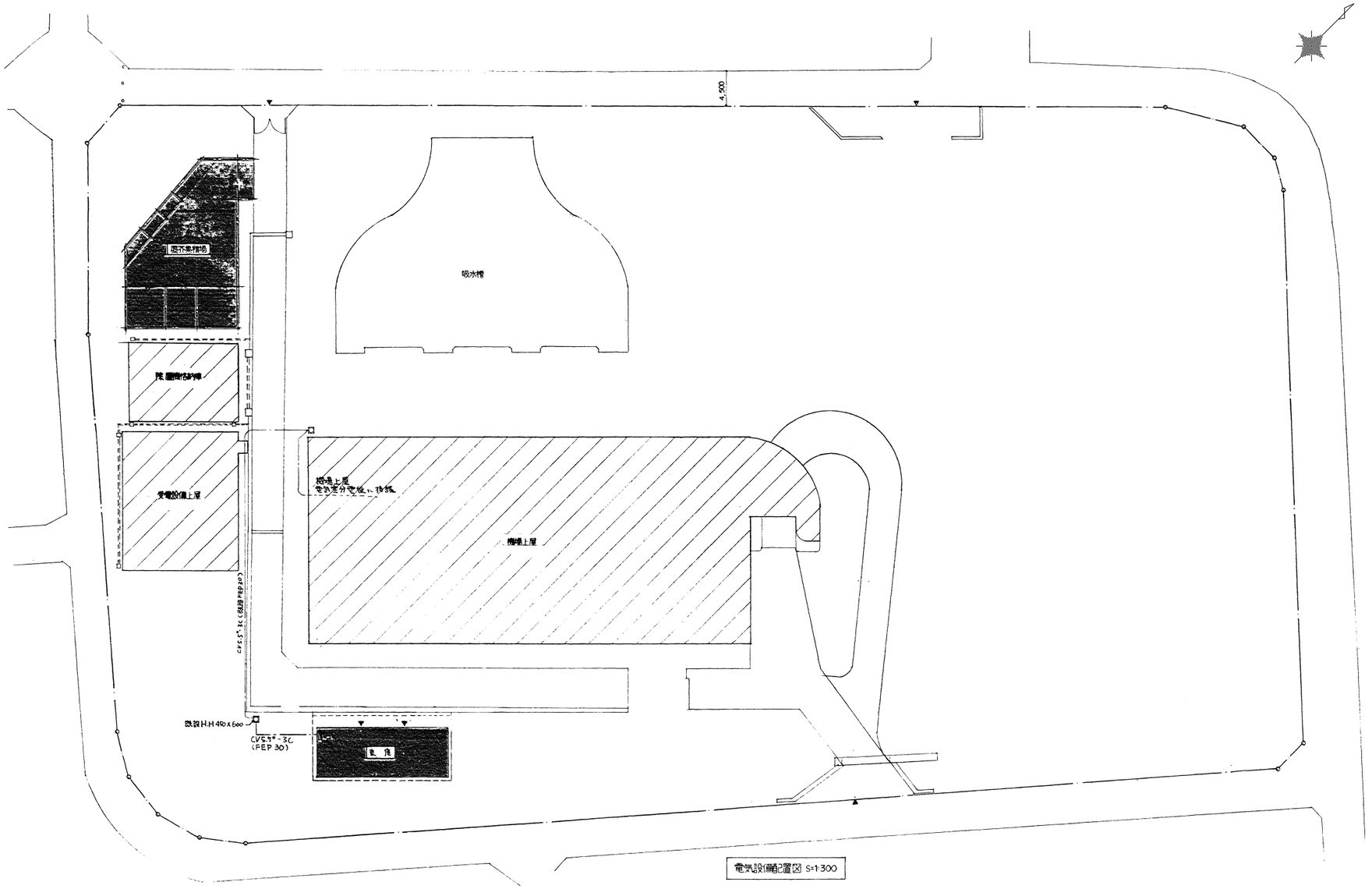
（1）（社）公共建築協会が実施する「建築材料・設備機材等品質性能評価事業」によって所要の品質・性能を有することの評価を受けた材料・機材等を使用する場合は、評価書の写しを監督職員に提出するものとする。

（2）使用する機材が設備機材等指定表による製造業者等のものである場合は、共通仕様書第1編第1章第4節1．4.1（b）の品質及び性能を有することの証明となる資料の提出を省略することが出来る。
ただし、共通仕様書に規定される制作図、試験成績書等は除く。

（3）製造業者等は50音順とし、「株式会社」等の記載は省略した。

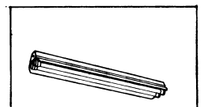
品目	機材名	適用範囲	製造業者等名
			建設大臣官房官庁営繕部監修「建築材料・設備機材等品質性能評価事業設備機材等評価名簿（平成10年版）」による。

施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)
図面名	電気設備特記仕様書
作成年月	平成26年 3月
縮尺	－　図面番号　8-212/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所



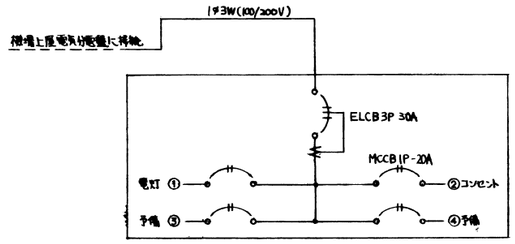
電気設備配置図 S=1:300

施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	電気設備配置図		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 1:300 A2 1:424	図面番号	8-213/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所		

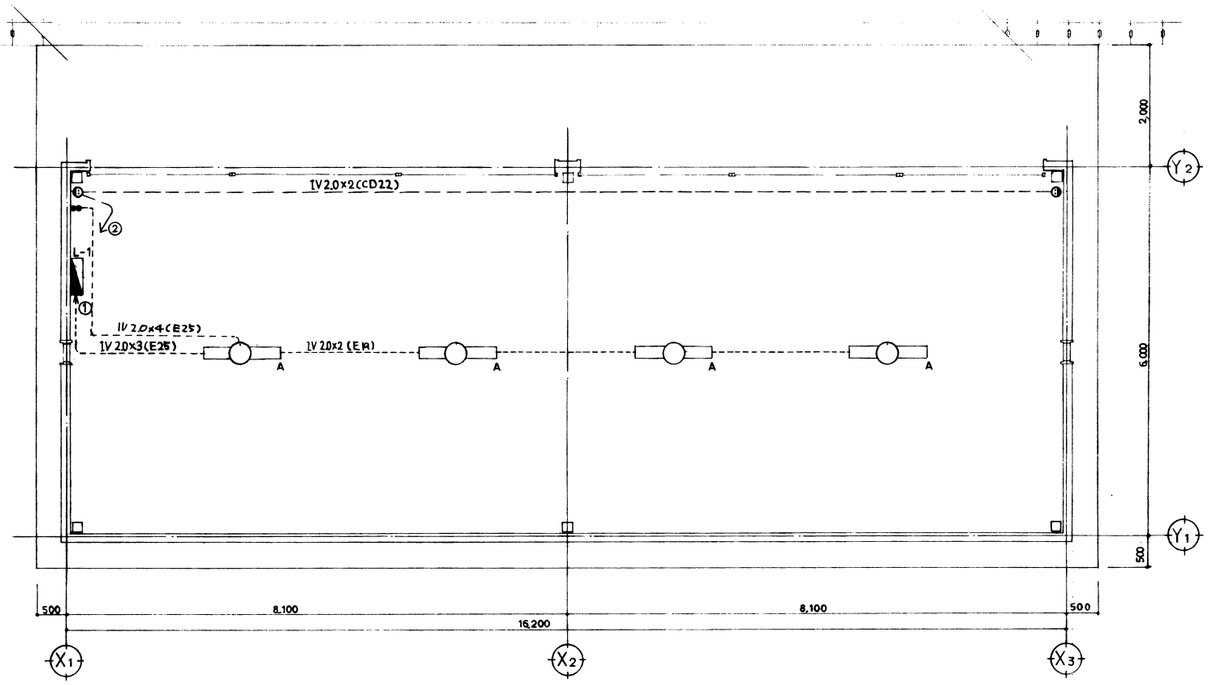


A	FSR1MPA-402
車庫	

器具姿図



電灯分電盤 L－1 結線図



車庫電気設備平面図 S=1:50

施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	車庫 電気設備平面図・器具姿図・電灯分電盤L-1結線図		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 1:50 A2 1:70	図面番号	8-214/319
作成者	関東農政局 両総農業水利事業所		

工事設計図

平成　年　月（全　枚）

仕様書

Ⅰ.工事概要

1. 工事場所　建築参照

2. 建物概要

建物名称	構造	階数	延べ面積（㎡）	消防法施行令別表第一	備考

3. 工事種目（◉印を付けたものを適用する）

建物別及び屋外 / 工事種目	工事種別						屋外
○ 空気調和設備	一式	一式	一式	一式	一式	一式	一式
○ 換気設備	一式	一式	一式	一式	一式	一式	一式
○ 排煙設備	一式	一式	一式	一式	一式	一式	一式
○ 自動制御設備	一式	一式	一式	一式	一式	一式	一式
○ 衛生器具設備	一式	一式	一式	一式	一式	一式	一式
◉ 給水設備	一式	一式	一式	一式	一式	一式	一式
◉ 排水設備	一式	一式	一式	一式	一式	一式	一式
○ 給湯設備	一式	一式	一式	一式	一式	一式	一式
○ 消火設備	一式	一式	一式	一式	一式	一式	一式
○ 厨房設備	一式	一式	一式	一式	一式	一式	一式
○ ガス設備	一式	一式	一式	一式	一式	一式	一式
○ し尿浄化槽設備	一式	一式	一式	一式	一式	一式	一式
○							
○							
○							
○							

4. 指定部分　・無　・有（　　）

5. 設備概要

1. 準幹線設工事に伴う排水設備工事

2. 農業集落環境整備設工事に伴う給・排水設備工事

Ⅱ.特記仕様

1. 共通事項

（1）特記事項及び図面に記載されていない事項は、すべて施設大臣官房官庁営繕部監修の機械設備工事共通仕様書（平成9年版）及び機械設備工事標準図（平成9年版）による。

（2）電気設備工事及び建築工事を本工事に含む場合、電気設備工事及び建築工事は、それぞれの工事仕様を適用し、下記の工事仕様は適用しない。なお、電気設備工事の工事仕様は、（　／　）図、建築工事の工事仕様は（　／　）図による。

2. 特記事項

（1）表は◉印の付いたもの、項目は番号に○印の付いたものを適用する。

（2）特記事項のうち選択する事項は、◎印の付いたものを適用し、・印の付いたものは適用しない。

章	項目	特記事項
●一般事項	① 種材等	本工事に使用する設備材等は、設計図書に規定するもの（製造業者等が定められている機材等については、設備機材等指定表によるもの）又は、これらと同等のものとする。ただし、同等のものとする場合は、監督職員の承諾を受ける。
	2 主任技術者等	（・資格の区分Ⅰ　・資格の区分Ⅱ）を有するもの。
	3 電気保安技術者	・適用する　・適用しない
	4 技能士の適用	・配管施工（配管工事）　・溶接技能士施工（ダクト製作および取付け）
		・発泡断熱施工（保温工事）
		・冷凍空気調和機器施工（冷凍空調機器の据付）
	⑤ 機材等の検査に伴う試験	試験を行うべき機材等は、共通仕様書によるほか、次による。 （・　・　・　・　・　）
	6 配管貫通箇所	・設ける　・設けない
	⑦ 工事用電力・水・その他	この工事に必要な工事用電力、水及び諸手続などの費用は、すべて請負者の負担とする。
	⑧ 工事用仮設物	すべて請負者の負担とする。
	⑨ 足場・さん橋類	構内につくることが　◎できる　・できない
	⑩ 残土処分	・別契約の当該請負者が定量したものは無償で使用できる。・本工事で負担とする。
	⑪ 埋め戻し・整土	・埋戻し後の建設残土は、監督職員が指示する構内の場所に散きならしとする。
	⑫ 発生材の処理等	・現地説明書による。
		・根切り土の中の良質土（ただしコンクリート管以外の管の周囲は山砂の類）・山砂の類
		引き渡しを要するもの　・あり（　　）・なし
		引き渡しを要するもの以外は構外搬出適正処理（構外搬出処理費は　・別途　・本工事）とする。
	⑬ 工事写真	建設大臣官房官庁営繕部監修「工事写真の撮り方（改訂版）建築設備編」による。
	14 高内板	機器等の取り扱い方及び定期的な定期点検項目を書いたアクリル樹脂製の高内板を機械室に設ける。高内板の大きさは、約　㎡とする。
	15 総合調整	・本工事（調整項目は下記のものとする。） ・風量調整　・水量調整　・室内外空気の温湿度の測定 ・扇管の測定　・初期運転状態の記録　・室内気流及びじんあいの測定 ・別途とする。
	⑯ 電源周波数	◎50Hz　・60Hz
	17 容量等の表示	（1）機器類の能力、容量等は表示された数値以上とする。 （2）電動機出力、燃料消費量、圧力損失は、原則として表示された数値以下とする。

章	項目	特記事項
	⑱ 耐震措置	設備機器の固定等は、すべて「建設官庁施設の総合耐震計画基準・同解説」及び「建築設備耐震設計・施工指針1997年版」により行う。ただし、設計用地震力（水平及び鉛直）は次の設計用水平震度Kh（下表中、固定の機器／防振支持の機器／水槽類）及び設計用鉛直震度Kv（Kh/2）を用いて計算する。 設計用水平地震力と設計用鉛直地震力は同時に作用するものとする。 ・特定の施設におけるKh

設置場所	1階の床以下	1階の天井～　階の床	階の天井以上
重要機器	1.0/1.0/1.5	1.5/1.5/1.5	2.0/2.0/2.0
重要以外	0.6/1.0/1.0	1.0/1.5/1.0	1.5/2.0/1.5

・一般の施設におけるKh

設置場所	1階の床以下	1階の天井～　階の床	階の天井以上
重要機器	0.6/1.0/1.0	1.0/1.5/1.0	1.5/2.0/1.5
重要以外	0.4/0.8/0.6	0.6 /1.0/0.6	1.0/1.5/1.0

・重要機器は次のものを示す。
・給水装置　・排水装置　・換気機器　・空調機器　・熱源機器
・防災設備　・監視制御設備　・危険物貯蔵装置
・火を使用する設備　・避難経路上に設置する機器　・

19	地中埋設管	（1）地中埋設標　・要（図示の箇所）　・不要 （2）埋設表示用テープ　・要（排水管を除く）　・不要
20	保温	共通仕様書第2編によるほか下記による。 ・屋外露出部（給水管、消火管、冷温水管、膨張管、冷水管、温水管、Kレン管、弁類を含む）は防凍保温を行う。その仕様は共通仕様書第2編3．1．4及び3．1．5とする。尿さは配管の呼び径25mm以下のものは50mm、呼び径32mm以上のものは40mmとする。 ・共同溝の保温（共通仕様書第2編の施工箇所　　を適用する。 ・多湿箇所は下記の場所とする。 （・浴室　・脱衣室　・　　）
21	塗装	下記の保温保護管は塗装を行なう。 ◎屋外露出　・（　予定　　）の露出露出 下記の保温を施さない亜鉛めっきを施したダクト及び配管は、塗装を行わない。 ・機械室　・倉庫　・電気室　・自家発室　・EV機械室 規格表示のない電線は、600Vビニル絶縁電線とする。（自動制御設備を除く）
22	電線	
23	所り	既存コンクリート床、壁等の配管貫通部の穴明けは、ダイヤモンドカッターを用いる。
24	天井仕上区分	（　）書きの室名は露天井を示し、その他は二重天井を示す。
25	施工図等の取扱い	施工図等の著作権に係わる当該建物に限る使用権は、発注者に帰属するものとする。

○空気調和設備

1	設計用温湿度
2	熱源
3	ダクト
4	風量測定口
5	チャンバー
6	ダンパー
7	配管材料
8	弁類
9	温度計
10	圧力計
11	瞬間流量計
12	油面制御装置
13	絶縁フランジ
14	保温及び消音内貼り

	外気		室内					
			一般系統					
	温度(DB)	湿度(RH)	温度(DB)	湿度(RH)	温度(DB)	湿度(RH)	温度(DB)	湿度(RH)
夏期	℃	%	℃	%	℃	%	℃	%
冬期	℃	%	℃	%	℃	%	℃	%

・特殊超手、防除口及びばいじん量測定口の位置は図示による。
・低圧ダクト（・コーナーボルト工法（長辺の長さが1500mm以下の部分）・アングルフランジ工法）とする。
・高圧1ダクト（適用範囲は図示による。）
・取付け箇所は図示による。
（1）内貼りを施すチャンバーの表示寸法は外法を示す。
（2）空気調和機、温風暖房機に取り付けるサプライチャンバー、レタンチャンバー及び風道系で消音内貼りしたチャンバーには点検口を設け、大きさは図示による。
（3）ガラリに直接取り付けるチャンバー類は雨水の浸留のないように施工する。
（1）防煙ダンパー　復帰方式（・遠隔　・　）
定格入力はDC24V、0.7Aとする。
（2）ピストンダンパー　復帰方式（・遠隔　・　）
（1）冷温水管　・配管用炭素鋼鋼管（白）・
（2）冷却水管　・配管用炭素鋼鋼管（白）・
（3）油　管　・配管用炭素鋼鋼管（黒）・
（4）蒸気管　給気管　・配管用炭素鋼鋼管（黒）・
還　管　・圧力配管用炭素鋼鋼管（黒）sch－40
（5）膨張管、空気抜き管、Kレン管及び膨張タンクよりボイラ等への補給水管
・配管用炭素鋼鋼管（白）・
ＪＩＳ又はＪＶ　（・5K　・10K（図示部分））
・調管用特殊管継手の種類は図示による。
工業用バイメタル式温度計（目盛板外径100φ）とし、取付け箇所は図示による。
取付け箇所は図示による。
コック付とし、取付け箇所は図示による。
制御盤には（・給油ポンプ制御　・残油警報　・運転警報　・電磁弁制御　・返油ポンプ制御　・減油警報　・　　）の端子を設ける。なおフロートスイッチ部と制御盤間の配管配線は製造者の推奨仕様とする。
取付け箇所は図示による。
共通仕様書第2編3．1．4によるほか、下記による。
・露ダクトの保温厚（保温の厚さ25mm、範囲は図示による）
・外気ダクトの保温厚（保温の厚さ25mm、範囲は図示による）
・膨張タンクよりボイラ等への補給水管の保温は、共通仕様書第2編3．1．4の膨張・管の項による。
・造物内の空気抜き管の保温は、共通仕様書第2編3．1．4の膨張管の項による。
・空気調和機及びファンコイルユニットの排水管の保温は、共通仕様書第2編3．1．5の排水管の項による。
・冷媒管の外装の種別は図示による。

○換気設備

1	ダクト
2	風量測定口
3	ダンパー
4	給気ダクトのシール
5	チャンバー
6	保温

・低圧ダクト（・コーナーボルト工法（長辺の長さが1500mm以下の部分）・アングルフランジ工法）とする。
・高圧1ダクト（適用範囲は図示による。）
・厨房系統の長方形換気ダクトの板厚は、共通仕様書より1ランク厚いものを使用する。
・取付け箇所は図示による。
空気調和設備の当該項目による。
・浴室（シャワー室、脱衣室を含む）系統
空気調和設備の当該項目による。
共通仕様書第2編3．1．4によるほか、下記のダクトの保温を行う。
・全熱交換ユニット用のダクト（保温の厚さ25mm、範囲は図示による）
・（・厨房　・浴室　・　　）用の隠ぺい部ダクト（仕様はh・(イ)・Ⅲ）とし範囲は図示による。

○排煙設備

1	ダクト
2	排煙口の形式
3	排煙口手動開放装置（固定及び復帰方式）
4	排煙風量測定

・亜鉛鉄板　・
・天井取付（・スリット形　・スイング形　）
・壁取付（・スリット形　・　　）
・ワイヤー式　・電気式（遠隔操作　・不要　・要）
建築設備定期検査業務指針書（日本建築設備安全センター）の排煙風量の検査方法に準ずる。

○自動制御設備

1	中央監視制御装置
2	中央監視制御装置の構成　機能

・有り　・無し
図示による。
・　　・

○衛生器具設備

1	小便器用節水装置
2	小便器　洗浄用ハイタンク
3	小便器　洗浄管
4	水石けん入れ
5	衛生器具共通水栓
6	大便器耐火カバー
7	洗面器
8	個記板

・個別感知フラッシュ方式（・埋込　・露出）
・集合感知フラッシュ方式（・隠ぺい　・露出）
・集合感知ハイタンク方式（自動サイホン＋補給水電磁（動）弁）
集合感知の場合はカウント不足を補償するタイマー機構を設ける。
・露出　・隠ぺい
・埋込（・SGP－VA　・SGP－PA　・　　）・露出
・図示による。
・
水抜栓を使用する場合、水栓は固定こま式とする。
・設ける（ピット内は除く）　・設けない
手洗器は止水栓付とする。
・取付箇所（・大便器　・小便器　・　　）材質（・陶器製　・　　）

◉給水設備

①	配管材料
②	水栓
③	量水器
④	量水器例
⑤	弁類
⑥	水栓柱
⑦	管の埋設深さ
⑧	保温
⑨	造物導入部配管
10	引込納付金等

（1）一般配管　・塩ビライニング鋼管（・SGP－VA　・　　）
・
・厨房、冷温等のシンダー内配管は塩ビライニング鋼管（SGP－VD）とする。
（2）地中埋設配管　・塩ビライニング鋼管（SGP－VD）・
・水道用硬質塩化ビニル管（HIVP）
（3）水道直結配管
地中埋設管は（・塩ビライニング鋼管（SGP－VD）・水道用硬質塩化ビニル管（HIVP）・　　）とし他の部分は(1)による。
・台所流し用の水栓は洗浄式とする。
・水抜栓を使用する場合、屋外に設ける水栓は耐寒水栓とする。ただし、屋内は固定こま式とする。
・親メーター（・貸与品　・　　）・子メーター（・買い取り　・　　）
・水道業者指定品（・貸与品　・買い取り）　・種準図MC形
量水器例及び弁例のコンクリート部は工場製品としてもよい。
ＪＩＳ又はＪＶ・水道直結部分（・10K　・　　）・その他の部分（・5K　・　　）
・逆止弁の騒音吸収式はライニング不要とする。
◎合成樹脂製　・アルミニウム合金製　・人造石とぎ出し製
管の上踏より原則として、一般敷地は（◎30cm・　cm）横内道路は（◎60cm・　cm）以上とする。
共通仕様書第2編3．1．5によるほか、下記による。
・鋼板製高置タンクの保温（・不要　・要）
・鋼板製受水タンクの保温（・不要　・要）
種準図（・(a)・(b)・(c)）による。
・要（・別途工事　・本工事）　・不要

◉排水設備

①	配管材料
2	洗面器等の排水管
3	清水試験栓
4	インバート例 ため例
5	放流納付金等

（1）屋内汚水排水管　・排水用塩ビライニング鋼管　・鉛管
・メカニカル形排水用鋳鉄管　・
（2）屋内一般雑排水管　・配管用炭素鋼鋼管（白）　・鉛管
・排水用塩ビライニング鋼管◎(VP)
（3）一般用排水通気管　・配管用炭素鋼鋼管（白）　・
（4）屋外排水管　◎硬質塩化ビニル管（VP）・コンクリート管
洗面器に直結する排水管は、器具トラップより1サイズアップとする。
公団形流し等の床上露出部分の配管は、硬質塩化ビニル管でもよい。
図示の箇所に取付ける。
例のコンクリート部は工場製品としてもよい。
・要（・別途工事　・本工事）・不要

○給湯設備

1	配管材料
2	絶縁フランジ
3	弁類

・鋼管　・耐熱性塩ビライニング鋼管（ SGP－HVA　　）
・ステンレス鋼管（・(SAS 322－05を満足することを確定された継手)・　）
図示の箇所に取付ける。
ＪＩＳ又はＪＶ（・5K　・10K　（図示部分））

○消火設備

1	配管材料
2	保温
3	造物導入部配管

・屋内消火栓用（1）一般配管・配管用炭素鋼鋼管（白）・圧力配管用炭素鋼鋼管(sch-40)
（2）地中埋設配管　外面被覆鋼管（・SGP－VS・SGP－PS・STPG370VS(sch-40)・STPG370PS(sch-40)）
・連結送水管（1）一般配管　・圧力配管用炭素鋼鋼管（sch-40）
（2）地中埋設配管　外面被覆鋼管（・STPG370-VS(sch-40)・STPG370PS(sch-40)）
屋外露出配管は共通仕様書第2編3．1．5.e3・(ハ)・Vによる保温を行う。
ただし、防凍保温は共通事項による。
種準図（・(a)・(b)・(c)）による。

○厨房設備

1	機器の寸法
2	塗装

概略寸法とする。
図示による。

○ガス設備

1	配管材料
2	充てん容器
3	集合装置
4	緊急閉止等
5	メーター
6	ガス漏れ警報器
7	漏洩検知装置
8	引込負担金等

・都市ガス　ガス事業者の供給規定による。
・液化石油ガス（1）一般配管　・配管用炭素鋼鋼管（白）・
（2）地中埋設配管　・ポリエチレン被覆鋼管（黒）・
別途（・50kg・　・　・　）×　本
種準図による　本組。
種準図の（・(a)・(b)）による。
・親メーター（・貸与品・　）・子メーター（・買い取り・　）
・本工事（図示による）・別途工事　）
・要　・不要
・要（・別途工事　・本工事）　・不要

○し尿浄化槽設備

1	手続等
2	測定表

官公署への手続又は手続変更は、契約後30日以内とし、請負者が代行処理する。
放流水質の測定表を提出する。

設備機材等指定表（機械の部）

（1）（社）公共建築協会が実施する「建築材料・設備機材等品質性能評価事業」によって所要の品質・性能を有することの評価を受けた材料・機材等を使用する場合は、評価書の写しを監督職員に提出するものとする。

（2）使用する機材が設備機材等指定表による製造業者等のものである場合は、共通仕様書第1編第1章第4節1．4．1（b）の品質及び性能を有することの証明となる資料の提出を省略することができる。
ただし、共通仕様書に規定される製作図、試験成績書等は除く。

（3）製造業者等は50音順とし、「株式会社」等の記載は省略した。

品目	機材名	適用範囲	製造業者等名
			施設大臣官房官庁営繕部監修「建築材料・設備機材等品質性能評価事業設備機材等評価名簿（平成10年版）」による。

施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	機械設備特記仕様書(1/2)		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	－	図面番号	8-215/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所		

機　器　表

（注）記載事項の適用について。
●印のものを適用し、○印のものは適用しない。
◎印のついたものを適用し、・印のついたものは適用しない。

○ボイラー

記号	形式	種別	定格出力 (kW)	使用水頭圧 (mH₂O)	最高使用圧力 (kgf/cm²)	給水出口温度 (℃)	最高使用蒸気圧力 (kgf/cm²G)	燃料	燃料消費量	制御方式	電動機 相	V	kW	台数
B－	・鋳鉄製 ・鋼製	・温水 ・蒸気						・都市ガス・灯油・A重油(1種)(・1号・2号)	l/h m³/h	・オンオフ ・ハイロー ・比例				
－	・鋳鉄製 ・鋼製	・温水 ・蒸気						・都市ガス・灯油・A重油(1種)(・1号・2号)	l/h m³/h	・オンオフ ・ハイロー ・比例				
－	・鋳鉄製 ・鋼製	・温水 ・蒸気						・都市ガス・灯油・A重油(1種)(・1号・2号)	l/h m³/h	・オンオフ ・ハイロー ・比例				

備考
1．胴径は（・立形 ・炉筒煙管形 ・　　）とする。
2．都市ガスの発熱量は　kcal/Nm³とし供給圧力は　mmH₂Oとする。
3．水頭圧10mH₂O以下の温水ボイラーで、伝熱面積4㎡以下のものは簡易ボイラーとする。
4．給湯用簡易ボイラーのガスバーナーは強制燃焼形とする。
5．ばい煙濃度計の電気用端子（二次側）を（・設ける ・ 設けない）
6．給湯ボイラー（B－　）の缶内保有水量は　　lとする。
7．処置感知器は付属とする。
8．運転時間表示用端子（・不要・要）

○温水発生機

記号	機種	形式	種別	定格出力 (kW)	使用水頭圧 (kPa)	温水出口温度 (℃)	燃料	燃料消費量	制御方式	電動機 相	V	kW	台数
BH－	・真空式 ・無圧式	・鋳鉄製 ・鋼製	・温水 ・蒸気				・都市ガス・灯油・A重油(1種)(・1号・2号)	l/h m³/h	・オンオフ ・ハイロー ・比例				
－	・真空式 ・無圧式	・鋳鉄製 ・鋼製	・温水 ・蒸気				・都市ガス・灯油・A重油(1種)(・1号・2号)	l/h m³/h	・オンオフ ・ハイロー ・比例				
－	・真空式 ・無圧式	・鋳鉄製 ・鋼製	・温水 ・蒸気				・都市ガス・灯油・A重油(1種)(・1号・2号)	l/h m³/h	・オンオフ ・ハイロー ・比例				

備考
1．都市ガスの発熱量は　kcal/Nm³とし供給圧力は　mmH₂Oとする。
2．ばい煙濃度計の電気用端子（二次側）を（・設ける・設けない）
3．缶内保有水量は次の通り。（BH－は　l、BH－は　l、BH－は　l）
4．図路数は次の通り。（BH－は　・一図路・ 図路BH－は・一図路・ 図路）
5．処置感知器は付属とする。
6．運転時間表示用端子（・不要・要）

○冷凍機

記号	形式	冷凍能力 (kW)	加熱能力 (kW)	冷水温度 入口(℃)	冷水温度 出口(℃)	温水温度 入口(℃)	温水温度 出口(℃)	冷(温)水量 (l/min)	冷却水温度 入口(℃)	冷却水量 (l/min)	損失水頭 冷(温)水 (kPa)	損失水頭 冷却水 (kPa)	冷媒	圧縮機 相	V	kW	送風機 相	V	kW	台数
R－													R－							
－													R－							
－													R－							
－																				
－																				
－																				

備考
1．ケーシング形以外の保温外装はアルミニウム板とする。
2．スクリュー圧縮機の油分離器は急冷に応じて設けるものとする。
3．基礎は（・防振基礎 ・剛基基礎）とする。
4．故障警報ブザー（・不要 ・要）とする。
5．空冷式の外気条件は冷凍時DB35℃,加熱時DB7℃,WB6℃とする。
6．成績係数は（　）以上とする。
7．運転時間表示用端子（・不要・要）

○吸収式冷温水機

記号	形式	冷凍能力 (kW)	加熱能力 (kW)	冷水温度 入口(℃)	冷水温度 出口(℃)	温水温度 入口(℃)	温水温度 出口(℃)	冷(温)水量 (l/min)	冷却水温度 入口(℃)	冷却水量 (l/min)	損失水頭 冷(温)水 (kPa)	損失水頭 冷却水 (kPa)	電源容量 相	V	kVA	燃料	燃料消費量 冷凍	燃料消費量 加熱	燃焼制御方式	台数
RH－	・直だき ・小型ユニット															・都市ガス・灯油・A重油（1種・1号）			・オンオフ・ハイロー・比例	
－	・直だき ・小型ユニット															・都市ガス・灯油・A重油（1種・1号）			・オンオフ・ハイロー・比例	
－	・直だき ・小型ユニット															・都市ガス・灯油・A重油（1種・1号）			・オンオフ・ハイロー・比例	

備考
1．本機は二重効用とし、高温再生器は（・直焚式・液管式）とする。
2．本体は、（・単体形 ・組合せ形）とする。
3．冷水・温水の調時取り出し（・不要・要）
4．機器の気密試験は工場で実施する。
5．基礎は標準基礎とする。
6．ばい煙濃度計の電気用端子（二次側）を（・設ける ・設けない）
7．都市ガスの発熱量は　kcal/Nm³とし、供給圧力は　mmH₂Oとする。
8．冷温水の弁体に必要な配管バルブは付属とする。
9．温水熱交換器付の場合、温水熱交換器の水側に逃し弁を設ける。
10．小型ユニットにはC（凝縮表示 故障表示）用の外部端子を設ける。
11．冷温水ポンプ用、冷却水ポンプ用の停止信号装置を設ける。
12．オンオフ、ハイローの制御方式で加熱能力/冷凍能力≧0.9の場合は、冷房時に冷気能力が過大とならないよう、冷凍能力に応じた燃料制御装置を設ける。
13．小型ユニットには冷却等、ポンプなどの補機類は組込まないものとする。
14．小型ユニットのバーナー用電動機は製造者の標準仕様とする。
15．処置感知器は付属とする。
16．ケーシング形以外の保温外装はアルミニウム板とする。
17．運転時間表示用端子（・不要・要）

○冷却塔

記号	形式	冷却能力 (kW)	電動機 相	V	kW	冷却水温度 入口(℃)	冷却水温度 出口(℃)	外気湿球温度(℃)	冷却水量 (l/min)	騒音値 (dB(A))	台数	設計用水平度度	備考
CT－	・直交流形 ・対向流形											・0.6・1.0・1.5・2.0	1．塔体の高さが基礎上面より1.5m以上の場合は、はしごを設ける。
－	・直交流形 ・対向流形											・0.6・1.0・1.5・2.0	2．騒音値は「日本冷却塔工業会基準」による。
－	・直交流形 ・対向流形											・0.6・1.0・1.5・2.0	3．アンカーボルトはステンレス製とする。
－	・直交流形 ・対向流形											・0.6・1.0・1.5・2.0	4．組立ボルト及びナットはステンレス製又は溶融亜鉛メッキとする。
－	・直交流形 ・対向流形											・0.6・1.0・1.5・2.0	5．凍結防止装置（・無 ・有［ ／ 図参照］）
－	・直交流形 ・対向流形											・0.6・1.0・1.5・2.0	6．直交流形の配管方式は（・外部配管形 ・内部配管形）とする。
－	・直交流形 ・対向流形											・0.6・1.0・1.5・2.0	7．建築物の屋上（地階を除く階数1以上）に（・置かない・置く（昭和40年 建設省告示第3411号の規定による。））

○空気熱源ヒートポンプ冷暖房機

記号	形式	設置形式	冷房能力 (kW)	暖房能力 (kW)	風量 (m³/h)	機外静圧 (Pa)	有効加湿量 (kg/h)	加熱 方式	加熱 kW	圧縮機 相	V	kW	送風機(室内) 相	V	kW	送風機(屋外) 相	V	kW	電気ヒーター 相	V	kW以下	冷媒管長さ (約 m)	台数
ACP－	・冷房専用形 ・ヒートポンプ形																						
－	・冷房専用形 ・ヒートポンプ形																						
－	・冷房専用形 ・ヒートポンプ形																						
－	・冷房専用形 ・ヒートポンプ形																						

備考
1．暖房能力には補助加熱器の加熱能力を含む。
2．圧縮機は（・室内形 ・屋外形）とする。
3．冷媒配管及び保温の仕様は、製造者の標準とし、付属とする。
4．冷房能力及び暖房能力はJIS B8616による。
5．電気ヒーター及び加湿器を組込む場合は、送風機とインターロックする。
6．屋外ユニットの基礎は（・標準基礎 ・防振基礎）とする。
7．室内、屋外ユニット間の電気配線（アース共）は付属とし、製造者の標準とする。
8．室内ユニットの基礎は（・標準基礎 ・　　）とする。ただし圧縮機屋外形は不要とする。
9．圧縮機屋外形で合計定格出力3.7kW以上7.5kW以下のものは、共通住棟管第2編4.3.1の2.4.4表適合荷及び欠相保護装置と漏電コンデンサを除き製造者の標準とする。
10．冷媒はオゾン破壊係数0のもの又は、R－22とする。
11．運転時間表示用端子（・不要・要）

○ルームエアコン

記号	形式	設置形式	冷房能力 (kW)	暖房能力 (kW)	圧縮機 相	V	kW	送風機(室内屋外共) 相	V	kW	補助加熱電気ヒーター 相	V	kW	冷媒管長さ (約 m)	台数	備考
ACR－	・冷房専用形 ・ヒートポンプ形															1．冷房能力及び暖房能力はJISC9612による。
－	・冷房専用形 ・ヒートポンプ形															2．暖房能力には、補助加熱電気ヒーターを含む。
－	・冷房専用形 ・ヒートポンプ形															3．屋外ユニットの基礎は（・標準基礎 ・防振基礎）とする。
－	・冷房専用形 ・ヒートポンプ形															4．冷媒配管及び保温の仕様は、製造者の標準とし、付属とする。
－	・冷房専用形 ・ヒートポンプ形															5．室内、屋外ユニット間の電気配管配線（アース共）は付属とし、製造者の標準とする。
－	・冷房専用形 ・ヒートポンプ形															6．圧縮機は屋外形とする。
																7．冷媒はオゾン破壊係数0のもの又は、R－22とする。

○ユニット形空気調和機

記号	形式	冷却能力 (kW)	加熱能力 (kW)	風量 (m³/h)	機外静圧 (Pa)	コイル列数	冷却 コイル入口空気 DB(℃)	冷却 コイル入口空気 WB(℃)	冷却 コイル出口空気 DB(℃)	冷却 コイル出口空気 WB(℃)	加熱 コイル入口空気 DB(℃)	加熱 コイル入口空気 WB(℃)	加熱 コイル出口空気 DB(℃)	加熱 コイル出口空気 WB(℃)	水量 (l/min)	損失水頭 (kPa)	電動機 (kW)	有効加湿量 (kg/h)	噴霧量 蒸気 (kg/h)	噴霧量 加湿 kW	台数	系統
AC－	・立形 ・横形																					
－	・立形 ・横形																					
－	・立形 ・横形																					
－	・立形 ・横形																					
－	・立形 ・横形																					

備考
1．冷水入口温度　℃,温水入口温度　℃.
2．風量調整機構は、（・手動・自動）とする。
3．インバーター制御の場合、周波指示は不要とする。
4．コイルは（・冷温水兼用・冷水専用・温水専用・蒸気用・　　）とする。
5．コイル図過過風速は、2.5m/s以下とする。
6．電動機は3相200V用とする。
7．機内静圧は　mmH₂O以下とする。（エアフィルタ損失は過外に含む）
8．水加圧噴霧式加湿器は　相　Vとする。
9．加湿状態点検用ランプは付属とする。
10．ドレンパン排調アダプターの材質は鋼製としても良い。
11．基礎は（・標準基礎 ・　　）とする。

○空気調和機コンパクト形

記号	形式	冷却能力 (kW)	加熱能力 (kW)	送風機風量 冷却 (m³/h)	送風機風量 加熱 (m³/h)	送風機 外静圧 (Pa)	空風機 外静圧 (Pa)	送風機 電動機 (kW)	空風機 電動機 (kW)	冷却 コイル入口空気 DB(℃)	冷却 コイル入口空気 WB(℃)	冷却 コイル出口空気 DB(℃)	冷却 コイル出口空気 WB(℃)	加熱 コイル入口空気 DB(℃)	加熱 コイル入口空気 WB(℃)	加熱 コイル出口空気 DB(℃)	加熱 コイル出口空気 WB(℃)	水量 (l/min)	損失水頭 (kPa)	加湿方式	有効加湿量 (kg/h)	台数	系統
ACC－																							
－																							
－																							

備考
1．冷水入口温度　℃,温水入口温度　℃.
2．風量調整機構は、（・インバーター制御・　　）とする。
3．メインフィルターは　　とする。
4．ケーシング内に組み込んだフィルター等の圧損は過内静圧とする。
5．電動機は3相200Vとする。
6．フィルターはアメリカン-ター（共通仕様書第3編1.5.2.10による）を付属とする。
7．水加圧噴霧式加湿器は　相　Vとする。
8．ドレンパン排調アダプターの材質は鋼製としても良い。
9．加湿状態点検用ランプは不要。
10．基礎は（・標準基礎・　　）
11．感圧計は（・付属・不要）とする。
12．制御は（・有属（インバーク制御（・記号番号・　　））・不要）とする。
13．コイル図過過風速は3.0m/s以下とする。
14．コイルは（・冷温水兼用・　　）とする。

○放射冷暖房機

記号	形式	風量 (m³/h)	初期抵抗 (Pa)以下	電動機 相	V	kW	台数	系統	備考
AF－	・自動巻取形 ・電気集じん器 ・折込み形 ・								1．ろ材の予備は100%とする(パネル形は除共)。
－	・自動巻取形 ・電気集じん器 ・折込み形 ・								2．空調機用吸風機とのインターロック用端子を設ける。
－	・自動巻取形 ・電気集じん器 ・折込み形 ・								3．電気集じん器のプレフィルタは製造者の標準品とする。
－	・自動巻取形 ・電気集じん器 ・折込み形 ・								4．差圧計付とする。
－	・自動巻取形 ・電気集じん器 ・折込み形 ・								5．最小断面平均通過風速は2.5m/s以上とする。
－	・自動巻取形 ・電気集じん器 ・折込み形 ・								

○ファンコイルユニット

記号	床置形 露出形	床置形 隠ぺい形	天井吊形 露出形	天井吊形 隠ぺい形	カセット形 方向	ローボイ形 方向	ローボイ形 露出形	ローボイ形 隠ぺい形	合計 (台)
	FR	FIH	CR	CI	CK－	CK－	FRL	FIL	
FCU－2									
FCU－3									
FCU－4									
FCU－6									
FCU－8									
－									

備考
1．フィルタの予備は50%以上とする。(除共)
2．運転表示灯の予備は50%とする。(発光ダイオードを除く)
3．床置形（露出形）は壁固定を原則とする。
4．天吊吊及びカセット形のスイッチは付属品とする。
5．隠ぺい形の運転表示灯は見やすい位置に設ける。
6．床置形はドアドレンパン付とする。(ローボイは除く)
7．隠ぺい形の吹出口（天吊形は吸込口共）は付属品とし（・する・しない）
8．天吊吊形のエアフィルターは床置形に準ずる。
9．カセット形以外の吹出口は（・ユニバーサル(VH)形・製造者標準）とする。

○ポンプ類

名称	記号	仕様	電動機 相	V	kW	度	台数	系統	備考
○冷温水ポンプ	PCH－	mmφ l/min mH₂O							1．フート弁(・要 ・不要) □径(　)mmφ
	－								2．基礎は(・標準基礎 ・防振基礎)とする。
	－								3．育圧力　kgf/cm²
○冷却水ポンプ	PCD－	mmφ l/min mH₂O							1．基礎は(・標準基礎 ・防振基礎)とする。
	－								2．育圧力　kgf/cm²
○真空給水ポンプユニット	PV－	EDR m³ kgf/cm²・単式・複式							1．電磁弁及び排水ポンプ(・要 ・不要)
	－								2．基礎は(・標準基礎 ・　　)とする。
○オイルポンプ	PO－	mmφ l/min mH₂O							1．吸込圧力は　kgf/cm²とする。
	－								2．基礎は(・標準基礎 ・　　)とする。
○揚水用ポンプ	PW－	・横型・立型 mmφ l/min mH₂O							1．フート弁(・要 ・不要) □径(　)mmφ
	－	・横型・立型							2．基礎は(・標準基礎 ・防振基礎)とする。
○給湯用循環ポンプ	PHW－	mmφ l/min mH₂O							
	－								
○小型給水ポンプユニット	PU－	mmφ l/min mH₂O			x2				1．フート弁(・要 ・不要) □径(　)mmφ 3．24時間強制ローテーション運転(・要 ・不要)
	－								2．基礎は(・標準基礎 ・防振基礎)とする。 4．ユニット給水量　l/min
○消火ポンプユニット	PFU－	mmφ l/min mH₂O							1．フート弁(・要 ・不要) □径(　)mmφ
	－								2．基礎は標準基礎とする。 3．制御盤は付属とし、フリッカーリレー(24V外部端子共)内蔵とする。
○排水用水中モーターポンプ	PD－	mmφ l/min mH₂O							・汚水用 ・雑排水用 ・汚物用(プレードレス) 1．ケーブル長さは　mとする。
	－								・汚水用 ・雑排水用 ・汚物用(プレードレス) 2．電動機は(・油封式 ・乾式)とする。
	－								・汚水用 ・雑排水用 ・汚物用(プレードレス)
	－								・汚水用 ・雑排水用 ・汚物用(プレードレス)
	－								
	－								

○送風機類

名称	記号	形式	設置方法	仕様	電動機 相	V	kW	度	許容騒音値 (dB(A))	台数	系統	基礎	備考
○遠心送風機	F－	・片吸込 ・両吸込	・床置形 ・天井吊形	m³/h 静圧 Pa									1．天吊形送風機(呼び番号2以上)は、形鋼製架台に防振材(・ゴム ・　　)を介して取付けるものとし、ストッパーはボルト形とする。
	－	・片吸込 ・両吸込	・床置形 ・天井吊形										2．許容騒音値測定法はJIS B 8330による。
	－	・片吸込 ・両吸込	・床置形 ・天井吊形										3．送風機はベルト駆動とする。
	－	・片吸込 ・両吸込	・床置形 ・天井吊形										4．床置形防振基礎の場合は、防振材は(・ゴム ・　　)とする。
	－	・片吸込 ・両吸込	・床置形 ・天井吊形										5．呼び番号3以下の遠心送風機は、直上・直下の番号でよい。
	－	・片吸込 ・両吸込	・床置形 ・天井吊形										
	－	・片吸込 ・両吸込	・床置形 ・天井吊形										
	－	・片吸込 ・両吸込	・床置形 ・天井吊形										
	－	・片吸込 ・両吸込	・床置形 ・天井吊形										
	－	・片吸込 ・両吸込	・床置形 ・天井吊形										
○消音ボックス付送風機	F－	・遠心 ・斜流	・床置形 ・天井吊形	m³/h 静圧 Pa									1．羽根基準外径250φ(呼び番号1½)以下の遠心送風機は、電動機直結形でもよい。
	－	・遠心 ・斜流	・床置形 ・天井吊形										2．ダクト接続用フランジを付属とする。
	－	・遠心 ・斜流	・床置形 ・天井吊形										3．床置形は標準基礎とする。
	－	・遠心 ・斜流	・床置形 ・天井吊形										4．消音ボックス付送風機の許容騒音値測定法はJIS B 8330による。
	－	・遠心 ・斜流	・床置形 ・天井吊形										5．電動機の耐熱温度は40℃以上とする。
	－	・遠心 ・斜流	・床置形 ・天井吊形										
	－	・遠心 ・斜流	・床置形 ・天井吊形										
	－	・遠心 ・斜流	・床置形 ・天井吊形										
	－	・遠心 ・斜流	・床置形 ・天井吊形										
○斜流送風機	F－	・斜流 ・軸流	・床置形 ・天井吊形	m³/h 静圧 Pa									1．ダクト接続用フランジを付属とする。
	－	・斜流 ・軸流	・床置形 ・天井吊形										2．床置形は標準基礎とする。
○軸流送風機	－	・斜流 ・軸流	・床置形 ・天井吊形										3．電動機の耐熱温度は40℃以上とする。
	－	・斜流 ・軸流	・床置形 ・天井吊形										
○排煙機	FSM－	遠心式(・多翼形・ $\eta^{\%}$)	・床置形・	m³/h 静圧 Pa					電気ヒーター 相	V	kW以下	冷媒管長さ (約 m)	1．エンジン(・無 ・付(制御盤共))とする。
	－	遠心式(・多翼形・ $\eta^{\%}$)	・床置形・										2．遠心式は片吸込形とする。
	－	遠心式(・多翼形・ $\eta^{\%}$)	・床置形・										3．基礎は標準基礎とする。
○換気扇	FV－	・普通形・圧力形・給排気用形・	・天井埋込形	m³/h 静圧 Pa									・フィルター(・無圧・電気・油動)・ウェザーカバー(・ステンレス製・鋼板製・　)
	－	・普通形・圧力形・給排気用形・	・天井埋込形										・フィルター(・無圧・電気・油動)・ウェザーカバー(・ステンレス製・鋼板製・　)
	－	・普通形・圧力形・給排気用形・	・天井埋込形										・フィルター(・無圧・電気・油動)・ウェザーカバー(・ステンレス製・鋼板製・　)
	－	・普通形・圧力形・給排気用形・	・天井埋込形										・フィルター(・無圧・電気・油動)・ウェザーカバー(・ステンレス製・鋼板製・　)
	－	・普通形・圧力形・給排気用形・	・天井埋込形										・フィルター(・無圧・電気・油動)・ウェザーカバー(・ステンレス製・鋼板製・　)
○全熱交換ユニット	HEU－	・天井吹べい形 ・カセット形 ・換気扇形		m³/h 静圧 Pa									1．フィルタの予備は100%とする。
	－	・天井吹べい形 ・カセット形 ・換気扇形											2．スイッチは付属品とし、運転表示ランプ付とする。
	－	・天井吹べい形 ・カセット形 ・換気扇形											3．天井隠ぺい形(50Cm²小集)、カセット形、換気扇形は、製造者の標準品とする。
	－												4．天井隠ぺい形及びカセット形は常時開閉ロック式プラグ及びコードF1m付とする。

○クンク・設缶類

名称	記号	規格	仕様	台数	備考
○オイルタンク	TO－	TO－	クンク室：・設けない場合 ・設ける場合 / コンクリート工事：・本工事 ・別途工事(コンクリート工事,防水モルタル,内部研究てん) / タンク保護材：・アスファルト被覆 ・エポキシ樹脂被覆		1．給油方式(・直接 ・別置注油口)
○オイルサービスタンク	TOS－	TOS－	容量　l 架台高さ　Hミ　m ・ 地国計(・ゲージ式 ・ガラス管式)		

名称	記号	規格	容量 l	L mm	W mm	H mm	仕様	台数	備考
○受水タンク	TW	・WTF ・WTS －					設置場所(・屋内・屋外)設計震度(・0.6・1.0・1.5)		1．中仕切板(・要 位置は　ノ2とする) ・不要)
	－	・WTF ・WTS －					設置場所(・屋内・屋外)設計震度(・0.6・1.0・1.5)		2．WTSの防錆は(・エポキシ樹脂 ・乾燥方式(　))
	－	・WTF ・WTS －					設置場所(・屋内・屋外)設計震度(・0.6・1.0・1.5)		
○高置タンク	TWH－	・WTF ・WTS －					設置場所(・屋内・屋外)設計震度(・1.5・2.0)		1．中仕切板(・要 位置は　ノ2とする。 ・不要)
	－	・WTF ・WTS －					設置場所(・屋内・屋外)設計震度(・1.5・2.0)		2．架台(・要H＝　m ・不要)
	－	・WTF ・WTS －					設置場所(・屋内・屋外)設計震度(・1.5・2.0)		3．WTSの防錆は(・エポキシ樹脂 ・乾燥方式(　))
○薄板タンク	TE－	・TE－ ・WTS－					架台高さ　Hミ　m		1．鉄はしご(・不要 ・　) 2．保温(・要 ・　)
	－	・TE－ ・WTS－							3．内面 防錆は(・亜鉛アルミニウム合金溶射・アルミニウム溶射)

名称	記号	種別	仕様	台数	備考
○密閉型膨張式排液タンク	TE－	・空調用・給湯用 全容量　l ・最大吸収量　l ・最高使用圧力　kg/cm²			1．基本荷入圧力は　kg/cm²とする。
	－	・空調用・給湯用 全容量　l ・最大吸収量　l ・最高使用圧力　kg/cm²			2．溶解栓は(・要 ・不要)
	－	・空調用・給湯用 全容量　l ・最大吸収量　l ・最高使用圧力　kg/cm²			3．給湯管は内径は標準第5編1.4.5によるが、　　とする。

名称	記号	規格	容量 l	L mm	W mm	H mm	仕様	台数	備考
○循環膨張・密閉タンク	TWR－	・TE－ ・WTS－					架台高さ　Hミ　m		1．鉄はしご(・不要 ・　) 2．保温(・要 ・　)
	－	・TE－ ・WTS－							3．内面の防錆は(・エポキシ樹脂ライニング・吹付なし(　)・亜鉛アルミニウム合金溶射)
○消火用元水タンク	TF－	・TF－					架台高さ　Hミ　m		1．鉄はしご(・不要 ・　) 2．保温(・要 ・　)
	－	・TF－							3．内面の防錆は(・亜鉛アルミニウム合金溶射・
○加湿用補給水タンク	TWS－	・ステンレス鋼板製(SUS444)					架台高さ　Hミ　m 取束(　)		1．鉄はしご(・不要 ・　) 2．保温(・要 ・　)
	－	・ステンレス鋼板製(SUS444)							
○ヘッダー	H－	・HS ・HCH					架台高さ　Hミ　m		
	－								

○その他

名称	記号	仕様	台数	備考
○貯湯槽類	WH－	容量　l ・ガス消費量　ノ/h ・電気容量　相　V　kW ・置台形(・先止め・元止め)・壁掛形		1．使用ガス ・都市ガス ・液化石油ガス
○貯湯式電気温水器	－	容量　l ・ガス消費量　ノ/h ・電気容量　相　V　kW ・置台形(・先止め・元止め)・壁掛形		2．発熱量 ・　kcal/Nm³
	－	容量　l ・ガス消費量　ノ/h ・電気容量　相　V　kW ・置台形(・先止め・元止め)・壁掛形		3．号数は25℃上昇の出湯量(l/min)を示す。
	－	容量　l ・ガス消費量　ノ/h ・電気容量　相　V　kW ・置台形(・先止め・元止め)・壁掛形		4．ガス栓より瞬間給湯器までの強化ガスホース、貯湯瞬間給湯器のオーバーフロー配管及び緊急逃し管は製造者付属とする
○瞬間湯沸器等	WHG－	号 ガス消費量　ノ/h ・潜熱形 ・密閉形(FF式) ・屋外形(・壁掛 ・据置) ・遠隔スイッチ(・要 ・不要)		5．遠隔スイッチを設ける場合は配管配線共本工事とする。
	－	号 ガス消費量　ノ/h ・潜熱形 ・密閉形(FF式) ・屋外形(・壁掛 ・据置) ・遠隔スイッチ(・要 ・不要)		6．貯湯式電気温水器には週間タイマー、空焚防止機能(・ポイリング機能)を付属する。
	－	号 ガス消費量　ノ/h ・潜熱形 ・密閉形(FF式) ・屋外形(・壁掛 ・据置) ・遠隔スイッチ(・要 ・不要)		7．開放式は(・水圧スイッチ組込)とする。
	－	号 ガス消費量　ノ/h ・潜熱形 ・密閉形(FF式) ・屋外形(・壁掛 ・据置) ・遠隔スイッチ(・要 ・不要)		

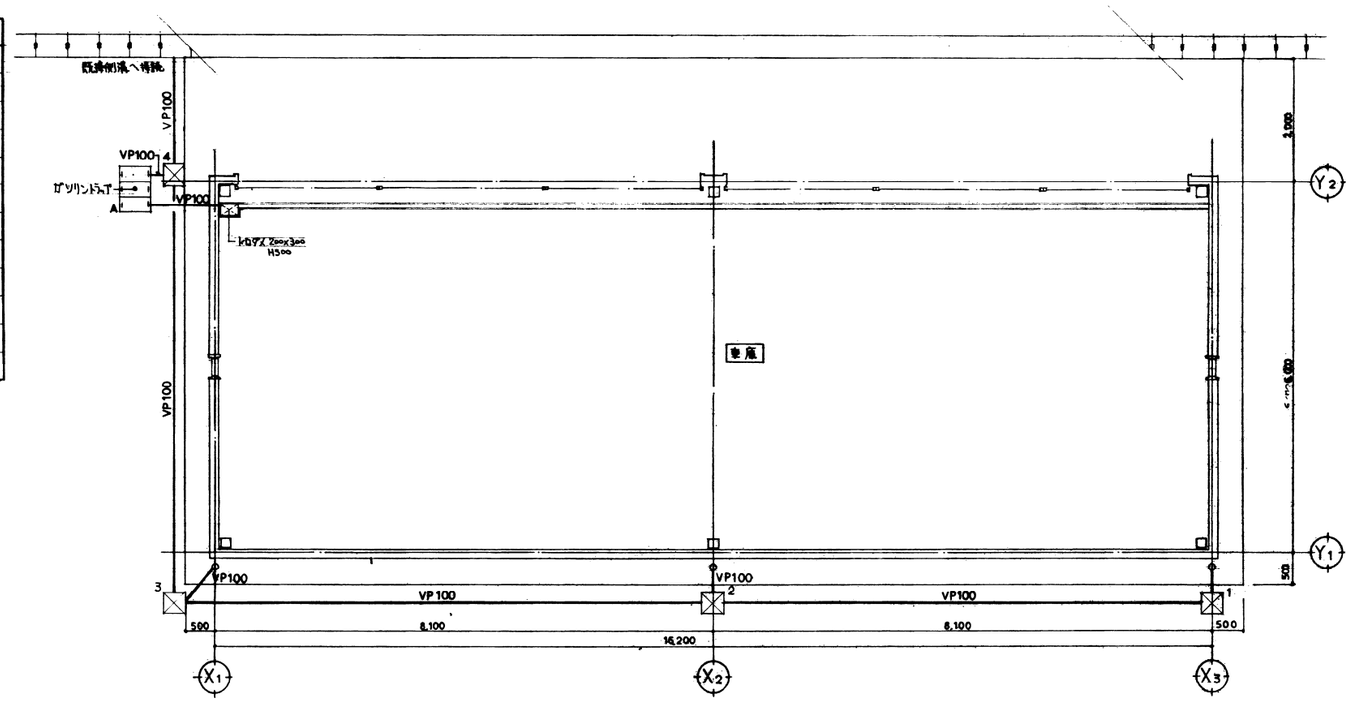
施設名	第2揚水機場 (0312100-1100-19)
図面名	機械設備特記仕様書 (2/2)
作成年月	平成26年 3月
縮尺	－ 図面番号 8-216/319
作成者	関東農政局 両総農業水利事業所

衛生器具表

記号	品名	規格	数量	備考
A	ｶﾞｿﾘﾝﾄﾗｯﾌﾟ	K50T-6 5500 ﾀｲﾌﾟ	1	

雨水桝リスト

記号	桝	管底	管径	砂溜	備考
1	350x350	GL -290	VP100	堆積-150	中間桝マンホール
2	〃	GL -290	〃	〃	〃
3	〃	GL -330	〃	〃	〃
4	〃	GL -360	〃	〃	集水桝マンホール



車庫排水設備図 S=1:50

施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	車庫排水設備・衛生器具表・雨水桝リスト		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 図示	図面番号	8-217/319
作成者	関東農政局 両総農業水利事業所		

資料倉庫特記仕様書(1/4)

建築物工事概要書

Ⅰ 工事概要

1．工事名称	第２揚水機場付帯施設設置工事
2．工事場所	千葉県山武郡横芝光町寺方５１５―１
3．用途地域	指定なし ［都市計画区域内 （区域区分非設定）］
4．防火地域	指定なし
5．その他の地域、区域、地区	法第２２、２３条区域
6．建蔽率	６０％ （法定建蔽率 ６０％）
7．容積率	２００％ （法定容積率 ２００％）
8．日影規制	な し
9．主要用途	倉 庫 （資料用）
10．工事種別	新 築
11．特殊工程の指定	な し
12．規模及び構造	敷地面積 １２４２２．３８㎡ 建築面積（法定） １５９．９２㎡ 延床面積（法定） １５９．２５㎡ 構 造 鉄骨造 階 数 地上 １ 階 高 さ 最高高 ４．１０ｍ 最高軒高 ３．６０ｍ
13．工事範囲	設計図書に示す範囲として、工事範囲は下記による。 ■ 建築工事 □ 電気設備工事 □ 機械設備工事 □ 搬送設備工事 □ □
14．別途工事	下記の工事は、別途工事とする。 □ 解体 □ 家具・什器類 □
15．工期	平成 ２５ 年 ＊ 月 ＊＊ 日 ～ 平成 ２５ 年 ＊ 月 ＊＊ 日
16．工事範囲	※ 「工事種目」全てを工事範囲とする。

１ 共通仮設工事
２ 仮設工事
３ 土工事
４ 地業工事
５ 鉄筋工事
６ コンクリート工事
７ 鉄骨工事
８ コンクリートブロック・ＡＬＣパネル・押出成形セメント板工事
９ 防水工事
１０ 石工事
１１ タイル工事
１２ 木工事
１３ 屋根及びとい工事
１４ 金属工事
１５ 左官工事
１６ 建具工事
１７ カーテンウォール工事
１８ 塗装工事
１９ 内装工事
２０ ユニット及びその他の工事

Ⅱ 建築工事仕様

1．共通仕様
(1) 図面及び特記仕様に記載されていない事項は、国土交通省大臣官房営繕部監修の「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）（平成２２年版）」（以下、「標仕」という。）による。

2．特記仕様
(1) 項目は、番号に○印の付いたものを適用する。
(2) 特記事項は、○印の付いたものを適用する。
○印の付かない場合は、※印の付いたものを適用する。
○印と※印の付いた場合は、共に適用する。
(3) 特記事項に記載の（ ）内表示番号は、標仕の当該項目、当該図又は当該表表を示す。
(4) 特記事項に記載の、（別 ）は（５．３．７）による別図「各部配筋」の当該項目を示す。
(5) 製造所名は、五十音順とし「株式会社」等の記載は省略する。また（ ）内は製品名を示す。
(6) 6 印は「国等による環境物品等の調達の推進に関する法律」の特定調達品目を示す。

章	項目	特記事項
①一般共通事項	① 適用基準等	⊙ 建築工事標準詳細図（国土交通省大臣官房官庁営繕部建築課監修 平成２２年版） ⊙ 工事写真の撮り方（改訂第二版）建築編（国土交通省大臣官房官庁営繕部監修） ⊙ 鉄筋コンクリート構造配筋要綱（国土交通省大臣官房官庁営繕部監修 平成２２年版） ⊙ 建築工事共通仕様書（国土交通省大臣官房官庁営繕部監修 平成２２年版） ⊙ 建築工事監理指針（国土交通省大臣官房官庁営繕部監修 平成２２年版）
	② 工事実績情報の登録	⊙ 適用する ・ 適用しない （1．1．4）
	3 品質計画	・ 建築基準法に基づく風圧区分等を必要とする場合は次による。 （1．2．2） ※ 風速（Vo= ） ※ 地表面粗度区分（・Ⅰ ・Ⅱ ・Ⅲ ・Ⅳ） ※ 積雪区分 建設省告示第１４５５号 別表（ ）
	④ 電気保安技術者	工事現場におく電気保安技術者は、電気事業法に基づく電気主任技術者の職務を補佐し、電気工作物の保安の業務を行うものとする。 （1．3．3） ⊙ 要 ・ 不要
	5 条件明示項目	（1．3．5）
	⑥ 発生材の処理等	・ 現場説明書による ⊙ 構外搬出適切処理 （1．3．8）
	⑦ 建築材料等	本工事に使用する材料等は、設計図書に規定する所要の品質及び性能を有するものとし、ＪＩＳ及びＪＡＳマークの表示のない材料及びその製造者等は、次の（１）～（６）の事項を満たすものとする。 （１） 品質及び性能に関する試験データが整備されていること。 （２） 生産施設及び品質の管理が適切に行われていること。 （３） 安全的な供給が可能であること。 （４） 法令等で定める許可、認可、認定又は免許等を取得していること。 （５） 製造又は施工の実績があり、その信頼性があること。 （６） 販売、保守等の営業体制が整えられていること。 なお、これらの材料を使用する場合は、設計図書に定める品質及び性能を有することの証明となる資料又は外部機関（（社）公共建築協会 他）が発行する資料等の写しを監督職員に提出して承諾を受けるものとする。ただし、あらかじめ監督職員の承諾を受けた場合にはこの限りでは良にない。 員に提出して承諾を受けるものとする。 また、備考欄に商品名が記載された材料は、当該商品又は同等品を使用するものとし、同等品を使用する場合は、監督職員の承諾を受ける。
	⑧ 科学物質を放散する建築材料等	本工事の建物内部に使用する建築材料等は、設計図書に規定する所要の品質及び性能を有するものとし、次の１）～５）を満たすものとする。 １） 合板、木質系フローリング、構造用パネル、集成材、単板積層材、ＭＤＦ、パーティクルボード、その他の木質建材、ユリア樹脂板、仕上げ塗材及び壁紙は、ホルムアルデヒドを放散しないか、放散が極めて少ないものとする。 ２） 保温材、緩衝材、断熱材はホルムアルデヒド及びスチレンを放散しないか、放散が放散が極めて少ないものとする。 ３） 接着剤はフタル酸ジ-ｎ-ブチル及びフタル酸ジ-2-エチルヘキシを含有しない難揮発性の可塑剤を使用し、ホルムアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼンを放散しないか、放散が極めて少ないものとする。 ４） 塗料はホルムアルデヒド、トルエン、キシレンエチルベンゼンを放散しないか、放散放散が極めて少ないものとする。 ５） １）、３）及び４）の建築材料等を使用して作られた家具、書架、実験台、その他の什器類等は、ホルムアルデヒドを放散しないか、放散が極めて少ないものとする。 また、設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」は、次の通りとする。 規制対象外 ① ＪＩＳ及びＪＡＳのＦ☆☆☆☆規格品 ② 建築基準法施行令第２０条の５第４項による国土交通大臣認定品 ③ 下記表示のあるＪＡＳ規格品 ③ 下記表示のあるＪＡＳ規格品 a. 非ホルムアルデヒド系接着剤使用 b. 接着剤等不使用 c. 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない材料使用 d. ホルムアルデヒドを放散しない塗料等使用 e. 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない塗料使用 f. 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない塗料等使用 第三種 ① ＪＩＳ及びＪＡＳのＦ☆☆☆☆規格品 ② 建築基準法施行令第２０条の５第３項による国土交通大臣認定品 ③ 旧 ＪＩＳのＥ☆規格品 ④ 旧 ＪＡＳのＦ☆☆規格品
	⑨ 特殊な材料の工法	標仕に記載されていない特別な材料の工法については、材料製造所の指定する工法とする。
	⑩ 技能士	（1．5．2）

適用工事種別	技能検定の職種
鉄筋工事	⊙ 鉄筋施工（鉄筋組立作業）
コンクリート工事	⊙ 型枠施工 ・ 左官
鉄骨工事	⊙ とび
ブロック・ALCパネル工事	・ ブロック建築 ⊙ ALCパネル施工
防水工事	⊙ アスファルト防水工事作業 ・ 合成ゴム系シート防水工事作業 ⊙ 塗膜防水工事作業 ⊙ シーリング防水工事作業 ・ 防水施工
石工事	・ 石材施工（石張り施工）
タイル工事	・ タイル張り
木工事	⊙ 建築大工
屋根及びとい工事	⊙ 建築板金（内外装板金作業）
金属工事	⊙ 内装仕上げ施工（鋼製下地工事作業）
左官工事	⊙ 左官
建具工事	⊙ サッシ施工 ⊙ ガラス施工 ・ 自動ドア施工
カーテンウォール工事	・ カーテンウォール施工 ・ サッシ施工 ・ ガラス施工
塗装工事	⊙ 塗装（建築塗装作業）
内装工事	・ プラスチック系床仕上げ工事作業 ・ 表装（壁装作業） ⊙ ボード仕上げ工事作業 ⊙ 内装仕上げ施工
植栽工事	・ 造園

	11 科学物質の濃度測定	（1．5．9） 施工完了時に室内空気の中のホルムアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼン、ス
	⑫ 完成図書	チレンの濃度測定をし、報告すること。 測定はパッシブ型採取機器により行う。 着工前の測定 ・ 行う 測定対象室 ・ 図示 測定箇所数 ・ 図示 報告の様式等については、現場説明書による。 ⊙ 作成する ・ 作成しない （１．７．１～３）（表１．７．１） ⊙ 完成図 提出部数 ※ 各２部（Ａ３版第２原図及び電子媒体（ＣＤ-Ｒ）） ⊙ 施工計画書 提出部数 ※ 各１部 ・ 部 ⊙ 施工図 提出部数 ※ 各１部 ・ 部 ⊙ 保全に関する資料 提出部数 ※ 各１部 ・ 部
	⑬ 完成写真	下記のものを監督職員に提出する。ただし、原板は撮影業者の保管とする。

分類・規格	撮影箇所数	提出部数	原板の大きさ（mm）
⊙ カラー ⊙ キャビネ版 ⊙ べた焼 （他に外観正面１カットのみ５枚（カラーキャビネ版）提出）	外部（ ４ ） 内部（ ４ ）	２部	１００×１２５以上
⊙ カラー半切木製パネル ３２４×４００（mm）	外部（ ） 内部（ ）	２部	
⊙ 電子データ	外部（ ） 内部（ ）	２部	２００万画素以上 ３００ｄｐ以上

１００×１２５以上の原板を使う場合は、監督職員にあらかじめべた焼を提出し確認を受ける。
電子データは、ＲＧＢ（フルカラー）、ＪＰＥＧ形式最高画質とし、ＣＤ-Ｒにて提出とする。
撮影業者 ⊙ 監督職員の承諾する撮影業者
（ただし、建築完成写真撮影の実績のある業者とする。）

	⑭ 設備工事との取合い	設備機器の位置、取合い等の検討できる施工図を提出して、監督職員の承諾を受ける。
	⑮ 設計ＧＬ	⊙ 図示 ・ 設計ＧＬ ＝ 現状ＧＬ
	⑯ 工事写真	⊙ 「営繕工事電子納品要領（案）（平成１４年１１月改訂版）」による。
	⑰ 騒音振動の防止	「低騒音型、低振動型建設機械の指定に関する規定」に基づき、国土交通省大臣が指定した建設機械を使用する。
	⑱ 施工図等の著作権	当該建物の取得する施工図等の著作権に係わる当該建物に限る使用権は、発注者に移譲する。
②仮設工事	1 監督職員事務所	規模及び仕上げの程度は現場説明書による。 （２．３．１）
	② 工事用水	構内既存の施設 ⊙ 利用できない ・利用できる（ ・ 有償 ・ 無償）（２．３．１）
	③ 工事用電力	構内既存の施設 ⊙ 利用できない ・利用できる（ ・ 有償 ・ 無償）（２．３．１）
③土工事	① 埋戻し及び盛土	種別 ・ Ａ種 ⊙ Ｂ種 ・ Ｃ種 ・ Ｄ種 （３．２．３）（表３．２．１） ・ 建設汚泥から再生した処理土
	② 建設発生土の処理	・ 現場説明書による ・ 構外搬出適切処理 （３．２．５） ⊙ 構内指示の場所にたい積 ・ 構内指示の場所に敷均し
④地業工事	1 既製コンクリート杭地業	種類 （４．３．１～２） ・ 高強度プレストレスコンクリート杭

	杭径（mm）	杭長（m）及び種別	継手数	セット数	備考
試験杭					
本 杭					

杭頭の処理 ⊙ 切断しない （４．３．７）
先端部形状 ⊙ 開放形 ・ 閉塞平坦形 （４．３．２）
杭の継手 建築基準法に基づく指定又は、認定を受けた継手を使用してもよい。 （４．３．６）
施工法 （４．３．３～５）
・ 特定埋込み工法
工法 ・ プレボーリング拡大根固め工法 ・ 中堀拡大根固め工法
Ｈ１３国交告１１１３号第６による支持力算定式でα＝２５０程度を採用できる工法
杭周固定液 ・ 使用する

セメントの種類 ６章、コンクリート工事のセメントの種類による。

	2 場所打ちコンクリート杭地業	コンクリートの種別及び設計基準強度 （４．５．３）（表４．５．１） （ Ｂ ）種かつ（ ）Ｎ/mm2以上 鉄筋の種類 ５章、鉄筋工事の鉄筋の種類による。 （４．５．３） 掘削工法 ・ アースドリル工法（ ・ 安定液使用 ・ 無水掘削） （４．５．４） ・ リバース工法 ・ オールケーシング工法 全回転型（孔内の水張 ・ 行う ・ 行わない） ・ 場所打ち鋼管コンクリート杭工法 （４．５．５） ・ 拡底杭工法（ ・ 安定液使用 ・ ） 側壁測定 ・ 行う（ ） ・ 行わない （４．５．４） セメントの種類 ６章、コンクリート工事のセメントの種類による。
	③ 砂利地業	⊙ 再生クラッシャーラン ・ 切込み砂利及び切込み砕石 （４．６．３）
	④ 床下防湿層	施工箇所 ・ 建物内の土間スラブ及び土間コンクリート下（ピット下を除く） （４．６．６）
	⑤ 地盤改良	・ 深層混合処理工法 ⊙ 固化工法 ・ 締固め工法 （４．７．２）
⑤鉄筋工事	① 鉄筋の種類	（５．２．１）（表５．２．１）

種類の記号	呼び名（mm）	
⊙ ＳＤ２９５Ａ	⊙ Ｄ１６以下	⊙ 図示
⊙ ＳＤ３４５	⊙ Ｄ１９以上	⊙ 図示

	② 鉄筋の継手	呼び名１９mm以上の柱、梁の主筋 ⊙ ガス圧接 ・ 重ね継手 （５．３．４）
	③ 鉄筋の最小かぶり厚さ	最小かぶり厚さは目地底から算定する。 （５．３．５） 耐久性上、不利な箇所の鉄筋の最小かぶり厚さは下表による。

施工箇所	標仕表５．３．６の値に加える寸法（mm）
⊙ 柱、梁、壁及び底などの外気に接する打放し面	⊙ １０

	4 既製コンクリート杭の杭頭補強	・ Ａ形 ・ Ｂ形 ⊙ 図示 （５．３．１）（別１．１）
	5 最上階柱頭補強	・ 行う ・ 行わない （別２．１）
	6 帯筋	⊙ Ｈ形（口は除く） （別２．２）
	7 壁開口部の補強	・ 一般壁 ・ Ａ形 ・ Ｂ形 ・ 図示（別４．２）（別表４．３～４） ・ 耐震壁 ・ 図示
	⑧ 梁貫通口の補強形式	・ Ｈ形 ・ Ｍ*形 ・ Ｍ形 ⊙ リング型 （別７．２）（別表７．１～３）
	9 機械吊上げ用フック	・ Ａ種 ・ Ｂ種 ・ Ｃ種 （ ヵ所） （別７．３）
	⑩ 圧接完了後の試験	⊙ 超音波探傷試験 ・ 引張試験 （５．４．９）
	11 片持ちスラブの出隅部の配筋	出隅部補強配筋 ・ Ｄ10-@１００ ダブル ・ 図示 出隅受け部配筋 ・ Ｄ10-@１００ ダブル ・ 図示
⑥コンクリート工事	① 普通コンクリートの設計基準強度（構造仕様書による）	（６．１．４）

設計基準強度Fc（N/mm）	施工箇所
⊙ １８ ⊙ ２１ ・ ２４	建物躯体（建物内土間コンクリートを含む）
⊙ １８	捨コン 無筋コンクリート

	② レディ-ミクストコンクリートの種別	⊙ Ⅰ類 ・ Ⅱ類 （６．１．５）（６．４．１～２）（表６．１．１）
	③ スランプ	工作物のスランプ １５又は１８cm （６．２．３）
	④ セメントの種類	⊙ 普通ポルトランドセメント又は、混合セメントのA種（６．１３．２）（６．１６．２）（表６．３．１） ・ 高炉セメントB種（ ） 普通ポルトランドセメントの品質は、ＪＩＳ Ｒ ５２１０に示された規定の他、次の規定の全てに適合するものとする。ただし、無筋コンクリートに用いる場合を除く。

水和熱	７ｄ	３５２Ｊ/ｇ以下
	２８ｄ	４０２Ｊ/ｇ以下

	⑤ 骨材の種類	アルカリシリカ反応による区分 （６．３．３）（６．５．４） ⊙ Ａ ・ Ｂ（コンクリート中のアルカリ総量Ｒｔ＝３．０ｋｇ/m3以下）
	⑥ 混和材料	⊙ 混和剤 ・ 混和材 （６．３．５）（６．４．８）
	⑦ 無筋コンクリート	設計基準強度 ⊙ １８N/mm2 （６．１４．３）
	⑧ コンクリート躯体表面の処理	外装タイル後張り面の躯体の処理 ＭＣＲ工法を行う場合は、せき板面にＭＣＲ工法用気泡ポリエチレンシート張りとし、仕上がり面を凸凹状態とする。高圧水洗工法の目荒らしを行う場合は、水圧５ＯＮ/mm2以上かつ、２．５分/m2以上とし、施工計画書を監督職員に提出し承諾を受ける。また、目荒らしの状態は、事前に監督職員に承諾を受ける。 コンクリートの増打ち厚さ ・ ２０mm（外部） ・ ０mm（内部） ⊙ 工事範囲は図示による。
	9 断熱材兼用型枠	適用及び適用箇所について 標仕１９章、内装工事１４断熱材による。
	⑩ 打放し仕上げの種類	（表６．２．３）

種別	施工箇所
・ Ａ種 ⊙ Ｂ種 ・ Ｃ種	外壁（基礎立上り）

	⑪ 配合強度	気温による温度補正値（各地の生コン組合の規定による）
	⑫ 型枠	せき板の種類 ⊙ 合板 ・ 床型枠用鋼製デッキプレート

板厚（mm）	適用箇所
１２	全部

建築技術評価制度「鉄筋コンクリート建築物等における床型枠用鋼製デッキプレートの開発」において、評価を取得したもの。 |

※ 契約対象外の項目については、別図参照

施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	資料倉庫特記仕様書(1/4)		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	－	図面番号	8-218/319
作成者	関東農政局 両総農業水利事業所		

資料倉庫特記仕様書(2/4)

⑦ 鉄骨工事

項目	特記事項
① 鉄骨の製作工場	製作工場の加工能力 （７．１．３） ・ 監督職員の承諾する製作工場 ・ 建築基準法第７７条の４５第１項に基づき、国土交通大臣から性能評価機関として認可を受けた（株）日本鉄骨評価センター又は、（社）全国鐵構工業協会の「鉄骨製作工場の性能評価基準」に定める「（ Ｒ ）グレード」として、国土交通大臣から認定を受けた工場又は、同等以上の能力のある工場。 入熱、パス間温度の溶接条件 適用箇所 ・ 図示 ・ 柱、梁、ブレースのフランジ端部の完全溶け込み溶接部 鋼材と溶接材料の組合せと溶接条件 ・ 図示 適用箇所 ・ 図示 ・ 柱、梁、ブレースのフランジ端部の完全溶け込み溶接部
② 施工管理技術者	⊙ 適用する ・ 適用しない （７．１．４）
③ 鋼材	鋼材の材質 （７．２．１）（７．２．１０）（表７．２．１） 種類の記号 / 使用箇所 / 規格等 ＳＳ４００ / 梁 / ＪＩＳ規格による ＳＮ４００Ｂ / 梁、プレート / ＪＩＳ規格による ＢＣＲ２９５ / 柱 / ＪＩＳ規格による ＳＮ４９０Ｃ / ダイアフラム / ＪＩＳ規格による ＳＳＣ４００ / リップ、みぞ形鋼 / ＪＩＳ規格による
④ スカラップ	改良型スカラップ
⑤ エンドタブ	鋼製エンドタブ 切断する箇所（ ）
⑥ 高力ボルト	⊙ トルシア形高力ボルト ・ ＪＩＳ形高力ボルト （７．２．２）（７．１２．４） ・ 溶融亜鉛めっき高力ボルト
⑦ 溶接部の試験	ＡＯＱＬ ⊙ ４．０％ ・ ２．５％ （７．６．１１） 検査水準 ⊙ 第６水準 ・ 図示 （７．６．１１）（表７．６．２） 試験の種別 / 試験箇所 / 試験方法 ⊙ 超音波探傷試験 / 完全溶け込み溶接部 / ⊙ 標仕７．６．１１(ｂ)による ・ 図示 ・ 放射線試験 / / / ・ マクロ試験 / / /
⑧ 耐火被覆	（７．９．２～６） 種別 / 所要性能及び適用構造部位 ・ ラス張りモルタル塗 / ⊙ 耐火材吹付け ・ 乾式吹付けロックウール / ・ 半乾式吹付けロックウール / ⊙ 湿式ロックウール / Ｒ階屋根（結露防止用） ・ 耐火板張り /
⑨ アンカーボルトの保持及び埋込み工法	・ 構造用アンカーボルト（ ・ 図示 ・ ） ・ 建方用アンカーボルト（ ・ Ａ種 ⊙ Ｂ種 ・ Ｃ種） （１０．３）（表７．１０．１）
⑩ 柱底均しモルタル工法	⊙ Ａ種 ・ Ｂ種 （７．２．９）（７．１０．３）（表７．１０．２） 無収縮モルタル 混和材 / セメント系（酸化カルシウム及びカルシウムサルフォアルミネート等によって膨張する性質を利用するもの）とする。 セメント / ＪＩＳ Ｒ ５２１０（ポルトランドセメント）による普通又は、早強ポルトランドセメントとする。 砂 / 土木学会コンクリート標準示方書に定められた品質を有するもので、特に精選されたものを絶対乾燥状態で使用する。 配合比 / （各重量比） （セメント＋混和材）：砂＝１：１ 無収縮モルタルの品質及び試験方法 コンシステンシー / Ｊロートによる流下時間 練混ぜ完了から３分以内の値は ８＋２秒 ブリージング / 練混ぜ２時間後のブリージング率 ２．０％以下 凝結時間 / 凝結開始時間 １時間以上 終結時間 １０時間以内 無収縮性 / 材齢 ７日 収縮しないこと 圧縮強度 / 材齢 ３日 ２５．０ Ｎ/mm2以上 材齢２８日 ４５．０ Ｎ/mm2以上 付着強度 / 材齢２８日 ３．０ Ｎ/mm2以上 塩化物量 / ０．３０ｋｇ/m3以下 試験方法 / １） 日本道路公団規格（ＪＨＳ）「無収縮モルタル品質管理試験方法」３１２-１９９２による。 ２） 塩化物量は、JIS A 5308「ﾚﾃﾞｨﾐｸｽﾄｺﾝｸﾘｰﾄ」付属書５（規定）「ﾌﾚｯｼｭｺﾝｸﾘｰﾄ中の水の塩化物イオン濃度試験方法」による。
11 溶融亜鉛めっき工法	（７．１２．３）（表１４．２．２） 亜鉛めっきの種別 / 材料 / 適用部位 A種 / 最低板厚４．５㎜以上の形鋼、鋼板 / B種 / 最低板厚３．２㎜以上、４．５㎜未満の形鋼、鋼板 / C種 / 普通ボルト、アンカーボルト 最低板厚２．３㎜以上、３．２㎜未満の形鋼、鋼板 / 素地ごしらえは、ＪＩＳ Ｈ ９１２４溶融亜鉛めっき作業指針による。

⑧ コンクリートブロック・ＡＬＣパネル・押出成形セメント板工事

項目	特記事項
1 補強コンクリートブロック造	・ 空洞ブロック１６ ・ 空洞ブロック１６-Ｗ （８．２．２）
2 コンクリートブロック帳壁及び塀	・ 標仕書８．３．１及び下表による （８．３．２） 適用箇所 / 厚さ（㎜） ・ 間仕切壁 ・ 地下二重壁 ・ 外壁 / ・ ・ 塀 / 高さ ２ｍ以下 / ・ １２０ ２ｍを超える / ・ １５０ ・ 衛生配管用裏積みブロック / ・ １００ ・
③ ALCパネル	（８．４．２～６）（表８．４．３～４） 種類 / 単位荷重（N/m2） / 厚さ（㎜） / 取付け工法種別 ⊙ 外壁パネル / ・ 1180 ・ 1960 / ⊙ 100 / ・ Ａ種 ・ Ｂ種 ⊙ Ｃ種 ・ 間仕切壁パネル / / ・ 100 / ・ Ｂ種 ・ Ｃ種 ・ Ｄ種 ・ Ｅ種 ・ 屋根パネル / ・ 980 / ・ 100 / ・ 標仕8.4.6による ・ 床パネル / ・ 2350 ・ 3530 / ・ 100 ・ 150 / ・床パネルの耐火性能（ ・1時間 ・2時間）
4 押出成形セメント板(ECP)	（８．５．２～６）（表８．５．１～２） 種類 / 表面形状 / 厚さ（㎜） / 幅（㎜） / 工法種別 ・ 外壁パネル / ・ Ｆ ・ Ｆ－Ｒ / / / ・ Ａ種 ・ Ｄ ・ Ｄ－Ｒ / / / ・ Ｂ種 ・ Ｔ ・ Ｔ－Ｒ / / / ・ 間仕切パネル / ・ Ｆ ・ Ｆ－Ｒ / / / ・ Ｂ種 ・ Ｄ ・ Ｄ－Ｒ / / / ・ Ｃ種 ・ Ｔ ・ Ｔ－Ｒ / / / 耐火性能 ・ 有り（ ） ・ 無し ・ 押出成形セメント中空板 厚26（横筋） 幅600

⑨ 防水工事

項目	特記事項
① アスファルト防水	（９．２．２～３）（表９．２．３～８） 種別 / 施工箇所 ・ Ａ－２ / ・ ＡＩ－２ / ⊙ Ｂ－２ / 不歩行屋上 ・ ＢＩ－２ / ・ Ｄ－２ / アスファルト ⊙ ３種 ・ ４種 （９．２．２） 断熱工法の断熱材 厚さ（㎜） ・ ２５ （９．２．２） ただし、特定フロンを含まないもの。 立上り部の保護 （９．２．５） ⊙ 乾式保護材 ⊙ 押出成形セメント板（厚さ １５㎜）
2 改質アスファルトシート防水	（９．３．２～４）（表９．３．１） 種別 / ・ ＡＳ－１ ・ ＡＳ－２ / 厚さ（㎜） / （ ） 施工箇所 /
3 合成高分子系ルーフィングシート防水	（９．４．２～３）（表９．４．１） 種別 / 厚さ（㎜） / 施工箇所 / 仕上げ塗料塗り / 使用分類 ・ Ｓ－Ｆ１ / ・ 1.2 / / ・シルバー / ・ 非歩行 ・ Ｓ－Ｆ２ / ・ 2.0 / / ・カラー / ・ 軽歩行 ・ Ｓ－Ｍ１ / ・ 1.5 / / / ・ Ｓ－Ｍ２ / ・ 1.5 / / / ・ Ｓ－Ｍ３ / ・ 1.2 / / /
④ 塗膜防水	（９．５．２～３）（表９．５．１～２） 種別 / 施工箇所 / 仕上げ塗料塗り ・ Ｘ－１ / / ・ シルバー ⊙ Ｘ－２ / 庇 / ⊙ カラー ・ Ｙ－１ / / Ｙ－２工法の保護シート ・ Ｙ－２ / / ※ 適用する ・ 適用しない 脱気装置 ・ 設ける 材質（ ） 設置数量（ m2当たり1箇所）
⑤ シーリング	下表以外は、標仕表9.6.1による （９．６．２）（表９．６．１） 施工箇所 / シーリング材の種類（記号） 庇アルミ水切り部 / ポリサルファイド（２０×１０） 庇雨切部 / ポリサルファイド（１５×１０） 基礎～ＡＬＣ取合部 / ポリサルファイド（２５×１５） 建具回り / ポリサルファイド（１０×１０）

10 石工事

項目	特記事項
1 天然石張り	石の種類・表面仕上げ （１０．２．１）（表１０．２．１～２） 施工箇所 / 種 類 / 産地・名称 / 厚さ（㎜） / 仕上げの種類
2 テラゾ張り	種石の種類 ・ 大理石 （１０．２．１）（表１０．２．２） 表面仕上げ ・ 本磨き 形状 寸法 ・ 図示
3 壁の石張り工法	外壁石張り （１０．３．２～３）（１０．５．２～３） 工法 ・ 外壁湿式工法（ ・ 流し筋工法 ） ・ 乾式工法 石裏面処理 ・ 行う（ ・ 小口共） 裏打ち処理 ・ 行う ドレインパイプ ・ ステンレスSUS304

11 タイル工事

項目	特記事項
内壁石張り	（１０．４．２～３）（１０．５．２～３） 工法 ・ 内壁空積工法（ ・ あと施工アンカー張防流し工法 ・ あと施工アンカー工法） ・ 乾式工法 裏打ち処理 ・ 行う
4 床及び階段の石張り	床石張りの裏面処理 ・ 行う （１０．６．２） 屋内のワックス掛け ・ 行う （１０．１．５）
1 陶磁器質タイル	タイルの種類 （１１．２．１） 施工箇所 / 形状寸法（㎜） / きじ 磁器 / きじ せっ器 / きじ 陶器 / うわぐすり 施ゆう / うわぐすり 無ゆう / 役物 あり / 役物 なし / 色 標準 / 色 特注 / 再生材の適用 / 備考 玄関 / 150角 / ・ / ・ / ・ / ・ / ・ / ・ / ・ / ・ / ・ / 役物：標準的な曲がり（小口、標準、二丁、屏風）の役物は一体成形とする タイルの見本焼き ・ 行わない ・ 行う（ ・ 外壁タイル ・ ）
2 張り付け用材料	既成調合モルタル 保水率（%） / 単位容積質量（kg/l） / 接着強さ（N/mm2）標準時 / 接着強さ（N/mm2）温冷繰返し後 / 長さ変化率（%） / 曲げ強さ（N/mm2） 70.0以上 / 1.80程度 / 0.60以上 / 0.40以上 / 0.20以下 / 4.0以上 接着剤のホルムアルデヒド放散量 ・ 規制対象外 ・ 第三種 （１１．２．３）
3 壁タイル張りの工法	内装タイル ・ 壁タイル接着剤張り ・ 積上げ張り （１１．３．３）（表１１．３．２） 外装タイル ・ 密着張り ・ マスク張り 躯体表面の処理 ・ 行わない ・ 行う（ ・ 施工範囲 ・ 図示 ・ ） 躯体表面の処理方法 MCR工法又は目荒し工法（6章コンクリート工事） 下地モルタル塗り ・ 標仕15.2.2～15.2.5 タイルの試張り ・ 行わない ・ 行う（ ・ 外壁タイル ・ ）（１１．２．１）
4 陶磁器質タイル型枠先付け工法	（１１．２．２）（１１．４．２）（表１１．４．１） 種別 / 適用タイル / タイル型枠先付け面のせき板 ・ タイルシート法 / ・ 小口タイル / ・ 標仕6.9.3［材料］(b)(2)又は金属製タイル先付け用パネル ・ 目地樹工法 / ・ 二丁掛タイル / ・ 桟木法 / ・ 大型タイル /

12 木工事

項目	特記事項
① 木材の品質	⊙ 標仕12.2.1 ・ 市販品 （１２．２．１） ・ 保存処理木材を適用する箇所（ ）
2 樹種	・ 標仕表12.2.3による （１２．２．１）（表１２．２．３） ・ 代用樹種を適用しない箇所（ ）
③ 集成材等	（１２．２．２） 品 名 / 規格・品質 / 芯材の種類 / 化粧単板の樹種 ⊙ 集成材 / ⊙ 一般材 / ・ たも ・ なら / ・ 構造用集成材 / ・ 1種 ・ 2種 ・ 3種 / / ・ 造作用集成材 / ・ 1等 ・ 2等 / / ・ 化粧ばり造作用集成材 / ・ 1等 ・ 2等 / / ホルムアルデヒドの放散量 ⊙ 規制対象外 ・ 第三種
④ 接着剤	接着剤に含まれる可塑剤は、難揮発性のものとする。 （１２．２．６） ユリア樹脂、メラミン樹脂、フェノール樹脂、レゾルシノール樹脂又は、ホルムアルデヒド系防腐剤（以下、「ユリア樹脂等」という。）を用いた接着剤のホルムアルデヒドの放散量 ⊙ 規制対象外 ・ 第三種
5 防腐・防蟻処理	行う箇所（ ） 防腐処理 ⊙ 行う（ ・ 図示 ・ ） （１２．２．８） 防蟻処理 ⊙ 行う（ ・ 図示 ・ ） （１２．２．９） 防腐、防蟻処理の種類、品質 表面処理用木材保存剤（防腐・防蟻剤）は監督職員の承諾するものとする。
6 床板張り	フローリング及び縁甲板張り床 （１２．７．１）（表１２．７．１） 下張り用床板 / ※ 無し / ・ 有り / ※ 合板張り / ホルムアルデヒドの放散量 ※ 規制対象外 ・ 第三種 ・ 板張り / 床板 / ※ 単層フローリング（標仕19.5.2による）・ 縁甲板 / ホルムアルデヒドの放散量 ※ 規制対象外 ・ 第三種 ※ ひのき
7 木材	工事範囲は、屋根用下地材・宿直室物入 ・ 下地は、防腐・防蟻処理材を使用のこと。 ・ 棟下地、雨掛さえ受 ・ 杉 ・ 造作材 ・ 物入建具枠・中棚、枕棚受け材 ・ 米栂（上小節）

⑬ 屋根及びとい工事

項目	特記事項
1 長尺金属板葺	（１３．２．２～３）（表１３．２．１） 屋根葺形式 / 長尺金属板の種類 / 板厚（㎜） ⊙ 段葺（ヨコ） / ⊙ 塗装溶融55%アルミニウム－亜鉛合金めっき鋼板及び鋼帯（CGLCCR-20-AZ150） / ⊙ 0.4
2 折板葺	（１３．３．２～３）（表１３．２．１） 形式 ⊙ 重ね形 ・ はぜ締め形 ・ かん合形 形状（㎜） 山高（ ） 山ピッチ（ ） 板厚 ⊙ 0.6 ・ 0.8 材料（規格等） ⊙ 塗装溶融55%アルミニウム－亜鉛合金めっき鋼板及び鋼帯(CGLCCR-20-AZ150) 軒先面戸板 ⊙ 有り ・ 無し 断熱材 ⊙ 有り（種別： 厚さ： ㎜） ・ 無し 耐火性能 ⊙ 30分耐火 ・ 無し

⑭ 金属工事

項目	特記事項
③ とい	材種 ・ 配管用鋼管 ・ 硬質塩化ビニル管 （１３．５．２）（表１３．５．１） ⊙ リサイクル硬質ポリ塩化ビニル発砲三層管（RF-VP）（G） ・ ステンレス管 堅種－６０＋０３Ｃ６ 鋼管製といの防露 ⊙ 標仕表１３．５．５による （１３．５．３）（表１３．５．５） 防露材のホルムアルデヒド放散量 ⊙ 規制対象外 ・ 第三種 掃除口 ⊙ 有り ・ 無し
④ ルーフドレイン	・ ステンレス製 ⊙ 鋳鉄製 （１３．５．２）
1 ステンレスの表面仕上げ	（１４．２．１） 種類 / 施工箇所 ・ ＨＬ程度 / 下記以外の見え掛かり全て ・ Ｎｏ．２Ｂ程度 / ・ 鏡面仕上げ /
2 アルミニウム及びアルミニウム合金の表面処理	（１４．２．２）（表１４．２．１） 種別 / 施工箇所 ・ Ｂ－１種（無着色） / 全般 ⊙ Ｂ－２種（ ・ ブラウン系 ・ ブラック ⊙ ステンカラー） /
③ 鉄の亜鉛めっき	（１４．２．３）（表１４．２．２） 表面処理方法 / 種別 / 施工箇所 溶融亜鉛めっき / ⊙ Ａ種 / 外部に面する鉄骨部 ・ Ｂ種 / ・ Ｃ種 / 電気亜鉛めっき / ・ Ｄ種 / ・ Ｅ種 / ・ Ｆ種 /
4 金属成形板張り	（１４．６．２）（表１４．２．１） 形状 / 製法 / 材種 / 寸法（㎜） / 厚さ（㎜） / 表面処理 ・ スパンドレル形 / ・ 押出し ⊙ アルミニウム製 / / / / ・ Ｂ－１種 ⊙ Ｂ－２種（ ） ・ パネル形 / ⊙ プレス / / / / 伸縮調整継手 ⊙ 設けない ・ 設ける（施工箇所は図示）
⑤ アルミニウム製笠木	（１４．７．２）（表１４．２．１）（表１４．７．１） 種類 / 呼称肉厚（㎜） / 表面処理 / 固定間隔 / 備考 ⊙ １５０形 / １．４以上 / ⊙ Ｂ－２種 / 固定方法及び間隔は品質計画で定めたもの / 隅角部及び突当たり部等の役物は本体製造所の仕様による。 ・ ２００形 / １．６以上 / （ ） ・ ２５０形 / １．６以上 / ・ Ａ-1又は ・ ３００形 / １．８以上 / ・ Ｂ-１種 ・ ３５０形 / ２．０以上 /
6 手すり及びタラップ	（１４．２．１）（１４．８．２～３）（表１４．２．２） 種類 / 材料の種別 / 表面処理 ⊙ 手すり / ⊙ ステンレスSUS３０４ / ⊙ ＨＬ程度 ・ 鏡面程度 ⊙ 鉄 / 亜鉛めっき 外部 ⊙ Ｃ種 内部 ⊙ Ｅ種 ⊙ タラップ / ⊙ ステンレスSUS３０４ / ⊙ 研磨無し ・ ・ 鉄 / 亜鉛めっき 内外部 ⊙ Ｃ種
⑦ 軽量鉄骨天井下地	野縁などの種類 （１４．２．２）（表１４．４．１） 屋内 ⊙ 19形 ・ 25形 屋外 ⊙ １９形 ・ ２５形
8 インサート	断熱用インサート（床版で断熱材打込部分） （１４．４．２）
⑨ 軽量鉄骨壁下地	スタッド、ランナーなどの種類 （１４．５．２）（表１４．５．１） ⊙ 表１４．５．１による

15 左官工事

項目	特記事項
① モルタル塗り材料	吸水調整材 （１５．２．２） 全固形分（%） / 吸水量（g） / 接着強度（N/mm2） / 界面破断率（%） 表示値＋００Ｂ１１．０ / ３０分で１ｇ以下 / ０．９８以上 / ５０以下 均質で有害と認められる異物の混入がないこと。 防水剤（防水モルタル塗りの混入剤） （１５．２．２） 防水剤の種類 建築用のモルタルに用いるセメント防水剤 混合割合 / 凝結時間 / 曲げ及び圧縮強度比 / 吸水比 / 透水比 セメント重量の５%以下 / ＪＩＳ Ｒ ５２０１の試験において 始発 １時間以上 終結 １０時間以内 / ７０%以上 / ９５%以下 / ８０%以下 膨張性のひび割れ及びそりがないこと。

※ 契約対象外の項目については、別図参照

施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	資料倉庫特記仕様書(2/4)		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	-	図面番号	8-219/319
作成者	関東農政局 両総農業水利事業所		

資料倉庫特記仕様書(3/4)

⑮ 左官工事

② 床コンクリートの直均し仕上げ

下表以外は標仕表6.2.4及び標仕15.3.2による　（１５．３．１～２）（表６．２．４）

施工箇所	平たん さ（mm）	備考
フリーアクセスフロア（パネル構法）範囲	１mにつき１０以下	塗料塗りの場合も含む
フリーアクセスフロア（清構法）範囲	３mにつき７以下	

③ 仕上塗材仕上げ

（１５．５．２）（表１５．５．１）

種　類	呼び名	仕上げの形状等
・ 薄付け仕上塗材	・ 外装薄塗材Ｓｉ	
	・ 可とう形外装薄塗材Ｓｉ	
	・ 外装薄塗材Ｅ	・ 砂壁状　・着色骨材砂壁状
	・ 内装薄塗材Ｅ	・ 砂壁状じゅらく
	・ 可とう形外装薄塗材Ｅ	・ 砂壁状　・ ゆず肌状　・ さざ波状
	・ 防水形外装薄塗材Ｅ	・ ゆず肌状　・ さざ波形　・ 凹凸状
	・ 外装薄塗材Ｓ	・ 砂壁状
	・ 内装薄塗材Ｃ	
	・ 内装薄塗材Ｌ	
	・ 内装薄塗材Ｓｉ	
	・ 内装薄塗材Ｗ	・ 京壁状じゅらく
⊙ 複層仕上塗材	・ 複層塗材ＣＥ	⊙ ゆず肌状　・ 凸部処理　・ 凹凸模様
	・ 可とう形複層塗材ＣＥ	耐候性　⊙ ３種　・ ２種　・ １種
	・ 複層塗材Ｓｉ	上塗材
	・ 複層塗材Ｅ	溶媒　⊙ 水系　・ 溶剤系
	・ 複層塗材ＲＥ	樹脂　⊙ アクリル系
	・ 複層塗材ＲＳ	
	・ 防水形複層塗材ＣＥ	外観　⊙ つやあり　・ つやなし
	⊙ 防水形複層塗材Ｅ	・ メタリック
	・ 防水形複層塗材ＲＥ	
	・ 防水形複層塗材RS	防水形の増塗材　⊙ 行う
・ 軽量骨材仕上塗材	・ 吹付用軽量塗材	砂壁状
	・ こて塗用軽量塗材	平たん状

建物内部に使用するユリア樹脂等を用いた塗料のホルムアルデヒド放散量
⊙ 規制対象外　・ 第三種
防火材料の指定
⊙ 屋内の壁、天井の仕上げ材は防火材料とする。

⑯ 建具工事

1 見本の製作等　・ 特殊な建具の仮組（建具符号：　　）（１６．１．４）

② アルミニウム製建具

外部に面する建具　（１６．２．２）（１６．２．４）（表１６．２．１）

種別	耐風圧性	気密性	水密性	枠見込み（mm）	施工箇所
・ Ａ種	Ｓ－４	⊙ Ａ－３	⊙ Ｗ－４	⊙ 70	⊙ 図示
⊙ Ｂ種	Ｓ－５	・ Ａ－４	・ Ｗ－５	・ 100	⊙ 図示
・ Ｃ種	Ｓ－６	・ Ａ－４	・ Ｗ－５	・ 100	・ 図示

表面処理　・ Ｂ－１種　⊙ Ｂ－２種（⊙ ブラウン系 ・ ブラック ・ ステンカラー）
屋内建具
表面処理　・ Ｃ－１種　又は　Ｂ－１種　（表１４．２．１）
⊙ Ｃ－２種　又は　Ｂ－２種（⊙ ブラウン系 ・ ブラック ・ ステンカラー）

③ 網戸

防虫網　（１６．２．３）
網の種別　⊙ ガラス繊維入り合成樹脂製　・ 合成樹脂製　・ ステンレス製（SUS３１６）
形式　⊙ 外部可動式　・ 固定式

4 鋼製建具　簡易気密型ドアセットの適用は建具表による　（１６．３．２）（表１６．３．１）
耐風圧性の適用は建具表による
特定防火設備の戸　・ 適用あり

5 鋼製軽量建具　簡易気密型ドアセットの適用は建具表による　（１６．４．２）

6 ステンレス製建具　簡易気密型ドアセットの適用は建具表による
耐風圧性の適用は建具表による
表面仕上げ　⊙ ＨＬ程度　・ 鏡面仕上げ　（１６．５．４）
曲げ加工　⊙ 普通曲げ　・ 角出し曲げ（補強あり）　（１６．５．５）
特定防火設備の戸　・ 適用あり　（表１６．５．１）

7 自動ドア開閉装置　（１６．８．２～３）（表１６．８．１～３）

開閉方法	センサの種類
⊙ スライディングドア	・ マットスイッチ　・ 電子マットスイッチ
・ スイングドア	⊙ 光線スイッチ　・ 音波スイッチ
	・ 熱線スイッチ　・ 光電スイッチ

・凍結防止措置（適用箇所は建具表による）

8 自閉式上吊り引戸装置　品質規格　⊙ 様仕表１６．９．１による　（１６．９．２～３）
・ 製造所標準仕様による

9 木製建具　かまち戸の樹種　かまち（　　）　鏡板（　　）（１６．６．２）
ふすまの上張り　（表１６．６．３）
⊙ 新鳥の子又はビニル紙程度（押入等の裏面は除く）　・ 鳥の子
建物内部の木製建具に使用する表面材及び接着剤のホルムアルデヒドの放散量　（１６．６．２）
⊙ 規制対象外　・ 第三種

⑩ 建具用金物　マスターキー　・ 製作する　・ 製作しない　（１６．７．４）
建具用金物　（１６．３．６）（１６．４．６）
錠類はシリンダー箱錠（レバーハンドル）とする。なお、
錠前類は建具製作所の指定するものとし、監督職員の承諾を受ける　（１６．７．２）
吊金物
⊙ 丁番（内部建具については、軸を鉄芯としてもよい）
・ ピボットヒンジ

⑪ ガラス　⊙ 建具表による　（１６．１３．２）
・ ガラスブロック　様仕１６．１３．５による　（１６．１３．５）

表面形状	呼び寸法（mm）	厚さ（mm）	色調	防火性能
⊙ 正方形			⊙ クリア	・ 無し
・ 長方形				⊙ 有り

⑰ カーテンウォール工事

⑱ 塗装工事

① 材料　屋内の壁、天井仕上げ材は防火材料とする　（１８．１．３）
建物内部に使用するユリア樹脂等を用いた塗料のホルムアルデヒドの放散量
⊙ 規制対象外　・ 第三種

2 素地ごしらえ　亜鉛めっき面の素地ごしらえの種別　（１８．２．４）（表１８．２．３）（表１８．３．４）

種別	施工部位及び塗料種別
Ａ種	鋼製の建具及び、２液形ポリウレタンエナメル塗り、常温乾燥形ふっ素樹脂エナメル塗りの場合
Ｂ種	Ａ種、Ｃ種以外
Ｃ種	下塗りに変成エポキシ樹脂塗料を塗装する場合

せっこうボード及びその他のボード面の素地ごしらえの種別　（１８．２．７）（表１８．２．７）
種別　⊙ Ｂ種　・ Ａ種（施工箇所：　　）

3 床用塗料塗り　材質　ウレタン樹脂系塗料（　・　標準色　・　　）
仕上種別　⊙ 平滑仕上げ　・ 防滑仕上げ
塗布量　プライマー塗りのうえ主剤２回塗りとし、総塗布量は０．５ｋｇ/m2以上とする。

4 防塵用塗料塗り　材質　水性アクリル系樹脂塗料（　⊙ 標準色　・　　）
仕上種別　コーティング（ローラー刷毛塗り）
塗布量　主剤２回塗とし、総塗布量は０．２５kg/m2以上とする。

⑲ 内装工事

1 接着剤　壁紙施工用でん粉系接着剤、ユリア樹脂等を用いた接着剤のホルムアルデヒドの放散量
⊙ 規制対象外　・ 第三種
⊙ 接着剤に含まれる可塑剤は、難揮発性のものする。　（１９．２．２）（１９．３．３）

② ビニル床シート張り　（１９．２．２）

種類	ＪＩＳの記号	色柄	厚さ（mm）
⊙ 発泡層のないもの	⊙ ＮＣ	⊙ 無地　・ マーブル柄	⊙ ２．０
		・ 柄物	

工法　⊙ 熱溶接工法　・ 突付け（施工箇所：　　）（１９．２．３）

3 ビニル床タイル張り　（１９．２．２）

種類	ＪＩＳの記号	厚さ（mm）	備考
⊙ コンポジションビニル床タイル（半硬質）	ＣＴ	⊙ ２．０	
・ コンポジションビニル床タイル（軟質）	ＣＴＳ		
・ ホモジニアスビニル床タイル	ＨＴ		

4 帯電防止床タイル張り　（１９．２．２）

種類	厚さ（mm）	性能
・コンポジションビニル床タイル	⊙ ２．０	体積抵抗値（ＪＩＳ Ｋ ６９１１による）
・ホモジニアスビニル床タイル	⊙ ４．０又は４．５	１．０×１．０^{9} ＋０３Ａ９以下、または、
		漏えい抵抗値（ＪＩＳ Ａ １４５４による）
		１．０×１．０^{10} ＋０３Ａ９未満

⑤ ビニル幅木　高さ（mm）　⊙ 60　・ 75　・ 100　（１９．２．２）

6 カーペット敷き

・ 織じゅうたん　（１９．３．３～４）（表１９．３．１～２）

種別	パイル形状	色柄等	備考
・ Ａ種	・ カットパイル	⊙ 無地	
・ Ｂ種	・ ループパイル	・ 柄物（標準品）	
・ Ｃ種	・ カット、ループパイル併用		

耐電性　⊙ 人体帯電圧３ｋｖ以下

・ タフテッドカーペット　（１９．３．３～４）（表１９．３．２）

パイル形状	パイル長（mm）	工法	備考
・ カットパイル	⊙ ５～７	⊙ 全面接着工法	
・ ループパイル	⊙ ４～６	・ グリッパー工法	
・ レベルループパイル	⊙ ４		
・ カット、ループ併用			

耐電性　⊙ 人体帯電圧３ｋｖ以下　（１９．３．３）（表１９．３．２）

・ タイルカーペット

パイル形状	種類	寸法（mm）	総厚さ（mm）	備考
⊙ ループパイル	⊙ 第一種	⊙ 500+0007500	⊙ 6.5	
	・ 第二種			
・ カットパイル				
・ カット、ループ併用				

耐電性　・人体帯電圧３ｋｖ以下（フリーアクセスフロア敷設範囲）

7 合成樹脂塗床　（１９．４．２～３）（表１９．４．１～７）

種別	仕上げの種類
⊙ 弾性ウレタン塗床材	⊙ 平滑仕上げ　・ 防滑仕上げ　・ つや消し仕上げ
⊙ エポキシ樹脂塗床材	⊙ 薄膜流し展べ仕上げ
	・ 厚膜流し展べ仕上げ（ ⊙ 平滑　・ 防滑）
	・ 樹脂モルタル仕上げ（ ⊙ 平滑　・ 防滑）
	・ 防滑仕上げ

ユリア樹脂等を用いた塗料のホルムアルデヒドの放散量　（１９．４．２）
⊙ 規制対象外　・ 第三種

8 フローリング張り　（１９．５．２～７）（表１９．５．１～４）

種別	樹種	工法	仕上げ塗装等	備　考
⊙ 天然木化粧複合フローリング	⊙ なら	⊙ 釘どめ工法（Ｃ種）	⊙ 塗装品	
	・ ひのき		・ 無塗装品	

ホルムアルデヒドの放散量　⊙ 規制対象外　・ 第三種　（１９．５．２）

9 畳敷き　（１９．６２）（表１９．６．１）

下地の種類	畳の種別
標仕表１２．５．１による床組	⊙ Ｂ種
ポリスチレンフォーム床下地	⊙ Ｃ種

・ 化粧せっこうボード（木目）
畳表及び畳床はVOC含有量が少ないものとする

10 ポリスチレンフォーム床下地材　畳下地　厚さ（mm）　⊙ 40　・ 65　・ 80
フローリング類　厚さ（mm）　⊙ 80　・ 95

11 せっこうボードその他のボード張り　（１９．７２）（表１９．７．１）

種類	ＪＩＳの記号	厚さ（mm）、規格等
⊙ せっこうボード	GB-R	⊙ １２．５（不燃）　・ ９．５（準不燃）
・ シージングせっこうボード	GB-S	・ １２．５（不燃）　・ ９．５（準不燃）
・ 強化せっこうボード	GB-F	・ １２．５（不燃）　・ １５．０（不燃）
・ 化粧せっこうボード（木目）	GB-D	・ １２．５（不燃）　幅４４０mm程度 ・ 模様（ ・ 柾目　・ 板目）専用下地材付き
⊙ 化粧せっこうボード	GB-D	・ １２．５（不燃）　⊙ ９．５（準不燃）
・ せっこうラスボード	GB-L	・ １２．５（不燃）　・ ９．５（準不燃）
・ 不燃積層せっこうボード	GB-NC	・ ９．５（不燃）・ 化粧有（トラバーチン模様）
⊙ けい酸カルシウム板	０．８FK	タイプ２（無石綿）（ ⊙ ６　・ ８）
・ 硬質木毛セメント板	HW	・ １５　・ ２０　・ ２５
・ 普通木毛セメント板	NW	・ １５　・ ２０　・ ２５
・ ロックウール化粧吸音板	DR	・ フラットタイプ（・ ９（不燃）・ １２） ・ 凹凸タイプ（・１２（不燃）・ １５・１９）
・ インシュレーションボード	IB	・ Ａ級（ ・ 天井仕上　・ 内装仕上） ・ ９　・ １２　・ １５　・ １８
・ ハードボード（素地）	HB	・ 無研磨板（・ スタンダード ・ テンパード） ・ 研磨板（・ スタンダード ・ テンパード）
・ ミディアムデンシティファイバーボード	MDF	・ ３　・ ７　・ ９　・ １２
・ 単板張りパーティクルボード		・ 無研磨板　・ 研磨板 ・ １０　・ １２　・ １５　・ １８
・ 難燃合板		・ 生地、透明塗料塗り（ラワン合板程度） ・ 不透明塗料塗り（しな合板程度）
・ メラミン樹脂化粧板		・ JIS K 6903による　厚さ ⊙ １．２　・ ３．０

合板類、繊維板、及びパーティクルボードのホルムアルデヒドの放散量
⊙ 規制対象外　・ 第三種
軽量鉄骨下地ボード遮音壁の遮音シール材
⊙ 適用する　・ 適用しない

12 吸音材　（表１９．７．１）

種類	ＪＩＳの記号	厚さ（mm）
・ ロックウール吸音ボード１号	RW-B	・ ２５
・ グラスウール吸音ボード３２Ｋ	GW-B	・ ２５

13 壁紙張り　（１９．８．２）

施工箇所	壁紙の種類					防火性能	備考
	紙	繊維（織物）	プラ（ビニル）	その他（化学繊維）	無機質		
資料倉庫	・	・	⊙	・	・	・ 不燃 ⊙ 準不燃 ・ 難燃	

素地ごしらえ　（表１８．２．４）（表１８．２．７）
モルタル、プラスター面　⊙ Ｂ種　・ Ａ種（施工箇所：　　）
せっこうボード面　⊙ Ｂ種　・ Ａ種（施工箇所：　　）
壁紙のホルムアルデヒドの放散量　⊙ 規制対象外　・ 第三種　（１９．８．２）

14 断熱材（図示）　（１９．９．２～３）

種類		施工箇所	厚さ（mm）	品質等
・ 押出法ポリスチレンフォーム保温板	⊙ ２種ｂ	⊙ 一般部	⊙ ２５	特定フロンを使用しないもの
	⊙ ３種ｂ（スキン層付）	・ 接地部分	⊙ ２５	
・ 現場発泡断熱材		⊙ 断熱材補修部分		特定フロンを使用しないもの 難燃性 ⊙ ３級 ・ ２級
		・ 一般部	⊙ １５	
		製造所　性能の確認できる資料を監督職員に提出する		
・ 断熱材兼用型枠	・ 木質系 ・ コンクリート系 ・ プラスチック系	⊙ 壁（図示の範囲）	⊙ ４０以下	断熱抵抗 ＝ 厚さ/熱伝導率 ＝０．６７６以上 （m^2・k/w）
		製造所　建設技術評価「建築物の断熱材兼用型枠工法の開発」において、評価を取得したもの		

ロックウール、グラスウール、フェノールフォーム、ユリア樹脂又はメラミン樹脂を使用した
断熱材のホルムアルデヒドの放散量　⊙ 規制対象外　・ 第三種

15 浴室天井材　市販品

材質	表面仕上げ	性　能	幅（mm）	備考
・ アルミニウム製	・ 焼付け塗装品	準不燃品	・ ２００	回り縁は磁付きとし、製造所の標準品とする。
	・ アルマイト処理品		・ １００	
・ 硬質塩ビ製	・ 塗装品		・ ３００	
	・ 木目調		・ １００	

⑳ ユニット及びその他工事

1 フリーアクセスフロア　（２０．２．２）

施工箇所	構法	仕上り高（mm）	適用地震時水平力	耐荷重性能	表面仕上げ材
	⊙ パネル構法 ・ 清構法	１００	⊙ １．０G ・ ０．６G	⊙ ３０００N ・ ５０００N ・ ６０００N	・ 帯電防止床タイル ⊙ タイルカーペット

耐震性能５０００Nについては、平成元年建設省告示第1322号「耐震型フリーアクセスフロアの開発」の建設技術評価において評価を取得したもの又は同等品とする。
表面仕上げ材の品質・規格は、１９章内装工事による。
スロープ及びボーダー　⊙ 製造所の標準仕様　・ 図示
コンセント等の取付対応　⊙ 製造所の標準仕様（コンセント本体は別途設備工事）
コンセントの箇所数は図示
配線用取出パネル　配線取出し開口：パネル１枚につき４０mm×８０mm程度の開口１ヵ所以上。
フリーアクセスフロア全体面積に対する設置割合　⊙ ２０～３０%
空調用吹き出しパネル　⊙ 無し
⊙ 有り（・ 固定式　・ 可変式　：施工箇所は図示）

2 可動間仕切り　（２０．２．３）

構造形式	パネル部の総厚さ（mm）	表面材種厚さ（mm）	表面仕上げ	遮音性能	防火性能
・スタッド式 ・スタッドパネル式 ・パネル式	⊙ ８０	⊙ 鋼板（０．６）	⊙ メラミン樹脂又はアクリル樹脂焼付け	・ あり ・ なし	

3 移動間仕切　（２０．２．４）

遮音性能による区分	厚さ（mm）	表面材	表面仕上げ	操作方法
・ 一般タイプ		⊙ 鋼板	・ 焼付け塗装 ・ 壁紙張り	・ 手動式 ・ 電動式 ・ 部分電動式
・ 遮音タイプ（３６db以上）			・ 焼付け塗装 ・ 壁紙張り	・ 手動式 ・ 電動式 ・ 部分電動式

表面仕上げの壁紙張りの品質は、１９章内装工事による
遮音性能はＪＩＳ Ａ ６５１２の遮音試験に準拠する

※ 契約対象外の項目につては、別図参照

施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	資料倉庫特記仕様書(3/4)		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	－	図面番号	8-220/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所		

資料倉庫特記仕様書(4/4)

⑳ ユニット及びその他工事

4 トイレブース
表面仕上げ材 （２０．２．５）
・ メラミン樹脂化粧板（標準色　アルミ製コーナーエッジ付）
⊙ ポリエステル樹脂化粧板
足形状 ⊙ 幅木型 ・ 足金物型
（材 料）

5 階段滑止め
材種 ステンレスＳＵＳ３０４ （２０．２．６）
形状 ビニルタイヤ入り
両端フラットエンド ⊙ 有（ ⊙ ビニル製 ・ ステンレスSUS304） ・ 無
幅 ３５㎜
取付け工法 ⊙ 接着工法 ・ 埋込み工法

6 階段手すり

種別	施工箇所
⊙ 集成材クリアラッカー仕上げ（市販品）	階段
⊙ ビニル製ハンドレール（耐候性） ・ SUS304 HL仕上	屋外階段

7 黒板及びホワイトボード （２０．２．８）

種類		寸法(mm)	色彩	備考
・ 黒板	⊙ 焼付け		⊙ 緑 ・ 黒	⊙ 平面 ・ 曲面 ・ スクリーン付け引き分け
⊙ ホワイトボード	⊙ ほうろう	⊙ 図示	⊙ 白	⊙ 平面 ・ 曲面 ・ スクリーン付け引き分け

8 鏡
寸法（㎜） ⊙ 図示 （２０．２．９）
厚さ（㎜） ⊙ ５

⑨ 表示標識
衝突防止表示 ・ 図示（市販品 ・ ステンレス製 径約３０㎜ ・ （２）０．２．１０）
（ ・ 両面 ・ 片面）
・ 取付位置は、建具表の指示による。
表示標識、案内用図記号については ＪＩＳ Ｚ８２１０による。
誘導標識、非常用進入口表示等は市販品とし、その他は共通詳細図による。

10. 煙突ライニング
・ 煙突用成形ライニング材 （２０．２．１１）
適用安全使用温度 ⊙ ６５０℃ ・ ４００℃
・ キャスタブル耐火物
工 法 ⊙ こて押さえ
適用安全使用温度 ⊙ ４００℃

⑪ ブラインド （２０．２．１２）

形式	種類	スラットの材種	スラットの幅（㎜）
⊙ 横形	・ ギヤ式 ・ コード式 ⊙ 操作棒式	⊙ アルミニウム合金	⊙ ２５
・ 縦形	・ １本操作コード ・ ２本操作コード	・ アルミスラット ・ クロススラット	・ ８０ ・ １００

◯ 図示

12 ロールスクリーン
防炎性能 ⊙ 有 ・ 無 （２０．２．１３）

施工箇所	装置		備考
	電動	手引	

13 カーテン及びカーテンレール （２０．２．１４）

施工箇所	形式		装置			名称品質	ひだの種類
	片引	引分	電動	ひも	手引		

材種 ・ アルミニウム製 ・ ステンレス製 （２０．２．１４）
形式 ・ 片引き ・ 引分け（ ・ 暗幕用は３００㎜以上の召合せの重掛けとする）

⑭ 止水板
形状 ⊙ 据置式 ・ 壁張り式 ・ 差込式

⑮ 天井点検口
材質 アルミニウム製（ ・ 額縁タイプ ・ 目地タイプ）

⑯ 鋼製書架及び物品棚

形式	規格等	ＪＩＳによる種類
・ 固定式	・ 鋼製書架	ＪＩＳ Ｓ１０３９の規格による
	・ 鋼製物品棚	ＪＩＳ Ｓ１０４０の規格による
⊙ 移動式	⊙ 鋼製書架	ＪＩＳ Ｓ１０３９の規格による
	・ 鋼製物品棚	ＪＩＳ Ｓ１０４０の規格による

㉑ 排水工事

1 排水管
排水管用材料 （２１．２．１）（表２１．２．１）（２１．３．３）

材種	管の種類	管形状（接合方法）
・ 遠心力鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ管	・ 外圧管（ ・１種 ・２種）	Ｂ形（ゴム接合）
⊙ 硬質塩化ビニール管	⊙ ＶＰ ・ ＶＵ	
⊙ リサイクル硬質ポリ塩化ビニル発泡三層管	⊙ ＲＦ－ＶＰ（Ｇ）	

車道部の排水管の敷設 （２１．３．１）（２１．３．３）
・ 図示
・ 砂基礎（地業厚さ２０㎝以上 材料 山砂の類）

2 排水桝及びふた
鋳鉄製マンホールふた （２１．２．２）

種類	適用荷重
・ 水封形	・ Ｔ－ ２用
⊙ 密閉形（テーパー ・パッキン式）	・ Ｔ－ ６用
・ 簡易気密形（パッキン式） ◯	⊙ Ｔ－１４用
・ 中蓋付密閉形	・ Ｔ－２０用
	・ Ｔ－２５用

章 項目 特記事項

3 埋戻し土
⊙ Ｂ種 （２１．２．３）（表３．２．１）

4 浸透管及び浸透桝
製造所

㉒ 舗装工事

1 盛り土に用いる材料
・ Ａ種 ⊙ Ｂ種 ・ Ｃ種 ・ Ｄ種 （２２．２．３）（表３．２．１）

2 遮断層及び凍上抑制層の材料
・ 遮断層 ・ 川砂、海砂又は良質な山砂 （２２．２．２～３）
厚さは図示
・ 凍上抑制層 ・ 再生クラッシャラン ・ クラッシャラン 切り込み砂利 ・ 砂
厚さは図示

3 路床安定処理
・ 添加材料による安定処理 （２２．２．２～３）（表２２．２．２）
種類 ・ 普通ポルトランドセメント ・ フライアッシュセメントＢ種
・ 生石灰（ ） ・ 消石灰（ ）
添加量 kg/m3（目標ＣＢＲ ・ ５以上）

4 路床土の支持力比試験
・ 行う（ ・ 乱した土 ・ 乱さない土） （２２．２．５）

5 路床締め固めの度の試験
・ 行う （２２．２．５）

6 砂の粒度試験
・ 行う

⑦ 路盤材料（Ｇ）
⊙ 再生クラッシャーラン（ＲＣ－４０） （Ｇ） （２２．３．３）
・ クラッシャーラン（Ｃ－４０）又はクラッシャーランスラグ（ＣＳ－４０）
透水性アスファルト舗装にもちいる場合は、透水性の高いもの

8 路盤の締固め度の試験
・ 行う

⑨ アスファルト舗装 （２２．４．２）（表２２．４．１）

舗装の種類	車道部の基層	カラー舗装の種類
⊙ アスファルト舗装	・ 無 ⊙ 有	
・ カラー舗装	・ 無 ・ 有	⊙ 顔料混入加熱アスファルト混合物

カラー舗装の着色骨材 ・ 有色骨材（焼成） ・ 着色骨材（樹脂被覆）
アスファルト ⊙ 再生アスファルト（Ｇ） ・ ストレートアスファルト （２２．４．３）
加熱ｱｽﾌｧﾙﾄ混合物の種類 （２２．４．４）（表２２．４．６）

区分	種別	備考
表層	⊙ 密粒度アスファルト混合物（１３）	・ 密粒度アスファルト混合物（１３Ｆ）
	・ 粗粒度アスファルト混合物（１３）	・ 細粒度ギャップアスファルト混合物（１３Ｆ）
基層	・ 粗粒度アスファルト混合物（２０）	

シールコート ⊙ 行わない ・ 行う（施工範囲 ） （２２．４．５）
アスファルト混合物の抽出試験 ⊙ 行わない ・ 行う （２２．４．６）

10 ｺﾝｸﾘｰﾄ舗装
早強セメント ⊙ 使用しない ・ 使用する （２２．５．３）
注入材料 ⊙ 低弾性タイプ ・ 高弾性タイプ （表２２．５．３）
溶接金網 ⊙ 有 ・ 無 （２２．５．３～４）
厚さ試験 ⊙ 行わない ・ 行う （２２．５．６）
・ 透水性コンクリート舗装は、図示及びメーカー標準仕様による。

11 透水性アスファルト
アスファルト混合物の抽出試験 ⊙ 行わない ・ 行う （２２．６．６）（２２．４．６）

12 排水性アスファルト
アスファルト混合物 （２２．７．３）（表２２．７．２）
・ 改質アスファルト １型 ・ 改質アスファルト ２型
タックコート用ゴム入りアスファルト乳剤の種類 （２２．７．３）（表２２．７．３）

適用時期	種類
下記以外	ＰＫＴ－Ｔ１
冬期	ＰＫＲ－Ｔ２

アスファルト混合物の抽出試験 ・ 行わない ・ 行う （２２．７．６）

13 ブロック系舗装
・ コンクリート平板舗装 （２２．８．２～３）

種類	寸法（㎜）	厚さ（㎜）	目地材
・ 普通平板（Ｎ）	・ ３００角	・ ６０	・ 砂
・ 透水平板（Ｗ）			・ モルタル

・ インターロッキングブロック舗装 （２２．８．２～３）

種類	厚さ（㎜）	色彩及び表面加工等
・ 標準ブロック（Ｎ）	車道部 ・ ８０	・ 標準品
・ 透水性ブロック（Ｐ）	歩道部 ・ ６０	誘導注意喚起用ブロックは黄色
・ 誘導注意喚起用ブロック	・ ８０ ・ １００	
・ 植生ブロック（Ｖ）		

インターロッキングブロック

項目		品質 ・ 性能
材料	セメント	ＪＩＳ Ｒ ５２１０ ポルトランドセメント、ＪＩＳ Ｒ ５２１１ 高炉セメント、ＪＩＳ Ｒ ５２１２ シリカセメント、ＪＩＳ Ｒ ５２１３ フライアッシュセメント、白色ポルトランドセメントとする。
	骨材	清浄、強硬、耐久性で、適当な粒度をもち、ごみ、泥、有機物、薄い石片、細長の石片を含んでいない。
	混和材料	インターロッキングブロックの品質に有害な影響を及ぼさない。
	着色材料	無機質材料を用い、耐候性に優れ、かつインターロッキングブロックの品質及び環境上有害な影響を及ぼさない。
外 観		使用上有害なきず、ひびわれ、欠け、変形等がない。

寸法許容差（㎜）	長 さ	幅	厚 さ
普通タイプ	±３	±３	±３
透水性タイプ	±３	±３	＋５～－１
植生用タイプ	±３	±３	±３

曲げ強度（N/mm2）	普通タイプ	５．０以上
	透水性タイプ	３．０以上
	植生用タイプ	４．０以上
透水係数（cm/sec）	透水性タイプ	０．０１以上
圧縮強度（N/mm2）	普通タイプ	３２．０以上
	透水性タイプ	１７．０以上

・ 舗石舗装 （２２．８．８～３）

種 類	厚さ（㎜）	施工方法	基 層
・ 小舗石（花こう岩）	・ ８０～１００	・ うろこ張り	・ コンクリート舗装 ・ アスファルト舗装

14 路面標示用塗料
ＪＩＳＫ ５６６５（路面標示用塗料）による

種類	施工	適用	色	幅（㎜）	布厚さ（㎜）	揮発性有機溶剤の含有率
・ １種（Ｇ）	常温	液状	⊙ 白	⊙ １５０	⊙ １．０	塗料総質量に対して５％以下
・ ２種（Ｇ）	加熱		・ ｵﾚﾝｼﾞ	⊙ 図示		
⊙ ３種１号	溶融	粉体状				

15 溶融スラグ
⊙ 表層に、溶融スラグ入り再生合材 密粒度（１３）を使用する。
・ 基層に、溶融スラグ入り再生合材 粗粒度（２０）を使用する。

16 コンクリート
・ コンクリート二次製品はエコセメント（ＪＩＳ Ｒ ５２１４）使用製品とする。

23 植栽工事

1 樹木の植栽基盤整備
芝及び地被類 （２３．２．２～３）（表２３．２．１～２）

適用	有効土層の厚さ(cm)	工法	整備範囲
⊙ 行う ・ 行わない	⊙ ２０	⊙ Ｂ種	⊙ 植栽範囲 ・ 図示

樹木 （２３．２．２～３）（表２３．２．１～２）

樹木の樹高（m）	有効土層の厚さ（ｃｍ）	工法	整備範囲
・ １２以上	・ １００	⊙ Ａ種	⊙ 業張りの範囲（ただし、低木性植栽範囲）
・ ７超～１２未満	・ ８０	・ Ｂ種	
・ ３超～７以下	・ ６０	・ Ｃ種	・ 図示
・ ３以下	・ 50	・ Ｄ種	

工法Ｄ種以外の工法で、現状地盤高と計画地盤高が同一でない場合は、計画地盤高からを有効土層とする。ただし、計画地盤高が現状地盤高より高い場合は、計画地盤高まで植込み用土で盛土を行う。

2 植込み用土
・ 現場発生土の良質土 ⊙ 客土（ ・ 畑土 ⊙ 黒土） （２３．３．２）

3 土壌改良材（Ｇ）
・ 適用する （２３．２．３～４）
施工箇所 ⊙ 植栽範囲 ・ 図示
バークたい肥
有機物の含有量（乾物） ：７０％以上
炭素窒素比（Ｃ/Ｎ比） ：３５以下
陽イオン交換容量（乾物） ：７０meq/１００ｇ以上
ＰＨ ：５．５～７．５
水分 ：５５～６５％
幼植物試験の結果 ：生育阻害その他の以上を認めない
窒素全量（現物） ：０．５％以上
りん酸全量（現物） ：０．２％以下
加里全量（現物） ：０．１％以上
発酵下水汚泥コンポスト
「金属等を含む産業廃棄物に係る判定基準を定める省令」の別表第一の基準に適合する原料を使用したもので、植害試験の調査の結果、害が認められないものとする
ひ素 ：０．００５％以下
カドミウム ：０．０００５％以下
水銀 ：０．０００２％以下
ニッケル ：０．０３％以下
クロム ：０．０５％以下
鉛 ：０．０１％以下
有機物の含有量（乾物） ：３５％以上
炭素窒素比（Ｃ/Ｎ比） ：２０以下
ＰＨ ：８．５以下
水分 ：５０％以下
窒素全量（現物） ：０．８％以上
りん酸全量（現物） ：１．０％以上
アルカリ分（現物） ：１５％以下

4 支柱材
⊙ 杉、ひのき又はから松（皮はぎもの、間伐材）（Ｇ） ⊙ 加圧式防腐処理 （２３．３．２）
・ 真竹（良質な２年生以上）

5 幹巻き用材料
⊙ 幹巻き用テープ ・ わら及びこも （２３．３．２）

6 芝張り
種類 ⊙ こうらい芝 ・ 野芝 （２３．４．２）
工法 ・ 目地張り ・ べた張り

章 項目 特記事項

7 吹付けは種用種子等
⊙ 洋しば類 ・クローザー

8 地被類
・ コンテナ栽培品

9 屋上緑化（Ｇ）
植栽基盤及び材料 （２２．５．２～３）
・ 屋上緑化システム
土壌層の厚さ ・ 図示 ・ 管理型
保水・排水層 ・ 軽量骨材（層の厚さ ） ・ 板状成型品
植込み用土 ・ 改良土 ・ 人工軽量土
樹木の種類、寸法、株立数、寸法等 ・ 図示
透水層、保水層及び排水層等
・ 屋上緑化軽量システム
芝及び地被類の樹種並びに種類等 ・ 図示
工法 （２３．５．４） （２２．５．４）
支柱 ・ 設置する（種類 ・ 図示 ・ ）
かん水装置 ・ 設置する（工事区分は図示による）

㉔ 地盤調査

① ボーリング調査
構造設計特記仕様書による。 （２３．１．１～１４）（表２４．１．１～１２）

㉕ その他工事

解体撤去工事

① 基本事項
⊙ 本工事においては、建設リサイクル法、建設副産物適正処理推進要綱及び関係法令に基づき、分別解体等適正な解体撤去工事を実施するものとする。

② 解体工事内容
⊙ 図示による

③ 解体工法
解体部位ごとの作業内容及び分別解体等の方法

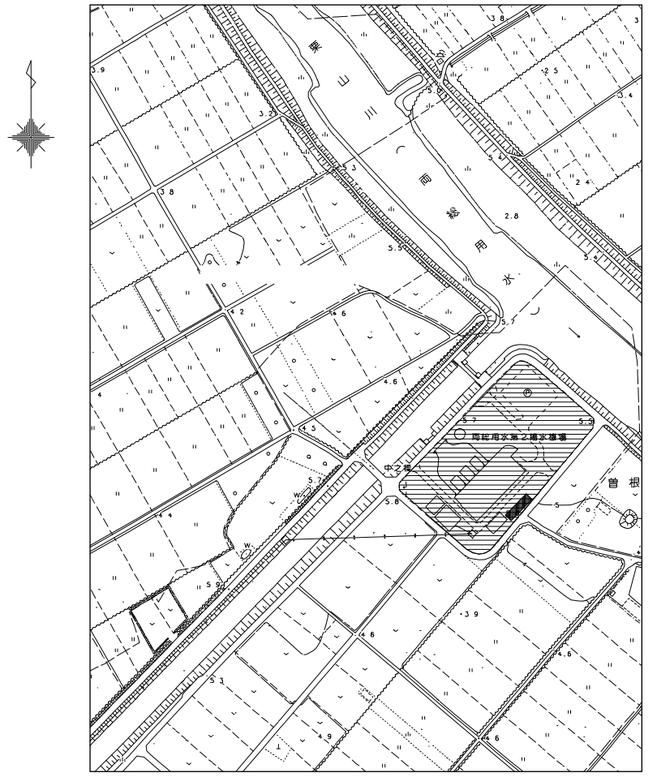
解体部位	作業内容	分別解体等の方法
１．	基礎の取り壊し ・ 有 ・ 無	・ 手作業 ・ 手作業、機械作業の併用
２．その他 ⊙ 外構関連構造物	その他の取り壊し ⊙ 有 ・ 無	・ 手作業 ⊙ 手作業、機械作業の併用

※ 契約対象外の項目につては、別図参照

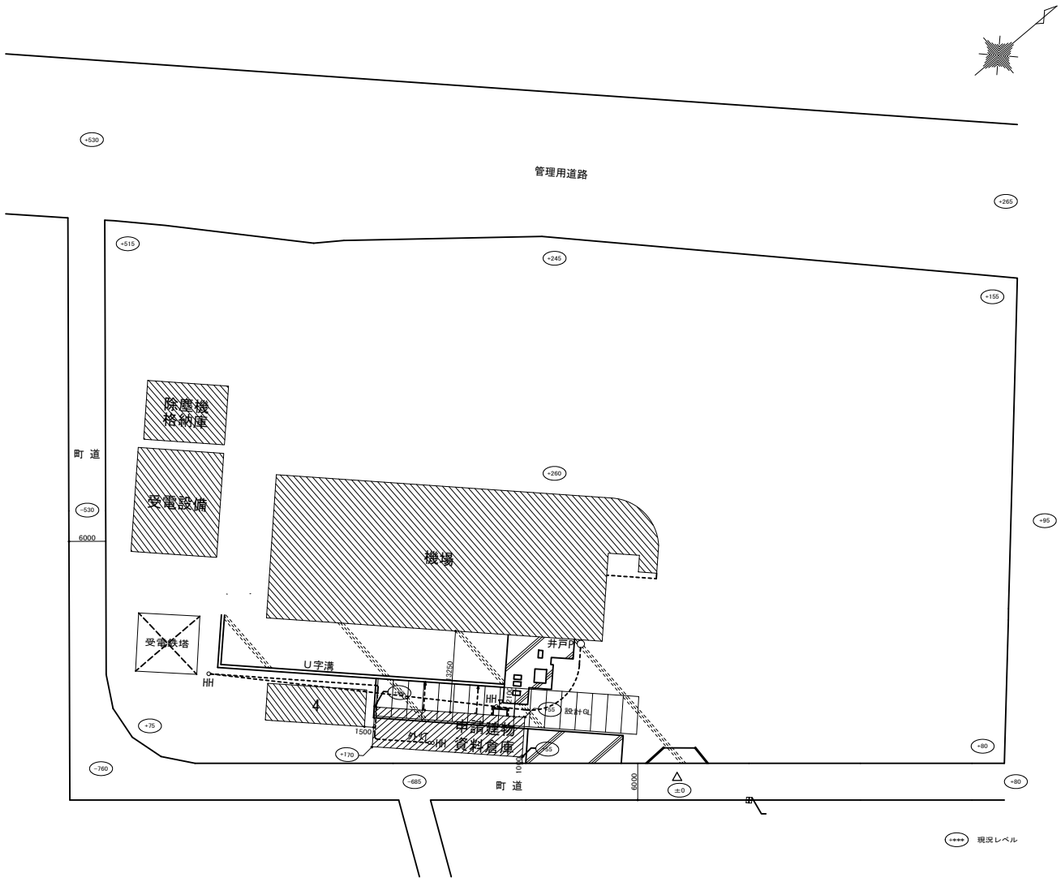
施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	資料倉庫特記仕様書(4/4)		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	－	図面番号	8-221/319
作成者	関東農政局 両総農業水利事業所		

案内図・配置図

案内図 S=1:2500



配置図 S=1:500



施設名	南部幹線用水路(0312100-1100-20)		
図面名	案内図・配置図		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 図示	図面番号	8-222/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所		

仕上表

外部仕上

外壁	東側	ＡＬＣ版ⓣ100 〔隅部はコーナー部材〕　防水型複層塗材Ｅ 〔ゆず肌状〕 立上り：コンクリートⓉ120打放し 〔H=400〕　撥水材塗仕上（補修下地）	不歩行屋上	押えコンクリートⓉ60（ワイヤーメッシュ入）　金鏝仕上（成形伸縮目地入、アスファルト防水、普通コンクリート〇50～110（ワイヤーメッシュ入）、Ｅデッキ-50×1.2 下地） 立上り部：押出成形セメント板ⓣ15 笠木：カラーアルミ ルーフドレーン：鋳鉄製 〔100φ、横引〕
	南側	同　上	庇	塗膜防水ⓣ2 〔ウレタンゴム系〕（普通コンクリートⓉ80～90　ワイヤーメッシュ入　下地） パラペット内壁：塗膜防水ⓣ2 〔ウレタンゴム系〕（モルタルⓉ20金鏝下地） 笠木、雨切：カラーアルミ　　ルーフドレーン：鋳鉄製 〔65φ、横引〕 揚裏：けい酸カルシウム板ⓣ6　Ｅ.Ｐ塗装
	西側	同　上	その他	出入口前：土間コンクリートⓉ150　金鏝仕上 竪樋：塩ビ〔100φ、65φ〕　Ｅ.Ｐ塗装　　支持金物：ＳＵＳ　@1200 単粒度砕石敷（C-20）
	北側	同　上		
特記事項		・土間下には防湿シート（ポリエチレンフィルム t=0.15）を敷き込む。		

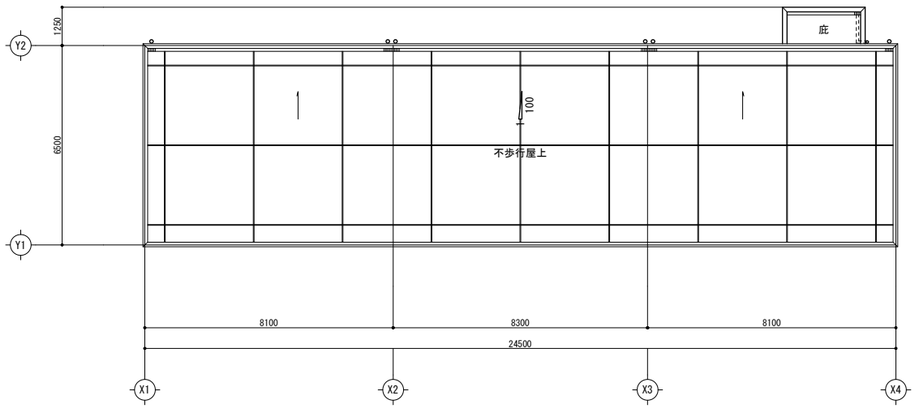
内部仕上

階	室名	床	巾木	腰壁	壁	天井	備考
1	資料倉庫	織布積層長尺ビニル床シートⓉ2.0　Ｆ☆☆☆☆ （土間コンクリートⓉ300　一発金鏝仕上下地）	ビニル巾木　Ｆ☆☆☆☆ H=60	同　右	ビニールクロス　Ｆ☆☆☆☆ （石膏ボードⓉ12.5下地）	化粧石膏ボードⓉ9.5　Ｆ☆☆☆☆	天井見切：塩ビ　　天井点検口：アルミ枠〔450×450〕 3ヵ所 移動ラック：ハンドル式 〔W=900×4連+130、D=456、H=2284　6段、棚板許容積載量　80ｋｇ、 埋込み式レール〕　　ブラインド：スラット幅25、ワンポール式
	下足場	土間コンクリートⓉ150　一発金鏝仕上	—	—	—	—	上り框：集成材 〔塗装品、W=60、H=150〕
特記事項		・ＡＬＣ（外壁部）下地の内壁仕上げは、ＬＧＳ　50×40、25×40 横使い（柱型）下地とする。 ・石膏ボードⓉ12.5は、不燃NM-8619号と同等とする。 ・化粧石膏ボードⓉ9.5は、準不燃QM-9824号と同等とする。 ・額縁：スプルスⓉ25 Ｅ.Ｐ塗装。 ・消火器（ABC粉末10型）、2ヶ所設置。		・誘導標識、１ヶ所設置。			

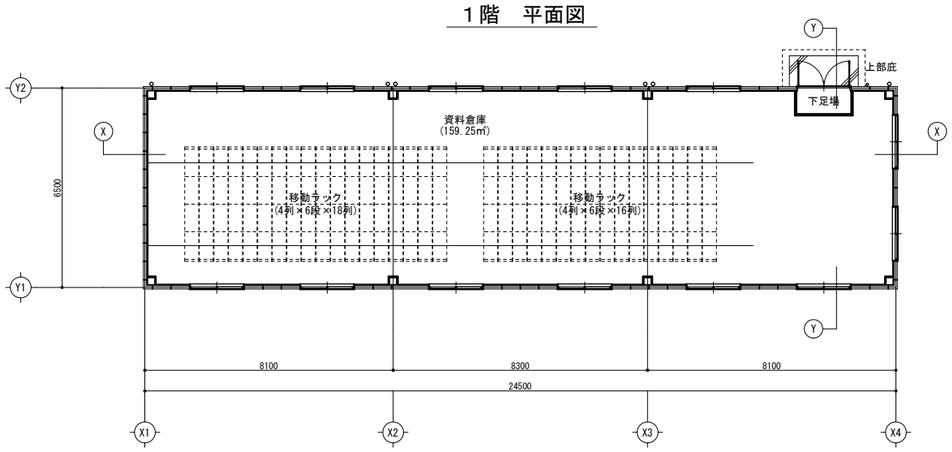
施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	仕上表		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	-	図面番号	8-223/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所		

平面図 S=1:100

R階　平面図



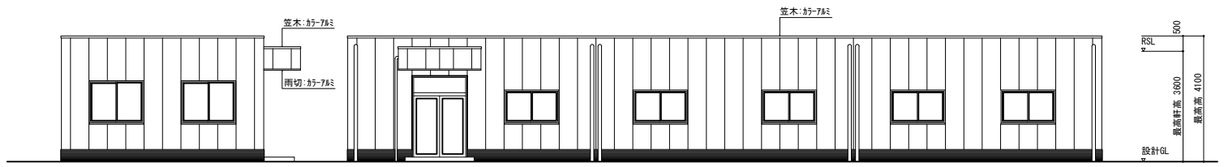
１階　平面図



施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	平面図		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 1:100 A2 1:141	図面番号	8-224/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所		

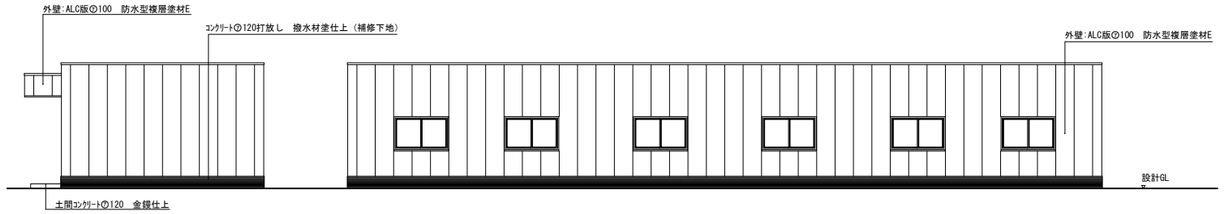
立面図・断面図 S=1:100

Ｘ４通り　立面図



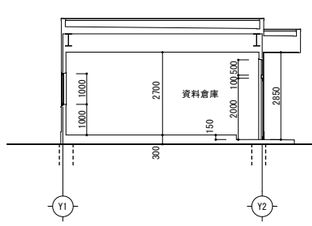
Ｙ２通り　立面図

Ｘ１通り　立面図

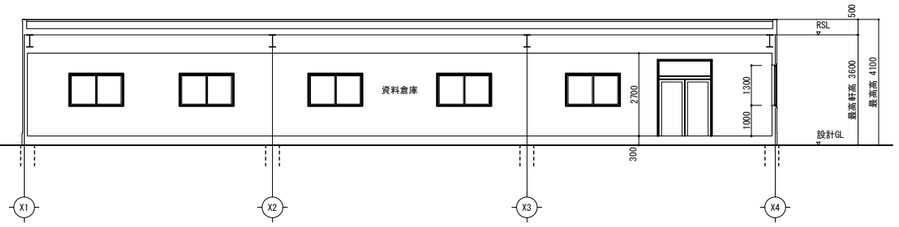


Ｙ１通り　立面図

Ｙ － Ｙ　断面図

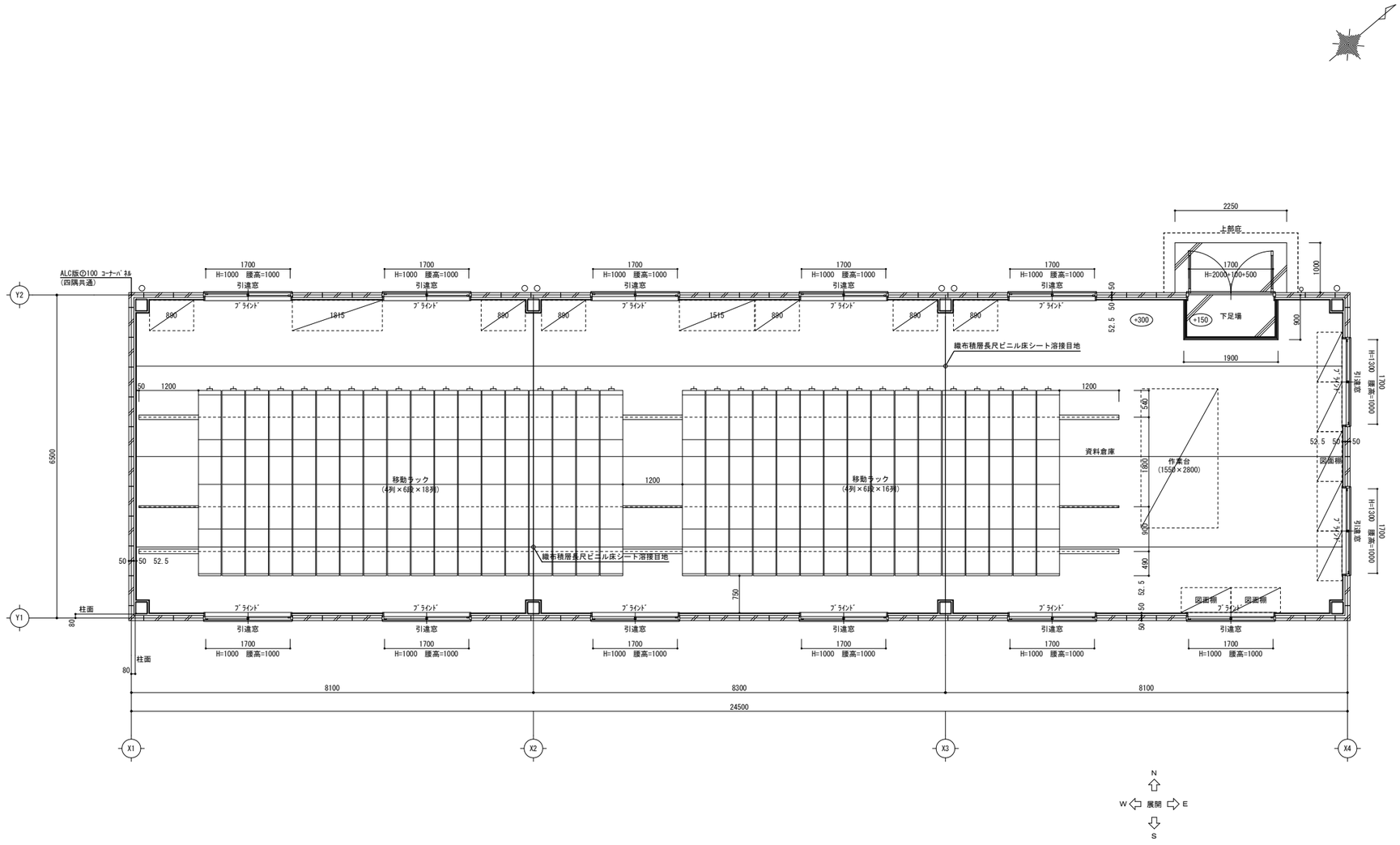


Ｘ － Ｘ　断面図



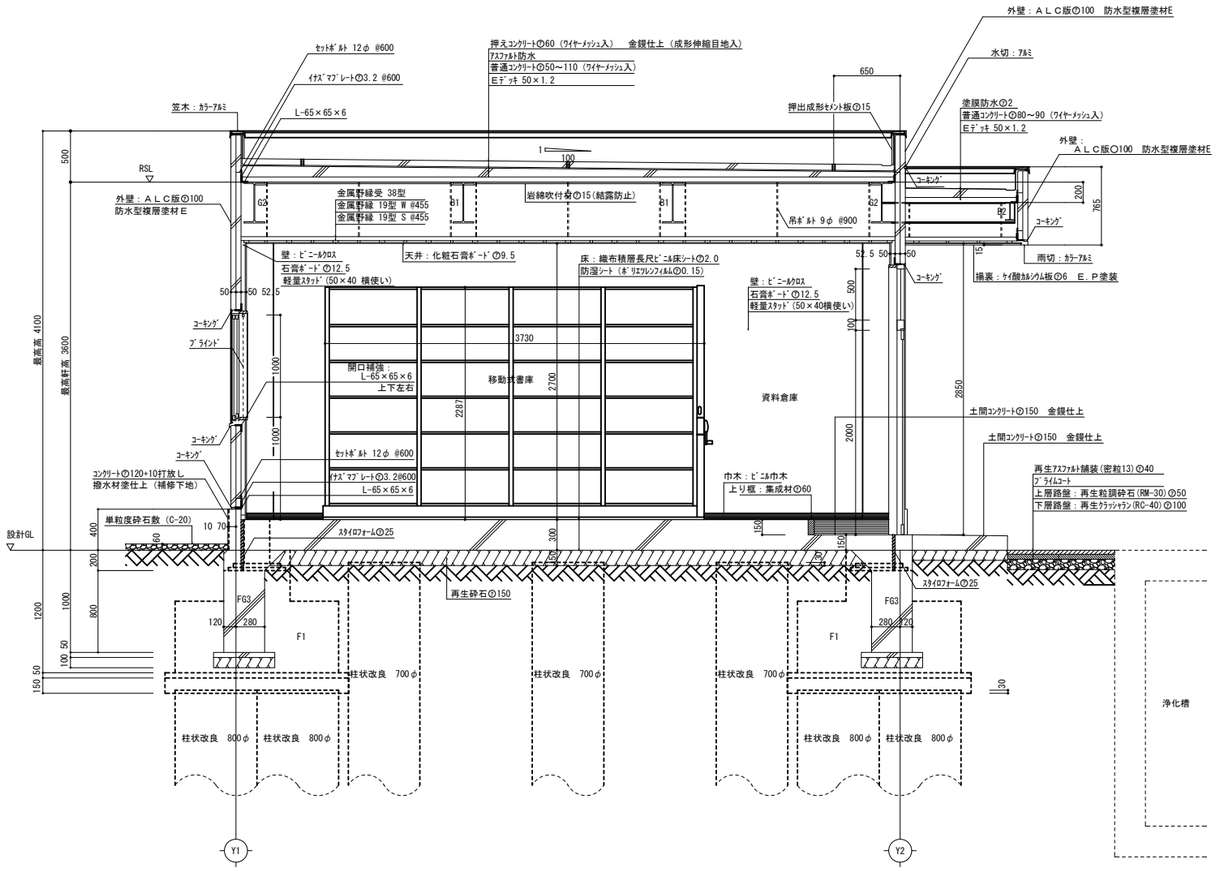
施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	立面図・断面図		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 1:100 A2 1:141	図面番号	8-225/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所		

平面詳細図 S=1:50



施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	平面詳細図		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 1:50 A2 1:70	図面番号	8-226/319
作成者	関東農政局 霞総農業水利事業所		

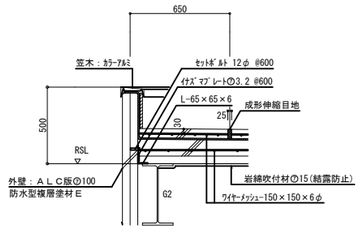
矩計図 S=1:30



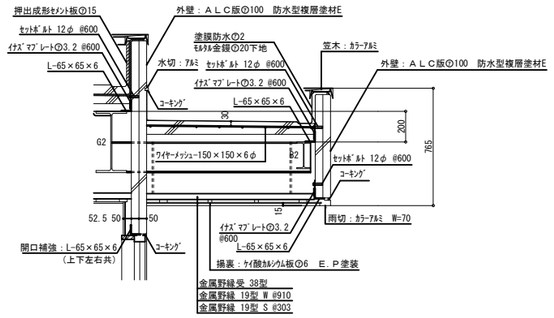
施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	矩計図		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 1:30 A2 1:42	図面番号	8-227/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所		

部分詳細図

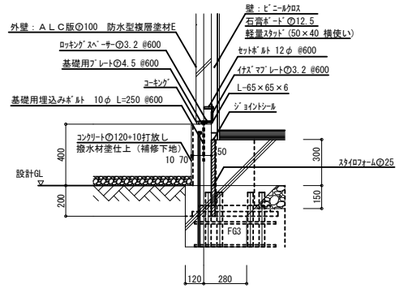
パラペット部　S=1:20



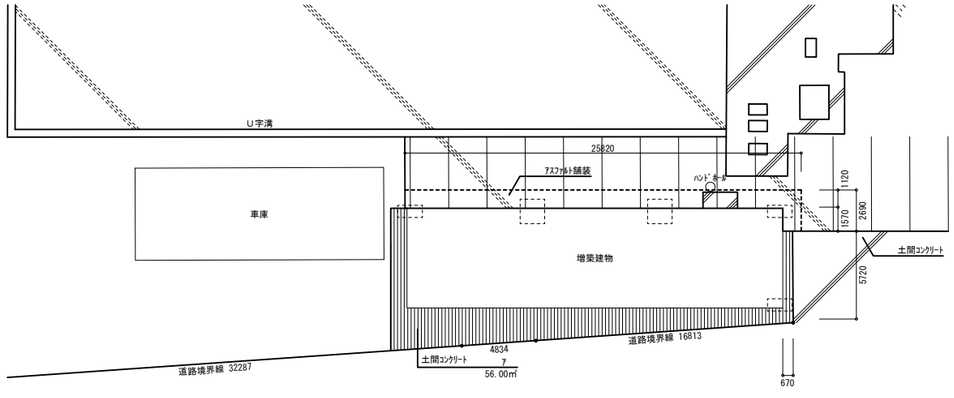
庇　S=1:20



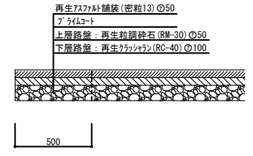
基礎立上り部　S=1:20



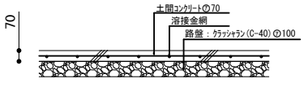
S=1:200



アスファルト舗装断面図　S=1:20



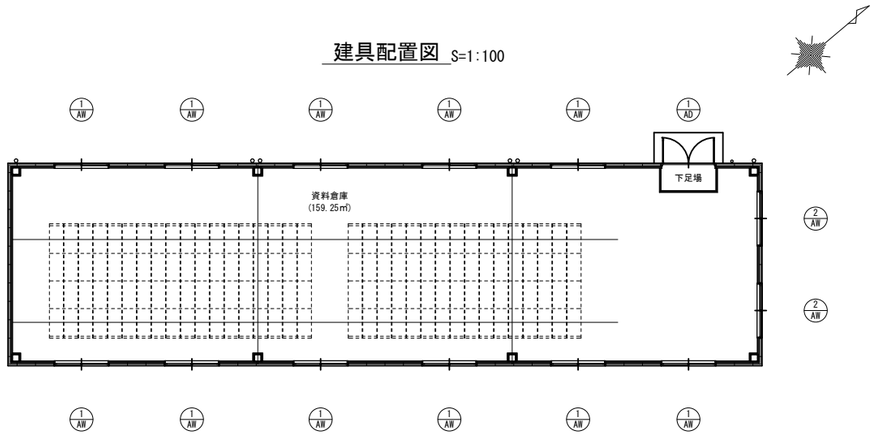
土間コンクリート断面図　S=1:20



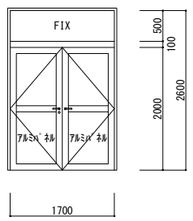
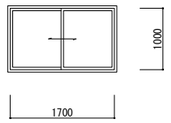
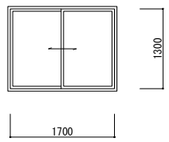
施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	部分詳細図		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 図示	図面番号	8-228/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所		

建具配置図･建具表

建具配置図 S=1:100



建具表 S=1:50

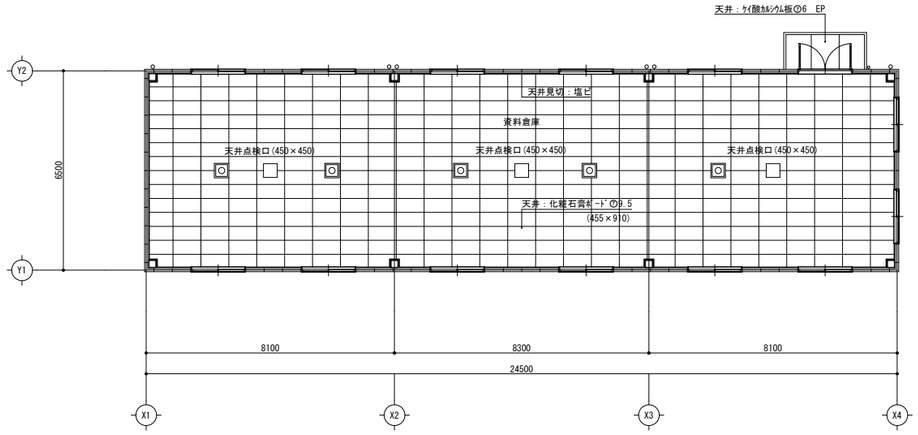
符号	数量	AD－1	1	AW－1	11	AW－2	2	
姿図								
仕様個所		下足場		資料倉庫		資料倉庫		
形式		両開扉		引違窓		引違窓		
材質		アルミ		アルミ		アルミ		
仕上		カラーアルミ		カラーアルミ		カラーアルミ		
硝子種類上部：網入(ﾋﾝｸﾛｽ)型板硝子 t=6.8　下部：アルミパネル t=2				網入(ﾋﾝｸﾛｽ)型板硝子 t=6.8		網入(ﾋﾝｸﾛｽ)型板硝子 t=6.8		
付属金物		ドアチェック　レバーハンドル　標準金物一式		標準金物一式		標準金物一式		
備考		_		網戸		網戸		

室名	床面積	1/20	W×H×箇所	有効開口面積	1/30	W×H×箇所	有効開口面積	備考
倉庫	159.25	7.96	1,700×2,000×1	14.96	5.30	1,700×2,000×1	14.96	AD-1
			1,700×1,000×1/2×11			1,700×1,000×1/2×11		AW-1
			1,700×1,300×1/2×2			1,700×1,300×1/2×2		AW-2

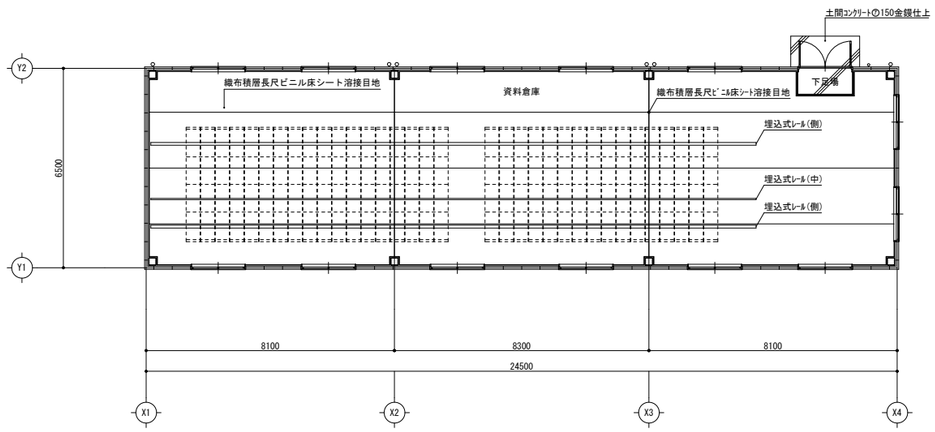
施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	建具配置図･建具表		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 図示	図面番号	8-229/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所		

床伏図･天井伏図 S=1:100

1階天井伏図

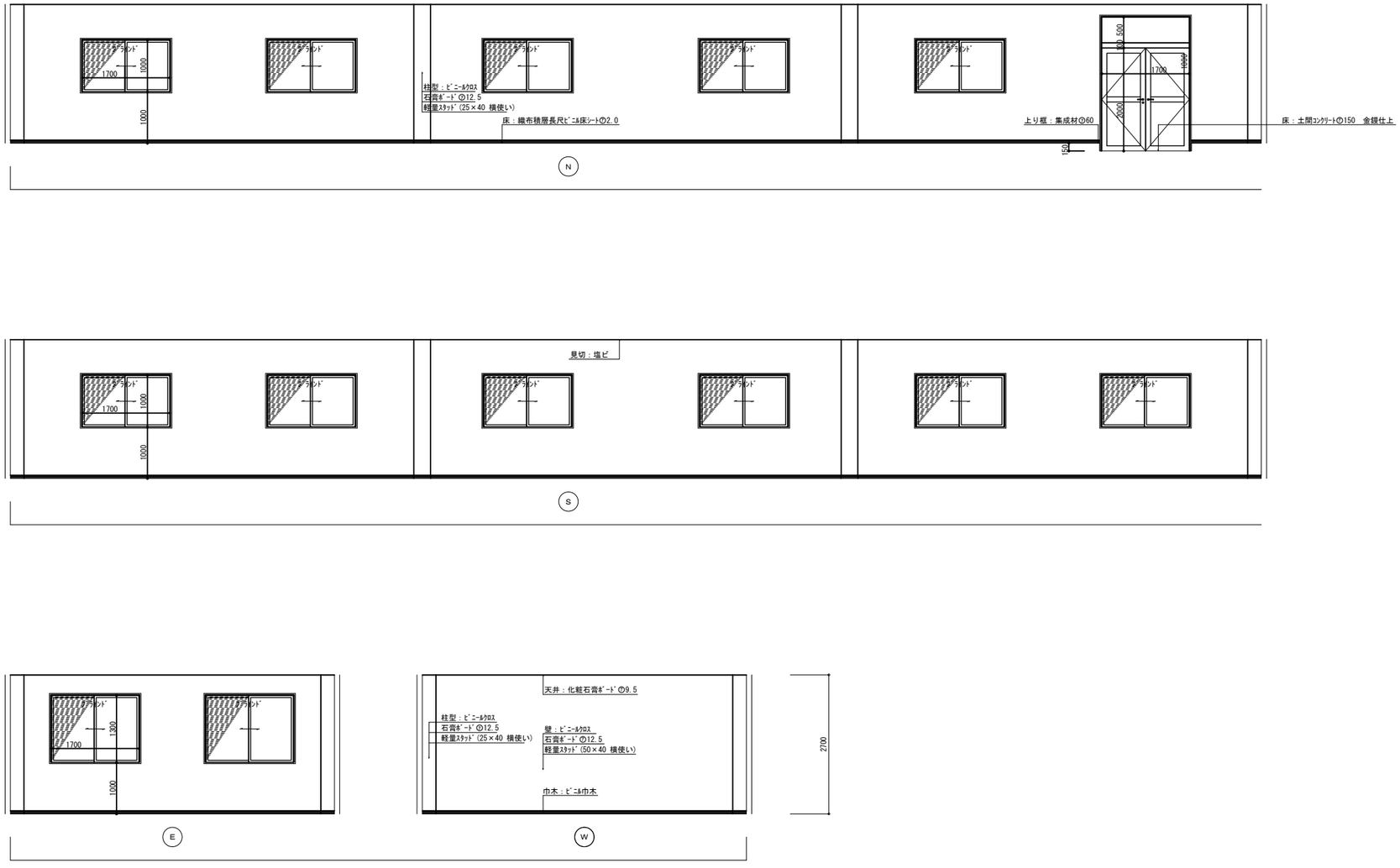


1階床伏図



施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	床伏図･天井伏図		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 1:100 A2 1:141	図面番号	8-230/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所		

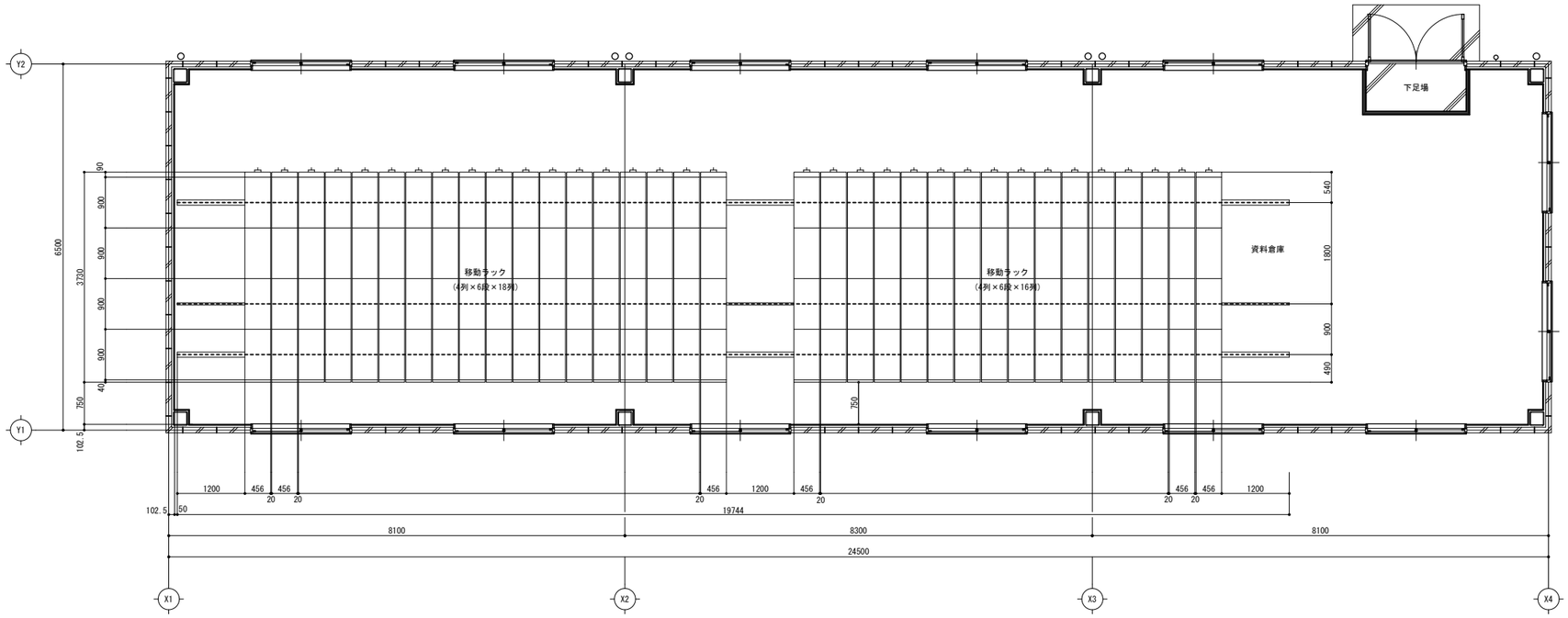
展開図 S=1:50



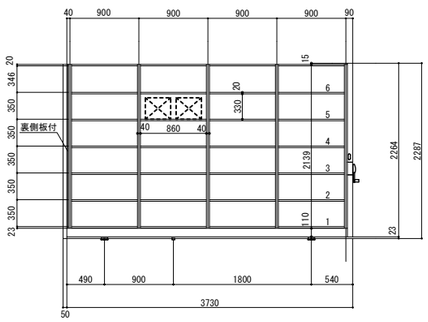
施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	展開図		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 1:50 A2 1:70	図面番号	8-231/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所		

移動書庫詳細図

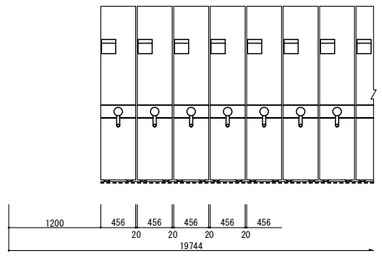
平面図 S=1:50



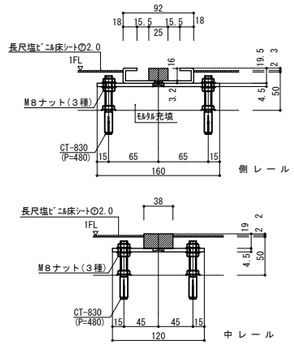
正面図 S=1:40



側面図 S=1:40



埋込式レール断面詳細図 S=1:4



移動ラック　ハンドル式〈書庫型〉　仕様

規模

種別	型式	棚段数	連数	台数	備考
移動単式	MS-D-4	6	4	３４	

総棚段数	８１６段
格納物	文書保存箱（想定）
格納物寸法	W３３０×D４１０×H２８０（想定）
総格納数	８１６段×２箱／段＝１６３２箱
積載耐荷重	棚板１枚当り　最大８０kg　但し、単式１連当り３００kg
駆動方式	全輪駆動方式
操作方法	ワンウェイクラッチハンドル（自動クラッチ内蔵）
移動距離	１００mm／ハンドル１回転
安全対策	・安全ロック（ゲートロック機構） ・転倒防止装置 ・脱線防止（フランジ車輪）
レール形式	埋込式
建築床への	積載質量　５０kg／段
負荷質量	本体質量　９２kg／複式１連
	総質量　５３．３１２kg
	レール１m当りの最大質量　１．２９０kg／m
塗色	F-10（シルキーアイボリー）
付属部品	裏側板付

施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	移動書庫詳細図		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 図示	図面番号	8-232/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所		

構造設計特記仕様

構造設計特記仕様

※修正箇所は下線を引くこと。
適用は ■ 印を記入する。

1． 建築物の構造内容

（1） 建築場所　千葉県山武郡横芝光町寺方515-1

（2） 工事種別　■ 新築 □ 増築 □ 増改築 □ 改築

（3） 構造種別
□ 木造（W） □ 補強コンクリートブロック造（CB） ■ 鉄骨造（S）
□ 鉄筋コンクリート造（RC） □ 壁式鉄筋コンクリート造（WRC）
□ 鉄骨鉄筋コンクリート造（SRC） □ 壁式プレキャスト鉄筋コンクリート造（WPRC）
□ プレキャスト鉄筋コンクリート造（PRC） □

（4） 階数
地下 0 階　地上 1 階　塔屋 0 階

（5） 主要用途　倉 庫

（6） 屋上付属物
□ 高架水槽 kN □ キュービクル kN □ 広告塔 □ 煙突

（7） 特別な荷重
□ エレベータ 人乗（マシンルームレス ロープ式 油圧式） □ リフト kN □ ホイスト kN
□ 倉庫積載床用 N/m² □ 受水槽 kN □

（8） 付帯工事
□ 門塀 □ 擁壁 □ 駐輪場 □ 機械式駐車場 □ □

（9） 増築計画　□ 有（ ） ■ 無

（10） 構造計算ルート　X方向ルート —（1－2）　Y方向ルート —（1－2）

2． 使用構造材料一覧表

（1） コンクリート

適用箇所	種類	設計基準強度 Fc=N/mm²	品質管理強度 Fq=N/mm²	スランプ cm	備考
捨てコンクリート	■ 普通	18	18	18	
土間コンクリート	■ 普通	21	24	18	
基礎・基礎梁	■ 普通	21	24	18	
柱・梁・床・壁	■ 普通、□ 軽量	21	24	18	
合成デッキ	■ 普通、□ 軽量	18	21	18	
押えコンクリート	□ 普通、□ 軽量				
細骨材の種類	■ 砂 ■ 山砂 □ 人工 □				
粗骨材の種類	■ 砂利 ■ 砕石 □ 人工 □				
水の区分	■ 水道水 ■ 地下水 ■ 工業用水 □				
混和料の種類	■ ＡＥ減水剤 □ 高性能ＡＥ減水剤 □				
呼び強度を保証する材齢	■ ２８日 □ ５６日 □				

（2） コンクリートブロック（ＣＢ）
□ A種 □ B種 □ C種　厚 □ 100 □ 120 □ 150 □ 190

（3） 鉄 筋

種類	径	使用箇所	継手工法
■ SD295A	Ｄ１０～Ｄ１６	基礎・スラブ・ＳＴＰ	■ 重ね継手（Ｄ１６以下）
□ SD295B			
■ SD345	Ｄ１９～D22	基礎梁	■ ガス圧接継手（Ｄ１９以上）
□ SD390			
□			□ 特殊継手
□			
□ SR235			
□			

異形鉄筋
高強度せん断補強筋
丸 鋼
溶接金網（JISG3551）

（4） 鉄 骨

種類	使用箇所	現場溶接	備考
■ SS400 □ SM400 ■ SN400A,B,C	梁・プレート	□ 有 ■ 無	
□ STKR400 □ STKR490 □	間 柱	□ 有 ■ 無	
■ BCR295 □ BCP235 □ BCP325	柱	□ 有 ■ 無	
□ SM490A □ SN490B ■ SN490C	ダイヤフラム	□ 有 ■ 無	
■ SSC400 □	リップみぞ形鋼	□ 有 ■ 無	

○使用箇所の詳細については別途図示する。

（5） ボルト
■ 高力ボルト
■ 普通：Ｆ１０Ｔ ■ S10T □ 認定品 （■ M16、■ M20、□ M22、□ M24
■ 中ボルト　高力ボルトすべり係数試験 □ 要 ■ 否
M12 M　高力ボルト導入張力確認試験 □ 要 ■ 否
□ アンカーボルト
□ SS400 M16 L=620 mm ナット（ □ シングル、 □ ダブル）
□ ABM400 M24 L=720 mm ナット（ □ シングル、 □ ダブル）
□ 頭付スタッドボルト
φ＝ L= mm 使用箇所（ □ 柱、□ 大梁、□ 小梁）
φ＝ L= mm 使用箇所（ □ 柱、□ 大梁、□ 小梁）

（6） 屋根、床、壁
■ ＡＬＣ板　壁厚 100 □ スライド構法 □ ボルト止め構法 ■ ロッキング構法
□ 折 板　H=177　厚 ０．８mm
■ デッキプレート　型式ＥＺ50　厚 １．２mm
□ キーストーンプレート　型式　厚
□ 特殊デッキプレート
□

3． 地 盤

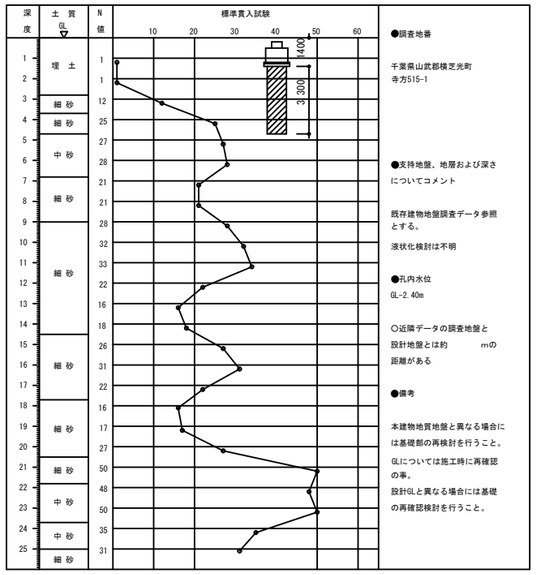
（1） 地盤調査資料と調査計画
■ 有（ ■ 敷地内 □ 近隣 ） □ 無 （調査計画 ■ 有 □ 無 ）

調査項目	資料有り	調査計画	調査項目	資料有り	調査計画	調査項目	資料有り	調査計画
ボーリング調査	●	●	静的貫入試験			標準貫入試験		●
水平地盤反力係数の測定			土質試験			物理探査		
試験掘（支持層の確認）			平板載荷試験			液状化判定		●
スエーデン式サウンディング			現場透水試験			ＰＳ検層		

注意：地盤調査はGL-20.0mまでを予定とする。

注）上記表中の資料が有るもの、調査計画が有るものに○を記入する。

（2） 土質構成（スウェーデン式サウンディング試験結果）　基礎・杭の位置を明記すること



●調査地番
千葉県山武郡横芝光町
寺方515-1

●支持地盤、地層および深さについてコメント
既存建物地盤調査データ参照とする。
液状化検討は不明

●孔内水位
GL-2.40m

○近隣データの調査地盤と設計地盤とは約 mの距離がある

●備考
本建物地質地盤と異なる場合には基礎部の再検討を行うこと。
GLについては施工時に再確認の事。
設計GLと異なる場合には基礎の再確認検討を行うこと。

注） 地盤調査及び試験杭の結果により、杭長、杭種、直接基礎の深さ、形状を変更する場合もある。

4． 地業工事

（1） 直接基礎　□ ベタ基礎 □ 布基礎 ■ 独立基礎　試験堀 □ 有 ■ 無
深さ ＧＬ－ 1.20 m　支持層－　改良体長期許容支持力 184.0 ｋＮ／本　載荷試験 □ 有 ■ 無

（2） 杭基礎　支持層－ 砂礫層

杭種	材料	施工法	備考
□ RC □ PRC	ＰＲＣ（ □ Ⅰ種 □ Ⅱ種 □ Ⅲ種 ）	□ 打ち込み	
□ PHC □ H鋼	ＰＨＣ（ □ Ａ種 □ Ｂ種 □ Ｃ種 ）	□ 埋込み（セメントミルク工法）	
□ 鋼管 □ 摩擦杭	鋼材 □ SS400 □ SKK400	□ プレボーリング拡大根固め工法	旧大臣認定候補による
□ ＳＣ杭 □	□		
□ 場所打ち	コンクリートＦｃ N/mm²	□ オールケーシング □ 拡底杭	
コンクリート杭	スランプ	□ リバースサーキュレーション	
	セメント量 kg/m³	□ アースドリル □ ミニアース	認定
	鉄 筋 主筋 SD	□ BH □ 深礎 □ 手堀	第 号
	HOOP SD	□ 機械堀	年 月 日

杭仕様　□ 施工計画書承認　□ 杭施工結果報告書
試験杭　（□ 有 □ 無）　（□ 打ち込み・ □ 載荷・ □ 孔壁測定 ） 本

杭径（mm）	設計支持力（ｋＮ）	杭 長（m）	本数	特記事項
φ350	500	L=19.00	9	F2,F2A
φ400	600	L=19.00	7	F1,F1A
セット				
F1 F1A	（ 杭頭 PHC杭 FC=85 ）+ （ 杭脚 PHC杭 Fc=85 ） L = 9.000m（C種） + 10.000m(A種)			
F2 F2A	（ 杭頭 PHC杭 FC=85 ）+ （ 杭脚 PHC杭 Fc=85 ） L = 9.000m（C種） + 10.000m(A種)			

5． 鉄筋コンクリート工事 （施工方法等計画書）

本標準仕様及び鉄筋コンクリート構造配筋標準図はコンクリートの設計基準強度（Ｆｃ）が３６Ｎ／mm² 以下に適用する。

（1） コンクリート
■ コンクリートはＪＩＳ認定工場の製品とし、施工に関しては、標準図に記載されている事項を除きＪＡＳＳ5による。
■ 耐久設計基準強度 Fd ■ 一般 □ 標準 □ 長期
■ セメントは、ＪＩＳ Ｒ ５２１０ の普通ポルトランドセメントを標準とする。
■ 調合計画は、工事開始前に工事監理者の承認を得ること。
■ 寒中、暑中、その他特殊コンクリートの適用を受ける期間に当る場合は、調合、打ち込み、養生、管理方法など必要事項について、工事監理者の承認を得ること。
■ フレッシュコンクリートの塩化物測定は、原則として工事現場で（財）国土開発技術研究センターの技術評価をうけた測定器を用いて行い、試験結果の記録及び測定器の表示部を一回の測定ごとに撮影した写真（カラー）を保管し承認を得る。
測定検査の回数は、通常の場合、１日１回以上とし、１回の検査における測定試験は、同一試料から取り分けて３回行い、その平均値を試験値とする。
■ 構造体コンクリートについて現場の圧縮強度試験供試体(JASS5T－603)は、現場水中養生、または現場封かん養生とし、採取は打ち込み工区ごと、打ち込み日ごとをとる。、
また、打込み量が150㎥を超える場合は150㎥ごとまたは、その端数ごとに一回を標準とする。一回に採取する供試体は、適当な間隔をおいた３台の運搬車からその必要本数を採取する。なお供試体の数量は、特別指示なき場合は、１回当り６本以上とし、そのうち４週用に３本を用いる。
■ ポンプ打ちコンクリートは、打ち込む位置にできるだけ近づけて垂直に打ち、コンクリートの自由落下高さはコンクリートが分離しない範囲とする。ポンプ圧送に際しては、コンクリート圧送技士または同等以上の技能を有する者が従事すること。なお、打ち込み継続中における打継ぎ時間間隔の限度は、外気温が25℃未満の場合は１５０分以内、２５℃以上の場合は１２０分以内とする。

（2） 鉄 筋
■ 鉄筋は JIS G3112 の規格品を標準とする。施工は、標準図に記載されている事項を除き、JASS5による。
□ 高強度せん断補強筋は、ＪＩＳ Ｇ３１３７ に規定されるＤ種１号適合品とする。
■ 鉄筋の加工寸法、形状、かぶり厚さ、鉄筋の継手位置、継手の重ね長さ、定着長さは「鉄筋コンクリート構造配筋標準図（１）（２）」または「壁式鉄筋コンクリート構造配筋標準図（１）（２）」による。
■ D19未満は、すべて重ね継手とする。継手（D19以上）をガス圧接とする場合は、日本圧接協会「鉄筋のガス圧接工事標準仕様書」による。
■ ガス圧接部の抜き取り検査は、同一作業班が同一日に施工した圧接箇所ごと（200箇所を超えるときは、200箇所ごと）に１回行い、１回の試験は５本以上とする。
外観検査 ■ 有 □ 無　引張試験 ■ 有 □ 無　超音波探傷検査 □ 有 ■ 無
■ 柱の帯筋（ＨＯＯＰ）の加工方法は、 ■ Ｈ型（タダ型） □ Ｗ型（溶接型） □ Ｓ型（スパイラル型）とする。
■ コンクリート及び鉄筋の試験は「建築物の工事における試験及び検査に関する東京都取扱要綱」第４条の試験機関で行うこと。
試験機関名 （都知事登録 号）
代行業者名
代行業者とは、試験・検査に伴う業務を代行するものを言う。

（3） 型 枠
■ 材料 合板厚 １２mmを標準とする。
■ 施工 ＪＡＳＳ5による。
■ 型枠存置期間

種類 / 部位 / セメントの種類 / 存置期間の平均気温		壁、柱、はり側		スラブ下、はり下		スラブ下		はり下	
		早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント 高炉セメントＡ種 シリカセメントＡ種	早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント 高炉セメントＡ種 シリカセメントＡ種	早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント 高炉セメントＡ種 シリカセメントＡ種	早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント 高炉セメントＡ種 シリカセメントＡ種
コンクリートの材令（日）	１５℃以上	2	3	4	6	8	17	28	
	５～１５℃	3	5	6	10	12	25	28	
	５℃未満	5	8	10	16	15	28	28	
コンクリートの圧縮強度		5.0N/mm²		設計基準強度の５０％		設計基準強度の ８５％		１００％	

注）１ 片持ばり、庇、スパン９m以上のはり下は、工事監理者の指示による。
注）２ 大ばりの支柱の盛りかえ行わない。また、その他のはりの場合も原則として行わない。
注）３ 支柱の盛りかえは、必ず直上階のコンクリート打ち後とする。
注）４ 盛りかえ後の支柱頂部には、厚い受板、角材、これに代わるものを置く。
注）５ 支柱の盛りかえは、小ばりが終ってから、スラブを行う。一時に全部の支柱を取り払って、盛りかえをしてはならない。
注）６ 上表以外のセメントを使用する場合は工事監理者の指示による。

6． 鉄骨工事 （施工方法等計画書）

（1） 鉄骨工事は指示のない限り下記による
■ 日本建築学会「ＪＡＳＳ６」「鉄骨精度検査指針」「鉄骨工事技術指針」
■ 社）日本鋼構造協会「建築鉄骨工事施工指針」
■ 鉄骨製作管理技術者登録機構「突合せ継ぎ手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」

（2） 工事監理者の承認を必要とするもの
■ 製作工場 ■ 製作要領書 ■ 工作図 ■ 施工計画書
■ 認定または登録工場（大臣認定 Ｒグレード以上 都登録 T1 T2 Ｔ３ランク）
■ 材料規格証明書または試験成績書
■ 鋼材 ■ 高力ボルト ■ 特殊ボルト □ 頭付スタッド
■ 社内検査表 □

（3） 工事監理者が行う検査項目
（■ 印以外の項目の検査結果については、工事監理者に報告すること）
■ 現寸検査 ■ 組立・開先検査 ■ 製品検査
■ 建方検査 □ □

（4） 接合部の溶接は下記によること
■ 鉄骨造等の建築物の工事に関する東京都取扱要綱 （建築構造設計指針第１２章）
■ 日本建築学会「溶接工作規準、同解説 Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ、Ⅵ、Ⅶ、Ⅷ、ⅨⅩ」
■ 日本建築学会「鉄骨工事技術指針 工事現場施工編」

（5） 接合部の検査
□ 溶接部の検査 （検査結果は後日工事監理者に報告すること）

検査箇所	検査方法	検査率又は検査数 社内	第三者	工事監理者	備考
■ 完全溶込み溶接部（突合せ溶接）	外観検査（※）	１００％	３０％	１００％	※平成12年建設省告示第1464号第二号による（目視及び計測）
□	超音波探傷検査	１００％	３０％	%	
	内質検査（注）	%	%	%	
	マクロ試験・その他				
■ 隅肉溶接部	外観検査（※）	１００％	３０％	１００％	
第三者検査機関名	CIM認定機関				

第三者検査機関とは、建築主、工事監理者又は工事施工者が、受入れ検査を代行させるために自ら契約した検査会社をいう。

（注）東京都の要綱に基づき、必要なる建築物の場合に実施する。

注１） 現場溶接部については原則として第三者による全数検査とし、外観検査、超音波深傷検査を100%行うこと。
注２） 知事が定めた重大な不具合が発生した場合は、是正前に対応策を建築主事等に報告すること。
■ 内質検査 ■ 硬さ試験 □ 赤温塗料塗布
■ 高力ボルトは「JIS B1186 の高力ボルト」を標準とする。摩擦面の処理は黒皮などを座金外径２倍以上の範囲でショットブラスト、グラインダー掛け等を用いて除去した後、屋外に自然放置して発生した、赤さび状態であること。ただし、ショットブラスト、グリットブラストによる処理で表面あらさが５０Ｓ以上である場合は、赤さびは発生しないままでよい。
■ 高力ボルトの締付けに使用する機器はよく整備されたものを使用し、締付けの順序は部材が十分密着するよう注意して行う。また、締付けは一次、二次締めとする。
締付け後の検査は、各締付け工法別に適切な締付けが行なわれているか検査する。

（6） 防錆塗装
■ 防錆塗装の範囲は、高力ボルト接合の摩擦面及びコンクリートで被覆される以外の部分とする。
錆止めのペイントは、 ■ JIS K5621 □ JIS K5625 □ を使用して、２回塗りを標準とするが、実状に応じて決定すること。
■ 現場における高力ボルト接合部及び接合部の素地調整は入念に行い、塗装は工場塗装と同じ錆止めペイントを使用し２回塗りとする。

（7） 耐火被覆の材料
□

7． 設備関係

■ 特記以外の梁貫通孔は原則として設けない、設ける場合は設計者の承認を得ること。
■ 建築設備の構造（基礎を含む）は、構造耐力上安全な構造方法を用いるものとし設備設計において安全性の確認を行う事とする。
■ 床スラブ内に設備配管等を埋込む場合はスラブ厚さの１／３以下とし管の間隔を管径の３倍以上かつ５ｃｍ以上を原則とする。
■ 天井内設備機器については、地震力等に対して十分な揺れ防止対策を行うこと。
■ 設備荷重の変更については設計荷重以下とし工事監理者の承認を得ること。

8． その他

■ 諸官庁への届出書類は遅滞なく提出すること。
■ 各試験の供試体は公的試験機関にて試験を行い工事監理者に報告すること。
■ 設計変更が生じた場合は、工事監理者の承認を受けて施工すること。
■ 地中障害又は、他の障害が発生した場合は、工事監理者に報告し指示を受けること。
■ 屋内天井については、地震力等に対して十分な揺れ防止対策を行い施工を行うこと。
■ 本工事の設計図書に関する疑義は、工事契約前に、質疑応答書をもって確認しておくものとする。

施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	構造設計特記仕様		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	－	図面番号	8-233/319
作成者	関東農政局 両総農業水利事業所		

鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1/2)

鉄筋コンクリート構造配筋標準図（１）

※修正箇所は下線を引くこと。

１．　一般事項

（１）　構造図面に記載された事項は、本標準図に優先して適用する。

（２）　記号

ｄ－異形棒鋼の呼び名に用いた数値　丸鋼では径　　Ｄ－部材の成　　Ｒ－直径

＠－間隔　　ｒ－半径　　℄－中心線　　ｏ－部分間の内法距離　　ｈ－部材間の内法高さ

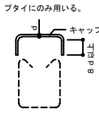
ＳＴ－あばら筋　　ＨＯＯＰ－帯筋　　Ｓ．ＨＯＯＰ－補強帯筋　　φ－直径又は丸鋼

２．　鉄筋加工、かぶり

（１）　鉄筋末端部の折曲げの形状

折曲げ角度	１８０°	１３５°	９０°
図	余長	余長	余長
鉄筋の余長	４ｄ以上	６ｄ以上（＊４ｄ以上）	８ｄ以上（＊４ｄ以上）
折り曲げ内法寸法Ｒは、ＳＲ２３５は３ｄ以上、ＳＤ２９５Ａ，ＳＤ２９５Ｂ ＳＤ３４５のＤ１６以下は、３ｄ以上、Ｄ１９以上は４ｄ以上			

折まげ角度９０°はスラブ筋・壁筋の末端部またはスラブと同時に打ち込む丁形およびし形梁のキャップタイにのみ用いる。



（２）　鉄筋中間部の折曲げの形状　鉄筋の折曲げ角度９０°以下

図	鉄筋の使用箇所による呼称	鉄筋の種類	鉄筋の径による区分	鉄筋の折り曲げ内のりＲ寸法
	帯筋 あばら筋 スパイラル筋	SR235, SD295A SD295B, SD345	１６φ Ｄ１６　以下	３ｄ以上
			１９φ Ｄ１９　以上	４ｄ以上
	上記以外の鉄筋	SD235、SD295A SD295B, SD345	１６φ Ｄ１６　以下	４ｄ以上
			１９φ～２５φ Ｄ１９～Ｄ２５	６ｄ以上
			２８φ～３２φ Ｄ２９～Ｄ３８	８ｄ以上

（３）　鉄筋の定着及び重ね継手の長さ

鉄筋の種類	普通、軽量コンクリートの設計基準強度の範囲（Ｎ／mm²）	定着の長さ 一般（Ｌ２）	定着の長さ 下ば筋（Ｌ３） 小梁	定着の長さ 下ば筋（Ｌ３） スラブ	特別の定着及び重ね継手の長さ（Ｌ１）
SR235	２１～３６	３５ｄ　フックつき	２５ｄ　フック	１５０mm　フック	３５ｄ　フックつき
	１８以下	４５ｄ　フックつき	つき	つき	４５ｄ　フックつき
SD295A SD295B SD345	２１～３６	３５ｄ　または ２５ｄ　フックつき	２５ｄ　または １５ｄ　フック つき	１０ｄ　かつ １５０mm　以上	４０ｄ　または ３０ｄ　フックつき
	１８以下	４０ｄ　または ３０ｄ　フックつき			４５ｄ　または ３５ｄ　フックつき

継　手

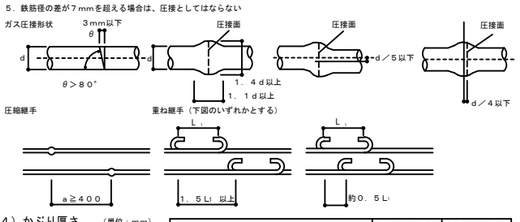
１．末端のフックは、定着および重ね継手の長さに含まない

２．継手位置は、応力の小さい位置に設けることを原則とする

３．直径の異なる鉄筋の重ね継手長さは、細い方の鉄筋の継手長さとする

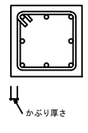
４．Ｄ２９以上の異形鉄筋は、原則として、重ね継手としてはならない

５．鉄筋径の差が７mmを超える場合は、圧接としてはならない



（４）かぶり厚さ　（単位：mm）

ひびわれ誘発目地部など鉄筋のかぶり、厚さが部分的に減少する箇所についても最少かぶり厚さを確保する。



部位			設計かぶり厚さ（mm）	最少かぶり厚さ（mm）
土に接しない部分	屋根スラブ 床スラブ 非耐力壁	屋内	30	20
		屋外	40 (1)	30（20）
	柱 はり 耐力壁	屋内	40	30
		屋外	50 (2)	40 （30）
	擁壁		50 (3)	40
土に接する部分	柱・はり・床スラブ・耐力壁		50	40 (4)
	基礎，擁壁		70	60 (4)

［注］（１）耐久性上有効な仕上げのある場合、工事監理者の承認を受けて３０mmとすることが出来る。

（２）耐久性上有効な仕上げのある場合、工事監理者の承認を受けて４０mmとすることが出来る。

（３）コンクリートの品質および施工方法に応じ、工事監理者の承認を受けて４０mmとすることが出来る。

（４）軽量コンクリートの場合は、１０mm増しの値とする。

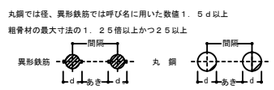
（５）（　）内は仕上げがある場合

（６）土に接する場合のかぶりは増加する厚さを打ち増しとする

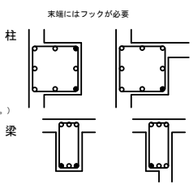
（５）鉄筋のあき

丸鋼では径、異形鉄筋では呼び名に用いた数値１．５ｄ以上

粗骨材の最大寸法の１．２５倍以上かつ２５mm以上



図の●印の鉄筋の重ね継手の末端にはフックが必要



（６）鉄筋のフック　（ａ～ｆに示す鉄筋の末端部にはフックをつける。）

ａ．丸鋼　ｂ．あばら筋、帯筋、幅止め筋　ｃ．煙突の鉄筋

ｄ．柱、梁（基礎梁は除く）の出すみ部分の鉄筋（右図参照）

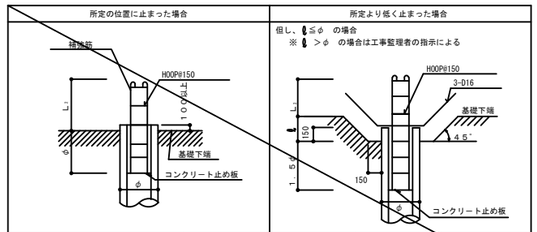
ｅ．単純梁の下端筋

ｆ．その他、本配筋標準に記載する箇所

３．　杭

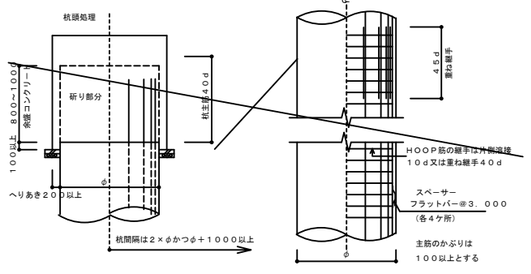
（地震力等の水平力を考慮する必要のある場合は、別途検討すること。）

（１）　ＰＲＣ杭、又はＰＨＣ杭の全てに補強を行う



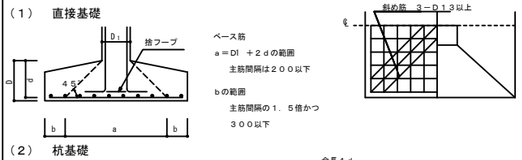
杭　径	３００φ，３５０φ	４００φ	４５０φ	５００φ	６００φ
補強筋	6-D13	8-D13	10-D13	8-D16	10-D16
HOOP	D10-#150				

（２）　現場打ちコンクリート杭



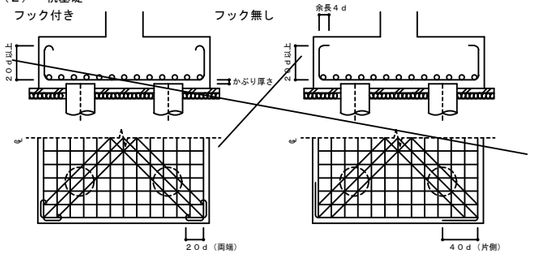
４．基　礎

（１）　直接基礎



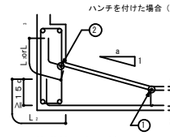
（２）　杭基礎

フック付き　　フック無し



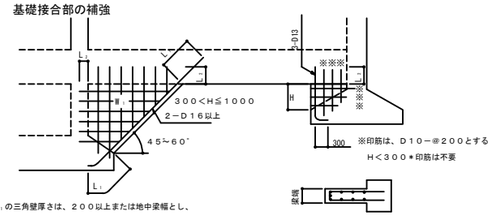
（３）　べた基礎

ハンチを付けた場合（a≧3）



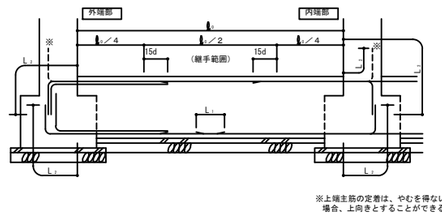
１．耐圧版鉄筋の継手位置は床スラブにならう
　但し上筋と下筋を読みかえる
２．①の鉄筋はスラブ主筋の径以上とする
３．②の鉄筋はＤ１３以上
４．埋戻し土のある場合は４０を７０とする

（４）　基礎接合部の補強

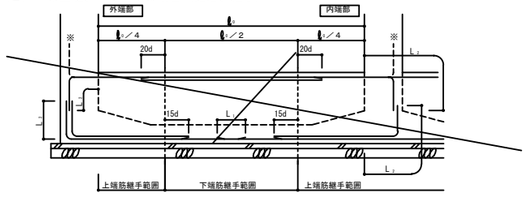


５．地中梁

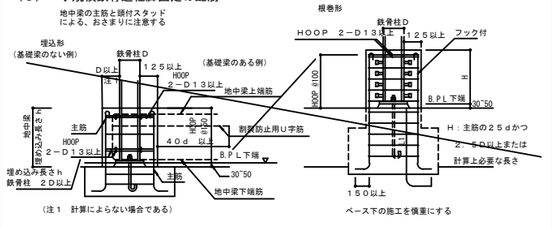
（１）　独立基礎、杭基礎の場合（定着、継手）



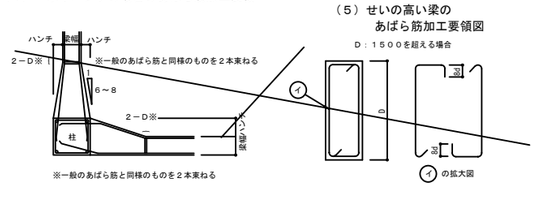
（２）　布基礎、べた基礎の場合（定着、継手）



（３）　小規模鉄骨造柱脚固定の配筋



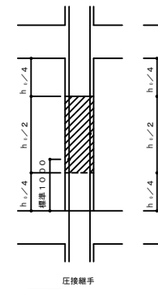
（４）　水平ハンチの場合のあばら筋加工要領



（５）せいの高い梁のあばら筋加工要領図

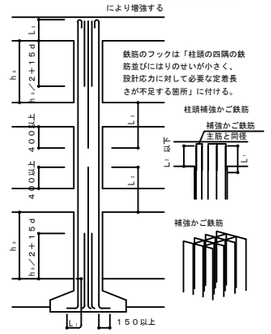
６．柱

（１）　柱主筋の継手

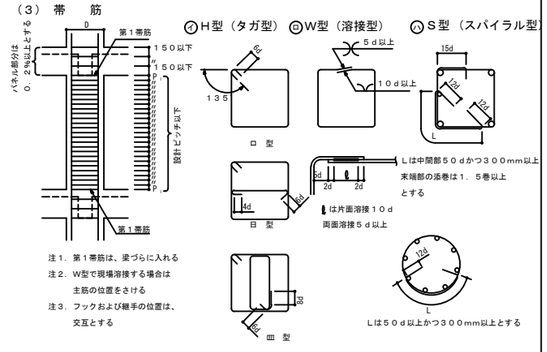


（２）　柱主筋の定着

柱、梁の定着Ｌ２以上が確保されない場合はかご鉄筋で補強、または特記により増強する

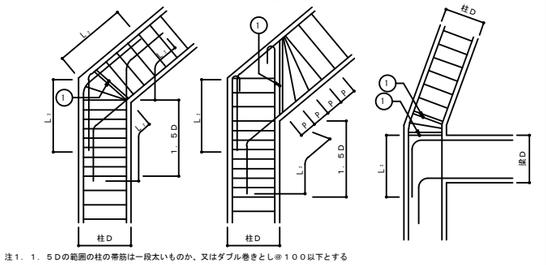


（３）　帯　筋



（４）　斜め柱・斜め梁

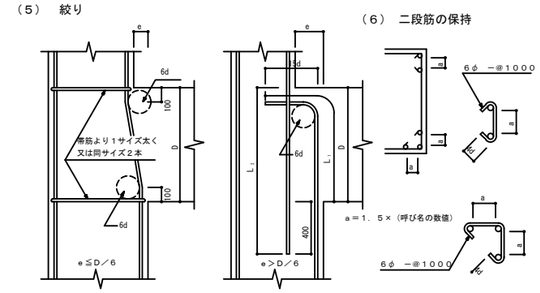
○柱幅と斜材（柱又は梁）幅が同一　　○柱幅と斜材幅が異なる　　○柱脚で斜材となる



注１．１．５Ｄの範囲の柱の帯筋は一段太いものか、又はダブル巻きとし＠１００以下とする

注２．①の鉄筋は２－Ｄ１３かつ、２本の一段太い鉄筋とする

（５）　絞り



（６）　ニ段筋の保持

施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1/2)		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	－	図面番号	8-234/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所		

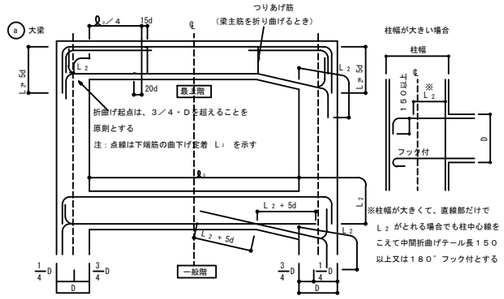
鉄筋コンクリート構造配筋標準図(2/2)

鉄筋コンクリート構造配筋標準図（２）

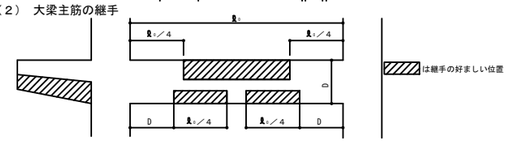
※修正箇所は下線を引くこと。
Ｌ＝本構造配筋標準図（１）の　２　－（３）による。

７．　大梁、小梁、片持梁

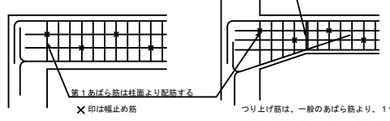
（１）　定着



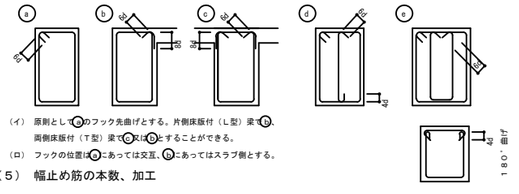
（２）　大梁主筋の継手



（３）　あばら筋、腹筋、幅止め筋の配置



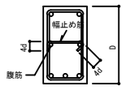
（４）　あばら筋の型　（注、床版がない場合は１３５° 以上のフックとする）



（イ）原則として a のフック先曲げとする。片側床版付（Ｌ型）梁で b、
両側床版付（Ｔ型）梁で c 又は d とすることができる。
（ロ）フックの位置は a にあっては交互、b にあっては スラブ側とする。

（５）　幅止め筋の本数、加工

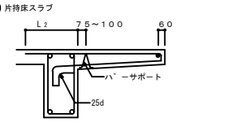
腹　筋	Ｄ＜６００　不要	
	６００≦Ｄ＜９００	２－Ｄ１０（９φ）１段
	９００≦Ｄ＜１２００	４－Ｄ１０（９φ）２段
	１２００≦Ｄ	Ｄ１０（９φ）＠３００以内
幅止め筋	Ｄ１０（９φ）＠１０００以内で割り付ける	



８．　床　板

（１）　定着及び継手

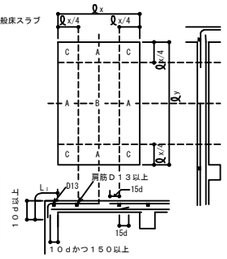
a 片持スラブ



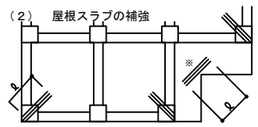
継手位置は原則として下表による。

		標準継手位置
上端筋	短　辺　方　向	B
	長　辺　方　向	B
下端筋	短辺・長辺方向	Ａ・Ｃ

b 一般床スラブ



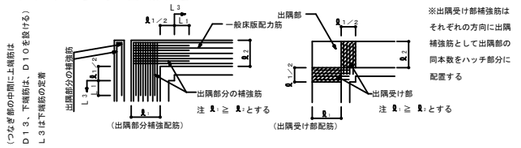
（２）　屋根スラブの補強



a 補強筋は各３－Ｄ１３又はスラブ主筋の同一
径で Q＝１，５００とし、上端筋の下に配筋する。
b ※の個所（入隅）は各階補強する。

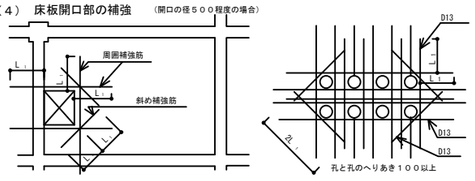
（３）　片持ちスラブ出隅部補強

注）出隅部の補強筋は、計算により算出する。



※出隅受け部補強筋は
それぞれの方向に出隅
補強筋として出隅部の
同本数をハッチ部分に
配置する

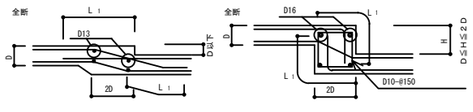
（４）　床板開口部の補強　（開口の径５００程度の場合）



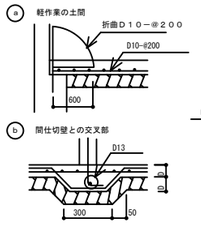
床板厚さＤ	周　囲	斜　め
Ｄ≦１５０	各２－Ｄ１３	各１－Ｄ１３
１５０＜Ｄ≦２００	各２－Ｄ１３	各２－Ｄ１３
２００＜Ｄ≦３００	各２－Ｄ１９	各２－Ｄ１６

注）設備の小開口が連続してあく場合
は縦、横、斜補強筋とは別に開口
によって切られる鉄筋と同じ鉄筋
を開口をさけて補強する。

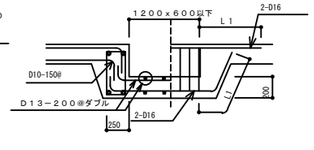
（５）　床板段差



（６）土間コンクリート



（７）釜場

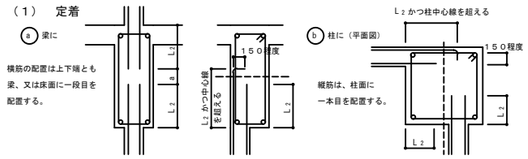


（８）打継ぎ補強　（ダメ穴打継面について）

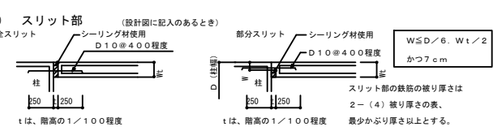
- 設計配筋間隔の１／２ピッチ　長さ２×Ｌ₁ 以上
- 無筋部分Ｄ１０－＠２００　長さ８００以上

９．　壁

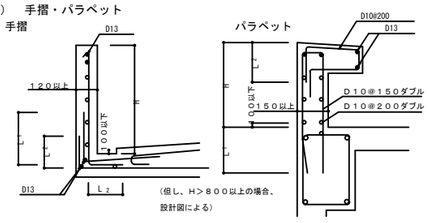
（１）　定着



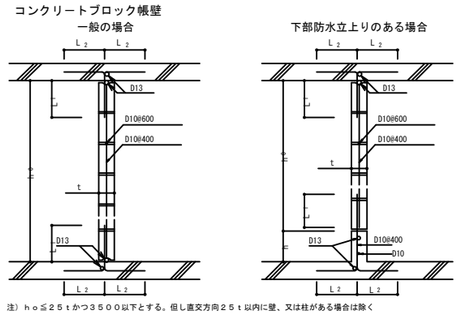
（２）　スリット部　（設計図に記入のあること）



（３）　手摺・パラペット



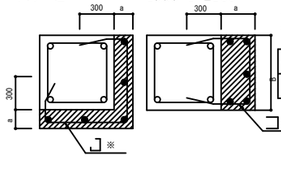
（４）　コンクリートブロック帳壁



注）ｈｏ≦２５ｔかつ３５００以下とする。但し直交方向２５ｔ以内に壁、又は柱がある場合は除く
注）ｈはコンクリートブロック段数調整寸法とする。但し、２００≦ｈ≦４００
注）縦手部は必ずモルタルを充てんすること

１０．柱、梁増打コンクリート補強　（増打するときは事前に設計者、及び工事監理者と打合せのこと）

（１）　柱

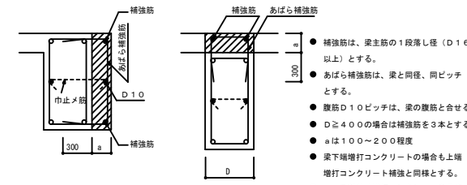


ハッチ部分は増打コンクリートを示す
ハッチ部分の面積　Ａcm²
補強タテ筋

Ａ＜５００	５００≦Ａ＜１０００	１０００≦Ａ＜１５００
3-D16	4-D16	6-D16

●印は補強筋
※柱と同径、同ピッチとする

（２）　梁

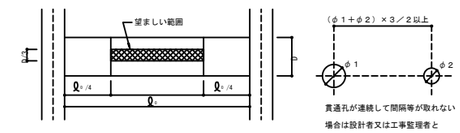


- 補強筋は、梁主筋の１段落し径（Ｄ１６以上）とする。
- あばら補強筋は、梁と同径、同ピッチとする。
- 腹筋Ｄ１０ピッチは、梁の腹筋と合せる。
- Ｄ≧４００の場合は補強筋を３本とする。
- ａは１００～２００程度
- 梁下端増打コンクリートの場合も上端増打コンクリート補強と同様とする。
- ハッチ部分は増打コンクリートを示す。

１１．梁貫通孔補強

（１）　設置可能範囲

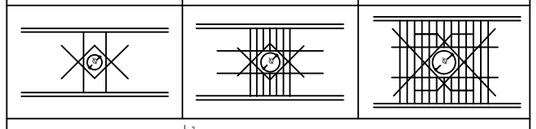
梁端部（スパンQ₀／１０以内かつ２Ｄ以内）は原則避ける

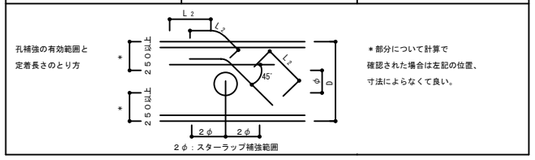


貫通孔が連続して開隣等が取れない
場合は設計者又は工事監理者と
打合せのこと

（２）鉄筋標準配筋　　但し　φ≦Ｄ／３　とする

８０≦φ≦１００	１００＜φ≦１５０	１５０＜φ≦２５０
折　筋　2-(2-D13)	折　筋　2-(2-D13)	斜　筋　4-(2-D13)
縦　筋　ST2-D13	縦　筋　ST2-D13-@50	縦　筋　ST2-D13-@50
	横　筋　2-(2-D13)	横　筋　2-(2-D13)
	上下縦筋　ST2-D13-@50	上下縦筋　ST2-D13-@50





＊部分について計算で
確認された場合は左記の位置、
寸法によらなくて良い。

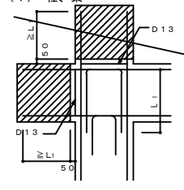
（３）　既製品　　（使用する際には、設計者又は工事管理者と打ち合わせのこと）

ウェブレン、ダイヤレン等　　日本建築センター評価取得品とする。
施工前に計算書を提出し、承認を得ること。

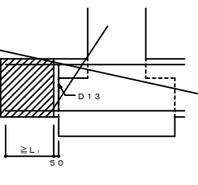
■ リング型　□ パイプ型　□ 金網型　□ プレート型

１２．増築予定　（将来増築予定のコンクリート増打ち部分は、増築時の鉄筋継手工法を考慮して措置する）

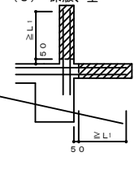
（１）　柱、梁



（２）　地中梁



（３）　床版、壁



施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	鉄筋コンクリート構造配筋標準図(2/2)		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	－	図面番号	8-235/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所		

鉄骨構造標準図(1/2)

鉄骨構造標準図（１）

※修正箇所は下線を引くこと。

１．一般事項

（１） 材料及び検査
- （ａ） 構造設計仕様による
- （ｂ） 適用範囲は、鋼材を用いる工事に適用し、かつ鋼材の厚さが４０mm以下のものとする
- （ｃ） 社内検査結果の検査報告書には、鉄骨の寸法、精度及びその他の結果を添付する

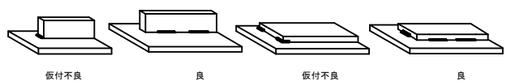
（２） 工作一般
- （ａ） 鉄骨製作及び施工に先立って「鉄骨工事施工要領書」を提出し工事監理者の承認を得る
- （ｂ） 鋼管部材の分岐継手部の相貫切断は、鋼管自動切断機による
- （ｃ） 高張力鋼の歪み矯正は、冷間矯正とする

（３） 高力ボルト接合
- （ａ） 本締めに使用するボルトと、仮締めボルトの併用はしてはならない

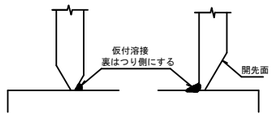
（４） 溶接接合
- （ａ） 溶接技能者
  溶接技能者は施工する溶接に適応するＪＩＳ Ｚ３８０１（手溶接）又はＪＩＳ Ｚ３８４１（半自動溶接）の溶接技能検定試験に合格し引き続き、半年以上溶接に従事している者とする
- （ｂ） 溶接機器
  （イ） 交流アーク溶接機 ３００Ａ～５００Ａ （ニ） 炭酸ガスアーク半自動溶接機
  （ロ） アークエアーガウジング機（直流） （ホ） 溶接電流を測定する電流計
  （ハ） サブマージアーク溶接機一式 （ヘ） 溶接棒乾燥器
- （ｃ） 溶接方法
  アーク手溶接 （ＭＣ） ガスシールドアーク半自動溶接 （ＧＣ）
  セルフ（ノンガス）シールドアーク半自動溶接（ＮＧＣ） アークエアーガウジング （ＡＡＧ）
- （ｄ） 溶接姿勢



- （ｅ） 組立て溶接技能者は、原則として本工事に従事する者が行う
  （イ） 仮付位置
  組立て溶接は溶接の始、終端、隅角部など強度上、工作上、問題となり易い箇所は避ける



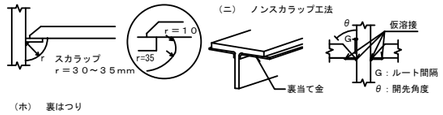
（ロ） 完全溶込み溶接部の仮付溶接は必ず裏はつり側に施工する



- （ｆ） 溶接施工
  （イ） エンドタブ
  Ⅰ） 完全溶込み溶接、部分溶込み溶接の両端部に母材と同厚で同開先形状のエンドタブを取り付ける
  Ⅱ）エンドタブの材質は、母材と同質とする
  Ⅲ）エンドタブの長さは、ＭＣ：３５mm以上 ３５mm以上
  ＮＧＣ，ＧＣ：４０mm以上とし特記のない場合は、溶接終了後、母材より１０mm程度残し切断して、グラインダー仕上げとする かつ２ｔ以上
  Ⅳ）プレス鋼板タブ、固形タブ使用については、資料を提出して設計者又は工事監理者の承認を得る



  （ロ） 裏当て金
  材質は母材と同質材料とし厚さは手溶接で６mm、半自動溶接で９mm以上とする
  （ハ） スカラップ 半径は３０～３５mmと、１０mmのダブルアールとする
  但し梁成がＤ＝１５０mm未満の場合の スカラップは ｒ＝２０mmとする



  （ホ） 裏はつり
  規準図の溶接においてＡＡＧと記載のある部分は全て、溶接監理者の確認を励行し、部材に確認マークをつける
  （ヘ） 現場溶接の開先面には、溶接に支障のない防錆材を塗付する。又、開先部をいためない様に、養生を行う

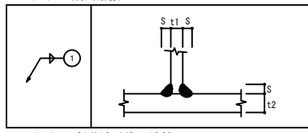
（５） 塗装
コンクリートに埋め込まれる部分及びコンクリートとの接触面で、コンクリートと一体とする設計仕様になっている部分は、塗装をしない

２．溶接規準図

（注）ｆ：余盛 Ｇ：ルート間隔 Ｒ：フェース Ｓ：脚長

（単位mm）

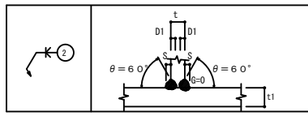
（１） 隅肉溶接



ｔ≦１６mm				
ｔ	７以下	８～１０	１１～１３	１４～１６
Ｓ	６	７	１０	１２

●但し片面溶接の場合はＳ＝ｔとする
ｔはｔ１，ｔ２の小なる方とする
余盛は（１＋０．１Ｓ）mm以下とする
●軸力が加わる場合のＳは母材と同厚とすることが望ましい

（２） 部分溶け込み溶接 （使用箇所に注意）

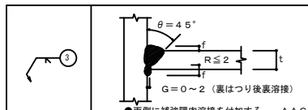


ｔ／４≦Ｓ≦１０mm
ｔ≦ｔ１

ｔ	ｔ>16mm
溶接姿勢	F,V

●両側に補強隅肉溶接を付加する

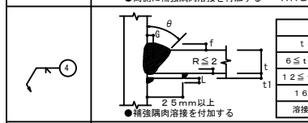
（３） 完全溶け込み溶接 （平継手 Ｔ形継手）



f=t/4

ｔ	6<t<19mm
溶接姿勢	F,V

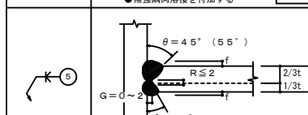
●両側に補強隅肉溶接を付加する ＡＡＧ



f=t/4

ｔ mm	MC NGC θ	MC NGC G	MC NGC t1	MC NGC L	GC θ	GC G	GC t1	GC L
６≦ｔ＜１２	４５°	６	６	５	４５°	６	６	５
１２≦ｔ＜１６	３５°	９	９	８	４５°	６	９	８
１６≦ｔ	３５°	９	９	８	３５°	９	９	８
溶接姿勢	F,V							

●補強隅肉溶接を付加する



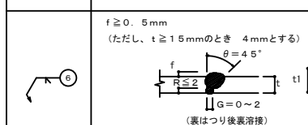
f=t/4

Ｔ形突合せ継手余盛

のど厚ｔ mm	余盛の高さmm
ｔ≦４	１
４＜ｔ≦１２	２
１２＜ｔ≦１９	３
１９＜ｔ	４

ｔ	ｔ≧19mm
溶接姿勢	F,V

●ＡＡＧ（）内はＧＣでＦ、Ｈの場合
●両側に補強隅肉溶接を付加する



a＞４mmの場合
（平継手で板厚が異なるとき）

●両側に補強隅肉溶接を付加する

ｔ	６＜ｔ≦19mm
溶接姿勢	F,V

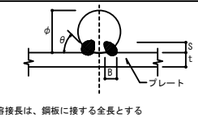


f=t/4

ｔ mm	MC NGC θ	MC NGC G	MC NGC t1	MC NGC L	GC θ	GC G	GC t1	GC L
６＜ｔ＜１２	４５°	６	６	５	４５°	６	６	５
１２≦ｔ≦１９	３５°	９	９	５	４５°	６	９	５
１９＜ｔ	３５°	９	９	８	３５°	９	９	８
溶接姿勢	F,V							

（４） フレアー溶接

K形の場合 ⑧

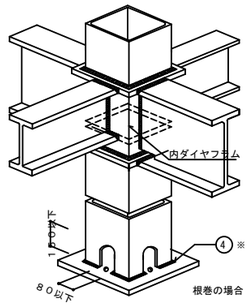


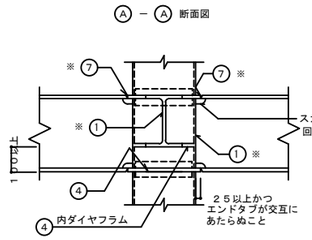
	寸法 (mm)		
φ	B	S
9	7	4
13	8	4.5
16	9	5
19	10	6
22	11	7
25	12	8

●フレアー溶接長は、鋼板に接する全長とする
●９mm～１６mmは１パス以上、１９mm以上は２パス以上とする
溶接棒角度θは３０°～４０°とする

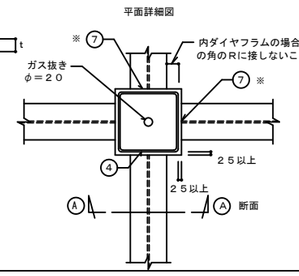
○溶接記号番号を○の中に記入のこと

●ＢＯＸ型 （通しダイヤフラムの場合）





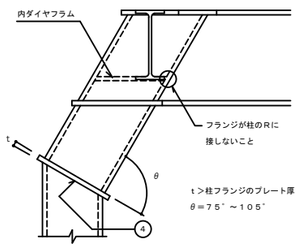
⑦ ※：はりフランジは、通しダイヤフラムの厚み（ｔ）の内部で溶接すること。



① ※：ｔ＞１６mmの場合の溶接は ② ・又は ③ ～ ⑤ とする

＜柱材料：ＢＣＲ２９５、ＢＣＰ３２５を使用する場合＞
通しダイヤフラムは、ＳＮ４９０Ｂ・Ｃ同等以上の鋼材を使用する。
通しダイヤフラム厚は、接合する柱、梁の最大厚の２サイズアップ以上とすること。

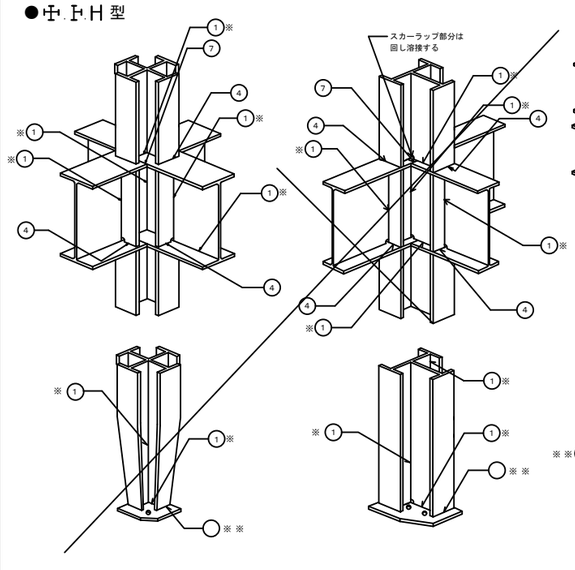
●柱が途中で折れる場合
及 梁成が異なる場合



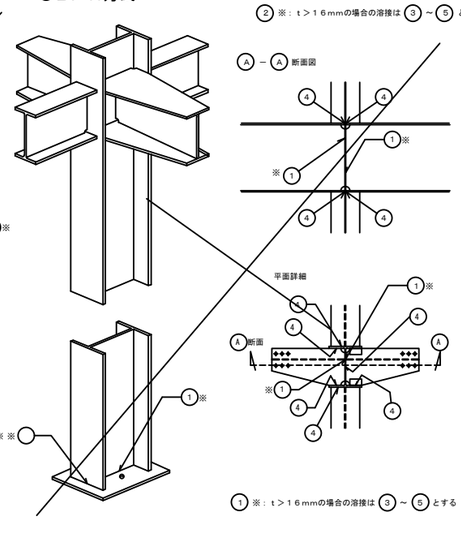
●鋼材種別による溶接条件

鋼材の種別	溶接材料	入熱（ｋＪ／ｃｍ）	パス間温度（℃）
４００Ｎ級鋼	ＪＩＳ Ｚ３２１１、３２１２、３２１４	４０以下	３５０以下
	ＹＧＷ－１１、１５		
	ＹＧＷ－１８、１９		
	ＹＧＡ－５０Ｗ、５０Ｐ		
４９０Ｎ級鋼	ＪＩＳ Ｚ ３２１２、３２１４	４０以下	３５０以下
	ＹＧＷ－１１、１５	３０以下	２５０以下
	ＹＧＷ－１８、１９	４０以下	３５０以下
	ＹＧＡ－５０Ｗ、５０Ｐ		

●中．H．H 型



●Ｂ．Ｈ方式



① ※：ｔ＞１６mmの場合の溶接は ② 又は ③ ～ ⑤ とする
○ ※※ 印は設計者が記入すること

施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	鉄骨構造標準図(1/2)		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	－	図面番号	8-236/319
作成者	関東農政局 両総農業水利事業所		

鉄骨構造標準図(2/2)

鉄骨構造標準図（２）

※修正箇所は下線を引くこと

３．継手規準図、その他

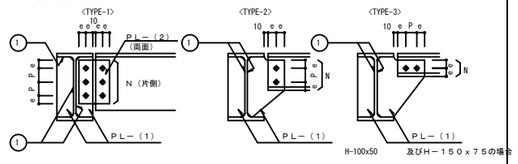
（１） ボルトピッチ（Ｐ）

ボルト穴径・最小縁端距離 (mm)

呼び		ボルト穴径	最小縁端距離（ｅ）				ピッチ（Ｐ）	
			(1)	(2)	(3)	(2)(3)の標準	最小	最大
M16		18	40	28	22	40	40	60
M20		22	50	34	26	40	50	60
M22		24	55	38	28	40	55	60
M24		26	60	44	32	45	60	70
アンカーボルト	M27	32		49	36			
	M30	35		54	40			
	M34以上	呼び＋５		9d/5	4d/3		アンカーボルト径（ｄ）	

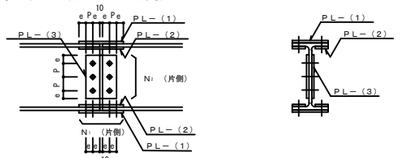
（注） （１） 引張材の接合部で応力方向にボルトが３本以上並ばない場合の応力方向の縁端距離
（２） せん断縁・手動ガス切断縁の場合の縁端距離
（３） 圧延縁・自動ガス切断縁・のこ引き縁・機械仕上縁の場合の縁端距離

（２） ピン接合梁継手リスト



符 号	タイプ	部 材	PL－(1)	PL－(2)	N － 径
	3	H－125・60・6・8	6		2-M16
	3	H－150・75・5・7	6		2-M16
	2	H－175・90・5・8	6		2-M16
	2	H－200・100・5．5・8	6		2-M16
	2	H－250・125・6・9	6		2-M20
	2	H－300・150・6．5・9	9		3-M20
	2	H－350・175・7・11	9		4-M20
	1	H－350・175・7・11	9	6	4-M20
	2	H－400・200・8・13	9		5-M20
	1	H－400・200・8・13	9	9	4-M20

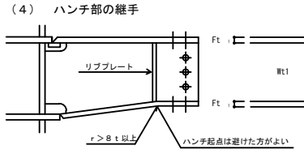
（３） 剛接合梁継手リスト （ＳＣＳＳ－Ｈ９７による）



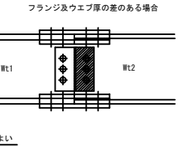
［注］端部をＢＨとする場合の部材は設計図による

符 号	部 材	フランジ			ウェブ	
		PL－(1)	PL－(2)	N↓－径	PL－(3)	N↓－径

（４） ハンチ部の継手



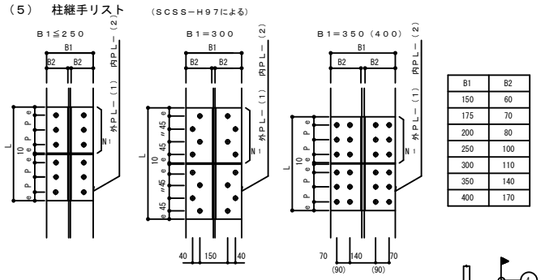
フランジ及ウエブ厚の差のある場合



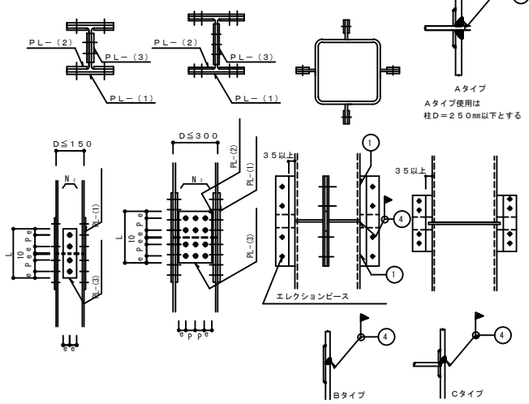
ハンチ勾配は普通１：４程度であるが構造図による
ｒ：半径 ｔ：板厚

Ft1-Ft2 / Wt1-Wt2 ≧ 1mm フィラプレート併用のこと

（５） 柱継手リスト （ＳＣＳＳ－Ｈ９７による）



B1	B2
150	60
175	70
200	80
250	100
300	110
350	140
400	170



注）現場溶接は原則として超音波探傷試験を１００%を行う

符 号	部 材	フランジ			ウェブ	
		PL－(1)	PL－(2)	N↓－径	PL－(3)	N↓－径

（６） 鉄筋ブレース （ＪＩＳ規格品とする・・・ＪＩＳ Ａ５５４０・・・１９８２／５５４１・５５４２・・・２００３）

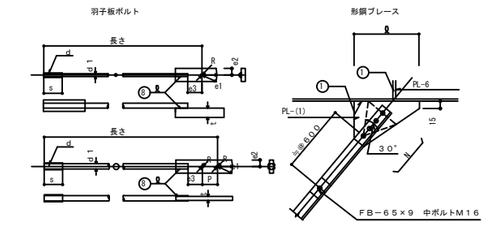
（ａ）羽子板ボルト

ねじの呼び （ｄ）			M12	M14	M16	M18	M20	M22	M24
軸径ｄ１	最 大		10.81	12.65	14.65	16.33	18.33	20.33	21.99
	最 小		10.64	12.46	14.46	16.11	18.11	20.11	21.77
調整ねじの長さ		S	100	115	125	140	150	165	175
取付けボルト穴径 許容差 ＋０．－０．５mm		R	13.0	17.0	17.0	21.5	21.5	23.5	21.5
はしあき（最小） （２）		e1	35	40	45	50	50	55	50
切板製	へりあき（最小）（１）	e2	22	28	28	34	34	38	38
	板厚	t	4.5	6	6	9	9	9	9
平鋼製	へりあき（最小）（１）	e2	19.0	25.0	25.0	32.5	32.5	37.5	37.5
	板厚	t	4.5	6	6	9	9	9	9
ボルト端から取付ボルト穴芯のあき （最小）		e3	47	52	59	66	66	73	70
溶接長さ （最小）		ℓ	40	50	55	60	75	85	85
取付ボルト（２）	種 類		ＪＩＳ Ｂ １１８６ ２種高力ボルト（Ｆ１０Ｔ）又は ＪＩＳ Ｂ １１８０ 中８ｇ １０．９						
	ねじの呼び		M12	M16	M16	M20	M20	M22	M20
	本 数		1	1	1	1	1	1	2

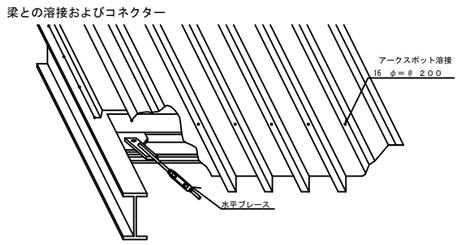
（注） （１） ｅ１，ｅ２が確保されていれば形状は自由でよい
（２） 羽子板とガセットプレートの接合は表に示す取付けボルトを使用し、一面せん断（支圧）接合とする

（ｂ）形鋼ブレース

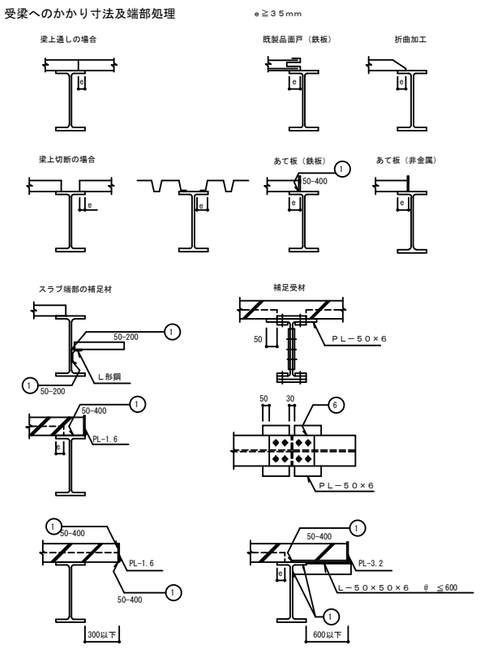
符 号	部 材	PL－(1)	N － 径	



（７） 一般デッキプレート （床剛性を考慮する合成床、合成梁のときは構造図参照）



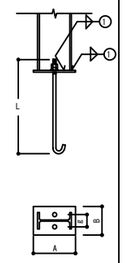
受梁へのかかり寸法及端部処理 e≧35mm



（８） 露出柱脚

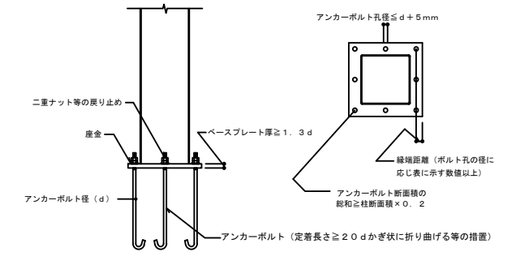
（ａ）H形鋼 （ピン接合）

符号	部材	アンカーボルト			ベースプレート			備考
		径	L	本数	厚	A	B	g	
	H－125・60・6・8	16	620	2	12	185	180	100	
	H－150・75・5・7	16	620	2	12	210	180	100	
	H－175・90・5・8	16	620	2	12	235	180	100	
	H－200・100・5．5・8	16	620	2	12	260	180	100	
	H－250・125・6・9	16	620	2	16	310	180	100	
	H－148・100・6・8	16	620	2	12	210	180	100	
	H－194・150・6・9	20	730	2	16	255	200	120	
	H－100・100・6・8	16	620	2	12	160	180	100	
	H－125・125・6．5・9	20	730	2	16	185	180	100	
	H－150・150・7・10	20	730	2	16	210	200	120	



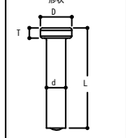
（ｂ）固定・半固定 （許容応力度等計算を行わない場合）

注）表は３。（１）の（ｅ）欄に示す



（９） 頭付きスタッド (JIS 1198)

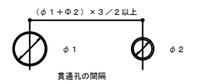
スタッド材の標準形状・寸法

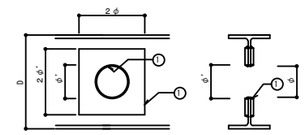


呼び名	スタッド材 軸径ｄ mm	頭径Ｄ mm	頭高さＴ mm	溶接後の長さＬ mm
φ１３mm	13.0	22.0	10.0	50, 80, 100, 130
	12.7	25.4	7.9	
φ１６mm	16.0	29.0	10.0	80, 100, 130
	15.8	31.7	7.9	
φ１９mm	19.0	32.0	10.0	80, 100, 130, 150
	19.0	31.7	9.5	
φ２２mm	22.0	35.0	10.0	100, 130, 150
	22.2	34.9	9.5	

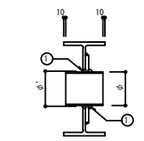
（１０） 梁貫通補強

- 計算で確認された場合は下記の位置、寸法によらなくて良い。
- 梁端部（スパンの ℓ／１０以内かつ２Ｄ以内）は避ける。
- φ ≦ ０．４Ｄ
- φ' は補強筋の穴径を示す。

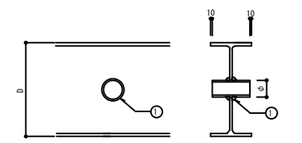




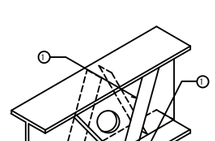
貫通孔の間隔



プレート補強（片面又は両面）



パイプとプレート補強（片面）



パイプ補強（小径の場合）

プレート補強の板厚

スリーブ径	補 強 板
φ≦０．１５Ｄ	補強板不要
φ≦Ｄ／４	Ｗｅｂ板厚以上（片面）
φ≦Ｄ／３	Ｗｅｂ板厚×１．２倍以上（片面）
φ≦０．４Ｄ	Ｗｅｂ板厚以上（両面）

施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	鉄骨構造標準図(2/2)		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	－	図面番号	8-237/319
作成者	関東農政局 両総農業水利事業所		

柱脚工法設計・施工標準図　　ISベース(Sシリーズ)同等品

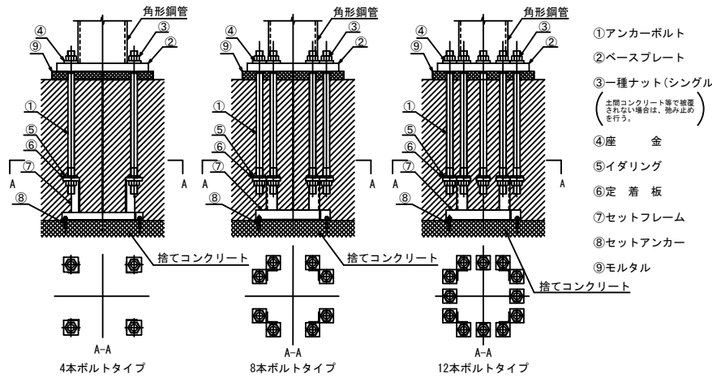
日本建築センター鋼構造評定委員会評定　　ＢＣＪ評定－ＳＴ０１１２-０３　（平成２０年１１月２１日）
国土交通大臣認定及び指定　MBLT－００６６(平成１８年７月６日)，国住指第５８０-２号(平成１８年７月６日)

適用柱材
□１５０×１５０～
□５５０×５５０用

基準強度(N/mm²)
２３５
２９５
３２５

平成２１年５月作成

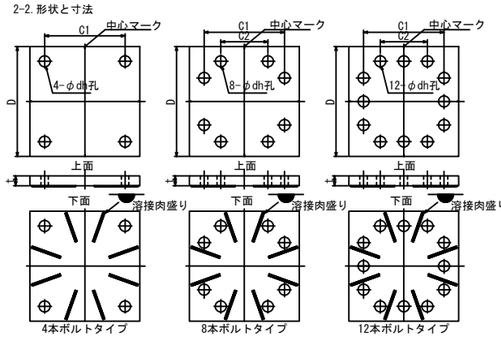
1. 構造概要



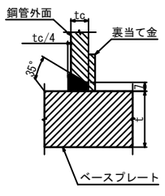
2. ベースプレート

2-1. 材質　（ベースプレート厚がさ40mm以下または
建築構造用圧延鋼材：SN490B　ベースプレート厚が40mmを超える場合は、柱材の基準強度が295N/mm² 以下）
建築構造用認定鋼材：TMCP325B　（使用制限なし）

2-2. 形状と寸法



2-3. 角形鋼管との溶接要領

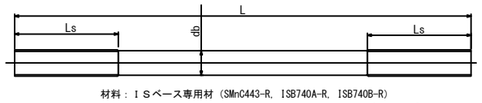


溶接施工　溶接施工に関しては、「日本建築学会；建築工事標準仕様書 JASS 6 鉄骨工事」に準じる。

◆注意◆　ベースプレートは
"中心マーク"のある面が上面(鋼管取付面)
"溶接突起"のある面が下面(底面)

3. アンカーボルト・ナット・座金・定着板

3-1. アンカーボルト

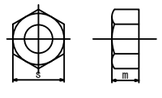


材料：ＩＳベース専用材（SMnC443-R, ISB740A-R, ISB740B-R）

品番	呼び径	ピッチ	db	L	Ls
A1	M24	3.0	21.9～22.0	595	100
A2	M30	3.5	27.6～28.0	605	115
A31	M36	4.0	33.0～33.2	675	130
A32	M36	4.0	33.0～33.2	725	130
A33	M36	4.0	33.0～33.2	775	130
A41	M42	4.5	38.8～38.9	745	145
A42	M42	4.5	38.8～38.9	845	145
A43	M42	4.5	38.8～38.9	945	145
A51	M48	5.0	44.6～45.0	965	160
A52	M48	5.0	44.6～45.0	1015	160
A53	M48	5.0	44.6～45.0	1115	160

3-2. ナット

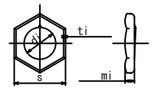
種　　類：　1種六角ナット　JIS B 1181
強度区分：　JIS B 1052 8以上



呼び径	s	m
M24	36	19
M30	46	24
M36	55	29
M42	65	34
M48	75	38

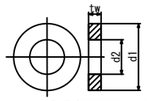
3-3. イダリング

材質：　JIS G3101 SS400 または
JIS G4305 SUS304



呼び径	s	di	ti	mi
M24	36	22.5	1.5	5
M30	46	28.5	2.0	7
M36	55	33.9	2.0	8
M42	65	39.6	2.3	9
M48	75	45.3	2.3	11

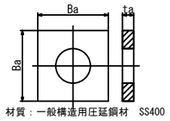
3-4. 座金



材質：一般構造用圧延鋼材　SS400

品番	d1	d2	tw
C1	52	25	9
C2	58	31	12
C3	68	37	16
C4	78	43	19
C5	90	50	19

3-5. 定着板



材質：一般構造用圧延鋼材　SS400

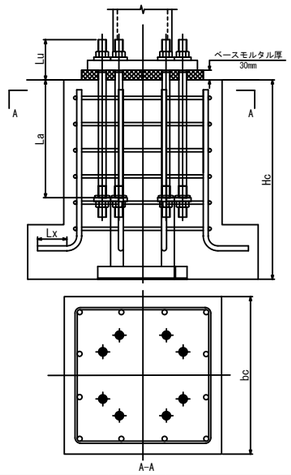
品番	Ba	d	ta
P1	50	26	9
P2	65	32	12
P3	75	38	16
P4	85	44	19
P5	95	50	22

4. コンクリート柱形

4-1. 使用材料

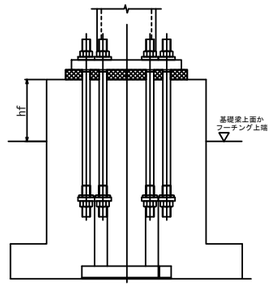
コンクリート：　Fc=21N/mm² 以上
鉄　　筋　：　SD295（D16以下に適用）
　　SD345（D19以上に適用）

4-2. 形状・配筋



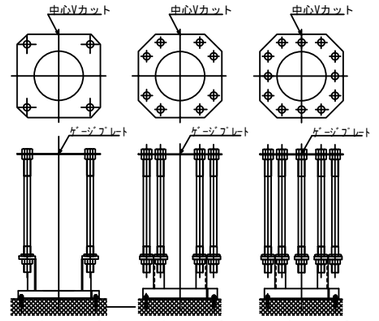
4-3. 基礎立上りがある場合

柱形の配筋が、標準の場合
基礎立上り高さ（hf）は250mm以下とする。



主筋、帯筋の径・本数は、標準柱形の場合を示す。
柱形の幅(bc)を拡げた場合、主筋の断面積の和は、コンクリートの断面積の0.8%以上、帯筋比は、0.2%以上とする。

5. 施工



アンカーボルト据付図

5-1. 施工打ち合わせ
5-2. （捨てコンクリートの打設）
5-3. （墨出し）
5-4. アンカーボルト据付
5-5. （配筋・型枠）
5-6. （コンクリート打設前検査）
5-7. （コンクリート打設）
5-8. （鉄骨建方・アンカーボルトの本締）
5-9. ベースモルタルの充てん
　　アンカーボルトの締付確認
5-10. （充てん型枠脱型・廃棄）

6. 施工管理

施工は、施工マニュアルに準じて行い、施工後「チェックシート」により、
許容範囲内にあることを確認する。

※１　柱材は、指定JIS規格品または大臣認定品とする。

採用	柱脚記号	ボルトタイプ	適用柱サイズ 柱材※1の基準強度(N/mm²) 235	295	325	ベースプレート 品番	D	C1	C2	dh	t	アンカーボルト 品番	座金 品番	定着板 品番	柱部（標準） Lu	La	Hc	bc	主筋	帯筋	Lx
	Ｓ１５	4本	□150×150×9以下	□150×150×6以下	*	SP15	290	210		36	25	A1	C1	P1	125	410	500以上	460	8-D16	D10@150	160
	Ｓ１５１	4本	□150×150×12以下	□150×150×12以下	*	SP151	310	210		42	32	A2	C2	P2	135	400	500以上	490	12-D16	D13@150	160
	Ｓ１７	4本	□175×175×9以下	□175×175×6以下	*	SP17	320	230		42	25	A2	C2	P2	135	400	500以上	500	12-D16	D13@150	160
	Ｓ１７１	4本	□175×175×12以下	□175×175×12以下	*	SP171	340	240		50	32	A31	C3	P3	155	440	550以上	530	12-D16	D13@150	160
	Ｓ２００	4本	□200×200×9以下	□200×200×9以下	*	SP200	350	260		50	32	A31	C3	P3	155	440	550以上	550	12-D19	D13@150	190
	Ｓ２０１	4本	□200×200×12以下	□200×200×12以下	*	SP201	360	260		50	36	A31	C3	P3	155	440	550以上	550	12-D19	D13@150	190
	Ｓ２５０	4本	□250×250×6以下	□250×250×6以下	*	SP250	400	310		50	28	A31	C3	P3	155	440	550以上	600	12-D19	D13@150	190
	Ｓ２５１	4本	□250×250×9以下	□250×250×9以下	*	SP251	420	310		50	32	A31	C3	P3	155	440	550以上	600	12-D19	D13@150	190
	Ｓ２５２	4本	□250×250×12以下	□250×250×12以下	*	SP252	430	310		58	36	A41	C4	P4	175	480	600以上	620	16-D19	D13@150	190
●	Ｓ２５３	8本	□250×250×16以下	□250×250×16以下	*	SP253	460	350	200	50	40	A32	C3	P3	155	490	600以上	650	16-D22	D13@150	220
	Ｓ３０１	4本	□300×300×9以下	□300×300×9以下	*	SP301	460	360		58	36	A41	C4	P4	175	480	600以上	680	12-D22	D13@150	220
	Ｓ３０２	8本	□300×300×12以下	□300×300×12以下	□300×300×9以下	SP302	500	400	250	50	40	A32	C3	P3	155	490	600以上	730	16-D22	D13@150	220
	Ｓ３０３	8本	□300×300×16以下	□300×300×16以下	□300×300×12以下	SP303	510	410	240	58	45	A42	C4	P4	175	580	700以上	730	20-D22	D13@150	220
	Ｓ３０４	8本	□300×300×19以下	□300×300×19以下	□300×300×16以下	SP304	550	420	250	58	50	A42	C4	P4	175	580	700以上	750	20-D25	D13@100	250
	Ｓ３５１	8本	□350×350×12以下	□350×350×12以下	**□350×350×9以下**	SP351	560	460	290	58	40	A43	C4	P4	175	680	800以上	780	20-D22	D13@100	220
	Ｓ３５２	8本	□350×350×16以下	□350×350×16以下	**□350×350×12以下**	SP352	620	470	300	58	50	A43	C4	P4	175	680	800以上	800	20-D22	D13@100	220
	Ｓ３５３	8本	□350×350×19以下	□350×350×19以下	□350×350×16以下	SP353	620	470	280	66	50	A51	C5	P5	195	670	800以上	800	20-D25	D13@100	250
	Ｓ３５４	8本	□350×350×22以下	□350×350×22以下	□350×350×19以下	SP354	640	480	290	66	55	A51	C5	P5	195	670	800以上	800	24-D25	D13@100	250
	Ｓ４０１	8本	□400×400×12以下	□400×400×12以下	**□400×400×9**以下	SP401	610	510	340	58	45	A43	C4	P4	175	680	800以上	840	20-D22	D13@100	220
	Ｓ４０２	8本	□400×400×16以下	□400×400×16以下	□400×400×12以下	SP402	650	520	330	66	50	A52	C5	P5	195	720	850以上	850	20-D25	D13@100	250
	Ｓ４０３	8本	□400×400×19以下	□400×400×19以下	□400×400×16以下	SP403	710	540	350	66	55	A52	C5	P5	195	720	850以上	900	24-D25	D13@100	250
	Ｓ４０４	8本	□400×400×22以下	□400×400×22以下	□400×400×19以下	SP404	740	600	410	66	65	A52	C5	P5	195	720	850以上	920	24-D25	D13@100	250
	Ｓ４５１	8本	□450×450×12以下	□450×450×12以下	**□450×450×9**以下	SP451	700	580	410	58	50	A43	C4	P4	175	680	800以上	900	20-D25	D13@100	250
	Ｓ４５２	8本	□450×450×16以下	□450×450×16以下	□450×450×12以下	SP452	730	600	410	66	55	A53	C5	P5	195	820	950以上	920	24-D25	D13@100	250
	Ｓ４５３	8本	□450×450×19以下	□450×450×19以下	□450×450×16以下	SP453	800	660	470	66	65	A53	C5	P5	195	820	950以上	1000	28-D25	D13@100	250
	Ｓ４５４	8本	□450×450×22以下	□450×450×22以下	□450×450×19以下	SP454	840	710	520	66	70	A53	C5	P5	195	820	950以上	1050	28-D25	D13@100	250

施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	ベース柱脚法設計・施工標準図		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	-	図面番号	8-238/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所		

合成スクラブ設計・施工標準仕様書

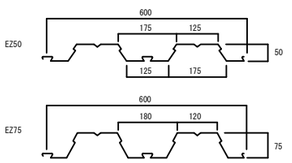
合成スラブ設計・施工標準仕様書（日鐵スーパーＥデッキ同等品）

合成スラブの設計・施工は（社）日本鉄鋼連盟編「デッキプレート床構造設計・施工規準－２００４」（社）日本建築学会編「各種合成構造設計指針・同解説」、（社）日本建築学会編「建築工事標準仕様書・同解説のうちＪＡＳＳ５鉄筋コンクリート工事及びＪＡＳＳ６鉄骨工事」、合成スラブ工業会編「大臣認定・無被覆耐火構法　合成スラブの設計・施工マニュアル」、日鐵デッキプレートカタログ及び設計・施工便覧による。

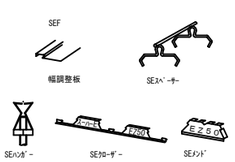
１．　設　　計

デッキプレート	種類	● ＥＺ５０　□ ＥＺ７５
	板厚　（mm）	● １．２　□ １．６
	表面処理	● Ｚ１２　□ Ｚ２７　□ 無し　□ [　] □ 塗装（ＪＩＳ　Ｋ５６２１　３種相当品／一次塗装：裏面のみ）
コンクリート	種類	● 普通　□ 軽量１種　□ 軽量２種
	設計基準強度　（Ｎ／mm²　）	● １８　□ ２１　□ [　]
	デッキ山上厚さ　（mm）	□ ７０　□ ８０　□ ８５　□ ９０ ● 50～110　[　屋　根　]　● 80～90　[　床　]
溶接金網または異形鉄筋	溶接金網　（ＪＩＳ　Ｇ３５５１）	●φ６－１５０　□φ６－１００　□ [　]
	異形鉄筋（ＪＩＳ Ｇ３１１２，３１１７）	□ Ｄ１０－２００　□ [　]
スーパーＥデッキ用システム部品		□ ＳＥスペーサー　□ ＳＥハンガー
デッキプレート端部仕様		□ エンクロ　□ 小口フサギ
梁との接合形式	種　類	注　　記
	□ 頭付きスタッド	径、長さ、ピッチは構造図による。梁とデッキとの接合はアークスポット溶接等による。（焼抜き栓溶接は不要）
	● 焼抜き栓溶接	● ＳＰＷ　：標準溶接径　１８mm以上 □ ＰＷ・ＡＰＷ：標準溶接径　２５mm　※溶接位置等は特記による
	□ びょう打ち	接合位置は特記による。構造認定を受けた発射打込みびょうを使用すること。
	□ その他	

デッキプレート形状・寸法



システム部品



２．　耐　火　設　計

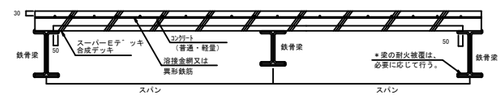
耐火区分	認定番号	認定条件 使用条件 支持条件	許容スパン（m）	許容荷重（kN/m²）	断面仕様 デッキプレート	コンクリート厚さ（mm）	ひび割れ拡大防止筋	はり構造 S造	はり構造 RC造 SRC造
□ 床２時間	FP120FL-9108	連続支持	２．７ 以下	＜式１＞	EZ50	普通９５以上	φ６－１００×１００または D10-２００×２００	○	－
						軽量８５以上		○	－
			３．４ 以下	＜式２＞	EZ75	普通９０以上		○	－
						軽量８５以上		○	－
			３．６ 以下	5.4		普通９５以上	D10-２００×２００	○	－
						軽量９０以上		○	－
	FP120FL-9114	単純支持	２．７ 以下	＜式１＞	EZ50	普通９５以上	φ６－１００×１００または D10-２００×２００	○	○
						軽量８５以上		○	－
			３．４ 以下	＜式２＞	EZ75	普通９０以上		○	○
						軽量８５以上		○	－
● 床１時間	FP060FL-9096	連続支持	３．０ 以下	＜式１＞	EZ50	普通８０以上	φ６－１５０×１５０または D10-２００×２００	○	－
						軽量８０以上		○	－
			３．４ 以下	＜式２＞	EZ75	普通８０以上		○	－
						軽量８０以上		○	－
			３．６ 以下	4.4		普通９０以上	φ６－１００×１００または D10-２００×２００	○	－
	FP060FL-9102	単純支持	２．７ 以下	＜式１＞	EZ50	普通８０以上	φ６－１５０×１５０または D10-２００×２００	○	○
						軽量８０以上		○	－
			３．４ 以下	＜式２＞	EZ75	普通８０以上		○	○
						軽量８０以上		○	－

＜式１＞　Ｗ ＝ ５．４×（２．７／Ｌ²）
＜式２＞　Ｗ ＝ ５．４×（３．４／Ｌ²）

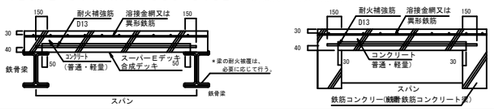
（注）　式中の「Ｗ」は許容荷重（ｋＮ／m²　）．「Ｌ」は支持長さ（ｍ）を表す。
また、Ｗが９．８を超える場合は９．８とする。

※注意
＊１　許容スパンは、鉄骨梁で支持する場合はその芯間距離とし、ＲＣ梁で支持する場合は梁の内法寸法とすること。本表の許容スパンは耐火認定の条件であるので、別途施工時の許容スパンを確認すること。
＊２　許容荷重は、スラブ自重（デッキプレート＋コンクリート＋鉄筋）を差引いた数値である。
＊３　鉄筋比は、０．２％以上としなければならないので、同時打ちでスラブ増打ちをする場合は注意すること。
＊４　デッキプレートの波へののみ込み代を３０mm以上とすること。端部補強（Ｄ１３以上、Ｌ＝１m）を梁への定着長さ１５０mmで配しすること。
ただし、耐火補強筋（＊６　参照）を用いる場合は端部補強筋は不要。
＊５　スパンが３．４mを超える場合は、梁との接合を頭付きスタッド（径１６mm以上、ピッチ３００mm以下）を使用すること。
＊６　耐火補強筋（Ｄ１３）をデッキプレートの各溝中央にかぶり４０mmで配すること。
＊７　この耐火条件に適合しない場合は、ＦＰ０６０ＦＬ－９１２８あるいはＦＰ１２０ＦＬ－９１２９（吹付けロックウール被覆耐火構造）を適用すること。

＜ＦＰ１２０ＦＬ－９１０８又はＦＰ０６０－９０９６（連続支持）＞



＜ＦＰ１２０ＦＬ－９１１４又はＦＰ０６０－９１０２（単純支持）耐火補強筋タイプ＞



３．　施　　工

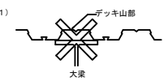
①―割付け計画
工法・工程・割付け計画をたてる。

②―搬入・保管・揚重・仮置・墨出し
（ａ）揚重は２点吊りとし、デッキプレートをワイヤで傷つけないようにする。
（ｃ）梁上を清掃し、所定の位置に墨出しをする。

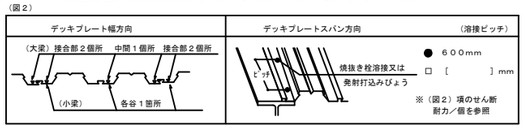
③―敷込み・仮止め
（ａ）デッキ相互をカン合させながら敷込む。
（接合部で幅調整をしてはならない。）
（ｂ）幅方向の調整は、幅調整板（フラッシング）を用いる。
（ｃ）デッキプレートと大梁との接合ができるように、デッキプレート山部が梁上にこないように納める。（図１）

④―デッキプレートと梁との接合
（ａ）敷込み完了後風等で飛ばないように、デッキと梁とをアークスポット溶接等で接合する。
（ｂ）頭付きスタッドの施工は　ＪＡＳＳ６　による。
（ｃ）焼抜き栓溶接の施工位置は特記による。特に指定がない場合には、図２の要領で行う。
（ｄ）発射打込みびょうの施工は発射打込みびょうメーカーの施工要領による。施工位置は特記による。
※構造認定を受けた発射打込みびょうメーカー：日本ヒルティ（株）、日本ドライブイット（株）

（図１）



（図２）



（ｅ）焼抜き栓溶接の溶接条件及び溶接機器仕様

溶接方法 / 項目	焼抜き栓溶接（ＳＰＷ）		自動焼抜き栓溶接（ＡＰＷ）	
溶接作業者資格	ＪＩＳ　Ｚ　３８０１基本級以上又は ＪＩＳ　Ｚ　３８４１基本級以上		ＪＩＳ　Ｚ　３８４１　基本級以上	
溶接棒及び溶接材料	低水素系溶接棒φ４mm		ワイヤ：ＹＧＷ１１、１２　φ１．２　ガス：CO_2	
溶　接　機	交流アーク溶接機ＡＷ２５０Ａ以上又はエンジン溶接機２３０Ａ以上		専用溶接機（３５０Ａ）	
標準溶接条件 デッキ板厚（mm）	1.2	1.6	1.2	1.6
梁フランジ板厚（mm）	６　以上	――	６～９未満　９　以上	６～９未満　９　以上
溶接　電流（Ａ）	１９０～２３０	――	３００～３２０	３００～３２０
溶接　電圧（Ｖ）	――	――	３３～３５	３４～３６
アークタイム（ｓｅｃ）	８～１２	――	３．０～４．０　１度打ち ３．５～４．０　２度打ち	３．５～４．５　１度打ち ４．０～４．５　２度打ち
溶接径（mm）	１８　以上	――	――	２５±３
１箇所当りのせん断耐力（単位　ＫＮ）	7.35	11.025	7.35	10.290

⑤―小口ふさぎ・コンクリート止め
小口ふさぎはデッキプレートの溝をふさがない独立したものを使用する。
（図３）　又は、エンドクローズ製品を用いる。

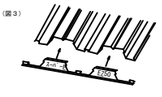
⑥―開口部補強
開口部まわりは必ず鉄筋等で補強する。（５．開口補強を参照。）

⑦―溶接金網又は異形鉄筋
（ａ）規定のサイズを床全面に配筋する。　（図４）
（ｂ）かぶり厚さを確保するスペーサーを１m以内に設置する。
（ｃ）溶接金網の継手は（１メッシュ＋５０mm）以上重ねる。（図５）
（ｄ）異形鉄筋の継手はＪＡＳＳ５による。

⑧―コンクリート打設
（ａ）コンクリート打設前にデッキプレート面を充分清掃する。
（ｂ）単位水量の少ないスランプの小さいコンクリートを入念に打設する。

⑨―養　生
（ａ）コンクリートの初期乾燥収縮を防ぐ為、湿潤養生する。
（ｂ）コンクリートの強度ができるまでは、床面に重量物を置いたり振動を与えたりしない。

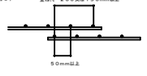
（図３）



（図４）

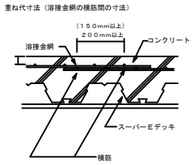


（図５）

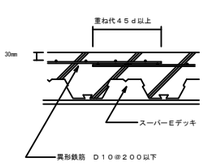


４－１．　溶接金網又は異形鉄筋の納り（共通）

＜溶接金網＞
重ね代寸法（溶接金網の横筋間の寸法）

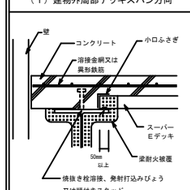


＜異形鉄筋＞

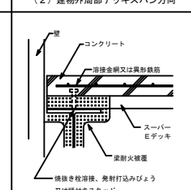


４－２．　標準納まり：Ｓ造（鉄骨造）の場合

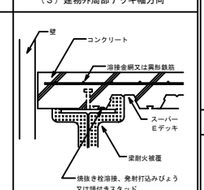
（１）建物外周部デッキスパン方向



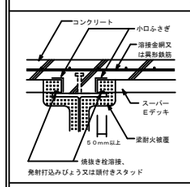
（２）建物外周部デッキスパン方向

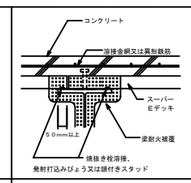


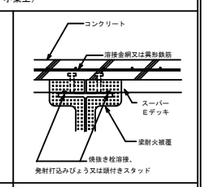
（３）建物外周部デッキ幅方向



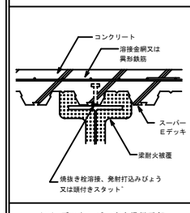
（４）デッキスパン方向（建物内部の大梁、小梁上）



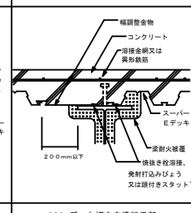




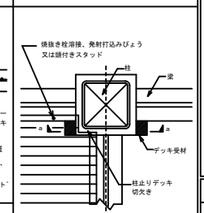
（５）デッキ幅方向デッキ連続



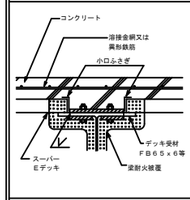
（６）デッキ幅方向デッキ振り分け



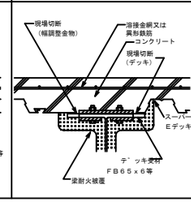
（７）柱廻り

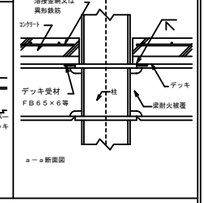


（８）デッキスパン方向梁継手部

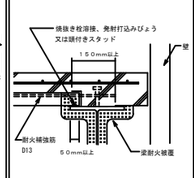


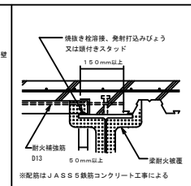
（９）デッキ幅方向梁継手部



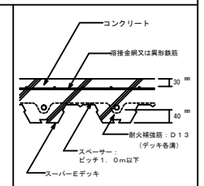


（１０）耐火補強筋の納まり（ＦＰ１２０ＦＬ－９１１４，ＦＰ０６０ＦＬ－９１０２）





※配筋はＪＡＳＳ５鉄筋コンクリート工事による

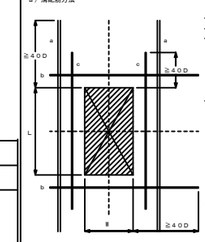


５．　開　口　部　補　強　（例）

合成スラブの開口部補強

★スーパーＥデッキとＥデッキで合成スラブの開口補強方法が異なる。
★原則としてコンクリート硬化後にデッキプレートを切断し、孔あけ（箱抜き）とする。
★先に孔をあける場合は、支保工を用いるか小梁でコンクリート打設時に必ずデッキを補強する。
★合成スラブ開口周辺の上端には開口補強（Ｄ１０以上）を施す。
★本仕様の範囲外の場合は、イ）小梁を設ける、ロ）鉄筋コンクリートスラブとして補強する等の処置を施す。

ａ）溝配筋方法

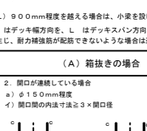


・定着長さ：開口端より４０Ｄ以上
・かぶり　：３０mm以上
・記号　ａ：耐力補強筋（上下端共）
ｂ：開口補強（配力筋）、Ｄ１３以上
ｃ：開口補強、Ｄ１０以上
ｄ：耐火補強筋、Ｄ１３以上

・耐力補強筋の所要断面積：

$$a_t = \frac{M}{f_t \cdot j}$$

Ｍ：開口によって生じる鋼床スラブの増加曲げモーメント



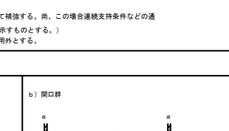
ｂ）耐火補強筋を切断する場合

・耐火補強筋　ｄ：

ｎ	1	2	3
ａｄ	D16	D19	D22 or 2-D16

ｎ：　切断された耐火補強筋の本数
ａｄ：　所要鉄筋サイズ

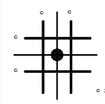
・所要配筋量は、ａｔ　又は　ａｄ　の大きい方。



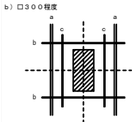
ｃ）開口の大きさが幅（ｗ）６００mm、奥行き（Ｌ）９００mm程度を越える場合は、小梁を設けて補強する。尚、この場合合連続支持条件などの通則的耐火指定による条件に留意する。　（Ｗ　はデッキ幅方向を、Ｌ　はデッキスパン方向を示すものとする。）
ｄ）連続して３谷（デッキ溝）以上に渡って開口が生じ、耐力補強筋が配筋できないような場合は適用外とする。

（Ａ）箱抜きの場合

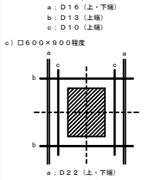
１．開口が独立している場合
ａ）φ１５０mm程度



ｂ）□３００程度

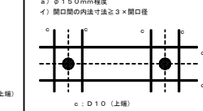


ｃ）□６００×９００程度

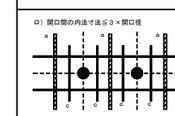


２．ｂ）開口部と同様の補強筆とする。

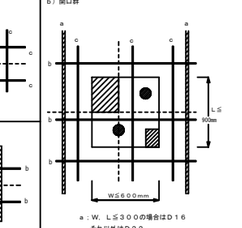
２．開口が連続している場合
ａ）φ１５０mm程度
イ）開口間の内法寸法≦３×開口径



ロ）開口間の内法寸法≦３×開口径

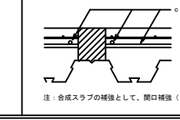


ｂ）開口群



（Ｂ）コンクリート打設前にデッキプレートを切断し、孔あけする場合

１．φ１１０mm程度で開口が独立している場合
イ）開口部がデッキプレートの上フランジ又はＦフランジにあり、ウェブにかからない場合は補強の必要はない。



ロ）開口部がデッキプレートのウェブにかかる場合は、プレート あるいは 当鋼による補強を行う。

６．　ひび割れ拡大防止のための留意点（参考）

（Ａ）設計上の留意点
１．小梁の剛性を大きくする。
２．ひびわれ拡大防止のための補強筋を設ける。（図１，２）
３．スパンースラブ厚止を小さくし、配筋量を大きくする。

（Ｂ）施工上の留意点
１．デッキプレートは各溝で梁に接合する。
２．溶接金網は、所定の位置に配する。
３．水セメント比の小さいコンクリートを用いる。
４．コンクリート打設後初期には湿潤養生を行い、充分な養生期間を設ける。
５．早期に載荷したり、振動を与えない。

・大梁上の補強（例）

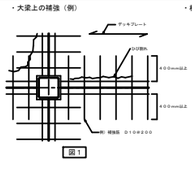


図１

・柱廻りの補強（例）

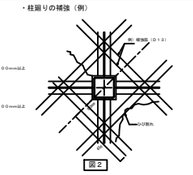


図２

施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	合成スクラブ設計・施工標準仕様書		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	－	図面番号	8-239/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所		

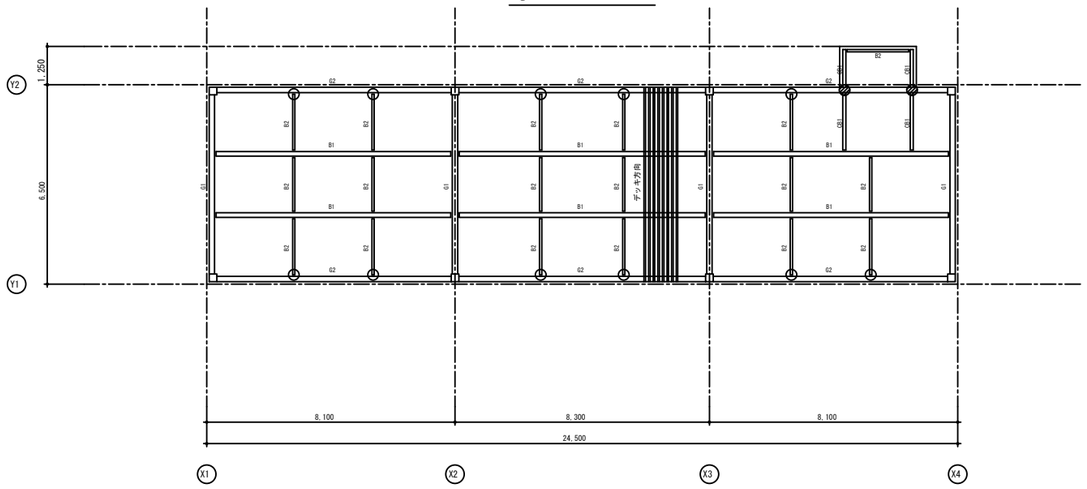
基礎伏図・屋根伏図 S=1:100

屋根梁 伏図

特記無記限り

小梁仕口ボルト2列接合部

剛接合

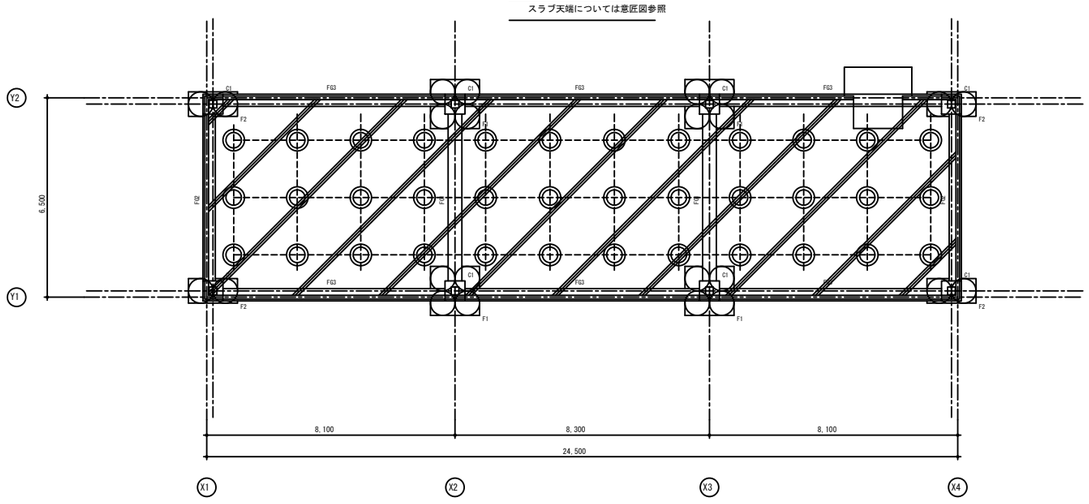


基礎 伏図

特記無記限り

：土間コンクリート

スラブ天端については意匠図参照



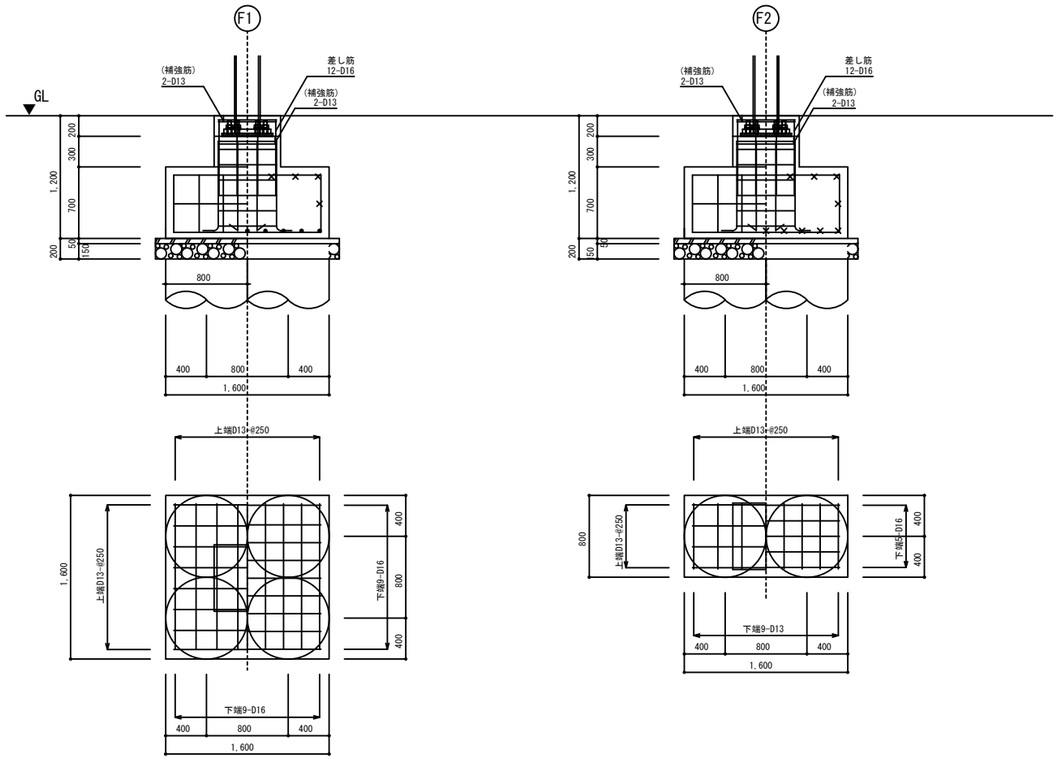
一 般 事 項	
鉄 筋	SD295A (D10-D16)
鉄 筋	SD345 (D19-D22)
鉄 骨	SN400A (小梁,プレート類)
鉄 骨	SN400B (大梁・片持ち梁)
鉄 骨	SSC400 (リップみぞ形鋼)
鉄 骨	SN490C(ダイヤフラム等)
鉄 骨	BCR295 (ボックス柱)
ﾎﾞﾙﾄ	S10T (高力ﾎﾞﾙﾄ)
設計基準強度	Fc=21 N/mm2
調合管理強度	Fq=21 N/mm2 + S
基 礎 工 法	直接支持による独立基礎
	地盤改良工法(スリーエスG-cube工法)
柱状改良体(柱下)	φ800 有効長さL=3.30m
柱状改良体支持力	φ800 LRa=184.0(kN/本)
柱状改良体(土間スラブ下)	φ700 有効長さL=3.20m
柱状改良体支持力	φ700 LRa=141.0(kN/本)
スリーエスG-cube工法設計・施工資料参照とする。 尚、「改訂版 建築物のための改良地盤の設計及び品質管理指針」 (財)日本建築センター発行に従い検討、施工を行う。	

注 1) 地中障害については別途検討し監督員の承認を得る事。

施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	基礎伏図・屋根伏図		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 1:100 A2 1:141	図面番号	8-240/319
作成者	関東農政局 両総農業水利事業所		

基礎・地中梁リスト図 S=1:30

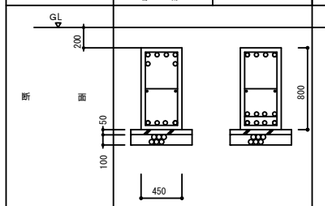
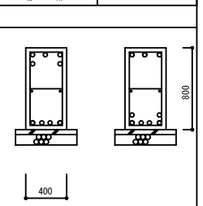
基礎リスト

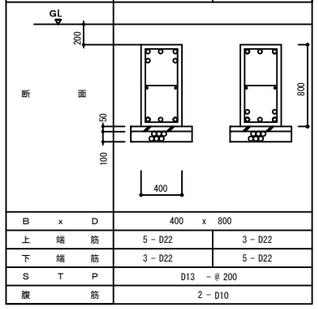


地中梁リスト

特記無き限り下記に依る

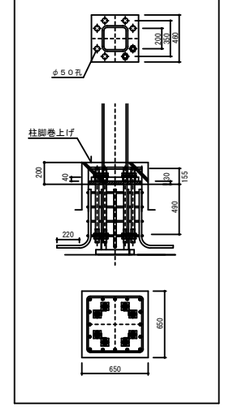
幅止め筋は Ｄ１０－＠１０００ 程度とする

記号	FG1		FG2	
位置	端部	中央	端部	中央
断面				
B x D	450 x 800		400 x 800	
上端筋	6－D22	4－D22	5－D22	3－D22
下端筋	4－D22	8－D22	4－D22	6－D22
STP	D13 －＠200		D13 －＠200	
腹筋	2－D10		2－D10	

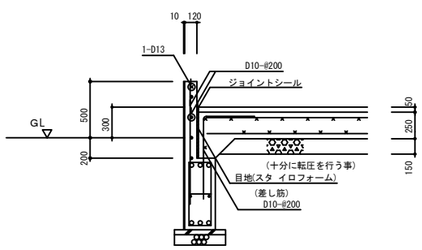
記号	FG3	
位置	端部	中央
断面		
B x D	400 x 800	
上端筋	5－D22	3－D22
下端筋	3－D22	5－D22
STP	D13 －＠200	
腹筋	2－D10	

柱脚リスト図

C1	
柱脚記号	S２５３
柱寸法	□２５０×２５０
アンカーボルト	８－M３６
ベースプレート	４６０×４６０×４０
柱形断面	６５０×６５０
柱主筋	１６－D２２
帯筋	D１３@１５０
回転剛性	６７０００kN・m／ｒａｄ



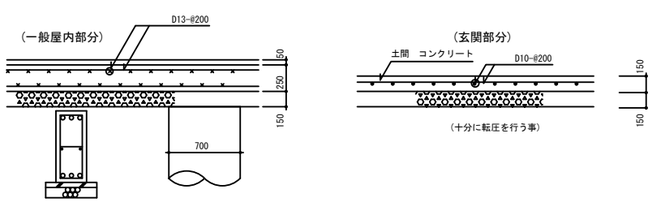
壁立ち上がり配筋図



立ち上がり壁への縦目地

立ち上がり壁目地間隔 ： 壁の両面へ L=2.40m程度で設ける。
立ち上がり壁目地深さ ： 目地の深さについては片面につき15mm程度とする。
立ち上がり壁目地仕上げ ： 壁の目地についてはシーリング仕上げを行う。

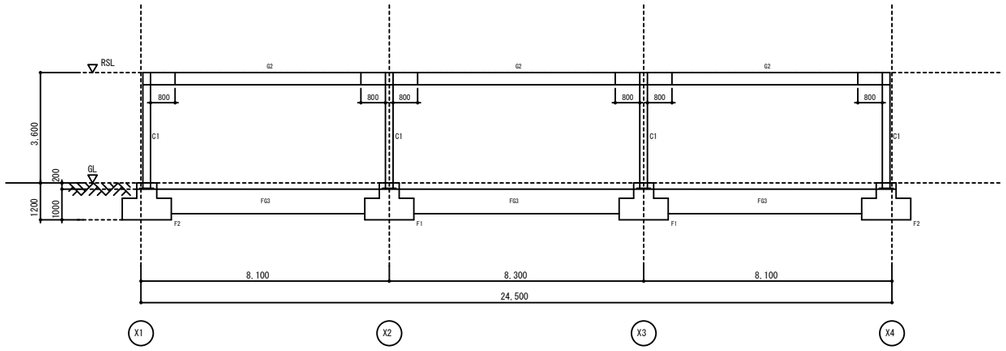
土間コンクリート配筋図



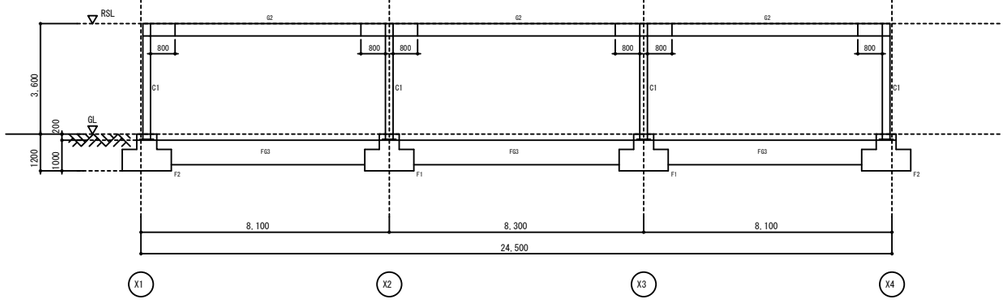
施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	基礎・地中梁リスト図		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 1:30 A2 1:42	図面番号	8-241/319
作成者	関東農政局 両総農業水利事業所		

軸組図・部材リスト S=1:100

Y1通り　軸組図



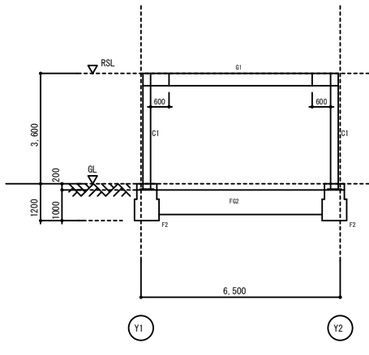
Y2通り　軸組図



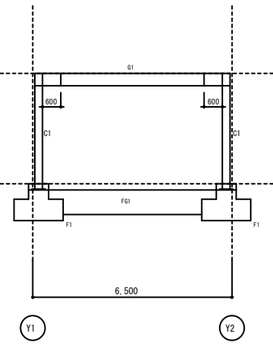
部材リスト			
符号	主材		ジョイント フランジ　ウエブ
RG1	H-400x200x8x13	(SN400B)	梁継ぎ手リスト図参照
RG2	H-400x200x8x13	(SN400B)	梁継ぎ手リスト図参照
B1	H-400x200x8x13	(SN400A)	梁継ぎ手リスト図参照
B2	H-175x90x5x8	(SN400A)	梁継ぎ手リスト図参照
CB1	H-200x100x5.5x8	(SN400B)	剛接合
1C1	□-250x250x16	(BCR295)	ISベース同等品 品番号:S253シリーズ同等品

符号	主材	有効細長比 λ
1C1	□-250x250x16	56.2

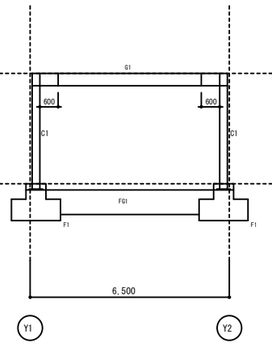
X1通り　軸組図



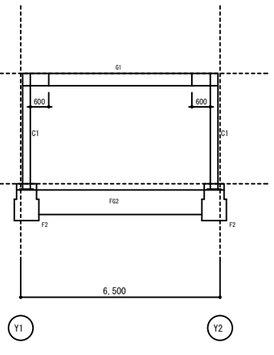
X2通り　軸組図



X3通り　軸組図



X4通り　軸組図



施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	軸組図・部材リスト		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 1:100 A2 1:141	図面番号	8-242/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所		

鉄骨構造梁継手標準リスト表

鉄骨構造梁継手標準リスト表

■ 梁鋼種 ： SS400、SN400
■ ボルト ： HTB−F10T、HTB−S10T
■ 参考文献 ： 鉄骨構造基準接合部委員会SCSS−H97
■ 設計 ： 保有耐力継手

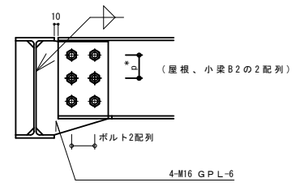
採用	梁サイズ	フランジ							ウェブ				
		ボルト径	本数	配列	ゲージ(g1)	ゲージ(g2)	外添板	内添板	ボルト径	本数	配列	ピッチ（p）	添板
◎	H−200×100×5.5×8	M16	2本	2列	56mm	—	PL−290×100×16	—	M16	2本	1列	60mm	PL−170×140×6
	H−248×124×5×8	M16	3本	2列	75mm	—	PL−410×124×12	—	M16	2本	2列	90mm	PL−290×170×6
	H−250×125×6×9	M16	3本	2列	75mm	—	PL−410×125×12	—	M16	2本	2列	90mm	PL−290×170×6
	H−298×149×5.5×8	M20	2本	2列	90mm	—	PL−290×149×9	PL−290×60×9	M20	2本	1列	120mm	PL−200×170×6
	H−300×150×6.5×9	M20	2本	2列	90mm	—	PL−290×150×9	PL−290×60×9	M20	2本	1列	120mm	PL−200×170×6
	H−346×174×6×9	M20	2本	2列	105mm	—	PL−290×174×9	PL−290×70×9	M20	3本	1列	90mm	PL−260×170×6
	H−350×175×7×11	M20	2本	2列	105mm	—	PL−290×175×9	PL−290×70×9	M20	3本	1列	90mm	PL−260×170×6
	H−396×199×7×11	M20	3本	2列	120mm	—	PL−410×199×9	PL−410×80×9	M20	4本	1列	60mm	PL−260×170×9
◎	H−400×200×8×13	M20	3本	2列	120mm	—	PL−410×200×9	PL−410×80×9	M20	4本	1列	60mm	PL−260×170×9
	H−446×199×8×12	M20	3本	2列	120mm	—	PL−410×199×12	PL−410×80×12	M20	5本	1列	60mm	PL−320×170×9
	H−450×200×9×14	M20	3本	2列	120mm	—	PL−410×200×12	PL−410×80×12	M20	5本	1列	60mm	PL−320×170×9
	H−496×199×9×14	M20	3本	2列	120mm	—	PL−410×199×12	PL−410×80×12	M20	5本	1列	60mm	PL−320×170×9
	H−500×200×10×16	M20	3本	2列	120mm	—	PL−410×200×12	PL−410×80×12	M20	5本	1列	60mm	PL−320×170×9
	H−596×199×10×15	M22	3本	2列	120mm	—	PL−410×199×12	PL−410×80×12	M22	7本	1列	60mm	PL−440×170×9
	H−600×200×11×17	M22	3本	2列	120mm	—	PL−410×200×12	PL−410×80×12	M22	7本	1列	60mm	PL−440×170×9
	H−100×100×6×8	M16	2本	2列	56mm	—	PL−290×100×16	—	M16	1本	2列	＊60mm	PL−350×50×9
	H−148×100×6×9	M16	2本	2列	56mm	—	PL−290×100×16	—	M16	1本	2列	60mm	PL−290×80×6
	H−194×150×6×9	M16	2本	2列	90mm	—	PL−290×150×9	PL−290×60×9	M16	2本	1列	＊60mm	PL−230×140×6
	H−244×175×7×11	M20	2本	2列	105mm	—	PL−290×175×9	PL−290×70×9	M20	2本	1列	60mm	PL−170×140×9
	H−294×200×8×12	M20	3本	2列	120mm	—	PL−410×200×9	PL−410×80×9	M20	3本	1列	60mm	PL−200×170×9
	H−340×250×9×14	M22	3本	2列	150mm	—	PL−410×250×12	PL−410×100×12	M22	3本	1列	60mm	PL−200×170×9
	H−390×300×10×16	M22	3本	2列（千鳥）	150mm	40mm	PL−350×300×12	PL−350×110×12	M22	3本	1列	90mm	PL−260×170×9
	H−440×300×11×18	M22	4本	2列（千鳥）	150mm	40mm	PL−440×300×12	PL−440×110×12	M22	5本	1列	60mm	PL−320×170×9
	H−482×300×11×15	M22	4本	2列（千鳥）	150mm	40mm	PL−440×300×12	PL−440×110×12	M22	5本	1列	60mm	PL−320×170×9
	H−488×300×11×18	M22	4本	2列（千鳥）	150mm	40mm	PL−440×300×12	PL−440×110×12	M22	5本	1列	60mm	PL−320×170×12
	H−582×300×12×17	M22	4本	2列（千鳥）	150mm	40mm	PL−440×300×12	PL−440×110×16	M22	7本	1列	60mm	PL−440×170×9
	H−588×300×12×20	M22	4本	2列（千鳥）	150mm	40mm	PL−440×300×12	PL−440×110×16	M22	7本	1列	60mm	PL−440×170×9
	H−700×300×13×24	M22	5本	2列（千鳥）	150mm	40mm	PL−530×300×19	PL−530×110×19	M22	9本	1列	60mm	PL−560×170×9
	H−800×300×14×26	M22	5本	2列（千鳥）	150mm	40mm	PL−530×300×19	PL−530×110×19	M22	10本	1列	60mm	PL−620×170×12
	H−890×299×15×23	M22	5本	2列（千鳥）	150mm	40mm	PL−530×300×16	PL−530×110×19	M22	12本	1列	60mm	PL−740×170×12
	H−900×300×16×28	M22	6本	2列（千鳥）	150mm	40mm	PL−620×300×19	PL−620×110×22	M22	12本	1列	60mm	PL−740×170×12
	H−912×302×18×34	M22	7本	2列（千鳥）	150mm	40mm	PL−710×300×25	PL−710×110×25	M22	10本	2列	60mm	PL−620×290×16
	H−918×303×19×37	M22	7本	2列（千鳥）	150mm	40mm	PL−710×300×25	PL−710×110×28	M22	10本	2列	60mm	PL−620×290×16

※ ＊寸法はボルト配列を外側に半ピッチずらすことを表す。

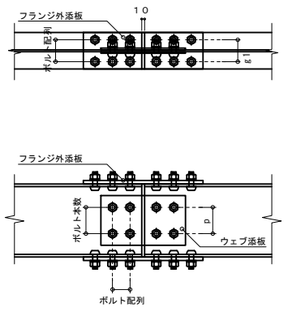
鉄骨構造小梁仕口標準リスト表（ピン接合部）

梁サイズ		ボルト径	GPL
	H−125×60×6×8	2−M16	PL−6
	H−150×75×5×7	2−M16	
◎	H−175×90×5×8	2(4)−M16	
	H−198×99×4.5×7	2−M16	
◎	H−200×100×5.5×8	2−M16	
	H−248×124×5×8	2−M20	
	H−250×125×6×9	2−M20	
	H−298×149×5.5×8	3−M20	
	H−300×150×6.5×9	3−M20	PL−9
	H−346×174×6×9	3−M20	
	H−350×175×7×11	3−M20	
	H−396×199×7×11	4−M20	
◎	H−400×200×8×13	4−M20	
	H−446×199×8×12	4−M20	
	H−450×200×9×14	4−M20	PL−12
	H−496×199×9×14	5−M20	
	H−500×200×10×16	5−M20	
	H−596×199×10×15	6−M20	
	H−600×200×11×17	6−M20	
	H−148×100×6×9		PL−9
	H−194×150×6×9	2−M16	
	H−244×175×7×11	2−M20	
	H−294×200×8×12	3−M20	
	H−340×250×9×14	3−M20	PL−12
	H−390×300×10×16	4−M20	
	H−440×300×11×18	4−M20	
	H−482×300×11×15	5−M20	
	H−488×300×11×18	5−M20	
	[−100×50×5×7.5	2−M16	PL−16
	[−125×65×6×8	2−M16	
	[−150×75×6.5×10	2−M16	
	2C−100×50×20×2.3	2−M16	
	C−100×50×20×2.3	2−M16	

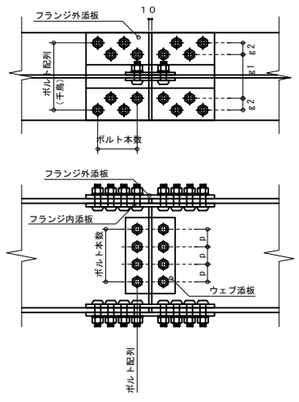
注意 ： 屋根 Y1通りY2通り側仕口小梁B2継ぎ手については下記による。



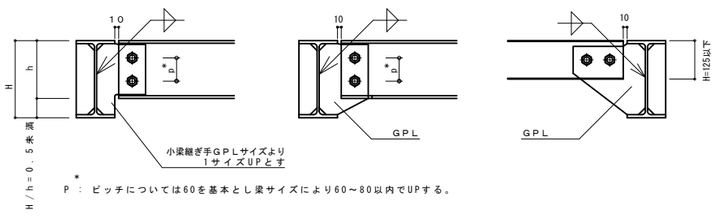
凡例１



凡例２



径	M16	M20	M22
孔 径	18	22	24
はしあき	40		
ピッチ	60		



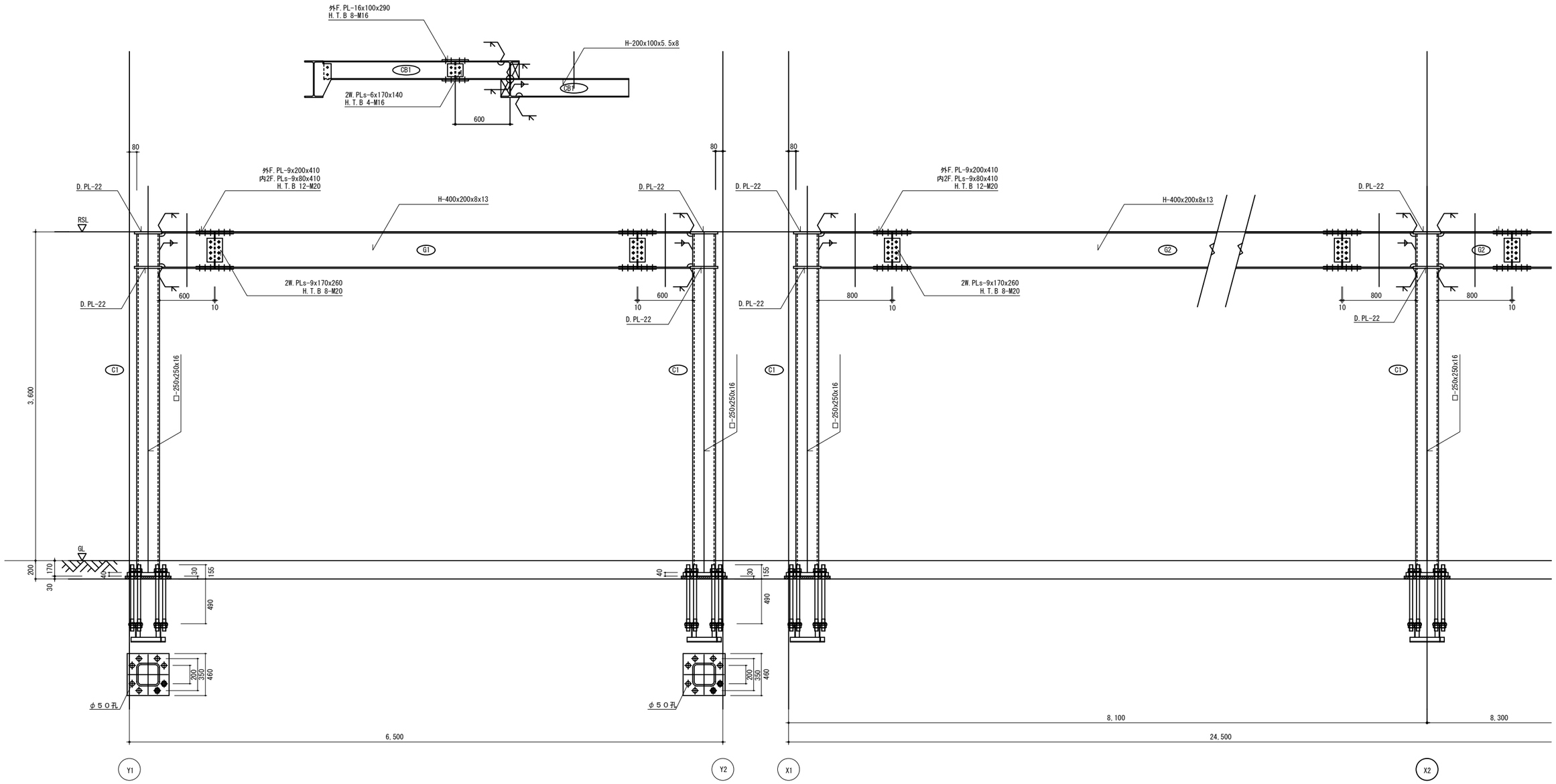
＊ P ： ピッチについては60を基本とし梁サイズにより60～80以内でUPする。

施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	鉄骨構造梁継手標準リスト表		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	−	図面番号	8-243/319
作成者	関東農政局 両総農業水利事業所		

鉄骨詳細図 S=1:30

X3通り　鉄骨詳細図

注）PL-16以上のダイヤフラム材については、SN490C使用の事とする。



Y1通り　鉄骨詳細図

注）PL-16以上のダイヤフラム材については、SN490C使用の事とする。

施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	鉄骨詳細図		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 1:30 A2 1:42	図面番号	8-244/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所		

柱状改良特記仕様書(参考)

スリーエスG－cube工法 特記仕様書

1．工 事 概 要

本地業は、セメントスラリーを用いたスラリー系機械撹拌式深層混合処理工法による地盤改良地業である。
この工法は、セメント系固化材を原地盤と撹拌混合し、現地盤をコラム状に固化する地盤改良を行うものである。

2．一 般 事 項

本地業は、本特記仕様書によるほか、「改訂版　建築物のための改良地盤の設計及び品質管理指針」（平成14年11月30日　財団法人 日本建築センター、以下指針という）による。

3．特 記 事 項

（1）　コラムの径、掘削深度（改良長＋空掘長）、本数配置等は設計図書による。但し、コラムの径・長さ・本数・位置及びセメントスラリーの配合等について土質や地盤状況により変更した方が適切と判断される場合は、監督員の承認の上に変更することができる。
（2）　コラム設計基準強度はFc=1100kN/㎡とする。
（3）　設計の要求する性能を確保するため、適切な配合管理、施工管理および品質検査を実施する。
（4）　セメントスラリーを用いた機械撹拌式深層混合処理工法のスリーエスG工法協会に所属する会員とする。
（5）　工法の選定は、(財)日本建築総合試験所において下記の性能証明を有する工法を選定する。
　①変動係数25%が砂質土、粘性土、ローム地盤で採用できること。
　②小規模建築物に対する品質管理が規定されていること。
　③材齢７日強度で合否判定が可能であると認定されていること。
（6）　品質及び施工管理は、スリーエスG工法品質・施工管理マニュアルに基づいて行うものとする。

4．施 工 計 画

工事に先立ち、施工計画書を監査員に提出する。施工計画書は次の事項を明記する。
（1）　地盤概要。
（2）　工事内容（コラム径・コラム長・空掘り長・コラム数・設計基準強度）。
（3）　工事期間及び工程。
（4）　工事要領（使用固化材・配合・撹拌翼の昇降速度・吐出量等）。
（5）　施工機器及び仮設設備と配置。
（6）　配合管理・施工管理・品質管理の方法。
（7）　建築技術性能証明書。
（8）　その他、必要事項。

5．施 工 機 械

（1）　撹拌翼はセメントスラリーと原位置土を確実に撹拌混合するための共回り現象を防止する撹拌装置を装備すること。
（2）　撹拌翼は上下にセメントスラリー吐出口を設け、掘削時に下吐出口から引上げ時に上吐出口からセメントスラリーを吐出可能な吐出切替構造であること。
（3）　所定の施工管理項目の計測及び記録ができる管理装置を用いること。
（4）　改良機本体は本工事の施工仕様を満足させる施工制御機器を装備したものでリーダー付及び自走式タイプであること。
（5）　ミキシングプラントは所定吐出量を十分供給できる能力を有していること。

6．固形材の配合及び配合量

（1）　固形材　　セメントまたはセメント系固化材とする。
（2）　配合　　水/固化材比　　W/C=70%
（3）　配合量　　３００kg/m^3
　土質サンプリング及びpH試験、含水比試験又は湿潤密度試験を実施する。これらの試験で問題がないと判断した場合はスリーエスG工法品質・施工管理マニュアルに従い、配合量を決定すると共に事前配合試験を不要とすることができる。
　ただし、基準値を外れた場合や必要と判断される場合はこの限りではない。

7．品 質 検 査

（1）　設計対象層及び調査箇所数
　①　設計対象層は最弱層とし、砂質土、粘性土、ロームの土質区分では（埋土（シルト、シルト質粘土））とする。
　②　設計対象層(最弱層)の深度は、GL-(2.00m)付近とする。

表１．調査箇所数

項　　目	採取部位	採取箇所数	備　考
小規模建築物に おける品質検査	頭部モールドコア	3箇所	材齢　7日
	深部モールドコア	1箇所	材齢　7日

注）　深部モールドコアにおいて、Xi7<Fcの場合は、材齢28日強度を確認する。
　　頭部モールドコアの抜き取り数は、改良体100本に1箇所以上とする。

（2）　メーターサンプラーによる品質管理
　①　設計対象層に対しメーターサンプラーにてサンプリングを行う。
　②　改良部の連続性、土塊混入状況、及び不良率の確認をフェノール試験、指圧試験により行う。
　③　ただし、現場状況等によりメーターサンプラーによるサンプリングが困難な場合は、深部モールドコアを1箇所追加し、計2箇所でサンプリングすることによりメーターサンプラーの代用を行う。
　④　高温養生（60℃）による材齢1日圧縮試験を行う。
　⑤　これらにより、健全な品質を確認しモールドコア試験を実施する。

（3）　合否の判定（小規模建築物に_おける品質検査）
　①　抜き取り１箇所に対して３個の供試体を採取する。
　②　合否の判定はn個(コアの個数)の一軸圧縮試験結果が、下式を満足する場合を合格と判定する。

$$Xi \geqq Fc$$

　Ｘｉ：検査対象層より採取した個々のコアの一軸圧縮強さ（材齢7日）（1 ≦ i ≦ n）(kN/㎡)、
　（もしXi7<Fcの場合は、Xi28≧Fcを確認する。）
　Ｆｃ：設計基準強度（kN/㎡）
　ｎ：コアの抜き取り個数
　ｉ：個々の供試体

8．工 事 報 告

工事完了後、次の項目について報告書をまとめ、監督員に提出する。
①　コラム伏図及び番号
②　コラムの施工日
③　コラムの径及び改良長
④　掘削深度
⑤　固化材の配合と使用量
⑥　モールドコア圧縮強度試験結果

施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	柱状改良特記仕様書(参考)		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	－	図面番号	8-245/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所		

電気設備特記仕様書

仕様書

Ⅰ．工事概要

1．工事名称　　平成２５年度　両総農業水利事業　第２揚水機場付帯施設建築工事

2．工事場所　　千葉県山武郡横芝光町寺方５１５-1

3．建物概要

建物名称	構造	階数	建築基準法上の延面積（m2）	消防法施行令別表第１の区分	備考
第２揚水機場倉庫	鉄骨造	1	159.25		

4．工事種目（ ⊙ 印の付いたものを適用する）

工事種目 ＼ 建物別及び屋外	工事種別　（新設・改修区分）				
	資料倉庫			屋外	備考
⊙ 電灯設備				新設一式	
・ 動力設備					
・ 電熱設備					
・ 受変電設備					
・ 静止形電源設備					
・ 発電設備					
・ 避雷設備					
・ 構内交換設備					
・ 構内情報通信網設備					
・ 拡声設備					
・ 映像・音響設備					
・ 情報表示設備					
・ 呼出し設備					
・ テレビ共同受信設備					
・ 監視カメラ設備					
・ 火災報知設備					
・ 入退室管理設備					
・ 中央監視制御設備					
・ エレベーター設備					
⊙ 構内配電線路				新設一式	
・ 構内通信線路					

5．主たる省エネ手法

6．指定部分及び施工条件　　⊙ 無　・ 有

Ⅱ．工事仕様

1．共通事項

図面及び特記仕様書に記載されていない事項は、全て国土交通省大臣官房官庁営繕部監修の「公共建築工事標準仕様書（電気設備工事編・平成２５年版）」（以下「標準仕様書」という。）、「公共建築改修工事標準仕様書（電気設備工事編・平成２５年版）」（以下「改修標準仕様書」という。）及び「公共建築設備工事標準図（電気設備工事編・平成２５年版）」（以下「標準図」という。）による。

2．特記事項

1）項目は、番号に ○ 印の付いたものを適用する。

2）特記事項は、○ 印の付いたものを適用する。○ 印のない場合は ※ 印を適用する。

章	項目	特記事項
① 一般共通事項	① 工事実績情報の登録	⊙ 行う　・ 行わない
	② 書類の書式等	⊙ 別途に定める書式　・ 監督職員の指示による
	③ 工事写真	工事写真の撮り方　建築設備編　（建設大臣官房官庁営繕部監修　改訂第２版）　による。
	④ 電気工事士	最大電力５００kW以上の場合においても、第一種電気工事士により施工を行う。
	⑤ 電気保安技術者	⊙ 適用する　・ 適用しない 工事現場におく電気保安技術者は、電気設備工事共通仕様書１．３．2による。
	⑥ 機材等	1）（社）公共建築協会が実施する「建築材料・設備機材等品質性能評価事業」によって所要の品質・性能を有することの評価を受けた機材等を使用する。 2）評価書に記載のない項目については、監督職員と協議の上、機器性能・規格・納入実績サービス体制等を証明するに十分な資料を添付し、設計図書に規定するもの又は、これらと同等以上のものとし、監督職員の承諾を受ける。 3）本県に本社、支店、営業所を有するメーカー製品及び可能な限り県産材を使用すること。
	⑦ 機器の品質・性能証明	使用する機材が前項１）による場合は、評価書の写しをもって、共通仕様書第１編第１章第４節１・４・2(b)の品質及び性能を有することの証明となる資料の提出を省略できる。但し、共通仕様書に規定される製作図・試験成績書等は除く。
	⑧ 技術検査	工事施工途中における技術検査（「中間検査」）は各必要な工程で行う。
	⑨ 工事用電力・水その他	本工事に必要な工事用電力、水、及び官公庁等への諸手続きなどの費用は、すべて請負者の負担とする。
	⑩ 工事用仮設物	構内に作ることが　⊙ できる　・ できない
	⑪ 監督職員事務所	⊙ 設けない　・ 設ける（　・ 1号　・ 号） 監督職員事務所には次の備品等を置く。 机・いす・書棚・衣類ロッカー・保護帽・懐中電灯・ゴム長靴・雨カッパ
	12 足場・その他	別契約の関係請負者の定置する足場、桟橋の類は、無償で使用できるものとする。本工事で設置する場合は図示による。
	⑬ 発生材の処理等	1）引き渡しを要するもの　⊙ なし　・ あり（下記による） 2）再生資源の利用を図るもの 3）特別管理産業廃棄物　⊙ なし　・ あり（下記による） ・ PCB安定器　処理方法（　）

章	項目	特記事項
		4）1)～3)以外の発生材の処理地 5）建設発生土の処理 ⊙ 構内指示の場所に敷き均し　・ 構内指示の場所に堆積 ・ 構外搬出適正処理（　・ 本工事（約　km ・ 搬出調書等を提出する ） ・ 別途工事）
	⑭ 工事の下請負	請負者は、下請負に付する場合には、次の各号に掲げる要件をすべて満たさなければならない。 1） 請負者が、工事の施工について総合的に企画、指導及び調整するものであること。 2） 下請負者が青森県の指名競争参加資格者である場合には、指名停止期間中でないこと。 3） 請負者は、当該下請負工事の施工能力を有すること。 請負者は、工事を下請負に付する場合には、可能な限り地元建設業者を使用すること。
	⑮ 報告書	1） 施工体制台帳及び施工体系図 本工事において、下請金額の合計が１００万円以上の場合又は、低入札価格調査制度により契約されたものは、下請負業者と契約締結後、全ての下請契約書の写しを２週間以内に監督職員に1部提出する。また、施工体制台帳及び施工体系図は工事現場に備えるものとし、現場表示も併せて行うものとする。 2） 主要機器資材メーカー報告書 本工事において使用する主要機器資材メーカーリスト1通を監督職員に提出する。 3） 再資源利用促進計画書・再資源利用計画書及びそれぞれの実施計画書 工事完了後、「再生資源利用[促進]計画書(実施書)入力システムにより、実施書のデータFDを提出する。なお、データFDの提出が困難な場合は、監督員の承諾を得た上で、調査票の提出とする。 4） 建設廃棄物等処分計画書 施工計画書には、使用機械器具・各工種の材料・工法・日程等の内容を記載した文章のほか、別紙様式により建設廃棄物処分計画書を提出して監督職員の承諾を受ける。
	⑯ 施工図及び完成図等	下記の施工図及び完成図等を監督職員に提出する。なお、貸与するＣＡＤデータは当該工事における施工図及び完成図のため以外に使用しないこととし、貸与する場合の完成図の提出にあっては、ＣＡＤデータにより入力保存したものとする。 １）施工図 イ） 機器製作図　一式 ロ） 制御システム図　一式 ハ） 機器・配管等固定の施工図　一式 ２）完成図等 イ） 二つ折り製本　⊙ 4部 ロ） Ａ４版二つ折り製本　⊙ 1部 ハ） 黒表紙金文字入(折りたたみ→Ａ４・学校改修工事は不要)　⊙ 1部 ニ） 完成図を入力保存した（イメージ画像によるＴＩＦ形式又はCADデータによるＳＸＦ形式)電子媒体（ＦＤ、ＭＯ、ＣＤ-ＲＯＭ、ＤＶＤ-ＲＯＭ）　⊙ 1部 ホ） 保全に関する資料(取扱説明書)　⊙ 2部 ヘ） 納入仕様書　(機器完成図)　⊙ 1部 ⊙ 建築工事特記仕様書による
	⑰ 完成写真（工事写真）	⊙ 写真(電子媒体によるものを含む)はカラーサービス版でＡ４版スクラップ帳にし、下記のものを監督職員に提出する。 イ） 完成写真(改修においては、着工前を左・完了後を右に入れる)　カラーサービス版　⊙ 4部 ロ） 工事写真　カラーサービス版　⊙ 1部 ハ） 写真の撮影業者　監督職員の承諾する撮影者 ⊙ 建築工事特記仕様書による
	⑱ 試験	共通仕様書に定める試験を行い、試験成績表を監督職員に提出する。
	19 耐震措置	耐震措置の計算及び施工方法は、次の事項以外は全て「官庁施設の総合耐震計画及び同解説」（建設大臣官房官庁営繕部監修）及び「建築設備耐震設計・施工指針」（建設省住宅局建築指導課監修）による。 1） 局部震度法による建築設備機器の設計用標準水平震度(Ks) 注1） （ ）内の数値は防振支持の機器の場合に適用する。 注2） 設置場所の区分は機器を支持している床部分にしたがって適用する。床又は壁に支持される機器は当該階を適用し、天井面より支持(上階床より支持)される機器は支持部材取付床の階（当該階の上階）を適用する。 2） 本施設は（ ・ 一般の施設　・ 特定の施設）とする。 3） 地域係数は1.0とする。 4） 重量が１００kg以下の比較的軽量な機器(共通仕様書の適用を受けるものは除く)の取付けについては、取付け下地を入念に施工し、機器メーカーの指定する方法で確実に取付けを行うものとするが、監督職員の承諾を受ける。 5） 配線・配管及びダクトの支持　・ 共通仕様書及び標準図による 6） 重要機器類
	20 保温、結露防止	外部に面する壁、天井で建築工事でＦＰ版(スタイロホーム等)打込み箇所に取付ける位置ボックスなどは保温、結露防止処理を行う。
	㉑ 合成樹脂製可とう管	合成樹脂製可とう管は、ＰＦ管(一重管)とし、温度による分類は、タイプ-２５とする。
	㉒ 電線本数、管路など	分電盤、制御盤、端子盤などの２次側以降の配線経路、電線太さ、電線本数、管径などは、監督職員の承諾を受けて、変更してもさしつかえない。
	㉓ インサート	鋼製とする。なお、床板で保温打込み部分は、断熱材用インサート(亜鉛めっき製品)を使用する。
	24 呼び線	長さ１m以上の入線しない管路には、1.2mm以上のＥＭ-ＩＥ電線を挿入する。
	25 フラッシュプレート	・ 金属製(ステンレス、新金属も含む)　・ 樹脂製
	26 フロアプレート	水平調整付プレート(空転防止リング付)とする。
	27 ＯＡフロア用配線器具の蓋	・ アルミ製　・ 樹脂製

章	項目	特記事項
	28 再使用機材養生	・ 指定機材（　）　・ 特別清掃（　）
	29 接地極の種別及び位置表示	接地極の種別は下記を標準とし、ＥＢの長さは１５００mmとする。ただし、W=３０は１２００mmとする。装柱機器用接地極の埋設標は不要とする。

	接地の種別	記号	接地抵抗値	接地極の規格、数量
・	避雷設備用接地	EL	10Ω以下	EP×1
・	避雷設備用接地	EL	Ω以下	EB　(D=14又は#=40)　×3連-　組
・	共同接地	EA ED	10Ω以下	EB　(D=14又は#=40)　×3連-2組
・	Ａ種接地	EA	10Ω以下	EB　(D=14又は#=40)　×3連-2組
・	Ｂ種接地	EB	Ω以下	EB　(D=10又は#=30)　×2
・	Ｃ種接地	EC	10Ω以下	EB　(D=14又は#=40)　×3連-2組
・	Ｄ種接地	ED	100Ω以下	EB　(D=10又は#=30)　×1
・	構内交換機（陽極用）	Et	10Ω以下	EB　(D=14又は#=40)　×3連-2組
・	本配線盤の保安装置	EAt	10Ω以下	EB　(D=14又は#=40)　×3連-2組
・	電話引込口の保安器	EDt	100Ω以下	EB　(D=10又は#=30)　×1
・	拡声増幅器	EDa	100Ω以下	EB　(D=10又は#=30)　×1
・	防犯装置用	EK	100Ω以下	EB　(D=14又は#=40)　×3連-1組
・	測定用	E0	—	EB　(D=10又は#=30)　×1
・	避雷器用（低圧用）	ELL	10Ω以下	EB　(D=14又は#=40)　×3連-2組
・	避雷器用（高圧用）	ELH	10Ω以下	EB　(D=14又は#=40)　×3連-2組

	30 塗装工事	下記部位に使用する、外面めっき電線管の露出配管には塗装を施す。 ⊙ 屋外　・ 居室（　）　・ ＥＰＳ等
	31 はつり	既存コンクリート部の床・壁の配管貫通部等の穴開けは、原則としてダイヤモンドカッターによる。
	32 分電盤・制御盤等のキャビネットの仕上げ	下記部位に取付けるものは、指定色仕上げとする。 ・ 屋外　・ 居室（　）
	33 屋外部の支持金具等	屋外に設置する機器付属金物・ボルトナット類及び外壁等への取付用配管支持金具は、溶融亜鉛メッキ製またはステンレス製とする。
	34 その他	防犯性の向上については「防犯に配慮した設計ガイドライン」を遵守すること。
② 受変電設備	① 電気方式	・ 高圧　・ 三相 ３ 線式 ６ｋＶ ・ 低圧動力　・ 三相 ３ 線式 ２００Ｖ　低圧電灯　⊙ 単相 ３ 線式 100Ｖ/200Ｖ
	② 配電盤	・ 屋外形（　・ 鋼板　・ SUS）　・ 屋内形（　・ 鋼板　・ＳＵＳ） ・ キュービクル式配電盤　・ 高圧開閉配電盤
	③ 主遮断装置	・ ＰＦ・Ｓ形　・ＣＢ形　（低格遮断電流　ＫＡ）
	④ 変圧器容量	・ 変圧器三相　・ 油入　・ モールド　容量　KVA ・ 変圧器単相　・ 油入　・ モールド　容量　KVA
	⑤ 進相コンデンサー	・ 高圧側設置　・ 低圧側設置　・ 高調波対策設置 自動力率調整　・ する　・ しない
	⑥ 電力監視装置	・ 設ける　・ 設けない
	⑦ その他	・ 高圧交流負荷開閉器（ＬＢＳ)はストライカ式とする　・ 製造所は、評価名簿による ・ 第２種接地線は、漏電警報器（ＥＬＲ）を設置する　・ 絶縁ゴムマット（
③ 電灯設備	① 電気方式	幹線　単相　３線式　100/200Ｖ　50Hz 分岐　単相　２線式　100Ｖ 分岐　単相　２線式　200Ｖ
	② 蛍光灯	蛍光灯器具安定器の種別及び点灯方式、力率、定格入力電圧、周波数は図示以外は下記による。

蛍光灯の種類			標準図記号
理形のランプ　（ホームライトを除く）			GH15
直管形のランプ	15形以下		GL15
	20形	防雨形器具	GL15
		電池内蔵形非常用照明器具及び誘導灯	
	20形	上記以外のもの	GH15
	40形の避難口誘導灯		GL15
	40形　（避難口誘導灯を除く）　及び110形		RH 5
コンパクト形のランプ	13Ｗ　18Ｗ　27Ｗ		EL15
	16Ｗ　24Ｗ　32Ｗ　42Ｗ　36Ｗ　55Ｗ		PN 5

	③ 蛍光ランプ	⊙ 省エネ形（ ⊙ 全部　・ 暖房を行う部屋、廊下などに限る）　・ 一般形
	4 非常用照明器具	・ 電池内蔵形　・ 電池別置形
	5 ハイテンションアウトレット	・ 飛び出し形　・ 外部固定形 ・ 鋼合金形　・ アルミ製
	6 予備配管	埋込形分電盤からの立上り予備配管は、予備の配線用遮断器４個以下の場合（２５）を１本、５個以上の場合（２５）を２本、天井まで立上げる。
4 動力設備	1 電気方式	幹線　三相３線式　２００Ｖ　５０Ｈｚ 分岐　三相３線式　２００Ｖ
	2 警報盤	・ 壁掛式（電源装置　・ 内蔵　・ 別置）
	3 電磁開閉器用押釦	・ 埋込連用形配線器具
	4 機器への接続	電動機などへの接続は本工事とする。
	5 電動機等の接地	図示以外は全属管接地とする。
	6 総合動作試験	・ 無　・ 有（　）

章	項目	特記事項
5 避雷設備	1 受電部	・ 突針　・ むね上導体　・ 笠木（別途）　など
	2 避雷導線	・ 引下げ導線　・ 建築構造体利用
	3 接地線	・ 接地極埋設　・ 建築構造体利用
6 構内交換設備	1 電話交換機	形式　・ ボタン電話装置　・ PBX　・ 電子交換 回線数　・ 内線　／　回線　・ 局線　／　回線　・ 専用データ（　回線） ・ 主装置等の搬去（支障時の取り扱い：　）
	2 電話機	・ 本工事　・ 別工事 ・ ボタン電話機　・ 多機能電話機　・ 内線電話機
	3 電話機への配線	電話機1台につき、次のものを配線。 ・ ＥＭ-ＴＩＥＦ　０.６５-２Ｃ（・　２０ｍ　・　ｍ） ・ ＥＭ-ＢＴＩＥＦ　０.４-２Ｐ（・　２０ｍ　・　ｍ）
	4 ローテーションアウトレット（集中形）	・ 一般電話用　個（ ・ 納入する　・ 取付ける） ・ 鋼合金製　・ アルミ製
	5 保安器用接地	・ 本工事　・ 別途工事
7 情報表示・拡声その他通信設備	1 構内情報通信網設備	種類（ ・ １０ＢＡＳＥ-Ｔ　・ １０ＢＡＳＥ-５　・ １０ＢＡＳＥ-２　・ ＦＤＤＩ）
	2 拡声設備	・ 増幅器　Ｗ ・ 卓上形　・ キャビネットラック形 ・ 一般用　・ 非常用　・ 併用
	3 映像・音響設備	・ 増幅器　Ｗ ・ ＶＴＲ（ ・ ＶＨＳ　・ 8mm） ・ プロジェクタ（ ・ 前面投写式　・ 背面投写式） ・ スクリーンサイズ　インチ
	4 情報表示設備	・ 出退表示盤（ ・ 多線直接式　・ パルス伝送式） ・ 親時計　回線 ・ 壁掛式　・ 自立形 ・ 電子式チャイム組込み　・ プログラムタイマー組込み
	5 呼出し設備	・ 庁舎内連絡用　・ 身体障害者用　・ 夜間受付用　・ エレベーター用
	6 テレビ共同受信設備	・ テレビアンテナ（ ・ ＡＶ-　・ ＡＵ-　・ ＢＳＡ-　・ ＣＳＡ-　） ・ 地上波アンテナマスト（ ・ 壁面取付形　・ 自立形） ・ ＢＳ・ＣＳ用アンテナマスト（ ・ 壁面取付形　・ 自立形） ・ 工事着手前アンテナの設置予定位置における電界強度等の調査測定をし、受像の可否を判定した報告書を提出する。
	7 監視カメラ設備	・ 白黒方式　・ カラー方式
	8 入退室管理設備	接地工事（ ・ 本工事　・ 別途）　・ 配管

18 機器取付け高

機器取付高さは、下記を標準とする。ただし、これによりがたい場合は監督員と協議する。

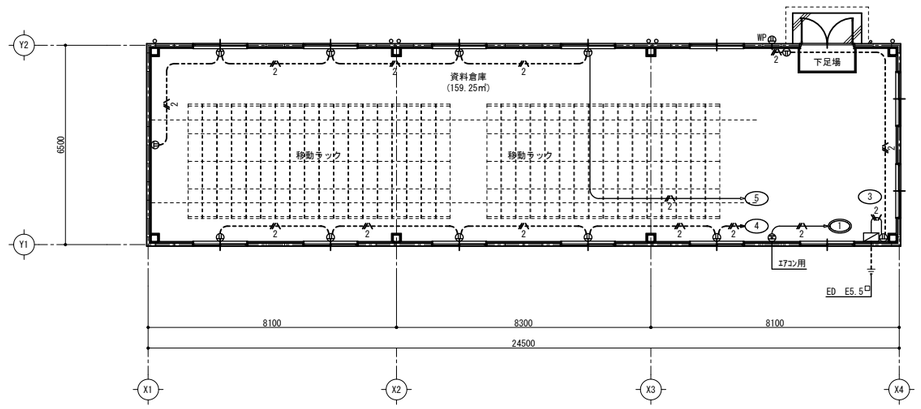
	電力設備				通信設備		
	機器	測点	取付高（mm）		機器	測点	取付高（mm）
共通	取引用計器	地上～室中心	約1800	壁・床貫通	壁掛形親時計	床上～中心	1500（上端2000以下）
	引込線引留め高	地上～引込点			壁付子時計	〃	2300
					壁付形スピーカ	〃	2300
動力	分電盤	床上～中心	1500（上端2000以下）		壁付アッテネータ	〃	1300
	スイッチ　（資料倉庫）	床上～中心	1300		表示盤		2300
	コンセント　（資料倉庫）	〃	300		壁付発信機		1300
	〃　（屋外）	地上～中心	1000～1300		ベル、ブザー、チャイム		2300
					壁付押しボタン（一般）	〃	1300
動力	壁掛形制御盤	床上～中心	1500（上端2000以下）		壁付インターホン（一般）	床上～中心	1300
	開閉器箱	〃	〃		壁付アウトレット（一般）	〃	300
	電磁開閉器用押ボタン	〃	〃		〃　（和室）	〃	200
					機器収容箱	天井～上端	200
弱電設備用	呼出しボタン（便所用）	床上～中心	900		直列ユニット（一般）	床上～中心	300
	壁付インターホン（親機）	〃	1300		〃　（和室）	〃	200
	〃　（玄関子機）	〃	1100		受信機	床上～操作部	800～1500
	廊下表示灯（復旧ボタン付）	〃	1300		副受信機	〃	〃
	「使用中」「施錠中」表示灯	〃	1500		機器収容箱	〃	〃
	スイッチ	〃	1100		発信機	〃	〃
	引込線引留め高	地上～引込点			表示灯	床上～中心	2100
	集合保安器箱	天井～上端	200		警報ベル	〃	2300
	端子盤（廊下、室内）	床上～下端	300		液化石油ガス用検知器	床上～上端	250
	〃　（EPSなど）	床上～中心	1500		都市ガス用検知器（軽質）	天井～上端	150
	壁付アウトレット（一般）	〃	300		都市ガス用検知器（重質）	床上～上端	250
	〃　（和室）	〃	200				

※　契約対象外の項目につては、別図参照

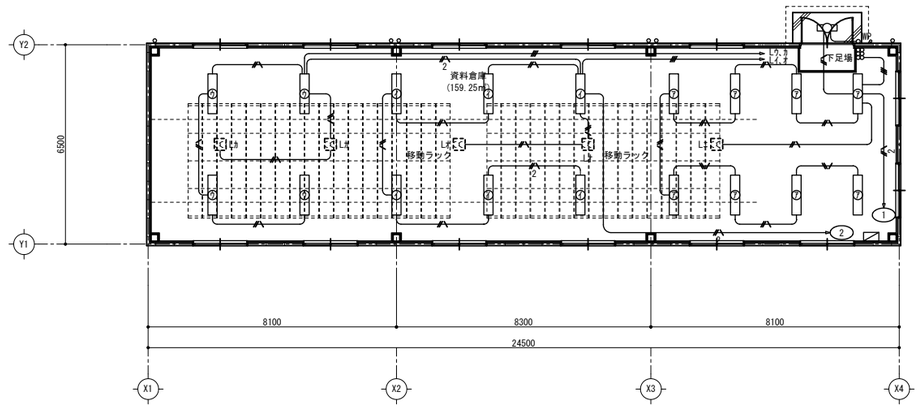
施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)
図面名	電気設備特記仕様書
作成年月	平成26年 3月
縮尺	- / 図面番号 8-246/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所

電気設備図 S=1:100

1階平面図（コンセント設備）

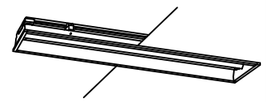


1階平面図



盤名称 形状 設置場所	電気方式 幹線No./ｻｲｽﾞ 主幹容量	単線接続図	開閉器 回路番号	開閉器 電圧(V)	開閉器 種別	開閉器 極数	開閉器 AF	開閉器 AT	制御	負荷容量	負荷名称	備考
電灯盤 屋内壁掛型	1φ3W EM-CE 8 ㎟-3C	L									東電SBｽﾍﾟｰｽ	当初SB40A契約
												最大可能契約8KVA
				100/200	MCCB	3P2E	60	40			電灯主開閉器	
参考寸法： W=450 H=325 D= 98			①	200	ELB	2P2E	30	20		3760	ｴｱｺﾝｺﾝｾﾝﾄ	
			①	100	ELB	2P1E	30	20		747	作業台ｴﾘｱ照明	
			②	100	ELB	2P1E	30	20		922	移動ﾗｯｸｴﾘｱ照明	
			③	100	ELB	2P1E	30	20		450	北側ｺﾝｾﾝﾄ	
参考型番： BQG3462(改)			④	100	ELB	2P1E	30	20		750	東側ｺﾝｾﾝﾄ	
			⑤	100	ELB	2P1E	30	20		750	西側ｺﾝｾﾝﾄ	
			⑥	100	ELB	2P1E	30	20			予備	
			⑦	100	ELB	2P1E	30	20			予備	

※ 盤注記
- 市販標準品の組替とする
- ｷｰ付ﾊﾝﾄﾞﾙ

A	FL20W×1 ブラケット	B	FHF32W×2 埋込下面開放型（環境配慮型）
FW21887Z 相当品  防湿・防雨型 壁付・天井直付兼用型 枠：ｽﾃﾝﾚｽ(ｸﾘｱ塗装) ｶﾊﾞｰ：ｸﾘｰﾝｱｸﾘﾙ(乳白)		FRS15-322-PH 	

記号	仕様・名称／参考型番	
⬭	100Vｼﾞｰﾗｰ回路番号	
⬭	1φ200Vｼﾞｰﾗｰ回路番号	
○	片切りｽｲｯﾁB	参考型番：WN5061
○WP	片切りｽｲｯﾁB／防滴ﾌﾟﾚｰﾄ	参考型番：WN5061+WN7801K
○L	ﾊﾟｲﾛｯﾄｽｲｯﾁ(ONﾋﾟｶ)	参考型番WN5241
2P	2P15A×2(接地極付)	参考型番WN113249
EC	ｴｱｺﾝ用ｺﾝｾﾝﾄ	参考型番WN1932
2PWP	防滴ﾌﾟﾚｰﾄ付ｺﾝｾﾝﾄ	参考型番WN11324K+WN7973
特記等無き配管、配線は下記による		
———	天井隠蔽配管配線	
- - - - -	床埋設／隠蔽配管配線	
——//——2	EM-EEF1.6-3C	
——//——2	EM-EEF2.0-3C	

※ ・ 特記なき配線はEM-EEF1.6-2Cとする。
- 二重天井内はｹｰﾌﾞﾙのｺﾛｶﾞｼ配管とし、間仕切り壁内等はPF管等にて保護すること。ｺﾝｸﾘｰﾄ内打込み配管はCD管とする。
- 照明器具等で、3本以上のｹｰﾌﾞﾙが集まり、接続、分岐等を行う場合はｼﾞｬﾝｸｼｮﾝﾎﾞｯｸｽを設置すること。
- 配線器具取付け箇所には位置ﾎﾞｯｸｽ等のﾎﾞｯｸｽを取付けること。
- ｹｰﾌﾞﾙ工事において、ｹｰﾌﾞﾙと吹付け断熱材とが直接接触しない様配慮すること。

施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	電気設備図		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 1:100 A2 1:141	図面番号	8-247/319
作成者	関東農政局 両総農業水利事業所		

機械設備特記仕様書(1/2)

仕様書

Ⅰ．工事概要

1．工事場所　　千葉県山武郡横芝光町寺方５１５-1

2．敷地面積　　１２４２２．３８ ㎡

3．建物概要

建物名称	構造	階数	建築基準法上の延面積（m2）	消防法施行令別表第１の区分	備考
第２揚水機場倉庫	鉄骨造	1	159.25	（１４）	

4．工事種目（ ⊙ 印の付いたものを適用する）

工事種目 ＼ 建物別及び屋外	工事種別				
	資料倉庫				屋外
⊙ 空気調和設備	新設一式				
・ 冷房設備					
・ 暖房設備					
⊙ 換気設備	新設一式				
・ 排煙設備					
・ 自動制御設備					
・ 衛生器具設備					
・ 給水設備					
⊙ 排水設備	新設一式				
・ 給湯設備					
・ 消火設備					
・ 厨房機器設備					
・ ガス設備					
・ し尿浄化槽設備					

5．指定部分　⊙ 無し　・有り（工期　平成　年　月　日、対象：　）

6．設備概要（ ⊙ 印の付いたものは、本工事における主要方式を示すものであり、仕様を規定するものではない。）

方式	設備概要					
空気調和方式等	⊙ 空気調和	・全空気方式	・ ファンコイル・ダクト併用方式	⊙ パッケージ方式		
	・ 温風暖房	・温風暖房機	・ 全空気方式	・ ファンコンベクター・ダクト併用方式		
	・ 直接暖房	・ 蒸気暖房	・ 温水暖房			
自動制御方式	・ 電気式	・ 電子式	・ デジタル式	・ 空気式		
給水方式	・ 水道直結方式	・ 高置タンク方式	・ タンクレスブースター方式			
排水方式	建物内の汚水及び雑排水（ ・ 分流式 ・ 合流式 ・ 一部合流式）					
	放流先　　汚水（ ・ 下水道直放式 ・ し尿浄化槽）					
	雑排水（ ・ 下水道直放式 ⊙ ・ 側溝 ・ し尿浄化槽 ・ 別途桝）					
給湯方式	・ 局所式 ・ 中央式					
消火設備方式	・ 屋内消火栓（ ・ 湿式 ・ 乾式） ・ 連結送水管 ・ 窒素					
	・ スプリンクラー（ ・ 湿式 ・ 乾式）					
ガス設備方式	・ 都市ガス　種別（　） ＭＪ／m3（Ｎ） （供給圧力　Ｐａ） ・ 液化石油ガス					

Ⅱ．工事仕様

1．共通仕様
図面及び特記仕様に記載されていない事項は、すべて国土交通省大臣官房官庁営繕部監修の機械設備工事共通仕様書（平成２２年度版）及び同部設備課監修の機械設備工事標準図（平成２２年版）による。

2．特記仕様
1） 項目は番号に○印のついたものを適用する。
2） 特記事項で、 ⊙ ※ 印のある場合の適用は下記による。
⊙ 印のない場合は、※ を適用する。
⊙ 印のある場合は、 ⊙ を適用し、※ 印は適用しない。
⊙ 印と ※ 印のある場合は、共に適用する。

章	項目	特記事項
一般共通事項	① 工事写真	営繕工事写真作成標準（東北地方整備局営繕部監修　平成１３年版）による。（完成写真　⊙ 不要　・ 必要）
	② 機材等	本工事に使用する設備機材等は、設計図書に規定するもの又は、これらと同等のものとする。ただし、これらと同等のものとする場合は、監督職員の承諾を受ける。
	③ 機材の品質・性能証明	設備機材は、設計図書に定める品質及び性能を有することの証明資料又は外部機関等が発行する資料等の写しを監督職員に提出し、承諾を受ける。 なお、共通仕様書に規定される製作図、試験成績表等を含む。
	④ 機材の承諾	原則として、建設大臣官房官庁営繕部監修の機械設備工事機材承諾図様式集（平成１１１１年）による。
	⑤ 事実績情報の登録	⊙ 登録を行う　・ 登録を行わない
	6 概成工期	工事期限より　　日前
	7 電気保安技術者	⊙ 適用する　・ 適用しない
	⑧ 技能士の適用	⊙ 配管施工（配管工事）　・ 建築板金施工（ダクト製作及び取付） ⊙ 熱絶縁施工（保温工事） ⊙ 冷凍空気調和機器施工（チリングユニット、パッケージ形空気調和機の据付及び整備）
	⑨ 工事用電力、水、その他	本工事に必要な工事用電力、水などの費用、及び官公署等への諸手続きなどの費用は、請負者の負担とする。
	10 仮設工事	図面及び特記仕様書に記載されていない事項は、すべて国土交通省大臣官房官庁営繕部監修の機械設備改修工事共通仕様書（平成１３年度版）による。
	① 工事用仮設物	構内に作ることが　⊙ できる　・ できない

章	項目	特記事項
	12 監督員事務所	⊙ 設けない　・ 設ける（　号・・・建築工事共通仕様書による） 監督員事務所には次の備品等を置く。
	13 監督員事務所の備品等	机、いす、書棚、衣類ロッカー、保護帽、懐中電灯、ゴム長靴、雨カッパ、安全帯
	14 発生材の処理等	イ）引き渡しを要するもの　⊙ なし　・ あり（　） ロ）特別管理産業廃棄物　⊙ なし　・ あり（　） ハ）上記イ）ロ）以外の発生材は、可能な限り中間処理施設等において再利用・減量化等を図るものとし、処理方法等は監督職員と協議する。 再利用・減量化等を含めた発生材の処理費用は別途とする。 ニ）現場において再利用を図るもの 現場における分別　：　保温材は、機器・配管・ダクト等と分別する。 ホ）集積場所　⊙ 構内有り　・ 構外
	⑮ 建設発生土の処理	・ 構内指示の場所に数きならす　⊙ 構内指示の場所にたい積する ・ 建設副産物適正処理推進要綱に従い処理する。 構外搬出距離　＊　ｋｍを越え　＊　ｋｍ以下（　ＤＩＤ地区　・ 有　・ 無） （土の処分費用のみ別途する。） ・ 構外指示の場所に搬出する。 受け入れ施設名・住所（ｋｍ）
	⑯ 容量の表示	イ）機器類の能力、容量等は表示された数値以上とする。 ロ）電動機出力、燃料消費量、圧力損失は原則として表示された数値以下とする。
	⑰ 電源周波数	５０Ｈｚとする。
	⑱ 予備品等	ヒューズ（温度ヒューズも含む）及び表示灯は予備品として、２０%納入する（種別ごと最低１個）。
	⑲ 営繕工事電子納品要領（案）の適用	⊙ 適用する　・ 適用しない
	⑳ 完成図等	⊙ 完成時に下記の図書を監督職員に提出する。なお、当該建築物の取得する施工図等の著作権に係わる当該建築物に限る使用権は発注者に移譲する。 ⊙ 完成図 ⊙ ＣＡＤで新規作成　・ 既存完成図の修正（ＣＡＤデーターの提出は不要） 提出物　ＣＡＤデーター式（ＣＤＲ等に内容の目録を添付する） 原図　Ａ１　１部（３つ折りケース収納） 陽画複写製本　Ａ１　２つ折り製本　２部 ⊙ 施工図 提出物　原図（原図が提出できないもの原図にかわる図でよい） Ａ１　１部（３つ折りケース収納） 陽画複写製本　Ａ１　２つ折り製本　２部 ⊙ 保全の手引き（建設大臣官房官庁営繕部監修の「管理者のための建築物保全の手引き　改訂版」に準拠し、本建物固有の内容に整合した保全方法を写真等を用い、具体的にわかりやすく解説した図書） Ａ４　製本　２部（関連工事と合本する） ⊙ 保全台帳（本工事に関連した部分を記入したもの） 様式は建設大臣官房官庁営繕部監修の「管理者のための建築物保全の手引き　改訂版」による。 Ａ４　市販ファイル綴じ込み　２部（関連工事と合本する） ⊙ 保守指導案内書（機器取り扱い説明書、機器製作図、機器性能試験成績表、官公署等届出書、主要機器・材料製造者一覧） Ａ４　市販ファイル綴じ込み　１部 ⊙ 機器取り扱い説明書（共用部分は除く） Ａ４　市販ファイル綴じ込み　１部 ・ 建設大臣官房官庁営繕部監修「管理者のための建築物保全の手引き　改訂版」 １冊
	㉑ 耐震措置	耐震措置の計算及び施工方法は、次の事項以外すべて建築設備耐震設計・施工指針（建設省住宅局建築指導課監修１９９７年版）による。 （１）機器の据付け及び取付け 設計用水平地震力は、機器の重量（自由表面を有する水槽その他の貯槽にあっては有効重量）に、次に示す 地域係数及び設計用標準水平震度を乗じたものとする

設置場所	設計用標準水平震度			
	特定の施設		一般の施設	
	重要機器	一般機器	重要機器	一般機器
上層階、屋上及び塔屋	２．０（２．０）	１．５（２．０）	１．５（２．０）	１．０（１．５）
中間階	１．５（１．５）	１．０（１．５）	１．０（１．５）	０．６（１．０）
１階及び地下階	１．０（１．０）	０．６（１．０）	０．６（１．０）	０．４（０．６）

注１）設置場所の区分は共通仕様書による。
注２）（ ）内の数値は防振支持の機器の場合に適用する。
イ）本工事の施設は（ ⊙ 一般の施設　・ 特定の施設）とする。
ロ）地域係数は１．０とする。
ハ）１００ｋｇ以下の軽量な機器（共通仕様書の適用を受けるものは除く）においても耐震を考慮し、据付又は取付を行うものとするが、前記指針の方法によらなくてもよい。
ニ）重要機器類（高置タンク、受水タンクは機器表による）

	㉒ 総合調整	各機器の個別運転調整後に下記の総合調整を行い、測定表を提出する。 ・ 風量調整　・ 水量調整　・ 室内外空気の温湿度測定 ・ 室内気流及びじんあいの測定　・ 騒音の測定 ・ 端末水栓の残留塩素濃度の測定　⊙ 機器の絶縁抵抗の測定
	23 弁等のサイズ	特記されていない弁等のサイズは機器付属品を除き接続配管のサイズと同じとする。
	24 建物導入部配管の変位吸収	図示の箇所に変位吸収配管を施工する。施工方法は別図による。
	25 絶縁フランジ取付箇所	図示による。
	26 溶接部の非破壊検査	対象配管系統　・ 冷温水　・ 冷却水　・ 消火（水用）　・ 油　・ ガス 検査の種類　・ 浸透探傷検査（ＰＴ）又は磁粉探傷検査（ＭＴ） ・ 放射線透過検査（ＲＴ）

章	項目	特記事項
	27 支持金物・固定金具	イ）ポンプ、屋外機器及び屋外の配管・ダクトに使用する支持金物は、鋼製溶融亜鉛メッキ仕上げとし、屋外機器のアンカーボルトのナットにはナットキャップ（樹脂製）を取り付ける。 ロ）振動を伴う機器の支持金物のナットはダブルナットとする。 ハ）冷水及び冷温水管の吊バンド等の支持部は、合成樹脂製の支持受けを使用する。
	㉘ 地中埋設標及び埋設表示テープ	埋設表示用テープは、下記により屋外埋設部分に布設する。なお、地中埋設標の設置場所は図示による。 イ）給水管　・ 地中埋設標　・ 埋設表示用テープ ロ）ガス管　・ 地中埋設標　⊙ 埋設表示用テープ ハ）油管　・ 地中埋設標　・ 埋設表示用テープ ニ）消火管　・ 地中埋設標　・ 埋設表示用テープ
	㉙ 斫	既存コンクリート部の床・壁の配管貫通部等の穴明けは原則としてダイヤモンドカッターによる。
	30 他工事との取合い	図面に特記なき場合は、表「工事区分表」による。
	㉛ 塗装	下記部位に使用する、外面めっき電線管の露出配管には塗装を施す。 ⊙ 屋外　⊙ 居室
	32 輸入資機材の活用	・ 本工事は、輸入資機材活用モデル工事の対象工事である。 イ）輸入資機材の利用 （ａ）対象とする輸入資機材は、「機材選定表」に記載された輸入資機材及び海外で生産され、かつ、国内市場で広く流通していない建築材料・設備機材とする。 （ｂ）本工事には、「機材選定表」に記載された輸入資機材のうち１品目以上を、また、上記以外で監督職員と協議のうえ決定した輸入資機材を１品目以上（ただし、設備工事においては、「機材選定表」に記載された輸入資機材又は、上記以外で、監督職員と協議のうえ決定した輸入資機材を１品目以上）を使用する。 ただし、これによりがたい場合は、監督職員と協議すること。 （ｃ）輸入資機材活用モデル工事の実施に伴う発注者の調査及び検討に協力すること。 （ｄ）次の事項について、監督職員に報告すること。 （１）使用部位、工種、資材名、仕様、製品名、使用量又は個数、製造業者、製造所、品質管理体制、品質評価方法、供給保証の確認方法及び納入期間等。 （２）資材の調達（供給能力、納期及び経費）、品質、施工性等についての所見。 （３）検討結果に基づき、使用を見合わせた資機材については、その理由と検討経緯。
空気調和・冷房・暖房設備	① 設計温湿度	外気条件：一般系統 温度（ＤＢ）湿度（ＲＨ）／系統 温度（ＤＢ）湿度（ＲＨ） 室内（調整目標値）：一般系統 温度（ＤＢ）湿度（ＲＨ）／系統 温度（ＤＢ）湿度（ＲＨ） 夏期　３０．５℃　７６．７%　　２６．０℃　５０% 冬期　２．７℃　４２．４%　　２２．０℃
	2 ばい煙濃度計	取付箇所は図示による。
	3 煙突	・ 別途　・ 本工事（鋼板厚　mm、高さ　m以上）
	4 煙道	・ 煙道径３００㎜以下は鋼板厚３．２㎜、３００㎜を超えるものは４．５㎜とする ・ 図示による。 （煙道径が４００㎜を超えるものには、掃除口に蝶番を取り付ける）
	5 ダクトの区分	低圧とする（高圧１及び高圧２の部位は図示による）。
	6 長方形ダクトの工法	・ アングルフランジ工法　・ コーナーボルト工法（共板フランジ又はスライドオンフランジ）
	7 風量測定口	取付箇所は図示による。取付面は監督職員の指示による。
	8 防煙ダンパ	イ）復帰方式　・ 遠隔式（電気式（定格入力　ＤＣ２４Ｖ　０．７Ａ以下）） ロ）復帰動作　・ 順送り　・ 同時
	⑨ 配管材料	イ）冷温水管　・ 配管用炭素鋼鋼管（白）　・ 配管用炭素鋼鋼管（黒） ロ）冷却水管　・ 配管用炭素鋼鋼管（白） ハ）蒸気管（給気管）　・ 配管用炭素鋼鋼管（黒） （還水管）　・ 圧力配管用炭素鋼鋼管（Ｓｃｈ４０）　・ 配管用炭素鋼鋼管（黒） ニ）油管、油用通気管（一般）　・ 配管用炭素鋼鋼管（黒） （土中）　・ ポリエチレン外面被覆鋼管 ホ）膨張管、空気抜き管、膨張タンクよりボイラ等への給水管 ・ 配管用炭素鋼鋼管（白） ヘ）空調用排水管　⊙ 配管用炭素鋼鋼管（白）　・ ビニル管（ＶＰ） ト）冷媒管　⊙ 断熱材被覆銅管（製造者標準品）　・ 銅管
	10 弁類	⊙ ＪＩＳ又はＪＶ５Ｋ　・ ＪＩＳ又はＪＶ１０Ｋ
	11 銅管用伸縮継手	⊙ ベローズ形　・ スリーブ形
	12 温度計	共通仕様書、標準図による他、図示した箇所に取り付ける（配管用は円形、ダクト用は円形）。
	13 瞬間流量計	⊙ 着脱可能形（ ⊙ 全数　・ 図示による）　・ 固定形（止水コック付） 着脱可能形の指示部（ ・ ４０Ａ用　個、・ １００Ａ用　個、・ ２５０Ａ用　個）を付属する。
	14 積算油量計	図示の箇所に取り付ける（熱源機器毎）。
	15 注入口及び指示ボックス	標準図（機材６）による。 ・ 単独形　・ 共用形（ ・ ローリーアース付）
	16 消音内貼り	イ）施工箇所は図示による。 ロ）内貼りチャンバー類の寸法表示は、外形寸法とする。 ハ）吹出口に接続するチャンバーの消音内貼りは別図による。
	⑰ 保温	イ）建物内の空気抜き管の保温は空気抜き弁までとし（空気弁も含む）、仕様は冷温水管の項による。 ロ）屋外露出配管の保温は、給水設備の項（９．保温．ロ））による。 ハ）外気取り入れダクト及びチャンバーボックスの保温 ・ 要（全熱交換器の給気ダクトを含む）　・ 不要 ニ）排気ダクトの外壁開放部より１ｍ程度を保温する。（チャンバーボックスを含む）

章	項目	特記事項
		ホ）冷媒管（断熱材被覆銅管）の保温外装 屋内露出部　・ 保温化粧ケース（樹脂製）　・ 外装なし 屋外　・ 保温化粧ケース（樹脂製） ヘ）高圧蒸気管及びヘッダーの保温厚は　㎜とする。
	18 電気工事の範囲	イ）地震感知器の配管配線　⊙ 別途　・ 本工事 ロ）防煙ダンパと連動制御器迄の配管配線及び連動制御盤から煙感知器迄の配管配線 ⊙ 別途　・ 本工事
	19 塗装	屋内露出様ダクトの塗装は　⊙ 行わない　・ 行う
換気設備	① 準拠事項	[⊙ 空気調和　・ 冷房　・ 暖房設備　の当該事項に準ずる。] ・ ５　・ ６　・ ７　・ ８　・ １６　・ １７　・ １８
	2 開放形湯沸器用排気フード	・ 別途　・ 本工事
	3 厨房用排気ダクト	・ 亜鉛鉄板　・ ステンレス鋼板（ＳＵＳ３０４）　（板厚は高圧ダクトによる）
	4 厨房用排気フード	イ）フード周囲の天幕（フード面から天井面まで）　・ 取り付ける　・ 取り付けない ロ）フードコック　・ 取り付ける　・ 取り付けない ハ）材質（天幕とも）　・ ステンレス鋼板　（ＳＵＳ３０４）
	5 多湿箇所の排気ダクト	下記系統のダクトのシールは標準図（施工４３．４４）のＮシール＋Ａシール＋Ｂシールとし、水抜き管を設ける。
	⑥ 塗装	屋内露出様ダクトの塗装は　⊙ 行わない　・ 行う
排煙設備	1 ダクト	・ 亜鉛鉄板製　・ 鋼板製（１．６㎜以上）
	2 排煙口の形式	・ 可動羽根（スリット共）　・ 可動パネル　・ ダンパー形
	3 排煙口開放装置	・ ワイヤー式　・ 電気式（遠隔操作機能　・ 有　・ 無）
	4 排煙風量測定方法	建築設備定期検査業務指導書（（財）日本建築設備安全センター）の排煙風量の検査方法に準ずる。
自動制御設備	1 中央監視制御	中央監視制御装置の構成機能は別紙による。
	2 計装工事の配線	屋外・屋内露出の配線は、図面に特記のない限り金属管配線とする。
	3 その他	室内温湿度検出器等を２個以上併設する場合は、サーモケースを使用する。
衛生器具設備	1 大便器洗浄弁	不凍結節水弁付とする。
	2 便器洗浄用タンク	・ 手洗い無し　・ 手洗い付き
	3 小便器節水装置	・ 節水装置（機能は別図による）　・ 押しボタン式（不凍結節水弁付き）
	4 小便器洗浄用ハイタンク	・ 露出　・ 隠ぺい
	5 小便器洗浄管	・ 埋込　・ 露出
	6 付属水栓	吊こま式（節水こま式）とする。
	7 自動水栓	イ）電源供給方法（ ・ ＡＣ１００Ｖ　・ 乾電池）
	8 大便器別水カバー	設ける（ピット内を除く）
	9 注記板	対象器具（　）
給水設備	1 量水器	イ）親メーター　・ 貸与品　・ 買取り ロ）子メーター　・ 買取り
	2 量水器桝	イ）親メーター用　・ 水道事業者の指定品　・ 標準図（機材６１） ロ）小メーター用　・ 標準図（機材６１）　・ 水道事業者の指定品
	3 配管材料	イ）一般用 ・ ステンレス鋼管（ＳＵＳ３０４） ・ 塩ビライニング鋼管（ ・ ＶＡ　・ ＶＢ） ・ ポリ粉体ライニング鋼管（ ・ ＰＡ　・ ＰＢ） ロ）土間配管用（厨房、浴室等のシンダー内含む） ・ ステンレス鋼管（ＳＵＳ３１６） ・ 塩ビライニング鋼管（ＶＤ） ・ ポリ粉体ライニング鋼管（ＰＤ） ハ）屋外土中用 ・ ステンレス鋼管（ＳＵＳ３１６）

※ 契約対象外の項目については、別図参照

施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	機械設備特記仕様書(1/2)		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	-	図面番号	8-248/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所		

機械設備特記仕様書(2/2)

章	項目	特記事項
給水設備		・ 塩ビライニング鋼管（ＶＤ） ・ ポリ粉体ライニング鋼管（ＰＤ） ・ ビニル管（ＪＩＳ Ｋ－６７４２）（ ・ ＶＰ ・ ＨＩＶＰ） ・ ポリエチレン管 ・ 水道用ゴム輪形硬質塩化ビニル管
	4 不凍水栓柱	化粧ケーシング（ ・ アルミ合金製 ・ 合成樹脂製）
	5 壁埋込形散水栓ボックス	鍵付とする
	6 弁類	イ）水道直結部分 ⊙ ＪＩＳ又はＪＶ１０Ｋ ロ）その他の部分 ⊙ ＪＩＳ又はＪＶ５Ｋ ・ ＪＩＳ又はＪＶ１０Ｋ
	7 給水栓	イ）屋内（ ⊙ 一般水栓 ・ 耐寒水栓） ロ）屋外（ ⊙ 耐寒水栓 ・ 一般水栓） 湯沸室、台所、厨房用水栓は泡沫式とする。
	8 埋設深さ	イ）一般敷地内（ ０．６ ｍ以上） ロ）敷地内車両道路（ １．０ ｍ以上） ハ）公道部分（ ⊙ 水道事業者及び道路管理者規定による）
	9 保温	イ）量水器桝内の保温を行う。 ロ）屋外露出管（弁、フランジを含む）は、共通仕様書第２編（表２．３．５ ｅ３・(ハ)）とし厚さは呼び径２５㎜以下は５０㎜、呼び径３２㎜以上は４０㎜とする。
	10 その他	給水管の最小口径は２０㎜とする。ただし、器具接続部分を除く。
排水設備	① 配管材料	イ）屋内汚水管 ・ メカニカル形排水用鋳鉄管 ・ コーティング鋼管 ・ 排水用塩ビライニング鋼管 ・ 鉛管 ・ ビニル管 ロ）屋内雑排水管 ・ 配管用炭素鋼鋼管（白） ・ 排水用タールエポキシ塗装鋼管（厨房用排水管） ・ ビニル管 ハ）屋外汚水、雑排水管 ⊙ ビニル管 ・ コンクリート管 ニ）通気管 ・ 配管用炭素鋼鋼管（白） ⊙ ビニル管
	2 満水試験継手	図示の箇所に取り付ける。
	3 煙試験	衛生器具等の取付完了後に煙試験を行う。
	4 その他	
給湯設備	1 配管材料	・ ステンレス鋼管（ＳＵＳ３０４） ・ 耐熱性塩ビライニング鋼管 ・ 銅管 ・ 被覆銅管 ・ 保温付被覆銅管 （膨張管及び補給水タンクよりボイラー等への補給水管を含む）
	2 弁類	給水設備の当該事項による。
	3 湯沸器の排気筒	厚さ０．５㎜以上のステンレス鋼板製とする。
	4 保温	湯沸器の給排気筒（二重管）のいんぺい部保温を行う。 （保温の種別は共通仕様書第２編３．１．５、表２．３．５のｈ．（イ）． とする。）
消火設備	1 配管材料	イ）一般 ・ 配管用炭素鋼鋼管（白） ・ 圧力配管用炭素鋼鋼管（Ｓｃｈ４０） ロ）地中埋設部 ・ 外面被覆鋼管（ＳＧＰ－ＶＳ） ・ 外面被覆鋼管（ＳＧＰ－ＰＳ） ・ 外面被覆鋼管（ＳＴＰＧ－３７０ ＶＳ） ・ 外面被覆鋼管（ＳＴＰＧ－３７０ ＰＳ） ハ）二酸化炭素用 ・ 圧力配管用炭素鋼鋼管（Ｓｃｈ８０）
	2 屋内消火栓種別	・ 屋内消火栓 ・ 易操作性１号消火栓 ・ ２号消火栓
	3 消火栓開閉弁	・ ＪＩＳ１０Ｋ ・ ＪＩＳ２０Ｋ
	4 地中埋設管の接合	外面被覆鋼管の呼び径１００以下はねじ接合とする。
	5 保温	イ）屋外露出管については給水管に準ずる。 ロ）充水タンクの保温 ・ 施工しない ・ 施工する ハ）消火配管の保温 屋内消火栓 ・ 施工しない ・ 施工する スプリンクラー ・ 施工しない ・ 施工する
厨房機器設備	1 厨房機器類	図示による（材質等は共通仕様書による）。ただし、機器の寸法は概略寸法とする。
	2 付属制御盤	器具付属の制御盤は、製造者標準品とする。
ガス設備	1 配管材料	イ）一般 ・ 配管用炭素鋼鋼管（白） ・ 圧力配管用炭素鋼鋼管 ・ 銅管 ロ）地中埋設部 ⊙ ポリエチレン被覆鋼管 ・ 配管用炭素鋼鋼管（白） ・ 塩化ビニル被覆鋼管 ・ ガス用ポリエチレン管
ガス設備	2 都市ガス	ガスメーター ： 親メーターはガス事業者の貸与品とし、子メーターは買い取りとする。
	3 液化石油ガス	イ）ガスボンベ ・ 貸与品 ・ 買取り（ ・ １０ｋｇ ・ ２０ｋｇ ・ ５０ｋｇ ２ 本） ロ）ガスメーター ： 親メーターはガス事業者の貸与品とし、子メーターは買取りとする。 ハ）集合装置 ・ 標準図（施工７０）による 本組 ニ）転倒防止等 ・ 標準図（施工７１）［ ・（ａ） ・（ｂ）］
	4 ガス漏れ警報器	図示の箇所に取り付ける（ ・ 分離形 ・ 一体形） 外部出力端子（ ・ 有り ・ 無し）
	5 埋設深さ	イ）一般敷地内（ ｍ以上） ロ）敷地内車両道路（ ｍ以上） ハ）公道（ガス供給事業者及び道路管理者規定による）
	6 その他	配管工事は、原則としてガス供給事業者の責任施工とする。 供給事業者名 ：
し尿浄化槽設備	1 処理能力	対象人員 ５ 人 ＢＯＤ濃度 ２０ ｍｇ／Ｌ ＢＯＤ除去率 ９０ ％以上
	2 流入負荷	汚水量 １．０ ｍ3／日 ＢＯＤ濃度 ２００ ｍｇ／Ｌ
	3 処理方式	・ 小規模合併処理（告示区分第１の処理方式） ・ 合併処理（告示区分第２、第３、第６の処理方式）
	4 主要構造	⊙ ユニット型（ＦＲＰ製） ・ 現場施工型 設置スペース 約 Ｌ× Ｗ
	5 総電気容量	１ 相 × １００ Ｖ × ０．２５ ｋＷ
	6 ばっ気槽用送風機	イ）外部に設置する送風機は鉄板製カバー付とし、コンクリート基礎上に固定する。 ロ）送風機にはケーブル（ビニルキャブタイヤケーブル）を約 ｍを付属する。 ハ）送風機を２基設置する場合タイマーによる自動交互運転とする。
	7 流入側	イ）流入管底 設計ＧＬ－０．３８ｍ ロ）浄化槽本体への流入方式（必要な場合はポンプアップ方式とする）
	8 放流側	イ）浄化槽本体よりの自然放流可能管底 設計 ＧＬ－ ｍ ロ）浄化槽本体よりの放流方式 必要な場合はポンプアップ方式とする。
	9 排気管及び排気かさ	構造上不要な場合は設けない。
	10 ポンプ	流入用並びに放流用ポンプは各々２台設置し、自動交互異常時同時運転とする。
	11 制御盤	・ 製造者標準品 ・ 共通仕様書による （ ・ 漏電、過負荷、満水警報等の一括故障表示用無電圧接点及び端子を設ける。）
	12 マンホール	・ 製造者標準品（安全荷重 ・ ５ ・ １５ ・ ５０ ｋＮ以上とする。） ・ 標準図（蓋材１）（ ・ ＭＨＢ ・ ＭＨＡ ・ ＭＨＤ）
	13 装置耐荷重	耐荷重はマンホール安全荷重による。
	14 土工事	イ）基礎杭 ・ 要（ ・ 別途 ・ 本工事） ・ 不要 ロ）基礎コンクリート ・ 要（ ・ 本工事 ・ 別途） ・ 不要 ハ）根切 ・ 本工事 ・ 別途 ニ）埋戻し ・ 本工事 ・ 別途 ホ）躯体（現場施工形の場合） ⊙ 本工事 ・ 別途 ヘ）山止め ・ 要（ ・ 本工事 ・ 別途） ・ 不要 ト）水替え ・ 要（ ・ 本工事 ・ 別途） ・ 不要
	15 消毒剤	３０日分を納入する。
	16 水質表示等の提出	一定期間定常状態で使用後、放流水質等を記入した測定表を提出する。
	17 フローシート	合成樹脂製パネル（厚さ４㎜以上、文字は彫り込み）を取り付ける。
	18 消泡装置	ノズル式又は消泡剤式とする。

※ 契約対象外の項目につては、
別図参照

施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	機械設備特記仕様書(2/2)		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	－	図面番号	8-249/319
作成者	関東農政局 両総農業水利事業所		

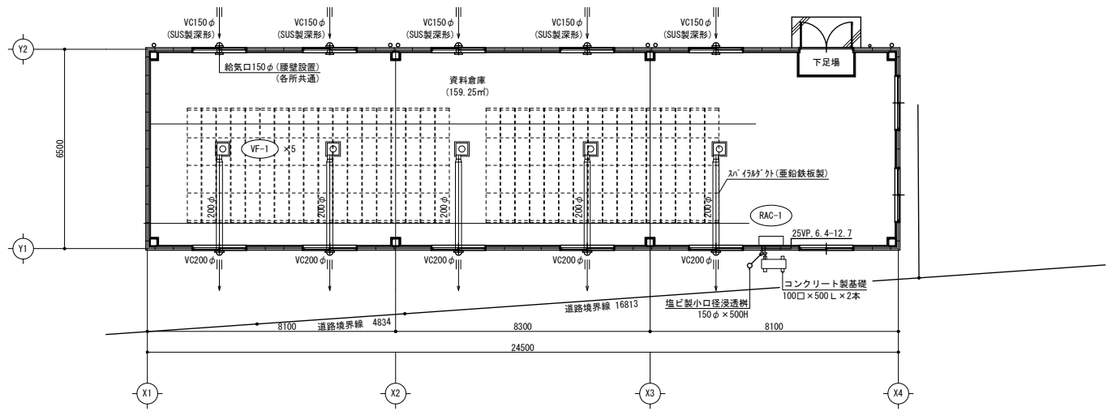
平面図(空調･換気設備) S=1:100

機器表

記 号	名 称	仕 様	電気容量	電 源	台 数	設 置 場 所	備 考
ＲＡＣ － １	ルームエアコン	空冷ヒートポンプ式　Ｃｏｍｐ 壁掛形　Ｆａｎ(外) 冷房能力　７．１ＫＷ　Ｆａｎ(内) 暖房能力　８．５ＫＷ 付属品　ワイヤレスリモコン、室外機用コンクリート製基礎×２	１．９　ＫＷ ７７　Ｗ ５５　Ｗ	１φ－ ２００Ｖ	１	資料倉庫作業スペース	ﾀﾞｲｷﾝ：S71NTRXP
ＶＦ － １	ダクト用換気扇	低騒音形 １５０φ　×　４３０ＣＭＨ　×　７０Ｐａ 付属品　ＳＵＳ製深形ベントキャップ	７４　Ｗ	１φ－ １００Ｖ	５	資料倉庫×５	三菱：VD-23ZB9

※　メーカー、型番は参考

1階 平面図



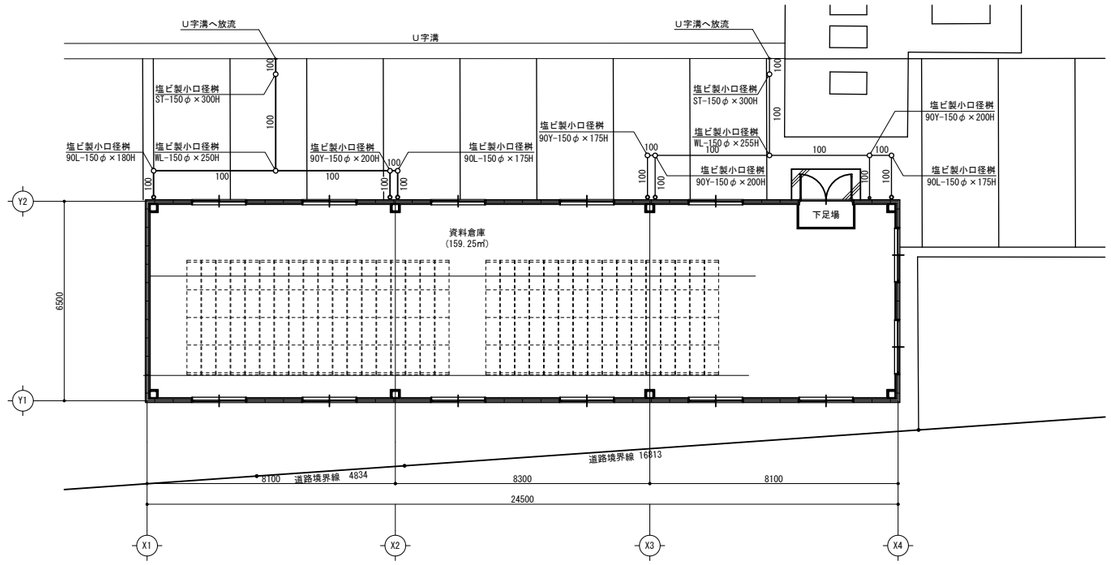
施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	平面図(空調･換気設備)		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 1:100 A2 1:141	図面番号	8-250/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所		

平面図(排水設備) S=1:100

凡　例

記　号	名　称	備　考
——— R ———	冷媒管	冷媒管用被覆銅管（室内外機渡り配線共巻き）
——— D ———	ドレン管	硬質塩化ビニル管（ＶＰ）
———————	雨水排水管	硬質塩化ビニル管（ＶＰ）
○	塩ビ製小口径桝	塩ビ製蓋共

1階 平面図

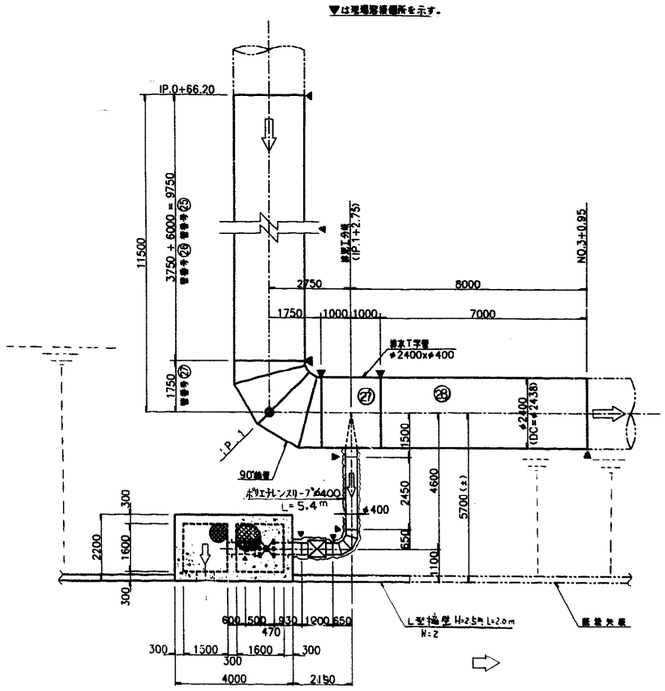


施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	平面図(排水設備)		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 1:100 A2 1:141	図面番号	8-251/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所		

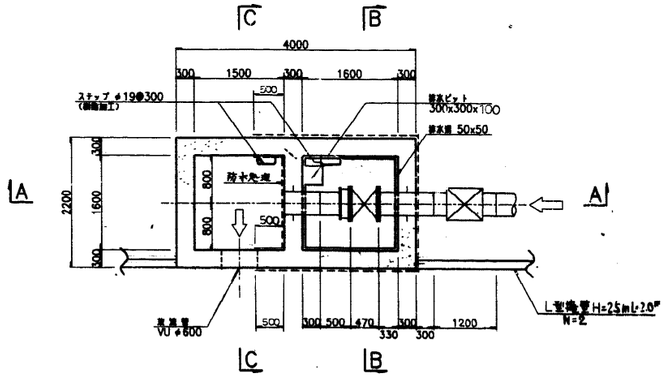
1号排泥工 S=1:50

IP. 1+2. 750

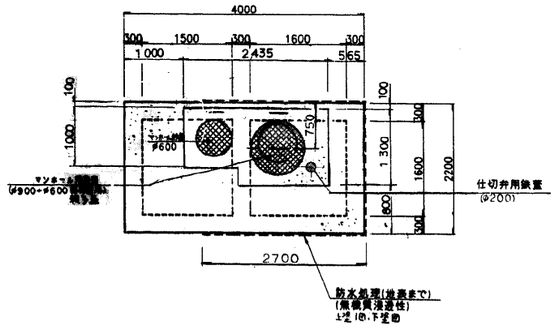
全体平面図
S = 1 : 100



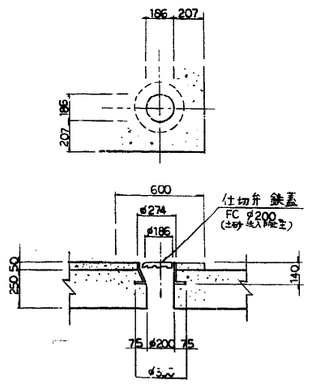
下部平面図
S = 1 : 50



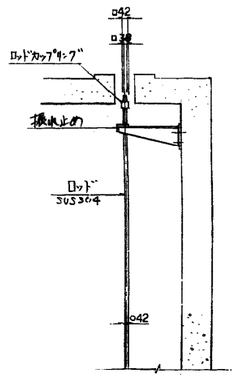
上部平面図



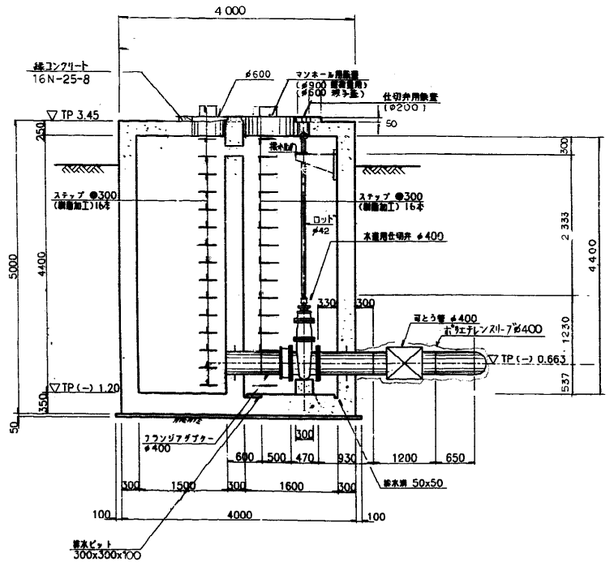
鉄蓋詳細図
S=1:20



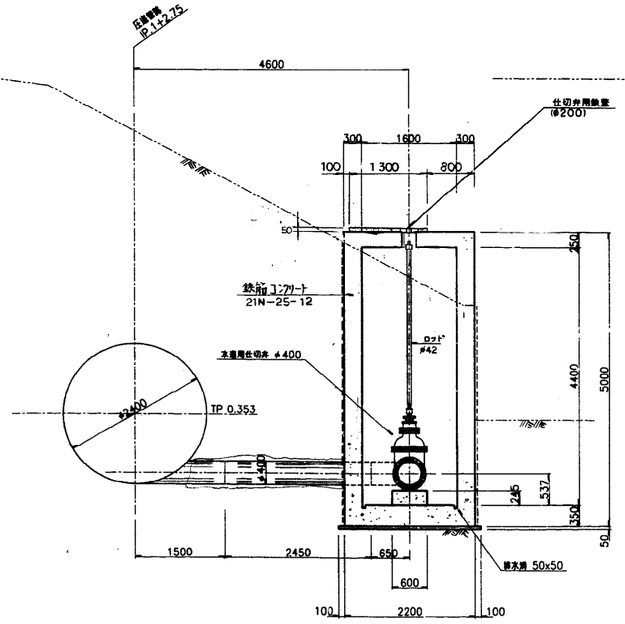
振止め詳細図
SS400 S=1:30



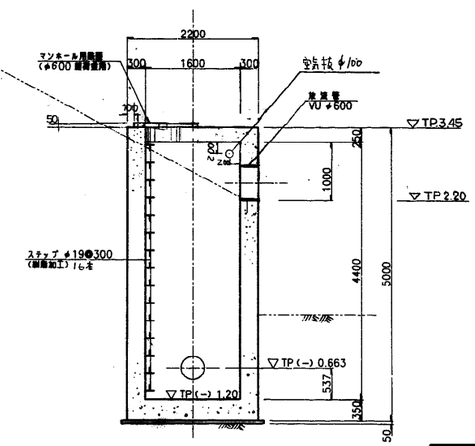
断面 A-A



断面 B-B



断面 C-C

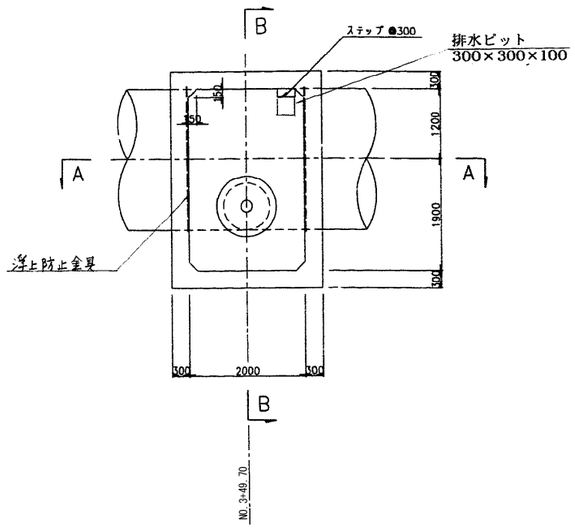


施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	1号排泥工		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 1:50 A2 1:70	図面番号	8-252/319
作成者	関東農政局 両総農業水利事業所		

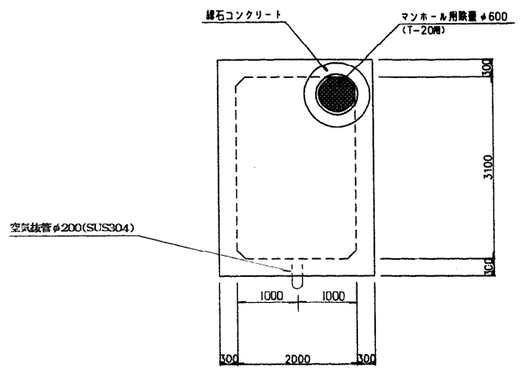
1号空気弁工　S=1:50

No. 3+49.700

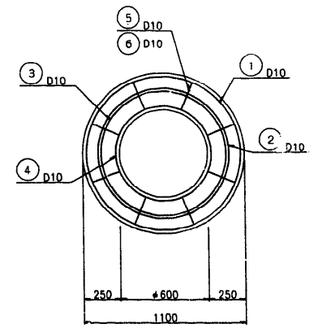
下部平面図

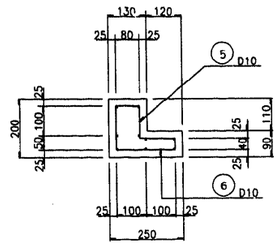


上部平面図

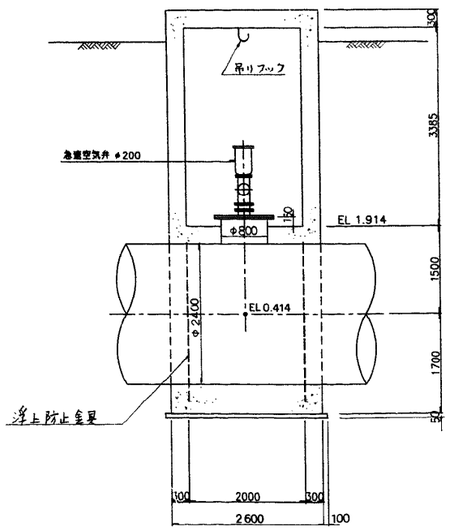


鉄筋コンクリート縁石

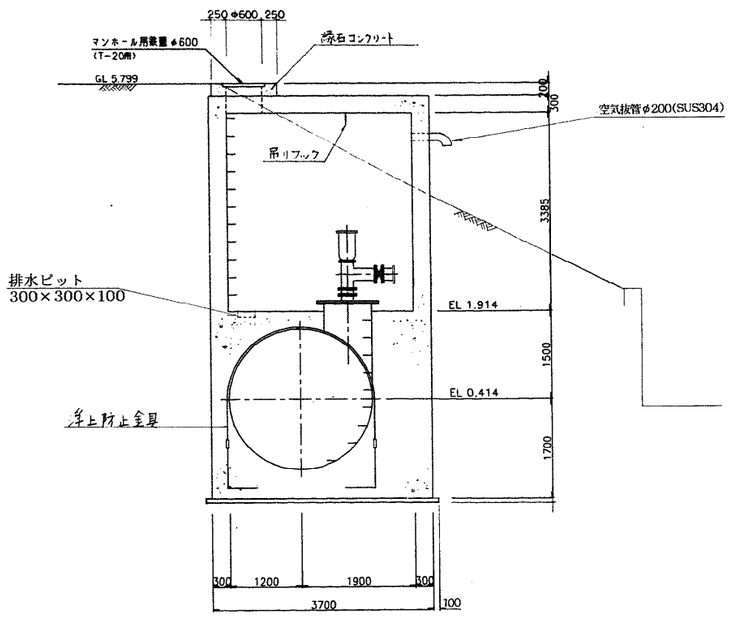


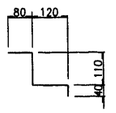


断面 A－A

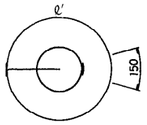


断面 B－B

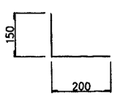




⑤ 8-D10×350



①～④の加工図



⑥ 8-D10×350

① L＝3 450
② L＝2 950
③ L＝2 820
④ L＝2 190

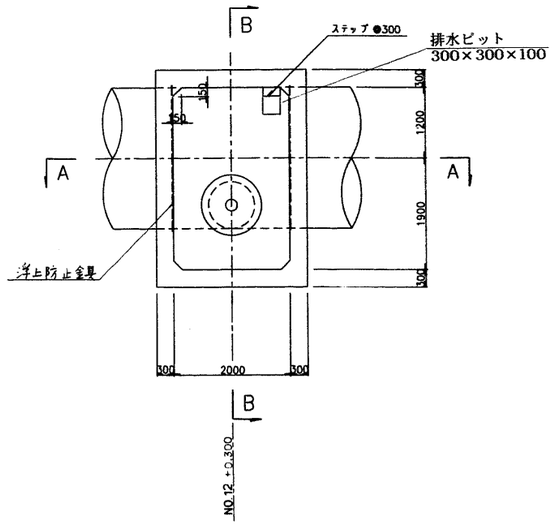
注：浮上防止金具の詳細は3号空気弁工 構造図参照。

施設名	第2揚水機場 (0312100-1100-19)		
図面名	1号空気弁工		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 1:50 A2 1:70	図面番号	8-253/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所		

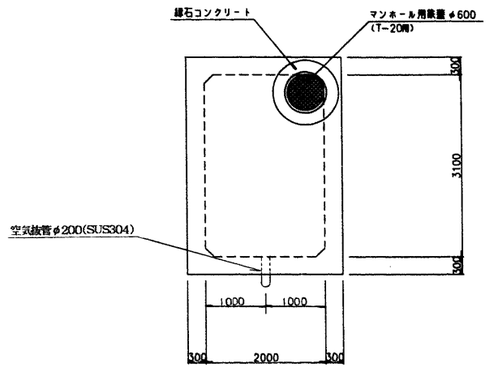
2号空気弁工 S=1:50

No. 12+0.300

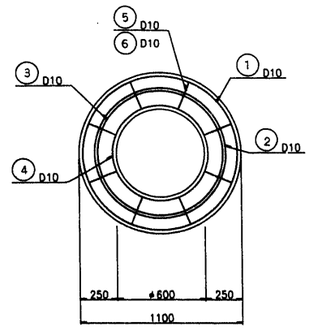
下部平面図



上部平面図

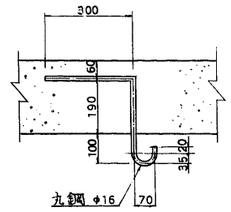


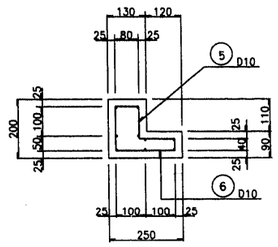
鉄筋コンクリート縁石



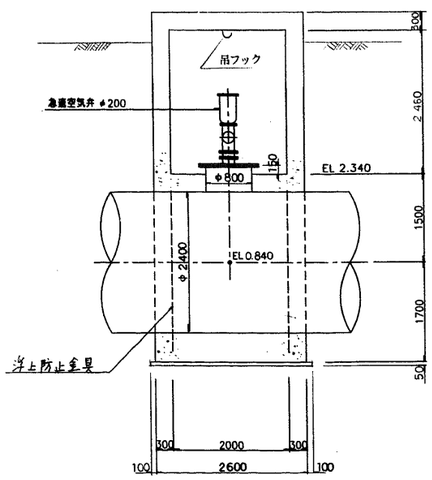
吊フック詳細図

S=1:10

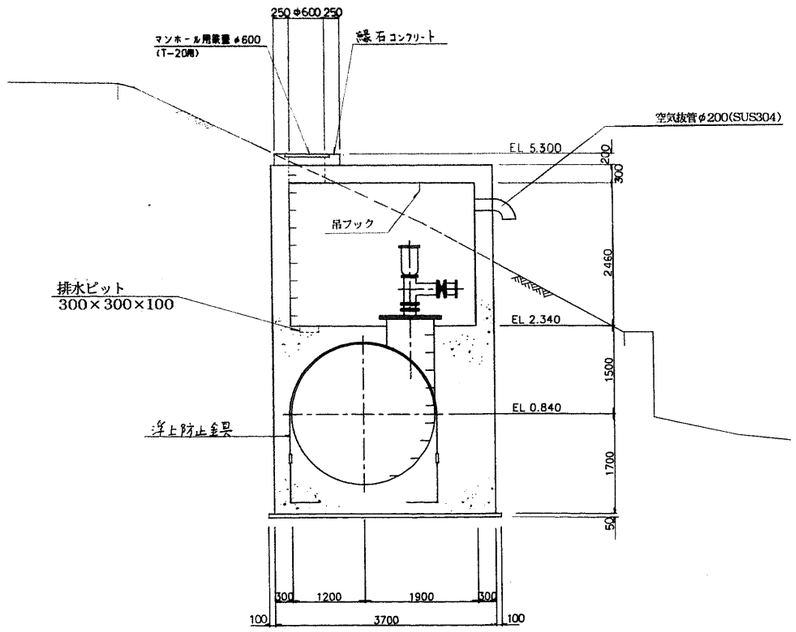


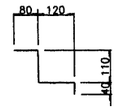


断面 A－A

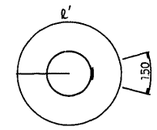


断面 B－B



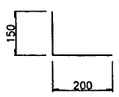


⑤ 8-D10×350



①～④ の加工図

① L=3 450
② L=2 950
③ L=2 820
④ L=2 190



⑥ 8-D10×350

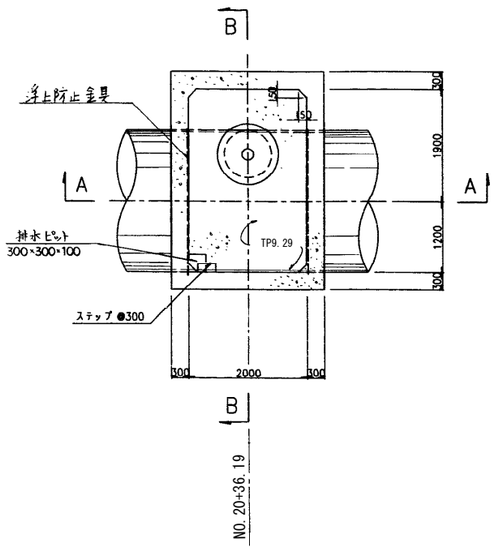
注： 浮上防止金具の詳細は 3号空気弁工 構造図参照.

施設名	第2揚水機場 (0312100-1100-19)		
図面名	2号空気弁工		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 1:50 A2 1:70	図面番号	8-254/319
作成者	関東農政局 両総農業水利事業所		

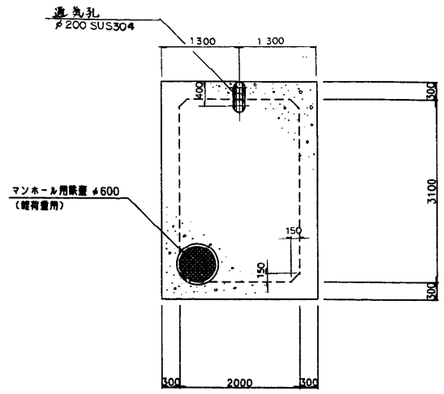
3号空気弁工 S=1:50

No. 20+36. 190

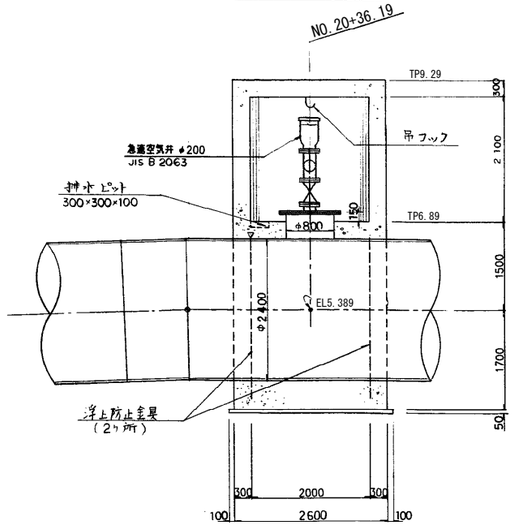
下部平面図



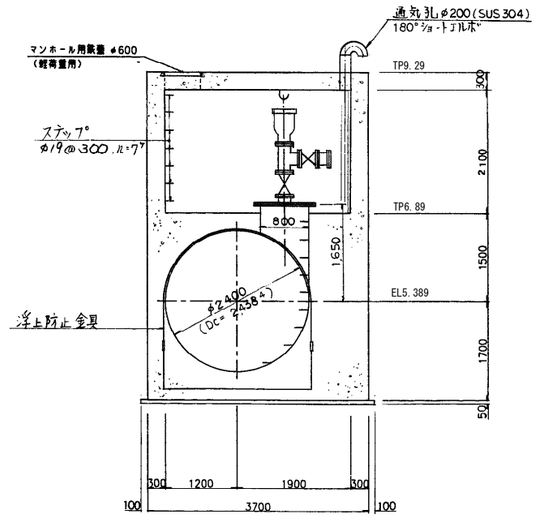
上部平面図



断面 A－A

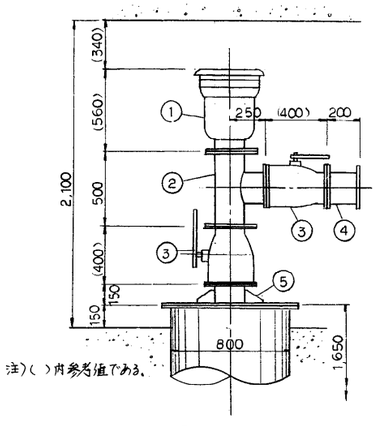


断面 B－B



※ 浮上防止金具は計画縦断図参照

配管詳細図 S=1:20



注)( )内参考値である。

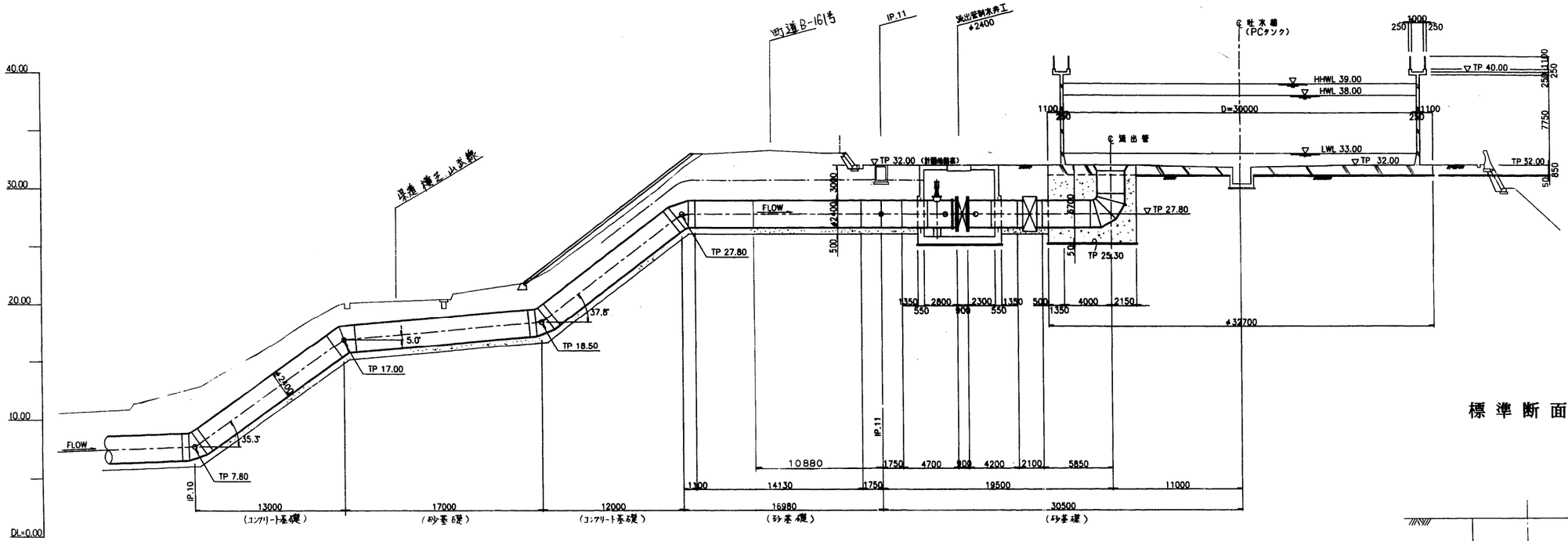
配管材

① 急速空気弁(JIS B 2063) φ200 7.5kg/cm²用
② 3F T管 φ200×φ200 (STW400)
③ 副弁(ボール弁又はバタフライ弁) φ200
④ 2F 短管 φ200 (STW400)
⑤ 空気弁用フランジふた φ200
(JIS G 3451, F12)

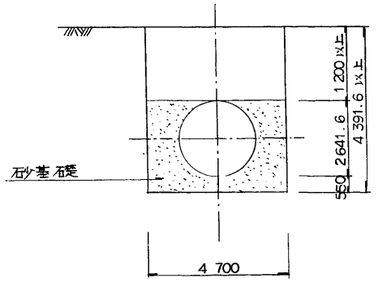
施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	3号空気弁工		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 1:50 A2 1:70	図面番号	8-255/319
作成者	関東農政局 両総農業水利事業所		

流出入管縦断図 S=1:200

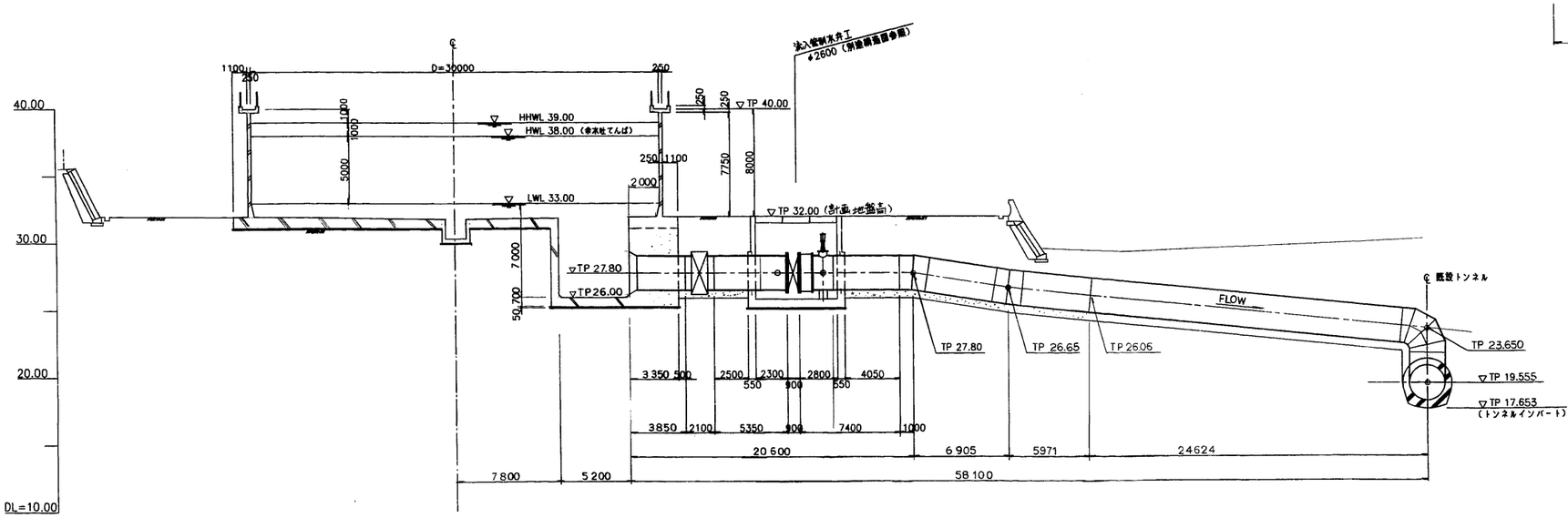
流出管縦断図
S = 1 : 200



標準断面図
S=1/100



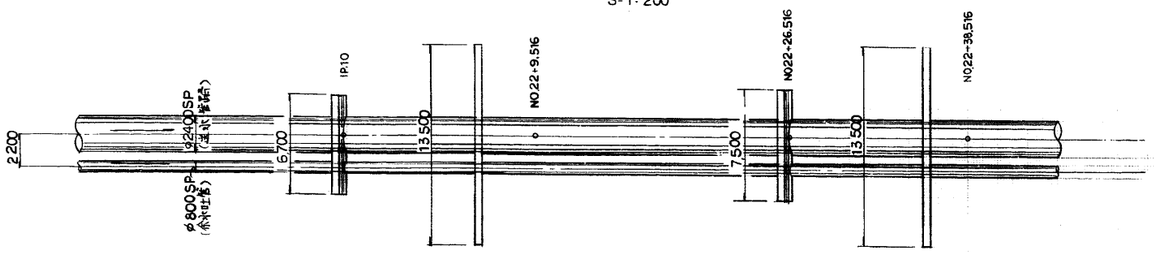
流入管縦断図
S = 1 : 200

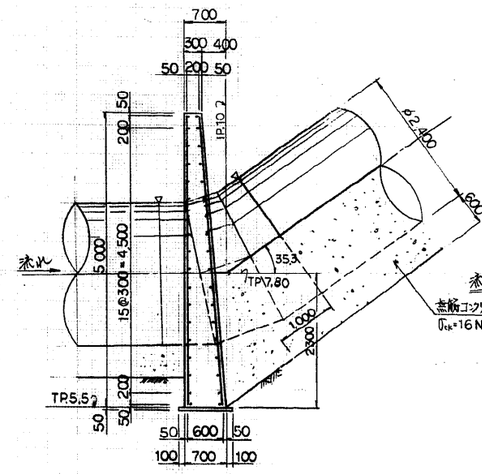


施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	流出入管縦断図		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 1:200 A2 1:283	図面番号	8-256/319
作成者	関東農政局 両総農業水利事業所		

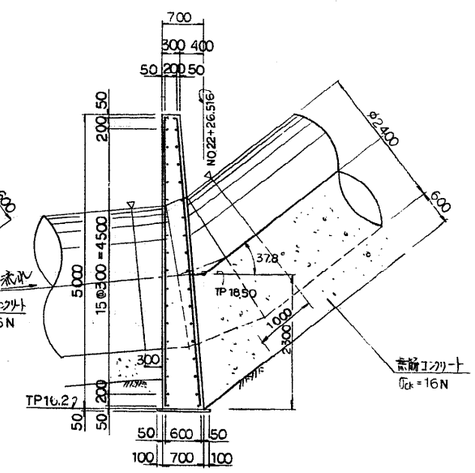
アンカーブロック工

平面図
S=1:200





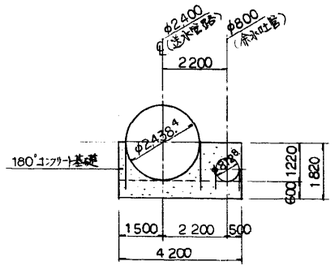
NO1アンカーブロック断面図
S=1:50



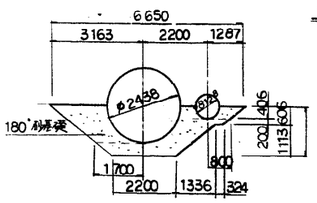
NO2アンカーブロック断面図
S=1:50

注) 鉄筋はすべてD13@300とする

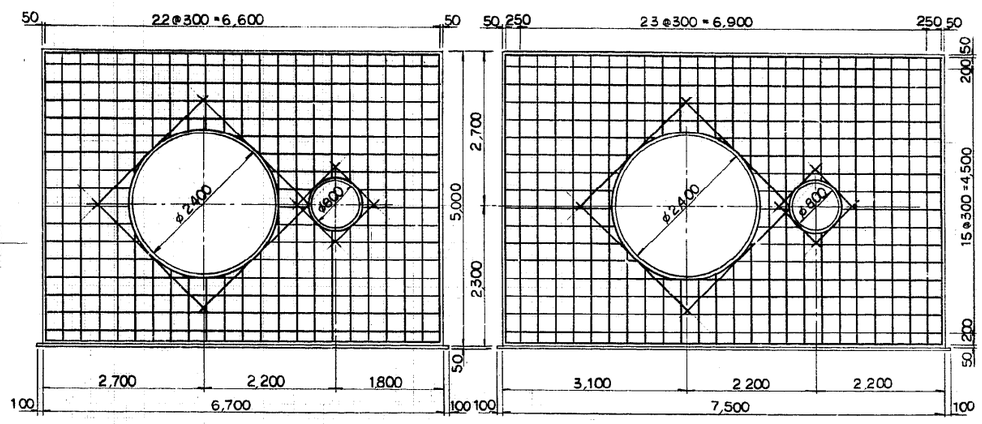
コンクリート基礎標準図
S=1:100



砂基礎標準断面図
S=1:100

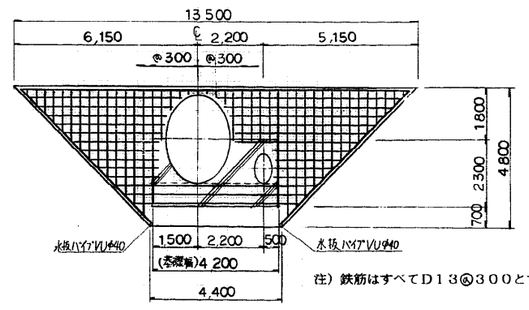


縦断図
S=1:200



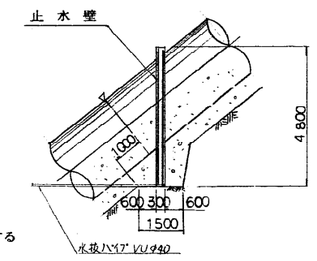
正面図
S=1:50

正面図
S=1:50



注) 鉄筋はすべてD13@300とする

断面図
S=1:100

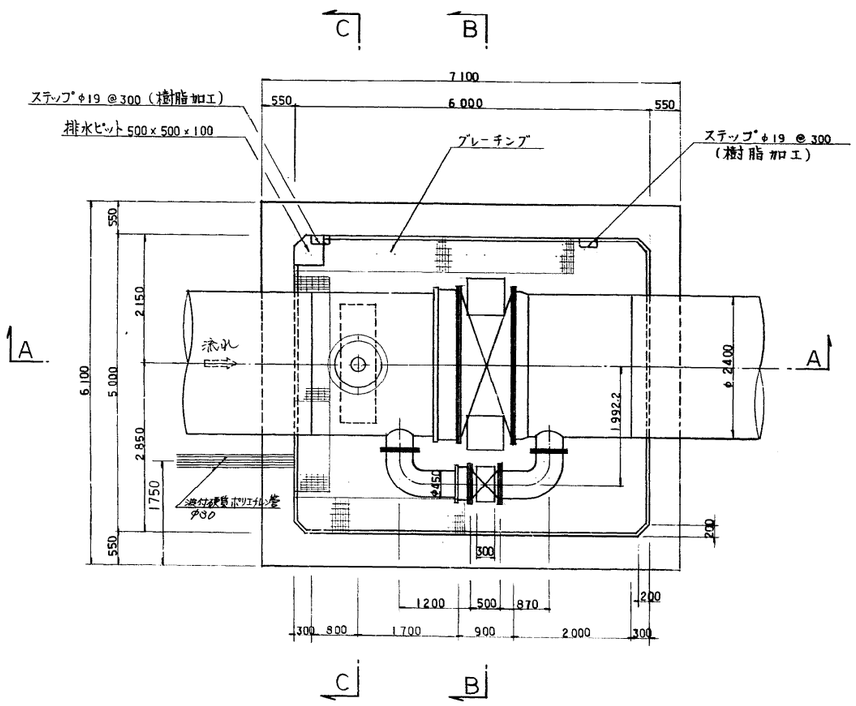


止水壁正面図
S=1:100

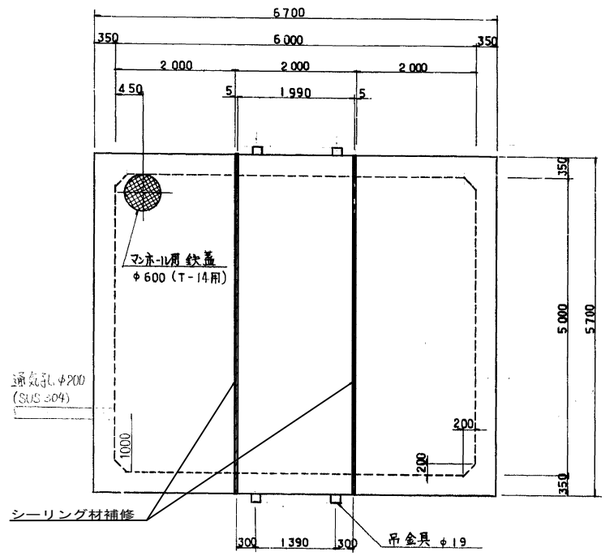
施設名	第2揚水機場 (0312100-1100-19)		
図面名	アンカーブロックエ		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 図示	図面番号	8-257/319
作成者	関東農政局 両総農業水利事業所		

流出管制水弁工・4号空気弁工(1/2)　S=1：50

下部平面図

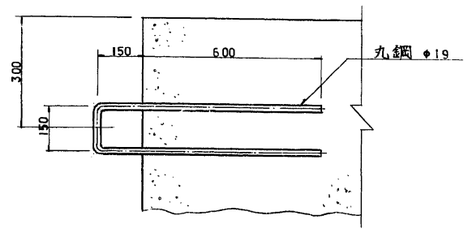


上部平面図

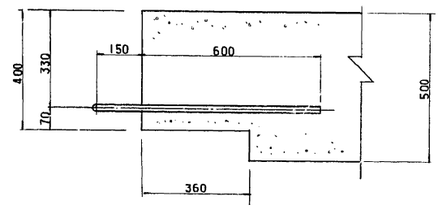


吊金具詳細図

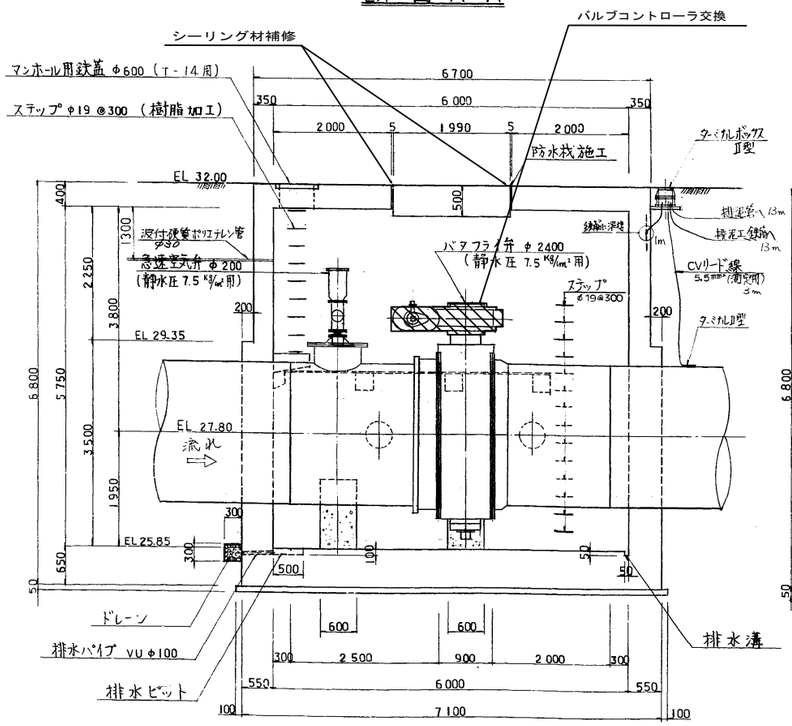
平面図



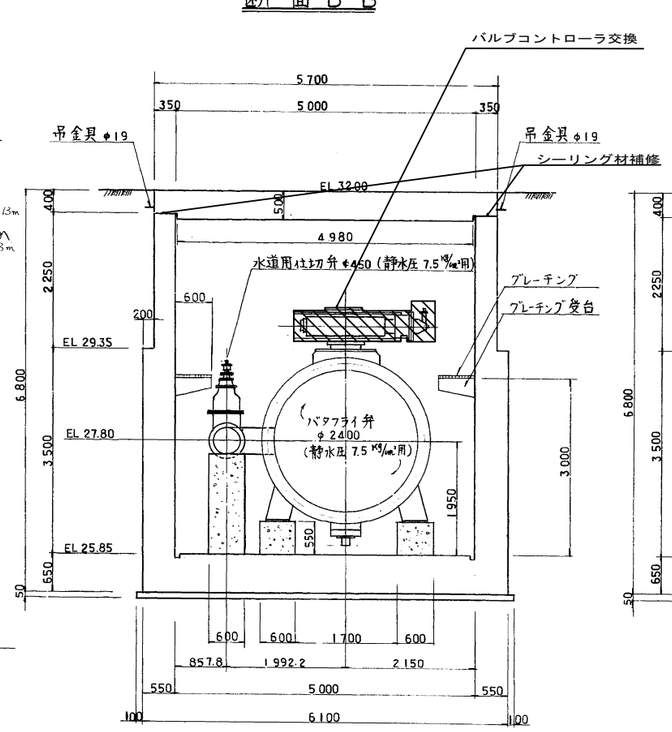
断面図



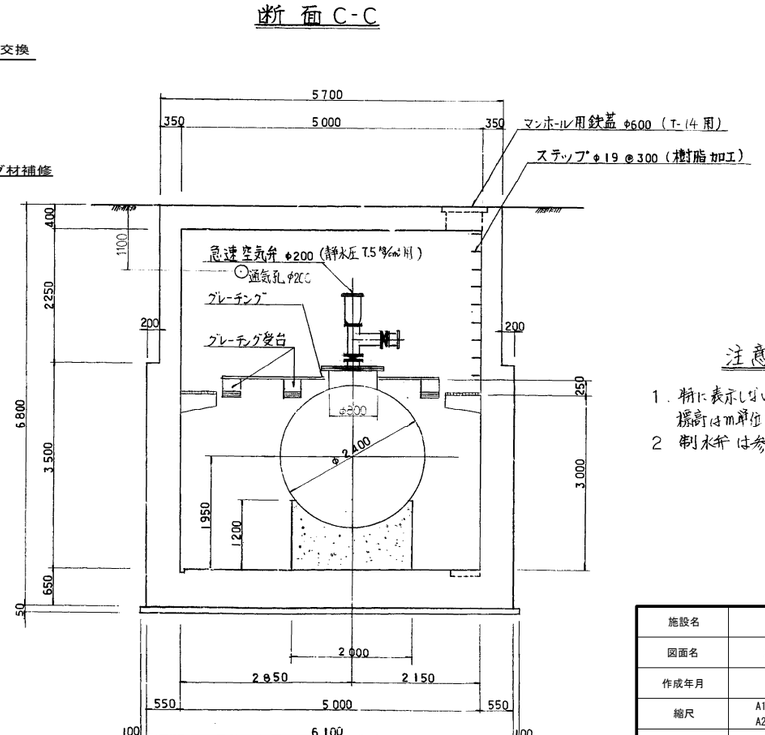
断面 A-A



断面 B-B



断面 C-C



注意事項

1. 特に表示しない限り、寸法はmm単位で、標高はm単位で表示してある。
2. 制水弁は参考図である。

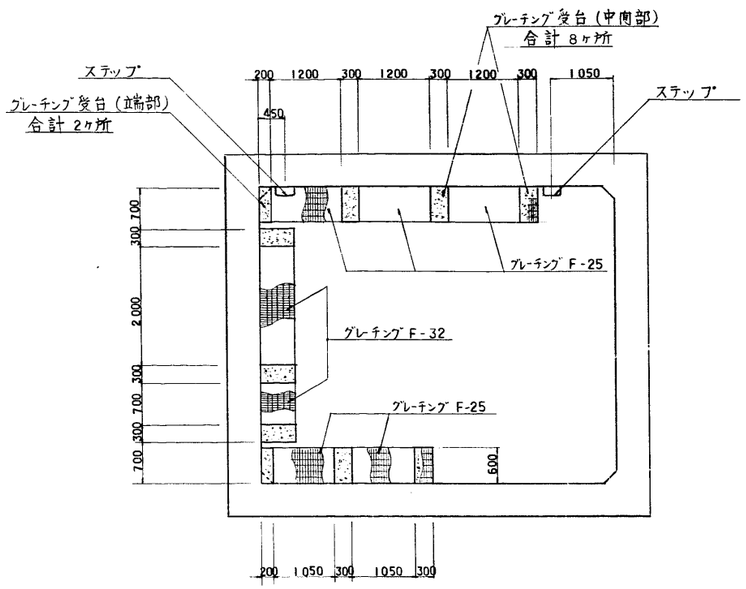
施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	流出管制水弁工・4号空気弁工(1/2)		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 1:50 A2 1:70	図面番号	8-258/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所		

流出管制水弁工・4号空気弁工(2/2)

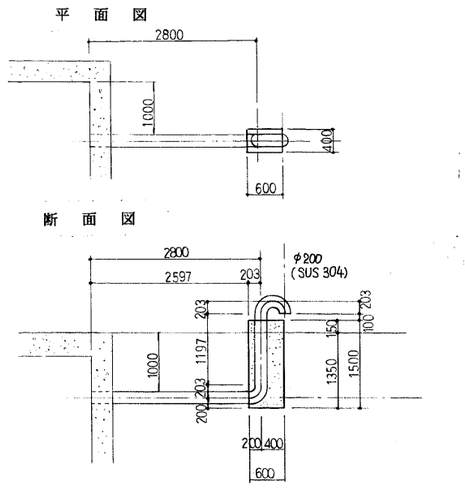
グレーチング据付平面図

S=1:50

設置高は 構造図(1/1)参照



通気孔詳細図

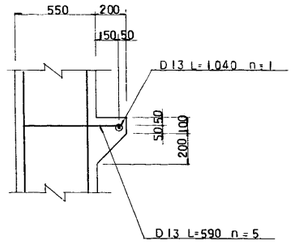


グレーチング受台構造配筋図

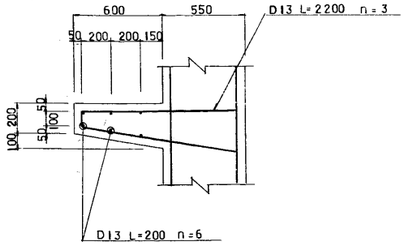
S=1:20

鉄筋本数は1ヶ所当り

端部



中間部



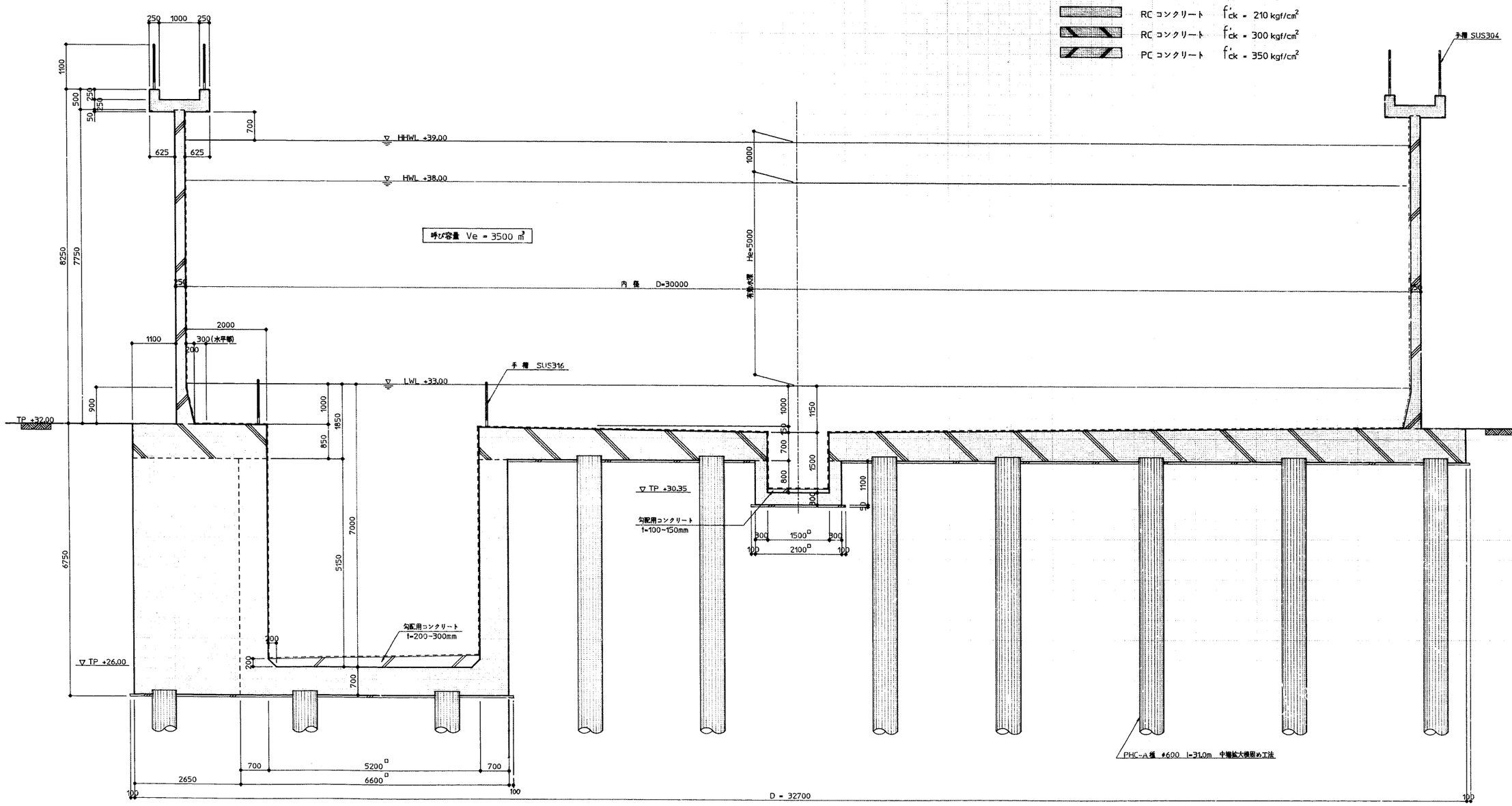
施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	流出管制水弁工・4号空気弁工(2/2)		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 1:50 A2 1:70	図面番号	8-259/319
作成者	関東農政局 両総農業水利事業所		

吐水槽工(1/9)　S=1:50

断面図 S = 1/50

凡例

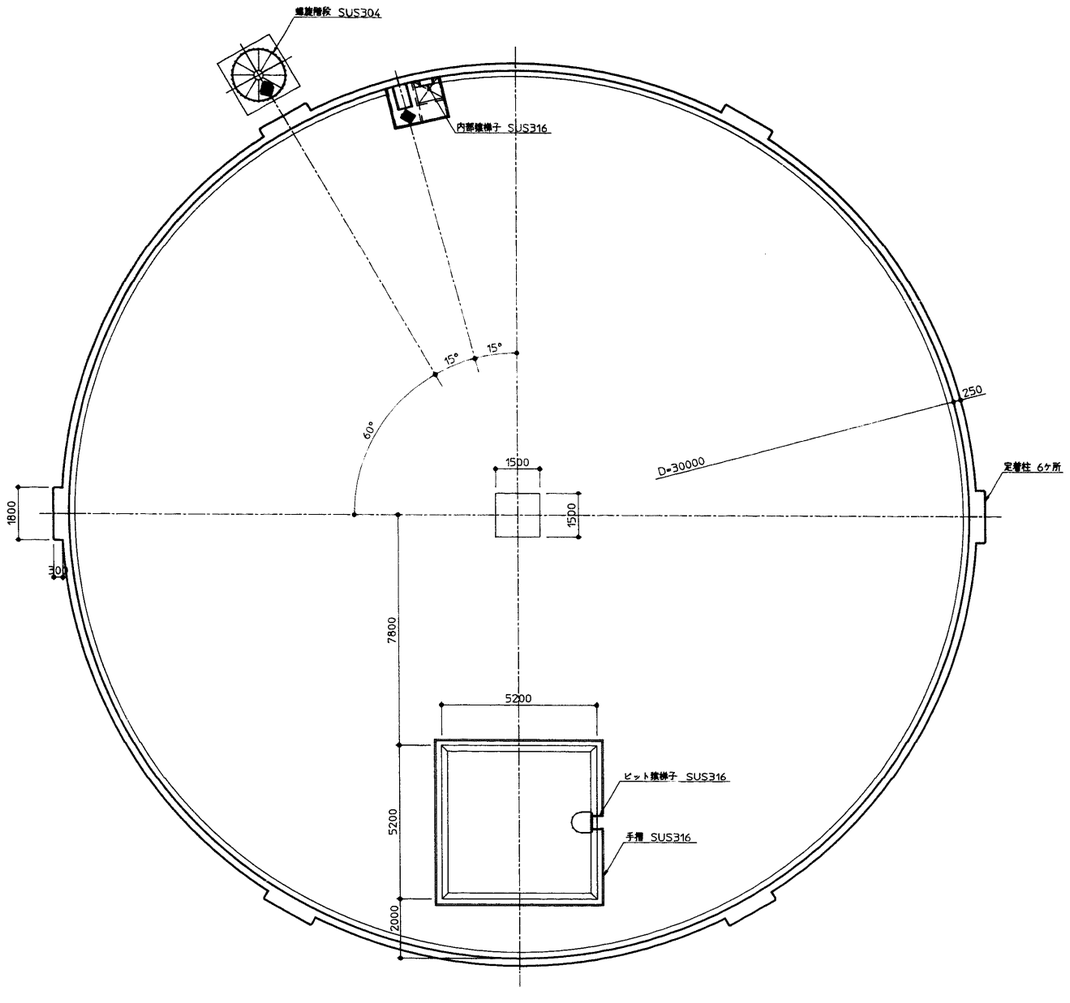
- 捨 コンクリート　f'_{ck} = 160 kgf/cm²
- RC コンクリート　f'_{ck} = 210 kgf/cm²
- RC コンクリート　f'_{ck} = 300 kgf/cm²
- PC コンクリート　f'_{ck} = 350 kgf/cm²



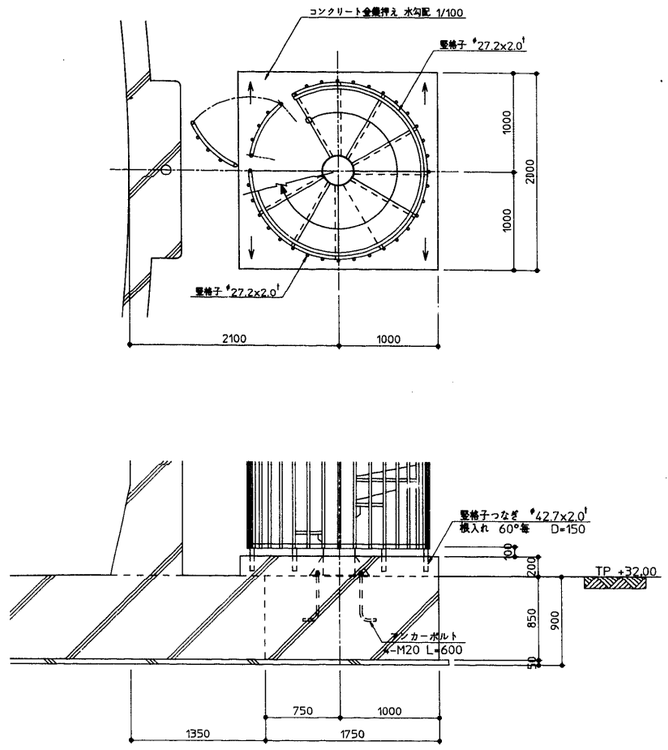
施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	吐水槽工(1/9)		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 1:50 A2 1:70	図面番号	8-260/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所		

吐水槽工(2/9)

平面図 S = 1/100



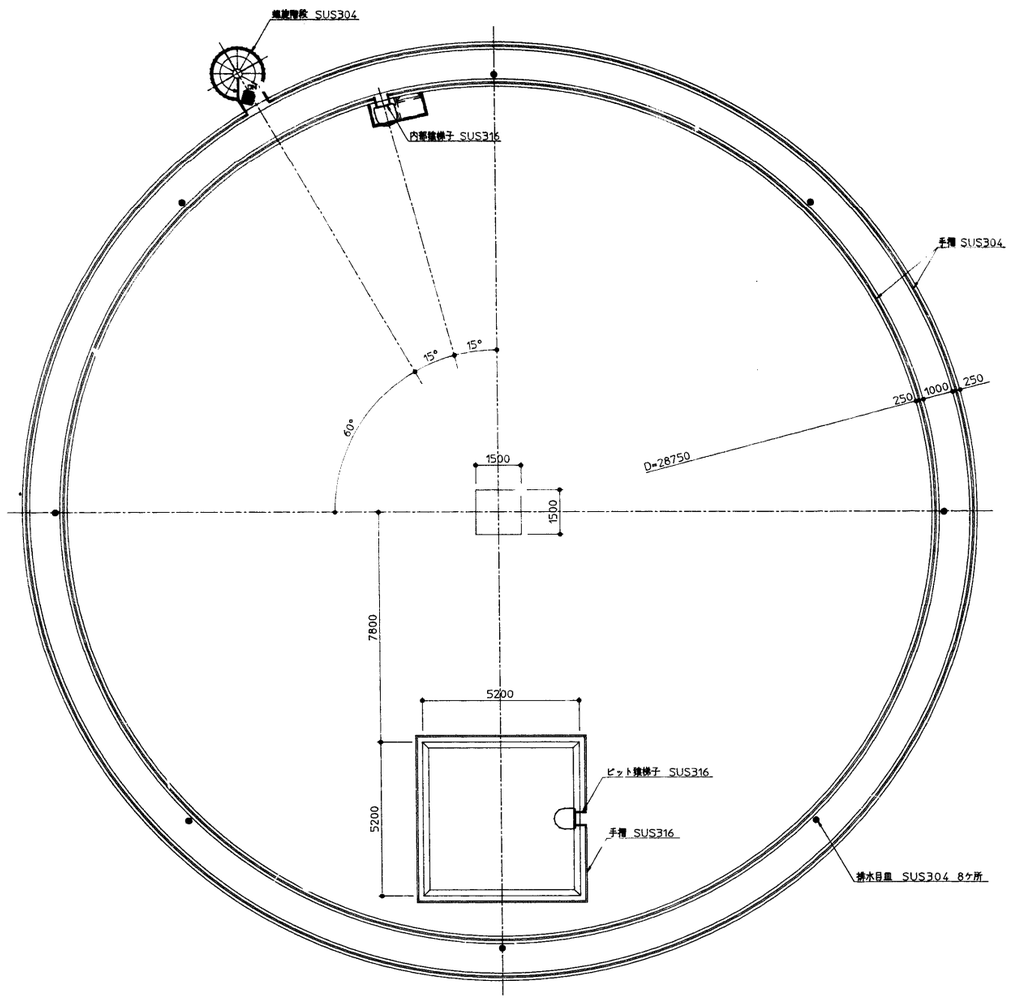
螺旋階段基礎詳細図 S = 1/30



施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	吐水槽工(2/9)		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 図示	図面番号	8-261/319
作成者	関東農政局 両総農業水利事業所		

吐水槽工(3/9)

ドーム伏図　S = 1/100



注 意 事 項

1. 特に表示しない限り、標高はm単位で寸法はmm単位で表示してある。
2. 関連図面は次の通りである。
   - 螺旋階段～「吐水槽階段詳細図」
   - 内部猿梯子～「吐水槽梯子詳細図(1)」
   - ピット猿梯子詳細～「吐水槽梯子詳細図(2)」
     手摺
   - 流出管・余水水吐管～「吐水槽配管平面図」

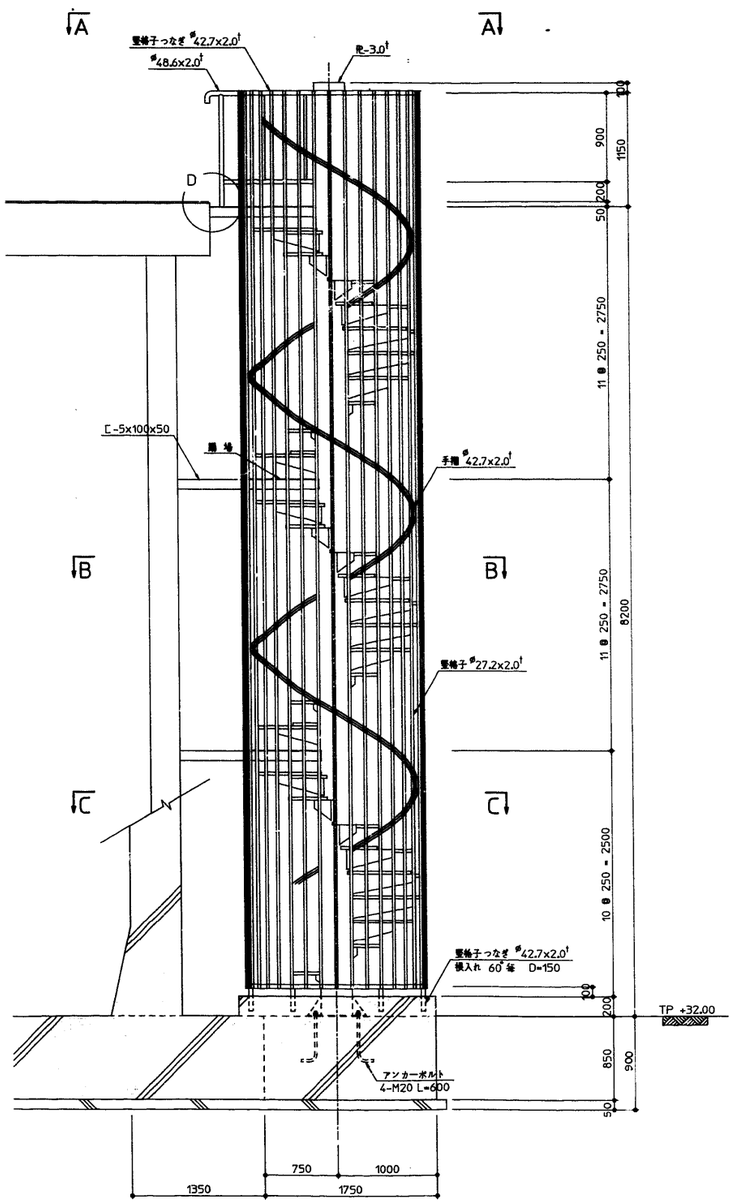
施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	吐水槽工(3/9)		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 図示	図面番号	8-262/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所		

吐水槽工(4/9)

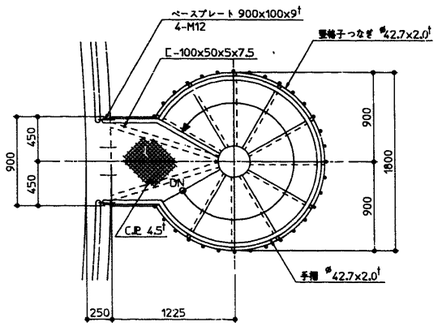
螺旋階段詳細図

特記なき材質は SUS304 とする

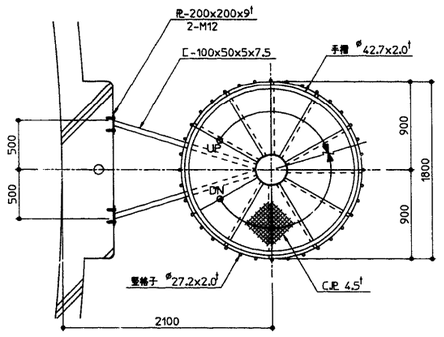
側面図 S = 1/30



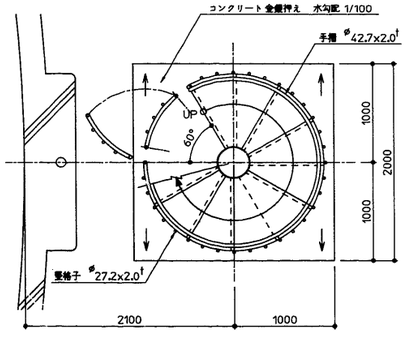
A-A平面図 S = 1/30



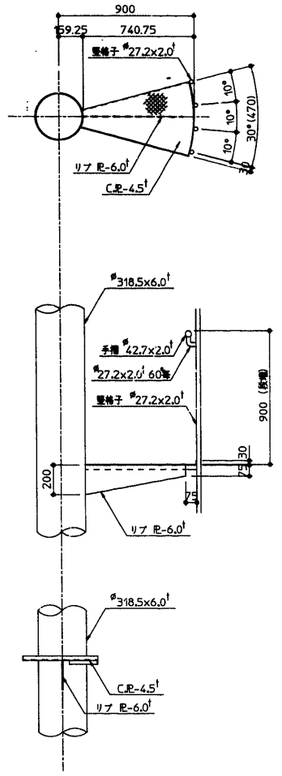
B-B平面図 S = 1/30



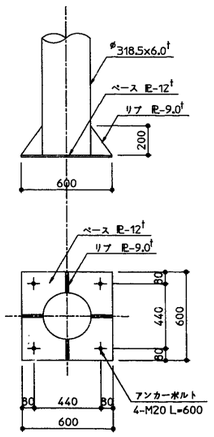
C-C平面図 S = 1/30



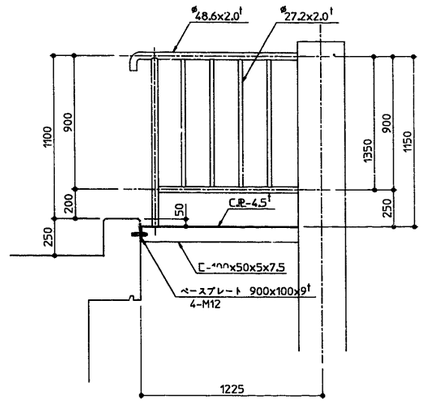
踏板詳細図 S = 1/20



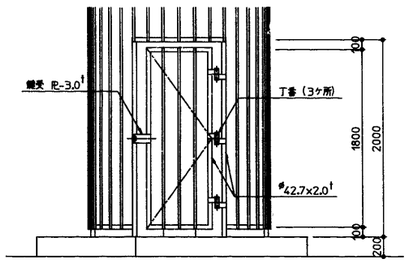
支柱下部詳細図 S = 1/20



D部詳細図 S = 1/20



出入口詳細図 S = 1/30



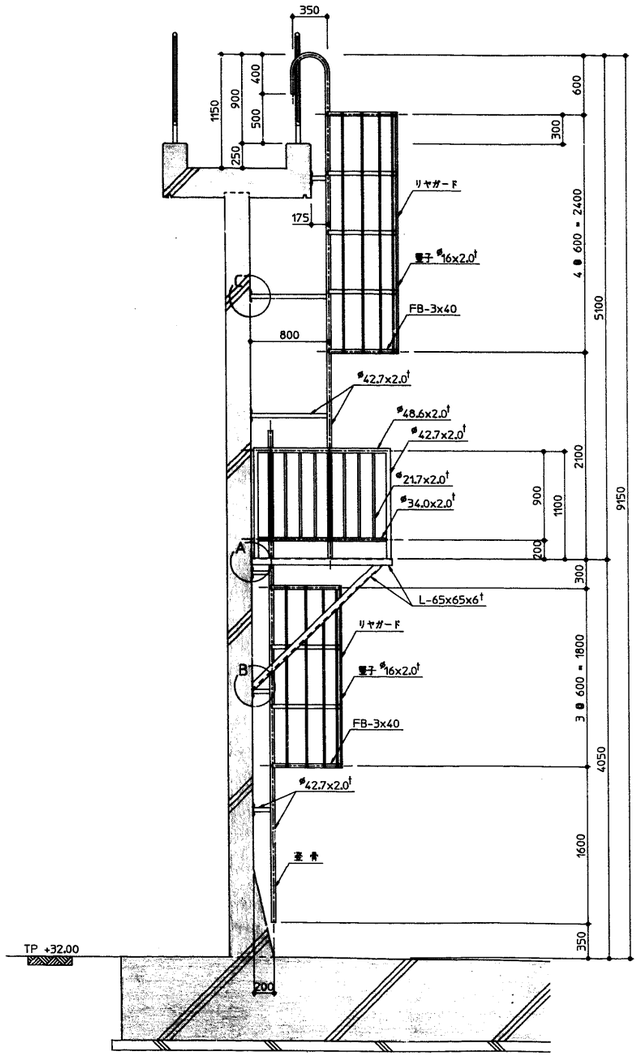
施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	吐水槽工(4/9)		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 図示	図面番号	8-263/319
作成者	関東農政局 両総農業水利事業所		

吐水槽工(5/9)

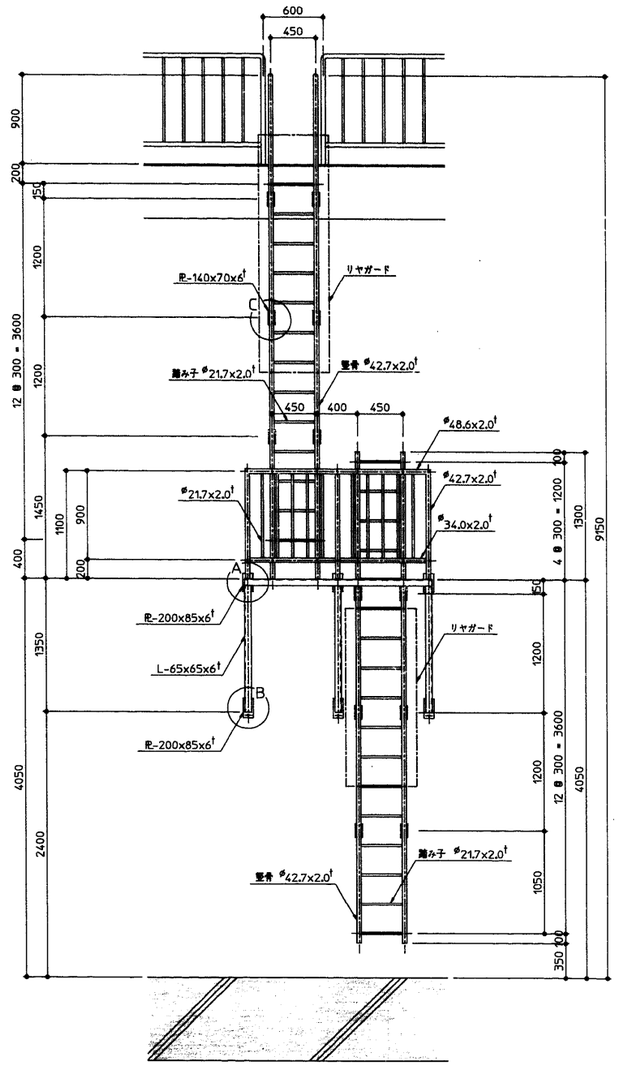
内部猿梯子詳細図

特記なき材質は SUS316 とする

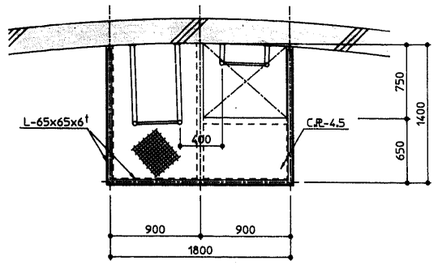
側面図 S = 1/30



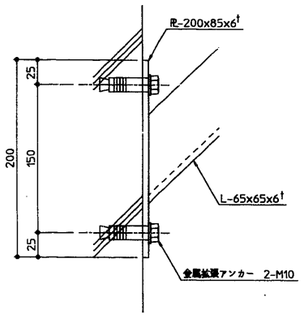
正面図 S = 1/30



踊場平面図 S = 1/30

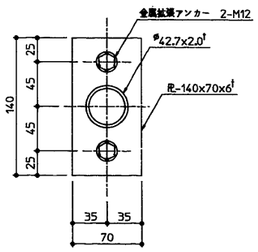


B部詳細図 S = 1/3

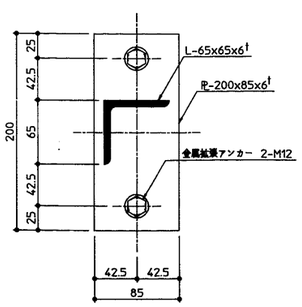


リヤガード平面図 S = 1/30

C部詳細図 S = 1/3



A部詳細図 S = 1/3



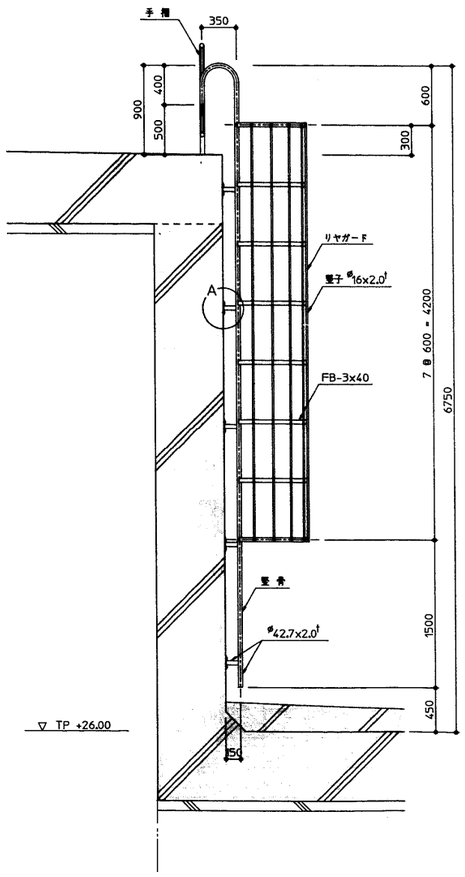
施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	吐水槽工(5/9)		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 図示	図面番号	8-264/319
作成者	関東農政局 両総農業水利事業所		

吐水槽工(6/9)

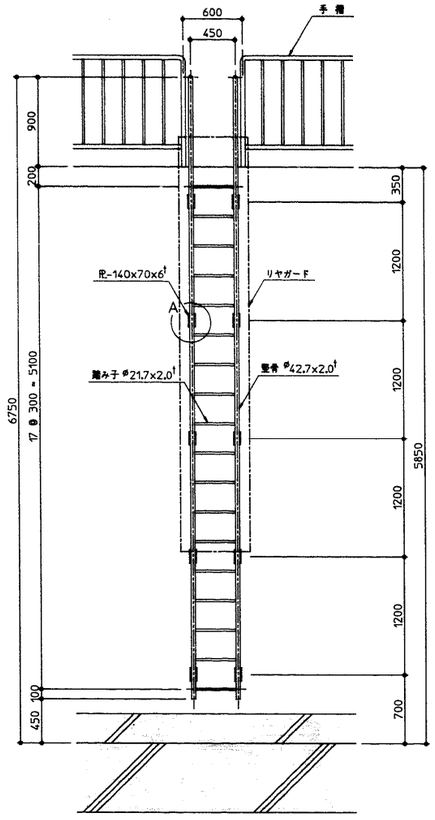
ピット猿梯子詳細図

特記なき材質は SUS316 とする

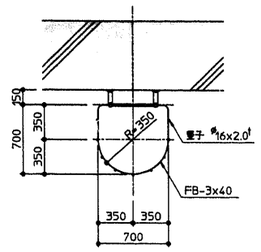
側面図 S = 1/30



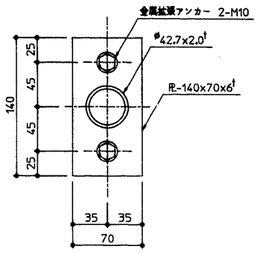
正面図 S = 1/30



リヤガード平面図 S = 1/30

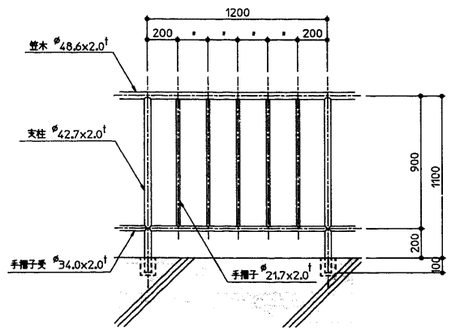


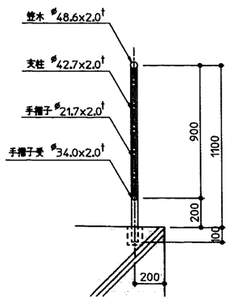
A部詳細図 S = 1/3



手摺詳細図 S = 1/20

ピット部の材質は全て SUS316 とする
歩廊部の材質は全て SUS304 とする

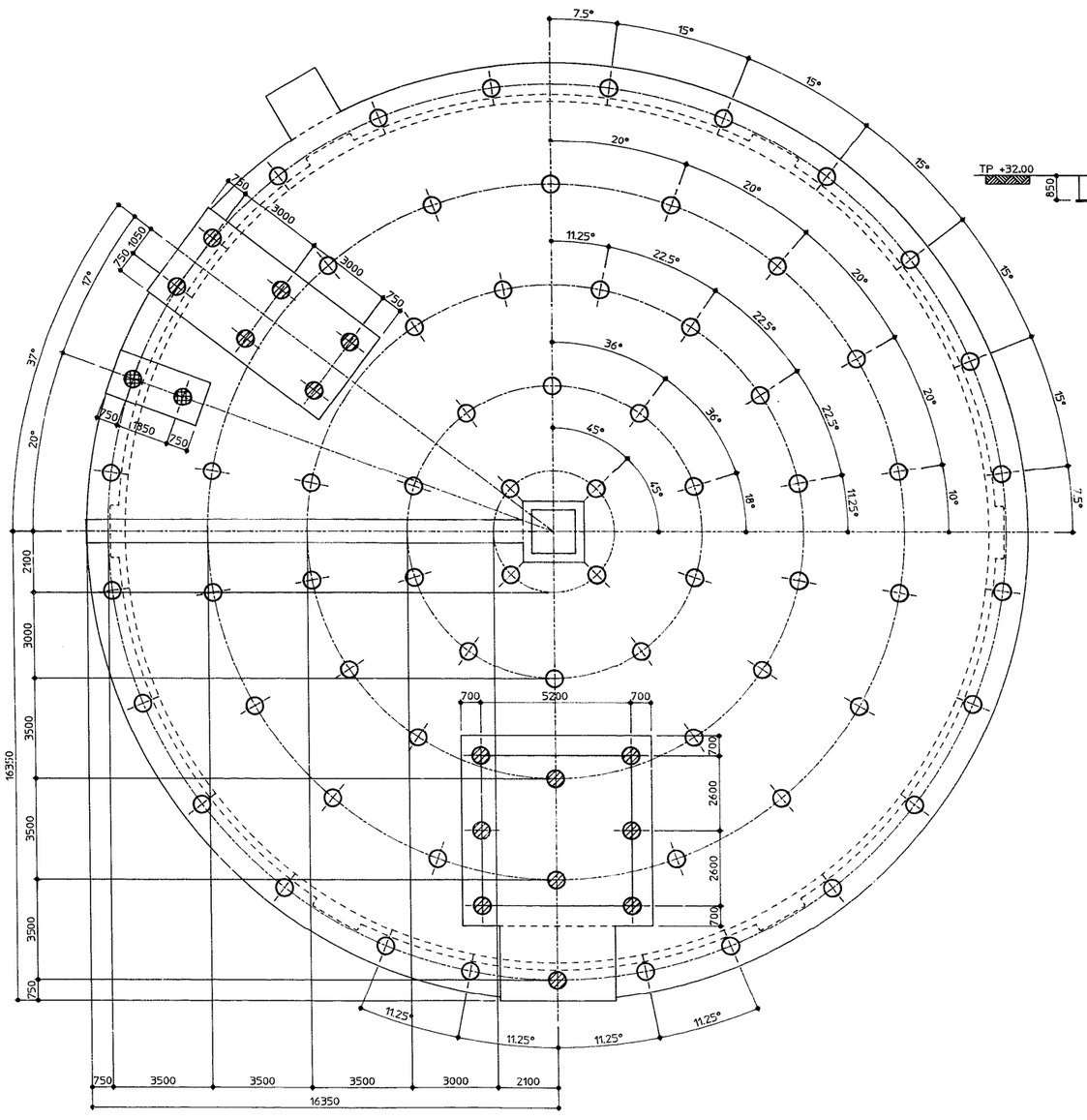




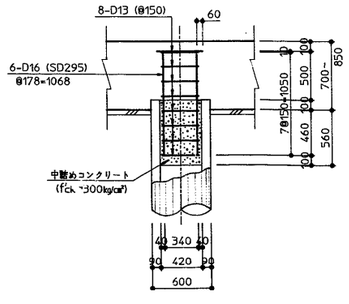
施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	吐水槽工(6/9)		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 図示	図面番号	8-265/319
作成者	関東農政局 両総農業水利事業所		

吐水槽工(7/9)

杭伏図 S = 1/100

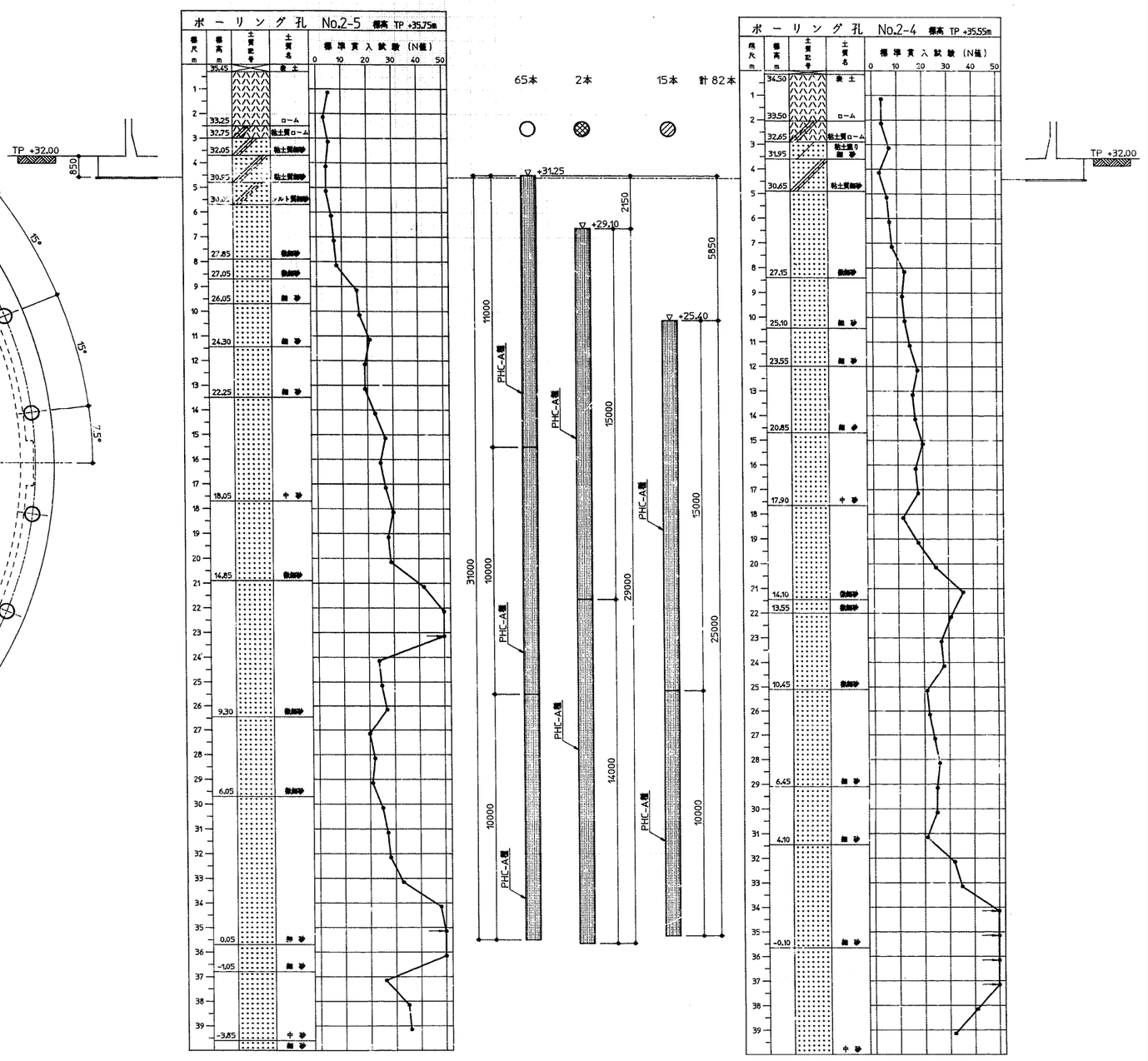


杭頭補強詳細図 S = 1/30



杭仕様

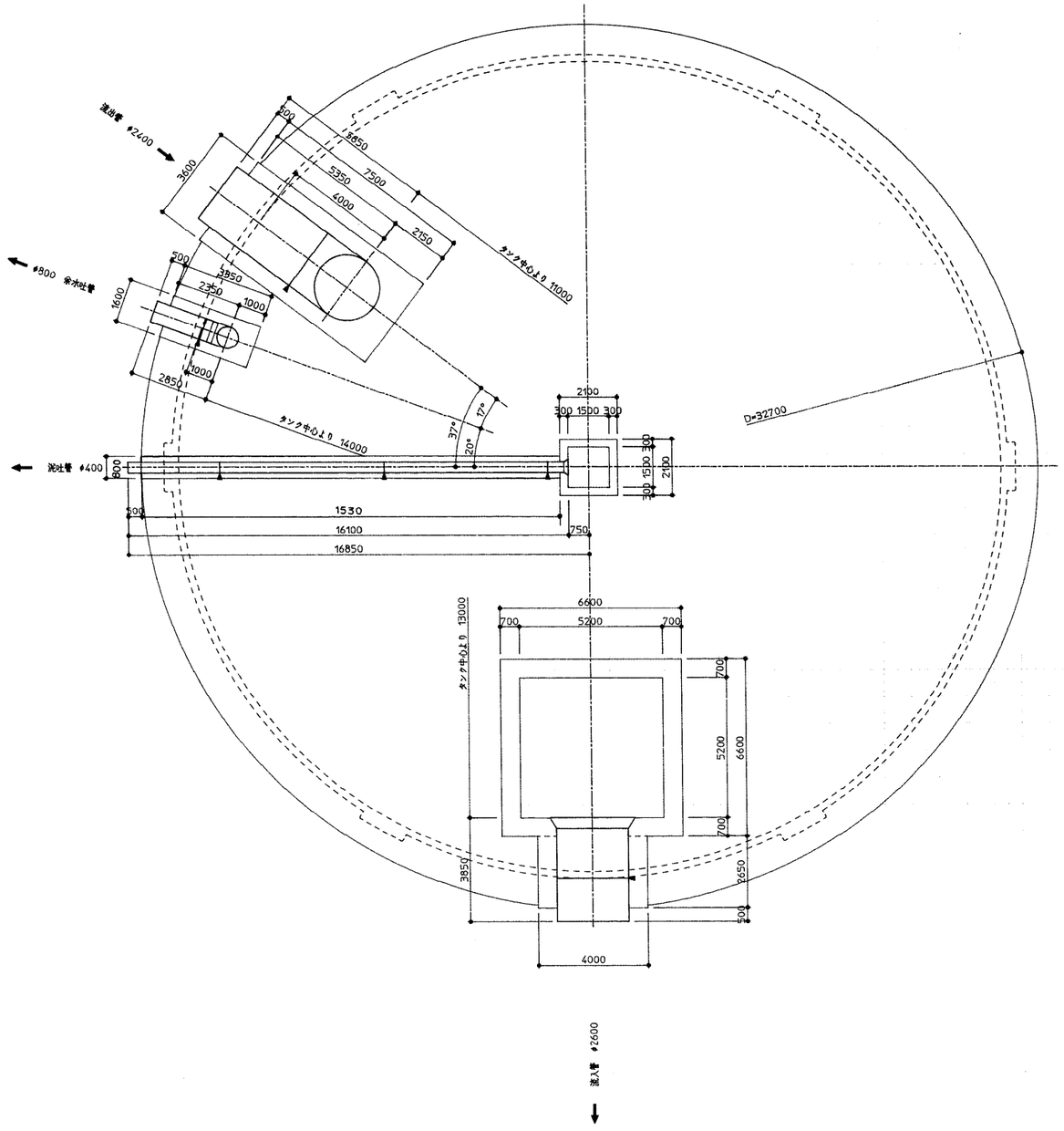
杭	種	PHC-A種
杭	径	φ600 mm
本	数	N = 82 本
工	法	中堀拡大根固め工法



施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	吐水槽工(7/9)		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 図示	図面番号	8-266/319
作成者	関東農政局 両総農業水利事業所		

吐水槽工(8/9)　S=1:100

配管平面図　S = 1/100



特記事項

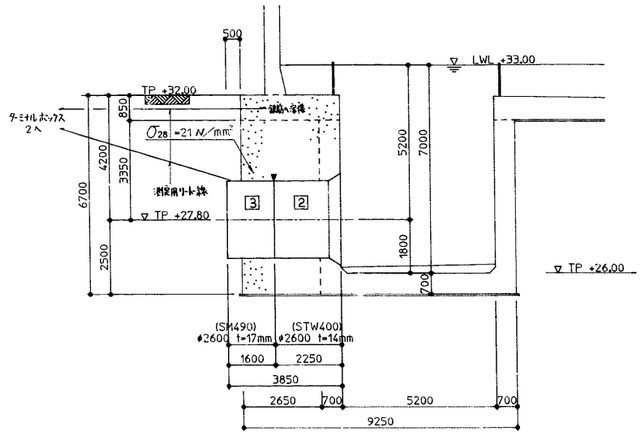
管材は水輸送用塗覆装鋼管(STW 400-A及びSM490)とする
内面はタールエポキシ塗
外面コンクリート巻立部の塗装は
　アスファルトビニロンクロスとする
▼　現場溶接

施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	吐水槽工(8/9)		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 1:100 A2 1:141	図面番号	8-267/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所		

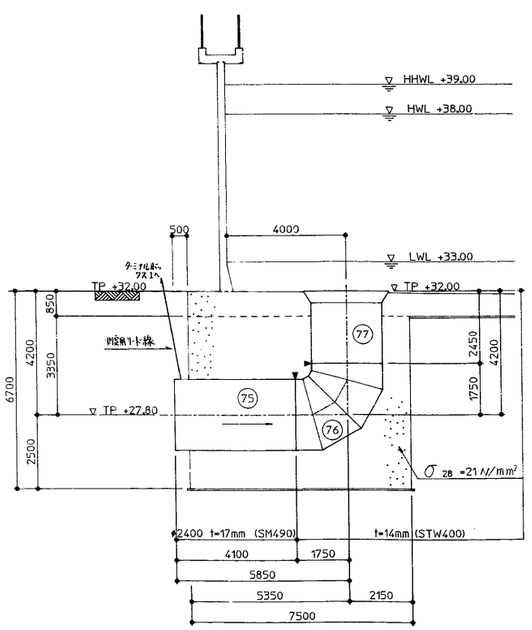
吐水槽工(9/9)

配管断面図 S = 1/100

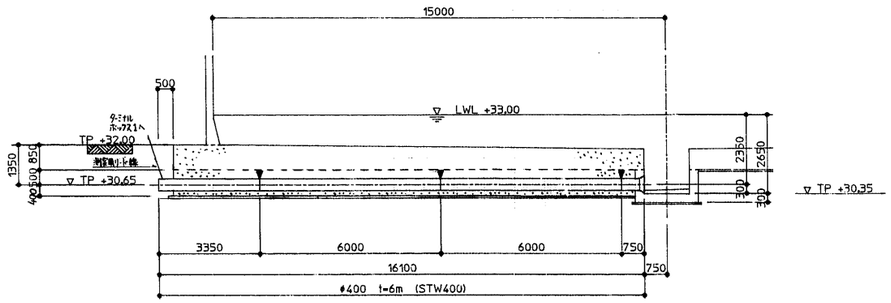
流入管 φ2600



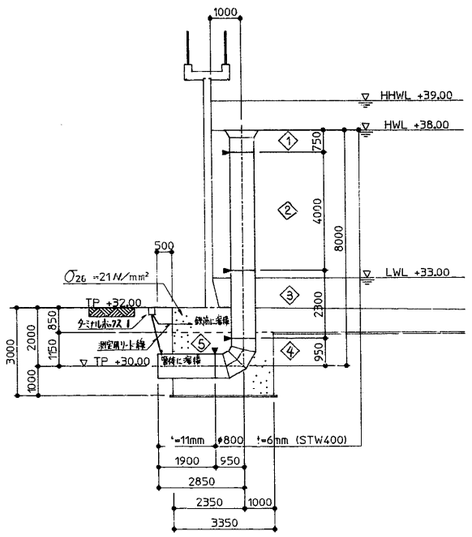
流出管 φ2400



泥吐管 φ400



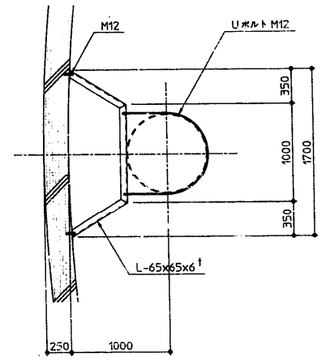
余水吐管 φ800

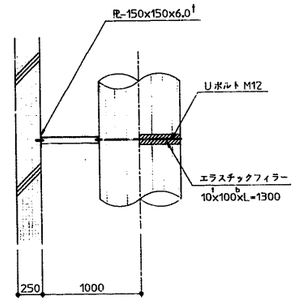


振止金物詳細図 S = 1/30

特記なき材質は SUS316 とする

φ800用





注) エラスチックフィラーは腐食防止用で絶縁するためにUボルトと管は直接触れないようにする事。

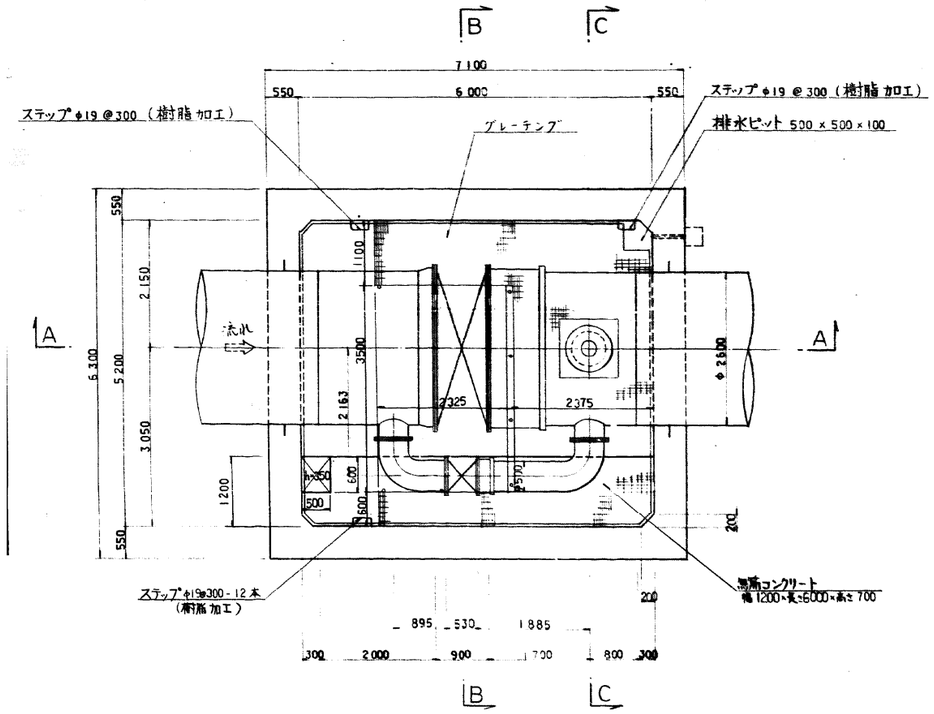
特記事項

1. 管材は水輸送用ら旋鋼管 (STW 400 及び SM490)とする
   内面はタールエポキシ塗
   外面コンクリート巻立部の塗装は
   アスファルトビニロンクロスとする
   ▼ 現場溶接

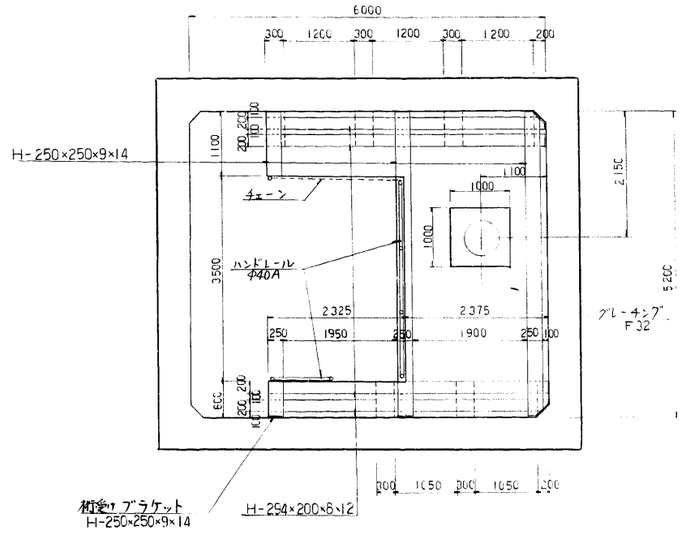
施設名	第2揚水機場 (0312100-1100-19)		
図面名	吐水槽工 (9/9)		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 図示	図面番号	8-268/319
作成者	関東農政局 両総農業水利事業所		

流入管制水弁工(1/2)　S=1:50

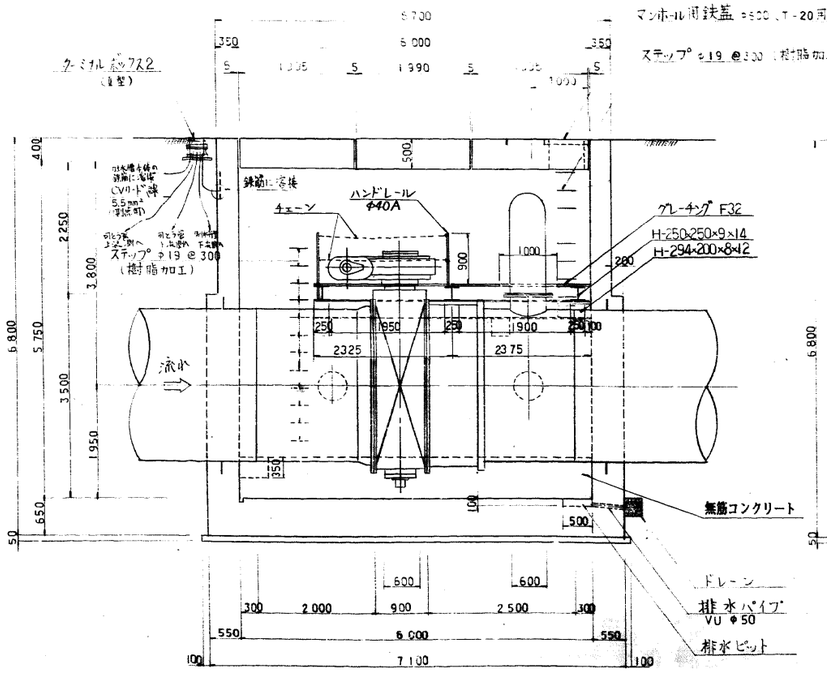
下部平面図
S=1:50



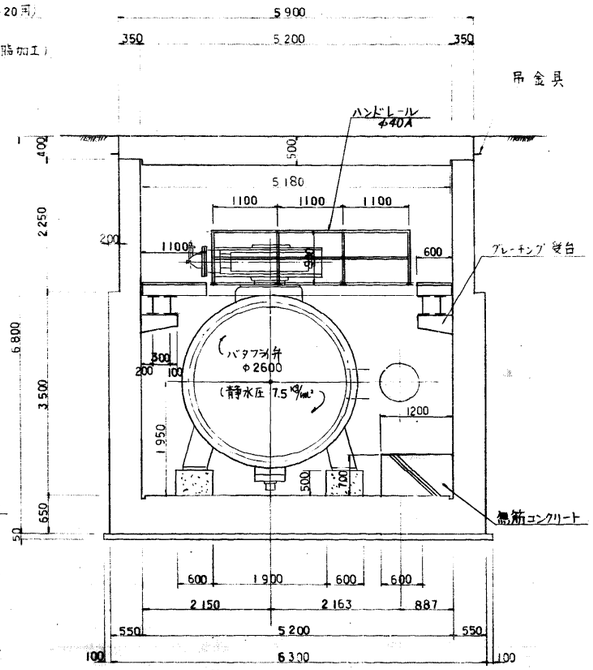
グレーチング据付平面図
S=1/50



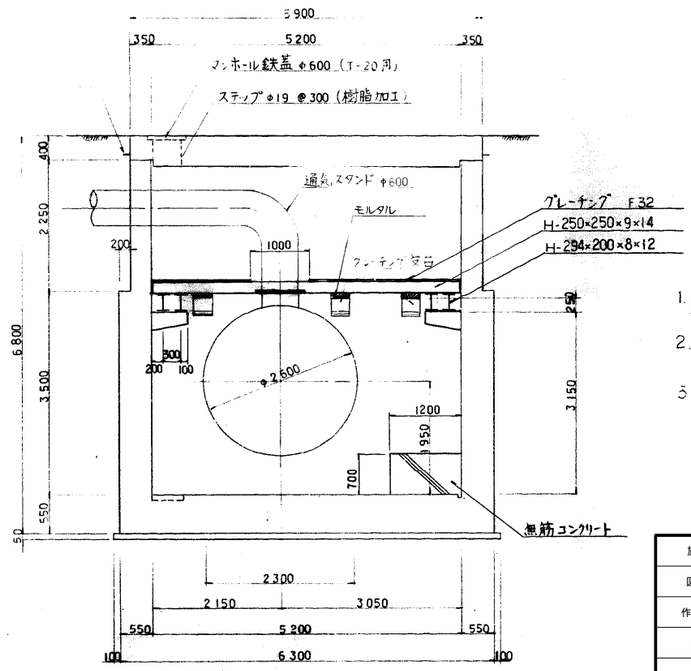
断面 A-A



断面 B-B



断面 C-C



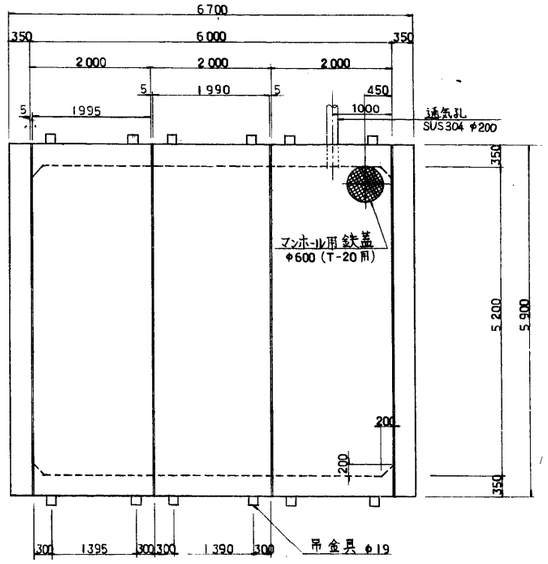
注意事項

1. 特に表示しない限り、寸法はmm単位で標高はm単位で表示してある。
2. 管体と鉄筋はメタルタッチしない様に注意する事。
3. 鋼管の腐食防止の測定用ターミナルを可とう管上下流の位置に設置する事。

施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	流入管制水弁工(1/2)		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 1:50 A2 1:70	図面番号	8-269/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所		

流入管制水弁工(2/2)

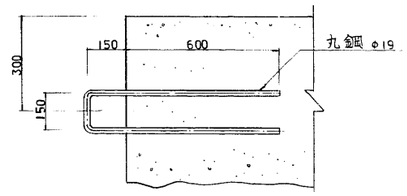
上部平面図



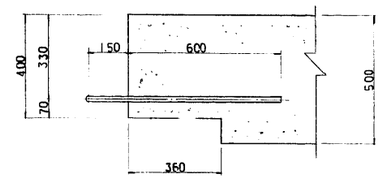
吊金具詳細図

S = 1:10

平面図



断面図

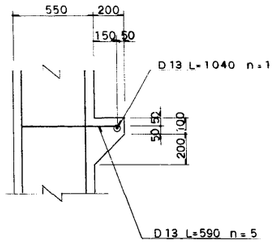


ブレーチング受台構造配筋図

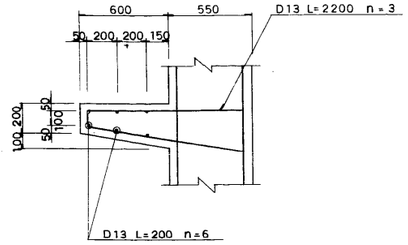
S=1:20

鉄筋本数は1ヶ所当り

端部



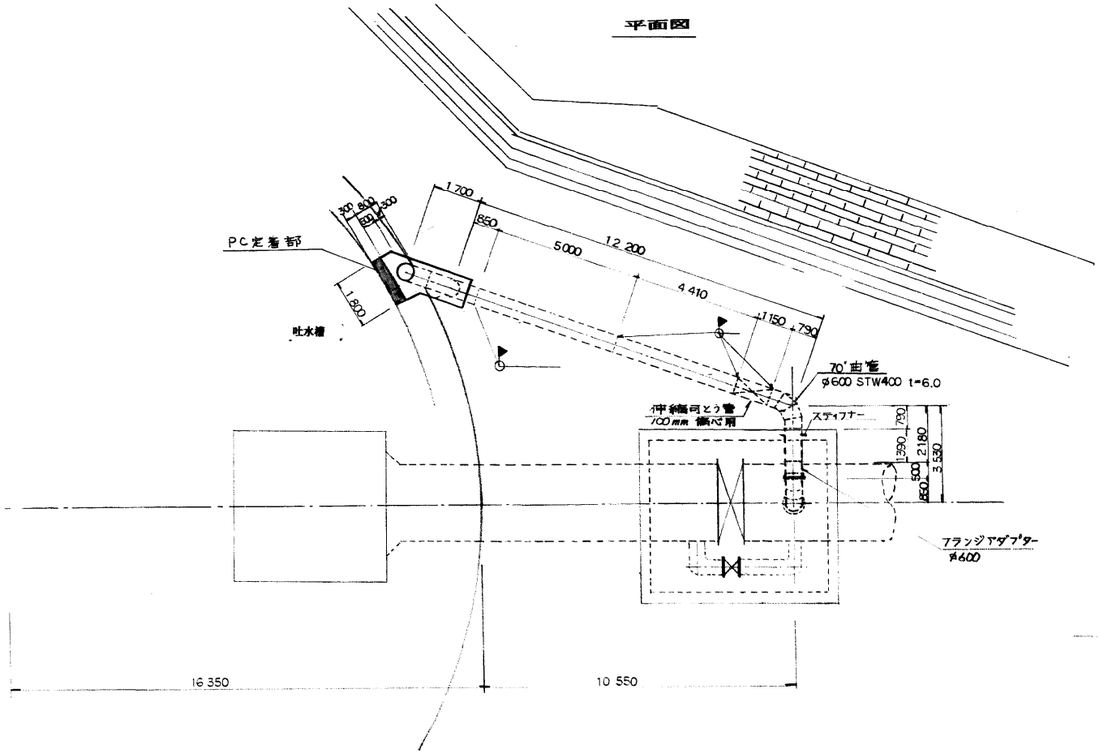
中間部



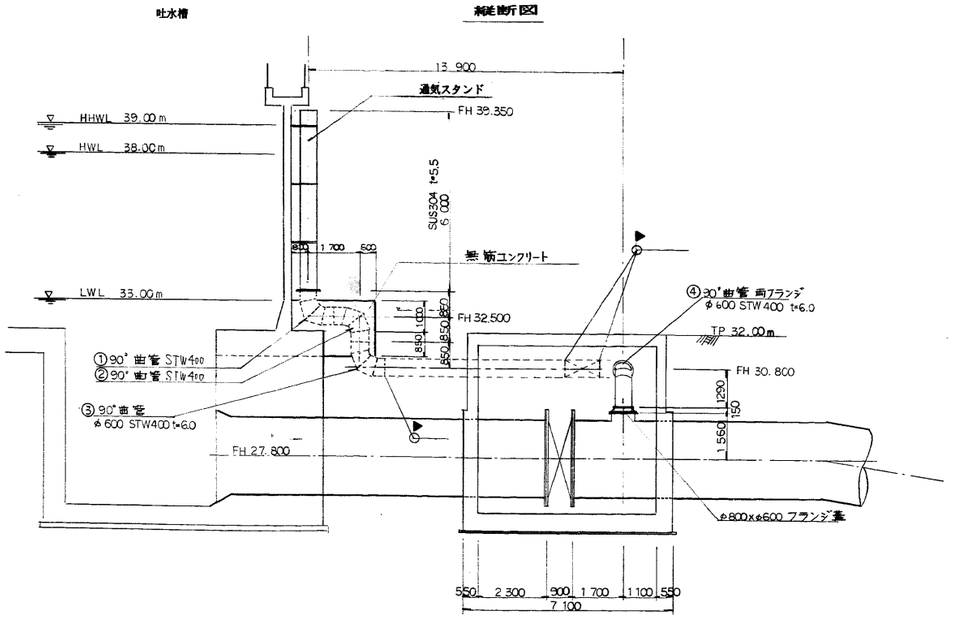
施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	流入管制水弁工(2/2)		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 図示	図面番号	8-270/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所		

通気スタンドエ(1/2)

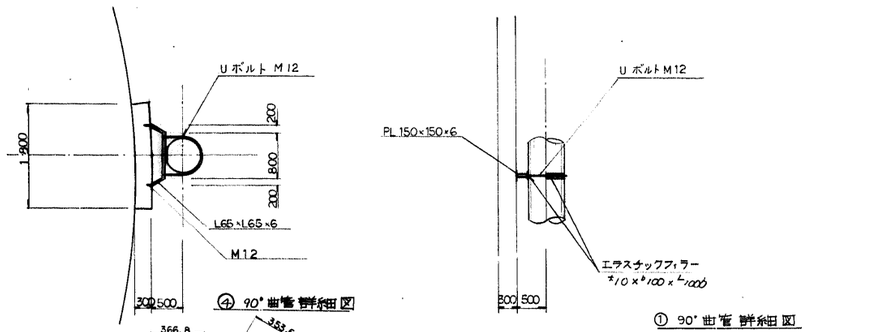
平面図



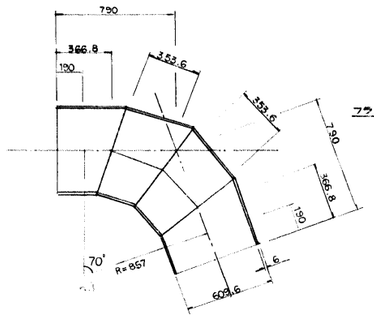
縦断図



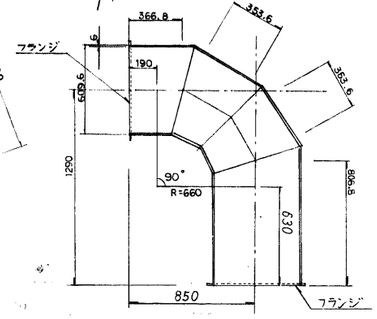
振止金物詳細図



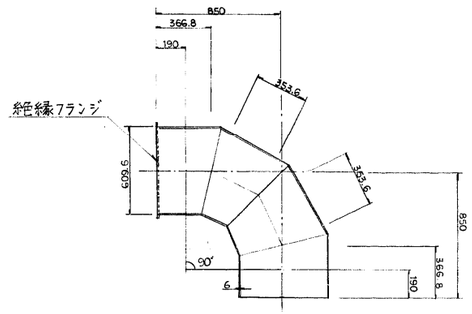
70° 曲管 詳細図



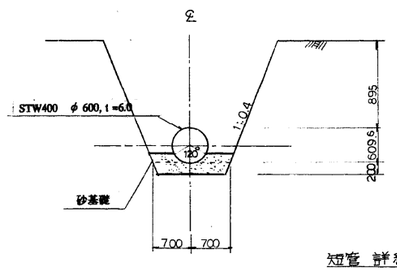
④ 90° 曲管 詳細図



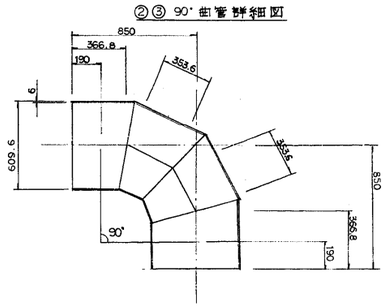
① 90° 曲管 詳細図



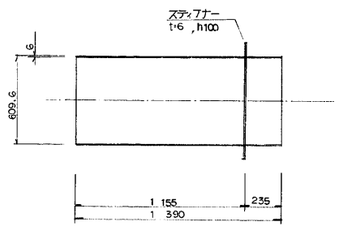
管埋設標準断面図



②③ 90° 曲管 詳細図



短管 詳細図



注意事項) ステンレス鋼材とSTW400は絶縁フランジにて接続する事.

フランジ仕様は 7.5Kとする.

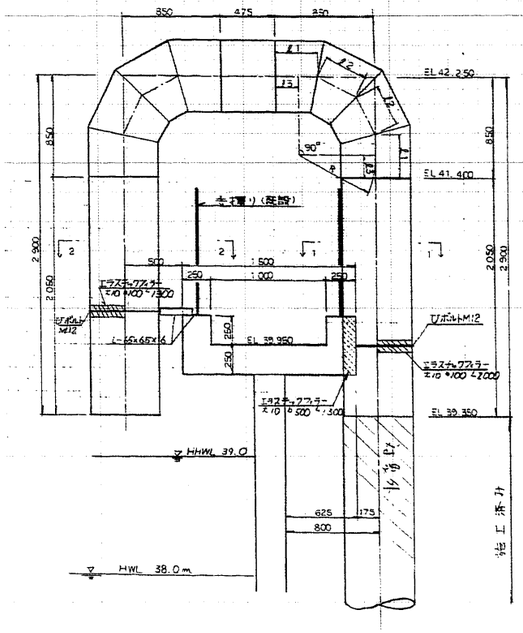
鋼管部は防食対策としてポリエチレンスリーブにて被覆する。

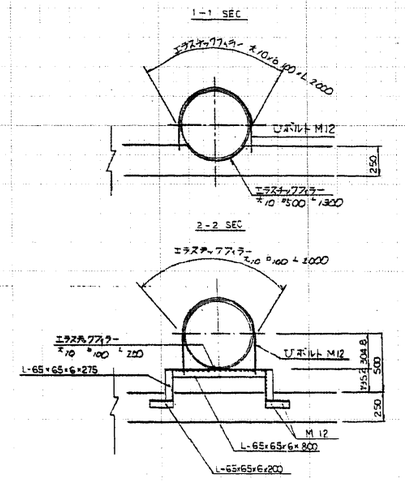
施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	通気スタンドエ(1/2)		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 図示	図面番号	8-271/319
作成者	関東農政局 両総農業水利事業所		

通気スタンドエ(2/2)

通気スタンド構造図

S=1/25





管仕様 SUS 304 t=5.5 外径 609.6

異形管長計算書

(単位:mm)

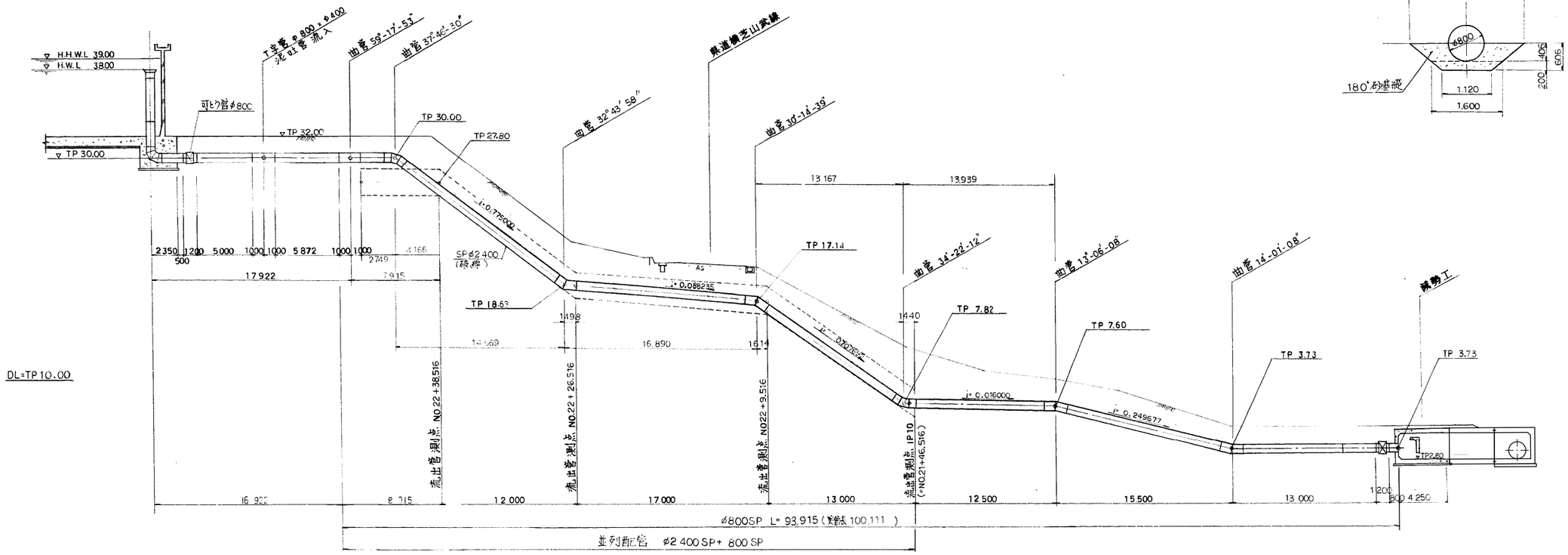
偏角	呼径 (A)	外径 D2	管厚 T	内径 D3	各部寸法 R	11	12	13	L	参考 管芯長	重量(kg)	ピース
90° 0′ 0″	600	609.6	5.5	598.6	660	366.8	353.6	190.0	850	1440.8	118.00	4

施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	通気スタンドエ(2/2)		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 図示	図面番号	8-272/319
作成者	関東農政局 両総農業水利事業所		

余水吐工・排泥工(1/2)

余水吐管 φ800 縦断図

S = 1 : 200

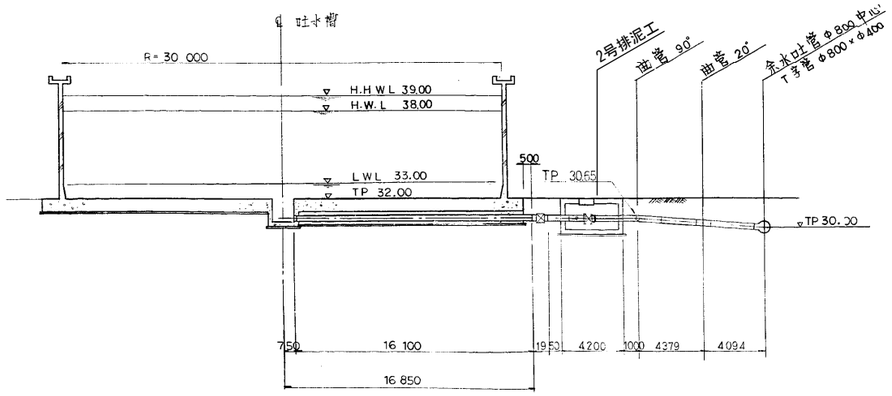


単独配管

S = 1 : 50

泥吐管 φ400 縦断図

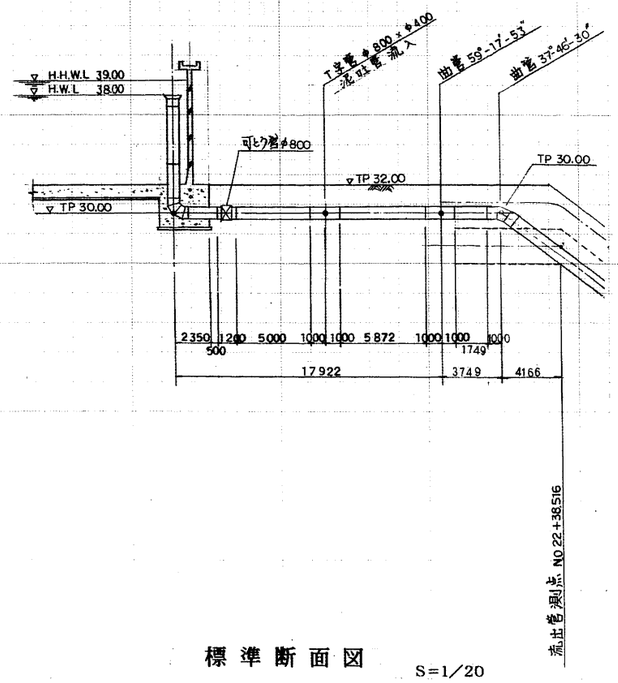
S = 1 : 200



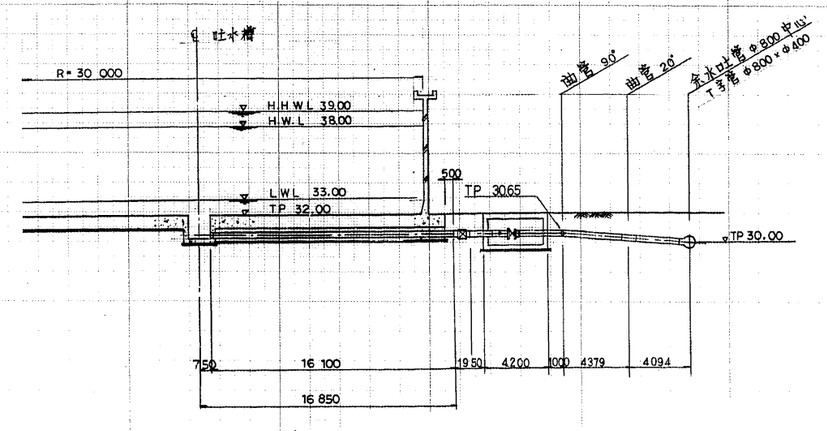
施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	余水吐工・排泥工(1/2)		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 図示	図面番号	8-273/319
作成者	関東農政局 両総農業水利事業所		

余水吐工・排泥工(2/2)

余水吐管

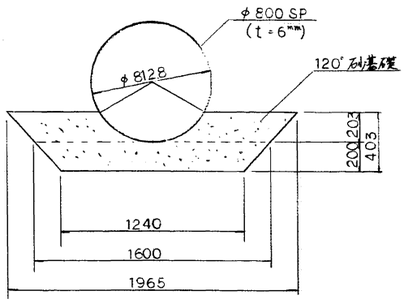


排泥管



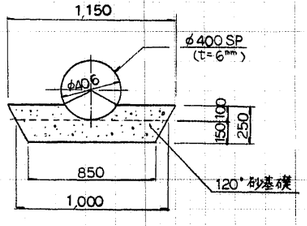
標準断面図

S=1/20



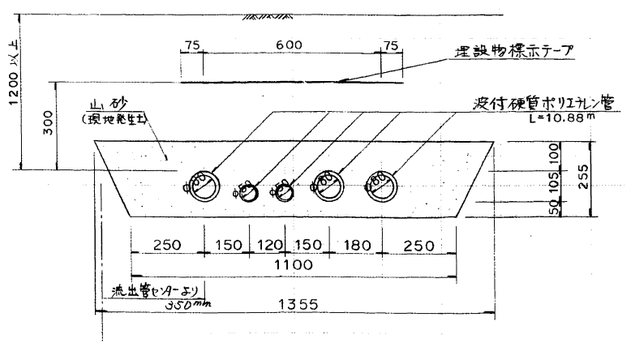
標準断面図

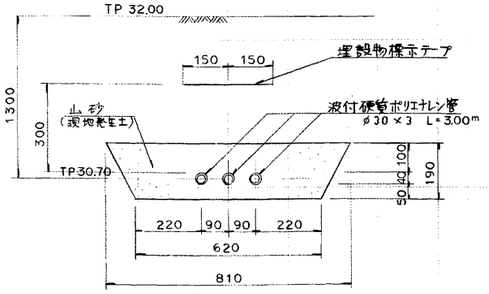
S=1/20



通信線用保護管

S=1/10

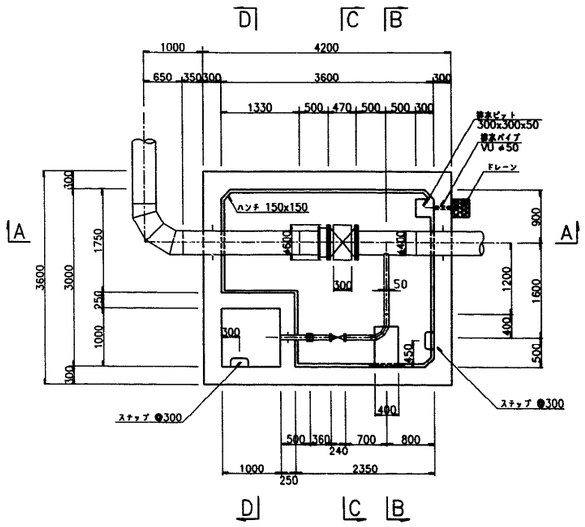




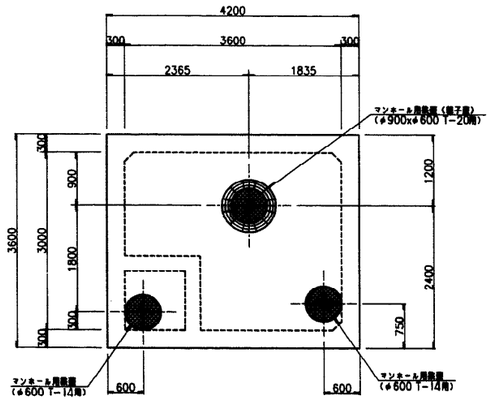
施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	余水吐工・排泥工(2/2)		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 図示	図面番号	8-274/319
作成者	関東農政局 両総農業水利事業所		

2号排泥工

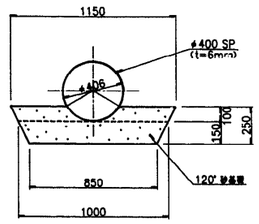
上部平面図
S = 1 : 50



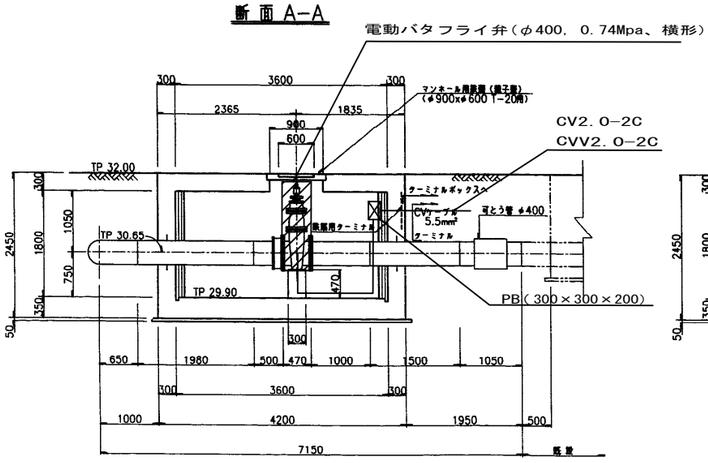
下部平面図



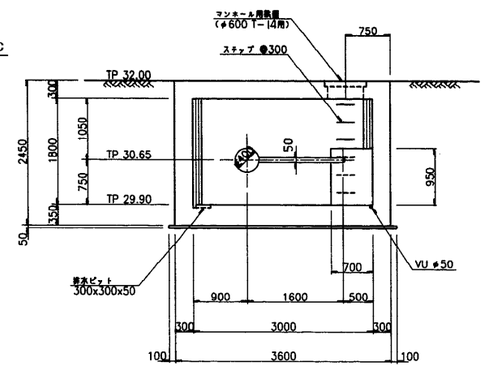
管路埋設標準断面図
S = 1 : 20



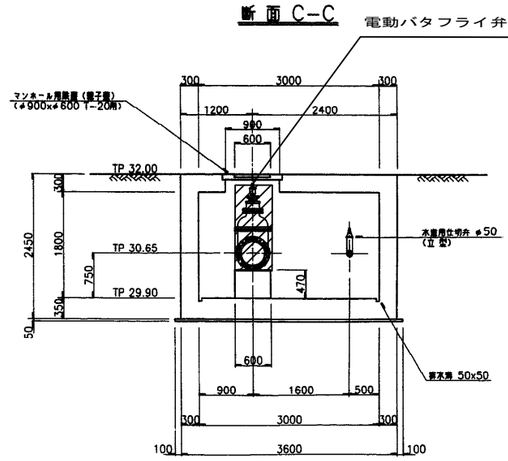
断面 A-A



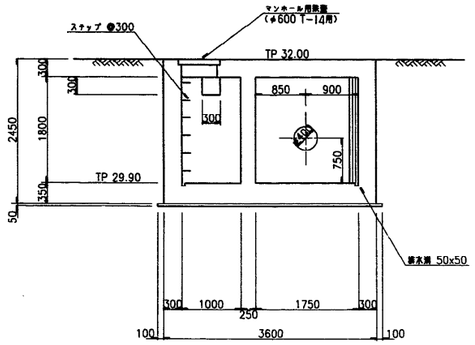
断面 B-B



断面 C-C



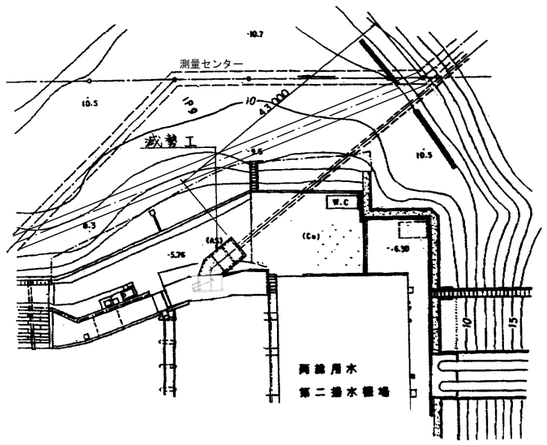
断面 D-D



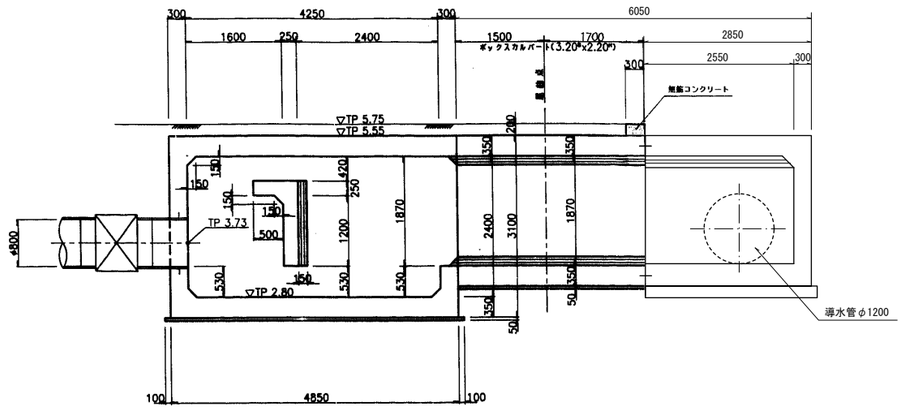
施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	2号排泥工		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 図示	図面番号	8-275/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所		

余水吐減勢工

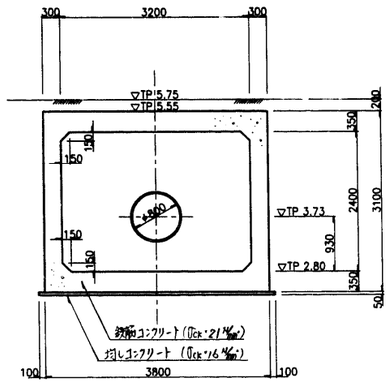
位置図
S=1:500



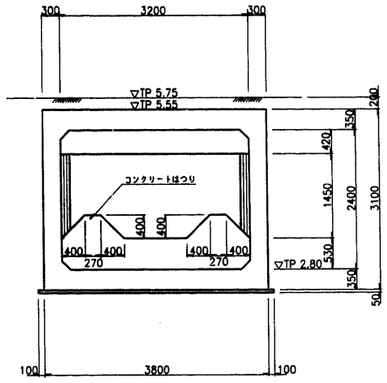
断面 A－A
S = 1 : 50



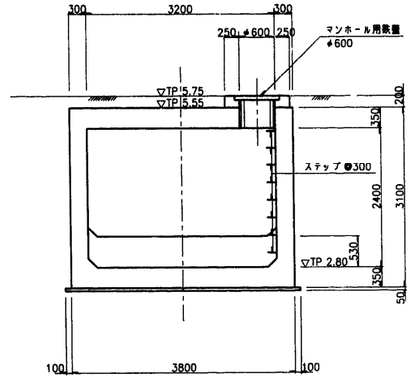
断面 B－B
S = 1 : 50



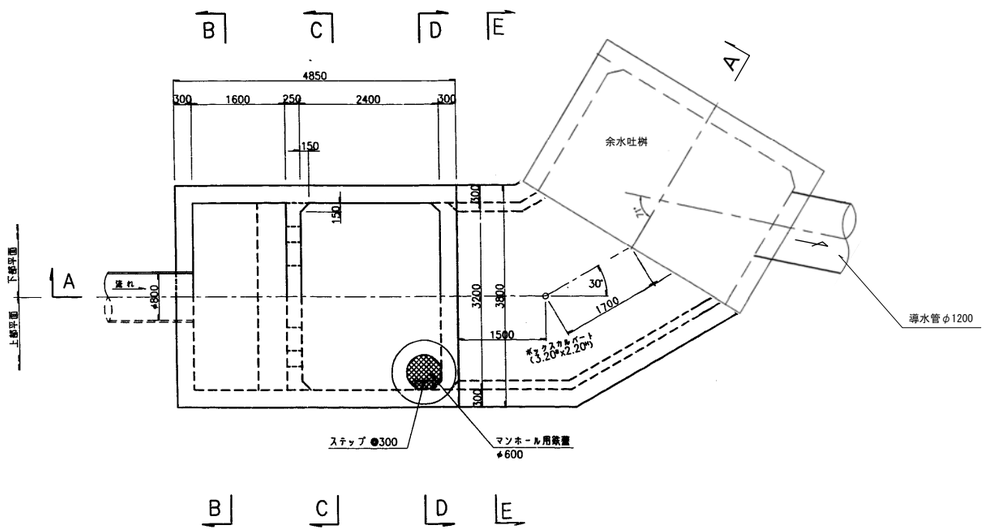
断面 C－C
S = 1 : 50



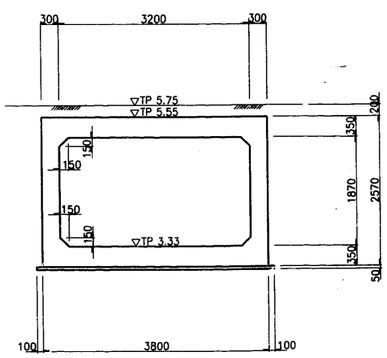
断面 D－D
S = 1 : 50



平面図
S = 1 : 50



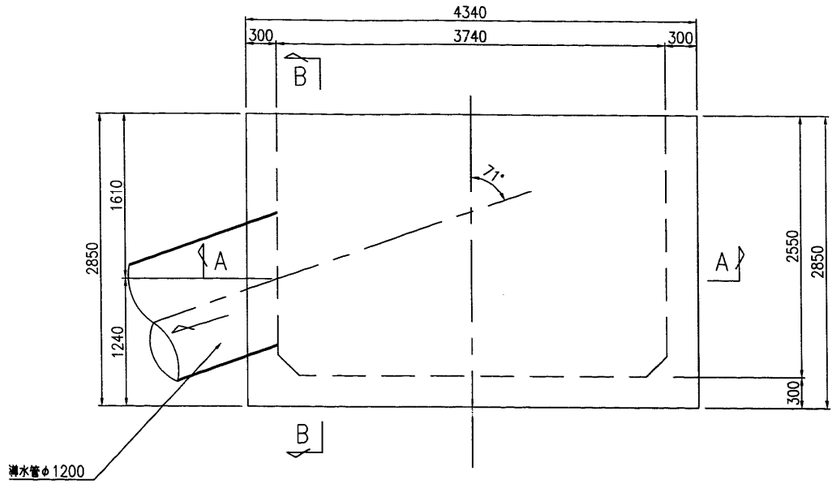
断面 E－E
S = 1 : 50



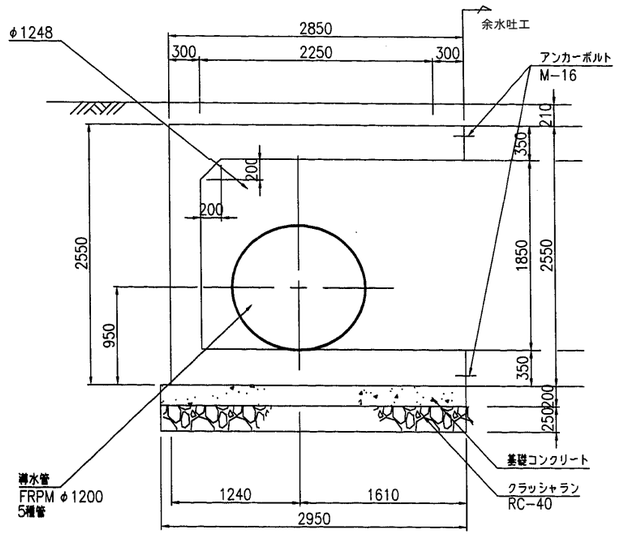
施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	余水吐減勢工		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 図示	図面番号	8-276/319
作成者	関東農政局 両総農業水利事業所		

余水吐桝工

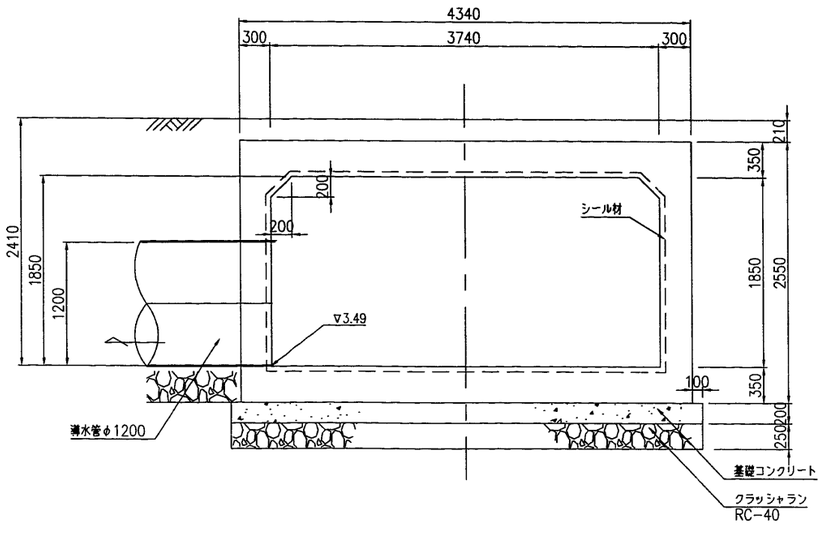
平 面 図　S＝1：30



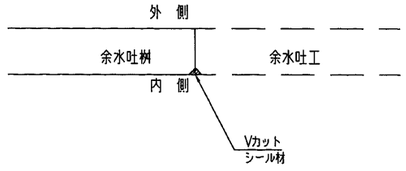
B－B 断面図　S＝1：30



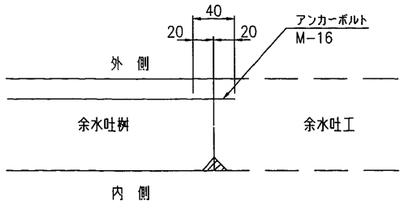
A－A断面図　S＝1：30



構造物との接続工



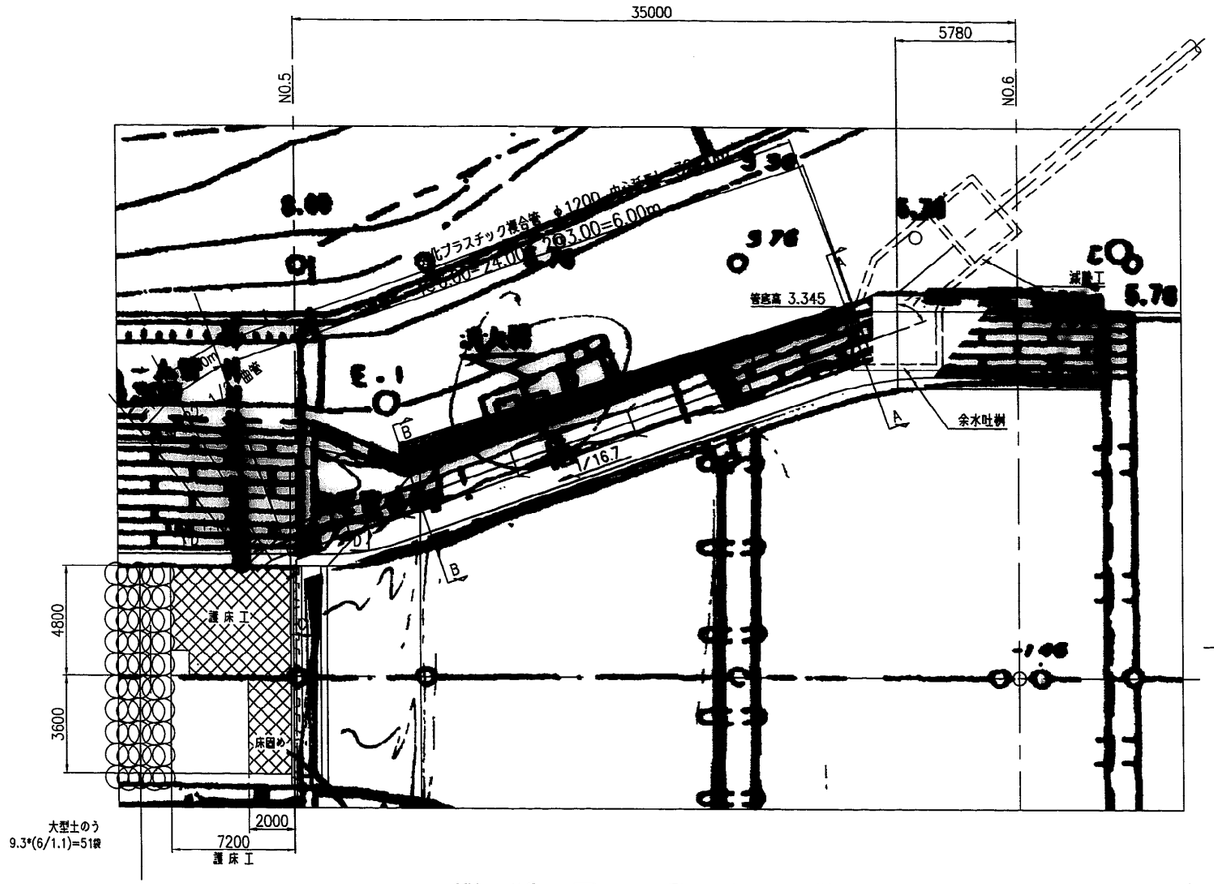
アンカー部詳細図



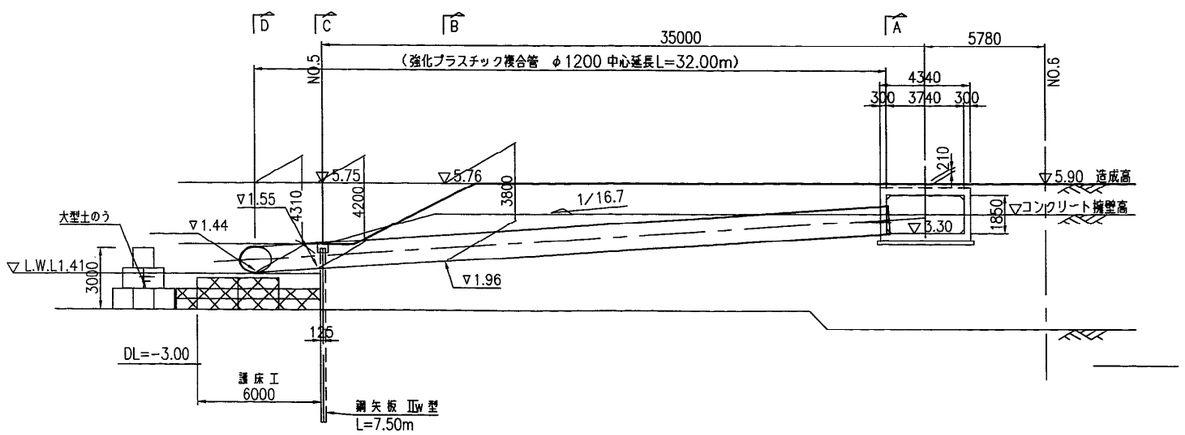
施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	余水吐桝工		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 図示	図面番号	8-277/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所		

放流末端導水管路工

平 面 図　S＝1：150

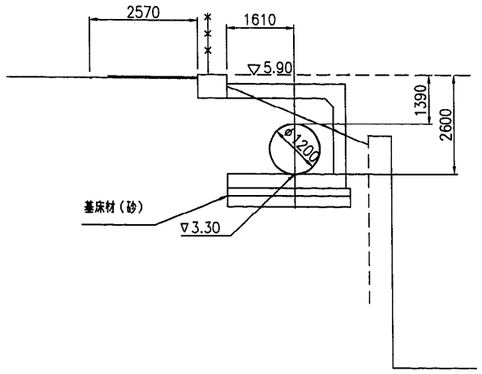


縦 断 図　S＝1：150

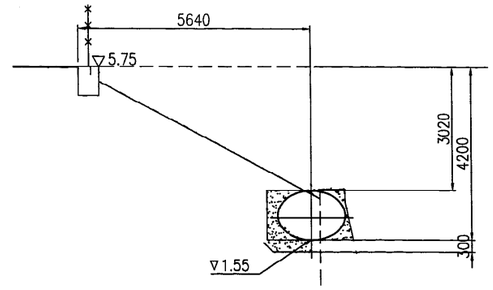


断 面 図　S＝1：100

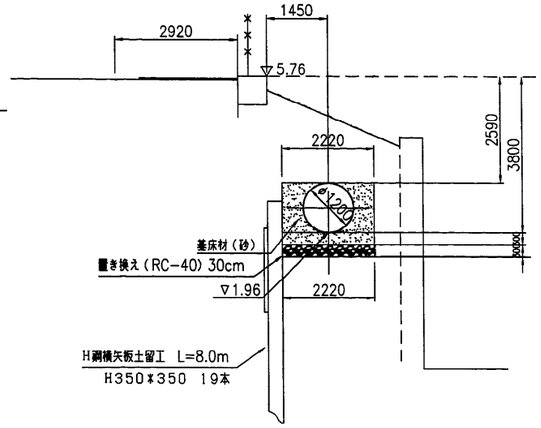
（A－A）



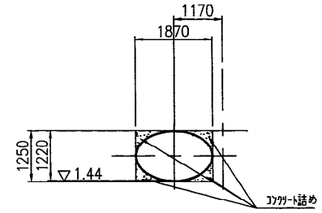
（C－C）



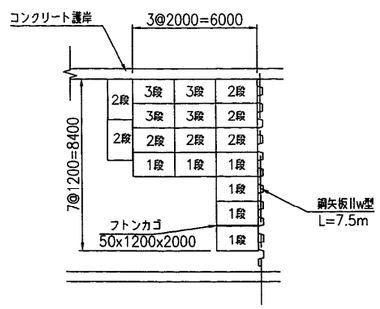
（B－B）



（D－D）



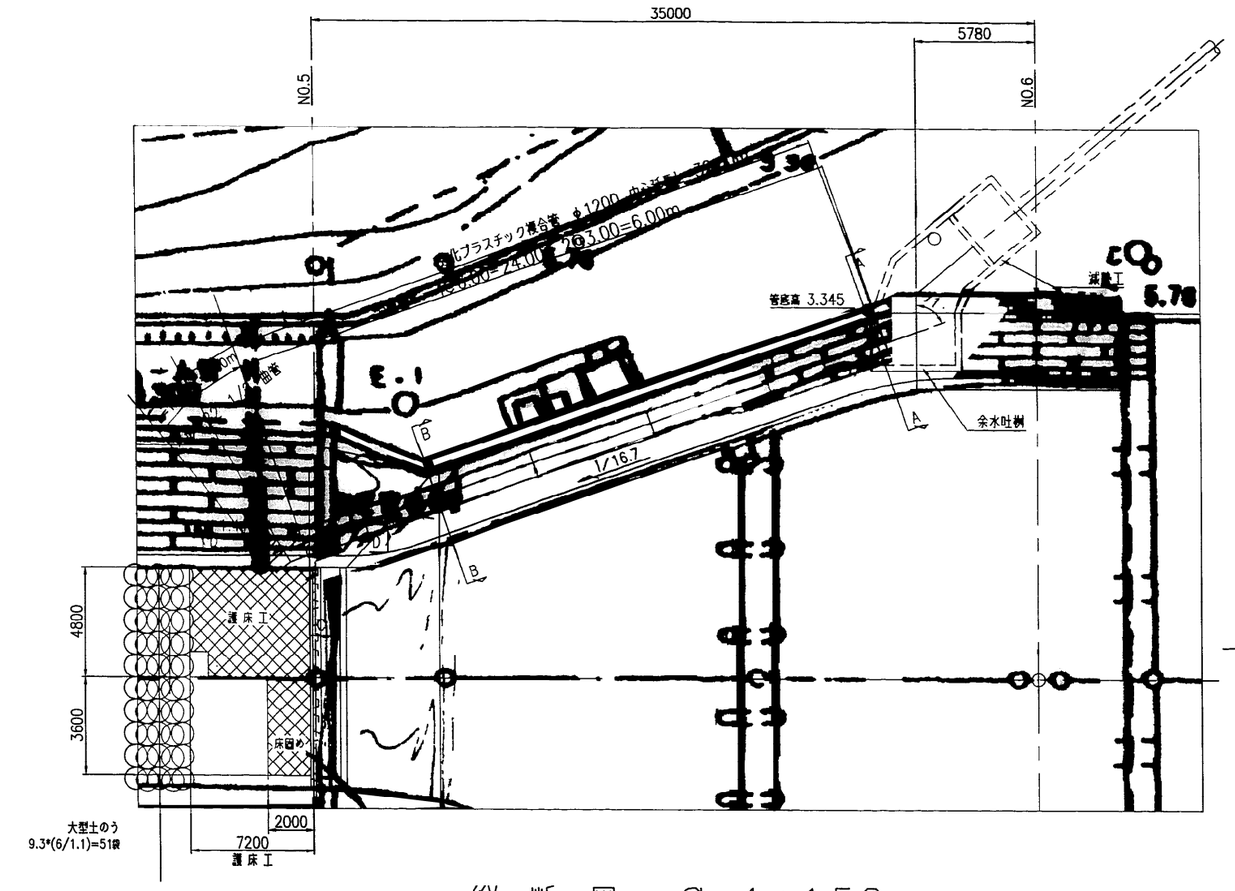
護床工、床固め詳細図



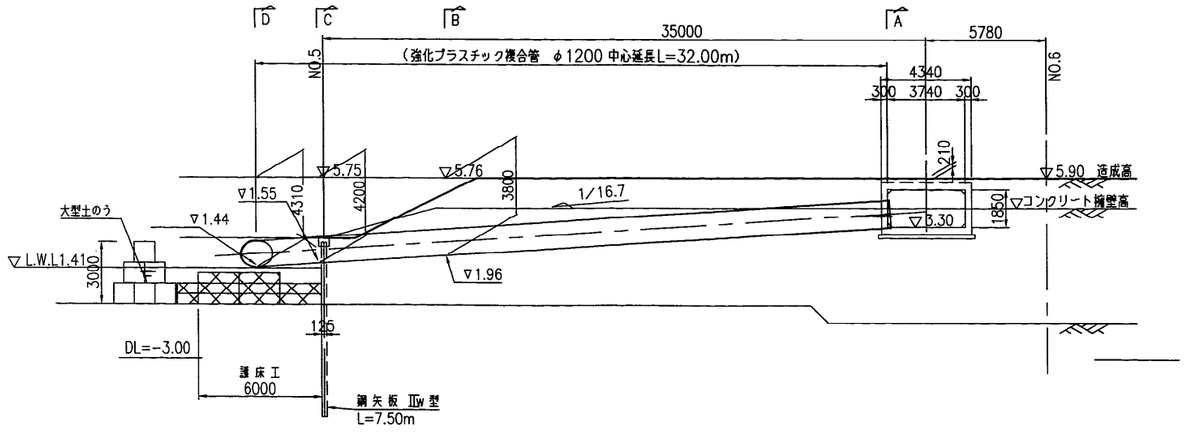
施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	放流末端導水管路工		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 図示	図面番号	8-278/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所		

放流末端導水管路工

平 面 図　S＝1：150

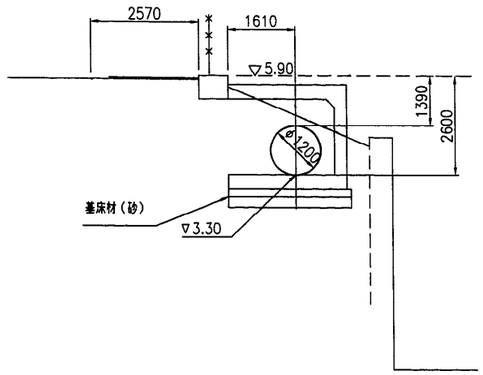


縦 断 図　S＝1：150

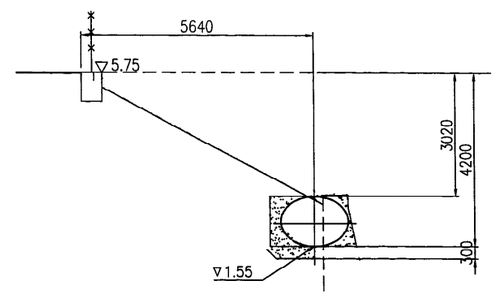


断 面 図　S＝1：100

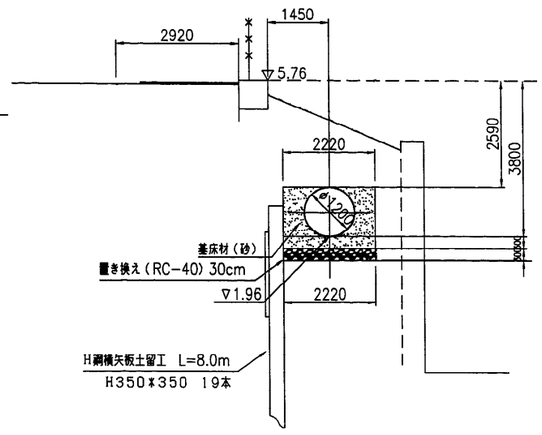
(A－A)



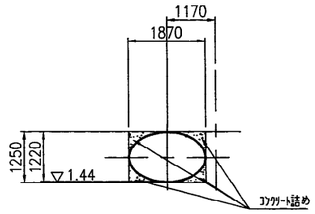
(C－C)



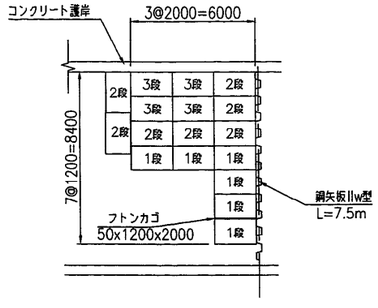
(B－B)



(D－D)



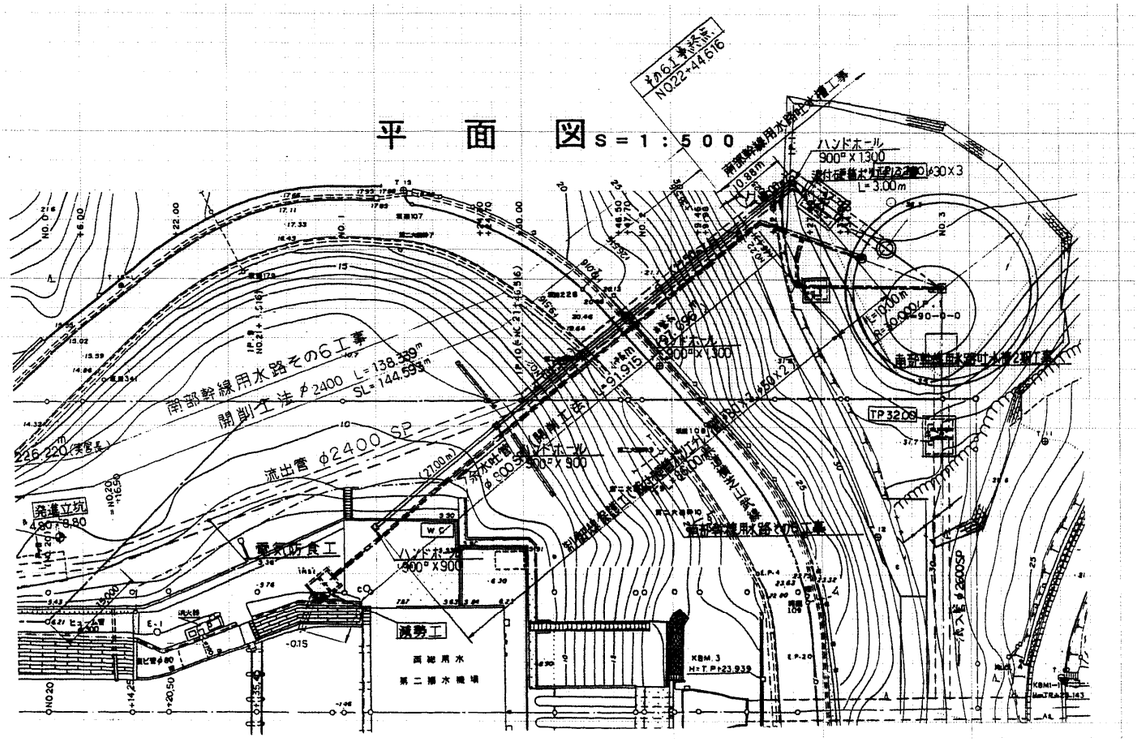
護床工、床固め詳細図



施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	放流末端導水管路工		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 図示	図面番号	8-278/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所		

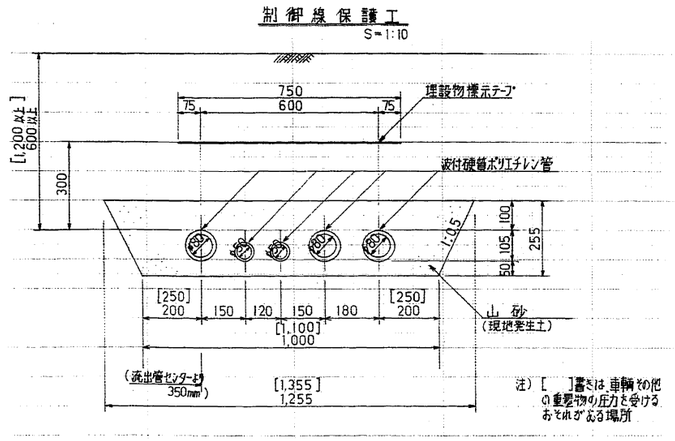
制御線保護工

平　面　図 S=1:500



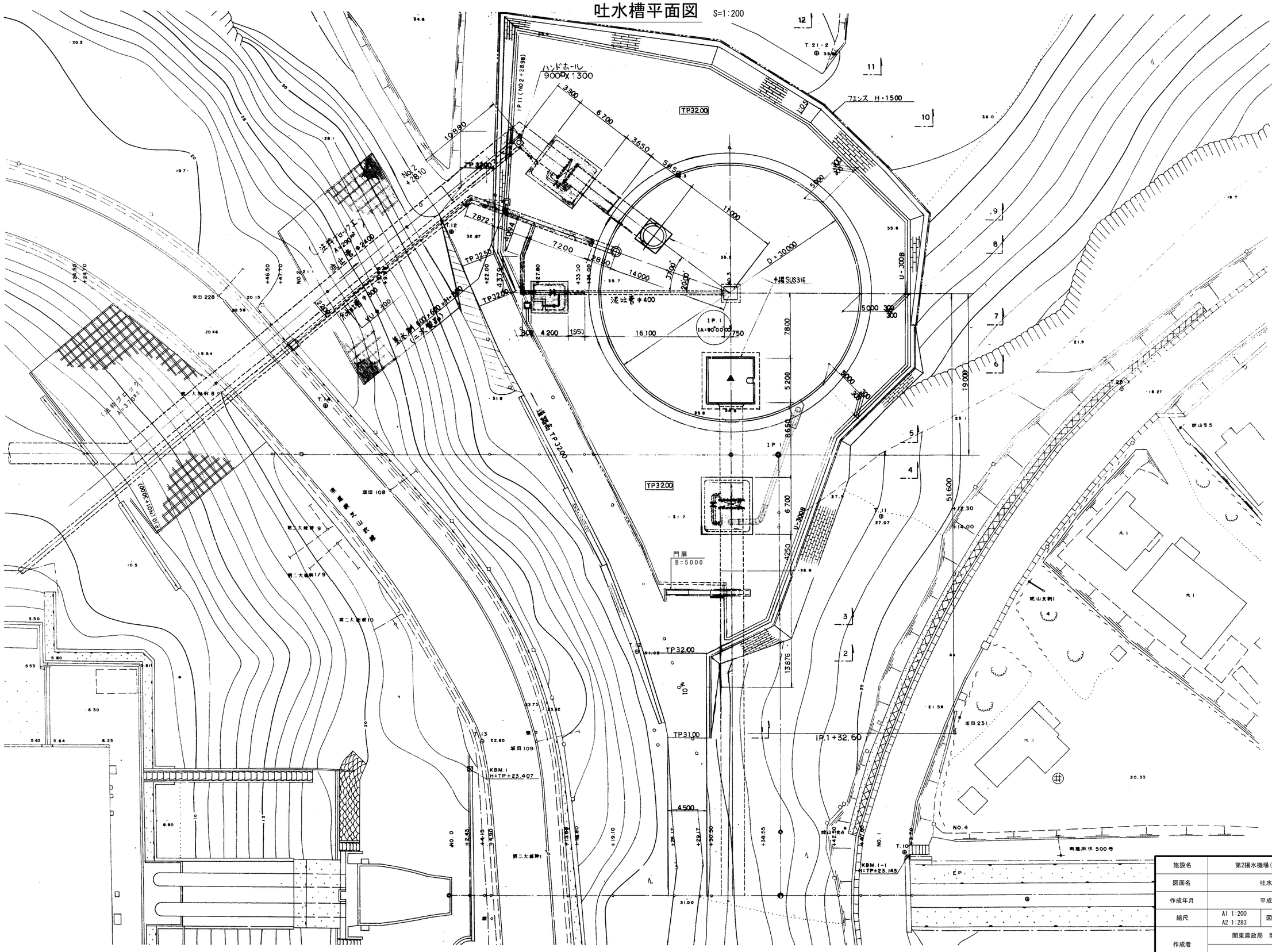
制御線保護工

S=1:10



施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	制御線保護工		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 図示	図面番号	8-279/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所		

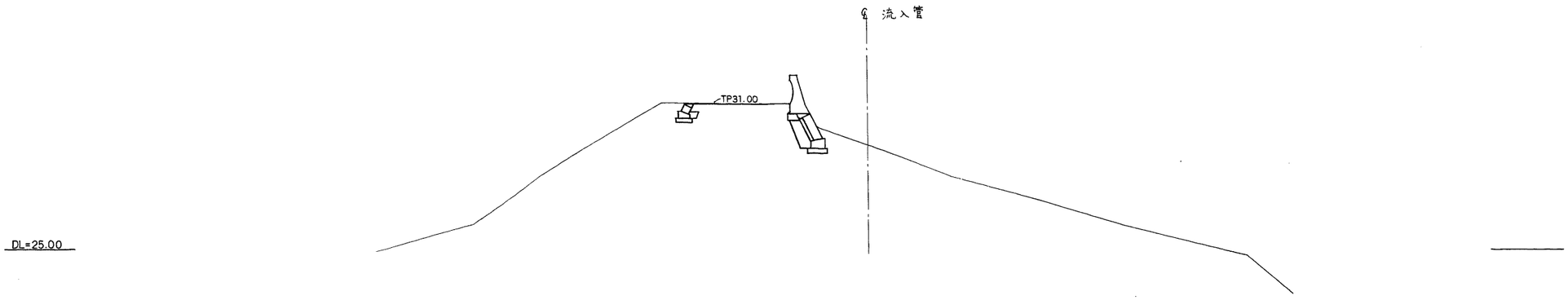
吐水槽平面図 S=1:200



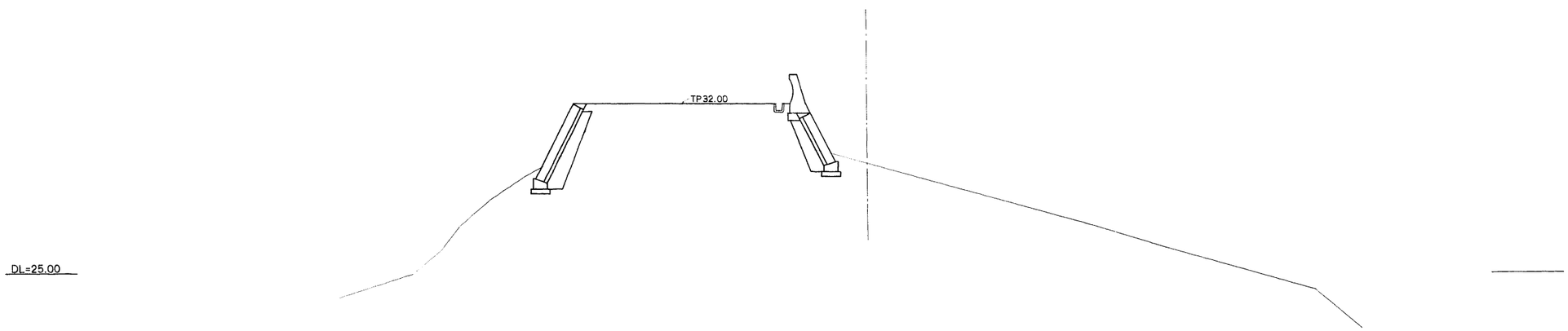
施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	吐水槽平面図		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 1:200 A2 1:283	図面番号	8-280/319
作成者	関東農政局 両総農業水利事業所		

吐水槽横断図(1/4) S=1:100

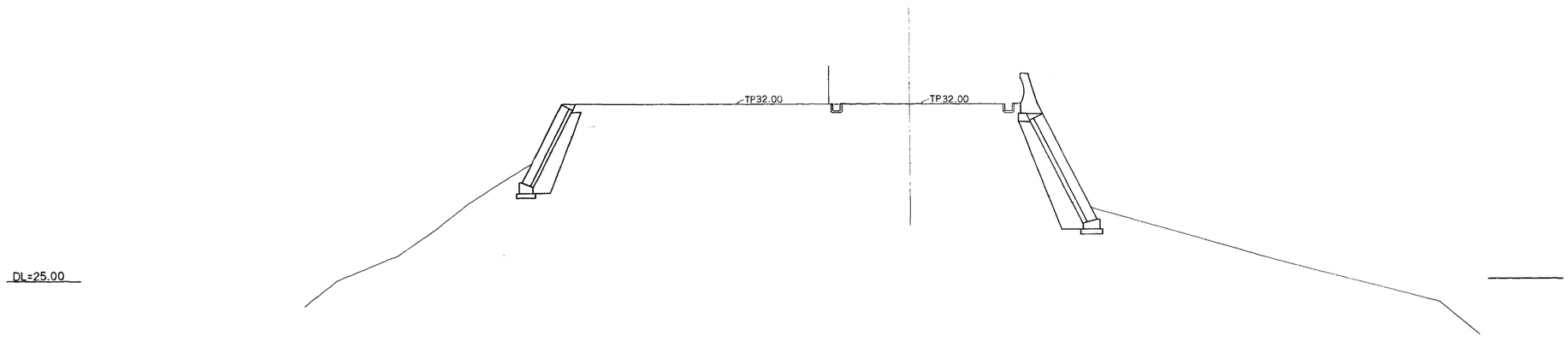
1



2



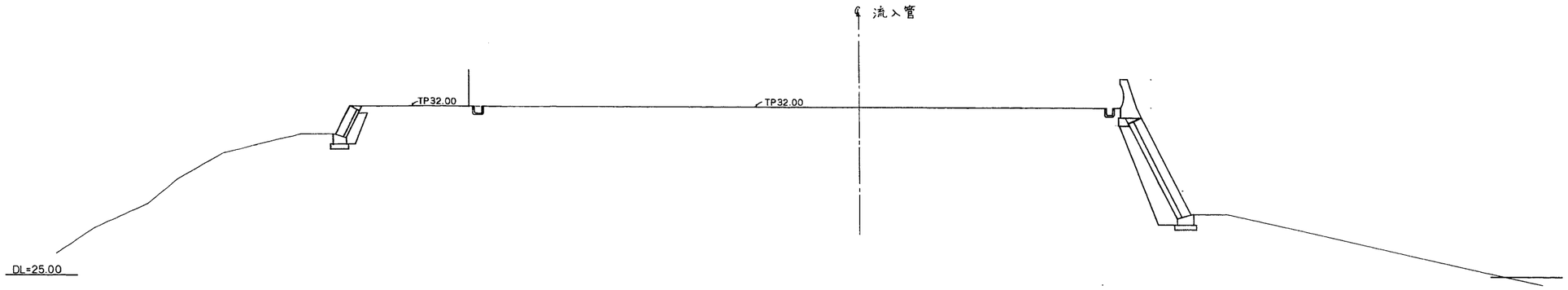
3



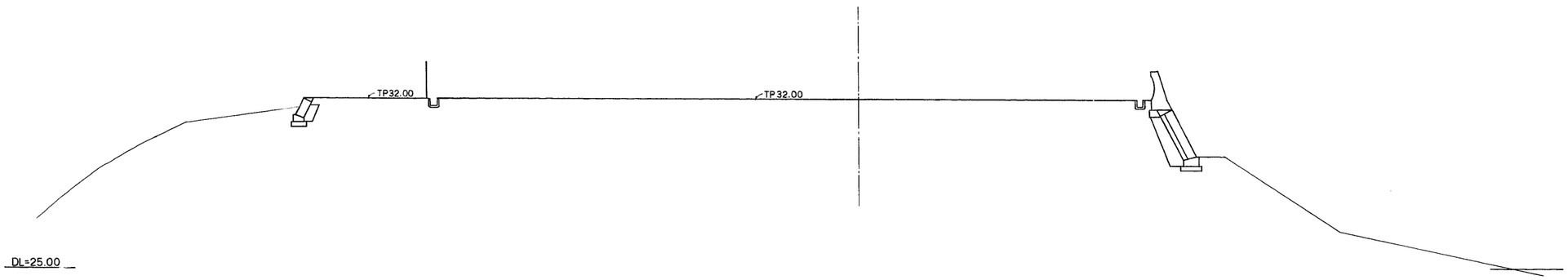
施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	吐水槽横断図(1/4)		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 1:100 A2 1:141	図面番号	8-281/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所		

吐水槽横断図(2/4) S=1:100

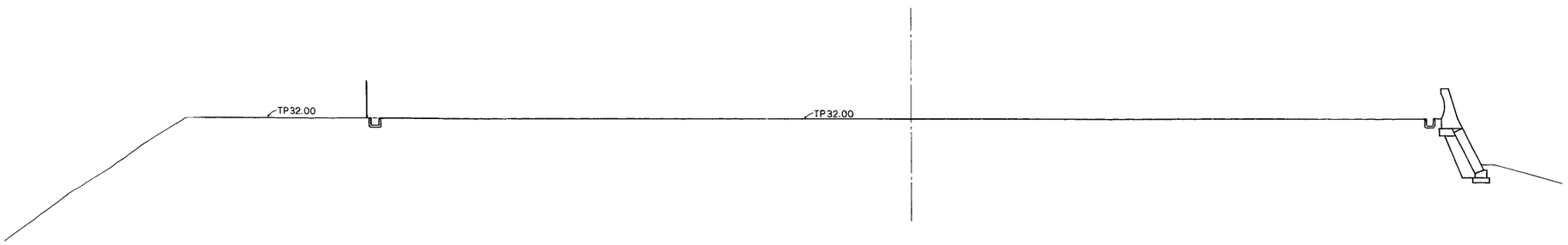
4



5



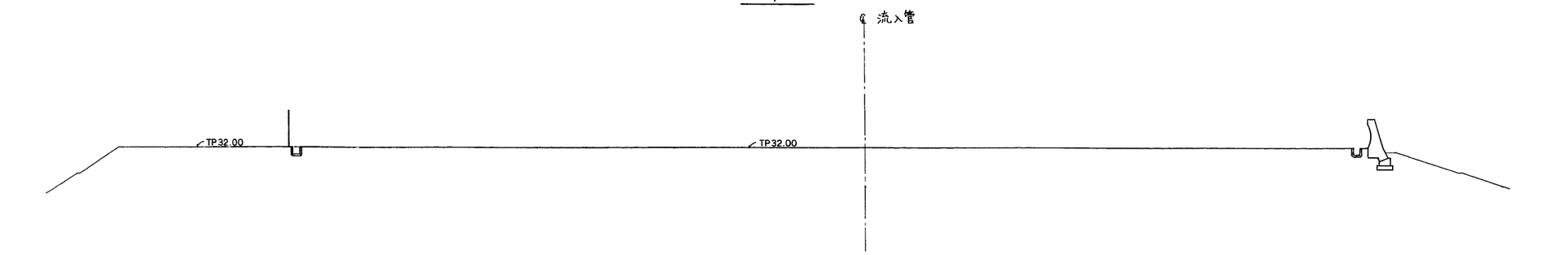
6



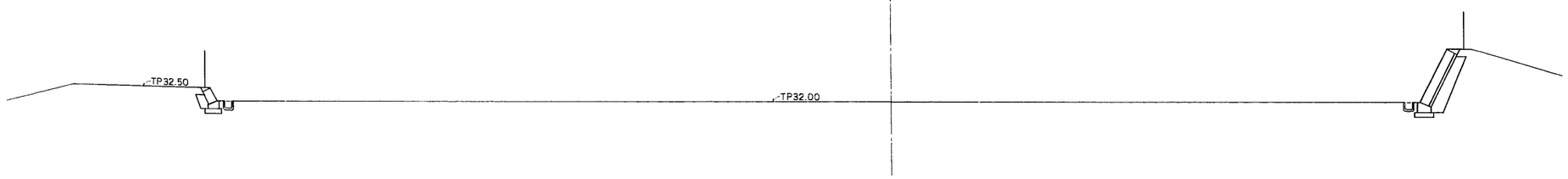
施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	吐水槽横断図(2/4)		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 1:100 A2 1:141	図面番号	8-282/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所		

吐水槽横断図(3/4) S=1:100

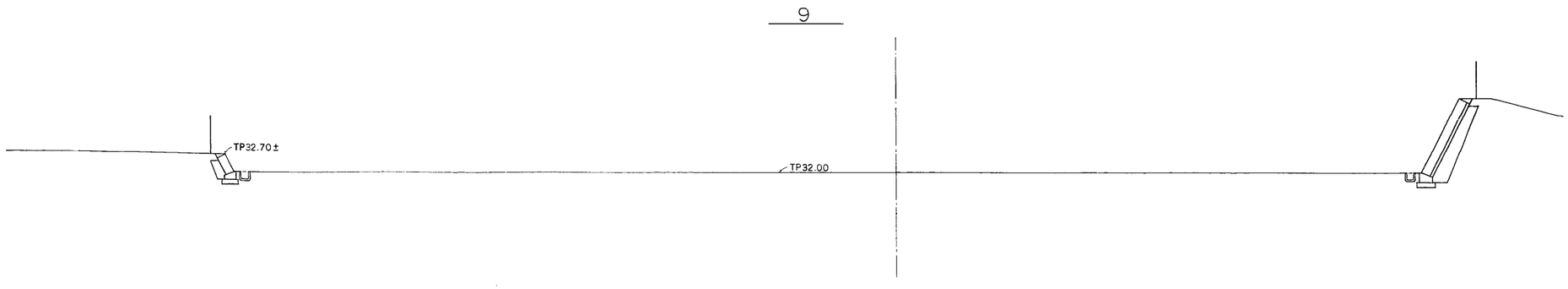
7



8



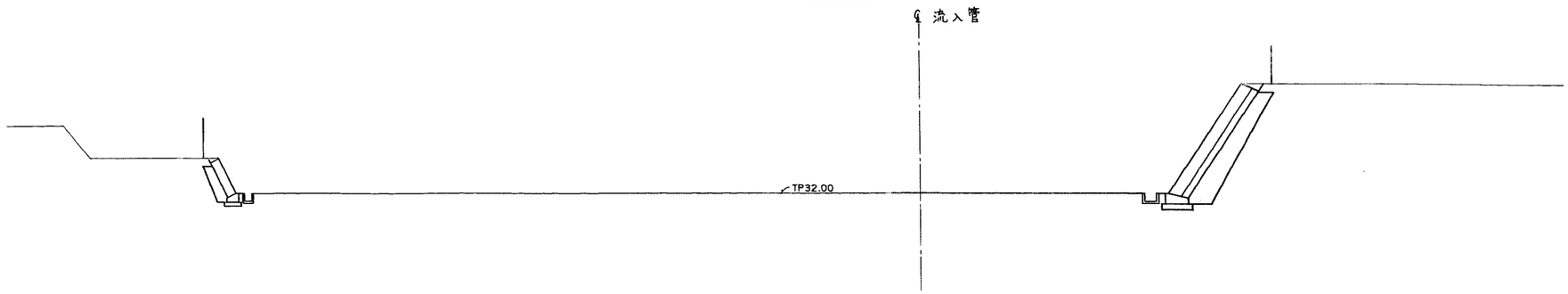
9



施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	吐水槽横断図(3/4)		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 1:100 A2 1:141	図面番号	8-283/319
作成者	関東農政局 両総農業水利事業所		

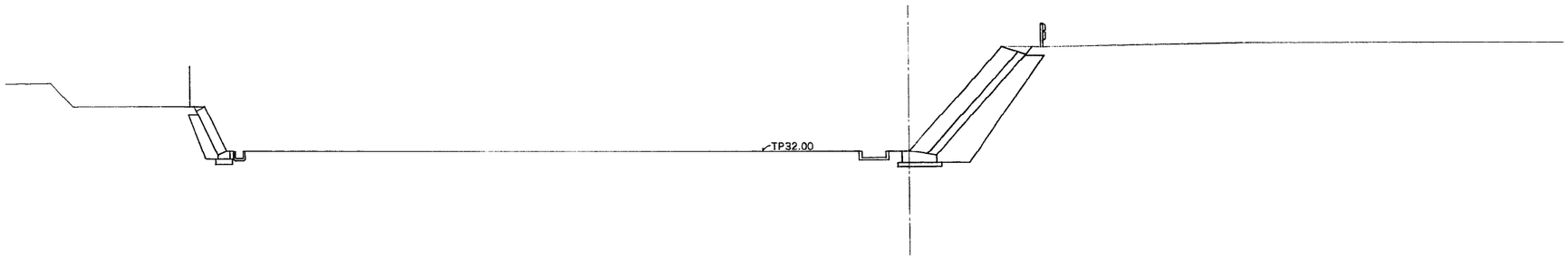
吐水槽横断図(4/4) S=1:100

10



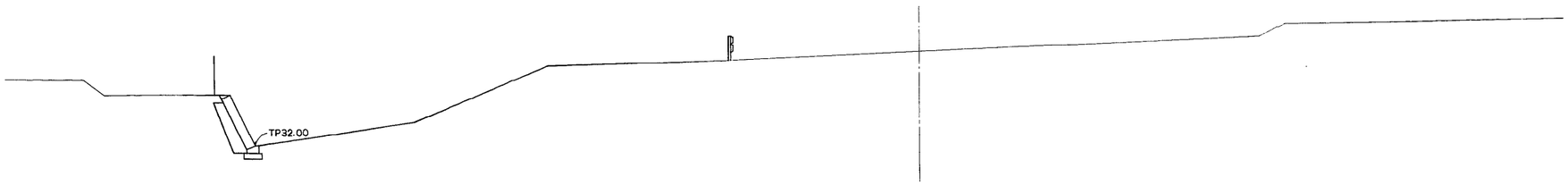
DL=25.00

11



DL=25.00

12

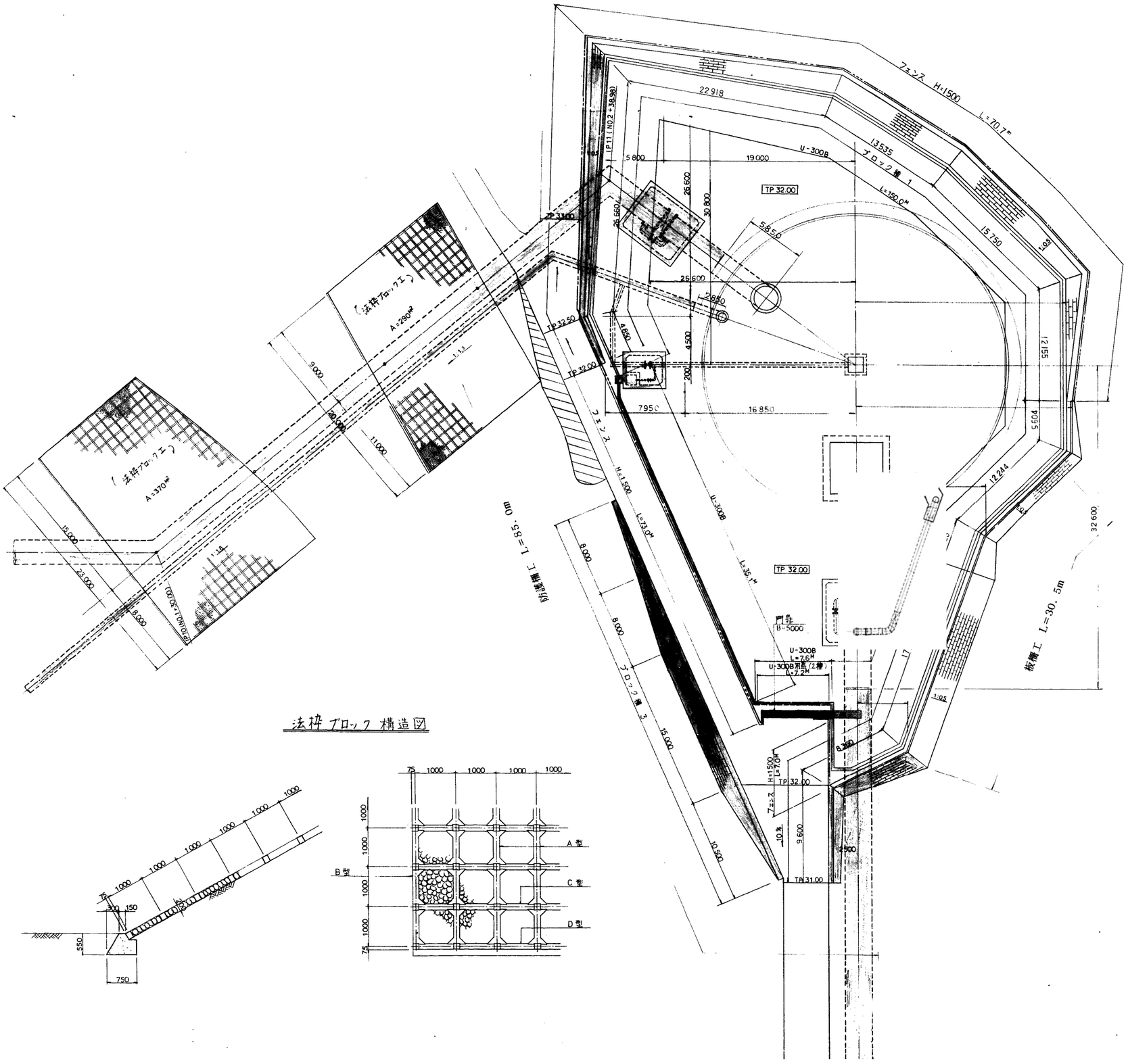


DL=25.00

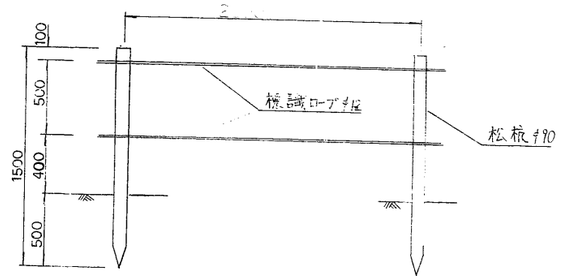
施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	吐水槽横断図(4/4)		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 1:100 A2 1:141	図面番号	8-284/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所		

場内整備工(1/3)

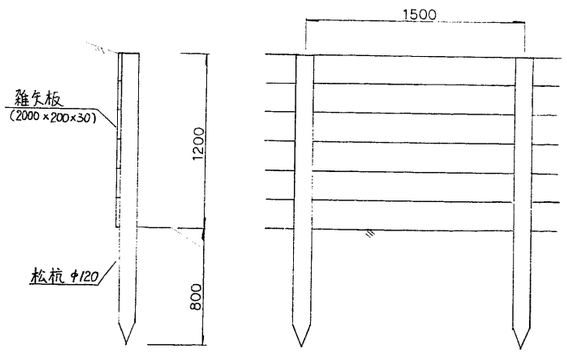
S = 1/200



防護柵工 S=1/20



板柵工 S=1/20



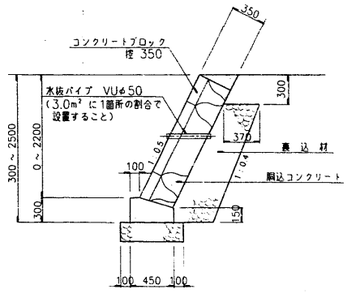
法枠ブロック 構造図

施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	場内整備工(1/3)		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 図示	図面番号	8-285/319
作成者	関東農政局 霞総農業水利事業所		

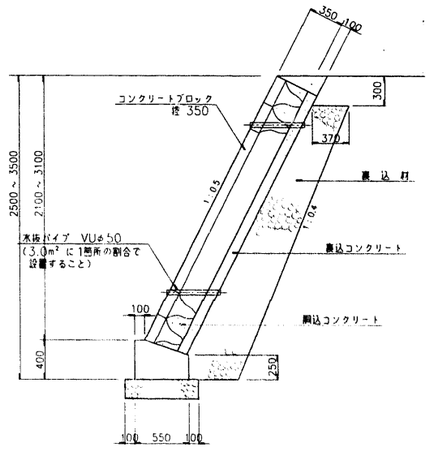
場内整備工(2/3)

ブロック積標準断面図
S = 1 : 30

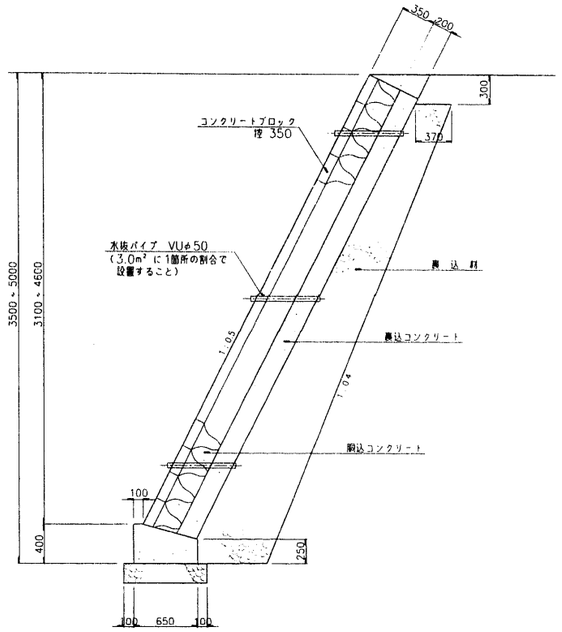
タイプ 1



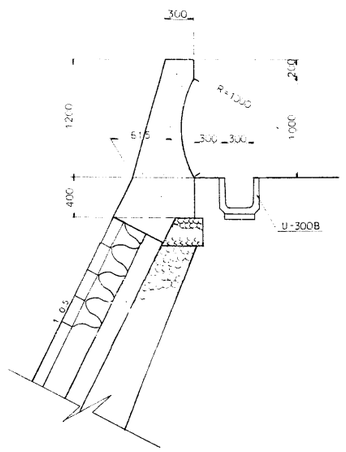
タイプ 2



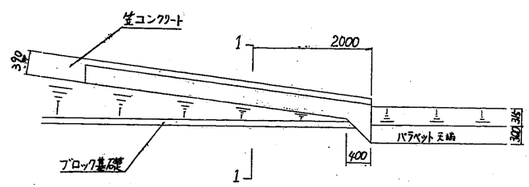
タイプ 3



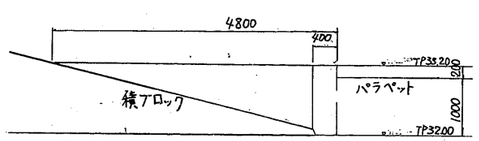
ブロック積 2 パラペット部詳細図
S = 1 : 30



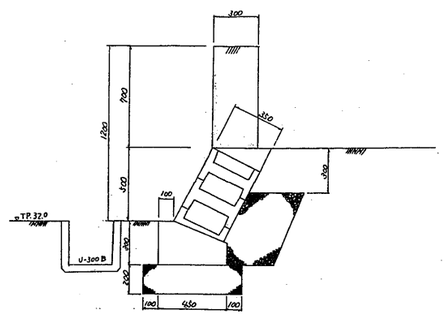
パラペット端部平面図 S=1/50



パラペット端部側面図 S=1/50



1—1 断面 S=1/20

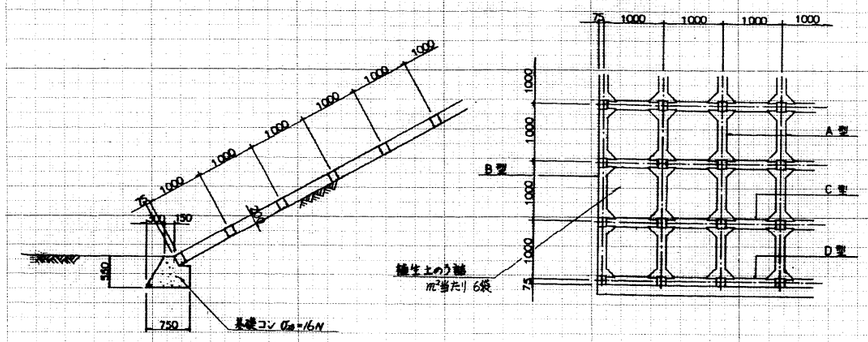


施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	場内整備工(2/3)		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 図示	図面番号	8-286/319
作成者	関東農政局 両総農業水利事業所		

場内整備工(3/3)

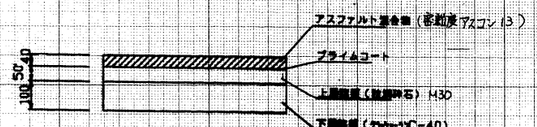
法枠ブロック構造図

S=1:200

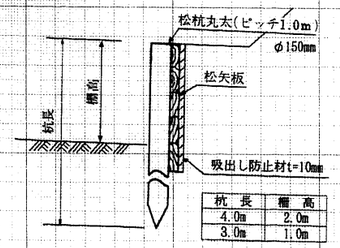


場内アスファルト舗装標準図

S=1:10



板柵工標準断面図

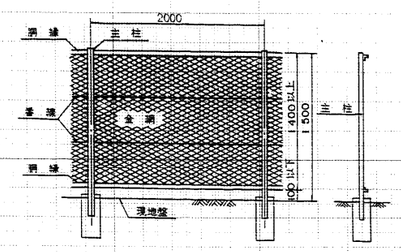


杭 長	柵 高
4.0m	2.0m
3.0m	1.0m

ネットフェンス標準図

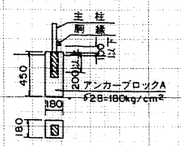
S=1:300

A － Ⅲ 型



基礎構造図

アンカーブロック設置の場合



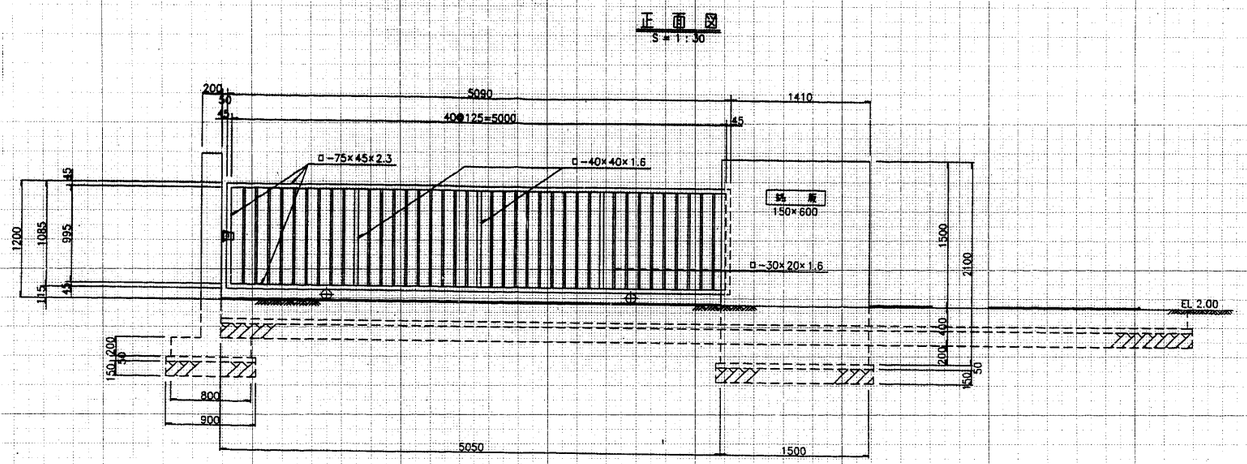
注 意 事 項

・主柱の塗装は、JIS H8641 溶融亜鉛鉛メッキの亜鉛付着量をHDZ50B(500gf/m²以上)とし、胴縁その他金具類の付着量は、HDZ35A(350gf/m²)以上とする。

門扉構造図(参考図)

正 面 図

S=1:30

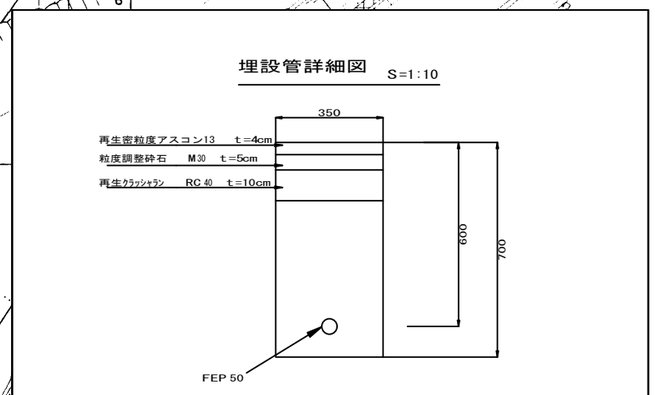


施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	場内整備工(3/3)		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 図示	図面番号	8-287/319
作成者	関東農政局 霞総農業水利事業所		

2号排泥工配線図

平面図 S=1:200

埋設管詳細図 S=1:10

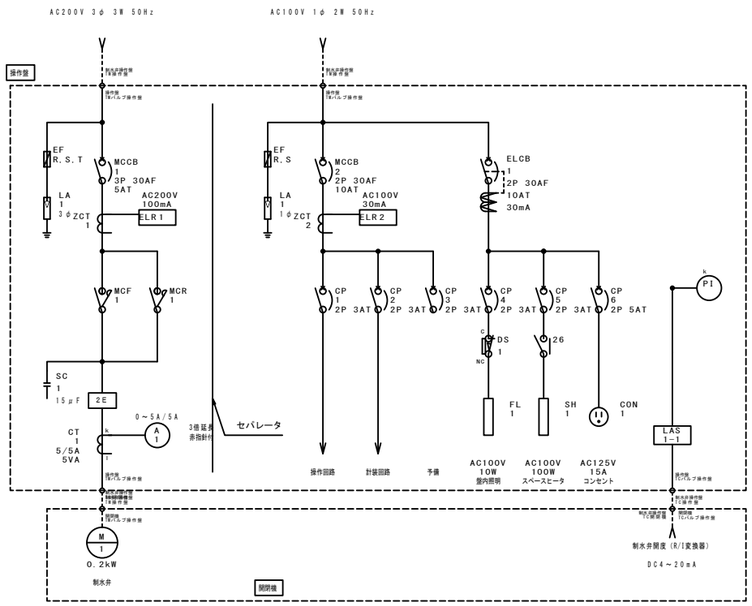


記号	負荷名称	配線		配管	
		配線仕様	工事区分	配管仕様	工事区分
1	電源3φ200V	CV 5.5−3C	本工事	FEP50	本工事
	電源1φ100V	CV 3.5−2C			
2	電動弁（動力）	CV 3.5−2C	本工事	FEP 50	本工事
	電動弁（制御）	CVV 2−2C			
3	電動弁（動力）	CV 3.5−2C	本工事	G28	本工事
	電動弁（制御）	CVV 2−2C		G28	

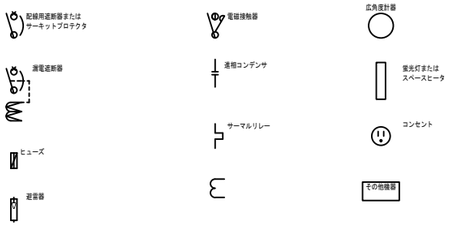
施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	2号排泥工配線図		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 図示	図面番号	8-288/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所		

2号排泥工操作盤外形図及び単線結線図

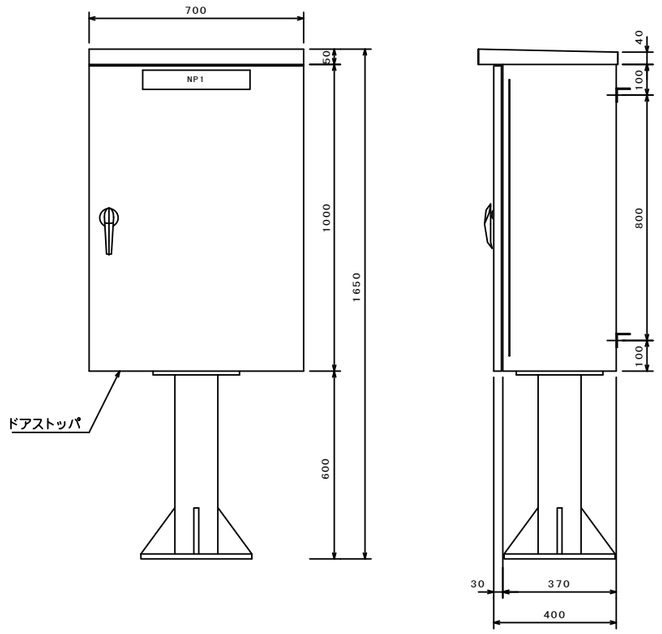
単結線図



凡例



操作盤外形図　S=1:10



NP.NO	形式	名称	記号
1	315 × 63	制水弁制御盤	
2			

構造	屋外壁掛型
盤材質	SUS 2t
塗装色	外面：マンセル 5Y7/1 半ツヤ
	内面：マンセル 5Y7/1 半ツヤ

備考

1．本設備の電気設備は、東京電力会社２００Ｖ（３相３線、５０Hz）及び２００Ｖ（単相２線、５０Hz）で受電する予定である。

2．機側操作盤仕様

1）回路構成等

① バルブ設備の主回路及び制御回路を内蔵し、かつ簡単な回路設計を基本とする。

② スペースヒーターはサーモスタットにより、入・切する。

③ 耐雷対策として高速避雷器（電源・計装）を実装すること。

2）指示計及び表示灯

① 状態表示及び故障表示はランプテストができるものとする。

② 計器類及び表示等は外部より見やすい位置に配置するものとする。

3）予備品及び付属品

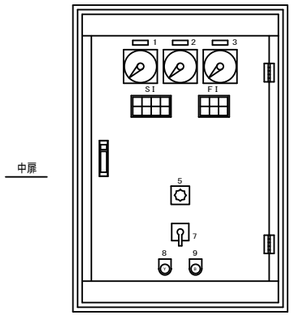
① リレー類　　現用の各種ごとに１個

② ランプ、ヒューズ　現用の100%（LEDは20%）

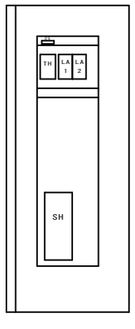
③ 保守点検工具　　１式

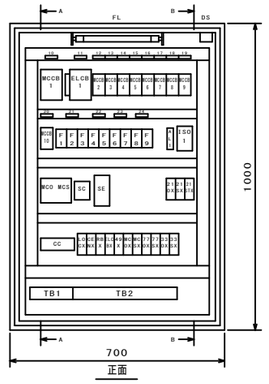
④ 予備品箱　　１個

中扉



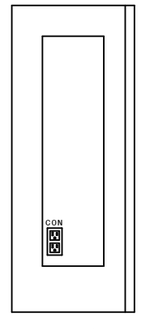
Ａ－Ａ矢視





正面

Ｂ－Ｂ矢視



ＳＩ記入文字

電灯電源 R	全開 H	開中 W	予備 M
予備 S	全閉 H	開中 W	予備 M

ＦＩ記入文字

漏電 A	開過トルク A	予備 A
過負荷 A	閉過トルク A	予備 A

NP.NO	形式	名称	記号
1	40 × 12.5	動力電源電圧	V
2	〃	電流	A
3	〃	開度	ZI
5	SGB	OFF R-S S-T T-R OFF	VS
7	〃	開　引いて停止　閉	CS
8	30φ	故障復帰	PB1
9	〃	ランプテスト	PB2
10	40 × 10	動力主幹	MCCB1
11	〃	制水弁電動機	ELCB1
12	〃	電灯主幹	MCCB2
13	〃	操作電源	MCCB3
14	〃	制御電源	MCCB4
15	〃	計装電源	MCCB5
16	〃	予備電源	MCCB6
17	〃	盤内機器	MCCB7
18	〃	盤内照明	MCCB8
19	〃	盤内スペースヒータ	MCCB9
20	〃	盤内コンセント	MCCB10
21	〃	動力用アレスタ	F1－F3
22	〃	電圧計	F4．5
23	〃	電灯用アレスタ	F6．7
24	〃	電灯電源表示灯	F8．9
25	〃	スペースヒータ	TH
26			

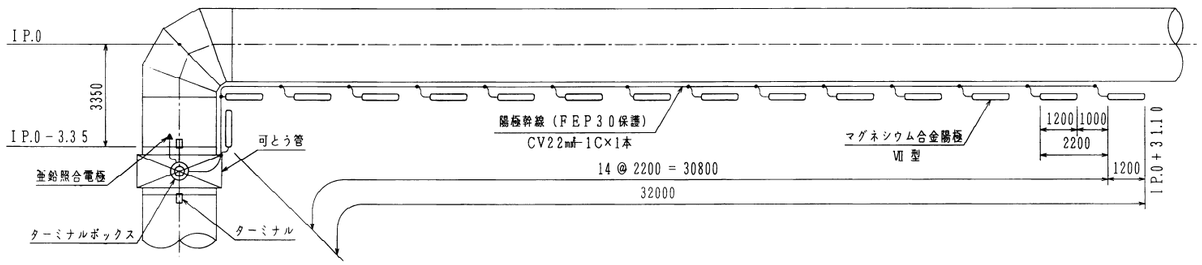
施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	2号排泥工操作盤外形図及び単線結線図		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 図示	図面番号	8-289/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所		

電気防食工(1/6)

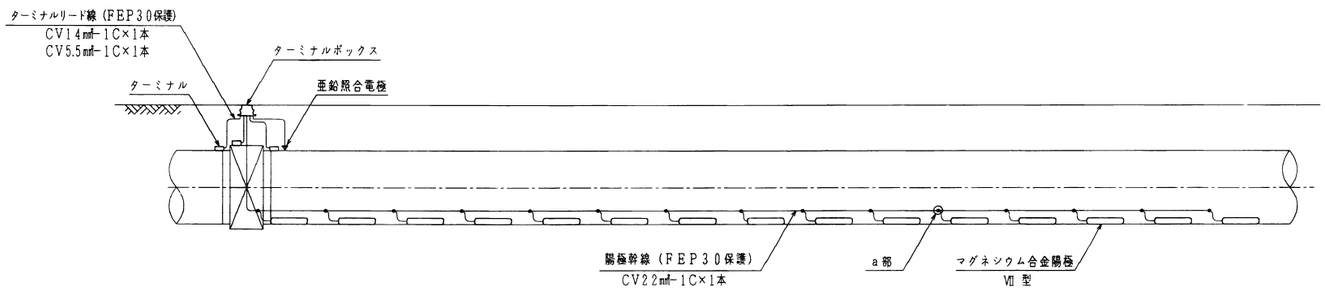
IP.0-4.150

陽極配置図 S=1:100

平面図

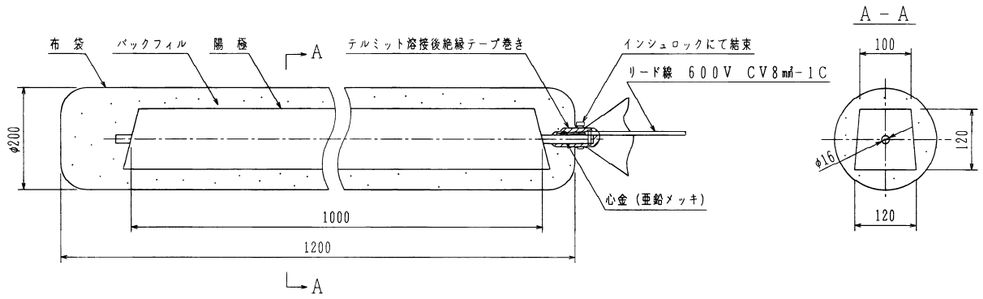


縦断面図

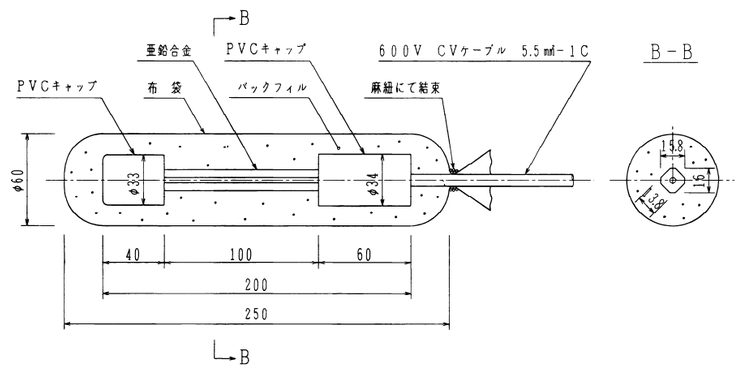


マグネシウム合金陽極 S=1:6

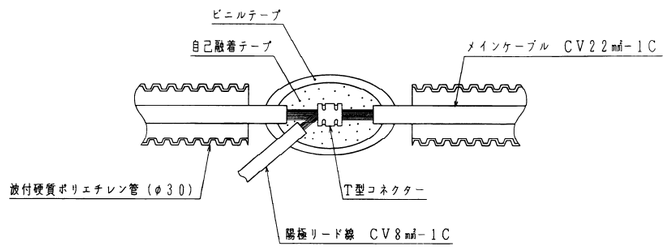
Ⅶ型



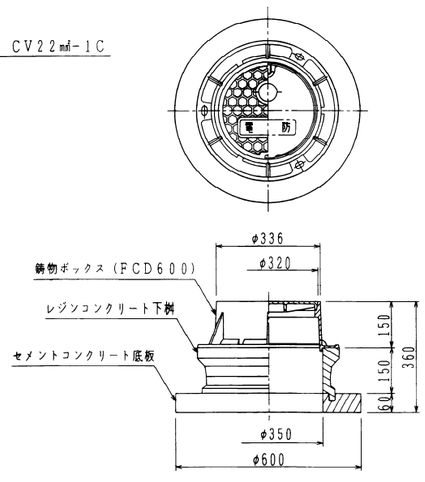
亜鉛照合電極 S=1:2



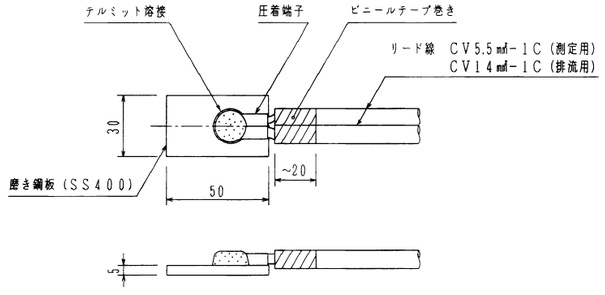
a部詳細図 S=1:2



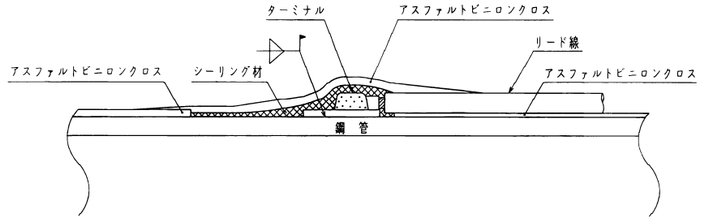
ターミナルボックス S=1:10



ターミナル S=1:1.5



ターミナル取付要領図



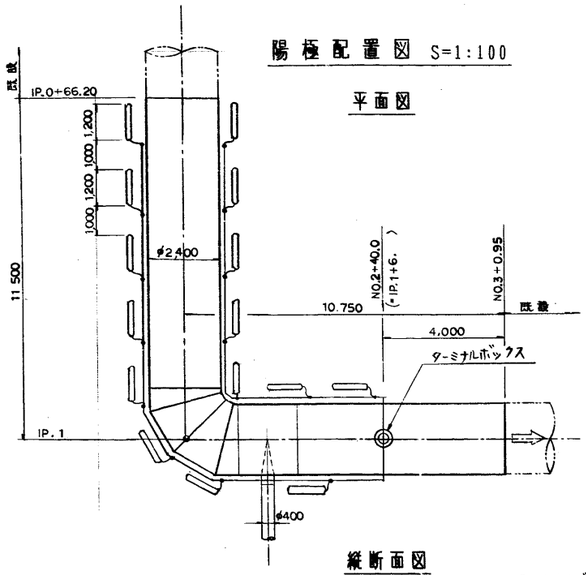
施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	電気防食工(1/6)		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 図示	図面番号	8-290/319
作成者	関東農政局 両総農業水利事業所		

電気防食工(2/6)

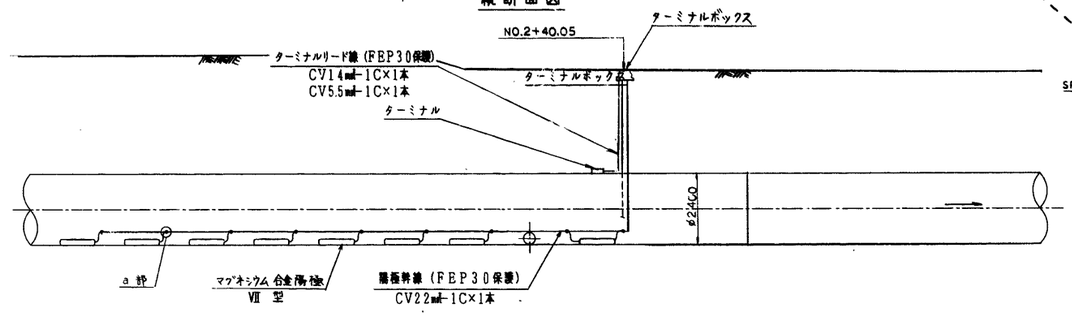
No. 2+40.050

陽極配置図 S=1:100

平面図

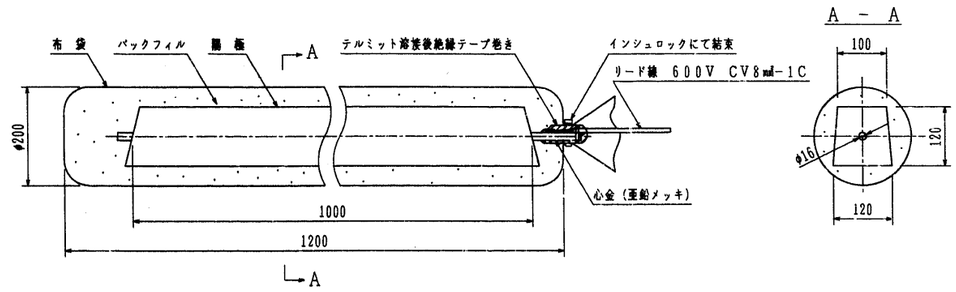


縦断面図

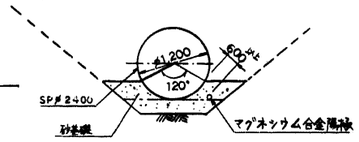


マグネシウム合金陽極 S=1:6

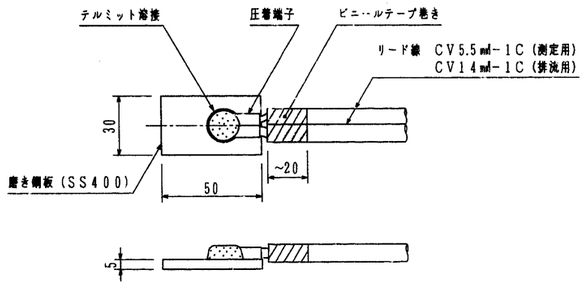
Ⅶ 型



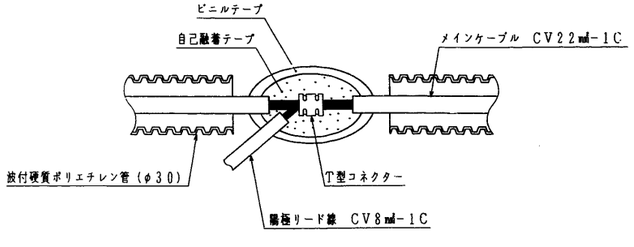
横断図



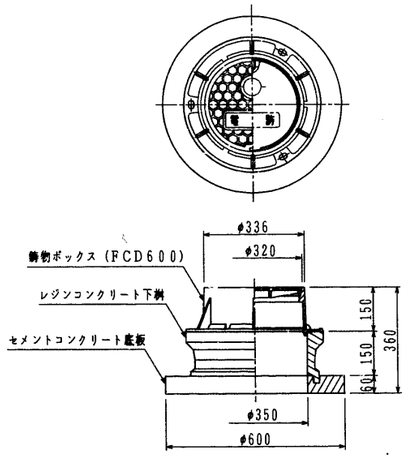
ターミナル S=1:1.5



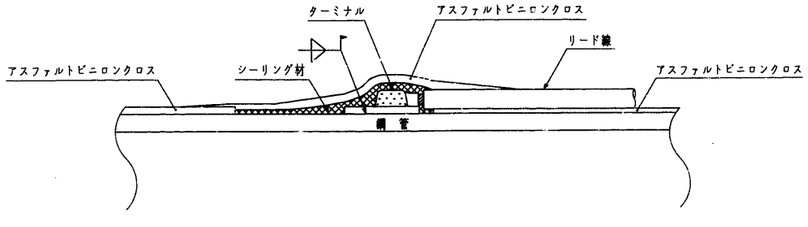
a 部 詳 細 図 S=1:2



ターミナルボックス S=1:10



ターミナル取付要領図



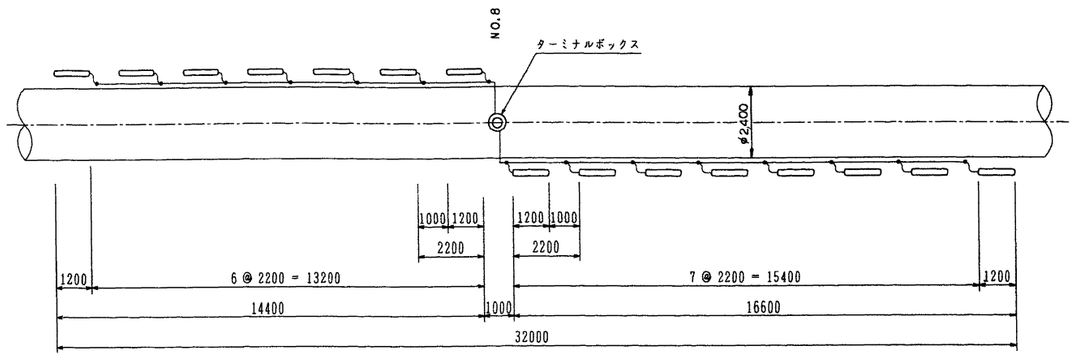
施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	電気防食工(2/6)		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 図示	図面番号	8-291/319
作成者	関東農政局 両総農業水利事業所		

電気防食工(3/6)

No. 8+0.000

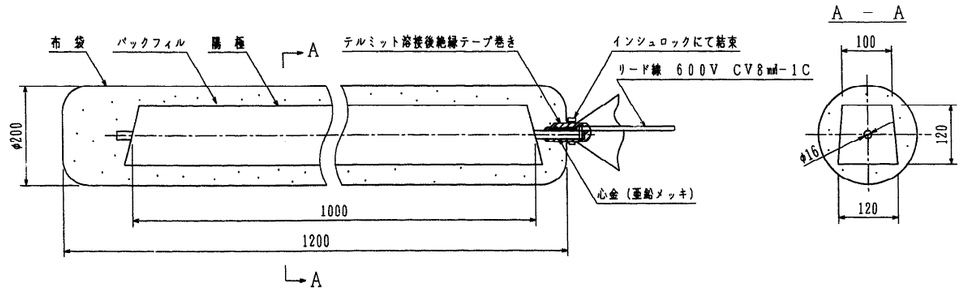
陽極配置図 S=1:100

平面図

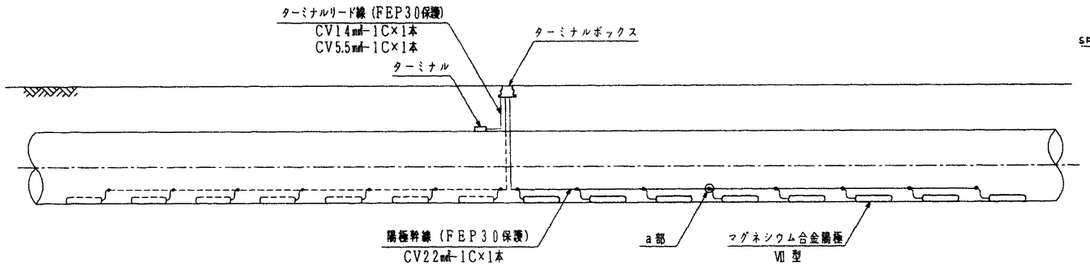


マグネシウム合金陽極 S=1:6

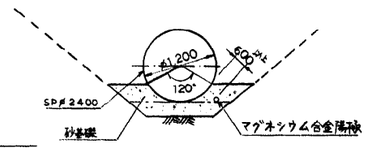
Ⅶ型



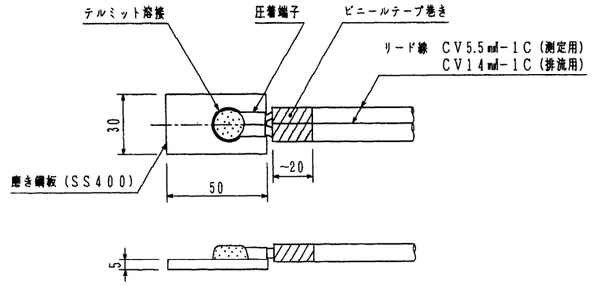
縦断面図



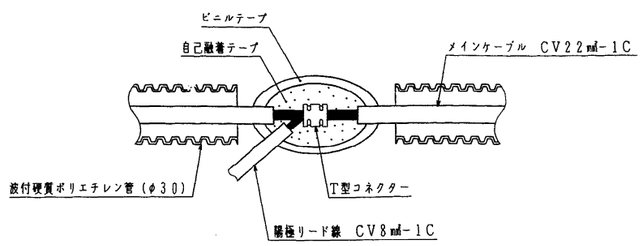
横断図



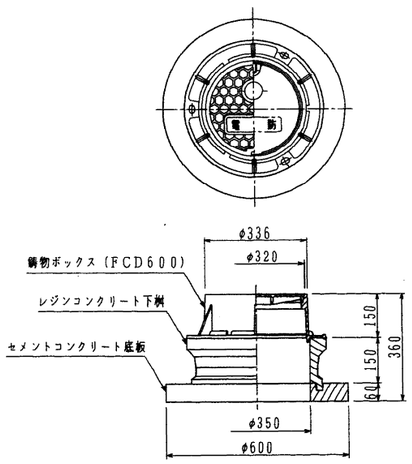
ターミナル S=1:1.5



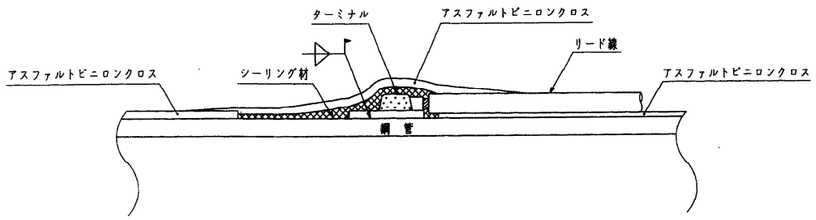
a部詳細図 S=1:2



ターミナルボックス S=1:10



ターミナル取付要領図



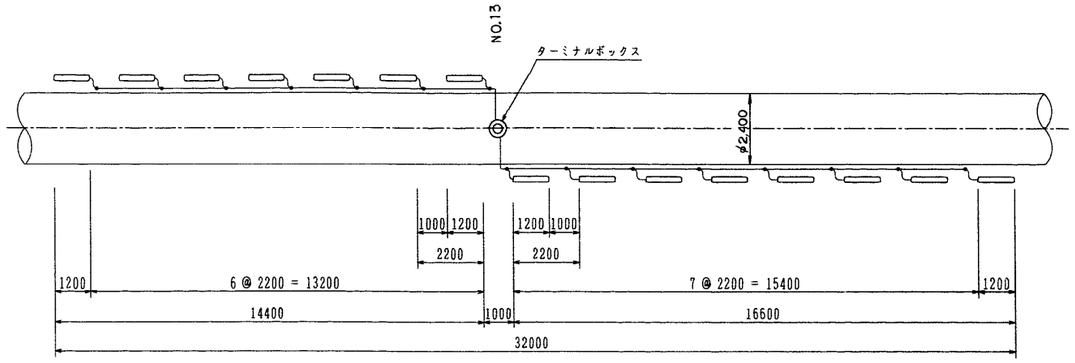
施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	電気防食工(3/6)		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 図示	図面番号	8-292/319
作成者	関東農政局 両総農業水利事業所		

電気防食工(4/6)

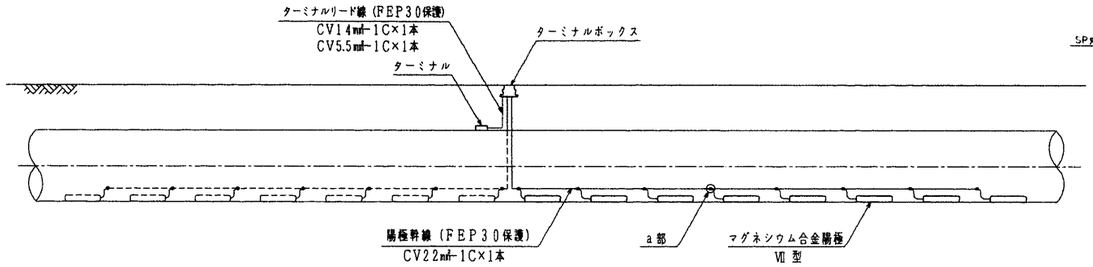
No. 13+0.000

陽極配置図 S=1:100

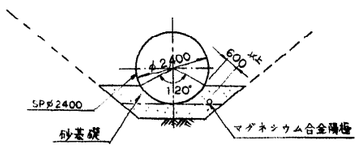
平面図



縦断面図

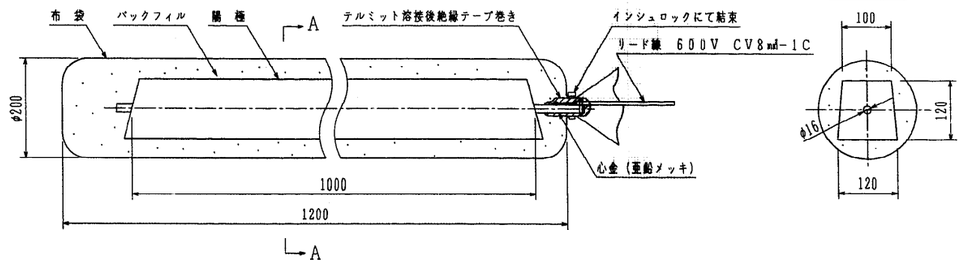


横断図

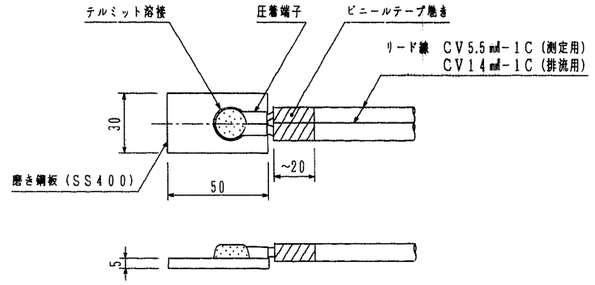


マグネシウム合金陽極 S=1:6

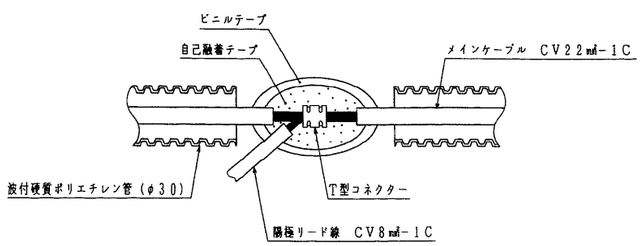
Ⅶ型



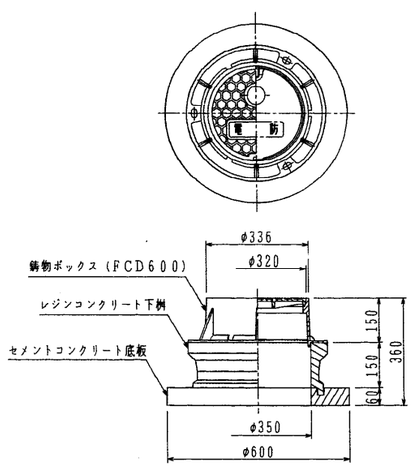
ターミナル S=1:1.5



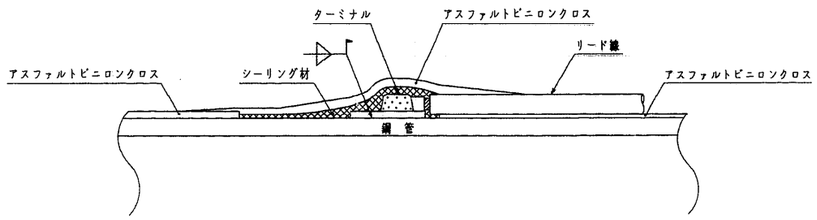
a部詳細図 S=1:2



ターミナルボックス S=1:10



ターミナル取付要領図



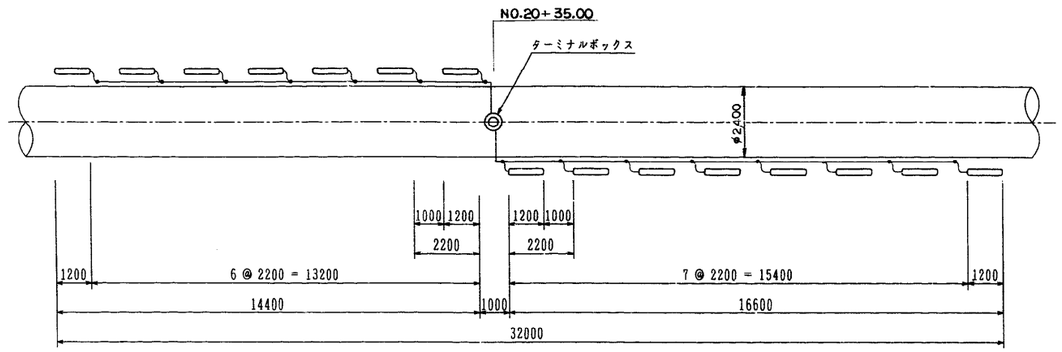
施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	電気防食工(4/6)		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 図示	図面番号	8-293/319
作成者	関東農政局 両総農業水利事業所		

電気防食工(5/6)

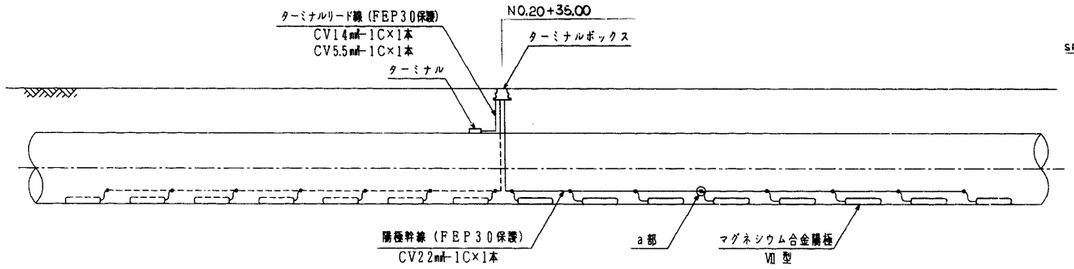
No. 20+35.000

陽極配置図 S=1:100

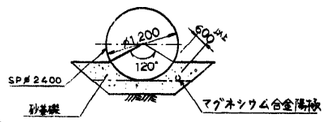
平面図



縦断面図

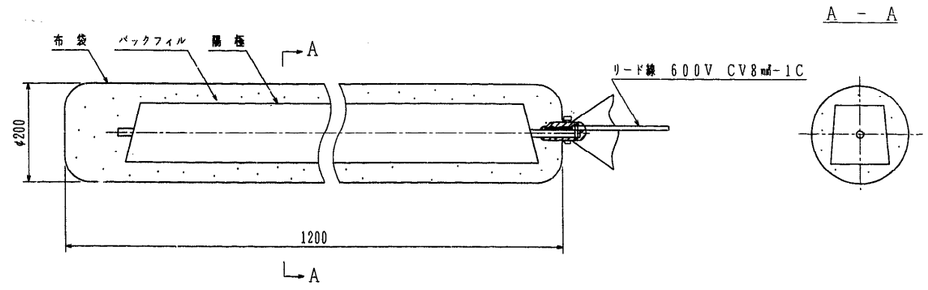


横断図

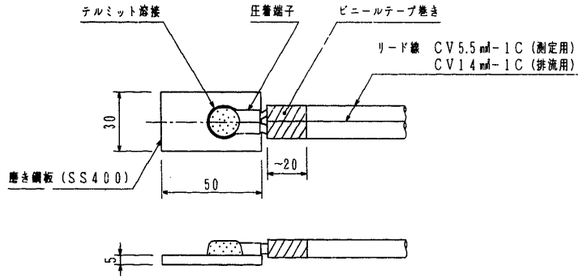


マグネシウム合金陽極 S=1:6

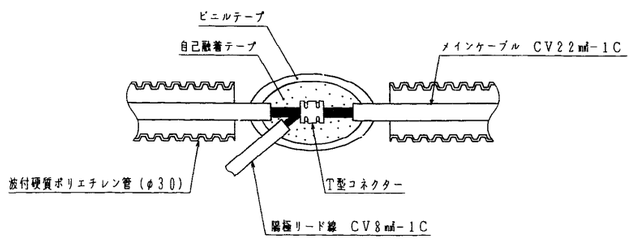
Ⅶ型



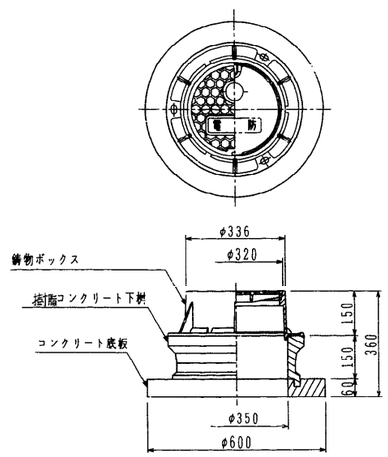
ターミナル S=1:1.5



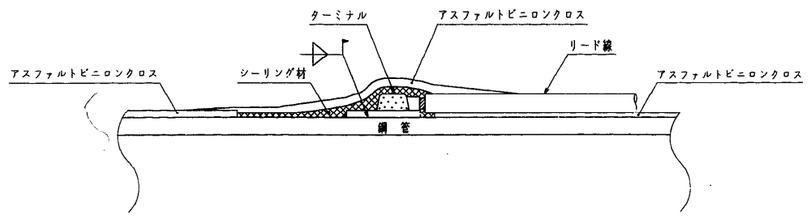
a部詳細図 S=1:2



ターミナルボックス S=1:10



ターミナル取付要領図

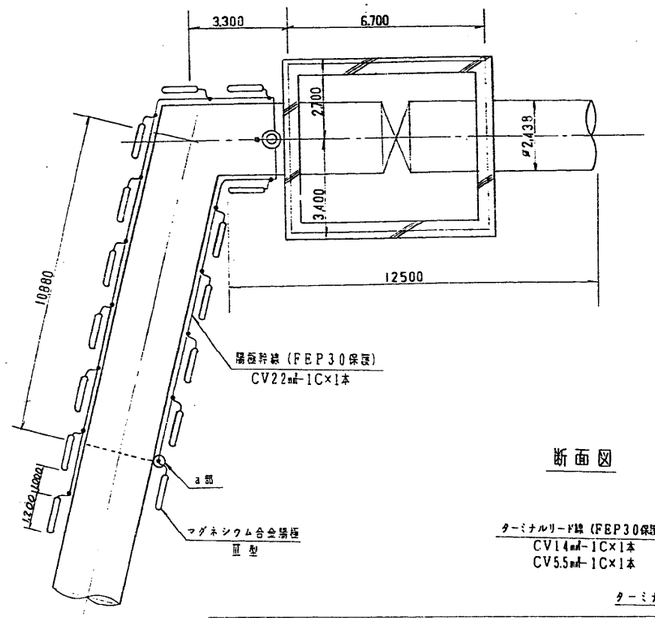


施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	電気防食工(5/6)		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 図示	図面番号	8-294/319
作成者	関東農政局 両総農業水利事業所		

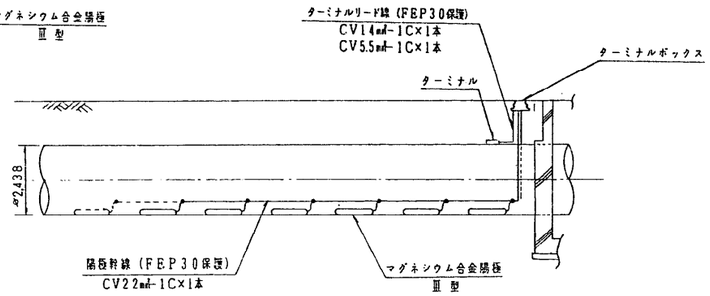
電気防食工(6/6)

陽極配置図 S=1:100

平面図

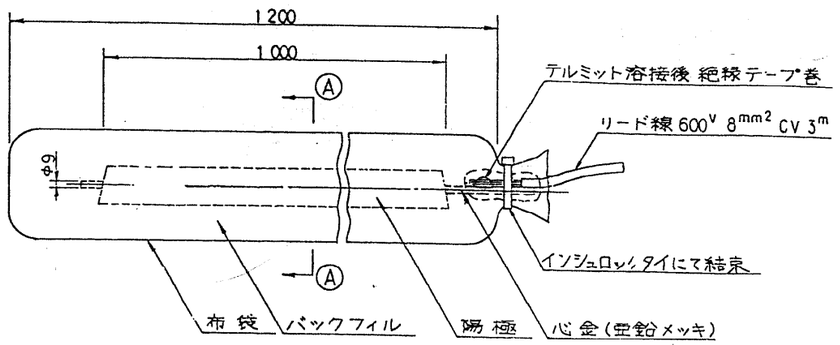


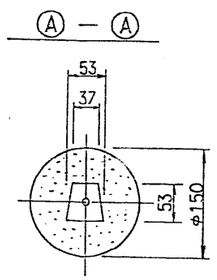
断面図



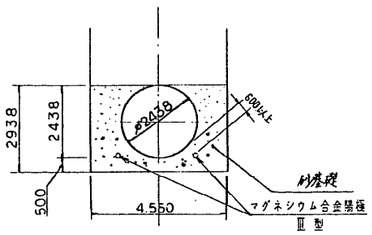
マグネシウム合金陽極 S=Non

Ⅲ型

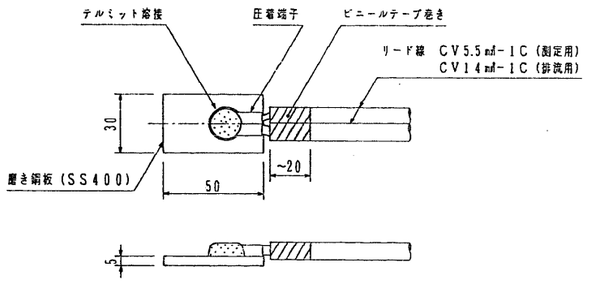




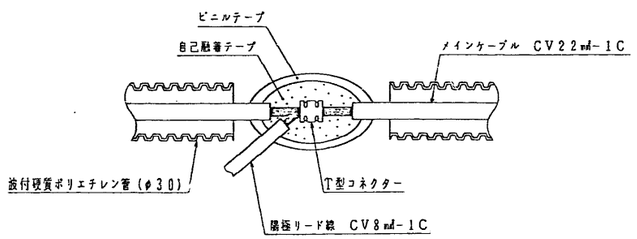
管路標準断面図



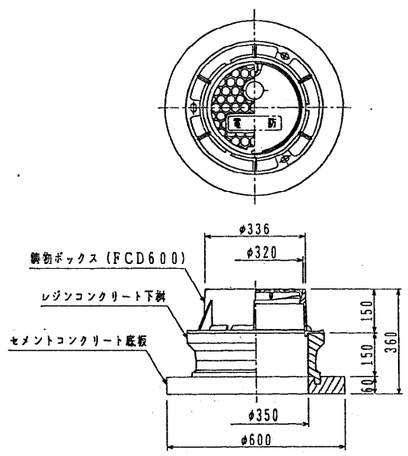
ターミナル S=1:1.5



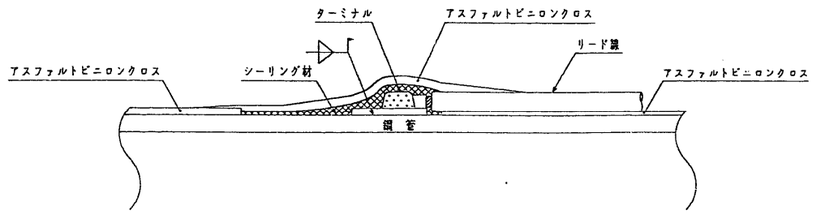
a部詳細図 S=1:2



ターミナルボックス S=1:10

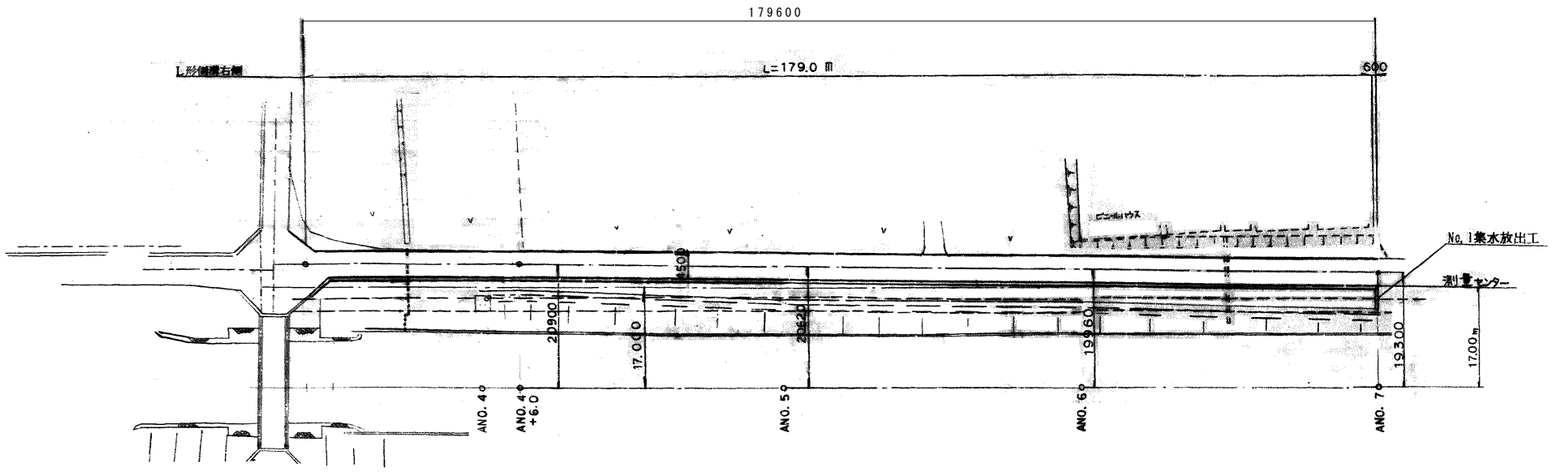


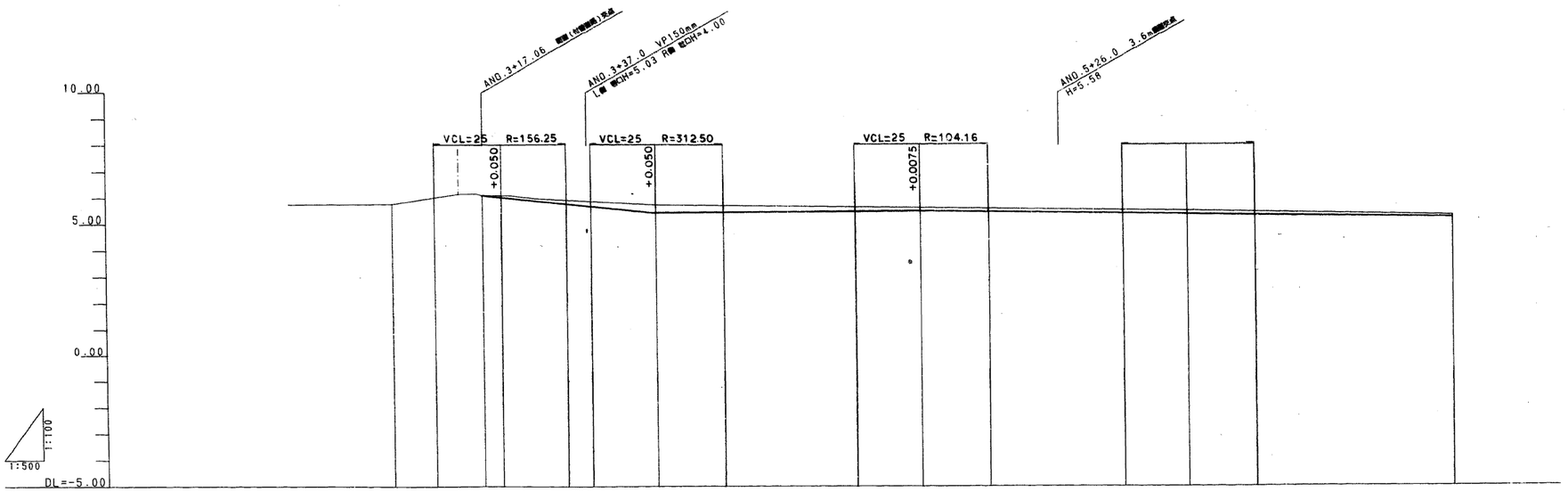
ターミナル取付要領図

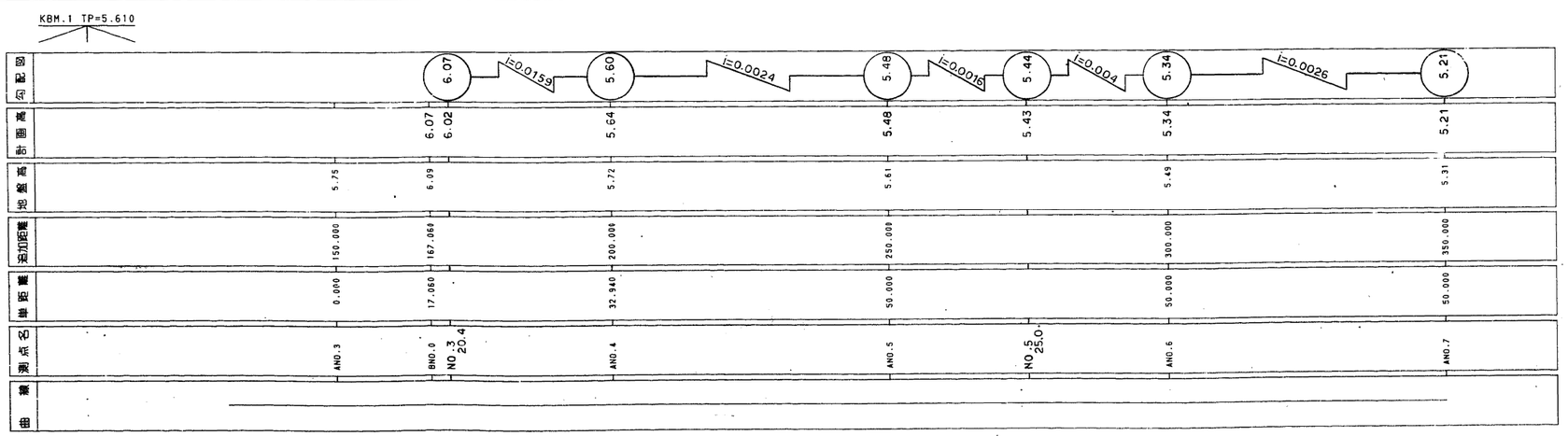


施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	電気防食工(6/6)		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 図示	図面番号	8-295/319
作成者	関東農政局 両総農業水利事業所		

管理用道路(1/4)

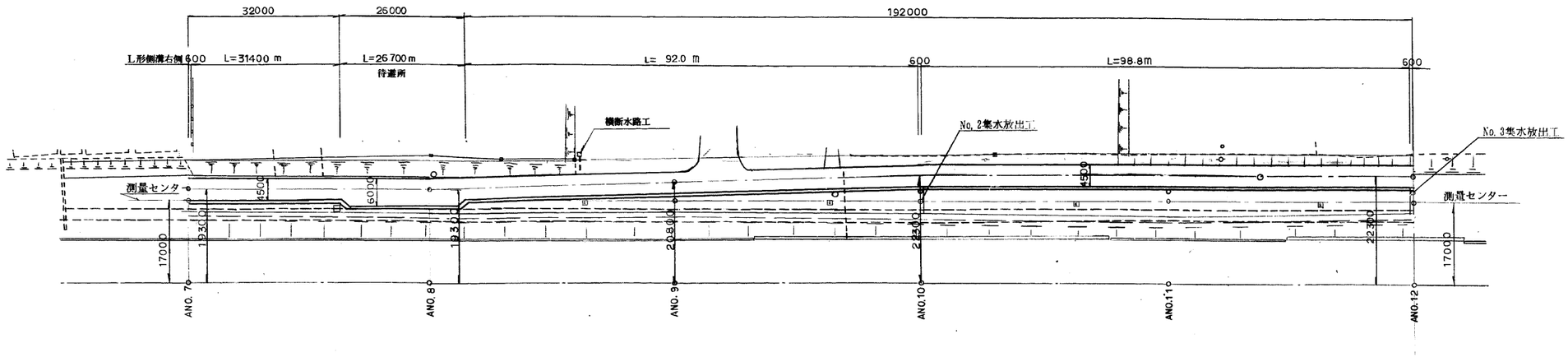


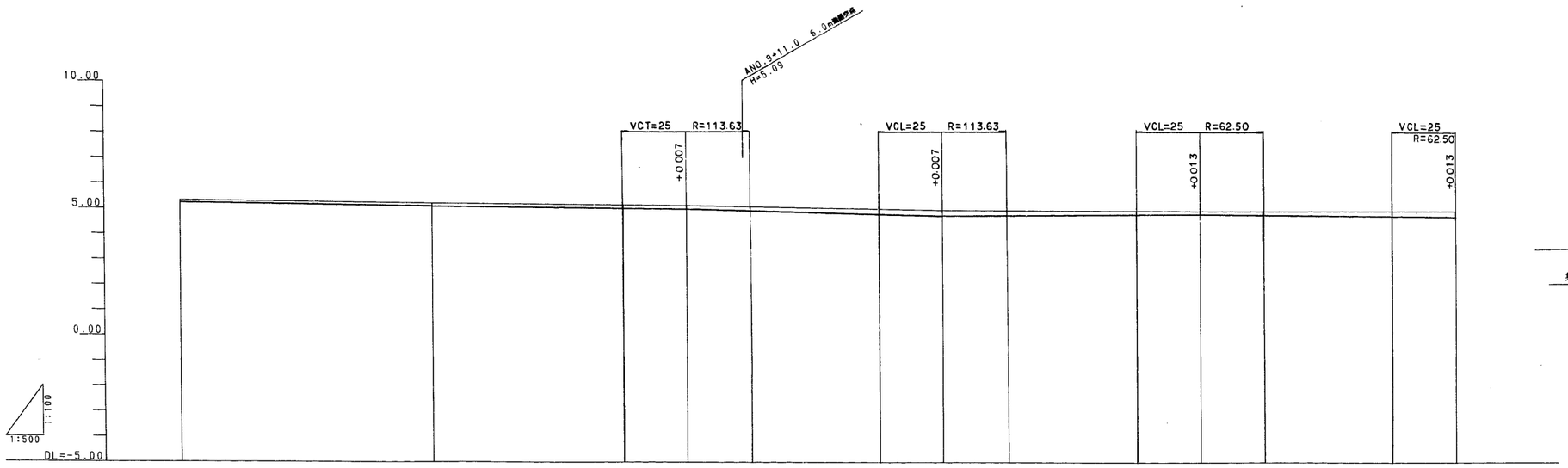


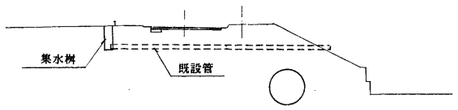


施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	管理用道路(1/4)		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 図示	図面番号	8-296/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所		

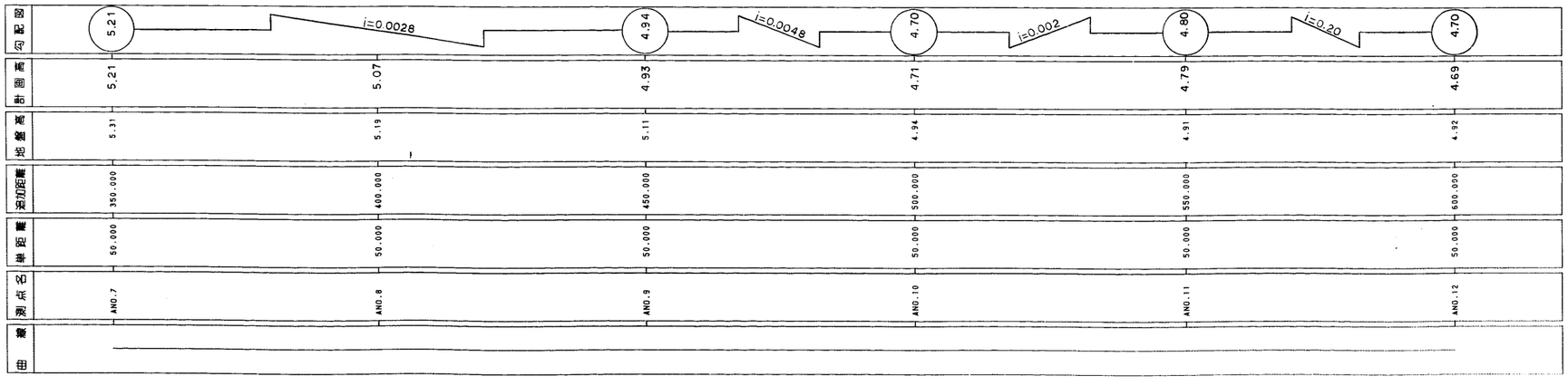
管理用道路(2/4)





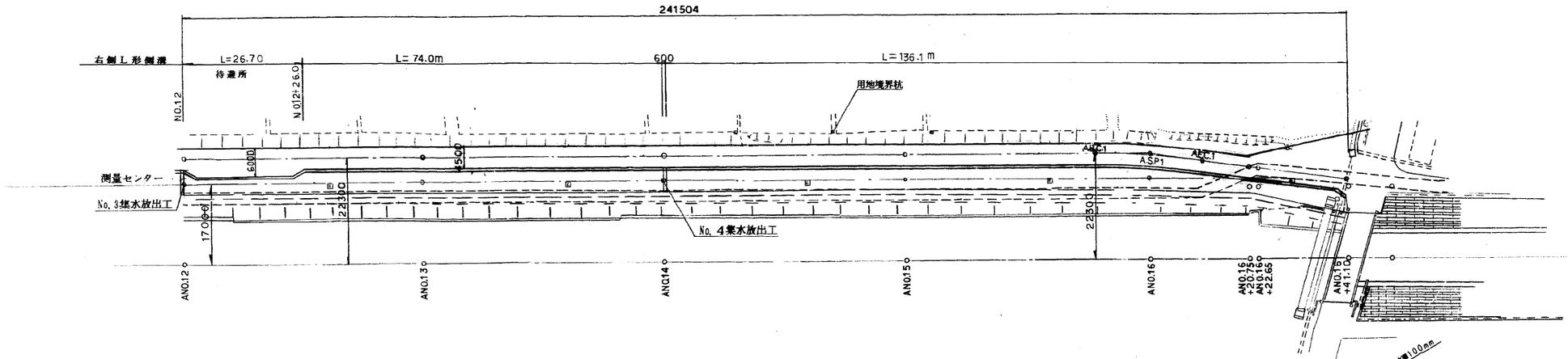


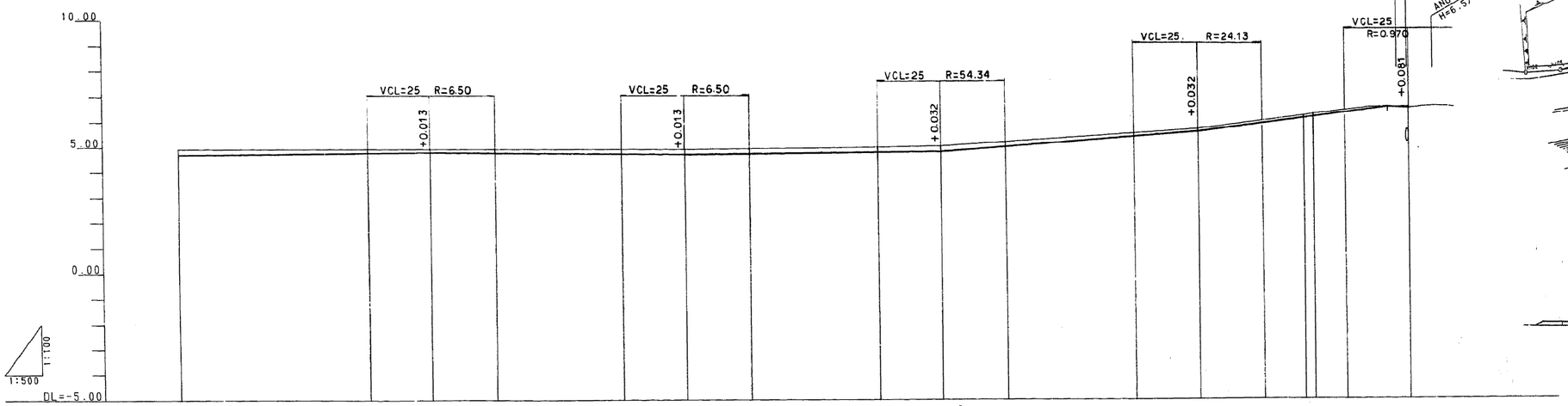
横断水路工
S=1:200

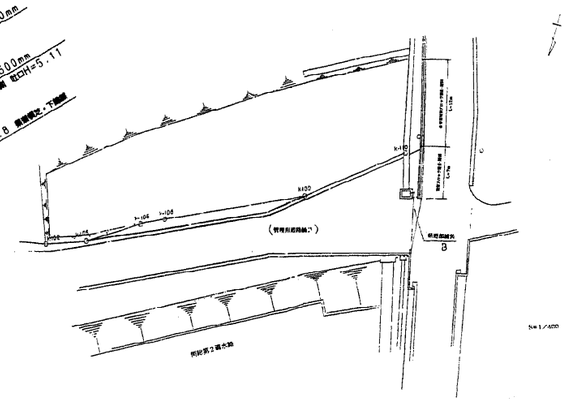


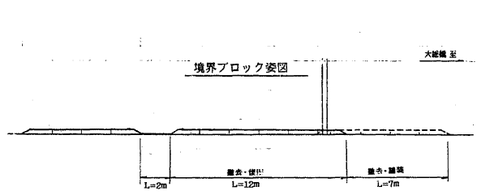
施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	管理用道路(2/4)		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 図示	図面番号	8-297/319
作成者	関東農政局 両総農業水利事業所		

管理用道路(3/4)

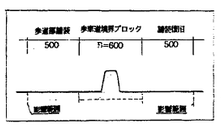


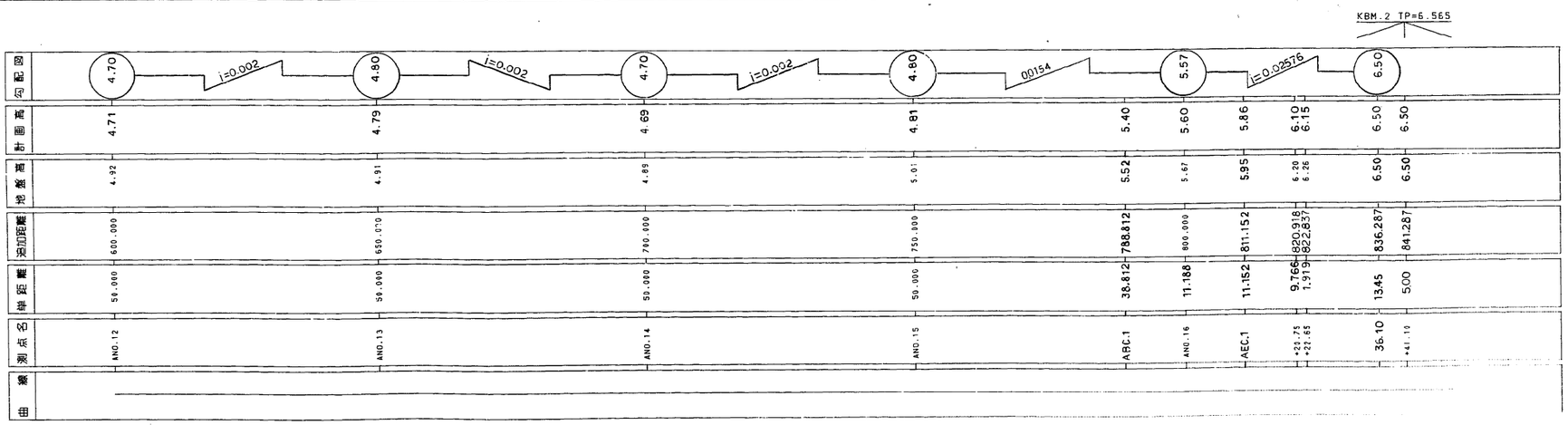






境界ブロック標準断面図

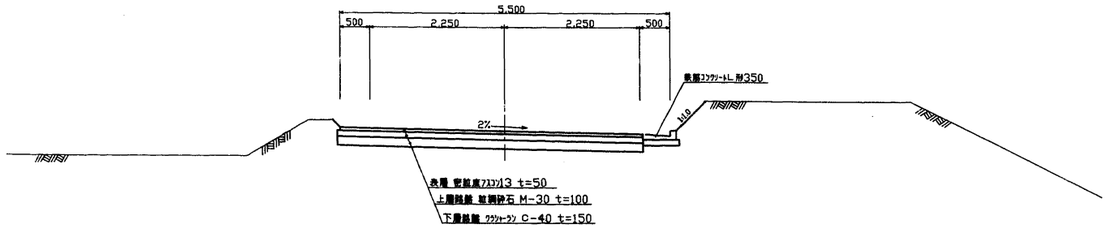




施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	管理用道路(3/4)		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 図示	図面番号	8-298/319
作成者	関東農政局 両総農業水利事業所		

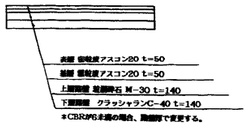
管理用道路(4/4)

管理用道路標準断面図
S=1:50

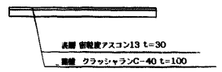


県道標準断面図

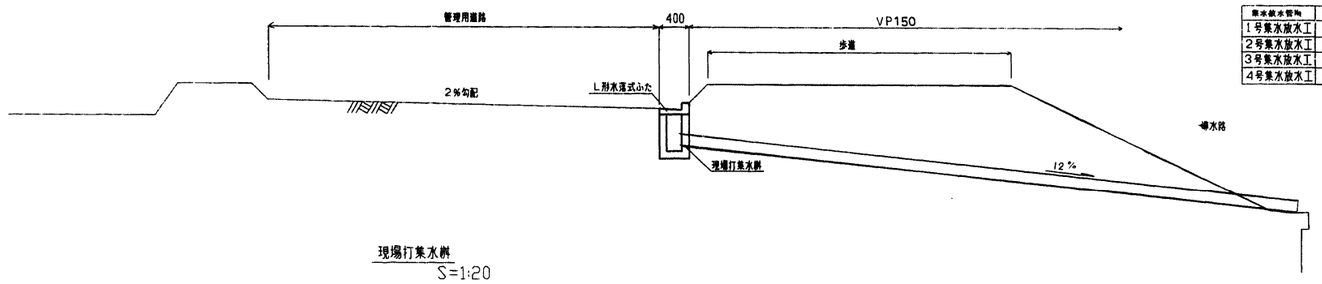
車 道 部
S=1:50



歩 道 部
S=1:50

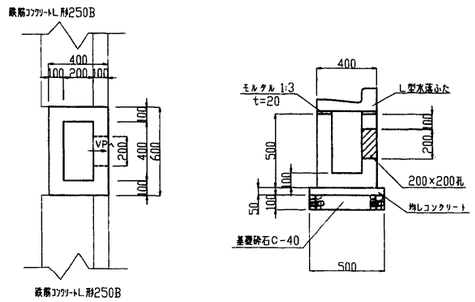


道路横断工標準断面図
S=1:50

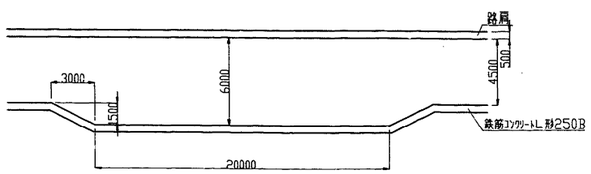


集水桝水管種	VP	H	B
1号集水放水工	5,000	1.00	1.40
2号集水放水工	10,000	1.20	1.60
3号集水放水工	10,000	1.30	1.30
4号集水放水工	10,000	1.20	1.60

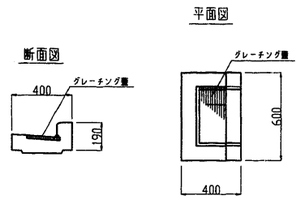
現場打集水桝
S=1:20



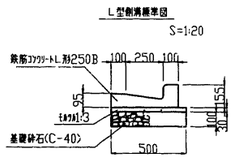
待避所
S=1:200



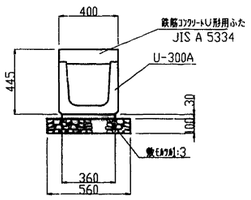
L形水落ふた
S=1:20



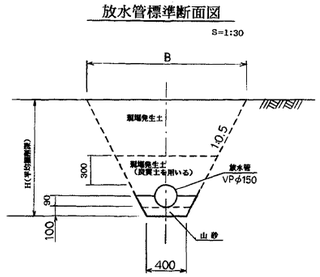
L型側溝標準図
S=1:20



U形側溝標準図
S=1:20



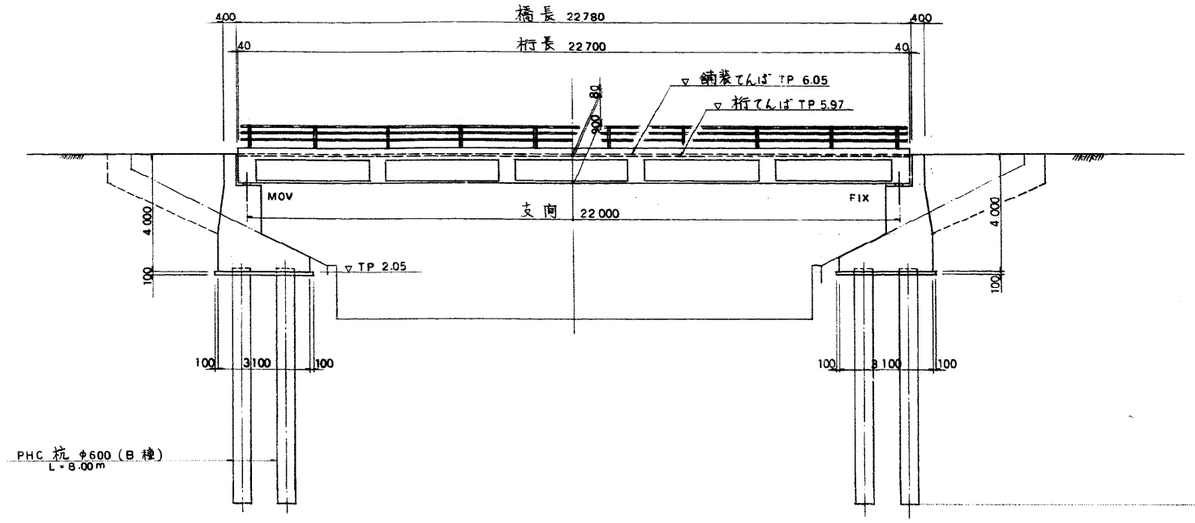
放水管標準断面図
S=1:30



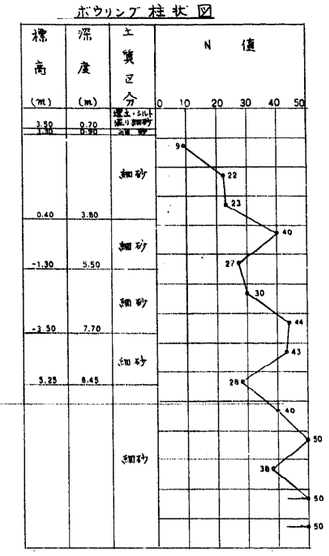
施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	管理用道路(4/4)		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 図示	図面番号	8-299/319
作成者	関東農政局 両総農業水利事業所		

橋梁工(1/4)

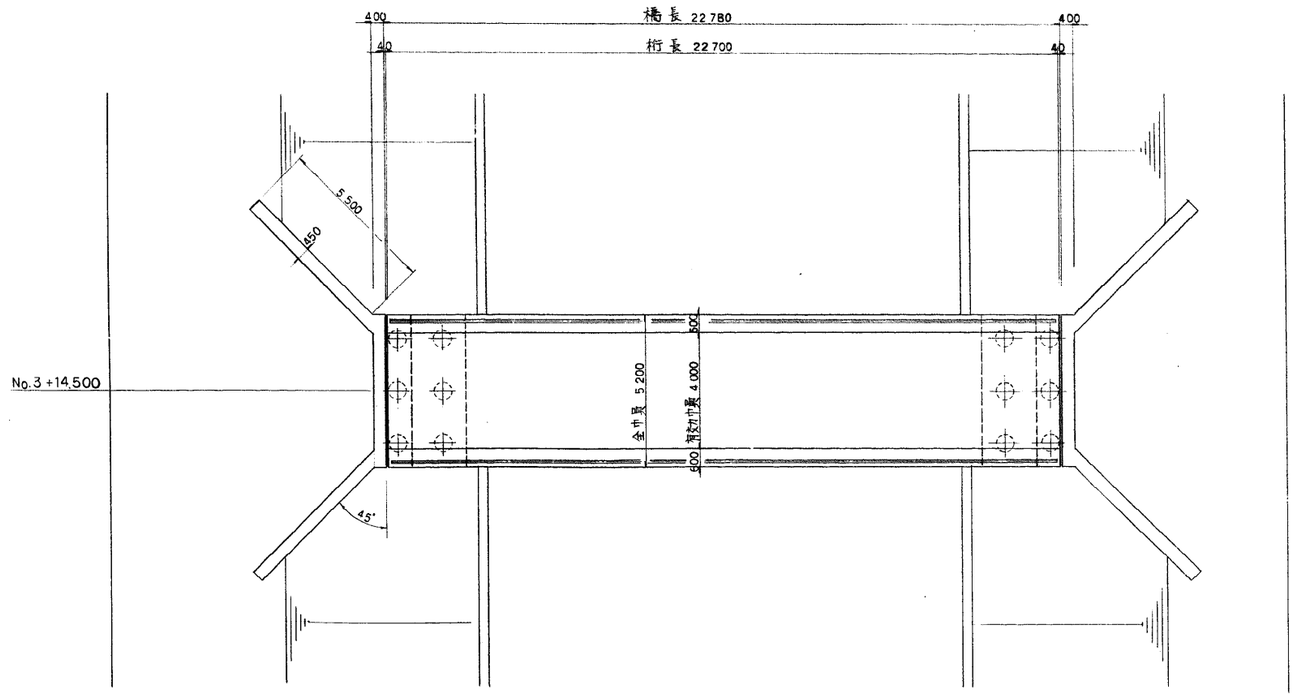
側面図



ボウリング柱状図



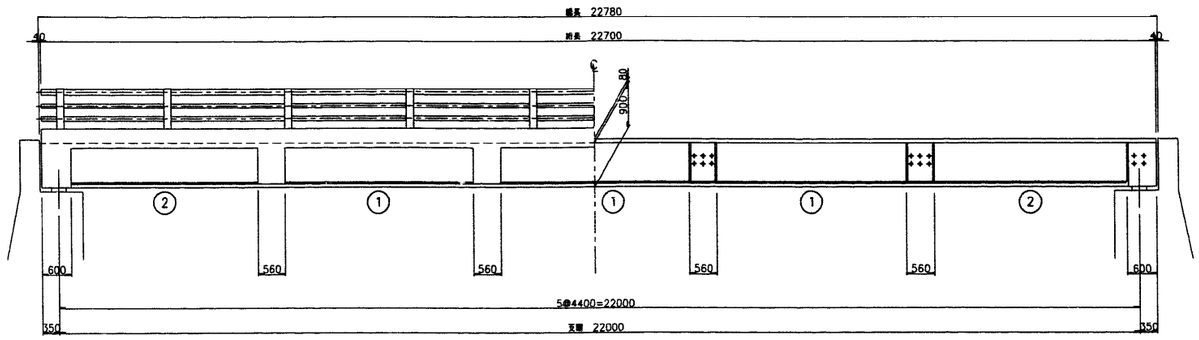
平面図



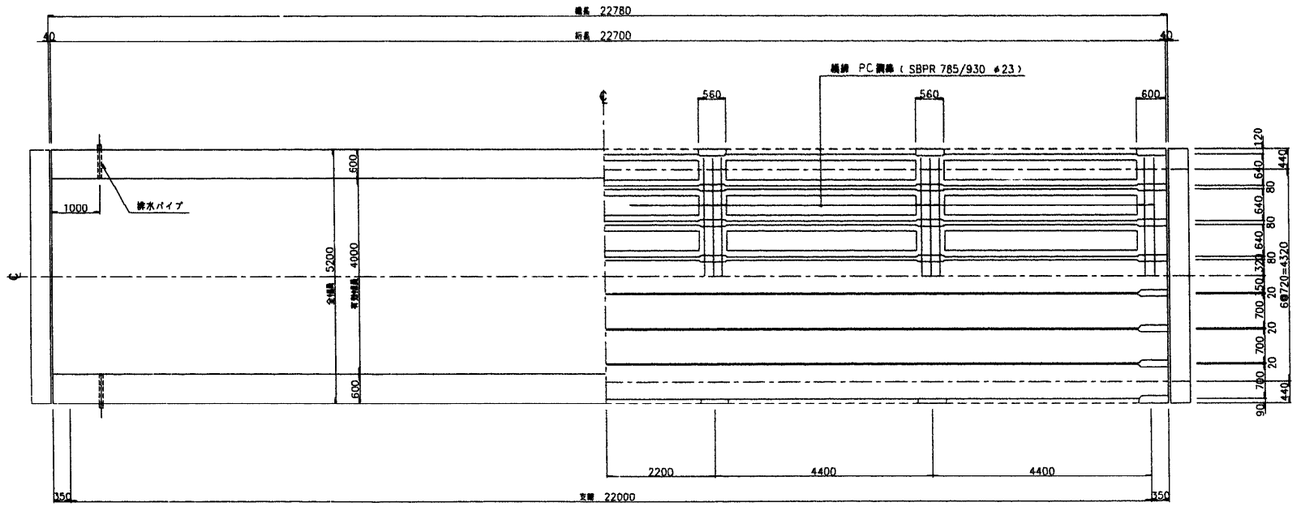
施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	橋梁工(1/4)		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 1:100 A2 1:141	図面番号	8-300/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所		

橋梁工(2/4)

側面図
S = 1 : 60

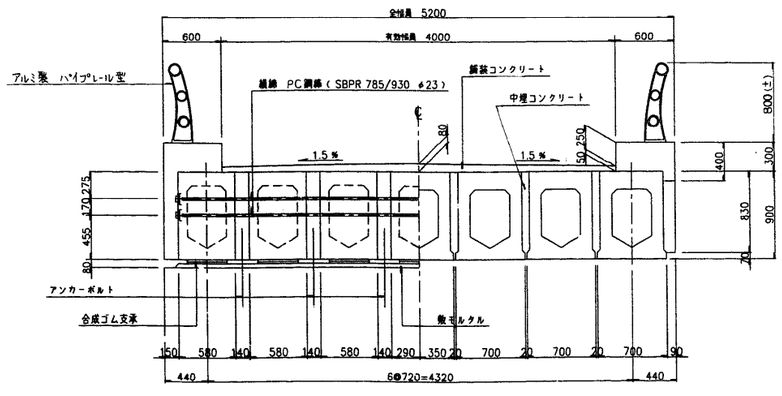


平面図
S = 1 : 60



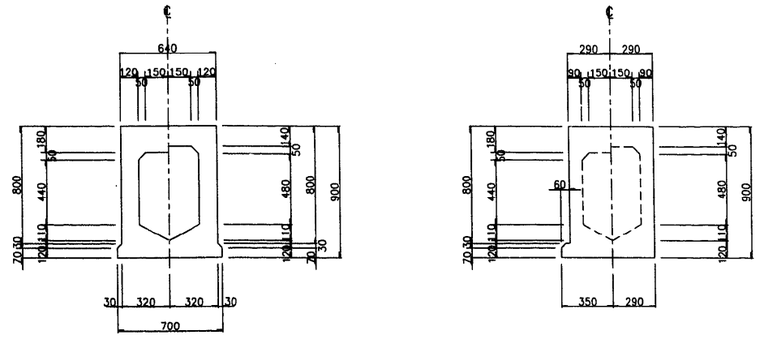
断面図
S = 1 : 30

支点部　　中間部



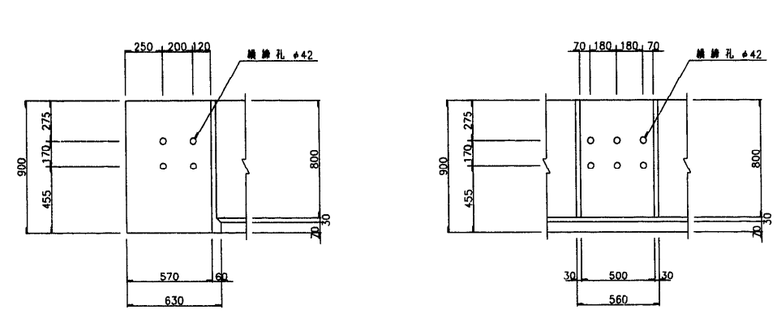
主桁断面図
S = 1 : 20

中間部 ①　　中間部 ②　　中間横桁部　　支点部

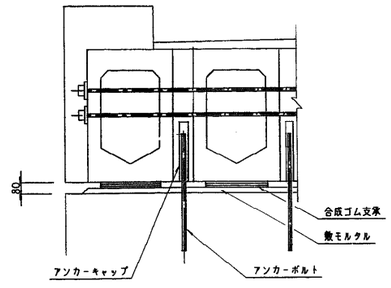


横桁断面図
S = 1 : 20

支点部　　中間部



支承部詳細図
S = 1 : 20

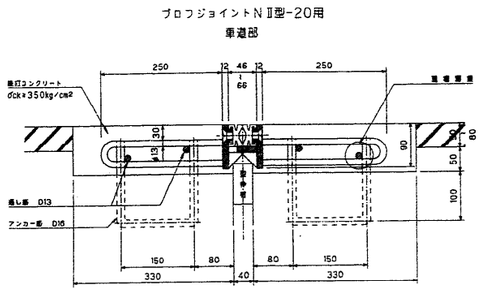


施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	橋梁工(2/4)		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 図示	図面番号	8-301/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所		

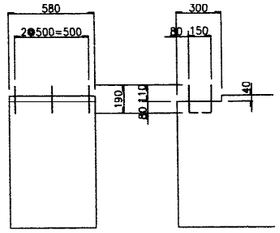
橋梁工(3/4)

伸縮継手詳細図

断面図
S = 1 : 6

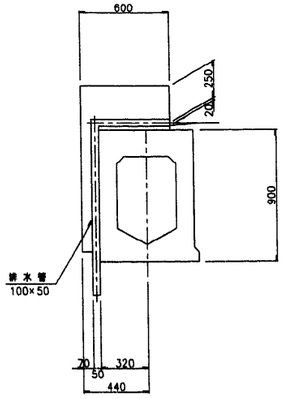


桁端加工図
S = 1 : 20

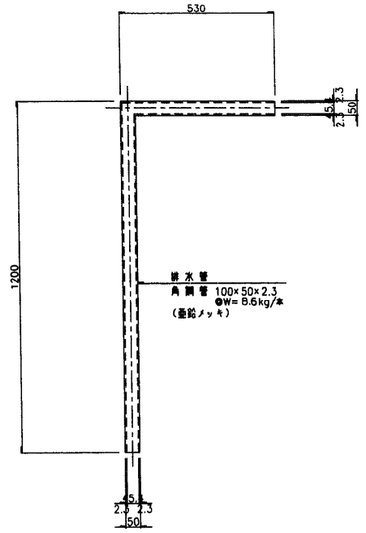


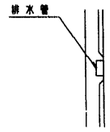
排水管詳細図

断面図
S = 1 : 20



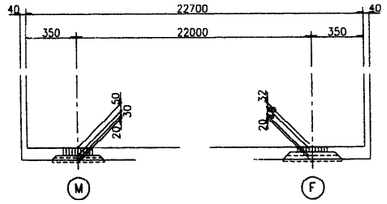
排水管
S = 1 : 10





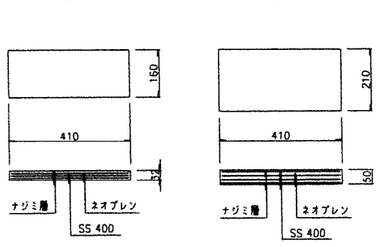
支承部詳細図

側面図
S = 1 : 20



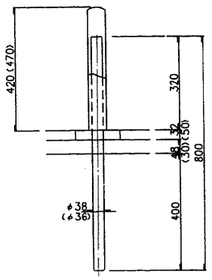
ゴム支承
S = 1 : 10

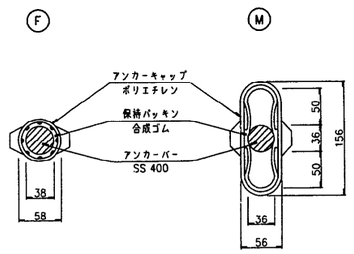
DSFパッド



アンカー詳細図
S = 1 : 10 . 1 : 4

防蝕アンカー

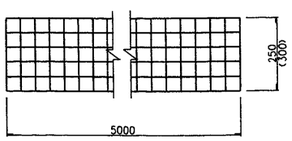




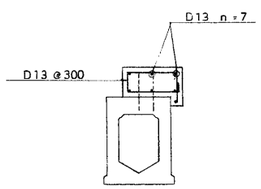
( ) 内寸法はMOV側を示す。

補強鉄筋
S = 1 : 10

D10 × 50 × 50



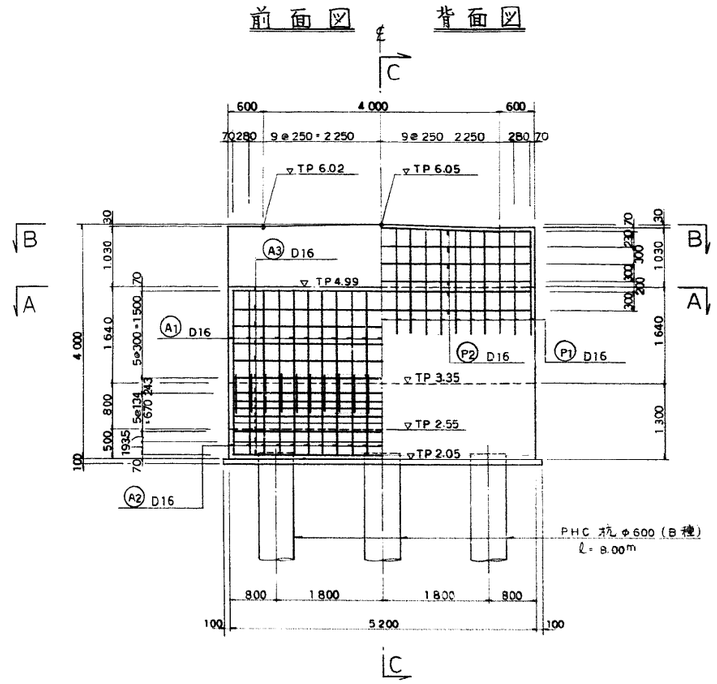
地覆配筋図
S = 1 : 30



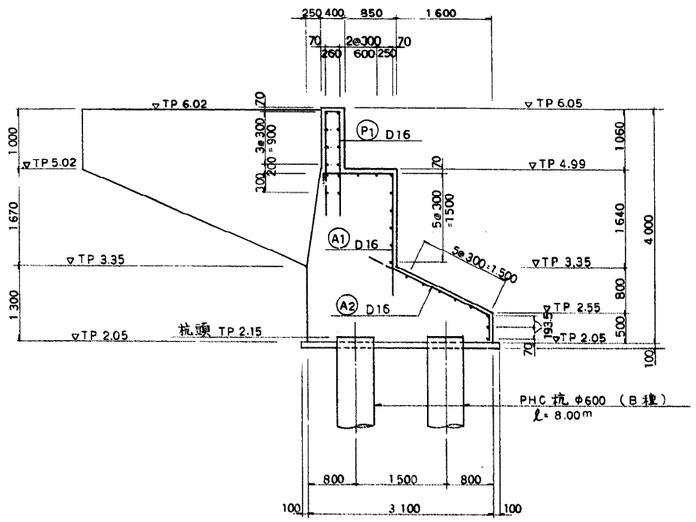
施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	橋梁工(3/4)		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 図示	図面番号	8-302/319
作成者	関東農政局 両総農業水利事業所		

橋梁工(4/4)

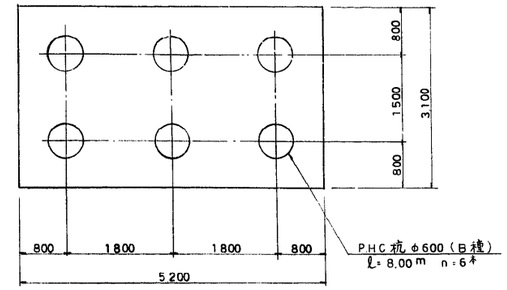
前面図　背面図



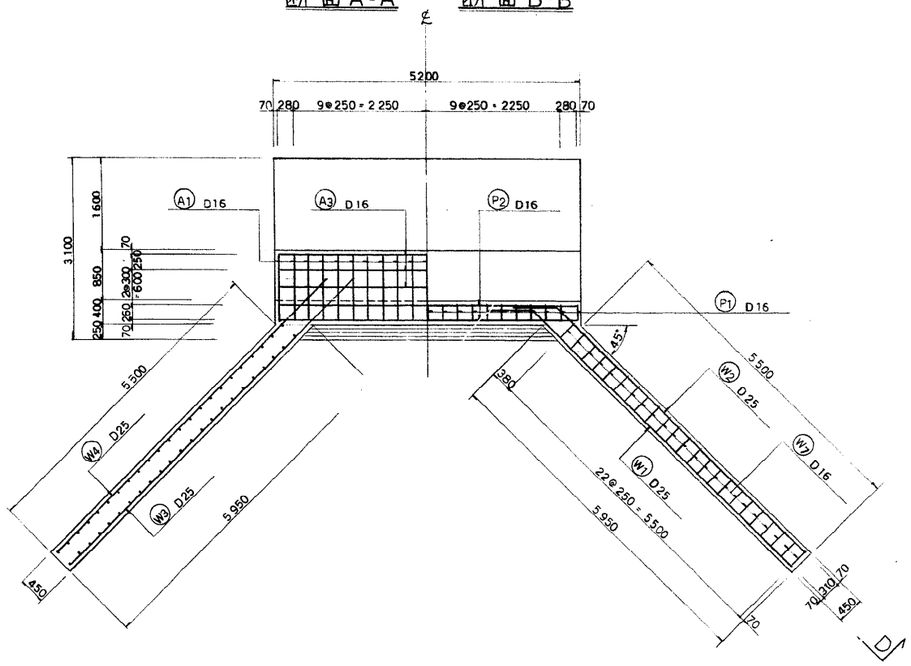
断面 C-C



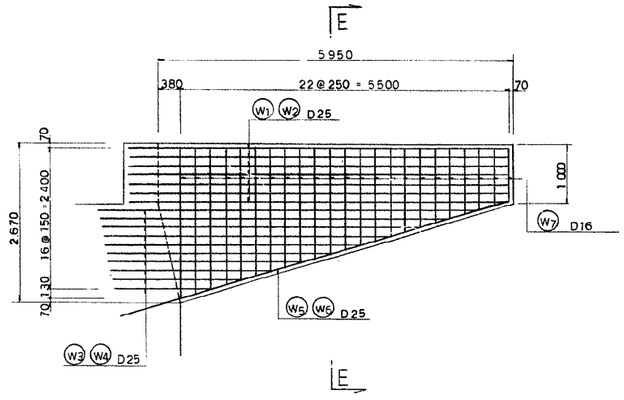
杭仕図



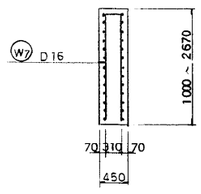
断面 A-A　断面 B-B



断面 D-D

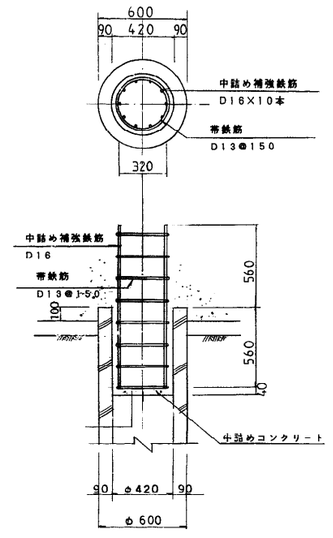


断面 E-E



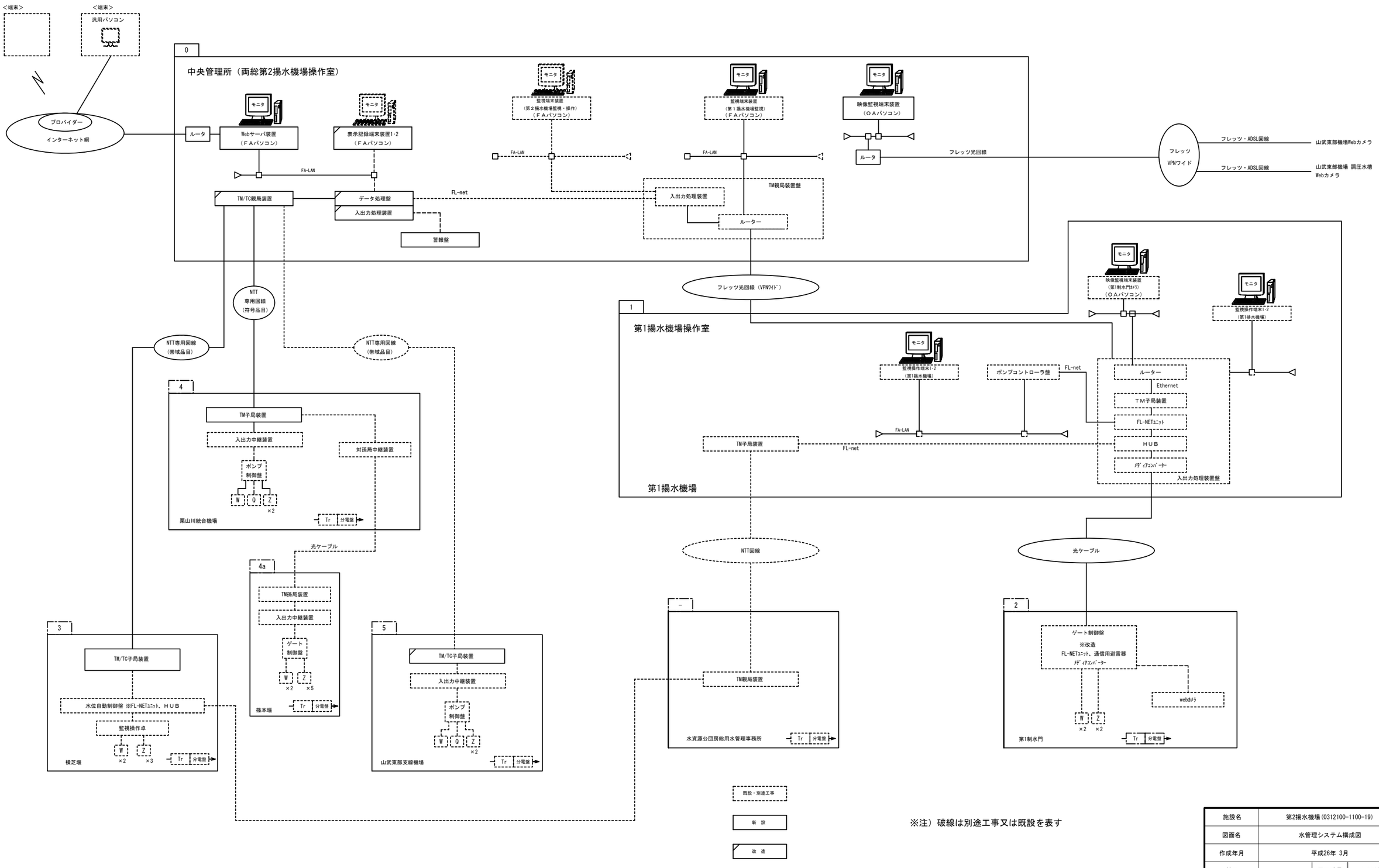
杭頭詳細図

S = 1:20



施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	橋梁工(4/4)		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 1:50 A2 1:70	図面番号	8-303/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所		

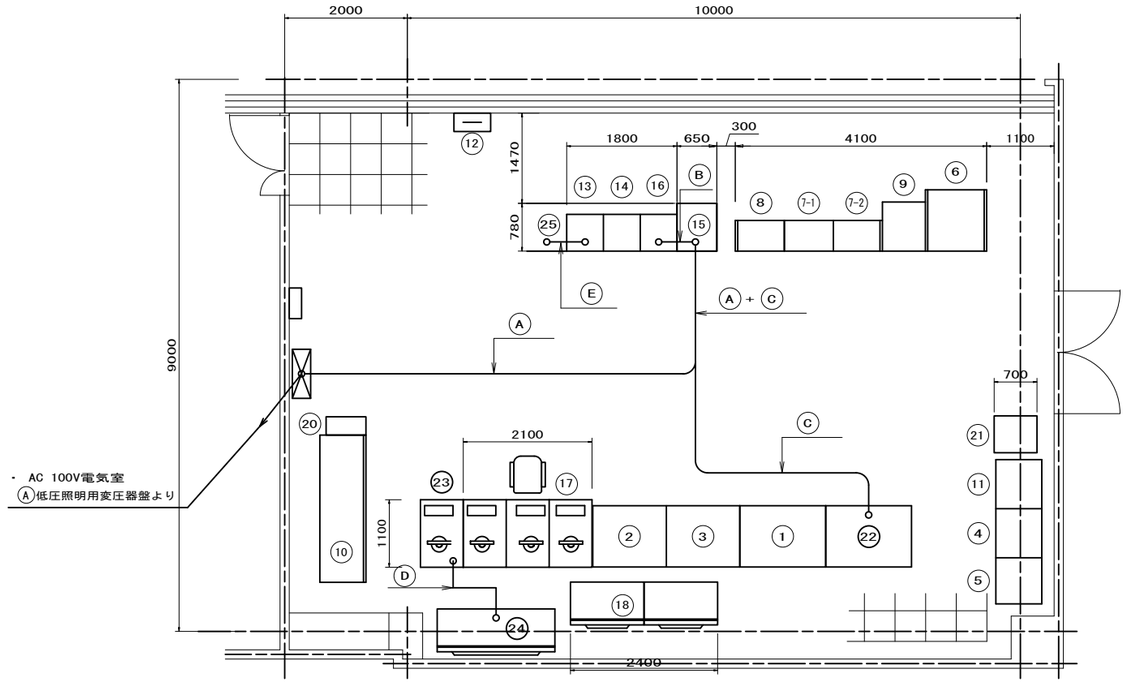
水管理システム構成図



※注）破線は別途工事又は既設を表す

施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	水管理システム構成図		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	–	図面番号	8-304/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所		

中央管理所（第2揚水機場）操作室配線図　S=1:50



機器名称

記号	名　　称	備　考
①	ITV監視操作卓	既　設
②	監視操作卓	H25年度更新
③	CRT監視卓	H25年度更新
④	ロギングプリンタ	H25年度更新
⑤	アナウンスメントプリンタ	H25年度更新
⑥	自動制御盤	既　設
⑦-1	ポンプ設備/入出力制御装置1	H25年度更新
⑦-2	ポンプ設備/入出力制御装置2	H25年度更新
⑧	監視操作卓/入出力制御装置	既　設
⑨	画像警報制御盤	既　設
⑩	無停電電源装置	既　設
⑪	カラーハードコピー	H25年度更新
⑫	電話端子箱	既　設
Ⓐ	低圧照明用 変圧器盤	既　設
⑬	入出力処理盤	既　設
⑭	TM・TC親局装置盤	既　設
⑮	TM親局装置盤	H25年度
⑯	データ処理盤	既　設
⑰	表示記録端末卓 ・第３機場画像監視端末	既　設
⑱	大型ディスプレイ　(2台)	既　設
⑲	警　報　盤	既　設
⑳	無停電電源装置(水管理用)	既　設
㉑	プリンタ装置	既　設
㉒	監視端末	H25年度
㉓	映像監視端末	H25年度
㉔	大型表示装置 (50型ﾃﾞｨｽﾌﾟﾚｲ)	H25年度
㉕	Webサーバ装置	H25年度

番号	区分	ケーブル諸元			延長(m)
		対象設備名	種別	本数	
Ⓐ	動力	分電盤	CE3.5sg-2C	1	10.5
Ⓑ	通信	データ処理盤	FL-Netケーブル	1	1.7
Ⓒ	通信	−	LANケーブル(カテゴリー7)	1	8.2
Ⓓ	通信	映像監視端末装置	LANケーブル(カテゴリー7)	1	2.5
Ⓔ	通信	Webサーバ装置	LANケーブル(カテゴリー7)	1	1.6

施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	中央管理所（第2揚水機場）操作室配置図		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 1:50 A2 1:70	図面番号	8-305/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所		

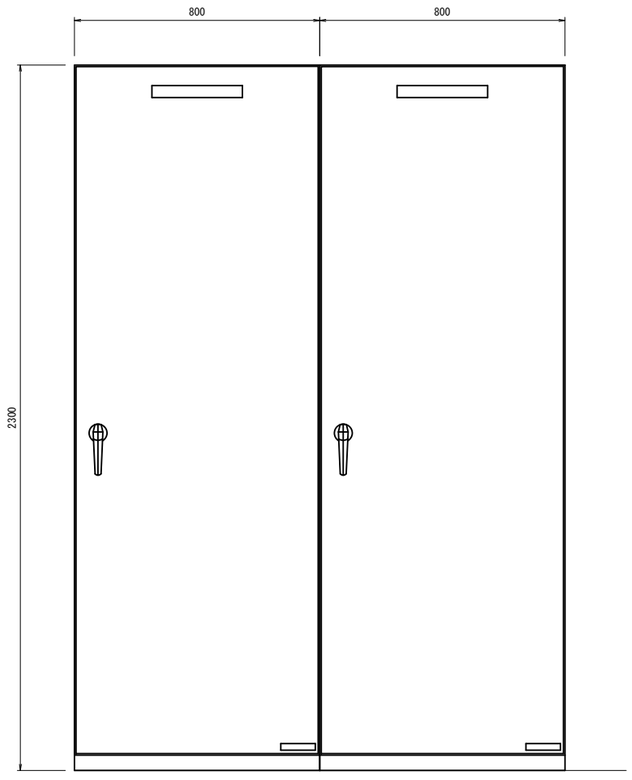
中央管理所(第2揚水機場)機器外形図(1/2)

S=1:10

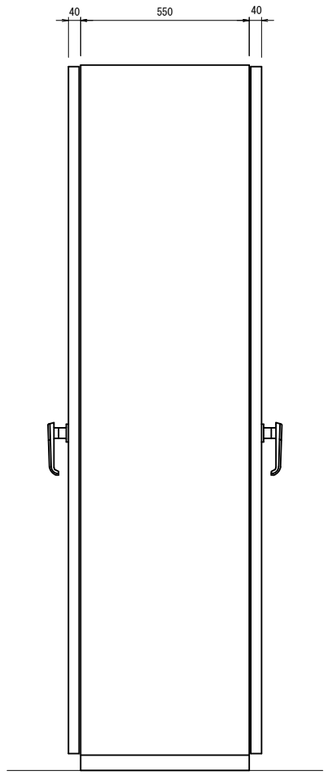
参考図

入出力制御装置

正 面 図



側 面 図



(仕 様)

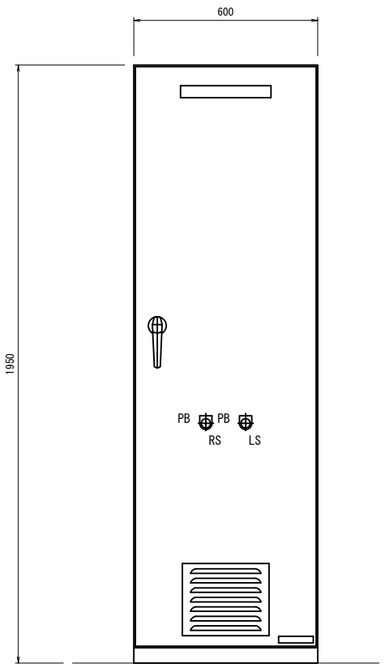
形 式	鋼板製屋内自立形
鋼 板	鋼板製
	扉2.3t以上、その他1.6t以上
塗 装	防錆処理後焼付塗装
	内面 5Y/1
	外面 5Y/1
表示灯	LED
ﾊﾝﾄﾞﾙ	鍵付ハンドル

情報伝送系機器

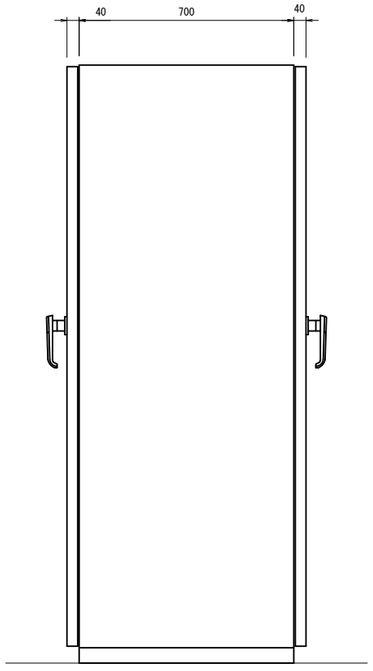
TM親局装置

(屋内鋼製自立形)

正 面 図



側 面 図



(仕 様)

形 式	鋼板製屋内自立形
鋼 板	鋼板製
	扉2.3t以上、その他1.6t以上
塗 装	防錆処理後焼付塗装
	内面 5Y/1
	外面 5Y/1
表示灯	LED
ﾊﾝﾄﾞﾙ	鍵付ハンドル

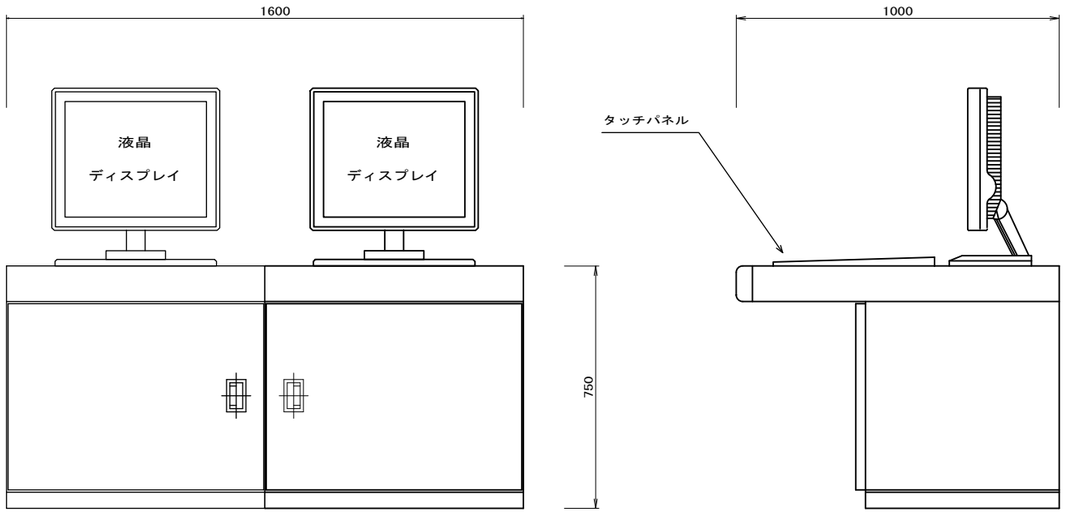
施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	中央管理所(第2揚水機場)機器外形図(1/2)		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 1:10 A2 1:14	図面番号	8-306/319
作成者	関東農政局 両総農業水利事業所		

中央管理所(第2揚水機場)機器外形図(2/2)

S=1:10

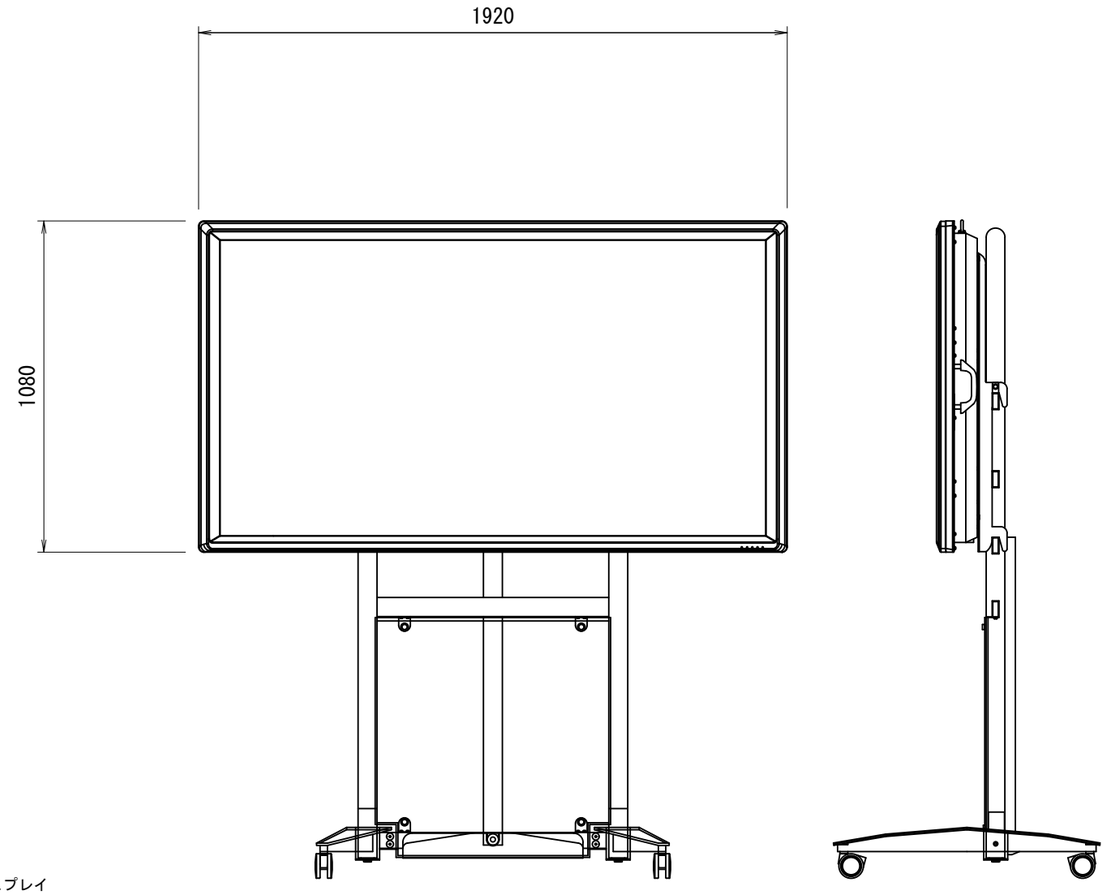
参考図

監視操作卓



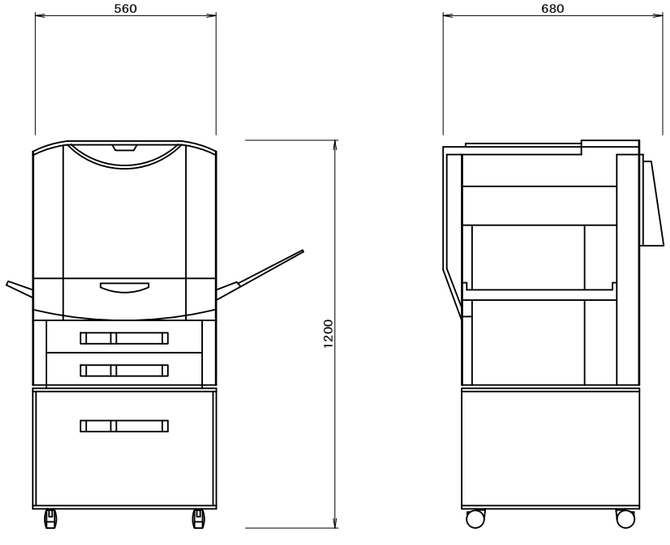
正面図　　側面図

大型液晶ディスプレイ



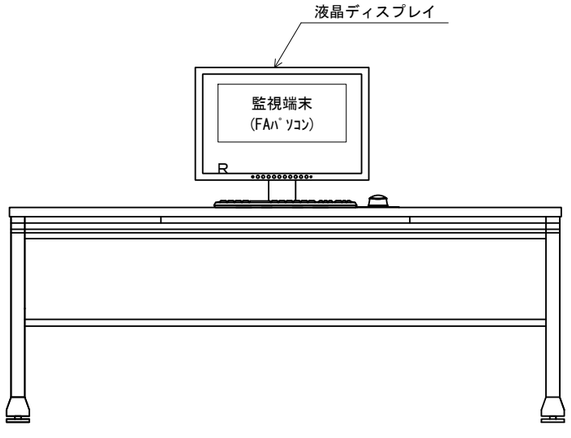
正 面 図　　側 面 図

カラープリンタ



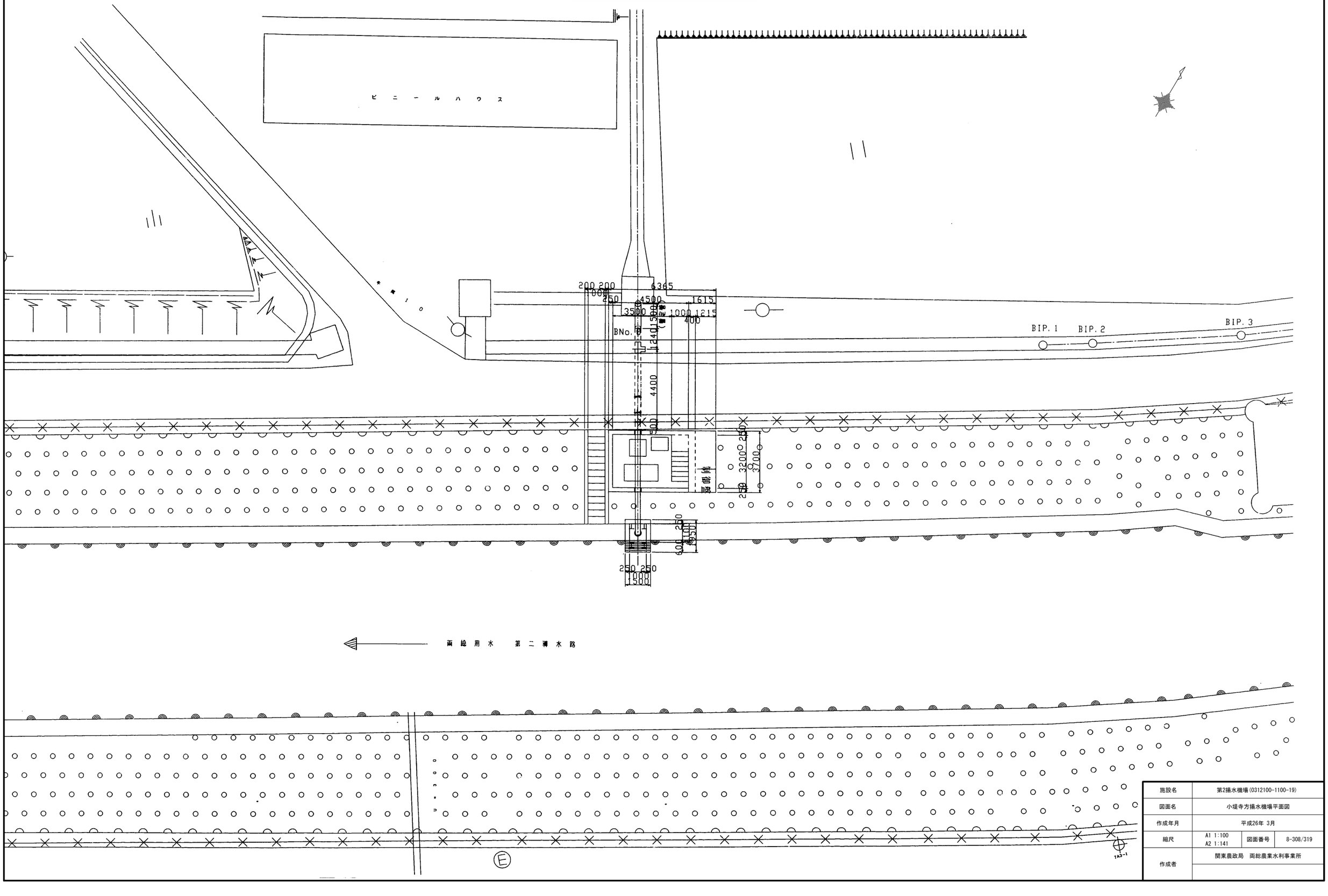
正面図　　側面図

監視制御系機器



施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	中央管理所(第2揚水機場)機器外形図(2/2)		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 1:10 A2 1:14	図面番号	8-307/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所		

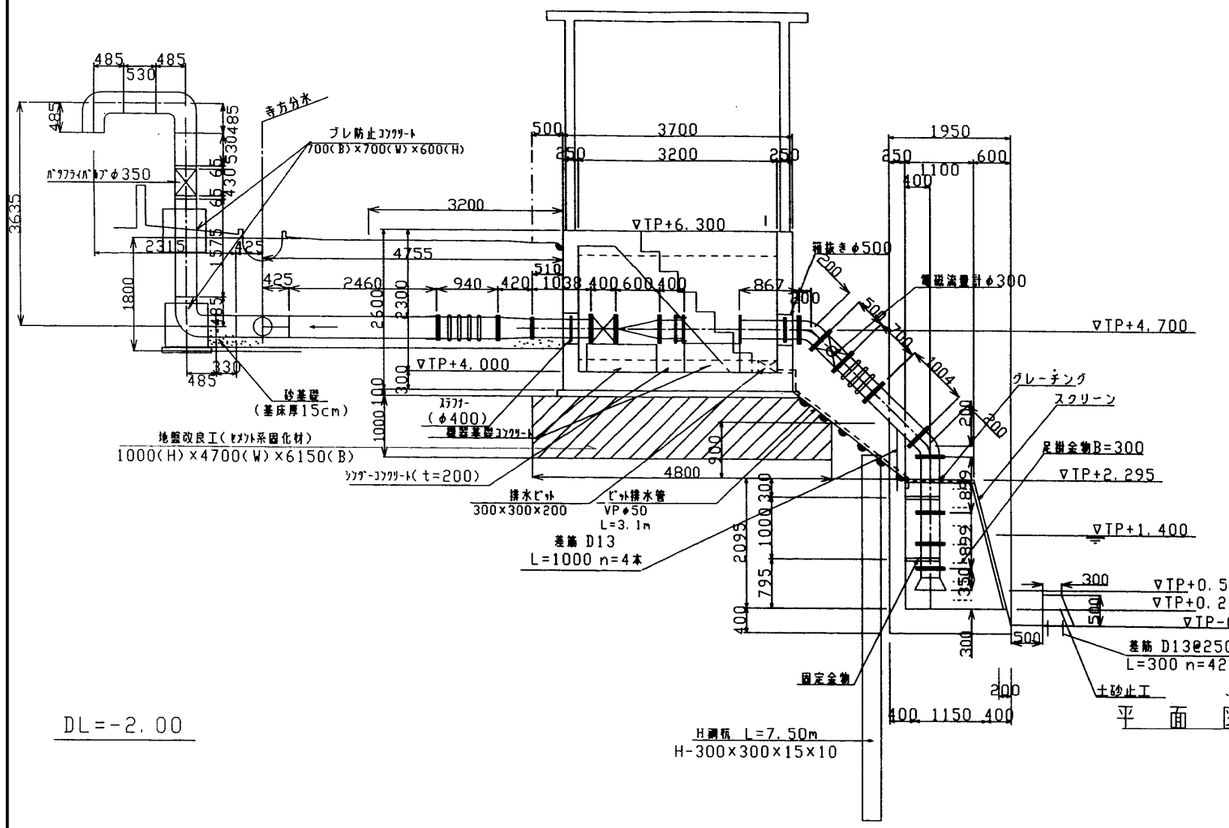
小堤寺方揚水機場平面図　S=1：100



施設名	第2揚水機場 (0312100-1100-19)		
図面名	小堤寺方揚水機場平面図		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 1:100 A2 1:141	図面番号	8-308/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所		

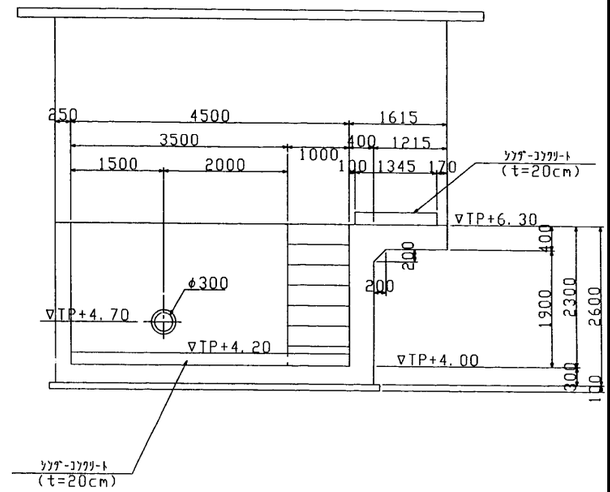
小堤寺方揚水機場一般図　S=1：50

1 － 1

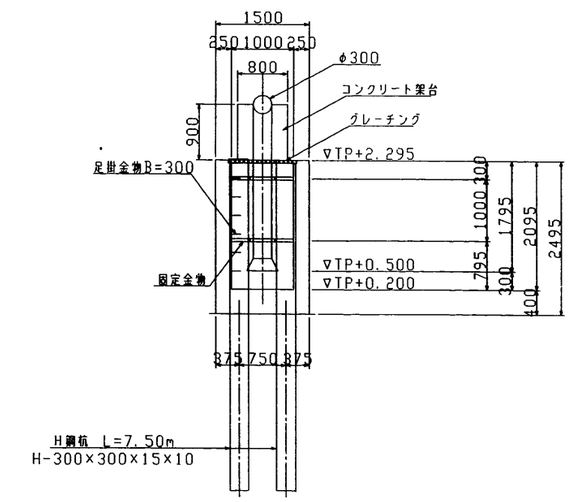


平　面　図

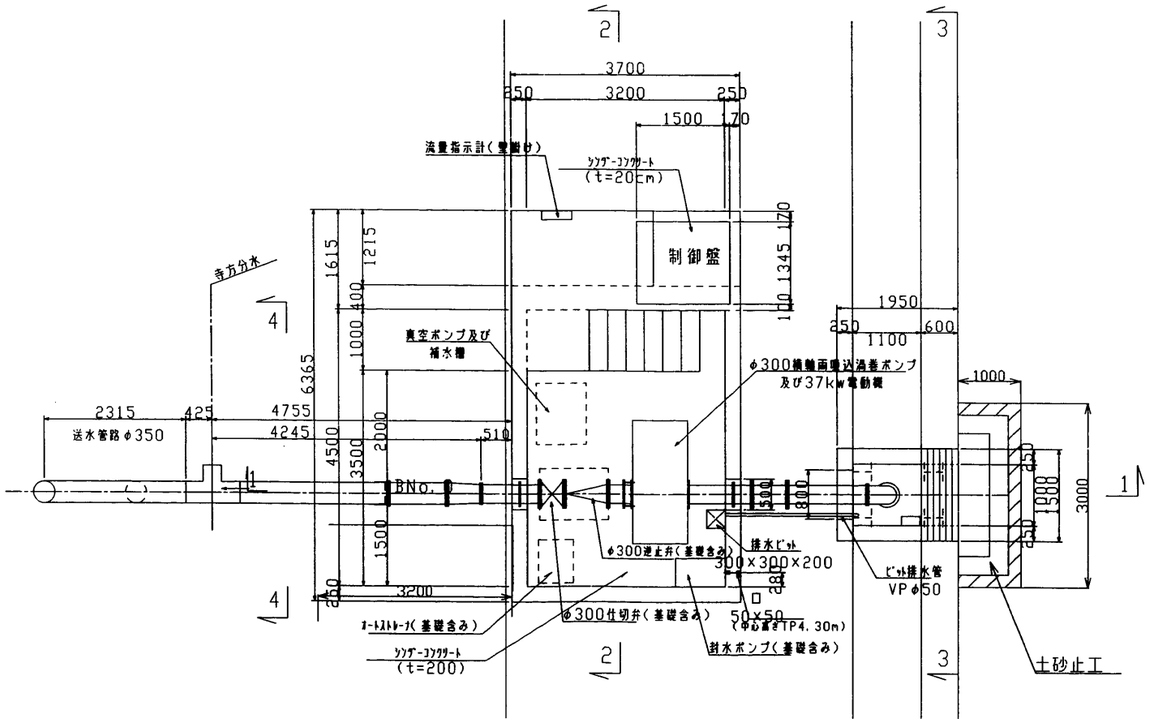
2 － 2



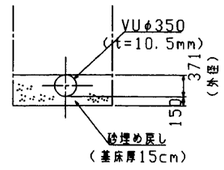
3 － 3



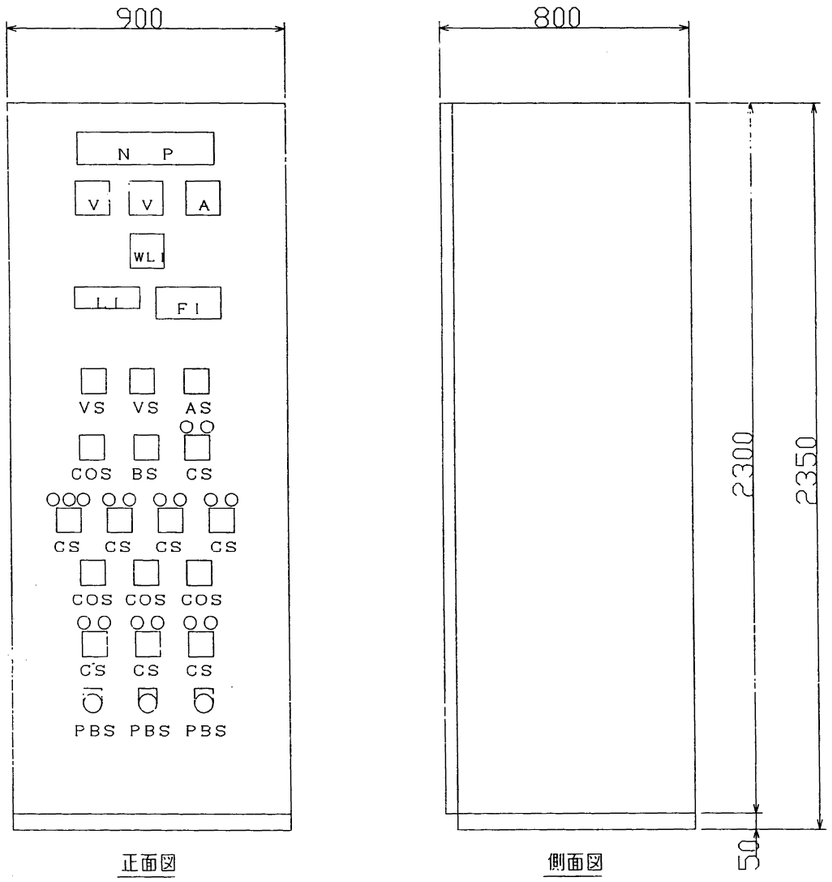
導　水　路



4 － 4



施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	小堤寺方揚水機場一般図		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 1:50 A2 1:70	図面番号	8-309/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所		



正面図

側面図

主ポンプ盤

（s＝1／10）

凡　例

記　号	名　称
NP	名称銘板
V	交流電圧計
VS	交流電圧計用切替開閉器
A	交流電流計
AS	交流電流計用切替開閉器
WL I	水位指示計
L I	状態表示器
F I	故障表示器
COS	切換開閉器
CS	操作開閉器
BS	非常停止用開閉器
PBS	押釦開閉器（ランプテスト・表示復帰・警報停止）

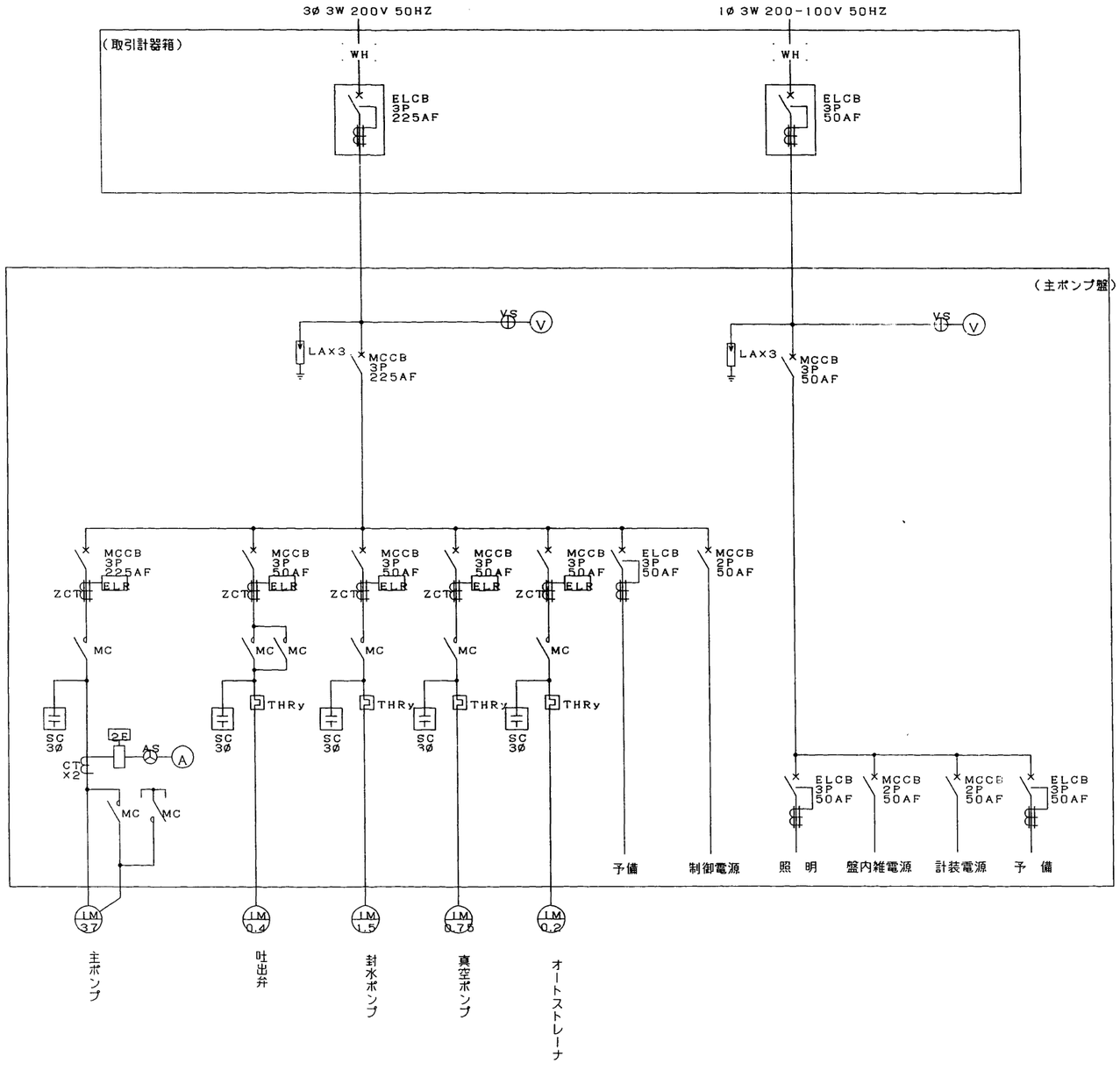
L I

受　電	計装電源正常	始動準備完了	満　水	送　水	吐出弁全閉
制御電源正常	予　備	始動中	運　転	停　止	吐出弁全開

F I

始動渋滞	主ポンプ過負荷	主ポンプ地絡	非常停止	吸水槽水位異常低下	予　備
吐出弁過負荷	吐出弁地絡	吐出弁過トルク	真空ポンプ過負荷	真空ポンプ地絡	補水槽水位低下
封水ポンプ過負荷	封水ポンプ地絡	ヒータ過負荷	ヒータ地絡	照明ELCB断	予　備

施設名	第2揚水機場 (0312100-1100-19)		
図面名	制御盤図		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 1:10 A2 1:14	図面番号	8-310/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所		



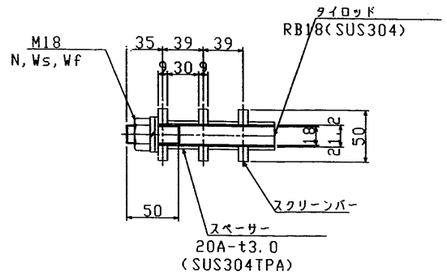
単線結線図

凡　例

記　号	名　称
WH	電力量計（電力会社支給品）
MCCB	配線用遮断器
ELCB	漏電遮断器
MC	電磁接触器
SC	進相コンデンサ
LA	避雷器
CT	計器用変流器
ZCT	零相変流器
ELR	漏電継電器
2E	二要素継電器
THRy	熱動継電器
V	交流電圧計
VS	交流電圧計用切替開閉器
A	交流電流計
AS	交流電流計用切替開閉器

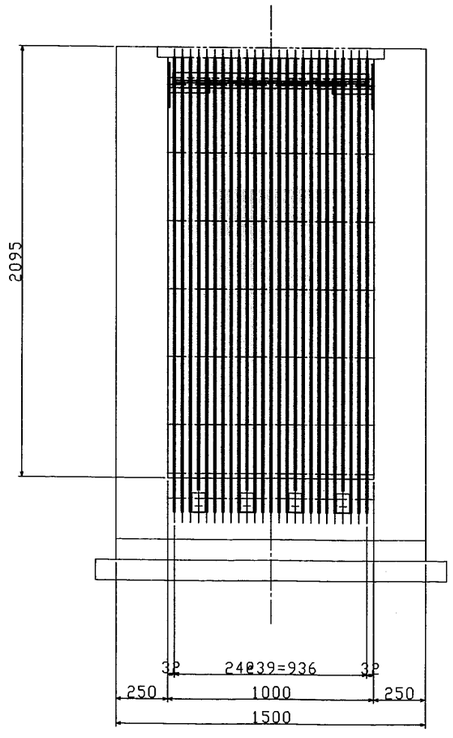
施設名	第2揚水機場 (0312100-1100-19)		
図面名	単線結線図		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 1:10 A2 1:14	図面番号	8-311/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所		

端部断面図S=1:3

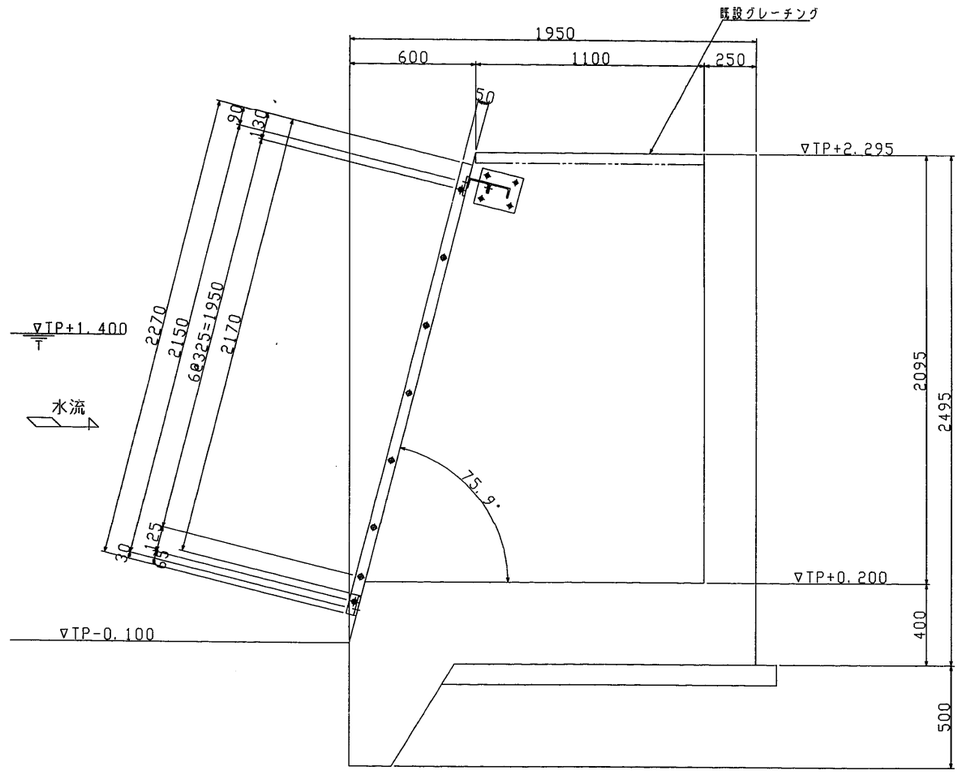


設　計　仕　様		
型　式		ステンレス製スクリーン
設 置 数		1　連
純径間×有効高		W 1.0 m × H 2.05 m
設計水位差		1　m
バーピッチ		39　mm
傾 斜 角		75.9 度
主要材質	ｽｸﾘｰﾝ	SUS304
	受 桁	SUS304

正　面　図S=1:15



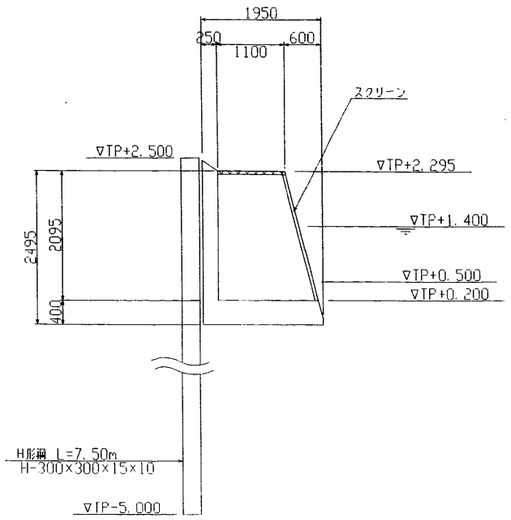
側　面　図S=1:15



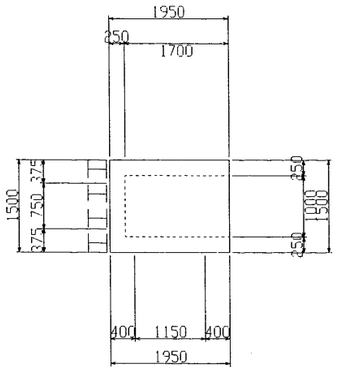
施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	スクリーン詳細図		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 図示	図面番号	8-312/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所		

吸水槽工

縦 断 図 S=1:50

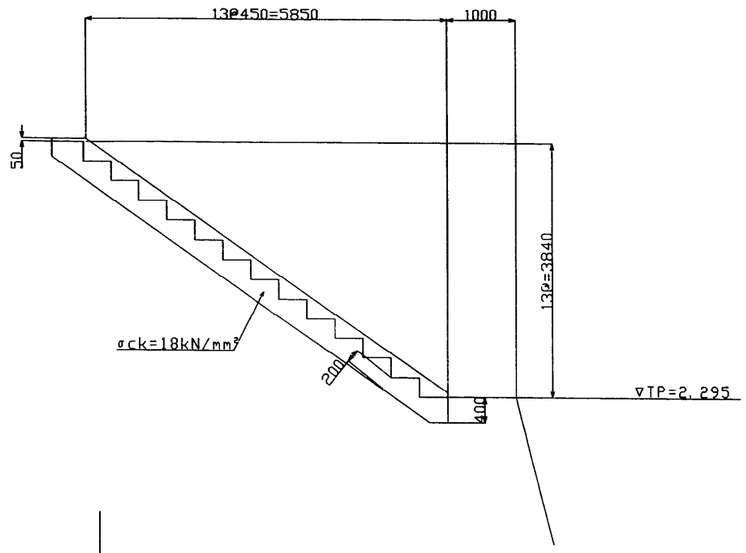


平 面 図 S=1:50

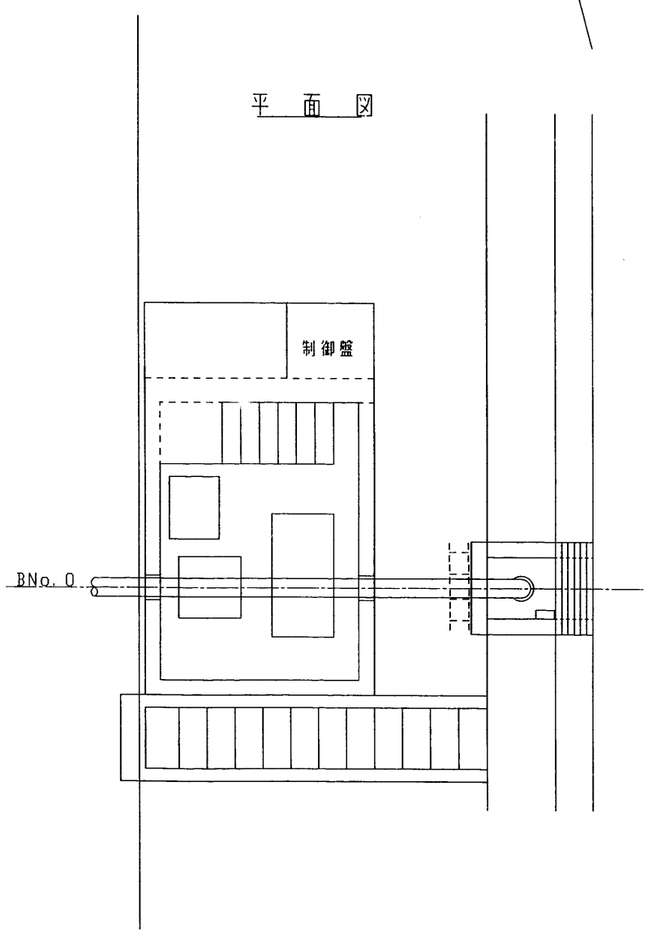


階段工

屋 外
縦 断 図

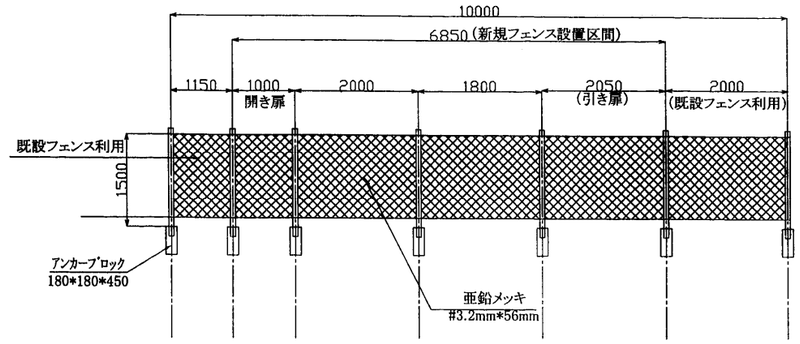


平 面 図



ネットフェンス工

断 面 図



導 水 路

施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	吸水槽工・階段工・フェンス工		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 1:50 A2 1:70	図面番号	8-313/319
作成者	関東農政局 両総農業水利事業所		

小堤・寺方機上ポンプ室特記仕様書

一 工事概要

1. 工事場所　千葉県山武郡横芝町小堤地内

2. 敷地面積

3. 工事種目

1）ポンプ室　壁式鉄筋コンクリート造　平屋建　21.67㎡　新設1棟

二 建築工事仕様

1. 共通仕様
図面及び特記仕様書に記載されていない事項はすべて国土交通大臣官房官庁営繕部監修「建築工事共通仕様書」による。（平成13年版）

2. 特記仕様
1）項目は番号に○印のついたものを適用する。
2）特記事項は○印のついたものを適用する。
○印のつかない場合は、※印のついたものを適用する。
◎印と○印のついた場合は、共に適用する。
3）特記事項に記載の（　）内表示番号は、建築工事共通仕様書の当該項目、当該図、又は当該表を示す。
4）形状寸法の単位は特記なきかぎりミリメートルとする。

1 一般事項

項目	特記事項
① 仮入札後提出書類及び契約書（予算決算及び会計令第86条但書）(1.1.1)	（1）施工体制台帳の提出及びその内容のヒアリングについて 1. 予算決算及び会計令85条の基準に基づく価格を下回る価格で落札した場合においては、請負者は、事前所長の求めに応じて、施工体制台帳を事前所長等に提出しなければならない。 2. 1の事前の提出に際して、その内容のヒアリングを事前所長から求められたときは、請負者の支店長、営業所長等は、応じなければならない。 （2）施工計画書の内容のヒアリング 予算決算及び会計令85条の基準に基づく価格を下回る価格で落札した場合においては、共通仕様書に基づく施工計画書の提出に際して、その内容のヒアリングを事前所長等から求められたときは、請負者の支店長、営業所長等は応じなければならない。
② 適用基準等	◎建築工事標準詳細図　建設大臣官房官庁営繕部監修（平成13年版） ・民営建築設備基準及同解説　建設大臣官房官庁営繕部監修（平成10年版） ・機械設備工事標準図　建設大臣官房官庁営繕部監修（平成5年版） ◎型枠設計施工指針　社団法人　日本建築学会（1987年版）
③ 建築材料等	本工事に使用する建築材料等は、設計図書に規定するもの又はこれらと同等のものとする。 ただし、同等のものとする場合は、監督職員の承諾を受ける。 なお、「評価名部による」と特記されたものについては、建設大臣官房官庁営繕部監修「建築材料・設備機材等品質性能評価事業建築材料等評価名簿（平成12年版）」による。
④ 特別な材料の工法	建築工事共通仕様書に記載されていない特別な材料の工法は、当該製品の指定工法による。
5. 発生材の処理	引渡しを要するもの　（　） 引渡し場所　・構内（　） 建設廃棄物　・有（別図）　・無　(1.1.13)
⑥ 工事写真等	営繕工事写真作成要領による

区分	分類	規格	最影台数	部数	原画の大きさ	備考
◎着工前	カラー	サービス版		・1部	24×36以上	
◎工事中	カラー	サービス版		・1部	24×36以上	
◎完成時	・モノクローム	・キャビネ版 サービス版	枚	・3部	・100×125以上 ・24×36以上	外観主要2面 ※2部用・（　）部用
	◎カラー	・キャビネ版 ◎サービス版	5枚	・3部	・100×125以上 ◎24×36以上	外観1面のみ 六つ切り2部用
	・カラースライド		枚	1部	24×36	銘板面、名板平面図を含む。
・実態調査用	カラー	サービス版	枚	2部	24×36以上	外観4面／部

完成写真は下記業者の撮影とし、撮影及び方法については、営繕工事写真作成要領による。
・監督職員の承諾する建築写真専門業者　・監督職員の承諾する撮影者

・工事完成後は下記について統付マイラーベース（アセテート系）B4判1部を監督職員に提出する。
案内図、配置図、平面図、立面図、断面図、矩計図、内外部仕上表

⑦ 完成図	工事完成後は、作成要領により、監督職員に提出する。
⑧ 既存建物との取合い	工事中、取合部その他、本工事範囲外の部分に汚損を生じた場合は原形に復する。
⑨ 足場・さん橋類	※請負請負業者が定着したものは、無償で使用できる。 ◎本工事で定着する。
10. 保全に関する説明書	(1.7.1)(1.7.3) 1. 7. 3(α)の他、下記について必要事項を記入のうえ監督職員に提出する。 管理者のための建築物総合点検の手引き（建設大臣官房官庁営繕部監修） 提出部数　・1部　・（　）部

2 仮設工事

① 監督員事務所	(2.3.3)(※2.3.1) 種別　・1号　・2号　・3号　・4号　・5号・（　）m2程度　・設けない 備品については監督職員の指示による。
② 工事用水	構内既存の施設　・利用できる（※有償　・無償）　※利用できない
③ 工事用電力	構内既存の施設　・利用できる（※有償　・無償）　※利用できない

5 鉄筋工事

① 鉄筋の種類	材種　※JIS規格品　・5. 2. 3(α)の試験に合格するもの　(5.2.1)

種別	◎SD295A	・SD295B	・SD345	・SD390	・	・
径	D10, D13					

② 鉄筋の継手　(5.3.1)

継手方法	SD295A	SD295B, SD345, SD390
重ね継手	◎D16以下	・D16以下
ガス圧接継手	−	・D19以上

3. 型枠上端等の調整などの施工のかぶり厚さ　施工管理（　）・最小かぶり厚さ＋（　）　(5.3.2)
上記数値は表5. 3. 6の値に加える寸法

4. 杭頭の補強方法　・A型　※B型　(5.4.1)(※5.4.1)

5. 帯筋　形の種類　※H型　・W－Ⅰ型　・W－Ⅱ型　・（　）　(5.5.2)

6. 差し筋　・関係請負業者が施工したものを利用する。
◎本工事において施工する。○（・基礎　・樹脂アンカー）
（土木工事）

⑦ 型枠口部補強の種別　一般壁　※A型　・B型　(5.7.2)(※5.7.3)(※5.7.4)(※5.7.3)
耐震壁　○・A型　※B型　・（　）

8. 土間スラブ打設ぎ補強　※入れる　・入れない　(※5.8.10)
補強箇所　※S型配筋のスラブ　・（　）

9. 土間コンクリート補強　※入れる　・入れない　(※5.8.11)
補強箇所　※土間コンクリート　・犬走り　・（　）

10. はり貫通孔　補強形式　※H型　・MH型　・M型　(5.10.1)(※5.10.1-3)
スリーブの材種　・溶融亜鉛メッキ鋼　(6.9.3)(※6.9.1)
・硬質塩化ビニル管

11. 圧接完了後の検査　検査方法　※超音波探傷試験　・引張試験　(5.11.9)

6 コンクリート工事

① 設計基準強度及び検査強度　(6.1.4)

設計基準強度(Fc)?/cm	期別	・180	◎210	・225	・240	・	・
検査強度(Fc) N/mm²	期別	18	21	22. 5	24		
普通コンクリート	部位		躯体				
軽量コンクリート-1	部位						

② レディーミクストコンクリートの種類　＊Ⅰ類　・Ⅱ類　(※6.1.1)

③ セメントの種類　※普通ポルトランドセメント又は混合セメントのA種　(6.3.2)
・（　）

4. 水密コンクリート　施工箇所（　）
水セメント比 W/C(・/Wt)・50　・（　）
スランプ(cm)　・18　・（　）
・（　）
製造所

⑤ 打放し仕上げの種別　(※6.2.3)

種別	適用箇所
・A種	
◎B種	外壁、内壁、斜先
◎C種	見え掛かりの床板、スラブ小口

⑥ 骨材　種類　○・A（アルカリシリカ反応試験合格）　(6.3.3)
・B（アルカリシリカ反応試験不合格あるいは未試験）
（JIS A5308, JIS A5005）

⑦ コンクリート中の塩化物量　塩化物量〈Cl⁻重量〉(kg/m³)　(6.5.4)
※ 0. 30 以下　・

⑧ 無筋コンクリート　設計基準強度（N/mm2）　※18　スランプcm）　※15又は18
適用箇所は6. 14. 1による。ただし、6. 14. 1の他は下記による。
(6. 14. 1)(6. 14. 2)(6. 14. 3)

設計基準強度	適用箇所
18N/mm²	地階床、1F床一部

7 鉄骨工事

1. 鉄骨の製作工場　・「溶接作業指定基準」に適合する製作を行う製作工場又は施設省告示1790号に基づき建設大臣が認定した製作工場（　）
※監督職員の承諾による。

2. 施工管理技術者　適用　※しない　・する（・1級　・2級）　(7.1.4)

③ 鋼材の種類　材質　※JIS等の規格品　・7. 2. 10(α)の試験に合格するもの　(7.2.1)
種類　・SN400A・SN400B・SN400C・SN490B・SN490C・SDP2・SDP2GB
◎SS400・SM400A・SM490A・SM490B・SSC400・STKR400・STK400
・（　）・（　）・（　）・（　）・（　）

4. 高力ボルト　(7.2.2)
※トルシア型高力ボルト　（認定品セットの種類　※2種(S10T)・（　））
・溶融亜鉛めっき高力ボルト（認定品セットの種類　※1種(F8T相当)・（　））

⑤ アンカーボルト　材質　・SNR400B◎・SS400　(7.2.4)

6. ターンバックル　ターンバックル胴の種類　※割抜式　・（　）　(7.2.6)
ターンバックルボルトの種類　※羽子板ボルト　・（　）

7. 柱底均しモルタル　工法　・A種　※B種　(7.2.9)(7.10.3)(※7.10.2)
無収縮モルタル製造所　評価名簿による

8. 溶接部の検査　(7.6.11)

試験の種別	試験箇所	抜取方法	備考
※超音波探傷試験		・7. 6. 11(b)による	
・外観検査			

⑨ 錆止め塗料　種別　※表17. 3. 1による　(7.8.1)

10. 耐火被覆　種別（　）　(7.9.1)
所要性能　・30分耐火　・1時間耐火　・（　）

⑪ アンカーボルトの保持及び埋込み工法　種別　・A種　※B種　・C種　(7.10.3)(※7.10.1)

8 ALCパネル工事

1. ALCパネル　製造所　(8.4.2)(8.4.3)

2. 非耐し成形セメント板　製造所　(8.5.2)(8.5.3)
明新電工　ラムダサイディング　同等品以上
大阪セメント　ベルダサイディング　同等品以上

9 防水工事

1. 塗膜防水

施工箇所	種別	仕上塗料塗り（露出の場合）
	・X-1・X-2	※カラー　・シルバー
	・X-3	
	・Y-1・Y-2	Y-2の工程5, 6は適用しない。

②シーリング用材料　表9. 6. 1による。　(※9.5.1)(9.5.5)
接着性試験○・製品標準接着性試験
・引張接着性試験（部位　）

13 屋根及びとい工事

1. 鉛石綿不燃成形板葺　厚さ5～7mm（強風土法）
製造所
クボタ?　ルネッサ　同等品以上
松下電工?　レスラ　同等品以上
大和スレート?　ニューハイルーフ　同等品以上
940（1822kg品）

2. アスファルトルーフィング

3. 人工木材　製造所
東洋ゴム（株）スカイランバー、日精紡績（株）エアライトFRU、
倉敷紡績（株）クランウッド　同等品以上

4. 縁色、軒先　機色：カラーステンレス　t=0. 4軒先唐草：カラーステンレス t=0. 4

14 金属工事

1. 鉄の亜鉛めっき　(14.2.3)(※14.2.2)

施工箇所	亜鉛めっきの種別	備考
	・A種・B種 ※C種	
	・（　）種	

② 換気ガラリ　・硬質塩ビ製（防虫網付き）75φ 外部面ガラリ
◎アルミ製（防虫網付き）75φ 外部面ガラリ
製造所　キョーワナスタ KS型同等品以上

3. 吊り用フック　ステンレス製 M22 SUS304

4. ラックカバー　製作品　ステンレスHL　SUS304　厚2. 0 加工

15 左官工事

①防水モルタルの防水剤（第8節）　製造所　小田急建材ベストン（ベストンB）
KK日本セメント防水剤製造所（ウオータイトB号）
KKマノール（マノール防水剤）

② 仕上塗材仕上げ（外壁など）　(15.7.2)(※15.7.1)(15.7.6)

種類	呼び名	仕上げの形状	工法	備考
・薄付け仕上塗材	・外装薄塗材E	・砂壁状	吹付け	
	・内装薄塗材E	・着色骨材砂壁状		
	・可とう形外装薄塗材E	・砂壁状・（　）	吹付け	
	・防水形外装薄塗材E	・凹凸状	・ローラー	
	・外装薄塗材S	・砂壁状・（　）	吹付け	
	・内装薄塗材W	・京壁状じゅらく		
◎複層仕上塗材	・複層塗材CE ・可とう形複層塗材CE ・複層塗材SI ・複層塗材E ◎複層塗材RE ・複層塗材RS ・防水形複層塗材CE ・防水形複層塗材E	◎ゆず肌 ・凸部処理 ・凹凸模様	吹付け ローラー	上塗材 ※水系アクリルつやあり ・水系ポリウレタンつやあり ・（　） RSの場合は溶剤系ポリウレタンつやあり
	・防水形複層塗材RS	・凸部処理 ・凹凸模様	※吹付け ・ローラー	溶剤系ポリウレタンつやあり
・軽量骨材仕上塗材	・吹付用軽量塗材	・砂壁状	吹付け	
	・こて塗用軽量塗材	・平たん状	こて塗り	

・その他：厚付け仕上塗材　自然石調　目地付

3. モルタル塗厚　※床　厚5mm　(15.2)

④ 防水モルタル　※屋根　厚30mm

16 建具工事

① アルミニウム製建具　(※14.2.1)(16.2.2)(※16.2.1)

種別	外部に面する建具	内部建具
※普通サッシ	~~※A種~~　◎・B種　・C種	
・防音サッシ	性能（　）	
・断熱サッシ	性能（　）	
表面処理	・A-1種・A-2種 ※B-1種・B-2種・（　）	※C-1種・C-2種

② 鋼製建具　製作所　※監督員の承諾する製作所

③ 建具用金物　(16.8)
・マスターキー
・シリンダー錠
◎シリンダー本締り錠
・シリンダー錠
・ドアクローザー
・ヒンジクローザー
・フロアヒンジ
・ピボットヒンジ
・レバーハンドル
※製作する（※新規　既存にあわせる）　・製作しない
製造所　評価名簿による
製造所　評価名簿による
製造所　評価名簿による
製造所　評価名簿による※面付型
製造所　評価名簿による
製造所　評価名簿による
製造所　評価名簿による
JIS による
仕上げ　※ステンレスHL仕上げ　・（　）
形状　※丸座　・長座
錠前所　KKゴール(LX-N11S)、明和ロック(CL-UL25)、美和ロック(LA-53)

・非常錠（本締り型）　製造所
KKゴール(PHDH)、明和ロック(397E)、KKニッカナ(KMP)、(台)明和ロック(NO. 1901)、美和ロックKK(BH-4E)

④ ガラス　網入り型板ガラス 6. 8　共通仕様書の規定による品質・規格を満たす材料又は評価名簿による材料とする

5. ポリカーボネート　・厚mm（透明）　製造所　タキロン?（高耐候（片面処理型））同等品以上

⑥ ガラス留め材　(9.5.1)(16.9.3)(※16.9.1)

建具の種類	材種
アルミニウム製	◎シーリング材（SR－1種）　・グレイジングガスケット
鋼製、ステンレス製	・シーリング材（SR－1種）

5. 軽量シャッター　開閉機能による種別
・手動式
・上部電動式（手動併用）
電源　・単相100V（通電強度調整機付）　・（　）
工事範囲　1次側配線は別建工事とし、開閉機構以降の二次側配線は本工事に含む
スラットの材質・塗装溶融亜鉛めっき鋼　・（ステンレス製　t=0. 5　）
ガイドレール及び座金　※ステンレス（SUS304）　・（　）
シャッターケース　※設ける　・設けない

4 昭明器具の接地

1. 照明器具の接地　放電灯器具は接地する。なお、接地線は1. 6mmのビニル電線を添える。

三 電気設備工事仕様

1. 共通仕様
図面及び特記仕様書に記載されていない事項はすべて国土交通大臣官房官庁営繕部監修「電気設備工事共通仕様書」及び、電気設備工事標準図（平成13年版）による。（平成13年版）

1 一般事項

① 配管、配線など	分電盤、制御盤以外、及び各種通信機器盤（非線部分を除く）の配管、配線でその経路、サイズ本数は設備機能を優先し、図面表示と多少相違してもよい。 ケーブル配線の場合は、コンクリート貫通及び埋込部分は電線管で保護する。
② 合成樹脂製可とう電線管	合成樹脂製可とう管（PF管）の一種管とする。　(1.2.2) なお、コンクリートに埋設する位置ボックスは金属製とし、その他は樹脂製とする。
3. 露出配管の塗装	調合ペイント2回塗り　（　・屋内　・屋外）
④ その他	寸法は図面表示と多少相違してもよい。

2 電灯設備

① 蛍光灯器具	蛍光灯器具の安定器の回路方式は原則として下記による。 蛍光灯の種類　直管のランプ　40型　回路方式　RH
2. 投光器	H200W（HPJ1M-200）

3 機器の取付高

① 機器の標準取付高

名称	測点	取付高（mm）
分電盤	床上 ～ 中心	2400（上端2800以下）
スイッチ	〃	1300
壁付コンセント	床上、土木基礎上～中心	300

② 記載図中の図記号
① 電線サイズなどが記号に併記されている場合は、それによる。
② 床隠ぺい配線の場合も適用する。

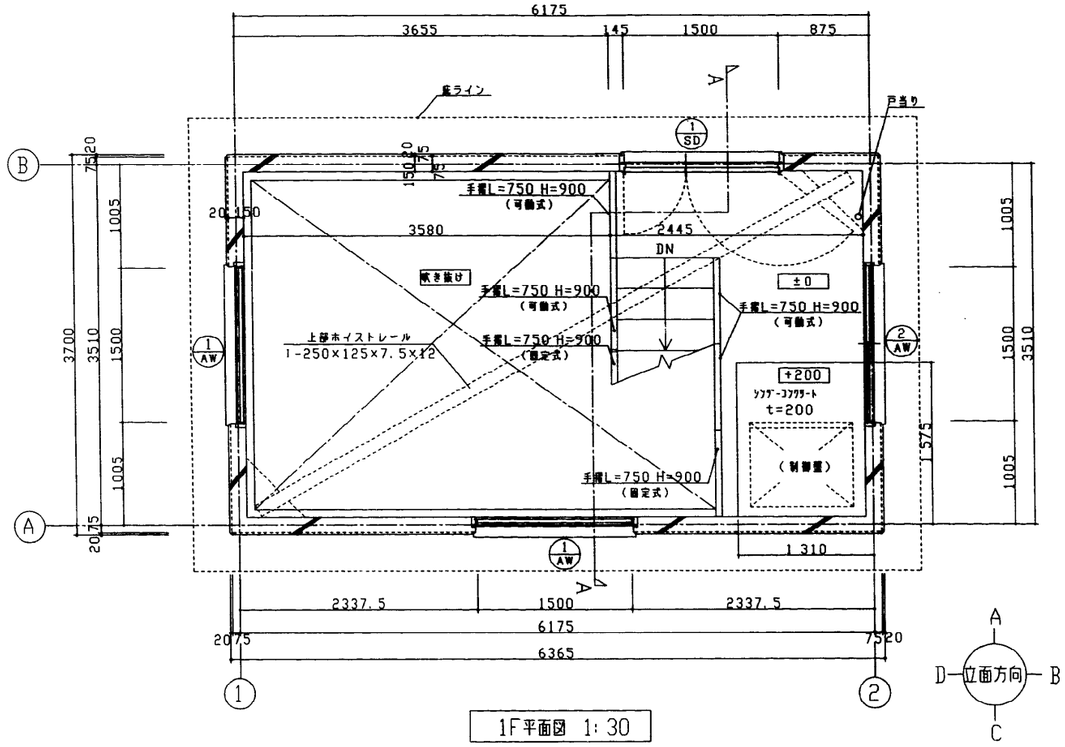
	記号	名称
電力設備	―//―― 2. 0	IE2. 0×4 E2. 0（PF22）
	―//――	IE1. 6×3　（PF16）
	―//――	IE1. 6×5　（PF16）

4 照明器具の接地

1. 照明器具の接地　放電灯器具は接地する。なお、接地線は1. 6mmのビニル電線を添える。

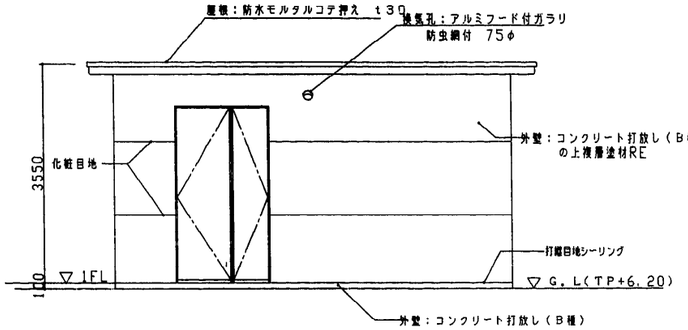
施設名	第2揚水機場（0312100-1100-19）
図面名	建築特記仕様書
作成年月	平成26年 3月
縮尺	− / 図面番号 8-314/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所

外部仕上		内部仕上		ポンプ室床面積
屋根	防水モルタルコテ押さえ t30	天井	コンクリート打放し（C種）	6.175×3.51=21.67m2
		内壁	コンクリート打放し（B種）	
軒裏	コンクリート打放し（C種）の上 複層塗材RE	床	地階：ｼﾝﾀｰｺﾝｸﾘｰﾄ（t=200）金ごて	
外壁	コンクリート打放し（B種）の上 複層塗材RE（GL+100～）		1F：ｺﾝｸﾘｰﾄ金ごて（一部ｼﾝﾀｰｺﾝｸﾘｰﾄ下地）	
	コンクリート打放し（B種）（GL-2500～+100）	備考	手摺スチール錆止め塗装	
備考	アルミフード付ガラリ 防虫網付 75φ		ﾎｲｽﾄﾚｰﾙ錆止め塗装	

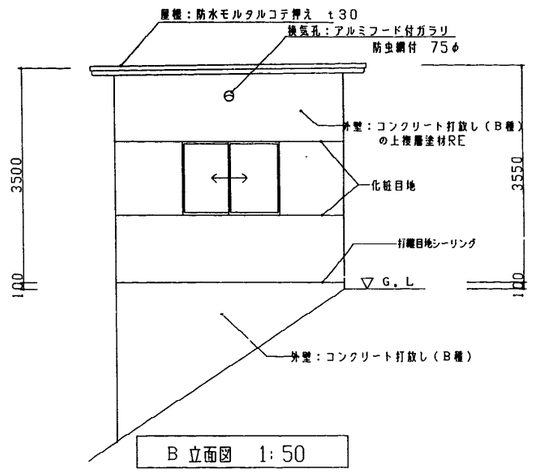


1F平面図 1:30

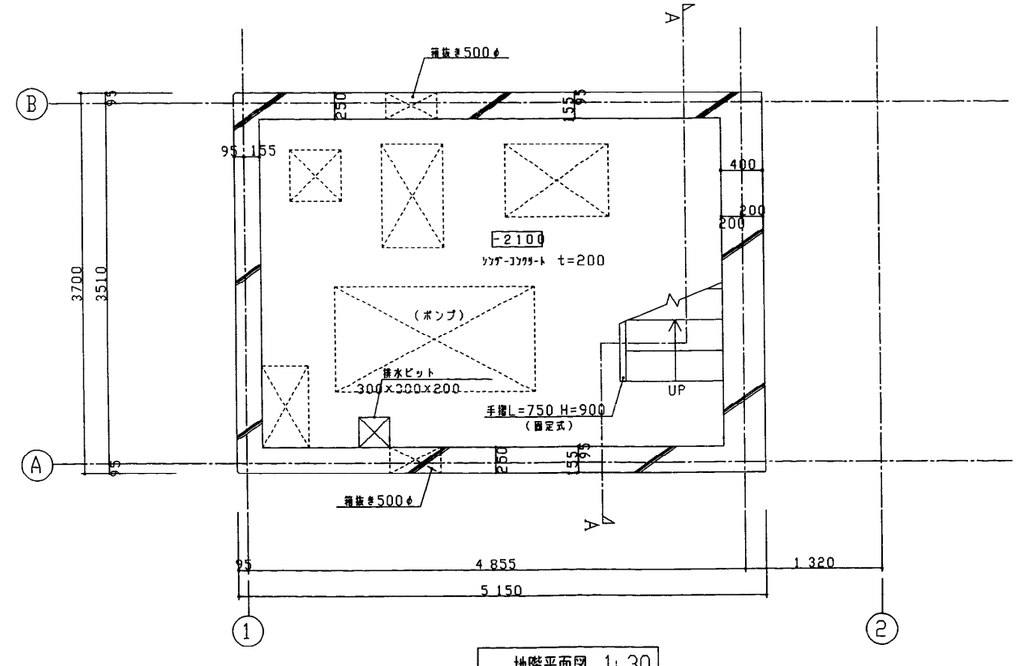
※□内の値は1FLからの床仕上げ高さを示す。



A 立面図 1:50

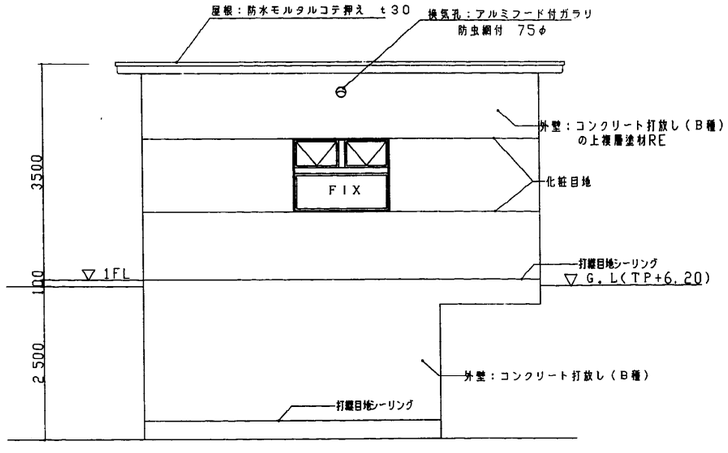


B 立面図 1:50

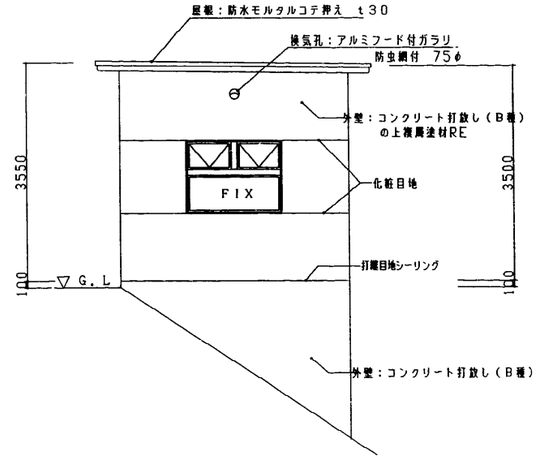


地階平面図 1:30

※□内の値は1FLからの床仕上げ高さを示す。

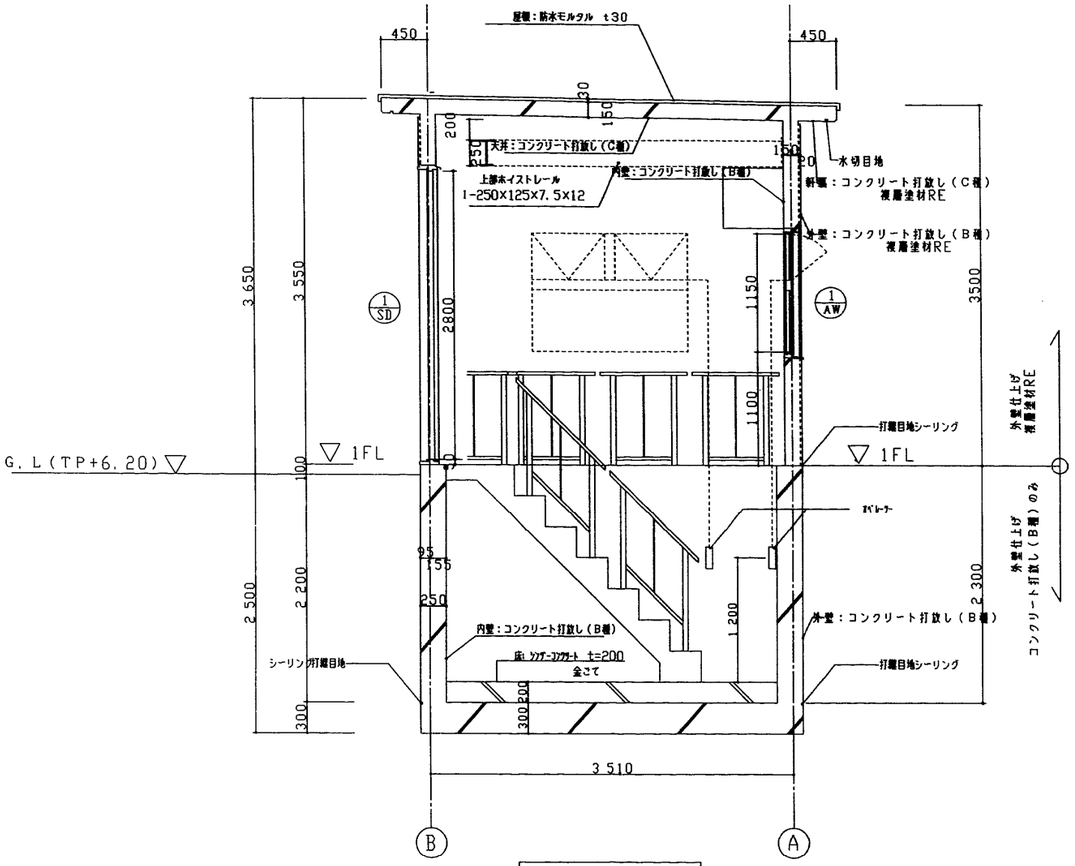


C 立面図 1:50

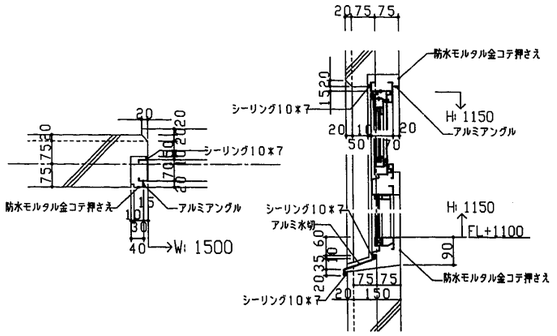


D 立面図 1:50

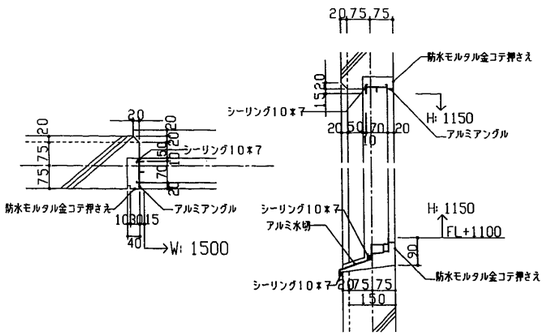
施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	建築一般図		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 図示	図面番号	8-315/319
作成者	関東農政局 両総農業水利事業所		



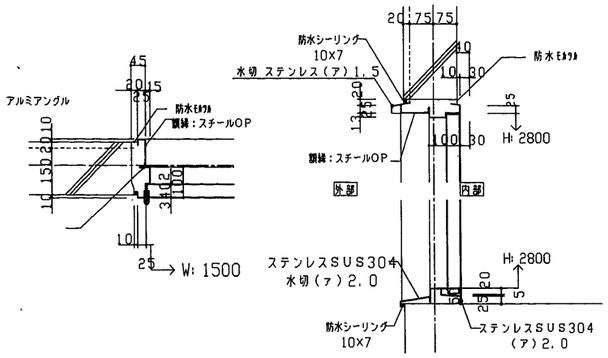
A-A断面図 1:30



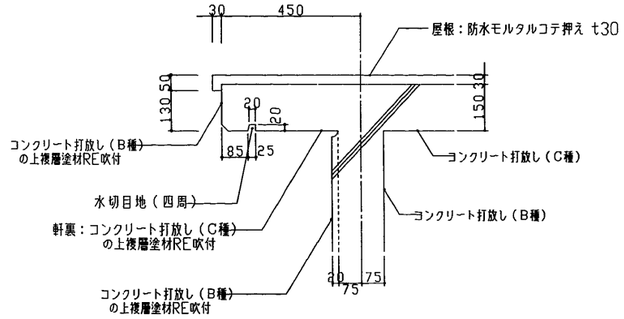
AW-1 アルミ製FIX窓+上部外倒し窓 詳細図 1:10



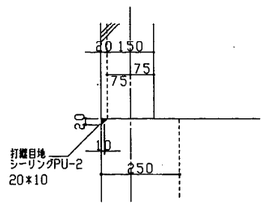
AW-2 アルミ製引き違い窓 詳細図 1:10



SD-1 鋼製親子開き戸 詳細図 1:10

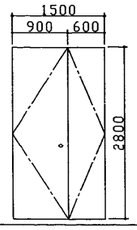
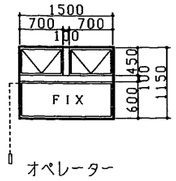
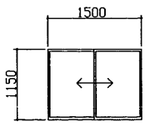


軒先部分詳細図 1:10

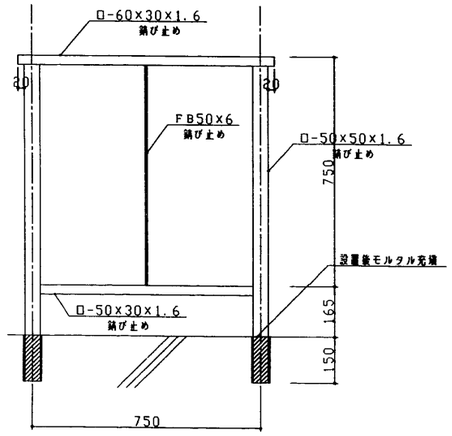


打継部詳細図 1:10

建具表 1:50

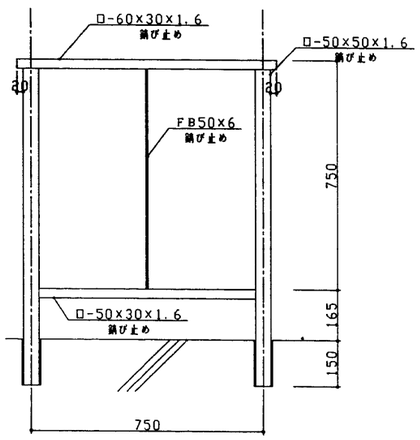
記号・名称	SD 鋼製親子開きフラッシュ戸	1ヶ所	AW アルミFIX窓+上部外倒し窓	2ヶ所	AW アルミ製引き違い窓	1ヶ所
姿図						
枠見込	100（扉40）		70		70	
材質	SOP		B種 B-1種		B種 B-1種	
ガラス	-		網入型板ガラス t=6.8		網入型板ガラス t=6.8	
金物	ステンレス製丁番,シリンダー錠 ステンレス水切 、握玉 ドアクローザー、フランス落し 戸当り		付属金物一式 アルミ水切り オペレーター アルミアングル(L-20×15) 四周		付属金物一式 アルミ水切り アルミアングル(L-20×15) 四周	

施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)
図面名	建築詳細図(1/2)
作成年月	平成26年 3月
縮尺	A1 図示
図面番号	8-316/319
作成者	関東農政局 両総農業水利事業所



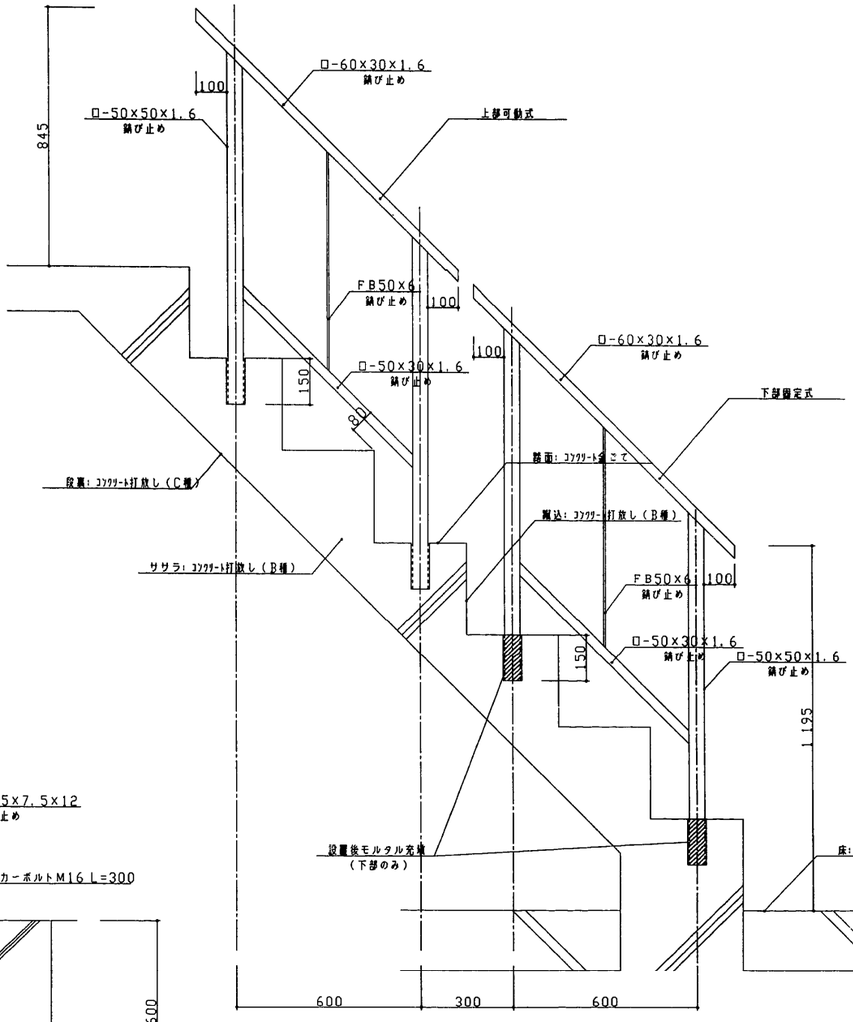
手摺部詳細図 1：10

固定式

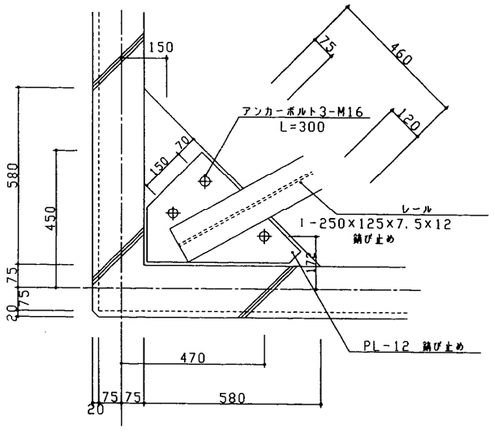


手摺部詳細図 1：10

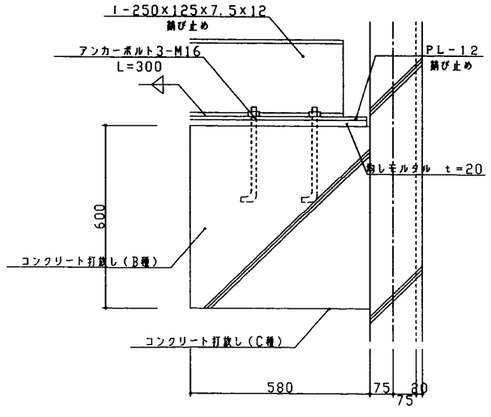
可動式



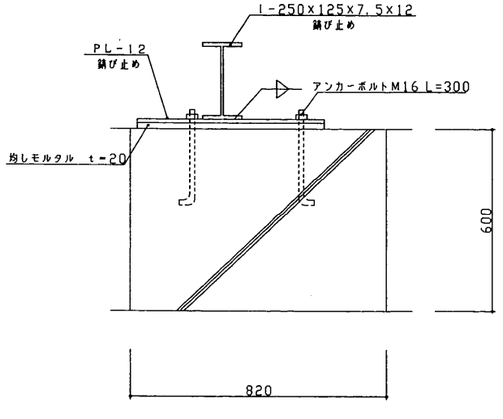
階段手摺部詳細図 1：10



レール取付部詳細図（上部） 1：10

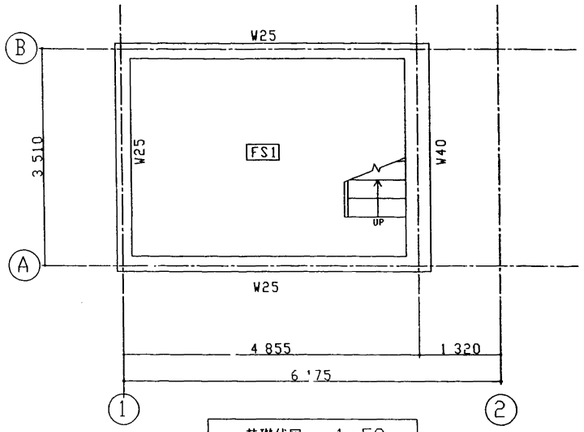


レール取付部詳細図（側面） 1：10

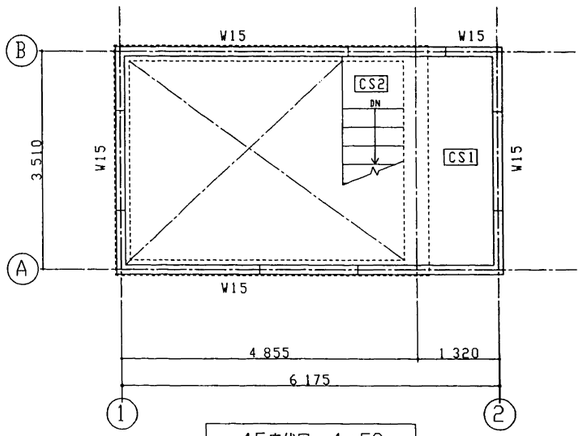


レール取付部詳細図（正面） 1：10

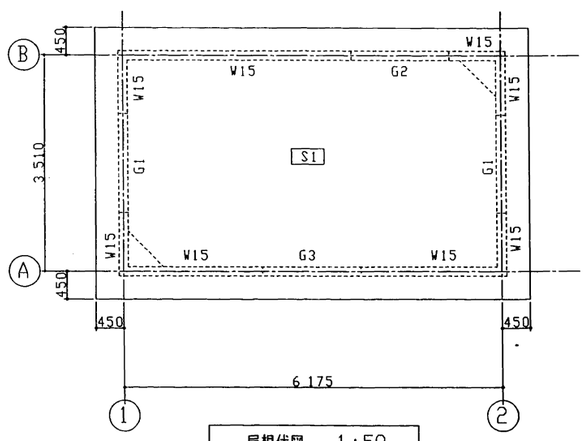
施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	建築詳細図(2/2)		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 図示	図面番号	8-317/319
作成者	関東農政局 両総農業水利事業所		



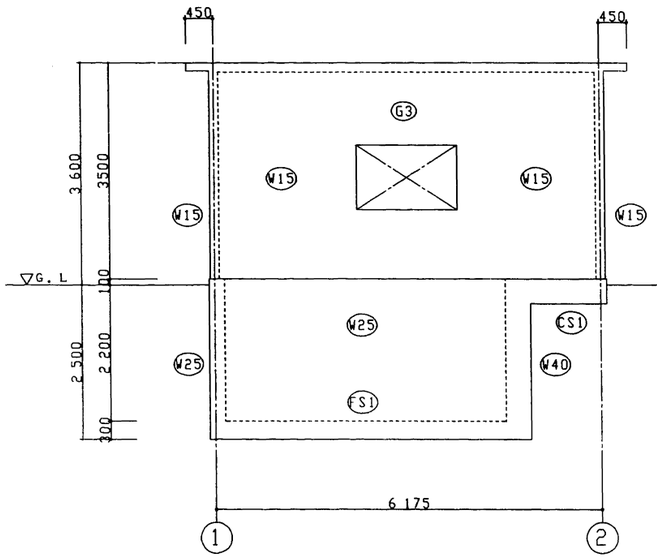
基礎伏図　1:50



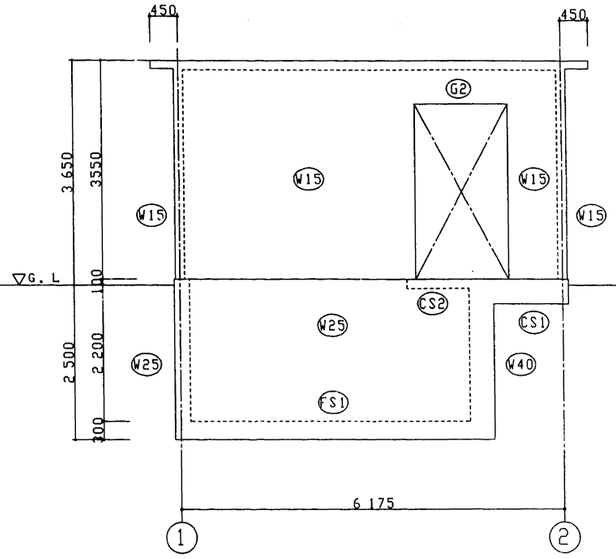
1F床伏図　1:50



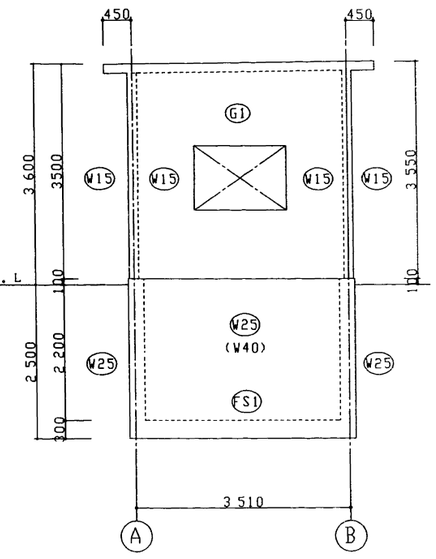
屋根伏図　1:50



A通り 軸組図1:50



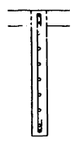
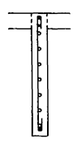
B通り 軸組図1:50



1.2通り 軸組図1:50

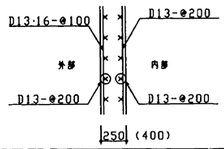
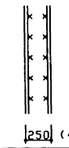
※(　)の表示は1通り+4855の壁符号を示す。

壁梁リスト　S=1:30

符　号	G1	G2	G3
位　置	全断面	全断面	全断面
B×D	150×1220	150×645	150×1195
上 端 筋	2-D13	2-D13	2-D13
断　面			
下 端 筋	1-D13	1-D13	1-D13
スターラップ	C-D10-@150	C-D10-@150	C-D10-@150
腹　筋	D10@150ｼﾝｸﾞﾙ	D10@150ｼﾝｸﾞﾙ	D10@150ｼﾝｸﾞﾙ

壁リスト　S=1:30

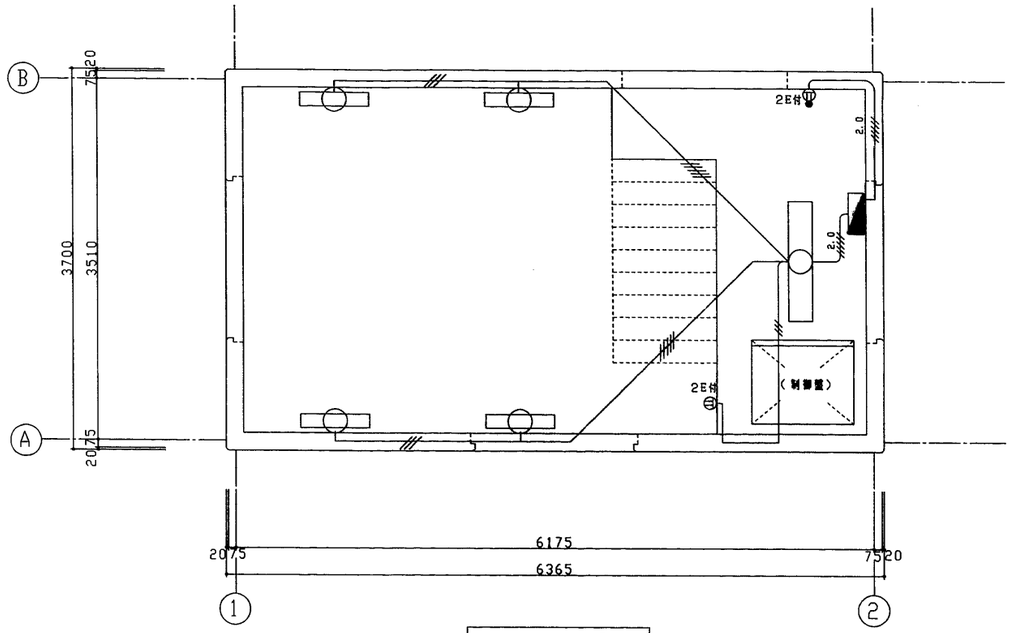
特記無き限り下記に依る。
1．幅止め筋は、D10@1000以内とする。

符　号		W15	W25(W40)	
符　号		全断面	壁脚 (GL-2200~GL-1200)	壁頭 (GL-1200~GL+100)
断　面		 150	(　)の値はW40の壁厚を示す。  D13-16-@100 D13-@200 外部 内部 D13-@200 D13-@200 250 (400)	(　)の値はW40の壁厚を示す。  250 (400)
縦　筋		D10@150(シングル)	図　示	D13@200(ダブル)
横　筋		D10@150(シングル)	D13@200(ダブル)	D13@200(ダブル)
開口部補強筋	タテ	1-D13	2-D16 (ダブル)	
	ヨコ	1-D13	2-D16 (ダブル)	
	ナナメ	1-D13	4-D16 (ダブル)	

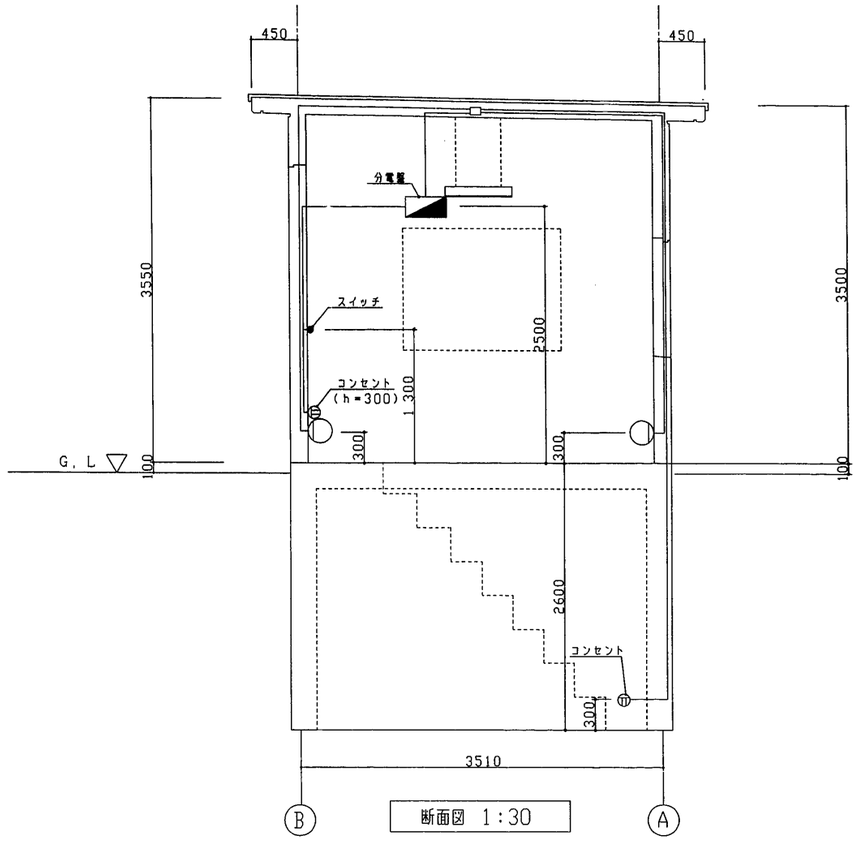
床版・スラブリスト

符　号	版　厚	位　置	短辺方向 端部	短辺方向 中央	長辺方向 端部	長辺方向 中央	備　考
S1	150	上　端	D10	-@200	D10	-@250	出隅,軒先補強筋
		下　端	D10	-@200	D10	-@250	D10
CS1	400	上　端	D16	-@100	D13	-@200	W40定着鉄筋
		下　端	D16	-@100	D13	-@200	D13-@400
CS2	150	上　端	D10	-@200	D10	-@200	
		下　端	D10	-@200	D10	-@200	
FS1	300	上　端	D13	-@200	D13	-@200	
		下　端	D13	-@200	D13	-@200	

施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	建築軸組図		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 図示	図面番号	8-318/319
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所		



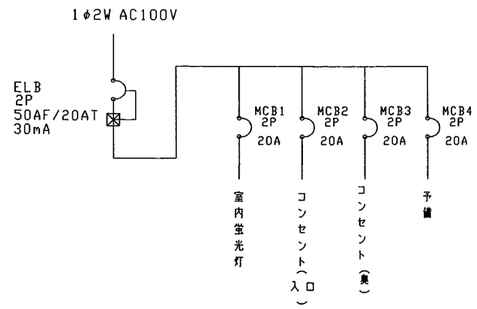
平面図 1:30

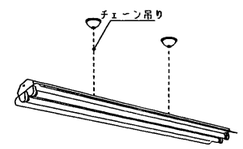


断面図 1:30

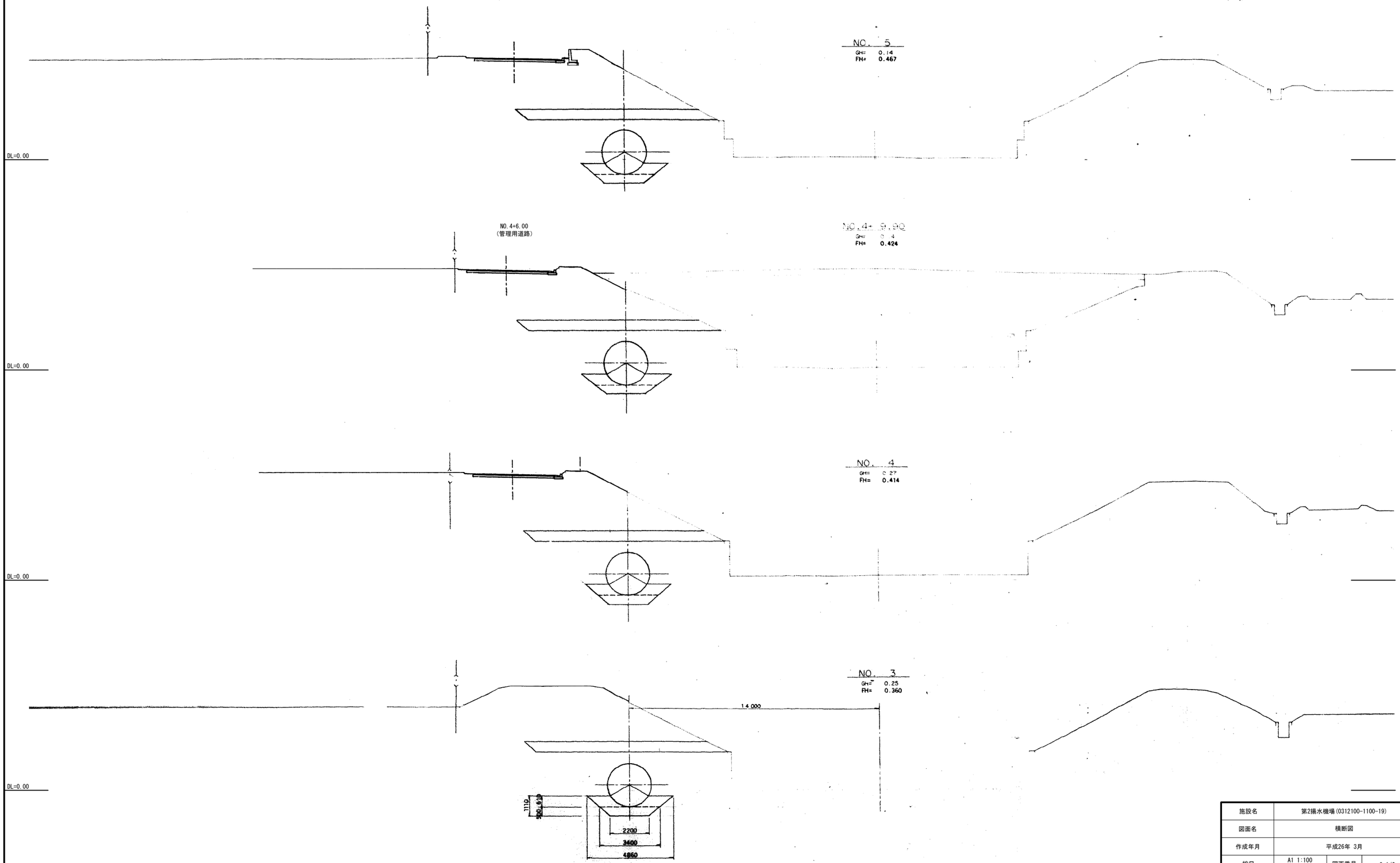
凡例	名称	備考
	分電盤 樹脂製	床上~中心 2400
	照明器具 FPR1-402 チェーン吊	
	照明器具 FSR1-402 壁付け	床上~中心 300
•	スイッチ 1P15A-1 SUSプレート	床上~中心 1300
2EH	コンセント 2P15A-2 SUSプレート	床上、土木基盤上~中心 300
配管配線		
2.0	IE2.0×4 E2.0(PF22)	
	IE1.6×3 (PF16)	
	IE1.6×5 (PF16)	

分電盤



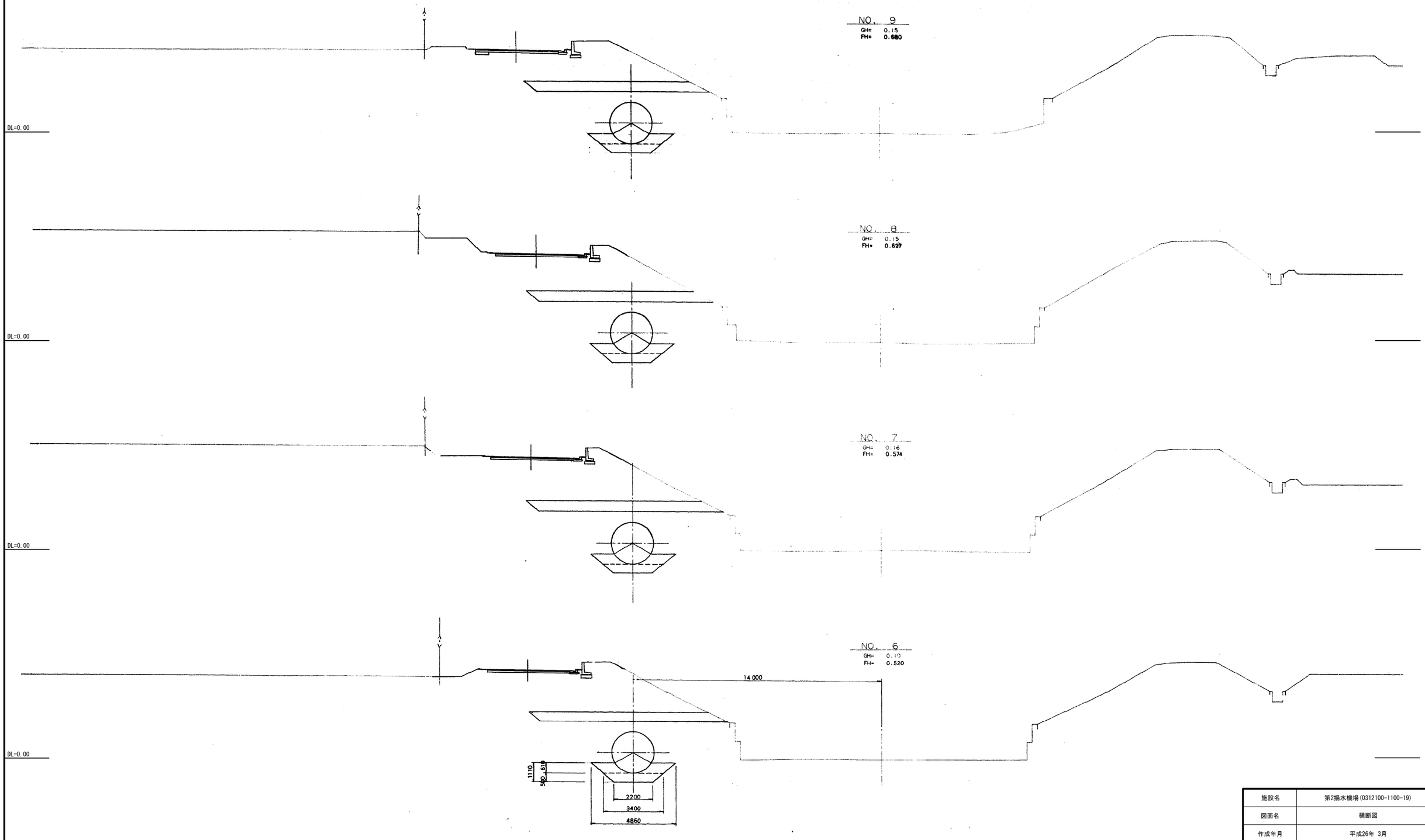
FSR1-402 壁付け	FSR1-402 チェーン吊
	

施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	建築電気図		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 1:30 A2 1:42	図面番号	8-319/319
作成者	関東農政局 両総農業水利事業所		



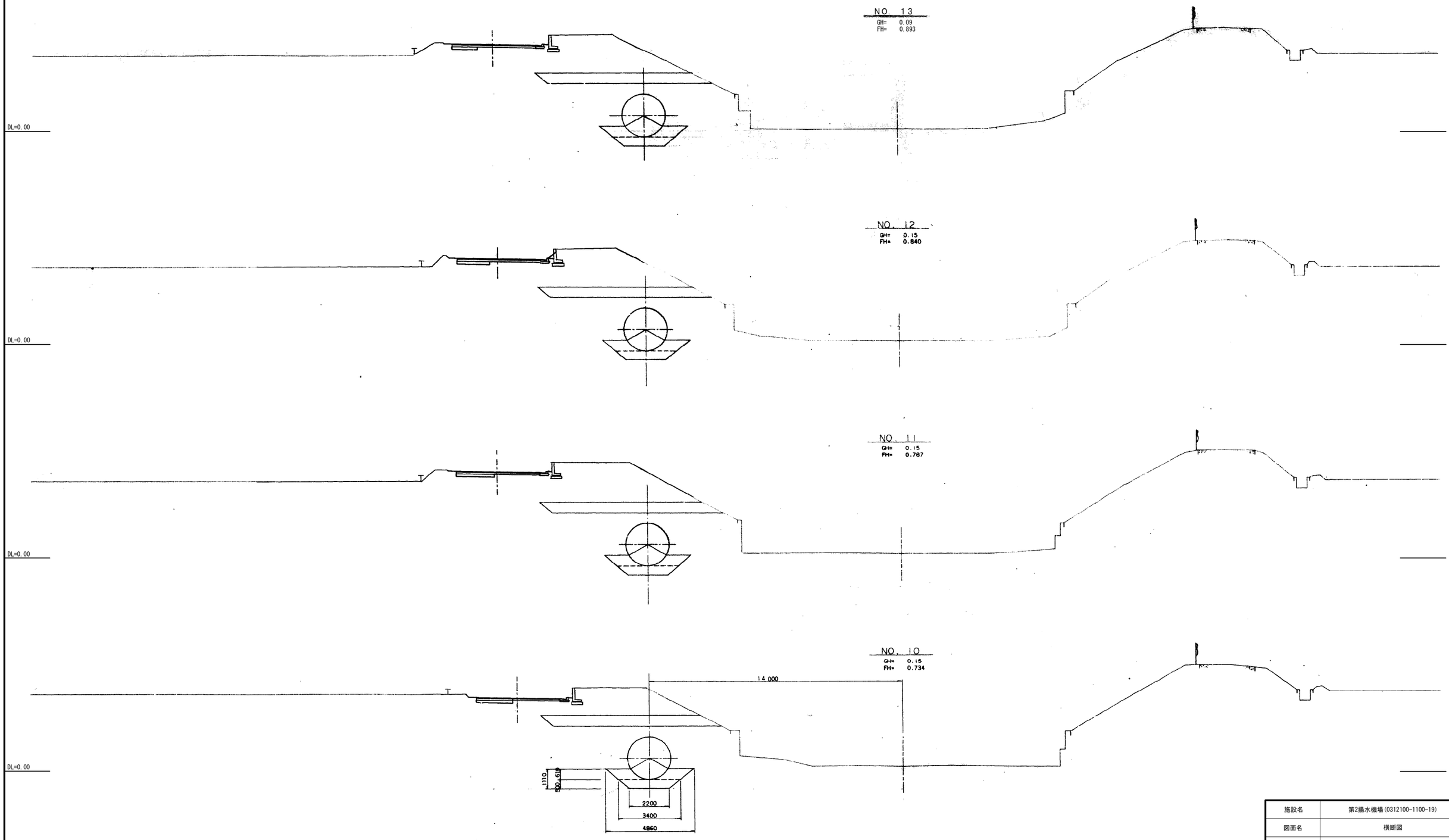
施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	横断図		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 1:100 A2 1:141	図面番号	9-1/6
作成者	関東農政局 両総農業水利事業所		

その3工事
No.3~No.5



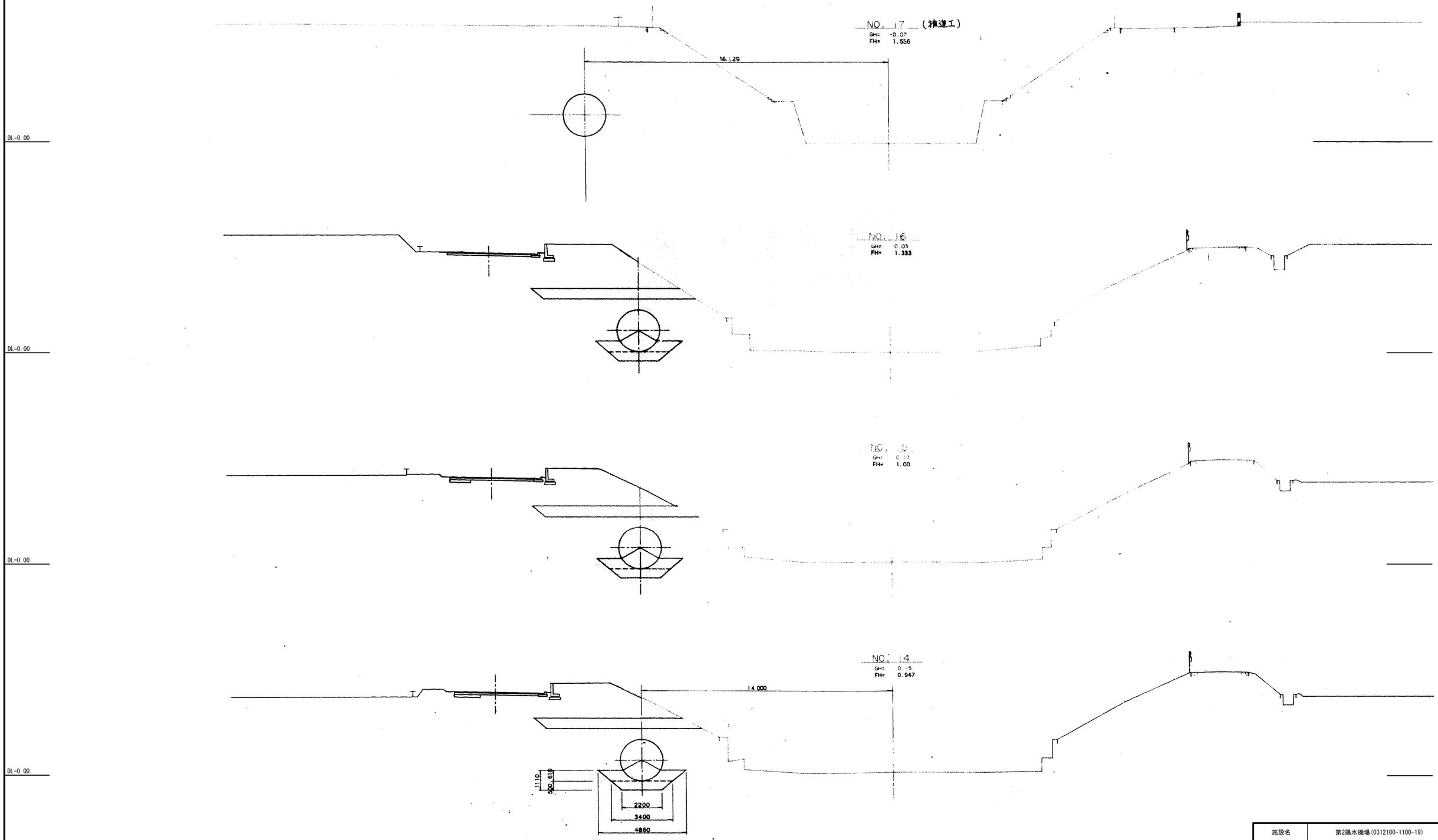
施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	横断図		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 1:100 A2 1:141	図面番号	9-2/6
作成者	関東農政局　両総農業水利事業所		

その3工事
No.6~No.9



施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	横断図		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 1:100 A2 1:141	図面番号	9-3/6
作成者	関東農政局 両総農業水利事業所		

その5工事
No.10~No.13



施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	横断図		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 1:100 A2 1:141	図面番号	9-4/6
作成者	関東農政局 両総農業水利事業所		

その4工事
No.14～No.17

NO. 19+6.162
(NO. 19) (推進工)
GH= -0.01
FH= 2.723

DL=0.00

NO.19 (推進工)
(EC. 1)
GH= -0.11
FH= 2.541

D=1,500

DL=0.00

IP.6 = NO.18+21.574 (到達立坑内)
(SP. 1)
GH= -0.10
FH= 1.700

注) 測点の上段は 管路の新測点、E.ホし、
下段は 導水路の測点、E.示す。

1,700
300 219
D=1,350
5,350

DL=0.00

NO. 18 (推進工)
GH= -0.07
FH= 1.658

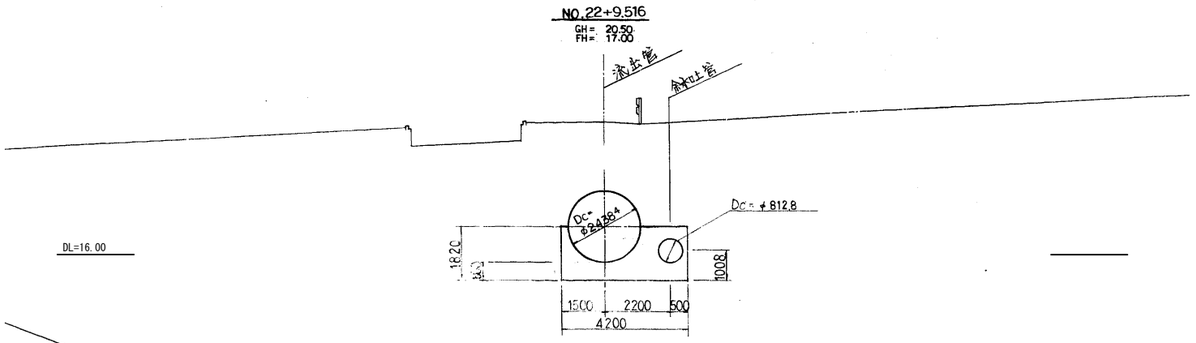
13,145

DL=0.00

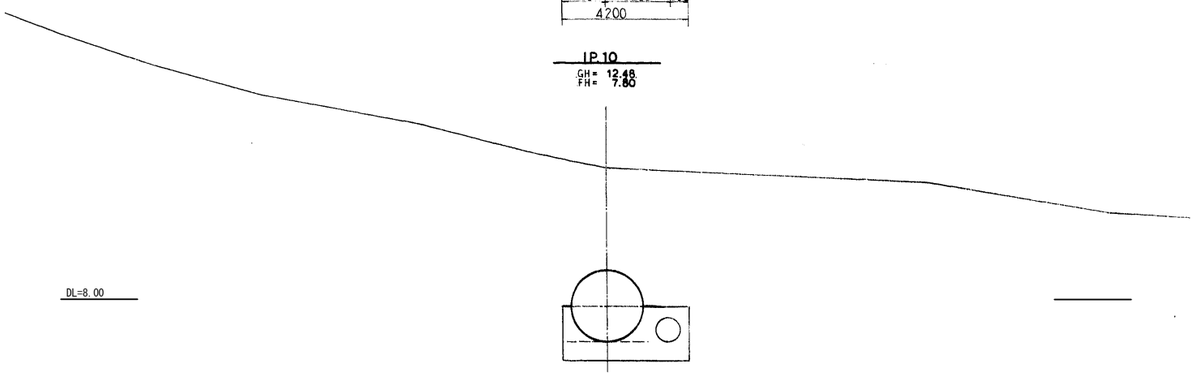
施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	横断図		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 1:100 A2 1:141	図面番号	9-5/6
作成者	関東農政局 両総農業水利事業所		

その4工事 その6工事
No.18~No.19+6.162

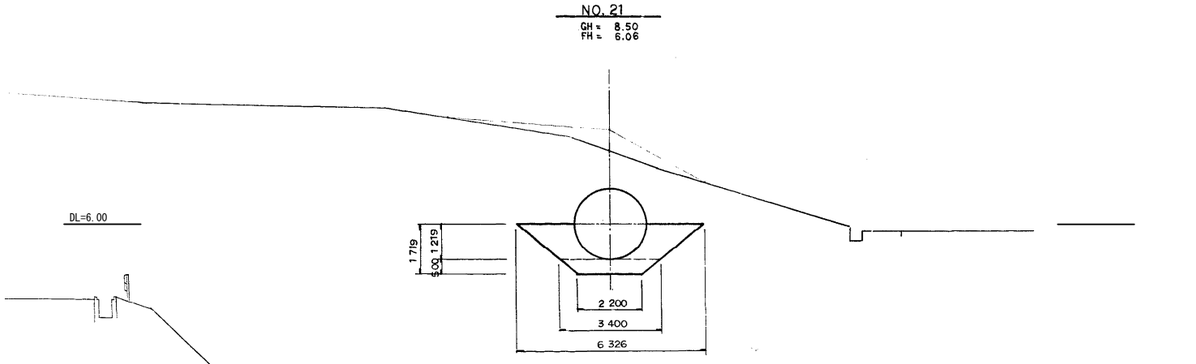
NO.22+9.516
GH= 20.50
FH= 17.00



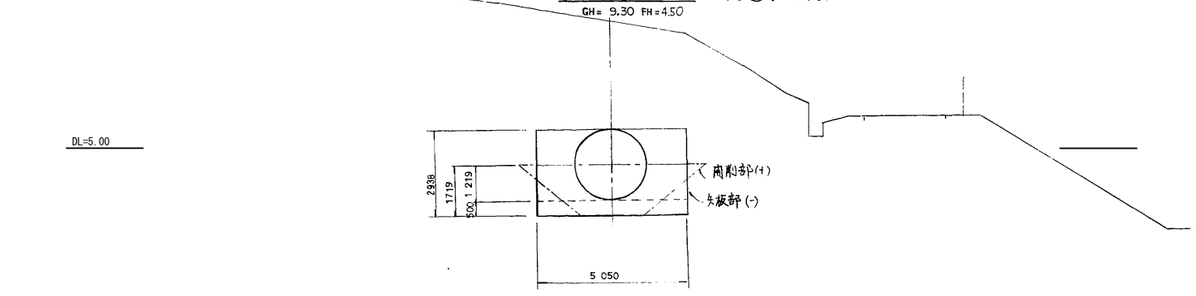
IP.10
GH= 12.48
FH= 7.80



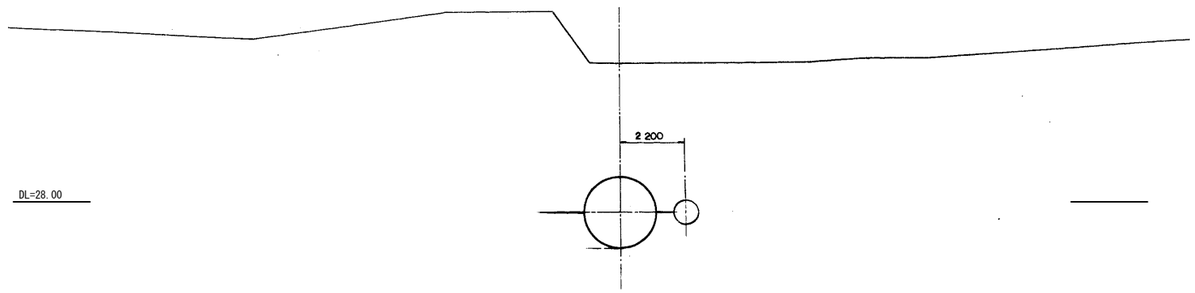
NO.21
GH= 8.50
FH= 6.06



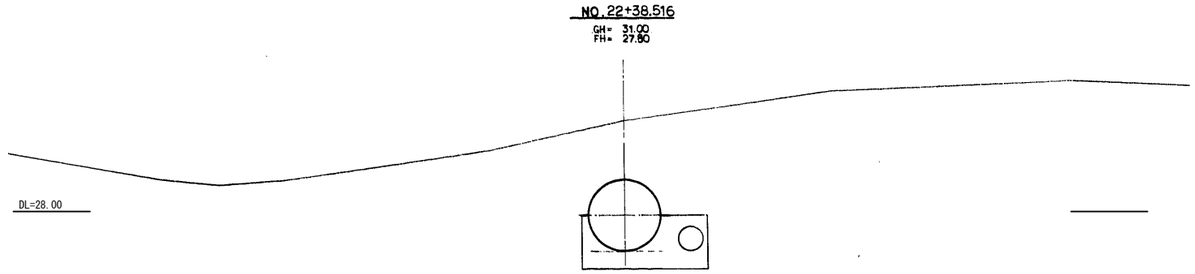
IP.8 (発進立坑内)
GH= 9.30 FH=4.50



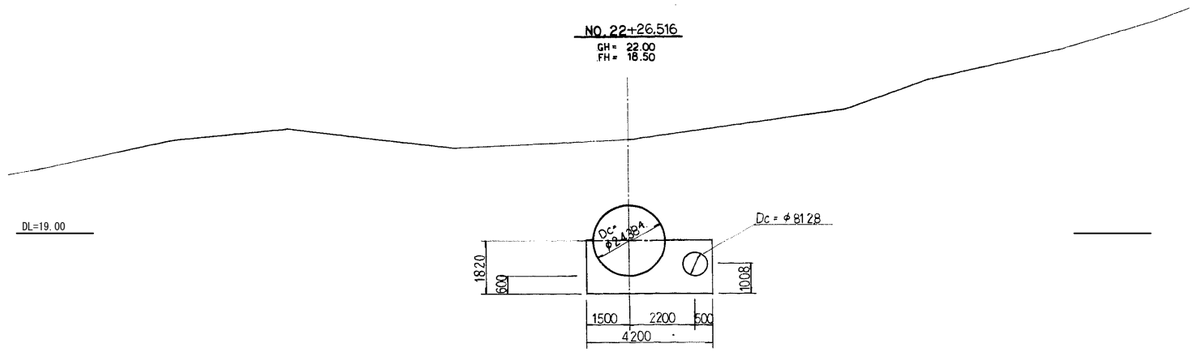
NO.22+46.431 (余水吐管並列始点)
GH= 32.90
FH= 27.80



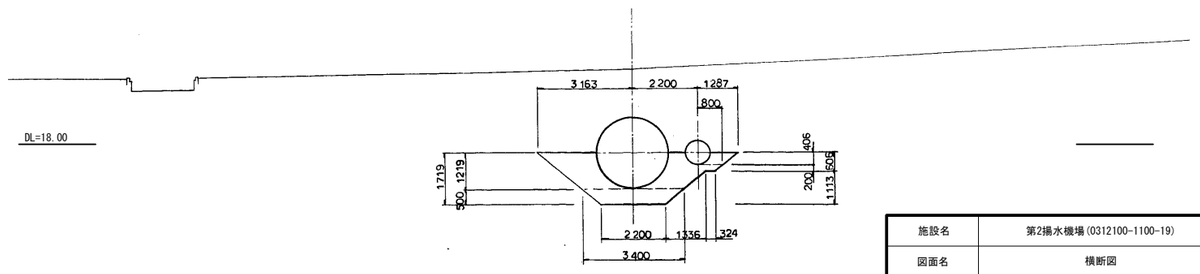
NO.22+38.516
GH= 31.00
FH= 27.80



NO.22+26.516
GH= 22.00
FH= 18.50



NO.22+16.516 (県道横断部)
GH= 20.50
FH= 17.618



施設名	第2揚水機場(0312100-1100-19)		
図面名	横断図		
作成年月	平成26年 3月		
縮尺	A1 1:100 A2 1:141	図面番号	9-6/6
作成者	関東農政局 両総農業水利事業所		

その6工事
IP.8～No.22+38.516